

石
神
遺
跡

石 神 遺 跡

単独7軸道路整備推進(国)122号(八重笠道路)
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

単独7軸道路整備推進(国)122号(八重笠道路)
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一五

群馬県太田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2015

群馬県太田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



石 神 遺 跡

単独7軸道路整備推進（国）122号（八重笠道路）
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群 馬 県 太 田 土 木 事 務 所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



調査地から北西を望む（手前が1区、奥が2区。遺跡の北側には低地が広がる。中央奥に見えるのは金山。）



調査地から南東を望む（調査区は1区。遺跡の南東側も低地が広がっており、この付近の低台地は幅が狭いのが分かる。）



1区北西部の竪穴住居群（右側に1号掘立柱建物が見える。）



大型の掘立柱建物（1区1号掘立柱建物。南北両面に廂をもつ大型の建物である。）

序

石神遺跡は太田市南東部の低台地上にある遺跡です。国道122号(八重笠道路)の建設工事に先だって、平成24年と25年の2ヶ年度に当事業団が発掘調査を実施いたしました。

本遺跡の発掘調査では、旧石器時代から中・近世に及ぶ、多くの遺構・遺物を調査することができました。竪穴住居は100軒という多数を調査しましたが、それらは古墳時代のもので少数見られる以外は奈良・平安時代に属し、その頃が本遺跡の最盛期でした。同じ時期には大型の掘立柱建物も見られるため、ある程度の有力者の存在も想定でき、古代山田郡を構成する主要な村のひとつであったと思われます。また、旧石器時代の石器も多数出土し、調査例が少ない渡良瀬川扇状地において貴重な資料を得ることができました。これらの調査の成果は、本地域の歴史を考える上で重要なものであり、今後の地域史研究の資料として役立つものと確信しております。

本遺跡の発掘調査から報告書刊行に至るまでには、群馬県太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、地元関係者の皆様に、多大なご指導・ご協力を賜りました。本書の刊行に際し、心から感謝申し上げますと共に、本書が歴史研究の資料として広く活用されることを願い、序といたします。

平成27年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 吉野 勉

例 言

1. 本書は、単独7軸道路整備推進(国)122号(八重笠道路)事業に伴う石神遺跡の発掘調査報告書である。
2. 所在地 群馬県太田市龍舞町465、471、477-2、479、481、497-5、498-2、508-1・2、509、515-1、516-1、八重笠町449-1・3、451-2・3・8・10、452-1、453-1・2、470、496、499
3. 事業主体 群馬県太田土木事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 発掘調査の期間と体制は次のとおりである。

平成24年度 社会資本総合整備(活力創出基盤整備)(国)122号(八重笠道路)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
調査面積 10,203㎡

履行期間 平成24年6月1日～平成25年3月31日

調査期間 平成24年7月1日～平成25年3月31日

調査担当 齊藤利昭(上席専門員)、新井仁(主任調査研究員)、藤井義徳(主任調査研究員)

遺跡掘削工事請負 有限会社毛野考古学研究所

委託 地上測量 株式会社シン技術コンサル

空中写真撮影 技研測量設計株式会社

テフラ分析・プラントオパール分析 株式会社火山灰考古学研究所

樹種同定(炭化植物・灰) 株式会社パレオ・ラボ

平成25年度 社会資本整備総合(活力創出)(国)122号八重笠道路事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査
調査面積 245㎡

履行期間 平成25年5月2日～平成25年8月31日

調査期間 平成25年6月1日～平成25年6月30日

調査担当 須田正久(主任調査研究員)

遺跡掘削工事請負 スナガ環境測設株式会社

委託 地上測量 株式会社シン技術コンサル

6. 整理事業の期間と体制は次のとおりである。

平成25年度 社会資本総合整備(活力創出基盤)(国)122号(八重笠道路)に伴う埋蔵文化財の整理

履行期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日

整理期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日

整理担当 岩崎泰一(上席専門員・資料統括)、石守晃(上席専門員)

平成26年度 単独7軸道路整備推進(国)122号(八重笠道路)事業に伴う埋蔵文化財の整理

履行期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

整理期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

整理担当 高井佳弘(上席調査研究員・資料統括)、徳江秀夫(上席専門員・資料2課長)、石田典子(主任調査研究員)

7. 本書作成担当は次のとおりである。

編集 岩崎泰一、石守晃、高井佳弘、徳江秀夫、石田典子

本文執筆 第1章第1・3～5節・第2章・第5章第2節：田村博(主任調査研究員)、第1章第2節：石守晃、

第3章第11節・第5章第3節：石田典子、第4章第2～5節：各分析委託業者、第5章第1節：高井佳弘、

前記以外：田村博・高井佳弘

遺物観察 石器・石製品：岩崎泰一・石田典子、縄文土器：石坂茂(専門調査役)、土師器・須恵器：徳江秀夫、中近世陶磁器・土器：大西雅広(上席専門員・資料統括)、金属器：関邦一(補佐(総括))










デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺物写真撮影 石器・石製品：岩崎泰一・石田典子、縄文土器：石坂茂、土師器・須恵器：高井佳弘、中近世陶磁器・土器：大西雅広、金属器：関邦一

保存処理 関邦一

8. 石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。
9. 出土遺物および写真・図面等記録類は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。
10. 発掘調査および報告書作成には、次の関係機関、諸氏にご助言をいただいた。記して感謝いたします。
群馬県教育委員会、太田市教育委員会

凡 例

1. 本報告書に用いた座標・方位は、すべて国家座標「世界測地系(日本測地系2000平面角座標第IX系)」による。座標北と真北との偏差は $X=30600$ 、 $Y=-36550$ で $+0^{\circ} 14' 26.55''$ である。
2. 遺構断面図や全体図等高線(付図)に記した数値は標高を表し、単位はmを用いた。
3. 遺構平断面図・遺物実測図の縮尺は原則として以下の通りとしたが、最適と思われる縮尺に適宜変更したことがある。1：3以外の遺物は、遺物番号の後に縮尺を注記してある(旧石器は除く)。
遺構 竪穴住居 1：60、竈 1：30、土坑・ピット 1：40、掘立柱建物 1：80、溝平面図 1：100、同断面図 1：40
遺物 瓦・中近世土器や陶磁器(甕・焙烙等の大型品) 1：4、土器・陶磁器・石器(磨石・敲石等)・石製品(砥石等) 1：3、土錘・石製品(紡輪・小型の砥石等)・金属製品 1：2、銅銭 1：1、旧石器 4：5
4. 本報告書のスクリーン表現等は以下の通りである。
遺構 焼土  灰  粘土  攪乱 
遺物 黒色  漆  朱墨  すり面  摩耗痕の範囲 
5. 遺構の主軸方位や走向は、竈のある竪穴住居の場合は竈のある方向として北から東西 180° 以内を、それ以外の遺構の場合は原則として長軸方向で北から東西 90° 以内とした。原則から外れる場合はその都度注記した。表記は北を基準として東に傾く場合は $N-0^{\circ}-E$ 、西に傾く場合は $N-0^{\circ}-W$ とした。
6. 竪穴住居の床面積は周溝を含めた面積であり、プランメーターを用いて3回計測し平均値を採用した。
7. 竪穴住居掘方平面図に記入してある $-O$ という数字は、床面からの深さを表している。単位はcmである。
8. 各遺構の記述では、小破片であるために掲載できなかった土器の数量をg(一部点数も併記)で記載した。その際、土師器・須恵器については、杯・椀などを(小)、高杯・小型甕などを(中)、甕・壺などを(大)と略記している。
9. 土層注記及び遺物観察表に記した色調表現は、『新版標準土色帖2005年版』(農林水産省水産技術事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)による。
10. 本報告書におけるテフラ(火山噴出物)の略号は以下の通りである。
As-A 浅間A軽石 As-B 浅間Bテフラ Hr-FA 榛名ニツ岳渋川テフラ As-C 浅間C軽石
As-YP 浅間板鼻黄色軽石 As-0k1 浅間大窪沢第1軽石 As-0k2 浅間大窪沢第2軽石
As-BP 浅間板鼻褐色軽石群 AT 始良T n火山灰
11. 遺物観察表の凡例は遺物観察表の前(386ページ)に掲載した。

目次

カラー口絵

序

例言

凡例

目次

挿図・表・写真目次

第1章 調査に至る経緯、調査の経過・方法	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
1. 事業実施に至る経緯	1
2. 発掘調査に至る経緯	2
第2節 試掘調査	2
第3節 発掘調査の経過	2
第4節 調査の方法	4
第5節 整理作業の経過	4
第2章 周辺の環境	6
第1節 地理的環境	6
1. 地理的現況	6
2. 地形的環境	6
3. 本遺跡周辺の環境	8
第2節 歴史的環境	8
第3節 基本土層	14
第3章 調査の成果	16
第1節 成果の概要	16
第2節 竪穴住居・竪穴状遺構	18
第3節 掘立柱建物・柱穴列	203
第4節 土坑	219
第5節 井戸	266
第6節 ピット	276
第7節 溝	294
第8節 水田・畠	337
第9節 遺構外出土の遺物	341
第10節 縄文時代の遺構と遺物	343
第11節 旧石器時代の調査	345
第4章 自然科学分析	368
第1節 自然科学分析の目的と成果の概要	368
第2節 石神遺跡の土層とテフラ	369
第3節 石神遺跡におけるプラント・オパール分析	375
第4節 石神遺跡2区出土炭化植物遺体の同定	377
第5節 石神遺跡から出土した灰の母植物	379
第5章 総括	380
第1節 調査の成果と集落の変遷	380
第2節 山田郡域における奈良平安時代集落分布と石神遺跡	382
第3節 旧石器時代の成果	384
遺物観察表凡例	386
遺物観察表	387

写真図版

抄録

付図

插图目次

第1图	遺跡位置図	1	第63图	2区4号竖穴住居竈平面図	80
第2图	調査区位置図	3	第64图	2区4号竖穴住居出土遺物	81
第3图	周辺地形分類図	7	第65图	2区5号竖穴住居平面図	82
第4图	周辺遺跡分布図	10	第66图	2区6号竖穴住居平面図	83
第5图	基本土層断面図	15	第67图	2区6号竖穴住居断面図、掘方平面図	84
第6图	1区1・7号竖穴住居平面図、1号竖穴住居出土遺物	19	第68图	2区6号竖穴住居1・2号竈平面図	85
第7图	1区7号竖穴住居出土遺物	20	第69图	2区6号竖穴住居1・2号竈掘方平面図	86
第8图	1区2号竖穴住居平面図	21	第70图	2区6号竖穴住居3号竈平面図、出土遺物(1)	87
第9图	1区2号竖穴住居出土遺物	22	第71图	2区6号竖穴住居出土遺物(2)	88
第10图	1区3号竖穴住居平面図	23	第72图	2区7号竖穴住居平面図	89
第11图	1区3号竖穴住居竈平面図、出土遺物	24	第73图	2区7号竖穴住居1号竈平面図	90
第12图	1区4・5・6号竖穴住居平面図、出土遺物	26	第74图	2区7号竖穴住居2号竈平面図、出土遺物	91
第13图	1区4号竖穴住居平面図	27	第75图	2区9号竖穴住居平面図、出土遺物	92
第14图	1区5号竖穴住居平面図	28	第76图	2区15号竖穴住居平面図	93
第15图	1区5号竖穴住居竈平面図、出土遺物	29	第77图	2区11号竖穴住居平面図	95
第16图	1区6号竖穴住居竈平面図、出土遺物	30	第78图	2区11号竖穴住居竈平面図、出土遺物	96
第17图	1区8号竖穴住居平面図	31	第79图	2区12号竖穴住居平面図、出土遺物	97
第18图	1区8号竖穴住居出土遺物	32	第80图	2区13号竖穴住居平面図	98
第19图	1区9号竖穴住居平面図、出土遺物	33	第81图	2区13号竖穴住居竈平面図、出土遺物	99
第20图	1区10号竖穴住居平面図、出土遺物	34	第82图	2区14号竖穴住居平面図	100
第21图	1区11号竖穴住居平面図	35	第83图	2区14号竖穴住居竈平面図、出土遺物	101
第22图	1区11号竖穴住居出土遺物	36	第84图	2区15号竖穴住居平面図	102
第23图	1区12号竖穴住居平面図	37	第85图	2区15号竖穴住居竈平面図、出土遺物	103
第24图	1区12号竖穴住居掘方平面図	38	第86图	2区16号竖穴住居平面図	104
第25图	1区12号竖穴住居竈平面図、出土遺物	39	第87图	2区16号竖穴住居1・2号竈平面図	105
第26图	1区13号竖穴住居平面図、出土遺物	40	第88图	2区16号竖穴住居出土遺物	106
第27图	1区14・18号竖穴住居平面図	42	第89图	2区17号竖穴住居平面図	107
第28图	1区14号竖穴住居竈平面図、出土遺物	43	第90图	2区17号竖穴住居竈平面図、出土遺物	108
第29图	1区18号竖穴住居竈平面図、出土遺物	44	第91图	2区19号竖穴住居平面図、出土遺物	109
第30图	1区15号竖穴住居平面図	45	第92图	2区20号竖穴住居平面図	110
第31图	1区15号竖穴住居掘方平面図、出土遺物分布図、 1号竈平面図	46	第93图	2区20号竖穴住居出土遺物	111
第32图	1区15号竖穴住居2号竈平面図	47	第94图	2区21・23・24号竖穴住居平面図	112
第33图	1区15号竖穴住居出土遺物(1)	48	第95图	2区21・23・24号竖穴住居断面図	113
第34图	1区15号竖穴住居出土遺物(2)	49	第96图	2区21・23・24号竖穴住居掘方平面図	114
第35图	1区15号竖穴住居出土遺物(3)	50	第97图	2区21号竖穴住居竈平面図	115
第36图	1区16・17号竖穴住居平面図、17号竖穴住居出土遺物	51	第98图	2区21号竖穴住居出土遺物(1)	116
第37图	1区16号竖穴住居竈平面図	52	第99图	2区21号竖穴住居出土遺物(2)	117
第38图	1区16号竖穴住居出土遺物	53	第100图	2区23号竖穴住居竈平面図	118
第39图	1区19号竖穴住居平面図、出土遺物	54	第101图	2区23号竖穴住居出土遺物	119
第40图	1区20号竖穴住居平面図、出土遺物	55	第102图	2区24号竖穴住居竈平面図	120
第41图	1区21号竖穴住居平面図	56	第103图	2区24号竖穴住居出土遺物	121
第42图	1区21号竖穴住居出土遺物	57	第104图	2区22号竖穴住居平面図	123
第43图	1区22号竖穴住居平面図	57	第105图	2区22号竖穴住居出土遺物	124
第44图	1区23号竖穴住居平面図	58	第106图	2区25号竖穴住居平面図	125
第45图	1区23号竖穴住居竈平面図、出土遺物	59	第107图	2区25号竖穴住居竈平面図、出土遺物	126
第46图	1区24号竖穴住居平面図、出土遺物	60	第108图	2区26号竖穴住居平面図	127
第47图	1区25号竖穴住居平面図	61	第109图	2区26号竖穴住居竈平面図	128
第48图	1区25号竖穴住居竈平面図、出土遺物	62	第110图	2区26号竖穴住居出土遺物	129
第49图	1区26号竖穴住居平面図、出土遺物	64	第111图	2区27号竖穴住居平面図	130
第50图	1区27・30号竖穴住居平面図、27号竖穴住居出土遺物	65	第112图	2区27号竖穴住居掘方平面図	131
第51图	1区28号竖穴住居平面図、出土遺物	66	第113图	2区27号竖穴住居竈平面図、出土遺物(1)	132
第52图	1区29号竖穴住居平面図	68	第114图	2区27号竖穴住居出土遺物(2)	133
第53图	1区29号竖穴住居掘方平面図、竈平面図	69	第115图	2区28号竖穴住居平面図、出土遺物	134
第54图	1区29号竖穴住居出土遺物	70	第116图	2区29号竖穴住居平面図	135
第55图	1区31号竖穴住居平面図、出土遺物	71	第117图	2区29号竖穴住居竈平面図、出土遺物	136
第56图	1区32号竖穴住居平面図	72	第118图	2区30号竖穴住居平面図	137
第57图	2区1号竖穴住居平面図	73	第119图	2区30号竖穴住居出土遺物	138
第58图	2区1号竖穴住居竈平面図	74	第120图	2区31号竖穴住居平面図、出土遺物	139
第59图	2区2号竖穴住居平面図、出土遺物	75	第121图	2区32号竖穴住居平面図	140
第60图	2区3号竖穴住居平面図	76	第122图	2区32号竖穴住居竈平面図	141
第61图	2区3号竖穴住居竈平面図、出土遺物	77	第123图	2区32号竖穴住居出土遺物	142
第62图	2区4号竖穴住居平面図	79	第124图	2区34号竖穴住居平面図	143
			第125图	3区1号竖穴住居平面図	144

第126图	3区1号竖穴住居竈平面図、出土遺物	145	第191图	2区6号掘立柱建物平面図	213
第127图	3区2号竖穴住居平面図	146	第192图	2区8号掘立柱建物平面図	214
第128图	3区2号竖穴住居竈・3号竖穴住居平面図、 2号竖穴住居出土遺物	147	第193图	3区1号掘立柱建物平面図	215
第129图	3区3号竖穴住居出土遺物	148	第194图	2区1・2号柱穴列平面図	216
第130图	3区4号竖穴住居平面図	149	第195图	2区3号柱穴列平面図	217
第131图	3区4号竖穴住居出土遺物(1)	150	第196图	2区4号柱穴列平面図	218
第132图	3区4号竖穴住居出土遺物(2)	151	第197图	2区5号柱穴列平面図	218
第133图	3区4号竖穴住居出土遺物(3)	152	第198图	1区1~4・6~9・11・12・34号土坑平面図	227
第134图	3区5号竖穴住居平面図	152	第199图	1区13~20・22号土坑平面図、19号土坑出土遺物	228
第135图	3区6号竖穴住居平面図	153	第200图	1区21・24~29号土坑平面図、21・24号土坑出土遺物	229
第136图	3区7号竖穴住居平面図、出土遺物	154	第201图	1区30・32・33・35・37~41号土坑平面図、 33号土坑出土遺物	230
第137图	3区8号竖穴住居平面図	155	第202图	1区42・43・45~48・74~76号土坑平面図、 45号土坑出土遺物	231
第138图	3区8号竖穴住居竈平面図、出土遺物	156	第203图	1区49~51・56・57・60・62・64・65・69号土坑平面図	232
第139图	3区9号竖穴住居平面図	157	第204图	1区72・73・77~79・82・85・87・90号土坑平面図	233
第140图	3区9号竖穴住居掘方平面図	158	第205图	1区91~96・98~101号土坑平面図	234
第141图	3区9号竖穴住居竈平面図、出土遺物	159	第206图	1区102~106・108~110号土坑平面図、 109号土坑出土遺物	235
第142图	3区10号竖穴住居平面図	160	第207图	2区1~6・9・12・13・16号土坑平面図	236
第143图	3区10号竖穴住居出土遺物	161	第208图	2区17~20・26~28号土坑平面図	237
第144图	3区11A・B号竖穴住居平面図	162	第209图	2区31~34・38~41号土坑平面図	238
第145图	3区11A・B号竖穴住居竈平面図、出土遺物	163	第210图	2区42~48号土坑平面図	239
第146图	3区12号竖穴住居平面図	165	第211图	2区49~56号土坑平面図、49号土坑出土遺物	240
第147图	3区12号竖穴住居竈平面図、出土遺物	166	第212图	2区57・58・61~64号土坑平面図	241
第148图	3区13号竖穴住居平面図	167	第213图	2区65~69・71・72・140号土坑平面図	242
第149图	3区14号竖穴住居平面図	168	第214图	2区73・74・76~79・84・85号土坑平面図	243
第150图	3区14号竖穴住居竈平面図、出土遺物	169	第215图	2区86~88・91~95号土坑平面図	244
第151图	3区15号竖穴住居平面図	171	第216图	2区96~98・101~103号土坑平面図、 98・101号土坑出土遺物	245
第152图	3区15号竖穴住居掘方平面図、竈平面図	172	第217图	2区104~107・109・110・112・113号土坑平面図	246
第153图	3区15号竖穴住居出土遺物	173	第218图	2区114~116・118~121号土坑平面図	247
第154图	3区16号竖穴住居平面図、出土遺物	174	第219图	2区122~125・129・131・132号土坑平面図、 122・132号土坑出土遺物	248
第155图	3区17号竖穴住居平面図	175	第220图	2区133~139・141号土坑平面図、136号土坑出土遺物	249
第156图	3区17号竖穴住居竈平面図	176	第221图	3区1~6号土坑平面図、3号土坑出土遺物	250
第157图	3区18号竖穴住居平面図	176	第222图	3区7~10・13・14号土坑平面図	251
第158图	4区1・3号竖穴住居平面図	178	第223图	3区15~19・21号土坑平面図、16・21号土坑出土遺物	252
第159图	4区1号竖穴住居出土遺物	179	第224图	4区1~9号土坑平面図	253
第160图	4区2号竖穴住居平面図	180	第225图	4区10~18号土坑平面図	254
第161图	4区4号竖穴住居平面図	181	第226图	4区19・20・22~26・39号土坑平面図、 25号土坑出土遺物	255
第162图	4区5号竖穴住居平面図、出土遺物	182	第227图	4区27~34号土坑平面図、31号土坑出土遺物	256
第163图	4区6号竖穴住居平面図、出土遺物	183	第228图	4区35~38・40~44号土坑平面図	257
第164图	4区7号竖穴住居平面図	184	第229图	4区45~54号土坑平面図	258
第165图	4区8・15号竖穴住居平面図	185	第230图	4区55~60・63・64・67号土坑平面図	259
第166图	4区8号竖穴住居竈平面図、出土遺物	186	第231图	4区62・65号土坑平面図、出土遺物	260
第167图	4区15号竖穴住居竈平面図、出土遺物	187	第232图	4区66・68~70・74~76号土坑平面図、 68号土坑出土遺物	261
第168图	4区9号竖穴住居平面図	188	第233图	4区71~73・77~81・84・87号土坑平面図、 78・80号土坑出土遺物	262
第169图	4区9号竖穴住居竈平面図、出土遺物	189	第234图	4区82・83・85・86・88~90号土坑平面図、 88号土坑出土遺物	263
第170图	4区10号竖穴住居平面図	190	第235图	4区91~93・95・99・102・105号土坑平面図、 102号土坑出土遺物	264
第171图	4区11号竖穴住居平面図、出土遺物	191	第236图	4区103・106~110号土坑平面図、 103・110号土坑出土遺物	265
第172图	4区12号竖穴住居平面図	192	第237图	1区1号・2区1~4号井戸平面図、 2区3号井戸出土遺物	267
第173图	4区12号竖穴住居出土遺物	193	第238图	3区1~4号・4区1号井戸平面図	269
第174图	4区13・14号竖穴住居平面図、14号竖穴住居出土遺物	194	第239图	4区2~6号井戸平面図、2号井戸出土遺物	271
第175图	4区13号竖穴住居出土遺物	195	第240图	4区7・8号井戸平面図、7号井戸出土遺物	272
第176图	4区16号竖穴住居平面図	196	第241图	4区9~11号井戸平面図、9号井戸出土遺物	273
第177图	4区16号竖穴住居掘方平面図	197	第242图	4区12~16号井戸平面図	275
第178图	4区16号竖穴住居竈平面図、出土遺物	198	第243图	1区1~6・8・11~16号ピット平面図、 1・2号ピット出土遺物	279
第179图	4区17号竖穴住居平面図、出土遺物	199			
第180图	4区18号竖穴住居平面図	200			
第181图	4区19号竖穴住居平面図、出土遺物	201			
第182图	4区2号竖穴状遺構平面図、出土遺物	202			
第183图	1区1号掘立柱建物平面図	204			
第184图	1区2号掘立柱建物平面図	205			
第185图	1区3号掘立柱建物平面図、出土遺物	206			
第186图	2区1号掘立柱建物平面図	207			
第187图	2区2号掘立柱建物平面図、出土遺物	208			
第188图	2区3号掘立柱建物平面図	210			
第189图	2区4号掘立柱建物平面図	211			
第190图	2区5号掘立柱建物平面図	212			

第244図	1区17～25・31・33・36号ピット平断面図	280
第245図	1区37～42・44～48・50～52号ピット平断面図	281
第246図	1区53・54号・2区5～8・10・12・14・15号ピット平断面図、 1区54号ピット出土遺物	282
第247図	2区16・18・21・22・24～27・29・40～43号ピット 平断面図	283
第248図	2区44～52・54～56号ピット平断面図	284
第249図	2区58～63・66・68～72号ピット平断面図	285
第250図	2区74～84・88・89号ピット平断面図、 80号ピット出土遺物	286
第251図	2区85～87・90～98号ピット平断面図	287
第252図	2区99～110号ピット平断面図	288
第253図	3区1～12号ピット平断面図	289
第254図	3区13～16号・4区1～9号ピット平断面図	290
第255図	4区10～21号ピット平断面図、14号ピット出土遺物	291
第256図	4区22～32号ピット平断面図	292
第257図	4区33～49号ピット平断面図	293
第258図	1区1～7号溝平断面図、2・3号溝出土遺物	295
第259図	1区8～10号溝平断面図、8・9号溝出土遺物	298
第260図	2区1号溝平断面図	299
第261図	2区2～4・16・23号溝平断面図、3号溝出土遺物	301
第262図	2区4号溝出土遺物	303
第263図	2区5号溝平断面図	303
第264図	2区6・7号溝・8～12号溝北部・13～15号溝平面図、 8～10号溝出土遺物	306
第265図	2区8～12号溝南部・19号溝・17号溝平面図	307
第266図	2区6～15号溝断面図、11・12号溝出土遺物	309
第267図	2区17号溝断面図、出土遺物	311
第268図	2区18号溝平断面図	312
第269図	2区20号溝出土遺物	312
第270図	2区20～22・24号溝平断面図、22号溝出土遺物	313
第271図	2区25号溝平断面図	315
第272図	2区26号溝平面図	316
第273図	3区1～4号溝平断面図	317
第274図	3区5～7号溝平断面図	318
第275図	3区8号溝平断面図、出土遺物	319
第276図	4区1～3号溝平断面図、1号溝出土遺物	322
第277図	4区4・5号溝平断面図、出土遺物	324
第278図	4区6～9号溝平断面図	325
第279図	4区6号溝出土遺物	326
第280図	4区7・8号溝出土遺物	327
第281図	4区10号溝平断面図	328
第282図	4区11・12号溝平断面図	329
第283図	4区12号溝出土遺物	330
第284図	4区13～15号溝平断面図	331

第285図	4区16～18号溝平断面図、17号溝出土遺物	332
第286図	4区19～24・27号溝平断面図、19・20・24号溝出土遺物	333
第287図	2区As-B確認範囲、断面図	337
第288図	2区1・2号サク状遺構平断面図	338
第289図	4区1号畠平断面図	339
第290図	4区2・3号畠平断面図、2号畠出土遺物	340
第291図	遺構外出土の遺物(1) 1～3区	341
第292図	遺構外出土の遺物(2) 4区・4区風倒木	342
第293図	3区11・20号土坑平断面図、出土遺物	343
第294図	遺構外出土の縄文時代遺物	345
第295図	1区土層柱状図	345
第296図	石器分布図	346
第297図	1区調査坑配置図	347
第298図	1区出土 ナイフ形石器・尖頭状石器・彫刻刀形石器 ・二次加工ある剥片・縦長剥片	350
第299図	1区出土 縦長剥片・剥片(1)	351
第300図	1区出土 剥片(2)	352
第301図	1区出土 碎片・接合資料1～4・接合資料6 ・接合資料8	353
第302図	1区出土 接合資料9～10・接合資料12 ・接合資料14～15	354
第303図	1区石器分布図	355
第304図	1区接合資料分布図	356
第305図	1区器種別石器分布図	357
第306図	1区石材別石器分布図	358
第307図	3区2号・3号調査坑石器分布図、出土縦長剥片・剥片	359
第308図	2区調査坑配置図	360
第309図	3区調査坑配置図	361
第310図	4区土層柱状図	362
第311図	4区2号調査坑石器分布、出土縦長剥片	362
第312図	4区調査坑配置図	363
第313図	4区4号調査坑石器分布図	364
第314図	4区6号調査坑出土剥片・石核・接合資料16	364
第315図	4区6号調査坑石器分布図	365
第316図	4区6号調査坑接合資料分布図	365
第317図	4区6号調査坑器種別石器分布図	366
第318図	4区6号調査坑石材別石器分布図	366
第319図	4区11号調査坑石器分布図、出土剥片	367
第320図	4区13号調査坑石器分布図	367
第321図	1区南西壁深掘地点の土層柱状図	370
第322図	2区北西隅地点の土層柱状図	370
第323図	1区南西壁の火山ガラス比ダイアグラム	371
第324図	石神遺跡2区北西隅地点におけるプラント・オパール 分析結果	376
第325図	ナイフ形石器・縦長剥片・剥片 長幅比	385

表 目 次

第1表	遺構名称の改訂	5
第2表	周辺遺跡一覧(1)	11
第3表	周辺遺跡一覧(2)	12
第4表	周辺遺跡一覧(3)	13
第5表	土坑一覧表(1)	221
第6表	土坑一覧表(2)	222
第7表	土坑一覧表(3)	223
第8表	土坑一覧表(4)	224
第9表	土坑一覧表(5)	225
第10表	土坑一覧表(6)	226
第11表	ピット一覧表(1)	277
第12表	ピット一覧表(2)	278
第13表	1区層位別出土点数	345
第14表	1区石材別器種点数表	348
第15表	1区ブロック別器種点数表	348
第16表	4区調査坑別点数表	362
第17表	4区6号調査坑層位別点数表	364
第18表	4区6号調査坑出土石器 器種と石材	364

第19表	テフラ検出分析結果	370
第20表	火山ガラス比分析結果	372
第21表	屈折率測定結果	372
第22表	石神遺跡におけるプラント・オパール分析結果	376
第23表	樹種構成	377
第24表	樹種同定結果	378
第25表	石神遺跡出土灰の植物珪酸体	379
第26表	山田郡内郷推定地一覧	383
第27表	遺物観察表(1)	387
第28表	遺物観察表(2)	388
第29表	遺物観察表(3)	389
第30表	遺物観察表(4)	390
第31表	遺物観察表(5)	391
第32表	遺物観察表(6)	392
第33表	遺物観察表(7)	393
第34表	遺物観察表(8)	394
第35表	遺物観察表(9)	395
第36表	遺物観察表(10)	396

第37表	遺物観察表(11)	397
第38表	遺物観察表(12)	398
第39表	遺物観察表(13)	399
第40表	遺物観察表(14)	400
第41表	遺物観察表(15)	401
第42表	遺物観察表(16)	402
第43表	遺物観察表(17)	403
第44表	遺物観察表(18)	404
第45表	遺物観察表(19)	405
第46表	遺物観察表(20)	406
第47表	遺物観察表(21)	407
第48表	遺物観察表(22)	408
第49表	遺物観察表(23)	409
第50表	遺物観察表(24)	410
第51表	遺物観察表(25)	411

第52表	遺物観察表(26)	412
第53表	遺物観察表(27)	413
第54表	遺物観察表(28)	414
第55表	遺物観察表(29)	415
第56表	遺物観察表(30)	416
第57表	遺物観察表(31)	417
第58表	遺物観察表(32)	418
第59表	遺物観察表(33)	419
第60表	遺物観察表(34)	420
第61表	遺物観察表(35)	421
第62表	遺物観察表(36)	422
第63表	遺物観察表(37)	423
第64表	遺物観察表(38)	424
第65表	遺物観察表(39)	425
第66表	遺物観察表(40)	426

写真目次

PL. 1	1. 調査区と周辺の地形(4区から北西を望む)		
	2. 調査区と周辺の地形(1区から南東を望む)		
PL. 2	1. 1区全景(上が北東)		
	2. 1区全景(北西から)		
PL. 3	1. 1区北西部(上が北東)		
	2. 1区中央部(上が北東)		
PL. 4	1. 1区南東部(上が北東)		
	2. 2区全景(上が北東)		
PL. 5	1. 2区全景(北西から)		
	2. 2区全景(南東から)		
PL. 6	1. 2区北西部(上が北東)		
	2. 2区中央部(上が北東)		
PL. 7	1. 2区南東部(上が北東)		
	2. 2区北半部(西から)		
PL. 8	1. 2区南半部(西から)		
	2. 3区全景(上が北東)		
PL. 9	1. 3区全景(北西から)		
	2. 3-3区全景(上が北東)		
PL.10	1. 3-1区全景(南東から)		
	2. 4区全景(上が北東)		
PL.11	1. 4区全景(北西から)		
	2. 4-1・4-3区全景(上が北東)		
PL.12	1. 4-2・4-4区全景(上が北東)		
	2. 4-5区全景(南東から)		
PL.13	1. 1区1・7号竪穴住居全景(南東から)		
	2. 1区1号竪穴住居竈全景(南西から)		
	3. 1区1号竪穴住居竈掘方全景(南西から)		
	4. 1区1号竪穴住居遺物2・3出土状態(南から)		
	5. 1区7号竪穴住居遺物出土状態(西から)		
PL.14	1. 1区2号竪穴住居全景(西から)		
	2. 1区2号竪穴住居遺物出土状態(西から)		
	3. 1区2号竪穴住居掘方全景(西から)		
	4. 1区2号竪穴住居竈全景(西から)		
	5. 1区2号竪穴住居竈掘方全景(西から)		
PL.15	1. 1区3号竪穴住居全景(南から)		
	2. 1区3号竪穴住居竈全景(南から)		
	3. 1区3号竪穴住居竈掘方全景(南から)		
	4. 1区4号竪穴住居竈全景(西から)		
	5. 1区4号竪穴住居竈掘方全景(西から)		
PL.16	1. 1区4号竪穴住居全景(西から)		
	2. 1区4号竪穴住居掘方全景(西から)		
	3. 1区5号竪穴住居全景(西から)		
	4. 1区5号竪穴住居掘方全景(西から)		
	5. 1区5号竪穴住居竈全景(西から)		
PL.17	1. 1区6号竪穴住居全景(西から)		
	2. 1区6号竪穴住居掘方全景(西から)		
	3. 1区6号竪穴住居竈全景(西から)		
	4. 1区8号竪穴住居全景(南から)		
	5. 1区8号竪穴住居掘方全景(南から)		
PL.18	1. 1区8号竪穴住居遺物出土状態(南から)		
	2. 1区9号竪穴住居全景(西から)		
	3. 1区9号竪穴住居竈全景(西から)		
	4. 1区10号竪穴住居全景(西から)		
	5. 1区10号竪穴住居竈全景(西から)		
	6. 1区11号竪穴住居全景(南東から)		
	7. 1区11号竪穴住居竈全景(南東から)		
	8. 1区11号竪穴住居遺物1・2・5出土状態(南から)		
PL.19	1. 1区12号竪穴住居全景(南東から)		
	2. 1区12号竪穴住居掘方全景(南東から)		
	3. 1区12号竪穴住居竈全景(南東から)		
	4. 1区12号竪穴住居竈掘方全景(南東から)		
	5. 1区13号竪穴住居全景(南東から)		
PL.20	1. 1区13号竪穴住居竈全景(南東から)		
	2. 1区14号竪穴住居全景(西から)		
	3. 1区18号竪穴住居全景(西から)		
	4. 1区14・18号竪穴住居掘方全景(西から)		
	5. 1区14号竪穴住居竈全景(西から)		
	6. 1区14号竪穴住居竈掘方全景(西から)		
	7. 1区14号竪穴住居遺物1~5出土状態(北から)		
	8. 1区18号竪穴住居竈全景(西から)		
PL.21	1. 1区18号竪穴住居竈掘方全景(西から)		
	2. 1区15号竪穴住居掘方全景(西から)		
	3. 1区15号竪穴住居全景(西から)		
	4. 1区15号竪穴住居遺物出土状態(西から)		
	5. 1区15号竪穴住居灰・炭化物の面(西から)		
PL.22	1. 1区15号竪穴住居1号竈全景(西から)		
	2. 1区15号竪穴住居1号竈掘方全景(西から)		
	3. 1区15号竪穴住居2号竈全景(南から)		
	4. 1区15号竪穴住居2号竈掘方全景(南から)		
	5. 1区16号竪穴住居全景(西から)		
PL.23	1. 1区16号竪穴住居掘方全景(西から)		
	2. 1区16号竪穴住居竈全景(西から)		
	3. 1区16号竪穴住居竈掘方全景(西から)		
	4. 1区17号竪穴住居全景(南西から)		
	5. 1区17号竪穴住居掘方全景(南東から)		
	6. 1区17号竪穴住居遺物1出土状態(南から)		
	7. 1区19号竪穴住居全景(西から)		
	8. 1区19号竪穴住居竈全景(西から)		
PL.24	1. 1区19号竪穴住居遺物1出土状態(北西から)		
	2. 1区20号竪穴住居全景(南東から)		
	3. 1区20号竪穴住居竈全景(南東から)		
	4. 1区21号竪穴住居掘方全景(南西から)		
	5. 1区21号竪穴住居全景(南西から)		
PL.25	1. 1区21号竪穴住居竈全景(南西から)		
	2. 1区21号竪穴住居竈掘方全景(南西から)		
	3. 1区22号竪穴住居竈全景(南東から)		

	4. 1区22号竪穴住居竈掘方全景(南東から)		2. 2区7号竪穴住居遺物2出土状態(西から)
	5. 1区23号竪穴住居全景(西から)		3. 2区9・10号竪穴住居全景(南西から)
	6. 1区23号竪穴住居掘方全景(西から)		4. 2区9・10号竪穴住居掘方全景(南西から)
	7. 1区23号竪穴住居竈全景(西から)		5. 2区11号竪穴住居全景(南東から)
PL.26	8. 1区23号竪穴住居竈掘方全景(西から)	PL.36	1. 2区11・12号竪穴住居全景(南から)
	1. 1区24号竪穴住居全景(西から)		2. 2区11号竪穴住居掘方全景(南東から)
	2. 1区24号竪穴住居掘方全景(西から)		3. 2区11・12号竪穴住居掘方全景(南から)
	3. 1区25号竪穴住居全景(西から)		4. 2区11号竪穴住居竈全景(南東から)
	4. 1区25号竪穴住居掘方全景(西から)		5. 2区11号竪穴住居竈掘方全景(南東から)
	5. 1区25号竪穴住居竈遺物出土状態(西から)	PL.37	1. 2区13号竪穴住居全景(南西から)
	6. 1区25号竪穴住居竈全景(西から)		2. 2区13号竪穴住居掘方全景(南西から)
	7. 1区26号竪穴住居全景(西から)		3. 2区13号竪穴住居竈全景(南西から)
PL.27	8. 1区26号竪穴住居掘方全景(西から)		4. 2区13号竪穴住居竈掘方全景(南西から)
	1. 1区26号竪穴住居竈全景(西から)		5. 2区14号竪穴住居遺物出土状態(西から)
	2. 1区26号竪穴住居竈掘方全景(西から)	PL.38	1. 2区14号竪穴住居全景(西から)
	3. 1区27・30号竪穴住居全景(南西から)		2. 2区14号竪穴住居竈全景(西から)
	4. 1区27・30号竪穴住居全景(南東から)		3. 2区14号竪穴住居竈内遺物4出土状態(西から)
	5. 1区29号竪穴住居全景(南西から)		4. 2区15号竪穴住居掘方全景(西から)
PL.28	1. 1区28号竪穴住居全景(南東から)		5. 2区15号竪穴住居竈全景(西から)
	2. 1区29号竪穴住居掘方全景(南西から)	PL.39	1. 2区15号竪穴住居全景(西から)
	3. 1区29号竪穴住居遺物出土状態(西から)		2. 2区16号竪穴住居全景(南西から)
	4. 1区29号竪穴住居竈煙道調査前(南西から)		3. 2区16号竪穴住居1号竈全景(南西から)
	5. 1区29号竪穴住居竈煙道発掘中(南西から)		4. 2区16号竪穴住居1号竈掘方全景(南西から)
	6. 1区29号竪穴住居竈煙道部断面(南東から)		5. 2区16号竪穴住居2号竈全景(南西から)
	7. 1区31号竪穴住居全景(南東から)	PL.40	1. 2区16号竪穴住居2号竈掘方全景(南西から)
	8. 1区31号竪穴住居掘方全景(南東から)		2. 2区17号竪穴住居掘方全景(南東から)
PL.29	1. 1区31号竪穴住居竈全景(南東から)		3. 2区17号竪穴住居全景(南東から)
	2. 1区31号竪穴住居竈掘方全景(南東から)		4. 2区17号竪穴住居竈全景(南東から)
	3. 1区32号竪穴住居全景(西から)		5. 2区17号竪穴住居竈掘方全景(南東から)
	4. 1区32号竪穴住居掘方全景(西から)	PL.41	1. 2区19号竪穴住居全景(南東から)
	5. 2区1号竪穴住居全景(南東から)		2. 2区20号竪穴住居全景(北西から)
	6. 2区1号竪穴住居掘方全景(南東から)		3. 2区20号竪穴住居遺物出土状態(北西から)
	7. 2区1号竪穴住居竈全景(南東から)		4. 2区20号竪穴住居竈全景(北西から)
	8. 2区1号竪穴住居竈掘方全景(南東から)		5. 2区21号竪穴住居全景(西から)
PL.30	1. 2区2号竪穴住居全景(西から)	PL.42	1. 2区21号竪穴住居遺物・炭化材出土状態(西から)
	2. 2区2号竪穴住居竈全景(西から)		2. 2区21号竪穴住居掘方全景(西から)
	3. 2区3号竪穴住居全景(南西から)		3. 2区21号竪穴住居竈全景(西から)
	4. 2区3号竪穴住居掘方全景(南西から)		4. 2区21号竪穴住居竈掘方全景(西から)
	5. 2区3号竪穴住居竈全景(南西から)		5. 2区21号竪穴住居炭化材出土状態(西から)
	6. 2区3号竪穴住居竈掘方全景(南西から)		6. 2区21号竪穴住居遺物18出土状態(東から)
	7. 2区4号竪穴住居掘方全景(西から)		7. 2区21号竪穴住居遺物6・16出土状態(西から)
	8. 2区4号竪穴住居遺物2・3・7・8出土状態(南から)		8. 2区21号竪穴住居遺物6・7・13・14・23出土状態(北東から)
PL.31	1. 2区4号竪穴住居全景(西から)	PL.43	1. 2区22号竪穴住居全景(西から)
	2. 2区4号竪穴住居竈全景(西から)		2. 2区22号竪穴住居竈全景(西から)
	3. 2区4号竪穴住居竈掘方全景(西から)		3. 2区22号竪穴住居竈掘方全景(西から)
	4. 2区5号竪穴住居全景(南西から)		4. 2区22号竪穴住居遺物5出土状態(北東から)
	5. 2区6号竪穴住居全景・1・2号竈調査前(南東から)		5. 2区22号竪穴住居遺物8(土鍾)出土状態(北西から)
PL.32	1. 2区6号竪穴住居全景・炭化材除去前(南西から)		6. 2区22号竪穴住居遺物9(刀子)出土状態(北西から)
	2. 2区6号竪穴住居全景(南西から)		7. 2区23号竪穴住居掘方全景(南から)
PL.33	1. 2区6号竪穴住居掘方全景(南西から)		8. 2区23号竪穴住居竈全景(南から)
	2. 2区6号竪穴住居炭化材出土状態(西から)	PL.44	1. 2区23号竪穴住居全景(南から)
	3. 2区6号竪穴住居1・2号竈全景(南西から)		2. 2区24号竪穴住居全景(南東から)
	4. 2区6号竪穴住居1・2号竈全景(北西から)	PL.45	1. 2区24号竪穴住居全景(南東から)
	5. 2区6号竪穴住居1・2号竈掘方全景(南西から)		2. 2区24号竪穴住居掘方全景(南東から)
	6. 2区6号竪穴住居1・2号竈掘方全景(北西から)		3. 2区24号竪穴住居竈全景(南東から)
	7. 2区6号竪穴住居3号竈全景(南東から)		4. 2区24号竪穴住居竈掘方全景(南東から)
	8. 2区6号竪穴住居3号竈掘方全景(南東から)		5. 2区24号竪穴住居遺物7出土状態(南東から)
PL.34	1. 2区6号竪穴住居遺物27(紡輪)出土状態(南から)		6. 2区24号竪穴住居遺物9出土状態(南東から)
	2. 2区6号竪穴住居遺物30(刀子)出土状態(西から)		7. 2区24号竪穴住居遺物10出土状態(北西から)
	3. 2区7号竪穴住居全景(西から)		8. 2区25号竪穴住居全景(西から)
	4. 2区7号竪穴住居掘方全景(西から)	PL.46	1. 2区25号竪穴住居竈全景(西から)
	5. 2区7号竪穴住居1号竈全景(西から)		2. 2区26号竪穴住居掘方全景(南から)
	6. 2区7号竪穴住居1号竈掘方全景(西から)		3. 2区26号竪穴住居全景(南から)
	7. 2区7号竪穴住居2号竈全景(南から)		4. 2区26号竪穴住居竈全景(南から)
	8. 2区7号竪穴住居2号竈掘方全景(南から)		5. 2区26号竪穴住居竈掘方全景(南から)
PL.35	1. 2区7号竪穴住居遺物9(紡輪)出土状態(北東から)	PL.47	1. 2区南側の竪穴住居集中部・手前左は26号竪穴住居(南東から)

- PL.48 2.2区27号竪穴住居全景(南から)
1.2区27号竪穴住居掘方全景(南から)
2.2区27号竪穴住居竈全景(南から)
3.2区27号竪穴住居竈掘方全景(南から)
4.2区27号竪穴住居竈遺物出土状態(南から)
5.2区28号竪穴住居全景(南西から)
6.2区28号竪穴住居竈全景(南西から)
7.2区28号竪穴住居竈掘方全景(南西から)
8.2区29号竪穴住居掘方全景(北西から)
- PL.49 1.2区29号竪穴住居全景(北西から)
2.2区29号竪穴住居竈全景(北西から)
3.2区30号竪穴住居遺物出土状態(西から)
4.2区30号竪穴住居掘方全景(西から)
5.2区30号竪穴住居竈全景(西から)
- PL.50 1.2区30号竪穴住居全景(西から)
2.2区31号竪穴住居全景(南西から)
- PL.51 1.2区31号竪穴住居竈全景(南西から)
2.2区32号竪穴住居掘方全景(南から)
3.2区32号竪穴住居全景(南から)
4.2区32号竪穴住居竈全景(南から)
5.2区32号竪穴住居竈袖の襖出土状態(南から)
- PL.52 1.2区32号竪穴住居竈遺物5出土状態(南から)
2.2区32号竪穴住居竈遺物4出土状態(南から)
3.2区32号竪穴住居竈掘方全景(南から)
4.2区34号竪穴住居全景(南西から)
5.3区1号竪穴住居全景(西から)
- PL.53 1.3区1号竪穴住居掘方全景(西から)
2.3区1号竪穴住居竈全景(西から)
3.3区1号竪穴住居竈掘方全景(西から)
4.3区2号竪穴住居掘方全景(西から)
5.3区2号竪穴住居全景(北から)
6.3区3号竪穴住居全景(南西から)
7.3区3号竪穴住居遺物出土状態(南西から)
- PL.54 1.3区4号竪穴住居全景(南東から)
2.3区4号竪穴住居掘方全景(南西から)
3.3区4号竪穴住居遺物出土状態(南西から)
4.3区4号竪穴住居南西隅遺物出土状態(西から)
5.3区4号竪穴住居遺物5・13出土状態(西から)
- PL.55 1.3区4号竪穴住居遺物14出土状態(西から)
2.3区4号竪穴住居遺物18出土状態(南西から)
3.3区4号竪穴住居遺物9・11出土状態(西から)
4.3区5号竪穴住居全景(南から)
5.3区6号竪穴住居全景(南から)
6.3区7号竪穴住居全景(西から)
7.3区7号竪穴住居竈全景(西から)
8.3区7号竪穴住居遺物1出土状態(西から)
- PL.56 1.3区8号竪穴住居全景(南から)
2.3区8号竪穴住居掘方全景(南から)
3.3区8号竪穴住居竈全景(南から)
4.3区8号竪穴住居竈掘方全景(南から)
5.3区8号竪穴住居竈遺物出土状態(南から)
- PL.57 1.3区9号竪穴住居全景(南東から)
2.3区9号竪穴住居掘方3-3区部分(南から)
3.3区9号竪穴住居遺物出土状態3-3区部分(南から)
4.3区9号竪穴住居竈全景(南東から)
5.3区9号竪穴住居竈掘方全景(南東から)
- PL.58 1.3区10号竪穴住居全景(西から)
2.3区10号竪穴住居掘方全景(西から)
3.3区10号竪穴住居竈全景(西から)
4.3区11A・B号竪穴住居全景(西から)
5.3区11A・B号竪穴住居遺物出土状態(西から)
- PL.59 1.3区11A・B号竪穴住居全景(南から)
2.3区11A・B号竪穴住居掘方全景(南から)
3.3区11A・B号竪穴住居掘方全景(西から)
4.3区11A・B号竪穴住居1号竈全景(南から)
5.3区11A・B号竪穴住居1号竈掘方全景(南から)
- PL.60 1.3区11A・B号竪穴住居2号竈全景(西から)
2.3区11A・B号竪穴住居2号竈掘方全景(西から)
3.3区12号竪穴住居全景(南西から)
4.3区12号竪穴住居竈全景(南西から)
5.3区12号竪穴住居遺物2出土状態(西から)
- PL.61 1.3区13号竪穴住居全景(西から)
2.3区13号竪穴住居掘方全景(西から)
3.3区13号竪穴住居竈全景(西から)
4.3区13号竪穴住居屋内井戸断面(西から)
5.3区14号竪穴住居全景(南西から)
- PL.62 1.3区14号竪穴住居掘方全景(南西から)
2.3区14号竪穴住居竈全景(南西から)
3.3区14号竪穴住居竈掘方全景(南西から)
4.3区14号竪穴住居遺物1出土状態(西から)
5.3区15号竪穴住居全景(南西から)
- PL.63 1.3区15号竪穴住居掘方全景(南西から)
2.3区15号竪穴住居竈全景(南西から)
3.3区15号竪穴住居竈掘方全景(南西から)
4.3区15号竪穴住居竈遺物出土状態(南西から)
5.3区15号竪穴住居遺物1・4・6出土状態(南から)
6.3区16号竪穴住居全景(西から)
7.3区16号竪穴住居竈全景(西から)
8.3区16号竪穴住居貯蔵穴全景(北西から)
- PL.64 1.3区17号竪穴住居全景(南東から)
2.3区17号竪穴住居掘方全景(南東から)
3.3区17号竪穴住居竈全景(南東から)
4.3区17号竪穴住居竈掘方全景(南東から)
5.3区18号竪穴住居全景(南から)
- PL.65 1.4区1号竪穴住居全景(西から)
2.4区1号竪穴住居掘方全景(西から)
3.4区1号竪穴住居竈全景(西から)
4.4区1号竪穴住居竈掘方全景(西から)
5.4区1号竪穴住居遺物出土状態(西から)
- PL.66 1.4区2号竪穴住居掘方全景(北西から)
2.4区3号竪穴住居全景(南西から)
3.4区4号竪穴住居全景(北から)
4.4区5号竪穴住居全景(北西から)
5.4区5号竪穴住居竈全景(北西から)
6.4区6号竪穴住居全景(西から)
7.4区6号竪穴住居掘方全景(北東から)
8.4区7号竪穴住居全景(南西から)
- PL.67 1.4区7号竪穴住居掘方全景(北東から)
2.4区8・15号竪穴住居全景(南西から)
3.4区8・15号竪穴住居全景(南東から)
4.4区8・15号竪穴住居全景(西から)
5.4区8・15号竪穴住居掘方全景(南東から)
- PL.68 1.4区8・15号竪穴住居掘方全景(西から)
2.4区15号竪穴住居全景(西から)
3.4区15号竪穴住居掘方全景(西から)
4.4区8号竪穴住居竈全景(南東から)
5.4区8号竪穴住居竈掘方全景(南東から)
6.4区15号竪穴住居竈全景(西から)
7.4区15号竪穴住居竈掘方全景(西から)
8.4区9号竪穴住居掘方全景(南西から)
- PL.69 1.4区9号竪穴住居全景(南西から)
2.4区9号竪穴住居竈全景(南西から)
3.4区9号竪穴住居竈掘方全景(南西から)
4.4区9号竪穴住居遺物出土状態(南西から)
5.4区9号竪穴住居竈遺物出土状態(南西から)
- PL.70 1.4区11号竪穴住居・110号土坑全景(西から)
2.4区11号竪穴住居全景(西から)
3.4区11号竪穴住居掘方全景(西から)
4.4区12号竪穴住居全景(東から)
5.4区12号竪穴住居竈全景(東から)
6.4区12号竪穴住居竈掘方全景(南東から)
7.4区13号竪穴住居掘方全景(西から)

8. 4区13号竪穴住居遺物出土状態(西から)
- PL.71 1. 4区13号竪穴住居全景(西から)
2. 4区13号竪穴住居遺物1・2出土状態(北西から)
3. 4区14号竪穴住居全景(南東から)
4. 4区16号竪穴住居全景(南西から)
5. 4区16号竪穴住居掘方全景(南西から)
- PL.72 1. 4区16号竪穴住居竈全景(南西から)
2. 4区16号竪穴住居竈掘方全景(南西から)
3. 4区17号竪穴住居全景(南東から)
4. 4区18号竪穴住居全景(南西から)
5. 4区19号竪穴住居全景(西から)
6. 4区19号竪穴住居掘方全景(西から)
7. 4区19号竪穴住居竈全景(西から)
8. 4区19号竪穴住居竈掘方全景(西から)
- PL.73 1. 4区2号竪穴状遺構全景(南から)
2. 1区1号掘立柱建物全景(南西から)
3. 1区1号掘立柱建物全景(南東から)
4. 1区2号掘立柱建物全景(東から)
5. 1区3号掘立柱建物全景(南から)
- PL.74 1. 1区3号掘立柱建物全景(西から)
2. 2区1号掘立柱建物全景(北から)
- PL.75 1. 2区1・3号掘立柱建物全景(北東から)
2. 2区2・4号掘立柱建物全景(東から)
- PL.76 1. 2区1・3号掘立柱建物全景(南から)
2. 2区5号掘立柱建物全景(南東から)
3. 2区6号掘立柱建物、1・2号柱穴列全景(北西から)
4. 2区8号掘立柱建物全景(西から)
5. 3区1号掘立柱建物全景(北東から)
6. 2区3号柱穴列全景(北から)
7. 1区2号土坑全景(北東から)
8. 1区6号土坑全景(南から)
- PL.77 1. 1区6・19号土坑、52号ピット全景(南から)
2. 1区8号土坑全景(北東から)
3. 1区12・13・34号土坑全景(北東から)
4. 1区14・16号土坑全景(北西から)
5. 1区20・21号土坑全景(北西から)
6. 1区21号土坑全景(南から)
7. 1区28号土坑全景(北西から)
8. 1区39～43・51号土坑全景(南東から)
- PL.78 1. 1区17号土坑全景(南西から)
2. 1区18号土坑全景(南から)
3. 1区26号土坑全景(南から)
4. 1区32号土坑全景(北西から)
5. 1区49号土坑全景(北東から)
6. 1区56号土坑全景(南西から)
7. 1区57号土坑全景(南東から)
8. 1区60号土坑全景(南西から)
9. 1区62号土坑、1号掘立P6全景(南西から)
10. 1区65号土坑全景(南から)
11. 1区69号土坑全景(南西から)
12. 1区90号土坑全景(南から)
13. 1区92号土坑全景(南東から)
14. 1区108号土坑全景(南東から)
15. 1区110号土坑全景(北東から)
- PL.79 1. 1区47・74～76号土坑全景(南から)
2. 1区72・77～79号土坑全景(北東から)
3. 1区106号土坑全景(北西から)
4. 2区3～6・34号土坑全景(南西から)
5. 2区16号土坑全景(北から)
6. 2区17・18号土坑全景(南東から)
7. 2区38号土坑全景(南東から)
8. 2区39号土坑全景(北東から)
- PL.80 1. 2区1号土坑全景(南から)
2. 2区2号土坑全景(東から)
3. 2区3号土坑全景(東から)
4. 2区9号土坑全景(西から)
5. 2区19号土坑全景(南西から)
6. 2区32・33号土坑全景(南から)
7. 2区40号土坑全景(南東から)
8. 2区41・42号土坑全景(北東から)
9. 2区43号土坑全景(南西から)
10. 2区44～46号土坑全景(南西から)
11. 2区47号土坑全景(南西から)
12. 2区67号土坑全景(南東から)
13. 2区84号土坑全景(南東から)
14. 2区85号土坑全景(北西から)
15. 2区93号土坑全景(南東から)
- PL.81 1. 2区52～58号土坑全景(北東から)
2. 2区64～67号土坑全景(南西から)
3. 2区76～79・94号土坑全景(北東から)
4. 2区86～88号土坑全景(南東から)
5. 2区104～106号土坑全景(北東から)
6. 2区107・109・110号土坑全景(北東から)
7. 2区112～115号土坑全景(北東から)
8. 2区118号土坑全景(南から)
- PL.82 1. 2区95・96号土坑全景(北から)
2. 2区97号土坑全景(南東から)
3. 2区98号土坑全景(西から)
4. 2区101号土坑全景(南西から)
5. 2区119号土坑全景(西から)
6. 2区123号土坑全景(北から)
7. 2区125号土坑全景(北東から)
8. 2区131・136号土坑全景(西から)
9. 3区3号土坑全景(東から)
10. 3区5号土坑全景(南から)
11. 3区9号土坑全景(北東から)
12. 3区15号土坑全景(西から)
13. 3区16号土坑全景(西から)
14. 3区17号土坑全景(東から)
15. 3区18号土坑全景(南西から)
- PL.83 1. 2区122号土坑全景(南東から)
2. 2区132～134号土坑全景(南西から)
3. 2区137号土坑全景(南東から)
4. 2区138号土坑灰・炭化物層(東から)
5. 2区139号土坑全景(南から)
6. 3区1号土坑全景(西から)
7. 3区4号土坑全景(東から)
8. 3区6号土坑全景(東から)
- PL.84 1. 3区7号土坑全景(東から)
2. 3区8～10号土坑全景(東から)
3. 3区21号土坑全景(東から)
4. 4区1～4号土坑全景(北から)
5. 4区3号土坑全景(北西から)
6. 4区16号土坑全景(南西から)
7. 4区20号土坑全景(南から)
8. 4区22・67号土坑全景(南西から)
- PL.85 1. 3区19号土坑全景(南東から)
2. 4区1・2号土坑全景(北西から)
3. 4区5・6号土坑全景(南東から)
4. 4区5・19号土坑全景(北西から)
5. 4区7・8号土坑全景(南東から)
6. 4区9号土坑全景(北西から)
7. 4区10・11号土坑全景(南西から)
8. 4区13号土坑全景(南から)
9. 4区14号土坑全景(東から)
10. 4区15号土坑全景(南西から)
11. 4区22号土坑全景(東から)
12. 4区24号土坑全景(北東から)
13. 4区26号土坑全景(北東から)
14. 4区27号土坑全景(北東から)
15. 4区36号土坑全景(北西から)
- PL.86 1. 4区23号土坑全景(南西から)

	2. 4区28号土坑全景(西から)		13. 2区96号ピット全景(東から)
	3. 4区30・38号土坑全景(南西から)		14. 2区97号ピット全景(北西から)
	4. 4区31号土坑全景(北から)		15. 2区98号ピット全景(東から)
	5. 4区33号土坑全景(北東から)	PL.93	1. 2区99号ピット全景(北東から)
	6. 4区34号土坑全景(北東から)		2. 2区100号ピット全景(東から)
	7. 4区35号土坑全景(北西から)		3. 2区101号ピット全景(北東から)
	8. 4区40号土坑全景(南から)		4. 2区102号ピット全景(東から)
PL.87	1. 4区37号土坑全景(北東から)		5. 2区103号ピット全景(北から)
	2. 4区43号土坑、9号ピット全景(南から)		6. 2区104号ピット全景(北西から)
	3. 4区46号土坑全景(南東から)		7. 2区105号ピット全景(北東から)
	4. 4区47号土坑全景(東から)		8. 2区106号ピット全景(東から)
	5. 4区48号土坑全景(南東から)		9. 2区107号ピット全景(北東から)
	6. 4区52号土坑全景(北から)		10. 2区109号ピット全景(北西から)
	7. 4区62号土坑全景(南西から)		11. 2区110号ピット全景(西から)
	8. 4区68号土坑全景(南西から)		12. 3区1号ピット全景(南東から)
	9. 4区71～73号土坑全景(南西から)		13. 3区9号ピット全景(南東から)
	10. 4区93号土坑全景(南東から)		14. 3区10号ピット全景(東から)
	11. 4区95号土坑全景(西から)		15. 3区11号ピット全景(北から)
	12. 4区99号土坑全景(北東から)	PL.94	1. 3区12号ピット全景(東から)
	13. 4区102号土坑全景(東から)		2. 3区13号ピット全景(南から)
	14. 4区103号土坑全景(南東から)		3. 4区5号ピット全景(南東から)
	15. 4区105号土坑全景(南から)		4. 4区15号ピット全景(南西から)
PL.88	1. 4区44号土坑全景(北西から)		5. 4区16号ピット全景(南から)
	2. 4区49号土坑全景(北東から)		6. 4区21号ピット全景(北西から)
	3. 4区50・54号土坑全景(北西から)		7. 4区22号ピット全景(南西から)
	4. 4区51号土坑全景(北東から)		8. 4区29号ピット全景(北東から)
	5. 4区56号土坑、11・12号ピット全景(南東から)		9. 4区32号ピット全景(南から)
	6. 4区63号土坑全景(南から)		10. 4区35号ピット全景(北東から)
	7. 4区64号土坑全景(南西から)		11. 4区38号ピット全景(西から)
	8. 4区65号土坑全景(南西から)		12. 4区41号ピット全景(南東から)
PL.89	1. 4区79号土坑全景(南西から)		13. 4区46号ピット全景(南東から)
	2. 4区80・81・84号土坑全景(南西から)		14. 4区48号ピット全景(南東から)
	3. 4区88・89号土坑、30・31号ピット全景(南西から)		15. 4区49号ピット全景(南東から)
	4. 1区1号井戸全景(北東から)	PL.95	1. 1区1号溝全景(北西から)
	5. 2区1号井戸全景(北西から)		2. 1区1号溝全景(北から)
	6. 2区2号井戸全景(南西から)		3. 1区2号溝全景(南西から)
	7. 2区3号井戸全景(北から)		4. 1区2号溝全景(北東から)
	8. 2区4号井戸全景(南東から)		5. 1区3～7号溝全景(南西から)
PL.90	1. 3区1号井戸全景(北東から)		6. 1区3号溝全景(北東から)
	2. 3区2号井戸全景(南東から)	PL.96	1. 1区4～6号溝全景(北東から)
	3. 3区4号井戸全景(南西から)		2. 1区4・5号溝全景(北東から)
	4. 4区1号井戸全景(東から)		3. 1区6号溝全景(北東から)
	5. 4区3号井戸全景(東から)		4. 1区7号溝全景(北東から)
	6. 4区5号井戸全景(北から)		5. 1区7号溝全景(南西から)
	7. 4区6号井戸全景(東から)		6. 1区10号溝北東部全景(南西から)
	8. 4区7号井戸全景(南から)	PL.97	1. 1区8～10号溝全景(北東から)
PL.91	1. 4区8号井戸全景(北から)		2. 1区8～10号溝全景(南西から)
	2. 4区9号井戸全景(北西から)		3. 2区1号溝全景(南西から)
	3. 4区10号井戸全景(北から)		4. 2区2号溝全景(北東から)
	4. 4区12号井戸全景(南東から)		5. 2区3号溝全景(東から)
	5. 4区13号井戸全景(南東から)		6. 2区4号溝全景(北東から)
	6. 4区14号井戸全景(南東から)	PL.98	1. 2区6～14号溝全景(北から)
	7. 4区15号井戸全景(南東から)		2. 2区16号溝全景(西から)
	8. 4区16号井戸全景(北西から)		3. 2区17号溝全景(東から)
PL.92	1. 1区15・16号ピット全景(南西から)		4. 2区20～22号溝全景(南東から)
	2. 1区17号ピット全景(南西から)		5. 2区20～22号溝全景(北東から)
	3. 1区22号ピット全景(南から)		6. 2区21号溝南東部全景(南東から)
	4. 1区42号ピット全景(南西から)		7. 3区1～4号溝全景(北から)
	5. 1区54号ピット全景(南東から)		8. 3区5～7号溝全景(北東から)
	6. 2区40号ピット全景(南西から)	PL.99	1. 3区5～7号溝全景(西から)
	7. 2区41号ピット全景(西から)		2. 3区5号溝全景(東から)
	8. 2区45号ピット全景(北から)		3. 3区7号溝全景(東から)
	9. 2区46号ピット全景(南西から)		4. 4区1号溝全景(南西から)
	10. 2区47号ピット全景(南西から)		5. 4区2・3号溝全景(北東から)
	11. 2区93号ピット全景(北から)		6. 4区4・5号溝全景(北西から)
	12. 2区94号ピット全景(南西から)		7. 4区6～9号溝全景(北西から)

- PL.100 1. 4区10号溝全景(北西から)
2. 4区11号溝全景(北西から)
3. 4区12号溝全景(南西から)
4. 4区13・14号溝全景(南西から)
5. 4区15号溝全景(南西から)
6. 4区16～18号溝全景(東から)
7. 4区16～18号溝全景(南西から)
8. 4区19～21号溝全景(南東から)
- PL.101 1. 4区20・23・24号溝全景(南東から)
2. 4区23号溝全景(北東から)
3. 4区24号溝全景(北西から)
4. 4区27号溝全景(南東から)
5. 2区As-B下水田断面(北東から)
6. 2区1号サク状遺構全景(東から)
7. 2区1号サク状遺構全景(北から)
8. 4区1号畠全景(北東から)
- PL.102 1. 4区2号畠全景(南東から)
2. 4区3号畠全景(北西から)
3. 4区風倒木遺物出土状態(南から)
4. 4区風倒木遺物出土状態(西から)
5. 3区11号土坑全景(南西から)
6. 3区20号土坑全景(北東から)
7. 1区旧石器調査北西部全景(北西から)
8. 1区旧石器調査北西部全景(南東から)
- PL.103 1. 1区旧石器調査北西部全景(東から)
2. 1区旧石器調査北西部全景(北から)
3. 1区旧石器調査北西部遺物出土状態(北西から)
4. 1区旧石器調査北西部遺物出土状態(南東から)
5. 1区旧石器調査第1ブロック遺物出土状態(北から)
6. 1区旧石器調査第1ブロック遺物出土状態(北から)
7. 1区旧石器調査第2ブロック遺物出土状態(北から)
8. 1区旧石器調査北西部南壁土層断面(北から)
- PL.104 1. 1区第1ブロック縦長剥片(332)出土状態(北から)
2. 1区第2ブロックナイフ形石器(354)出土状態(東から)
3. 3区北西部旧石器調査坑全景(南東から)
4. 3区2号調査坑全景(南から)
5. 3区2号調査坑全景(南から)
6. 3区3号調査坑全景(南から)
7. 3区3号調査坑土層断面(南から)
8. 3区3号調査坑剥片(1)出土状態(北東から)
- PL.105 1. 4区南東部旧石器調査全景(北西から)
2. 4区南東部旧石器調査全景(北西から)
3. 4区2号調査坑遺物出土状態(南西から)
4. 4区2号調査坑遺物出土状態(西から)
5. 4区2号調査坑遺物出土状態(西から)
6. 4区2号調査坑土層断面(西から)
7. 4区4号調査坑土層断面(西から)
8. 4区6号調査坑拡張後全景(北から)
- PL.106 1. 4区6号調査坑拡張後全景(南から)
2. 4区6号調査坑拡張後遺物出土状態(南から)
3. 4区6号調査坑土層断面(南から)
4. 4区6号調査坑石核(11)出土状態(東から)
5. 4区11号調査坑剥片(1)出土状態(南西から)
6. 4区11号調査坑剥片(1)出土状態(南から)
7. 4区13号調査坑土層断面(北西から)
8. 4区13号調査坑碎片出土状態(西から)
- PL.107 1区1・7・2・3号竪穴住居出土遺物
- PL.108 1区3～6・8号竪穴住居出土遺物
- PL.109 1区9～13号竪穴住居出土遺物
- PL.110 1区14・18・15号竪穴住居出土遺物
- PL.111 1区15・17・16号竪穴住居出土遺物
- PL.112 1区19～21・23号竪穴住居出土遺物
- PL.113 1区24～28・31号竪穴住居出土遺物
- PL.114 1区29号・2区2・3号竪穴住居出土遺物
- PL.115 2区4・6号竪穴住居出土遺物
- PL.116 2区6・7号竪穴住居出土遺物
- PL.117 2区9・13・11・14号竪穴住居出土遺物
- PL.118 2区15・17・19・16・20号竪穴住居出土遺物
- PL.119 2区21・23号竪穴住居出土遺物
- PL.120 2区23・24号竪穴住居出土遺物
- PL.121 2区22・25・26号竪穴住居出土遺物
- PL.122 2区27～29・31号竪穴住居出土遺物
- PL.123 2区32号竪穴住居出土遺物
- PL.124 3区1・4号竪穴住居出土遺物
- PL.125 3区4号竪穴住居出土遺物
- PL.126 3区4・7～11A・B号竪穴住居出土遺物
- PL.127 3区12・14・15号竪穴住居出土遺物
- PL.128 3区16号・4区1・6・8・15・19・17号竪穴住居出土遺物
- PL.129 4区11・13・16号竪穴住居・2号竪穴状遺構出土遺物
- PL.130 掘立柱建物・土坑出土遺物
- PL.131 土坑・井戸・ピット・溝出土遺物
- PL.132 溝・畠出土遺物
- PL.133 遺構外・4区風倒木・縄文時代土坑出土遺物
- PL.134 縄文時代の遺構外出土遺物・旧石器時代出土遺物
- PL.135 旧石器時代出土遺物
- PL.136 旧石器時代出土遺物
- PL.137 石神遺跡出土炭化植物遺体の走査型電子顕微鏡写真
- PL.138 石神遺跡から出土した灰の母植物

第1章 調査に至る経緯、調査の経過・方法

第1節 発掘調査に至る経緯

1. 事業実施に至る経緯

石神遺跡の調査は、国道122号八重笠道路の建設事業に伴い実施されたものである。

本事業は、『はばたけ群馬・県土整備プラン2008—2017』および『はばたけ群馬・県土整備プラン2013—2022』で示された「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」のうち東毛軸に属す。「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」とは、県内各地域の自立促進と活性化を支援し、持続的にはばたける地域づくりを図るために、高速交通網の効果を県内すべての地域や産業の発展に活かせるよう高速交通網を補完する7つの交通軸の整備・強化を推進

するものであり、その一つである東毛軸は、東毛広域幹線道路・国道50号前橋笠懸道路・国道122号八重笠道路・JR両毛線・上毛電鉄・東武鉄道等で構成される。

国道122号八重笠道路は、北関東自動車道太田桐生インターチェンジと国道354号大泉邑楽バイパスを連結する道路として、北関東自動車道・東北自動車道へのアクセス機能の向上、北関東自動車道沿線の地域との交流の活発化、産業経済の活性化が期待される。あわせて東毛地域の物流の向上、生活圏の拡大と東毛地域と県央地域との相互交通の活性化が見込まれるものである。なお、本報告書刊行に先立つ平成26年(2014)4月11日に国道122号バイパス(八重笠道路)は開通し、前記の目的を達成した。



第1図 遺跡位置図(国土地理院20万分の1地勢図「宇都宮」(平成23年6月1日)使用)

2. 発掘調査に至る経緯

本調査は、平成23(2011)年度における群馬県太田土木事務所と群馬県教育委員会文化財保護課との協議を踏まえ、文化財保護課による試掘調査と調整を経て実施が決定され、太田土木事務所の委託を受けて公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が調査に当たることが決せられた。試掘調査の詳細は第2節に記す。なお、国道122号に関連しては、本事業以前に本遺跡以北で昭和50(1975)年10月～昭和53(1978)年4月に小町田遺跡、昭和52(1977)年12月に賀茂遺跡、昭和53年7月～12月に庚塚遺跡、昭和53年10～11月に下小林上遺跡(上遺跡)、昭和53年12月に雷遺跡、昭和54(1979)年1月～10月に小町田遺跡、昭和54年11月～昭和55(1980)年3月に賀茂遺跡の調査が行われている。また、北関東自動車道太田桐生インターチェンジとの関連で平成16(2004)年7月～平成17(2005)年5月に向矢部遺跡、平成15(2003)年4月～平成16年3月に東今泉鹿島遺跡の調査も行われている。これらの遺跡については、昭和55年3月に庚塚・上・雷遺跡、昭和59(1984)年10月に賀茂遺跡、昭和59年12月に小町田遺跡、平成19(2007)年3月に東今泉鹿島遺跡、平成19年11月に向矢部遺跡の発掘調査報告書を当事業団が刊行している。

第2節 試掘調査

本遺跡は太田市の遺跡番号T0084で登録される周知の遺跡であることから、本事業における調査範囲の確定のための試掘調査が、群馬県教育委員会文化財保護課によって、平成24(2012)年2月21・22日に1・2・3-1区に対して、同年9月25・26日に3-2区(整理時に3-2区、3-3区と分割)と4区を対象に実施されている。これらの試掘調査は幅1mのトレンチ掘削によって行われたが、トレンチは2月21・22日の試掘調査では10箇所、9月25・26日の試掘調査では6箇所が設定され、土層観察と遺構確認を行った。

試掘調査の結果、2月21・22日実施の調査対象地区では、いずれのトレンチでも、表土下15～67cmの地点で黄褐色ローム層が確認され、その上面で竪穴住居、溝、土坑等とこれらに伴う出土遺物が確認された。また9月

25・26日の調査では北西寄りの4区の1～3号トレンチでは地表下23～58cm、3-2区では地表下120cmの地点で黄褐色ローム層が確認され、このうち1・3号トレンチで竪穴住居と土坑を、6号トレンチでは竪穴住居を確認した。また4・5号トレンチは暗褐色・黒色粘土等が堆積する低地と認識されたが、遺構は確認されなかった。

こうした試掘調査成果に基づいて群馬県教育委員会文化財保護課は、9月25・26日調査のトレンチ4・5の調査範囲(4区南東方)を除く本遺跡の事業区域内で、本調査が必要と判定している。

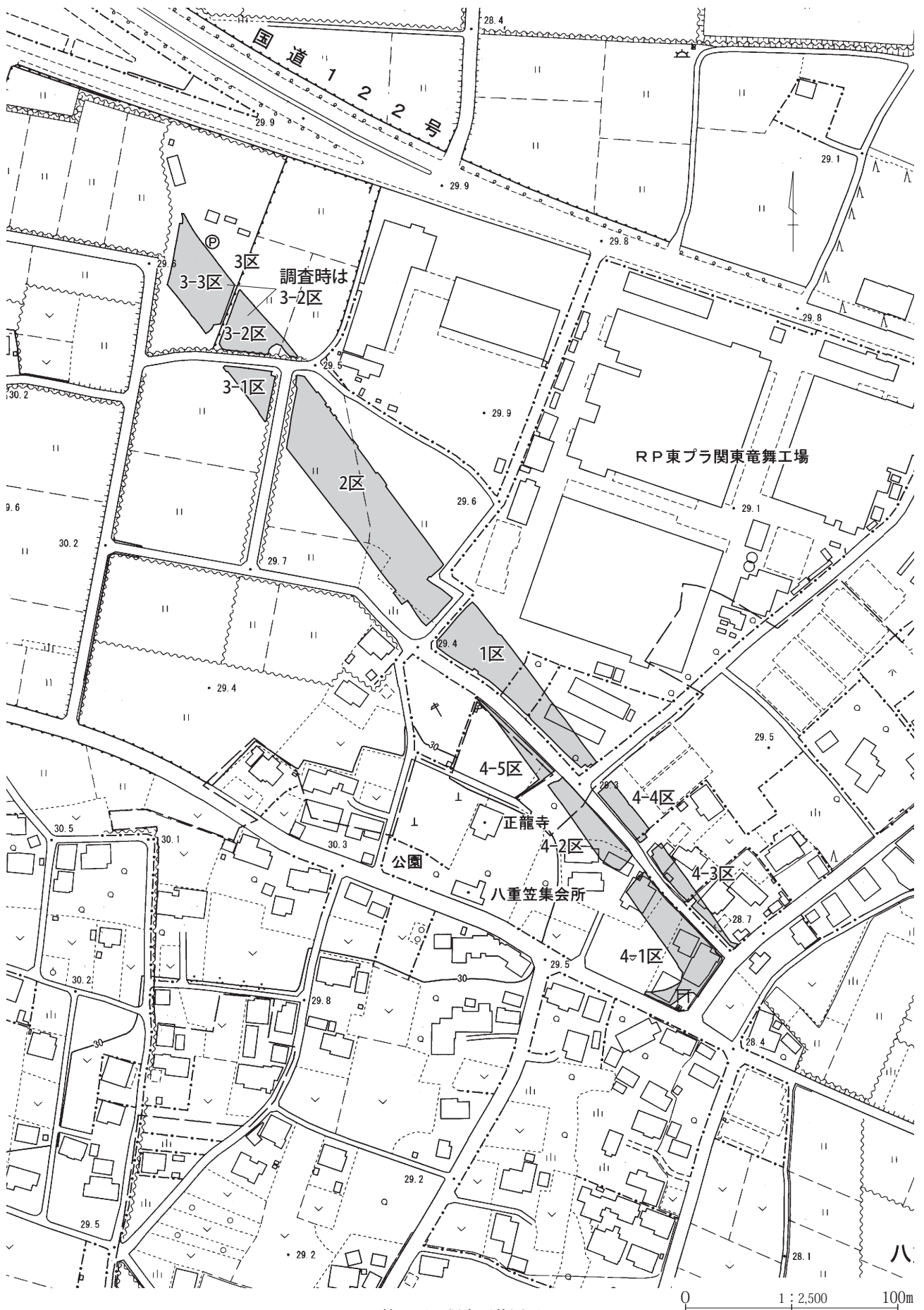
第3節 発掘調査の経過

発掘調査は、平成24年度は7月から3月にかけての9ヶ月間で10,203㎡、翌平成25年度は6月の1ヶ月間で245㎡、合計10,448㎡を対象として実施した。

【平成24年度】

平成24年度の調査は、7月1日から3月31日までの9ヶ月間、実施した。調査区は工事優先区間のRP東プラ株式会社南側の龍舞町497-1他を1区、その西隣の龍舞町508-1他の水田を2区と設定した。その後、用地買収の完了した地区に文化財保護課により試掘調査が行われ、遺構が確認された地区は調査対象地とし、2区西側の龍舞町465の水田を3-1区、龍舞町471・477-2・516-1の水田・雑種地を3-2区(整理時に3-2区、3-3区と分割)、1区東側の八重笠町451-2他の山林・宅地を4区(整理時に1～5に細分)と設定した(第2図参照)。

調査は1区から着手し、7月5日から重機による表土除去を行い、ローム層上面で奈良平安時代～中近世の遺構面(第1面)を確認し、調査を行った。第1面の調査終了後、旧石器調査を行い、11月9日に埋め戻しが終了した。2区は1区と並行して8月22日に着手し、1区と同様に、奈良平安時代～中近世の遺構面(第1面)を確認し、調査を行った。第1面の調査終了後、旧石器調査を行い、2月4日に埋め戻しが終了した。3区は1区埋戻しを開始した11月7日に着手し、ローム層上面で縄文時代～中近世の遺構面(第1面)を確認し、調査を行った。第1面の調査終了後、旧石器調査を行った。4区は2・3区と並行して12月13日に着手し、ローム層上面で古墳時代～



第2図 調査区位置図

(この地図の作成にあたっては、太田市長の承認を得て、同市発行の2,500分の1地形図(平成23年測図)を使用し複製した)

第1章 調査に至る経緯、調査の経過・方法

中近世の遺構面(第1面)を確認し、調査を行った。第1面の調査終了後、旧石器調査を行った。3・4区は3月28日に埋戻しが終了した。

【平成25年度】

平成25年度の調査は、6月1日から6月30日までの1ヶ月間、4区の一部(4-5区)について実施した。6月3日から重機による表土除去を行い、ローム層上面で奈良平安時代～中近世の遺構面(第1面)を確認し、調査を行った。第1面の調査終了後、旧石器調査を行い、6月27日に埋め戻しが終了した。

詳細は以下、日誌抄に記す。

【調査日誌抄】

平成24年度

7月2日(月)～4日(水) 調査準備。
7月5日(木) 1区、表土除去開始。
7月9日(月) 1区、表土除去終了。
7月10日(火) 1区、第1面(縄文時代～中近世面)調査開始。
8月22日(水) 2区、表土除去開始。
8月24日(金) 2区、表土除去一部終了。
8月28日(火) 八重笠地区生涯学習遺跡見学会。
9月4日(火) 2区、第1面調査開始。
9月7日(金) 1区、第1面空中写真撮影。
9月13日(木) 1区、旧石器調査開始。
9月24日(月) 1区、旧石器調査(拡張)開始。2区、表土除去再開。
9月27日(木) 2区、表土除去終了。
11月7日(水) 1区、埋戻し開始。3-1区、表土除去開始。
11月9日(金) 1区、埋戻し終了。3-1区、表土除去終了。
11月21日(水) 2区、第1面空中写真撮影。3-1区、第1面調査開始。
12月11日(火) 2区、旧石器調査開始。
12月12日(水) 3-1区、第1面全景写真撮影。
12月13日(木) 4区南側、表土除去開始。
12月21日(金) 3-1区、旧石器調査開始。4区南側、表土除去終了。
12月25日(月) 4区南側、第1面調査開始。
1月21日(月) 2区・3-1区、埋戻し開始。3-2・3区・4区北東側、表土除去開始。
2月4日(月) 2区、埋戻し終了。3-2・3区・4区北東側、表土除去終了。
2月15日(金) 4区北西側、表土除去開始。
2月18日(月) 4区北西側、表土除去終了。
2月22日(金) 3-2・3区、第1面空中写真撮影。4区、旧石器調査開始。
2月27日(水) 4区北側、第1面全景写真撮影。
3月4日(月) 4区、旧石器調査(拡張)開始。
3月11日(月) 3-2・3区、旧石器調査開始。
3月14日(木) 3-2・3区、旧石器調査(拡張)開始。
3月25日(月) 3-2・3区・4区、埋戻し開始。

3月29日(金) 3-2・3区・4区、埋戻し終了。

平成25年度

6月3日(月) 表土除去開始。
6月4日(火) 表土除去終了、第1面調査開始。
6月20日(木) 第1面全景写真撮影。
6月21日(金) 旧石器調査開始。
6月26日(水) 埋戻し開始。
6月27日(木) 埋戻し終了。
6月28日(金) 調査終了。

第4節 調査の方法

発掘調査に用いた座標・グリッドは世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)を用い、10m×10mを基本として設定した。遺構図中の座標については、座標値の下3桁を「X軸-Y軸」の順で記し、「X=30600、Y=-36550」の場合、「600-550」のように表記した。

調査の方法はごく標準的な方法を用いた。その概略は以下の通りである。

表土除去は基本的に重機(バックホー等)を用いて行った。表土除去後、平面精査を行い、遺構確認を行った。確認された遺構は、埋没土層確認用ベルトを任意に設定した後、発掘作業員が移植鍬等で掘削し、測量・写真等で記録した。遺構番号は、通し番号とせず、調査区ごとに付した。埋め戻しは重機(バックホー等)を用いて行った。

遺構図は断面図・平面図とも縮尺1/20を基本とし、遺構の状況に応じて縮尺1/10・1/40とした。

遺構写真は、調査担当者が撮影した。デジタルカメラを中心として、一部ブローニー版モノクロフィルムを6×7cm判サイズで撮影した。遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、全景等を撮影し、さらに必要に応じて接写を行った。また、調査区全景については、空中写真撮影を測量会社に委託した。

第5節 整理作業の経過

【平成25年度】

平成25年度の整理作業は、4月1日から3月31日までの12ヶ月間、太田土木事務所の委託を受けて公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれに当たることとなった。作業は平成24年度調査分から着手し、4～1月

が1班体制、2～3月が2班体制で行い、25年度調査分は調査終了後の7月以降に順次、作業に取り込んだ。

遺構図は、点検・修正・編集を行い、掲載図をデジタルデータとして作成した。遺物は、接合・復元・写真撮影を行った。遺構写真は、デジタル写真から編集を行った。並行して土層注記・各種図表を作成し、本文原稿等を執筆した。

【平成26年度】

平成26年度の整理作業は、4月1日から3月31日までの12ヶ月間、前年度に引き続き太田土木事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれに当たることとなった。

作業は平成25年度からの継続となる。遺構図は点検・

修正が終了したものから掲載図を選び、デジタルトレースを行ってデジタルデータとして作成した。遺物は実測作業を継続し、終了したものからトレースを行い、スキャニングしてやはりデジタルデータとした。それらと並行して土層注記、各種図表などを整理・作成、本文原稿・遺物観察表などを執筆・入力し、それらをあわせてレイアウトした後に、それに基づいてデジタル編集を行い、本報告書を作成した。

なお、整理作業において遺構名の変更の必要が生じたものがある。それは下に掲げた第1表の通りであるが、遺構名の変更に伴う遺物注記の書き換えは特に実施しなかった。

第1表 遺構名称の改訂

1区		2区		2区(続き)	
調査時の名称	改訂した名称	調査時の名称	改訂した名称	調査時の名称	改訂した名称
5号土坑	52号ピット	8号竪穴住居	7号竪穴住居と合併	9号ピット	4号掘立柱建物P 2
10号土坑	欠番	18号竪穴住居	16号竪穴住居と合併	11号ピット	4号掘立柱建物P 1
23号土坑	53号ピット	33号竪穴住居	欠番	13号ピット	4号掘立柱建物P 3
31号土坑	54号ピット	7号掘立柱建物	4号柱穴列	17号ピット	3号掘立柱建物P 6
36号土坑	欠番	9号掘立柱建物	5号柱穴列	19号ピット	3号掘立柱建物P 7
44号土坑	欠番	7号土坑	欠番	20号ピット	3号掘立柱建物P 8
52号土坑	欠番	8号土坑	欠番	23号ピット	欠番
53号土坑	1号掘立柱建物P 3	10号土坑	欠番	28号ピット	欠番
54号土坑	1号掘立柱建物P 8	11号土坑	欠番	30号ピット	3号掘立柱建物P 5
55号土坑	欠番	14号土坑	4号掘立柱建物P 4	31号ピット	欠番
58・59号土坑	1号掘立柱建物P 7	15号土坑	2号掘立柱建物P 4	32号ピット	欠番
61号土坑	1号掘立柱建物P 6	21号土坑	欠番	33号ピット	欠番
63号土坑	3号掘立柱建物P 2	22号土坑	欠番	34号ピット	欠番
66号土坑	欠番	23号土坑	欠番	35号ピット	欠番
67号土坑	欠番	24号土坑	欠番	36号ピット	欠番
68号土坑	欠番	25号土坑	欠番	37号ピット	欠番
70号土坑	欠番	29号土坑	欠番	38号ピット	欠番
71号土坑	欠番	30号土坑	欠番	39号ピット	欠番
80号土坑	欠番	35号土坑	110号ピット	53号ピット	5号柱穴列P 3
81号土坑	欠番	36号土坑	欠番	57号ピット	欠番
83号土坑	欠番	37号土坑	4号柱穴列P 2	64号ピット	5号柱穴列P 2
84号土坑	1号掘立柱建物P 5	59号土坑	欠番	65号ピット	5号柱穴列P 1
86号土坑	欠番	60号土坑	欠番	67号ピット	欠番
88号土坑	1号掘立柱建物P 4	70号土坑	欠番	73号ピット	欠番
89号土坑	欠番	75号土坑	欠番	3区	
97号土坑	欠番	80号土坑	欠番	調査時の名称	改訂した名称
107号土坑	欠番	81号土坑	欠番	12号土坑	欠番
7号ピット	欠番	82号土坑	欠番	4区	
9号ピット	2号掘立柱建物P 4	83号土坑	欠番	調査時の名称	改訂した名称
10号ピット	欠番	89号土坑	欠番	1号竪穴状遺構	110号土坑
26号ピット	欠番	90号土坑	欠番	21号土坑	欠番
27号ピット	欠番	99号土坑	欠番	61号土坑	欠番
28号ピット	欠番	100号土坑	欠番	94号土坑	欠番
29号ピット	欠番	108号土坑	欠番	96号土坑	欠番
30号ピット	欠番	111号土坑	欠番	97号土坑	欠番
32号ピット	1号掘立柱建物P 9	117号土坑	欠番	98号土坑	欠番
34号ピット	1号掘立柱建物P 10	126号土坑	欠番	100号土坑	欠番
35号ピット	1号掘立柱建物P 11	127号土坑	欠番	101号土坑	欠番
43号ピット	1号掘立柱建物P 10	128号土坑	欠番	104号土坑	欠番
49号ピット	欠番	130号土坑	欠番	25号溝	欠番
4号掘立柱建物	欠番	1号ピット	欠番	26号溝	24号溝と合併
1号柵列	2号掘立柱建物	2号ピット	欠番		
2号柵列	欠番	3号ピット	欠番		
3号柵列	欠番	4号ピット	4号掘立柱建物P 5		

第2章 周辺の環境

第1節 地理的環境

1. 地理的現況

石神遺跡は太田市の東端、県立大泉高等学校の北東約0.5km、東武鉄道小泉線東小泉駅の北約1km、太田市龍舞町・八重笠町に所在し、邑楽郡邑楽町・大泉町に近接する。現在の太田市は、平成の大合併で平成17(2005)年3月に旧太田市と旧新田郡尾島町・新田町・藪塚本町の3町が合併して成立した。

太田市は東毛地域最大の市であり、地域の産業・交通等において重要な位置を果たしている。とくに、工業においては輸送機器産業を中心として、大規模工業団地の造成による企業誘致により、北関東屈指の製造品出荷額を誇る。そのため、産業人口構成において群馬県平均に比べ第二次産業人口の比率が高く、第一次産業・第三次産業人口の比率が低い(『平成25年度群馬県市町村要覧』より)。

地域の交通網に着目すると、鉄道では、太田市東本町の太田駅から、北東方向に東武鉄道伊勢崎線(上り)・南東方向に小泉線・南西方向に伊勢崎線(下り)・北西方向に桐生線と4路線が伸びており、市内には太田駅のほか、葦川(伊勢崎線(太田駅より上り方面))・細谷・木崎・世良田(以上伊勢崎線(太田駅より下り方面))・竜舞(小泉線)・三枚橋・治良門橋・藪塚(以上桐生線)の各駅が設置されている。太田市街地は、太田駅の周辺と南側に発展している。道路では、国道17号バイパス(上武道路)が南西部(旧新田郡尾島町)を走り、安養寺交差点で国道354号と交差している。国道50号は北東部を横断し、只上交差点で南東方向に国道122号と分岐、国道122号は安良岡北交差点で国道407号と交差する。国道354号は南部(旧新田郡尾島町、旧太田市南部)を横断し、高林交差点で国道407号と交差する。国道354号バイパス(東毛広域幹線道)はその北側をほぼ並行する。国道407号は市街地を南北に縦断し、東本町交差点以北は国道50号・122号へと向かう。高速道路では、北関東自動車道が北部(旧

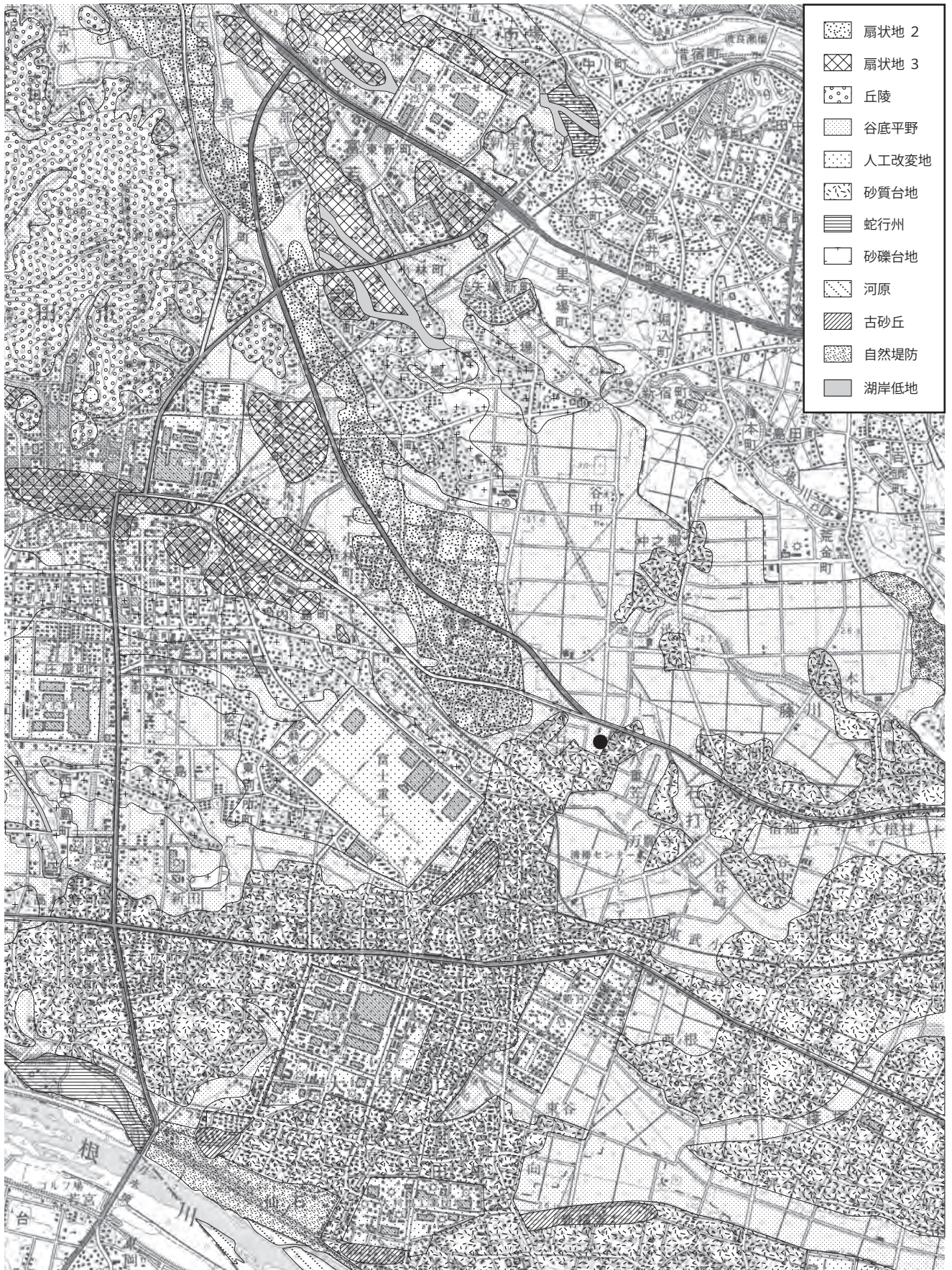
新田郡藪塚本町、旧太田市北部)を走り、太田市大原町(旧新田郡藪塚本町)に太田藪塚インターチェンジ、太田市東今泉町に太田桐生インターチェンジが設置されている。以上、鉄道・道路とも多くの路線が走り、利便性が高い。

2. 地形的環境

太田市近辺の地形を概観すると、もっとも顕著な地形は金山丘陵と、金山丘陵の北西にごく低い鞍部を境に続く太田・桐生市境の八王子丘陵である。この金山丘陵・八王子丘陵の西側には大間々扇状地が形成されている。

大間々扇状地は、渡良瀬川が更新世に形成した関東有数の大形扇状地で、谷口のみどり市大間々町(旧山田郡大間々町)から南方に発達し、太田市北西部から伊勢崎市東部へ至る標高50～60mを扇端とする、南北約18km、扇端幅約13kmの扇形の範囲に発達する。大間々扇状地は、形成時期を異にする5つの地形面で構成される合成扇状地であり、中でも西半分を占める桐原面と、ほぼ東半分を占める藪塚面が最も広く主体をなしている。藪塚面は、みどり市笠懸町(旧新田郡笠懸町)・太田市藪塚町(旧新田郡藪塚本町)を扇央とし、太田市北西部から伊勢崎市東部(旧佐波郡境町北部)にいたる標高60m付近を扇端とする。扇状地面は桐原面のように谷が発達しておらず、扇形の整った等高線配列を示す。大間々扇状地の南方にはほぼ群馬・埼玉県境に沿って利根川が流れており、大間々扇状地扇端と利根川の間には台地が分布している。

これに対し本遺跡の位置する金山丘陵の東側には、ほぼ群馬・栃木県境に沿って矢場川とその北東に渡良瀬川が流れ、丘陵との間に渡良瀬川扇状地が形成されている。渡良瀬川扇状地は、桐生市相生町付近を扇頂に、金山丘陵・八王子丘陵と足尾山地に挟まれるかたちで、太田市下小林町付近から栃木県足利市御厨町付近を扇端としている。扇状地は形成期の異なる4つの扇状地面で形成されており、太田市台之郷町付近に断片的に分布する岩宿面と、丘陵側から渡良瀬川方向へ扇状地Ⅰ面・扇状地Ⅱ



第3図 周辺地形分類図

(地形分類は群馬県農政土地改良課『土地分類基本調査・深谷』(1992)による。国土地理院5万分の1地形図「深谷」(平成10年9月1日)使用)

面・扇状地Ⅲ面となっている。扇状地Ⅲ面が最も広く、扇状地Ⅰ面・扇状地Ⅱ面は岩宿面ほどではないが断片的である。各扇状地面は南北に長く分布し、東西幅が狭い。また、扇状地面上には、旧河道地形や後背低地Ⅰ面・後背低地Ⅱ面などの沖積低地が発達しており、大間々扇状地に比べ複雑な形態を示している。

3. 本遺跡周辺の環境

本遺跡周辺を概観すると、本遺跡は渡良瀬川扇状地の後背低地Ⅰ面(谷底平野)上の低台地に位置する。前記のように太田市の東端であり、北西に金山丘陵、西に大間々扇状地、南に邑楽台地が存在し、北から東に矢場川・渡良瀬川が流れ、西が太田市街地である。

本遺跡の立地する低台地の東側は、渡良瀬川扇状地の後背低地Ⅰ面であり、太田市茂木町から龍舞町・八重笠町にかけて韮川流域に広がる沖積低地の沖之郷低地である。沖之郷低地は、周辺の台地縁辺との比高差が約3m、八重笠沼を中心に渡良瀬川扇状地では最も低い沖積低地であり、主に水田として利用されている。最も標高の低い八重笠沼周辺は、圃場整備以前は重機が沈み込むほどであったと地元で語り継がれている。これに対し、低台地の北西側は、渡良瀬川扇状地Ⅲ面の南西端部であり、東武鉄道小泉線竜舞駅を中心として太田市龍舞町の集落となっている。低台地の南側は邑楽台地であり、前記の大泉高等学校や東武鉄道東小泉駅の所在する邑楽郡大泉町北小泉の集落となっている。

参考文献

大泉町誌編集委員会 1983a『大泉町誌』上
大泉町誌編集委員会 1983b『大泉町誌』下
太田市 1996a『太田市史』通史編・原始古代
太田市 1996b『太田市史』通史編・自然
群馬県総務部市町村課 2013『平成25年度群馬県市町村要覧』
群馬県農政課 1992『土地分類基本調査』深谷
群馬県農政課 1997『土地分類基本調査』桐生及足利

第2節 歴史的環境

1. 旧石器時代

本遺跡南側の邑楽台地には、数カ所の旧石器時代遺跡が分布する。本遺跡周辺でも間之原遺跡(3)、大泉町間之原遺跡(5)から有舌尖頭器・剥片など、御正作遺跡(10)

から槍先形尖頭器・彫器・剥片などが出土している。

本遺跡からは距離的にやや離れるが、北関東自動車道関連事業で調査された金山丘陵北東の矢部遺跡、峯山遺跡、八ヶ入遺跡(いずれも第4図範囲外)などで遺物が出土している。中でも、八ヶ入遺跡においてAs-YP層下から湧別技法による細石刃を中心に1,665点の石器・礫等が出土したことが特筆される。

2. 縄文時代

本遺跡周辺の縄文時代の遺跡としては、まず間之原遺跡(3)、大泉町間之原遺跡(5)があげられる。間之原遺跡(3)、大泉町間之原遺跡(5)は間之原東遺跡(4)と一体をなすと考えられる遺跡であり、草創期から晩期の遺物が出土し、前期から後期にかけての集落が確認されており、また、「佐藤救衛コレクション」など収集家による遺物コレクションでも知られる。その他、御正作遺跡(10)から草創期～中期、小町田遺跡(35)から草創期および中期～後期、賀茂遺跡(49)から前期の遺構・遺物などが確認されているが、縄文時代の遺跡は本遺跡の西～南側に偏在しており、東側の沖之郷低地には少ない。

本遺跡からは距離的にやや離れるが、金山丘陵東の下宿遺跡(第4図範囲外)では草創期爪形文土器とそれに伴う土坑が確認されている。また、北関東自動車道関連事業の調査においても、西長岡宿遺跡、峯山遺跡、大道東遺跡、楽前遺跡、東今泉鹿島遺跡(いずれも第4図範囲外)などで縄文時代の遺構・遺物が確認された。中でも、西長岡宿遺跡と峯山遺跡から早期の遺構・遺物がまとまって確認されたことが特筆される。

本遺跡においては前期の土坑が確認された。

3. 弥生時代

本遺跡周辺において、弥生時代の遺構が確認された遺跡はない。遺物については、間之原遺跡(3)、下小林上遺跡(62)などから後期の土器片が出土している。

本遺跡周辺においては、弥生時代全時期を通じて遺跡の分布がきわめて希薄であると言える。

4. 古墳時代

古墳時代に入ると、遺跡数は急増する。龍舞深町遺跡(2)から前期の集落、清水田遺跡(60)から前期～後期の

集落、賀茂遺跡(49)から中期～後期の集落など数多くの集落遺跡が確認されており、本遺跡からも竪穴住居が確認され、集落の存在が想定される。

古墳について見ると、前期には本遺跡の北北東約3kmに主軸全長117mの前方後方墳である藤本観音山古墳(68)、中期には本遺跡の北西約3kmに主軸全長210mの前方後円墳である太田天神山古墳(第4図範囲外)と主軸全長106mの帆立貝形古墳の女体山古墳(第4図範囲外)、後期には本遺跡の北約1kmに塚廻り古墳群(51)、本遺跡の東約1.5kmに松本古墳群(28)などが築かれている。中でも、太田天神山古墳は周囲に二重の周堀が巡らされ、前方部と後円部との間の鞍部には、盗掘により破壊された主体部に用いられたと考えられる組合式長持形石棺の部材が露出しており、墳丘上からは家・盾・水鳥などの形象埴輪や円筒埴輪が確認されている。組合式長持形石棺は、畿内地域と山陽道・山陰道地域に集中しており、東日本において畿内地域の組合式長持形石棺の典型を踏襲するものは太田天神山古墳の他、本遺跡の西北西約23.8kmに所在する主軸全長約125mの前方後円墳であるお富士山古墳(第4図範囲外)のみである。本遺跡に最も近い塚廻り古墳群(51)の4号古墳は、完掘された主軸全長25mの帆立貝形古墳であり、竪穴式の主体部に箱式石棺2基が埋置され、墳丘周辺からは250本以上の埴輪が確認された。また、古墳そのものは現存しないが、下小林車塚古墳(63)出土の大刀・短甲・馬具などが東京国立博物館に収蔵されている。

後期には亀山窯跡(第4図範囲外)など金山東麓から北東麓にかけて須恵器生産が始まる。

5. 奈良・平安時代

律令制下において、群馬県域はほぼ上毛野国(和銅6(713)年までに上野国と改称)にあたり、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれ(当初は13郡、和銅4(711)年に多胡郡設置で14郡)、そのうち新田郡の項目には「新田・滓野・石西・淡甘・祝人・駅家」の6郷、山田郡の項目には「山田・大野・園田・真張」の4郷、邑楽郡の項目には「池田・疋太・八田・長良」の4郷が確認できる。『太田市史』によると、太田市域は金山丘陵を境に西側は新田郡、東側は山田郡に属し、南東部は

一部邑楽郡に属した可能性があるという。金山丘陵南東の本遺跡周辺は山田郡と推定されるが、郡境に位置することから、一部が邑楽郡に含まれていた可能性もある。

本遺跡周辺は奈良時代に一時的に遺跡数が減少するが、平安時代に再び増加する。賀茂遺跡(49)で奈良時代、間之原遺跡(3)、小町田遺跡(35)、川向・中西田遺跡(42)、清水田遺跡(60)などで平安時代の集落が確認されているほか、本遺跡においても100軒近い竪穴住居が確認されている。『太田市史』によるとこれらの集落の急増は、この地域で大規模な開発が行われたことを示唆するという。また、清水田遺跡(60)からは「神殿」「伴」墨書土器や石帯が、川向・中西田遺跡(42)からは、「役」墨書土器や「園田」刻印瓦が出土している。この「園田」刻印瓦は上野国分寺造宮にあたり山田郡園田郷から貢納されたものと同范型によるものであり、このことから川向・中西田遺跡は、一般集落とは異なった性格の遺跡ではないかとも考えられる。また、川入遺跡(第4図範囲外)付近は邑楽郡衙推定地であり(新田郡衙移転地の可能性もある)、周辺には東山道武蔵道の存在が想定される。沖之郷町の確神社は、境内出土の礎石が臼状であったことがその名の由来であるが、同地から布目瓦が採取されたこともあり、『太田市史』では寺院跡の可能性も指摘している。

古墳時代後期に始まった須恵器生産は、この時代には金山南東麓から東麓、北東麓から西麓にかけての金山側と、八王子丘陵南東麓地域へと広がりを見せる。また、菅ノ沢Ⅰ遺跡(第4図範囲外)などでは製鉄炉も確認されている。

6. 中近世

天仁元(1108)年のAs-B降下後に上野国内では荘園開発への動きが活発になる。金山丘陵西の新田郡域を中心に新田氏による新田荘の開発が進み、主な遺跡は現在、国史跡新田荘遺跡に指定されている。本遺跡周辺は、龍舞の地名の由来となったと言われる寮米(料米)保がおかれ、北には園田氏の園田御厨、南には佐貫氏の佐貫荘が存在した。園田御厨は久寿元(1156)年に伊勢内宮禰宜荒木田成長により立荘され、新田荘は保元2(1157)年に新田義重が私領を花山院忠雅に寄進し成立したことが明らかであるが、寮米保についてはその規模や立荘年代は不



第4図 周辺遺跡分布図
 (国土地理院2万5千分の1地形図「足利南部」(平成22年12月1日)「妻沼」(平成15年6月1日)使用)

第2表 周辺遺跡一覧(1)

No.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
1	石神遺跡	○	○		○	○	○		散布地、集落、その他	本報告書
2	龍舞深町遺跡		○		○	○	○		集落	太田市教育委員会1989『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
3	間之原遺跡	○	○	○	○	○	○		集落、古墳、墓その他	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1980『大塚・間之原遺跡確認調査の概報(川向・中西田地区)-第1次調査』、1981『大塚・間之原遺跡確認調査の概報-第2次調査(白金・榎戸・大塚・高原地区)』、1983『大塚・間之原遺跡川向・中西田地区(第2次)』、1985『市内遺跡』Ⅱ、1987同Ⅲ、1988同Ⅳ、1990同Ⅴ、1992同Ⅵ、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『間之原遺跡・間之原東遺跡』、金子浩昌・宮田毅1984『太田市中心遺跡第49号土壌について』『考古学ジャーナル』250、島田孝雄1988『太田市中心遺跡出土の網目様燃糸土器について(一)』『利根川』9
4	間之原東遺跡		○		○	○	○		散布地、集落	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『間之原遺跡・間之原東遺跡』
5	大泉町間之原遺跡	○	○	○	○	○			散布地、集落、城館、古墳	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下、大泉町教育委員会1988『大泉町間之原遺跡』、2004『大泉町間之原Ⅱ遺跡』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ』
6	小泉城跡						○		城館	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、群馬県1990『群馬県史』通史編3・中世、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
7	柳町遺跡		○						散布地	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下
8	松下遺跡			○					散布地	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下
9	坂田遺跡		○		○	○			散布地、集落	大泉町教育委員会2005『坂田遺跡』、2008『寄木戸毘沙門遺跡・坂田遺跡Ⅱ』
10	横町遺跡					○			散布地、集落	大泉町教育委員会2005『横町Ⅰ遺跡』、2005『横町Ⅱ遺跡』
11	御正作遺跡	○	○		○	○			散布地、集落、墓その他	大泉町教育委員会1981『御正作遺跡発掘調査概報』、1984『御正作遺跡』、大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下
12	横根宿遺跡		○		○				散布地、集落、古墳	
13	寿崎遺跡					○			散布地、集落	
14	細谷遺跡				○				散布地、集落、古墳	
15	万願寺遺跡				○	○			散布地、社寺	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下
16	西ノ根遺跡		○		○				散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
17	篠塚南遺跡				○	○			散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
18	篠塚城跡						○		散布地	山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
19	馬場遺跡		○						散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
20	馬場北遺跡				○				散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
21	鶉岡南遺跡				○				散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
22	寺中小泉線北遺跡				○				散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
23	鶉岡遺跡				○				散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
24	住谷崎遺跡				○				散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
25	山の神遺跡				○				散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
26	光明寺前遺跡				○				散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
27	諏訪神社東遺跡		○		○	○			散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
28	松本古墳群					○			古墳	邑楽町教育委員会1987『松本古墳群内住居址遺跡発掘調査報告書』、1989『松本23号古墳発掘調査報告書』、群馬県1938『上毛古墳総覧』
29	石打城跡						○		城館	邑楽町教育委員会1977『中世の邑楽町』、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
30	沼遺跡				○				散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
31	三反田遺跡		○						散布地	邑楽町教育委員会1989『邑楽町の遺跡』
32	藤川堰遺跡					○			生産遺跡	邑楽町教育委員会1996『藤川堰遺跡』
33	渋沼東遺跡					○			散布地	邑楽町教育委員会1999『町内遺跡』Ⅰ
34	樋ノ上遺跡				○				散布地	
35	小町田遺跡		○		○	○			集落	太田市1996『太田市史』、群馬県1988『群馬県史』資料編1・原始古代、1990同通史編1・原始古代、群馬県教育委員会1978『小町田遺跡』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『小町田遺跡』、1985『太田東部遺構群』

第2章 周辺の環境

第3表 周辺遺跡一覧(2)

No.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
36	竜舞落打遺跡				○	○			集落	太田市教育委員会2003『竜舞落打遺跡』
37	神明遺跡				○	○			集落	太田市教育委員会1993『埋蔵文化財発掘調査年報』3、1996『市内遺跡』XII、1997同XIII
38	御霊遺跡		○		○				集落	
39	大塚遺跡				○	○			散布地、集落	太田市教育委員会1980『大塚・間之原遺跡確認調査の概報(川向・中西田地区)-第1次調査』、1981『大塚・間之原遺跡確認調査の概報-第2次調査(白金・榎戸・大塚・高原地区)』、1983『大塚・間之原遺跡川向・中西田地区(第2次)』
40	北原遺跡				○				集落	太田市教育委員会1995『埋蔵文化財発掘調査年報』5
41	房塚遺跡				○				散布地	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代
42	川向・中西田遺跡				○	○			集落、墓その他	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1980『大塚・間之原遺跡確認調査の概報(川向・中西田地区)-第1次調査』、1983『大塚・間之原遺跡川向・中西田地区(第2次)』1988『市内遺跡』IV、1989同V、1991同VII、2014『太田市内遺跡』9
43	庚塚古墳					○			古墳	太田市教育委員会1987『萱野遺跡・庚塚古墳群発掘調査報告』
44	浄光寺環濠(浄光寺墓石)						○		城館、墓その他	太田市1997『太田市史』通史編・中世、太田市教育委員会1995『太田市の文化財』
45	庚塚屋敷跡						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世
46	庚塚遺跡						○		集落	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1980『庚塚遺跡・上・雷遺跡』
47	龍舞館跡(牛蒡屋敷)						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
48	賀茂神社西遺跡				○	○			集落	太田市教育委員会1994『太田市の文化財地図』
49	賀茂遺跡		○		○	○			集落	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2003『市内遺跡』XIX、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『賀茂遺跡』
50	龍舞城跡						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世
51	塚廻り古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2012『太田市内遺跡』7、群馬県教育委員会1977『清水田遺跡・塚井・塚廻古墳群』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1980『塚廻り古墳群』
52	安房田遺跡				○	○			集落	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『太田東部遺構群』
53	堀中子・寄宿館跡						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』
54	沖之郷後原遺跡				○				散布地	
55	沖之郷遺跡				○				散布地	太田市教育委員会1985『太田東部地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査概報I』
56	二ノ堰遺跡				○				散布地	
57	塚井遺跡				○				集落	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2009『塚井遺跡』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『太田東部遺構群』
58	塚井古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県1938『上毛古墳綜覧』、群馬県教育委員会1977『清水田遺跡・塚井・塚廻古墳群』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『太田東部遺構群』
59	清水田遺跡				○	○			集落	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県教育委員会1976『清水田遺跡』、1977『清水田遺跡・塚井・塚廻古墳群』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『太田東部遺構群』
60	清水田Ⅱ遺跡				○	○			集落	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県教育委員会他1988『清水田Ⅱ遺跡現地説明会資料』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『太田東部遺構群』
61	石原二ツ山古墳				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県1938『上毛古墳綜覧』
62	下小林上遺跡(上遺跡)		○	○	○				散布地、集落	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2013『太田市内遺跡』8、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1980『庚塚遺跡・上・雷遺跡』
63	下小林車塚古墳				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県1938『上毛古墳綜覧』
64	下小林高射砲陣地跡							○	その他	太田市1994『太田市史』通史編・近現代
65	下小林館跡(大倉城)						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
66	大日山古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2014『太田市内遺跡』9、群馬県1938『上毛古墳綜覧』
67	雷遺跡		○						散布地	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2014『太田市内遺跡』9、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1980『庚塚遺跡・上・雷遺跡』

第4表 周辺遺跡一覧(3)

No.	遺跡名	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
68	藤本観音山古墳				○				古墳	足利市教育委員会2005『藤本観音山古墳発掘調査報告書』、2008『国指定史跡藤本観音山古墳』、足利市史編さん委員会1979『近代足利市史』3、太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、栃木県史編さん委員会1979『栃木県史』資料編・考古2、1981同通史編1
69	伊砂子塚古墳				○				古墳	橋本勇・市橋一郎・中山俊彦1981『史跡・考古』『年報(足利市文化財総合調査団・足利市教育委員会)』II
70	永代遺跡				○				散布地	橋本勇・市橋一郎・中山俊彦1981『史跡・考古』『年報(足利市文化財総合調査団・足利市教育委員会)』II

明である。また、佐貫荘についても、佐貫成光が邑楽郡古海郷に住み「古海入道」と号したこと、佐貫広綱の地頭職補任は確認できるが、同じく荘園成立時期は不明である。

その後、山田郡においては延応2(1240)年に菌田御厨の半分が荒木田成康により随心院門跡に譲与され御厨機能の一部を失い、寮米保が貞治6(1367)年には鎌倉の覚園寺に寄進され御厨機能を失った。邑楽郡においては南北朝動乱後に館林で舞木氏が台頭するが、永享の乱後の永享12(1440)年に舞木持広が謀殺され家臣の赤井氏の勢力が伸張する。その赤井氏も永禄5(1562)年に長尾景長(足利長尾氏、由良氏より養子)に追われた。小泉では延徳元(1489)年に小泉城(6)を築城した富岡直光以来、富岡氏が勢力を張った。新田郡においては新田氏一族の岩松氏が勢力を保つが、のちに京兆家と礼部家に分裂、文明元(1469)年に礼部家に統一されるも、家臣から横瀬氏(由良氏)が台頭し実権を奪われた。その横瀬氏は旧菌田御厨を中心とした下山田地域を根拠地としていた。

徳川家康江戸入府後、本遺跡をふくむ龍舞村・八重笠村は、館林藩領(榑原氏)のち天領をへて再び館林藩領(松平氏→徳川氏)となり、さらに天領・旗本領から前橋藩領(松平氏)・天領・旗本領となった。榑原氏の館林封入により邑楽郡92カ村・山田郡28カ村・新田郡44カ村・下野国(梁田郡・足利郡)29カ村は館林領と呼ばれるようになり、徳川氏封入によりその名が定着する。この館林領を潤す館林領用水組合は渡良瀬川から取水する待堰・矢場堰・三栗谷(市場)堰・借宿堰からなり、その開削は元亀元(1570)年頃に遡る。龍舞村・八重笠村は矢場堰水門組合に属した。近隣の小泉焼が広まるのも近世以降であり、近代以降に最盛期を迎える。また、本遺跡の北約3kmには日光例幣使街道がほぼ東西方向に走り、交通の要所でもあった。本遺跡からはこの頃までを時期的

下限とする耕作物貯蔵用の通称「イモ穴」と呼ばれる土坑が確認されるとともに、小泉焼も遺構内外から出土している。

参考文献

- 邑楽町教育委員会 1989『邑楽町の遺跡』
 大泉町誌編集委員会 1983『大泉町誌』下
 太田市 1992『太田市史』通史編・近世
 太田市 1996a『太田市史』通史編・原始古代
 太田市 1996b『太田市史』通史編・自然
 太田市 1997『太田市史』通史編・中世
 太田市教育委員会 2011『太田市内遺跡』6
 太田市教育委員会 2012『太田市内遺跡』7
 京都大学文学部国語学国文学研究室編 1968『諸本集成倭名類聚抄』本文篇 臨川書店
 群馬県文化事業振興会 1986a『上野国郡村誌』15
 群馬県文化事業振興会 1986b『上野国郡村誌』17
 群馬県文化事業振興会 1987『上野国郡村誌』16
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007『東今泉鹿島遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009a『楽前遺跡(1)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009b『峯山遺跡Ⅰ』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010a『大道東遺跡(1)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010b『西長岡宿遺跡(2)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010c『八ヶ入遺跡Ⅰ』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010d『峯山遺跡Ⅱ』
 待矢場両堰土地改良区 1996『待矢場両堰土地改良区史』

第3節 基本土層

表土層以下の基本土層は第5図に示した。表土層下は一部攪乱されているものの、遺構の保存状態は良好である。土層はAs-Bの確認された2区北西の低地をのぞき各区で共通している。

本遺跡における調査着手以前の地形は、2～3区が水田で標高29.6～29.7mと平坦であるのに対し、1区が工場で標高28.3～29.4mと北から南にかけて低く、4区が集落で標高28.3～28.7mと北から南にかけて高くなっており、1区・4区間が最も標高が低いことが観察されていた。しかし、調査の結果、2区北西部が周囲と比べ標高が0.3～0.5m程度低く、堆積土層中からも周囲では観察されないAs-B(Ⅱf層中)・Hr-FA(Ⅱj層・Ⅱk層中)・As-C(Ⅱj層・Ⅱk層中)なども観察され、低地であったことが確認された。これに対し、2区北西部以外においてはロームの堆積が観察され、低台地であったことが確認された。

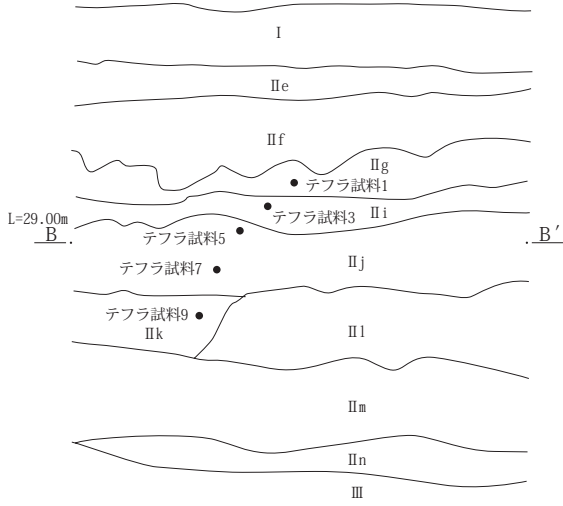
なお、第5図の基本土層A(1区低台地部)・基本土層B(2区低地部)には、第4章第2節「石神遺跡の土層とテフラ」において分析に使用したテフラ試料の採取箇所もあわせて表示した。

【基本土層】

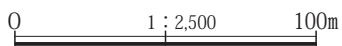
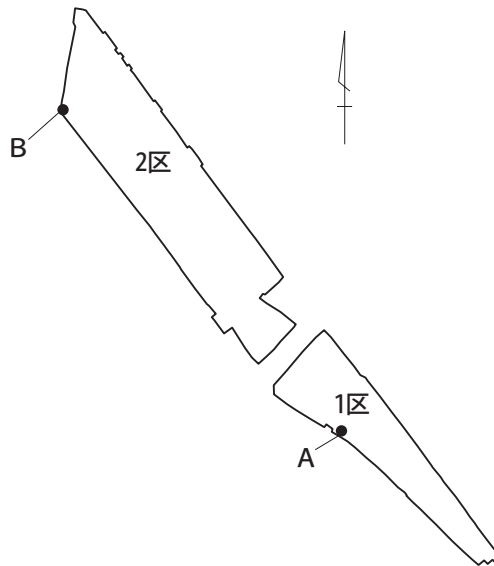
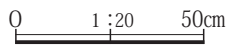
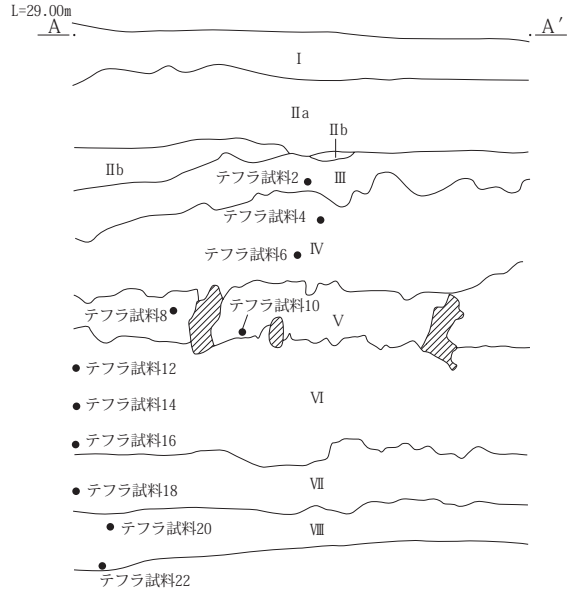
- I層 現表土
- Ⅱa層 暗褐色～黒褐色土
- Ⅱb層 暗褐色～黒褐色土 ローム粒・白色粒子含む
- Ⅱc層 暗褐色～黒褐色土 ローム粒Ⅱb層より多い
- Ⅱd層 褐色土(低地部)
- Ⅱe層 黒褐色土 炭化物含む(低地部)
- Ⅱf層 黒褐色土 下部にAs-Bを含む(低地部)
- Ⅱg層 黒色土(低地部)
- Ⅱh層 暗褐色土(低地部)
- Ⅱi層 灰オリーブ色土 粘質(低地部)
- Ⅱj層 黒褐色土 粘質 Hr-FA・As-Cを含む(低地部)
- Ⅱk層 オリーブ灰色土 Ⅱj層とⅡl層の混土(低地部)
- Ⅱl層 オリーブ黒色土(低地部)
- Ⅱm層 灰オリーブ色土 ローム粒・塊含む(低地部)
- Ⅱn層 褐灰色土(低地部)

- Ⅲ層 灰褐色～褐色土 ローム漸移層
- Ⅳ層 ソフトローム As-YPを含む
- Ⅴ層 ハードローム As-0k1・As-0k2を含む
- Ⅵ層 ローム As-BPを含む
- Ⅶ層 ローム AT相当層
- Ⅷ層 ローム 暗色帯

基本土層B



基本土層A



第5図 基本土層断面図

第3章 調査の成果

第1節 成果の概要

本遺跡の発掘調査では、旧石器時代から近世にまで及ぶ多種多様な遺構が調査された。調査区は南から4区、1区、2区、3区と並んでいるが、この付近の低台地は幅が狭いので、この調査区の南北両側にはすぐ低地が迫っている(カラー口絵参照)。つまり、1区と2区は台地の中央に位置し、3区と4区は低地に近い。また、台地中央でも2区の北西部には低地状の部分があり、全くの平坦地ではない。この地形が遺構の分布に影響を与えている。遺構の残存度は場所によって違いがあり、部分的には後世の削平が激しいところがあって、遺構の上部が削り取られてしまっている場合もあった。

調査した遺構のなかで、中心となるのはやはり竪穴住居である。竪穴住居は1区で32軒、2区で31軒、3区で18軒、4区で19軒の合計100軒が調査されている。他に竪穴状遺構としたものが4区で1基ある。住居が多いのは低台地の中央にあたる1区と2区であり、低地に近い南北両端の3区と4区は住居数が少なくなっていて、集落の大体の範囲が分かる。住居は比較的散在している傾向にあるが、2区南部などの一部では多くの住居が集中し、重複が激しいところもある。時期別の傾向など、詳細は第5章第1節で改めて触れるが、4世紀から10世紀までの長期間のものが存在する。ただし、古墳時代、すなわち4～7世紀のものは12軒だけで、時期不明の4軒を除いた残り84軒は8世紀～10世紀中頃までの奈良・平安時代に収まり、この頃が本遺跡の集落の最盛期であった。特に9世紀中頃に住居の数が最大になり、ピークを迎えている。住居の規模・形状等には特別なものはなく、標準的なものばかりであるが、墨書土器が多数出土しているのが注目される。

掘立柱建物は1区3棟、2区7棟、3区1棟の合計11棟が見つかった。やはり台地中央部(1・2区)に多い傾向がある。そのうち、1区1号掘立柱建物と2区2号掘立柱建物は大型のもので特に注目される。1区1号掘立柱建物は南北両面に廂をもつ東西棟で、桁行2

間以上、梁行4間の規模であり、梁行が10.37mもあるのでかなり大型の建物である。2区2号掘立柱建物は南北棟のいわゆる側柱建物で、桁行3間、梁行2間と推定される。桁行の柱間が10尺等間と広く、これもかなり大型の建物である。これほど大型の建物が集落にあるのは珍しいので、その意義に注意が必要である。ただし、この2棟の建物には建て替えの痕跡がない。いずれも短期間のみ存在した建物であると思われる。掘立柱建物は良好な出土遺物が少なく、他の遺構との重複もあまりないので、時期を限定することが困難であるが、2区2号掘立柱建物のみは2軒の竪穴住居との重複関係から、8世紀前半から9世紀第3四半期の間のものであることが判明している。この掘立柱建物は柱穴の規模も大きく、8～9世紀前半の建物としてふさわしいが、同様に1区1号掘立柱建物も大きな柱穴をもつので、近い時期である可能性がある。他に大きな柱穴の建物は2区1号掘立柱建物などがあり、8世紀から9世紀にかけての時期に、大型の掘立柱建物が複数建てられていたようである。他の建物は柱穴の径が小さく、他の遺構との重複関係からも9世紀第2あるいは第3四半期よりも新しく、中世にまで下る可能性もある建物であると思われる。

土坑は全域に数多い。1区で82基、2区で106基、3区で20基(うち2基は縄文)、4区で101基の合計309基を報告する。竪穴住居の周辺に多い傾向にあるので、古代の集落に関わるものがかなり多く含まれている可能性があるが、出土遺物が少ないので時期の特定ができるものはほとんどない。また、用途を示すような痕跡にも乏しいので、その性格も不明な点が多い。ただし、長方形のものは現道の方向に沿った方位で掘られている場合が多く、近世以降のイモ穴と思われるものが多数含まれていると思われる。

井戸は1区で1基、2区で4基、3区で4基、4区で16基の合計25基を調査した。遺跡周辺は地下水位が浅いので、井戸の深さも浅いようだが、特に浅いものを除いて、危険であるために完掘できたものは少ない。時期を明確に示すような特徴、遺物が乏しいので、その大部分

は時期不明である。竪穴住居と重複しているものもあるが、大部分は竪穴住居よりも新しく、7～9世紀以降ということが分かるのみであった。ただし1基のみ、4区16号は8世紀第3四半期の住居よりも古いので、井戸の中には古代にまで遡るものが混じっていることが確かめられた。このように調査時に井戸として認識できたもの以外にも井戸の可能性のある遺構は存在する。まず土坑の中には径が小さく非常に深いものが3基ある(2区43号土坑、4区52・55号土坑)。また、ピットの中にも井戸の可能性が考えられる、非常に深いものが15～16基ある。竪穴住居には3区13号竪穴状居のように、住居の中に井戸と思われる深いピットをもつものがあり、その例を考えれば、これらの土坑やピットも古代にまで遡る井戸である可能性がある。

ピットも数が多い。1区で41基、2区で82基、3区で16基、4区で49基の合計188基をピットとして調査、報告する。これらは時期・性格共に不明なものがほとんどであるが、中には柱痕が確認できるものもあり、本来は何らかの施設の柱穴であったものが多数含まれているらしい。現状では建物として組み合わせることができなかったために単独のピットとして取り上げてあるが、掘立柱建物がさらに多く存在していた可能性は高い。ピットの中には、前述のように、径の小さい井戸と思われるものも含まれている。

溝も数多く調査した。1区で10条、2区で26条、3区で8条、4区で25条の合計69条である。低台地上に掘られている溝なので傾斜は顕著ではなく、埋土を見ても明らかな流水の痕跡は見られないので、用水路とは思えず、そのほとんどは区画溝であると考えられる。ただし、ある程度の排水機能は備えていたではあろう。時期を明確に特定できる溝はないが、溝の方向が現道と共通するものが多く、出土遺物に近世・近代のものが含まれる溝が数多くあることから、近世以降に埋没したものが大部分であると考えられる。もちろん、その溝がいつ開削されたのかは明らかではなく、古くまで遡るものも含まれている可能性はあるが、明確に古代にまで遡るものはなく、その可能性があるものも少ない。

この他の遺構としては、2区の北西部で水田と思われる黒色土の広がりが見つかっている。この黒色土の上面にはAs-Bが堆積していたので、いわゆるAs-B下水田と思

われたが、畦畔は確認できなかったので、遺構の上では水田の存在を確定することはできなかった。そのため、プラント・オパール分析を行ったところ、イネのプラント・オパールが比較的高い値で検出されたことから、ここに平安時代後期の水田が存在していたことが確かめられた。畠はサク(畝間)状の溝列として把握できたもので、2区と4区の一部で見つかっている。ただし、2区のものとは時期不明で、その形状から小区画水田の畦畔脇の掘り込みである可能性も考えられる。4区のものとは出土遺物から、近世～近代初頭頃のものであると思われる。

古代以前の遺構・遺物としてはまず縄文時代のものであるが、この時代の遺構として確実なのは、3区で2基の土坑があるだけであり、縄文前期中葉有尾式に分類できる土器が出土している。同時期の土器は遺構外からも出土しており、おそらく3区の近くに前期中葉の遺跡があり、その縁辺部が本調査区に掛かったものと思われる。その他の時代の土器・石器も数は少ないが遺構外から出土している。

旧石器時代の調査は、縄文時代以降の遺構調査が終了した後、調査区全域で行ったが、その結果、2区を除いた3地区で遺物が出土した。出土遺物は、1区で446点、3区で2点、4区で53点である。1区では北西部で隣接した2カ所の集中部が見つかり、それぞれを第1ブロック、第2ブロックとして調査した。ただし、それらは同一層準であり、ブロック間で接合する石器もあることから、一括して扱うことができるものである。石材は黒曜石が98.2%を占め、ナイフ形石器12点のほか、尖頭状石器、彫刻刀形石器などが含まれている。4区では46点が集中して出土した以外は散発的な出土状態である。剥片、碎片、石核からなり、石材は黒曜石が7割以上をしめる。この、1区と4区との集中部は、層位が異なることから2つの文化層として把握できた。それぞれの特徴・時期などについては第5章第3節(384ページ)で検討する。

第2節 竪穴住居・竪穴状遺構

1. 1区

1区で調査した竪穴住居は32軒であり、調査区全体に散在している。重複は特に激しくはなかったが、攪乱で削平されたり、溝・土坑に破壊されたために、残りがよくないものも見られる。

1区1号竪穴住居(第6図、第27表、PL.13-1~4,107)

調査区南東端近くにある。東側に7号竪穴住居が重複するため、残りが悪い。さらに東側は調査区外となる。

位置 X=30517~523、Y=-36455~461。

重複遺構 1区2・7号竪穴住居、8・9号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 東側が調査区外のため不確実であるが、東西に長い長方形と推定される。

主軸方位 N-17°-W。

規模 長軸は南壁際で計測して4.20m以上、短軸は3.74m。

床面積 調査区内の部分を計測すると、11.69㎡である。

埋没土層 周縁部はにぶい褐色土、中央部は暗褐色土で埋没している。やや不自然な部分もあるが、自然埋没と考えられる。

壁高 19~32cmだが、調査区界のセクション面(A-A')では39cmある。

床面 ほぼ全体で地山を床面とし、おおむね平坦である。

竈 北壁に設置している。燃焼部よりも前の部分を1区7号竪穴住居によって壊されていて残存状態が悪い。さらに東側大部分が調査区外となるため詳細は不明である。左袖の基部と思われる膨らみが見られるので、本来は住居内に燃焼部が造られていたものと思われる。規模は長さ67cm以上で、煙道は住居外に53cm以上のびている。幅は50cm以上である。竈本体は灰黄色粘土で構築されていたようで、覆土にそれが多く含まれている。竈内部には灰層が見られ、覆土には焼土も多く含むので、よく使用されていたらしい。

貯蔵穴 確認できなかった。7号住居で破壊されているものと思われる。

柱穴 確認できなかった。

周溝 竈の前を除いて全体に廻っている。幅20~38cm、深さ8~14cmの明瞭な周溝である。

遺物 床面が残っていたのは住居西半部のみであるが、その範囲に遺物が散在していた。掲載したのは土師器杯1点(墨書あり)、須恵器杯1点、同椀1点、土錘1点である。2点の須恵器は北西隅近くから出土しており、そのうち3の椀は床面直上から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)104g、同(中)33g、同(大)685g、須恵器(小)265g、同(大)204g、灰釉陶器(小)1点がある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居と考えられる。

1区7号竪穴住居(第6・7図、第27表、PL.13-1・5,107)

調査区南東端近くにある。東側が調査区外となるため詳細が不明の住居である。

位置 X=30518~523、Y=-36456~459。

重複遺構 1区1号竪穴住居、8号土坑と重複する。本遺構が8号土坑より古く、1号竪穴住居より新しい。

形状 東側大半が調査区外となるため詳細は不明だが、調査区にかかっている部分から推定してやや歪んだ方形になるものと思われる。

主軸方位 北壁に竈があると想定して計測するとN-10°-Wである。

規模 周辺の住居と同様に東西に長いと想定して計測すると、長軸(東西方向)2.05m以上、短軸(南北方向)3.23m以上である。

床面積 調査区内の部分を計測すると、4.41㎡である。

埋没土層 ローム小塊を含むにぶい黄褐色土と褐色土を中心として埋没している。いわゆるレンズ状堆積に近いが、ローム小塊を多く含む層もあり、単純な自然堆積とは思えない。

壁高 遺構確認面より床面まで約30cmであるが、調査区壁のセクション(A-A')をみると、壁は55~57cmある。

床面 南側がわずかに低くなっている以外はおおむね平坦である。

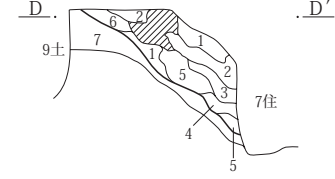
竈 調査区内には確認できなかった。

貯蔵穴 調査区内には確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

1号竪穴住居竈

L=28.50m

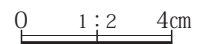
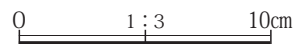
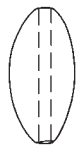
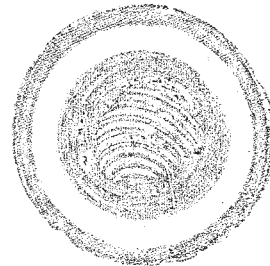
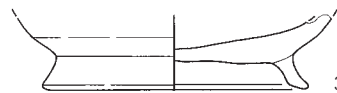
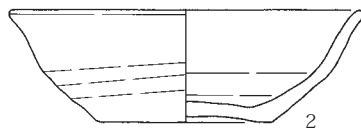
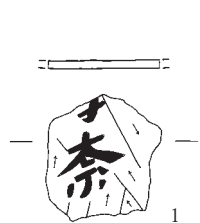
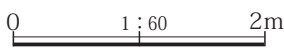
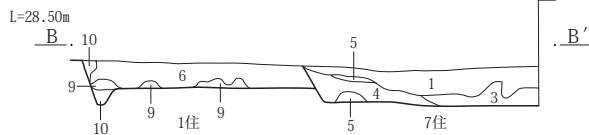
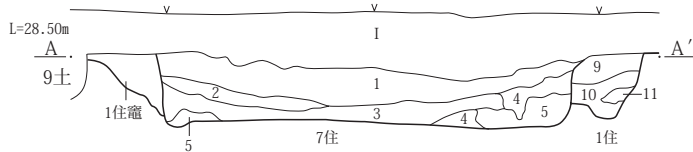
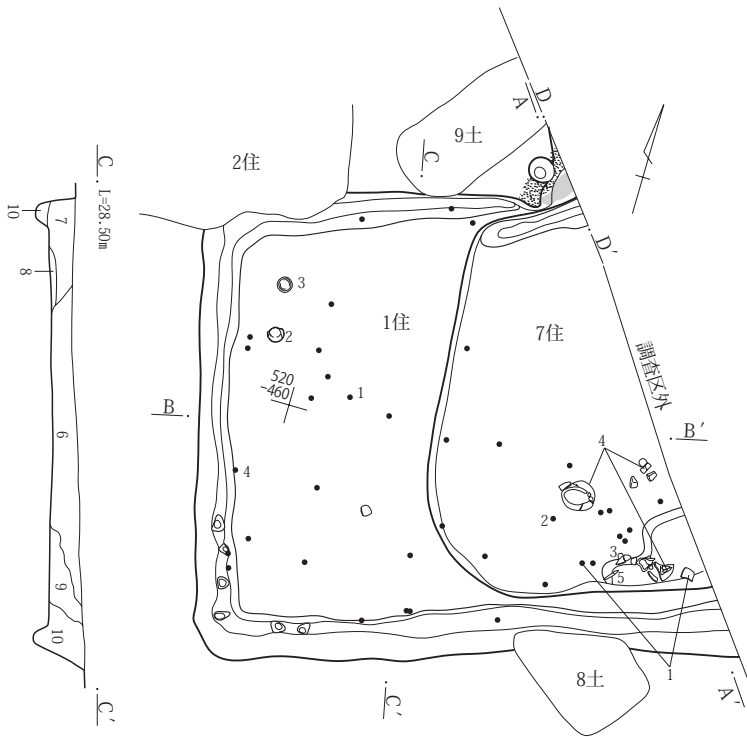


1区1号竪穴住居竈

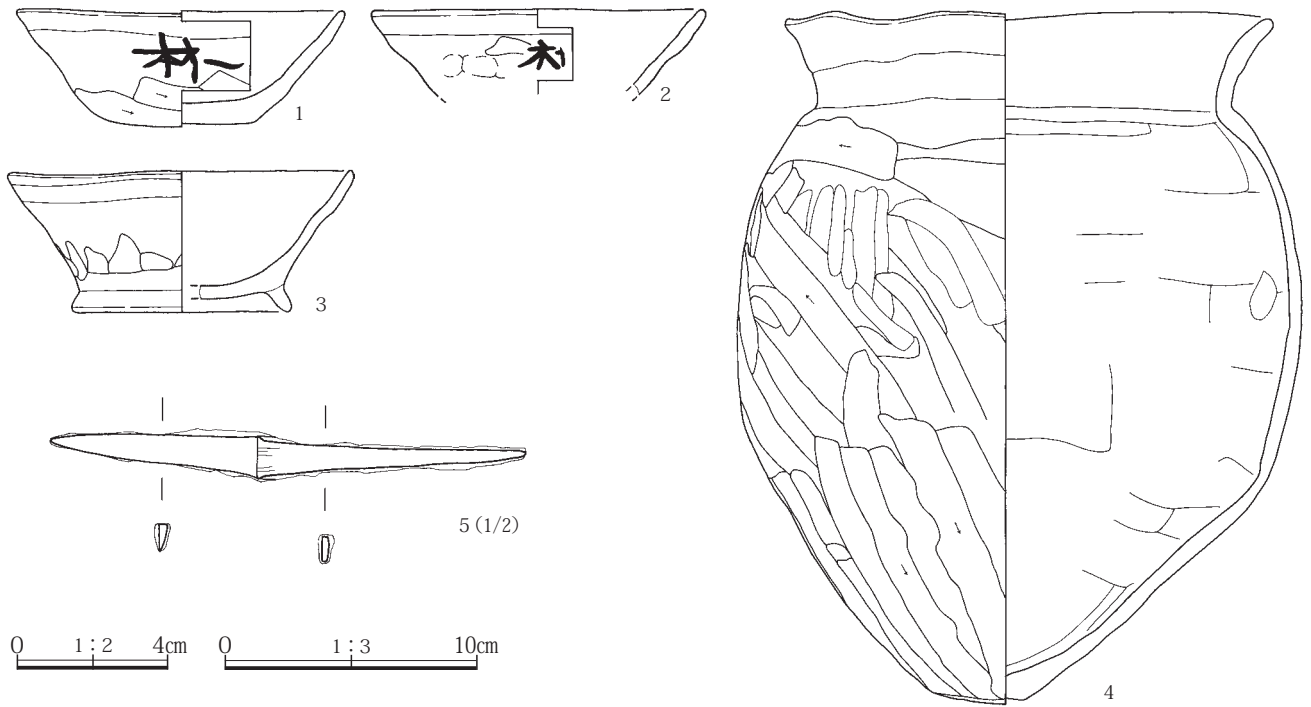
1. 灰黄色土 灰黄色粘土主体、黄褐色土・焼土小塊含む。
2. ローム小塊・灰黄色粘土小塊・焼土の混土。
3. 赤褐色土 焼土化した粘土塊主体。
4. 黒褐色土 灰層・焼土小塊含む。
5. 赤褐色土 焼土化した灰黄色粘土。
6. 黄褐色土 くすんだローム・灰黄色粘土粒含む。
7. くすんだ黄褐色土 竈掘方。

1区1・7号竪穴住居

1. にぶい黄褐色土 ローム小塊多く含む。以下5層まで7号住居覆土。
2. 褐色土 ローム小塊含む。
3. 褐色土 ローム小塊・焼土粒・炭化物粒含む。
4. 褐色土 3層よりローム塊少ない。
5. 黄褐色土 ローム塊多く含む。
6. 暗褐色土 ローム小中塊斑に含み、焼土粒・炭粒・灰白色粘土小塊含む。以下1号住居覆土。
7. にぶい褐色土 ローム小中塊斑に含み、灰白色粘土塊含む。
8. 褐色土・灰白色粘土・ローム小塊の混土、焼土小塊含む。
9. にぶい褐色土 ローム小塊含む。
10. 黄褐色土 くすんだローム主体、暗褐色土含む。
11. 暗褐色土 土質均一。



第6図 1区1・7号竪穴住居平断面図、1号竪穴住居出土遺物



第7図 1区7号竪穴住居出土遺物

周溝 北壁のみで見つかった。幅15～23cm、深さ7～9cmである。

遺物 南側を中心として出土している。掲載したのは土師器杯2点(いずれも墨書がある)、同椀1点、同甕1点、刀子1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)103g、同(中)1点・6g、同(大)186g、須恵器(小)174gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、10世紀第1四半期の住居であると思われる。

1区2号竪穴住居(第8・9図、第27表、PL.14,107)

調査区の南西端近くにあり、南東隅のごく一部が1号竪穴住居と重複する。掘立柱建物の柱穴と土坑にごく一部を破壊されているが、全体に残りがいい住居である。

位置 X=30521～524、Y=-36460～465。

重複遺構 1区1号竪穴住居、2号掘立柱建物、13・34号土坑と重複している。本遺構が2号掘立柱建物、13・34号土坑より古く、1号竪穴住居より新しい。

形状 東西に長い長方形であり、歪みは少ない。

主軸方位 N-82°-E。

規模 住居中央付近で計測して長軸4.47m、短軸3.05mである。

床面積 11.98㎡。

埋没土層 褐色土やくすんだ黄褐色土で埋没している。自然埋没と考えられる。

壁高 17～25cm。

床面 おおむね平坦。中央付近を中心として地山を床面としている。

掘方 四隅周辺を床面よりも10cm前後深く掘っている程度である。その部分はローム塊を多く含む褐色土で埋め戻して床面としている。

竈 東壁ほぼ中央に設置している。長さ81cm、幅118cmであり、煙道は壁の外側にほとんど伸びていない。本体は灰白色粘土で構築されていたらしいが、両袖の底部がわずかに残る程度で、上部はほぼ壊されている。燃烧部に灰層がよく残り、焼土も多く残るのでよく使用されていたようである。煙道部分からは10の土師器甕が口縁を下にして置かれたような状態で出土した。

貯蔵穴 南東隅にある。楕円形で長径71cm、短径57cm、深さ17cmである。周囲には土器片が集中していた。

柱穴 確認できなかった。

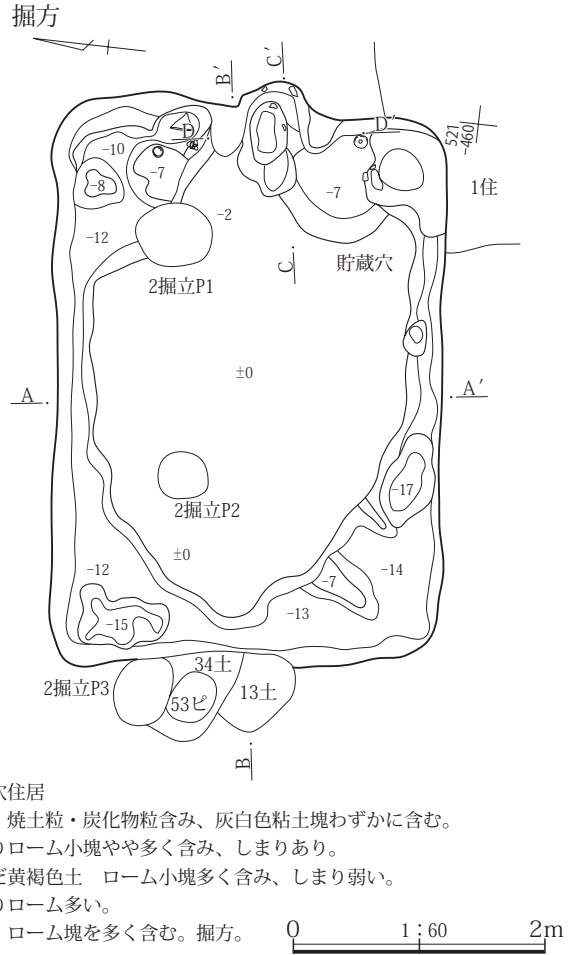
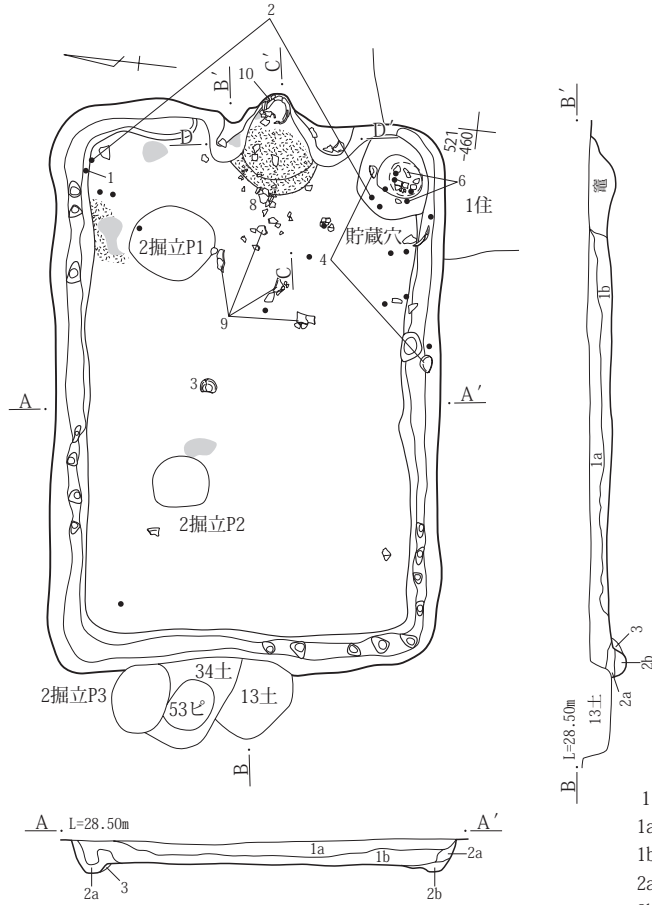
周溝 竈前を除いて全周している。幅16～34cm、深さ3～11cmの明瞭な周溝である。

遺物 竈・貯蔵穴付近を中心として出土しているが、小破片が多い。掲載したのは土師器杯3点、同甕4点、同小型甕1点、同台付甕1点、須恵器杯1点である。竈の煙道

部からは前述の10の土師器甕が出土した。3の土師器杯(墨書あり)は住居中央の床面近くから、4の須恵器杯は南壁際中央と貯蔵穴上から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)79

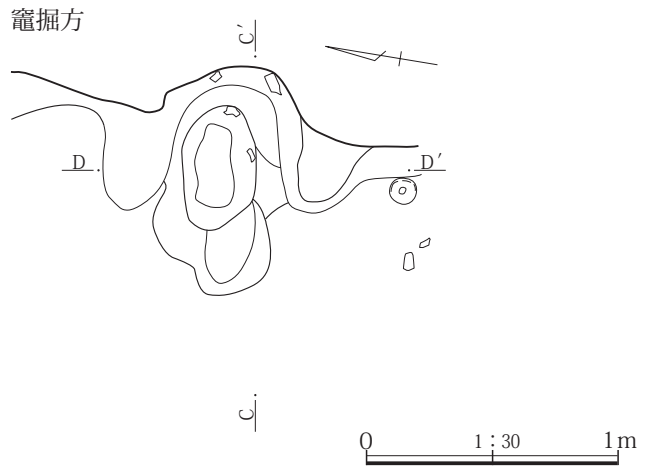
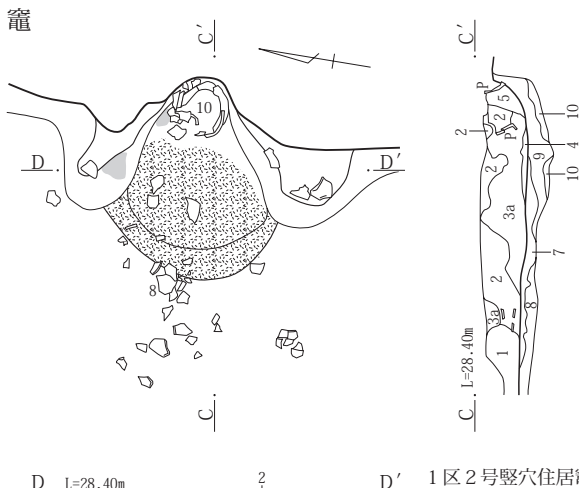
g、同(中)5点・40g、同(大)1,555g、須恵器(小)8点・113g、同(大)6点・902gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第4四半期の住居であると思われる。



1区2号竪穴住居

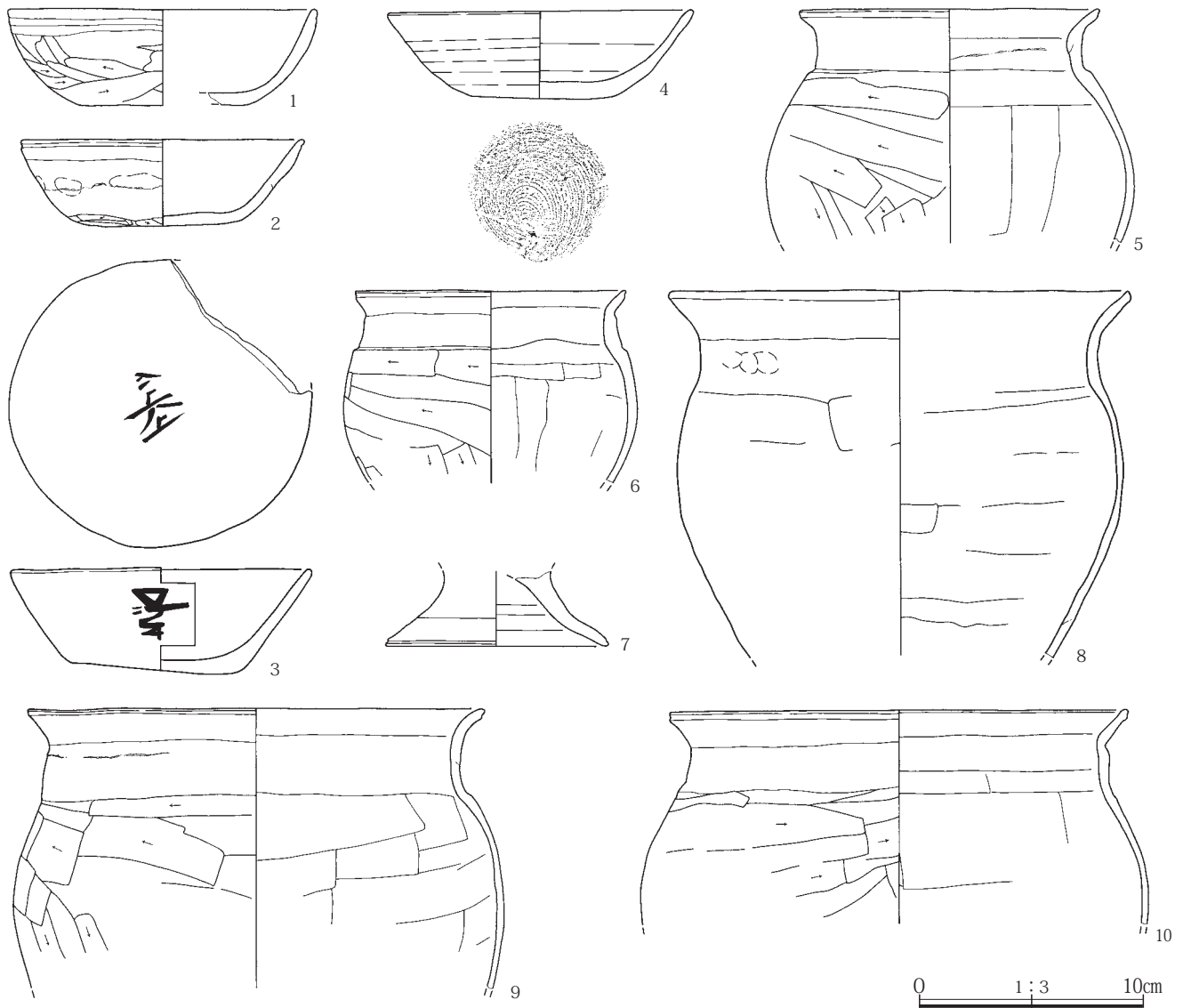
- 1a. 褐色土 焼土粒・炭化物粒含み、灰白色粘土塊わずかに含む。
- 1b. 1a層よりローム小塊やや多く含み、しまりあり。
- 2a. くすんだ黄褐色土 ローム小塊多く含み、しまり弱い。
- 2b. 2a層よりローム多い。
- 3. 褐色土 ローム塊を多く含む。掘方。



1区2号竪穴住居竈

- 1. 灰黄褐色土 灰白色粘土小塊含む。
- 2. 灰黄褐色土 灰白色粘土小塊多く含む。
- 3a. 灰黄色粘土 塊状、わずかに焼土粒含む。
- 3b. 3a層に褐色土含む。
- 4. 黒褐色土 灰・焼土塊含み、灰白色粘土小塊含む。
- 5. 黄橙色土 焼土塊多く含み、くすんだ黄褐色土含む。
- 6. 黄橙色土 灰白色粘土・焼土小塊多く含む。以下掘方。
- 7. 黒褐色土 灰・ローム塊・焼土塊多く含む。
- 8. くすんだローム粒・塊の混土。
- 9. 明黄色土 ローム・灰白色粘土塊・焼土塊含む。
- 10. 黄橙色土 ローム主体。

第8図 1区2号竪穴住居平衡面図



第9図 1区2号竪穴住居出土遺物

1区3号竪穴住居(第10・11図、第27・28表、PL.15-1～3,107,108)

調査区南東端近くにある。2基の土坑と重複しているものの、壁が比較的深いために残りがよい。南西隅の一部が調査区外となる。

位置 X=30518～524、Y=-36465～471。

重複遺構 1区18・35号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 南西隅が調査区外となるが、調査区にかかっている部分から、東西に長い長方形と考えられる。

主軸方位 N-7°-W。

規模 長軸は北壁近くで計測して4.64m、短軸は竈東側付近で計測して3.44mである。

床面積 調査区内の部分を計測すると12.31㎡である。

埋没土層 周溝部分などの一部を除いて褐色土一層で埋

没しており、人為的に埋められている可能性が考えられる。壁には灰白色粘土がごく薄く貼り付けたような状態で見られるところがある。その役割について、あえて可能性を考えれば、壁の崩壊を防ぐために壁面に板を廻らした際、板の裏側に入れた粘土であると考えられることもできるのではないだろうか。

壁高 確認面が低い部分を除いて42～46cmあり、比較的深い。

床面 おおむね平坦である。床面には中央から東側にかけて焼土、炭化物が広がり、中央やや西側には白色粘土の塊があった。また、東壁に沿った部分はごくわずかだけ高まっており、中央には浅い円形の掘り込みがある。この部分には上述の焼土・灰や固い床面がない。掘り込みの上層の覆土には特に変わった点はみられないので、

これは後に掘り込まれたものではなく、何らかの施設が置かれていた跡か、あるいは住居廃絶時に何らかの理由で掘った跡であると思われる。

掘方 一部を除き全体に床面よりも3～15cm深く掘っている。それをローム塊を含む褐色土などで埋め戻し、床面とする。上面にごく薄い貼床が造られている。

竈 北壁のほぼ中央に設置している。長さ134cm、幅105cmで、壁から73cmほど張り出している。両袖が見られるなど、比較的残りのよい竈である。袖と周囲の壁面には灰白色粘土が見られ、これを用いて本体が構築されていたらしい。燃烧部はちょうど壁の延長にあたる部分に造られている。燃烧部幅は最も広いところで56cmであり、底面には炭化物と灰の層が残っている。焼土を多く含み、炭化物・灰の層も明瞭であることから、よく使用されていたものと思われる。

貯蔵穴 床面では明瞭な貯蔵穴は確認できなかった。掘方ではいくつかの土坑状の掘り込みが見られたが、貯蔵穴と思われるものはなかった。

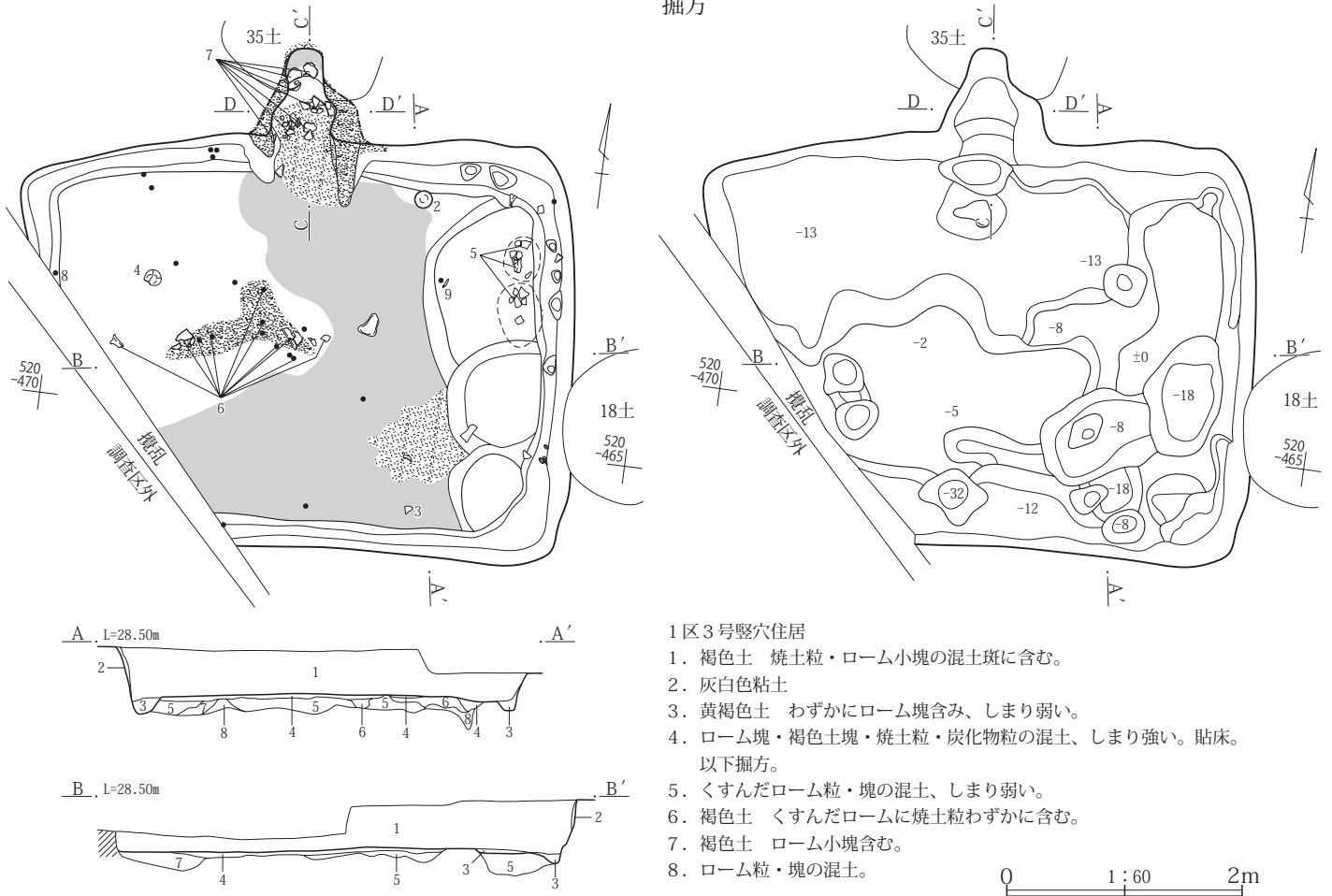
柱穴 確認できなかった。

周溝 竈の部分を除いて全周している。幅15～28cm、深さ3～8cmである。

遺物 竈内から土器片がまとまって出土したほか、住居北半部に散在するが、特に東壁際の北側と、中央西側の白色粘土塊の周辺にやや集中している。掲載したのは土師器杯1点(墨書)、同甕2点、同台付甕1点、須恵器杯3点(うち墨書1点)、土錘1点、用途不明鉄製品1点である。2の須恵器杯は北東部の北壁際から、6の甕は中央西側の白色粘土塊の周辺から、5の台付甕は住居東壁際の北側から、いずれも床面直上か床面に近い高さから出土している。4の須恵器杯は北西部の13cm浮いた高さから出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)171g、同(中)101g、同(大)1,115g、須恵器(小)267g、同(大)4点・170gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第2四半期の住居であると思われる。

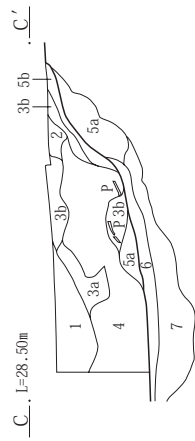
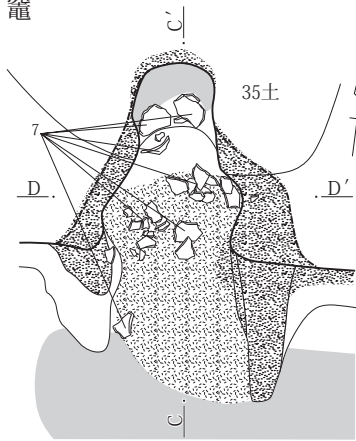
掘方



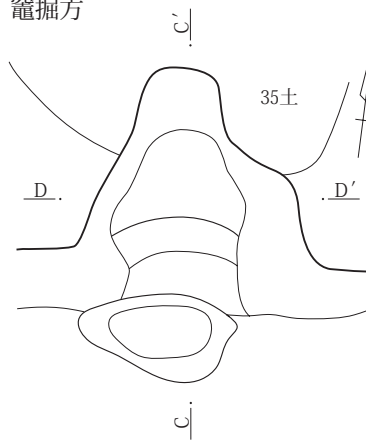
第10図 1区3号竪穴住居平断面図

第3章 調査の成果

竈



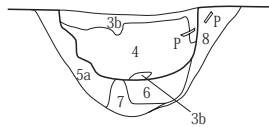
竈掘方



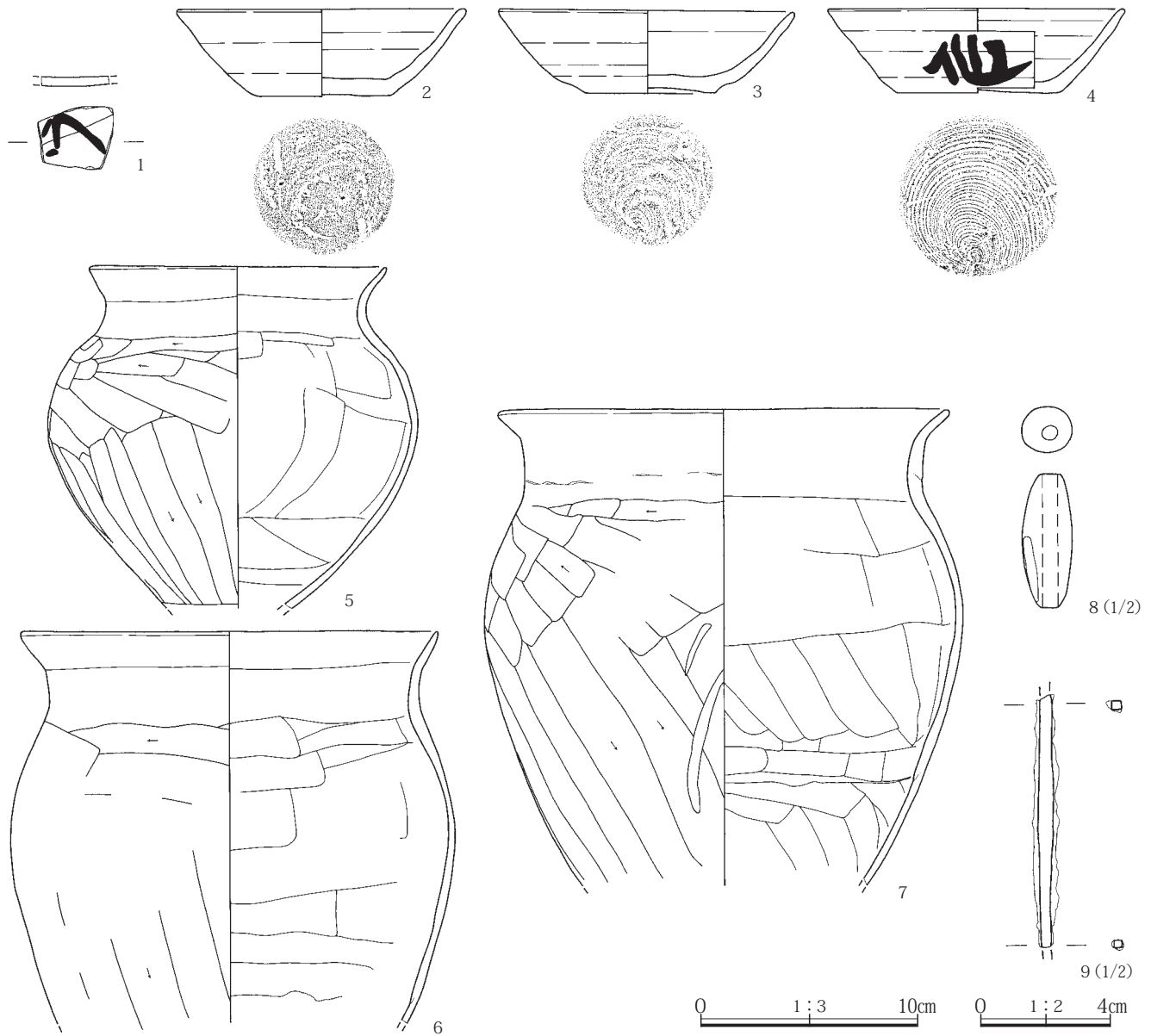
1区3号竈穴住居竈

1. 灰白粘土小塊・焼土小塊の混土。
2. 暗赤褐色土 灰白粘土塊・焼土小塊わずかに含む。
- 3a. くすんだ灰白色粘土。
- 3b. 3a層に焼土塊含む。
4. 褐灰色土 灰白色粘土小塊含む。
- 5a. 赤褐色土 焼土塊主体。
- 5b. 焼土粒・塊の混土、ボソボソ。
6. 炭化物・灰層 焼土小塊含む。
7. 固いローム塊・くすんだ褐色土の混土、フカフカ。
8. 灰黄色粘土 焼土塊多く含む。

D. l=28.50m D'



0 1:30 1m



第11図 1区3号竈穴住居竈平断面図、出土遺物

1区4号竪穴住居(第12・13図、第28表、PL.15-4・5,16-1・2,108)

調査区南東部にあり、4～6号の3軒の竪穴住居が重複している。本住居は他の竪穴住居や土坑に一部を破壊されているが、それらよりもやや深かったので全形を知ることができた。

位置 X=30523～527、Y=-36467～472。

重複遺構 1区5号竪穴住居、20・22・35号土坑と重複。本遺構が5号竪穴住居、20・35号土坑より古く、22号土坑より新しい。

形状 ほぼ正方形である。

主軸方位 N-82°-E。

規模 中央付近で計測して長軸3.14m、短軸2.92m。

床面積 8.09㎡。

埋没土層 明黄色ローム土や黄褐色土などを中心とした土で埋没している。7層にローム塊を多く含むので、人為的に埋没した可能性が高い。

壁高 他の遺構に壊されているところを除いて31～41cmである。

床面 地山を床面とした部分と、浅い掘方に貼床を施した床面とがある。おおむね平坦である。

掘方 南西隅を中心として部分的に見られるが、10cm以下のごく浅い部分がほとんどである。それらを主にローム土で埋め戻し、床面としている。

竈 東壁中央やや南寄りに設置している。灰白色粘土で作られた袖が両方とも残る。左袖は外側に大きく広がる形になってやや不自然であるが、これは竈内側に当たる部分が破壊されてこのように見えているものであろう。右袖は痕跡程度の残存度である。長さは90cm、幅は110cmであり、煙道は壁外に42cm張り出している。竈内面はよく焼け、燃焼部の底には厚さ12cmの灰層が残っているので、よく使用されていたものと思われる。竈内からは2・3の土師器甕が出土している。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 竈前と南東隅を除いて廻っている。幅13～24cm、深さ4～9cmである。

遺物 竈から住居中央付近にかけて遺物が出土した。掲載したのは土師器甕3点である。土師器甕のうち2と3は竈内から、1は住居中央で床面からわずかに(4cm程

度)浮いた高さから出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)8点・36g、同(大)859g、須恵器(小)186g、同(大)3点32gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第2四半期の住居であると考えられる。

1区5号竪穴住居(第12・14・15図、第28表、PL.16-3～5,108)

調査区南東部にあり、4～6号の3軒の竪穴住居が重複している。本住居はの中で最も新しいが、北壁を土坑と攪乱によって破壊され、全形は不明である。

位置 X=30524～529、Y=-36469～473。

重複遺構 1区4・6号竪穴住居、24・27・32号土坑、12号ピットと重複。本遺構が24・32号土坑、12号ピットより古く、4・6号竪穴住居、27号土坑より新しい。

形状 北壁が土坑・攪乱によって壊されているが、残存部分からみて南北に長い長方形であると思われる。

主軸方位 N-88°-E。

規模 長軸は最も長く残っているところで計測して3.38m以上、短軸は竈北側付近で計測して2.88mである。

床面積 残存部分を計測すると7.03㎡である。

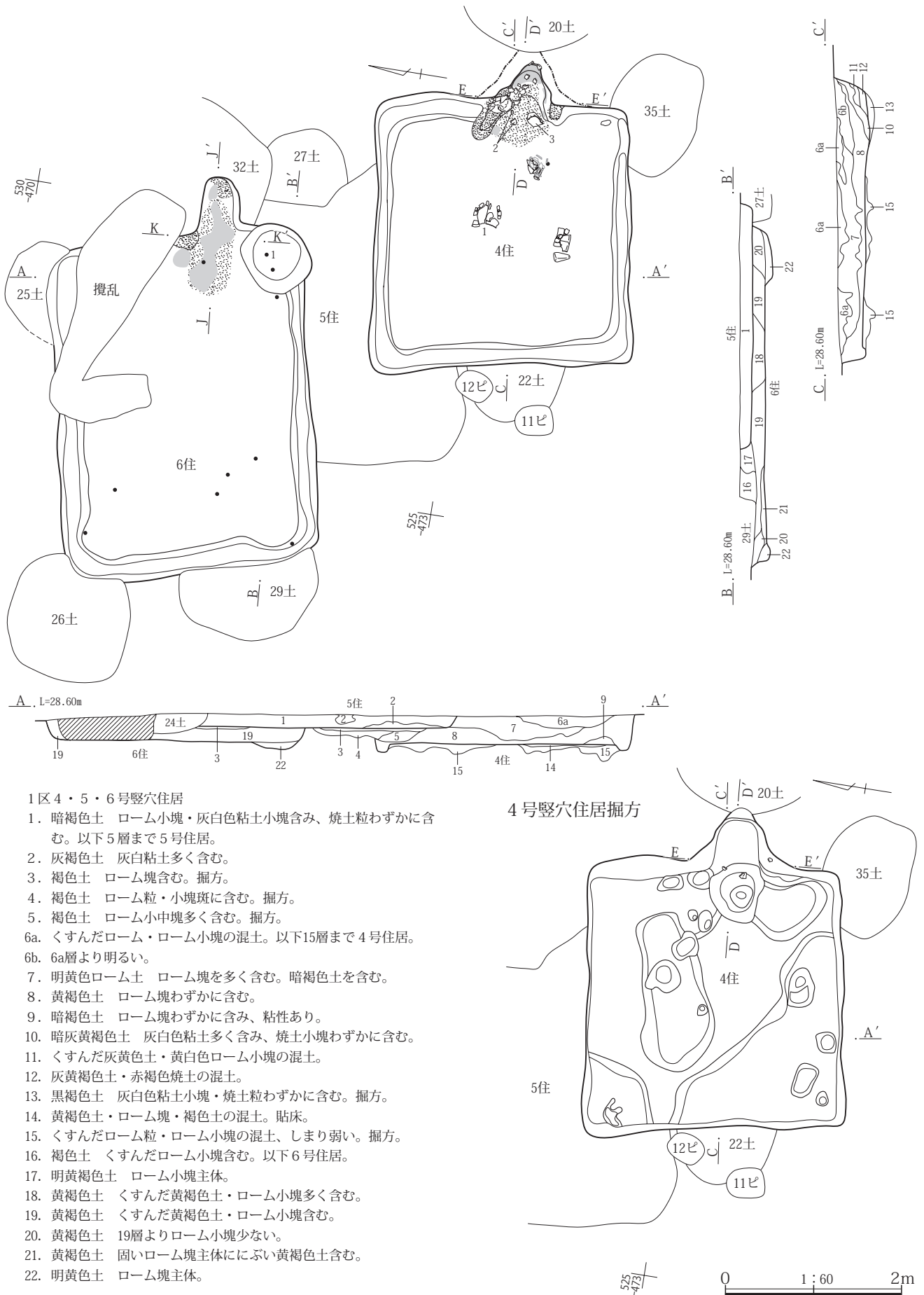
埋没土層 深さ15cm程度しか残っていないので断定はできないが、ほとんどが暗褐色土1層で埋没しており、人為的に埋められた可能性が考えられる。

壁高 11～18cm。

床面 住居と重複する部分以外は地山を床面としている。おおむね平坦である。

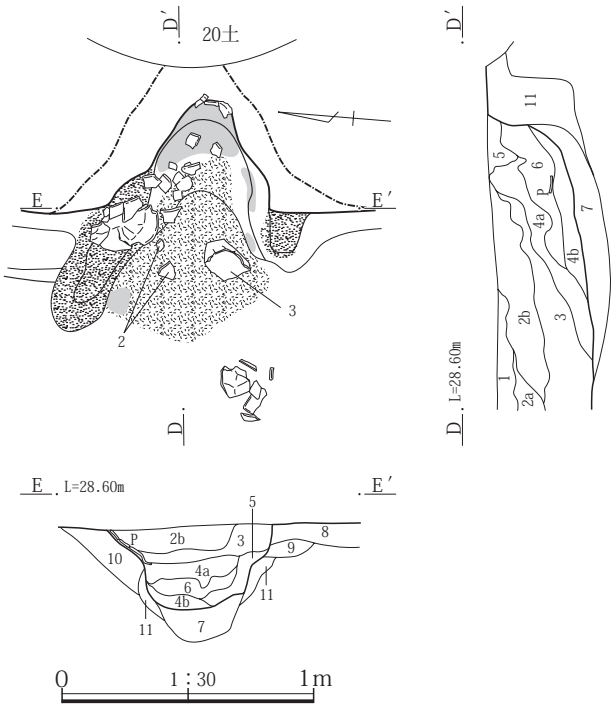
掘方 掘方はほとんどないが、中央やや南寄りには土坑状に掘っているところがある。127cm×100cm程度のほぼ方形で、床面からの深さは最も深いところで14cmである。この穴を褐色土で埋め戻して床面としている。

竈 東壁の南寄りに設置している。左袖の基部が残るが、全体に残りは悪い。竈本体は灰白色粘土を用いて構築されていたらしい。長さは76cmで、壁外には47cm張り出している。幅は右袖が欠失しているので不明だが、左袖外側から竈中心線までが56cmなので、それを2倍すると112cmである。左袖の部分に掘られたピットは土層の観察から新しい遺構であることが分かる。焼土・炭化物・灰が多く見られるので、よく使用されていたらしい。

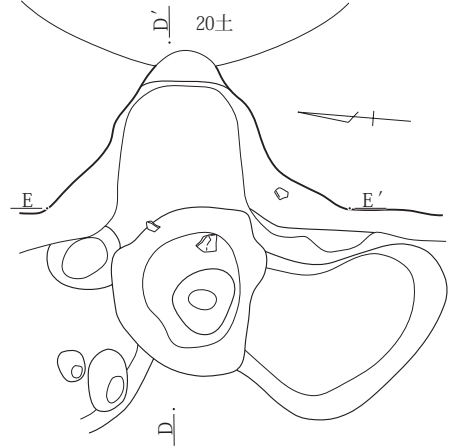


第12図 1区4・5・6号竪穴住居平断面図

竈

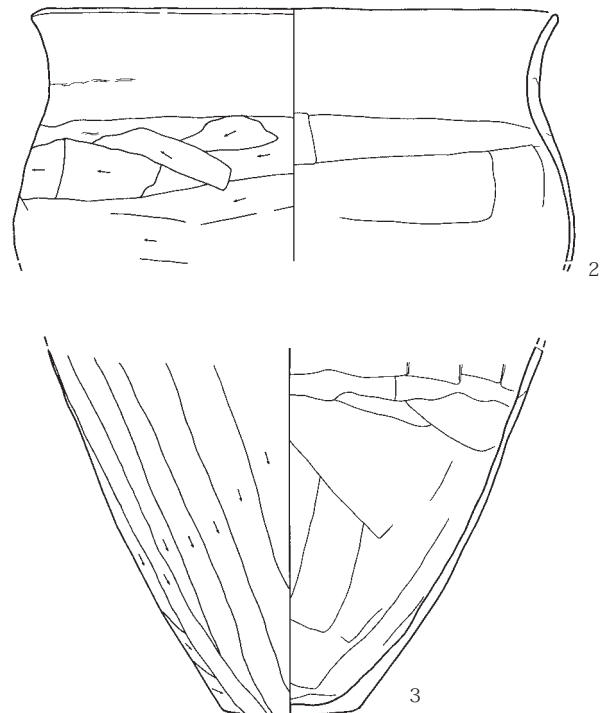
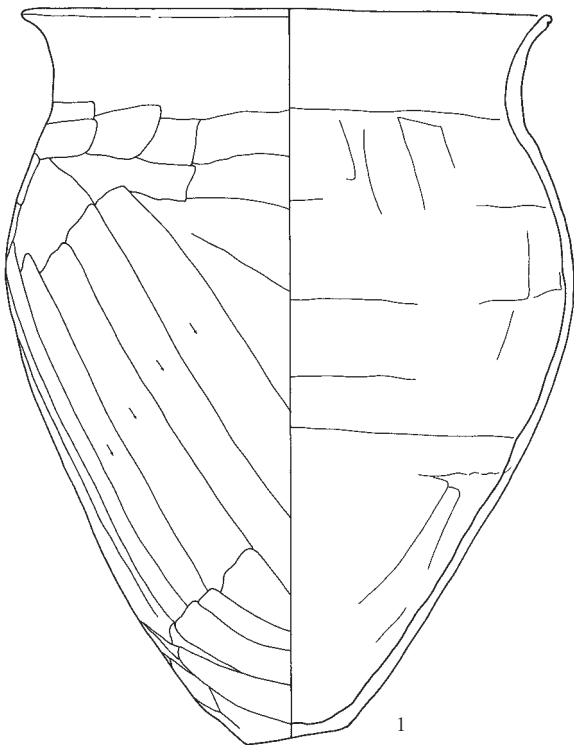


竈掘方



1区4号竪穴住居竈

1. 黄褐色土
- 2a. 明黄色土 ロームブロック主体。
- 2b. 明黄色土 くすんだローム粒・ローム小塊含む。
3. 黄黄褐色土 ローム小塊わずかに含む。
- 4a. 暗灰黄褐色土 灰白色粘土多く含み、焼土小塊わずかに含む。
- 4b. 灰黄褐色土 赤褐色焼土含む。
5. 暗赤褐色土 くすんだ黄褐色土に焼土ブロック含む。
6. くすんだ灰黄褐色土・黄白色ローム小塊の混土。
7. 灰層 灰白色粘土小塊・焼土粒わずかに含む。
8. 黒褐色土 ローム小塊・くすんだローム含む。
9. ローム・褐色土の混土。
10. 灰黄褐色土・ローム小塊・褐色土の混土。
11. 赤褐色土 焼土化したローム。



0 1:3 10cm

第13図 1区4号竪穴住居竈平面図、出土遺物

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 明瞭な柱穴は確認できなかったが、床面で2基のピットが見つかった。おのおのの計測値は下記の通り(長径×短径×深さ、cm)である。いずれも浅いので、本住居に伴う柱穴とは思えない。P2は形態から2基のピットが重複したものと思われる。

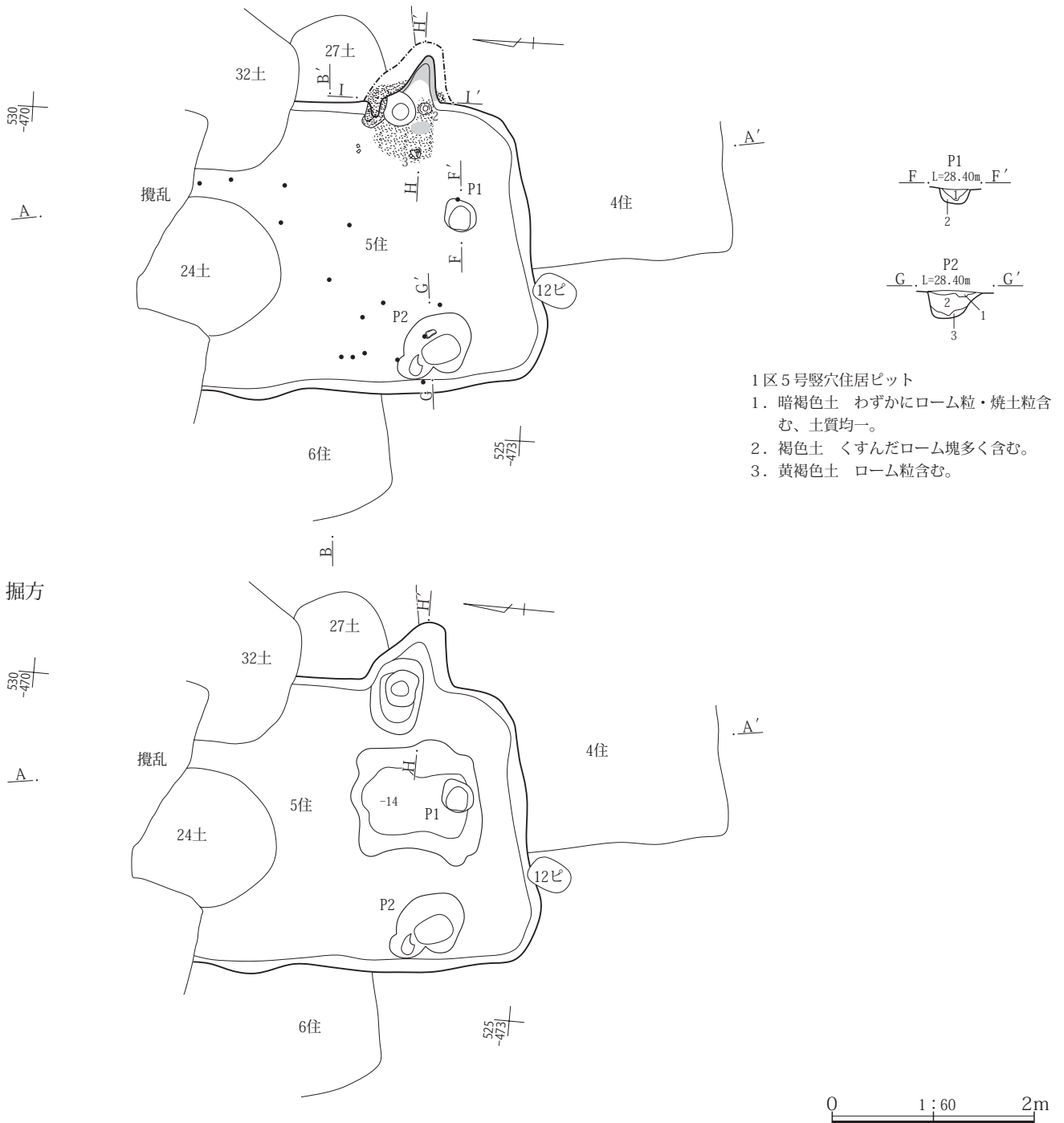
P1 38×30×19 P2 83×62×32

周溝 確認できなかった。

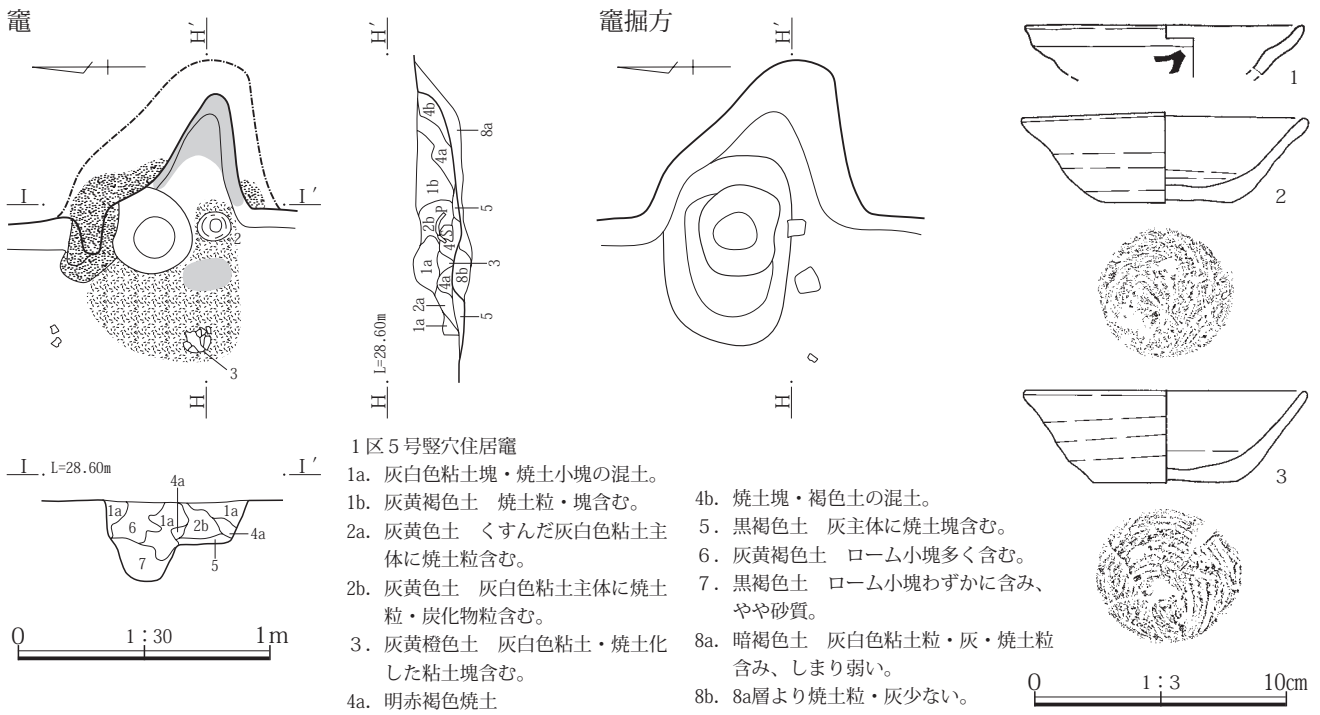
遺物 遺物の出土は少なく、竈内部と竈前から2点の杯

が出土している他は小破片が散在するのみである。掲載したのは土師器杯1点と須恵器杯2点であり、うち1点には墨書がある。2の杯が竈内(底面から4cm上)、3の杯が竈前(床面から2cm上)から出土したものである。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)199g、同(大)331g、須恵器(小)88g、同(大)7点・162gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、10世紀中頃の住居であると考えられる。



第14図 1区5号竪穴住居平面図



第15図 1区5号竪穴住居竪穴断面図、出土遺物

1区6号竪穴住居(第12・16図、第28表、PL.17-1～3, 108)

調査区南西部にあり、4～6号竪穴住居の3軒が重複している。5号住居や土坑、攪乱で一部が壊されているが、それらよりも深かったため、全形を知ることができた。ただし竪穴は32号土坑によって削平され、かろうじて掘方が残る状態であった。

位置 X=30526～530、Y=-36469～474。

重複遺構 1区5号竪穴住居、24・25・26・29・32号土坑と重複している。本遺構が古い。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-79°-E。

規模 長軸3.80m、短軸2.90mである。

床面積 攪乱の部分を復元して計測すると10.01㎡である。

埋没土層 黄褐色土を中心とした土で埋没している。やや不自然な堆積であり、人為的に埋められた可能性が考えられる。

壁高 他の遺構に破壊されているところを除いて24～32cm。

床面 おおむね平坦である。

掘方 全体に床面よりも5～10cm掘っている。底面は細かい凹凸があるが平坦であり、特に深く掘られている部分はない。

竪穴 東壁のやや南寄りに設置している。32号土坑によっ

て削平されていたため、ほぼ掘方部分しか残っていなかったが、竪穴左側には灰黄色粘土が残っており、これが袖の基部であると思われる。長さは左袖基部の先端から計測すると82cmであり、壁外には56cm張り出している。幅は、左袖の外側から炭化物の範囲までを計測すると66cmなので、本来はそれ以上の規模であったはずである。焼土や灰、炭化物が多く見られるので、よく使用されていたものと思われる。

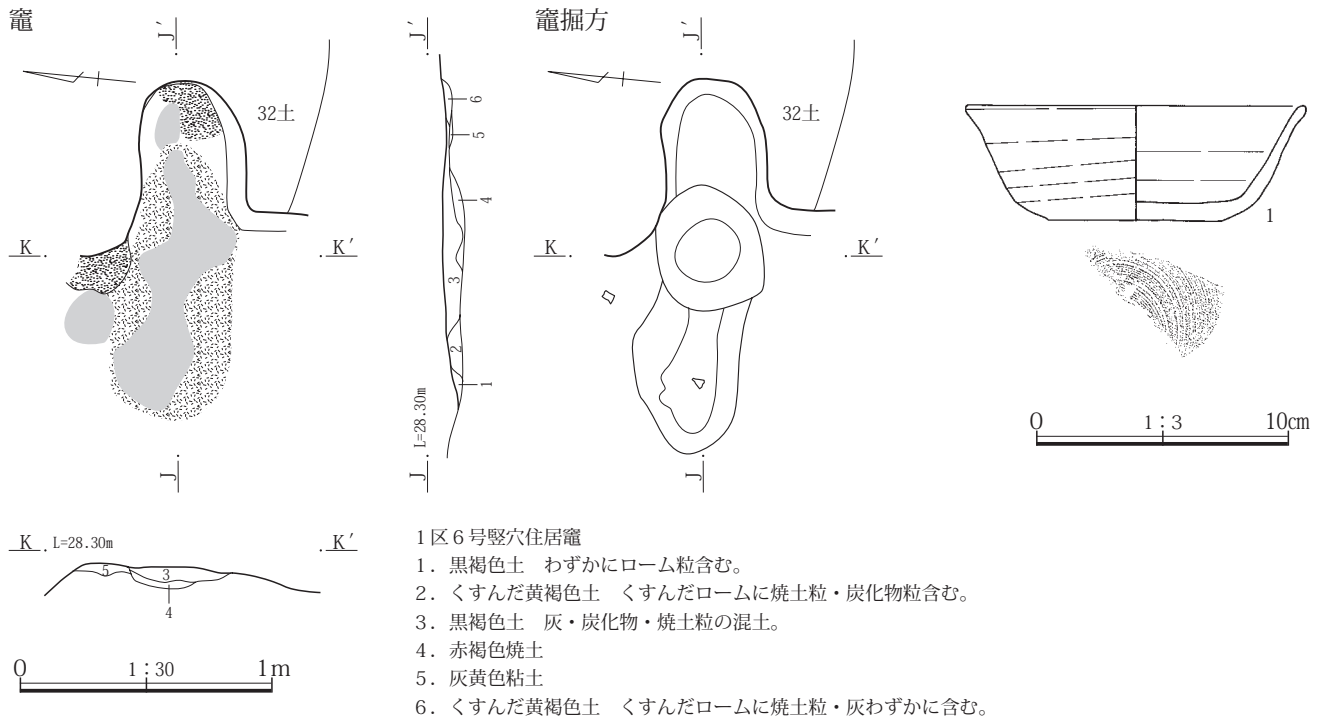
貯蔵穴 住居南東隅に壁をやや広げる形で円形の凹みが掘られているが、浅いので貯蔵穴とは断定しがたい。この凹みの規模は長径80cm、短径69cm、深さは床面から計測して13cmである。

柱穴 確認できなかった。

周溝 北東部に攪乱が入っているためその部分は不明であるが、竪穴部分を除いて全周しているらしい。幅13～38cm、深さ4～8cmの明瞭な周溝である。

遺物 遺物の出土は少ない。掲載したのは須恵器杯1点のみであり、南東隅の凹みの覆土上から出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)105g、同(大)5点・122g、須恵器(小)157gがある。

時期と所見 9世紀後半の住居であると思われるが、遺物が少ないのでそれ以上の詳細な時期は不明である。



第16図 1区6号竈穴住居竈平断面図、出土遺物

1区8号竈穴住居(第17・18図、第28表、PL.17-4・5,18-1,108)

調査区中央の東側にあり、東壁とその周辺が調査区外となる。

位置 X=30545～550、Y=-36475～481。

重複遺構 1区8・9号溝と重複する。本遺構が古い。

形状 東半が調査区外のため断定はできないが、調査区内で調査できた部分から推定して、東西に長い長方形になるものと思われる。

主軸方位 東壁に竈があると推定して計測すると、N-73°-Eである。

規模 長軸は南壁付近で計測して3.93m以上、短軸は3.52mである。

床面積 調査区内の部分で計測すると10.11㎡である。

埋没土層 大部分は褐色土(1層)で一気に埋没しており、人為的埋没の可能性が高い。

壁高 20～33cmだが、調査区壁(C-C'セクション)をみると覆土が最も厚いところで48cm残っている。

床面 おおむね平坦である。

掘方 部分的に深く掘るところがあるが、大部分は浅い。それを埋め戻して床面とする。

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 床面では9基をピットとして調査した。それぞれの計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)。

P 1	30×24×7	P 2	35×32×10
P 3	37×28×37	P 4	44×34×44
P 5	29×28×38	P 6	51×47×10
P 7	49×44×23	P 8	33×25×6
P 9	52×-×6		

これらのうち、P 1、P 2、P 8は位置としては支柱穴のように見えるが、あまりに浅いため柱穴とは考えられない。P 6とP 9も同様である。それ以外の4基(P 3～5、7)は深さがあるが、柱穴とは思えない位置であり、性格不明である。

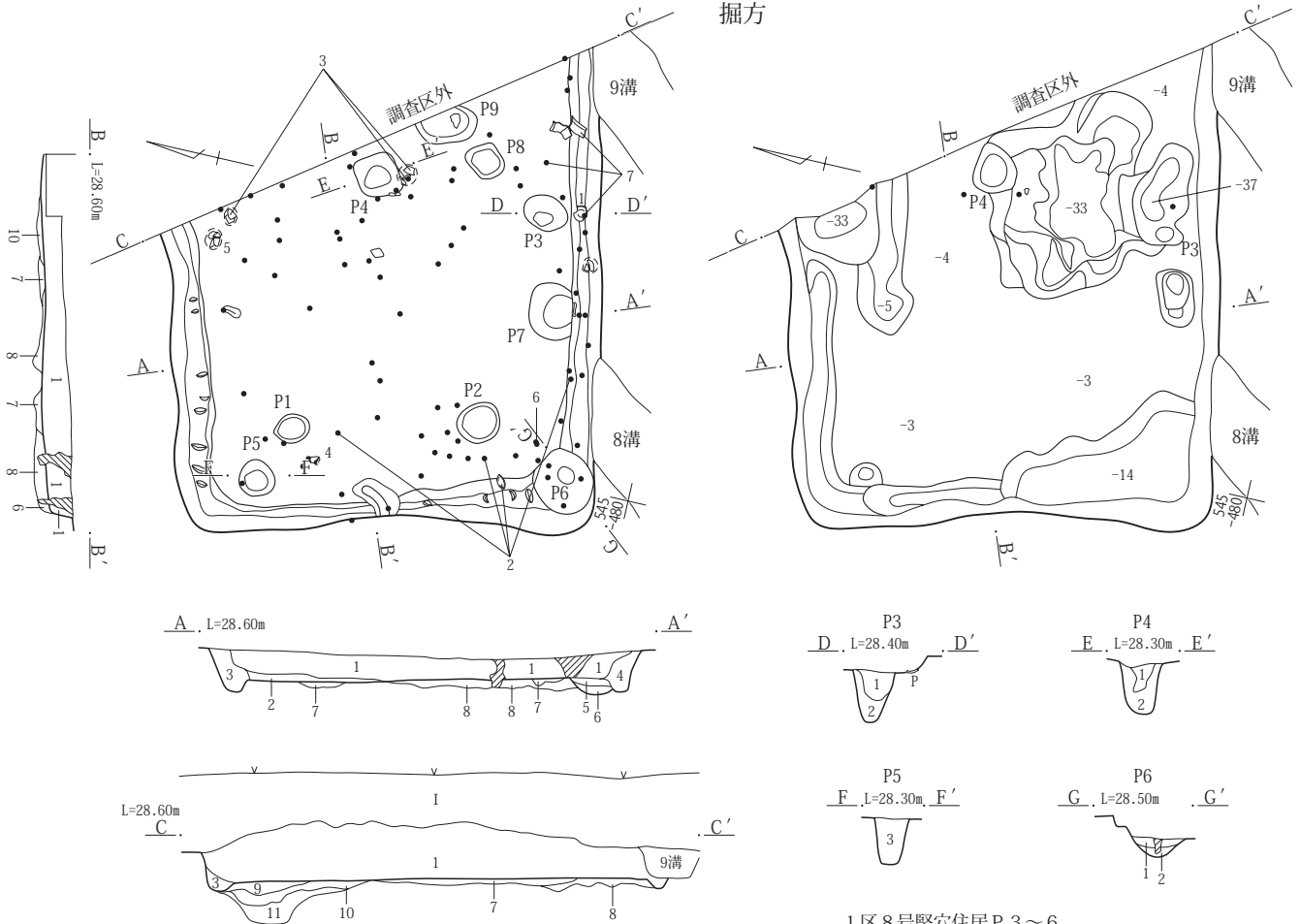
周溝 調査できた範囲では全周している。幅9～22cm、深さ2～11cmの明瞭な周溝である。

遺物 遺物は比較的多く出土したが、大部分は小破片であり住居全体に散在していた。掲載するのは土師器鉢1点、同甕3点、須恵器杯2点(うち墨書1点)、同椀1点である。壁近くからの出土が多く、いずれも床面から数cm浮いた高さから出土している。これらのうち1のみは

10世紀第1四半期のものと考えられ、混入の可能性が高い。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)122g、(大)2,637g、須恵器(小)680g、

同(大)178gがある。

時期と所見 出土遺物と住居の形態から、9世紀第1四半期の住居であると思われる。



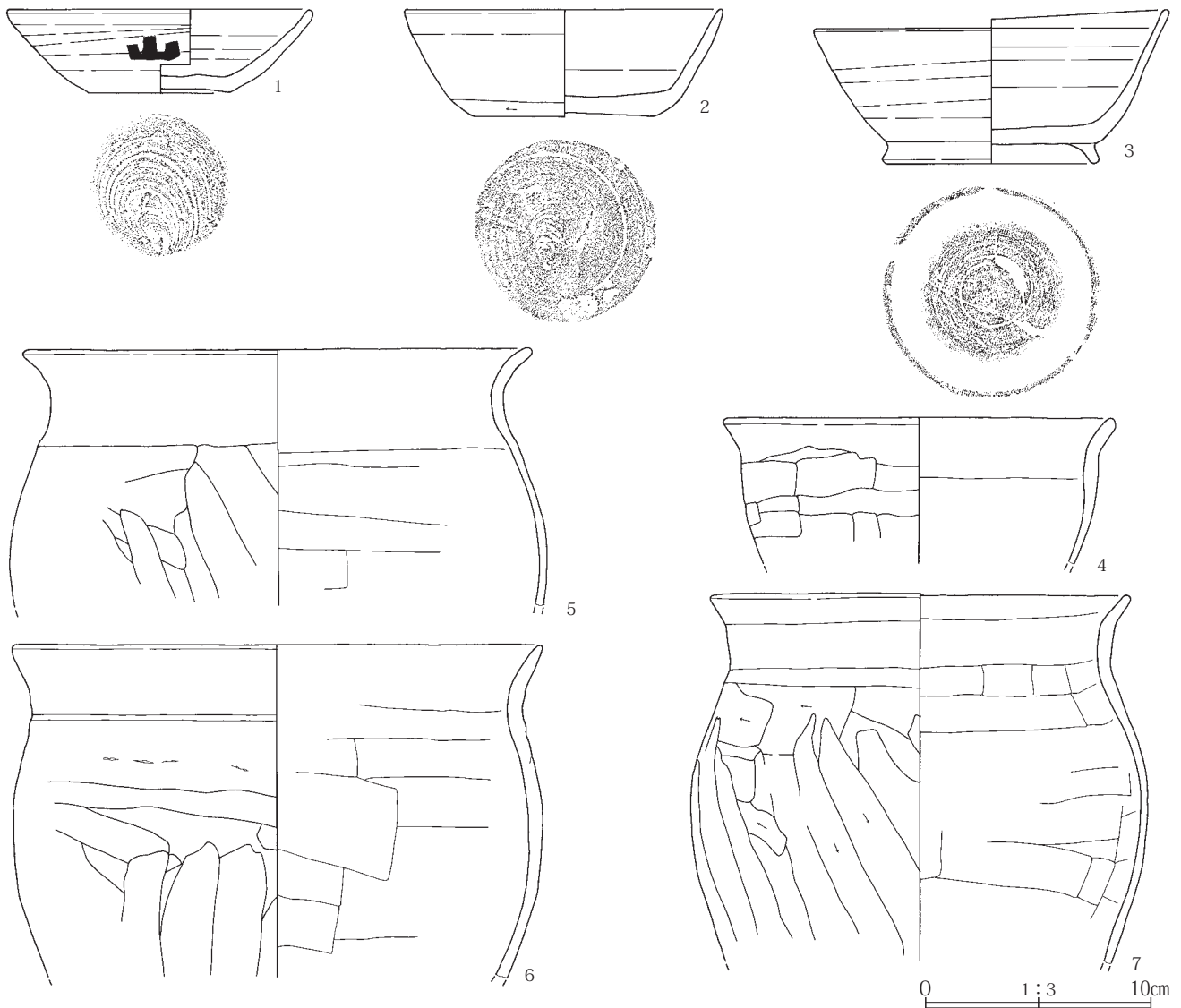
1区8号竪穴住居

1. 褐色土 焼土粒多く含み、ローム小塊含む。
2. くすんだ褐色土 ローム塊多く、焼土粒・炭化物粒含み、しまりややあり。
3. くすんだ褐色土 ローム小中塊主体にローム粒・褐色土多く含む。
4. 暗褐色土 土質均一。
5. くすんだ褐色土 くすんだロームに褐色土含む。P7埋土。
6. くすんだ褐色土 くすんだローム主体にローム小塊わずかに含む。P7埋土。
7. 褐灰色土 ローム小塊含む。以下、掘方。
8. 褐灰色土 ローム塊斑に含み、固くしまる。
9. 褐色土 焼土小塊・褐色土塊含む。
10. 褐灰色土 焼土化した粘土塊。
11. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム小中塊斑に含み、ややしまり弱い。

1区8号竪穴住居P3～6

1. 暗褐色土 ローム小塊含み、粘性ややあり。
2. くすんだ黄褐色土
3. くすんだ褐色土 くすんだローム主体に固いローム塊含み、しまり弱い。

第17図 1区8号竪穴住居平衡面図



第18図 1区8号竪穴住居出土遺物

1区9号竪穴住居(第19図、第28・29表、PL.18-2・3、109)

調査区のほぼ中央にある。他の遺構と切り合っているが、全形は判明する。

位置 X=30543～548、Y=-36483～489。

重複遺構 1区12号竪穴住居、6・7号溝、49・50号土坑と重複する。本遺構が12号竪穴住居より新しく、6・7号溝、49・50号土坑より古い。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-100°-E。

規模 長軸は竈のすぐ北側で計測して4.56m、短軸は中央付近で計測して3.00m。

床面積 6・7号溝で壊された部分を復元して計測すると11.41㎡である。

埋没土層 大部分が褐色土で埋没しており、人為的に埋

められた可能性が高い。

壁高 18～19cm。

床面 おおむね平坦である。

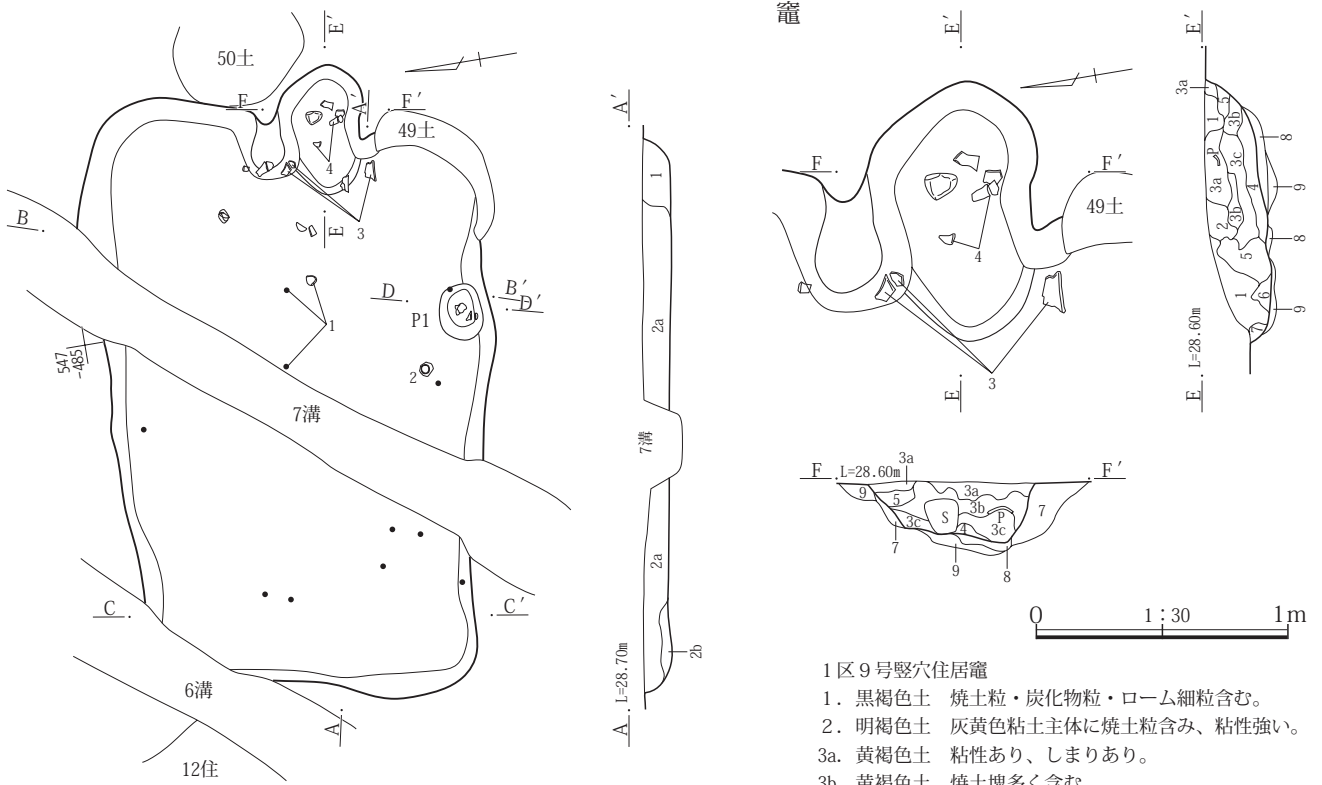
竈 東壁中央やや南寄りに設置している。両袖が残るが、右袖は49号土坑によって外側が削られている。長さ104cm、幅は49号土坑で破壊されている部分を推定復元して118cmである。壁外へは40cm張り出している。本体は灰黄色粘土で構築されていたらしい。燃烧部の底部には明瞭な灰層が残っていた。

貯蔵穴 確認できなかった。

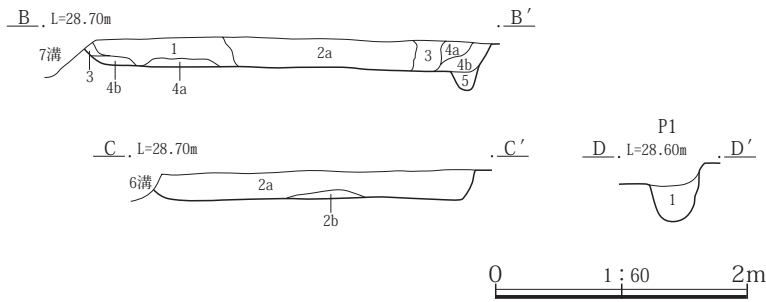
柱穴 明瞭な柱穴は確認できなかったが、南壁際で1基のピットを確認した(P1)。計測値は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)。

P1 44×34×24

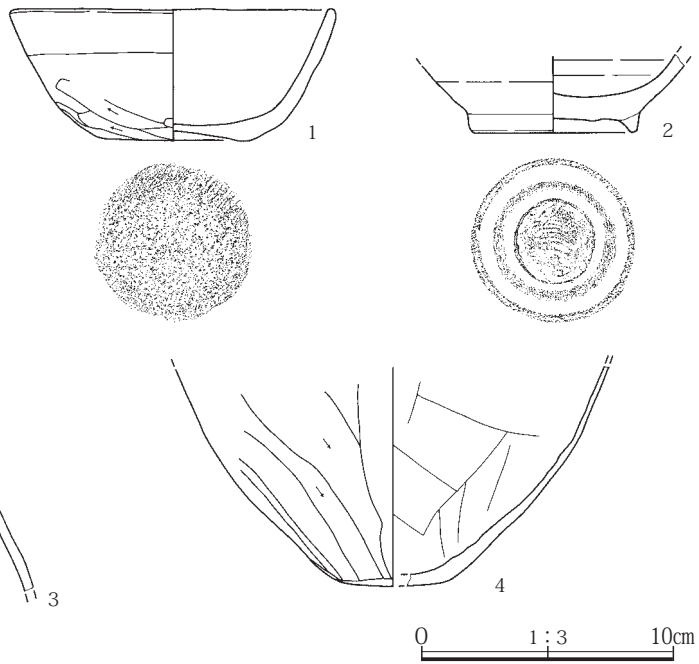
周溝 確認できなかった。



- 1区9号竪穴住居竈
1. 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・ローム細粒含む。
 2. 明褐色土 灰黄色粘土主体に焼土粒含み、粘性強い。
 - 3a. 黄褐色土 粘性あり、しまりあり。
 - 3b. 黄褐色土 焼土塊多く含む。
 - 3c. 黄褐色土 焼土粒・ローム粒含む。
 4. 黄褐色土 ローム粒・焼土塊含む。
 5. 黄褐色土 ローム細粒・焼土粒含み、しまり弱い。
 6. 黄褐色土 ローム塊・褐色土の混土。
 7. 黄褐色土 くすんだローム・褐色土の混土。
 8. 黒色灰層
 9. 褐色土 ローム小塊・焼土粒わずかに含む。



- 1区9号竪穴住居
1. くすんだ黄褐色土 ローム粒斑に含む。
 - 2a. 褐色土 焼土粒多く含み、灰・ローム粒・小塊含む。
 - 2b. 2a層より焼土少なく、粘性あり。
 3. 黄褐色土・褐色土混土 ローム塊多く含む。
 - 4a. 黄褐色土 ローム細粒含み、焼土粒・灰わずかに含む。
 - 4b. 4a層にローム塊多く含む。
 5. 褐色土 ローム粒・炭化粒・焼土粒少量含み、灰黄色粘土塊わずかに含む。P1。



第19図 1区9号竪穴住居平断面図、出土遺物

遺物 遺物は竈内とその前方、南壁のP1とその周辺にやや大きな破片がみられる。掲載したのは土師器杯1点、同甕2点、黒色土器椀1点である。土師器杯は竈前方から、黒色土器椀は南壁際の中央付近から、2点の土師器甕は竈内から出土したが、4は燃焼部中央に、3は両袖の先端付近にあった。いずれも床面からは数cm浮いた高さから出土している。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)259g、同(中)1点・8g、同(大)702g、須恵器(小)310g、同(大)6点・120gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀代4四半期の住居であると思われる。

1区10号竪穴住居(第20図、第29表、PL.18-4・5,109)

調査区中央南寄りにある。北側は土坑、南西側は攪乱によって破壊され、わずかな部分しか調査できなかった。

位置 X=30538~541、Y=-36486~489。

重複遺構 1区47・74~76号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 北と西側の大半が破壊されているため不明だが、竈のある東壁は直線的であり、住居の年代からみて、周囲の住居同様に方形であることは間違いない。

主軸方位 N-94°-E。

規模 周囲の住居と同様に東西に長いと想定して、長軸1.90m以上、短軸1.98m以上。

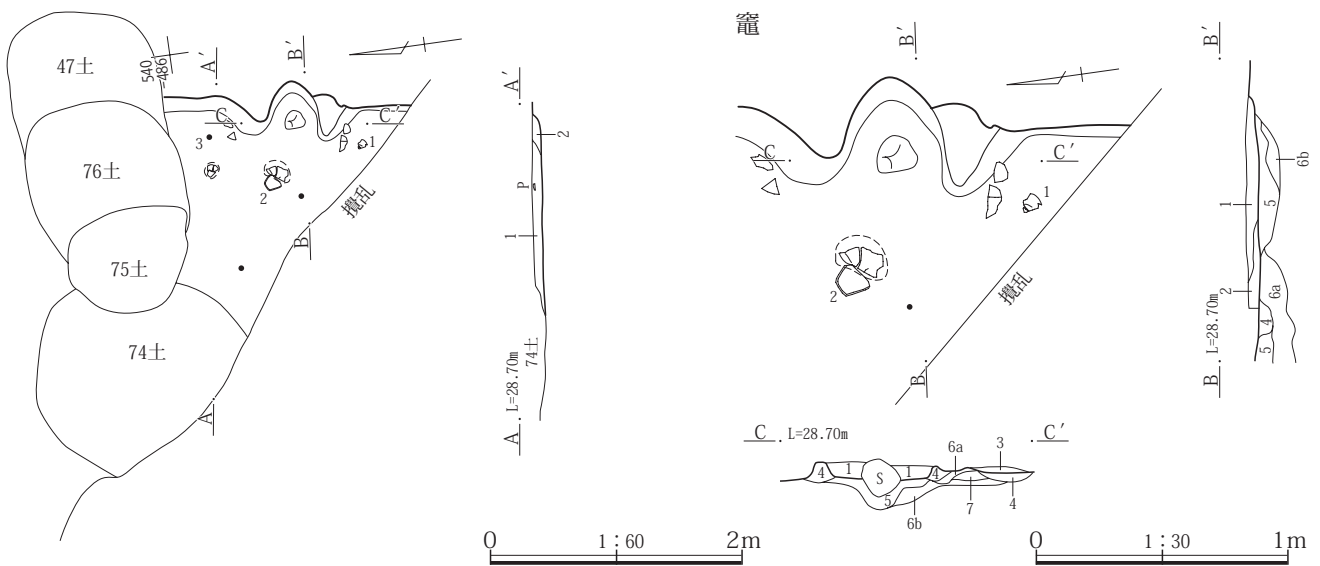
床面積 調査区内の残存部分を計測すると1.74㎡である。

埋没土層 底部近くが残っているだけなので詳細は不明だが、褐色土や黄褐色土で埋没している。

壁高 7~9cmとごく浅い。

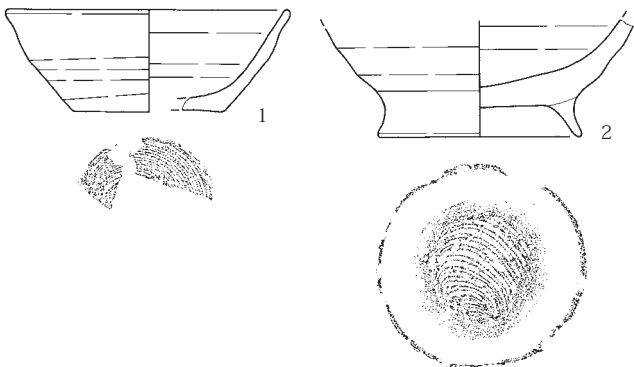
床面 おおむね平坦である。

竈 東壁面に設置。両袖の基部が残る。長さは45cmで、住居外には13cmしか張り出していないがこれは上面が削



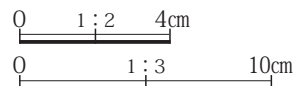
1区10号竪穴住居

1. 褐色土 焼土粒・炭化物粒含み、ローム粒わずかに含む。
2. 黄褐色土 くすんだローム土主体に褐色土含む。



1区10号竪穴住居竈

1. 褐色土 焼土粒・ローム粒含む。
2. にぶい黄褐色土 ローム細粒含み、固くしまる。
3. 黄褐色土 焼土小塊多く含む。
4. ローム粒・黄白色粘土塊の混土、焼土粒含む。
5. ローム小塊・褐色土の混土、焼土粒含む。
- 6a. ローム粒・小塊の混土、焼土粒含む。
- 6b. 6a層より焼土粒多い。
7. 褐灰色土 焼土粒・炭化物粒含む。



第20図 1区10号竪穴住居平断面図、出土遺物

平されているためであろう。幅は袖の外側から計測して110cmである。竈本体は黄白色粘土で構築されていたらしい。焼土・灰・炭化物は比較的少なかった。燃焼部の中央には径15cmの割れた礫が置かれていた。支脚のような役割を果たしたものと思われる。

貯蔵穴 調査できた範囲内には確認できなかった。

柱穴 調査できた範囲内には確認できなかった。

周溝 調査できた範囲内には確認できなかった。

遺物 調査できた範囲が狭いが、竈周辺を中心に遺物が出土している。掲載したのは須恵器杯1点、同椀1点、砥石1点である。いずれも竈の近くから出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)7点・39g、同(大)221g、須恵器(小)4点・16gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、10世紀第2四半期の住居であると思われる。竈周辺のごくわずかな面積しか調査できなかったので詳細は不明である。

1区11号竪穴住居(第21・22図、第29表、PL.18-6～8、109)

調査区の中央付近にある。この付近は溝が多く、本住居もそれによって破壊されているが、全体の形は掴むことができた。

位置 X=30547～551、Y=-36483～488。

重複遺構 1区5～7号溝、90号土坑と重複する。本遺構が古い。

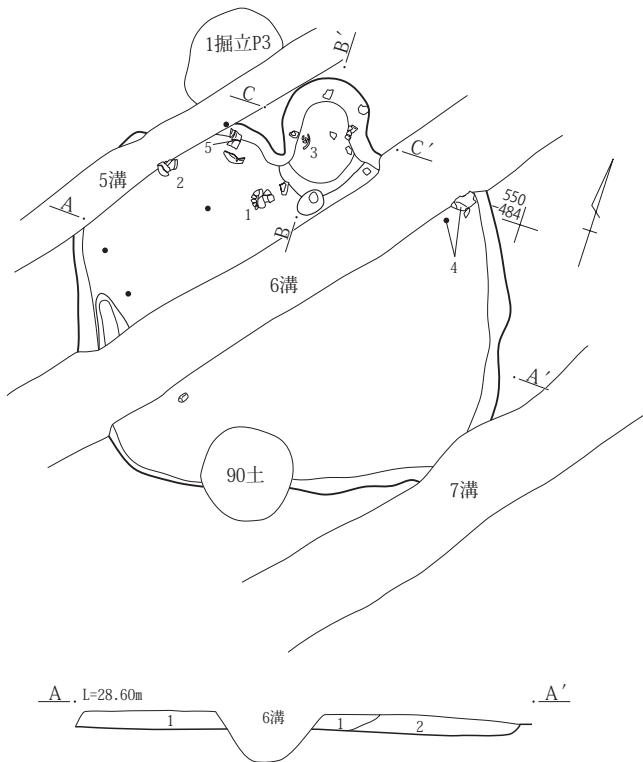
形状 東西にやや長い長方形である。

主軸方位 N-13°-W。

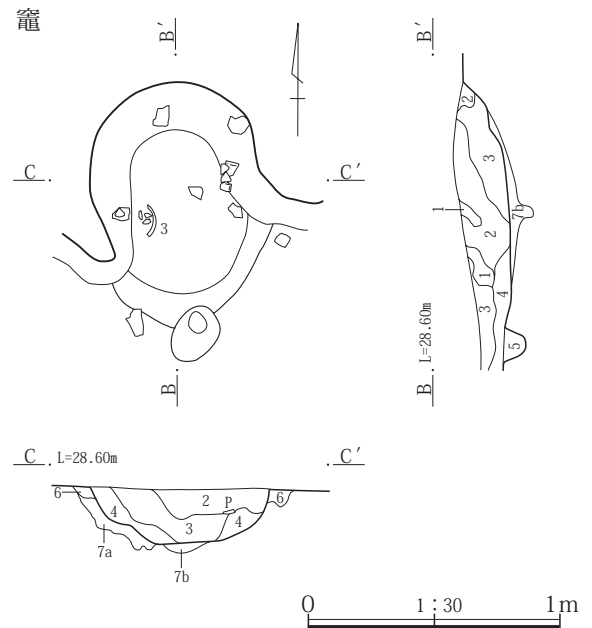
規模 中央付近で計測して長軸は3.44m。短軸は遺構で壊される部分が多いが、竈西側で推定2.90mである。

床面積 溝・土坑で壊されているところも復元して7.65㎡である。

埋没土層 底部付近しか残っていないので浅いが、ローム塊を含むくすんだ褐色土だけで埋没しており、人為的に埋められていると思われる。



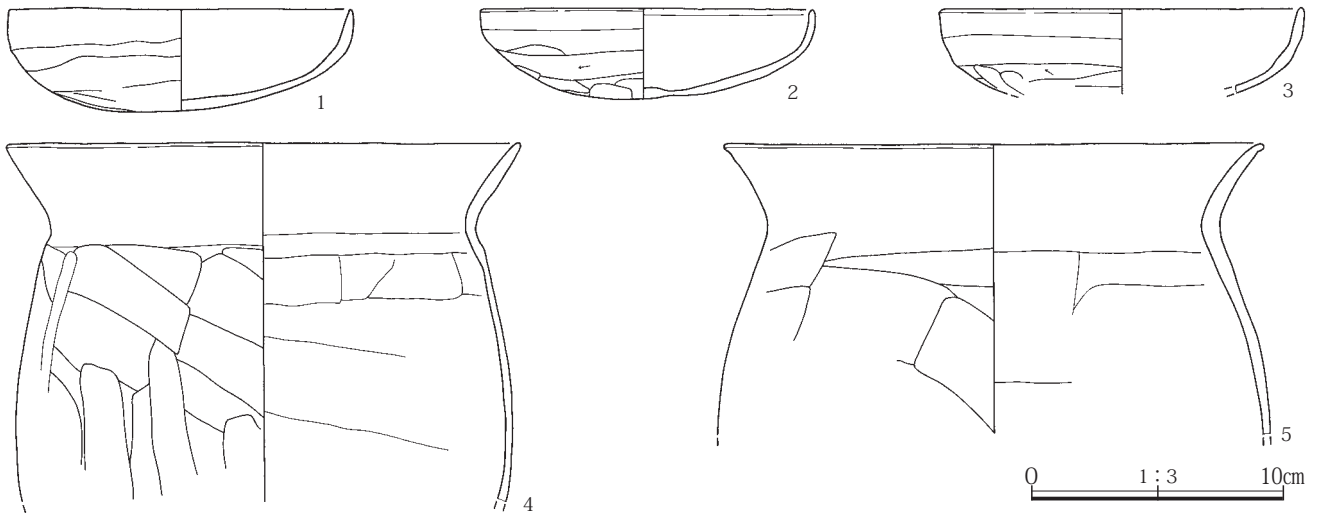
- 1区11号竪穴住居
1. くすんだ褐色土 ローム小塊、焼土粒含む。
 2. 1層よりローム塊大きく斑に含む。



1区11号竪穴住居竈

1. 灰黄色土 灰黄色粘土塊主体、褐色土・焼土粒わずかに含む。
2. 褐色土 灰黄色粘土小塊・焼土塊含む。
3. 褐色土 灰黄色粘土小塊・焼土粒・塊含む。
4. 褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一。
5. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体に焼土小塊含む。
6. くすんだ黄褐色土 ローム塊・焼土粒・灰黄色粒子含む。
- 7a. くすんだ黄褐色土 ローム小塊含み、土質均一。
- 7b. くすんだ黄褐色土 灰黄色土小塊含み、土質均一。

第21図 1区11号竪穴住居平面図



第22図 1区11号竪穴住居出土遺物

壁高 8～13cm。

床面 おおむね平坦である。

竈 北壁中央やや東寄りに設置している。左袖の基部が残っている。長さは97cmで壁外には52cm張り出している。幅は左袖外側から竈中央線までの長さを2倍して104cmに復元できる。竈本体は灰黄色粘土で構築されていたらしい。竈内に焼土・灰・炭化物は少ない。

貯蔵穴 確認できなかったが、6号溝で破壊されている可能性がある。

柱穴 確認できなかった。

周溝 明瞭な周溝は確認できなかったが、西辺中央付近にはその痕跡のような凹みがわずかにみられる。

遺物 竈と、北壁近くにやや大きな破片が集中している。掲載したのは土師器杯3点、同甕2点である。杯は竈内(3)と竈左側(1・2)から出土している。5の甕は竈左の壁際から、4は住居北東隅から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)88g、同(大)478g、須恵器(小)5点・23g、同(大)2点・14gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第3四半期の住居であると思われる。

1区12号竪穴住居(第23～25図、第29表、PL.19-1～4、109)

調査区中央やや西寄りにあり、今回の調査の中では比較的大型の住居である。5本の溝や住居・土坑と重複するほか、南西部を攪乱によって破壊されている。

位置 X=30542～548、Y=-36486～494。

重複遺構 1区9号竪穴住居、3～7号溝、108号土坑と重複し、108号土坑より新しく、その他より古い。

形状 南西部を攪乱で破壊されるが、調査できた範囲の形状からみて方形になるものと思われる。ただし、北西の壁の方向が北東壁と直角になっておらずかなり開いているため、歪んだ形状である。

主軸方位 かなり歪んだ形なので、主軸方位を決めることは困難である。竈の中心線の方向はN-26°-W、北東壁の方向はN-35°-Wであり、その差は9°ある。後者の方向が後述する柱穴の方向に近い。

規模 北西-南東方向は竈のすぐ西側で計測して6.20mである。それに直交する方向は4.80m以上である。

床面積 溝で壊された部分を推定復元し、調査できた範囲を計測すると24.10㎡である。

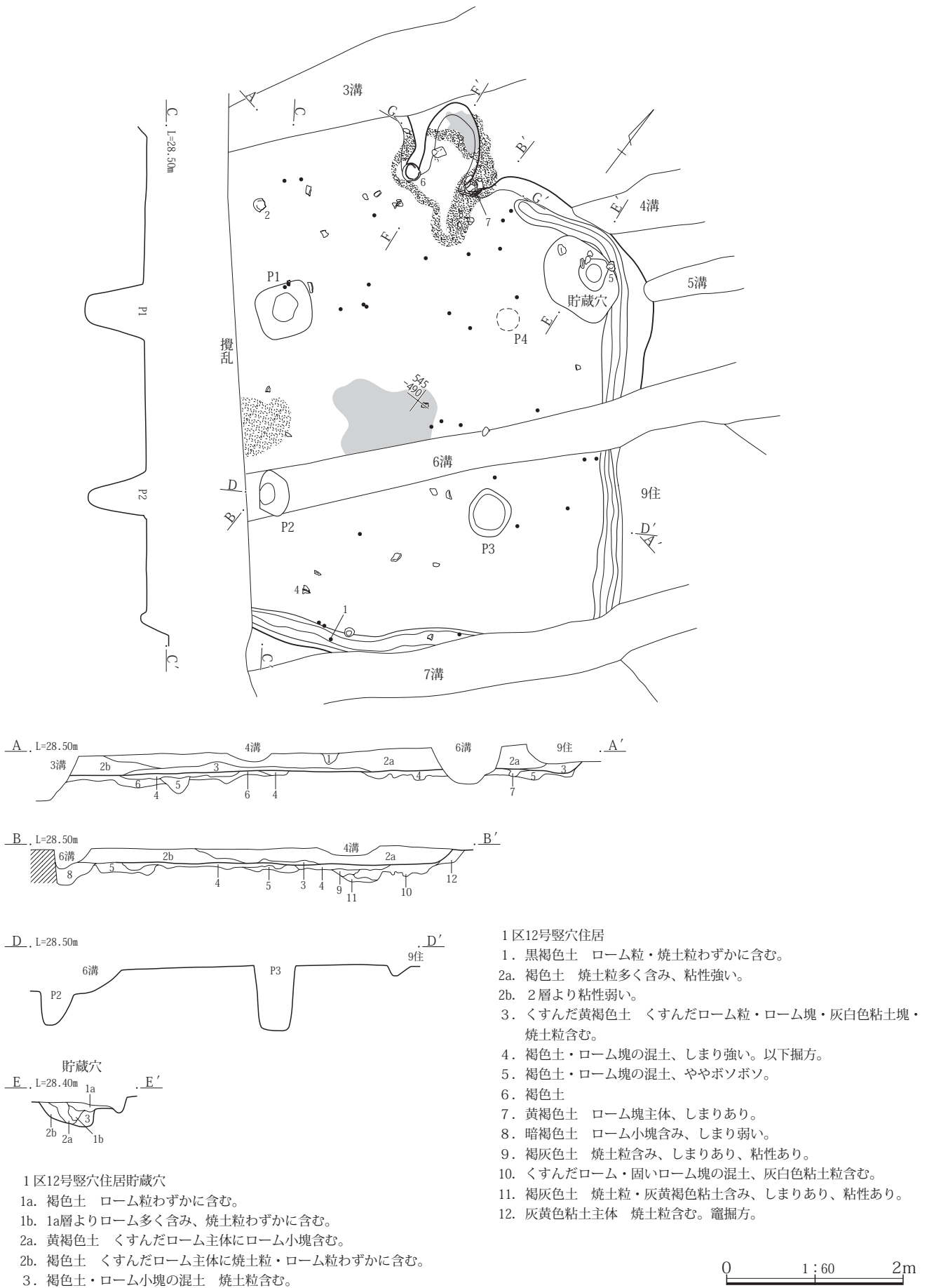
埋没土層 大部分が褐色土で埋没している。

壁高 他の遺構と重複していないところで計測すると、26～33cmである。

床面 おおむね平坦である。中央部には焼土、炭化物・灰が散った部分がある。

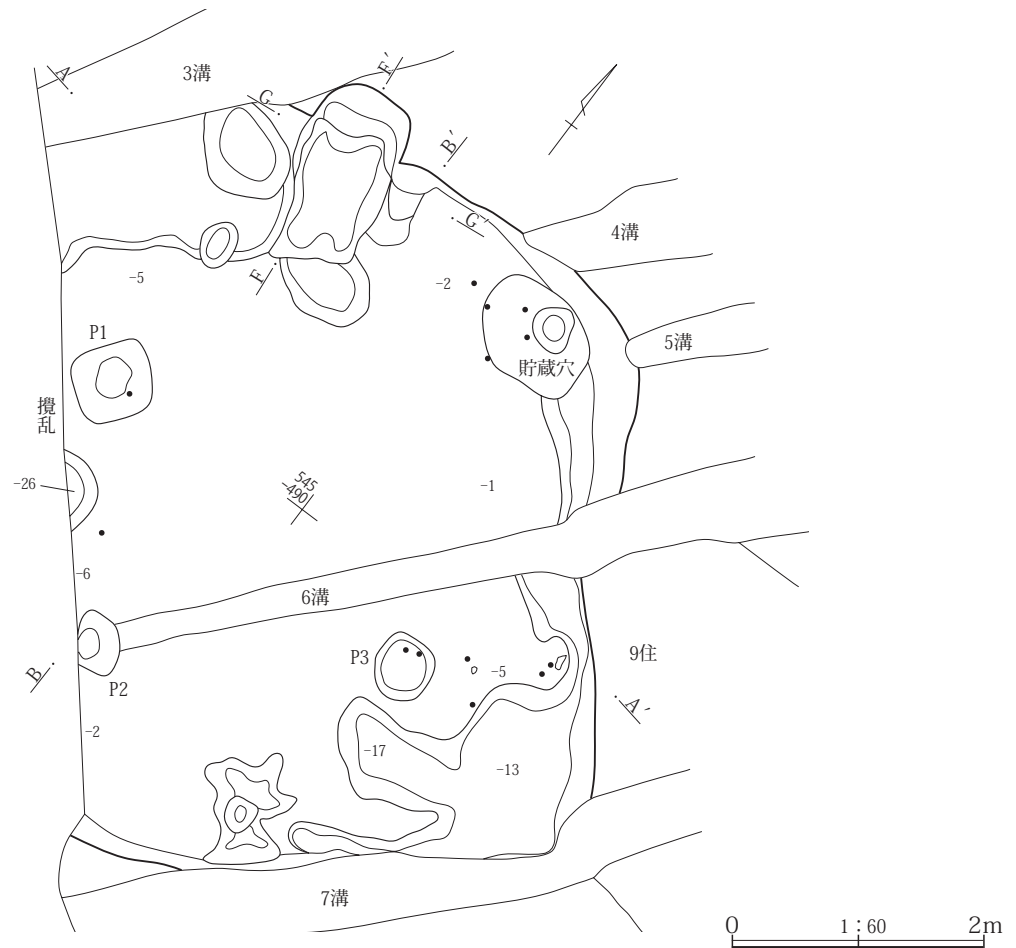
掘方 全体に浅いが、南東隅や竈付近など、やや深い部分もある。それらを褐色土や黄褐色土などで埋め戻して床面とする。

竈 北西壁に設置している。両袖が比較的良好に残り、先端には芯材と思われる土師器甕が残っていた。左側は甕の上半部(6)が倒立した状態で残っていたが、右側は倒れて壊れた状態(7)であった。本体は灰黄色粘土で構



第23図 1区12号竪穴住居平衡面図

掘方



第24図 1区12号竪穴住居掘方平面図

築されている。燃烧部には支脚と思われる細長い礫が、左袖に寄りかかるような状態で残っていた。竈の長さは甕の先端から計測して99cmである。竈周辺の壁の位置が分からないので、壁外にどれくらい張り出しているかは不明であるが、30cm程度と短いようである。幅は袖の外側を計測して133cmである。焼土、炭化物、灰が多く見られ、よく使用されていたらしい。

貯蔵穴 北隅にある。方形に近い不整な楕円形で、長径105cm、短径75cmである。断面も整った形状ではなく、深さはピット状に深い部分で89cmもあるが、それ以外は20cm程度である。

柱穴 床面ではP1～3の3本のピットを確認した。位置からみてこれらが支柱穴であると思われる。そうすると北側の1本がないことになるが、ちょうどその位置には本遺構よりも古い108号土坑が重複しており、調査時にはピットが認識できないまま土坑を掘り下げてしまったために、ピットがなくなってしまったのだと思われる。本来は破線で示した位置の付近にP4が存在したものと

考えられる。P1～3の大きさは以下の通り(長径×短径×深さ、cm)。

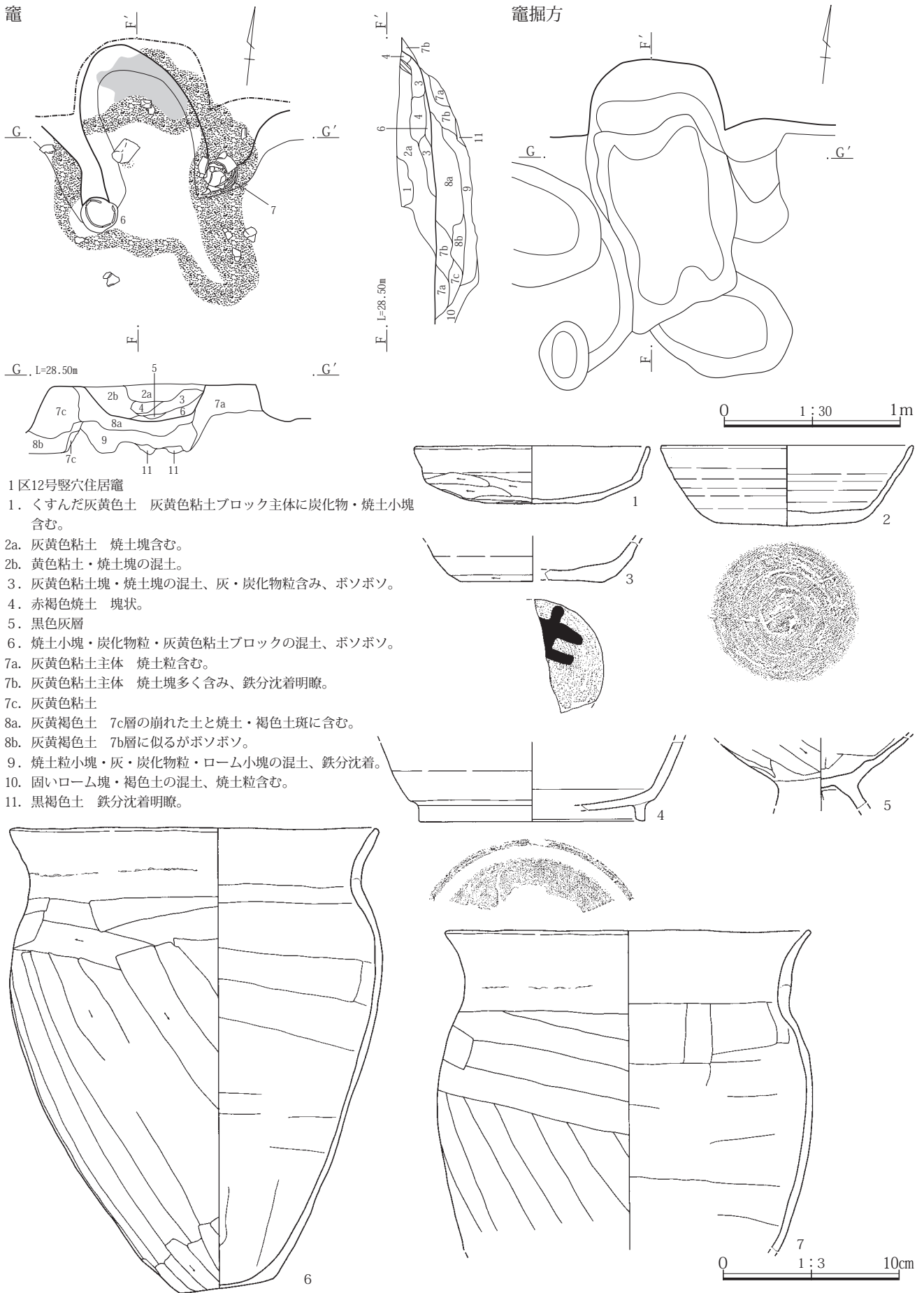
P1 74×59×68 P2 53×33×67

P3 55×46×71

周溝 竈部分を除いて全周する。幅12～37cm、深さ3～11cmである。

遺物 遺物は全体に散在していた。掲載するのは土師器杯1点、同台付甕1点、同甕2点、須恵器杯2点(墨書1点)、同椀1点である。1の土師器杯と4の須恵器椀は南東壁際から、2の須恵器杯は北西部から、それぞれ床面から18～35cm浮いた高さから出土している。土師器甕のうち6は竈左袖、7は右袖の先端部に据えられていた。5の土師器台付甕は貯蔵穴の埋土上にあった。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)288g、同(中)1点・45g、同(大)3,011g、須恵器(小)628g、同(大)7点・200gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第3四半期の住居であると思われる。



1区12号竪穴住居竪

1. くすんだ灰黄色土 灰黄色粘土ブロック主体に炭化物・焼土小塊含む。
- 2a. 灰黄色粘土 焼土塊含む。
- 2b. 黄色粘土・焼土塊の混土。
3. 灰黄色粘土塊・焼土塊の混土、灰・炭化物粒含み、ボソボソ。
4. 赤褐色焼土 塊状。
5. 黒色灰層
6. 焼土小塊・炭化物粒・灰黄色粘土ブロックの混土、ボソボソ。
- 7a. 灰黄色粘土主体 焼土粒含む。
- 7b. 灰黄色粘土主体 焼土塊多く含み、鉄分沈着明瞭。
- 7c. 灰黄色粘土
- 8a. 灰黄褐色土 7c層の崩れた土と焼土・褐色土斑に含む。
- 8b. 灰黄褐色土 7b層に似るがボソボソ。
9. 焼土粒小塊・灰・炭化物粒・ローム小塊の混土、鉄分沈着。
10. 固いローム塊 褐色土の混土、焼土粒含む。
11. 黒褐色土 鉄分沈着明瞭。

第25図 1区12号竪穴住居竪断面図、出土遺物

1区13号竪穴住居(第26図、第29表、PL.19-5,20-1,109)

調査区中央やや北西寄りにある。北西隅を溝と攪乱に破壊されている以外は比較的残りがよい。

位置 X=30555~559、Y=-36490~495。

重複遺構 北西隅に1区2号溝が重複する。本遺構が古い。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-18°-W。

規模 中央付近で計測して長軸3.86m、短軸2.94mである。

床面積 北西隅の破壊された部分を推定復元して計測すると9.68㎡である。

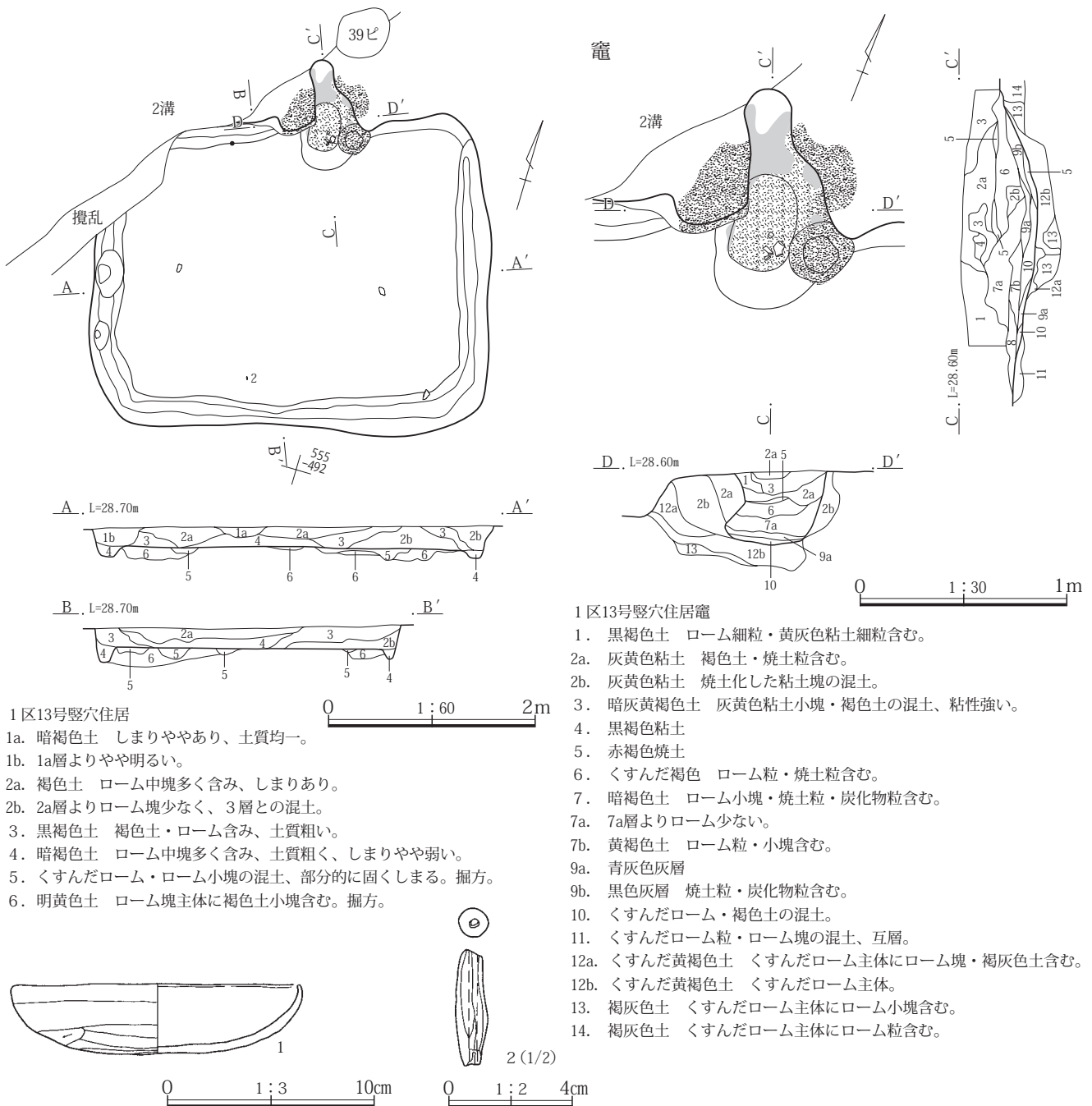
埋没土層 複雑な様相を示すので、数方向から人為的に埋められたものと考えられる。

壁高 13~26cm。

床面 中央部分は地山を床面とする。おおむね平坦。

掘方 周辺部をやや深く掘っている。それをローム土を多く含む土で埋め戻して床面としている。

竈 北壁中央やや東寄りに設置している。左袖の基部が残るが、右袖は痕跡程度である。本体は灰黄色粘土で構



- 1区13号竪穴住居
- 1a. 暗褐色土 しまりややあり、土質均一。
 - 1b. 暗褐色土 しまりやや明るい。
 - 2a. 褐色土 ローム中塊多く含み、しまりあり。
 - 2b. 2a層よりローム塊少なく、3層との混土。
 3. 黒褐色土 褐色土・ローム含み、土質粗い。
 4. 暗褐色土 ローム中塊多く含み、土質粗く、しまりやや弱い。
 5. くすんだローム・ローム小塊の混土、部分的に固くしまる。掘方。
 6. 明黄色土 ローム塊主体に褐色土小塊含む。掘方。

- 1区13号竪穴住居竈
1. 黒褐色土 ローム細粒・黄灰色粘土細粒含む。
 - 2a. 灰黄色粘土 褐色土・焼土粒含む。
 - 2b. 灰黄色粘土 焼土化した粘土塊の混土。
 3. 暗灰黄褐色土 灰黄色粘土小塊・褐色土の混土、粘性強い。
 4. 黒褐色粘土
 5. 赤褐色焼土
 6. くすんだ褐色 ローム粒・焼土粒含む。
 7. 暗褐色土 ローム小塊・焼土粒・炭化物粒含む。
 - 7a. 7a層よりローム少ない。
 - 7b. 黄褐色土 ローム粒・小塊含む。
 - 9a. 青灰色灰層
 - 9b. 黒色灰層 焼土粒・炭化物粒含む。
 10. くすんだローム・褐色土の混土。
 11. くすんだローム粒・ローム塊の混土、互層。
 - 12a. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊・褐色土含む。
 - 12b. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体。
 13. 褐灰色土 くすんだローム主体にローム小塊含む。
 14. 褐灰色土 くすんだローム主体にローム粒含む。

第26図 1区13号竪穴住居平面図、出土遺物

築され、燃焼部では天井部に続くカーブが一部残っていた。長さは燃焼部の凹みの先端から計測して107cm、幅は袖基部の外側を計測して113cmである。燃焼部の底には焼土、炭化物、灰が多く残り、よく使用されていたものと思われる。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 竈部分と、竈の東側とを除いて全周する。幅12～21cm、深さ5～15cmである。

遺物 出土した遺物は少ない。掲載するのは土師器杯1点と土錘1点のみである。杯は竈燃焼部の底面から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)97g、同(大)310g、須恵器(小)5点・35g、同(大)3点・92gがある。

時期と所見 出土遺物が少ないので詳細な時期は不明だが、8世紀後半の住居であると思われる。

1区14号竪穴住居(第27・28図、第29・30表、PL.20-2・4～7,110)

調査区中央やや北西寄りにある。南東隅を溝にわずかに破壊されているだけで残りがよい。

位置 X=30552～556、Y=-36499～504。

重複遺構 1区18号竪穴住居、2号溝と重複する。本遺構が2号溝より古く、18号竪穴住居より新しい。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-80°-E。

規模 中央付近で計測して、長軸4.08m、短軸3.22mである。

床面積 11.07㎡

埋没土層 大部分は暗褐色土で埋没している。

壁高 比較的高く、28～38cmある。

床面 北西部を中心として地山を床面としている。おおむね平坦である。

掘方 竈近くと南壁際をやや深く掘っているのみであり、その他は地山が直接床面となっている。

竈 東壁の南寄りに設置している。袖はなく、壁に掘り込んだ煙道部分のみが残っていた。本体は灰黄褐色粘土で構築されていたらしいが、壁内の部分は完全に破壊されたものと思われる。現状での長さは46cm、幅は56cmである。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 西半のみで確認できた。幅18～26cm、深さ5～12cmである。

遺物 遺物は全体に散在していた。掲載するのは須恵器杯1点、黒色土器杯4点(墨書3点)、鉄鎌1点である。杯は5点とも中央から北東部にかけて、床面から6～15cm浮いた高さから大きな破片のままで出土した。中央やや南の床面には土師器製の破片が数多くみられたが、ある程度の大きさまでには復元できなかったのが掲載していない。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)181g、同(中)1点・7g、同(大)1,375g、須恵器(小)238g、(大)5点・225gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第4四半期の住居であると思われる。

1区18号竪穴住居(第27・29図、第30表、PL.20-3・4・8、21-1,110)

調査区中央やや北西寄りにある。14号住居に南西部分を破壊されている。

位置 X=30554～557、Y=-36498～503。

重複遺構 1区14号竪穴住居と重複し、本遺構が古いが、床面の高さがほとんど同じであるため、重複部分には18号竪穴住居の床面が部分的に残っている状態である。

形状 南西側の壁が壊されているので確実ではないが、その他の部分の形状から、東西に長い長方形であることは確実である。

主軸方位 N-78°-E。

規模 長軸は北壁近くで計測して3.20m、短軸は東壁近くで計測して2.63mである。

床面積 全体の形状が長方形だと想定し、14号住居で破壊されている部分を復元して計測すると6.47㎡である。

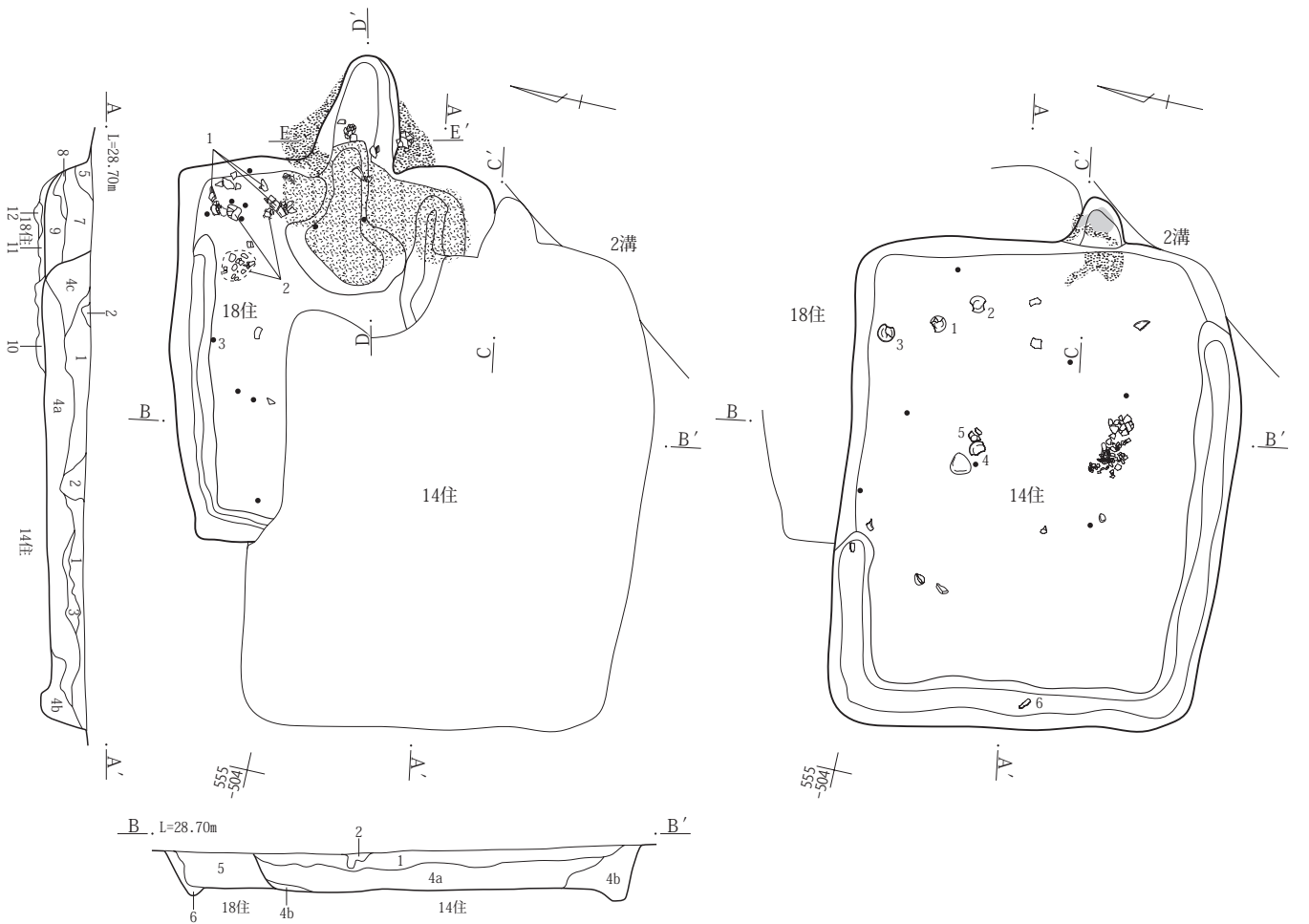
埋没土層 暗褐色土や灰黄褐色土などで埋没している。竈近くには床面に黒色の灰層が堆積し、それは最も厚いところで15cmにも及んでいる。

壁高 28～34cm。

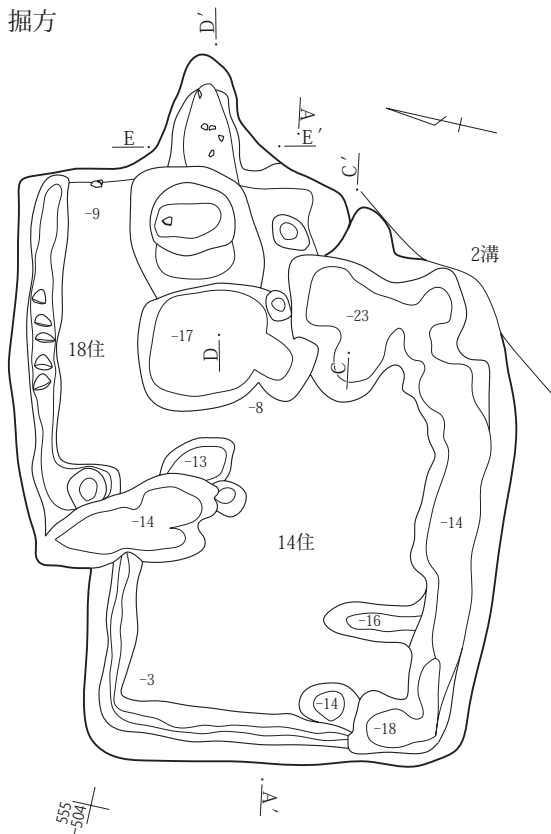
床面 おおむね平坦。

掘方 竈前や北西隅付近を10～30cm程度深く掘っているほかは、10cm以下と浅い。

竈 東壁の中央やや南寄りにある。明瞭な袖はなく、壁



掘方



- 1 区14・18号竪穴住居
1. 暗褐色土 ローム小塊少し含む。以下4c層まで14号住居覆土。
 2. 黒褐色土 しまり弱く、土質均一。
 3. 暗褐色土 固いローム中大塊多く含み、しまり強い。
 - 4a. 暗褐色土 上部にローム粒・下部にローム中塊含む。
 - 4b. 4a層よりやや暗く、ローム粒・塊も少なく、4a層よりしまり弱い。
 - 4c. 4a層よりやや明るく、ローム粒・小塊を少し含む。
 5. 暗褐色土 ローム粒・小塊わずかに含み、しまりやや弱く、土質均一。以下10層まで18号住居覆土。
 6. 褐色土 焼土塊・ローム粒含む。
 7. 灰黄褐色土 灰黄褐色粘土主体に6層少し含む。
 8. にぶい黄褐色土・7層の混土。
 9. 黒色灰層
 10. 暗褐色土 固いローム塊多く含む。
 11. 褐色土 灰黄褐色粘土含み、しまりやや弱い。18号住居掘方。
 12. 褐灰色土 しまり弱い。18号住居掘方。

0 1:60 2m

第27図 1区14・18号竪穴住居平断面図

に掘り込んだ部分のみが残っていた。本体は灰黄褐色粘土を用いて構築されていたらしい。長さ105cm、幅は住居壁の部分で66cmであり、壁からは90cm張り出している。竈内から竈前にかけて灰と炭化物の層が広く堆積している。

貯蔵穴 確認できなかった。

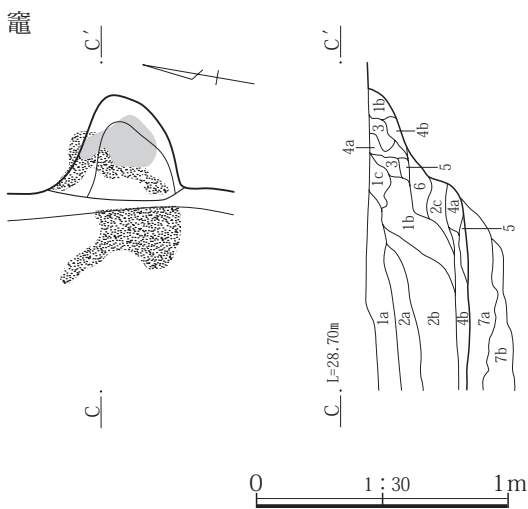
柱穴 確認できなかった。

周溝 北辺から西辺にかけて確認できた。幅11～20cm、深さ2～8cmである。南辺近くにも溝状の凹みがみられる。

が、壁から離れているため、周溝ではないと思われる。

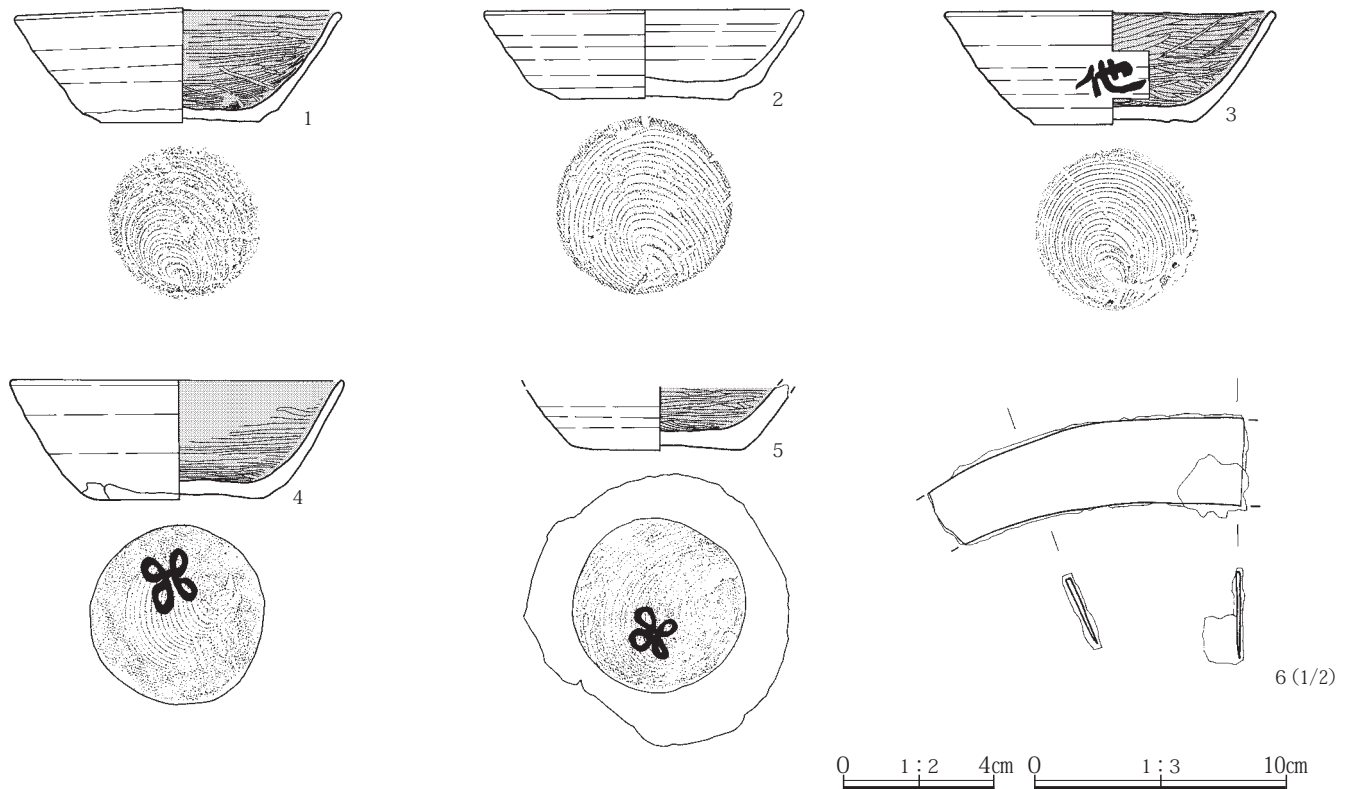
遺物 竈から北東隅付近にかけて散布している。掲載するのは土師器甕2点、敲石1点である。甕はいずれも北東隅の床面直上(一部は2～3cm浮いていた)で、敲石は北壁際中央の床面直上で出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)51g、同(大)854g、須恵器(小)190g、同(中)122gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居であると思われる。



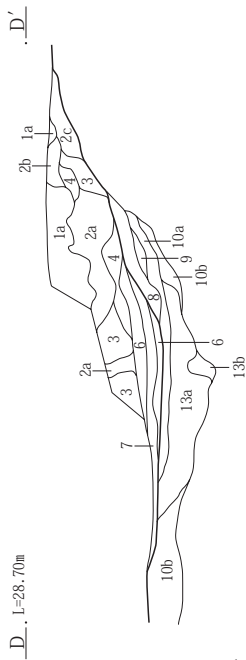
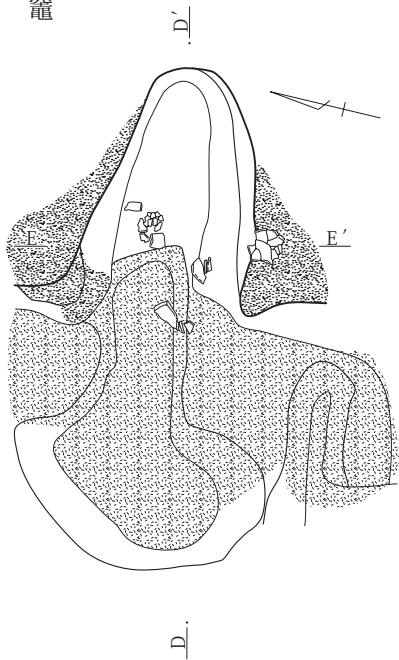
1区14号竪穴住居竈

- 1a. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少し含む。
- 1b. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少し含む、1a層よりしまり弱い。
- 1c. 暗褐色土 焼土中塊多く含む、焼土粒・ローム粒・灰黄褐色粘土少し含む。
- 2a. 暗褐色土 ローム粒・小塊・焼土小塊を少し含む、1a層より少し明るい。
- 2b. 暗褐色土 ローム粒・小塊少し含む、焼土粒わずかに含む。2a層より暗く1a～c層より若干明るい。
- 2c. 暗褐色土 くすんだローム粒少し含む、しまり弱い。
- 3. 赤褐色土 焼土主体。
- 4a. 灰黄褐色粘土
- 4b. 灰黄褐色粘土・2c層・灰の混土、4a層より暗い。
- 5. にぶい黄橙色土 灰黄色粘土主体にローム塊を多く含む。
- 6. 褐色土 くすんだローム多く含む、焼土ブロック・灰含む。
- 7a. 暗褐色土 くすんだローム含む。
- 7b. 暗褐色土 ローム粒・中塊多く含む、7a層よりやや明るい。

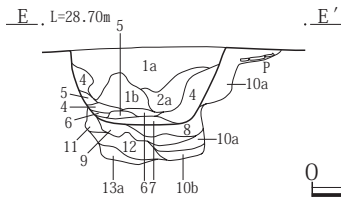
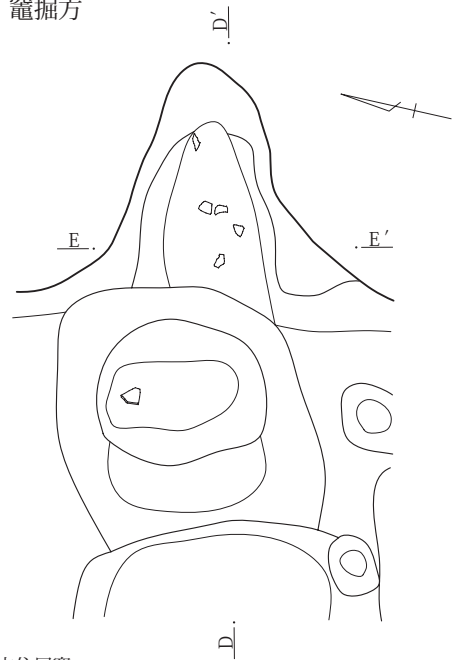


第28図 1区14号竪穴住居竈平面図、出土遺物

竈



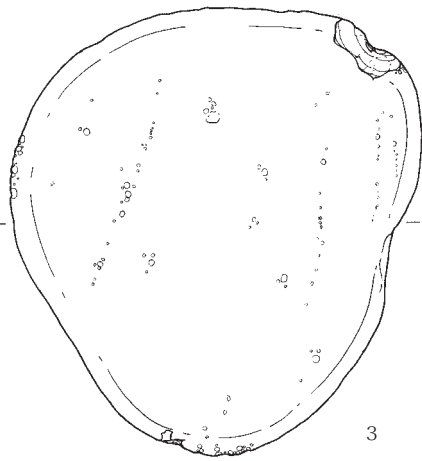
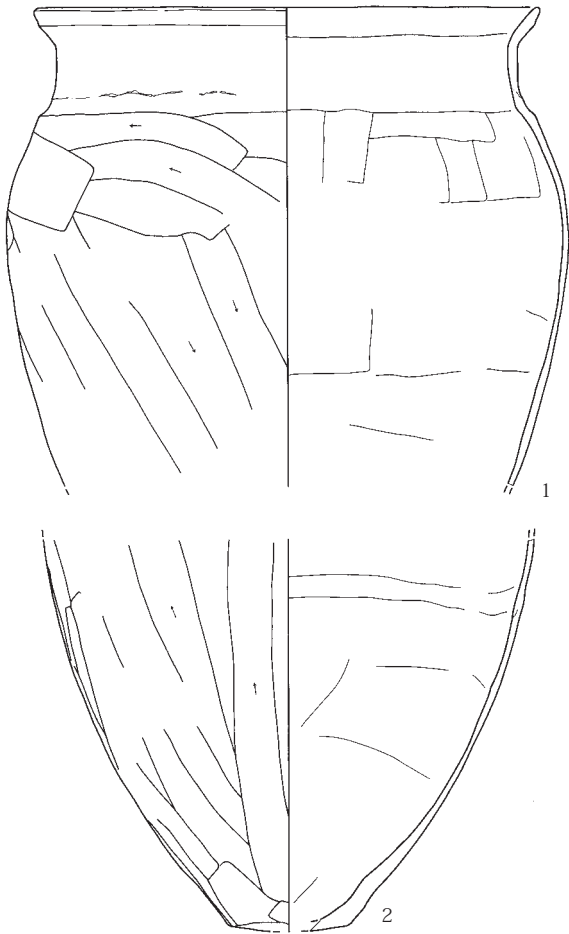
竈掘方



0 1:30 1m

1区18号竈穴住居竈

- 1a. 褐色土 ローム粒・焼土粒わずかに含み、しまり強い。
- 1b. 1a層よりも灰黄褐色粘土多く、やや明るい。
- 2a. 灰黄褐色土 褐色土・灰黄褐色粘土の混土、ローム粒・塊・焼土粒含む。
- 2b. 灰黄褐色土 灰黄褐色粘土主体に1a層・焼土粒少し含み、しまり強い。
- 2c. 灰黄褐色土 焼土粒・小塊多く含み、固くしまる。
- 3. 褐色土 ローム粒・小塊・焼土粒含み、土質やや粗くもろい。
- 4. 灰黄褐色粘土
- 5. 赤褐色焼土
- 6. 黒色灰層
- 7. 黒褐色土 6層と2a層の混土、焼土塊多く含む。
- 8. 暗褐色土 7層より灰少なく、やや明るい。
- 9. 焼土塊・灰黄色粘土の混土。
- 10a. 明黄褐色土 ローム主体。
- 10b. 明黄褐色土 固いローム含む。
- 11. にぶい黄褐色土 くすんだローム主体、しまりやや強い。
- 12. 暗褐色土 灰・焼土粒・粘土粒含む。
- 13a. 灰黄褐色土 固いローム塊多く含み、しまり強い。
- 13b. 暗褐色土 固いローム塊多く含み、しまり強い。



0 1:3 10cm

第29図 1区18号竈穴住居竈平断面図、出土遺物

1区15号竪穴住居(第30～35図、第30～32表、PL.21-2～5,22-1～4,110,111)

調査区北西部の中央にある。覆土の中層に炭化物、焼土が堆積しており、その上層から多くの遺物が出土した。

位置 X=30557～562、Y=-36499～506。

重複遺構 なし。

形状 東西に長い長方形。東壁1号竈の南に柵状の段差がある。

主軸方位 東壁の1号竈の方向を主軸として、N-85°-Eである。

規模 長軸は中央付近で計測して、4.95mであり、東辺南東隅近くの柵状部分が掛かるように計測すると、5.50mである。短軸は中央付近で計測して3.81mである。

床面積 柵状部分を除外して、14.42m²である。

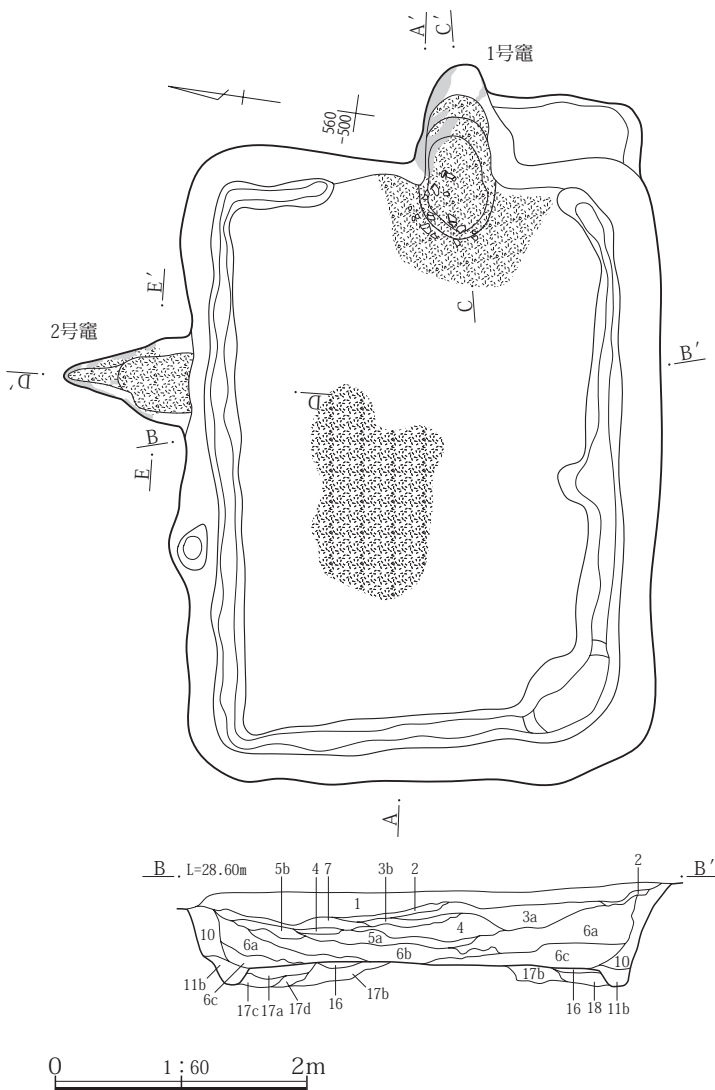
埋没土層 細かく分層できる。いわゆるレンズ状堆積であり、自然埋没の可能性が高い。中層に灰・炭化物・焼土の層が堆積している(5a・b層)のが注目される。

壁高 残りがよく、48～81cmある。

床面 おおむね平坦である。中央やや北側には、炭化物・灰の集中部(長さ175cm、幅95cm)がある。

掘方 中央やや西を掘り残す以外はほぼ全体を10～20cm掘っている。それを、ロームを含む黄褐色土などで埋め戻し床面としている。

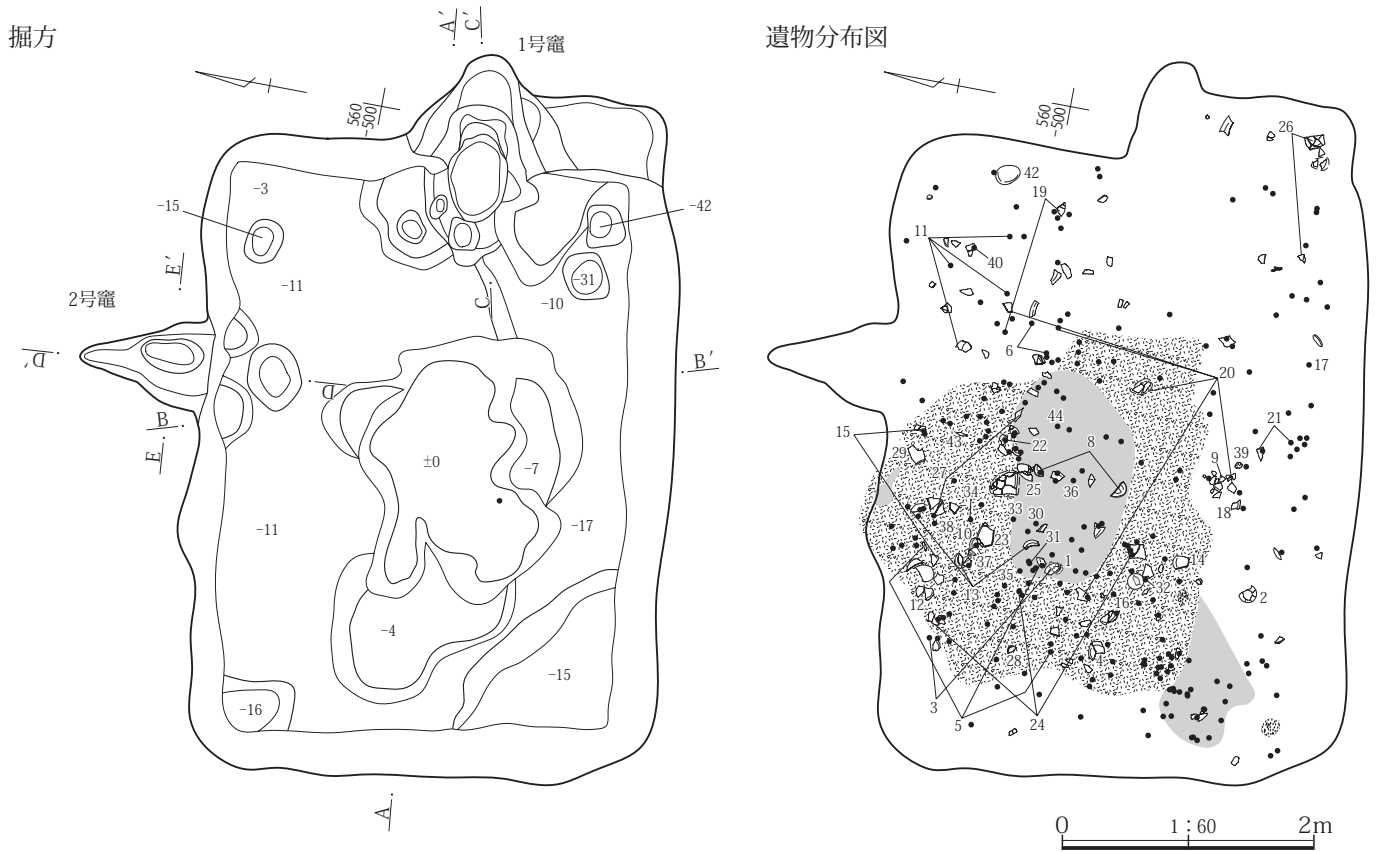
竈 東壁中央やや南寄り、北壁中央やや東寄りにある。東壁のものを1号竈、北壁のものを2号竈と名付けた。2号竈は壁より内側の部分がなくなっているのに対して、1号竈は壁の内側に残っていたので、1号竈が住居廃絶時に使用されていた竈であり、2号竈はより古い



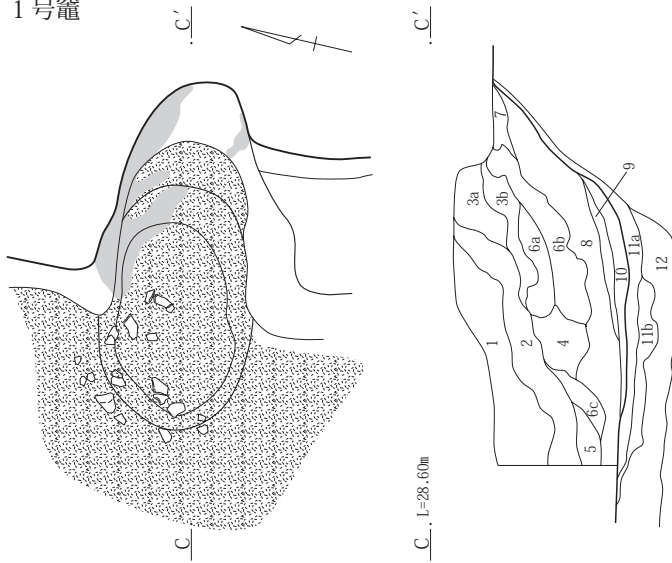
1区15号竪穴住居

1. 褐色土 ローム小塊・炭化物粒・焼土粒含む。
2. 灰褐色土 粘性あり、ノロ状。
- 3a. くすんだローム粒・ローム小塊の混土、炭化物粒含む。
- 3b. 3a層よりローム塊多く含む。
4. 明黄色土 ローム塊多く含む。
- 5a. 黒色炭化物層 焼土粒・灰含む。
- 5b. 黒色炭化物・灰・褐色土の混土。
- 6a. 褐色土 ローム小塊含む。
- 6b. 褐色土 灰・炭化物粒含む。
- 6c. 褐色土 ローム小塊・炭化物粒多く含む。
7. 褐灰色土 炭化物・灰多く含み、ローム小塊含む。
- 8a. 褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒わずかに含み、鉄分沈着。
- 8b. 8a層にくすんだローム粒・小塊含む。
9. 灰黄褐色土 ローム小塊・焼土粒・炭化物粒わずかに含み、やや砂質。
10. 暗黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊含む。
- 11a. 褐灰色土・ローム小塊の混土、灰黄色粘土小塊含み、炭化物粒・焼土粒わずかに含む。
- 11b. 褐灰色土 焼土粒塊・炭化物粒・褐灰色土小塊含み、細砂質。
12. 黄白色粘土 大部分は粘性なくなりボソボソ。
13. 褐色土 焼土ブロック・炭化物粒含む、鉄分沈着によりグズグズ。
14. ローム大塊・焼土塊・褐色土・灰黄色粘土の混土。
15. 焼土化した黄褐色粘土・灰黄色粘土。
16. 暗黄褐色土・ローム塊混土、炭化物含み、しまり強い。以下掘方。
- 17a. 黄褐色土 ローム小塊・褐色土塊含み、粘性あり。
- 17b. 黄褐色土 ローム塊多く含む。
- 17c. 黄褐色土 暗色帯小塊・固いローム小塊多く含み、しまり弱い。
- 17d. 17c層より各塊大粒。
18. 暗黄褐色土 ローム小塊含み、しまり弱い。

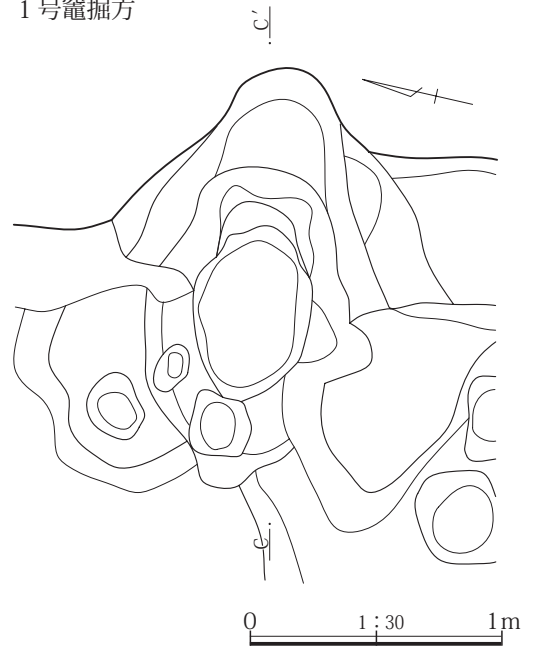
第30図 1区15号竪穴住居平面図



1号竈



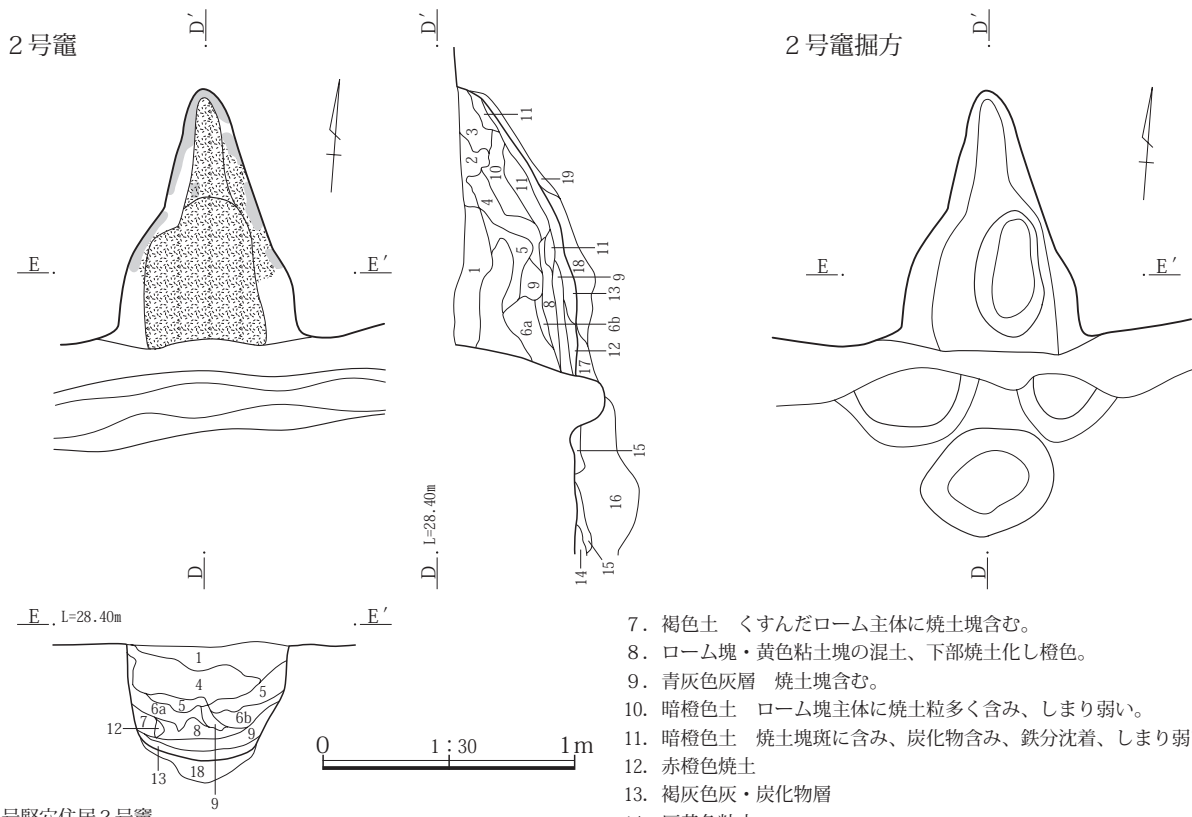
1号竈掘方



1区15号竈穴住居1号竈

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒わずかに含む。 2. 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒・ローム粒含む。 3a. 暗黄褐色土 くすんだローム粒含む。 3b. 3a層に黄白色粘土小塊含む、ボソボソ。 4. 褐灰色土 くすんだローム・褐灰色土塊に焼土粒含む、しまり弱い。 5. 褐灰色土 焼土粒・炭化物粒わずかに含む、やや砂質。 6a. 黄白色粘土 塊状。 6b. 焼土化した6a層、ボソボソ。 | <ul style="list-style-type: none"> 6c. 黄白色粘土 7. 黄白色粘土 焼土化して赤褐色をおびる部分あり。 8. 茶褐色土 黄白色粘土主体。焼土小塊含む、鉄分沈着、ボソボソ。 9. 赤褐色土 焼土塊主体、グズグズ。 10. 黒色灰・炭化物層 11a. 黄褐色粘質土 塊状、焼土小塊含む。 11b. 11a層にローム塊含む。 12. 暗黄褐色土 くすんだローム粒・ローム塊含む。 |
|--|--|

第31図 1区15号竈穴住居掘方平面図、出土遺物分布図、1号竈平断面図



1区15号竪穴住居2号竈

1. 暗褐色土 炭化物粒わずかに含む。
2. 褐灰色粘土 鉄分沈着。
3. 黄橙色土 焼土化した黄褐色粘土主体。
4. 褐灰色土 炭化物粒・焼土粒・ローム細粒わずかに含む、鉄分凝縮多い。
5. ローム塊・炭化物・焼土小塊の混土。
- 6a. 褐灰色土 ローム粒・小塊含む。
- 6b. 褐灰色土 ローム小塊多く含む。

7. 褐色土 くすんだローム主体に焼土塊含む。
8. ローム塊・黄色粘土塊の混土、下部焼土化し橙色。
9. 青灰色灰層 焼土塊含む。
10. 暗橙色土 ローム塊主体に焼土粒多く含む、しまり弱い。
11. 暗橙色土 焼土塊斑に含む、炭化物含み、鉄分沈着、しまり弱い。
12. 赤橙色焼土
13. 褐灰色灰・炭化物層
14. 灰黄色粘土
15. 黄橙色土 焼土粒含み、粘性あり。
16. 黄褐色土 ソフト塊・固いローム小塊の混土。
17. 黄褐色土 ローム小塊含み、炭化物粒・焼土粒わずかに含む、しまり弱い。
18. 明黄褐色土 固いローム塊・ソフトローム・褐色土わずかに含む。
19. 暗黄褐色土 くすんだローム。

第32図 1区15号竪穴住居2号竈平断面図

時期の竈であると考えられる。1号竈の長さは燃烧部底面の凹みの先端から計測して142cmであり、壁外には78cm張り出している。幅は壁の掘り込み部分で計測して70cmである。本体は黄白色粘土で構築されていたらしいが、袖の基部と思われる膨らみがある以外は完全に破壊されていた。竈内面はよく焼けており、燃烧部底面には炭化物と灰の層がある。2号竈の長さは壁の下端から計測して116cm、壁外には98cm張り出している。幅は壁の掘り込み部分で80cmである。竈本体は褐灰色ないし黄褐色粘土で構築されていたらしい。竈の内面はよく焼け、燃烧部底面には炭化物と灰の層が残されていた。

貯蔵穴 確認できなかった。

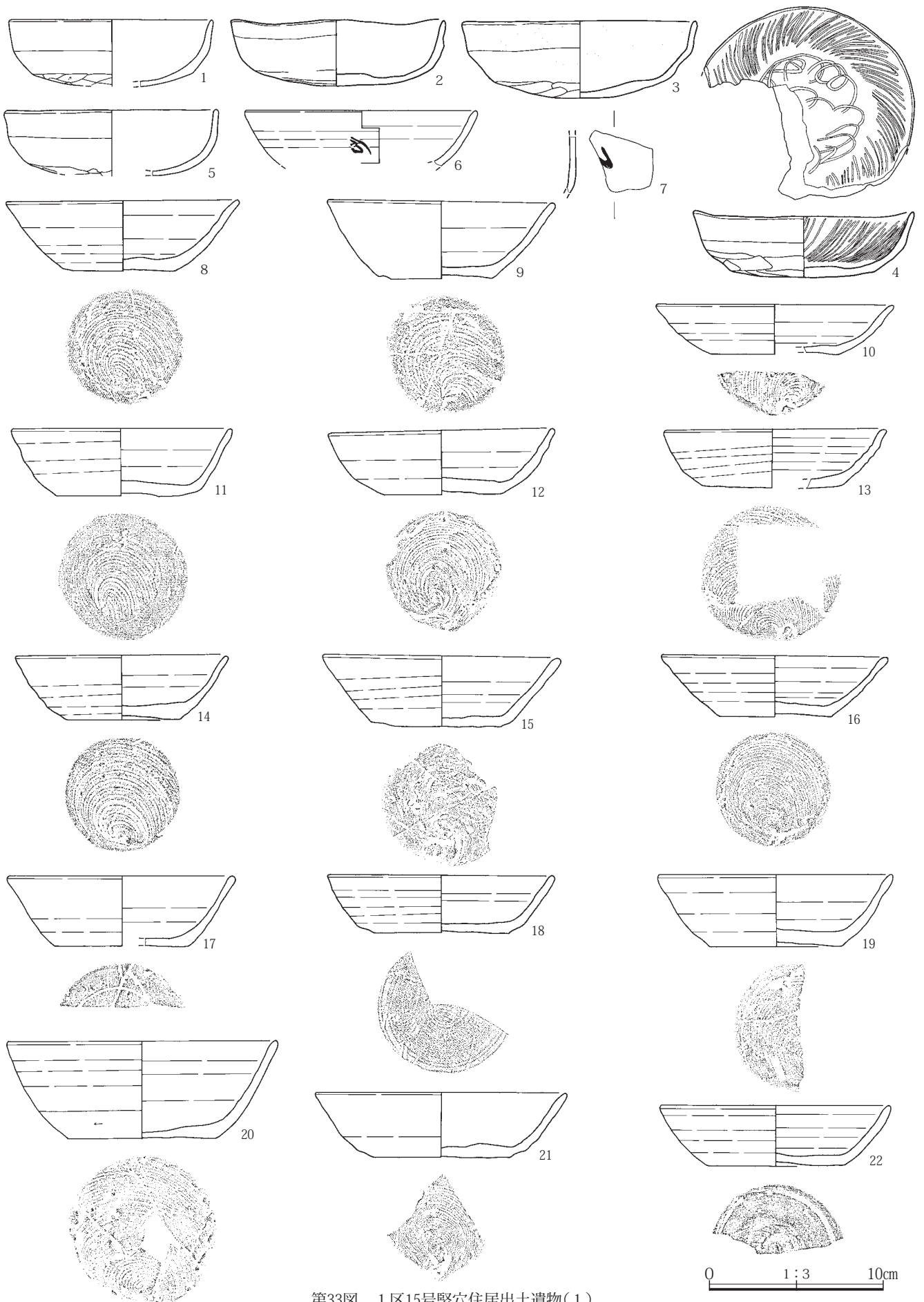
柱穴 確認できなかった。

周溝 1号竈の前面を除いて全周する。2号竈の前にも掘られていた。幅13～26cm、深さ5～15cmである。

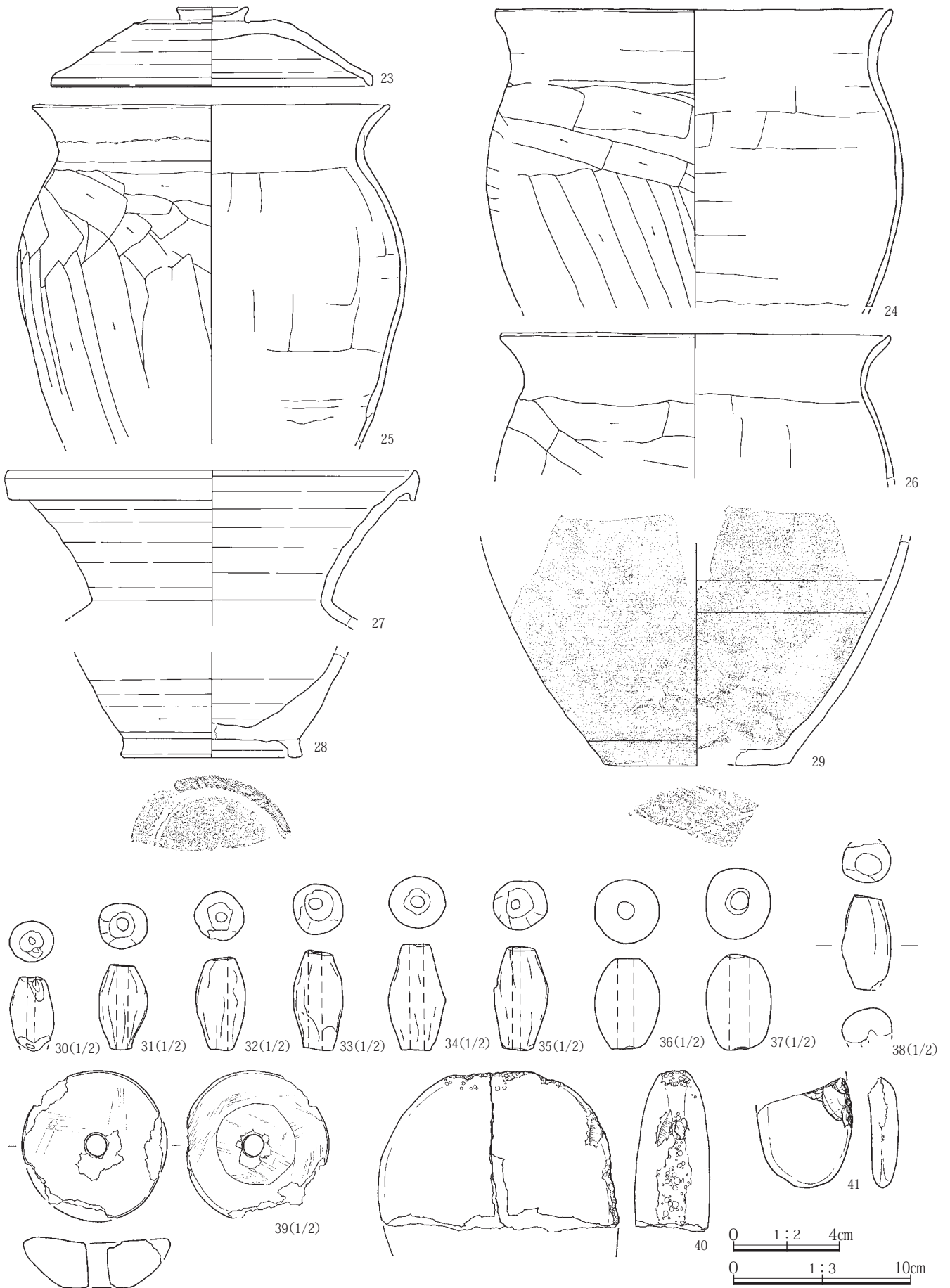
遺物 覆土の中・上層を中心として非常に多くの遺物が出土している。床面近くの遺物は少ないので、本来は本

住居に伴わない遺物がかなり多いはずである。住居の北半部に多く、特に西半部に大きな破片が多い。掲載したのは、土師器杯5点、同甕3点、須恵器杯17点(うち2点墨書有り)、同蓋1点、同甕2点、同壺か瓶1点、土錘9点、石製紡輪1点、敲石3点、刀子2点である。このうち、床面直上あるいはごく近い高さから出土したのは、4の土師器杯、25の土師器甕、30と31・36・38の土錘である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)1,118g、同(大)3,727g、須恵器(小)2,131g、同(大)958gがある。

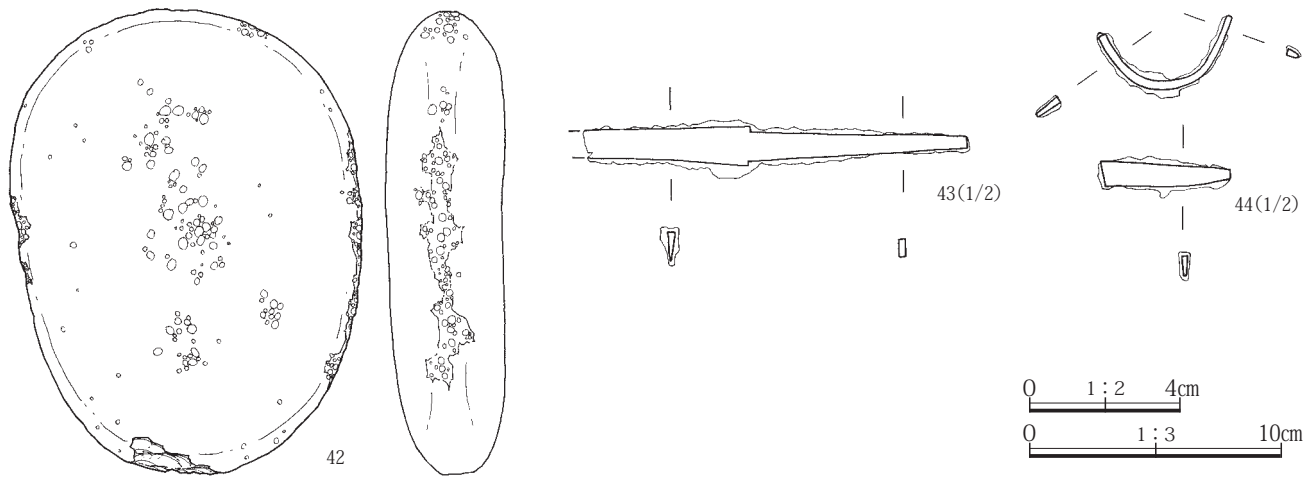
時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第2四半期の住居であると思われる。出土遺物が多いが、大部分は覆土の中・上層から出土しており、本住居に直接伴うものではない。中層に灰・炭化物・焼土の顕著な層があるのが注目される。埋没する途中、本住居の近くかあるいは本住居の凹みの中で、何かが燃えることがあったらしい。



第33図 1区15号竪穴住居出土遺物(1)



第34図 1区15号竪穴住居出土遺物(2)



第35図 1区15号竪穴住居出土遺物(3)

1区16号竪穴住居(第36～38図、第32表、PL.22-5,23-1～3,111)

調査区北西隅付近にある。

位置 X=30560～564、Y=-36507～513。

重複遺構 1区17号竪穴住居、54号ピットと重複する。本遺構が54号ピットより古く、17号竪穴住居より新しい。

形状 東西に長い長方形。

主軸方位 N-86°-E。

規模 中央付近で計測して、長軸4.54m、短軸3.68mである。

床面積 13.87㎡。

埋没土層 暗褐色土を中心とした土で埋没している。自然埋没と考えられる。

壁高 残りのよい南東部で計測して、39～46cmである。

床面 大部分は貼床構造の床面であり、中央部のみ地山を床面とする。おおむね平坦である。南東隅のP1の上には青灰色の粘土が堆積していた。

掘方 住居の周縁部を10～25cm掘り下げている。底面には細かい凹凸がある。それらをローム塊を含む褐灰色土で埋め戻し、床面とする。中央から西側にかけては楕円形に掘り残されてごく浅く、一部は地山が直接床面となっている。

竈 東壁中央やや北寄りに設置している。本体は灰黄色粘土で構築されていたらしいが、住居内部はほとんど破壊されている。煙道が住居外に長くのびる形態であり、長さは壁下端の位置から計測して156cm、壁外の張り出しは128cmと長い。幅は壁面で計測して90cmである。煙道の奥の部分はよく焼土化し、燃烧部底面には炭化物・

灰が薄く堆積していた。掘方はかなり大きく、それに灰黄色粘土を貼り付けて本体を構築している。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 南東隅で1基のピット(P1)を確認したが、浅いので柱穴とは思えず、住居の構造にどのように関わるかは不明である。長径44cm、短径36cmの方形に近い楕円形で、深さは11cmである。この上にはピットを塞ぐように粘土が広がっていた。

周溝 竈のある東辺を除く3辺を廻っている。幅11～29cm、深さ2～12cmである。

遺物 遺物は竈とその周辺から出土したものが多く。掲載したのは土師器杯1点、同甕2点、須恵器杯1点(墨書)、土錘3点、鉄釘1点、鉄鏃1点である。1の土師器杯は竈内からほぼ完形のまま出土した。3点の土錘は南東隅、南西隅、南壁中央のいずれも壁近くから出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)267g、同(大)2,141g、須恵器(小)413g、同(大)3点・112gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居であると思われる。

1区17号竪穴住居(第36図、第32表、PL.23-4～6,111)

調査区北西隅付近にある。16号住居と大きく重複して東壁の周辺を破壊されている。

位置 X=30558～563、Y=-36510～516。

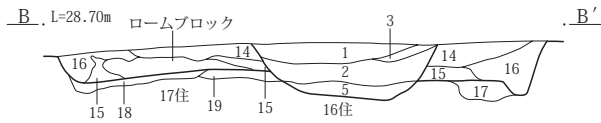
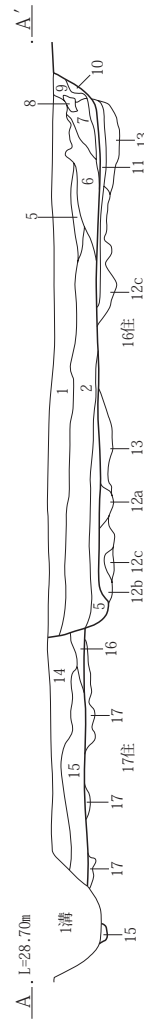
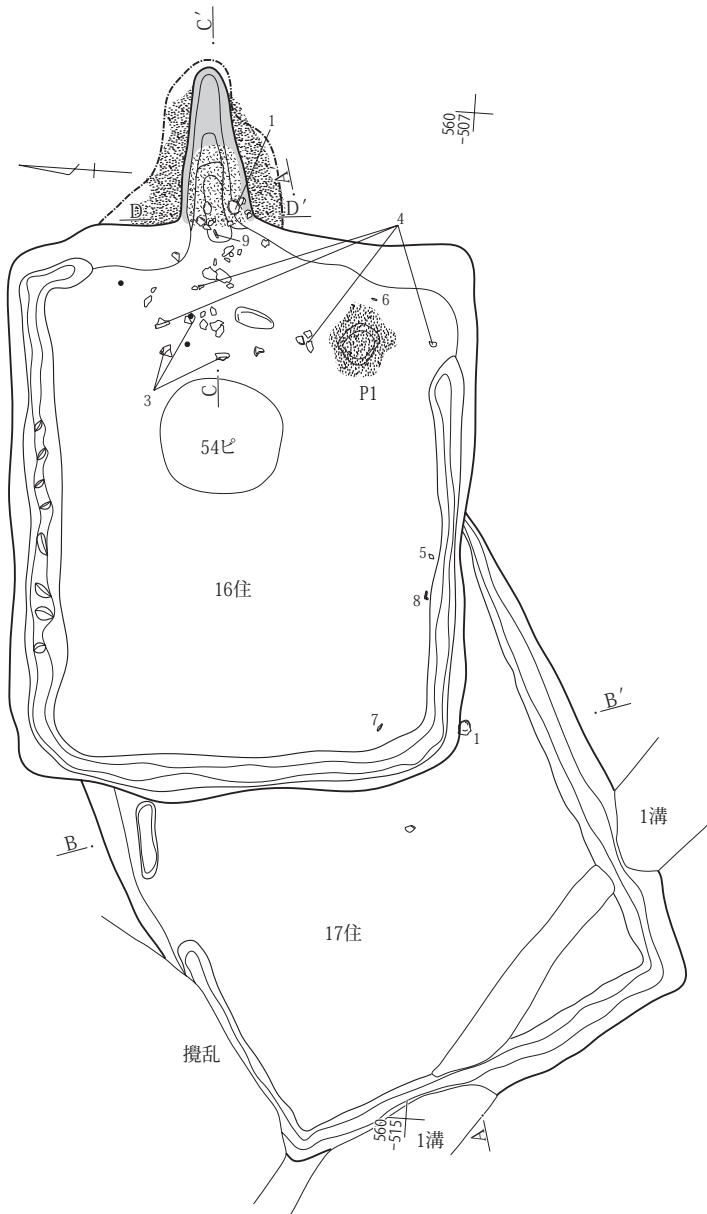
重複遺構 1区16号竪穴住居、1号溝と重複する。本遺構が古い。

形状 東側を16号住居に破壊されるが、東西に長い長方

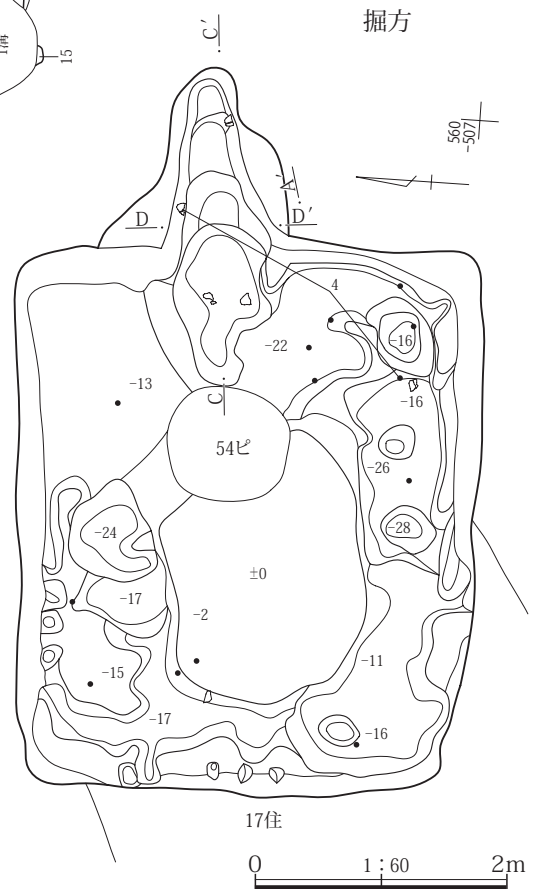
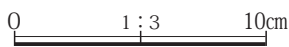
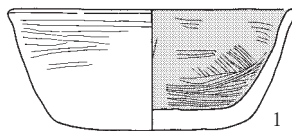
第2節 竪穴住居・竪穴状遺構

1区16・17号竪穴住居

1. 暗褐色土 ローム粒含み、焼土粒わずかに含む。以下、13層まで16号住居。
2. 暗褐色土 ローム小塊・黒褐色土小ブロックを含む。
3. 暗褐色土 ローム小塊わずかに含む。
4. 褐灰色土 土質均一。
5. 黒褐色土 ローム小塊わずかに含み、やや砂質。
6. 褐灰色土 灰黄色粘土塊含む。
7. 灰黄色粘土主体 褐灰色土含み、ボソボソ。
8. 褐灰色土 灰黄粘土わずかに含み、粘性あり。
9. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊・褐色土含む。
10. 黒色灰層
11. 褐灰色土 灰色粘土・褐色土互層、固くしまる。貼床。
- 12a. 褐灰色土 ローム小塊含み、しまり弱い。掘方。
- 12b. 12a層より塊やや大粒。掘方。
- 12c. 12b層より塊大粒。掘方。
13. 褐灰色土 くすんだローム粒・ローム塊斑に多く含み、上層ややしまりあり。掘方。
14. 暗褐色土 ローム粒含み、焼土粒ごくわずかに含む。以下、17号住居。
15. 暗褐色土 ローム小塊ごくわずかに含む。
16. 暗褐色土 やや砂質、土質均一。
17. ローム粒・塊の混土。掘方。
18. 褐灰色土 ローム粒わずかに含む。掘方。
19. くすんだ黄褐色土 二次堆積ローム。掘方。



17号竪穴住居出土遺物



第36図 1区16・17号竪穴住居平断面図、17号竪穴住居出土遺物

形と推定される。

主軸方位 北東壁に竈があると想定して計測すると、N-62°-Eである。

規模 長軸は南東壁近くで計測して4.18m以上、短軸は中央付近で3.69mである。

床面積 調査できた部分は9.81㎡である。

埋没土層 暗褐色土を中心とした土で埋没しているが、北部にはロームブロック主体の層が床面上に堆積しているなど、不自然な点があり、人為的埋没の可能性が考えられる。

壁高 残りのよい南東・南西の壁で計測すると、29～34cmである。

床面 おおむね平坦である。

掘方 全体にごくわずかあるのみである。

竈 確認できなかった。16号住居に破壊されているものと思われる。

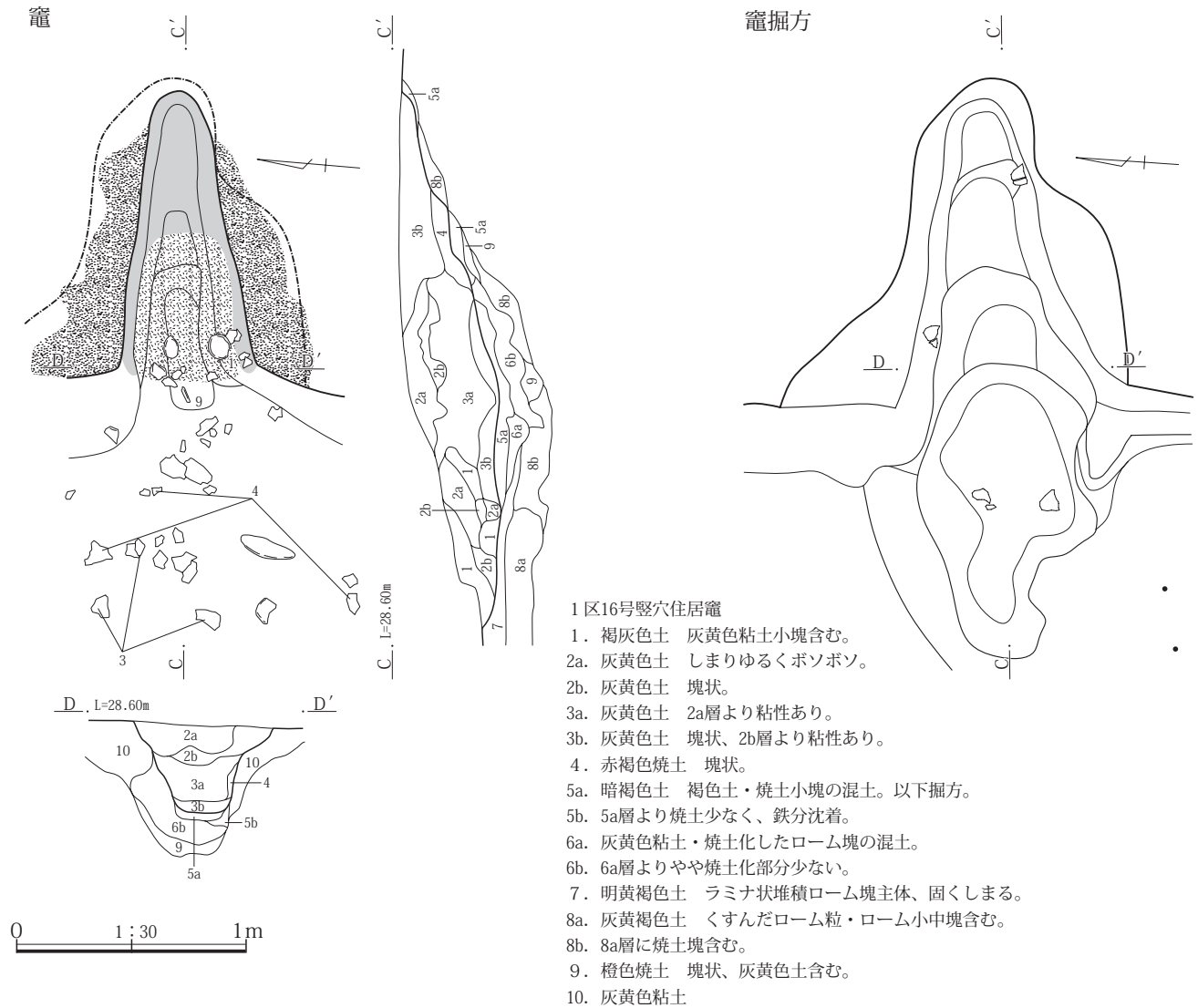
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

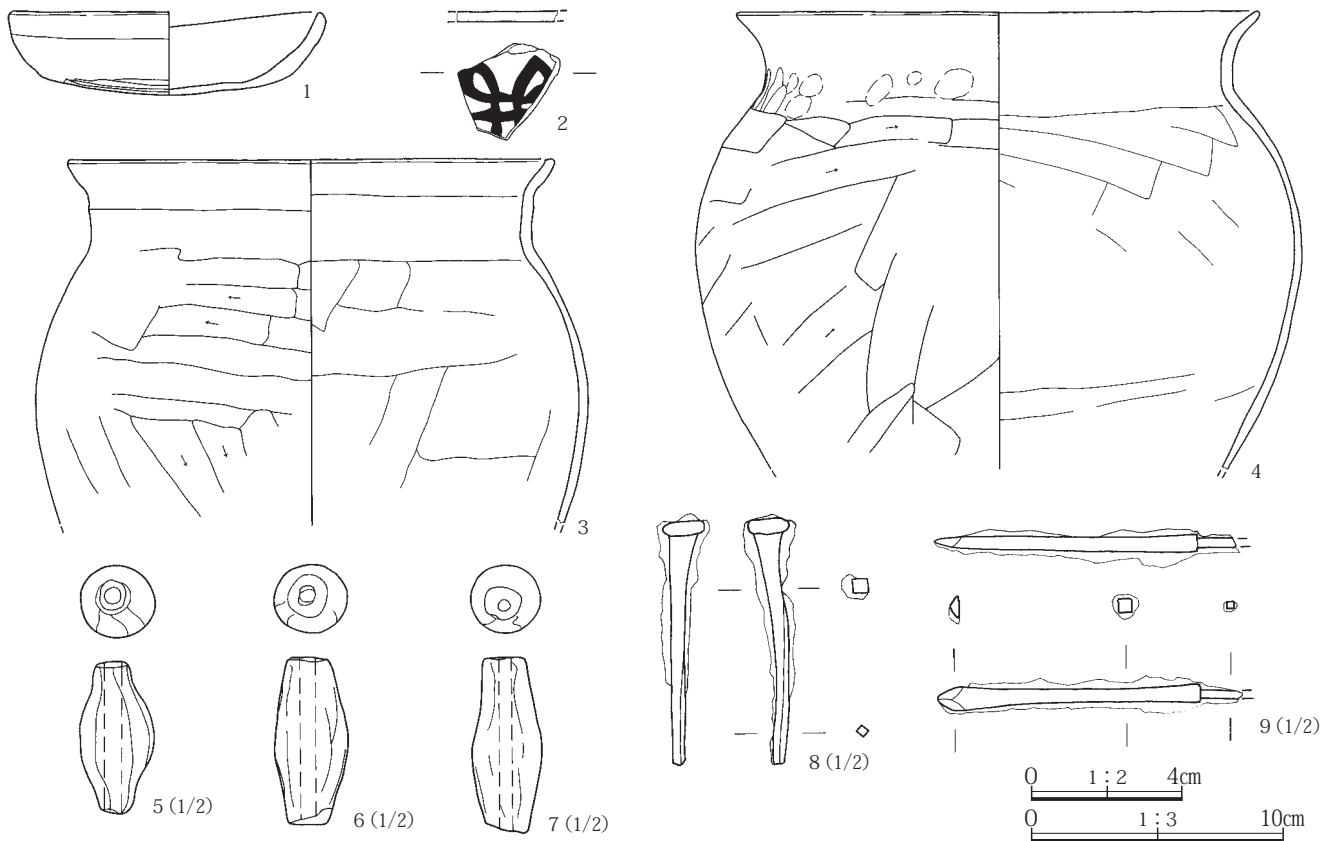
周溝 北西壁は一部途切れているが、調査できた範囲内ではほぼ全周している。幅12～23cm、深さ3～13cmである。

遺物 出土した遺物は少ない。掲載したのは黒色土器杯1点のみであり、南東部の16号住居との重複部分近くから出土したものである。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)70g、同(大)290g、須恵器(小)5点・109gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居であると思われる。



第37図 1区16号竈穴住居竈平断面図



第38図 1区16号竪穴住居出土遺物

1区19号竪穴住居(第39図、第32表、PL.23-7・8,24-1,112)

調査区中央部にある。上面を削平され、床面近くのみわずかな部分だけが残っていた。調査では床面が残っている部分を住居の範囲とした。

位置 X=30540～543、Y=-36480～484。

重複遺構 1区8・9・10号溝と重複する。本遺構が古い。
形状 削平のため東壁以外の3辺の壁が失われ、床面が残っている部分を住居の範囲として認定し調査したものである。そのため明確な形状は不明であるが、床面の残存部分からは正方形に近い方形と推定される。

主軸方位 N-87°-E。

規模 床面が残っている範囲の中央付近で計測して、長軸は2.97m以上、短軸は2.75m以上である。

床面積 溝で壊されている部分を復元し、床面が残っている範囲を計測すると7.91㎡である。

埋没土層 床面近くのごくわずかな部分が残っているだけなので、詳細は不明である。暗褐色土や褐色土で埋没している。

壁高 はっきりと壁が調査できたのは東辺の北端のみで

あり、そこでは7cm程度残っていた。その他の部分は明瞭な壁は確認できなかった。

床面 把握できた範囲ではおおむね平坦である。

竈 東壁に設置している。9号溝に破壊され、左側の半分程度しか残っていない。長さは、左袖の先端から煙道部先端までを計測すると、現状で72cmであり、幅は袖の外側から9号溝で破壊される部分までを計測すると80cmであるので、それぞれそれ以上の規模であったはずである。青灰色粘土がわずかに残るので、本体はこれで構築されていたらしい。焼土・炭化物は少ない。

貯蔵穴 確認できなかった。

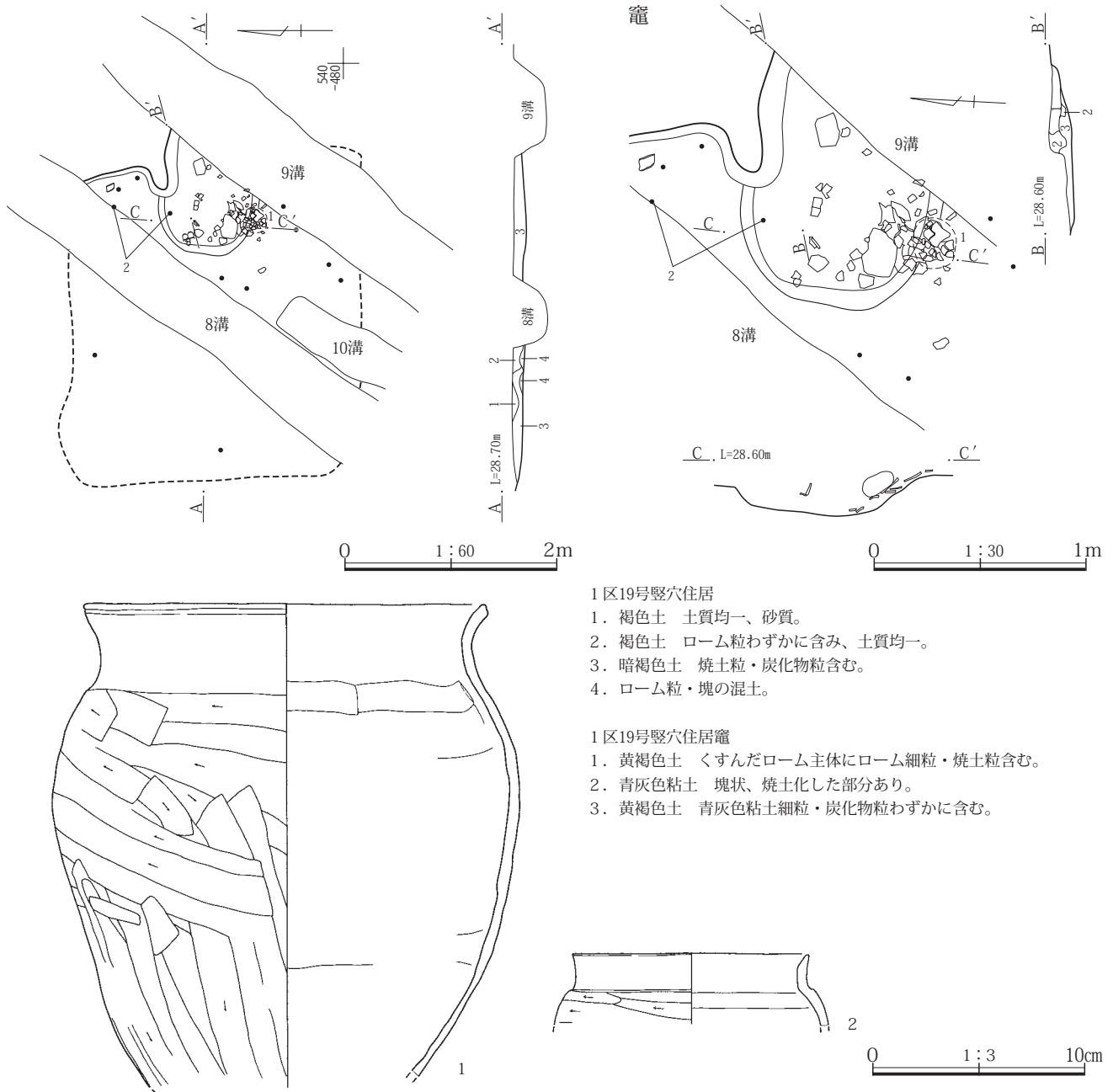
柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

遺物 竈付近を中心として遺物が出土した。掲載したのは土師器小型甕1点、同甕1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)33g、同(大)452g、須恵器(小)5点・44g、同(大)1点・460gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第4四半期の住居であると思われる。

第3章 調査の成果



第39図 1区19号竪穴住居平断面図、出土遺物

1区20号竪穴住居(第40図、第32表、PL.24-2・3,112)

調査区中央部の西寄りにある。大部分を攪乱によって破壊され、北東隅付近のごく一部分が調査できただけである。

位置 X=30548～550、Y=-36493～496。

重複遺構 1区82号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 北東隅のみが残存するだけなので詳細は不明であるが、その形から全体は方形であると推定される。

主軸方位 N-27°-W。

規模 北東隅付近のみなので計測不能である。

床面積 残存部分を計測すると1.30㎡。

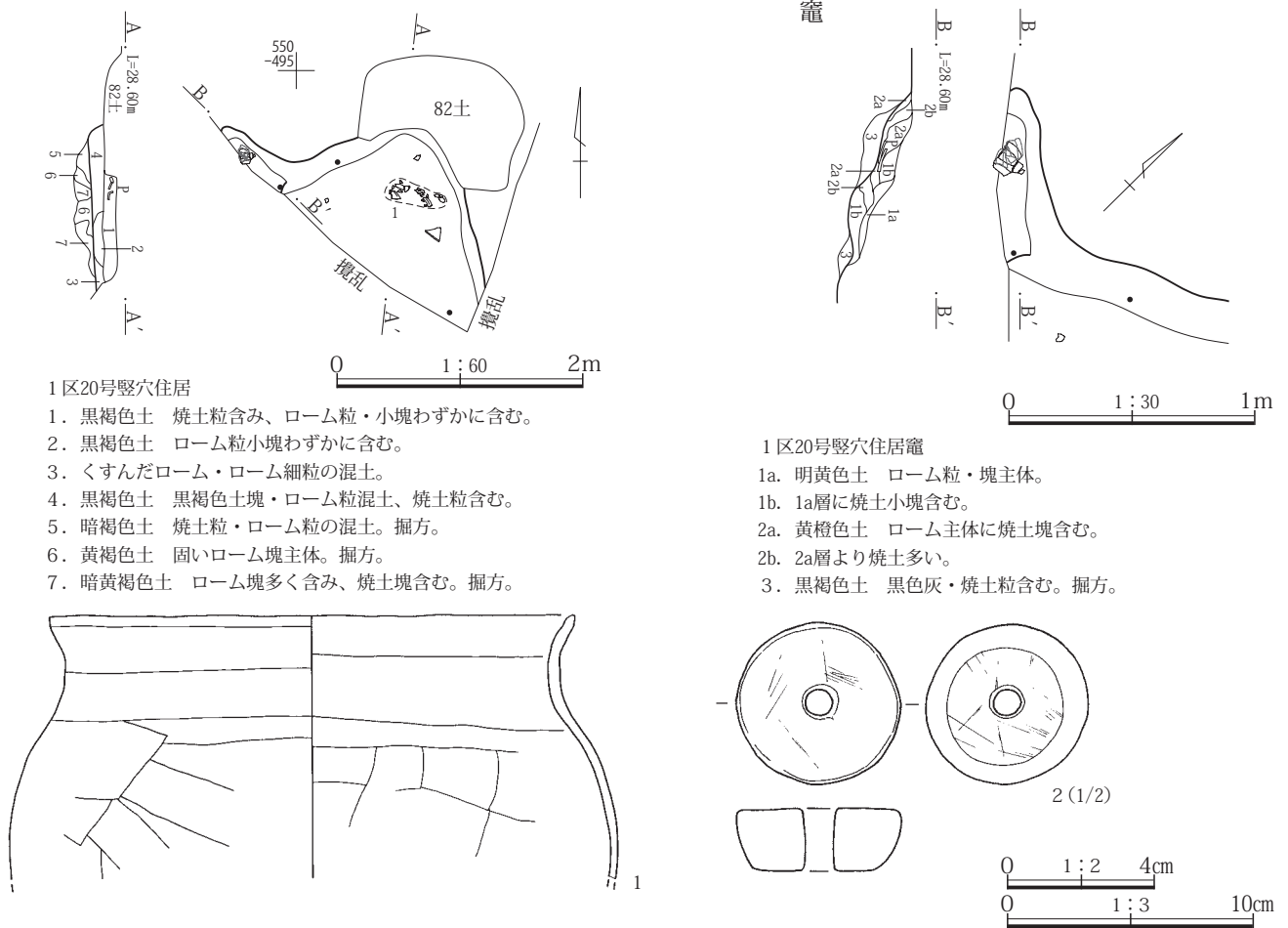
埋没土層 黒褐色土を中心とした土で埋没している。やや不自然な堆積であり、人為的に埋められている可能性が考えられる。

壁高 最も残りのよい竈東側で29cmである。

床面 おおむね平坦。

掘方 全体に床面より10cm前後深く掘っている。ロームを含む暗褐色土などで埋め戻し床面としている。

竈 北西壁に設置している。右半分のみが残っているが、袖はなく、かなり破壊されているらしい。長さは煙道方



1区20号竪穴住居

1. 黒褐色土 焼土粒含み、ローム粒・小塊わずかに含む。
2. 黒褐色土 ローム粒小塊わずかに含む。
3. くすんだローム・ローム細粒の混土。
4. 黒褐色土 黒褐色土塊・ローム粒混土、焼土粒含む。
5. 暗褐色土 焼土粒・ローム粒の混土。掘方。
6. 黄褐色土 固いローム塊主体。掘方。
7. 暗黄褐色土 ローム塊多く含み、焼土塊含む。掘方。

1区20号竪穴住居竈

- 1a. 明黄色土 ローム粒・塊主体。
- 1b. 1a層に焼土小塊含む。
- 2a. 黄橙色土 ローム主体に焼土塊含む。
- 2b. 2a層より焼土多い。
3. 黒褐色土 黒色灰・焼土粒含む。掘方。

第40図 1区20号竪穴住居平断面図、出土遺物

向74cmである。焼土・炭化物・灰などは少ない。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

遺物 出土遺物は少なく、掲載したのは土師器甕1点、石製の紡輪1点のみである。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)1点・3g、同(中)1点・10g、同(大)444g、須恵器(小)123g、(大)1点・160gがある。

時期と所見 数は少ないが、出土遺物からみて、9世紀第2四半期の住居であると思われる。

1区21号竪穴住居(第41・42図、第32表、PL.24-4・5,25-1・2,112)

調査区北部の東寄りにある。

位置 X=30560~564、Y=-36494~498。

重複遺構 なし。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-75°-E。

規模 中央付近で計測して、長軸3.47m、短軸2.74mである。

床面積 8.24㎡。

埋没土層 主に黒褐色土で埋没しているが、わずかな厚さしか残っていないところが多く、詳細は不明である。

壁高 削平のために8~19cmのところが多いが、竈を含む南東部のみは残りがよく28~31cmである。

床面 おおむね平坦である。

掘方 北壁際は壁に沿って10~20cm深く掘り下げているが、その他は1~3cmとごく浅い。

竈 東壁中央やや南寄りに設置している。両袖の基部が残る。内部には灰黄色粘土(C-C'セクションの4a~4c層)の厚い層がみられ、天井部を構築していた粘土が落ち込んだものであろう。長さは袖先端から煙道先端までを計測して85cm、幅は両袖の外側を計測すると90cmである。竈内部と左前から2と3の甕がつぶれた状態で出土した。

貯蔵穴 確認できなかった。

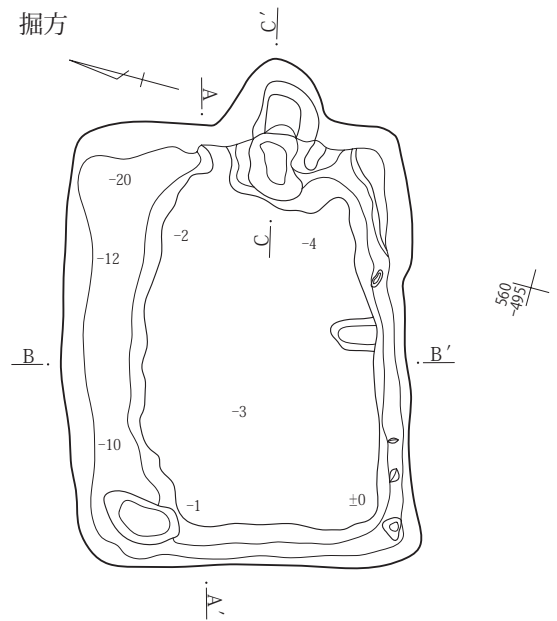
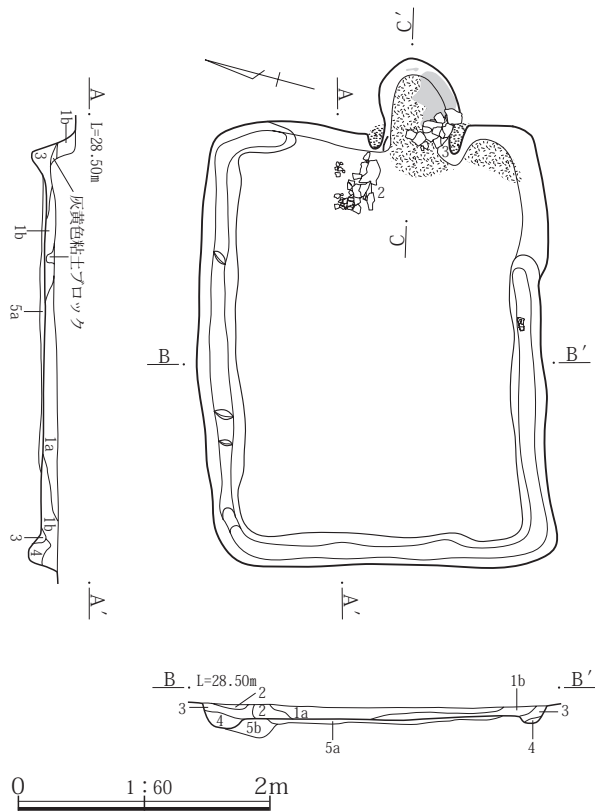
柱穴 確認できなかった。

周溝 竈の左右と南東隅を除いて全周する。幅14～24cm、深さ4～14cmである。

遺物 出土遺物は少ない。掲載したのは墨書のある土師器杯小破片1点、土師器甕2点である。3の甕は竈内か

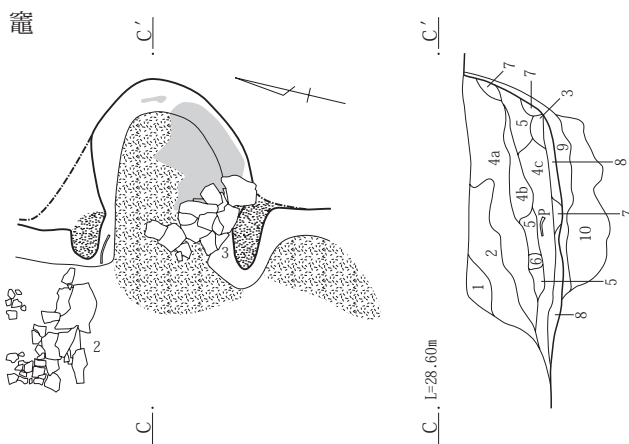
ら、2は竈左前から出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)8点・36g、同(大)246g、須恵器(大)2点・12gがある。

時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、9世紀第1四半期の住居であると思われる。



1区21号竪穴住居

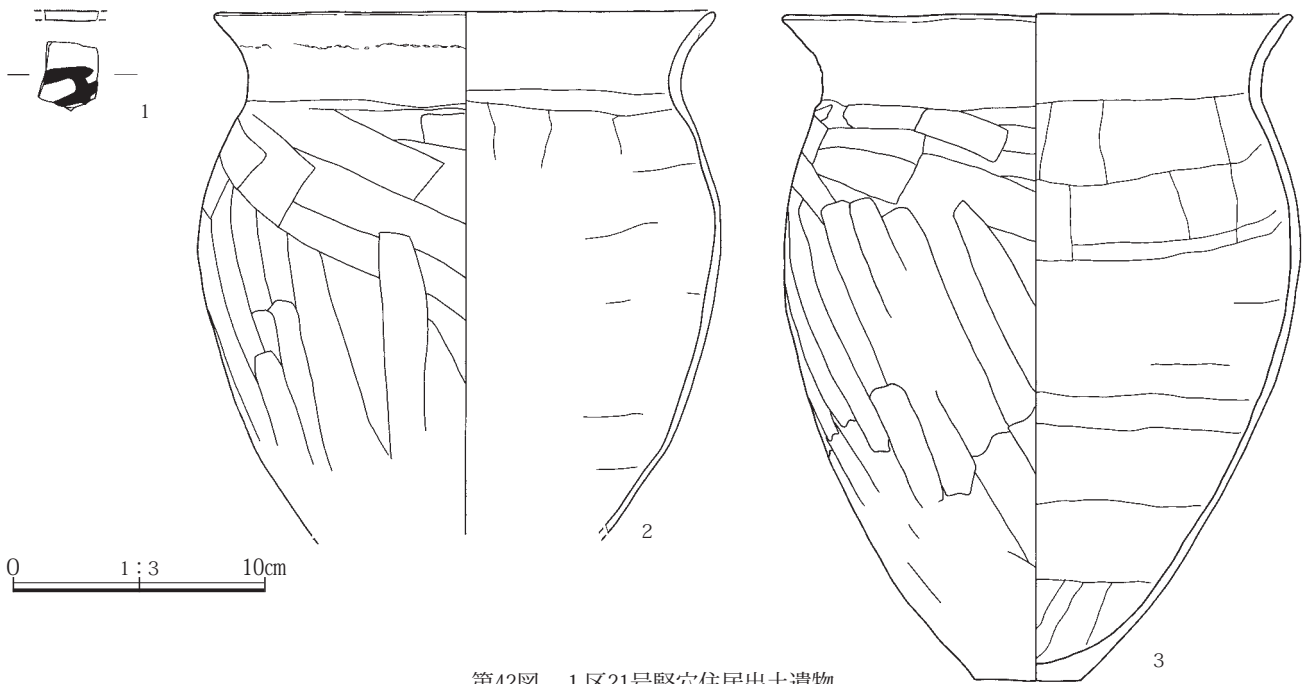
- 1a. 黒褐色土 ローム塊含み、やや砂質。
- 1b. 黒褐色土
- 2. 黒褐色土 土質均一。
- 3. くすんだ黄褐色土 ローム小塊多く含む。
- 4. くすんだ黄褐色土 ローム粒・褐色土混土含む。
- 5a. ローム・褐色土・灰褐色土塊の混土、しまりあり。掘方。
- 5b. 5a層よりしまり弱い。掘方。



1区21号竪穴住居竈

- 1. くすんだ暗褐色土 くすんだローム粒・小塊含む。
- 2. 暗褐色土 ローム粒・炭粒・焼土粒少し含む。
- 3. 褐色土 ローム粒含む。
- 4a. 灰黄色粘土
- 4b. 灰黄色粘土 わずかに焼土化し、固くしまる。
- 4c. 灰黄色粘土 焼土化した塊状。
- 5. 褐色粘質土・灰黄色粘土の混土、グズグズ。
- 6. 褐色粘土 塊状。
- 7. 黄褐色土 焼土化したローム主体。
- 8. ローム・灰黄色粘土小塊の混土、焼土粒含む。
- 9. くすんだ黄褐色土 焼土粒・ローム粒わずかに含み、砂質。掘方。
- 10. ローム・砂質土・灰黄色粘土塊の混土。掘方。

第41図 1区21号竪穴住居平面図



第42図 1区21号竪穴住居出土遺物

1区22号竪穴住居(第43図、PL.25-3・4)

調査区北部の中央にある。この付近は削平が深くまで及んでおり、本住居は竈のみが残る状態であった。

位置 X=30566～567、Y=-36503～505。

重複遺構 なし。

形状 竈付近が残存するだけなので、形状は不明である。

主軸方位 N-55°-W。

規模・床面積 計測は不能である。

埋没土層 削平のために残っていない。

床面 削平のために残っていない。

竈 残存する範囲は長さ59cm、幅60cmである。

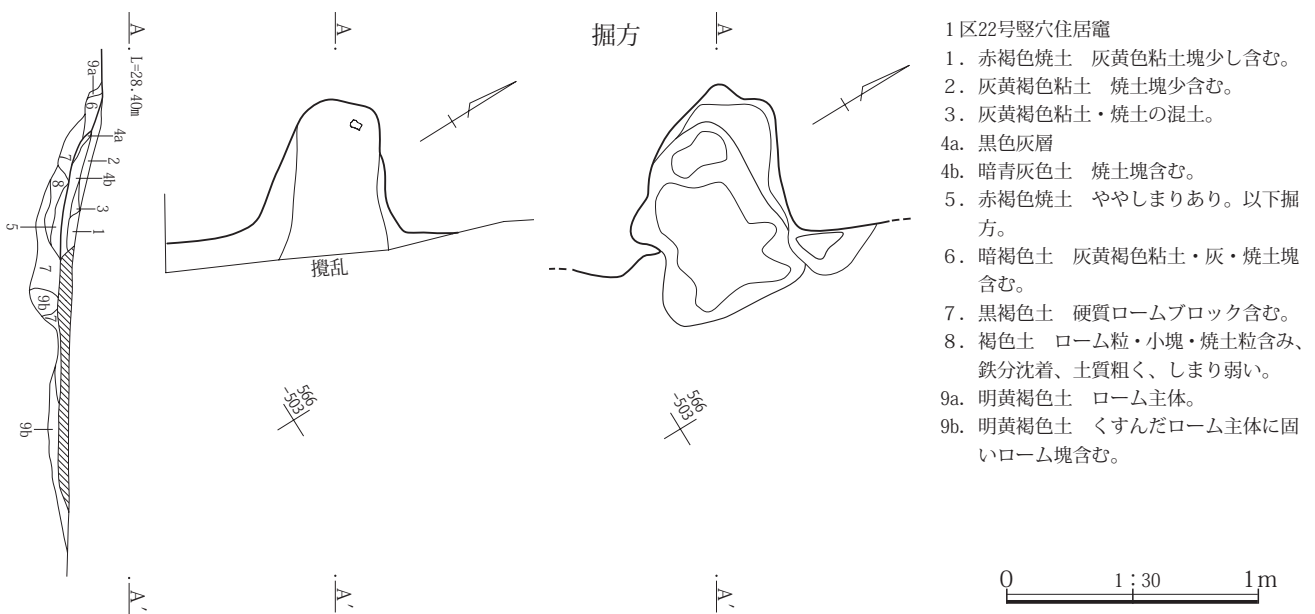
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

遺物 竈以外の部分が削平されているので、出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(大)2点・26gがあるにすぎない。

時期と所見 出土遺物がほとんどないので、時期の特定は困難である。



第43図 1区22号竪穴住居平断面図

1区22号竪穴住居竈

1. 赤褐色焼土 灰黄色粘土塊少し含む。
2. 灰黄褐色粘土 焼土塊少含む。
3. 灰黄褐色粘土・焼土の混土。
- 4a. 黑色灰層
- 4b. 暗青灰色土 焼土塊含む。
5. 赤褐色焼土 ややしまりあり。以下掘方。
6. 暗褐色土 灰黄褐色粘土・灰・焼土塊含む。
7. 黒褐色土 硬質ロームブロック含む。
8. 褐色土 ローム粒・小塊・焼土粒含み、鉄分沈着、土質粗く、しまり弱い。
- 9a. 明黄褐色土 ローム主体。
- 9b. 明黄褐色土 くすんだローム主体に固いローム塊含む。

1区23号竪穴住居(第44・45図、第32・33表、PL.25-5～8,112)

調査区北部の中央にある。竈とその北側付近以外は削平され、壁が低くなっていた。

位置 X=30562～566、Y=-36499～503。

重複遺構 なし。

形状 東西にやや長い長方形である。

主軸方位 N-92°-E。

規模 中央付近で計測して、長軸3.99m、短軸3.18mである。

床面積 10.85㎡。

埋没土層 底部付近しか残っていないため詳細は不明であるが、西半部はくすんだ黄褐色で埋没しているのに対して、東半部はやや複雑な堆積であり、自然埋没とは考えにくい。

壁高 西側ほど削平を受け、最も低いところは5～7cmしか残っていないが、大部分の場所では9～22cmであり、東壁北半部は32～34cm残っている。

床面 全体に薄い貼床がみられる。おおむね平坦である。

掘方 北壁際に深さ15cm程度の掘り込みがある以外は全

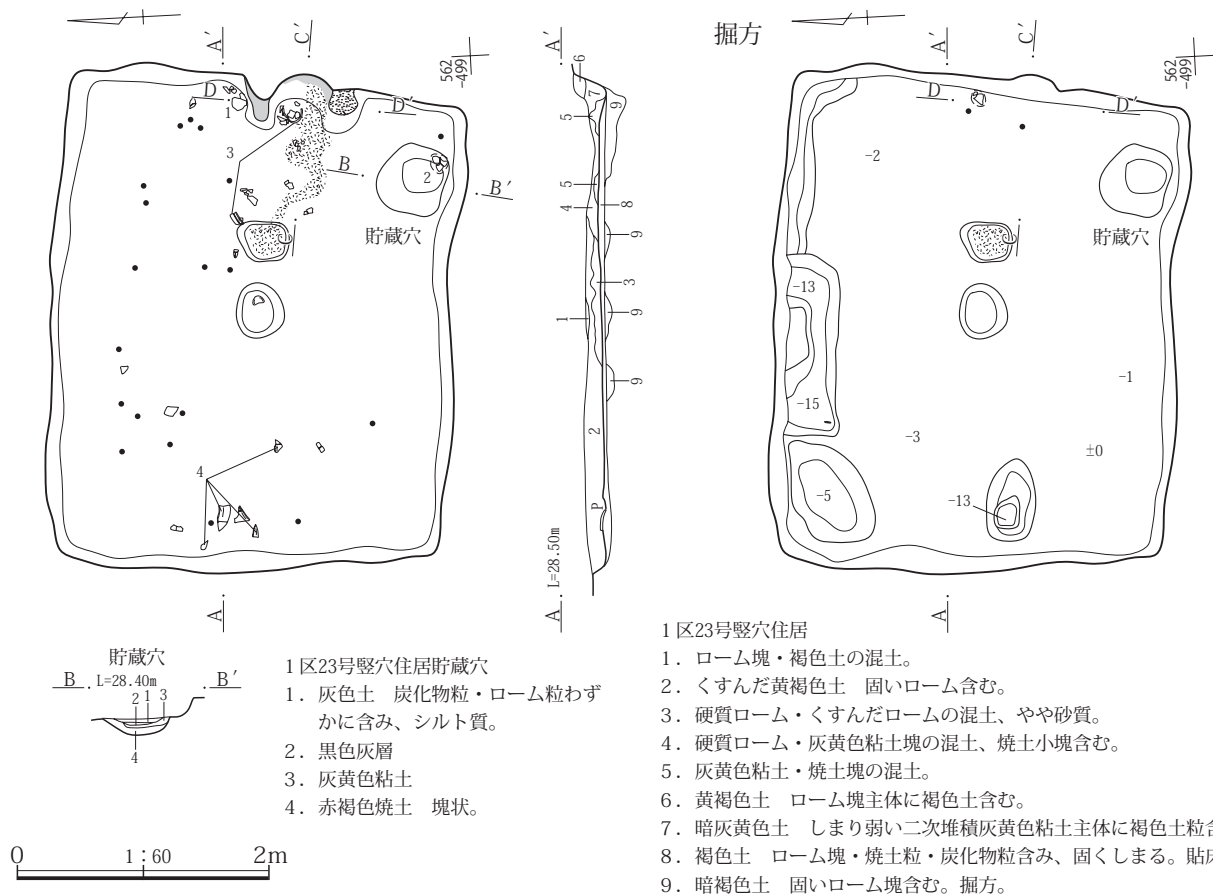
体に1～3cm深くなっている程度であり、底面はほぼ平坦である。

竈 東壁中央やや南に設置している。両袖の基部が残るが、煙道の住居外の張り出しはほとんどない。長さは46cmとごく短く、幅は袖の外側を計測して102cmである。袖は灰黄色粘土で作られている。掘方もほとんどなく、住居の壁に直接粘土を貼り付けて竈を作っているという形態である。竈内部から前面にかけては炭化物・灰の層がみられ、竈奥は焼土化していた。内部からは3の土師器甕が出土した。

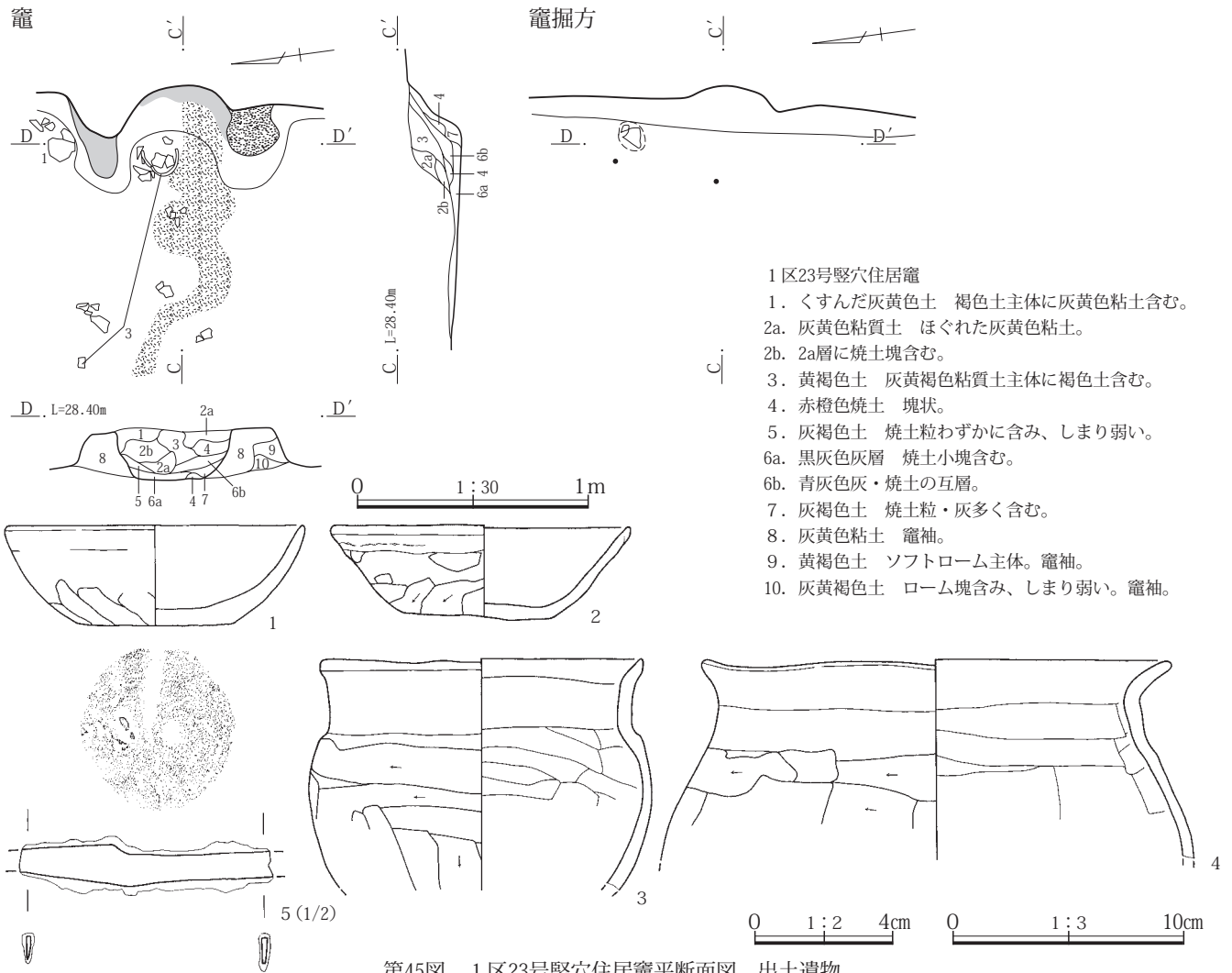
貯蔵穴 やや浅いが南東隅にある凹みが貯蔵穴だと思われる。長径62cm、短径50cmで深さは16cmである。埋土は焼土、炭化物、灰、灰黄色粘土を多く含むので、竈を崩した土で埋まっているものと思われる。

柱穴 柱穴と思われるピットは見つかっていない。中央にある2基のピットは、西側が深さ9cm、東側が深さ4cmとごく浅いものであり、柱穴とは思えない。東側のピットには炭化物・灰が堆積していた。

周溝 床面では確認できなかったが、掘方の調査では北辺の東側に周溝状の凹みが見つかっており、本来は一部



第44図 1区23号竪穴住居平断面図



第45図 1区23号竪穴住居竪断面図、出土遺物

に存在した可能性がある。

遺物 全体に散在している。掲載したのは土師器杯2点、同甕2点、刀子1点であり、刀子を除き床面直上から出土した。2の杯は貯蔵穴の脇から、1の杯は竪穴左側から、3の甕は竪穴内とその前面から、4の甕は西壁近くの中央から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)136g、同(大)1,040g、須恵器(小)127g、同(大)1点・124gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、10世紀第1四半期の住居であると思われる。

1区24号竪穴住居(第46図、第33表、PL.26-1・2,113)

調査区北部の中央にある。南東側を削平されている。

位置 X=30565~570、Y=-36504~508。

重複遺構 なし。

形状 攪乱により南東隅が破壊されているが、残存部分

からみて南北に長い長方形であると思われる。

主軸方位 東辺に竪穴があると想定して計測すると、N-95°-Eである。

規模 なるべく中央付近で計測して、長軸は4.22m、短軸は3.43mである。

床面積 攪乱で壊されている部分も推定復元して計測すると11.02㎡である。

埋没土層 暗褐色土で埋没する部分が多い。A-A'セクションをみると、1a層はそれ以下の層を掘り込んだ後に堆積したように見え、この部分については自然埋没とは思えない。

壁高 攪乱に破壊されている部分を除いて比較的残りがよく、25~39cmの高さがある。傾斜は緩やかである。

床面 おおむね平坦である。

掘方 大部分の場所では床面から1~4cmとごく浅く、平らに掘られているが、中央付近には土坑状の掘り込み

第3章 調査の成果

がある。この掘り込みの大きさは長径98cm、短径88cm、深さは床面から28cmである。

竈 確認できなかった。

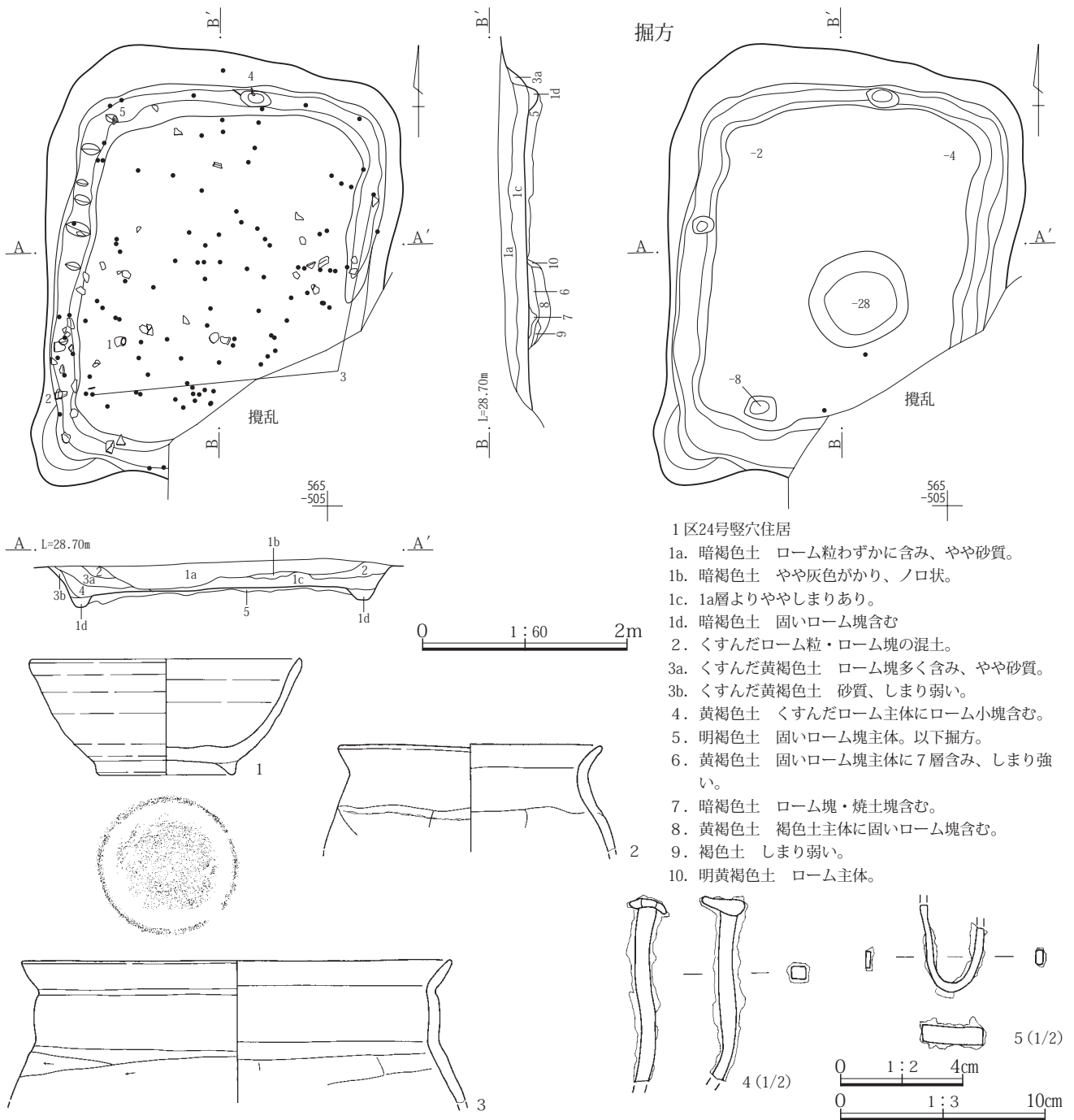
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 床面では東辺の南側で途切れているように見えるが、掘方調査では全周しているの、本来は全周しているものと思われる。幅19～35cm、深さ2～11cmである。

遺物 全体から土器片の出土が多かったが、その大部分

は覆土上層のものである。掲載したのは須恵器碗1点、土師器甕2点、鉄釘1点、刀子1点である。須恵器碗は南西部から、3の甕は南西隅と北東部から、2の甕は南西隅から、5の刀子は北西隅、4の鉄釘は北壁際中央から、いずれも床面からやや浮いた高さから出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)217g、同(中)1点・86g、同(大)3,271g、須恵器(小)446g、同(中)1点・160g、同(大)4点・390gがある。



第46図 1区24号竪穴住居平断面図、出土遺物

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第4四半期の住居であると思われる。

1区25号竪穴住居(第47・48、第33表、PL.26-3～6、113)

調査区北部の北東側にある。南西が攪乱によって破壊されている。

位置 X=30568～572、Y=-36497～501。

重複遺構 なし。

形状 攪乱によって南西の約1/3が削平されているが、全体は正方形に近い方形である。

主軸方位 N-81°-E。

規模 なるべく中央近くで計測すると、長軸3.49m、短軸3.18mである。

床面積 攪乱で破壊された部分も推定復元して計測すると9.43㎡である。

埋没土層 ロームを含む褐色土、黄褐色土を中心とした土で埋没している。不自然な部分が多く、自然埋没とは

思えない。

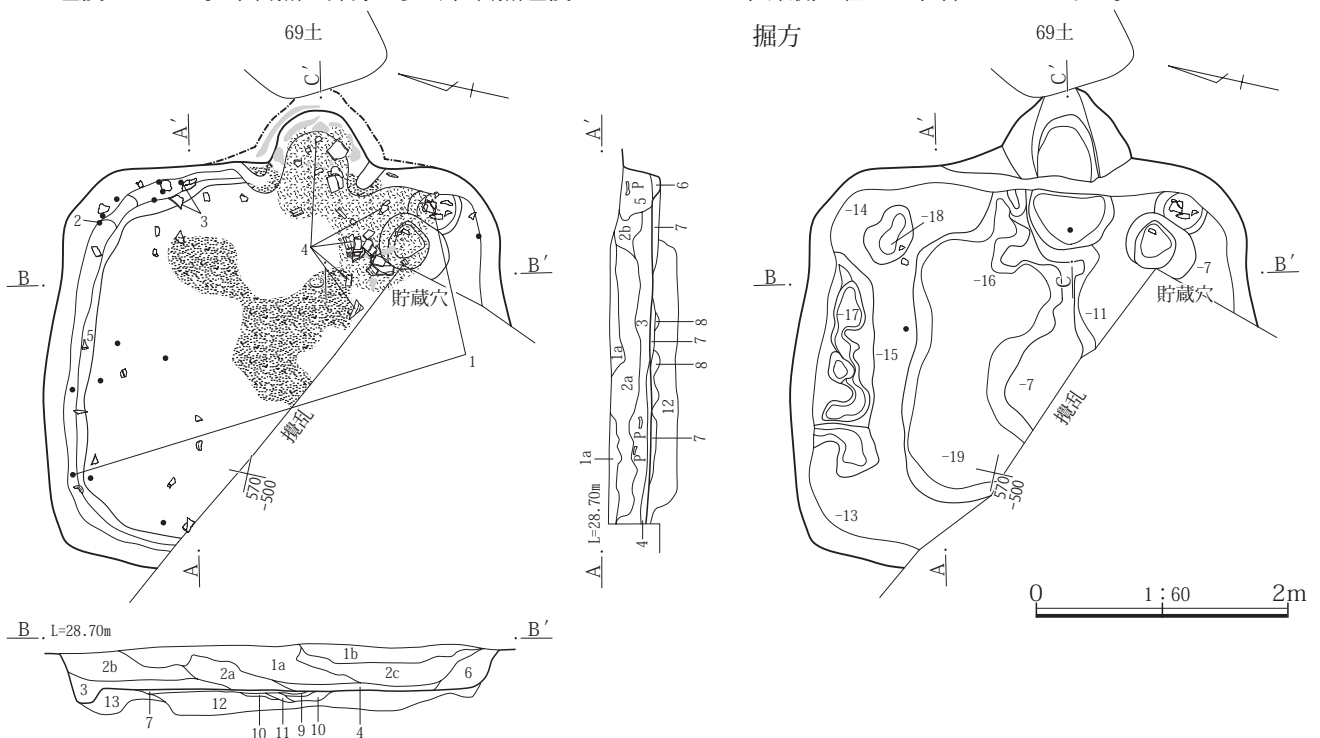
壁高 21～30cm。

床面 貼床構造の床面であり、おおむね平坦である。床面中央部に粘土が薄く堆積している。

掘方 中央と周縁部を除き床面から10～20cm掘り下げている。底面には凹凸がある。それらを明黄色土などで埋め戻し、表面に暗黄褐色土で貼床を施している。

竈 東壁中央やや南に設置している。灰黄色粘土で作られた両袖の基部がわずかに残る。燃烧部の半分程度が壁の外に張り出す形態であり、長さは袖の先端から計測して66cm、壁の外には43cm張り出している。幅は袖の外側を計測して125cmである。奥壁は焼土化し、燃烧部底面から前面に掛けては炭化物・灰が分布している。内部から前面には4の土師器甕が破片となって散っていた。

貯蔵穴 南東隅にある凹みを貯蔵穴と考えたが、浅く不整形なのでやや疑問がある。円形の凹みが重複する形態であり、大きさは西側が長径58cm、短径44cm、深さ21cm、東側が径42cm、深さ14cmである。

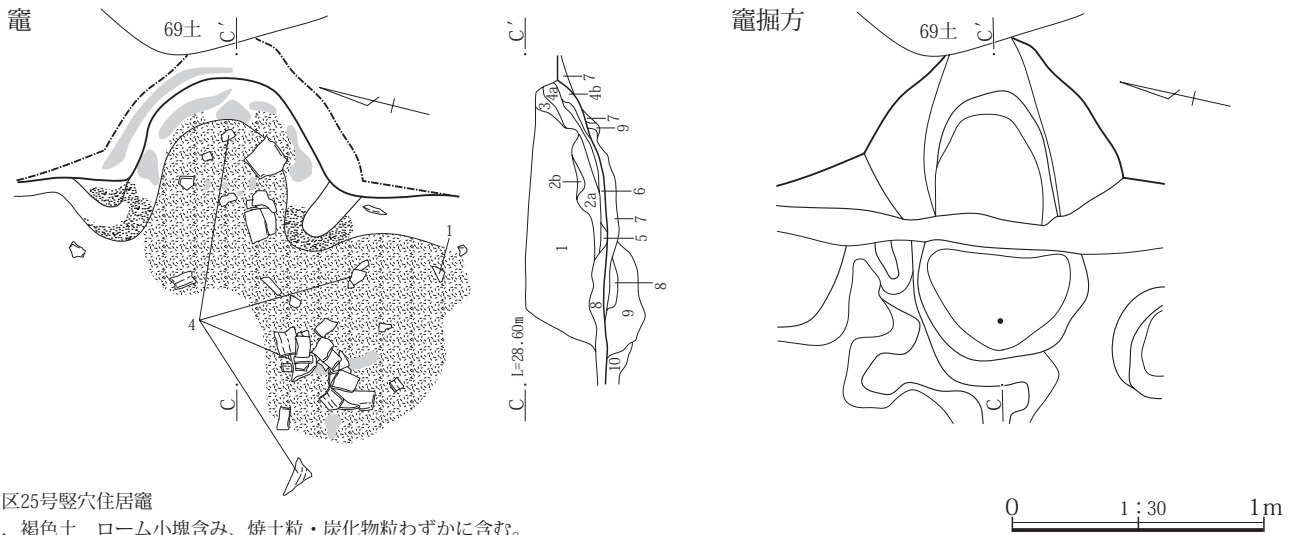


1区25号竪穴住居

- 1a. 褐色土 焼土粒含む。
- 1b. 1a層よりややローム小塊多い。
- 2a. 黄褐色土 くすんだローム土主体にローム塊含む。
- 2b. 2a層よりややローム少なく、くすんだ色調。
- 2c. 2a層よりローム塊小さく多い。
- 3. くすんだ褐色土 ローム細粒含む、やや砂質。
- 4. 褐灰色土 ローム粒含む、粘性わずかにあり、しまりあり。
- 5. 灰褐色土 灰黄色粘土小塊多く含む、くすんだローム・焼土小塊含む。
- 6. 褐色土 ローム粒わずかに含む、しまり弱い。
- 7. 灰褐色土 ローム小塊・焼土粒・炭化物粒含む、固くしまる。貼床。
- 8. 暗黄褐色土 ローム小塊・焼土粒・炭化物粒含む。以下掘方。
- 9. 赤橙色焼土 固くしまる。
- 10. 灰黄色粘土塊・ローム小塊の混土、固くしまる。
- 11. 灰褐色土 ローム小塊・焼土粒・炭化物粒含む、しまりあり。
- 12. 明黄色土 ローム小塊主体に灰褐色小塊含む、固くしまる。
- 13. 明黄色土 ローム塊主体。

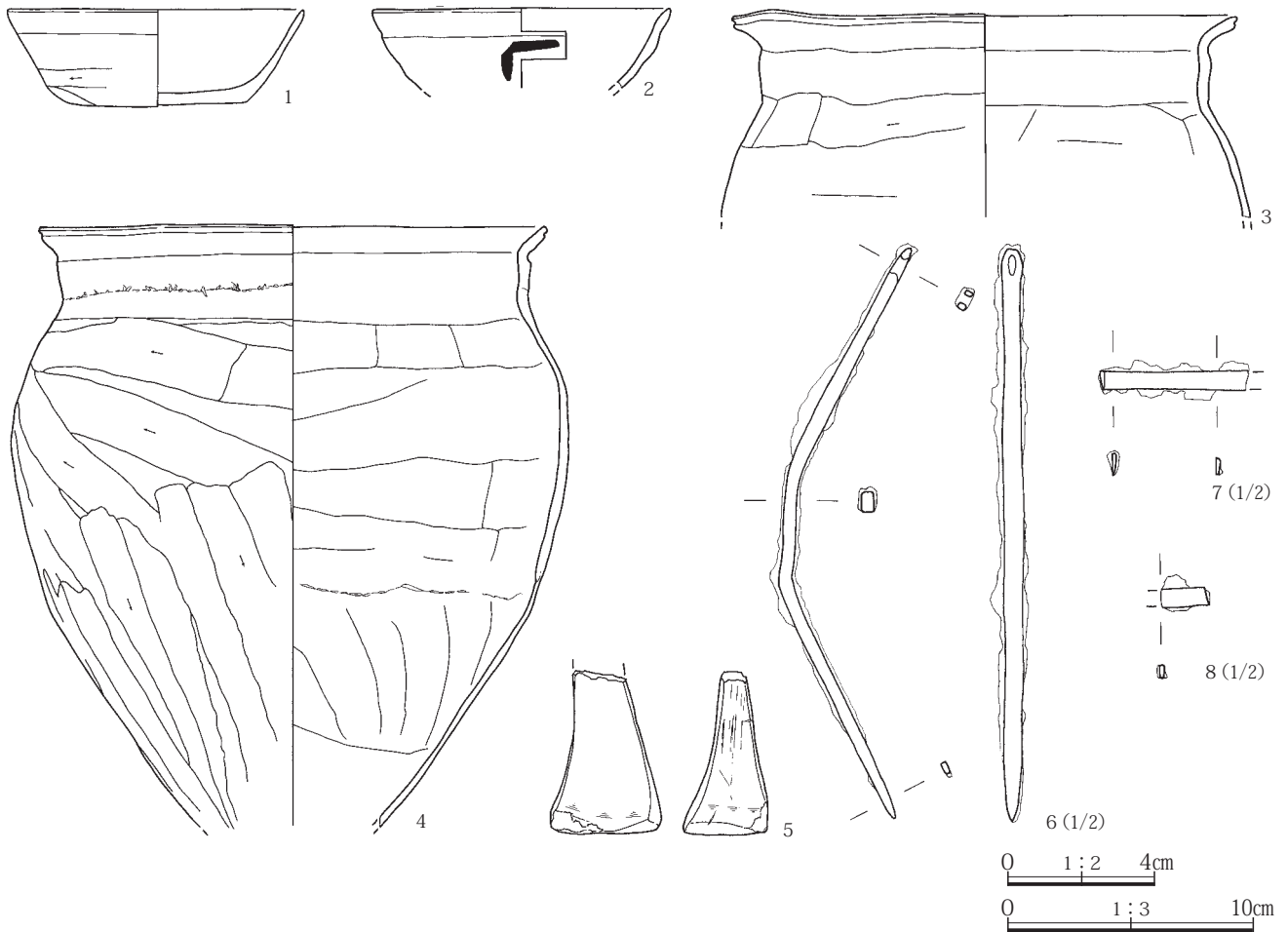
第47図 1区25号竪穴住居平断面図

第3章 調査の成果



1区25号竪穴住居竈

1. 褐色土 ローム小塊含み、焼土粒・炭化物粒わずかに含む。
- 2a. 灰黄色粘土 焼土粒・炭化物粒含む。
- 2b. 2a層より焼土粒・炭化物粒少ない。
3. 黄橙色土 焼土多く含み、わずかに灰含み、しまり弱い。
- 4a. 黄褐色土 くすんだローム主体に焼土粒含む。
- 4b. 赤褐色土 焼土主体にくすんだ褐色土含み、しまり弱い。
5. 黄橙色土 灰黄色粘土粒・焼土粒・灰含む。
6. 灰・焼土・ローム互層。
7. ローム塊・灰褐色土の混土、固くしまる。
8. 褐灰色土 ローム粒含む、粘性あり。
9. 焼土小塊・ローム小塊の混土、粘性あり。
10. 明黄色土 ローム塊主体にくすんだローム含む。



第48図 1区25号竪穴住居竈平面図、出土遺物

柱穴 確認できなかった。

周溝 幅11～23cm、深さ6～10cm。

遺物 覆土上層を中心に比較的多くの土器片が出土したが、その大部分は小破片になったものである。掲載したのは、土師器杯2点(1点は墨書がある)、同甕2点、砥石1点、鉄釘1点、用途不明鉄製品2点である。1の杯は南東隅と北西隅と竈という、住居内の離れた場所から出土した破片が接合した。4の甕は竈内から、3は竈北側の壁際から出土したが、床面からはやや浮いていた。5の砥石は北壁際中央から出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)341g、同(大)2,409g、須恵器(小)296g、同(大)3点・154gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居であると思われる。

1区26号竪穴住居(第49図、第33表、PL.26-7・8,27-1・2,113)

調査区北部の東側にある。西側の大半を攪乱で破壊され、東辺とその付近だけが残っている。

位置 X=30564～567、Y=-36492～494。

重複遺構 1区28号竪穴住居、3号掘立柱建物と重複しているが、重複する箇所がちょうど攪乱で削平された部分に当たるため新旧は不明である。

形状 東壁しか残存していないので不明だが、東壁とその両端の隅部の形態から、全体は方形であると思われる。

主軸方位 N-93°-E。

規模 南北方向は2.62mであるが、それと直交する方向は一部しか残存していないため計測不能である。

床面積 一部しか残存していないため計測不能である。

埋没土層 黒褐色土や暗褐色土で埋没している。

壁高 18～27cm。

床面 おおむね平坦。

掘方 調査できた範囲では、南北の両端付近を10cm前後深く掘っている。

竈 東壁中央やや南に設置している。両袖が残る。本体は灰黄色粘土で構築されていたらしいが、粘土の残りは少なく、かなり破壊されているようである。長さは袖の先端から計測して84cmであり、壁外の張り出しは28cmと短い。幅は袖の外側を計測して105cmである。燃焼部の

奥壁は焼土化し、底面には灰・炭化物が堆積していた。

貯蔵穴 掘方の調査で南東隅に見つかった四角い土坑が貯蔵穴である可能性があるが、竈右袖を少し壊す位置にあるため疑問がある。長さ40cm、幅36cmであり、深さは床面から計測して17cmである。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

遺物 竈付近と住居北側から出土している。掲載したのは土師器甕1点と須恵器皿1点である。1の皿は竈焚き口付近の床面直上から、2の甕は住居北側から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)56g、同(大)480g、須恵器(小)4点・8g、同(大)4点・785gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第4四半期の住居であると思われる。

1区27号竪穴住居(第50図、第33表、PL.27-3・4,113)

調査区北端にあり、北東側が調査区外となる。

位置 X=30580～585、Y=-36504～508。

重複遺構 1区30号竪穴住居、77～79号土坑と重複する。本遺構が77～79号土坑より古く、30号竪穴住居より新しい。

形状 北東側が調査区外になるが、調査区内になる部分からみて全体は方形になると考えられる。

主軸方位 N-39°-W。

規模 北西-南東方向の長さは3.84m、それと直交する方向は1.97m以上である。

床面積 調査区内の部分の計測すると5.83㎡である。

埋没土層 ローム粒や焼土粒・炭化物粒を含む褐色土などで埋没している。

壁高 住居や攪乱と重複していない北西部で計測すると62～65cmであり、比較的残りがよい。

床面 貼床構造の床面であり、おおむね平坦である。

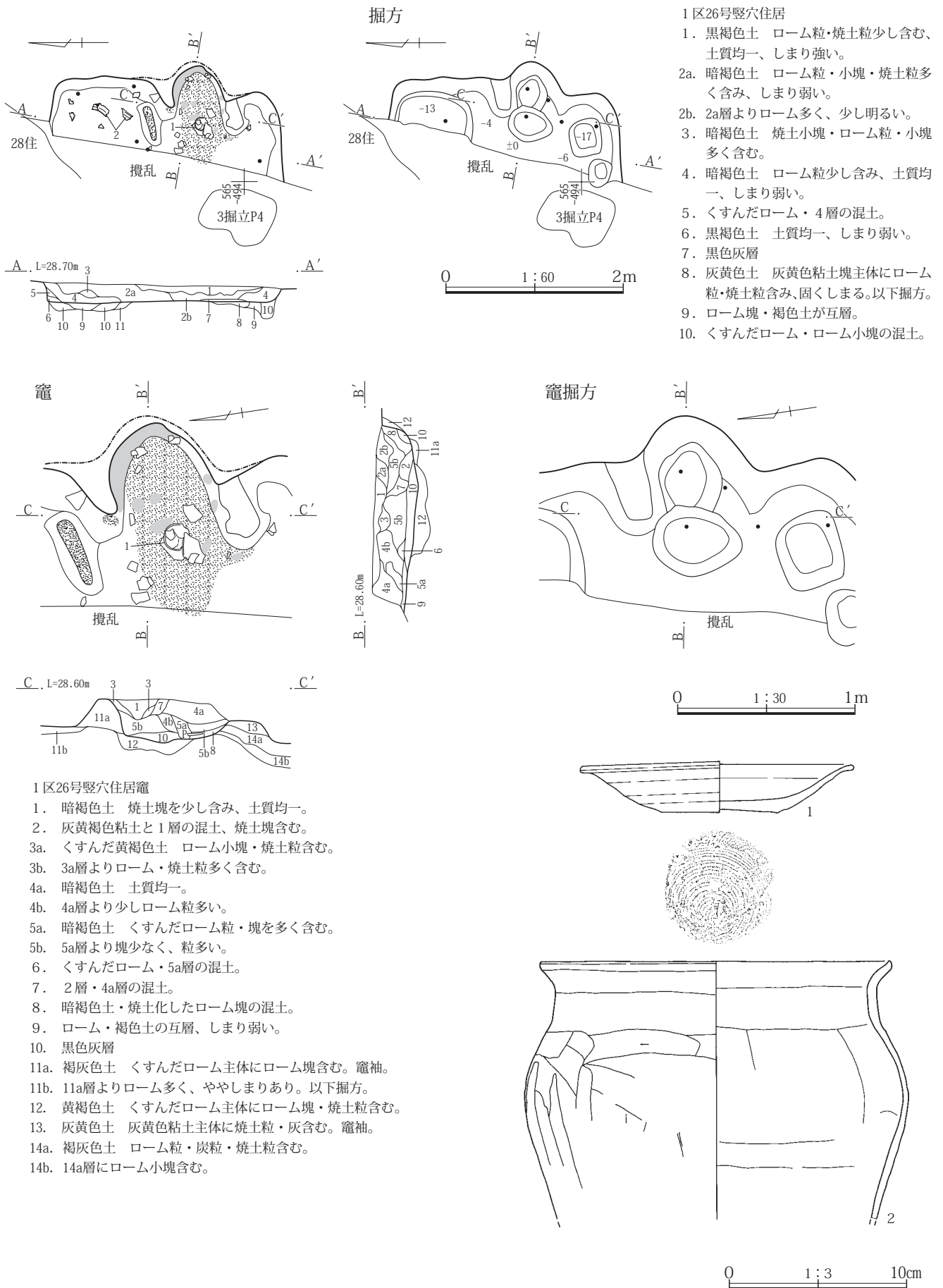
掘方 全体を床面から5～14cm程度深く掘っている。底面は凹凸が少ない。

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 調査区内では全周する。幅14～38cm、深さ6～10cmである。



第49図 1区26号竪穴住居平断面図、出土遺物

遺物 遺物は住居内に散在していたが、小破片ばかりであり、床面から浮いた高さから出土したものが多く。掲載したのは墨書のある須恵器杯小破片1点、敲石1点である。2の敲石は南隅から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)379点、同(大)2,056g、須恵器(小)477g、同(大)5点・91gがある。

時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、9世紀前半の住居であると思われる。

1区30号竪穴住居(第50図、PL.27-3・4)

調査区北端近くにある。北西に27号竪穴住居が重複し、北東側が調査区外となるため、調査できたのはわずかな部分である。

位置 X=30578~582、Y=-36503~507。

重複遺構 1区27号竪穴住居、72・77・78号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 北東側の大半が調査区外となり、さらに北西側を27号竪穴住居に破壊されるので詳細は不明だが、残る2辺は直線的でほぼ直角に交わっていため、全体は方形であると思われる。

主軸方位 N-37°-W。

規模 北西-南東方向は南西壁近くで計測して3.25m、それと直交する方向は2.45m以上である。

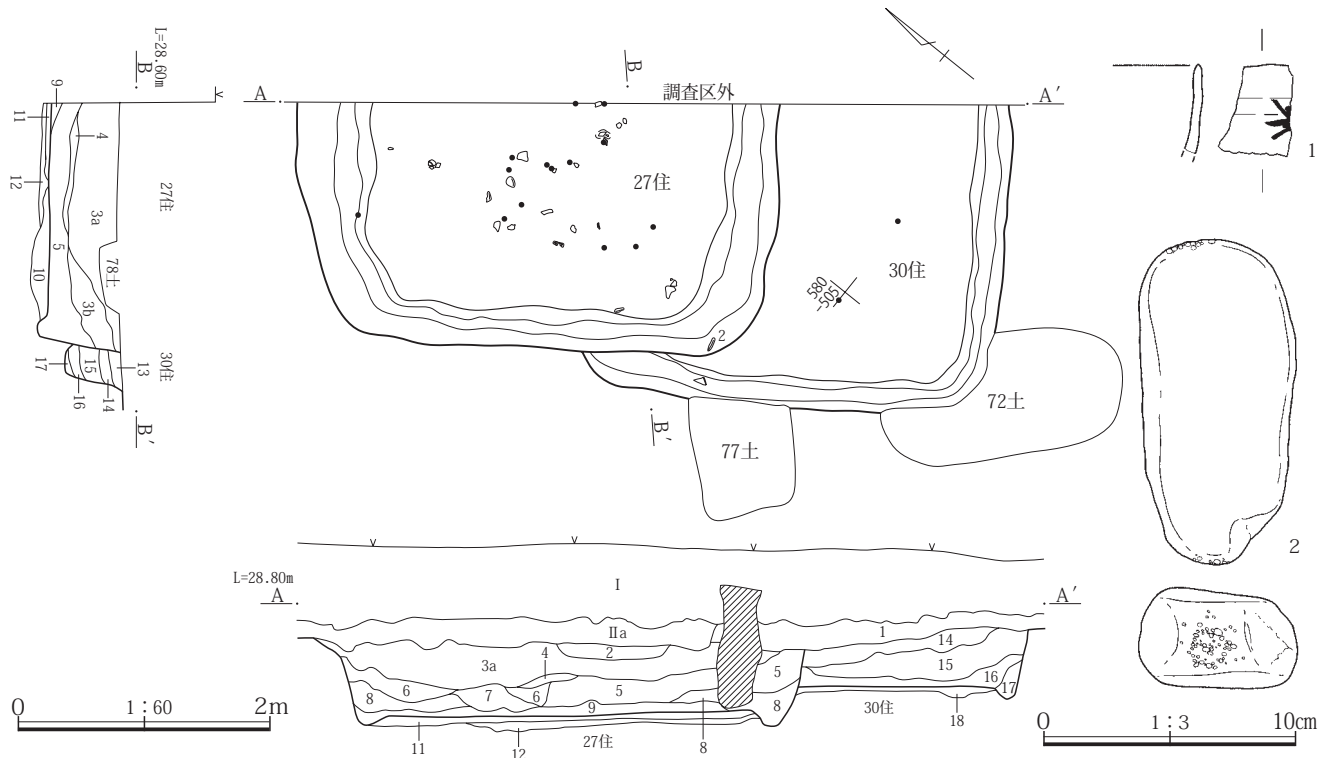
床面積 27号竪穴住居に破壊されている部分を復元して、調査区に掛かる部分を計測すると、7.22㎡である。

埋没土層 ローム粒を含む黄褐色土や褐色土で埋没している。いわゆるレンズ状堆積であり、自然埋没と考えられる。

壁高 31~42cmであるが、調査区壁(A-A'セクション)では46cm残っている。

床面 おおむね平坦である。

掘方 全体にごく浅く存在している。底面は凹凸が少ない。



1区27・30号竪穴住居

1. 褐色土 ローム粒含む。
2. 暗褐色土 ローム小塊を含む。79号土坑。
- 3a. 褐色土 ローム粒・炭化物粒・焼土粒わずかに含む。以下27号竪穴住居。
- 3b. 1a層に鉄分沈着。
4. 黒褐色土
5. 褐色土 ローム塊・焼土粒・炭粒含む、砂質。
6. 褐色土 ローム粒・炭化物含む。
7. くすんだ褐色土 ローム粒含む。
8. 褐色土 ローム小塊・炭化物粒・焼土粒含む。

9. 褐色土 ローム小塊・炭化物粒・焼土粒多く含む、灰わずかに含む。
10. 褐灰色土 ローム塊含む、しまりやや弱い。掘方。
11. ローム小塊・灰褐色土の互層、固くしまる。貼床。
12. 明黄褐色土 ローム塊主体に褐灰色土含む、固くしまる。掘方。
13. 黄褐色土 くすんだローム塊を含む。以下30号竪穴住居。
14. 褐色土
15. 黄褐色土 ローム塊主体。
16. 褐色土 ローム粒含む。
17. 黄褐色土 ローム・暗褐色土の混土。
18. 黄褐色土 ローム小塊含む、固くしまる。掘方。

第50図 1区27・30号竪穴住居平断面図、27号竪穴住居出土遺物

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 調査区内の部分では全周している。幅16～24cm、深さ3～7cmである。

遺物 出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)63g、同(大)293g、須恵器(小)7点・34g、同(大)37gがある。

時期と所見 わずかに出土している遺物からみて、7世紀後半の住居であると思われる。

1区28号竪穴住居(第51図、第33表、PL.28-1,113)

調査区北部の東側にあり、北東が調査区外となる。

位置 X=30566～570、Y=-36493～497。

重複遺構 1区26号竪穴住居、3号掘立柱建物と重複する。26号竪穴住居との重複部分は攪乱によって削平されているため、直接の新旧関係は把握できない。3号掘立柱建物は本遺構よりも新しい。

形状 調査区外になる部分と攪乱に破壊されている部分とがあるが、残っている部分と竈の位置からみて、北東-南西方向に長い長方形であると思われる。

主軸方位 N-37°-E。

規模 北東-南西の長軸方向が2.70m以上、それに直交する短軸方向は2.87mである。

床面積 攪乱に破壊されている部分を復元して調査区内の部分と計測すると、6.73㎡である。

埋没土層 褐色土や黄褐色土などで埋没するが、不自然な堆積状態の部分やローム塊を多く含む部分があることから、人為的に埋没している可能性が考えられる。

壁高 削平を受けていない東側の部分で計測すると28～29cmであるが、調査区壁(A-A'セクション)では40cm残っている。

床面 ほぼ全体が地山を床面とし、おおむね平坦である。

竈 北西壁に設置している。調査区境と攪乱との間のごく狭い部分しか残っていなかった。左軸と思われる高まりがわずかに残り、炭化物・焼土が壁の内外に広がるので、燃烧部を住居内から壁をやや掘り込んだ部分にかけて設け、煙道は壁外にのびる形態であるらしい。長さは56cm以上である。

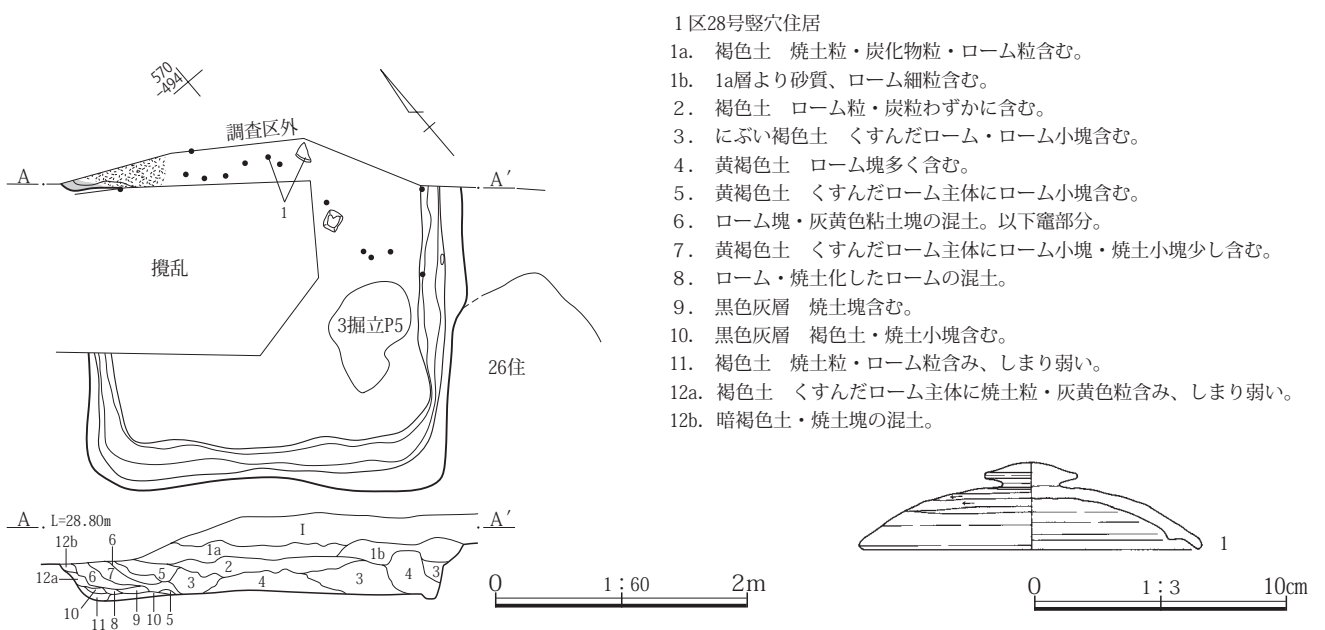
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 調査区内では全周する。幅14～31cm、深さ2～7cmである。

遺物 出土遺物は少ない。掲載したのは須恵器蓋1点のみである。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)42g、同(中)1点・26g、同(大)350gがある。

時期と所見 数は少ないが、出土遺物からみて、7世紀第4四半期の住居であると思われる。



第51図 1区28号竪穴住居平断面図、出土遺物

1区29号竪穴住居(第52～54図、第34表、PL.27-5,28-2～6,114)

調査区北西端近くにある。一部を土坑に破壊される以外は残りがよく、竈も天井部が残っていた。

位置 X=30572～578、Y=-36508～515。

重複遺構 1区110号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 正方形に近い方形である。

主軸方位 N-66°-E。

規模 中央付近で計測すると、長軸方向は5.70m、短軸方向は5.25mである。

床面積 19.46㎡。

埋没土層 黒褐色土、暗黄褐色土、褐色土などで埋没するが、いわゆるレンズ状堆積であり、自然埋没と考えられる。

壁高 62～79cm。

床面 おおむね平坦であるが、中央やや西側には長径74cm、短径52cmの楕円形の範囲で、5～10cm高くなっている部分がある。この部分の性格は不明である。

掘方 全体に浅く、床面から1～3cm深くなっているところが大部分であり、所々土坑状に10～15cm深く掘っている。中央部分は深く、最も深いところで83cmである。

竈 北東壁の南寄りに設置している。袖はなく、燃焼部は壁を掘り込んで作っている。煙道は燃焼部奥壁から地山にトンネルを水平に掘り、直角に立ち上げて作っている。長さは壁の下端から煙道先端までを計測して176cm、燃焼部幅は底面で計測して65cmである。煙道のトンネルの大きさは、地山を水平に掘っている部分で幅24cm、高さ14～17cm、垂直に立ち上がって確認面に現れる部分では長径32cm、短径29cmの円形である。トンネルの長さは現状では47cmである。天井部などは明灰黄色粘土で構築されていたようで、それが崩れたと思われる層が竈内に厚く落ち込んでいた(3a・3b層)。燃焼部の底面には炭化物・灰の層が堆積し、覆土には焼土を多く含むのでよく使用されていたものと思われる。

貯蔵穴 確認できなかった。掘方の調査でも見つからないので、本来なかったものと思われる。

柱穴 床面ではピットを4基確認している。P2は竈のすぐ前になってしまうのでやや不自然な配置ではあるが、位置からみてこれらが支柱穴であると思われる。各ピットの大きさは以下の通り(長径×短径×深さ、cm)。

P1 36×28×33 P2 43×35×40

P3 46×40×45 P4 65×58×40

周溝 竈を除いて全周する。幅15～48cm、深さ2～11cmである。

遺物 遺物は北西半部を中心に散在していたが、ほとんどは小さな破片になっており、出土層位も床面からは浮いたものが多かった。掲載したのは土師器杯3点、同甕2点、須恵器杯1点、同蓋1点、同甕2点、敲石1点、鉄製品4点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)1,857g、同(中)264g、同(大)8,436g、須恵器(小)1,096g、同(大)956gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第2四半期の住居であると思われる。

1区31号竪穴住居(第55図、第34表、PL.28-7・8,29-1・2,113)

調査区北西端近くにある。南東側の大部分が攪乱によって破壊されている。

位置 X=30563～567、Y=-36514～518。

重複遺構 なし。

形状 南東側大半が攪乱のため破壊されているが、北西壁とその両隅からみて、全体は方形であると思われる。

主軸方位 N-21°-W。

規模 北東-南西方向は3.84m。それに直交する方向は、2.75m以上である。

床面積 残存する床面を計測すると5.74㎡である。

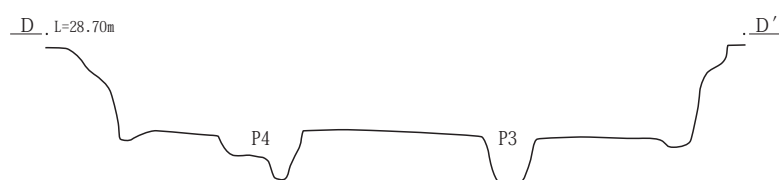
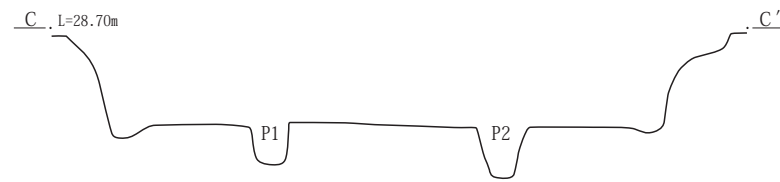
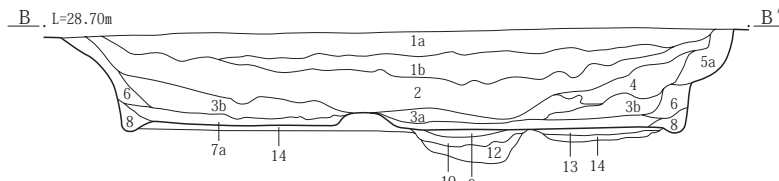
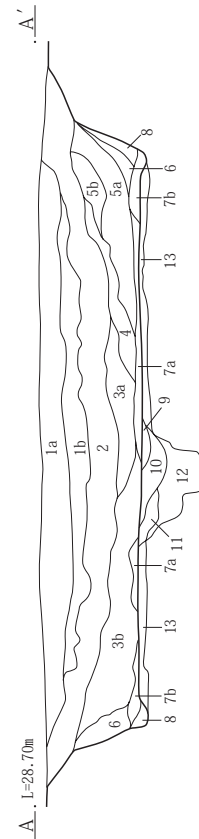
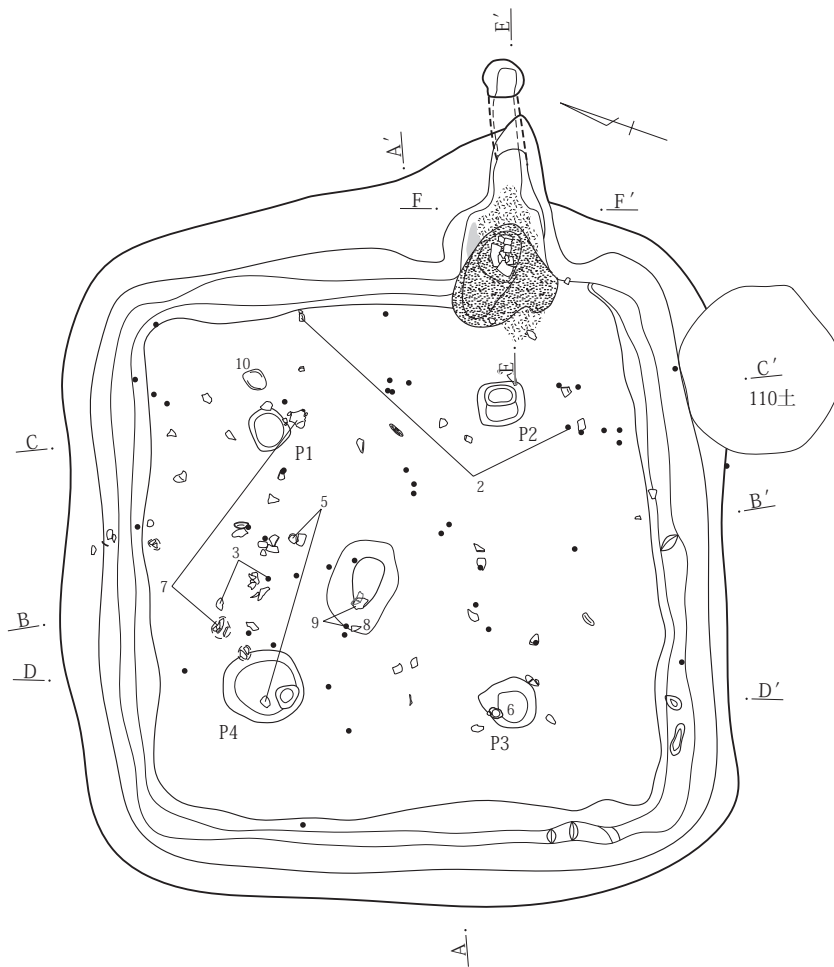
埋没土層 断面を観察したのが竈とその前面に当たる部分なので、住居全体の埋没状態は不明だが、暗褐色土や黄褐色土などでやや不自然に埋没しており、人為的に埋没している可能性が考えられる。

壁高 26～39cmであり、南西壁の残りがよい。

床面 おおむね平坦である。

掘方 中央から北西壁中央付近は床面より4～7cm程度と浅いが、北隅付近と南西壁付近とは10～15cmの深さがある。それをロームを含む土で埋め戻して床面とする。

竈 北西壁東寄りに設置している。竈付近の壁は、柵状に段差が付けられているが、これが当初のものかどうかははっきりしない。竈本体は灰黄褐色粘土で構築されていたようで、両袖の基部がわずかに残っていた。現状では燃焼部の大部分が壁外に張り出しているように見える



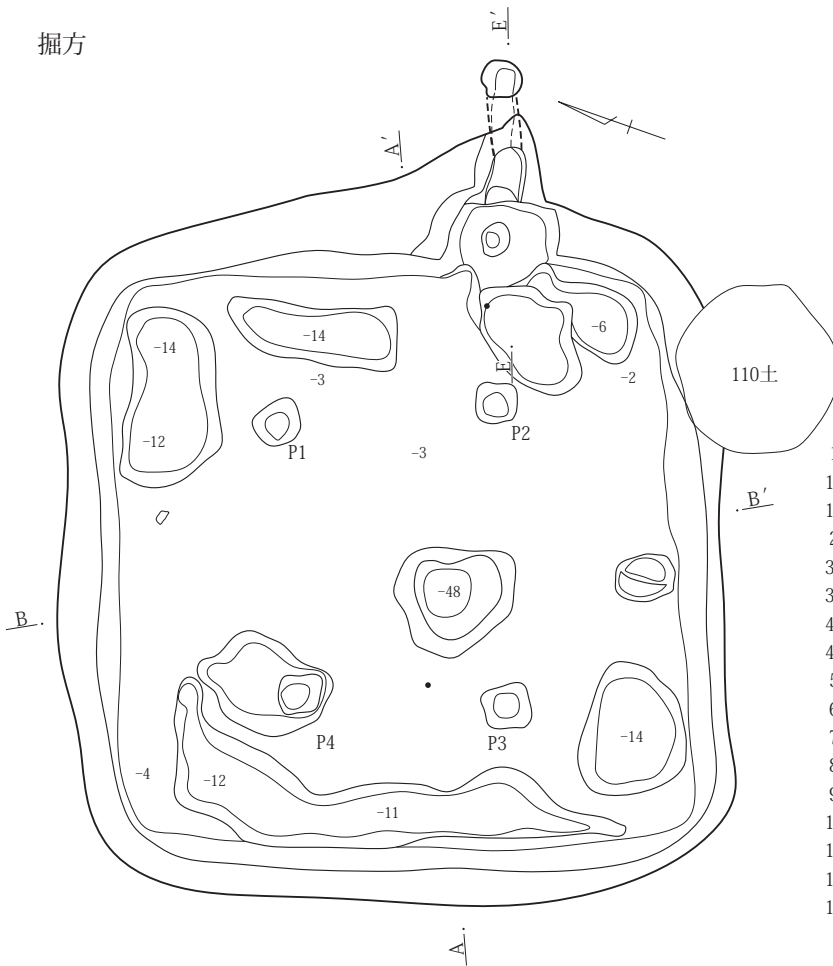
1区29号竪穴住居

- 1a. 黒褐色土 白色粒含み、焼土・炭化物粒わずかに含む。
- 1b. 1a層よりしまり弱い。
- 2. 暗黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊多く含み、褐色土粒含む。
- 3a. 褐色土 ローム粒・焼土粒わずかに含む。
- 3b. 褐色土 砂質。
- 4. 黒色灰・炭化物層。
- 5a. 暗黄褐色土 くすんだローム主体、やや砂質。
- 5b. 5a層に鉄分沈着。
- 6. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊含む。
- 7a. オリーブ褐色土 ローム粒・炭化物粒わずかに含み、砂質。
- 7b. オリーブ褐色土 7a層にローム塊含む。
- 8. 褐色土 ローム小塊含み、やや砂質。
- 9. 黒色土 炭化物含み、上部やや砂質。以下掘方。
- 10. 暗褐色土 砂粒含み、ローム粒わずかに含み、しまり弱い。
- 11. ソフトローム塊・褐色土の混土。
- 12. オリーブ褐色土
- 13. ローム小塊・褐灰色土塊・くすんだロームの混土、固くしまる。
- 14. 褐色土・硬質ロームの混土。



第52図 1区29号竪穴住居平衡断面図

掘方

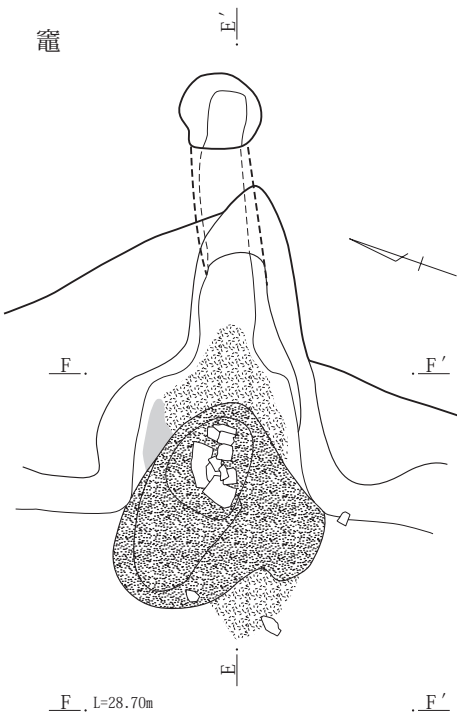


1区29号竪穴住居竈

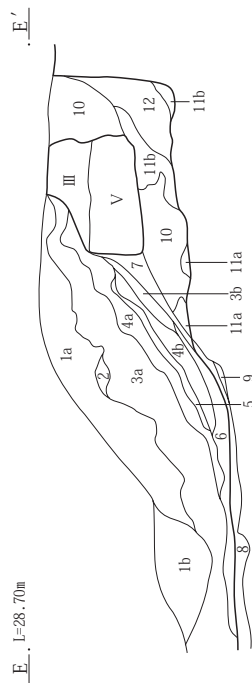
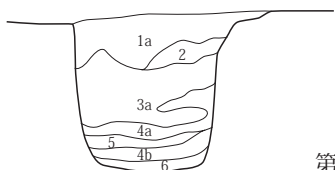
- 1a. ローム塊・灰黄色土小塊の混土。
- 1b. 褐色土 やや砂質。
- 2. くすんだ黄褐色土
- 3a. 明灰黄色粘土 褐色土・ローム塊含み、粘性弱い。
- 3b. 明灰黄色粘土・焼土小塊・ローム塊の混土。
- 4a. 赤褐色焼土 塊状。
- 4b. 赤褐色シルト質土 焼土化。
- 5. 黒茶色土 鉄分凝縮層、グズグズ。
- 6. 黒色灰層 焼土小塊含み、鉄分沈着。
- 7. 黄褐色土 ローム主体に褐色土塊含む。
- 8. 灰黄色粘土 掘方。
- 9. 黒褐色土 やや灰色がかかる。掘方。
- 10. 褐色土 くすんだローム・暗褐色土の混土。
- 11a. 黄褐色土 ローム塊主体。
- 11b. 明黄色土 ソフトローム主体に褐色土含む。
- 12. 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

0 1:60 2m

竈

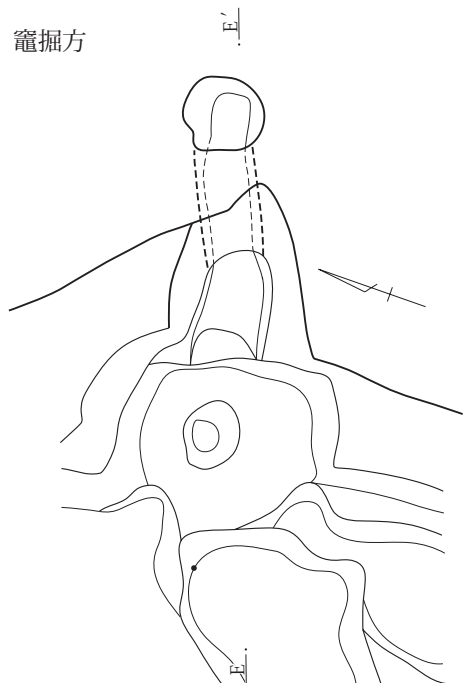


F., 1:28.70m



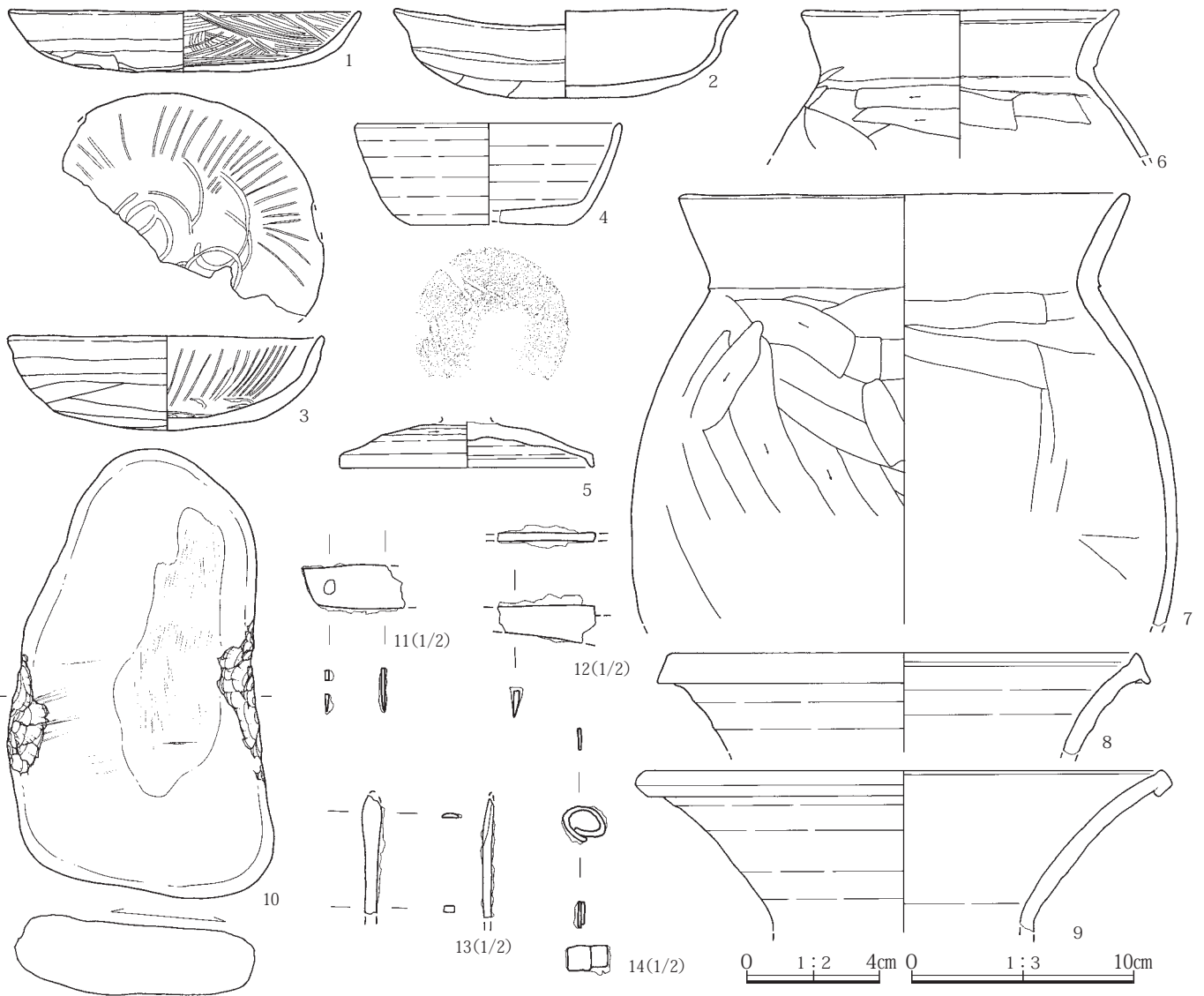
E., 1:28.70m

竈掘方



0 1:30 1m

第53図 1区29号竪穴住居掘方平面図、竈平面断面図



第54図 1区29号竪穴住居出土遺物

ので、袖はさほど長くはなかったものと考えられる。長さは、燃烧部の凹みの先端から計測すると120cm、袖の先端からだど82cmである。幅は袖基部の外側を計測して98cmである。燃烧部の底面には炭化物・灰・焼土が堆積している。

貯蔵穴 確認できなかったが、掘方の調査では北東隅に深さ15cmの凹みを確認しているので、この付近に設置されていた可能性はある。

柱穴 確認できなかった。

周溝 北西隅とその付近のみで確認できた。長さは合計3.40mである。幅11～17cm、深さ5～8cmである。

遺物 出土遺物は少なく、掲載したのは黒色土器椀1点のみであり、これは南西壁の壁際で、床面より9cm上の高さから出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)64g、同(大)205g、須

恵器(小)2点・11g、同(大)1点・18gがある。

時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、8世紀後半の住居であると思われる。

1区32号竪穴住居(第56図、PL.29-3・4)

調査区の北西隅にある。調査区に掛かるのは竈付近のわずかな部分だけであり、詳細は不明である。

位置 X=30563～566、Y=-36522～525。

重複遺構 なし。

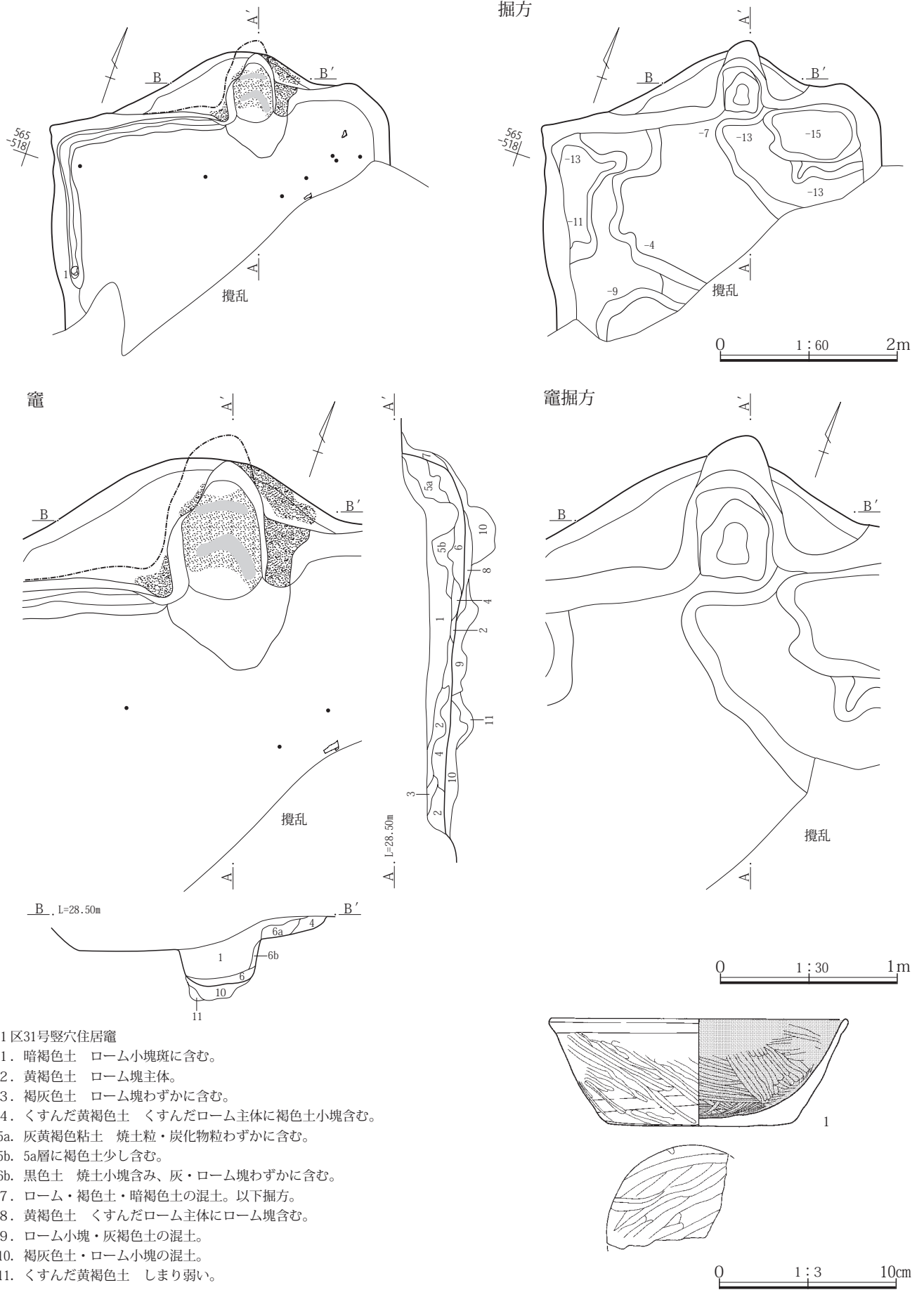
形状 西側の大半が調査区外になるため詳細は不明だが、竈付近の壁は直線的であり、全形は方形と推定される。

主軸方位 N-75°-E。

規模 わずかな部分なので計測不能。

床面積 調査できたのは1.34㎡のみである。

埋没土層 暗褐色土と褐色土などで埋没している。ローム



第55図 1区31号竪穴住居平断面図、出土遺物

第3章 調査の成果

塊を多く含む層もあり、単純な自然埋没とは考えにくい。

壁高 調査区壁では52cm残っていることが確認できた。

床面 竈周辺のわずかな部分だけであるが、緩やかな凹凸が目立つ。竈から出た灰・炭化物が床面にまで広がっている。

掘方 東壁に沿って8～20cm深く掘っている以外は、床面からわずかに下がる程度であり、地山を直接床面としている部分もある。

竈 東壁に設置している。左袖が痕跡程度に残っているが、右袖はなくなっている。壁外に大きく張り出す形態である。長さは袖の先端から計測して109cmで、壁外には74cmのびている。幅は右側の袖がないので、左袖外側

から右側の壁の掘り込み部分までを計測すると56cmである。

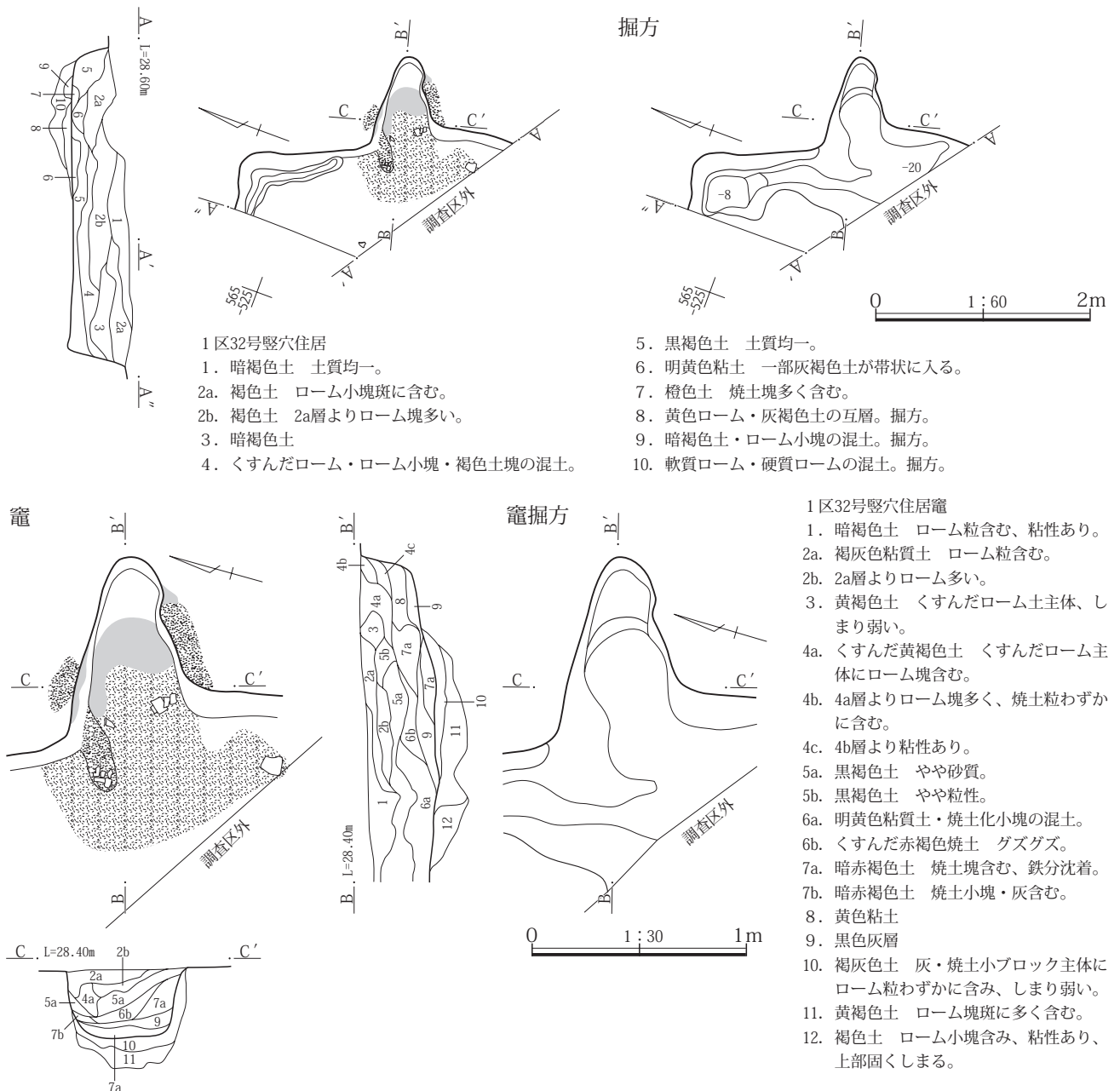
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 北部のみに確認できた。幅11～19cm、深さ4～9cmである。

遺物 出土遺物は少なく掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(大)194g、須恵器(小)1点・9gがあるだけである。

時期と所見 出土遺物がほとんどないので時期の特定は困難であるが、わずかに出土している土器は9世紀後半のものと思われる。



第56図 1区32号竪穴住居平断面図

2.2区

2区では合計31軒の竪穴住居を調査した。調査区の北、中央、南の3ヶ所に集中しており、特に南部には多くの住居が集中している。

2区1号竪穴住居(第57・58図、PL.29-5～8)

調査区北端にある。新しい重複遺構もなく、ほぼ全体を調査できた。

位置 X=30685～689、Y=-36581～586。

重複遺構 2区2号土坑と重複する。本遺構が新しい。

形状 正方形に近い方形だが、やや歪んで平行四辺形のような形状である。

主軸方位 N-20°-W。

規模 中央付近で計測すると、主軸方向が3.20m、それと直交する方向は3.10mである。

床面積 8.35㎡。

埋没土層 ローム塊を多く含む土で主に埋まっており、

自然埋没とは考えにくい。2a層は埋没後に掘られた穴の埋土であるらしい。

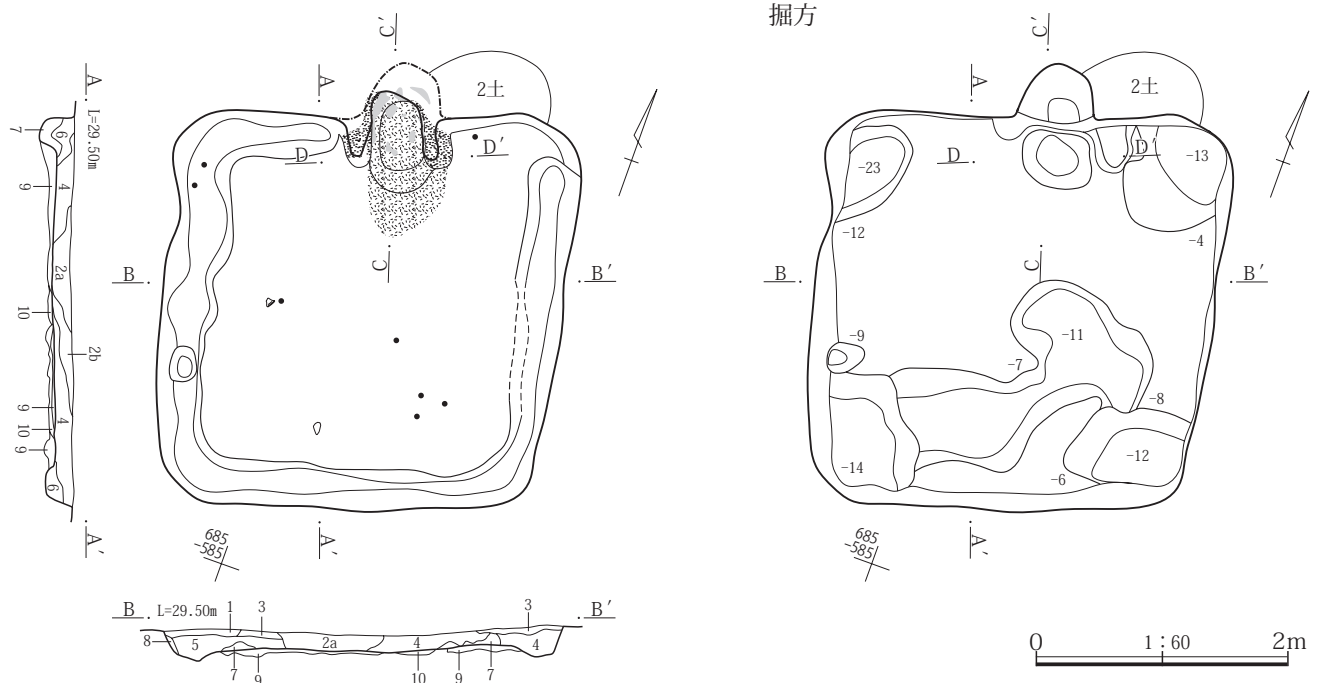
壁高 13～24cm。

床面 おおむね平坦である。

掘方 全体に浅い。南半部や北東隅、北西隅は10～20cm深く掘っているが、それ以外の部分は5～10cm程度である。底面には細かい凹凸がある。

竈 北壁中央に設置している。両袖が残り、ほぼ全体が住居内にある。本体は灰黄褐色粘土で構築され、袖付近にその粘土が残っている。全長は袖の先端から計測すると61cm、燃烧部底面の凹みの先端から計測すると80cmである。壁外には22cm張り出している。幅は両袖の外側を計測して90cmである。竈奥壁はよく焼土化し、燃烧部底面には灰・炭化物の層が堆積している。

貯蔵穴 床面では確認できなかった。掘方の調査では竈右側の住居北東隅に土坑状の凹みが見つかり、その部分では周溝が途切れていることから、この土坑が貯蔵穴である可能性が考えられる。この土坑は長さ幅とも約80cm

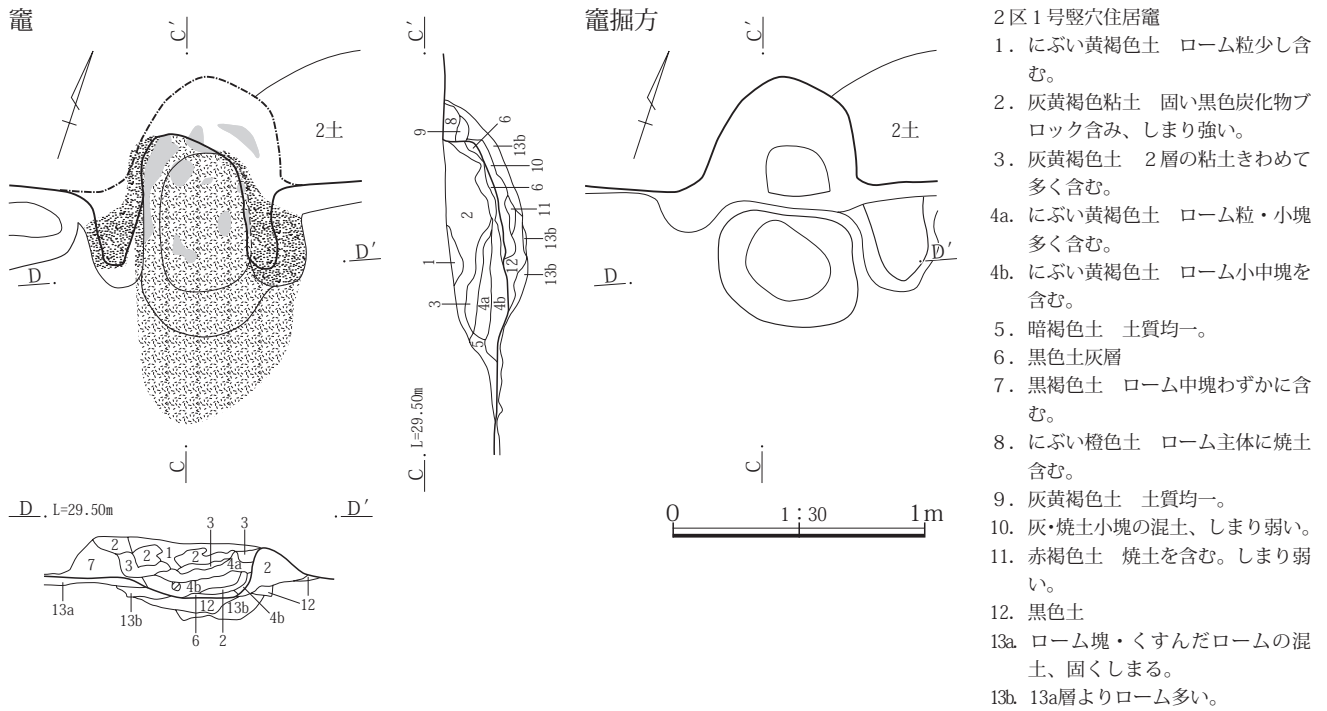


2区1号竪穴住居

1. 灰黄褐色土 ローム小塊少し含み、しまり強い。
- 2a. 黒褐色土 ローム粒・炭化物少し含み、ローム小塊わずかに含む。
- 2b. 黒褐色土 焼土粒少し含む。
3. 灰黄褐色土 鉄分沈着少し見られる。

4. にぶい黄褐色土 ローム塊多く含み、黒褐色土粒少し含み、土質粗い。
5. 黒褐色土 くすんだローム含み、ローム塊少し含む。
6. 黒褐色土 にぶい黄褐色土少し含み、しまりやや強い。
7. 明黄褐色土 ローム主体に4・5層含み、土質粗い。
8. 明黄褐色土 ローム主体。
9. くすんだローム・ローム塊・褐色土塊の混土。掘方。
10. 灰黄褐色土・ロームの混土、固くしまる。掘方。

第57図 2区1号竪穴住居平衡面図



第58図 2区1号竈穴住居竈平面図

の不整形で、深さは床面から11～19cmである。

柱穴 確認できなかった。

周溝 北壁の竈以東以外は全周する。幅24～36cm、深さ2～15cmである。

遺物 出土遺物は少なく掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)72g、同(大)312g、須恵器(小)7点・75gがある。

時期と所見 出土遺物が少ないので時期の特定は困難だが、出土した土器は7世紀のものと思われる。

2区2号竈穴住居(第59図、第34表、PL.30-1・2,114)

調査区北端近くにある。調査時に重複する竈穴住居・掘立柱建物との新旧関係を誤認してしまったため、南壁付近の形状が不明となってしまった。

位置 X=30680～682、Y=-36575～579。

重複遺構 2区3号竈穴住居、2・4号掘立柱建物と重複する。調査時に新旧を誤認してしまったが、整理時に検討した結果、本遺構が4号掘立柱建物より古く、3号竈穴住居と2号掘立柱建物より新しいと判断した。

形状 南壁付近の形状が不明確ではあるが、正方形に近い方形になるものと思われる。

主軸方位 N-94°-E。

規模 中央付近で計測して、主軸方向は2.75mである。それと直角する方向は2.70mと推定される。

床面積 南辺を推定復元して6.09㎡である。

埋没土層 褐色土を主体とした土で埋没しているが、不自然な堆積なので、人為的に埋められた可能性が高い。

壁高 他の遺構との重複がない部分で計測すると15～23cmである。

床面 おおむね平坦である。

掘方 床面の大部分が3号竈穴住居の覆土上に作られているため、掘方を明確に把握することはできなかった。それから外れている部分は地山を直接床面としているので、掘方はほとんどなかったものと考えられる。

竈 東壁のほぼ中央に設置している。袖が見られず、竈の全体が壁の外側に構築されている。長さは住居壁の下端から計測して56cm、焚き口部の幅は42cmである。覆土には灰黄色粘土を含むので、これによって天井部が作られていたらしい。竈内はよく焼土化し、底面には灰・炭化物の層が堆積している。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

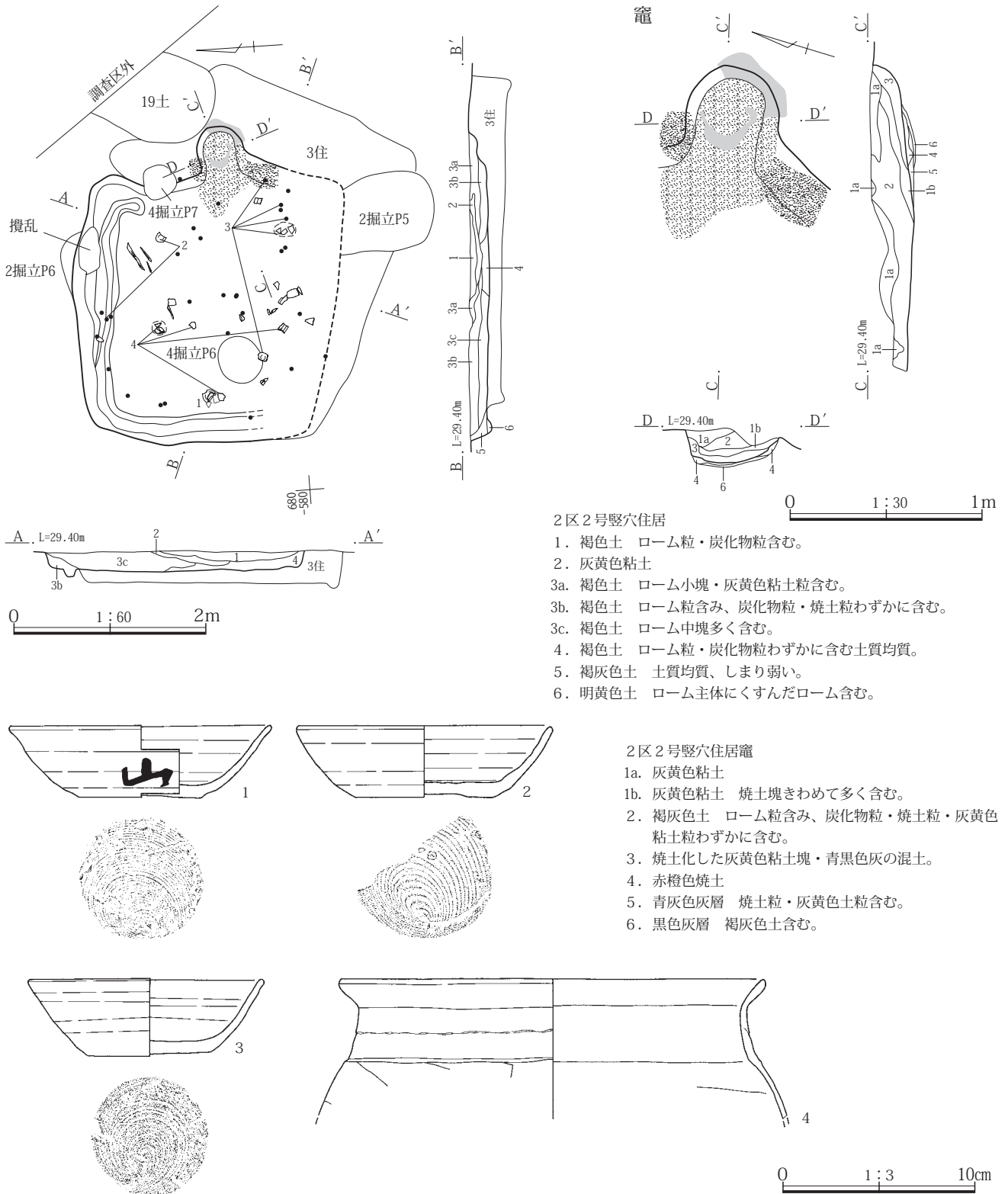
周溝 北壁と西壁で確認した。南壁は不明であるが、本来ここにもあった可能性が高い。幅14～30cm、深さ2

～5 cmである。

遺物 遺物は全体に散在していた。掲載したのは土師器甕1点、須恵器杯3点(1点には墨書がある)である。1の杯は西壁近くの中央付近の床面直上で出土した。それ以外は床面からやや浮いた高さからの出土が多い。その

他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)4点・23 g、同(大)791 g、須恵器(小)180 g、同(大)2点・177 gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居であると思われる。



2区2号竪穴住居

- 1. 褐色土 ローム粒・炭化物粒含む。
- 2. 灰黄色粘土
- 3a. 褐色土 ローム小塊・灰黄色粘土粒含む。
- 3b. 褐色土 ローム粒含み、炭化物粒・焼土粒わずかに含む。
- 3c. 褐色土 ローム中塊多く含む。
- 4. 褐色土 ローム粒・炭化物粒わずかに含む土質均質。
- 5. 褐灰色土 土質均質、しまり弱い。
- 6. 明黄色土 ローム主体にくすんだローム含む。

2区2号竪穴住居竪

- 1a. 灰黄色粘土
- 1b. 灰黄色粘土 焼土塊きわめて多く含む。
- 2. 褐灰色土 ローム粒含み、炭化物粒・焼土粒・灰黄色粘土粒わずかに含む。
- 3. 焼土化した灰黄色粘土塊・青黒色灰の混土。
- 4. 赤橙色焼土
- 5. 青灰色灰層 焼土粒・灰黄色土粒含む。
- 6. 黒色灰層 褐灰色土含む。

第59図 2区2号竪穴住居平断面図、出土遺物

2区3号竪穴住居(第60・61図、第34表、PL.30-3～6、114)

調査区北端近くにある。

位置 X=30678～682、Y=-36575～579。

重複遺構 2区2号竪穴住居、2・4号掘立柱建物、19号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 長方形である。

主軸方位 N-28°-E。

規模 中央付近で計測して主軸方向は2.75m、それと直交する方向は3.43mである。

床面積 2号掘立柱建物と重複する部分を推定復元して、7.96㎡である。

埋没土層 主にローム塊を多く含む土で埋没しており、人為的埋没の可能性が考えられる。

壁高 他の遺構と重複していない壁で計測して、31～37cmである。

床面 おおむね平坦であるが、南東壁近くは4～5cm低くなっている。

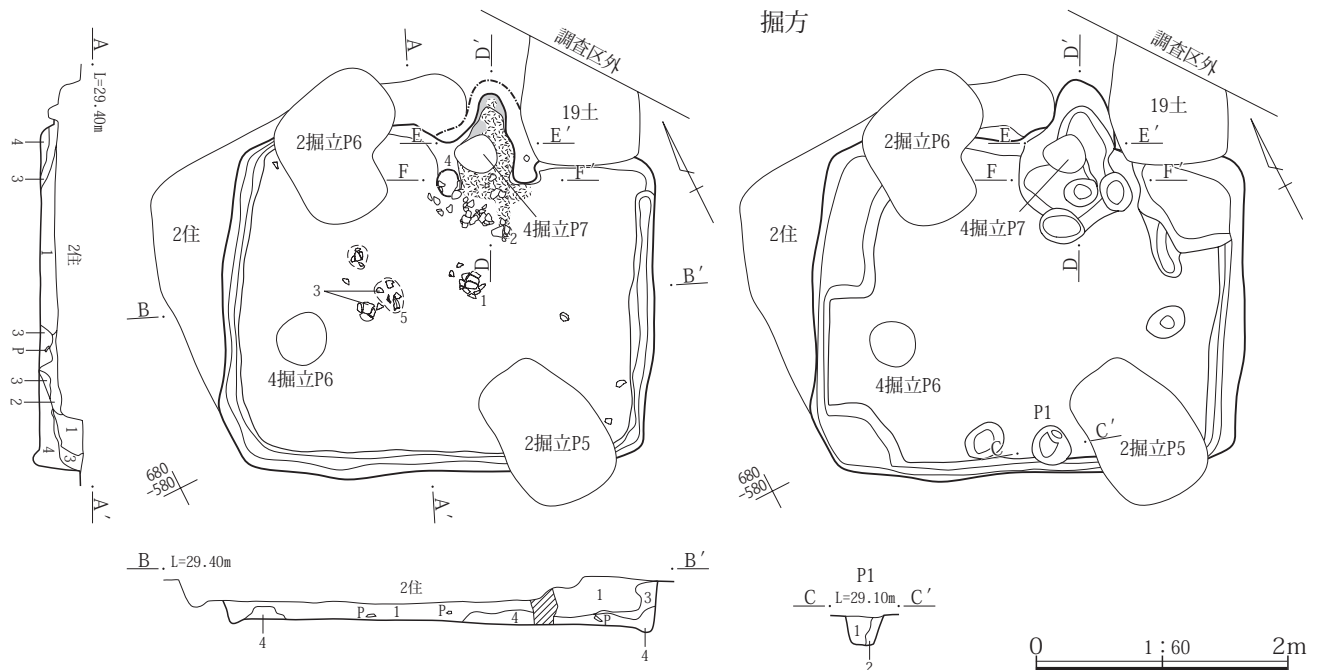
掘方 ごく一部分に存在するのみであり、大部分では地山を直接床面としている。

竈 東壁中央やや東寄りに設置している。両袖が残る。本体の大部分を壁内に構築する形態であり、煙道の先端付近のみが壁外に張り出す。左袖先端には芯材の土師器甕が残されていた。長さは袖先端から計測して82cm、幅は両袖外側を計測して92cmである。竈本体は灰白色粘土や黄褐色土などで構築している。内部から前面にかけては灰・炭化物が堆積し、奥壁は焼土化している。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 支柱穴は確認できなかったが、掘方底面では南西壁際の中央に1基のピット(P1)が見つかる。P1は長径32cm、短径29cmのほぼ円形で、深さは床面から26cmある。位置から見て入り口の施設に関わるものかもしれない。なお、すぐ西側にあるピットは、このP1と組になるように見えるが、深さは5cmしかないので、関連しない可能性が高い。

周溝 竈のある北東壁以外の三辺に廻っている。幅9～



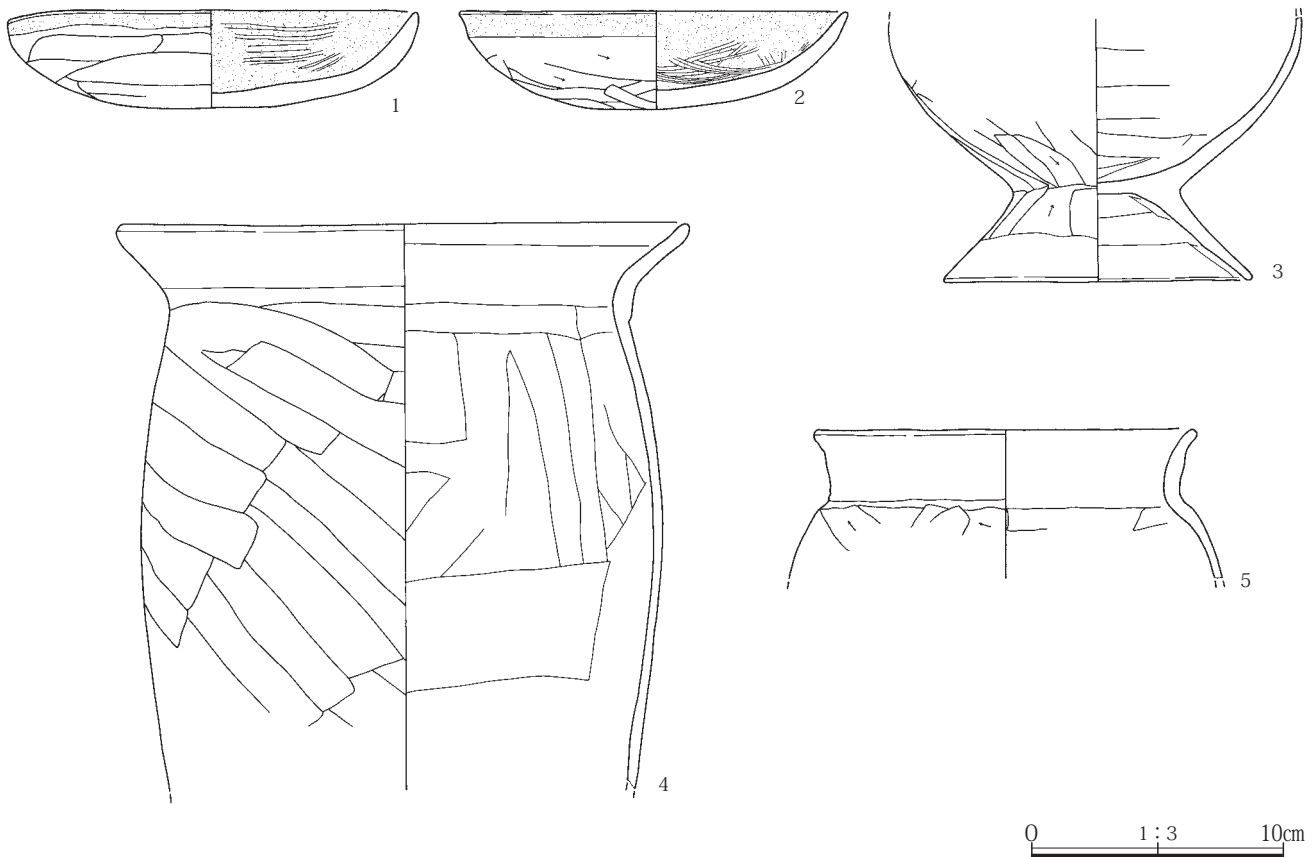
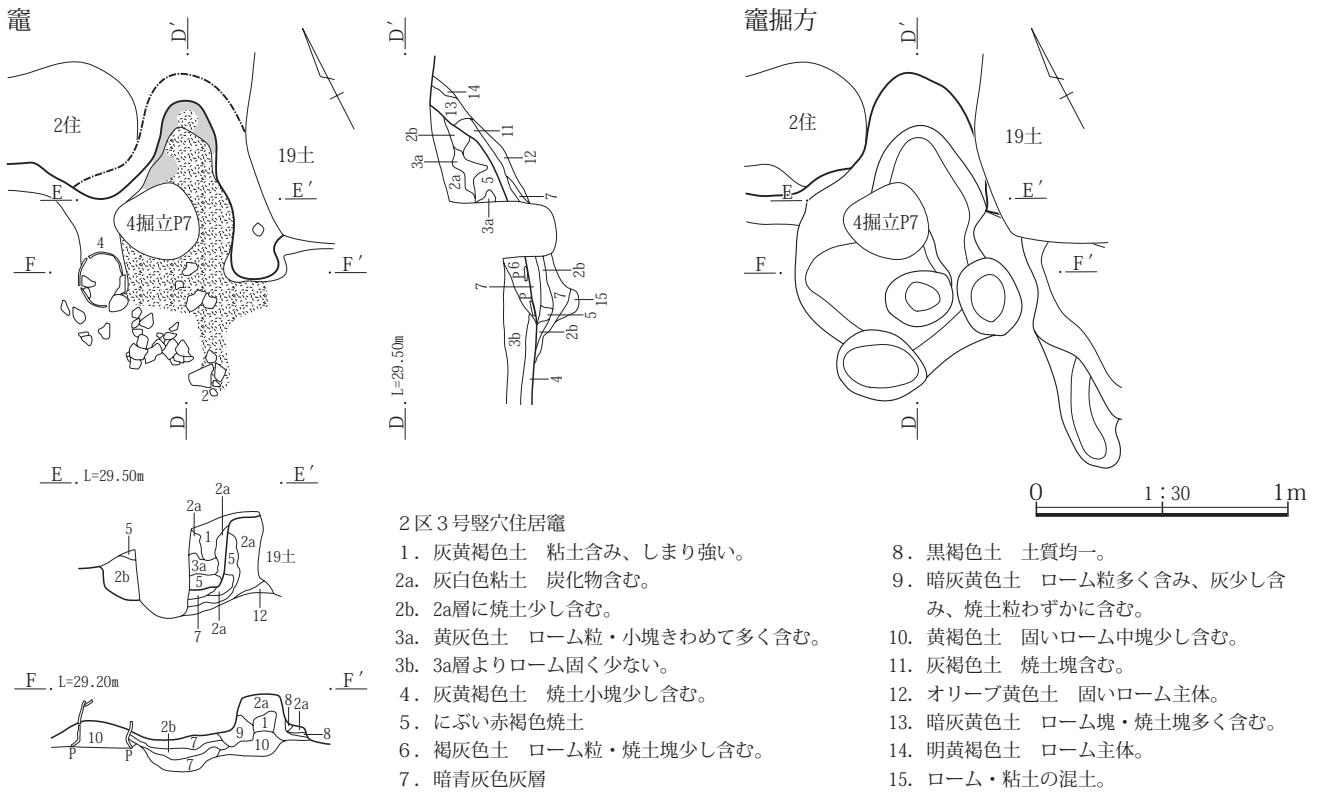
2区3号竪穴住居

1. にぶい黄褐色土 くすんだローム主体に褐灰色土塊・ローム塊含む。
2. 7a層よりしまり強い。
3. くすんだローム・褐灰色塊の混土。
4. にぶい黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊・褐灰色土小塊含む。

2区3号竪穴住居P1

1. 褐灰色土 ローム粒・炭化物粒・焼土粒含む。土質均質、しまり弱い。
2. 褐色土 ローム粒含む。

第60図 2区3号竪穴住居平面図



第61図 2区3号竪穴住居竪平面断面図、出土遺物

21cm、深さ1～5cmである。

遺物 竈の前面から住居中央部に掛けて土器片が出土した。掲載したのは土師器杯2点、同甕2点、同台付甕1点である。4の甕は竈左袖の先端に芯材として据えられていた。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)28g、同(大)1,112g、須恵器(小)1点・16gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀前半の住居であると思われる。

2区4号竪穴住居(第62～64図、第35表、PL.30-7・8、31-1～3,115)

調査区北部にある。

位置 X=30662～667、Y=-36572～578。

重複遺構 2区9号土坑、110号ピットと重複する。本遺構が古い。

形状 東西に長い長方形である。竈が設置されている東壁には柵状の段がある。北壁と西壁北部にも上部に段差があるが、こちらは不整形であり、壁が崩れたためにできたものかもしれない。A-A'セクションではたまたまこの部分に小さな攪乱が入っていた。

主軸方位 N-84°-E。

規模 中央付近で計測して主軸方向が5.10m、それと直交する方向は4.50mである。東壁にある柵状の段の幅は56～68cmである。北壁の段は35～66cmの幅がある。

床面積 柵状の部分を除いて15.51㎡である。

埋没土層 いわゆるレンズ状堆積を示すが、ローム塊が目立つので、自然埋没とは考えにくい。

壁高 全体に残りがよく、61～84cmの高さがある。

床面 おおむね平坦である。中央部に灰・炭化物が分布している。

掘方 南半部は壁に沿って深く掘っていて、床面から15～20cmの深さがあるが、その他は6～10cmと浅い。底面は細かい凹凸がある。

竈 東壁中央やや南に設置している。燃焼部は柵状の部分にはほぼ収まり、そこから袖が住居内に伸びている。煙道は住居外に張り出す。長さは袖の先端から計測して166cmであり、先端は壁外に64cm張り出している。幅は両袖の外側から計測して126cmである。本体は灰オリーブ色の粘土で構築され、竈内壁はよく焼土化し、燃焼部

底面から竈前の床面には黒色灰・炭化物が堆積している。

貯蔵穴 南東隅にある凹みを貯蔵穴として調査したが、浅く不整形なのでやや疑問がある。長径80cm・短径63cm・深さ16cmである。上面に粘土が薄く堆積していた。

床下土坑 掘方の調査において竈の右前に見つかった穴を床下土坑として調査した。長径64cm、短径56cmのほぼ円形で、深さは床面から計測すると51cmと深い。形状から見て土坑よりもピットと呼ぶべきものなので、柱穴の可能性も考えられるが、同様なピットはこれ以外に見つかっていない。位置を考えれば古い時代の貯蔵穴である可能性が高いと思われる。

柱穴 明確な柱穴は確認できなかった。床面で南東壁近くの中央に見つかっている穴は深さ15cmと浅い。掘方でもピット状の穴がいくつか見つかったが、いずれも浅く、位置から見ても柱穴とは思えないものばかりである。

周溝 東辺を除いて確認できた。幅23～60cm、深さ2～11cmであり、南西隅が広がっている。

遺物 竈とその周辺、貯蔵穴から南壁際中央にかけてやや多くの遺物が出土した。掲載したのは、土師器杯1点(墨書)、同椀1点、同甕2点、須恵器杯5点(3点には墨書がある)、同蓋1点、敲石1点、用途不明鉄製品1点である。1の土師器杯、9・10の土師器甕は竈内と竈前面から、2の土師器椀と3・4・7の須恵器杯、8の須恵器蓋は南壁際中央付近の床面直上あるいはその近くの高さから出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)834g、同(大)5,200g、須恵器(小)1,455g、同(大)682gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第2四半期の住居であると思われる。

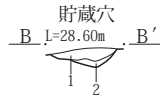
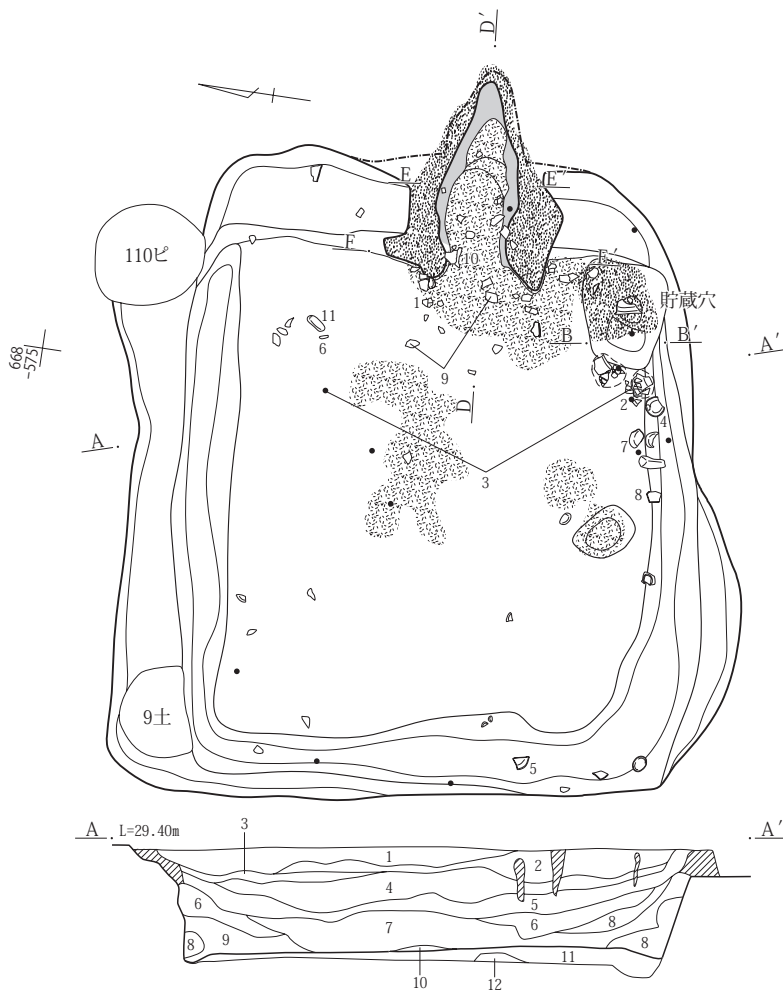
2区5号竪穴住居(第65図、PL.31-4)

調査区北部の東側にある。北東部が調査区外となるうえ、2区7号竪穴住居、6・9・10号溝と重複するため残りが悪く、壁と床面との存在から住居と判断したものである。

位置 X=30662～665、Y=-36562～565。

重複遺構 2区7号竪穴住居、6・9・10号溝と重複する。本遺構が古い。

形状 調査できたのがわずかな面積だけなので詳細は不明であるが、隅部はほぼ直角に交わっているため全形は



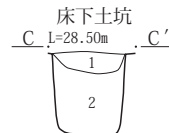
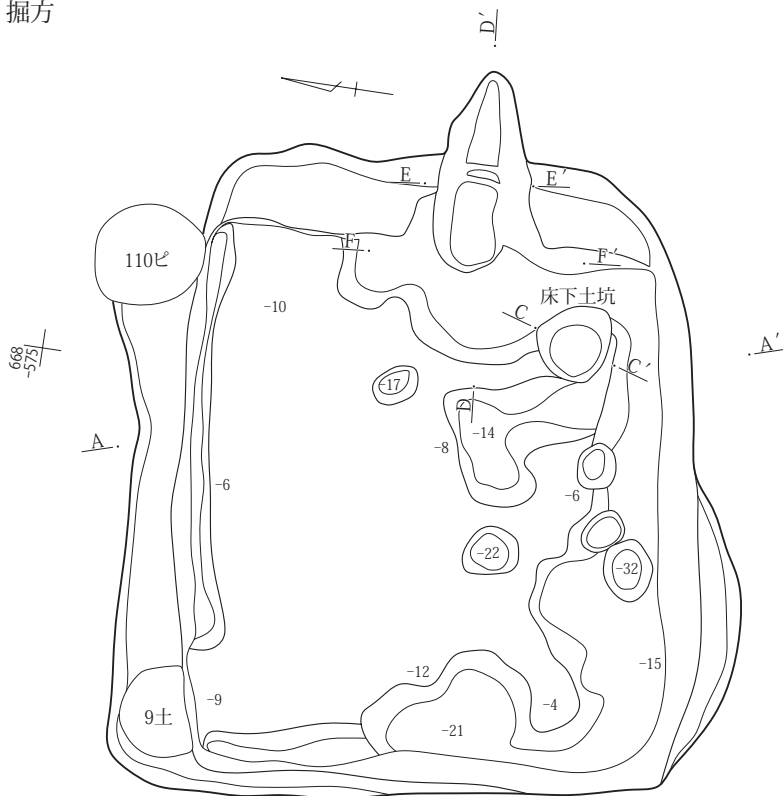
2区4号竪穴住居貯蔵穴

1. 褐灰色土 ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一。
2. オリーブ色土 焼土小塊きわめて多く含み、固いローム塊やや多く含む。

2区4号竪穴住居

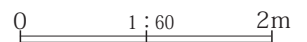
1. 暗灰黄色土 ローム粒・小塊・焼土小塊少し含む。
2. 黄褐色土 土質粗い。
3. オリーブ褐色土
4. 黄灰色土 暗灰色土含む。
5. 暗灰黄色土 ローム大塊やや多く含む。
6. 5層よりローム少なく、7層含む。
7. ローム大塊・灰オリーブ色土の互層。
8. 暗灰色土 ローム少し含む。
9. 灰オリーブ土 ローム主体に6層多く含む。
10. 焼土粒・粘土粒の混土。
11. 暗灰黄土 固いローム中大塊含む。
12. 暗灰黄土 土質均一。

掘方



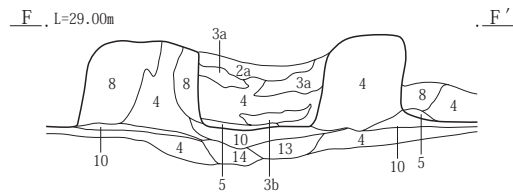
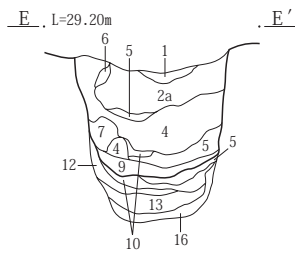
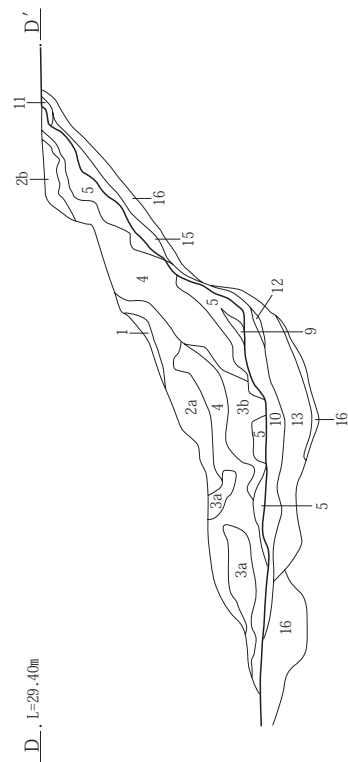
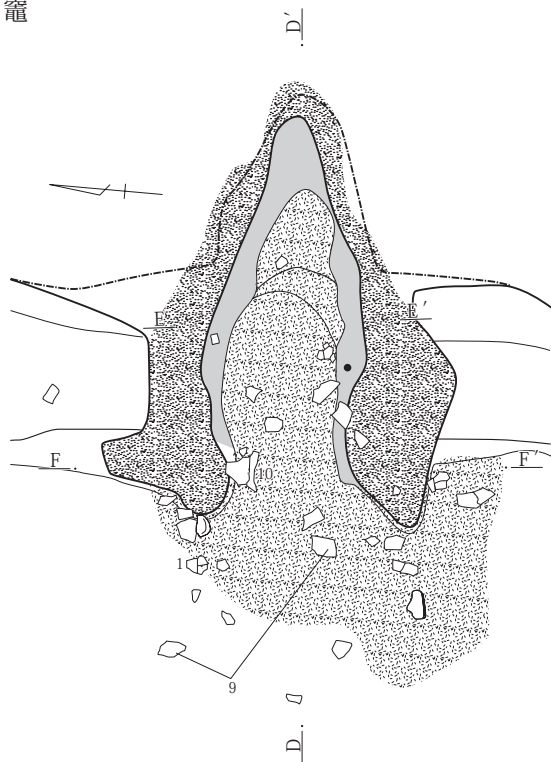
2区4号竪穴住居床下土坑

1. 黄褐色土 粘土・ローム塊主体に灰・焼土少し含む。
2. 青黒色土灰

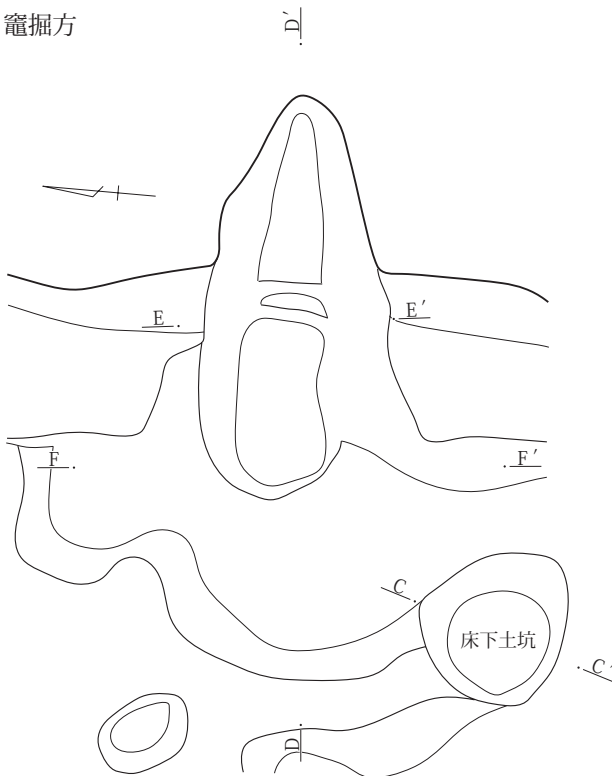


第62図 2区4号竪穴住居平面図

竈

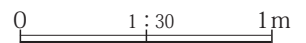


竈掘方

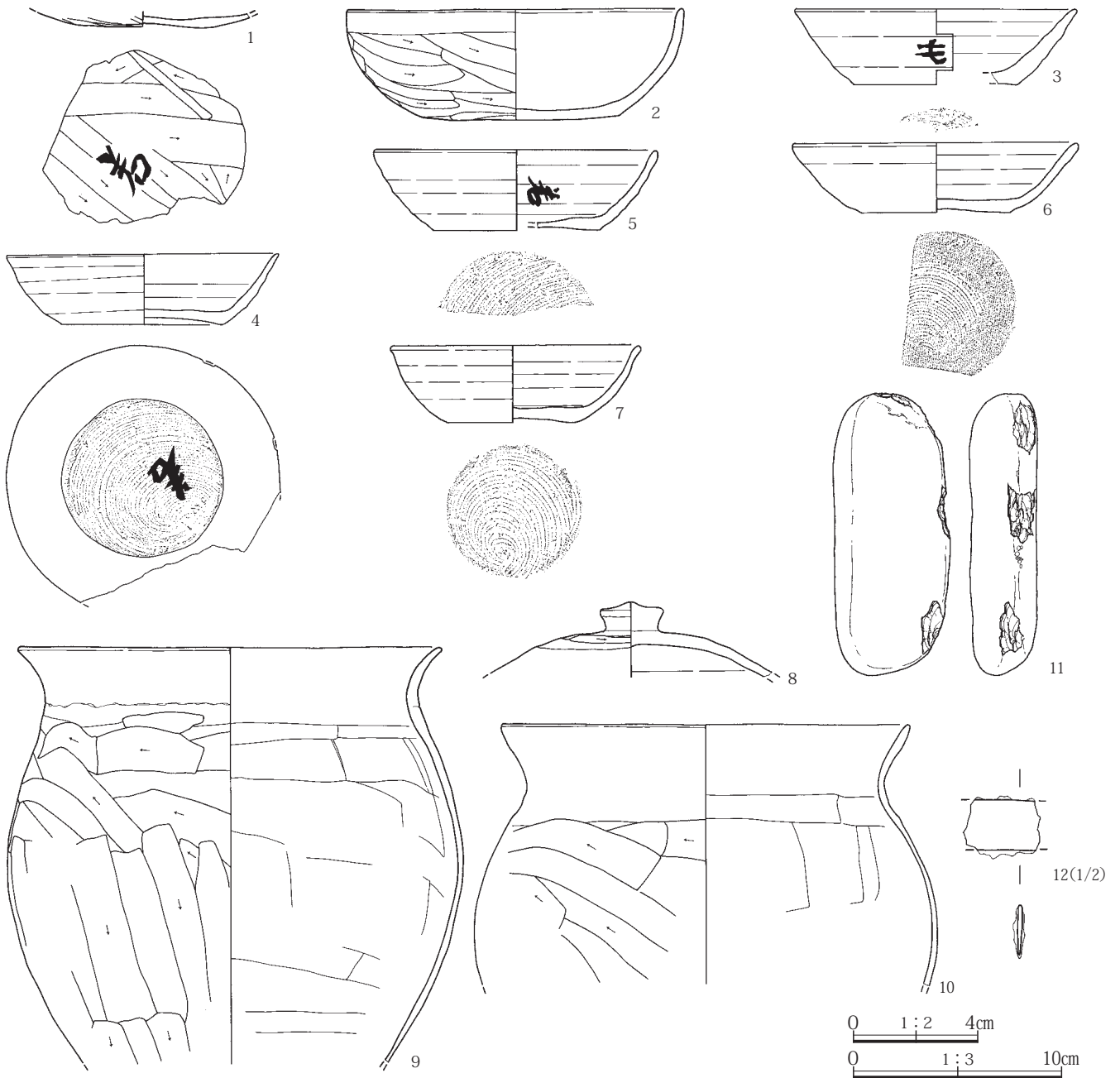


2区4号竪穴住居竈

1. オリーブ黄色土 粘土主体に焼土少し含む。
- 2a. 灰オリーブ色土 粘土きわめて多く含み、3a層含む。
- 2b. 灰オリーブ色土 ローム粒多く含み、焼土ごくわずかに含む。
- 3a. 暗灰色土 粘土・焼土塊多く含み、ローム粒わずかに含む。
- 3b. 3a層より粘土少ない。
4. 灰オリーブ色粘土 塊状。
5. 橙色焼土 粘土わずかに含む。
6. オリーブ黄色土 ローム多く含む。
7. 暗灰黄色土 粘土主体に灰多く含み、焼土少し含む。
8. 暗灰黄色土 粘土含み、焼土塊わずかに含む。
9. にぶい赤褐色土 土質・しまり弱い、焼土化した粘土。
10. 黒色灰層
11. 褐灰色土 焼土少し含む。
12. にぶい黄色土 粘土主体に焼土少し含む。
13. 灰オリーブ色土 もろい粘土主体に灰・焼土含む。
14. 灰オリーブ色土 粘土主体に焼土含む。
15. 暗青灰層 焼土ブロックきわめて多く含む。
16. 暗灰黄色粘質土 固いローム少し含む。



第63図 2区4号竪穴住居竈平断面図



第64図 2区4号竪穴住居出土遺物

方形と推定される。

主軸方位 北西—南東方向を主軸としてN-27°-W。

規模 隅部とその付近のみしか調査できていないので、計測はできない。

床面積 計測不能である。

壁高 5～17cmである。

床面 地山を直接床面としており、おおむね平坦である。

竈 確認できなかった。

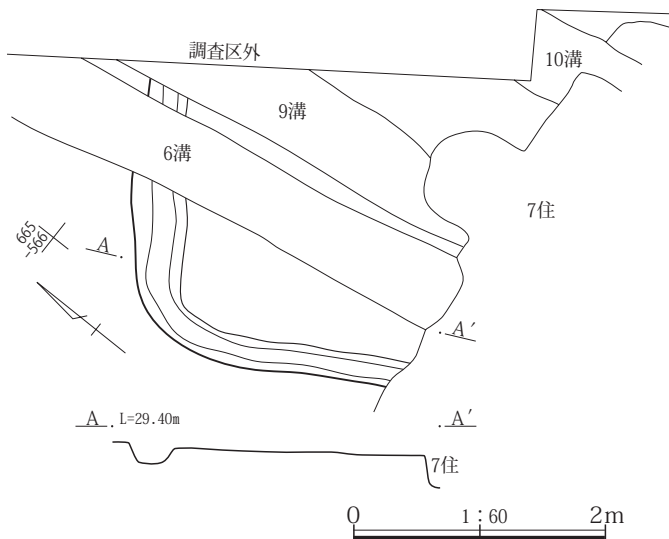
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 把握できた壁の部分では全周する。幅21～40cm、深さ7～16cmである。

遺物 出土した遺物は非常に少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)28g、同(大)2点・21g、須恵器(小)1点・2gしかない。

時期と所見 わずかな出土遺物しかないので、時期の特定は困難であるが、9世紀第3四半期の7号竪穴住居よりも古い。西隅とその周辺の部分しか調査できておらず、詳細は不明である。



第65図 2区5号竈穴住居平断面図

2区6号竈穴住居(第66～71図、第35・36表、PL.31-5, 32,33,34-1・2,115,116)

調査区北部の中央にある。焼失家屋であり、多くの炭化材がみられ、遺物も多数出土した。竈を2回移動させている。

位置 X=30656～662、Y=-36569～577。

重複遺構 2区4号柱穴列、4号溝と重複する。本遺構が古い。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-77°-E。

規模 中央付近で計測して、主軸方向は6.80m、それと直交する方向は4.90mである。

床面積 27.82㎡。

埋没土層 焼失家屋であり、西側の床面近くに多くの炭化材が残っていた。これらの炭化材と床面との間には薄い灰オリーブ色土があるだけである。その後灰オリーブ色土などで埋没しているが、上層では浅く掘り直したような堆積を示しており、埋没の途中で人の手が加わっているらしい。

壁高 全体に残りがよく、51～76cmある。

床面 おおむね平坦である。1・2号竈前と西壁際に灰オリーブ色の粘土が薄く分布している。

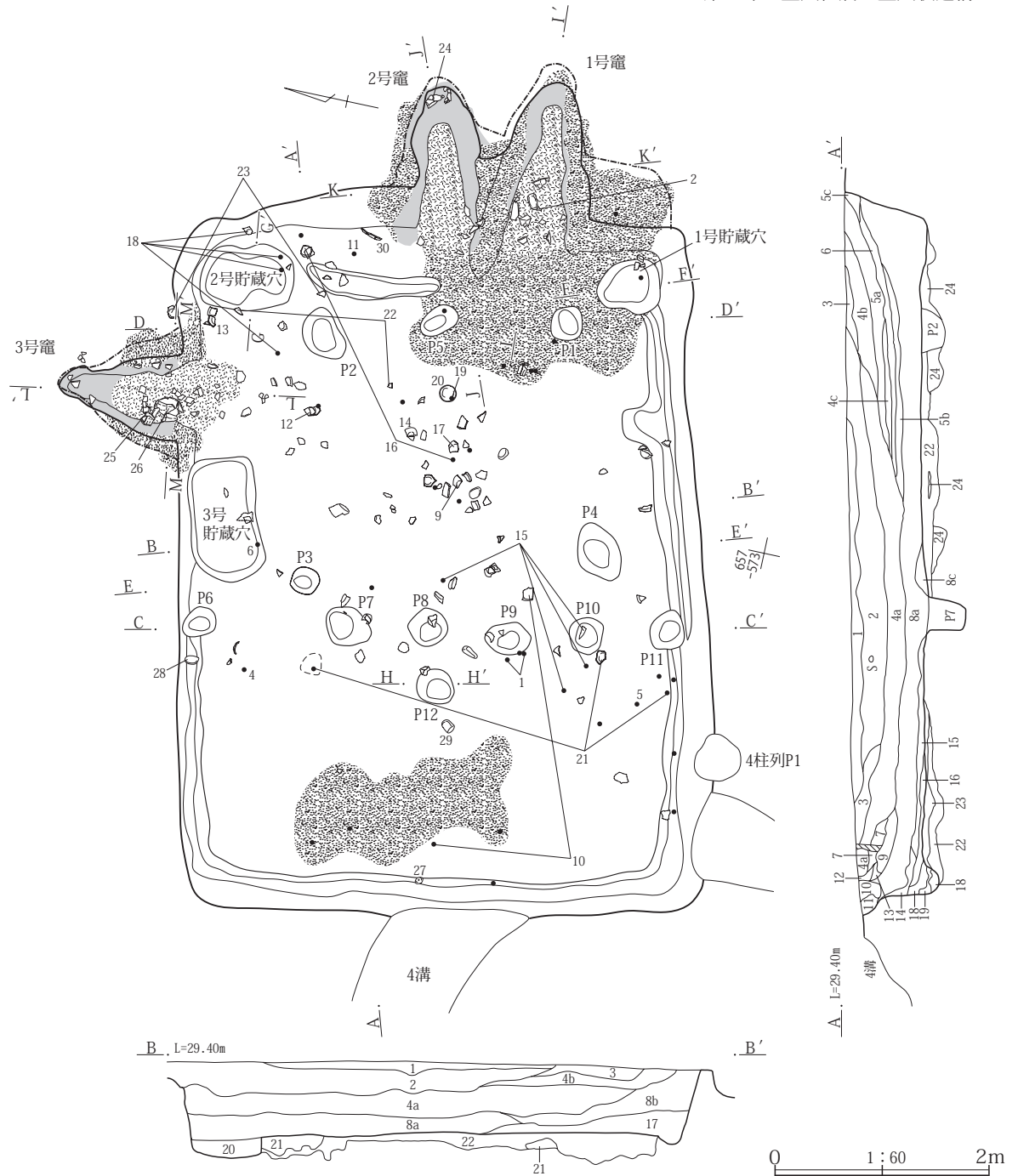
掘方 西半部の住居内側は床面から0～5cm程度と浅いが、東半部や壁沿いは10～30cmと深い。底面は凹凸がある。

竈 東壁に1・2号竈、北壁に3号竈を設置している。袖の残る1号竈が最も新しいが、2・3号竈の新旧は断

定する根拠に乏しい。1号竈は東壁の南半部にある。両袖の基部が残るが、右袖は痕跡程度の残存度である。全体が住居外に大きく張り出す形態は3基とも同様である。長さは袖先端から計測して190cm、幅は両袖の外側を計測して101cmである。奥壁は焼土化し、燃烧部底面には炭化物・灰が堆積している。燃烧部の中央には、支脚として使われたと思われる細長い丸礫が立ったまま残っていた。2号竈は1号竈の北側、住居東壁の中央やや南寄りにある。この竈は1号竈よりも古いので袖は完全になくなっていて、完全に埋め戻されて壁になっていたわけではなく、緩やかな傾斜となって残っていたらしい。長さは壁から計測して131cm、幅は壁下端の部分で54cmである。3号竈は北壁の東部にある。この竈は完全に埋め戻され、壁に戻されていた。長さは壁の下端から計測して128cm、幅は壁下端の部分で65cmである。

貯蔵穴 貯蔵穴と思われるものは、やや不明確なものを含めて3基見つかった。1号竈脇の南東隅に1号貯蔵穴、北東隅に2号貯蔵穴、3号竈左の北壁際中央に3号貯蔵穴である。これら3基の貯蔵穴の全てが住居廃絶時に使用されていたとは考えにくい。貯蔵穴の上に顕著な床面が見つかっているわけではなく、新旧は不明である。3基のそれぞれが竈の1基ずつに対応する可能性も考えられるが、それも同様な理由で明らかにしがたい。1号貯蔵穴は不整な楕円形で、長径61cm、短径52cm、深さ25cmである。2号貯蔵穴は瓢箪形に近い楕円形で、長径91cm、短径58cm、深さはごく浅く9cmである。3号貯蔵穴は長方形に近い形態で、長径116cm、短径63cm、深さ21cmである。

柱穴 床面でP1～12、掘方でP13の合計13基のピットが見つかっている。このうち、P1、P2、P7、P10の4基は、配置からみて支柱穴の可能性はある。ただし、これらが支柱穴だとすると、その位置が住居全体の南東側にかなり偏ってしまうことになり、その点でやや疑問がある。P6、P8、P9、P11の4基は、P7とP10とを繋ぐ線上ないし延長線上にあり、建物の構造に関わるピットだと思われる。また、P5、P13、P12の3基はほぼ主軸線上にあるので、これも建物の構造に関わる可能性がある。P3とP4とはやや中途半端な位置であり、その役割は分からない。各ピットの規模は以下の通りである(長径×短径×深さ、cm)。

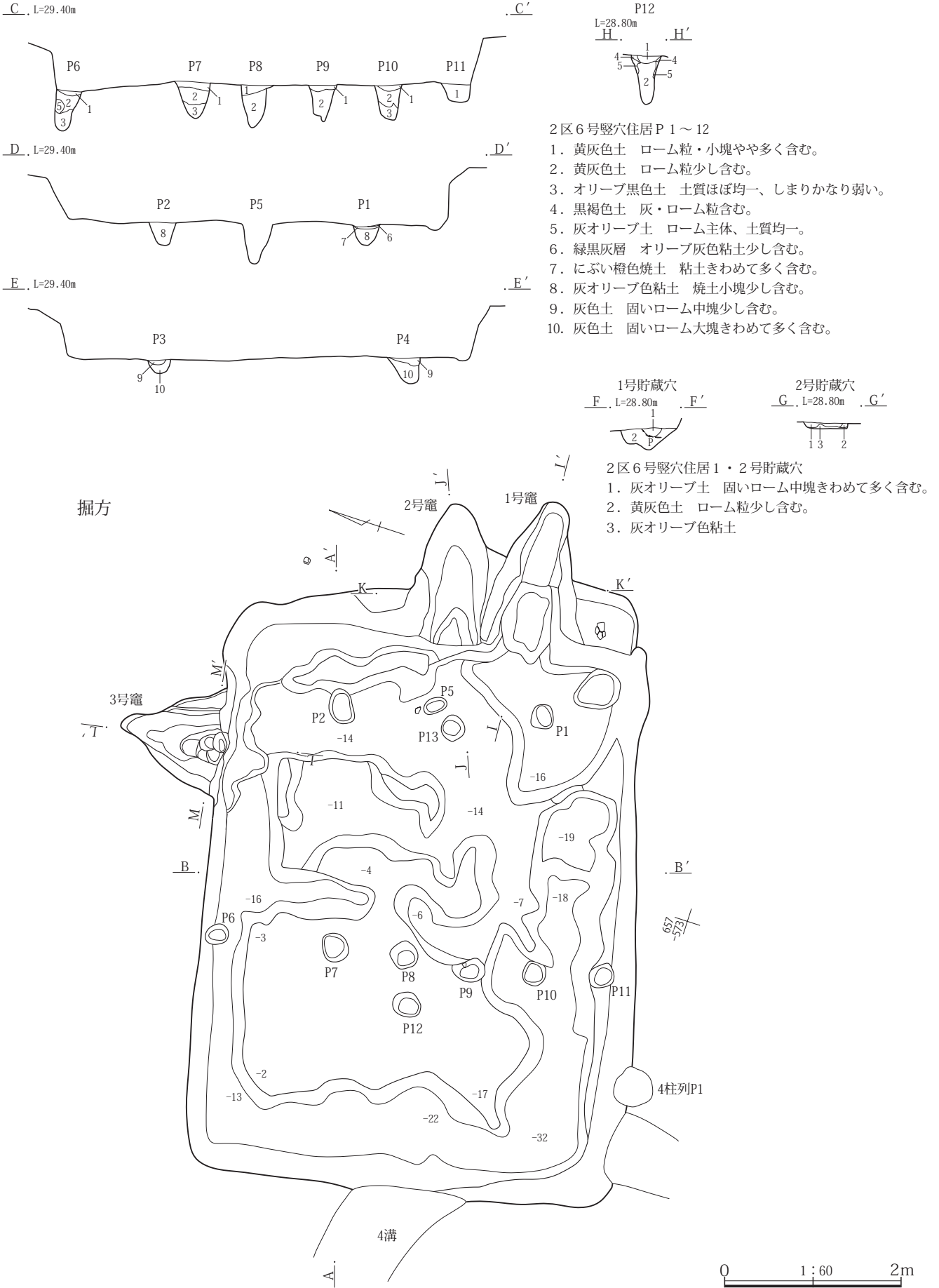


2区6号竪穴住居

- | | |
|--|--|
| <p>1. オリーブ黒色土 土質均一、砂多く含む。</p> <p>2. オリーブ黒色土 土質均一、粘質。</p> <p>3. 灰色土 ローム粒少し含む。</p> <p>4a. 暗オリーブ色土 ローム粒・小塊多く含む、焼土小塊少し含む。</p> <p>4b. 4a層よりやや明るく、焼土多い。</p> <p>4c. 4a層よりやや明るく、ローム小塊多い。</p> <p>5a. 灰オリーブ色土 灰少し含む。</p> <p>5b. 灰オリーブ色土 ローム粒少し含む。</p> <p>5c. 5b層よりローム粒多く、黒褐色土含む。</p> <p>6. 黒色灰層 5b層少し含む。</p> <p>7. 灰色土</p> <p>8a. 灰オリーブ色土 ローム小中塊きわめて多く含む。</p> <p>8b. 8a層よりロームブロック少なく、土質ほぼ均一。</p> <p>8c. 8a層より暗く、ローム小中塊多い。</p> <p>9. オリーブ黒色土 ローム粒・焼土粒多く含む、土質粗い。</p> | <p>10. 褐灰色土 ローム粒少し含む。</p> <p>11. 黄褐色土</p> <p>12. 明黄褐色土 粘土・ローム粒・小塊含む。</p> <p>13. 暗灰黄色土 焼土粒・灰含む。</p> <p>14. オリーブ黒色土 炭化物・焼土大塊・灰含む。</p> <p>15. オリーブ黒色土 炭化材・灰・焼土を多く含む。</p> <p>16. 灰オリーブ色土 粘土主体に焼土塊きわめて多く含む、灰少し含む。</p> <p>17. 黒褐色土 土質均一。</p> <p>18. オリーブ黄土 くすんだローム・ローム塊含む。</p> <p>19. 黄灰色土 ローム小中塊少し含む。</p> <p>20. 灰色土 ローム小塊含む。</p> <p>21. 黄灰色土 ローム小中塊やや多く含む。以下掘方。</p> <p>22. にぶい黄色土 固いローム主体。</p> <p>23. 明黄褐色土 固く明るいローム塊主体。</p> <p>24. 暗オリーブ灰色土 ローム塊きわめて多く含む。</p> |
|--|--|

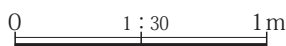
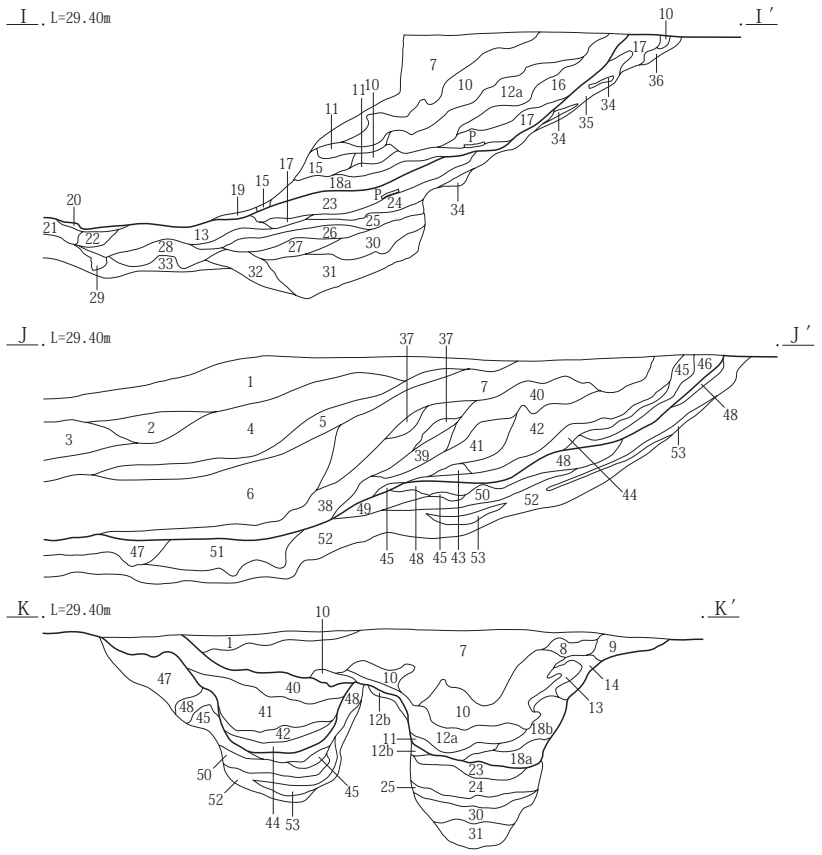
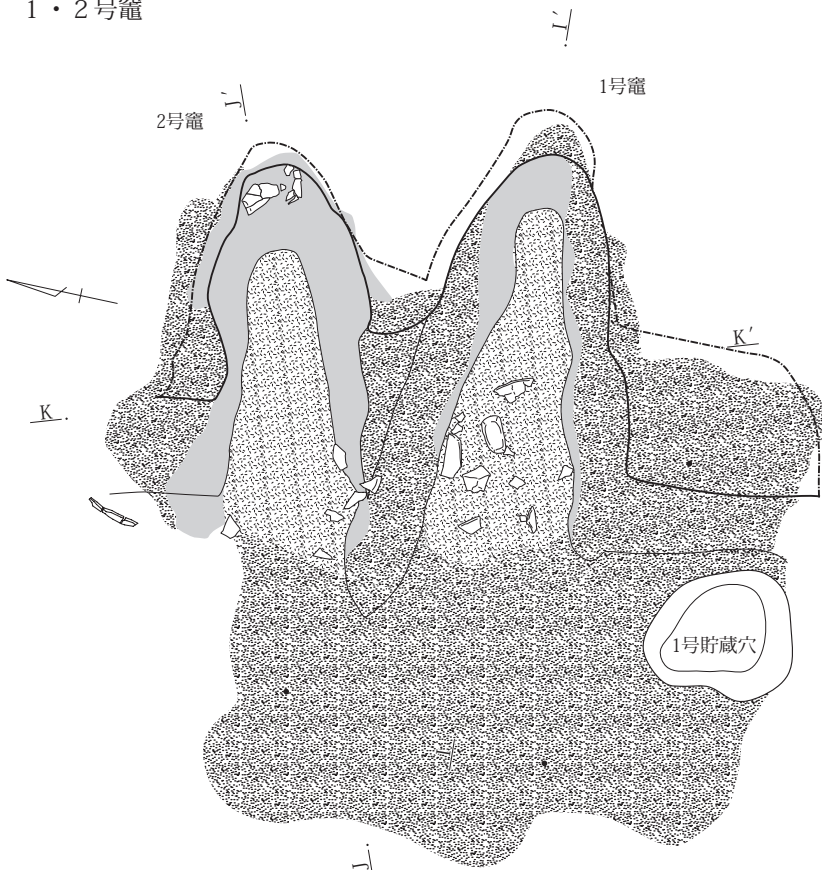
第66図 2区6号竪穴住居平衡面図

第3章 調査の成果



第67図 2区6号竪穴住居断面図、掘方平面図

1・2号竈

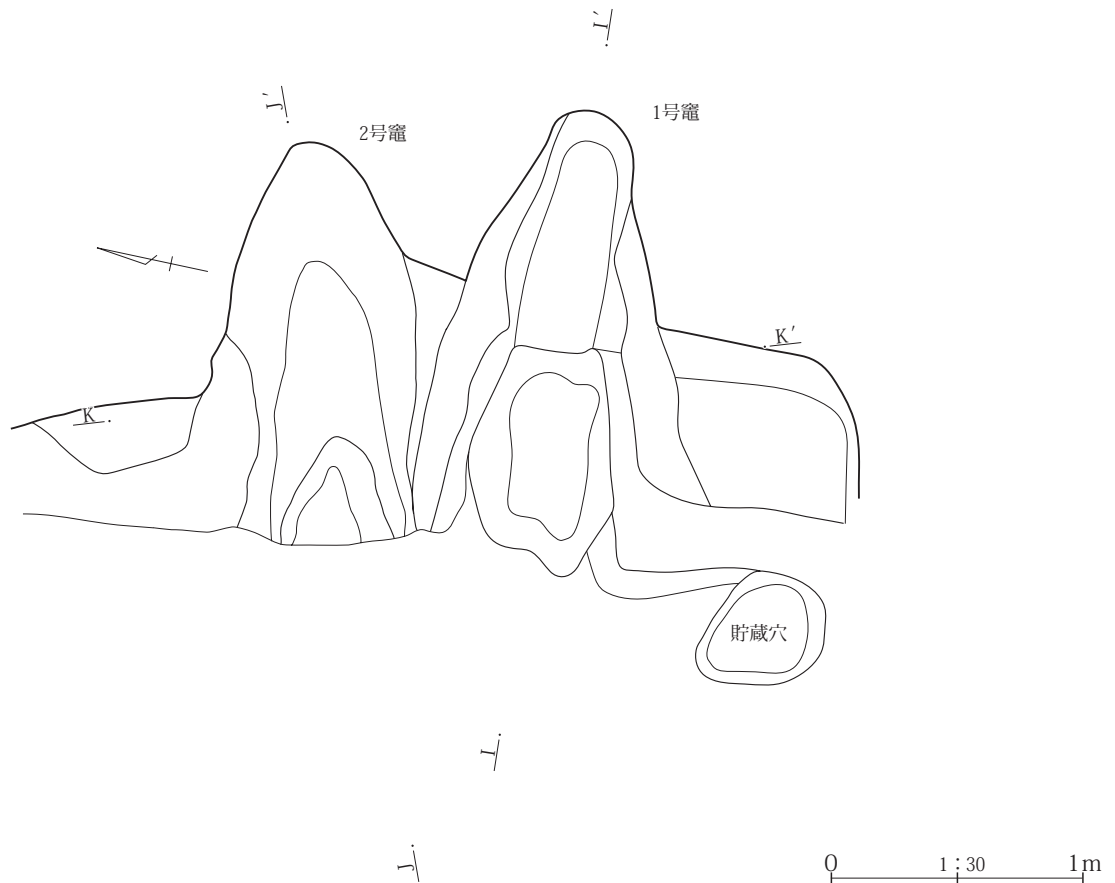


2区6号竪穴住居1・2号竈

1. 暗オリーブ色土 焼土塊多く含む。
2. オリーブ褐色土 ローム粒含み、鉄分沈着。
3. 暗オリーブ色土 ローム粒小塊きわめて多く含み、焼土小塊少し含む。
4. 灰オリーブ色土 灰少し含む。
5. 黒色灰層 ローム粒少し含む。
6. 灰オリーブ色土 ローム小中塊きわめて多く含む。
7. 暗灰黄色土 ローム粒多く含み、焼土粒少し含む。
8. オリーブ黄色土 ローム小塊少し含み、粘土含む。
9. 暗オリーブ褐色土 ローム粒少し含む。
10. 灰オリーブ土 粘土・ローム粒わずかに含む。
11. 暗灰色灰層 焼土粒わずかに含む。
- 12a. にぶい橙色土 粘土主体に焼土粒きわめて多く含む。
- 12b. にぶい橙色土 粘土主体に焼土中塊含む。
13. 固いローム塊・焼土塊・粘土の混土。
14. 灰色土 ローム粒・焼土粒少し含む。
15. 褐灰色土 焼土粒・灰・粘土を含む、土質粗い。
16. 粘土・焼土・灰の混土。
17. にぶい橙色焼土
- 18a. 焼土・灰の混土、土質もろく崩れやすい。
- 18b. 18a層より灰が多く混じる。
19. 黄褐色土 粘土含む。
20. 褐灰色土 焼土粒・ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一。
21. 固いローム塊・焼土塊・粘土の混土、13層より焼土多く、灰わずかに含む。
22. にぶい黄色土 固いローム土主体に焼土粒・灰少し含む。
23. 暗青灰色灰層 焼土塊含む。
24. 灰オリーブ色土 焼土粒をわずかに含み、粘土含み、しまり弱い。
25. 暗灰色灰層 焼土粒含み、27層少し含む。
26. オリーブ黄色土 固いローム塊含む。
27. 灰オリーブ色土・オリーブ黒色土の混土。
28. 灰・粘土・焼土・ローム塊の混土。
29. にぶい黄褐色土 焼土粒少し含む。
30. 灰オリーブ色土 固いローム主体。
31. オリーブ灰色土 固いローム塊やや多く含む。
32. 暗オリーブ灰色土 ローム中大塊きわめて多く含む。
33. 灰オリーブ色土 固いローム中塊きわめて多く含む。
34. オリーブ黄色土 固いローム塊主体。
35. にぶい黄褐色土 ローム粒少し含む。
36. 暗褐色土 土質均一。
37. 褐灰色土 ローム粒・焼土粒含み、土質粗い。
38. 暗灰黄色土
39. オリーブ黄色土 ローム粒・焼土粒多く含み、土質粗い。
40. 灰色土 ローム粒・焼土粒多く含む。
41. 灰オリーブ色粘土
42. 浅黄色土粘土
43. 橙色焼土
44. にぶい橙色土 焼土主体に粘土・灰含む。
45. 明赤褐色焼土
46. 灰オリーブ色粘土 灰・焼土含む。
47. 暗オリーブ褐色土 ローム粒少し含む。
48. 暗褐色土 焼土粒・塊少し含む。
49. 暗青灰色灰層 焼土粒含む。
50. 暗青灰色灰層 49層より焼土粒少ない。
51. 粘土・焼土・灰の混土 固くしまる。
52. 暗灰黄色土 固いローム粒・焼土粒少し含み、しまり弱い。
53. 青灰色灰層 焼土粒少し含む。

第68図 2区6号竪穴住居1・2号竈平断面図

1・2号竈掘方



第69図 2区6号竈穴住居1・2号竈掘方平面図

P 1	34×29×24	P 2	51×33×25
P 3	28×24×11	P 4	58×40×30
P 5	38×24×43	P 6	33×26×50
P 7	45×36×43	P 8	38×33×48
P 9	44×39×48	P 10	35×31×42
P 11	39×33×22	P 12	36×32×55
P 13	30×27×38(床面からの深さ)		

周溝 北壁の西半から西壁、南壁にかけて廻っている。幅18～41cm、深さ2～14cmである。

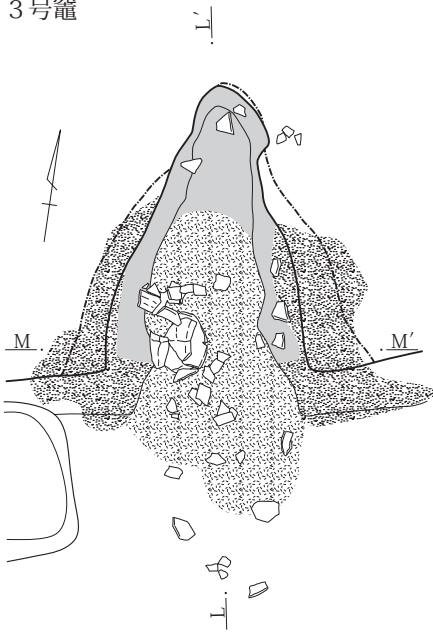
炭化材 前述のように住居西半部から炭化材が出土している(PL.32-1)。細い炭化材が住居内部から放射状に出土し、その間にやや太い材がみられる。これらは樹種の同定が行われている(第4章第4節・377ページ)。構築材としては直径16cmで半割材のクリ、直径1～3cmのヌルデがある。クリは比較的太い材、ヌルデは小径が使用されているため、部材によって樹種を換えていたと指摘されているが、おそらく柱か梁・桁などの材にクリを使い、垂木などの材にヌルデを用いていたのではないだろうか。その他、タケ亜科の丸竹とイネ科・双子葉類があ

り、これらは束状に出土しているというので、指摘の通り、壁材あるいは屋根材であると考えられる。

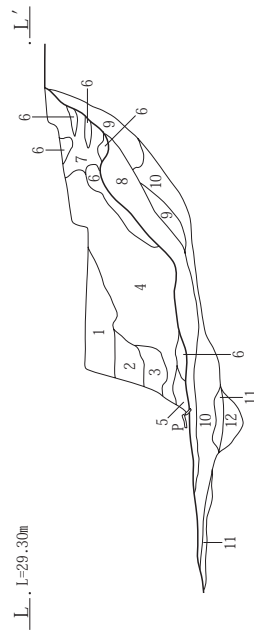
遺物 遺物は数多く出土している。焼失家屋ではあるものの、遺物は床面からかなり浮いた高さのものが多く、床面直上か床面に近いレベルのものは少ない。掲載したのは土師器杯4点(うち3点は墨書がある)、同甕3点、須恵器杯15点(8点に墨書)、同椀3点(1点に墨書)、同蓋1点、石製紡輪1点、砥石1点、敲石1点、刀子1点である。石製品と刀子はいずれも住居の壁近くから出土する傾向にあり、27の紡輪は西壁中央の床面から2cm浮いた高さで、30の刀子は東壁中央の床面から4cm浮いた高さで出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)1,211g、(大)7,701g、須恵器(小)2,712g、(大)1,642gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第2四半期の住居であると思われる。炭化物(炭化材)が出土することから焼失住居と考えられ、分析の結果用いられた植物種が判明している。また、遺物は数多く出土しているものの、この住居に確実に伴う遺物は少ない。

3号竈



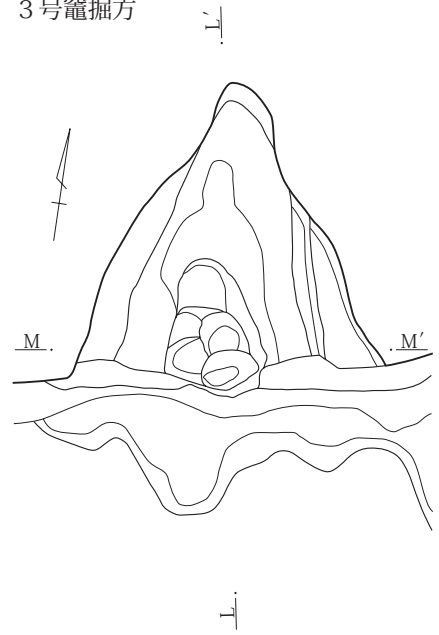
M, L=29.30m



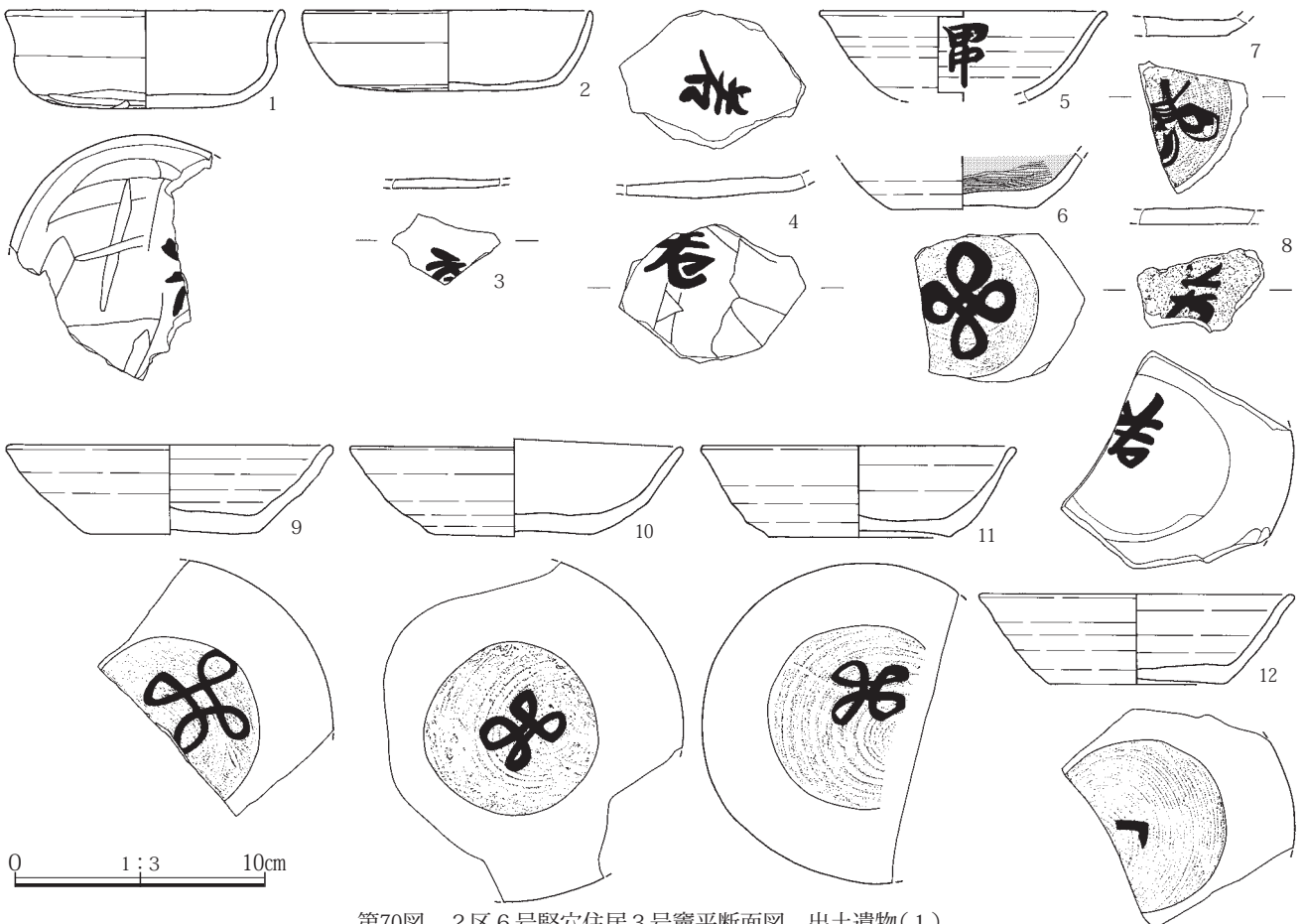
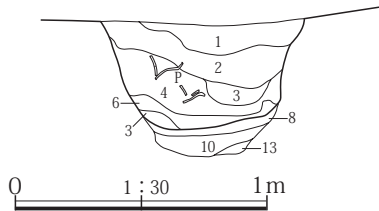
2区6号竪穴住居3号竈

1. 黄褐色土 ローム粒やや多く含み、灰・焼土粒わずか含み、鉄分沈着。
2. 暗灰黄色土 ローム粒20%・焼土粒をわずかに含む。
3. 灰色土 ローム粒少し含む。
4. 灰オリーブ色土 粘土・ローム粒少し含む。
5. にぶい褐色粘土 焼土含む。
6. にぶい橙色土 焼土主体に灰少し含む。

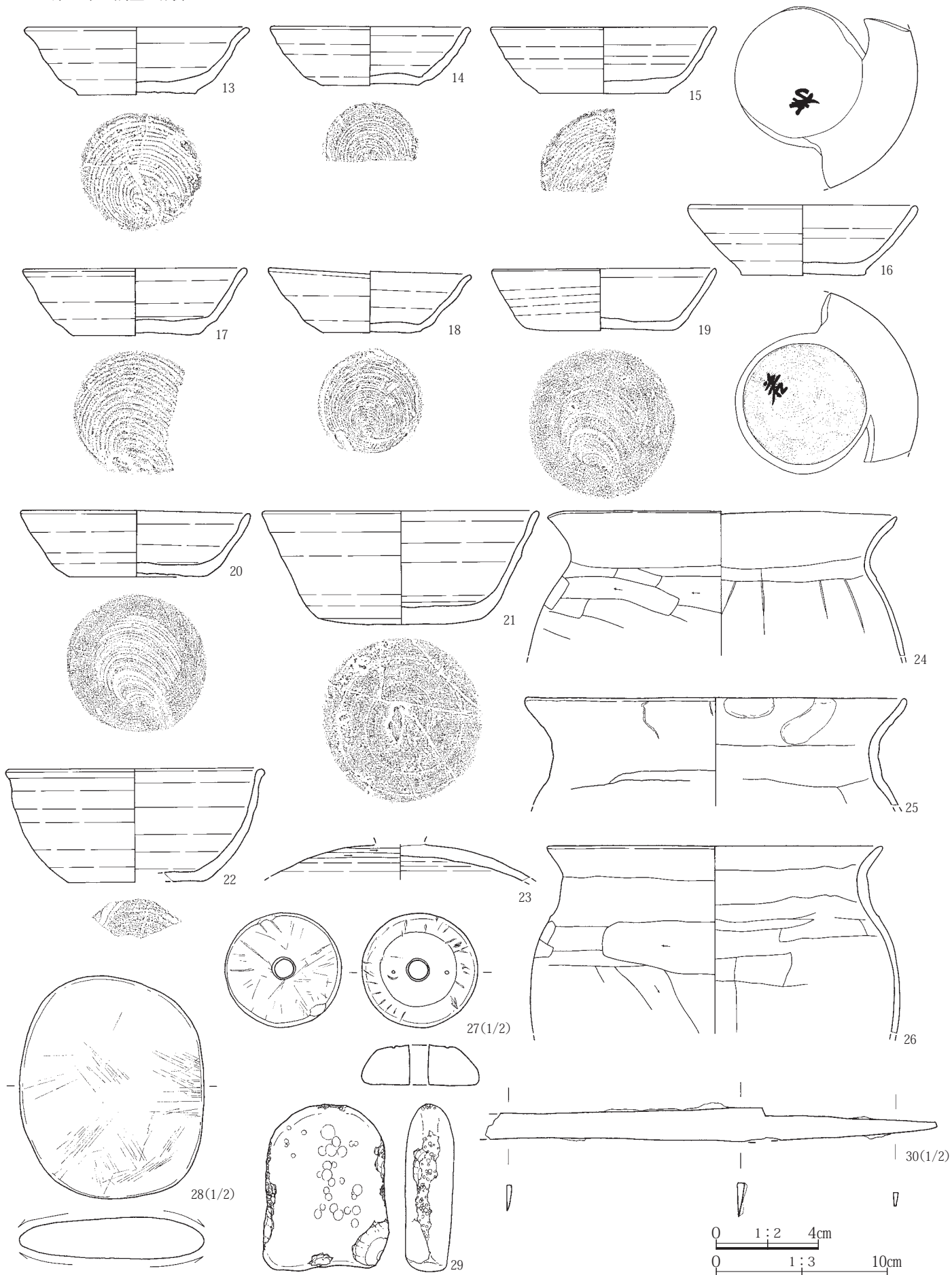
3号竈掘方



7. 暗灰黄色土 焼土少し含み、土質ほぼ均一。
8. 青灰色灰層
9. にぶい橙色土 焼土主体に灰少し含む。以下掘方。
10. 暗灰黄色土 粘土・焼土ブロック・固いローム塊含む。
11. 黒褐色灰層 焼土少し含む。
12. 灰オリーブ色土 固いローム塊・灰含む。
13. 灰オリーブ色土 固いローム塊含む。



第70図 2区6号竪穴住居3号竈平断面図、出土遺物(1)



第71図 2区6号竪穴住居出土遺物(2)

2区7号竪穴住居(第72～74図、第36・37表、PL.34-3～8,35-1・2,116)

調査区北部の東にある。調査区を拡張して可能な限り調査した。東側を4本の溝に破壊されているため、残りがややよくない。調査時には2軒の竪穴住居が重複していると考えたが、2軒に分ける確実な根拠は乏しいので、整理作業の過程で1軒の竪穴住居であると判断した(そのため「8号竪穴住居」は欠番とした)。

位置 X=30658～663、Y=-36560～566。

重複遺構 2区5号竪穴住居、3号柱穴列、6・9～11号溝と重複する。本遺構が5号竪穴住居よりも新しく、その他の遺構より古い。

形状 東西に長い長方形である。東壁の方向が他の3辺と少し異なるので、やや歪んだ形状となる。

主軸方位 N-79°-E。

規模 中央付近で計測して主軸方向5.28m、それと直交する方向が3.70mである。

床面積 溝で破壊されている部分を復元して計測すると17.13㎡である。

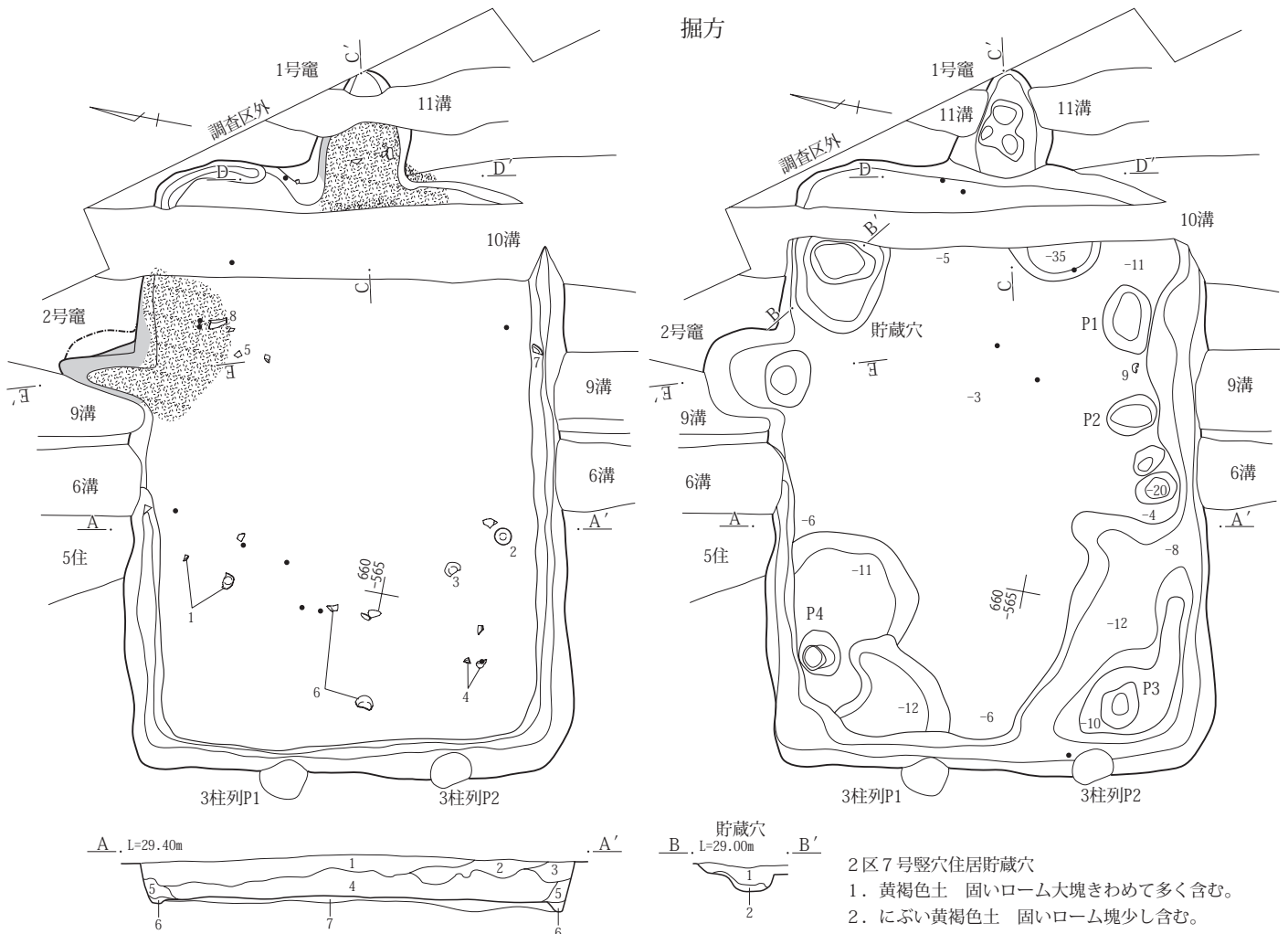
埋没土層 主に黄褐色土ないし黄灰色土で埋没している。壁高 他の遺構と重複していない西壁とその付近では、37～44cm残っている。

床面 細かい凹凸はあるが、おおむね平坦である。

掘方 北西、南西隅付近は床面から10～15cm深く掘っているが、それ以外の大部分は2～5cm程度と浅い。それらをわずかに埋め戻して床面としている。

竈 東壁と北壁とに1基ずつ確認され、それぞれ1号竈、2号竈と名付けた。1号竈は住居内の部分も残り、2号

掘方



2区7号竪穴住居

- 1. 黄褐色土 ローム粒・小塊多く含み、焼土粒少し含む。
- 2. 黄褐色土 ローム粒・小塊多く含み、マンガン沈着。
- 3. 暗灰黄色土 ローム粒わずかに含む。

- 4. 黄灰色土 ローム粒少し含む。
- 5. 褐灰色土 ローム粒わずかに含む。
- 6. 褐灰色土 ローム粒ごくわずかに含む。
- 7. 黄褐色土 ローム粒・ローム塊を多く含む。掘方。

2区7号竪穴住居貯蔵穴

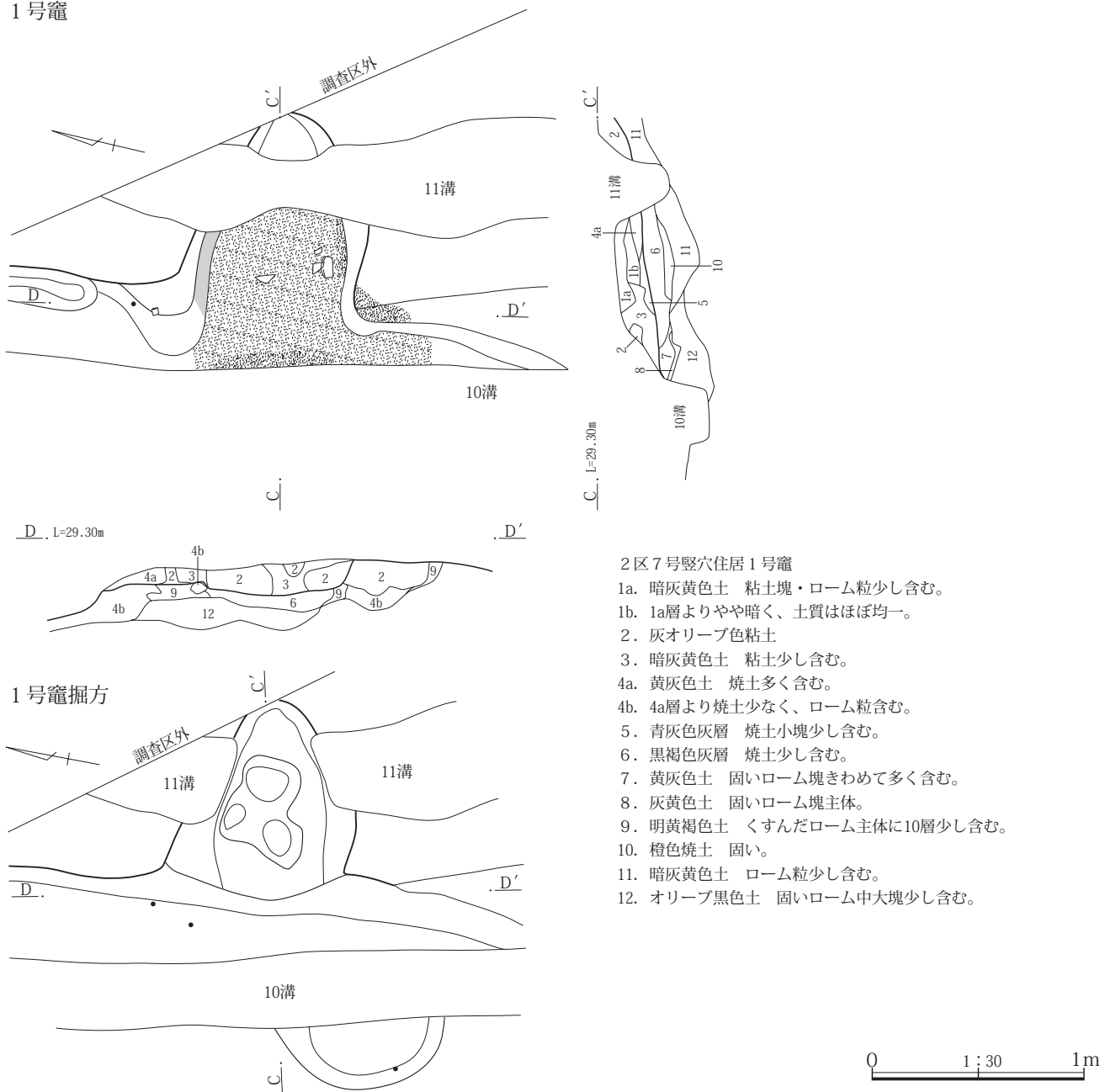
- 1. 黄褐色土 固いローム大塊きわめて多く含む。
- 2. にぶい黄褐色土 固いローム塊少し含む。

第72図 2区7号竪穴住居平面図

竈は袖がなく壁に戻されていたので、2号竈から1号竈に付け替えられたものと判断できる。1号竈は東壁中央やや南に設置されている。10・11号溝に破壊され、残りはよくない。燃烧部の大部分が壁外に作られる形状であり、両袖は痕跡程度の残存度である。竈本体は灰オリブ色粘土で構築されていたらしい。長さは袖の先端から計測して122cmで、壁外には92cm張り出す。幅は袖の外側を計測して112cmで、燃烧部の底面幅が64cmと広い。燃烧部底面には灰・炭化物が堆積している。2号竈は北壁東側に設置されている。1号竈に比べ幅が狭いので、竈本体は住居内に張り出していたかも知れないが、袖が

残っていないのでその点は明らかではない。長さは壁下端から計測して84cmであり、壁外には66cm張り出す。幅は壁下端で計測して40cmである。竈奥壁はよく焼土化していた。底面には灰・炭化物の層が堆積し、それは住居内にまで大きく広がっている。

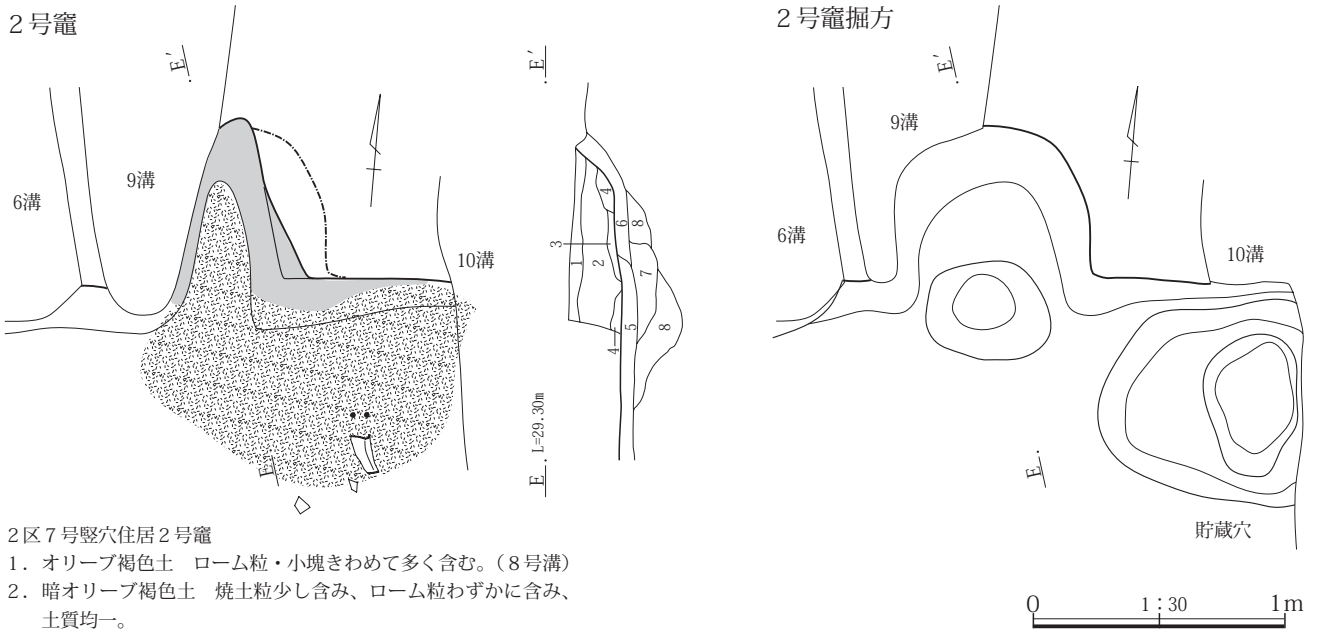
貯蔵穴 床面では確認できなかったが、掘方の調査で2号竈の右側に見つかった小土坑が貯蔵穴だと思われる。10号溝に一部破壊されるが、大きさは掘方底面で計測して長径82cm以上、短径80cmの楕円形であり、深さは床面から計測して、中央のやや深くなった部分で36cmである。1号竈の右前にも土坑状の穴が見つかったが、竈前



2区7号竈穴住居1号竈

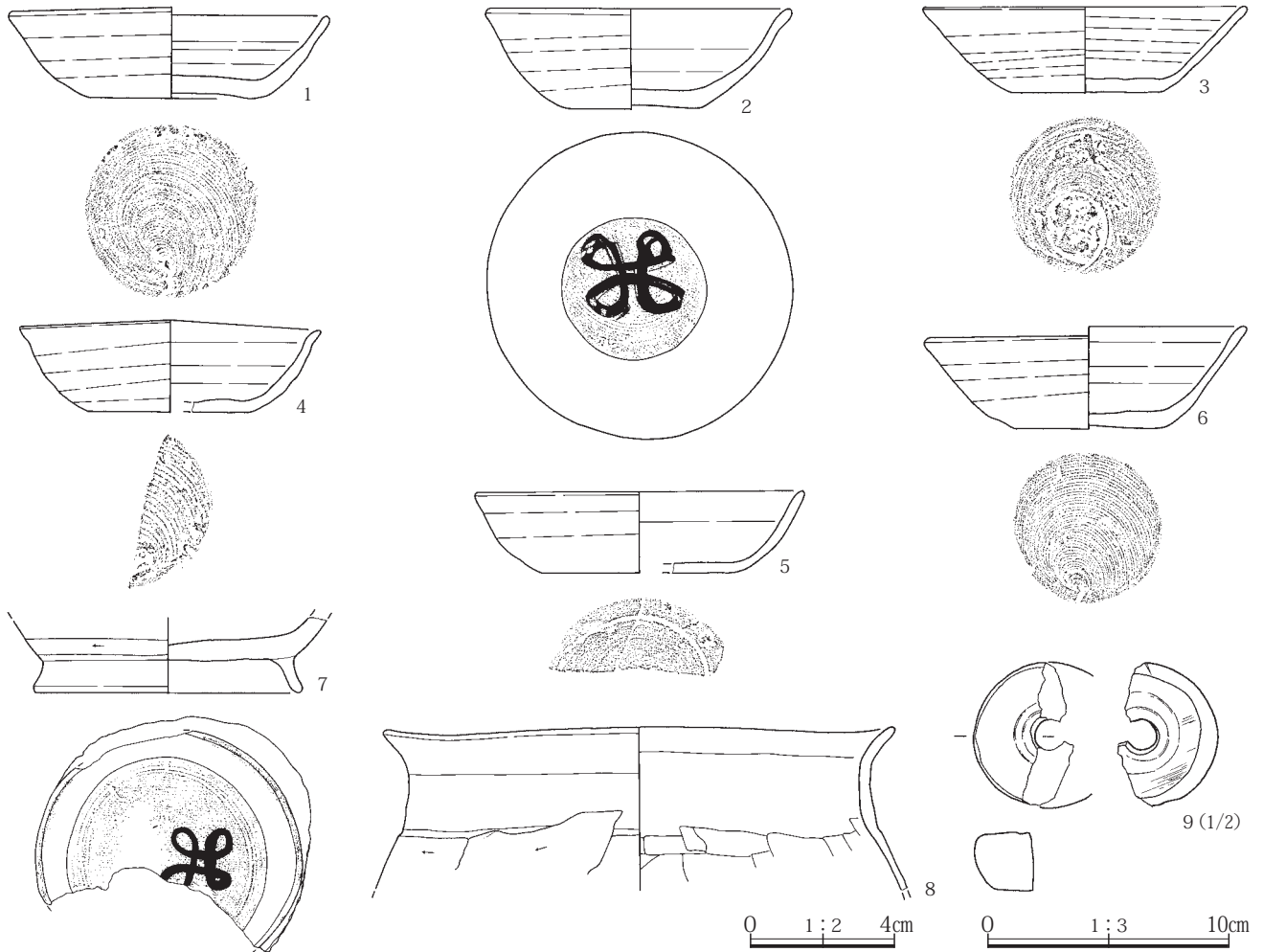
- 1a. 暗灰黄色土 粘土塊・ローム粒少し含む。
- 1b. 1a層よりやや暗く、土質はほぼ均一。
2. 灰オリブ色粘土
3. 暗灰黄色土 粘土少し含む。
- 4a. 黄灰色土 焼土多く含む。
- 4b. 4a層より焼土少なく、ローム粒含む。
5. 青灰色灰層 焼土小塊少し含む。
6. 黒褐色灰層 焼土少し含む。
7. 黄灰色土 固いローム塊きわめて多く含む。
8. 灰黄色土 固いローム塊主体。
9. 明黄褐色土 くすんだローム主体に10層少し含む。
10. 橙色焼土 固い。
11. 暗灰黄色土 ローム粒少し含む。
12. オリブ黒色土 固いローム中大塊少し含む。

第73図 2区7号竈穴住居1号竈平面図



2区7号竪穴住居2号竈

1. オリーブ褐色土 ローム粒・小塊きわめて多く含む。(8号溝)
2. 暗オリーブ褐色土 焼土粒少し含み、ローム粒わずかに含み、土質均一。
3. 青灰色灰層 焼土少し含む。
4. にぶい赤褐色焼土 灰含む。
5. 灰・粘土の互層。
6. オリーブ黄色土 ローム塊主体。
7. 灰オリーブ色粘土 ローム・焼土・灰含む。
8. 黄灰色土 固いローム塊含む。



第74図 2区7号竪穴住居2号竈平面図、出土遺物

になってしまうので貯蔵穴とは考えにくい。この穴は10号溝に半分破壊されているので形は不明確であるが、長さ80cm、床面からの深さは35cmである。

柱穴 床面では確認できなかった。掘方の調査では4基のピットが確認できたが、配置が不規則であり、柱穴とは思えない。各ピットの大きさは次の通り(長径×短径×深さ、cm)。長径と短径は掘方底面で計測し、深さは床面からの深さを計測している。

- P 1 62×41×21 P 2 44×31×24
P 3 43×33×26 P 4 42×36×28

周溝 2基の竈付近を除いて全周している。幅10～40cm、深さ3～14cmである。

遺物 遺物は住居中央部には少なく、西半を中心として周縁部から出土している。掲載するのは須恵器杯6点(うち墨書1点)、同椀(墨書がある)1点、土師器甕1点、石製紡輪1点である。須恵器杯が目立ち、2は南壁際中央やや西から、3はそのすぐ北西から、1は北側の壁近くから、6は西側から出土している。いずれも床面直上ではなく、1～19cmほど浮いた高さから出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)233g、同(大)965g、須恵器(小)666g、同(大)

2点・55gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居であると思われる。

2区9号竪穴住居(第75図、第37表、PL.35-3・4,117)

調査区中央東側にある。次の10号竪穴住居とともに調査区際にあるので、調査区を可能な限り拡張して調査した。北東側の半分以上が調査区外となり、竈等は調査できた範囲内にはないので、詳細が不明な住居である。

位置 X=30643～646、Y=-36548～551。

重複遺構 なし。位置から考えて2区10号竪穴住居とは重複するはずであるが、重複部分は調査区外となる。

形状 北東側が調査区外となるが、調査区内の部分からみて全形は方形になるものと思われる。

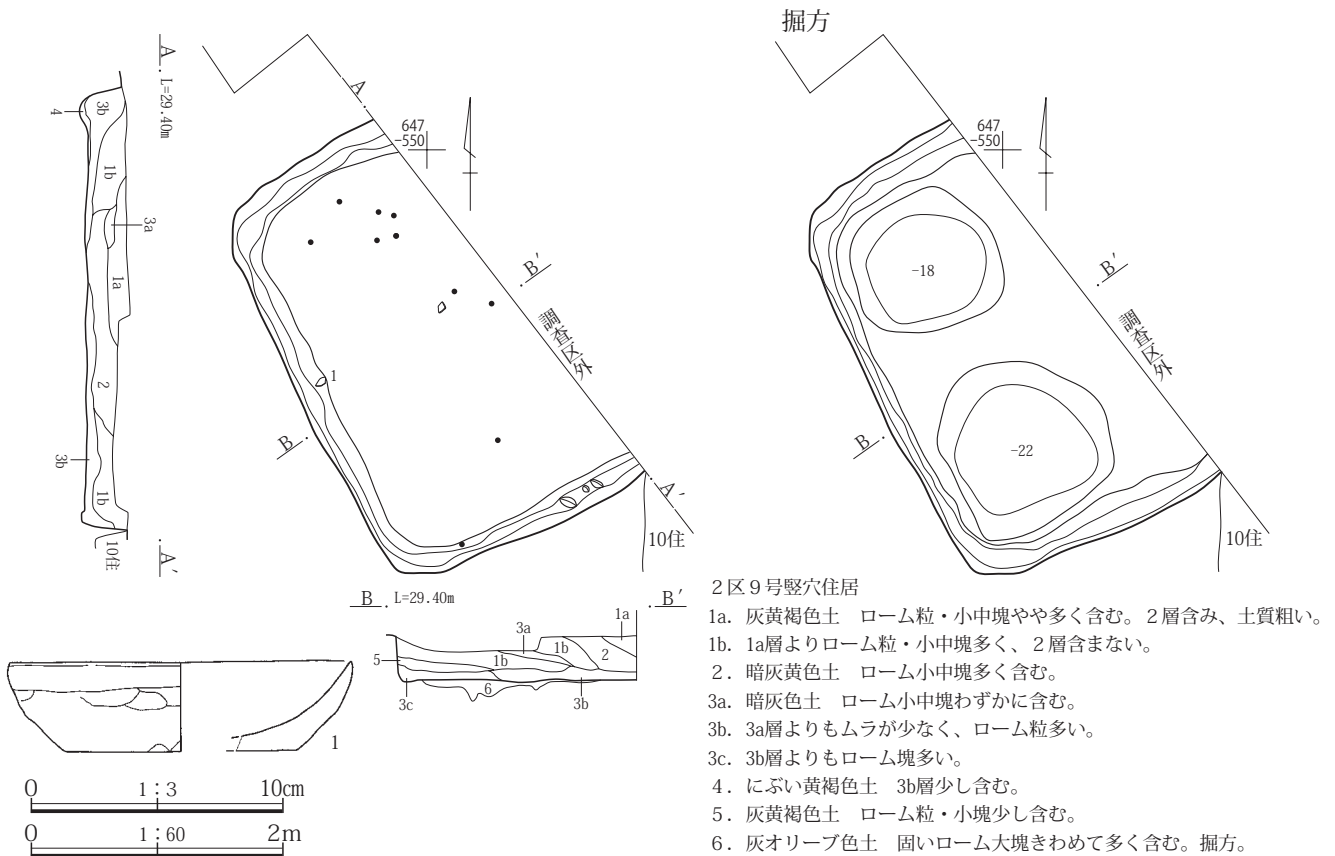
主軸方位 北西壁に竈があると想定して、N-28°-W。

規模 主軸方向は3.52m、それと直交する方向は2.14m以上である。

床面積 調査区内の部分は5.81㎡である。

埋没土層 ローム塊を比較的多く含む灰黄褐色土、暗灰黄色土などで埋没している。

壁高 23～38cm。



第75図 2区9号竪穴住居平面断面図、出土遺物

床面 細かい凹凸はあるが、おおむね平坦である。

掘方 北西と南西の両隅を土坑状に掘り下げている以外はほとんど掘方はなく、地山を直接床面としている。両脇の土坑状の穴はいずれもほぼ円形で、北側が長径126cm、短径108cm、床面からの深さ18cm、南側が長径142cm、短径130cm、床面からの深さ22cmである。

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 調査できた範囲内には全周している。幅14～30cm、深さ1～7cmである。

遺物 出土遺物は少なく、床面全体に散在していた。しかも出土層位はいずれもかなり高く、床面直上、あるいはそれに近い遺物はごく少ない。掲載したのは土師器杯1点のみで、これは西壁際中央で床面から20cm上の高さから出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)74g、同(大)479g、須恵器(小)5点・30gがある。

時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、9世紀前半の住居であると思われる。住居西半部のみ調査であり、詳細は明らかではない。

2区10号竪穴住居(第76図、PL.35-3・4)

調査区中央東側にある。北に接する9号竪穴住居と同様、調査区際にあるので、調査区を可能な限り拡張して調査したが、それでも北東部の大部分が調査区外となり、詳細は不明である。

位置 X=30643～646、Y=-36548～551。

重複遺構 なし。位置から考えて2区9号竪穴住居とは重複するはずであるが、重複部分は調査区外となる。

形状 調査できたのが南西隅付近のわずかな部分なので不明確であるが、西辺・南辺が直線的なので全形は方形であると推定される。ただし、両辺の交わる角度は鈍角なので、やや歪んだ方形になると思われる。

主軸方位 西辺の方向を計測するとN-15°-Wである。

規模 南北方向は2.70m以上、東西方向は1.38m以上である。

床面積 調査区内に掛かるのはわずかな部分であり、計測すると1.69㎡である。

埋没土層 暗褐色土、褐色土、灰黄褐色土などで埋没する。

壁高 12～24cm。

床面 おおむね平坦である。

掘方 全体にごく浅くあるだけである。最も深いところでも8cmにすぎない。

竈 確認できなかった。

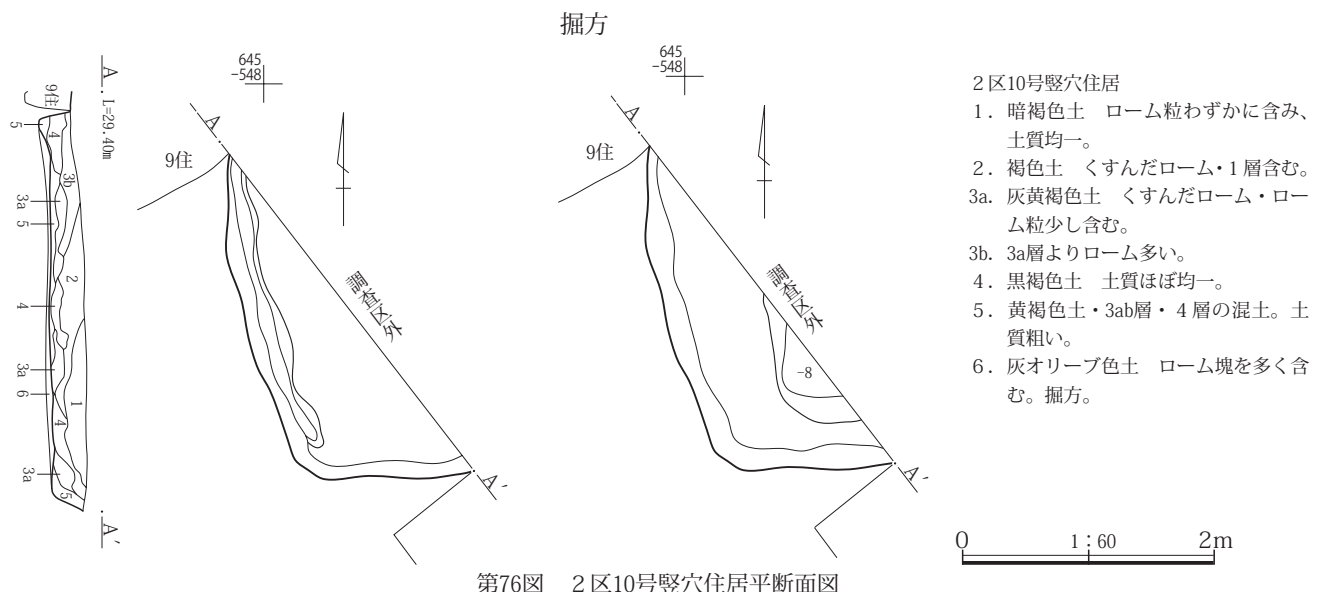
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 西壁のみ。幅15～32cm、深さ2～7cm。

遺物 出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものは、土師器(小)1点・11g、同(大)1点・23g、須恵器(小)6点・58gがある。

時期と所見 出土遺物は少ないが、それらは9世紀前半のものと思われる。



- 2区10号竪穴住居
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一。
 2. 褐色土 くすんだローム・1層含む。
 - 3a. 灰黄褐色土 くすんだローム・ローム粒少し含む。
 - 3b. 3a層よりローム多い。
 4. 黒褐色土 土質ほぼ均一。
 5. 黄褐色土・3ab層・4層の混土。土質粗い。
 6. 灰オリブ色土 ローム塊を多く含む。掘方。

第76図 2区10号竪穴住居平断面図

2区11号竪穴住居(第77・78図、第37表、PL.35-5,36,117)

調査区中央やや東寄りにある。12号竪穴住居と重複し、本住居が新しいと判断して調査したが、出土遺物からみるとその新旧には疑問があるので注意が必要な住居である。

位置 X=30635～640、Y=-36546～552。

重複遺構 2区12号竪穴住居と重複している。調査時は本遺構が新しいと判断したが、12号竪穴住居の項で後述するように、その新旧には疑問がある。

形状 長方形である。

主軸方位 N-39°-W。

規模 中央付近で計測して、長軸4.77m、短軸3.82mである。

床面積 14.70㎡。

埋没土層 南西側の土層(1～3層)がやや不自然であり、住居が埋没した後に掘り返されたようになっている。あるいはこれが、後述するように、12号竪穴住居の覆土である可能性があるが、断面では明らかな壁などを確認することはできなかった。

壁高 29～45cm。

床面 おおむね平坦である。中央部には粘土が薄く堆積している。

掘方 全体に床面よりも8cm以上深く掘っている。北東部が1段低いほか、南西には3ヶ所土坑状に深い部分がある。底面には小さな凹凸が目立つ。それらをロームを多く含む褐灰色土、黄褐色土で埋め戻し床面としている。

竈 北壁中央やや東に設置している。住居内に両袖が長く残り、煙道が壁外に作られている。本体は灰オリーブ色粘土で構築されている。長さは袖の先端から計測して103cmであり、壁外には56cm張り出す。幅は両袖の外側を計測して85cmである。竈内部は焼土化し、燃焼部から竈前の床面には炭化物・灰の層が堆積している。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 竈以外の部分に全周している。幅21～48cm、深さ6～15cmである。

遺物 遺物の出土は少ない。比較的大きな土器片は、竈付近と住居南西部にかけて出土している。掲載したのは土師器甕2点、須恵器杯1点である。1の杯は竈右側の壁際で床面直上から出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)123g、同(中)

1点・26g、同(大)1,926g、須恵器(小)157g、同(大)24gがある。

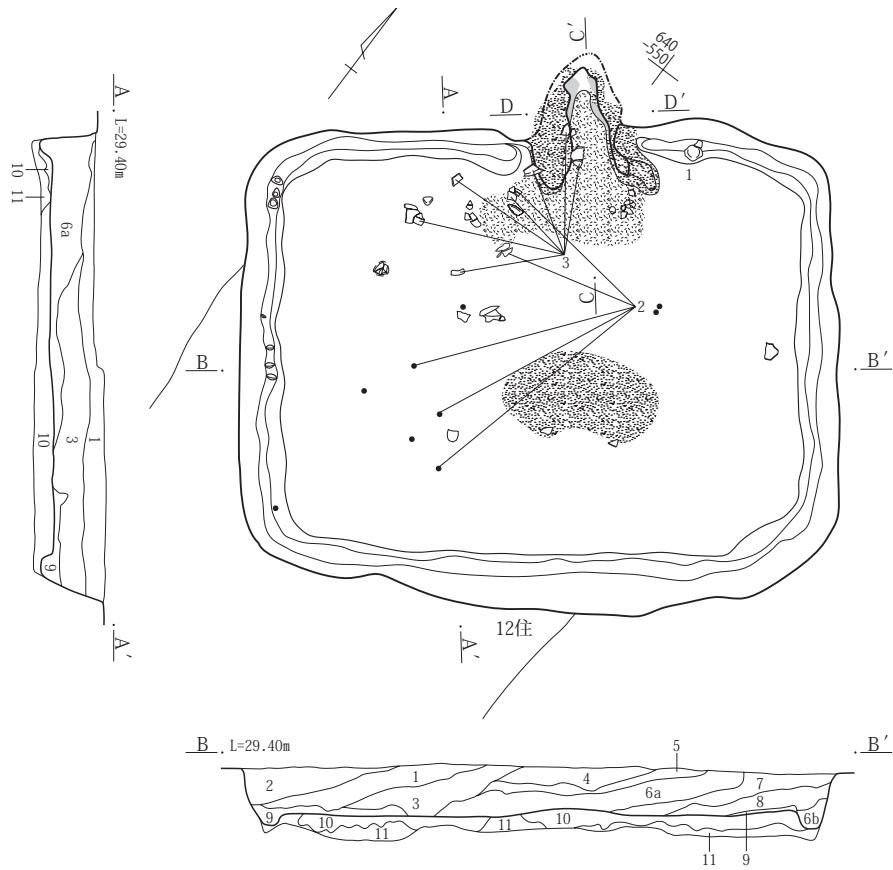
時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第3四半期の住居であると思われる。12号竪穴住居との新旧関係については次項で後述する。

2区12号竪穴住居(第79図、第37表、PL.36-1・3)

調査区中央やや東寄りにある。11号竪穴住居と重複している。調査時には本住居が古いと判断したが、以下に述べるように疑問点があり、新旧が逆転する可能性が高い。

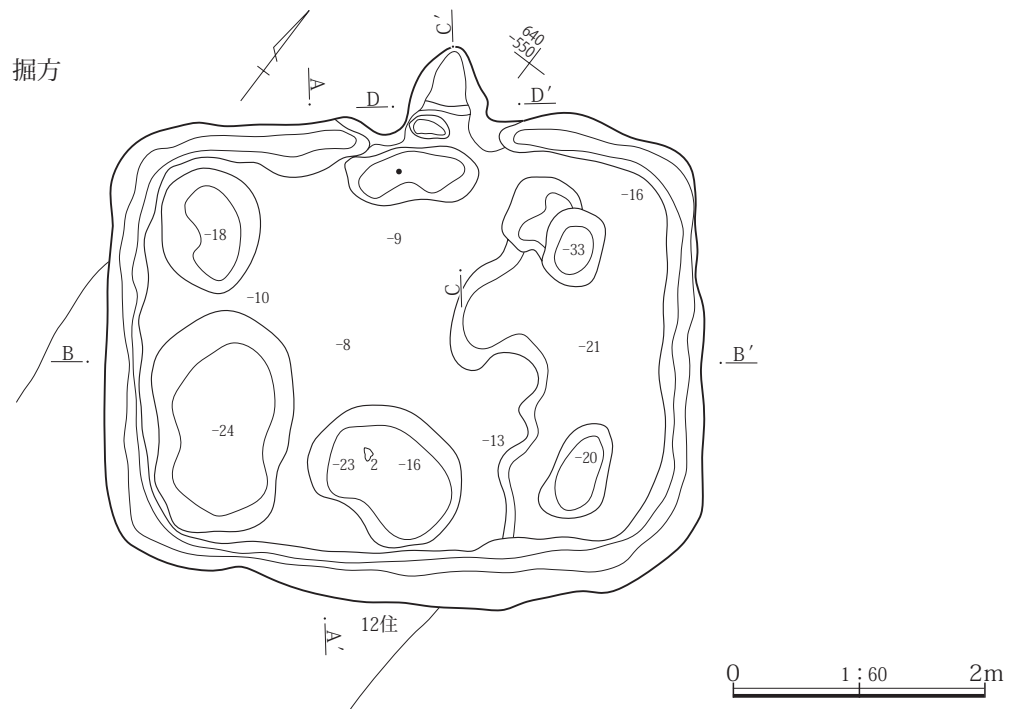
位置 X=30630～636、Y=-36547～551。

重複遺構 2区11号竪穴住居、38号土坑と重複する。本遺構は38号土坑よりも古いことは確実である。しかし11号竪穴住居との新旧の判断にはやや問題がある。これについては、発掘調査時には本住居が新しいと判断し、それに基づいて実測・写真撮影を行っている。そのため、ここではそのような図面・写真を掲載して報告している。ところが、本住居から出土した数少ない遺物をみると、9世紀中頃のものと思われる1のような、11号竪穴住居よりも新しいものが存在するのである。しかも、11号竪穴住居の土層断面をみると、南西側に別の遺構が入っているような不自然な土層となっており、これが12号竪穴住居の覆土である可能性が考えられるのである。この点を重視すれば、両住居の新旧関係は逆転することになるのであり、それが正しいとすると、本住居の方が床面が浅いので、それを破壊して調査してしまったことになる。しかし、そのように断定するのを躊躇する点もある。まずひとつめは、重複部分に本住居の竈がみられなかったことである。本住居が新しいとすると、重複部分に竈があったはずであるが、その部分に顕著な焼土・炭化物・粘土は見つかっていないようである。また、本住居の出土遺物は少なく、しかも掲載した須恵器杯は床面から6cmほど高いレベルから出土しているので、それらは混入の可能性も否定できないのである。以上のように、現状では決定的な証拠に乏しいためにどちらとも決めたいが、本住居の形態は11号竪穴住居以前、すなわち8世紀第3四半期以前とするよりは、それ以後とする方がふさわしい形態であり、その点も考慮に入れればやはり本住居の方が新しいと考えるのがよいように思われる。とす



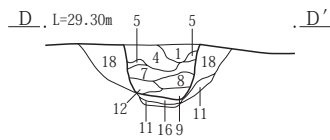
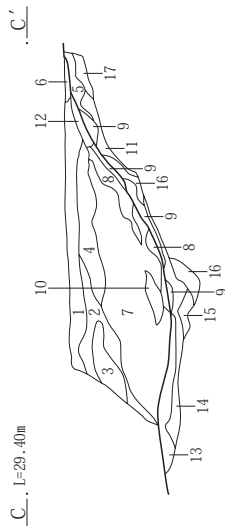
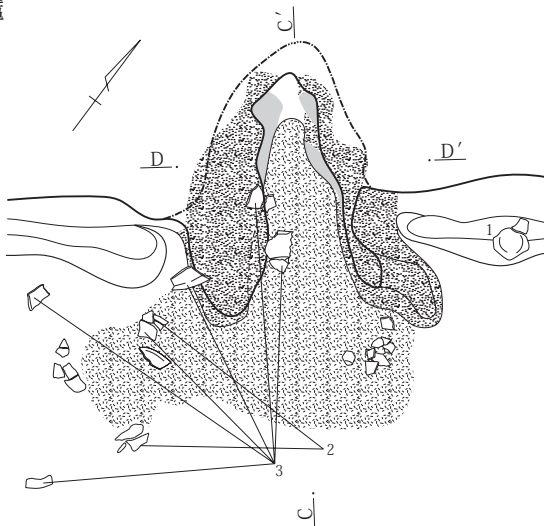
2区11号竪穴住居

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 黄灰色土 ローム粒含み、黒褐色土少し含み、土質粗く、鉄分沈着。 2. 黄灰色土 ローム粒・小塊含む。 3. 暗灰オリーブ色土 ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一、鉄分沈着。 4. 灰黄褐色土 ローム粒・焼土粒少し含む。 5. 灰オリーブ色粘土・焼土塊の混土、マンガン沈着。 6a. 灰色土 ローム小中塊多く含み、黒色土含み、土質粗く、鉄分沈着多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 6b. 6a層より土質粗くない。 7. 灰色土 ローム粒やや多く含む。 8. オリーブ褐色土 ローム粒・小塊含み、土質かなり粗く、マンガン沈着多い。 9. 明黄褐色土 ローム主体。 10. 褐灰色土 固いローム小中塊きわめて多く含む。掘方。 11. 黄褐色土 固いローム大塊主体に褐灰色少し含む。掘方。 |
|--|--|



第77図 2区11号竪穴住居平面断面図

竈

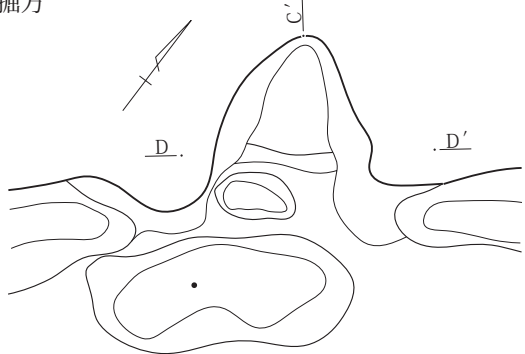


C. L=29.40m

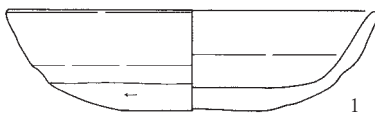
2区11号竈穴住居竈

1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一。
2. 灰オリーブ色土 ローム粒多く含み、焼土粒少し含む。
3. 黒褐色土 土質均一。
4. 暗褐色土 ローム粒・灰オリーブ色粘土塊含む。
5. 灰オリーブ色粘土 暗褐色土少し含む。
6. 灰黄褐色土 ローム粒・焼土粒少し含む。
7. オリーブ灰色粘土 固い炭化物またはマンガン含み、しまり強い。
8. 赤色焼土 ブロック主体。
9. 黒色灰層 赤色焼土含む。
10. 褐灰色土 土質均一、粒子細かく粘性少しあり。
11. 明黄褐色土 ローム主体。
12. 灰褐色土 粘土主体に焼土塊・ローム粒含む。
13. 黒色灰層 固いローム中大塊きわめて多く含む。
14. 黄褐色土 固いローム主体に黒色土少し含む。
15. 黒褐色土
16. 暗灰黄土 固いローム主体に焼土粒・灰少し含む。
17. 暗灰黄色土 炭化物少し含む。
18. 灰オリーブ色粘土

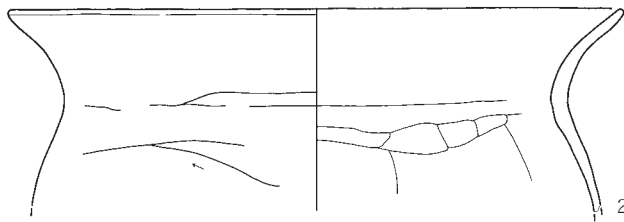
竈掘方



0 1:30 1m

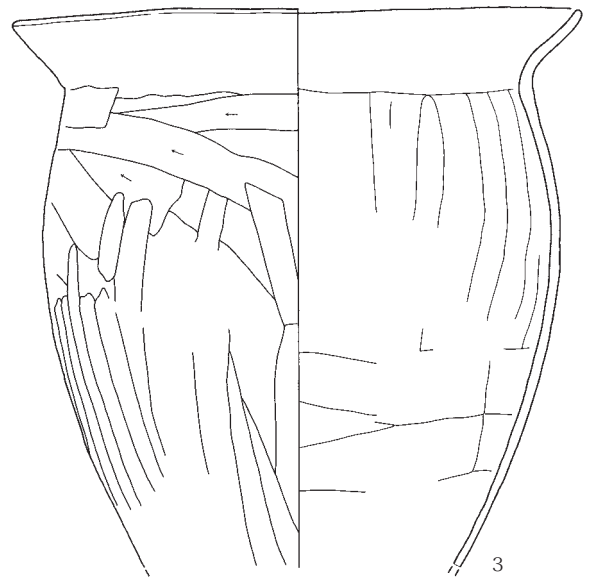


1



2

0 1:3 10cm



3

第78図 2区11号竈穴住居竈平断面図、出土遺物

ると、両遺構の新旧は逆転し、本住居の重複部分の形状は、本来第79図の点線で示したようなものだったと考えることができる。その際竈がないことが大きな問題となるが、その点については、本遺構が住居ではなく、いわゆる「竪穴状遺構」であると考えるか、あるいは未完成の竪穴住居と考えるかのいずれではないかと思われる。

形状 南北に長い長方形。

主軸方位 N-2°-W。

規模 長軸は5.00m以上、短軸は3.50mで、かなり細長い形態である。

床面積 調査した範囲を計測すると、12.13㎡である。

埋没土層 複雑な層序を示すので、単純な自然埋没とは考えにくい。

壁高 21～32cm。

床面 細かい凹凸はあるが、おおむね平坦である。

掘方 全体にごく浅く存在する。底面は細かい凹凸があるが、ほぼ平坦である。

竈 前述したとおり確認できなかった。本来なかった可能性が高い。

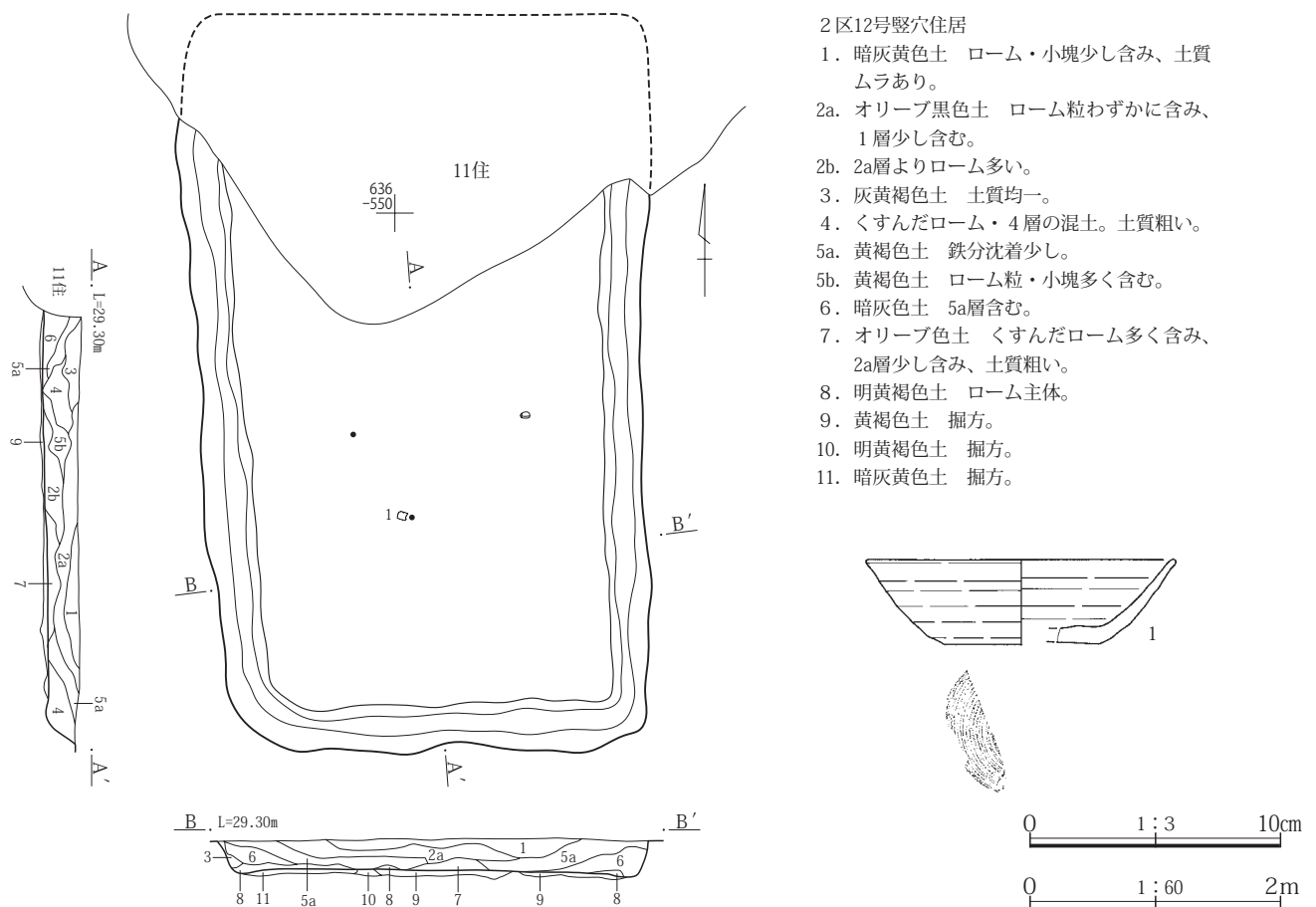
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 調査した範囲では全周する。幅27～42cm、深さ2～9cmである。

遺物 出土遺物のごく少ない。掲載するのは須恵器杯の1/4程度の破片1点のみである。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)3点・17g、同(大)89g、須恵器(小)4点・26g、同(大)2点・15gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀中頃の遺構である。前述の通り、11号竪穴住居との新旧関係が逆転する可能性が高い。それが正しいとすれば、本遺構には竈がないので、「竪穴住居」ではなく、「竪穴状遺構」という呼び名がふさわしいということになる。



第79図 2区12号竪穴住居平断面図、出土遺物

2区13号竪穴住居(第80・81図、第37表、PL.37-1～4、117)

調査区南部の、多くの遺構が集中している部分にあるが、その中では北端に位置する。竈の先端が調査区外となるため、拡張して調査した。

位置 X=30620～624、Y=-36532～537。

重複遺構 2区20号溝と重複する。本遺構が古い。

形状 東西に長い長方形だが、西辺よりも東辺が長いので、台形に近い形状である。

主軸方位 N-80°-E。

規模 中央付近で計測して長軸は3.45m、短軸は2.76mである。

床面積 20号溝に破壊されている部分を推定復元して計測すると8.19㎡である。

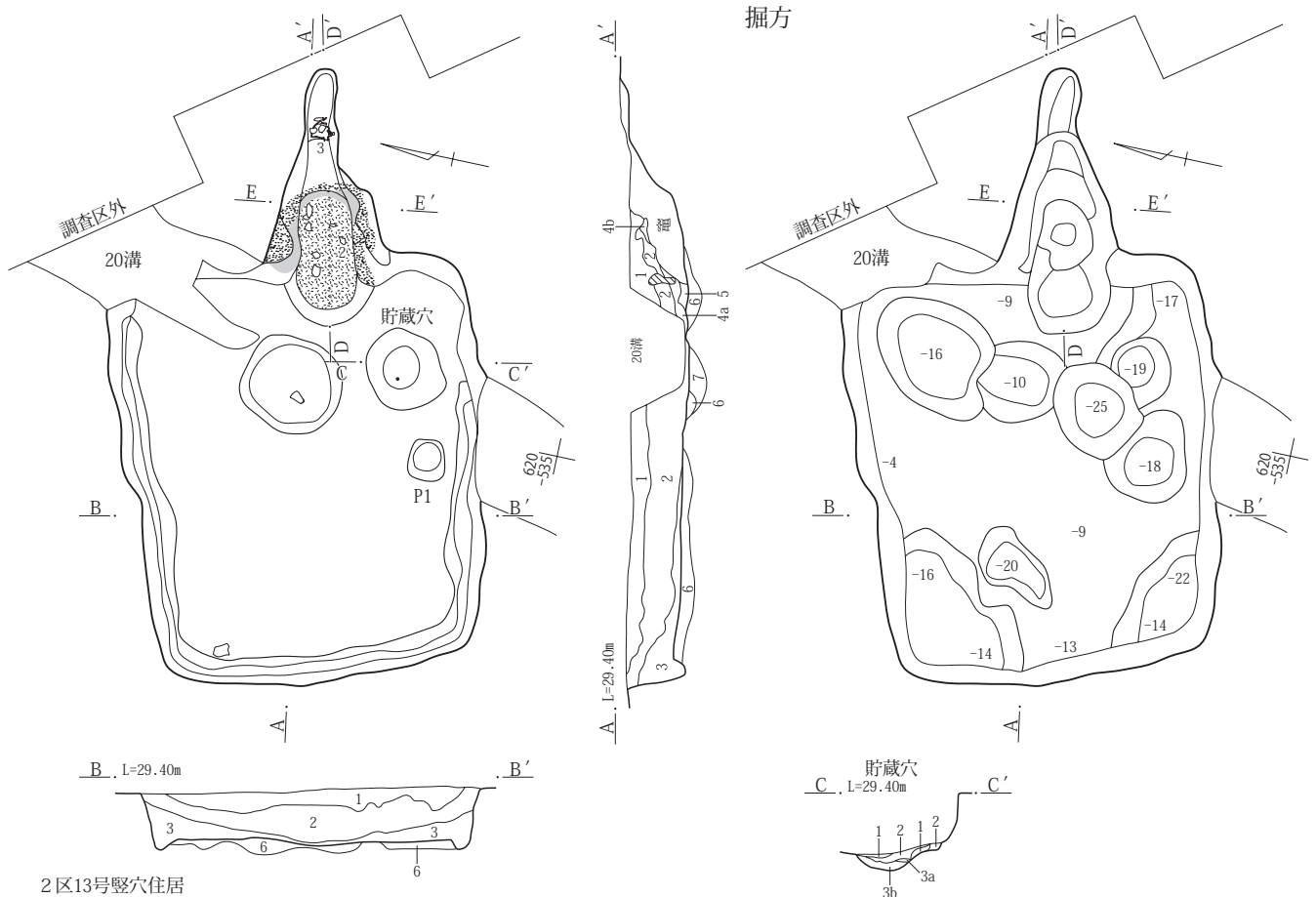
埋没土層 下層は黒色土、上層は暗茶褐色土で埋まっているが、中層はローム土、ローム塊、暗褐色土塊の混土であり、少なくとも中層は人為的に埋められている可能性がある。

壁高 全体に残りがよく、34～47cmである。

床面 おおむね平坦である。

掘方 凹凸が多く、東半部と北西隅、南西隅などの数カ所を土坑状に掘り込んでいる。各地点の床面からの深さは第80図に示したとおりであるが、断面にみるように一部では地山が床面になっている部分もある。これらをローム塊を多く含む暗黄色土や灰褐色土で埋め戻し床面としている。

竈 東壁中央やや南に設置している。袖はほとんどなく、燃烧部を壁から壁外にかけて作り、煙道を壁外に長く延

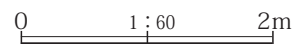


2区13号竪穴住居

1. 暗茶褐色土 ローム小塊斑にわずかに含む。マンガン沈着。
2. くすんだローム土・ローム塊・暗褐色土塊の混土
3. 黒褐色土 ローム塊わずかに含み、しまりあり。
- 4a. 灰白粘土 塊状。
- 4b. 4a層・焼土化した粘土塊の混土。
5. 黄橙色粘土 固くしまり焼土化。
6. 暗黄色土 ローム塊主体。掘方。
7. 灰褐色土 ローム小塊多く含み、焼土小塊含み、褐色土塊わずかに含む。掘方。

2区13号竪穴住居貯蔵穴

1. 灰白色粘土
2. 1層塊・ローム塊の混土。
- 3a. 赤橙色焼土
- 3b. 3a層ブロックに炭化物粒・灰含む。



第80図 2区13号竪穴住居平面断面図

ばす形態である。本体は灰白色ないし灰黄色粘土で作っていたらしい。長さは燃烧部底面の凹みの先端から計測すると208cm、袖の先端からは177cmであり、壁外には150cm張り出している。幅は袖の外側を計測して120cm、燃烧部の中央は44cmである。竈の内部はよく焼土化し、燃烧部の底部には灰・炭化物の層が広く堆積している。

貯蔵穴 南東隅近くに設置している。ほぼ円形で、長径69cm、短径59cmであり、深さは18cmと浅い。

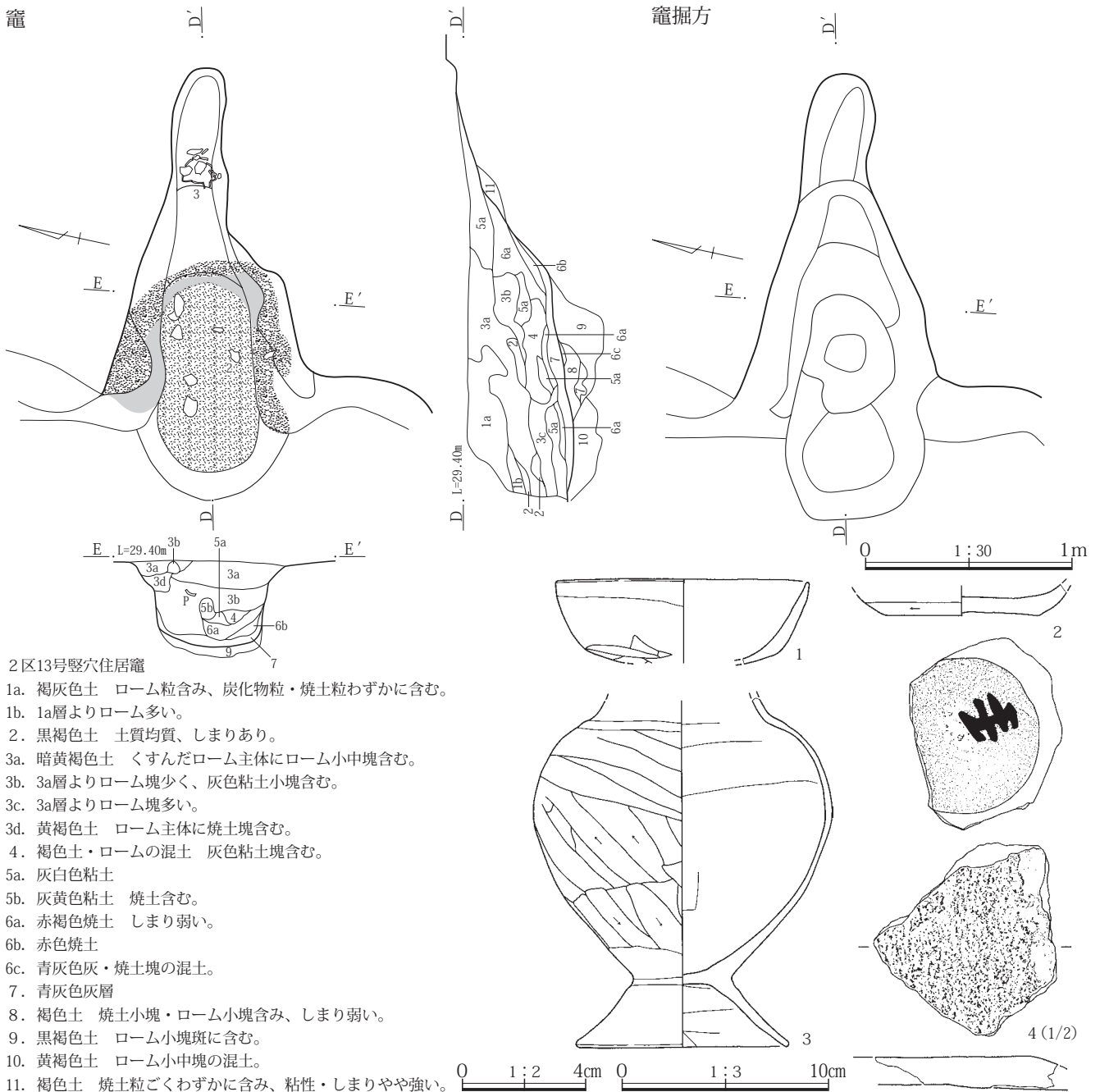
柱穴 床面では南壁際の中央から1基のピットが確認されている。長さ34cm、幅28cmの方形で、深さは18cmである。位置と深さからみて支柱穴ではなく、あるいは出入竈

り口に関係するものかもしれない。

周溝 東辺を除いて廻っている。幅19～34cm、深さ3～9cmである。

遺物 出土した遺物は少ない。掲載したのは土師器杯1点、同小型台付甕1点、須恵器杯1点(墨書がある)、混入品である板碑片?1点であり、いずれも竈内から出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)120g、同(大)675g、須恵器(小)6点・57g、同(大)3点・86gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第3四半期の住居であると思われる。



- 2区13号竪穴住居竈
- 1a. 褐灰色土 ローム粒含み、炭化物粒・焼土粒わずかに含む。
 - 1b. 1a層よりローム多い。
 2. 黒褐色土 土質均質、しまりあり。
 - 3a. 暗黄褐色土 くすんだローム主体にローム小中塊含む。
 - 3b. 3a層よりローム塊少く、灰色粘土小塊含む。
 - 3c. 3a層よりローム塊多い。
 - 3d. 黄褐色土 ローム主体に焼土塊含む。
 4. 褐色土・ロームの混土 灰色粘土塊含む。
 - 5a. 灰白色粘土
 - 5b. 灰黄色粘土 焼土含む。
 - 6a. 赤褐色焼土 しまり弱い。
 - 6b. 赤色焼土
 - 6c. 青灰色灰・焼土塊の混土。
 7. 青灰色灰層
 8. 褐色土 焼土小塊・ローム小塊含み、しまり弱い。
 9. 黒褐色土 ローム小塊斑に含む。
 10. 黄褐色土 ローム小中塊の混土。
 11. 褐色土 焼土粒ごくわずかに含み、粘性・しまりやや強い。

第81図 2区13号竪穴住居竈平面図、出土遺物

2区14号竪穴住居(第82・83図、第37表、PL.37-5,38-1~3,117)

調査区南部にある。この付近には多くの遺構が分布しており、竪穴住居同士の重複もみられる。本住居も3軒の竪穴住居と重複しているが、そのなかでは最も新しいので全体を調査することができた。

位置 X=30602~605、Y=-36525~531。

重複遺構 2区15~17号竪穴住居と重複している。本遺構が最も新しい。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-89°-E。

規模 長軸は竈北側付近で計測して4.40m、短軸は中央付近で2.98mである。

床面積 10.71㎡。

埋没土層 主として褐灰色土で埋没している。いわゆるレンズ状堆積であり、自然埋没と考えられる。

壁高 27~51cm。

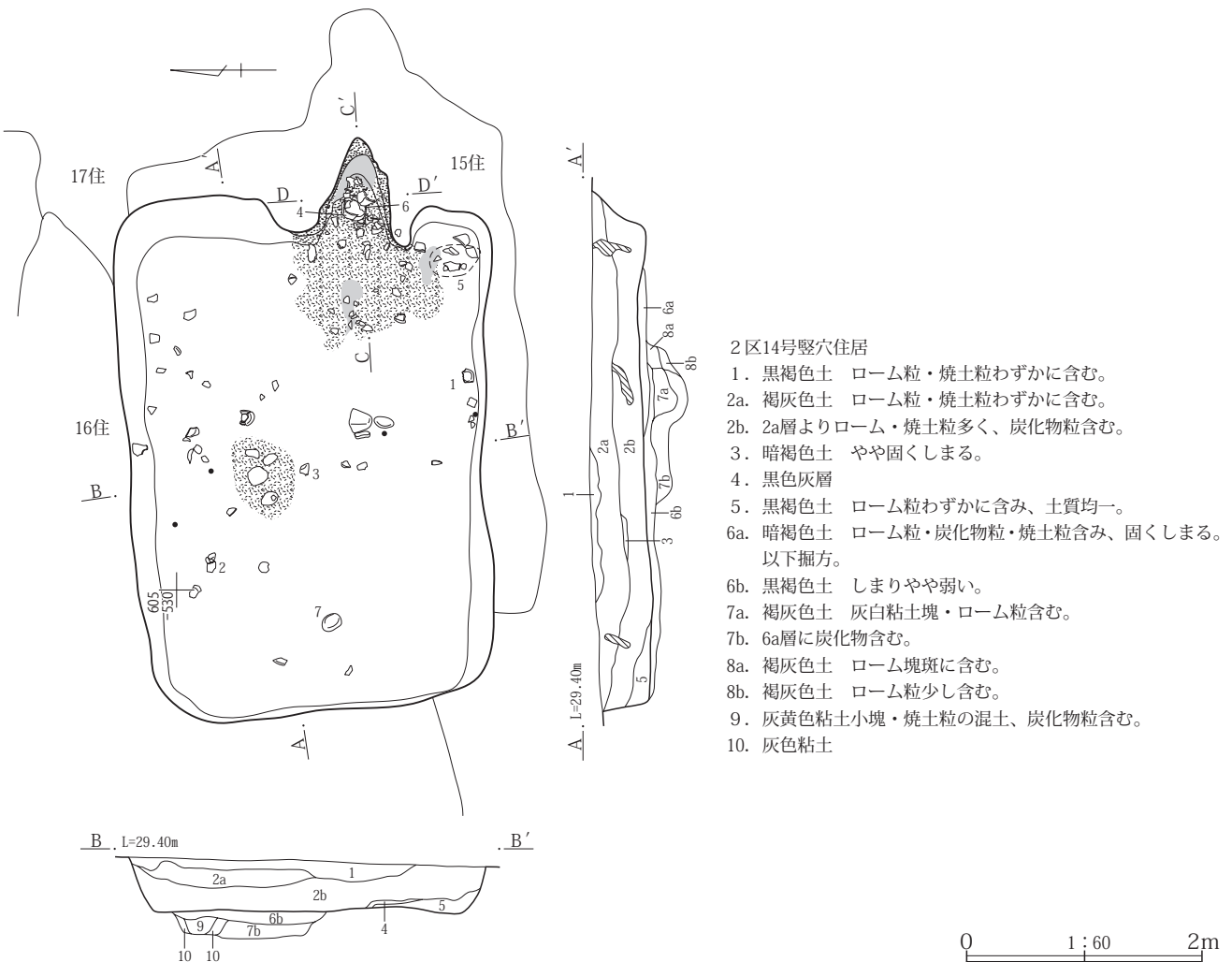
床面 おおむね平坦である。中央やや北側に灰・炭化物が分布している。

竈 東壁のやや南寄りに設置している。両袖の基部が残るが、住居内にはあまり延びておらず、燃烧部は壁から壁外にかけて作られている。本体は灰白色ないし灰黄色粘土で作られていたらしい。長さは袖の先端から計測して98cmであり、壁外には55cm張り出している。幅は両袖の外側を計測して140cmである。燃烧部の中央から6の甕と4の小型台付甕が入れ子となり伏せられた状態で出土した。その位置からみて支脚として使用されていたと考えられる。竈内側は焼土化し、燃烧部の底面から前面にかけては灰・炭化物が広がっていた。

貯蔵穴 確認できなかった。

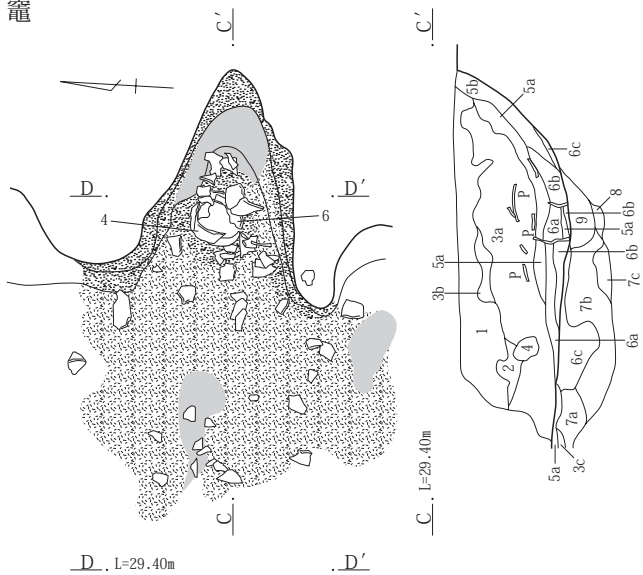
柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。



第82図 2区14号竪穴住居平断面図

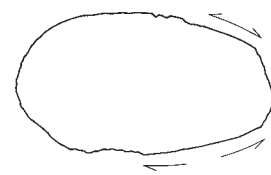
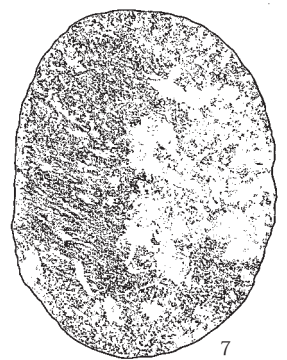
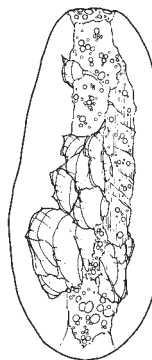
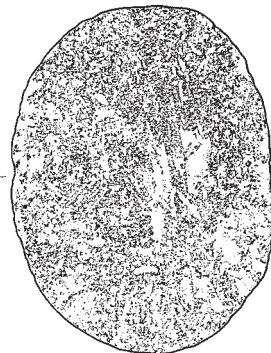
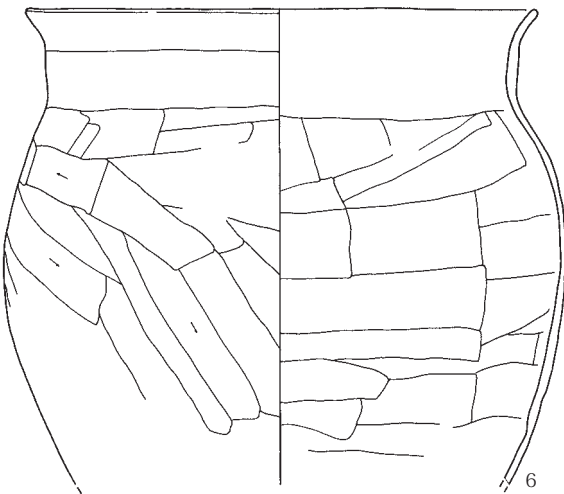
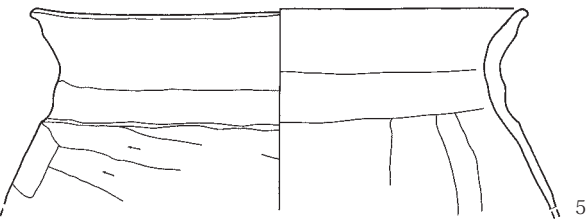
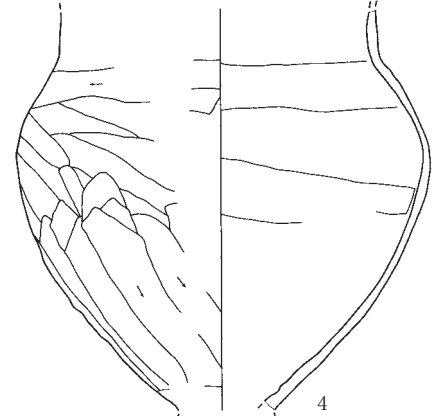
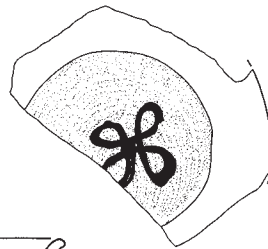
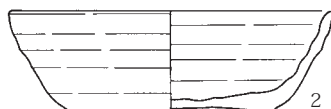
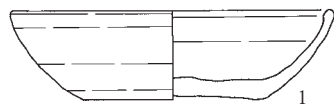
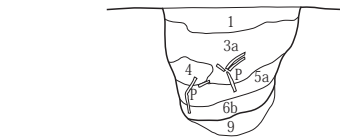
竈



2区14号竪穴住居竈

1. ローム細粒・焼土粒・灰白色粘土の混土。
2. 灰黄色粘土 塊状。
- 3a. 灰白色粘土ブロック主体の褐灰色土・焼土粒との混土。
- 3b. 3a層より灰白色粘土多い。
- 3c. 灰黄色粘土 焼土含む。
4. 灰黄色粘土塊・焼土塊混土。
- 5a. 赤色焼土 塊状。
- 5b. 赤色焼土
- 6a. 青灰色灰層 焼土塊含む。
- 6b. 青灰色灰層
- 6c. 黒色灰層
- 7a. 褐灰色土 焼土小塊・ローム粒わずかに含む。
- 7b. 褐灰色土・ローム小中塊の混土。
8. 褐灰色土 ローム粒ごくわずかに含み、粘性強い。
9. 褐色土 焼土小塊多く含み、ローム小塊・灰褐色小塊含む。

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第83図 2区14号竪穴住居竈平断面図、出土遺物

遺物 出土遺物は、竈内から住居東側にかけて比較的多く分布している。掲載したのは土師器甕2点、同小型台付甕1点、須恵器杯2点(うち1点に墨書がある)、同蓋1点、砥石1点である。4と6の土師器甕と小型台付甕は竈燃焼部に倒立した入れ子状態で置かれていたが、その他の遺物は床面からやや浮いた高さから出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)637g、同(大)4,805g、須恵器(小)1,680g、同(大)669gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居であると思われる。

2区15号竪穴住居(第84・85図、第37・38表、PL.38-4・5,39-1,118)

調査区南部にある。14号竪穴住居に大きく壊されている

が、本住居の方が深いので、全形を知ることができた。

位置 X=30602～605、Y=-36524～530。

重複遺構 2区14・16・17号竪穴住居と重複している。本遺構が14号竪穴住居より古く、16・17号竪穴住居より新しい。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-86°-E。

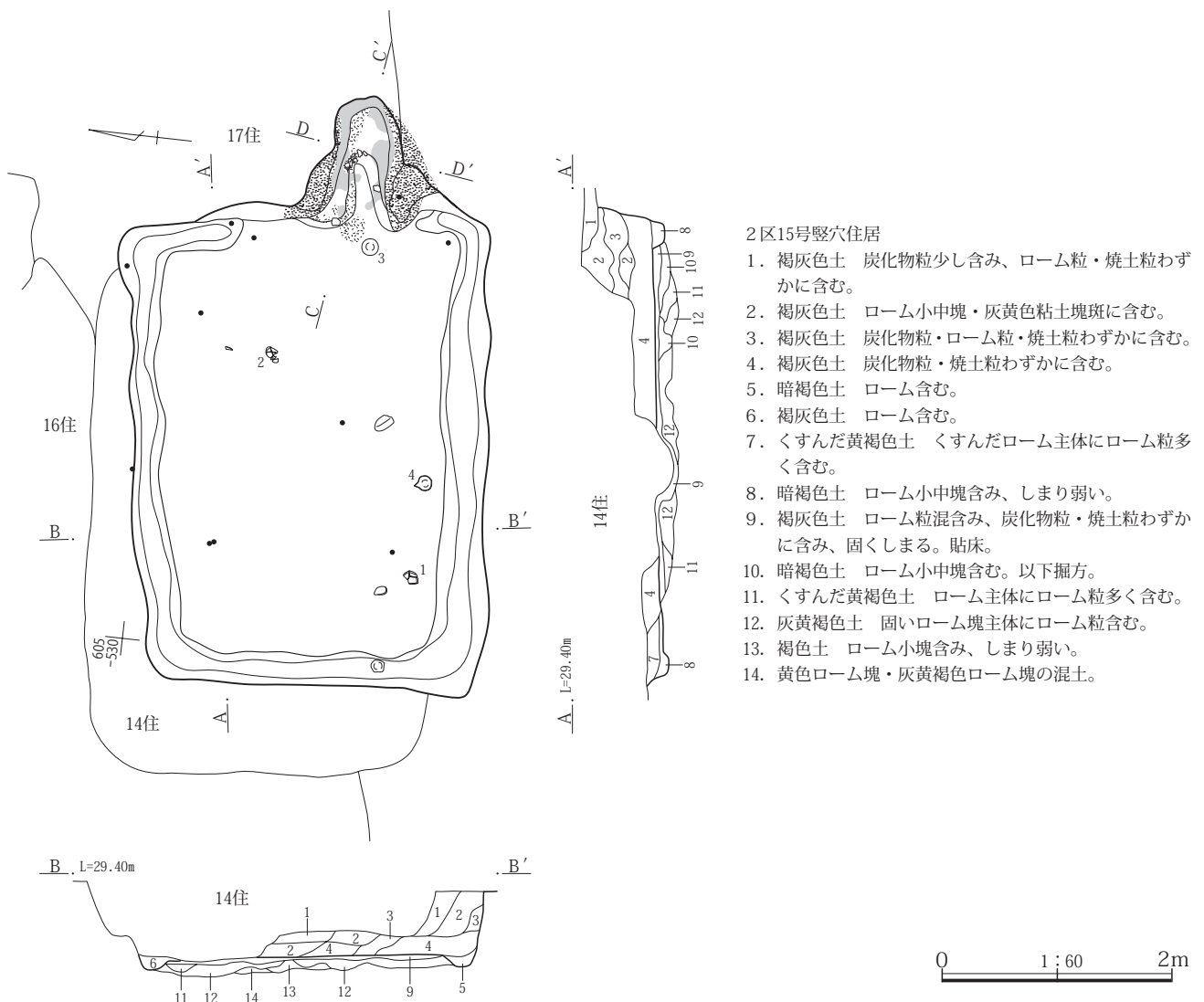
規模 中央付近で計測して長軸4.20m、短軸3.08m。

床面積 11.31㎡。

埋没土層 主として褐灰色土で埋没している。細かい単位で埋没しているように見え、自然埋没とは考えにくい。

壁高 14号竪穴住居に破壊されていない部分で48～61cmである。

床面 北西隅などのわずかな部分を除いて、ほぼ全体が貼床構造の床面であり、おおむね平坦である。



第84図 2区15号竪穴住居平面図

掘方 ほぼ全体が、床面から10～20cmの深さである。底面には細かい凹凸がある。それをロームを多く含む土で埋め戻し、表面に貼床を作って床面とする。

竈 東壁南寄りに設置している。袖がごく短く、燃烧部は壁を大きく掘り込んで作っているので、住居内への張り出しは少ない。本体は灰黄色粘土を用いて作られていたらしい。長さは袖先端から計測して118cmであり、壁外には94cm張り出している。幅は両袖の外側を計測して120cm、燃烧部幅は44cmである。竈の内側は焼土化し、底面には灰・炭化物の層が堆積していた。焚き口前の床面には3の黒色土器碗が完形のまま伏せられていた。

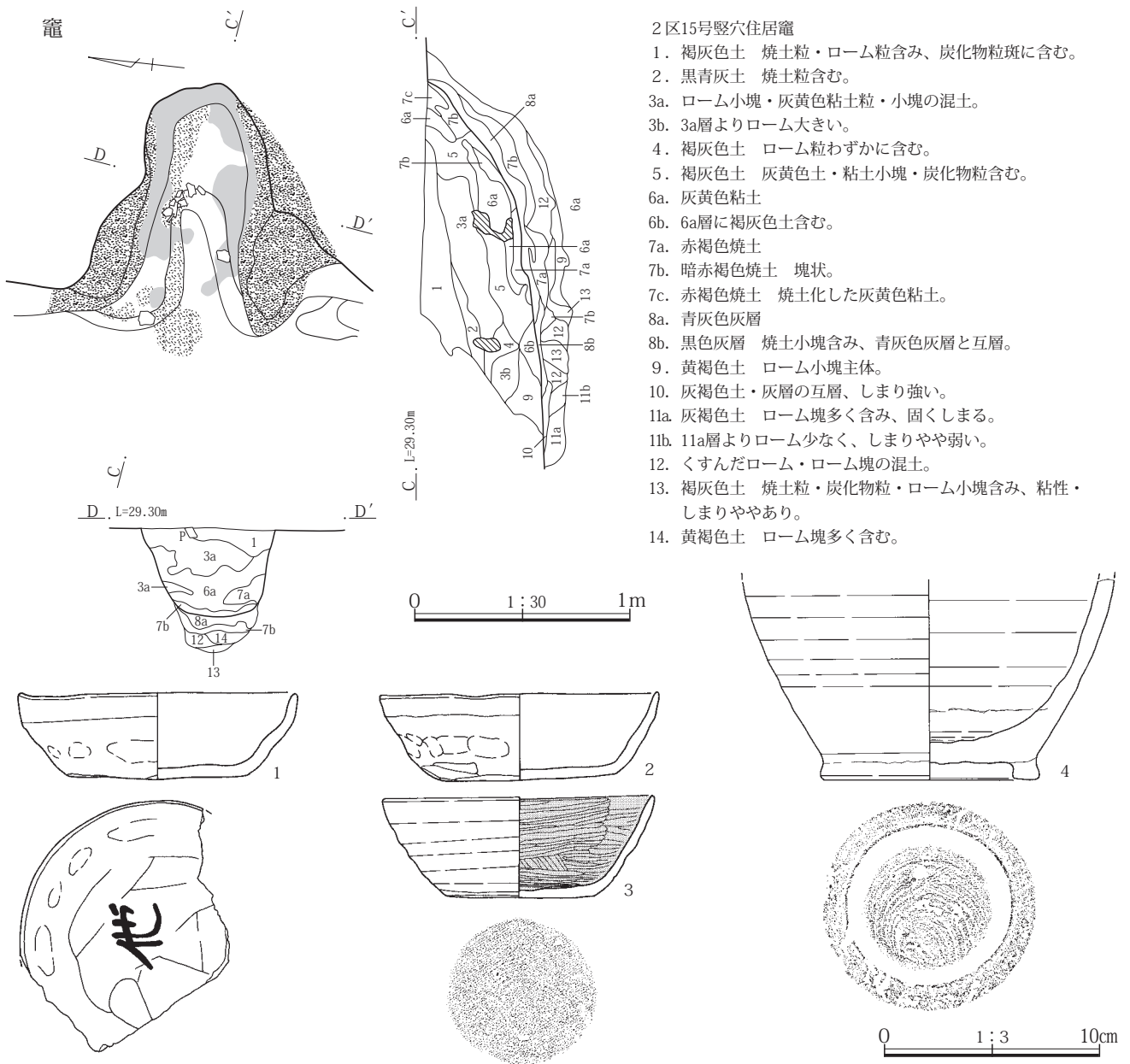
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 竈付近を除く全体に廻っている。幅18～47cm、深さ5～17cmである。

遺物 遺物は多くない。やや大きな破片は全体に散在していた。掲載したのは土師器杯2点(うち墨書1点)、黒色土器碗1点、須恵器鉢1点である。3の黒色土器碗は竈前の床面から出土したが、それ以外は床面からやや浮いていた。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)6点・78g、同(大)627g、須恵器(小)200g、同(大)1点・86gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、14号竪穴住居よりもやや遡る9世紀前半の住居であると思われる。



第85図 2区15号竪穴住居竈平面図、出土遺物

2区16号竪穴住居(第86～88図、第38表、PL.39-2～5, 40-1,118)

調査区南部にある。14号竪穴住居に南東部を壊されている。竈が2基あるため、調査時は2軒の竪穴住居が重複していると考えたが、整理作業時の検討の結果、1軒の竪穴住居であり、竈は付け替えられたものであると判断した。

位置 X=30602～607、Y=-36527～533。

重複遺構 2区14・15・17号竪穴住居、20号溝と重複する。本遺構が14・15号竪穴住居、20号溝よりも古く、17号竪穴住居よりも新しい。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-73°-E。

規模 長軸方向は2基の竈の中間で計測して5.15m、短軸方向は西辺近くで計測して4.35mである。

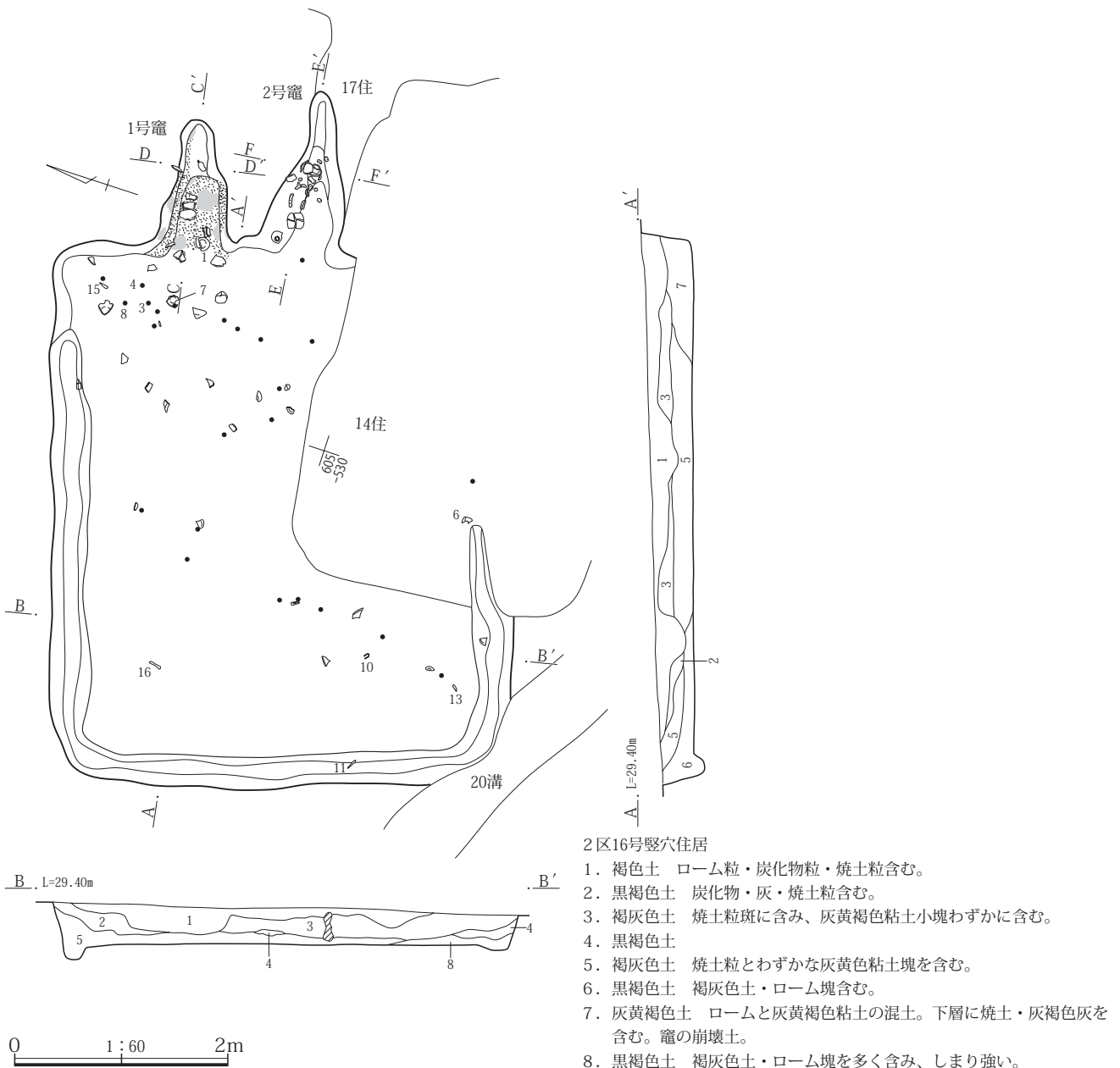
床面積 14号竪穴住居で破壊された部分を推定復元して18.89㎡。

埋没土層 褐灰色土や黒褐色土などで埋没している。不自然な堆積状況であり、単純な自然埋没とは考えにくい。

壁高 残りのよい北壁の東半部分で計測すると41～49cmである。

床面 おおむね平坦である。

竈 東壁中央に2基確認された。北側を1号竈、南側を2号竈と名付けた。類似した形態であるが、1号竈には



第86図 2区16号竪穴住居平衡断面図

袖の基部が残るのに対して、2号竈にはそれが無いので、2号竈から1号竈へ付け替えられたものと判断される。いずれも燃焼部は壁を掘り込んで作っており、住居外に大きく張り出す形態である。1号竈には袖の基部がわずかに残っており、長さは袖の先端から計測して128cmで、そのうち壁の外になる部分は112cmもある。本体は灰黄色粘土を用いて構築していたらしい。右袖の先端や燃焼部には長さ15cm程度の礫が3点残る。構築材の一部、あるいは支脚に用いられたものと思われる。内面は焼土化し、燃焼部底面には灰・炭化物が堆積していた。2号竈は袖はなく、長さは壁の下端から計測して158cmであり、そのうち壁外の部分は142cmもある。幅は壁の部分で46cmである。煙道部分が1号竈に比べて細くなっている。

本体は灰黄褐色粘土で構築されていたらしい。内部の焼土化はやや弱く、灰・炭化物の層も少ない。

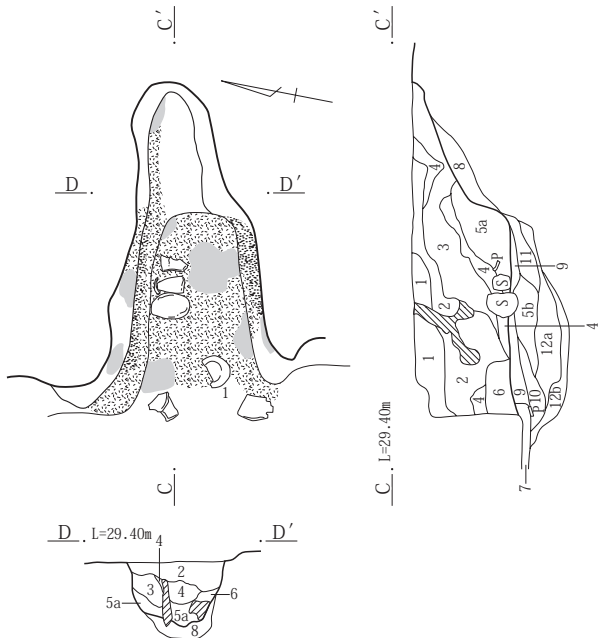
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 14号竪穴住居に破壊されている部分は明確ではないが、竈のある東壁を除いた3辺に廻っているらしい。幅18～35cm、深さ5～15cmである。

遺物 土器は小破片となって全体に散在していた。やや大きな破片は竈の中から出土した。掲載したのは土師器杯2点、須恵器杯5点(うち2点には墨書がある)、有孔石製品1点、鎌1点、刀子6点、鉄鏃2点である。鉄器が複数出土したのが目立ち、それらはいずれも住居の隅近くから出土している。その他、小破片であるために掲

1号竈

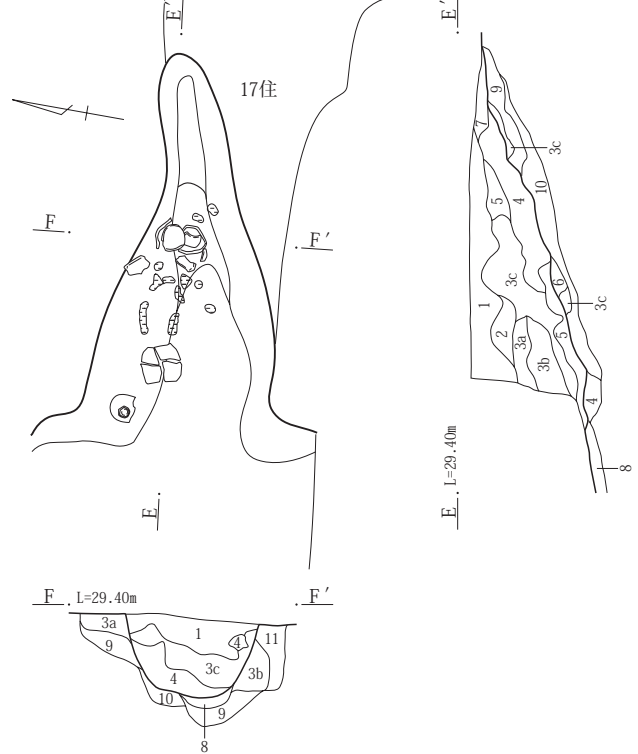


2区16号竪穴住居1号竈

1. 褐色土 焼土粒・炭化物粒・ローム粒混じり。
2. くすんだ褐色土 灰黄色粘土塊・炭化物粒・焼土粒わずかに含む。
3. くすんだ灰黄褐色土 灰黄色粘土塊含み、焼土粒わずかに含む。
4. 灰黄色粘土 褐灰色土含む。
- 5a. 赤褐色焼土 炭化物・灰塊含む。
- 5b. 赤褐色焼土
6. 褐色土 焼土粒・炭化物粒わずかに含み、粘性あり。
7. 黒褐色土 ローム粒含み、焼土粒・炭化物粒わずかに含み、粘性・しまりあり。
8. 暗灰黄色土 焼土粒少し含み、土質ほぼ均一。
9. 青灰色灰層
10. 黒褐色土 焼土小塊・炭化物粒・灰含む。
11. 褐色土 くすんだローム主体にローム小塊・焼土粒含む。
- 12a. 褐色土 ローム小塊・焼土粒わずかに含む。
- 12b. 12a層よりローム多い。

0 1:30 1m

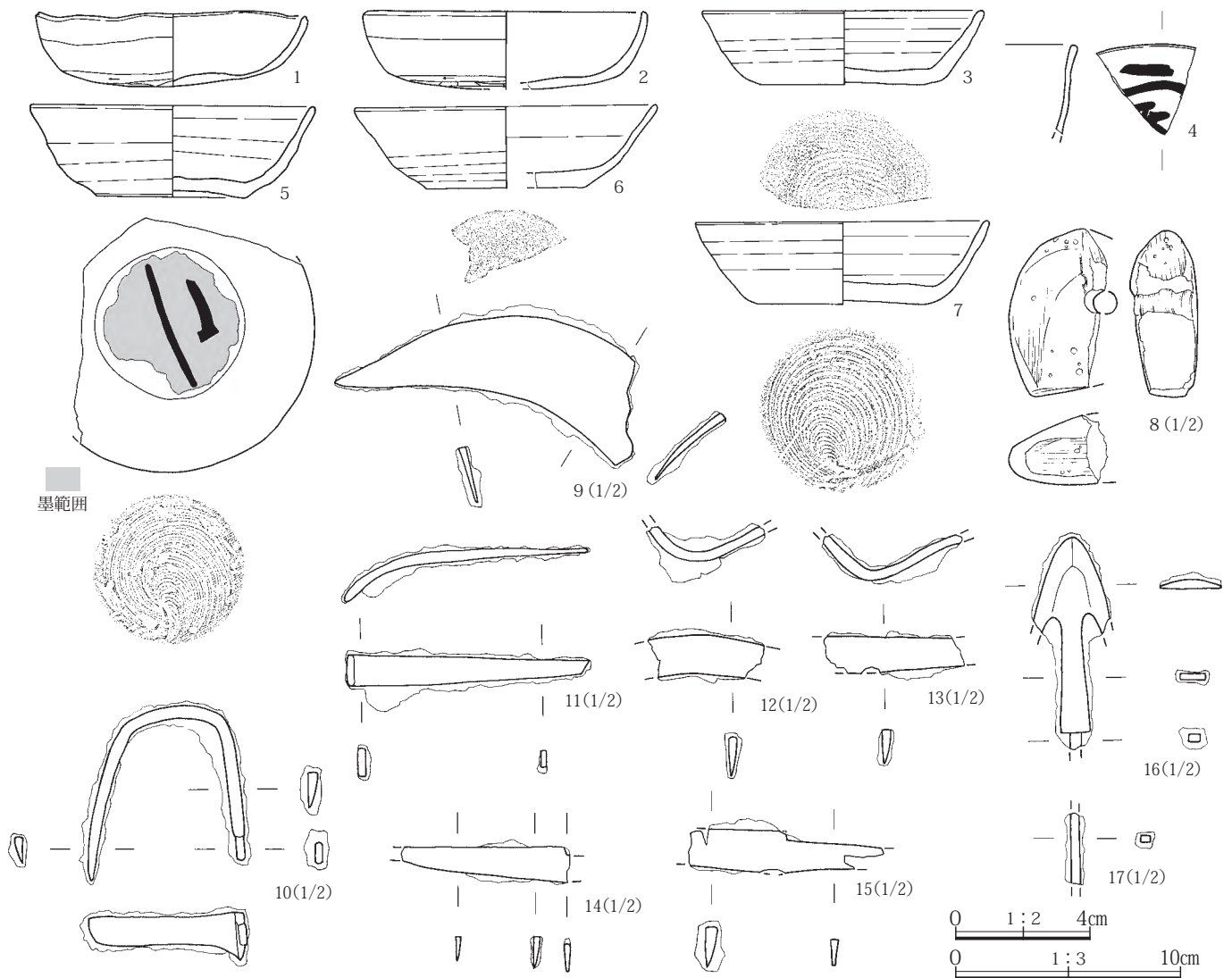
2号竈



2区16号竪穴住居2号竈

1. くすんだ黄褐色土 焼土粒・ローム粒含み、炭化物粒わずかに含む。
2. くすんだ黄褐色土 ローム粒・灰黄色粘土粒わずかに含む。
- 3a. くすんだ灰黄褐色粘土塊・くすんだロームの混土。
- 3b. 灰黄褐色粘土塊 焼土塊・礫含む。
- 3c. 灰黄褐色粘土
4. 赤褐色焼土
5. 赤褐色焼土 塊状、灰含む。
6. 赤褐色焼土 粒・小塊状、灰含む。
7. 灰赤褐色土 焼土化した黄灰色粘質土。
8. 青灰色灰層
9. 褐色土 ローム粒・焼土小塊含むくすんだローム。
10. くすんだ黄褐色土 褐色土・ロームの混土。
11. 褐色土 ローム小塊含む。

第87図 2区16号竪穴住居1・2号竈平断面図



第88図 2区16号竪穴住居出土遺物

載しなかったものには、土師器(小)389g、同(大)2,849g、須恵器(小)1,529g、同(大)5点・296gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第1四半期の住居であると思われる。

2区17号竪穴住居(第89・90図、第38表、PL.40-2～5,118)

調査区南部にある。15号竪穴住居によって南西部を破壊されているが、かろうじて全体の形が分かる。

位置 X=30603～606、Y=-36523～527。

重複遺構 2区14・15・16号竪穴住居と重複する。本遺構がそれらのいずれよりも古い。

形状 南西隅が破壊されているので不確実ではあるが、他の3隅の形状からみて東西にやや長い方形と考えられる。

主軸方位 N-11°-W。

規模 長軸は大きく壊されているので推定であるが、

3.70m以上である。短軸は中央付近で計測して3.20mである。

床面積 15号竪穴住居に破壊されている部分を推定復元して計測すると9.74㎡である。

埋没土層 ローム塊と黒褐色土塊の混土(2層)のような層もあり、単純に自然に埋没したとは考えられない。

壁高 残っている部分は比較的高く、40～59cmある。

床面 全体に貼床構造の床面で、おおむね平坦である。

掘方 中央は床面から7～9cmと浅く、周縁部は16～20cmと深く掘っている。底面には全体に凹凸がある。それらを埋め戻し、貼床を施して床面とする。

竈 北壁の中央やや東寄りに設置している。両袖の基部が残るが、それらは短く、燃烧部は壁を掘り込んで作っている。煙道は長く伸びていない。竈本体は灰黄色粘土で構築されていたらしい。長さは袖の先端から計測して107cmであり、壁外には70cm張り出している。幅は左袖

が痕跡程度なのではっきりしないが、両袖の外側を計測すると120cm、燃烧部の幅は48cmである。竈内部の焼土化は顕著ではないが、燃烧部底面には焼土、灰、炭化物の層が見られる。

貯蔵穴 確認できなかった。

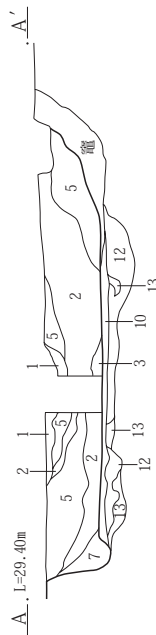
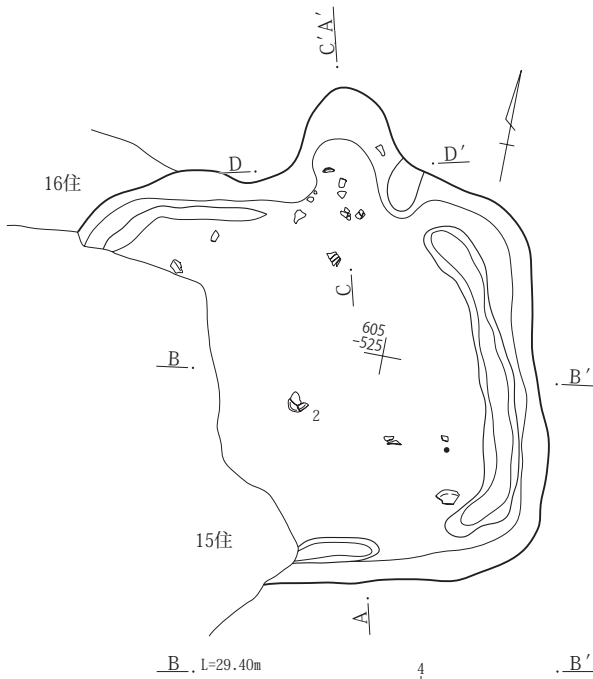
柱穴 確認できなかった。

周溝 幅16～32cm、深さ5～12cm。

遺物 遺物は多くなく、大きめの土器片も竈内を除いて

床からかなり浮いた高さから出土している。掲載したのは、土師器杯2点である。2の杯は床面中央からの出土であるが、床面からは44cmも高い層位から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)163g、同(大)1,362g、須恵器(小)282g、同(大)3点・50gがある。

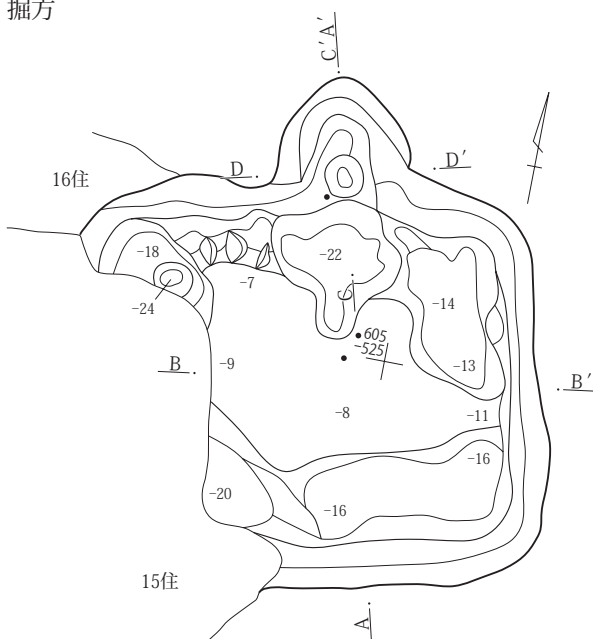
時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第1四半期の住居であると思われる。



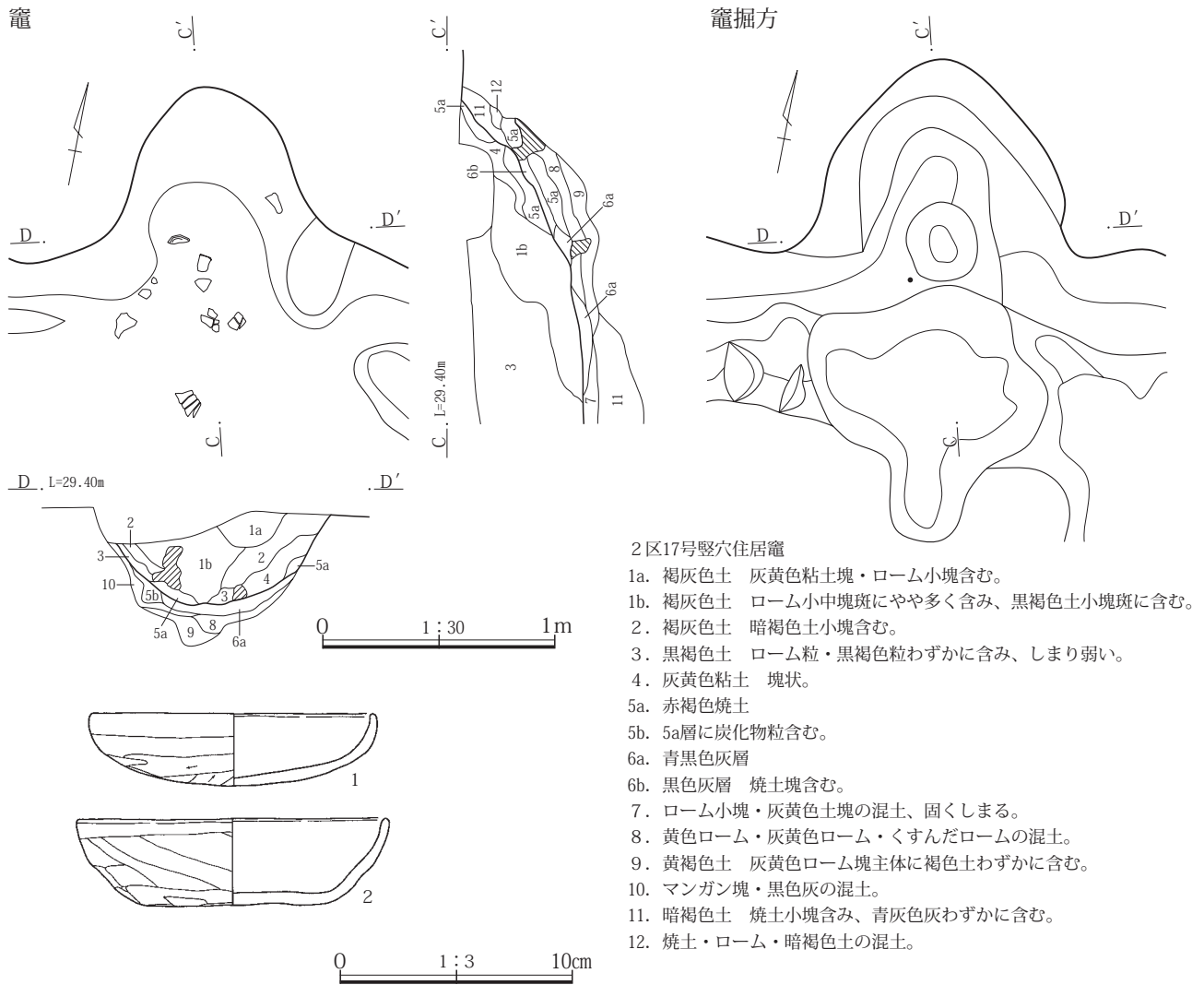
2区17号竪穴住居

1. 褐灰色土 ローム小中塊・黒褐色土小塊斑に含む。
2. ローム塊・黒褐色土塊の混土。
3. 黒褐色土 ローム粒・黒褐色粒わずかに含み、しまり弱い。
4. 黒色灰層
5. 褐灰色土 ローム小中塊斑にやや多く含み、黒褐色土小塊斑に含む。
6. 褐灰色土 ローム粒含む黒褐色土・ローム小塊含むくすんだ黄褐色土が互層に入る。
7. 黒褐色土 ローム粒・黒褐色粒わずかに含み、しまり弱い。黒褐色土はうすいスジ状。
8. 黒褐色土 土質均一、しまり弱い。
9. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊・暗褐色土塊含む。
10. ローム小塊・灰黄色土塊の混土、固くしまる。貼床。
11. くすんだローム・褐色土の混土、ややしまりあり。以下掘方。
12. 黄色ローム・灰黄色ローム・くすんだロームの混土。
13. 黄褐色土 灰黄色ローム塊主体に褐色土わずかに含む。

掘方



第89図 2区17号竪穴住居平断面図



2区17号竈穴住居竈

- 1a. 褐灰色土 灰黄色粘土塊・ローム小塊含む。
- 1b. 褐灰色土 ローム小中塊斑にやや多く含み、黒褐色土小塊斑に含む。
- 2. 褐灰色土 暗褐色土小塊含む。
- 3. 黒褐色土 ローム粒・黒褐色粒わずかに含み、しまり弱い。
- 4. 灰黄色粘土 塊状。
- 5a. 赤褐色焼土
- 5b. 5a層に炭化物粒含む。
- 6a. 青黒色灰層
- 6b. 黒色灰層 焼土塊含む。
- 7. ローム小塊・灰黄色土塊の混土、固くしまる。
- 8. 黄色ローム・灰黄色ローム・くすんだロームの混土。
- 9. 黄褐色土 灰黄色ローム塊主体に褐色土わずかに含む。
- 10. マンガン塊・黒色灰の混土。
- 11. 暗褐色土 焼土小塊含み、青灰色灰わずかに含む。
- 12. 焼土・ローム・暗褐色土の混土。

第90図 2区17号竈穴住居竈平面図、出土遺物

2区19号竈穴住居(第91図、第38表、PL.41-1,118)

調査区の南部にある。この付近は遺構が集中しているが、本遺構は掘立柱建物と土坑と重複しているのみであり、残存状況は悪くない。構築途中で廃棄されたと思われる竈穴住居である。

位置 X=30610～614、Y=-36535～539。

重複遺構 2区8号掘立柱建物、92・93号土坑と重複する。8号掘立柱建物とは新旧不明だが、2基の土坑よりは本遺構が古い。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-13°-W。

規模 中央付近で計測して長軸は4.22m、短軸は3.25mである。

床面積 床面がないので底面の面積を計測すると10.91㎡である。

床面 硬化した床面は確認できなかった。

掘方 底面は全体に緩やかな凹凸がある。

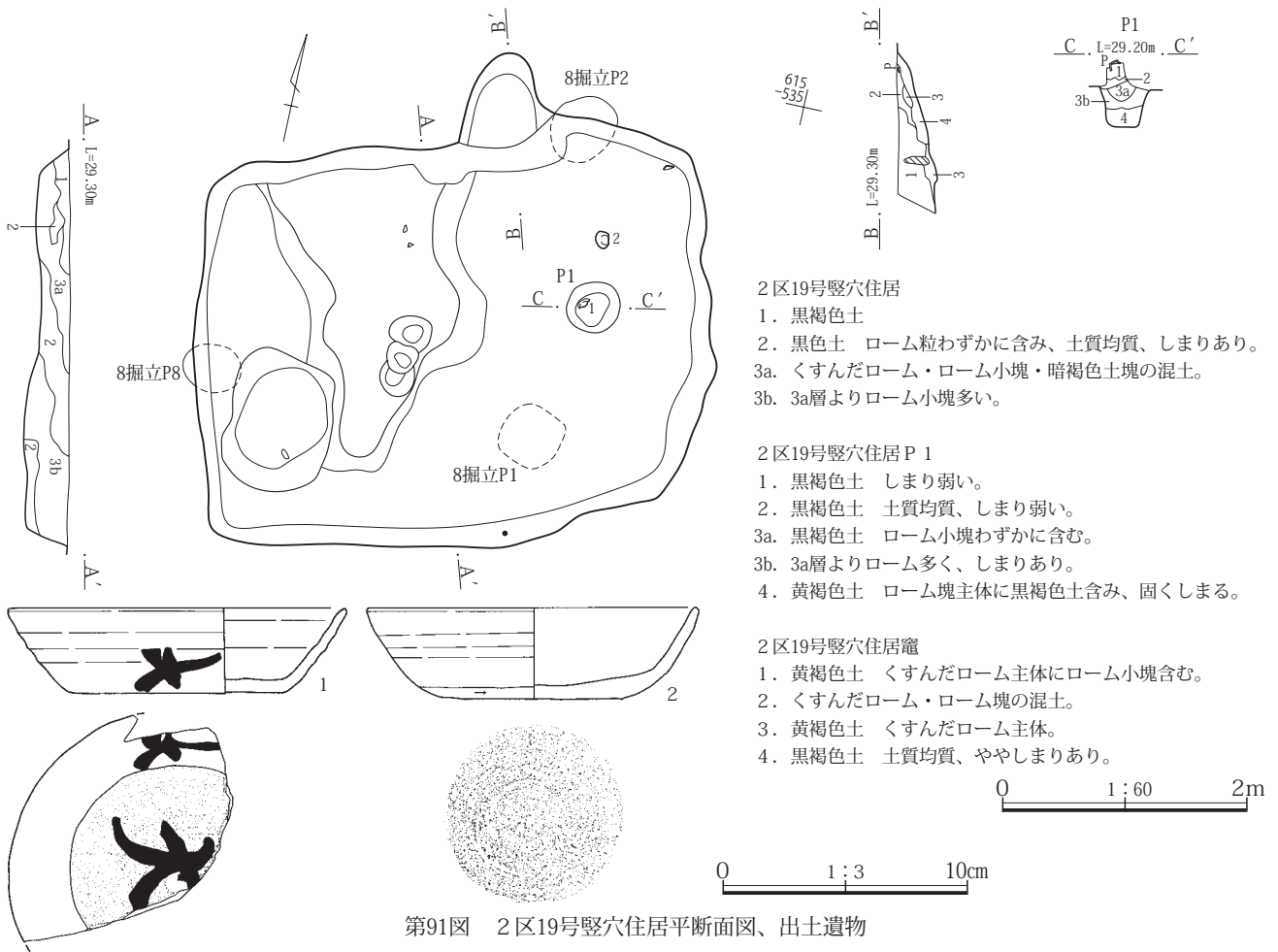
竈 北壁中央やや東寄りに設置している。焼土や炭化物、灰などは見られず、本体を構築する粘土も見られないので、掘方の状態で廃棄されたものと思われる。長さは壁の下端から計測すると97cm、幅は壁の上端の部分で計測すると82cmである。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 東半部に1基のピットが見つかったが、柱穴として掘られたものかは不明である。径43cmのほぼ円形で、深さは35cmである。

周溝 確認できなかった。

遺物 出土遺物はごく少ない。掲載したのは、須恵器杯2点(うち1点に墨書がある)である。いずれも覆土中からの出土である。その他、小破片であるために掲載しな



2区19号竪穴住居

- 1. 黒褐色土
- 2. 黒色土 ローム粒わずかに含み、土質均質、しまりあり。
- 3a. くすんだローム・ローム小塊・暗褐色土塊の混土。
- 3b. 3a層よりローム小塊多い。

2区19号竪穴住居P1

- 1. 黒褐色土 しまり弱い。
- 2. 黒褐色土 土質均質、しまり弱い。
- 3a. 黒褐色土 ローム小塊わずかに含む。
- 3b. 3a層よりローム多く、しまりあり。
- 4. 黄褐色土 ローム塊主体に黒褐色土含み、固くしまる。

2区19号竪穴住居竈

- 1. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊含む。
- 2. くすんだローム・ローム塊の混土。
- 3. 黄褐色土 くすんだローム主体。
- 4. 黒褐色土 土質均質、ややしまりあり。

かったものには、土師器(小)5点・14g、同(大)303g、須恵器(小)3点・6g、同(大)1点・12gがある。

時期と所見 遺物からみて、9世紀第2四半期の遺構と思われる。床面が形成されておらず、竈も掘方のみであることから、住居構築途中で放棄されたものであろう。

2区20号竪穴住居(第92・93図、第38・39表、PL.41-2～4,118)

調査区南部にある。多くの遺構と重複するが、床面はほとんど破壊されておらず、全形が判明する。

位置 X=30592～596、Y=-36535～541。

重複遺構 2区28・29・31号竪穴住居、54・55・62・63号土坑と重複する。本遺構が54・55・62・63号土坑より古く、28・29・31号竪穴住居より新しい。

形状 東西に長い長方形である。2区28・29号竪穴住居とほぼ重なり長軸方向もほぼ一致する。

主軸方位 N-102°-E。

規模 長軸は竈のすぐ南で計測して5.20m、短軸は中央

付近で計測して3.90mである。

床面積 16.48㎡。

埋没土層 主として褐灰色土で埋没する。中層に黒色の灰層が見られるのが目を引く。

壁高 38～61cmであり、北壁が高く残っている。

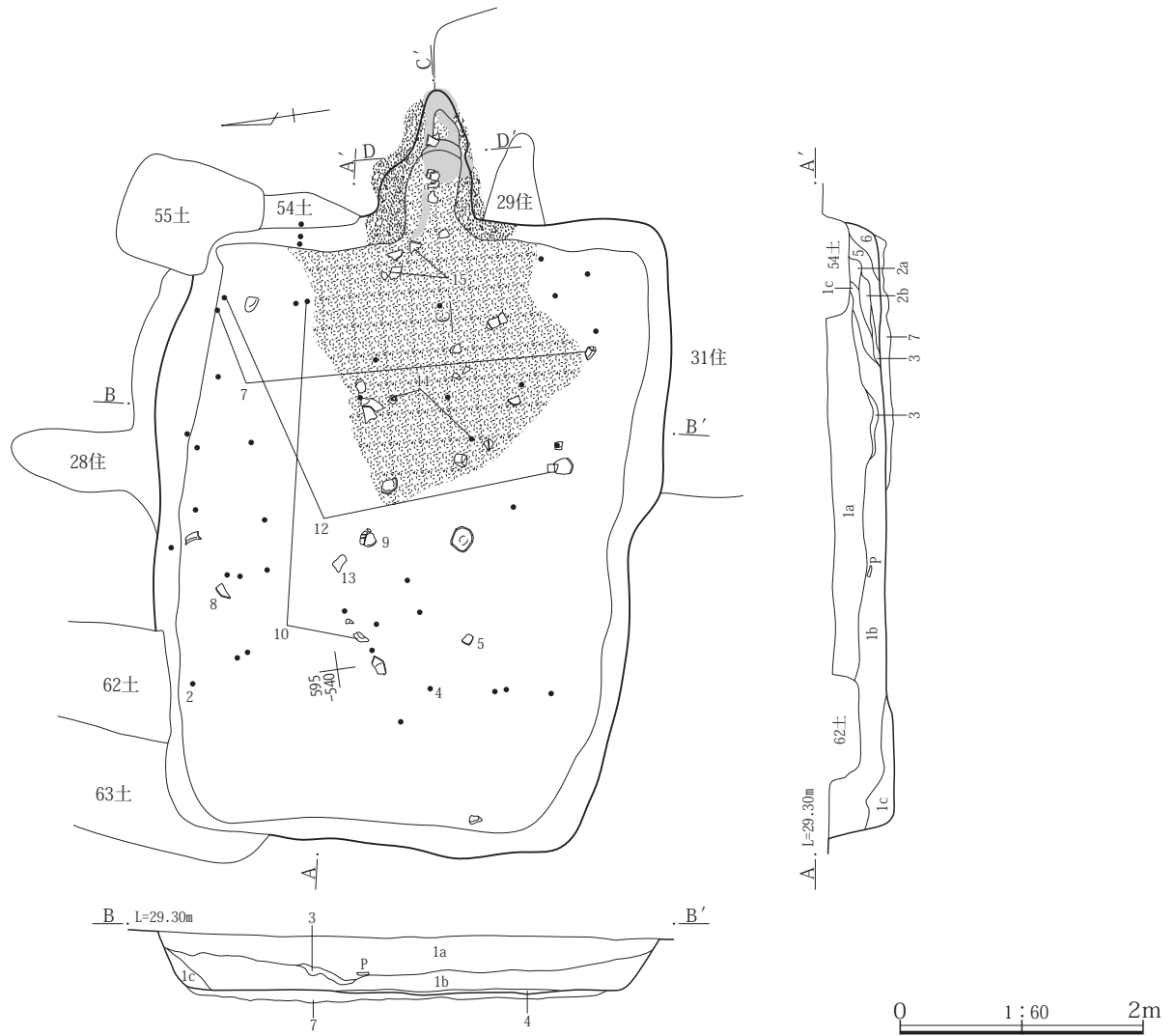
床面 おおむね平坦である。

掘方 下層に29号竪穴住居が重複するため掘方の認定が難しかったが、固く締まる褐灰色土を掘方と判断した。全体にごく薄く存在するだけである。

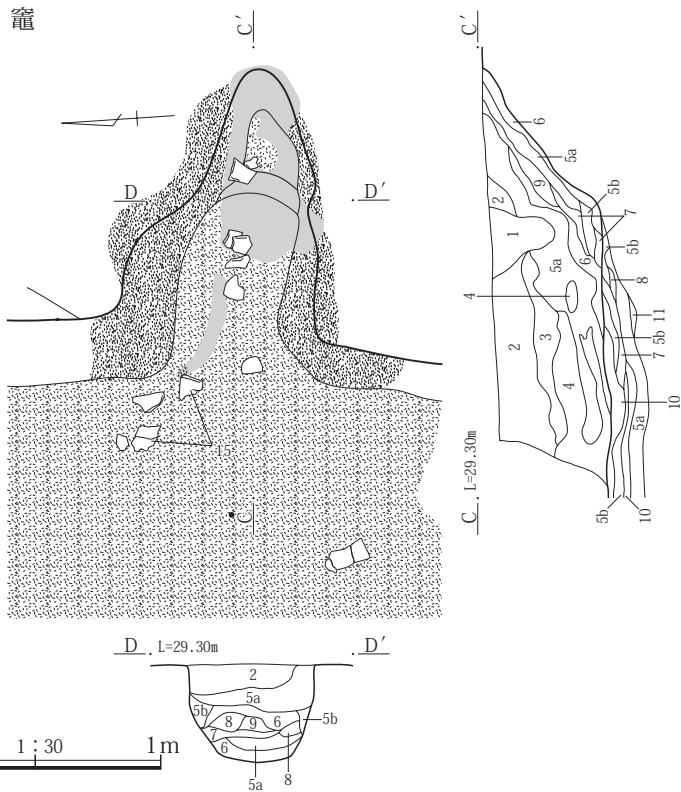
竈 東壁のほぼ中央に設置している。袖は見られず全体が壁を掘り込んで作られている。天井部は灰黄色粘土で作られていたらしい。燃烧部の中央には支脚の石が据えられたままの状態出土した。長さは壁の下端から125cm、幅は壁の部分で64cm、燃烧部幅は42cmである。竈の奥壁はよく焼土化し、燃烧部の底部から竈前の広い範囲に灰・炭化物が散っていた。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。



竈



- 2区20号竪穴住居
- 1a. 褐灰色土 ローム粒・炭化物粒わずかに含む。
 - 1b. 1a層よりローム粒・炭化物粒多い。
 - 1c. 1b層よりローム多い。
 - 2a. 褐灰色土 焼土粒・ローム粒・炭化物粒含む。
 - 2b. 2a層より焼土大きく塊状。
 3. 黒色灰層
 4. 黄白色粘土・焼土塊の混土。
 5. 黒灰色灰層・焼土塊・炭化物粒の混土。
 6. 黄褐色粘質土
 7. 褐灰色土 ローム小塊含み、やや固くしまる。掘方。
- 2区20号竪穴住居竈
1. 褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
 2. くすんだ褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
 3. くすんだ黄褐色土 ローム粒多く含み、灰黄色粘土粒含む。
 4. 褐灰色土 灰黄色粘土小塊斑に含み、焼土粒・炭化物粒わずかに含む。
 - 5a. 灰黄色粘土 焼土粒含む。
 - 5b. 灰黄色粘土・焼土塊の混土。
 6. 赤褐色焼土 塊状。
 7. 青灰色灰層
 8. 暗黄褐色土 くすんだローム主体に焼土粒・ローム粒含む。
 9. 黒茶色土 小塊状、しまり弱く脆い。
 10. 黒色灰層
 11. 青灰色灰・焼土の混土。

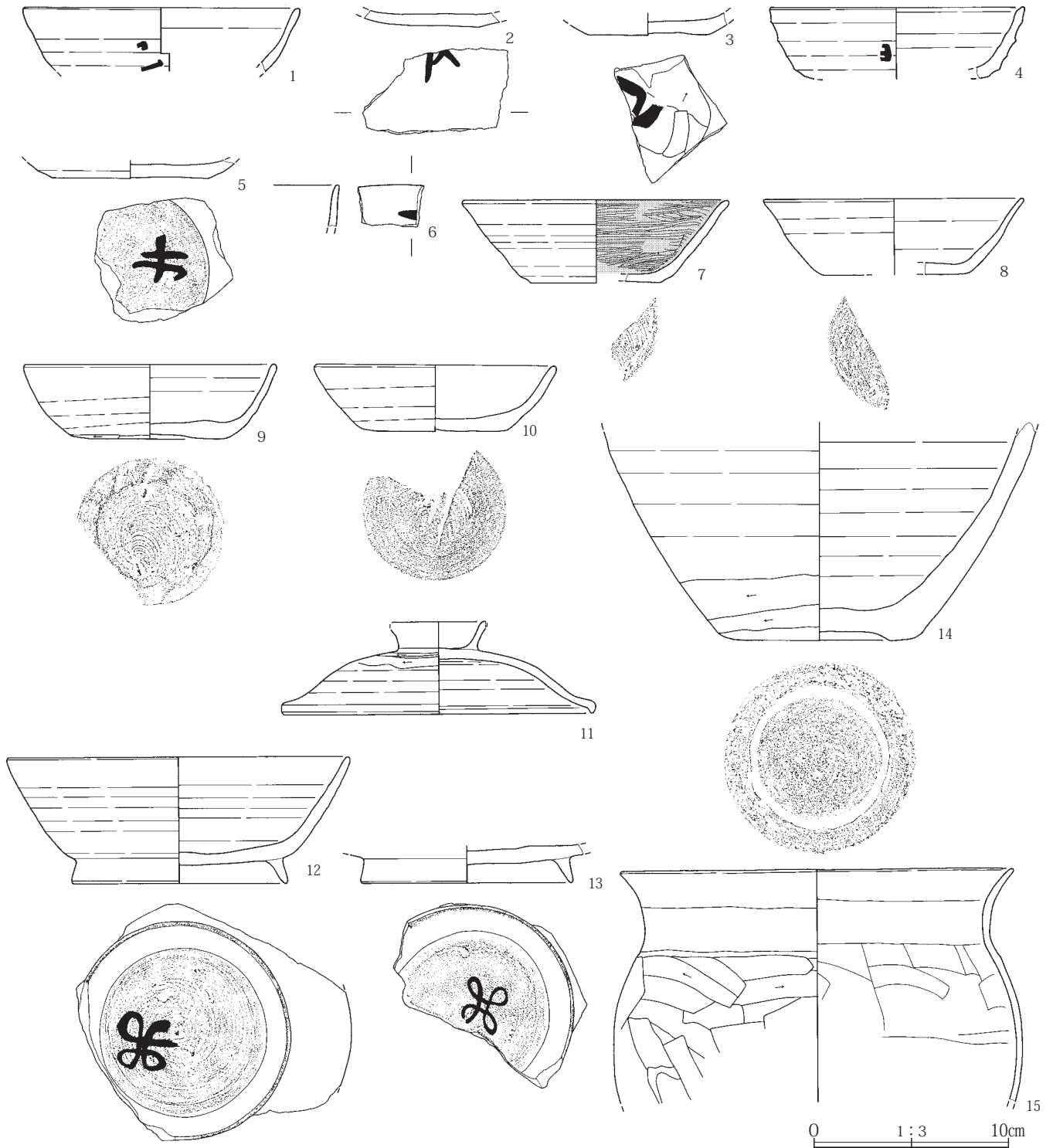
第92図 2区20号竪穴住居平衡断面図

周溝 確認できなかった。

遺物 出土遺物は多く、特に墨書土器が目立つ。掲載したのは、土師器杯2点(2点とも墨書がある)、同甕1点、須恵器杯7点(うち4点に墨書がある)、同椀2点(2点とも墨書がある)、同蓋1点、同鉢1点、黒色土器杯1点がある。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)769g、同(大)3,254g、須恵器(小)

1,251g、同(大)6点・836gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第2四半期の住居であると思われる。2区28・29号竪穴住居とほぼ重なり長軸方向もほぼ一致することから、本遺構をふくめ同一竪穴住居の建て替えの可能性がある。28号竪穴住居→29号竪穴住居→本遺構の順である。出土遺物に墨書土器が8点も見られるのが注目される。



第93図 2区20号竪穴住居出土遺物

2区21号竪穴住居(第94～99図、第39・40表、PL.41-5, 42,119)

調査区南部にある。この付近は他の遺構との重複が激しく、本遺構も4軒の竪穴住居と重複している。しかし、本住居はそれらよりも深いため、床面のほぼ全体を把握することができた。床面には多くの炭化材・炭化物が残り、焼失家屋であると思われる。

位置 X=30598～603、Y=-36534～539。

重複遺構 重複遺構は多く、2区22～25号竪穴住居、

21・22号溝、64・65号土坑と複雑に重複する。本遺構が22号竪穴住居、21・22号溝、64・65号土坑より古く、23・24・25号竪穴住居より新しい。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-88°-E。

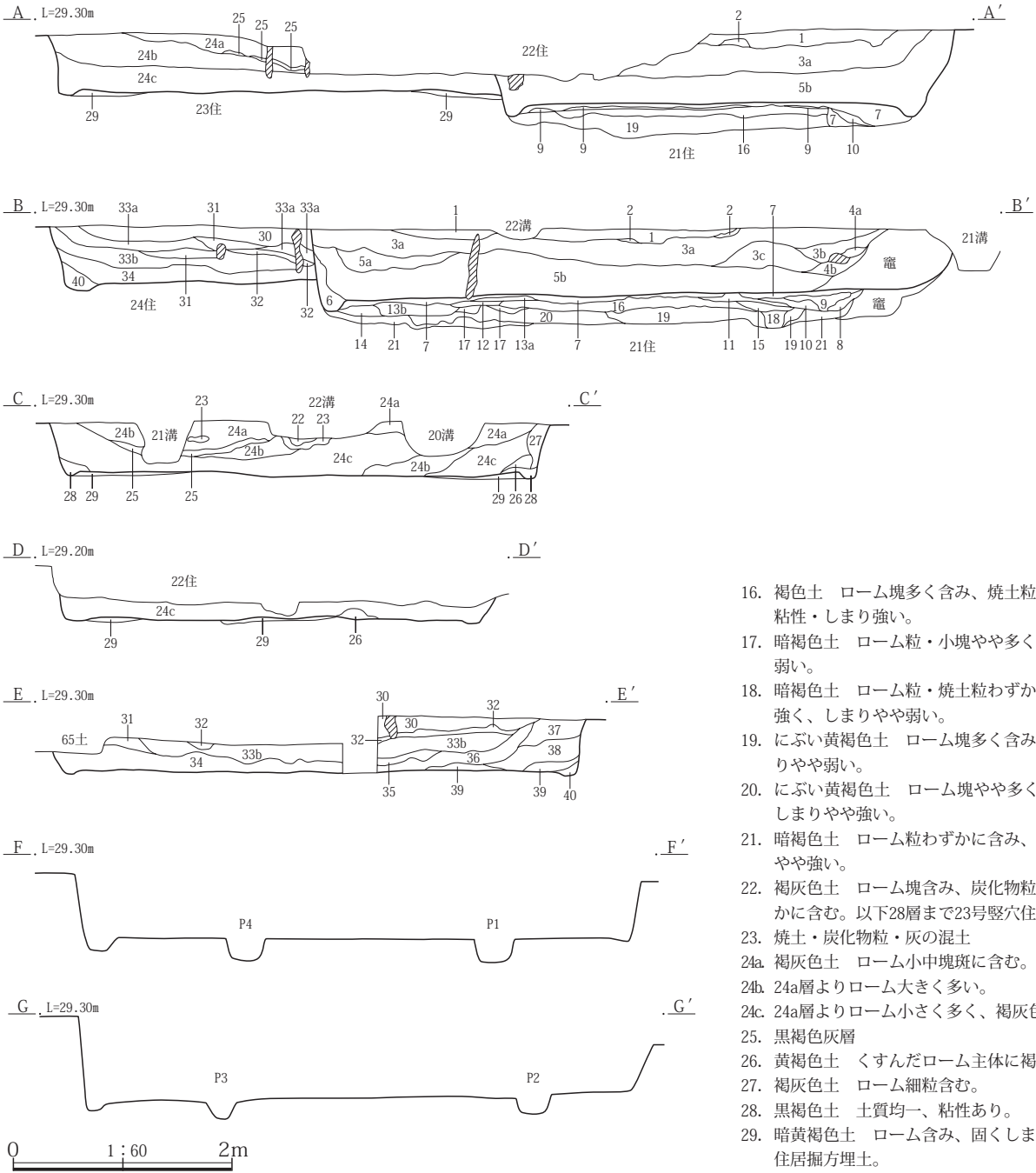
規模 長軸5.10m、短軸4.20m。

床面積 17.90㎡。

埋没土層 主に暗褐色土、褐灰色土で埋没する。下層ほど炭化物を多く含んでいる。



第94図 2区21・23・24号竪穴住居平面図



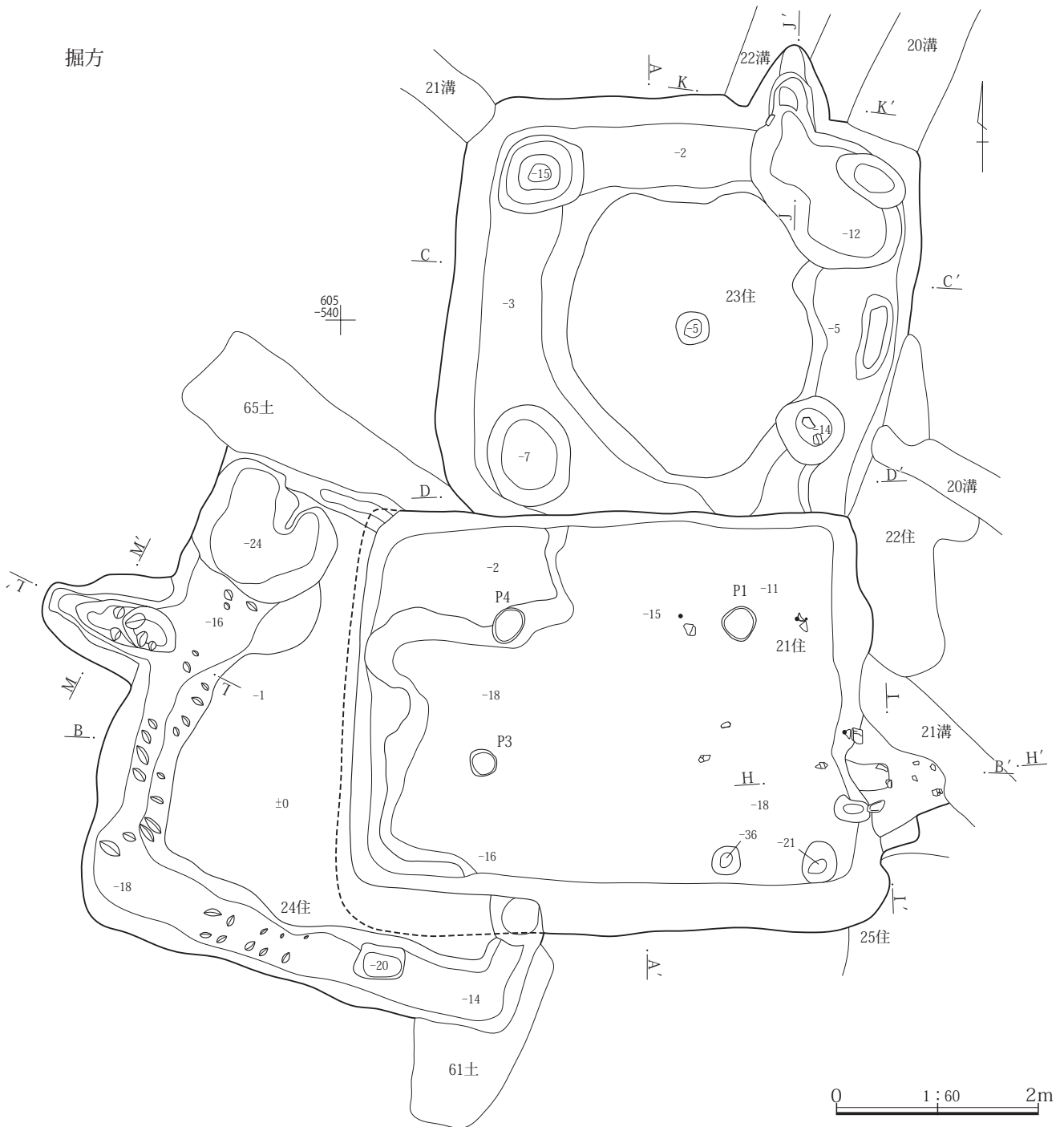
- 16. 褐色土 ローム塊多く含み、焼土粒・塊少し含み、粘性・しまり強い。
- 17. 暗褐色土 ローム粒・小塊やや多く含み、しまり弱い。
- 18. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒わずかに含み、粘性強く、しまりやや弱い。
- 19. にぶい黄褐色土 ローム塊多く含み、粘性・しまりやや弱い。
- 20. にぶい黄褐色土 ローム塊やや多く含み、粘性・しまりやや強い。
- 21. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性・しまりやや強い。
- 22. 褐灰色土 ローム塊含み、炭化物粒・焼土粒わずかに含む。以下28層まで23号竪穴住居覆土。
- 23. 焼土・炭化物粒・灰の混土
- 24a. 褐灰色土 ローム小中塊斑に含む。
- 24b. 24a層よりローム大きく多い。
- 24c. 24a層よりローム小さく多く、褐灰色土塊含む。
- 25. 黒褐色灰層
- 26. 黄褐色土 くすんだローム主体に褐灰色土含む。
- 27. 褐灰色土 ローム細粒含む。
- 28. 黒褐色土 土質均一、粘性あり。
- 29. 暗黄褐色土 ローム含み、固くしまる。23号竪穴住居掘方埋土。
- 30. 褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一。以下40層まで24号竪穴住居覆土。
- 31. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体ローム小塊含む。
- 32. 黒色灰層 焼土含む。
- 33a. 褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一。30層に似るがやや暗色。
- 33b. 33a層よりローム大きく、暗褐色土小塊含む。
- 34. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一、粘性ややあり。
- 35. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊・暗褐色土塊含む。
- 36. 明黄褐色土 ローム塊主体。
- 37. 暗黄褐色土 ローム小中塊斑に含む。
- 38. くすんだ褐色土 ローム塊少し含む。
- 39. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む、土質均一。
- 40. 暗褐色土と黄褐色土の互層、しまりかなり弱い。

- 2区21・23・24号竪穴住居
- 1. 褐色土 焼土粒・ローム粒・炭化物粒含む。以下6層まで21号竪穴住居覆土。
 - 2. 黒褐色土 焼土粒・灰含む。
 - 3a. 暗褐色土 くすんだ灰黄色粘土小塊・焼土粒・炭化物粒含む。
 - 3b. 3a層にくすんだローム塊含む。
 - 3c. 3b層より灰黄粘土・ローム多い。
 - 4a. 灰黄色粘土 塊状、褐灰色土含む。
 - 4b. 灰黄色粘土
 - 5a. 褐灰色土 ローム粒多く含み、炭化物わずかに含む。
 - 5b. 5a層よりローム大きく小塊状、炭化物多く、焼土粒含み、しまり弱い。
 - 6. 暗褐色土 土質均一。
 - 7. 褐灰色土 ローム小塊・焼土粒含み、固くしまる。貼床。以下21層まで21号竪穴住居掘方埋土。
 - 8. くすんだ黄灰色粘土塊・焼土粒の混土。
 - 9. 褐灰色土・灰白色粘土小塊の混土にローム粒・焼土粒含む。
 - 10. 褐灰色土・ローム塊の混土。
 - 11. 明黄褐色土 褐灰色土・ローム塊含み、ややシルト質。
 - 12. 明黄褐色土 ローム主体、固くしまる。
 - 13a. 褐灰色土 ローム小塊含み、しまり強い。
 - 13b. 13a層よりローム大きく、しまり弱い。
 - 14. 黄色ローム大塊・褐灰色ローム大塊の混土。
 - 15. 暗褐色土 焼土粒わずかに含み、しまり弱い。

第95図 2区21・23・24号竪穴住居断面図

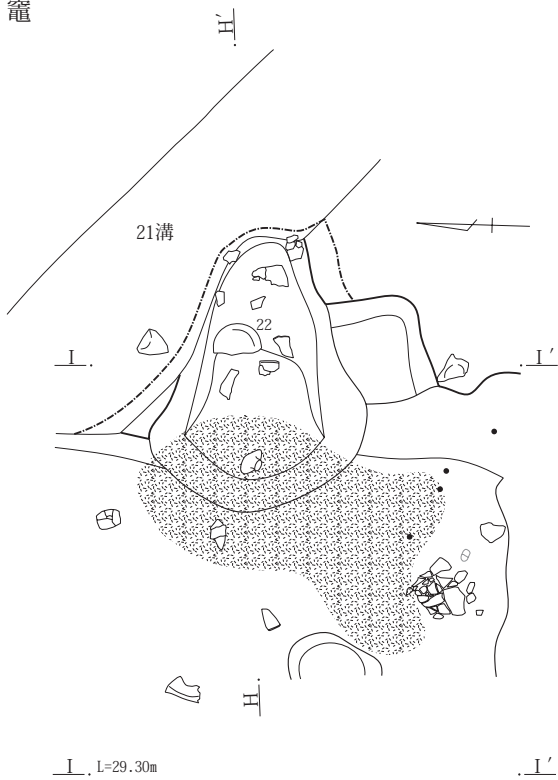
壁高 残りのよい南壁を計測すると70～88cmである。
床面 ほぼ全面が貼床構造の床面であり、おおむね平坦である。P4の中央付近を境として、東側の床面はより固くしまっていた。西半部を中心に多くの炭化物(炭化材)・灰が分布している。
掘方 西側は壁に沿ってやや高く掘り残している部分があるが、その他の部分はほぼ平坦に深く掘っている。西側の高い部分は床面から1～5cm、それ以外の深い部分は同じく11～20cmの深さがあり、底面の凹凸は少ない。

それらをロームを多く含む土で埋め戻し、表面に褐灰色土で貼床を施して床面とする。
竈 東壁の南寄りに設置している。袖はなく、全体に壁を掘り込んで作っている。煙道の先端部は21号溝に破壊されている。天井部などは灰黄色粘土で作られていたらしい。長さは燃烧部の凹みの先端から計測して108cm、幅は壁の上端の部分で87cm、燃烧部底面幅は40cmである。竈内の焼土化はやや弱い。燃烧部底面の灰・炭化物の堆積も少ないが、燃烧部手前から竈右前の床面にかけては

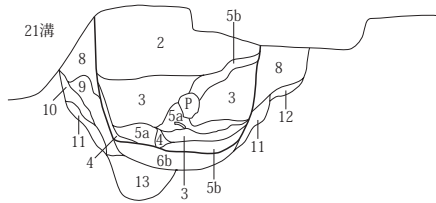


第96図 2区21・23・24号竪穴住居掘方平面図

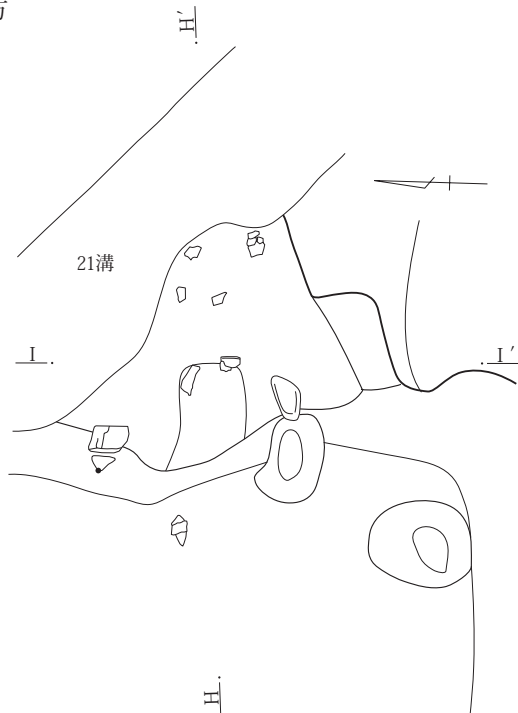
竈



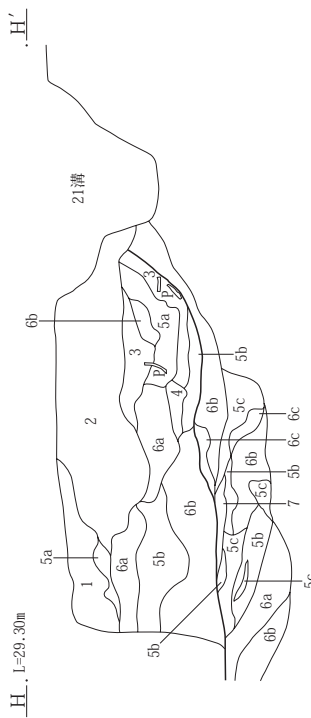
I, L=29.30m



竈掘方



I, L=29.30m



H, L=29.30m

2区21号竪穴住居竈

1. 褐灰色土 焼土小塊・ローム粒わずかに含む。
2. 褐灰色土 焼土細粒・ローム粒・灰黄色粘土粒含む。
3. 赤黄褐色土 焼土多く含む、灰黄色小塊含む。
4. 赤橙色焼土 小塊状。
- 5a. 灰黄色粘土・褐灰色土の混土。
- 5b. 灰黄色粘土層
- 5c. 灰黄色粘土・焼土塊の混土
- 6a. 褐灰色土 灰黄色粘土粒・小塊・炭化物粒含む。
- 6b. 6a層より粘性強い。
- 6c. 灰層
7. ローム小塊・炭化物・暗褐色土の互層、固くしまる。
8. 灰黄褐色粘質土 しまり強く、鉄分沈着少し。
9. 暗赤褐色焼土 焼土化した8層塊含む、粘性やや弱く、しまり強い。
10. 暗褐色土 焼土粒わずかに含む、粘性・しまりやや強い。
11. にぶい黄褐色土 焼土粒・炭化物粒ごくわずかに含む、粘性やや強く、しまりやや弱い。
12. 褐色土 焼土粒・炭化物粒わずかに含む、粘性やや弱く、しまりやや強い。
13. にぶい黄褐色土 黄褐色土小塊少し含む、焼土粒わずかに含む、粘性・しまりやや弱い。

0 1:30 1m

第97図 2区21号竪穴住居竈平断面図

灰・炭化物が散っていた。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 床面では4基のピットを確認した。位置からみると柱穴と思えるが、いずれも浅いのでやや疑問がある。それぞれの大きさは以下の通りである(長径×短径×深さ、cm)。

P 1 42×36×22 P 2 41×30×16

P 3 42×31×20 P 4 42×36×26

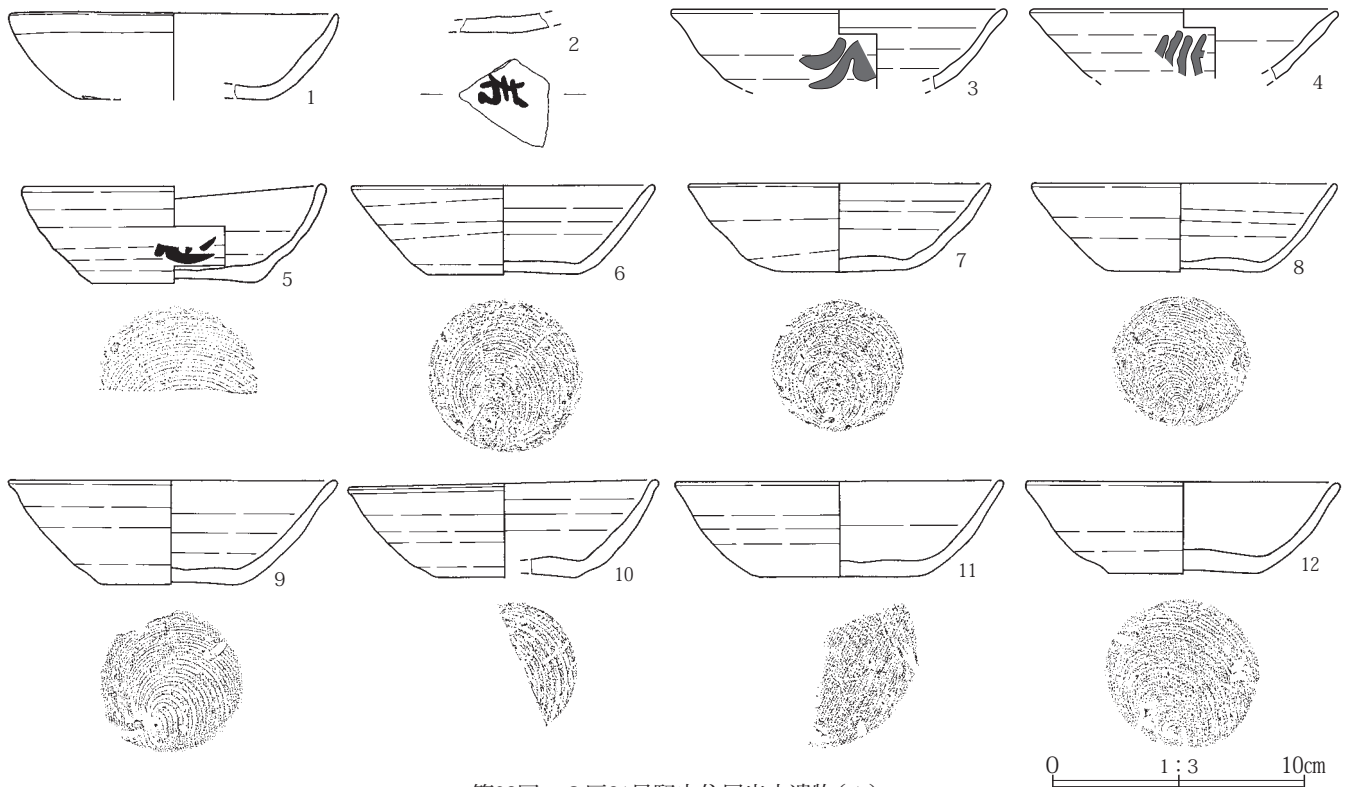
周溝 竈周辺と南壁の西半部を除いてほぼ全周する。幅16～43cm、深さ3～17cmである。

炭化材 前述の通り床面の西半部を中心に多くの炭化材・炭化物・灰が分布していた。柱と思われるような太い炭化材はない。細い炭化材は何本も並んだ状態で、住居の壁に平行、ないしは直交する方向を示し、一部は折り重なった状態で出土した。その出土状態から、これらの炭化物は本住居の屋根材や敷物などであったと思われる。本住居は焼失家屋であると判断される。詳細は分析結果(377ページ)に述べられている通りであるが、樹種は木材としてクリ、クスノキ科、ヌルデがあるほか、イネ科、タケ亜科がみられる。そのうち住居西側から出土したタケ亜科の炭化材は、半割のものを割り面を下、丸

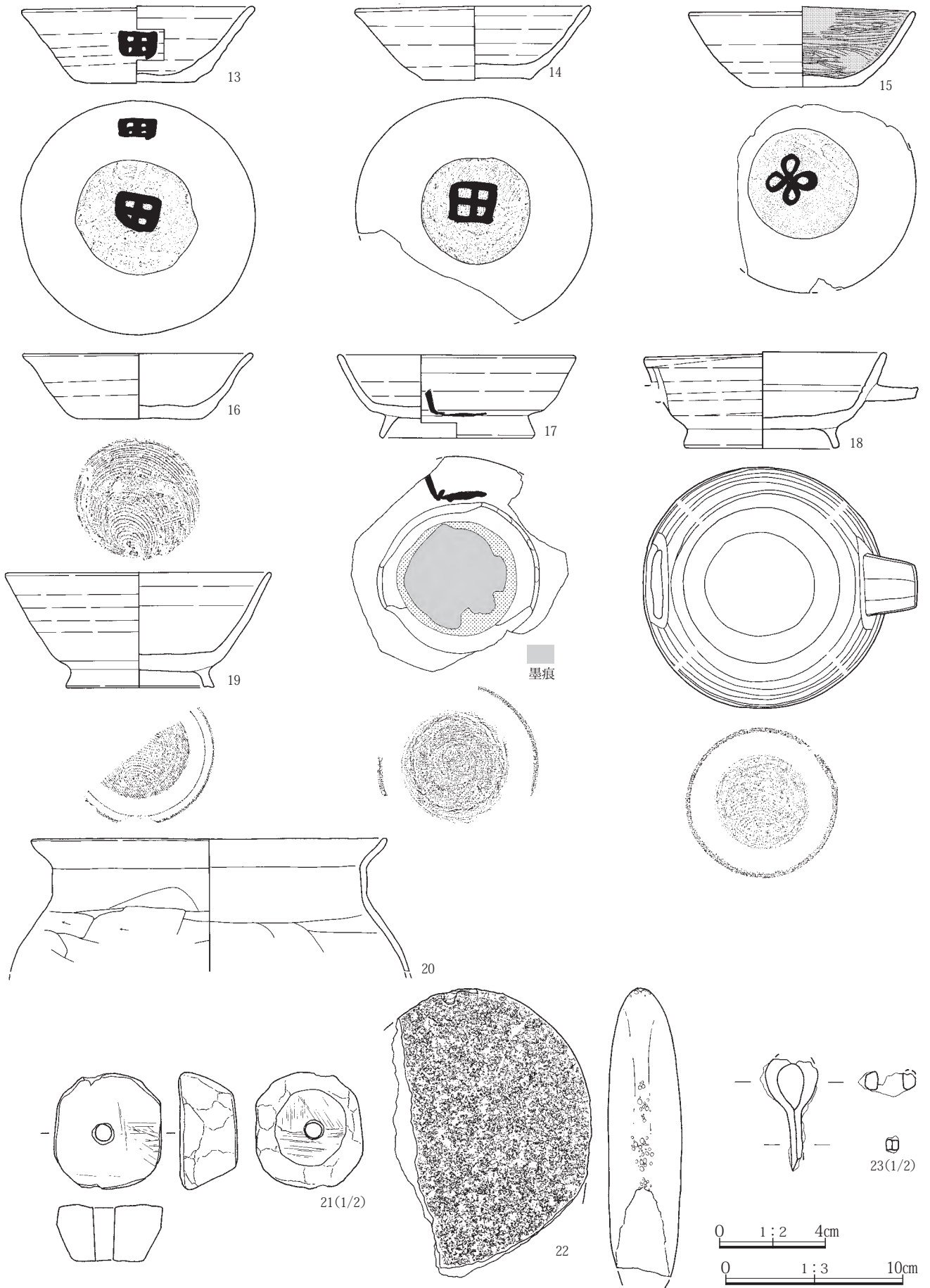
い面を上にして隙間なく並べた状態で出土しており、敷物の可能性が指摘されている。

遺物 遺物は全体に散在し、大部分の土器は小さな破片として出土した。比較的大きな破片は中央部から西半部にかけてみられる。掲載したのは、土師器杯2点(うち1点に墨書がある)、同甕1点、須恵器杯13点(5点に墨書があり、うち2点は朱である)、同椀1点、同転用硯1点、同双耳杯1点、黒色土器杯1点(墨書)、台石1点、石製紡輪1点、金属製品1点である。床面ないし床面近くから出土しているものは9・16の須恵器杯、17・18の転用硯・双耳杯、21の紡輪などであり、その他は床からかなり浮いた高さから出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)321点、同(大)4,780g、須恵器(小)1,668g、同(大)207gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居であると思われる。炭化物(炭化材)の分布から焼失住居と考えられる。西側にはタケ亜科の植物を並べて作った敷物が敷かれていたらしい。そのすぐ東にあるP4の中央から東側は、床面が固くしまっていたので、この付近を境として床面に違いがあったようである。おそらく、東側は土間のままであったのであろう。



第98図 2区21号竪穴住居出土遺物(1)



第99図 2区21号竪穴住居出土遺物(2)

2区23号 竪穴住居(第94～96・100・101図、第40表、PL.43-7・8,44-1,119,120)

調査区南部にある。2軒の竪穴住居と3条の溝と重複するが、完全に破壊されているのは南辺だけであり、ほぼ全形が判明した。竈内から良好な灰の堆積が見つかったので、その母植物を同定するために植物珪酸体分析を行った。

位置 X=30603～607、Y=-36534～538。

重複遺構 2区21・22号竪穴住居、20～22号溝、65号土坑と重複する。本遺構はそのいずれよりも古い。

形状 正方形に近い方形と推定されるが、南辺が北辺よりも短いのでやや台形状である。

主軸方位 N-3°-E。

規模 正方形に近いので長軸・短軸は明確ではない。中央付近で計測すると、主軸方向は4.16m以上、それに直交する方向は4.56mである。

床面積 21号竪穴住居に破壊される部分を推定復元して計測すると17.37㎡である。

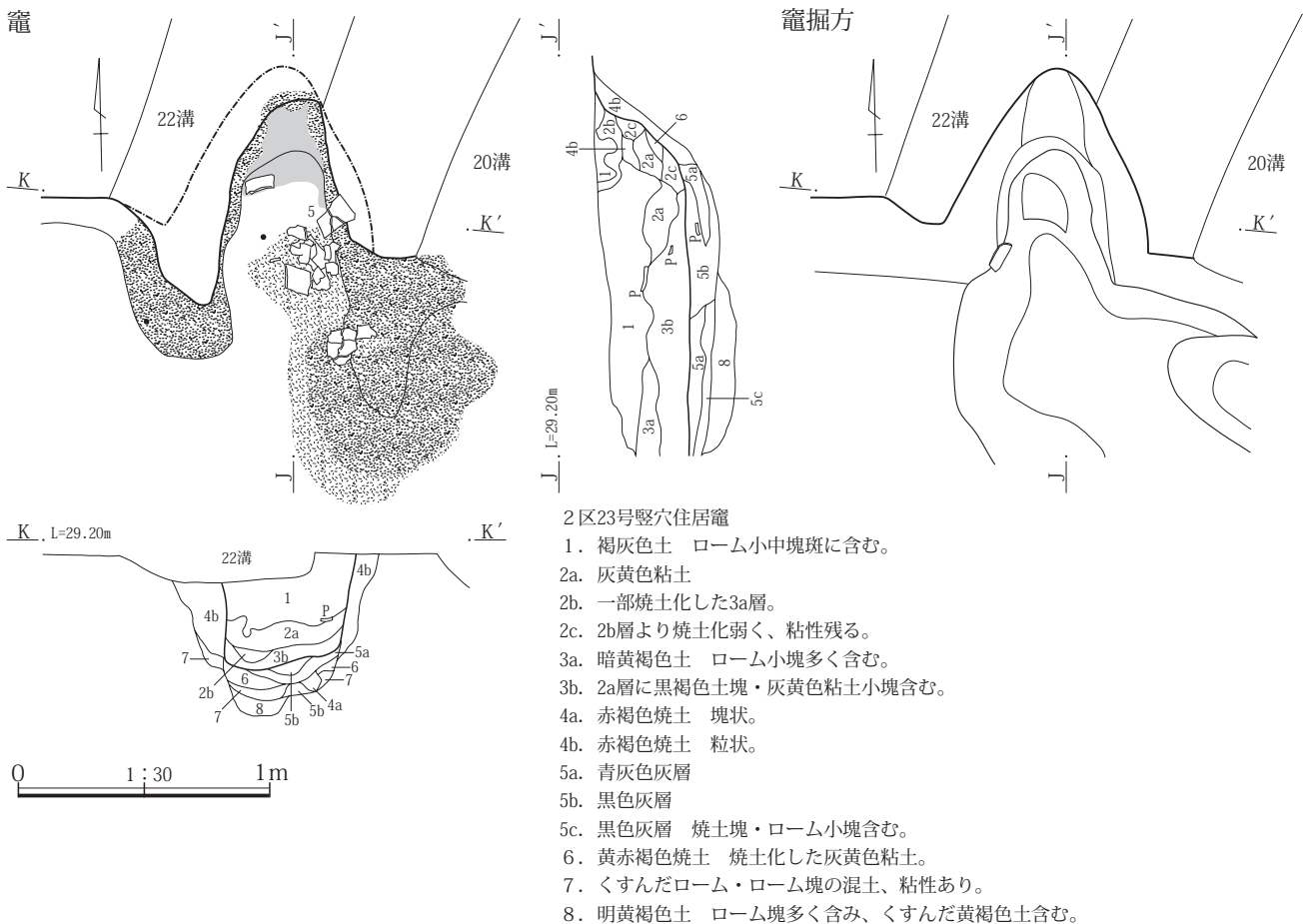
埋没土層 主として褐灰色土で埋没するが、ローム塊の混入状態の違いから複数の層に分けることができる。中層に焼土・炭化物・灰の層が見られるのが目を引く。埋没過程で周囲から流れ込んだものと考えられる。

壁高 破壊されている南辺を除き、47～56cmである。

床面 おおむね平坦である。

掘方 中央付近はほぼ地山を床面とし、周囲をわずかに掘り下げている。四隅付近は土坑状にやや深く掘っている部分があるが、その深さは床面から7～15cm程度である。

竈 北壁の東寄りに設置している。22号溝で左側を破壊されているものの、溝が浅いので竈のほぼ全体が判明する。両袖が残るが、燃烧部の奥側は壁を掘り込んで作っている。竈本体は灰黄色粘土で構築されていたらしい。長さは袖の先端から計測して125cmであり、壁外には54cm張り出している。幅は両袖の外側を計測して146cm、燃烧部底面幅は48cmである。奥壁付近は焼土化し、燃烧部底部には灰・炭化物の層が、厚いところでは10cm前後



第100図 2区23号竪穴住居竈平面断面図

堆積している。この灰については、その母植物を同定するために植物珪酸体分析を行った。分析結果は第4章(379ページ)に詳しいが、ススキやチガヤなどのウシクサ属が主体で、一部にキビ属とイネの籾殻が含まれていたと考えられるという。いずれも樹木ではなく草本類であり、それらが竈の着火剤・燃焼剤として用いられていたことが分かる。これによって薪が使われていなかったとするのは早計だが、竈の燃料の一部が分かることで当時の生活実態の一端が垣間見え、興味深いものがある。

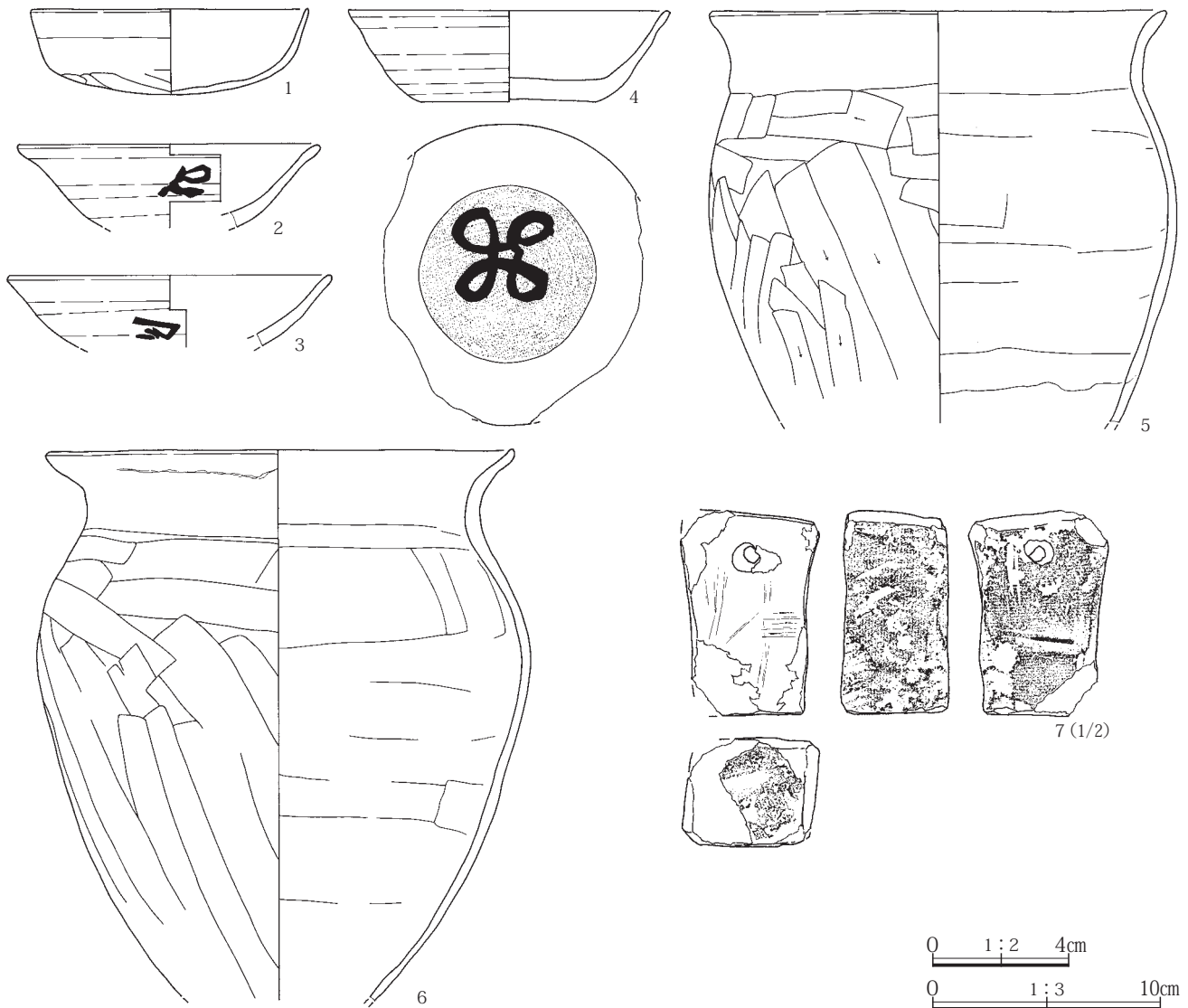
貯蔵穴 北東隅にある凹みが貯蔵穴であると思われる。長径64cm、短径45cmの楕円形で、深さは24cmである。

柱穴 確認できなかった。

周溝 竈と貯蔵穴を除いて全周している。幅24～40cm、深さ2～6cmである。

遺物 遺物は竈内と住居の全体に散在していた。掲載したのは土師器杯1点、同甕2点、須恵器杯3点(3点とも墨書)、用途不明の石製品1点である。1の土師器杯は貯蔵穴南の床面から、4の須恵器杯は南西部の床面から3cmの高さから出土している。また、土師器甕は5が竈内から、6が北辺西側の壁際から出土している。7は用途不明の石製品であるが、これは中央やや南から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)319g、同(大)2,467g、須恵器(小)523g、同(大)7点・207gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第2四半期の住居であると思われる。竈内の灰を分析した結果、ウシクサ属を中心とした草本類が着火剤あるいは燃焼剤として用いられていたことが判明した。



第101図 2区23号竪穴住居出土遺物

2区24号竪穴住居(第94～96・102・103図、第40・41表、PL.44-2,45-1～7,120)

調査区南部にある。多くの遺構と重複し、全体の1/3程度を破壊されるが、3ヶ所の隅部が残るため全形は判明する。

位置 X=30598～603、Y=-36537～542。

重複遺構 2区21号竪穴住居、22号溝、61・64・65号土坑と重複する。そのいずれよりも本遺構が古い。

形状 正方形に近い方形である。調査できた3ヶ所の隅部がいずれも直角に近い角度で交わるので、かなり整った形状である。

主軸方位 N-66°-W。

規模 21号竪穴住居で破壊されている部分が多いが、なるべく中央近くで計測すると、主軸方向は4.70m、それと直交する方向は4.80mである。

床面積 21号竪穴住居で破壊されている部分を推定復元して計測すると、20.15㎡である。

埋没土層 褐色土や暗褐色土などで埋没する。南壁付近の堆積(E-E'セクションのE'付近)には、37層・38層

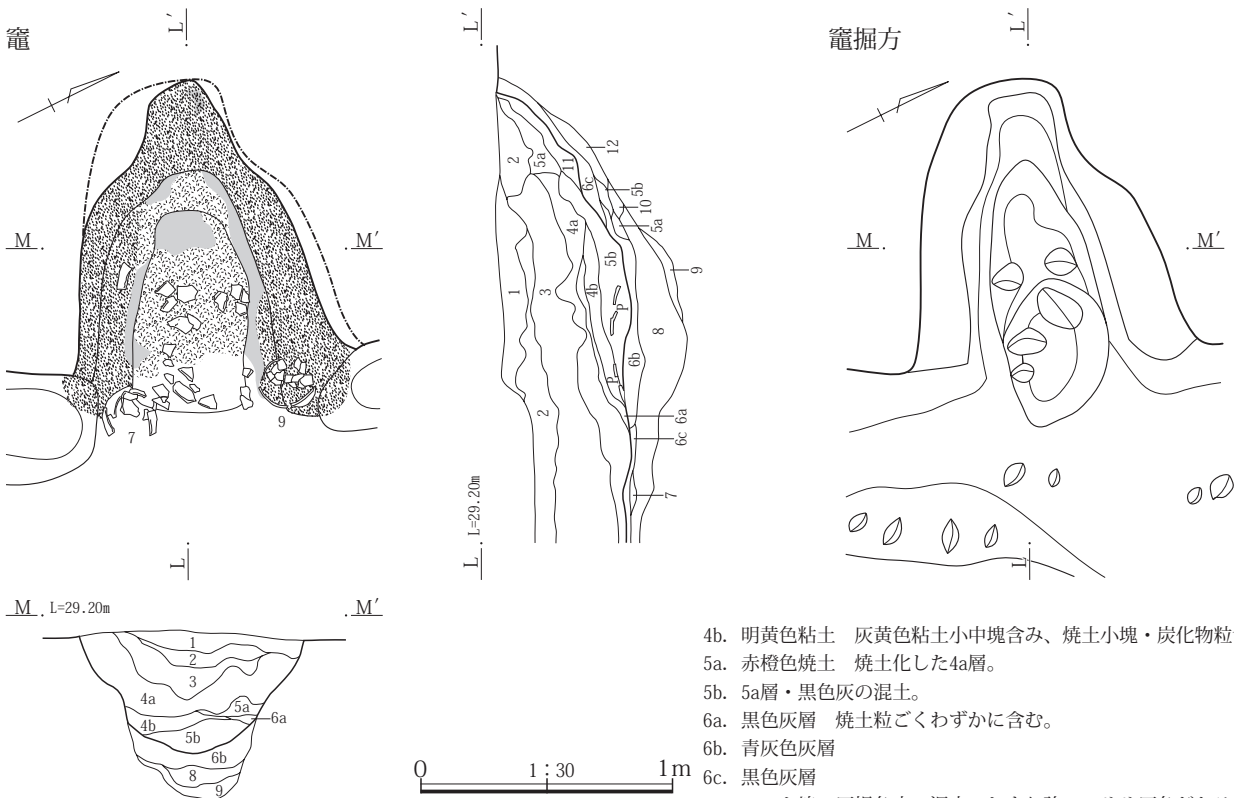
を掘り込んで36層が堆積しているなど、不自然な部分があり、単純な自然埋没とは考えられない。また、中層に焼土を含む灰層が堆積しているのが注目される(32層)。

壁高 西・南辺の残りのよい部分で46～52cmである。

床面 おおむね平坦である。

掘方 中央付近の大部分はほぼ地山を床面とし、周縁部のみ床面から14～18cm程度深く掘っている。北西隅部は24cmとやや深く掘っている部分がある。これは古い時期の貯蔵穴の跡かも知れない。

竈 西壁中央やや北寄りに設置している。袖がなく、ほぼ全体が壁外に作られている。壁の部分が焼き口となるようで、左右にその両脇の補強材と思われる甕が上下を逆にして据えられていた。天井部は明黄色粘土で構築されていたらしく、その粘土が竈内に落ち込んでいた。長さは132cmであり、その大部分は壁外である。幅は壁の上端部分で112cm、焼き口幅は両側の甕の内側を計測して42cmである。竈内部はよく焼土化し、底部には灰・炭化物の層が堆積していた。

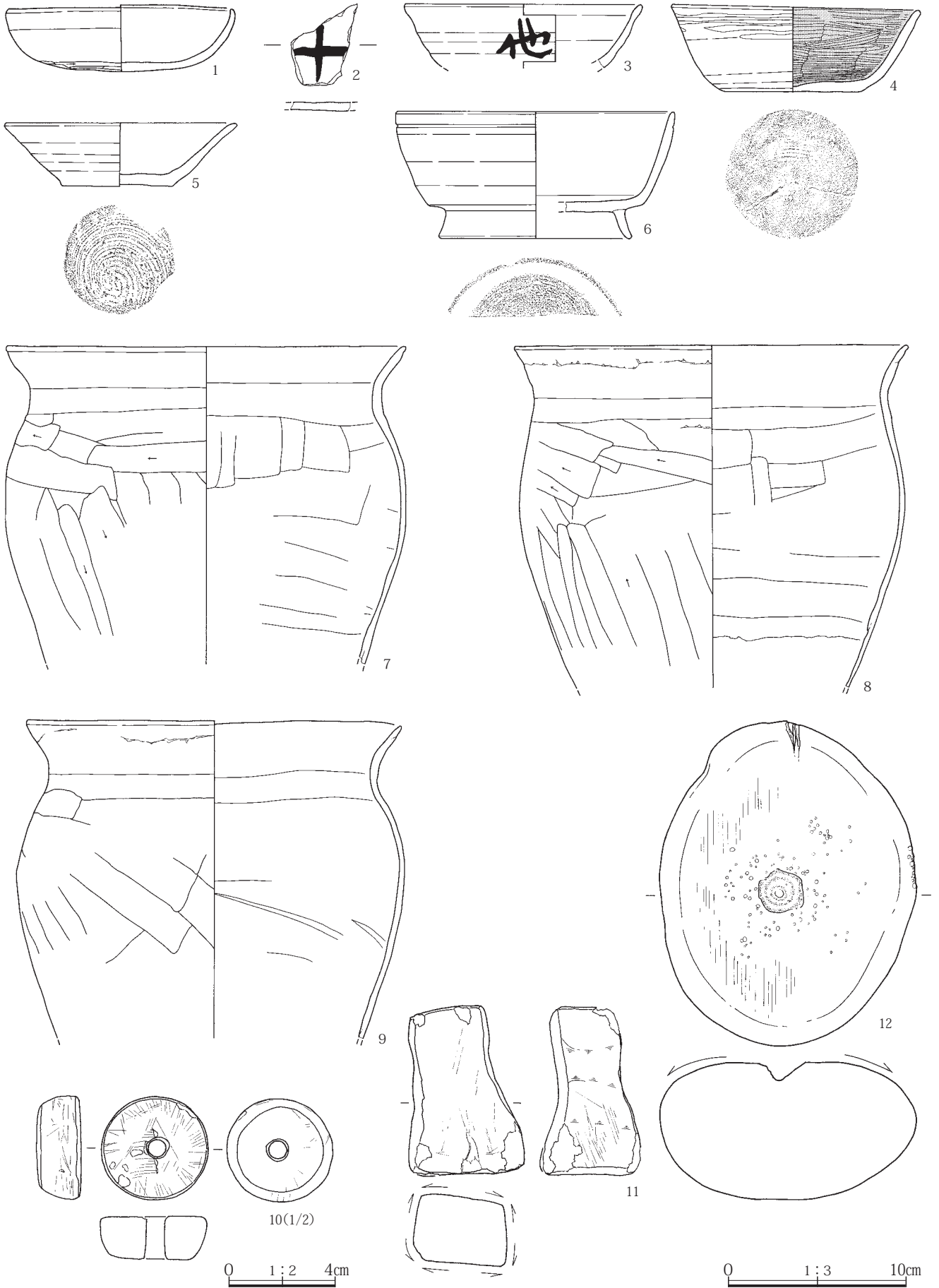


2区24号竪穴住居竈

1. 褐灰色土 ローム粒含み、粘性あり。
2. くすんだ黄褐色土 ローム小塊斑に含み、黒褐色土小塊含む。
3. 褐灰色土 灰白粘土粒含む。
- 4a. 明黄色粘土 灰黄色粘土小中塊含み、焼土小塊・炭化物粒含む。(竈構築土崩落)

- 4b. 明黄色粘土 灰黄色粘土小中塊含み、焼土小塊・炭化物粒含む。
- 5a. 赤橙色焼土 焼土化した4a層。
- 5b. 5a層・黒色灰の混土。
- 6a. 黒色灰層 焼土粒ごくわずかに含む。
- 6b. 青灰色灰層
- 6c. 黒色灰層
7. ローム塊・灰褐色土の混土、しまり強い。やや灰色がかかる。
8. 明黄色土 ローム塊多く含む。
9. 灰黄色ローム・黄色ローム塊の混土。
10. 焼土塊・灰・褐色土の混土。
11. 褐色土 焼土塊・灰含む。
12. 褐色土 焼土粒・ローム細粒わずかに含み、土質均一、しまり弱くフカフカ。

第102図 2区24号竪穴住居竈平面断面図



第103図 2区24号竪穴住居出土遺物

貯蔵穴 確認できなかったが、掘方底面では北西隅に土坑状の凹みが確認されており、これが古い時期の貯蔵穴の跡である可能性がある。この土坑は不整形で、規模は掘方底面で計測して長径148cm、短径105cmであり、深さは床面から計測して24cmである。

柱穴 確認できなかった。

周溝 竈焚き口部分を除いて全周する。幅15～45cm、深さ3～11cmである。

遺物 全体に散在している。掲載したのは土師器杯2点(うち1点には墨書がある)、同甕3点、須恵器杯2点(うち1点には墨書がある)、同椀1点、黒色土器杯1点、石製紡輪1点、砥石2点がある。1の土師器杯は北西隅から、4の黒色土器杯は南東隅近くから、6の須恵器椀は北部から、それぞれ床からかなり浮いた高さから出土している。土師器甕は、9が竈焚き口の右側、7が同じく左側に据えられていた。北壁付近からは11の砥石と10の紡輪が出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)267g、同(大)3,468g、須恵器(小)417g、同(大)1点・35gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第1四半期の住居であると思われる。

2区22号竪穴住居(第104・105図、第41表、PL.43-1～6,121)

調査区南部にある。発掘調査の際は、2軒の竪穴住居と2条の溝と重複するために遺構確認が難しく、南側の壁が不明確となってしまった。

位置 X=30601～604、Y=-36533～538。

重複遺構 2区21・23号竪穴住居、20～22号溝、64・65号土坑と重複する。本遺構が20～22号溝、64・65号土坑より古く、21・23号竪穴住居より新しい。

形状 東西に長い長方形である。南東隅に顕著に見られる通り、南側の壁が柵状になっていたらしい。ただしB-B'セクションを実測した部分では、柵状の部分が崩れて不明瞭な断面形となっている。

主軸方位 N-92°-E。

規模 長軸は北部で計測して4.74mである。短軸は中央付近で計測して約3.60mと推定される。柵状部分を除くと2.80mである。

床面積 南側の柵状の部分をも推定復元して計測すると

14.63㎡である。

埋没土層 ごく一部を除いて、褐灰色土1層で埋没しているので、自然埋没とは考えにくく、人為的に一気に埋められているものと考えられる。

壁高 壁は北半部が残っており、その高さを計測すると18～33cmである。

床面 ほぼ平坦であるが、中央部と北東部は2条の溝によって細長く削られている。中央部には粘土が楕円形(長径96cm、短径76cm)に分布し、その下には楕円形(長径88cm、短径68cm、深さ7cm)の浅い凹みが掘られていた。

掘方 下層に別の住居が重複するため、掘方を平面的に把握することは困難であったが、断面観察では床面より10cm程度深く掘っている。底面はほぼ平坦である。

竈 東壁中央に設置している。右袖が長く残るが、左側は20号溝で破壊されてなくなっている。本来左袖も同様であったと思われるので、本体は住居内に大きく張り出す形態であったと思われる。ただし、壁の掘り込みは大きいので、燃焼部自体は壁から壁外にかけて作られていたようである。竈本体は灰黄色粘土によって作られていたらしい。長さは袖の先端から計測して122cm、幅は右袖外側と中軸と推定される線との距離を倍にして120cmである。竈内側は焼土化し、燃焼部から竈右前にかけて灰・炭化物が薄く散っている。

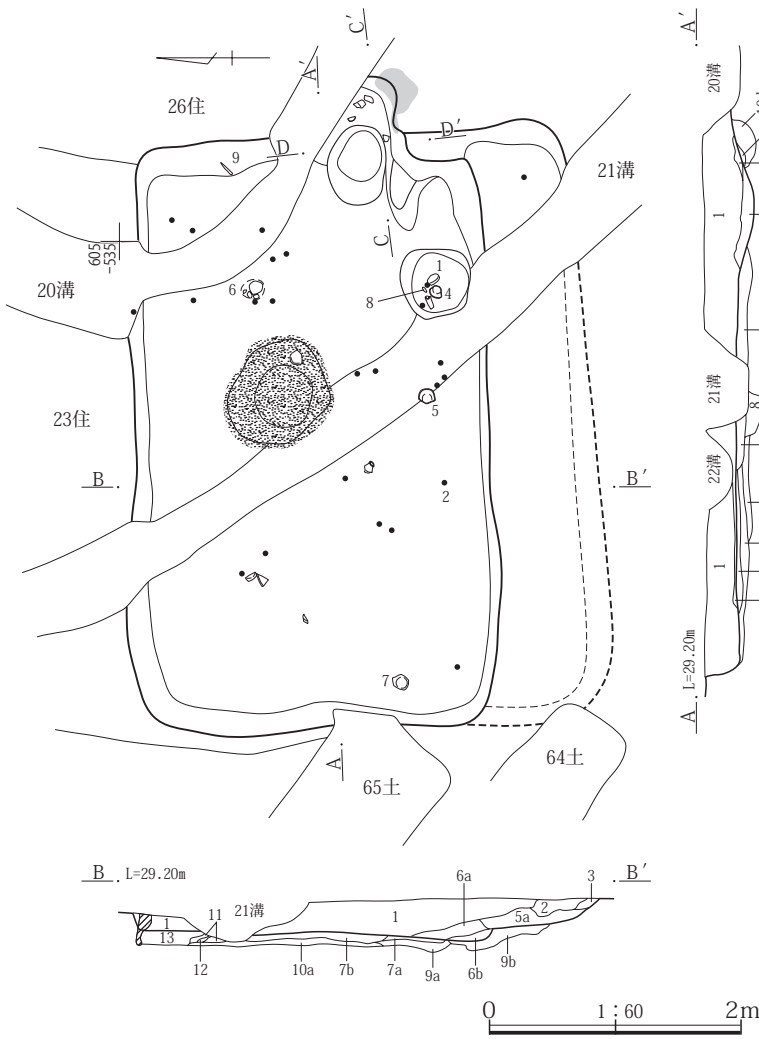
貯蔵穴 南東隅近くにある穴が貯蔵穴と考えられる。長径61cm、短径52cmの方形に近い円形で、深さは14cmと浅い。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

遺物 遺物は全体に散在していた。掲載したのは土師器杯1点、須恵器杯6点(うち3点に墨書があり、1点は朱墨)、土錘1点、刀子1点である。そのうち床面直上あるいはごく近い高さから出土したものは、5・6・7の須恵器杯3点であり、5は21号溝との境付近から出土している。また、1・4・8の杯2点と土錘1点は貯蔵穴内から出土した。9の刀子は東壁北部の壁際(床面から4cm上)から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)243g、同(大)1,460g、須恵器(小)764g、同(大)3点・88gがある。

時期と所見 不明確ではあるが、南辺に柵状の施設を持っていたらしい。出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居であると思われる。

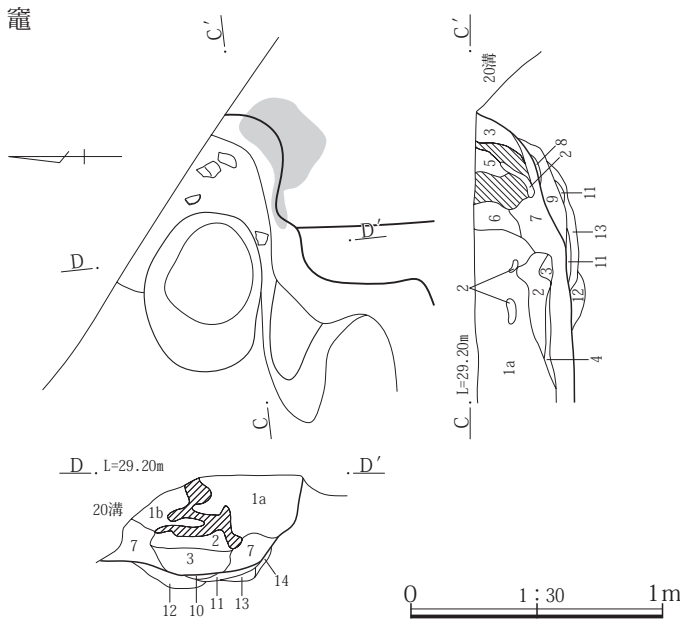


2区22号竪穴住居

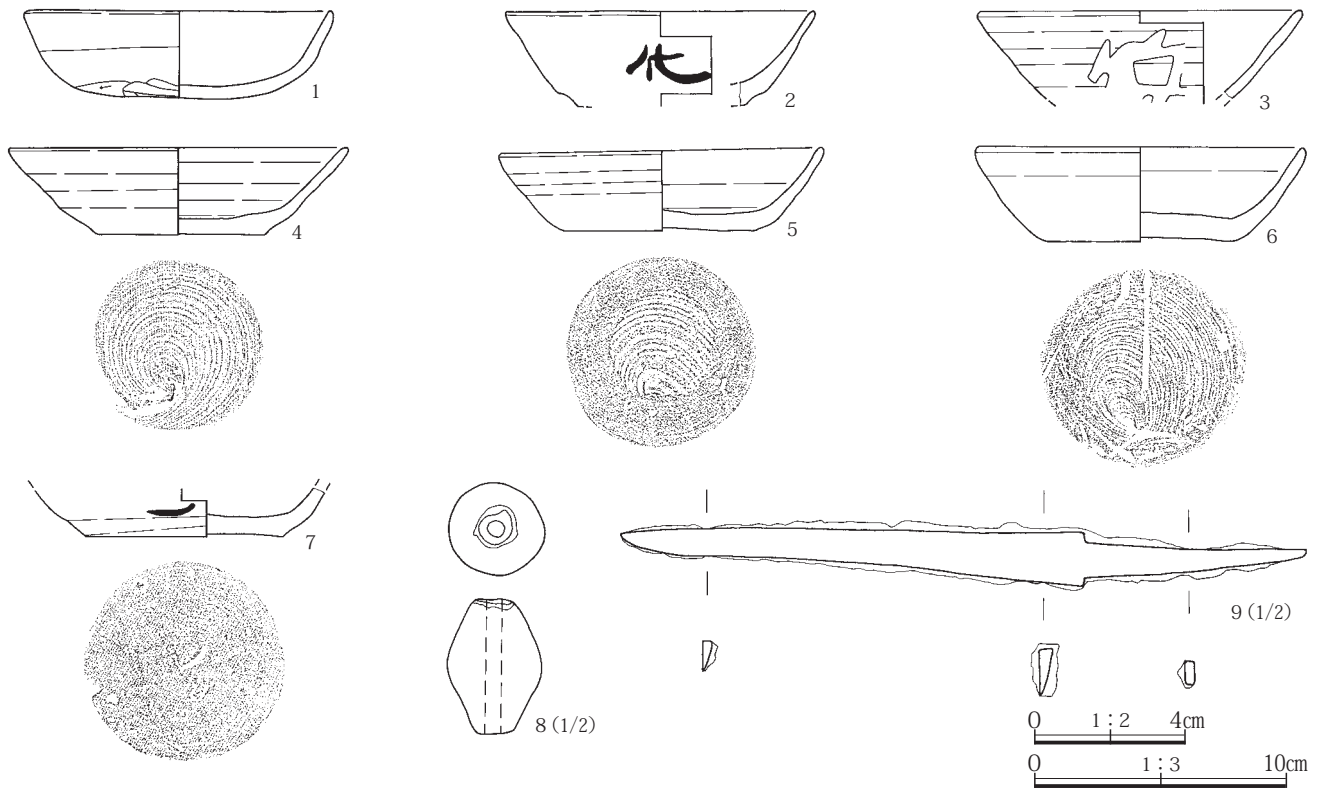
1. 褐灰色土 ローム粒・炭化物粒含む。
2. くすんだ褐色土 ローム粒・炭化物粒・焼土粒わずかに含む。
3. くすんだ褐色土 ローム塊・焼土粒含む。
4. 茶色炭化物層
- 5a. ローム粒・焼土化したロームの混土。
- 5b. 明黄色土 ローム・灰黄色粘土主体に焼土粒含む。
- 5c. 焼土化した灰黄色粘土塊・灰の混土。
- 6a. 褐色土 焼土・炭化物粒含み、しまり弱い。
- 6b. 褐色土 6a層より夾雑物、しまりあり。
- 7a. 暗黄褐色土 灰黄色粘土粒・焼土粒・ローム粒含み、しまりあり。以下掘方。
- 7b. 7a層よりしまり弱い。
8. 赤褐色焼土
- 9a. 褐灰色土 ローム粒わずかに含み、粘性ややあり。
- 9b. 褐灰色土 ローム粒・灰黄色粘土が薄く層状に入る。
- 10a. 褐灰色土 焼土粒・炭化物粒・ローム粒含み、固くしまる。
- 10b. 10a層よりしまり弱い。
- 10c. 10a層に灰黄色粘土粒含み、ローム粒なし。
- 10d. 10c層より焼土・灰黄色粘土粒少なく、炭化物粒多い。
11. 灰黄色粘土 塊状。
12. 暗赤橙色焼土 塊状。
13. 褐灰色土・ローム小塊の混土。

2区22号竪穴住居竈

- 1a. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム粒・炭化物粒・焼土粒わずかに含む。
- 1b. 1a層よりローム大きく多く、灰黄色粘土塊含む。
2. 灰黄色粘土
3. 赤褐色焼土 やや塊状。
4. 青灰色灰層
5. 黄橙色土 灰黄色粘土・焼土塊含む。
6. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム粒含む。
7. くすんだ黄褐色土 ローム小塊・焼土粒含む。
8. 褐灰色土 灰・焼土粒少し含み、粘性・しまりやや弱い。
9. 暗褐色土 焼土小塊・炭化物やや多く含み、粘性・しまりやや強い。
10. 灰黄褐色土 灰・炭化物・焼土小塊やや多く含み、粘性・しまりやや弱い。
11. 黒褐色土 灰・焼土粒少し含み、粘性・しまりやや弱い。
12. 暗褐色土 ローム小塊・焼土粒少し含み、粘性・しまりやや弱い。
13. 暗褐色土 焼土中塊・ローム小塊少し含み、粘性・しまりやや強い。
14. にぶい黄褐色土 焼土小塊少し含み、粘性・しまりやや強い。



第104図 2区22号竪穴住居平断面図



第105図 2区22号竪穴住居出土遺物

2区25号竪穴住居(第106・107図、第41表、PL.45-8,46-1,121)

調査区南部にある。多くの遺構と重複しているが、全形はかろうじて把握できた。竈付近は溝と井戸が重複し、大きく破壊されている。

位置 X=30594～599、Y=-36529～535。

重複遺構 2区21・26号竪穴住居、21号溝、3号井戸、52・53・56～58・76～79・94～96号土坑と重複し、本遺構が26号竪穴住居より新しく、その他の遺構より古い。

形状 正方形に近い方形である。

主軸方位 N-91°-E。

規模 主軸方向は竈の北付近で計測して4.80m、それに直交する方向は中央付近で計測して5.10mである。

床面積 3号井戸で破壊されている部分を推定復元して20.75㎡である。

埋没土層 ロームを多く含む褐灰色土やくすんだ黄褐色土で主として埋没している。不自然な堆積の部分も見られ、人為的に埋められていると思われる。

壁高 41～51cm。

床面 おおむね平坦である。

竈 東壁のほぼ中央に設置されている。21号溝と3号井戸に破壊され、左側の壁の部分しか残っていない。本体

は灰黄褐色ないし灰黄色粘土で構築されていたらしい。残りが悪いために長さ・幅は計測困難であるが、壁外に130cmも張り出しているの、煙道部が住居外に大きく伸びる形態であると思われる。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 支柱穴と思われる位置に4本のピットを確認した。ただし、P3は非常に浅く、これのみは柱穴として疑問がある。各ピットの計測値は次の通り(長径×短径×深さ、cm)。

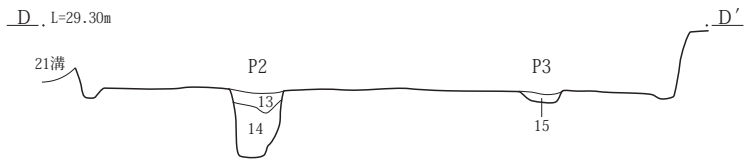
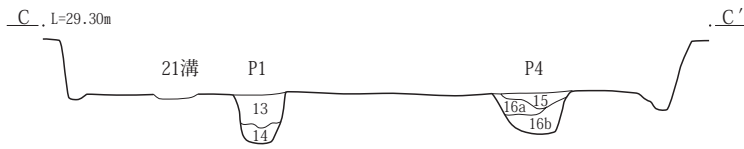
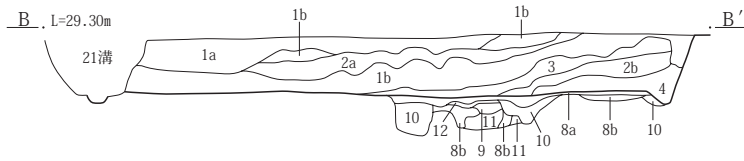
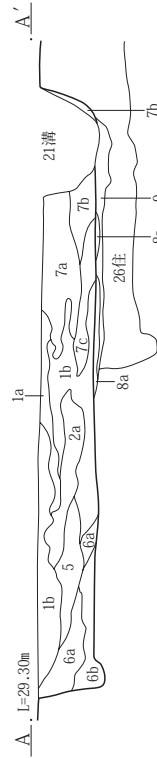
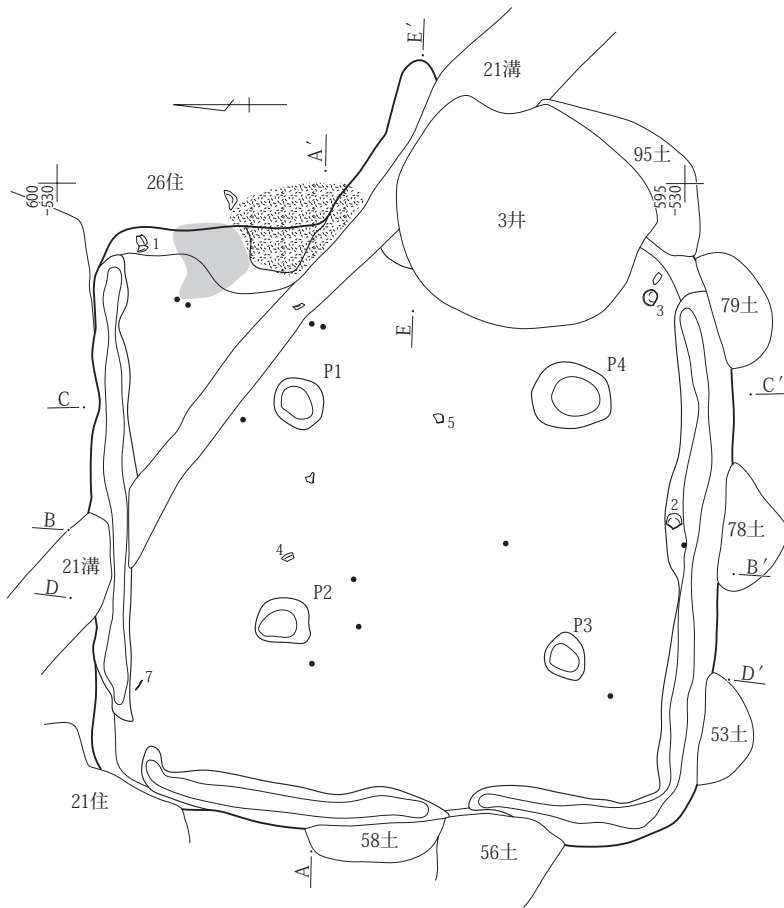
P 1 42×38×51 P 2 45×36×60

P 3 40×32×10 P 4 65×51×37

周溝 途切れる部分はあるが、竈のある東壁を除いて全周している。幅18～52cm、深さ2～11cmである。

遺物 遺物の出土は少ない。掲載したのは土師器杯1点、同甕1点、須恵器杯3点(墨書1点、線刻1点)、同蓋1点、用途不明鉄製品1点である。3の須恵器杯は南東隅から、2は南壁際中央から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)133g、同(大)2,131g、須恵器(小)306g、同(大)182gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第2四半期の住居であると思われる。

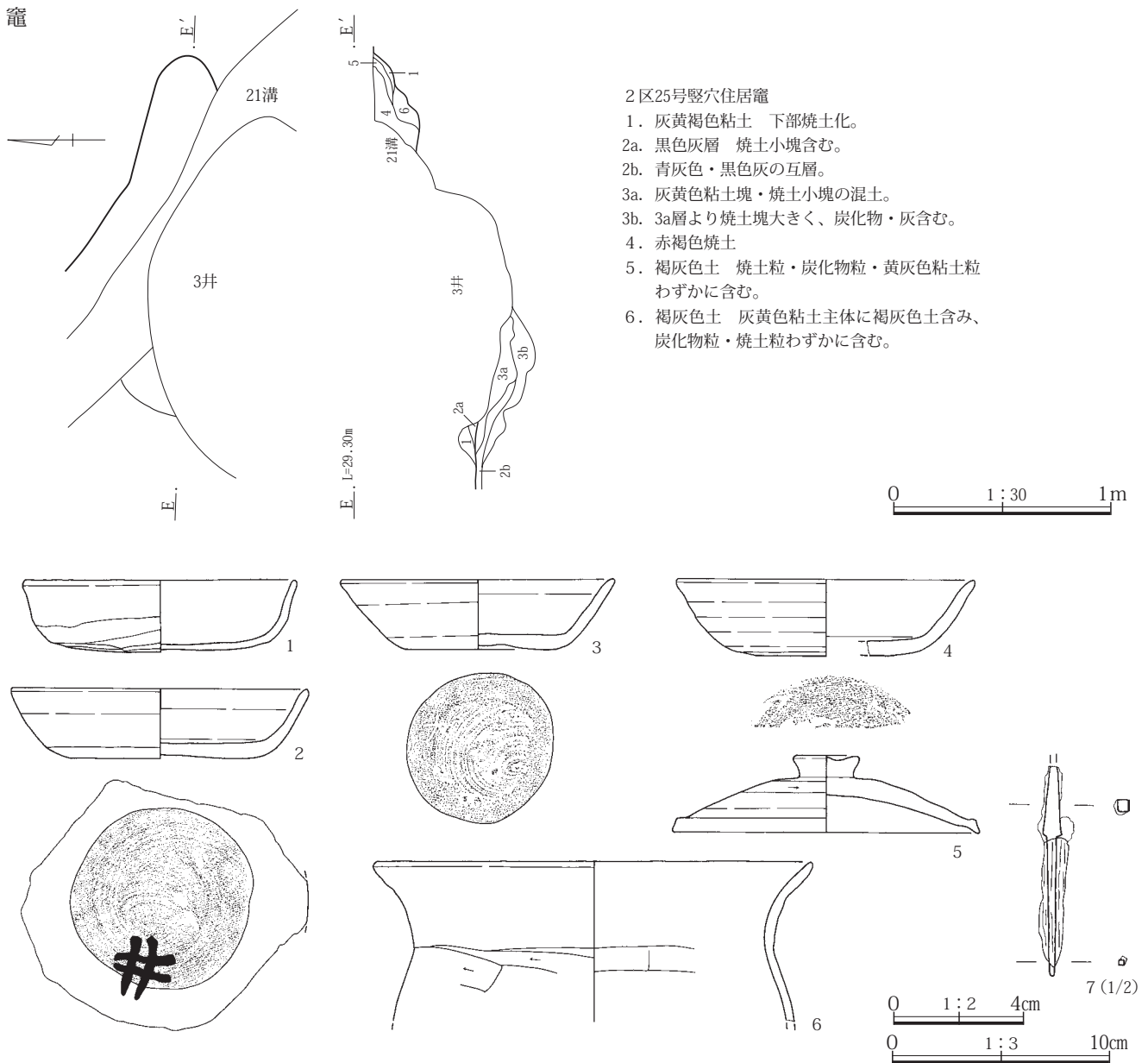


2区25号竪穴住居

- 1a. 褐灰色土 くすんだローム主体にローム小塊・褐色土小塊含む。
- 1b. 1a層よりやや暗色、ローム少ない。
- 2a. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊・褐色土塊の混土含む。
- 2b. 2a層よりローム大きく多い。
3. 褐灰色土 くすんだローム主体にローム塊含み、暗褐色土塊斑に含む。
4. 暗褐色土 ローム小塊わずかに含み、しまりあり。
5. 褐色灰土 ローム小塊含む。
- 6a. 褐色灰土 焼土塊含み、ローム小塊わずかに含む。
- 6b. 6a層より焼土多い。
- 7a. 黄茶褐色土 灰黄色粘土小塊・焼土小塊・炭化物粒含む。マンガン沈着。
- 7b. 7a層より粘土多い。
- 7c. 7a層より粘土大きく、粘性強い。
- 8a. 暗灰褐色土 ローム粒多く含み、焼土粒含み、固くしまる。
- 8b. 8a層よりしまり弱い。
9. 明黄色土 ローム塊主体で、褐灰色土含む。
10. 黄色ローム小塊・灰黄褐色ローム小塊・褐灰色土の混土。
11. 黄色ローム・灰黄褐色ロームの混土。
12. 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
13. 暗褐色土 しまり弱い。
14. ローム塊・暗褐色土の混土。
15. 褐灰色土 ローム粒含み、しまり弱い。
- 16a. 褐灰色土 ローム小塊含み、ややしまりあり。
- 16b. 16a層よりローム少ない。

0 1:60 2m

第106図 2区25号竪穴住居平断面図



第107図 2区25号竪穴住居竈平面図、出土遺物

2区26号竪穴住居(第108～110図、第41・42表、PL.46-2～5,47-1,121)

調査区南部にある。多くの遺構と重複するが、本遺構が深いため、全形を把握することができた。

位置 X=30595～601、Y=-36527～532。

重複遺構 2区25号竪穴住居、20・21号溝、3号井戸、76～79・91・94～96号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-7°-W。

規模 中央付近で計測して長軸4.90m、短軸4.00mである。

床面積 3号井戸で破壊されているところも推定復元し

て16.47㎡である。

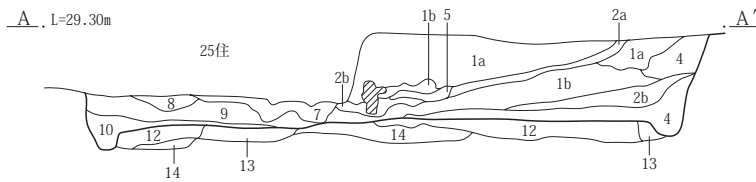
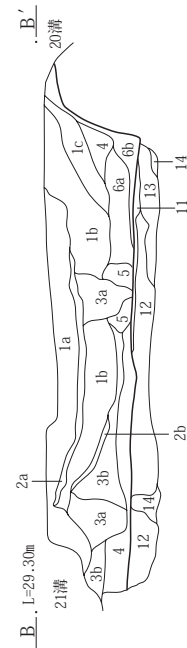
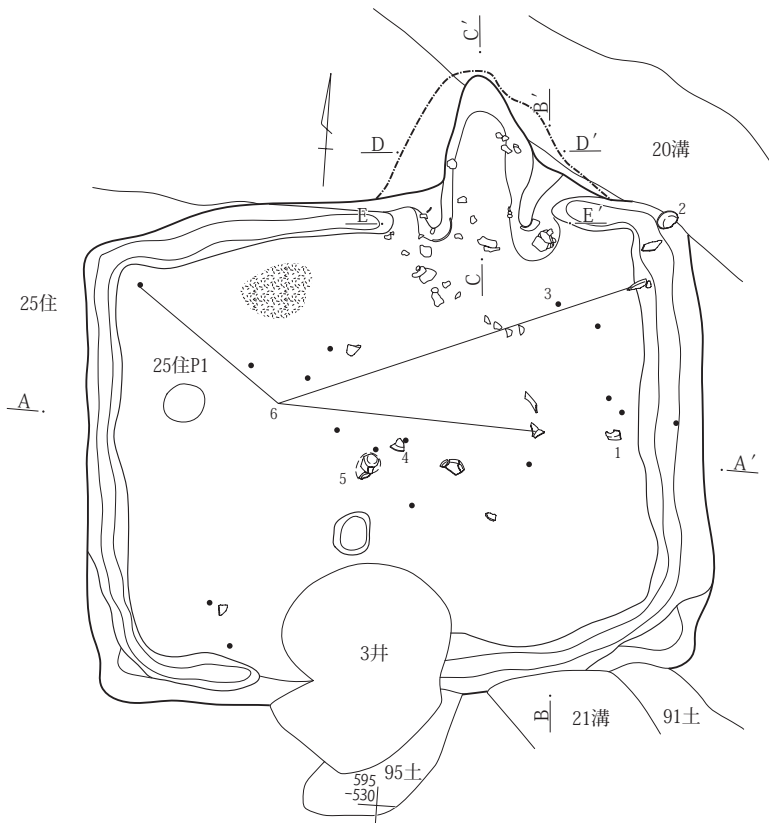
埋没土層 細かく分層できる。いわゆるレンズ状堆積を示していない部分があるほか、ピット状に掘られているところがみられる(3a層)など、不自然な堆積を示すところがあるので、単純な自然埋没とは考えにくい。中層に焼土・炭化物・灰を含む層が薄く入る(2a・2b層)のが目をつくる。

壁高 残りがよい北壁・東壁では65～76cmである。

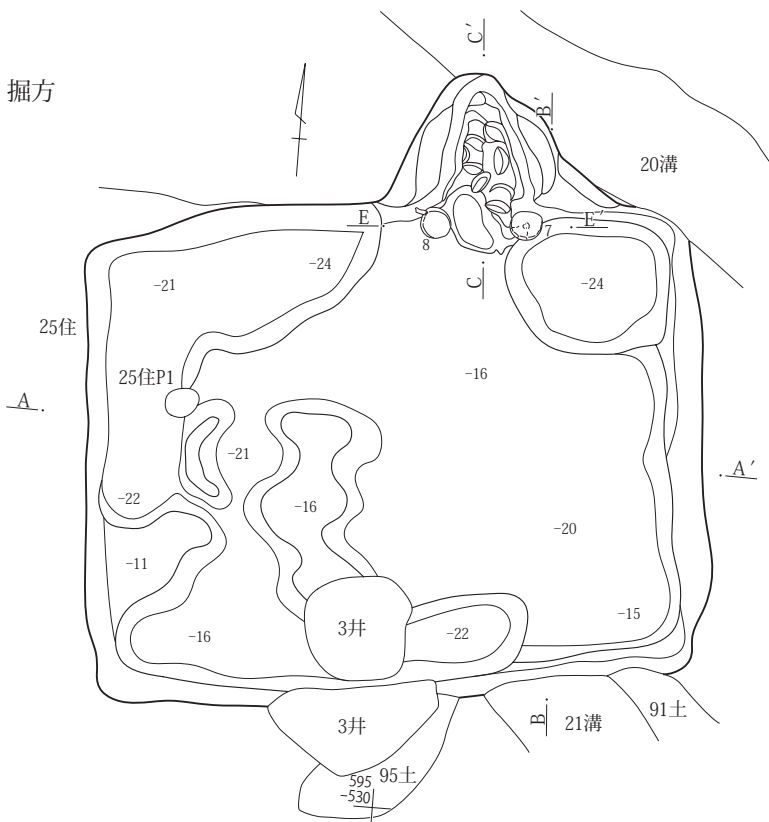
床面 細かい凹凸があるものの、おおむね平坦である。

掘方 全体に床面から15～24cmの深さがある。それをロームを多く含んだ土で埋め戻して床面とする。

竈 北壁の東寄りに設置している。煙道の先端のみ20号



掘方



2区26号竪穴住居

- 1a. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、マンガン沈着。
- 1b. 1a層よりややローム多く、鉄分またはマンガン沈着。
- 1c. 1b層に炭化物粒含む。
- 2a. 黒褐色土 上部に焼土・黒色灰。
- 2b. 黒褐色土 炭化物粒・灰わずかに含む。
- 3a. 褐灰色土 ローム粒・塊含み、やや砂質でしまり弱い。
- 3b. 3a層よりローム塊少ない。
- 4. 褐灰色土 固いローム塊含み、しまり弱い。
- 5. 褐灰色土 ローム塊わずかに含み、土質均一、しまり弱い。
- 6a. 黒褐色土 ローム粒・小塊含む暗褐色土塊含む。
- 6b. 黒褐色土 明黄色ローム塊含む。
- 7. 黒色灰・焼土小塊・ローム塊の混土。
- 8. 黄色ローム小塊・灰黄褐色ローム小塊・褐灰色土の混土。
- 9. 8層より各ローム小さく、褐灰色土多い。
- 10. 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 11. 明黄灰色粘土 焼土粒・黒褐色土塊含む。以下掘方。
- 12. 灰黄褐色土 灰黄褐色ローム塊主体、粘性あり。
- 13. くすんだ灰黄褐色土 灰黄褐色ローム小塊含み、粘性あり。
- 14. 灰黄褐色ローム 褐灰色土わずかに含む。



第108図 2区26号竪穴住居平断面図

溝で破壊されていた。両袖が残るが長さは短く、燃烧部は壁を掘り込んで作っている。両方の袖の先端には倒立した土師器甕が埋め込まれていた。右側の甕はほぼ完形であったが、左側は下半部を欠いていた。袖などの竈本体は黄白色粘土で作られている。長さは袖の先端から計測して147cmであり、壁外には100cm張り出している。幅は両袖の外側を計測して117cm、燃烧部底面幅は47cmである。両袖先端の甕の間は46cm離れている。竈内は焼土化し、底部には灰・炭化物の層が堆積していた。

貯蔵穴 床面では確認できなかったが、掘方底面の調査では、北東隅に土坑状に深い部分が確認できた。その規模は長径132cm、短径106cmで、深さは床面から24cmであり、貯蔵穴の跡である可能性が考えられる。

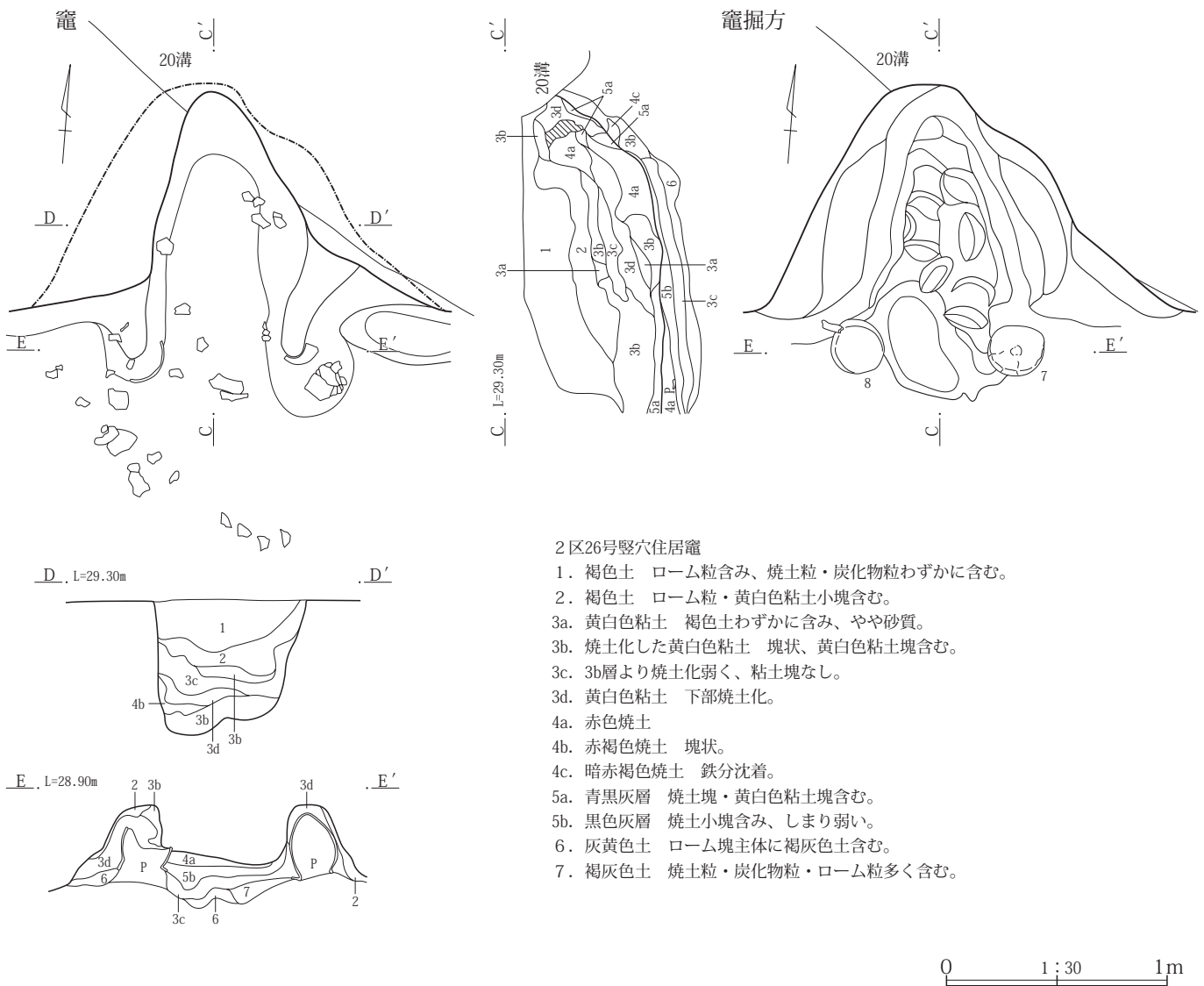
柱穴 床面では2カ所にピットが見つかったが、北西の

ものは25号竪穴住居の柱穴であり、南側(3号井戸の北側)のものは深さが9cmとごく浅いものなので、いずれも本住居に関わる柱穴ではない。

周溝 竈部分を除いてほぼ全周する。幅20~40cm、深さ5~16cmである。

遺物 全体に散在する。掲載したのは、土師器杯4点、同甕3点、須恵器杯1点である。竈袖に据えられていた甕(7と8)以外は、床面からかなり浮いた高さから出土している。7の甕は竈右袖、8は左袖の先端に据えられていたものである。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)132g、同(大)3,719g、須恵器(小)8点・76g、同(大)3点・134gがある。

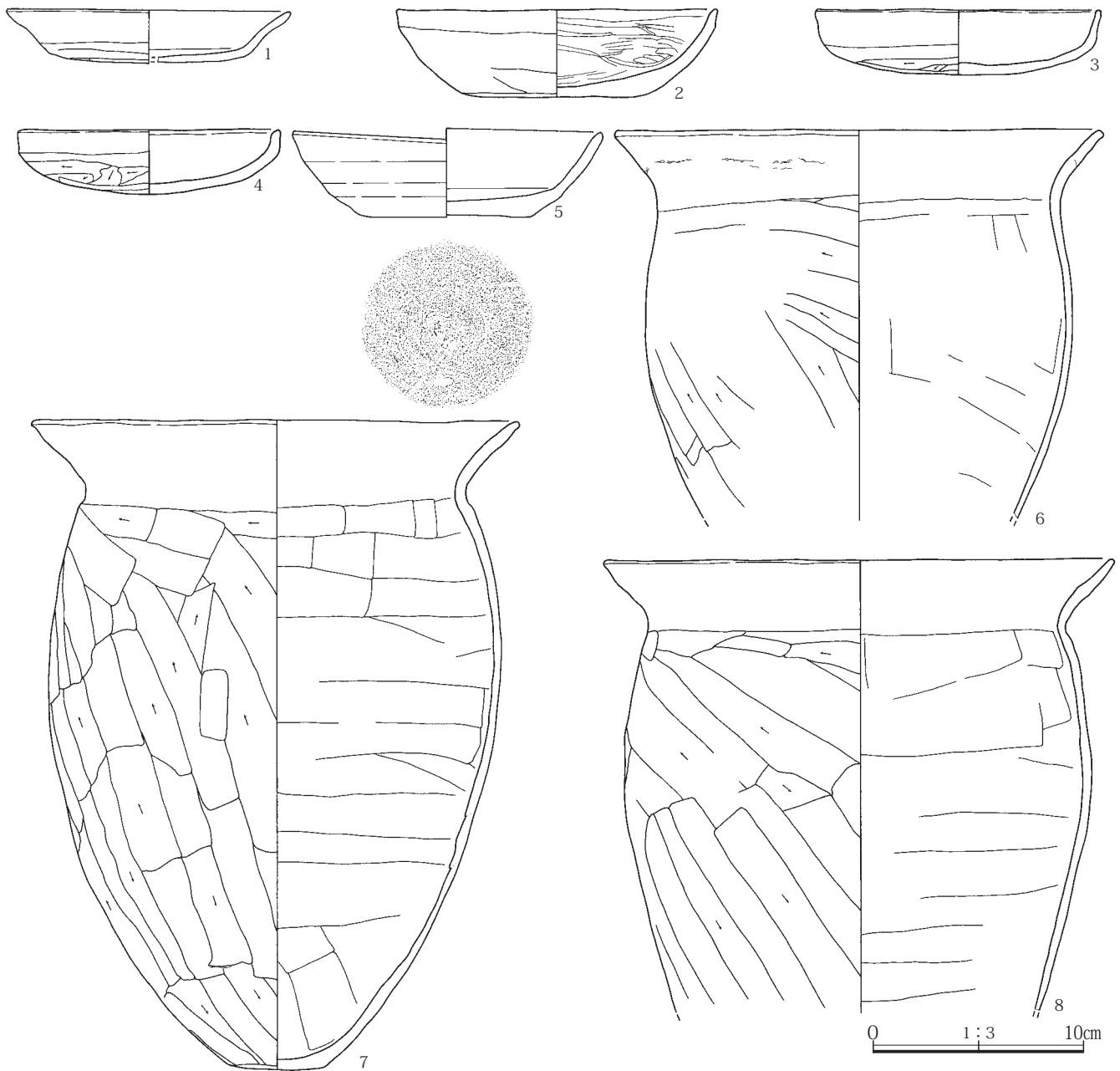
時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第3四半期の住居であると思われる。



2区26号竪穴住居竈

1. 褐色土 ローム粒含み、焼土粒・炭化物粒わずかに含む。
2. 褐色土 ローム粒・黄白色粘土小塊含む。
- 3a. 黄白色粘土 褐色土わずかに含み、やや砂質。
- 3b. 焼土化した黄白色粘土 塊状、黄白色粘土塊含む。
- 3c. 3b層より焼土化弱く、粘土塊なし。
- 3d. 黄白色粘土 下部焼土化。
- 4a. 赤色焼土
- 4b. 赤褐色焼土 塊状。
- 4c. 暗赤褐色焼土 鉄分沈着。
- 5a. 青黒灰層 焼土塊・黄白色粘土塊含む。
- 5b. 黒色灰層 焼土小塊含み、しまり弱い。
6. 灰黄色土 ローム塊主体に褐灰色土含む。
7. 褐灰色土 焼土粒・炭化物粒・ローム粒多く含む。

第109図 2区26号竪穴住居竈平断面図



第110図 2区26号竪穴住居出土遺物

2区27号竪穴住居(第111～114図、第42表、PL.47-2,48-1～4,122)

調査区南部にある。この付近は竪穴住居が集中しているが、その中では南端にあり、重複する住居はない。

位置 X=30587～594、Y=-36527～533。

重複遺構 2区44・45・47～50・98号土坑と重複している。本遺構がそのいずれよりも古い。

形状 東西方向がわずかに長い長方形である。

主軸方位 N-4°-E。

規模 中央付近で計測して長軸5.60m、短軸5.25mである。

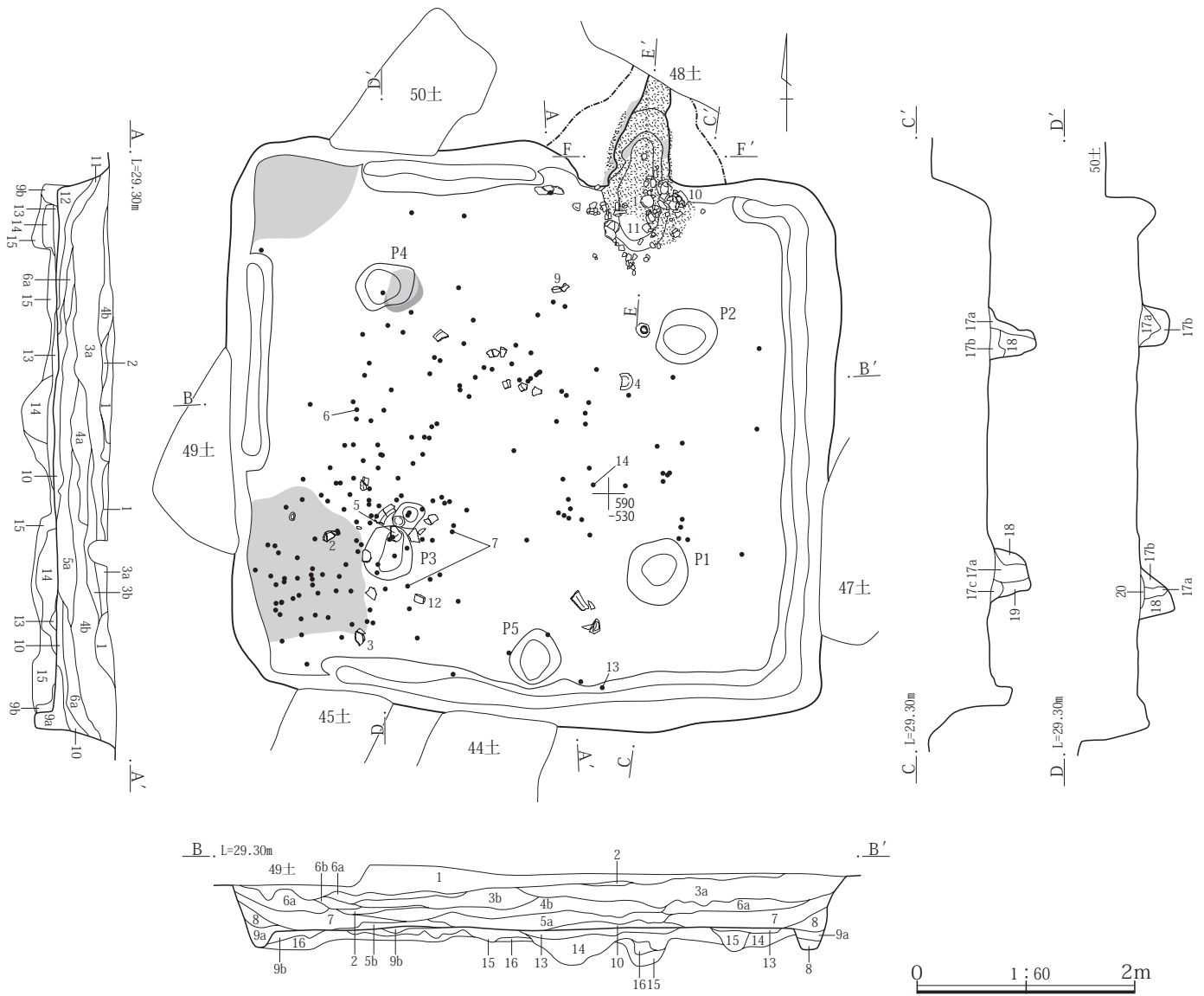
床面積 24.28㎡。

埋没土層 細かく分層できる。人為的に埋められている可能性が考えられる。最上層である1・2・3a層に炭化物や焼土が含まれており、確認面では本住居の中心近くにそれが集中するように見えた。

壁高 残りのよいところで49～67cmである。

床面 おおむね平坦である。南西隅と北西隅に焼土・炭化物が分布していた。

掘方 全体に凹凸があり、ピット状に掘られているところも多い。特に住居周縁部はやや深く掘られる傾向があり、床面から15～26cmの深さがある。ピット状に掘られているところは位置が不規則なのでどのような役割の



2区27号竪穴住居

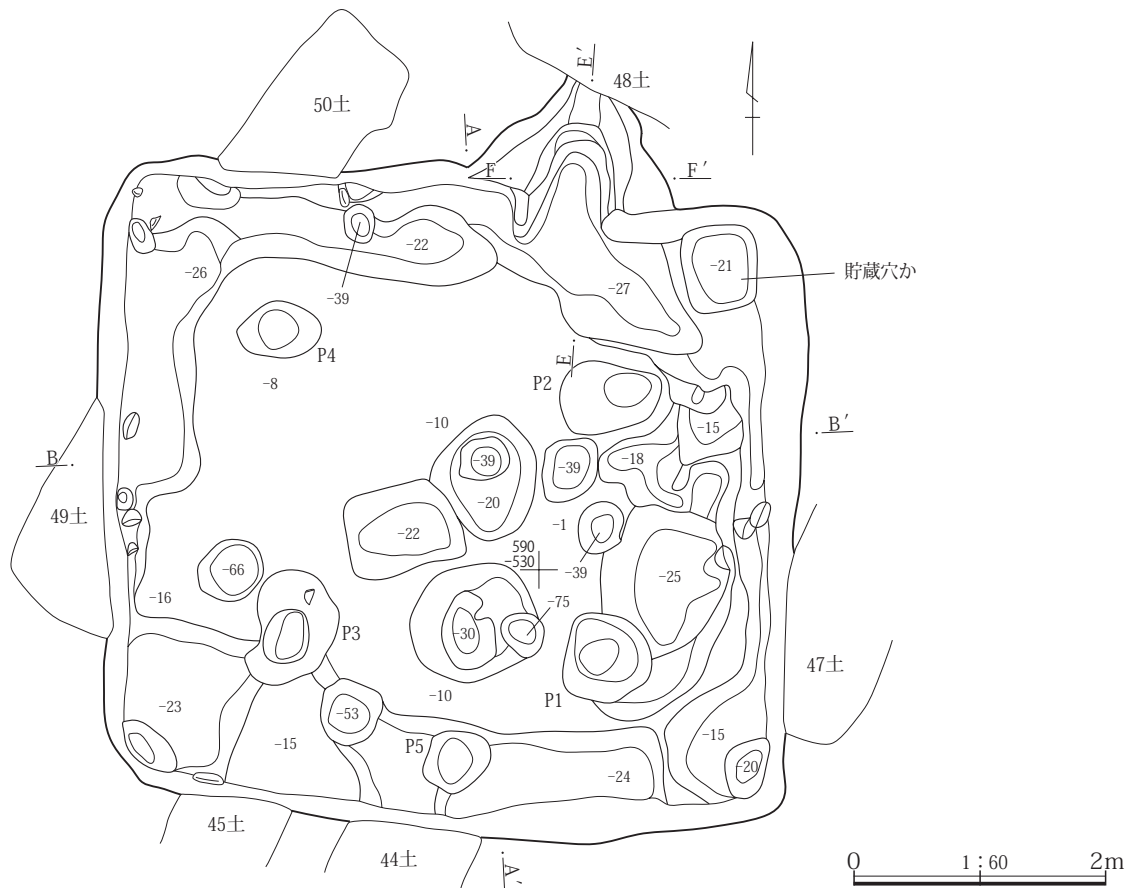
1. 褐灰色土 炭化物・焼土塊含む。
2. 黒色炭化物層
- 3a. 褐灰色土 ローム粒・炭化物粒ふくむ。
- 3b. 褐灰色土 ローム塊・褐色土塊含む。
- 4a. 褐灰色土 ローム塊多く含み、黒褐色土塊斑に含む。
- 4b. 4a層よりローム大きい。
- 5a. 灰褐色土 焼土粒・炭化物粒含み、しまり弱く、やや砂質。
- 5b. 5a層にローム含む。
- 6a. 灰褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 6b. 6a層よりローム少ない。
7. 褐灰色土 ローム粒・黒褐色土粒・焼土粒わずかに含み、しまり弱い。
8. くすんだ黄褐色土
- 9a. 褐灰色土 ローム塊多く含み、ローム粒・黒褐色土粒・焼土粒わずかに含み、しまり弱い。

9b. 9a層よりローム塊多い。

10. 黒褐色土 ローム・焼土粒・炭化物わずかに含み、粘性あり、ノ口状。
11. 黒褐色土 ローム塊斑に含む。
12. 黄褐色土 粘性強い。
13. 灰褐色土 ローム小中塊含み、固くしまる。貼床。
14. 褐灰色土 黄色ローム塊・黄褐色ローム塊主体に褐灰色土含む。
15. 褐灰色土 黄色ローム塊・黄褐色ローム塊主体にわずかに褐灰色土含む。
16. 茶褐色土 ローム小塊多多く含み、鉄分沈着多い。
- 17a. 褐灰色土 ローム粒・炭化物粒わずかに含み、しまり弱い。
- 17b. 17a層よりローム多い。
- 17c. 17a層・ローム塊の混土、しまりあり。
18. ローム塊・褐灰色土の混土、しまり強い。
19. 暗褐色土 土質均一、しまりあり。
20. 褐灰色土 ローム塊含み、炭化物粒・灰わずかに含む。

第111図 2区27号竪穴住居平断面図

掘方



第112図 2区27号竪穴住居掘方平面図

ものか不明であるが、床面から30cm以上掘られているものも複数あり、何らかの施設に伴う可能性がある。これらをロームを多く含む土で埋め戻して床面とする。表面には貼床(13層)が見られる。

竈 北壁の東寄りに設置している。煙道部の先端が48号土坑に破壊されている。袖はほとんど残っていないが、壁への掘り込みは少ないので、本来は住居内に燃烧部の大部分が作られていたと思われる。竈本体は灰黄色ないし黄褐色粘土で作られていたらしい。長さは、燃烧部底面の凹みの先端から現状での煙道部先端までを計測すると162cm、袖の先端からは106cmであり、壁外には80cm張り出している。幅は住居壁で50cmである。竈の奥壁は焼土化し、燃烧部の底部には灰・炭化物が堆積していた。

貯蔵穴 床面では確認できなかったが、掘方底面では北東隅に方形の土坑が見つかり、これが貯蔵穴であると思われる。長さ68cm、幅58cm、深さは床面から計測して21cmである。

柱穴 主柱穴と思われる位置に4基のピット(P1～4)が見つかった。また、南壁際の中央にも1基のピッ

ト(P5)が見つかり、これは入り口に関わるものと考えられる。それぞれの規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)。

P1 63×55×39 P2 59×50×43

P3 50×44×40 P4 56×40×30

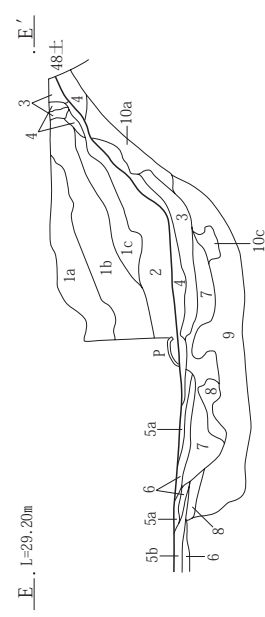
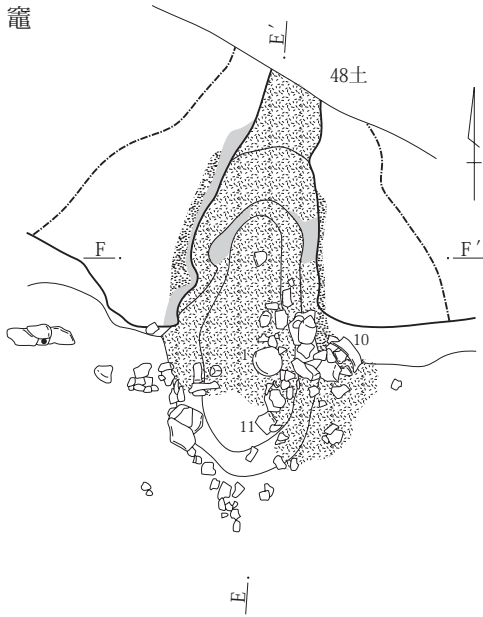
P5 52×42×30

周溝 一部途切れるところはあるが、竈付近を除き全周している。幅33～40cm、深さ11～23cmである。

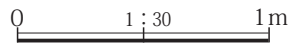
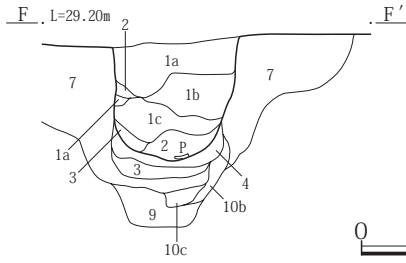
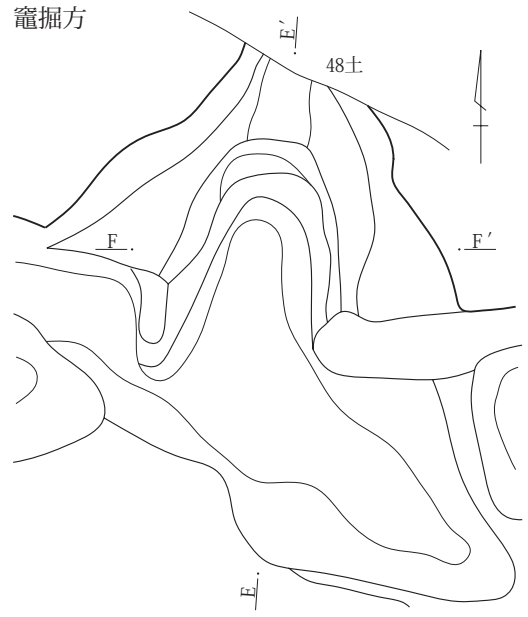
遺物 遺物の出土は多いが、小破片となった土器が大部分であり、ほとんどは床面からかなり浮いた高さから出土している。掲載したのは土師器杯2点、同甕4点、須恵器杯5点、砥石1点、用途不明石製品1点、刀子1点である。1の土師器杯は竈焚き口の床面から完形のまま伏せた形で出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)1,031g、同(大)9,113g、須恵器(小)2,876g、同(大)469gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第4四半期の住居であると思われる。

竈

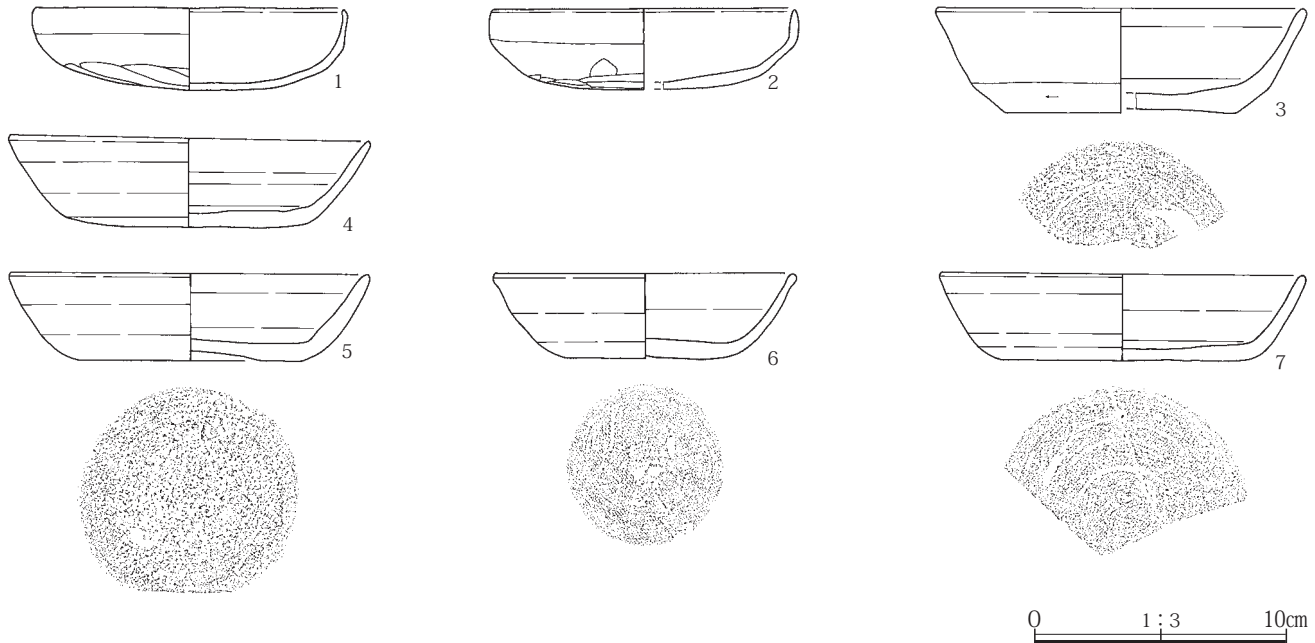


竈掘方

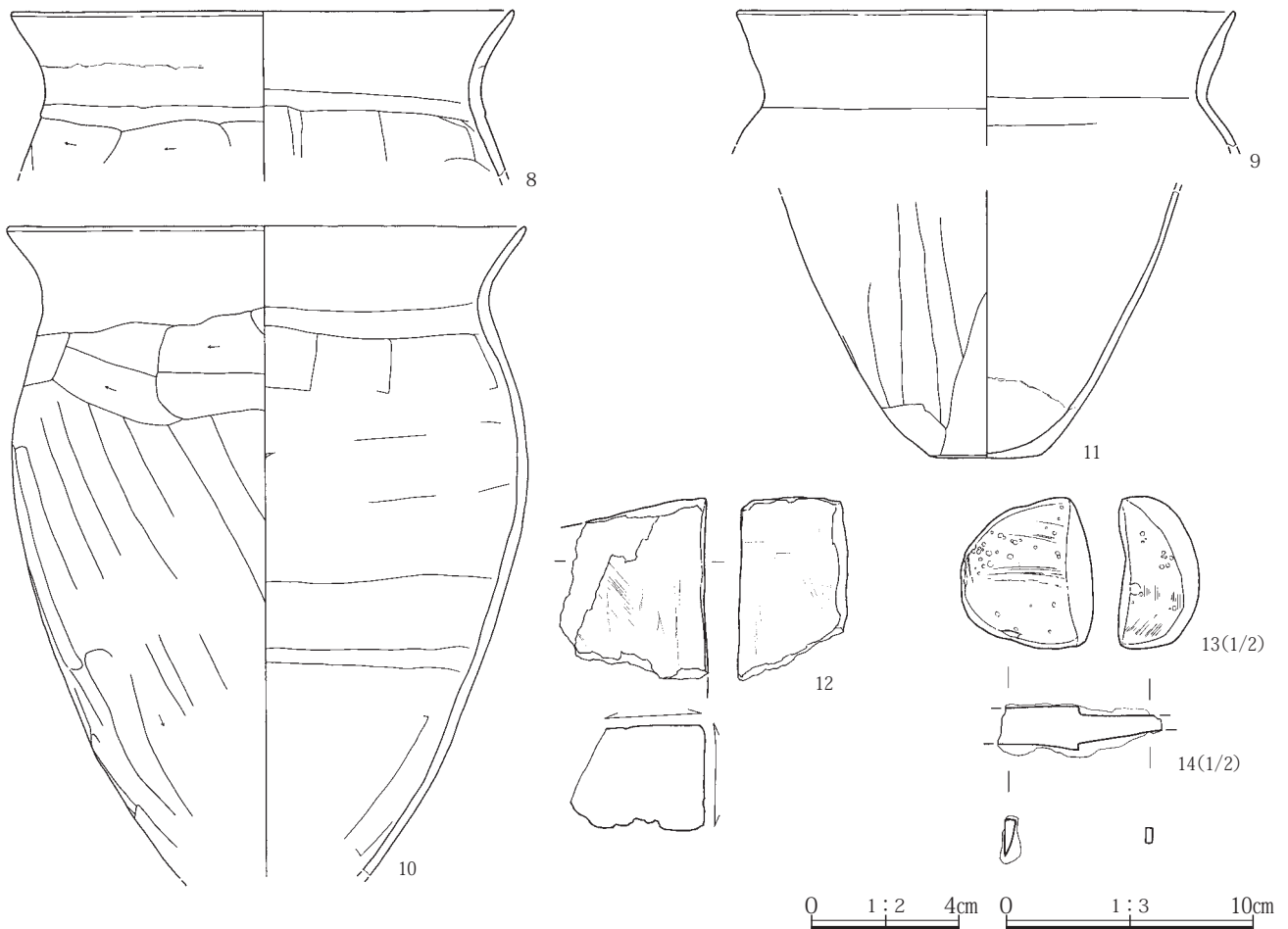


2区27号竪穴住居竈

- 1a. 灰黄褐色粘土 ローム粒・焼土粒わずかに含む。
- 1b. 1a層に褐色土・焼土粒含み、粘性弱い。
- 1c. 1a層に炭化物粒含む。
- 2. 灰黄色粘土
- 3. 赤褐色焼土
- 4. 青灰色灰層
- 5a. 黄橙色粘質土 焼土小塊含み、しまりあり。
- 5b. 5a層より灰色がかかる。
- 6. 黒色灰層・黄橙色粘質土の互層。
- 7. 黄褐色粘土 焼土小塊含む。
- 8. 黒色灰・焼土小塊・黄橙色粘土塊の混土
- 9. 黄橙色粘土塊・ローム塊の混土、褐色土含む。
- 10a. 焼土塊・灰黄色粘土塊の混土。
- 10b. 10a層より焼土少ない。
- 10c. 10b層より焼土少ない。



第113図 2区27号竪穴住居竈平面図、出土遺物(1)



第114図 2区27号竪穴住居出土遺物(2)

2区28号竪穴住居(第115図、第42表、PL.48-5～7,122)

調査区南部にある。20・29号竪穴住居に破壊されて、竈とその左右のわずかな部分だけしか残っていない。

位置 X=30595～597、Y=-36536～538。

重複遺構 2区20・29号竪穴住居、54・55・62・63号土坑と重複。本遺構が古い。

形状 竈周辺のわずかな部分しか残っておらず、形状は不明である。竈の左右の壁は直線的なので、方形であることは間違いない。

主軸方位 N-13°-E。

規模・床面積 調査できたのがごく一部なので規模・床面積共に不明である。

壁高 竈の左右で59～67cm。

床面 ほぼ全部が破壊されているため不明である。

竈 北壁に設置している。両袖の基部がわずかに残る。本体は灰黄色粘土で構築されていたらしい。長さは袖の先端から計測して140cmであり、壁外には105cmと長く延

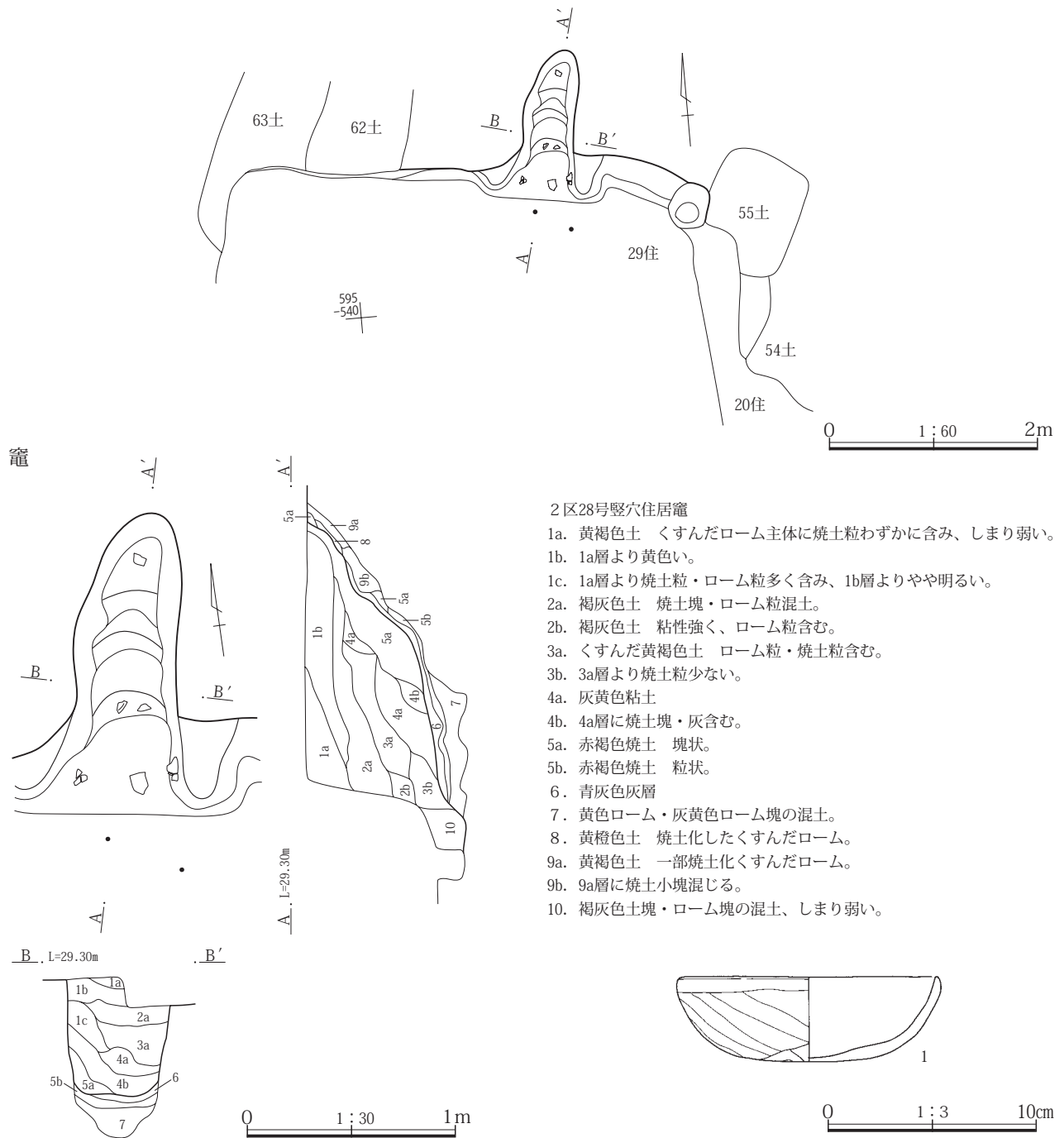
びている。幅は両袖の外側で計測して123cm、燃烧部底面幅は40cmである。竈奥壁はよく焼土化し、燃烧部底面には灰・炭化物が堆積していた。

貯蔵穴・周溝 確認できなかった。29号竪穴住居に破壊された可能性が強い。

柱穴 確認できなかった。29号竪穴住居の調査時にも確認されていないので、本来なかったものと思われる。

遺物 出土遺物は少なく、掲載したのは土師器杯1点のみである。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)132g、同(大)753g、須恵器(小)116g、同(大)1点・58gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀前半の住居であると思われる。竈周辺のわずかな部分しか残っていないが、2区20・29号竪穴住居とほぼ重なり長軸方向も近いことから、建て替えの可能性も考えられる。新旧関係は本住居→29号→20号竪穴住居の順である。



第115図 2区28号竪穴住居平断面図、出土遺物

2区29号竪穴住居(第116・117図、第42表、PL.48-8,49-1・2,122)

調査区南部にある。20号竪穴住居に上部を破壊され、底面付近だけを残していた。

位置 X=30592～596、Y=-36535～541。

重複遺構 2区20・28・31号竪穴住居、54・55・62・63号土坑と重複する。本遺構が20号竪穴住居、54・55・62・63号土坑より古く、28・31号竪穴住居より新しい。

形状 東西に長い長方形である。東辺の竈北側の部分が

破壊され不明であるが、周溝の北東隅の位置がやや西に偏っているため、この部分は整った形にならないようである。

主軸方位 N-102°-E。

規模 4辺とも20号竪穴住居に破壊されているが、現状で残っている部分の中央付近で計測すると、長軸4.87m、短軸3.42mである。

床面積 東辺を推定復元して計測すると14.57㎡である。

埋没土層 覆土の下層のみが残っている状態であり、そ

の部分は褐灰色土で埋没している。

壁高 西壁で計測すると53～57cmの高さがある。

床面 貼床構造の床である。おおむね平坦だが、中央やや東に粘土が薄く堆積している部分がある。

掘方 全体に床面よりも5～20cm深い。底面には細かい凹凸がある。それを、ロームを多く含む土で埋め戻し、表面に貼床を施して床面としている。

竈 東壁の南隅近くに設置している。住居内となる部分を20号竪穴住居に破壊され、袖などは残っていない。本体は灰黄色粘土で構築されていたらしい。現状の長さは88cm、幅は65cmであり、形状は28号竪穴住居に類似している。壁の焼土化は弱い。底面には灰・炭化物の層が薄

く堆積していた。

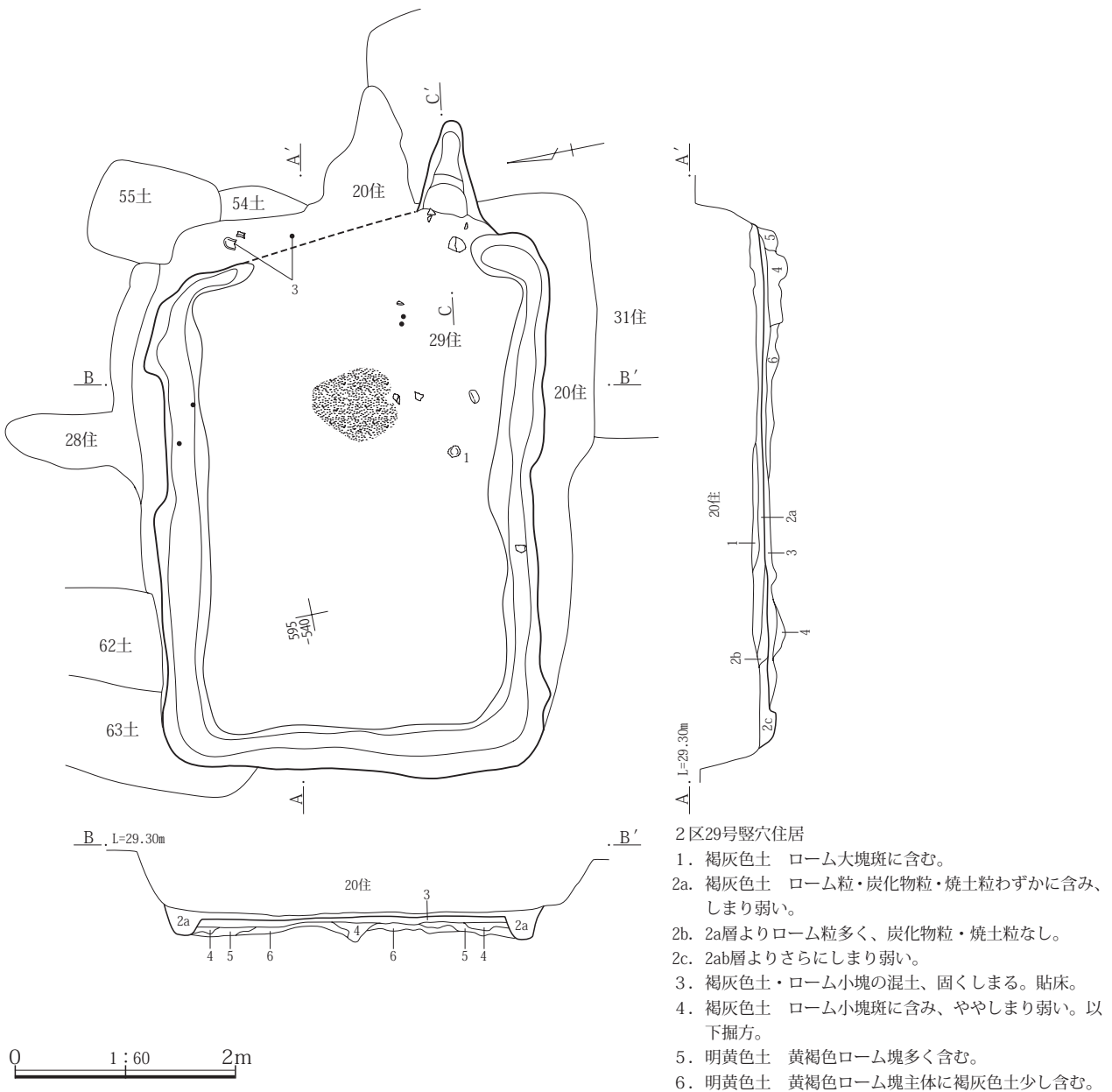
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

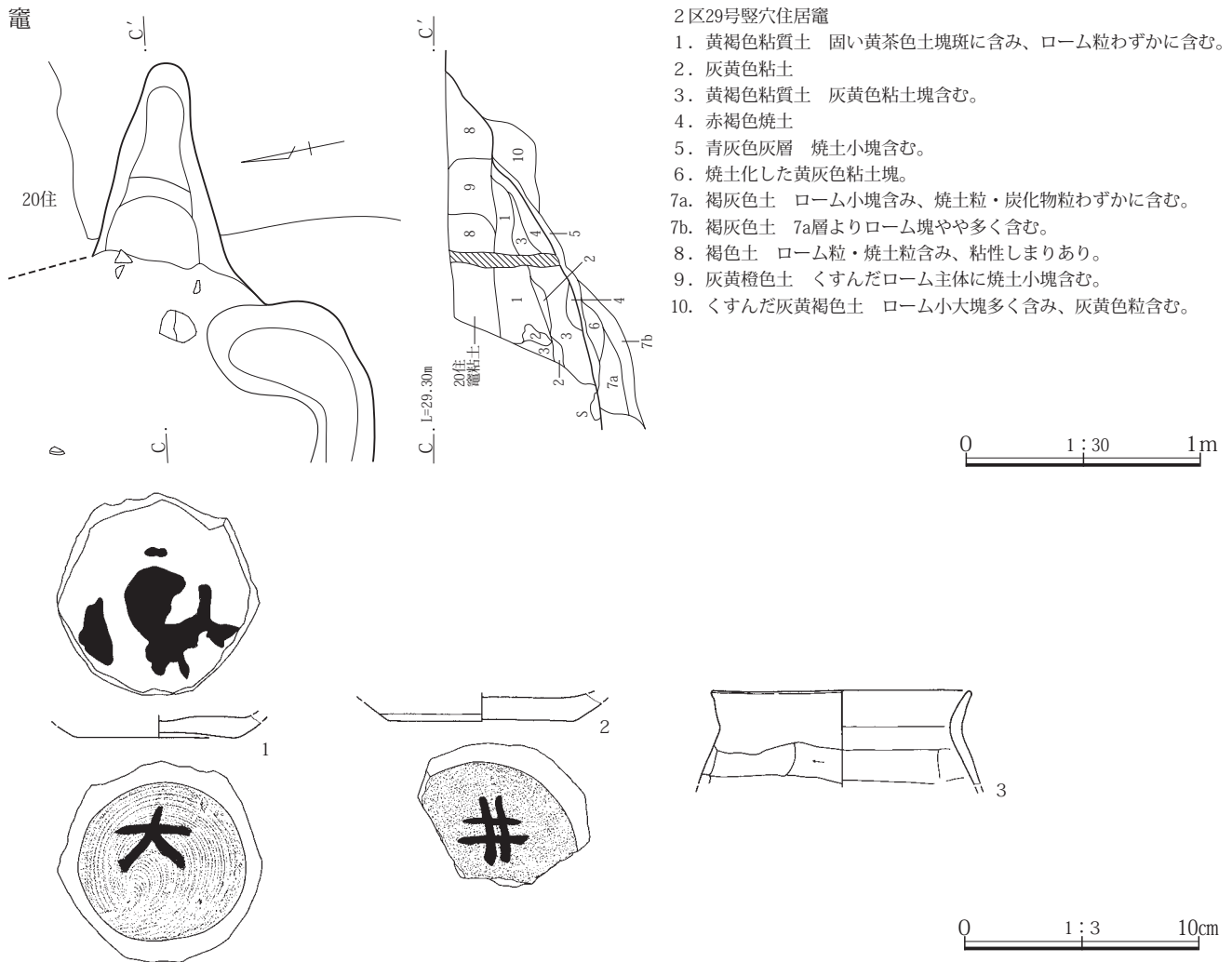
周溝 幅17～48cm、深さ5～19cm。

遺物 遺物は少ない。掲載したのは土師器小型甕1点、須恵器杯2点(2点とも墨書がある)である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)2点・27g、同(大)349g、須恵器(小)2点・33gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀前半の住居であると思われる。2区20・28号竪穴住居とほぼ重なり長軸方向も近いことから、建て替えの可能性もある。新旧関係は28号竪穴住居→本住居→20号竪穴住居の順である。



第116図 2区29号竪穴住居平断面図



- 2区29号竪穴住居竈
1. 黄褐色粘質土 固い黄茶色土塊斑に含み、ローム粒わずかに含む。
 2. 灰黄色粘土
 3. 黄褐色粘質土 灰黄色粘土塊含む。
 4. 赤褐色焼土
 5. 青灰色灰層 焼土小塊含む。
 6. 焼土化した黄灰色粘土塊。
 - 7a. 褐灰色土 ローム小塊含み、焼土粒・炭化物粒わずかに含む。
 - 7b. 褐灰色土 7a層よりローム塊やや多く含む。
 8. 褐色土 ローム粒・焼土粒含み、粘性しまりあり。
 9. 灰黄橙色土 くすんだローム主体に焼土小塊含む。
 10. くすんだ灰黄褐色土 ローム小大塊多く含み、灰黄色粒含む。

第117図 2区29号竪穴住居竈平面図、出土遺物

2区30号竪穴住居(第118・119図、第42表、PL.49-3～5,50-1)

調査区南部にある。この付近は竪穴住居が集中しているが、その中では南東端にあり、重複する住居はない。

位置 X=30588～592、Y=-36521～524。

重複遺構 2区21号溝、4号井戸、109・110号土坑と重複する。本遺構がそれらのいずれよりも古い。

形状 正方形に近い方形である。

主軸方位 N-97°-E。

規模 長軸3.58m、短軸3.34m。

床面積 10.75㎡。

埋没土層 主として褐色土で埋没している。中・下層にはローム塊を多く含んでいる。

壁高 他の遺構との重複がないところで計測すると37～49cmである。

床面 細かい凹凸はあるが、おおむね平坦である。

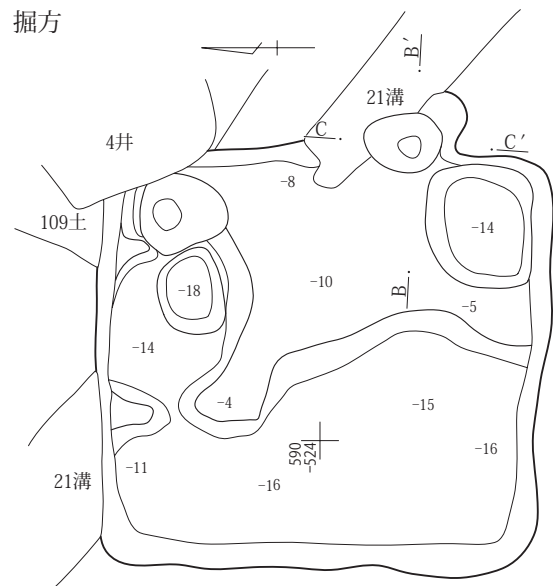
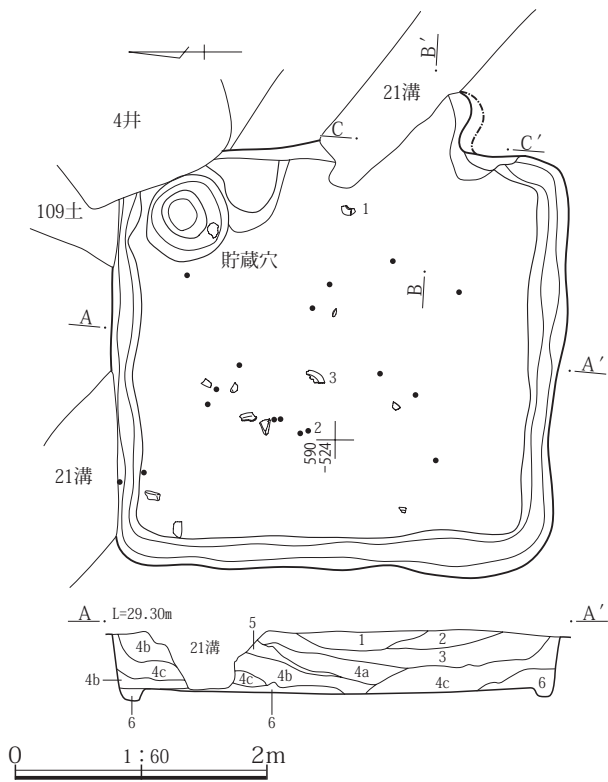
掘方 全体に4、5cm以上の深さがある。より深いのは西半部と北壁際であり、ここでは11～18cmの深さがある。底面は細かい凹凸が目立つ。

竈 東壁の南寄りに設置している。煙道先端から左半分は21号溝に破壊されているが、右袖は基部が残っていた。竈本体は灰黄色粘土で構築されていたらしい。長さは袖の先端から計測して70cmであり、幅は不明である。燃焼部底面には焼土を含む灰・炭化物が堆積していた。

貯蔵穴 床面では北東隅に小土坑が確認されたので、これが貯蔵穴であると思われる。長径69cm、短径65cmのほぼ円形で、深さは27cmである。これ以外に掘方の調査では南東隅に方形の土坑が見つっている。長さ98cm、幅84cmの長方形で、深さは床面から14cmである。やや浅いが、古い時期の貯蔵穴がここにあった可能性が考えられる。

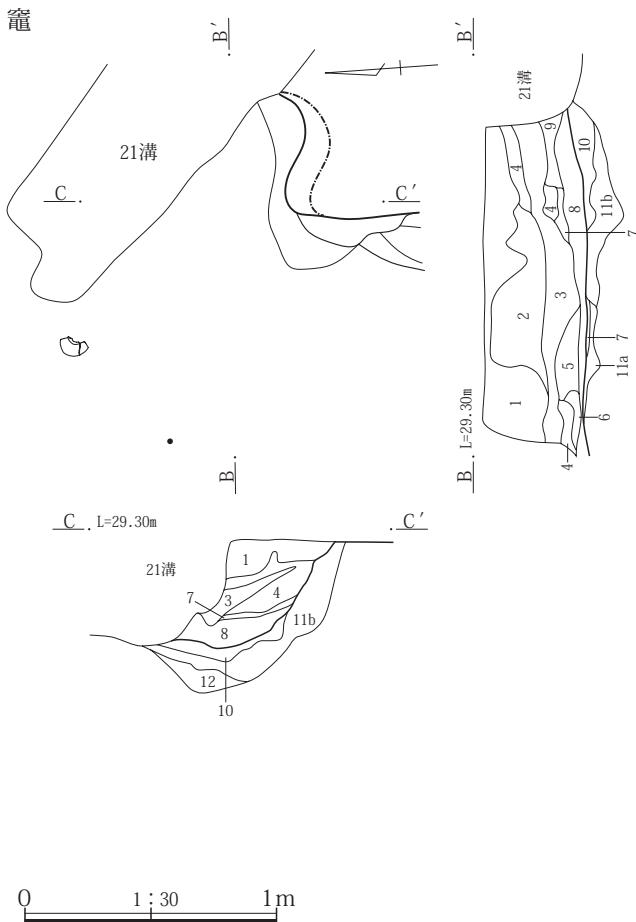
柱穴 確認できなかった。

周溝 竈のある東辺を除いた3辺に見られる。幅16～

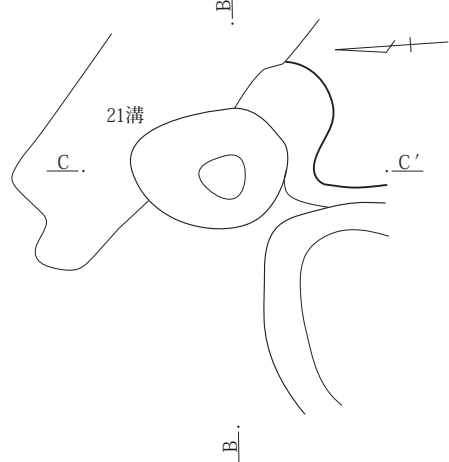


2区30号竪穴住居

1. 褐色土 ローム小塊・炭化物粒・焼土粒含む。
2. くすんだ褐色土 ローム小塊含む。
3. くすんだ褐色土 ローム小塊や多く含む。
- 4a. ローム小中塊・褐灰色土塊の混土。
- 4b. 4a層より各塊小さい。
- 4c. 4a層より各塊大きい。
5. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。しまり弱い。
6. 黒褐色土 土質均一、しまりあり。



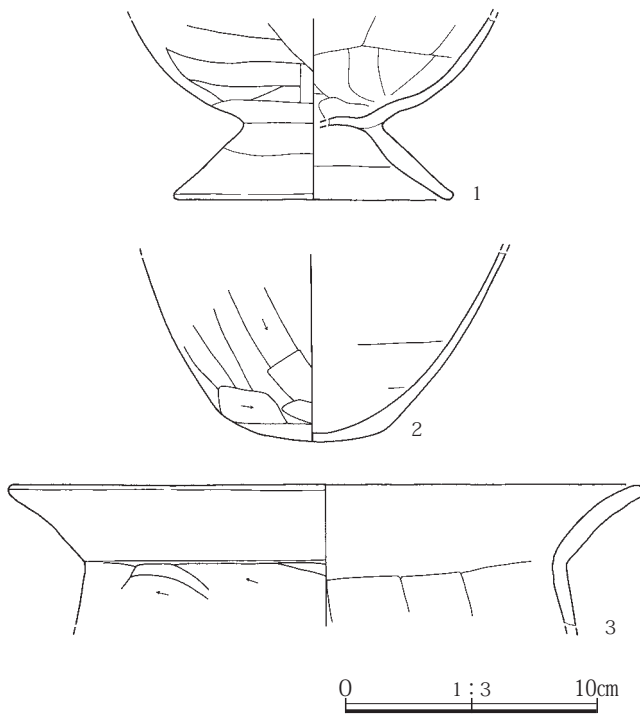
竈掘方



2区30号竪穴住居竈

1. くすんだローム・ローム小塊・黒褐色土塊混土。
2. くすんだローム・ローム塊・焼土塊の互層。
3. 褐灰色土 ローム粒含み、しまり弱い。
4. 灰黄色粘土
5. 黄茶色土 変色したローム、ローム小塊含み、しまり弱い。
6. 茶褐色土 しまり弱い。
7. 赤褐色焼土
8. 黒褐色灰層、焼土少し含む。
9. 4層ブロック・焼土粒の混土。
10. 黒褐色土 黒色灰・焼土粒含み、しまり弱い。
- 11a. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊・褐灰色小塊含み、固くしまる。
- 11b. 11a層よりしまり弱く、ローム大きい。
12. 褐色土塊・ローム塊の混土

第118図 2区30号竪穴住居平断面図



第119図 2区30号竪穴住居出土遺物

37cm、深さ1～7cmである。

遺物 土器のやや大きな破片は中央付近を中心に出土しているが、床面からやや浮いた高さから出土するものが多い。掲載したのは土師器甕2点、同台付甕1点である。2と3は中央付近から、1は竈左前から、いずれも床面から2～3cm浮いた高さで出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)165g、同(大)1,511g、須恵器(小)1点・12gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第3四半期の住居であると思われる。

2区31号竪穴住居(第120図、第43表、PL.50-2,51-1,122)

調査区南部にある。この付近は竪穴住居が集中し、本住居は北西の1/4を重複する竪穴住居に破壊されている。

位置 X=30590～594、Y=-36534～539。

重複遺構 2区20・29号竪穴住居と重複する。本遺構が古い。

形状 東西にやや長い長方形である。

主軸方位 N-9°-E。

規模 長軸は南壁近くで計測して4.00m、短軸は東壁近くで計測して3.15mである。

床面積 20、29号竪穴住居に破壊されている部分を推定

復元して計測すると8.91㎡である。

埋没土層 ロームを多く含む褐色土やくすんだ黄褐色土などで埋没している。

壁高 45～54cm。

床面 おおむね平坦である。

竈 北壁ほぼ中央に設置している。左側を20、29号竪穴住居の竈で破壊されていて半分程度しか残っていない。右袖が比較的長く残るので、燃烧部の大部分は竈内に構築されていたらしい。本体は黄灰色粘土で構築されていたようである。煙道の壁外への張り出しも短い。長さは袖の先端から計測して120cmであり、壁外へは52cm張り出している。幅は右袖の外側から計測して80cmは残っている。燃烧部底面には灰・炭化物の層が残っていた。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 支柱穴になるようなピットは確認できなかったが、南壁際中央に1基のピット(P1)があり、位置からみて入り口に関わる可能性が考えられる。大きさは長径31cm、短径26cm、深さ18cmである。

周溝 現存する範囲では竈付近を除いて全周している。幅10～40cm、深さ1～7cmである。

遺物 出土遺物は少ない。やや大きな土器片は竈周辺と南壁中央付近に分布していたが、床面からはやや浮いた高さのものが多い。掲載したのは土師器小型台付甕1点、須恵器杯1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)4点・21g、同(大)522g、須恵器(小)107gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第2四半期の住居であると思われる。

2区32号竪穴住居(第121～123図、第43表、PL.51-2～5,52-1～3,123)

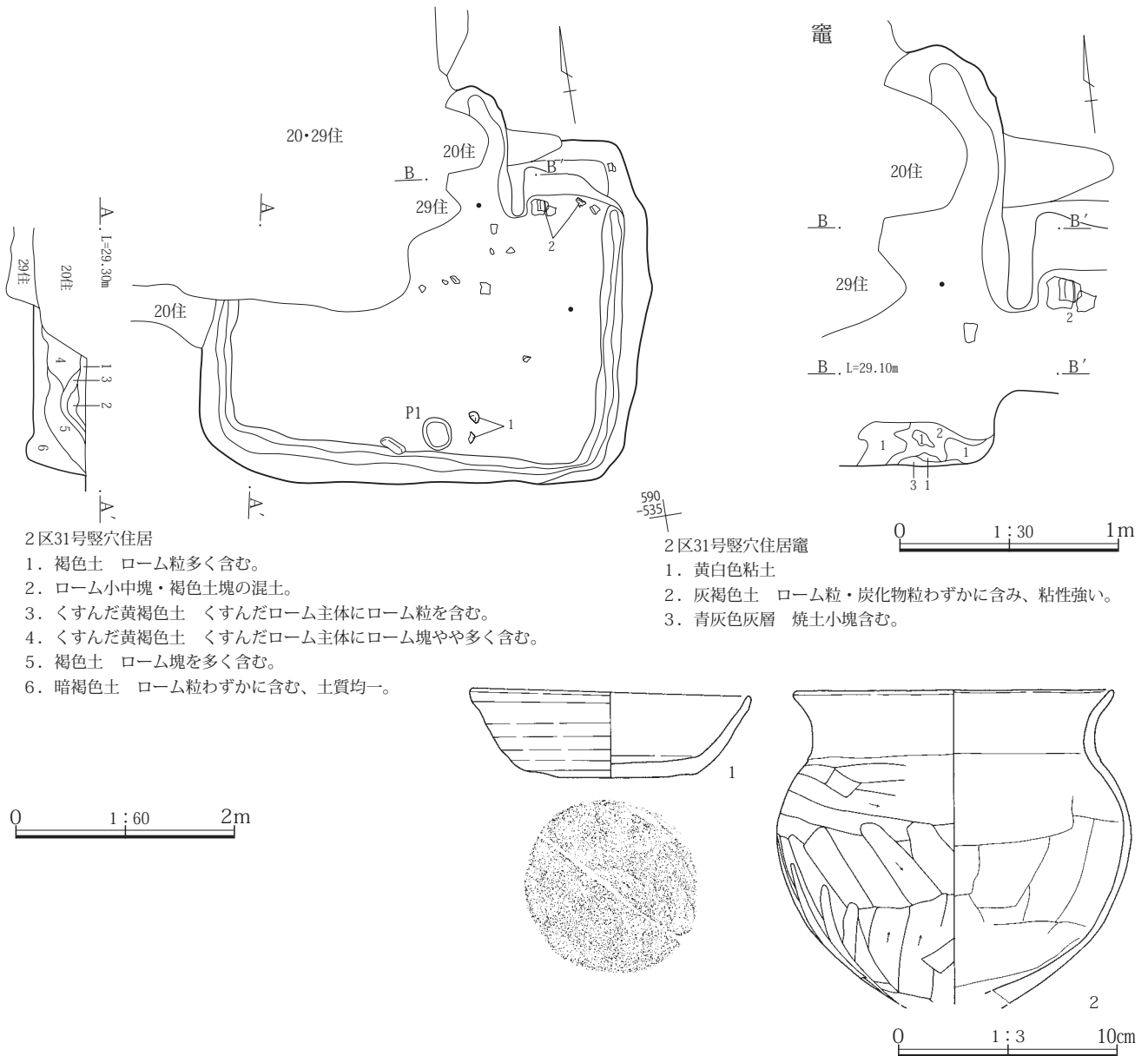
調査区南部にある。竪穴住居が集中している部分の南端にあり、重複する住居はないが、南西部が調査区外となる。竈の残存状況が比較的よい。

位置 X=30586～591、Y=-36538～542。

重複遺構 なし。

形状 調査区内の部分は方形であるが、長方形になるかどうかは西壁が調査区外であるため不明である。北壁の竈西側には柵状の段差がある。

主軸方位 N-8°-W。



第120図 2区31号竪穴住居平断面図、出土遺物

規模 主軸方向は4.46m、それと直交する方向は3.90m以上である。

床面積 調査区内の部分を実測すると10.15㎡である。

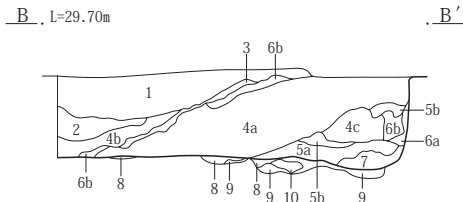
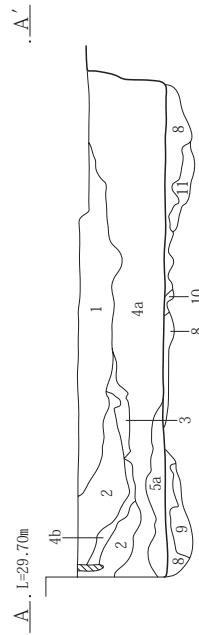
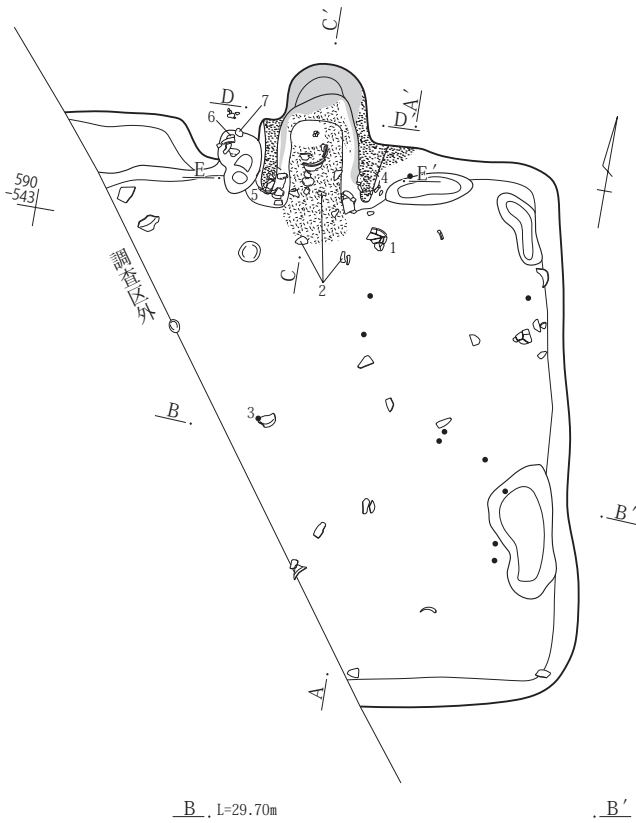
埋没土層 いろいろな土塊の混土によって埋没しているので、自然埋没とは考えられない。中層に灰、焼土の薄い層(3、6層)が堆積しているのが目立つ。焼土は下層の土(4層)にも含まれ、壁近くにも見られる(B-B'セクションの東端)が、炭化材などの出土はないので、本住居が焼失家屋であるとは考えられない。埋没が始まった頃に周辺で何かが燃え、その後燃え跡の周囲にあった土によって一気に埋められたものと思われる。

壁高 59～68cm。北壁の竈西側は73cmであり、柵状の施設は床面から31～34cmの高さのところで作られている。

床面 細かい凹凸はみられるが、おおむね平坦である。

掘方 中央部は浅く、周辺部は深い。床面からの深さは、中央部は0～数cm程度であり、周縁部では10～20cmである。それらをロームを多く含む土で埋め戻し、床面を作っている。

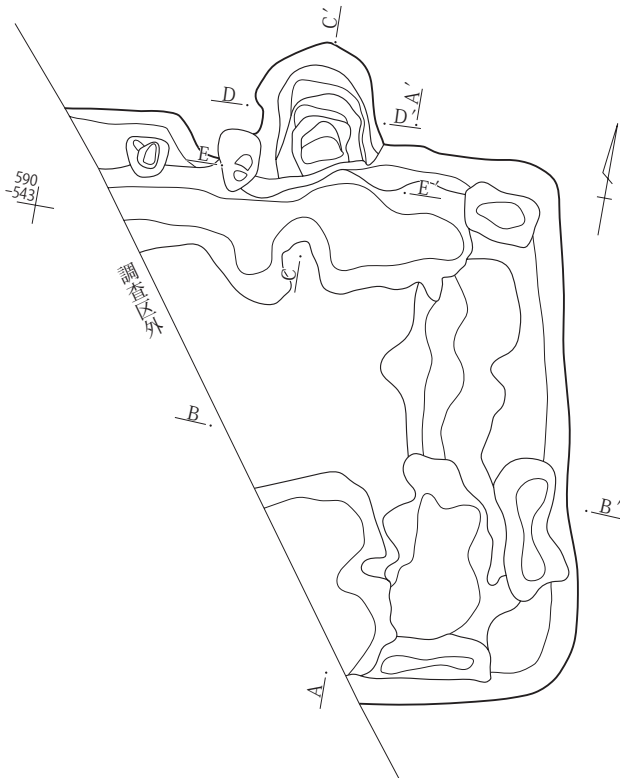
竈 北壁に設置している。両袖が良好に残る。両袖の先端には完形に近い土師器甕が倒立状態で据えられ、それを芯として灰黄色粘土を周りに貼り付け、袖が作られていた。燃焼部は壁をわずかに掘り込んだ位置までに収ま



2区32号竪穴住居

1. ローム粒・固いローム小中塊の混土。
2. ロームブロック・灰黄色粘土塊の混土。
3. 青灰色灰層
- 4a. ローム小中塊・暗褐色土塊・灰黄色粘土塊・焼土塊の混土。
- 4b. 4a層よりローム大きい。
- 4c. 4b層より焼土大きい。
- 5a. 暗褐色土 ローム小中塊斑に含む。
- 5b. 暗褐色土 焼土粒含む。
- 6a. 赤褐色焼土
- 6b. 6a層に灰黄色土含む。
7. 黄褐色土 ローム塊主体。
8. 褐灰色土 固いローム塊きわめて多く含む。
以下掘方。
9. 黄褐色土 固いローム塊を主体。
10. 黒褐色土 土質均一、しまり弱い。
11. 暗灰黄色土 黒褐色土主体にローム粒・小塊
含み、しまり弱い。

掘方



第121図 2区32号竪穴住居平断面図

るので、本体の大部分は住居内に作られていたようである。煙道部は壁外に張り出している。長さは袖の先端から計測して118cmであり、壁外には56cm張り出している。幅は両袖の外側で計測して115cm、燃烧部底面幅は42cmである。竈奥壁付近はよく焼土化し、燃烧部底面には灰・炭化物の層が堆積していた。

貯蔵穴 確認できなかった。

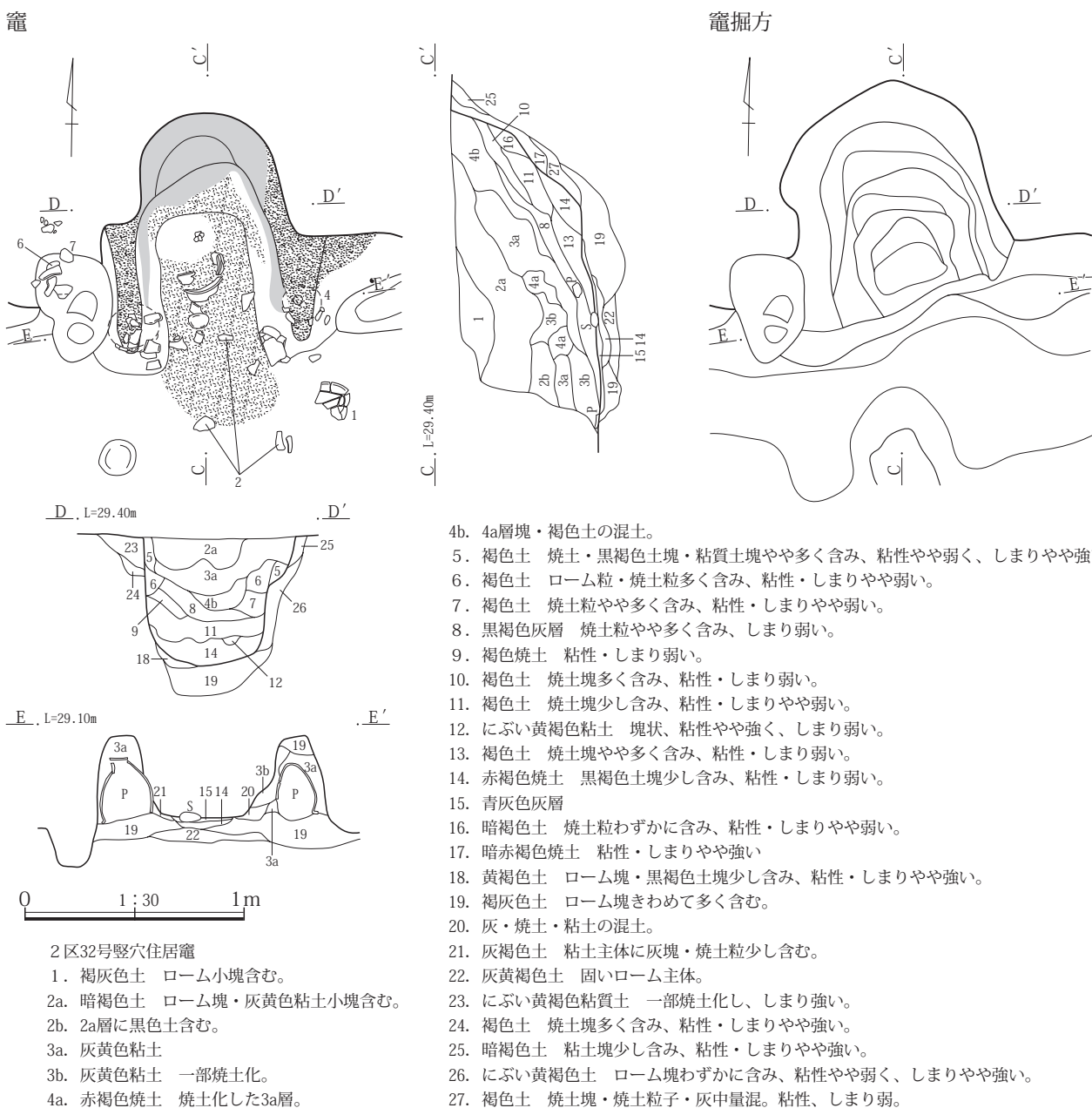
柱穴 確認できなかった。

周溝 床面で明確な周溝は確認できなかったが、竈東側や東壁中央付近にその痕跡のような凹みが見られたので、本来は廻っていた可能性がある。この断続的に見える周溝状の凹みは、幅17～25cm、深さ4～10cm程度の竈

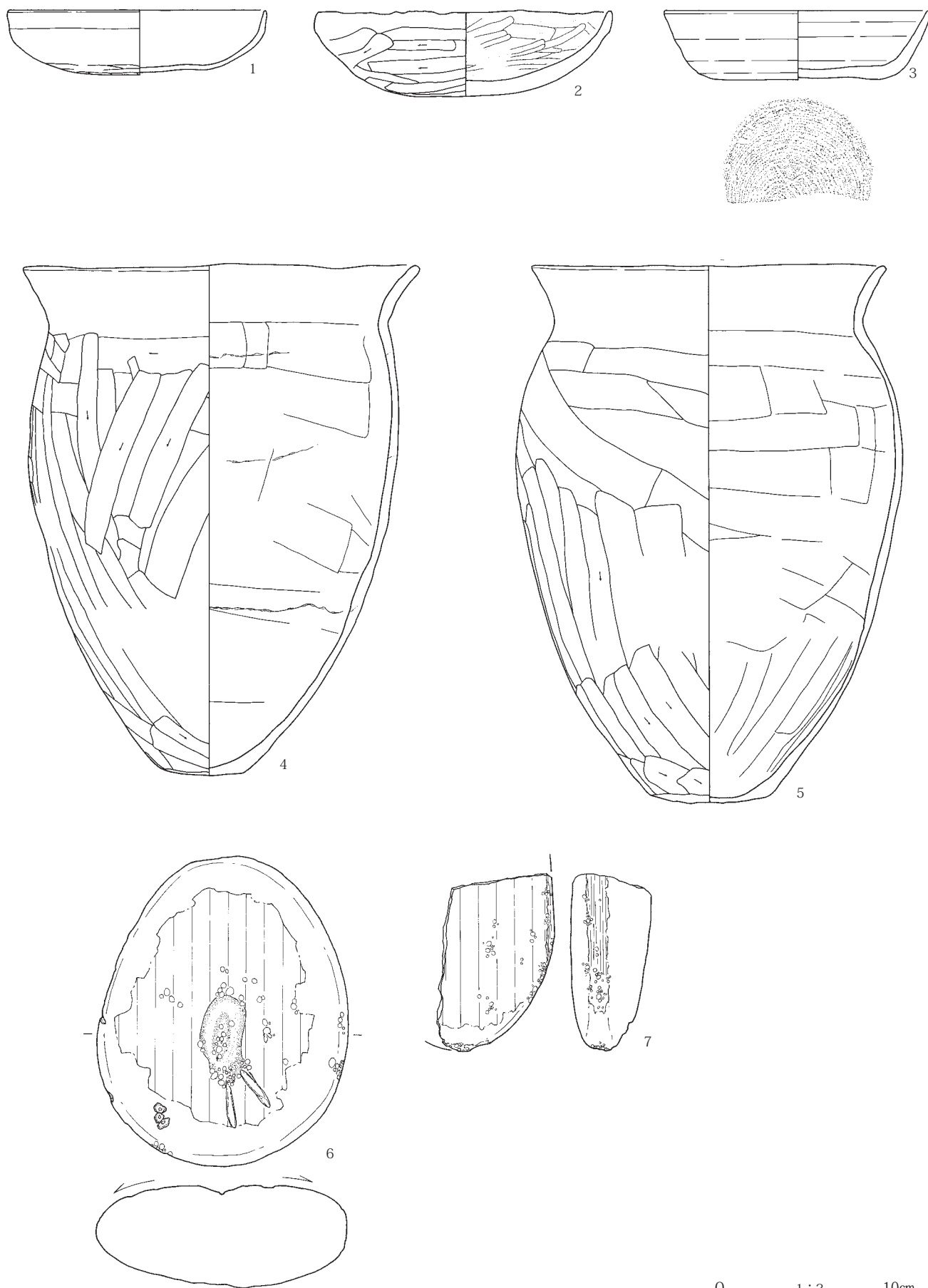
ものである。

遺物 遺物は竈付近に多く、それ以外は散在する程度である。掲載したのは土師器杯2点、同甕2点、須恵器杯1点、敲石1点、用途不明石製品1点である。5の甕は竈左袖、4は竈右袖の中に芯材として据えられていたものである。1の土師器杯は竈右前の床面直上から、2は竈内から出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)155点、同(大)2,881g、須恵器(小)176g、同(大)58gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第4四半期の住居であると思われる。



第122図 2区32号竪穴住居竈平面断面図



0 1:3 10cm

第123図 2区32号竪穴住居出土遺物

2区34号竪穴住居(第124図、PL.52-4・5)

調査区北部にある。北東側の大部分が調査区外となり、調査区内に掛かっているのは南西壁とその周辺のわずかな部分だけである。

位置 X=30682～685、Y=-36581～583。

重複遺構 2区2号溝と重複する。本遺構が古い。

形状 北東側の大部分が調査区外となるため詳細は不明であるが、南西辺は直線的であり、その両端の隅部はほぼ直角になっているので、全体の形は方形であると思われる。

主軸方位 南西辺の方向はN-31°-Wである。

規模 北西-南東方向は、南西壁近くを計測すると2.95mである。

床面積 調査できた範囲が狭いので、計測不能である。

壁高 調査できた範囲内では48～56cmであるが、調査

区壁では65cm残っている。

埋没土層 細かく分層できる。下層の堆積が不自然であり、人為的に埋められている可能性が高い。

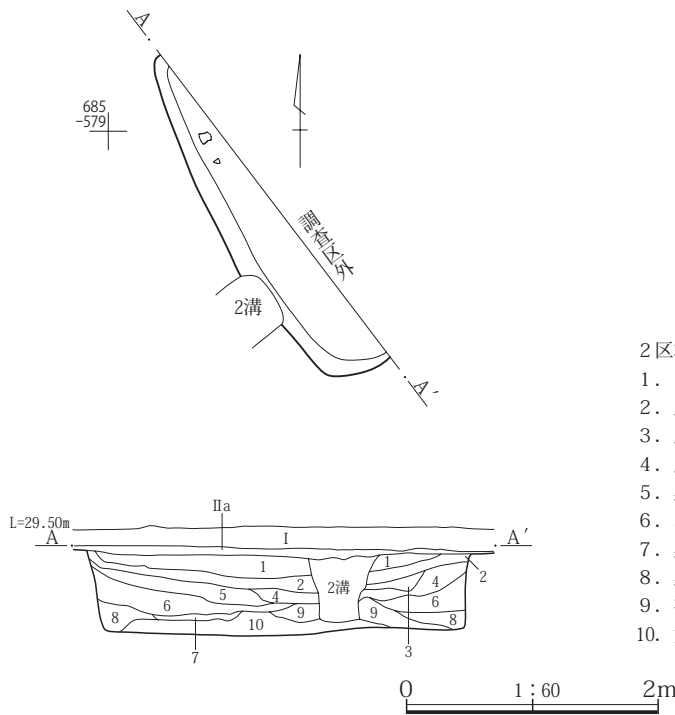
床面 細かい凹凸が見られるものの、おおむね平坦である。

竈・貯蔵穴・柱穴 確認できなかった。あるとすれば調査区外となる。

周溝 調査範囲内では確認できなかった。

遺物 遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)8点・45g、同(大)163g、須恵器(小)2点・8g、同(大)1点・10gしかない。

時期と所見 出土遺物が少ないので時期の特定は困難であるが、わずかに出土した土器は9世紀代のものである。



2区34号竪穴住居

1. にぶい黄褐色土 白色軽石・ローム粒含み、マンガン沈着少し。
2. 灰黄褐色土 ローム粒少し含み、マンガン沈着多い。
3. 灰黄褐色土 ローム中塊きわめて多く含む。
4. 灰オリーブ色土 ローム粒・小塊少し含み、マンガン沈着少し。
5. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一、マンガン沈着少し。
6. オリーブ黒色土 ローム粒・小塊わずかに含む。
7. 黒色土
8. 黒褐色土 土質均一。
9. 褐灰色土 ローム中塊多く含む。
10. 黄灰色土 ローム粒・中塊少し含む。

第124図 2区34号竪穴住居平断面図

3.3区

3区では竪穴住居を18軒調査した。3-1区北西部から3-2区南西部にかけて4軒(1・2・17・18号竪穴住居)分布する以外はすべて3-3区(一部3-2区北端部)にある。重複する住居は少なく、わずかずつ離れているものがほとんどである。上面は削平されているようで、壁の高さが低いものが多い。

3区1号竪穴住居(第125・126図、第43表、PL.53-1～3,124)

3-1区北端中央にあり、北側の一部が調査区外となる。

位置 X=30694～697、Y=-36612～617。

重複遺構 3区1～3号溝、1号土坑と重複し、本遺構が古い。

形状 北東隅が調査区外となるが、調査区内の部分からみて東西に長い長方形である。ただし、北辺と南辺の方向が平行ではなく、東に向かって開くように見えるので、東辺がやや長い台形状になるものと思われる。

主軸方位 N-87°-E。

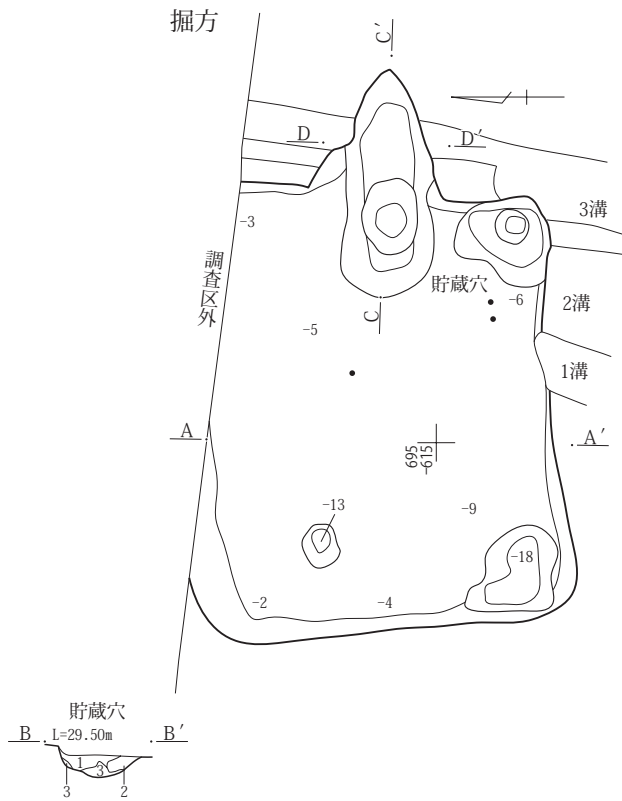
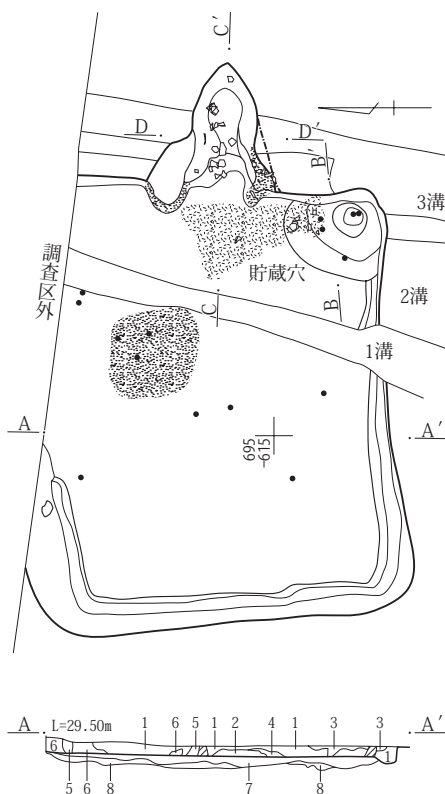
規模 長軸は竈の北側で計測して3.62m、短軸は西辺から1m東の、全体が調査区内となるぎりぎりのところで計測して3.02mである。

床面積 調査区外となる部分を推定復元して9.02㎡である。

埋没土層 底部付近しか残っていない。大部分は黄褐色土で埋没している。

壁高 北壁は15～18cm。西～南壁は7～11cmである。

床面 細かい凹凸はあるものの、おおむね平坦である。中央やや北寄りには、径70～90cmの範囲に粘土が薄く堆積していた。

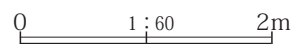


3区1号竪穴住居

1. 黄褐色土 ローム粒わずかに含む。
2. 暗灰黄色土 ローム粒・小塊少し含む。
3. 黄灰色土 土質均一、ローム粒・ローム小塊含む。
4. にぶい黄色土 くすんだローム粒・塊主体。
5. 黄灰色土 ローム粒・小塊少し含む。
6. 黄褐色土 くすんだローム粒・固いローム小塊含む。
7. 暗オリーブ褐色土 ローム粒・小塊きわめて多く含む。掘方。
8. 固いローム中塊と7層の混土 掘方。

3区1号竪穴住居貯蔵穴

1. オリーブ黒色土 焼土粒・ローム粒少し含む。
2. オリーブ黒色土 ローム大塊少し含む。
3. 黄褐色土 くすんだローム・ローム塊主体。



第125図 3区1号竪穴住居平断面図

掘方 全体に床面から2～9cmの深さがある。一部深く掘られているところがある以外はほぼ平坦であるが、底面には細かい凹凸がある。

竈 東壁中央やや南寄りに設置している。袖の基部がかろうじて残る程度であるが、燃烧部は住居内にあり、煙道が外に延びる構造であると思われる。本体は灰白色粘土で構築されていたらしい。長さは袖の先端から計測して118cmであり、そのうちの98cmは壁外である。幅は両袖の外側を計測すると100cm、燃烧部底面では44cmである。竈内面の焼土化は弱い。灰・炭化物が竈前に散っていた。

貯蔵穴 南東隅にある不整形の小土坑が貯蔵穴と思われる。長さ90cm、幅60cmで、深さは最も深いところで24cm

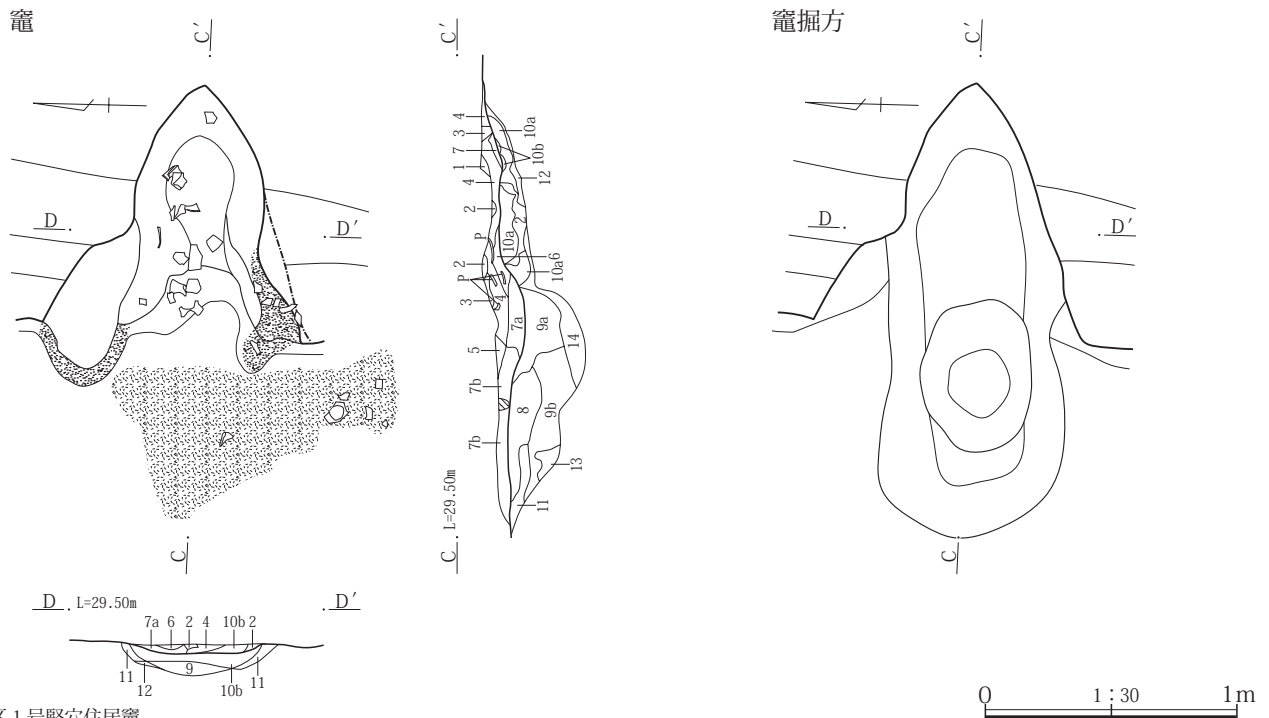
である。

柱穴 確認できなかった。掘方の調査では北西隅付近にピットを一基見つけたが、床面からの深さが13cmと浅いので、柱穴とは思えない。

周溝 北壁西部から西壁、南壁に掛けて存在する。幅11～45cm、深さ2～11cmである。

遺物 遺物の出土は少ない。掲載したのは須恵器杯1点のみである。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)117g、同(中)191g、同(大)832g、須恵器(小)7点・68gがある。

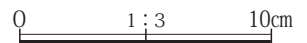
時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、9世紀後半の住居であると思われる。



3区1号竪穴住居竈

1. 灰オリブ色土 ローム粒を多く含み、焼土粒をわずかに含む。
2. 灰白色粘土 炭化物少し含み、固くしまる。
3. 暗灰黄色土 土質均一。
4. 暗灰黄色土 粘土・ロームの混土主体に焼土粒わずかに含む。
5. 灰黄褐色土 焼土粒少し含む。
6. 黒褐色土 灰多く含み、焼土小塊少し含む。
- 7a. 灰黄褐色土 焼土粒多く含み、灰少し含む。
- 7b. 灰黄褐色土 粘土・焼土塊きわめて多く含む。
8. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒を少し含む。
- 9a. 灰オリブ土 くすんだローム・ローム塊主体に8層斑に含む。
- 9b. 灰オリブ土 9a層主体に焼土塊少し含む。
- 10a. オリブ黒色土 焼土粒わずかに含む。
- 10b. オリブ黒色土 焼土粒・塊少し含む。
11. 明黄褐色土 ローム主体。
12. オリブ黄色土 くすんだローム主体に焼土粒わずかに含む。
13. 明黄褐色土 固いローム塊主体。
14. くすんだソフトローム・黒褐色土との混土

第126図 3区1号竪穴住居竈平面断面図、出土遺物



3区2号竪穴住居(第127・128図、第43表、PL.53-4・5)

3-1区西端にある。この部分は調査区が狭いため3方向が調査区外となり、竈を含めた東壁とその周辺のごく一部が調査区内に掛かっているにすぎない。

位置 X=30695~698、Y=-36622~624。

重複遺構 なし。

形状 南・北・西の3辺が調査区外となるため不明であるが、東壁は直線的であり、方形であることは確実である。

主軸方位 竈がある東辺と直角の方位を主軸方位とすると、N-85°-Eである。

規模 3辺が調査区外なので計測不能である。調査区内の東辺の長さは2.60mである。

床面積 調査区内に掛かるのはごく一部なので計測不能である。

埋没土層 細かく分層できる。底面に灰層(A-A'セクションの5層)が堆積しているのが目を引く。

壁高 遺構を確認した面からは1~4cmとごく低い。

床面 調査できたのは竈周辺のごくわずかな部分であるが、緩やかな凹凸があり、平坦ではない。

掘方 東辺に沿った南側を深く掘っているほか、北側にも土坑状に深い部分があるなど、全体的に凹凸が激しい。その内側になる部分は掘方がほとんどなく、地山を直接床面としている部分が多い。

竈 東壁に設置している。底面近くのわずかな部分しか残っていないので詳細は不明だが、袖は右側の基部だけがかろうじて残っている。燃烧部は住居内から壁をわずかに掘り込んだ位置にあり、そこから煙道が壁外に延びる形態であると思われる。本体を構築していた粘土はほとんど残っていなかった。長さは袖の先端から計測して70cm、幅は右袖外側から左側の壁までを計測すると92cm、燃烧部底面幅は30~45cmである。内面の焼土はほとんどなく、燃烧部底面から右外側にかけては灰・炭化物が散っていた。竈前の床面から1の土師器甕がつぶれた状態で出土した。

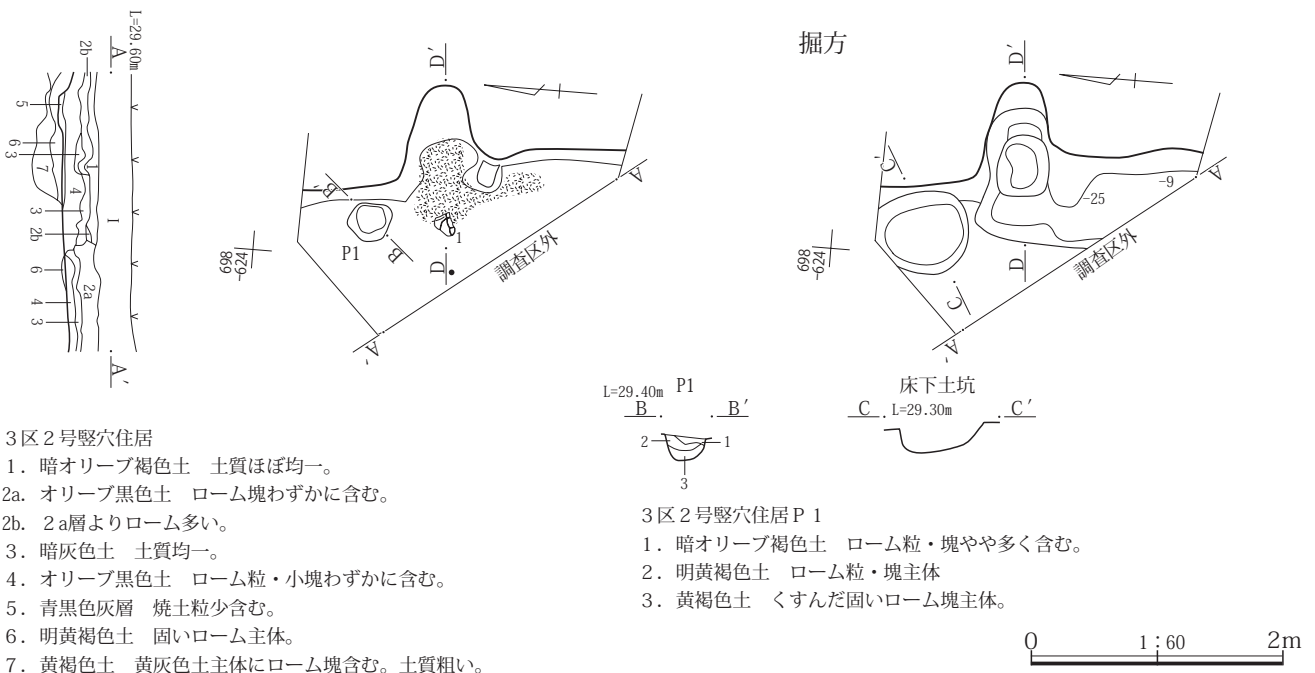
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 竈左脇に1基のピット(P1)を確認したが、位置から見て柱穴とは思えない。大きさは長径36cm、短径30cmであり、深さは17cmである。

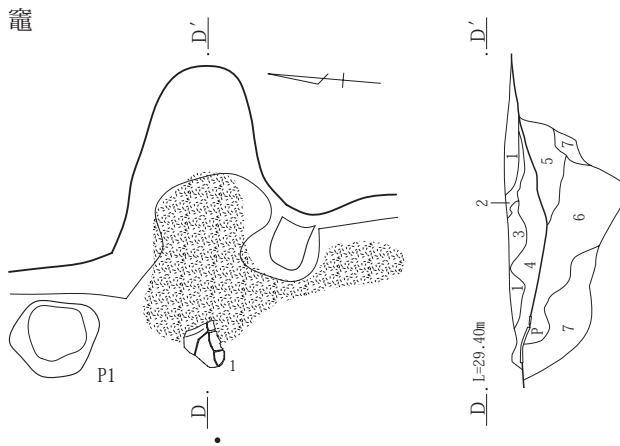
周溝 確認できなかった。

遺物 出土遺物はごく少ない。掲載したのは土師器甕1点のみであり、竈前の床面から出土した。小破片であるために掲載しなかったものも、須恵器(小)3点・26gしかない。

時期と所見 数が少ないが出土遺物からみて、8世紀第4四半期の住居であると思われる。竈周辺のごく一部しか調査できなかったため、詳細は不明なところが多い。

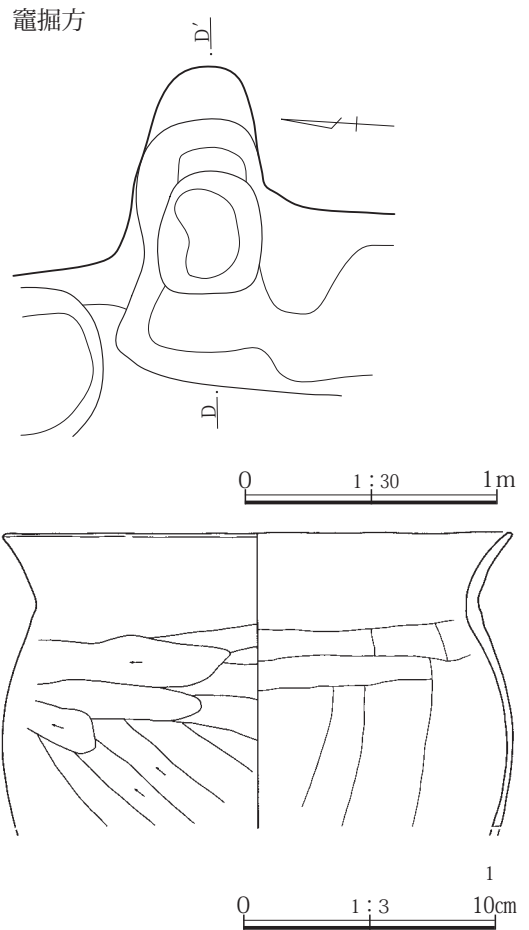


第127図 3区2号竪穴住居平断面図



3区2号竪穴住居竈

1. 灰黄褐色土 ローム粒・焼土粒少し含む。
2. 黄褐色土 くすんだローム主体に焼土粒少し含む。
3. 褐色土 焼土粒多く含む。
4. 暗灰色土 灰・ローム粒・焼土粒含む。
5. 暗オリーブ褐色土 くすんだローム少し含む。
6. 黒褐色土 ローム塊少し含む。
7. にぶい黄色土 ローム大塊きわめて多く含む。



3区3号竪穴住居(第128・129図、第43表、PL.53-6・7)

3-3区の北端近くにある。上面を削平され、壁は北東部しか残っていない。南西側は床面も削平されている部分があるため、床面の広がりから外形を復元し、その形を平面図に破線で示した。

位置 X=30754~760、Y=-36638~644。

重複遺構 なし。

形状 北東壁の長さや床面・遺物の広がりから、北東-南西方向に長い長方形と考えられる。

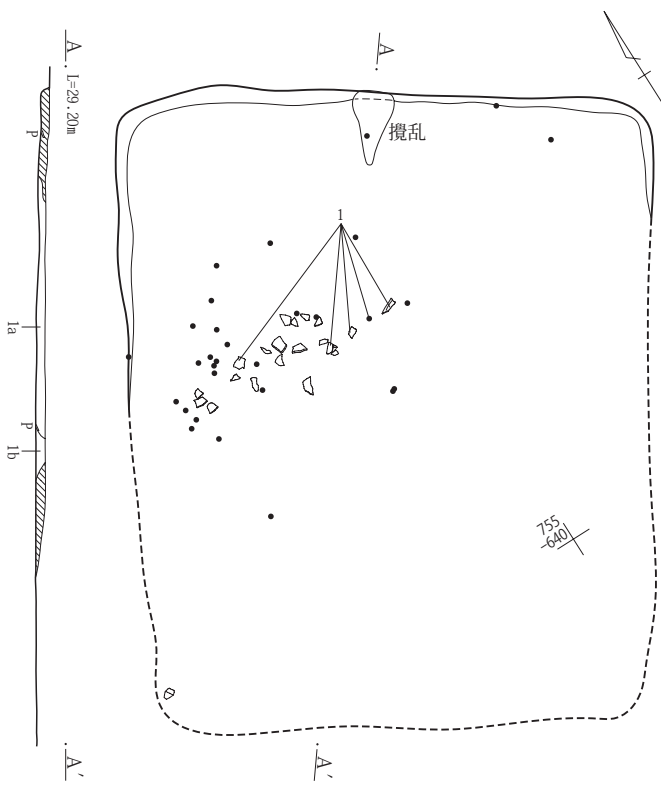
主軸方位 N-33°-E。

規模 長軸は推定で5.00m、短軸は調査できた範囲で計測して4.26mである。

床面積 平面図に破線で示した推定範囲を計測すると19.92㎡である。

埋没土層 底面近くの褐色土しか残っていないので、詳細は不明である。

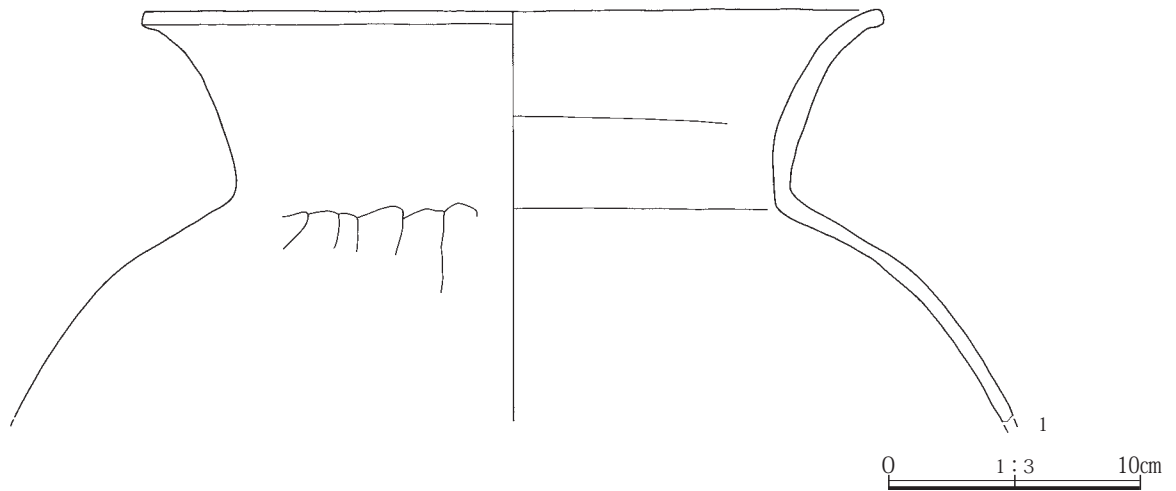
壁高 壁は北東辺とその周辺の一部だけが残り、その部分で計測すると0~10cmである。



3区3号竪穴住居

- 1a. 褐色土 ローム小塊含み、粘性ややあり。
- 1b. 1a層より塊大きめ。

第128図 3区2号竪穴住居竈・3号竪穴住居平断面図、2号竪穴住居出土遺物



第129図 3区3号竪穴住居出土遺物

床面 ほぼ全体が地山を直接床面としている。

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

遺物 床面中央やや北西寄りの径約2mの範囲に土器片が散っていたが、接合できたものは少なく、掲載したのは土師器甕1点のみである。小破片であるために掲載しなかったものも土師器甕・壺類の破片ばかりで、その総重量は1,575gである。

時期と所見 出土遺物が少ないので時期の特定は困難であるが、遺物の年代は7世紀前半のものである。

3区4号竪穴住居(第130～133図、第43・44表、PL.54,55-1～3,124～126)

3-3区の北部東側にある。北東部が調査区外となる。

位置 X=30749～755、Y=-36630～635。

重複遺構 なし。

形状 北東部の大半が調査区外となるが、調査区内の形状から見て方形であると思われる。

主軸方位 竈の位置が不明なので確定できないが、南西壁の方位を主軸方位と想定するとN-21°-Wである。

規模 想定した主軸方向(北西-南東)は6.02mである。

床面積 調査区内の床面を計測すると13.87㎡である。

埋没土層 主に暗褐色土、くすんだ黄褐色土で埋没する。ごくわずかではあるが、中層に灰白色軽石の堆積が見られるのが目を引く。

壁高 南半は残りがよく19～22cm、北半は8～18cmである。

床面 わずかな傾斜ではあるが、壁近くが高く、中央部に向かって低くなっている。

掘方 壁に沿って幅約50cmの範囲は高く、その内側は低くなっている。床面の高さがそれと同様に壁近くが高く中央部が低くなっているのは、この掘方の高低差が影響したものと思われる。

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 北西隅(P1)と南西隅(P2)とに1基ずつのピットを確認した。その位置から支柱穴であり、3区12号・15号のような4本柱の構造であると思われる。それぞれの規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

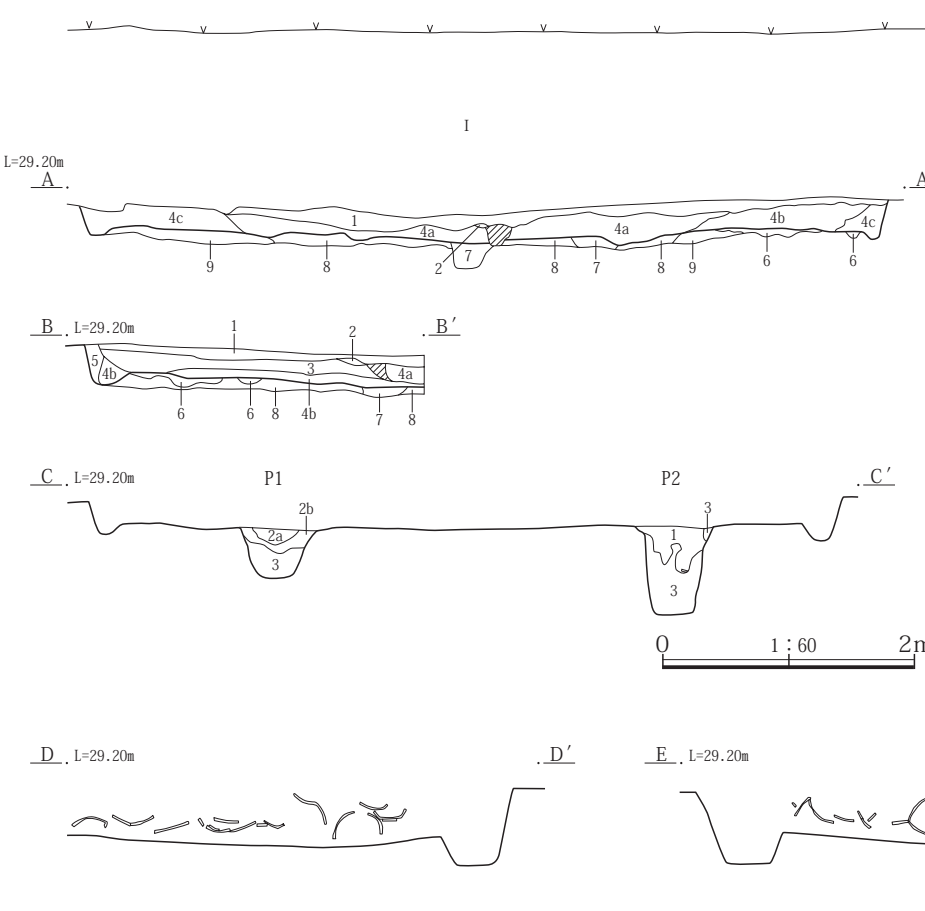
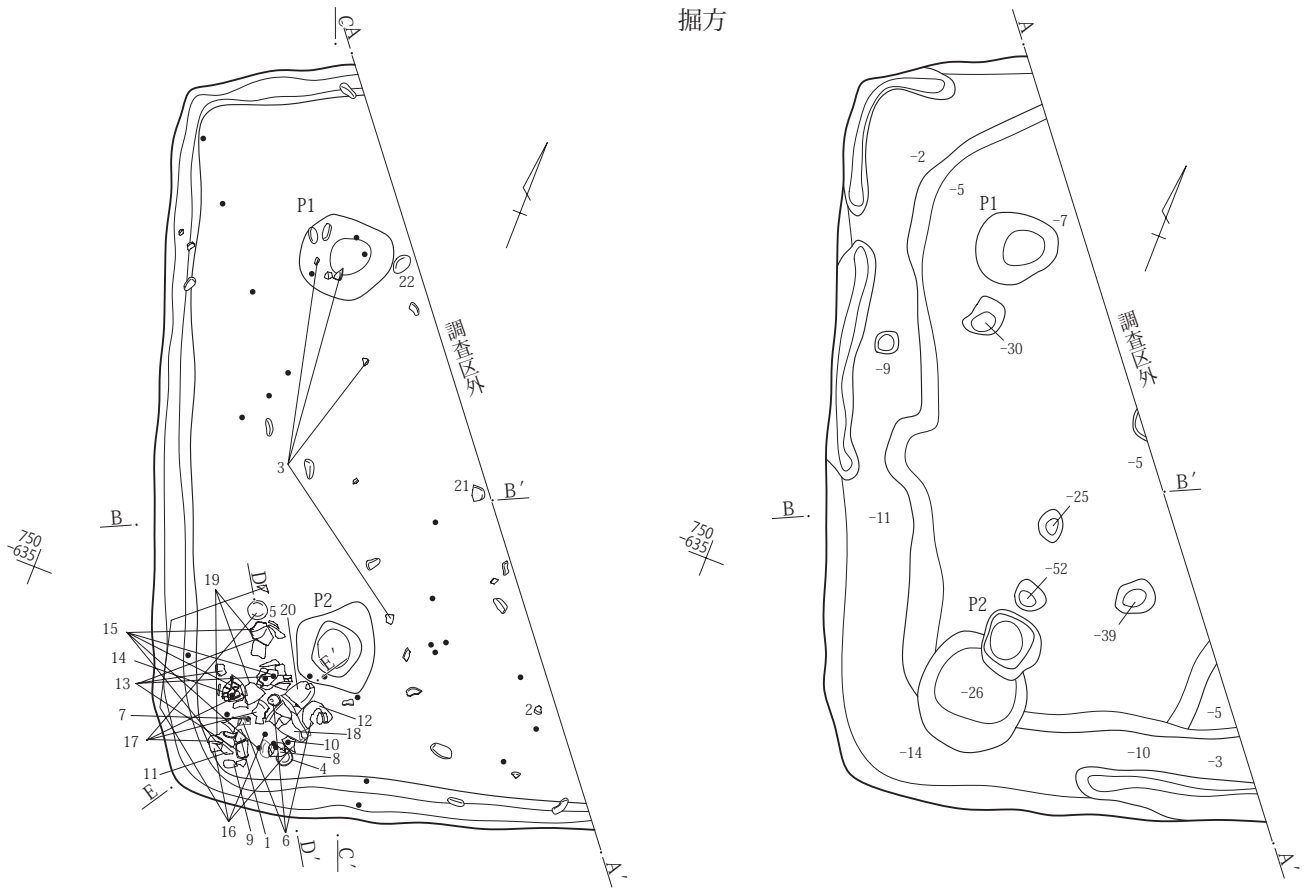
P1 74×62×69 P2 76×63×39

周溝 調査区内では全周する。幅17～36cm、深さ2～11cmである。

遺物 数多くの遺物が出土している。特に南西隅には、完形ないし完形に近い土器を中心として、多くの遺物が集中していた。それらは床面直上～19cmの高さの中に分布している。掲載したのは、土師器杯5点、同鉢5点、同甕1点、同小型甕1点、同甕7点、同壺1点、砥石1点、敲石1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)216g、同(中)800g、同(大)660g、須恵器(小)1点・4gがある。

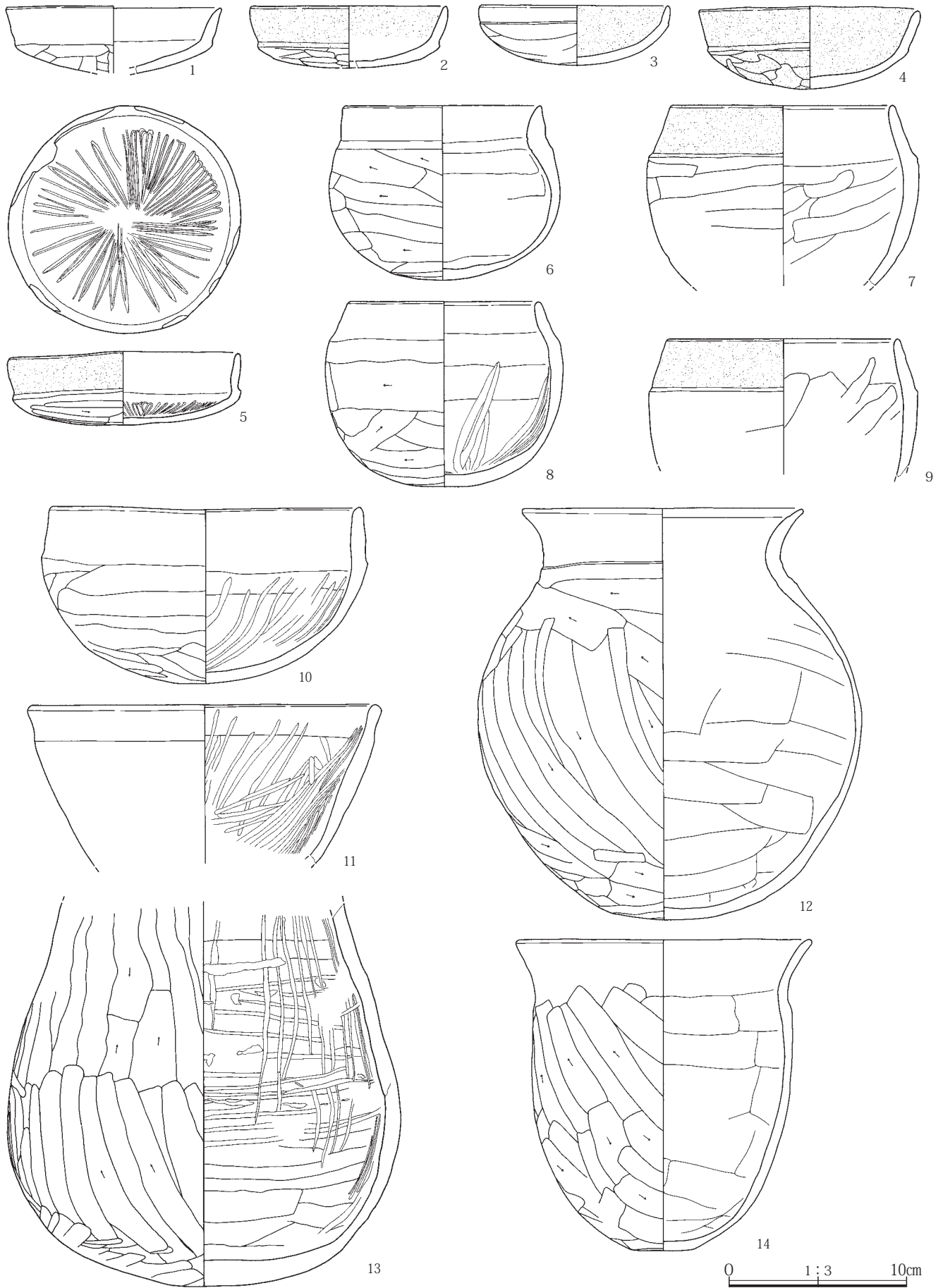
時期と所見 出土遺物からみて、7世紀前半の住居であると思われる。

掘方

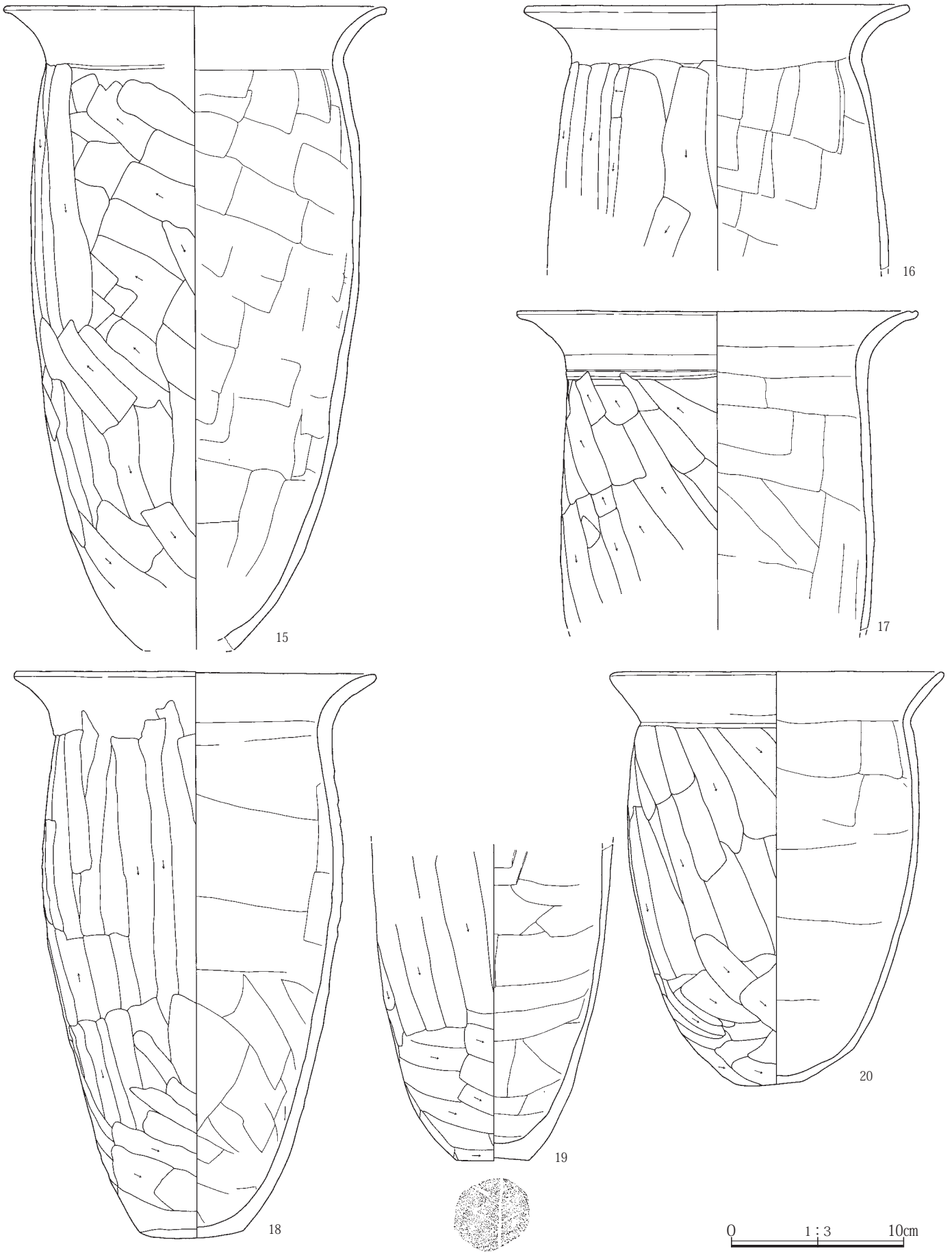


- 3区4号竪穴住居
1. 褐色土 粘性強い、洪水堆積土。
 2. 灰白色軽石
 3. 暗褐色土 ローム粒・炭粒含む。
 - 4a. くすんだ黄褐色土 くすんだローム 主体にローム小塊含む。
 - 4b. 4a層よりやや暗い。
 - 4c. 4a層よりやや暗く、塊大きめ。
 5. くすんだローム・ローム塊の混土。
 6. 黒褐色土・ローム小塊の混土。
 7. くすんだローム・ローム小塊の混土、しまり弱い。
 8. ローム粒・塊の混土、くすんだロームわずかに含む。
 9. 明黄色土 ローム主体。
- 3区4号竪穴住居P1・2
1. 黒色土 ローム小塊少し含む。
 - 2a. くすんだ黄褐色土 くすんだローム 主体に黒色土を含み、ローム塊多く含む。
 - 2b. 2a層よりローム多い。
 3. 黄褐色土 ローム小中塊多く含み、しまり弱い。

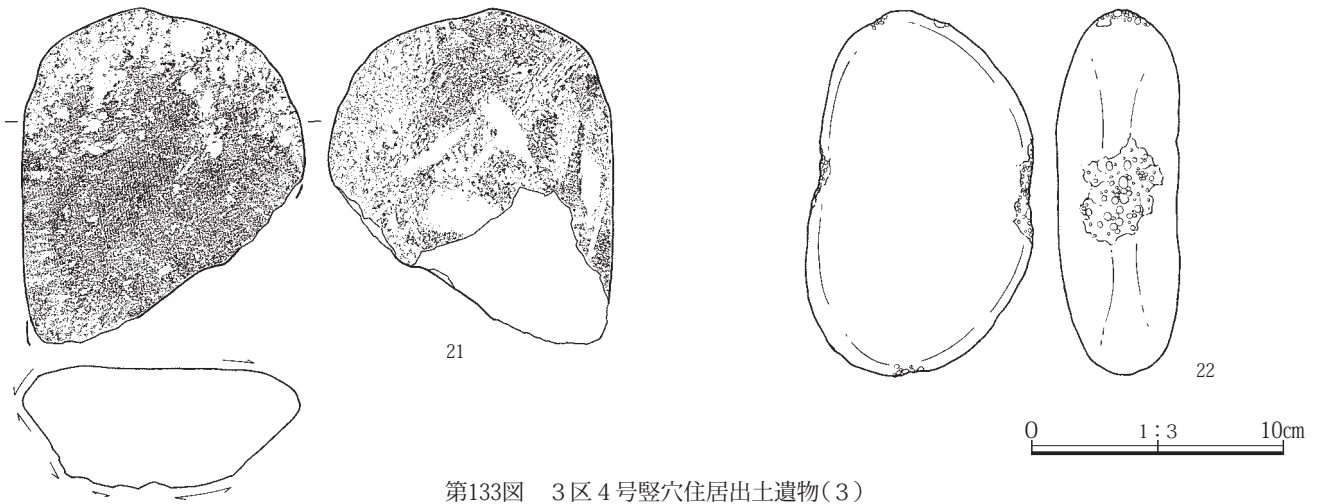
第130図 3区4号竪穴住居平断面図



第131図 3区4号竪穴住居出土遺物(1)



第132図 3区4号豎穴住居出土遺物(2)



第133図 3区4号竪穴住居出土遺物(3)

3区5号竪穴住居(第134図、PL.55-4)

3-3区北東部にある。調査区には南西隅近くのわずかな部分しか入っておらず、しかも南側には土坑が重複しているので、調査できたのは小面積にとどまる。

位置 X=30745～747、Y=-36627～629。

重複遺構 3区13号土坑と重複している。本遺構が古い。

形状 北東側の大半が調査区外となるため詳細は不明だが、南西隅の形状から見て方形と推定される。

主軸方位 西辺の方向を計測するとN-7°-Wである。

規模 ごく一部の調査なので計測不能である。

床面積 ごく一部の調査なので計測不能である。

埋没土層 断面図に見られるようにこの部分の表土は厚いが、深くまで攪乱が及んでおり、住居の上面は削平されている。そのため最下層の褐色土しか残っていない。

壁高 5～8cmである。

床面 調査できた範囲内ではおおむね平坦である。

掘方 調査できた範囲内ではほぼ全域で地山を直接床面としている。

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 調査できた範囲内には全周している。幅20～33cm、深さ5～12cmである。

遺物 出土遺物は土師器(大)のごく小さな破片が1点あるだけであり、掲載できるものはない。

時期と所見 良好な出土遺物がないので時期の特定は困難であるが、方形という形状からみて、周囲の住居と同様、7世紀～9世紀のものであろう。

3区6号竪穴住居(第135図、PL.55-5)

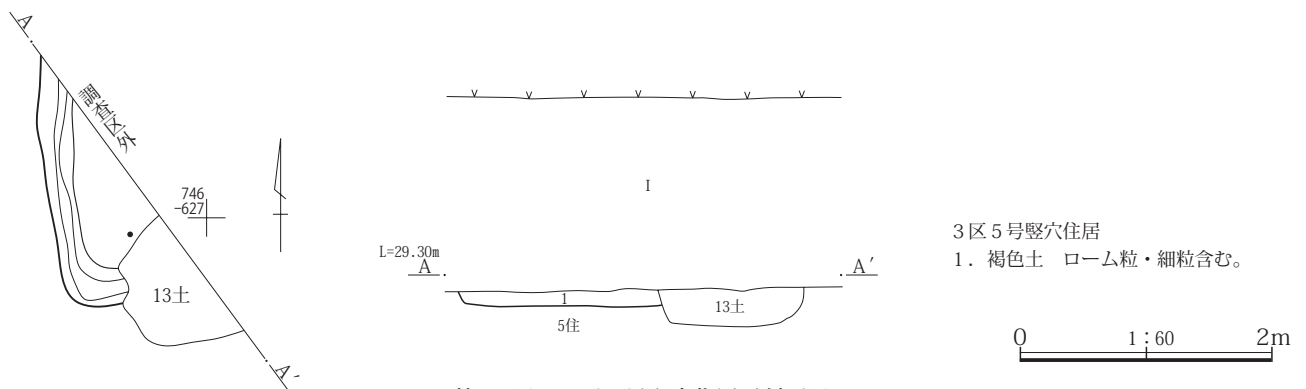
3-3区中央東にある。調査区内には南西隅とその周辺がかかっているだけなので詳細は不明な点が多い。

位置 X=30740～744、Y=-36623～626。

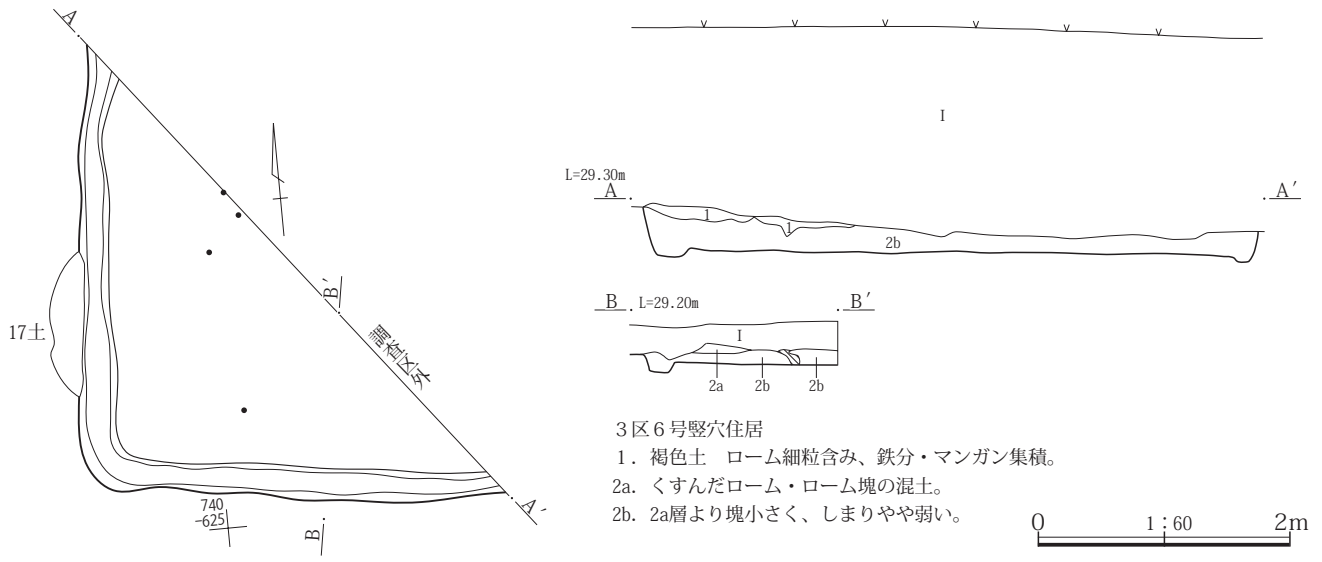
重複遺構 3区17号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 東側の大半が調査区外となるため不明である。西辺・南辺は直線的でほぼ直角に交わるため、方形であることは確実である。

主軸方位 竈の位置が不明なので主軸を確定することは



第134図 3区5号竪穴住居平断面図



第135図 3区6号竪穴住居平断面図

できない。南辺の方向を計測するとN-84°-Wである。

規模 南西隅とその周辺しか調査できなかったので計測不能であるが、調査区内の長さを計測すると南辺3.40m、西辺3.53mなので、それぞれそれ以上の規模となる。

床面積 調査区内の部分計測すると5.78㎡である。

埋没土層 5号竪穴住居と同様、この部分の表土は厚いが、深くまで攪乱が及んで上面が削平されているため最下層しか残っていない。それらはロームとローム塊の混土であった。

壁高 攪乱によって削平されているところを除いて23～33cmである。

床面 ほぼ全体が地山を床面としており、おおむね平坦である。

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 調査できた範囲内では全周する。幅17～30cm、深さ4～12cmである。

遺物 出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)1点・16g、同(大)5点・55g、須恵器(小)1点、20gしかない。

時期と所見 出土遺物がわずかなので、時期の特定は困難であるが、10世紀代のものと思われる。

3区7号竪穴住居(第136図、第44表、PL.55-6～8,126)

3-3区中央東側にある。全体が調査区内に入り重複する遺構もないが、上面が削平されて残りはよくない。

位置 X=30735～740、Y=-36622～627。

重複遺構 なし。

形状 東西にやや長い長方形である。

主軸方位 N-95°-E。

規模 中央付近で計測して、長軸方向は4.64m、短軸方向は4.10mである。

床面積 16.88㎡である。

埋没土層 上面が削平され最下層しか残っていないため詳細は不明である。さらに北壁中央付近など、部分的に浅い攪乱が入り、床面近くまで削られているところがある。

壁高 0～9cm。

床面 おおむね平坦である。

竈 東壁中央南寄りに設置している。この部分は削平がやや深かったため床面まで削られてなくなっており、掘方部分しか残っていなかった。長さは燃焼部に掘られた浅い土坑の先端から計測すると86cm、壁への掘り込みは62cmである。幅は壁の上端で計測して80cmである。焼土や灰・炭化物は少ない。

貯蔵穴 確認できなかった。

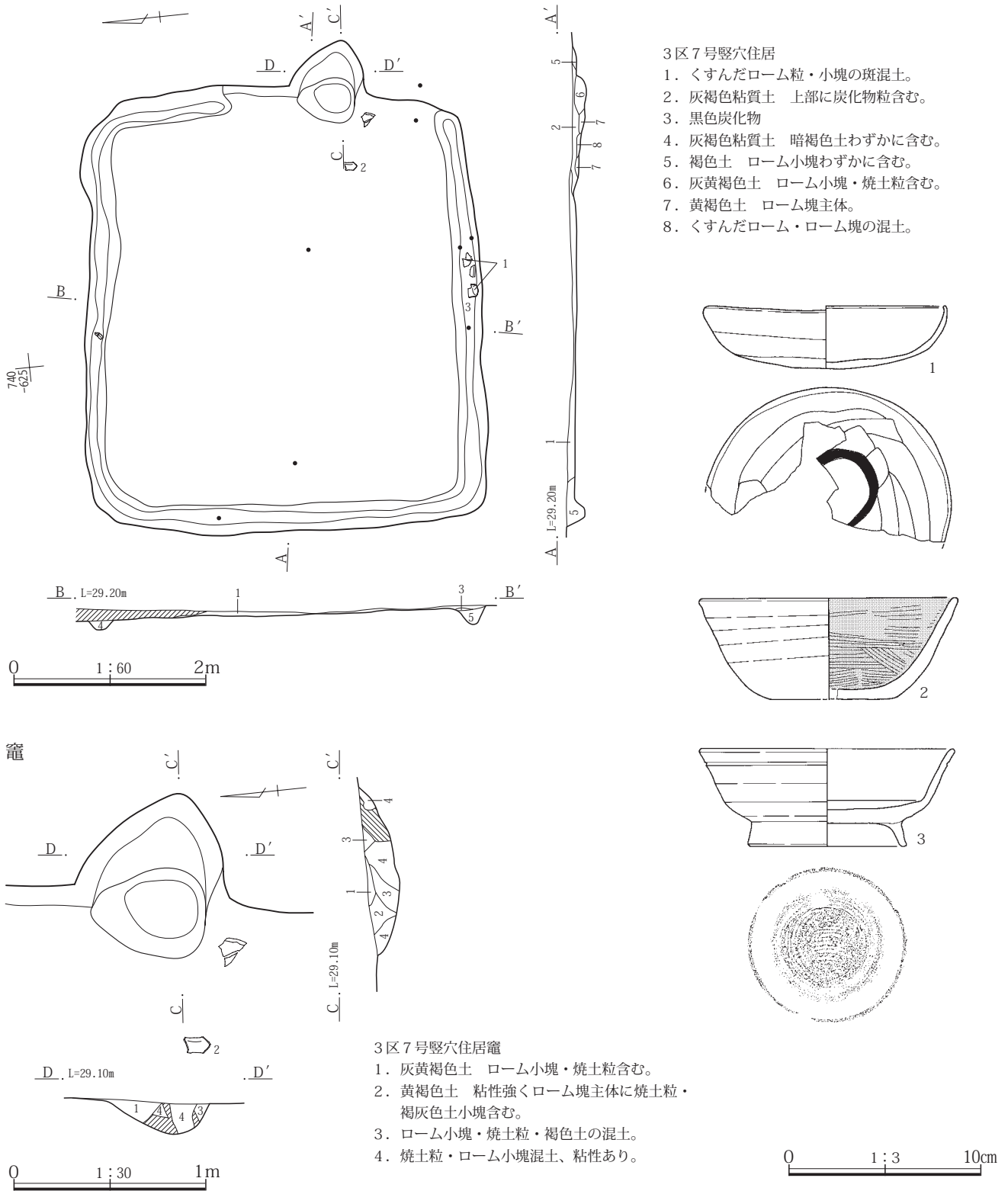
柱穴 確認できなかった。

周溝 竈付近を除いて全周している。幅20～34cm、深さ2～15cmである。

遺物 出土遺物は少ない。土器のやや大きな破片は竈前と南壁際中央から出土した。掲載したのは土師器杯1点(墨書)、須恵器椀1点、黒色土器椀1点である。1の土師器杯と3の須恵器椀は南壁際中央の床面直上から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかった

ものには、土師器(小)87g、同(大)450g、須恵器(小)4点・43g、同(大)1点・75gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀前半の住居であると思われる。



第136図 3区7号竪穴住居平断面図、出土遺物

3区8号竪穴住居(第137・138図、第44表、PL.56,126)

3-3区中央やや北東にある。全体が調査区内にあり重複する遺構もないが、7号竪穴住居と同様上面を削平されている。

位置 X=30739~743、Y=-36628~632。

重複遺構 なし。

形状 東西に長い長方形である。

主軸方位 N-7°-W。

規模 中央付近で計測して長軸方向は3.90m、短軸方向は3.00mである。

床面積 10.65㎡である。

埋没土層 上面を削平されているため底部付近しか残っていない。その部分は主に灰黄褐色土と黄褐色土で埋没している。

壁高 5~15cm。

床面 全体が貼床構造の床面であり、固くしまっている。おおむね平坦である。

掘方 壁に沿って幅20~60cmの範囲は浅く、その内側は深く掘っている。それを暗褐色土やロームで埋め戻し、床面とする。

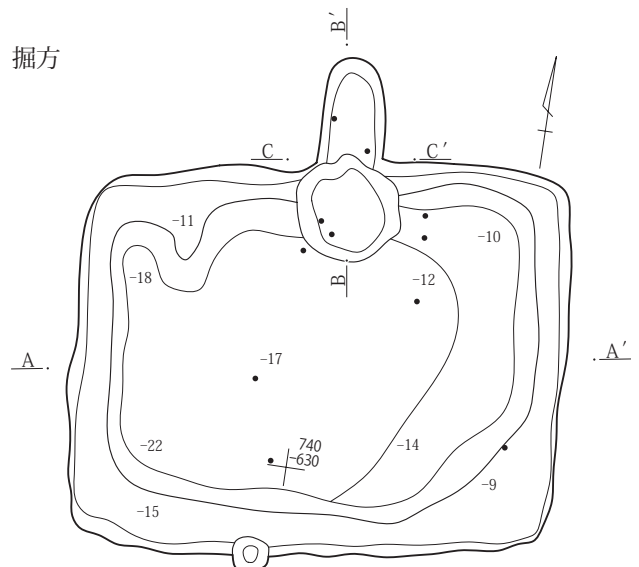
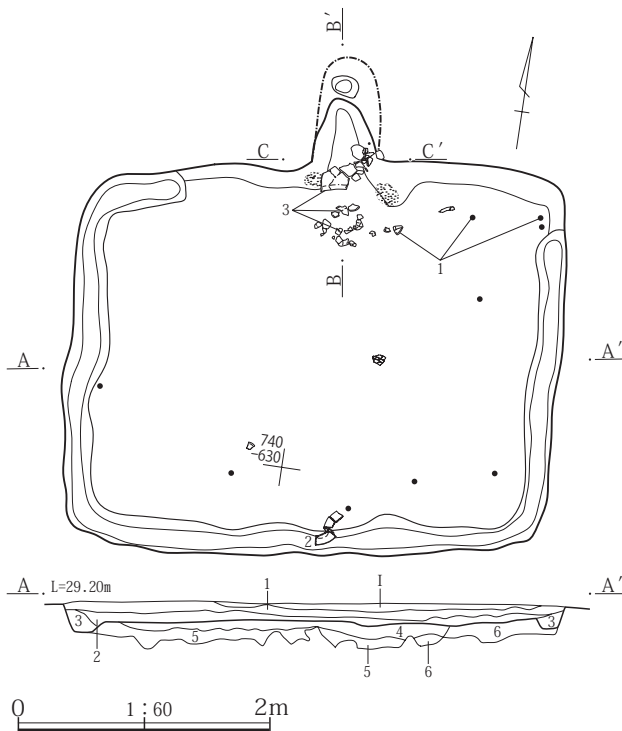
竈 北壁中央やや東寄りに設置している。両脇に袖の基部と思われる灰黄色粘土が残っていた。燃焼部の奥側は壁を掘り込んで作り、その先に煙道が延びる構造である。煙道部分の先端には小ピット(長径22cm、短径16cm、深さ9cm)がある。小ピットを含まない全体の長さは、袖の先端から計測して88cmであり、壁外には67cm張り出している。幅は袖基部の粘土の外側を計測すると90cm、燃焼部底面幅は32cmである。竈内と前面からは3の土師器甕がつぶれた状態で出土した。焼土や灰・炭化物は少ないが奥の壁の表面は焼土化し、燃焼部から竈前にかけては灰・炭化物が散っていた。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 竈のある北壁を除いて全周している。幅18~32cm、深さ4~10cmである。

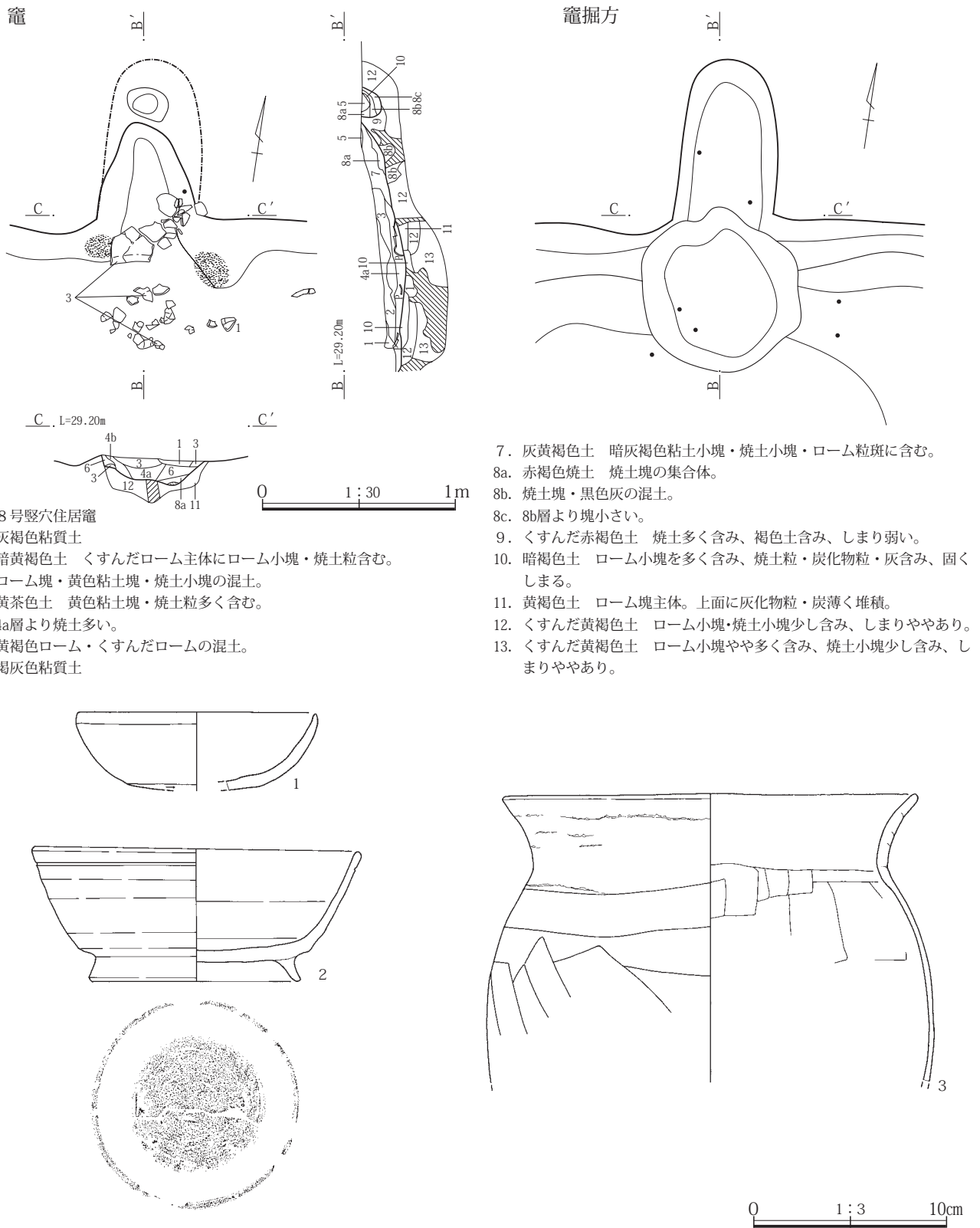
遺物 遺物の出土は少ない。やや大きな土器片は竈内とその前面の他、南壁際中央などに分布していた。掲載したのは土師器杯1点、同甕1点、須恵器椀1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)182g、同(大)835g、須恵器(小)1点・4g、



3区8号竪穴住居

1. 褐灰色土 ローム粒わずかに含み、粘性強い。
2. 褐色土 ローム小塊含み、炭化物粒・焼土粒わずかに含む。
3. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
4. 暗褐色土 ローム小塊含み、焼土粒わずかに含む。固くしまる。以下掘方。
5. 4層より塊大きく、しまり弱い。
6. くすんだローム・ローム塊の混土。

第137図 3区8号竪穴住居平断面図



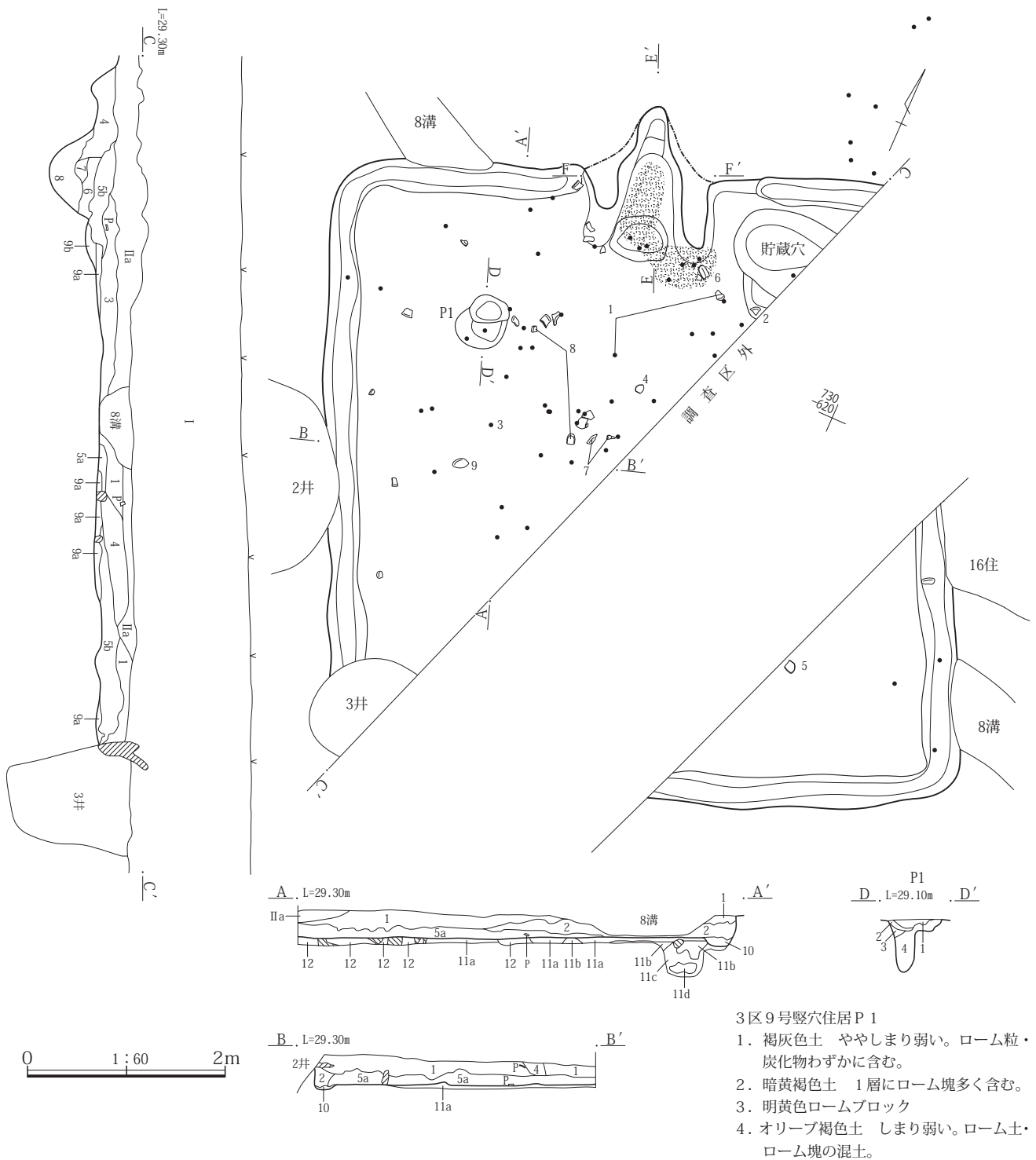
第138図 3区8号竪穴住居竈平面図、出土遺物

同(大) 1点・5gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第1四半期の住居であると思われる。

3区9号竪穴住居(第139～141図、第44・45表、PL.57,126)

3-3区東端と3-2区北端とにまたがった位置にあ



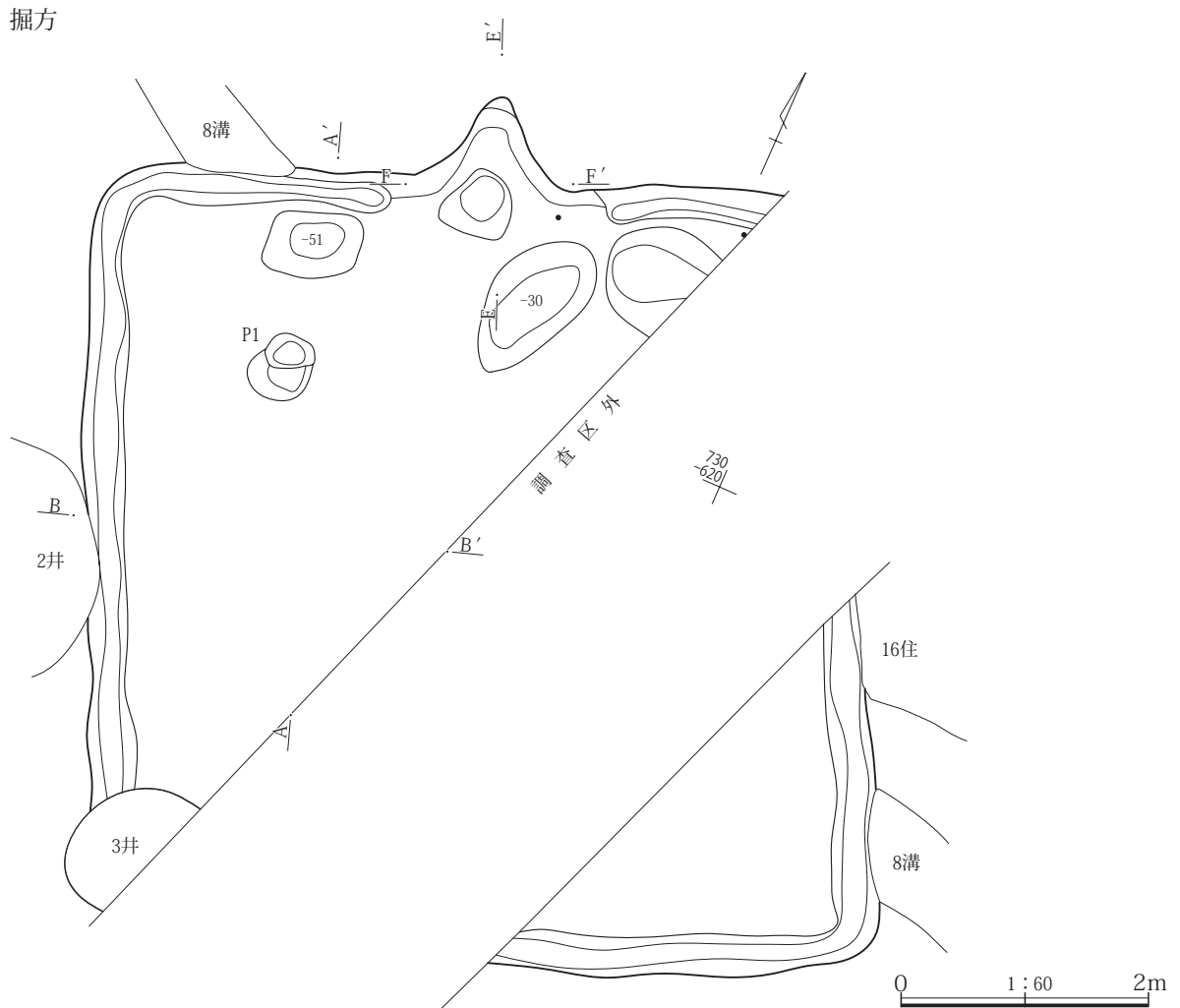
3区9号竪穴住居P1

1. 褐灰色土 ややしり弱い。ローム粒・炭化物わずかに含む。
2. 暗黄褐色土 1層にローム塊多く含む。
3. 明黄色ロームブロック
4. オリーブ褐色土 しり弱い。ローム土・ローム塊の混土。

3区9号竪穴住居

1. 黒褐色土 ローム細粒わずかに含み、しりやや強い。
2. 褐色土 くすんだローム粒・ローム粒・粘土含み、土質やや粗く、しり強い。
3. 黒褐色土・褐灰色土の混土、炭化物粒・黒色灰含む。
4. 褐灰色土 炭化物粒・ローム粒含む。
- 5a. くすんだ褐色土 くすんだロームを含む褐色土主体。ローム小塊含む。
- 5b. 5a層に炭化物粒・黒褐色土塊含む。
6. ローム小塊・褐灰色土塊の混土。
7. 黄土色土塊・褐色土塊の混土。
8. オリーブ褐色土 くすんだローム主体に黄土色土塊多く含む。
- 9a. 明黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊含み、固くしる。
- 9b. 9a層よりしり弱い。
10. くすんだローム粒・2層の混土、しり弱い。
- 11a. ローム小塊・褐色小塊・黄土色土塊の混土、固くしる。以下掘方。
- 11b. 11a層よりしり弱い。
- 11c. 11a層にくすんだローム粒含む。
- 11d. 11a層より黄土色土塊多く主体をなす。
12. 明黄色土 ローム塊主体に褐色土含む。

第139図 3区9号竪穴住居平断面図



第140図 3区9号竈穴住居掘方平面図

る。中央部に調査できなかった部分があり、2つに分離してしまっている。

位置 X=30725～732、Y=-36617～625。

重複遺構 3区16号竈穴住居、8号溝、2・3号井戸と重複している。本遺構がいずれよりも古い。

形状 正方形に近い方形である。

主軸方位 N-20°-W。

規模 主軸方向は竈のすぐ右側で計測して6.28m、それに直交する方向は、南側の他の遺構との重複がない部分で計測して6.36mである。

床面積 調査できなかった部分を推定復元して計測すると37.22㎡である。

埋没土層 褐色土ないし黒褐色土を中心とした土で埋没しているが、細かく分層できる。

壁高 20～30cm。

床面 全体に緩やかな凹凸があるが、おおむね平坦であ

る。

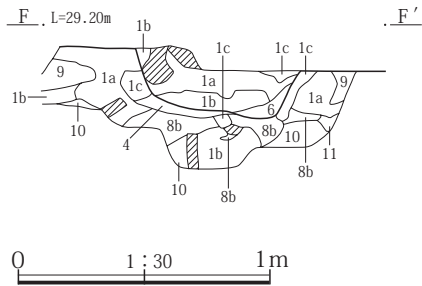
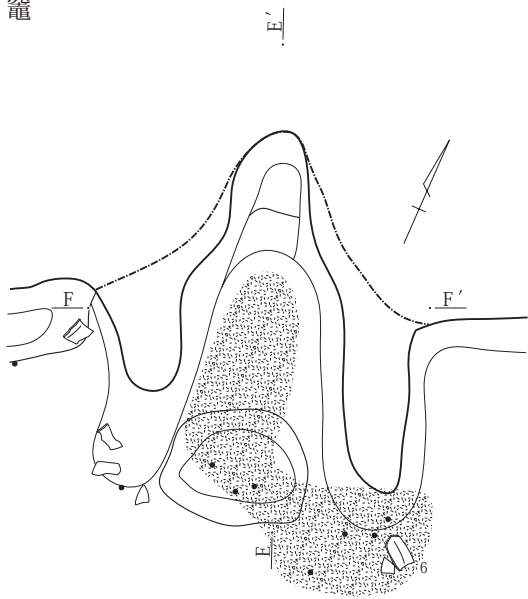
掘方 全体にごく浅く存在する。底面は細かい凹凸が目立つがほぼ平坦であり、竈付近にやや深い部分があるだけである。

竈 北西壁のほぼ中央に設置されている。両袖が良好に残り、燃烧部の大部分は住居内にある。そこから煙道が住居外に延びる構造である。本体は灰白色粘土で構築されていたらしい。長さは袖の先端から計測して157cmであり、煙道部は壁外に69cm張り出している。幅は両袖の外側で計測して140cm、燃烧部底面幅は44～54cmである。竈内壁の焼土化は弱いが燃烧部底面から右前にかけて灰・炭化物が分布している。

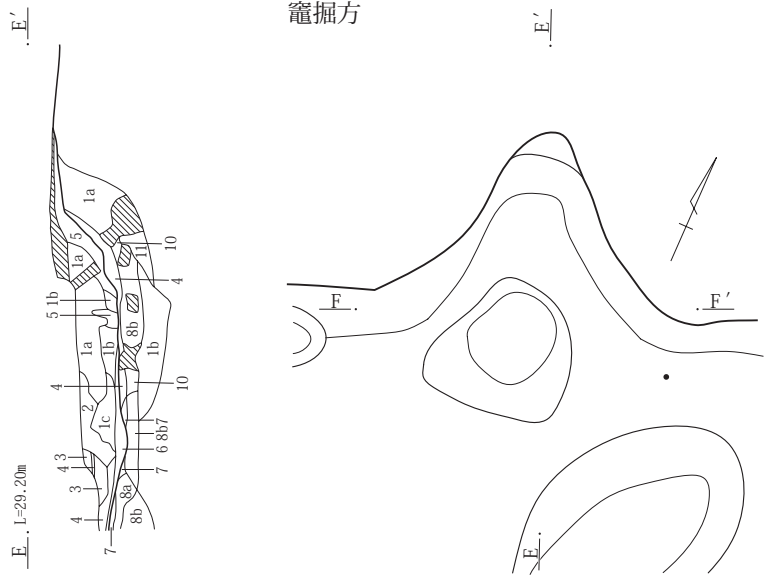
貯蔵穴 北隅に設置している。東側が調査区外となるが、長径100cm以上、短径87cmの楕円形であると思われ、深さは52cmである。

柱穴 西側に1基のピット(P1)を確認した。その位置

竈

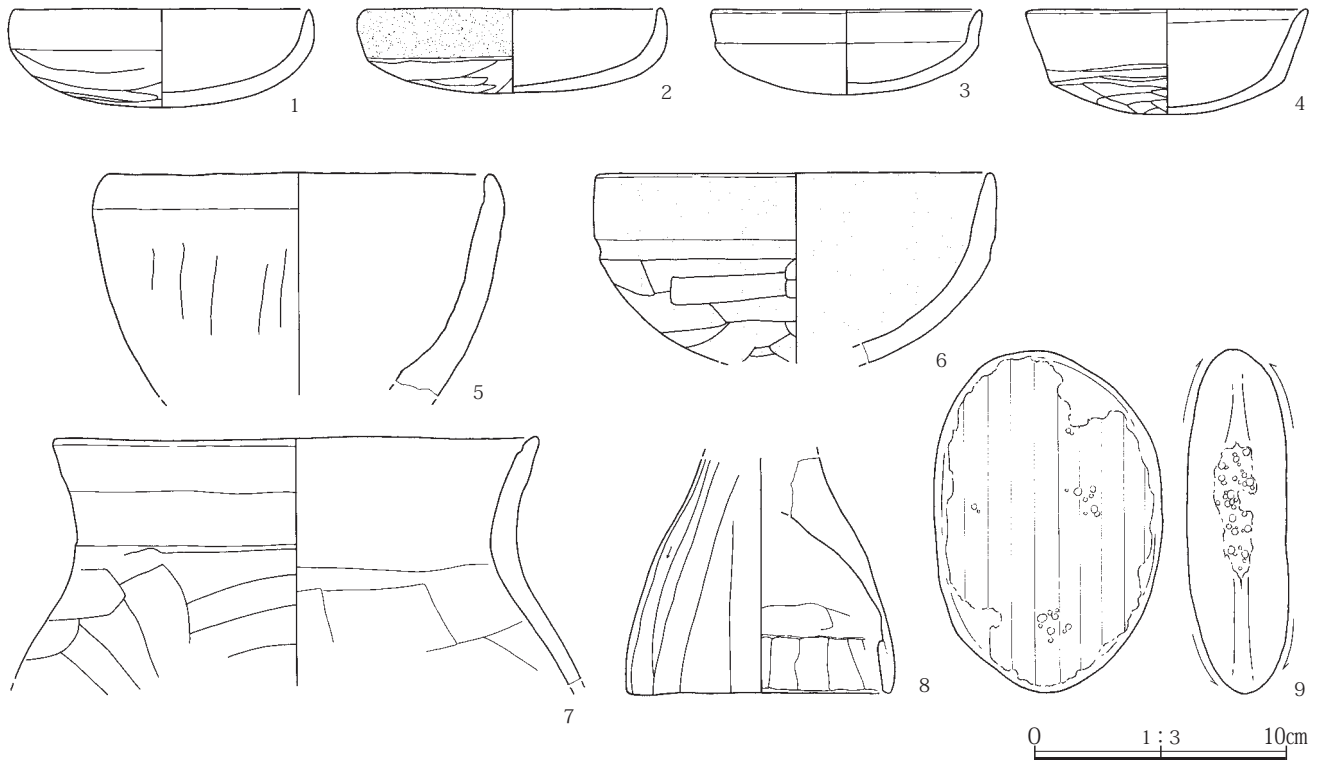


竈掘方



3区9号竪穴住居竈

- 1a. 灰白色粘土 焼土粒含み、マンガン集積あり。
- 1b. 1a層の2次堆積、粘性弱い。
- 1c. 焼土化した1a層、赤橙色で塊状。
- 2. 灰白粘土小塊・焼土粒・炭化物粒の混土。
- 3. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒含む。
- 4. 青灰色灰層
- 5. 赤色焼土 塊状。
- 6. 灰黄色粘土塊・焼土小塊・炭化物粒・灰の混土。
- 7. 黒色灰・焼土粒の混土。
- 8a. 暗黄褐色土 ローム小中塊多く含み、固くしまる。
- 8b. 8a層よりしまり弱い。
- 9. 灰黄色粘土小塊・焼土粒の混土。
- 10. ローム塊・褐灰色土塊の混土。
- 11. くすんだローム・黄土色ローム塊の混土。



第141図 3区9号竪穴住居竈平断面図、出土遺物

からみて支柱穴(4本柱の場合はその西隅の柱にあたると思われる)である可能性があるが、対応すべき東隅には同様のピットを確認することはできなかった。また、北隅と南隅は調査ができなかった範囲に入ってしまうので、結局支柱穴の可能性のあるのはこの1基のみであり、その当否は不明とせざるを得ない。P1の規模は、上面の広がった部分を除いて長径40cm、短径26cm、深さ56cmである。

周溝 竈とその周辺を除いて全周する。幅23～40cm、深さ3～8cmである。

遺物 遺物の出土は比較的多いが、大部分は3-3区部分に散在していた。掲載したのは、土師器杯4点、同鉢2点、同甕1点、同器種不明1点、磨石1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)1,270g、同(中)5点・239g、同(大)2,231g、須恵器(小)3点・8g、同(大)1,054gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、7世紀中頃の住居であると思われる。

3区10号竪穴住居(第142・143図、第45表、PL.58-1～3,126)

3-3区の中央にある。この付近は浅い谷地形になっており、その中央に掘られた8号溝が重複している。

位置 X=30733～737、Y=-36630～634。

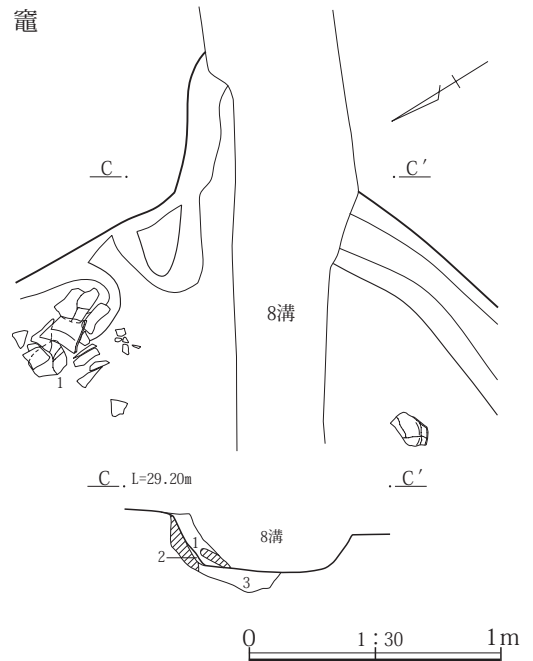
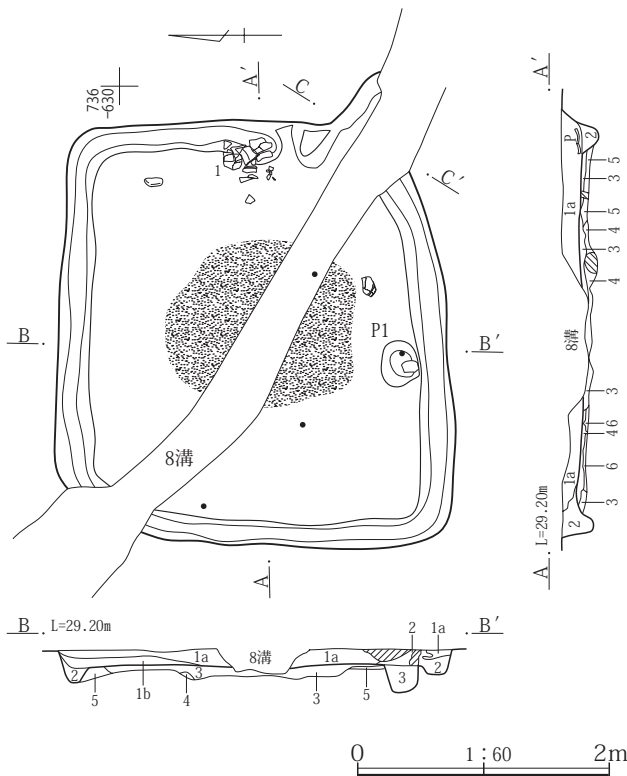
重複遺構 3区8号溝と重複する。本遺構が古い。

形状 東西にやや長い長方形であるが、北辺と南辺が平行ではないのでわずかに台形状である。また、竈のある南東隅が丸く見える。

主軸方位 N-95°-E。

規模 中央付近で計測すると、長軸は3.38m、短軸は3.08mである。

床面積 一部8号溝で破壊されている部分を推定復元し



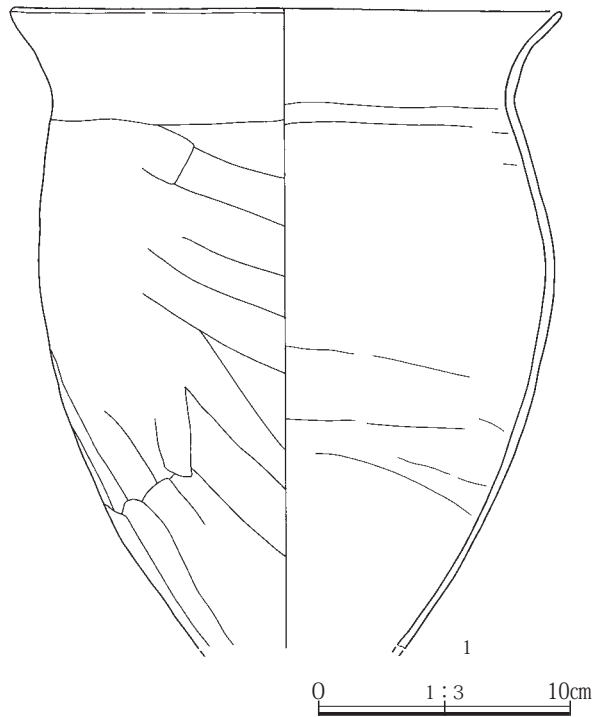
3区10号竪穴住居

- 1a. ローム塊と褐色土塊の混土。
- 1b. 1a層よりローム塊小さい。
- 2. 黒褐色土 ローム細粒含む。
- 3. 黒褐色土 ローム小塊多く含む、固くしまる。
- 4. オリーブ色粘質土
- 5. 黒褐色土 ローム粒含む、しまり強い。
- 6. ローム塊・黒褐色土の混土 ローム多い。

3区10号竪穴住居竈

- 1. にぶい黄褐色土 焼土粒少し含み、粘性強い。
- 2. 暗褐色土 焼土小塊・炭化物・灰含む。
- 3. 黄褐色土 ローム小塊主体に褐色土小塊含む。

第142図 3区10号竪穴住居平断面図



第143図 3区10号竪穴住居出土遺物

て計測すると9.06㎡である。

埋没土層 上面を削平されているため、底部付近しか残っていない。ローム塊と褐色土塊との混土で主に埋没している。

壁高 10～16cm。

床面 おおむね平坦である。中央部には径1.3～1.5mのわずかな凹みがあり、そこにごく薄い粘土の堆積が見られる。

掘方 全体に床面から5～10cm程度の深さで存在する。底面は緩やかな凹凸はあるものの比較的平坦である。床面中央の粘土が堆積していた部分は、掘方底面でも浅い凹みがみられる。

竈 南東隅に設置している。右側半分が8号溝に破壊されているので全体の形状は分からない。左側に短い袖が残り、燃烧部は住居内から壁外側にかけて作られている。現存する長さは袖の先端から計測して96cm、現存する幅は袖の外側から計測して48cmである。焼土や灰・炭化物は少ない。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 南壁際中央で1基のピット(P1)を確認した。長径37cm、短径29cm、深さ23cmである。位置からみて支柱穴ではないが、壁際の中央にあるので、入り口など、何

らかの施設に関わるものである可能性が考えられる。

周溝 竈部分を除いて全周する。幅17～32cm、深さ6～13cmである。

遺物 出土遺物は少ない。掲載したのは土師器甕1点のみで、竈北側の床面直上で出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)5点・24g、同(大)671gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第1四半期の住居であると思われる。

3区11A・B号竪穴住居(第144・145図、第45表、PL.58-4・5,59,60-1・2,126)

3-3区中央にある。10号竪穴住居の項で述べたように、この付近は浅い谷地形になっており、その中央に掘られた8号溝が北東部に重複している。1回の建て替えがあり、全体に拡張して面積を広げている。その際、竈も東から北側に付け替えている。ここでは新しい時期のものをA、古い時期のものをBと呼び分けて報告する。

位置 X=30735～739、Y=-36634～639。

重複遺構 3区8号溝と重複する。本遺構が古い。

形状 A、Bとも東西に長い長方形である。

主軸方位 竈の項で述べる通り、Aの竈は北壁にあり、Bの竈は東壁にあるので、主軸方位は90°異なる。AはN-3°-W、BはN-87°-Eである。

規模 なるべく中央付近で計測すると、Aは長軸4.42m、短軸3.58mであり、Bは長軸3.74m、短軸2.78mである。

床面積 8号溝で破壊されている部分を推定復元して計測すると、Aは13.72㎡。Bは9.83㎡である。

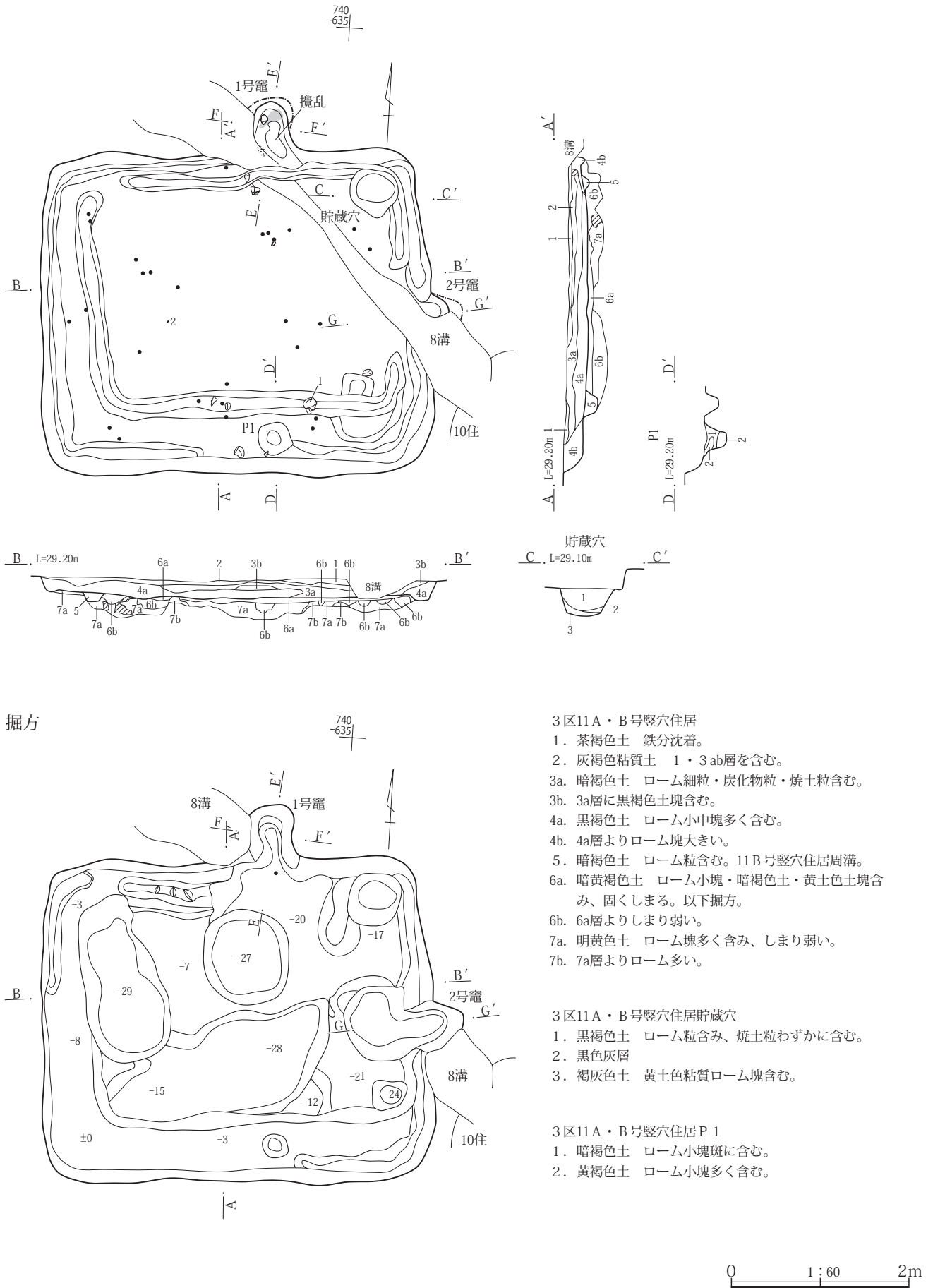
埋没土層 細かく分層できる。調査できた部分では主に暗褐色土、黒褐色土などで埋没している。

壁高 15～25cmである。

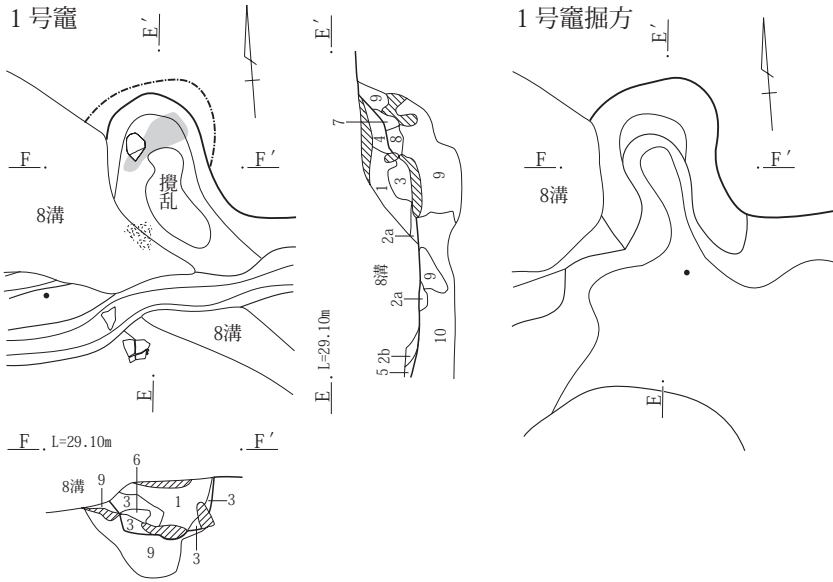
床面 おおむね平坦である。Bの床面は確認できなかった。Aと共通か、Aより高かったと思われる。

掘方 Bの掘方はAに比べて深い傾向にある。周縁部に見られるAの掘方は床面から0～8cm程度であるのに対して、Bは凹凸が多く、深いところでは20cm以上となる。それらを埋め戻し、床面としている。

竈 北壁と東壁とにある。北壁を1号竈、東壁を2号竈と名付けた。両方とも8号溝で大きく破壊されているので詳細は不明であるが、Bの周溝が1号竈の前にも見ら

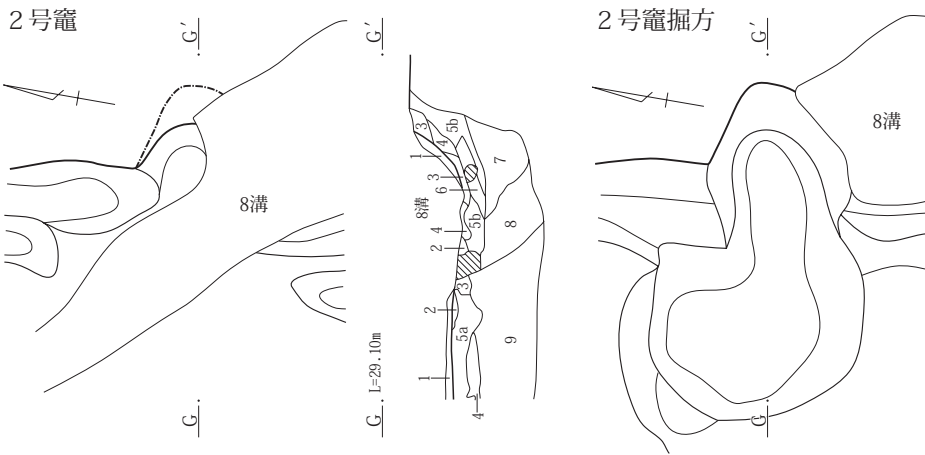


第144図 3区11A・B号竈穴住居平断面図



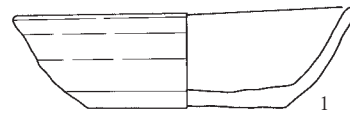
3区11A号竪穴住居1号竈

1. 褐灰色土 くすんだローム主体にローム小塊多く含み、焼土粒含む。
- 2a. 褐灰色土 ローム粒含み、粘性あり。
- 2b. 2a層にローム塊含む。
3. 黄土色土塊と焼土塊の混土。
4. 黄橙色土 焼土塊主体にローム塊含む。
5. 暗褐色土 灰・ローム小塊含む。
6. 黄土色土 焼土化したローム。
7. 焼土・灰混土。一部灰が面的に展開。
8. 褐色土 焼土小塊・ローム粒含む。
9. 灰褐色土・ローム小塊の混土。
10. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊含む。

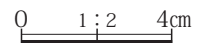
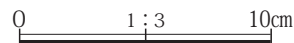


3区11B号竪穴住居2号竈

1. 暗黄褐色土 ローム小塊多く含み、焼土・炭化物粒・黒色土塊含む。
2. 褐色土 焼土塊・青灰色灰含む。
3. 青灰色灰・焼土塊の混土。
4. 明黄褐色ローム 塊状。
- 5a. 暗褐色土 ローム塊含む。
- 5b. 5a層に焼土塊含む。
6. 暗褐色土 焼土小塊・炭化物粒多く含む。
7. 暗褐色土 ローム小塊斑に含む。
8. 褐色土 ローム塊多く含む。
9. くすんだローム・黄土色土塊の混土。



2 (1/2)



第145図 3区11A・B号竪穴住居竈平断面図、出土遺物

れるのに対し、2号竈の前では途切れていることから、1号竈がAの時期であり、2号竈がBの時期のものであると思われる。1号竈は燃焼部よりも前の部分を破壊されている。残っている部分の形状から、燃焼部は壁を掘り込んで作られ、煙道が短い形状であると思われる。現状の長さは68cmである。焼土や灰・炭化物は少ない。2号竈はさらに大きく破壊され、燃焼部奥の一部しか残っていない。1号竈と同様な形状であると思われる。奥壁はよく焼土化していた。

貯蔵穴 北東隅にある小土坑が貯蔵穴と思われる。これがAに伴うものであることは、Bの周溝を壊していることから裏付けられる。長径54cm、短径50cmの不整形円で、深さは33cmである。これに対してBの時期の貯蔵穴は、掘方の調査で南東隅に見つかった小土坑であると思われる。大きさは掘方底面で計測して長径44cm、短径30cmで、深さは床面から計測して24cmである。

柱穴 Aの南壁際中央に1基のピット(P1)を確認した。位置からみて主柱穴ではなく、入り口などの施設に伴うものと思われる。径36～40cmのほぼ円形で、深さは25cmである。

周溝 Aは南辺中央などで途切れているが、ほぼ全周すると思われる。幅15～38cm、深さ1～5cmである。Bは2号竈前と北西隅以外は全周し、幅13～31cm、深さ3～14cmである。

遺物 遺物の出土は少ない。掲載したのは、須恵器杯1点(墨書)、土錘1点であり、須恵器杯はBの南周溝内から出土した。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)287g、同(大)1,963g、須恵器(小)92g、同(大)33gがある。

時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、8世紀末～9世紀初頭の住居であると思われる。建て替えがあり、B(2号竈と内側の周溝)からA(1号竈と外側の周溝)へと拡張している。

3区12号竪穴住居(第146・147図、第45表、PL.60-3～5,127)

3-3区北西部の西端近くにある、本遺跡では比較的大型の住居である。全体を調査できたが、表面が削平され、ごく浅くしか残っていなかった。

位置 X=30734～743、Y=-36641～650。

重複遺構 なし。

形状 正方形に近い方形である。

主軸方位 N-65°-E。

規模 中央付近で計測して、主軸方向は6.36m、それと直交する方向は6.46mである。

床面積 39.60㎡。

埋没土層 底面近くの部分しか残っていないので詳細不明だが、細かく分層できる。焼土・炭化物を含む層が見られるのが目を引く。

壁高 上面を削平されているためにごく低く、大部分の場所は0～10cm程度である。南東隅のみは15cmである。

床面 大部分は地山を直接床面としている。おおむね平坦である。南西部には炭化物が点々と散っていた。

竈 北東壁中央やや南寄りに設置している。やはり上面を削平されているため、残りは非常に悪い。竈右側には地山の高まりがあり、袖の底部となっていたと思われる。燃焼部は住居内にあり、煙道部が壁外に延びる形態であるらしい。長さは燃焼部に掘られた凹みの先端から計測して96cmであり、壁外には28cm張り出している。幅は右袖の外側と燃焼部の凹みの左端との間を計測すると96cm、凹みの幅は74cmである。竈内には焼土・灰・炭化物はわずかしか見られない。

貯蔵穴 東隅にある。方形に近い円形で、長径85cm、短径66cmであり、深さは68cmと深い。

柱穴 主柱穴が4本確認できた。それぞれの規模は以下の通りである(長径×短径×深さ、cm)。P2とP3の2本では、断面で明瞭な柱痕を確認することができた。

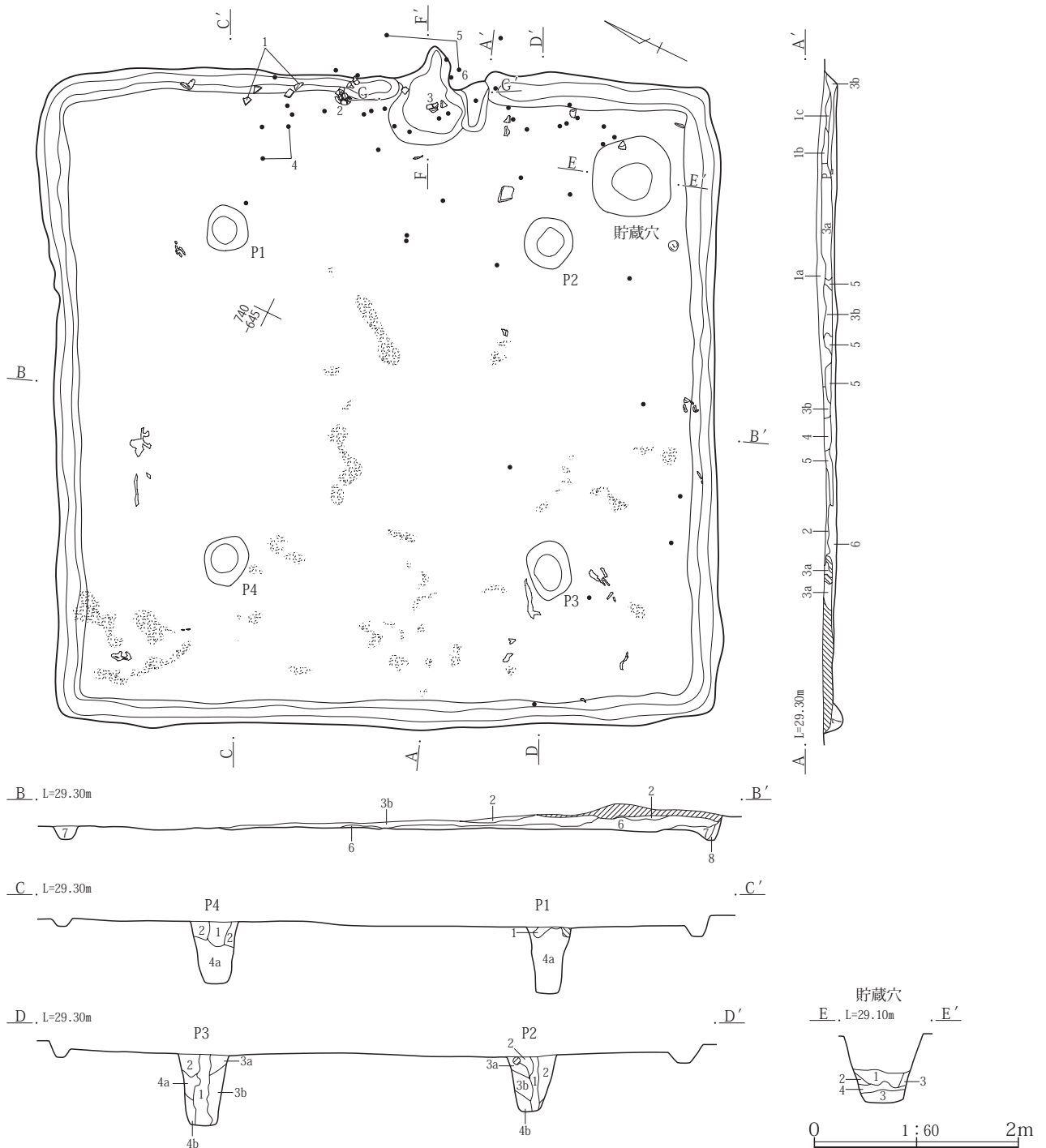
P1 45×40×66 P2 52×47×55

P3 58×40×76 P4 50×42×64

周溝 竈部分を除いて全周する。幅17～36cm、深さ7～16cmである。

遺物 遺物は竈周辺に集中していたが数は少ない。掲載したのは、土師器杯5点、同甕1点である。この甕は竈右側の壁上と覆土から出土したものだが、9世紀第4四半期のものと思われ、その他の土器(6世紀後半)とは大きく異なるので混入であると思われる。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)400g、同(大)1,706g、須恵器(小)124g、同(大)42gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、6世紀後半の住居であると思われる。



3区12号竪穴住居

- 1a. 灰褐色土塊・焼土小塊・炭化物粒・ローム塊の混土。
- 1b. 1a層より灰褐色土少なく、やや固くしまる。
- 1c. 灰黄褐色土 焼土粒・ローム粒含み、粘性あり。
- 2. 灰褐色粘質土
- 3a. 焼土小塊・ローム小塊の混土、炭化物粒含む。
- 3b. 3a層より焼土小塊小さく、炭化物粒多い。
- 4. 暗褐色土 白色軽石・ローム粒含む。
- 5. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊・炭粒含む。
- 6. 暗褐色土 炭化物粒多く含み、ローム小塊含む。
- 7. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体。
- 8. 明黄色ローム 塊状。

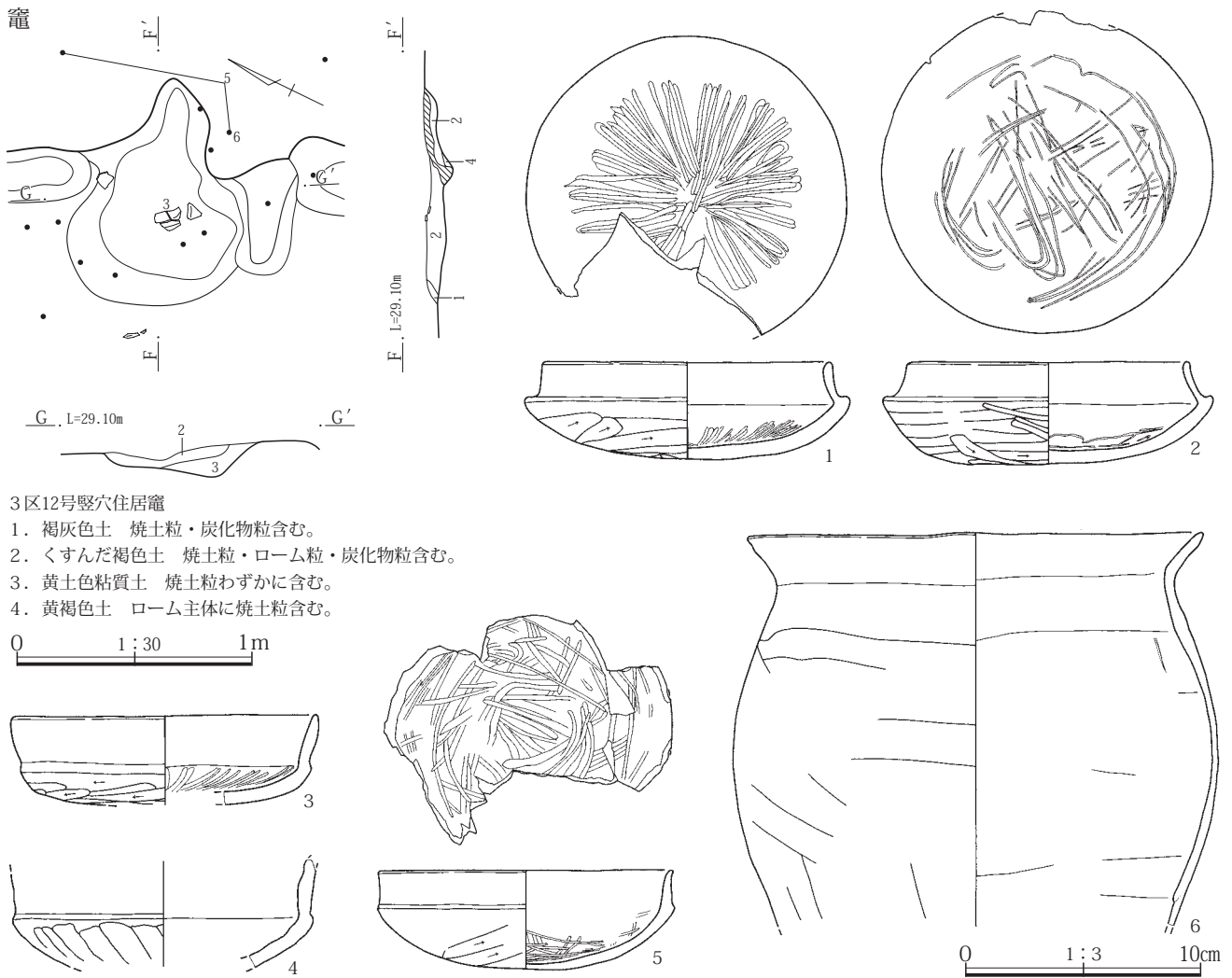
3区12号竪穴住居P1～4

- 1. 褐色土 炭化物粒・ローム粒含み、ややしまり弱い。柱痕。
- 2. 明黄褐色土 ローム小中塊多く含み、ややしまりあり。
- 3a. 黄色土 ローム塊主体。
- 3b. 黄色土 3a層にくすんだローム含む。
- 4a. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム小中塊・褐灰色粘質ローム小塊含み、しまり弱い。
- 4b. 4a層よりしまりあり。

3区12号竪穴住居貯蔵穴

- 1. 褐灰色土 ローム小中塊含み、炭化物粒含む。
- 2. 炭化物層
- 3. 褐灰色土 褐灰色粘質ローム小中塊・黄色ローム塊含む。
- 4. 黒褐色土 炭化物・焼土小塊含む。

第146図 3区12号竪穴住居平断面図



3区12号竪穴住居竈

1. 褐灰色土 焼土粒・炭化物粒含む。
2. くすんだ褐色土 焼土粒・ローム粒・炭化物粒含む。
3. 黄土色粘質土 焼土粒わずかに含む。
4. 黄褐色土 ローム主体に焼土粒含む。

0 1:30 1m

第147図 3区12号竪穴住居竈平断面図、出土遺物

3区13号竪穴住居(第148図、PL.61-1～4)

3-3区北西部の西端にある。西側約1/3が調査区外となる。12号竪穴住居とは近いが重複はしていない。上面を削平され、ごく浅くしか残っていなかった。

位置 X=30732～736、Y=-36646～651。

重複遺構 なし。

形状 西側が調査区外になるので詳細は不明だが、調査区内の部分の形状からみて方形であることは確実である。

主軸方位 N-95°-E。

規模 主軸方向は3.50m以上である。それと直角する方向はなるべく中央に近い部分で計測して3.72mである。

床面積 調査区内の部分は7.97㎡である。

埋没土層 底面近くのごくわずかな部分しか残っていないので詳細は不明であるが、最下層は暗褐色土ないし褐色土である。

壁高 上面を削平されているためにごく低く、0～8cmである。

床面 おおむね平坦である。南東隅には灰・炭化物が分布していた。後述の屋内井戸はこの灰・炭化物の層の下で見ついている。

竈 東壁中央南寄りに設置している。ほぼ破壊されており、掘方部分しか残っていなかった。右側には袖の基部のようにも見える地山の凸部があるが、ごくわずかなものであり明確ではない。煙道部分が住居の主軸方向と大きく異なるのも、破壊が深くまで及んだためであろう。本体の構築に用いた粘土なども残っていない。長さは燃烧部に掘られた浅い凹みの先端から計測して152cmであり、壁外には76cm延びている。幅は壁を掘り込んだ部分で68cmである。竈内の焼土や灰・炭化物も少なかったが、竈右側に当たる住居南東隅の床面には灰・炭化物が薄く分布していた。

貯蔵穴 確認できなかった。通常貯蔵穴がある位置(住居南東隅)には後述する屋内井戸があった。

柱穴 南側で2基のピットを確認した。いずれも深くしっかりとしたピットであるが、支柱穴とすると他に組み合うものが見当たらないので、他の施設に関わるものと思われる。それぞれの規模は次の通りである(長径×短径×深さ、cm)。

P 1 50×38×39 P 2 49×-×69

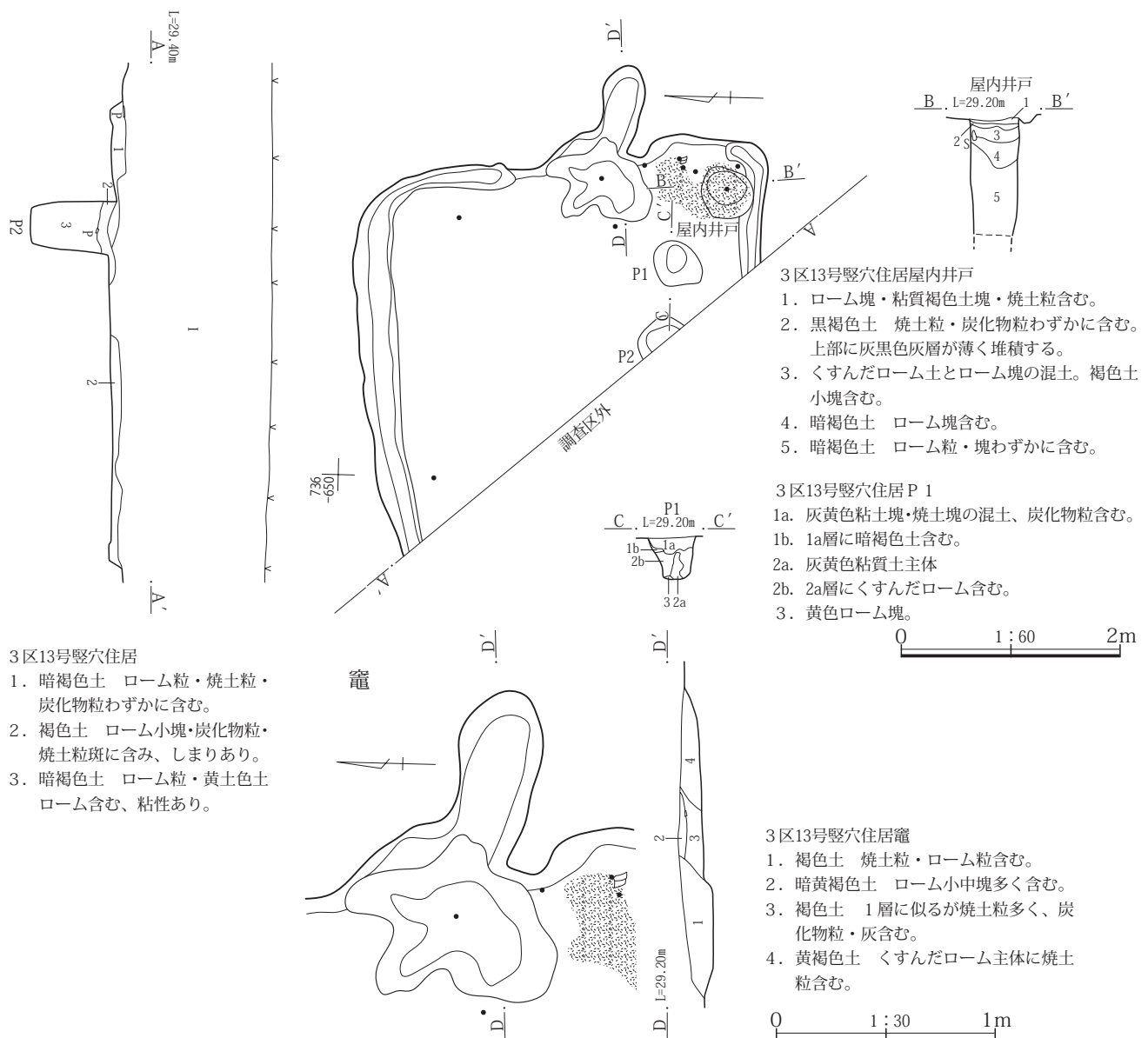
屋内井戸 南東隅にある。本住居に伴うものと思われるが確証はない。竈右側に散っていた灰・炭化物がこの上を覆っていたので、住居廃絶時にはほぼ埋まっていたことになり、それを重視すれば住居よりも古い遺構である可能性もある。住居床面では長径50cm、短径45cmのほぼ

円形であり、深さは106cmまで確認した。断面図に示した通り、床面から20cm以下の部分は暗褐色土で埋まっており、この深さまでは人為的に一気に埋められたと思われる。

周溝 調査した範囲内では、竈部分を除いて全周する。幅13～36cm、深さ1～6cmである。

遺物 出土遺物は少なく、掲載できるものはない。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)95g、同(大)282g、須恵器(小)43gがある。

時期と所見 出土遺物が少ないので時期の特定は困難であるが、9世紀代のもと思われる。南東隅にある小規模な井戸は本住居に伴うものである可能性が強く、その点で特徴的な住居である。



第148図 3区13号竪穴住居平面図

3区14号竪穴住居(第149・150図、第45表、PL.61-5,62-1~4,127)

3-3区の南部にある。この周辺は上面を削平されて浅くしか残っていない竪穴住居が多いが、本住居は比較的残りがよかった。

位置 X=30725~730、Y=-36637~642。

重複遺構 3区1号掘立柱建物、1・4号井戸と重複する。本遺構は1号掘立柱建物と1号井戸より古いが、4号井戸との新旧は不明である。

形状 北東-南西方向に長い長方形である。

主軸方位 N-70°-E。

規模 長軸4.04m、短軸3.00m。

床面積 11.11㎡。

埋没土層 不自然な堆積であり、人為的に埋め戻したものと考えられる。

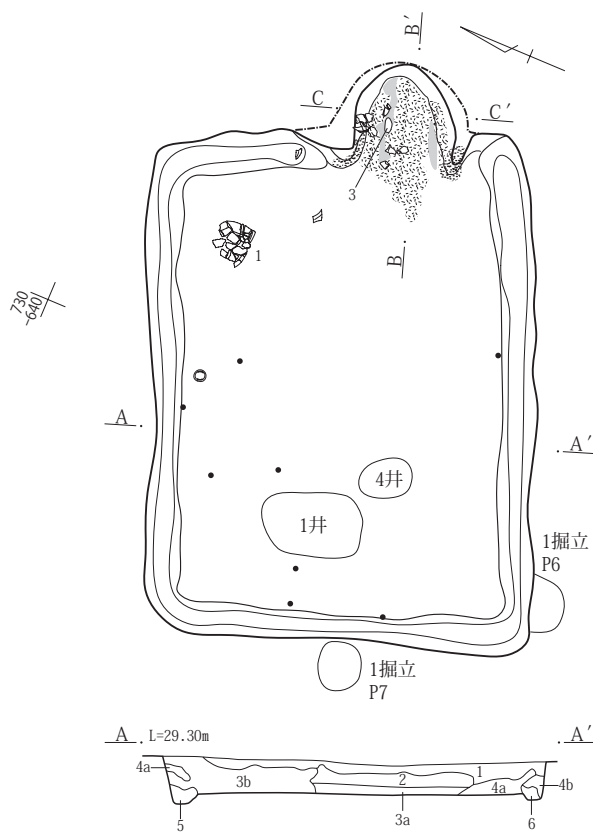
壁高 20~33cm。

床面 おおむね平坦である。

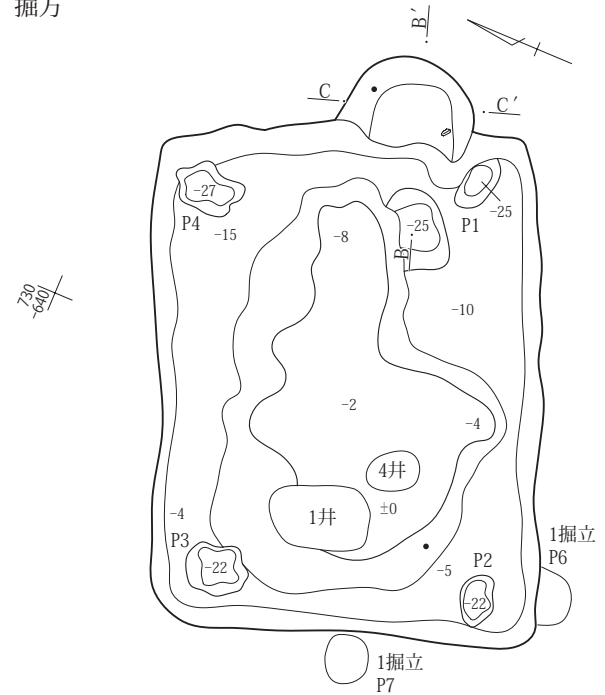
掘方 床面からの深さは、中央付近は0~8cmと浅く、周縁部は5~15cmと深い。底面は細かい凹凸が目立つ。

竈 北東壁南寄りに設置している。両袖の基部が短く残り、燃烧部は壁を大きく掘り込んで作っている。覆土に灰白色粘土塊が見られるので、これによって本体が構築されていたらしい。長さは袖の先端から計測して83cmであり、壁外には49cm張り出している。幅は両袖の外側を計測すると130cm、燃烧部幅は56cmである。竈内面の焼土化は弱いが、底面には灰・炭化物の層が薄く広がっていた。燃烧部底面には楕円形の礫(遺物3)が立った状態で据えられていた。底面中央ではなく左に偏る位置ではあるが、支脚として据えられていたものと思われる。

貯蔵穴 確認できなかった。



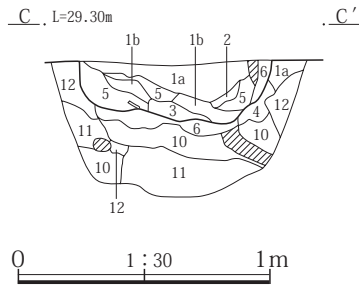
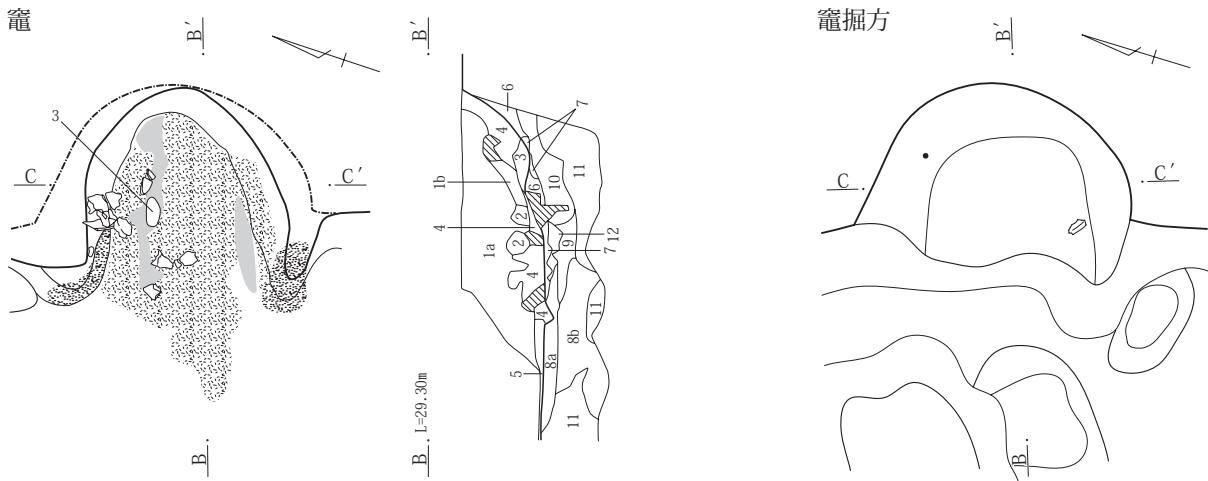
掘方



3区14号竪穴住居

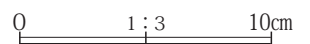
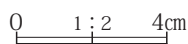
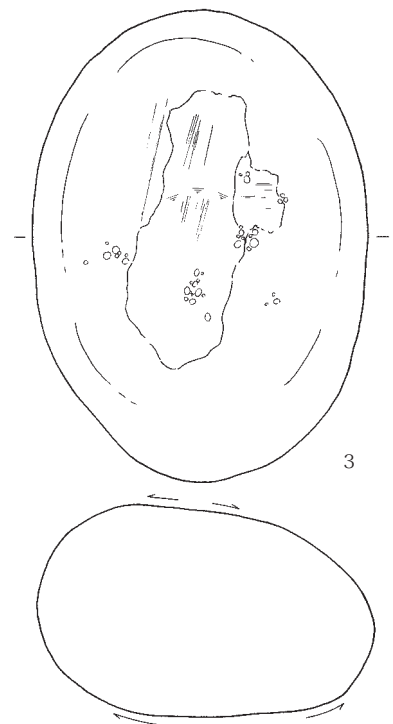
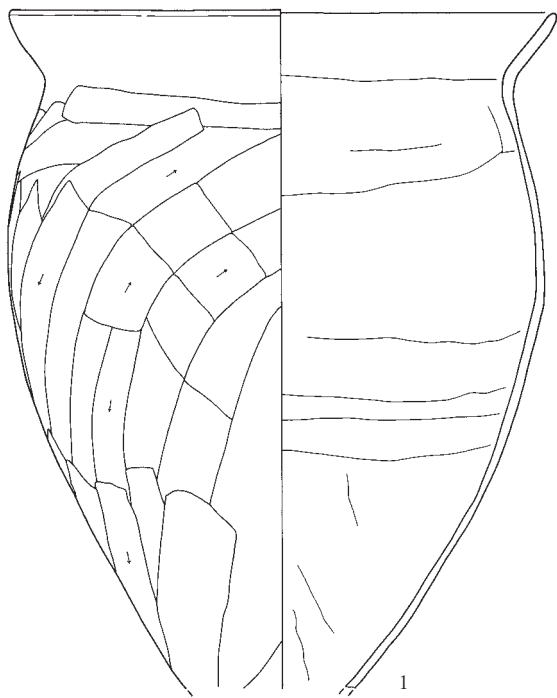
1. 暗褐色土 ローム粒含む。
2. 粘質黄土色ローム塊 暗褐色土含む。
- 3a. 褐色土 ローム小塊やや多く含む。
- 3b. 5層よりローム多い。
- 4a. 黒色土 ロームわずかに含む。
- 4b. 黒色土・ローム塊の混土。
5. くすんだローム・ローム塊の混土、しまり弱い。
6. 明黄色ローム 暗褐色土含む。

第149図 3区14号竪穴住居平断面図



3区14号竪穴住居竈

- 1a. 褐色土 ローム粒含む。
- 1b. 1 a層に焼土・炭化物粒わずかに含む。
- 2. 黒褐色土・ローム塊の混土。
- 3. 褐色土 焼土粒わずかに含み、やや粘性あり。
- 4. 褐色土 焼土粒・塊含む。
- 5. 褐色土 1層に灰白色粘土塊含む。
- 6. 焼土塊・灰の混土。
- 7. 青灰色灰層
- 8a. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊多く含み、焼土・炭化物粒含み、固くしまる。
- 8b. 8a層よりしまり弱く、焼土・炭化物粒含まない。
- 9. 暗褐色土 ローム小塊・焼土小塊含む。
- 10. 褐色土 ローム小塊含む。
- 11. 明黄色土 ローム塊主体。
- 12. 赤橙色焼土 塊状、砂質。



第150図 3区14号竪穴住居竈平面断面図、出土遺物

柱穴 床面では確認できなかったが、掘方底面では4基のピットを確認した。それぞれ住居の四隅に近い位置にあるので、支柱穴である可能性が考えられる。それぞれの規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)であるが、長径と短径は掘方底面で計測し、深さは床面からの深さを計測している。

P 1 48×24×25 P 2 42×26×22

P 3 50×39×22 P 4 56×32×27

周溝 竈部分を除いて全周する。幅18～30cm、深さ2～11cmである。

遺物 出土遺物は少ない。掲載したのは土師器甕1点、土錘1点、砥石1点である。甕は北東隅からつぶれた状態で出土した。砥石は先述のように竈の支脚として転用されていたものである。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、須恵器(小)93g、同(大)630g、須恵器(小)136gがある。

時期と所見 出土遺物から見て、8世紀第4四半期の住居であると思われる。

3区15号竪穴住居(第151～153図、第45・46表、PL.62-5,63-1～5,127)

3-3区の南端近くにある。他の遺構との重複がなく全体を調査できたが、削平されて浅くしか残っていなかった。掘方の調査で周溝の内側に方位を同じくする別の周溝が見つかっており、ある時期に全体が拡張されたと思われる。

位置 X=30716～723、Y=-36630～637。

重複遺構 なし。

形状 正方形に近い方形である。

主軸方位 N-43°-E。

規模 なるべく中央で計測して、主軸方向は5.16m、それと直交する方向は5.25mである。「掘方」の項で後述する古い時期の竪穴住居の規模は、主軸方向が4.64m、それと直交する方向は4.46mである。

床面積 24.60㎡。古い時期の床面積は19.85㎡。

埋没土層 底面近くしか残っていない。主に黒褐色土と黒色土で埋没している。

壁高 10～18cm。

床面 おおむね平坦である。

掘方 全体にごく浅く存在し、一部は地山を直接床面と

しているほか、隅部を中心に、やや深く掘っているところがある。底面は平坦なところが多い。この掘方の調査では、4方の周溝の内側に、方位を同じくする別の周溝が廻っていることが確認できた。そのため、小さい住居から現状の住居へと拡張が行われたと考えられる。竈や柱穴には作り直した痕跡がないので、それらは古いものをそのまま用い、壁だけを拡張したのであろう。

竈 北東壁中央やや北寄りに設置している。両袖が残り、燃焼部は住居内から壁外にかけてやや長く作られている。袖はオリーブ色粘土で作られ、同じ土が竈内に堆積しているため、本体もこのオリーブ色粘土で構築されていたらしい。長さは袖の先端から計測して110cmであり、壁外には36cm張り出している。幅は両袖の外側を計測すると114cm、燃焼部底面は26～36cmである。奥壁の内側は焼土化し、燃焼部底面から焚き口、竈左側にかけては灰・炭化物が薄く分布していた。また、竈内からは多くの土器片が出土した。12の土師器甕は竈焚き口部に倒立した状態で出土したが、この位置では竈使用時に邪魔になるため、本来ここに据えられていたものではない。

貯蔵穴 北隅にある。長径80cm、短径62cmの楕円形で、深さは32cmである。

柱穴 床面で5基のピットを確認した。その位置から、P1～P4の4基が支柱穴であり、P5は入り口に関わる施設のものと考えられる。それぞれの規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)。

P 1 80×61×72 P 2 78×72×70

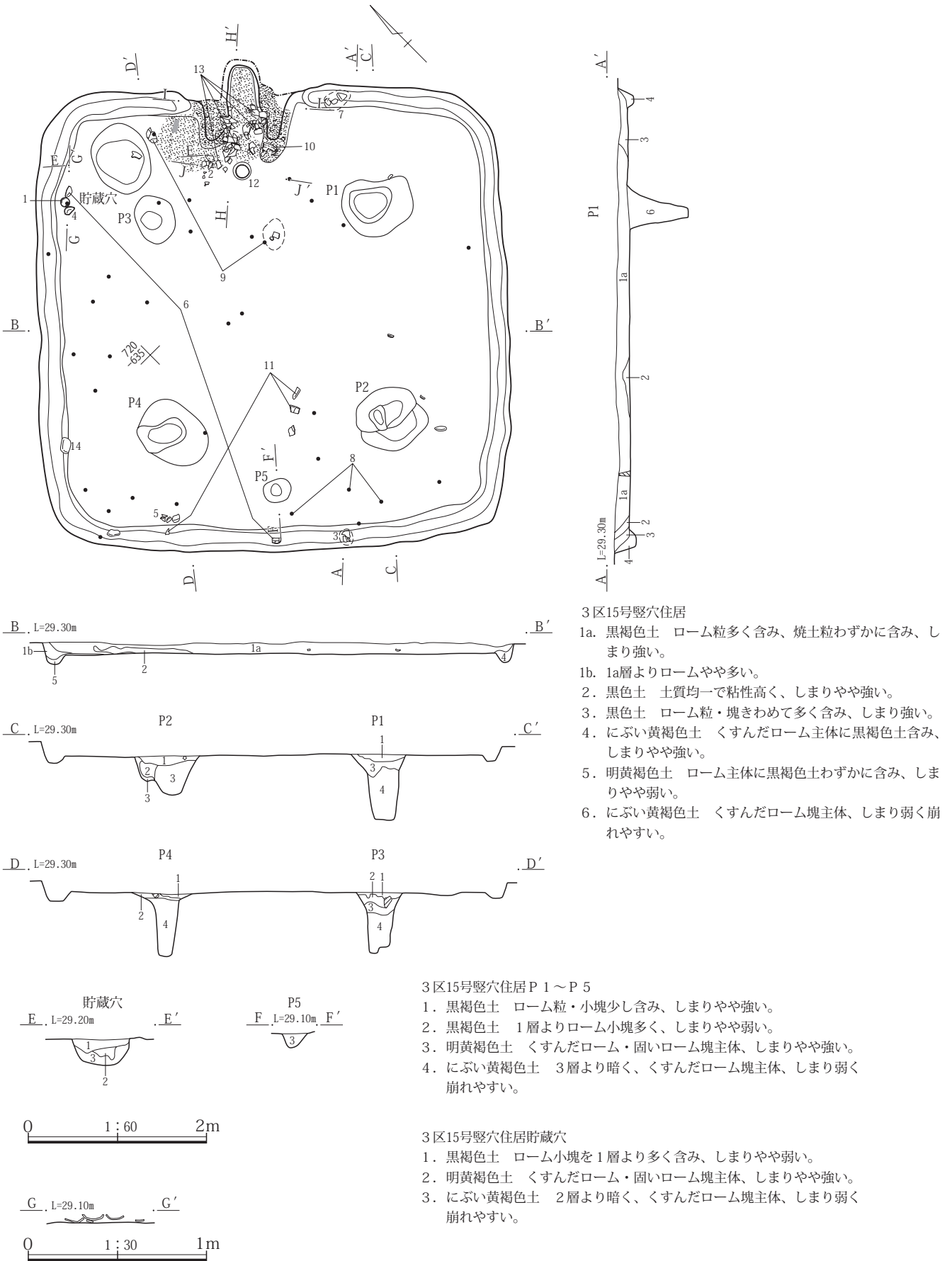
P 3 56×42×65 P 4 82×64×73

P 5 31×26×20

周溝 竈部分を除いて全周する。幅20～36cm、深さ6～12cmである。古い時期の周溝は痕跡程度で途切れているところが多いが、やはり竈付近を除いて全周するようである。幅は10～30cm、深さは床面から計測して2～14cmである。

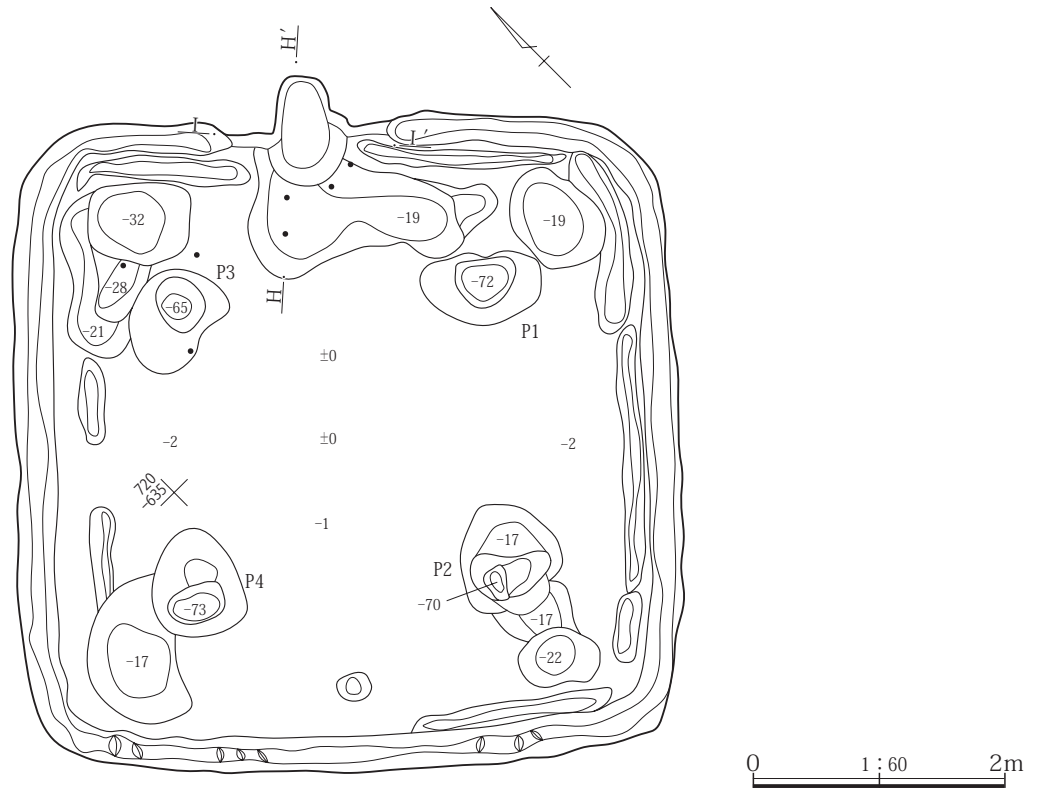
遺物 竈内、住居北隅、南西壁際とその周辺などから出土している。床面直上ないしわずかに浮いた高さから出土したものが多く。掲載したのは土師器杯8点、同鉢1点、同甕4点、磨石1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)653g、同(中)2点・83g、同(大)1,297g、須恵器(小)1点・3gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、7世紀前半の住居であると思われる。

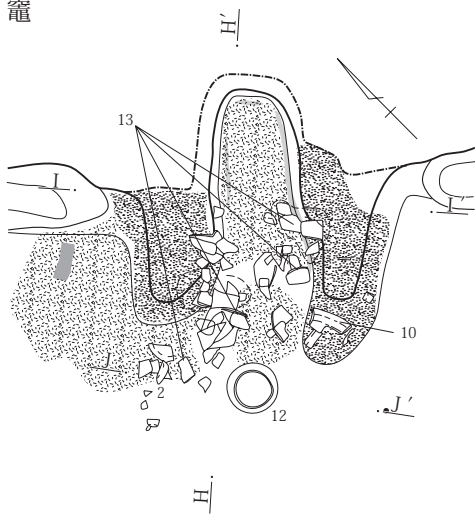


第151図 3区15号竪穴住居平断面図

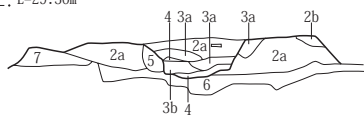
掘方



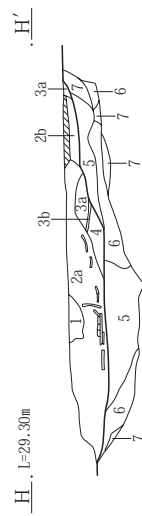
竈



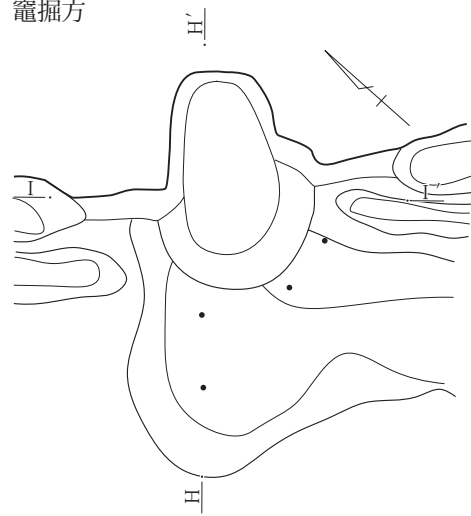
I, L=29.30m



J, L=29.30m



竈掘方

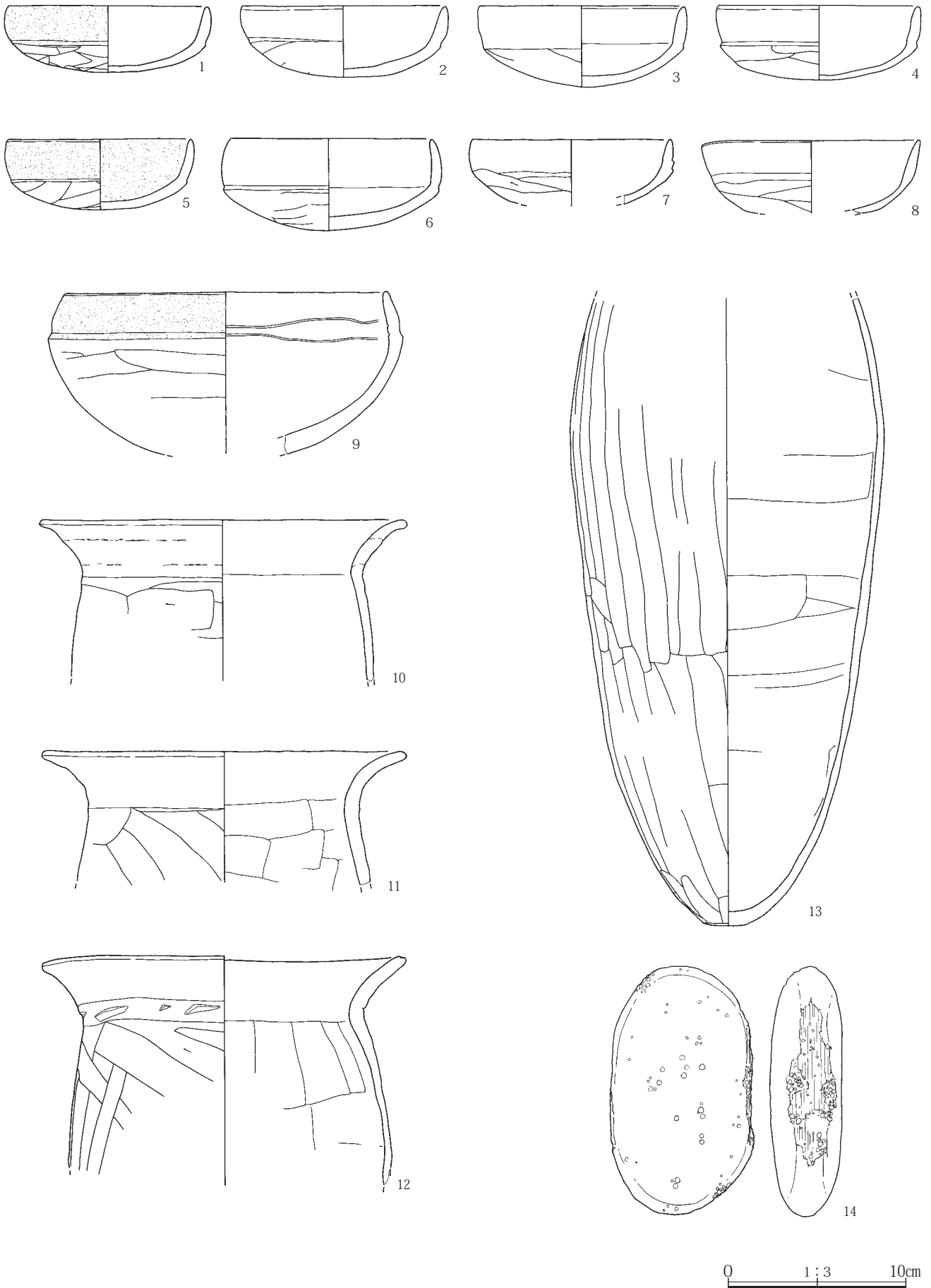


3区15号竪穴住居竈

- 1. 褐色土・2a層の混土。
- 2a. オリーブ色粘土
- 2b. 2a層小塊・くすんだロームの混土。
- 3a. 黄褐色土 焼土化した2a層・粘土塊含む。
- 3b. 3a層に灰含み、やや暗色。
- 4. 青灰色灰層
- 5. 灰オリーブ色土 2a層塊・焼土小塊含み、くすんだロームわずかに含む。
- 6. 暗褐色土 ローム中小塊多く含み、ややしまりあり。
- 7. 明黄色ローム塊。

0 1:30 1m

第152図 3区15号竪穴住居掘方平面図、竈平面断面図



第153図 3区15号豎穴住居出土遺物

3区16号竪穴住居(第154図、第46表、PL.63-6～8,128)

3-2区の北端にあり、西側が調査区外になる。浅い攪乱に大きく削平されて残りが非常に悪く、竈付近を除いて掘方しか残っていなかった。

位置 X=30729～731、Y=-36615～619。

重複遺構 3区9号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

形状 南東隅の形状から方形と考えられる。

主軸方位 N-92°-E。

規模 主軸方向は2.60m以上、それと直行する方向は1.93m以上である。

床面積 計測不能である。

埋没土層 ほとんど削平されていて詳細不明である。

竈 東壁中央にある。壁を掘り込んで作っている。長さ

63cm、幅70cmである。

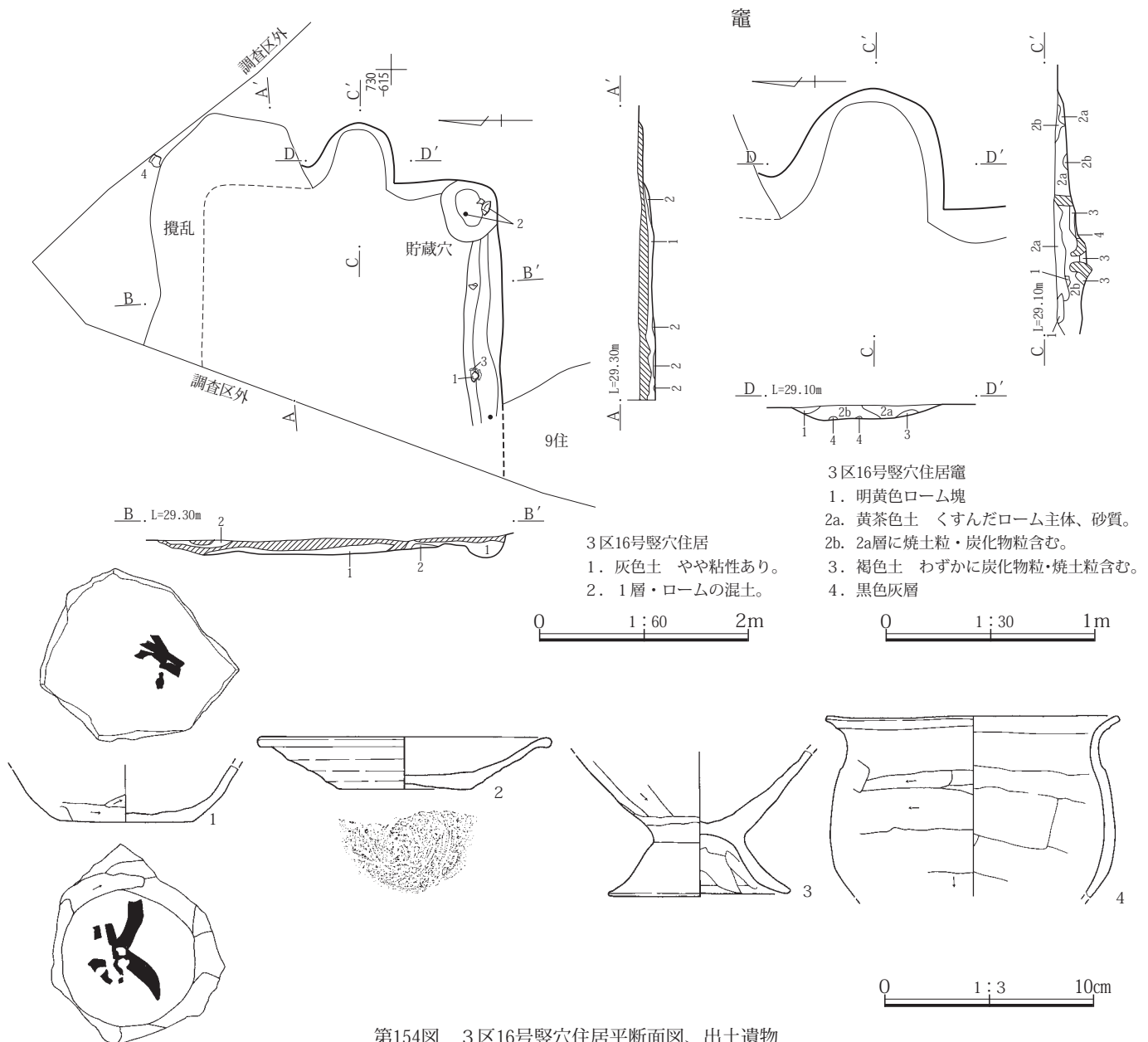
貯蔵穴 南東隅にある。径60cmのほぼ円形で深さ19cmである。

柱穴 確認できなかった。

周溝 幅28～36cm、深さ1～2cmである。

遺物 掲載したのは土師器杯1点(墨書がある)、同小型台付甕1点、同小型甕1点、須恵器皿1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)82g、同(大)206g、須恵器(小)56gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第4四半期の住居であると思われる。1・3の2点の土器は南壁際から重なって出土したが、時期が異なる(8世紀第3四半期)ので混入と思われる。



第154図 3区16号竪穴住居平断面図、出土遺物

3区17号竪穴住居(第155・156図、PL.64-1～4)

3-2区の南西隅にある。南西側が調査区外となる。

位置 X=30705～708、Y=-36622～626。

重複遺構 3区19号土坑とわずかに重複する。本遺構が古い。

形状 南西側が調査区外となるが、調査区内の形状から見て方形であろう。

主軸方位 N-33°-W。

規模 主軸方向は3.42m、それと直交する方向は2.79m以上である。

床面積 調査区内に掛かる部分を計測すると7.23㎡である。

埋没土層 底面付近しか残っていないが、細かく分層でき、不自然な堆積を示す部分が多いので、人為的に埋められているものと思われる。

壁高 7～15cm。

床面 おおむね平坦である。

掘方 床面から0～6cm掘っている程度で浅い部分が多いが、所々土坑状に深く(9～25cm)掘っている。深い

部分の底面は凹凸が目立つ。

竈 北西壁に設置している。上面が削平され、底面付近しか残っていない。燃烧部は壁を大きく掘り込んで作っており、両袖はごく短い。本体はオリーブ色粘土で構築されていたらしい。長さは袖先端から計測して94cmで、壁外には60cm張り出す。幅は両袖の外側を計測すると85cm、燃烧部底面は43cmである。燃烧部底面には焼土・灰・炭化物が薄く堆積していた。

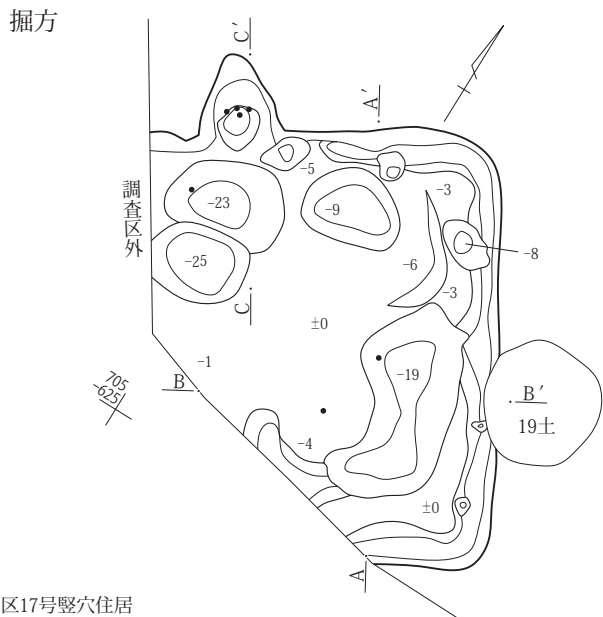
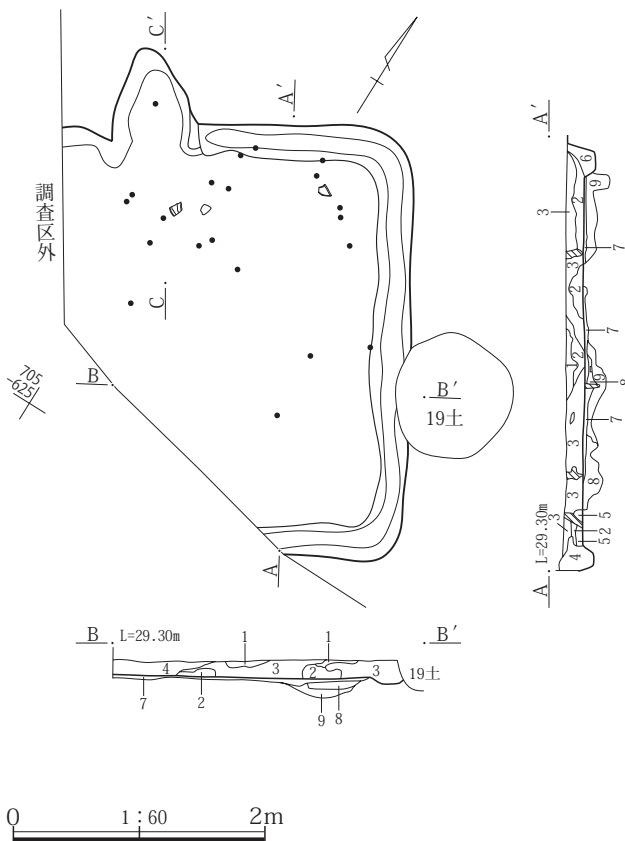
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 竈部分を除いて全周する。幅21～32cm、深さ3～8cmである。

遺物 出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)133g、同(大)810g、須恵器(小)1点・5g、同(大)2点・45gがある。

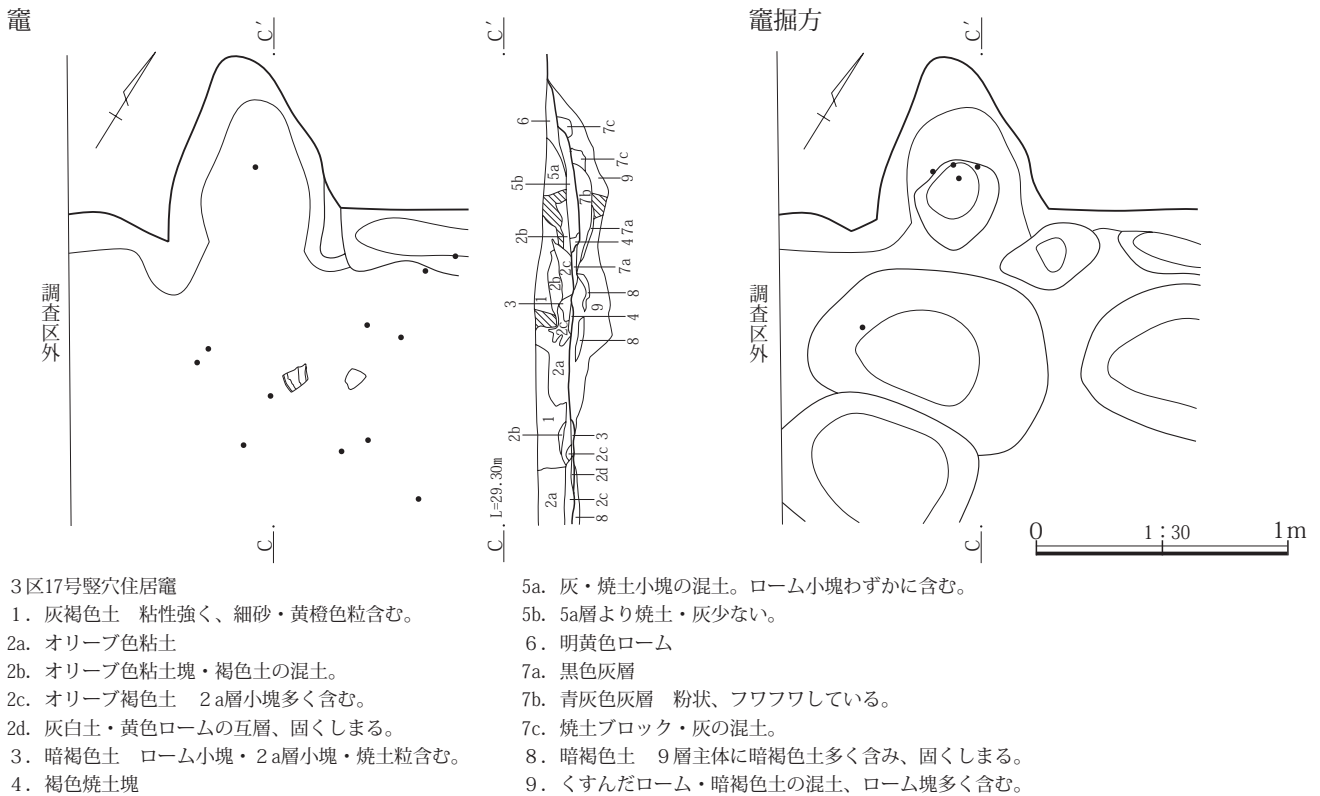
時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、9世紀後半の住居であると思われる。



3区17号竪穴住居

1. 暗褐色土 褐色土塊・橙色土小塊含む。
2. 黄色・黄土色ローム塊・灰白粘土塊の混土。
3. くすんだ褐色土 ローム小中塊・くすんだローム・暗褐色小塊含む。
4. 褐色土 橙色軽石わずかに含む。土質均一、しまり強い。
5. 褐色土
6. 褐色土 ローム小塊含む。
7. 黄色ローム・黒褐色土の互層、固くしまる。以下掘方。
8. オリーブ褐色土 ローム粒・焼土粒含み、粘性強い。
9. 暗褐色土 ローム塊斑に含む。

第155図 3区17号竪穴住居平断面図



第156図 3区17号竪穴住居竈平面断面図

3区18号竪穴住居(第157図、PL.64-5)

3-2区の南西隅近くにある。南側の約半分が調査区外となる。上面を削平され、ごく浅くしか残っていない。

位置 X=30705~707、Y=-36618~622。

重複遺構 なし。

形状 南側が調査区外となるが、調査区内の部分からみて方形であろう。

主軸方位 竈が東壁にあると推定して計測すると、N-99°-Eである。

規模 推定した主軸方向は3.07m、それと直交する方向は1.70m以上である。

床面積 調査区内の部分計測すると4.44㎡である。

埋没土層 床面近くのわずかな部分しか残っていないので詳細は不明である。

壁高 0~8cm。

床面 掘方はほとんどなく、ほぼ全体が地山を直接床面としている。おおむね平坦である。

竈 確認できなかった。

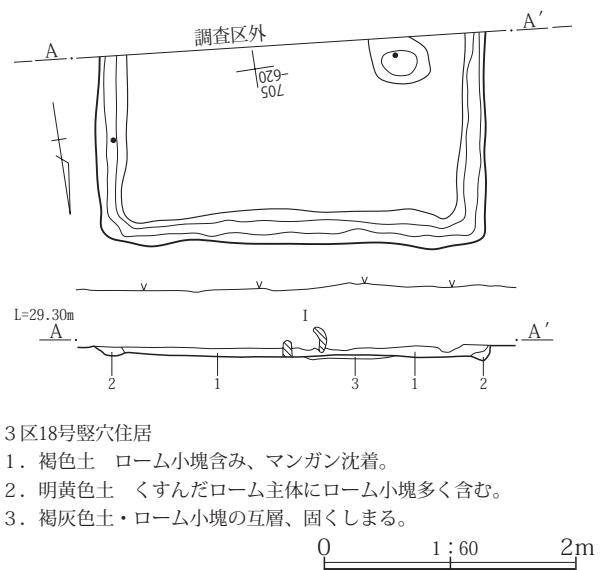
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。南東側に見えるピット状の凹みは深さ12cmと浅く、柱穴ではない。

周溝 幅16~29cm、深さ3~5cm。

遺物 出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)8点・22g、同(大)58g、須恵器(小)1点・5gがある。

時期と所見 痕跡程度の残存度であり、出土遺物もごく少ないので時期は明らかにしがたい。わずかな遺物と住居形態から、9世紀後半のものであろう。



第157図 3区18号竪穴住居平面断面図

4. 4区

4区では19軒の竪穴住居と1基の竪穴状遺構を調査した。調査区の全体に、数軒ずつの集まりが散在している状態であり、住居の分布しないところも広い。

4区1号竪穴住居(第158・159図、第46表、PL.65,128)

4-1区南西隅近くにある。4軒の住居が狭い範囲に密集している。この付近は調査区が狭く、北側の半分近くが調査区外となる。

位置 X=30402～404、Y=-36422～426。

重複遺構 4区2・3号竪穴住居と重複する。本遺構が新しい。

形状 北側が調査区外となるため全形は不明だが、調査できた範囲内では方形である。ただし、南東隅が鈍角になっているので、やや歪んだ形状になる。

主軸方位 住居形状が歪んでいるので主軸方位は確定しがたいが、南壁の方位を計測するとN-96°-Eである。

規模 主軸方向は4.05mである。

床面積 調査区内の部分の計測すると5.99㎡である。

埋没土層 床面付近に黄灰色土が見られる以外は黒褐色土や暗褐色土で埋没している。

壁高 比較的残りのよい南壁で4～11cmである。

床面 表面に緩やかな凹凸がある。

掘方 全体に床面から5cm前後の深さがあり、底面は凹凸がある。所々土坑状に深く掘られている。

竈 東壁に設置している。両袖の基部がわずかな高さで残っているが、全体に破壊されていて残りが悪い。燃烧部の奥半分は壁を掘り込んで作っている。長さは袖の先端から計測して70cmであり、壁外には26cm張り出している。幅は両袖の外側を計測して98cm、燃烧部底面幅は42cmである。壁内側の焼土化は弱く、底面の灰・炭化物の堆積は少なかった。内部と周辺からは多くの土器片が出土している。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 床面では2基のピットを確認し、竈北西にあるものをP1、南東隅のものをP2と名付けた。それぞれの規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)。位置からみて通常の支柱穴とは思えないが、P1は深いので住居の構造に関わる可能性が考えられる。なお、竈北側の壁に

接している凹みは、深さが5cmと浅いものである。

P1 70×63×70 P2 54×36×27

周溝 南壁と西壁に見られる。幅20～38cm、深さ2～8cmである。

遺物 竈内とその周辺から土器片が集中して出土したが、床面からは5～10cm浮いているものが多い。掲載したのは須恵器椀1点、同鉢1点、土師器甕4点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)81g、同(大)917g、須恵器(小)66gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、10世紀前半の住居であると思われる。

4区3号竪穴住居(第158図、PL.66-2)

4-1区南西隅にある。調査区の最も狭い部分にあるため、住居南東隅付近の一部が調査できただけである。

位置 X=30402～404、Y=-36426～428。

重複遺構 4区1号竪穴住居と重複する。本遺構が古い。

形状 ごく一部の調査なので詳細不明であるが、南東壁は直線的に延びており、方形と考えられる。

主軸方位 主軸方向は確定できないが、南東壁の方位はN-62°-Eである。

規模・床面積 計測不能である。

埋没土層 ローム粒・塊を含む暗褐色土で埋没している。人為的埋没の可能性が考えられる。

壁高 3～5cmしか確認できなかったが、調査区の壁では覆土が32cm残っていた。

床面 おおむね平坦である。

掘方 南東隅が土坑状に深い以外はごく浅く存在するだけである。

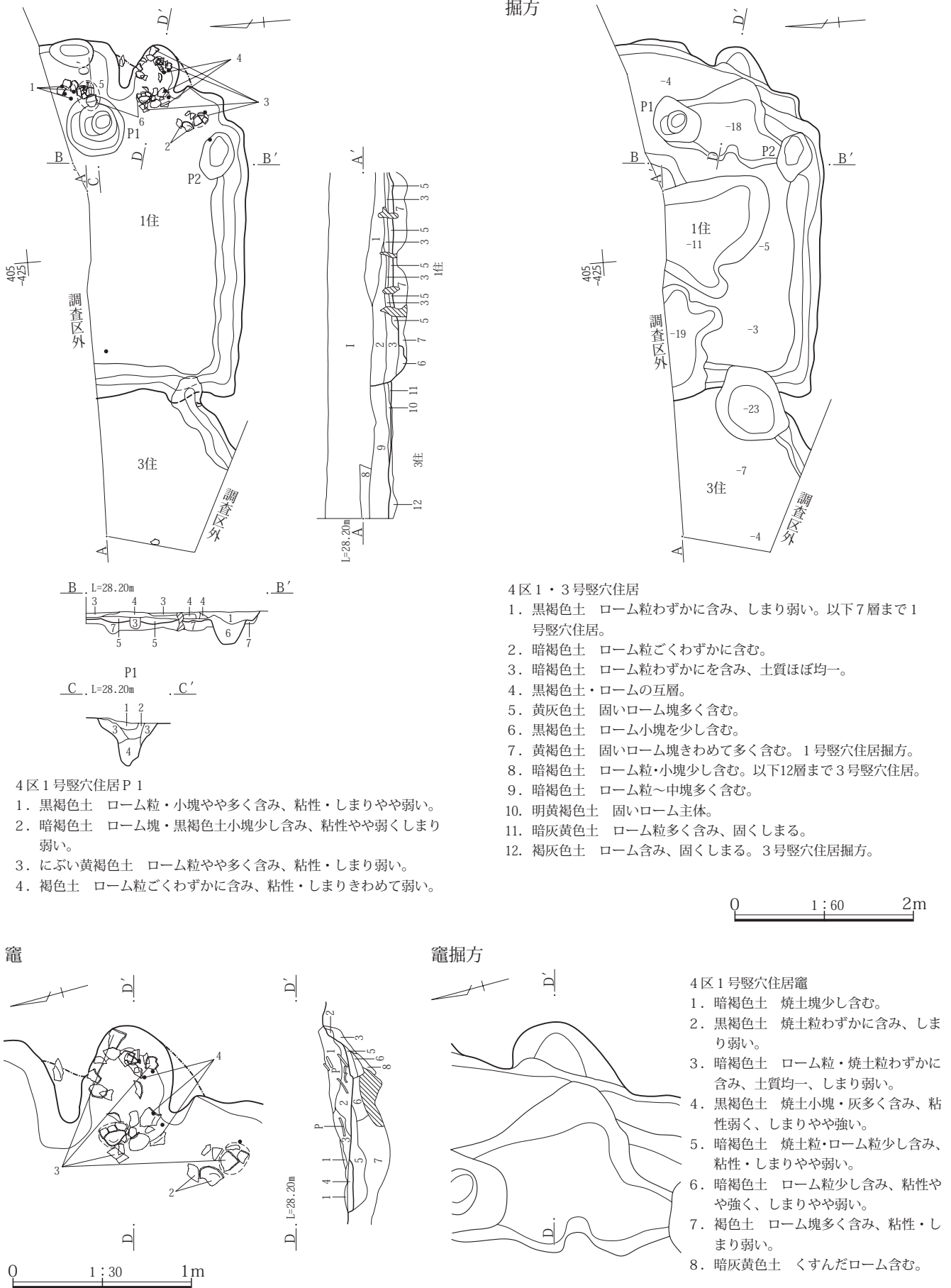
竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

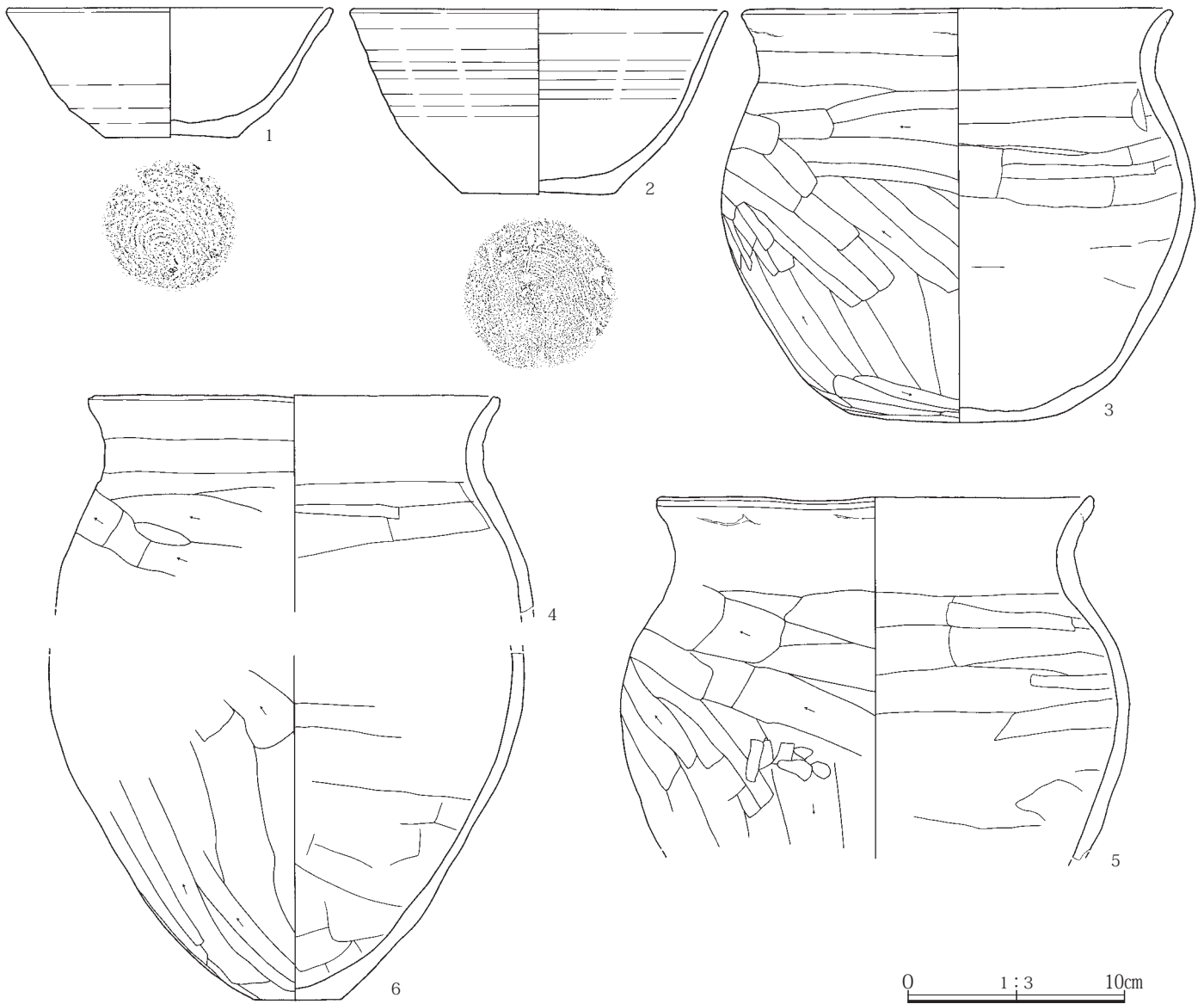
柱穴 確認できなかった。

周溝 幅26～32cm、深さ5～17cm。

遺物 出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)4点・51g、同(大)52g、須恵器(小)1点・3gしかない。
時期と所見 出土遺物が少ないので時期を特定することは困難であるが、9世紀代の住居であると考えられる。



第158図 4区1・3号竪穴住居平断面図



第159図 4区1号竪穴住居出土遺物

4区2号竪穴住居(第160図、PL.66-1)

4-1区南西隅付近にある。北側の大部分が調査区外となるうえ、西側に1号竪穴住居が大きく重複しているため、南東壁とその付近のごく一部分が調査できただけである。

位置 X=30402~404、Y=-36421~423。

重複遺構 4区1号竪穴住居と重複する。本遺構が古い。

形状 ごく一部の調査に留まったので詳細は不明であるが、南東壁は直線的に延びており、方形と推定される。

主軸方位 竈が見つかっていないので主軸方向は不明であるが、南東壁の方向を計測するとN-32°-Eである。

規模・床面積 計測不能である。

埋没土層 暗褐色土や褐色土で主に埋没している。

壁高 13~17cmであるが、調査区の壁面では住居の覆土が27cm残っていた。

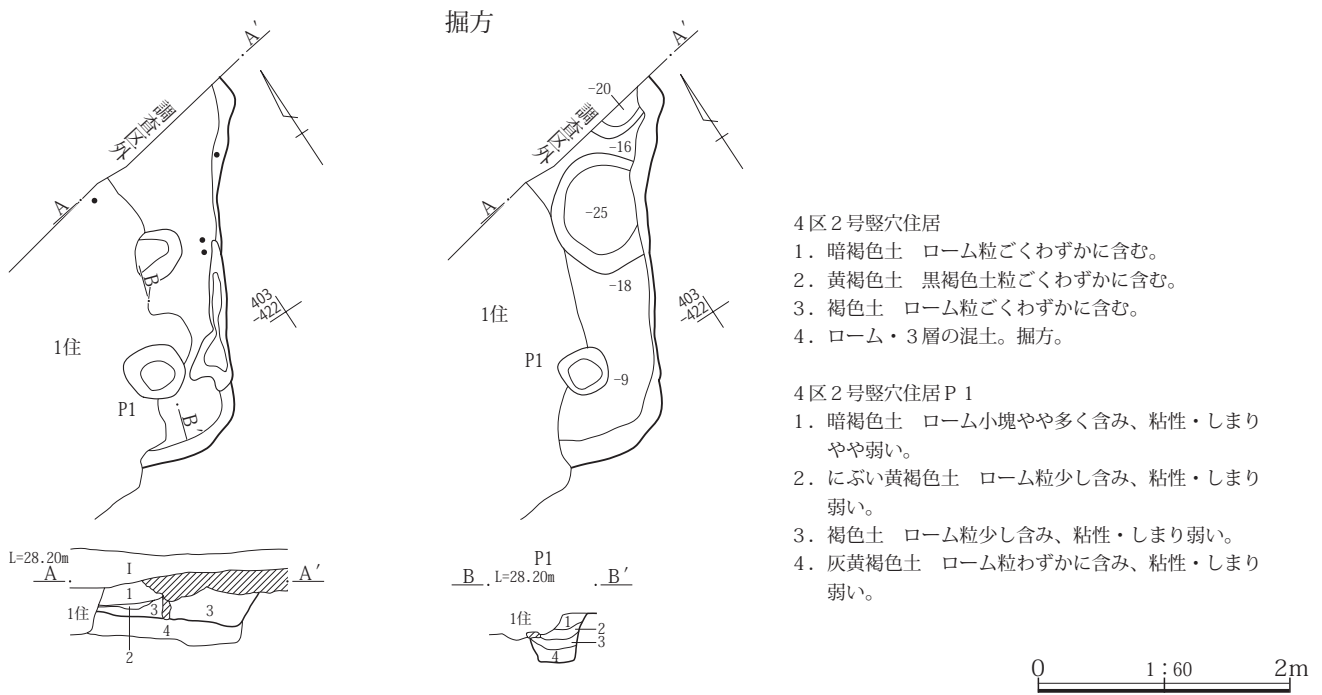
床面 調査できたのは狭い範囲であるが、ほぼ平坦である。

掘方 全体に床面よりも9~18cm深い。北寄りにはさらに深い部分が2カ所見られる。それらをロームと褐色土の混土で埋め戻し、床面としている。

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確実なものは見つかっていないが、掘方では北端に土坑状の凹み見付き、これが貯蔵穴の痕跡である可能性がある。

柱穴 南隅に当たる部分に1基のピットが見つまっている。長径49cm、短径42cmの楕円形で、深さは49cmであり、



第160図 4区2号竪穴住居平断面図

これが南側の支柱穴である可能性は高い。しかしそれに対応するピットは、1号竪穴住居の掘方底面で見つっていない。

周溝 明確な周溝は確認できなかったが、南東壁に、壁に沿って5～9cmのわずかな凹みがあるので、それが周溝の痕跡とみることできる。

遺物 出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)4点・9g、同(大)203gしかない。

時期と所見 出土遺物が少ないので時期を特定することは困難であるが、わずかに出土している土器は4世紀代のものである。

4区4号竪穴住居(第161図、PL.66-3)

4-1区南西隅付近にある。調査区内に掛かるのは北壁付近のわずかな部分であり、南側の大部分が調査区外となっている。

位置 X=30400～402、Y=-36423～426。

重複遺構 なし。

形状 調査区内の形状から見て方形ではあるが、詳細は不明である。

主軸方位 竈が見つからないので主軸方向は不明である。東壁に竈があると想定して北壁の方位を計測する

とN-100°-Eである。

規模 東西長は3.40m以上である。

床面積 調査区に掛かるのは1.92㎡のみである。

埋没土層 ローム粒・塊を含む褐色土・暗褐色土・黒褐色土などで埋没している。

壁高 8～27cmである。

床面 おおむね平坦である。

掘方 床面よりも3～23cmで凹凸が目立つ。それらをローム塊を主体とする黄褐色土で埋め戻して床面としている。

竈 確認できなかった。

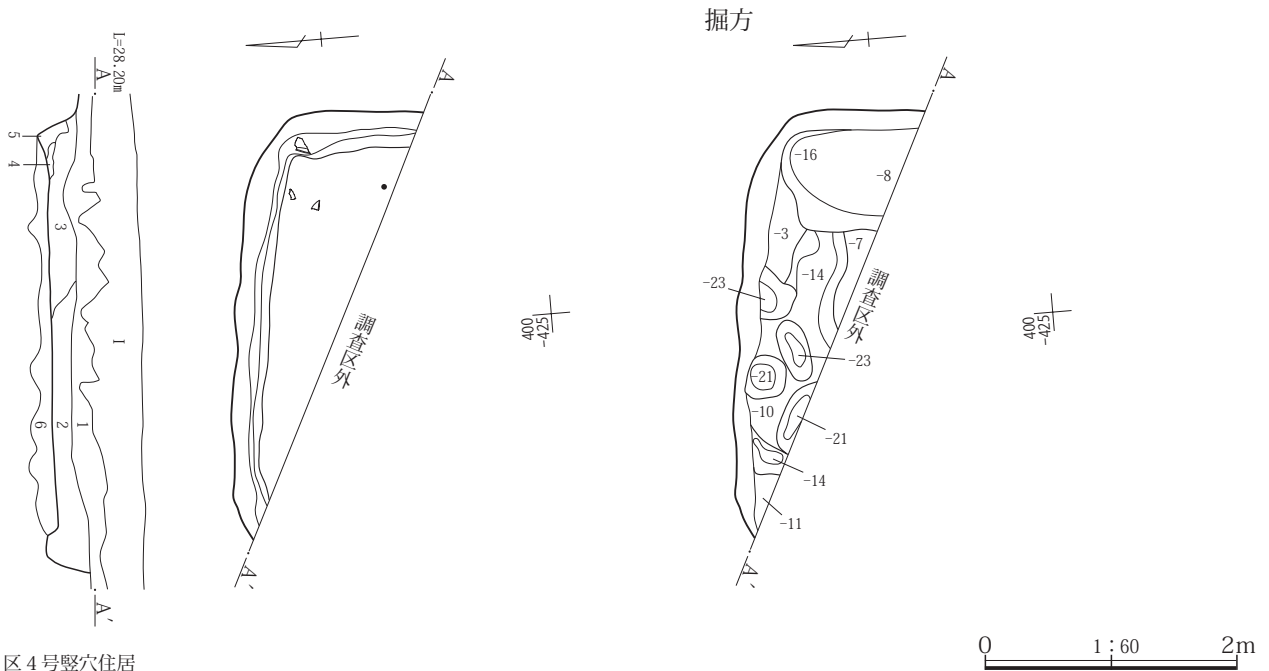
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 調査できた範囲では全周している。幅20～35cm、深さ5～11cmである。

遺物 出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)7点・58g、同(大)291g、須恵器(小)4点・20g、同(大)1点・28gだけである。

時期と所見 出土遺物が少ないので時期を特定することは困難であるが、わずかに出土した土器から9世紀第4四半期の住居であると考えられる。



4区4号竪穴住居

1. 褐色土 ローム小塊少し含む。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊多く含む。
3. 黒褐色土 ローム粒・小塊少し含み、焼土粒わずかに含む。
4. 黄褐色土 ローム粒・小塊わずかに含む。
5. 灰黄褐色土 ローム粒少し含み、しまり弱い。
6. 黄褐色土 固いローム塊きわめて多く含む。

第161図 4区4号竪穴住居平断面図

4区5号竪穴住居(第162図、第47表、PL.66-4・5)

4-1区中央の西端近くにある。床面近くまで削平され、さらに2号畠と重複しているため、残りが非常に悪い。調査できたのは竈とその北側の壁の一部および床面だけである。第162図に示した平面図は調査できた床面の範囲のみを示しており、破線で示した部分が壁の位置かどうかは確証がない。

位置 X=30428～431、Y=-36418～421。

重複遺構 4区2号畠と重複する。本遺構が古い。

形状 方形と推定される。

主軸方位 N-118°-Eである。

規模 床面の範囲を計測すると、長軸2.47m、短軸2.12mである。

床面積 調査できた床面の面積は、上記の規模から単純計算すると5.24㎡である。

埋没土層 底部のごく一部しか残っていないが、それは暗褐色土である。

壁高 南東壁でも1～2cm程度しか残っていない。

床面 おおむね平坦である。

掘方 ほとんど把握できなかったが、セクションを取っ

た部分では3～10cmである。

竈 南東壁面に設置している。2号畠と攪乱に破壊されており、全体の形状が把握できない。灰褐色粘土がわずかに見られるので、これによって本体が構築されていたらしい。壁外への張り出しは42cmであり、幅は66cmだけ調査できた。竈内と思われる位置に土器片が残っていた。

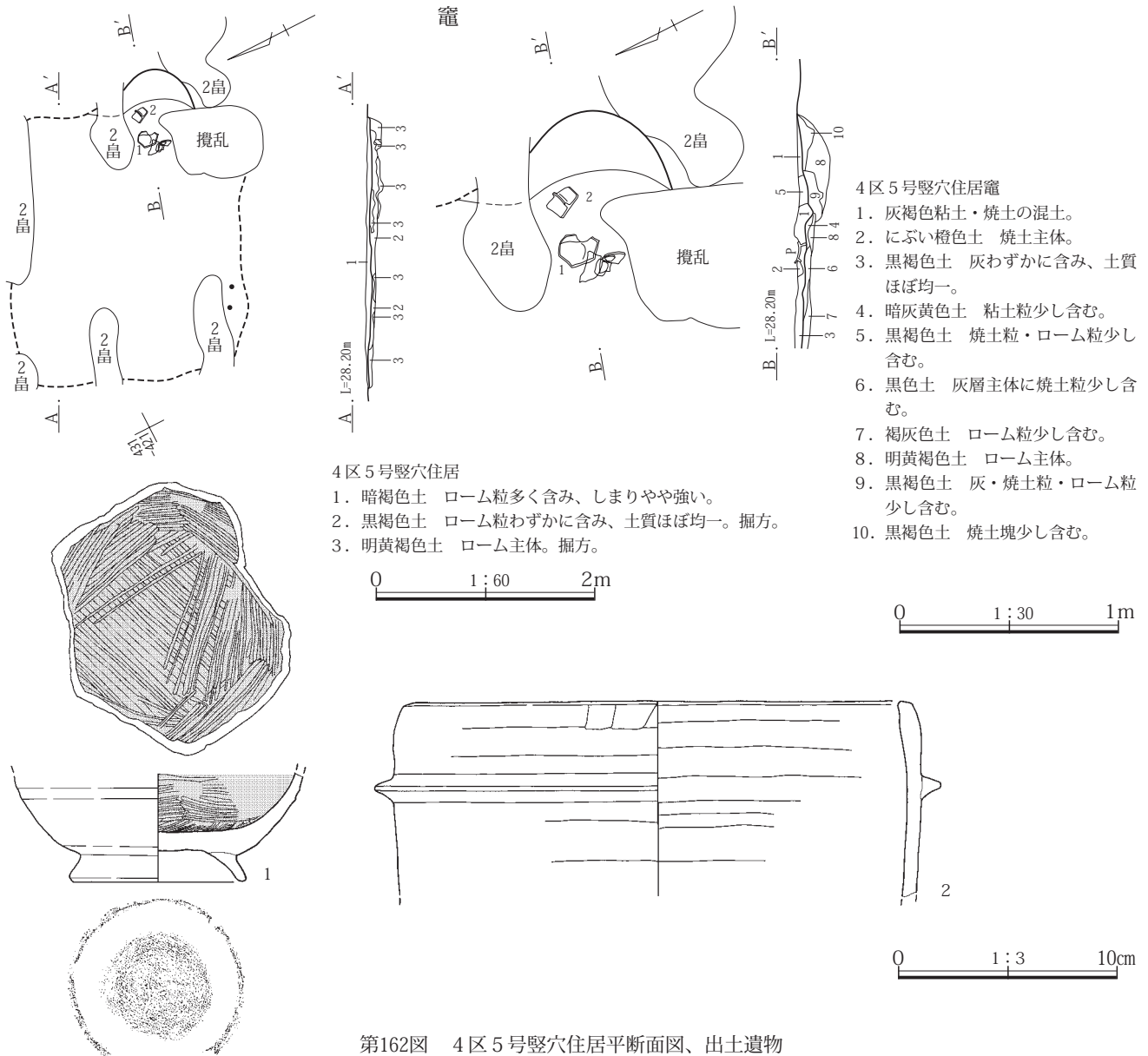
貯蔵穴 確認できなかった。攪乱によって破壊された可能性が高い。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

遺物 出土遺物は少ない。掲載したのは黒色土器碗1点、土師器羽釜1点であり、いずれも竈内と思われる部分から出土している。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)4点・26g、同(大)140g、須恵器(小)37gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、10世紀中頃の住居であると思われる。そのため、小型の住居であると考えられるが、壁の位置が明確に把握できなかったので、形状も含めて詳細は不明である。



第162図 4区5号竈穴住居平断面図、出土遺物

4区6号竈穴住居(第163図、第47表、PL.66-6・7,128)

4-2区北部にあり、北東側の大部分が調査区外となる。

位置 X=30497~500、Y=-36460~462。

重複遺構 4区10号竈穴住居と重複しているはずであるが、10号竈穴住居は重複部分付近で浅く不明瞭となっているため、新旧関係を確認できない。

形状 北東側大半が調査区外となるが、調査できた範囲内では整った方形である。

主軸方位 東壁に竈があると想定して南壁の方位を計測すると、N-93°-Eである。

規模 調査できた長さは、南壁で2.80m、西壁で2.40mである。南壁は調査できた範囲の東端で北に曲がっているように見えるので、住居の東西方向の長さはこの計測

値に近い可能性が高い。

床面積 調査できた範囲内では3.11㎡である。

埋没土層 底部付近のわずかな厚さしか残っていない状態であるが、ほぼ暗褐色土1層で埋没している。

壁高 7~17cm。

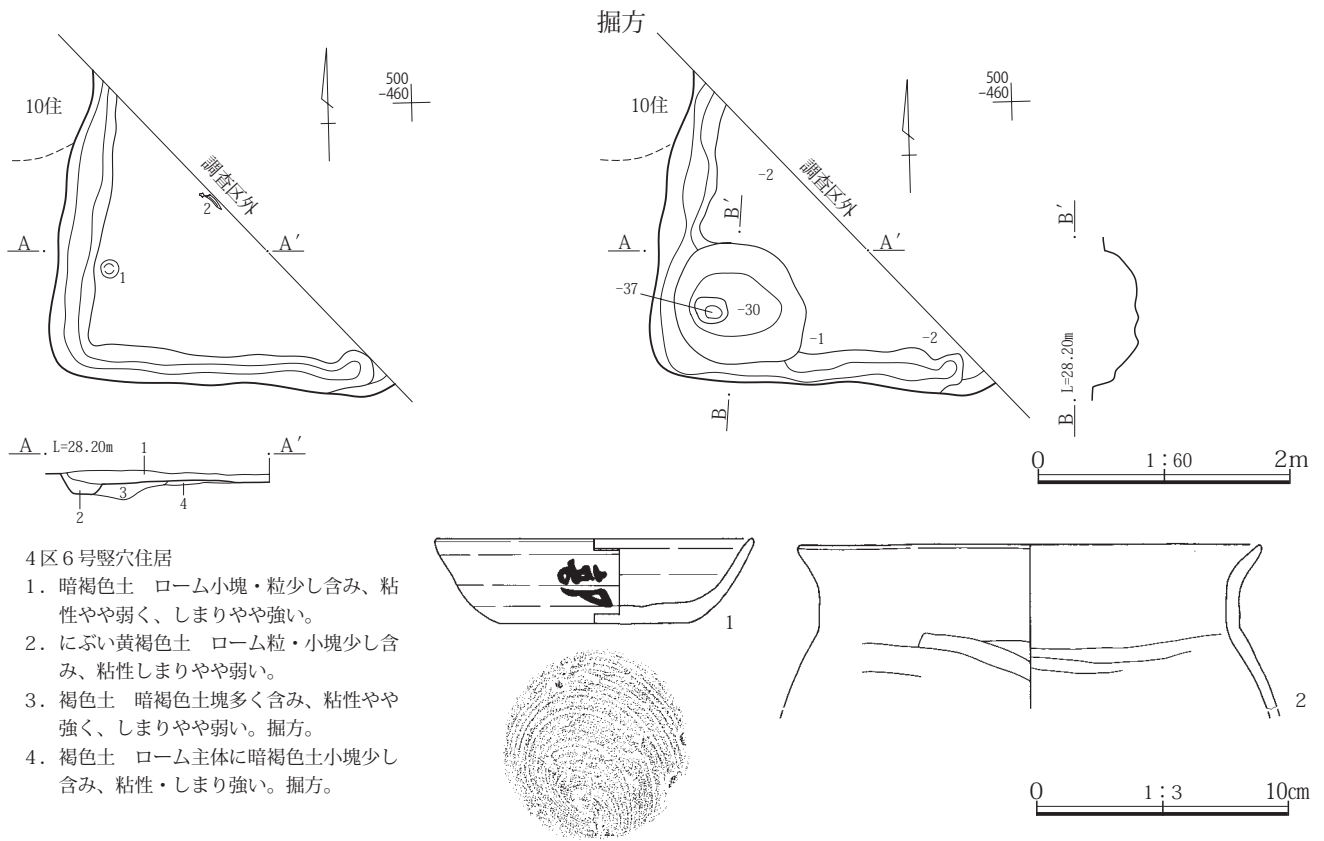
床面 おおむね平坦である。

掘方 全体にごくわずかな深さである。南西隅には土坑状に深く掘られた部分がある。

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 掘方調査の際南西隅に見つかった土坑は、近くに竈がないので貯蔵穴の可能性は低いと思われる。長径114cm、短径95cm、深さは最も深いところで床面から37cmである。

柱穴 確認できなかった。



第163図 4区6号竪穴住居平断面図、出土遺物

周溝 調査した範囲には全周する。幅18～35cm、深さ6～11cmである。

遺物 出土遺物は少ない。掲載したのは土師器甕1点、須恵器墨書杯1点(墨書)である。須恵器杯は完形のまま裏返しとなって、南西隅近くの壁際から出土した。床面からは3cmほど浮いた高さであった。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(大)7点・97g、須恵器(小)5点・48gがあるだけである。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀中頃の住居であると思われる。

4区7号竪穴住居(第164図、PL.66-8,67-1)

4-2区北端隅にあり、住居南隅のごく一部が調査区内にかかっているにすぎない。

位置 X=30502～504、Y=-36465～468。

重複遺構 なし。

形状 住居南隅しか調査できなかったので詳細は不明だが、調査できた部分は方形である。

主軸方位 竈が見つからないので主軸方位は確定できないが、南東壁の方位はN-54°-Eである。

規模・床面積 ごく一部の調査なので計測不能である。
埋没土層 暗褐色土や黒褐色土で埋没しているが、分層は難しくほぼ1層で埋没しているように見え、人為的に埋没している可能性が考えられる。

壁高 比較的残りがよく、43～46cmの高さがある。

床面 おおむね平坦である。

掘方 南西隅付近はやや深く、より中央に近い部分は浅くなっている。それをローム土主体の褐色土で埋め戻し床面としている。

竈 確認できなかった。

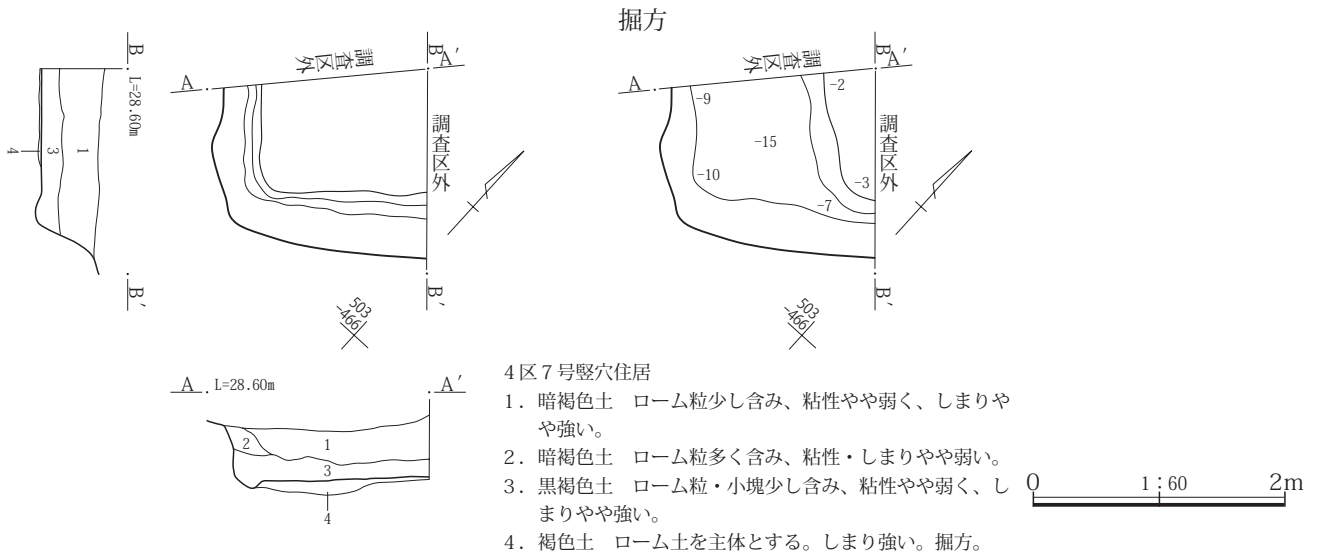
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 調査できた範囲には全周している。幅16～22cm、深さ3～5cmである。

遺物 出土遺物はごくわずかであり、小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(大)3点・43gがあるにすぎない。

時期と所見 出土遺物がほとんどないので、時期の特定は困難である。



第164図 4区7号竪穴住居平断面図

4区8号竪穴住居(第165・166図、第47表、PL.67-2～5、68-1・4・5,128)

4-2区の北端近くにある。内側に15号竪穴住居が重複しているが、遺構確認時にそれを認識できず、同時に掘り下げてしまった。

位置 X=30492～498、Y=-36463～469。

重複遺構 4区15号竪穴住居、4・5号溝、16号井戸と重複する。本遺構は15号竪穴住居、4・5号溝より古く、16号井戸より新しい。

形状 北東-南西方向に長い長方形である。

主軸方位 N-22°-W。

規模 なるべく中央付近で計測して、長軸4.84m、短軸3.70mである。

床面積 15号竪穴住居で破壊されている部分も復元して、14.88㎡である。

埋没土層 暗褐色土ないし黒褐色土で埋没しているが、そそれはよく似ており、ほぼ1層で埋没している状態なので、人為的に埋め戻されている可能性が高い。

壁高 最も残りのよい南西壁周辺で32～46cmである。

床面 ごく緩やかな起伏があり、北側がわずかに低い。

掘方 全体に床面から4～15cm程度の深さである。それをローム主体の土で埋め戻し、床面とする。

竈 北西壁の東端近くに設置している。袖は左側しか残っておらず、しかも上部を5号溝によって破壊されている。焼部をの大部分を、壁を掘り込んで作る形態である。本体は灰オリーブ色粘土で構築されていたらしい。

長さは袖の先端から計測して92cmであり、壁外には64cm張り出している。幅は、左袖の外側から右側の壁への掘り込みの部分までを計測すると80cmであるが、左袖外側から竈の中軸線までの距離を折り返すと幅128cmに復元できる。焼部底面幅は44cmである。内面の焼土化は弱く、灰・炭化物の堆積もほとんど見られない。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 明確な柱穴は見つかっていない。南西隅近くにあるピット(P1)は浅いので柱穴ではない。長径70cm、短径58cmのやや歪んだ円形で、深さは24cmである。

周溝 竈部分や南西隅などで途切れてはいるが、ほぼ全周するようである。幅13～30cm、深さ4～12cmである。

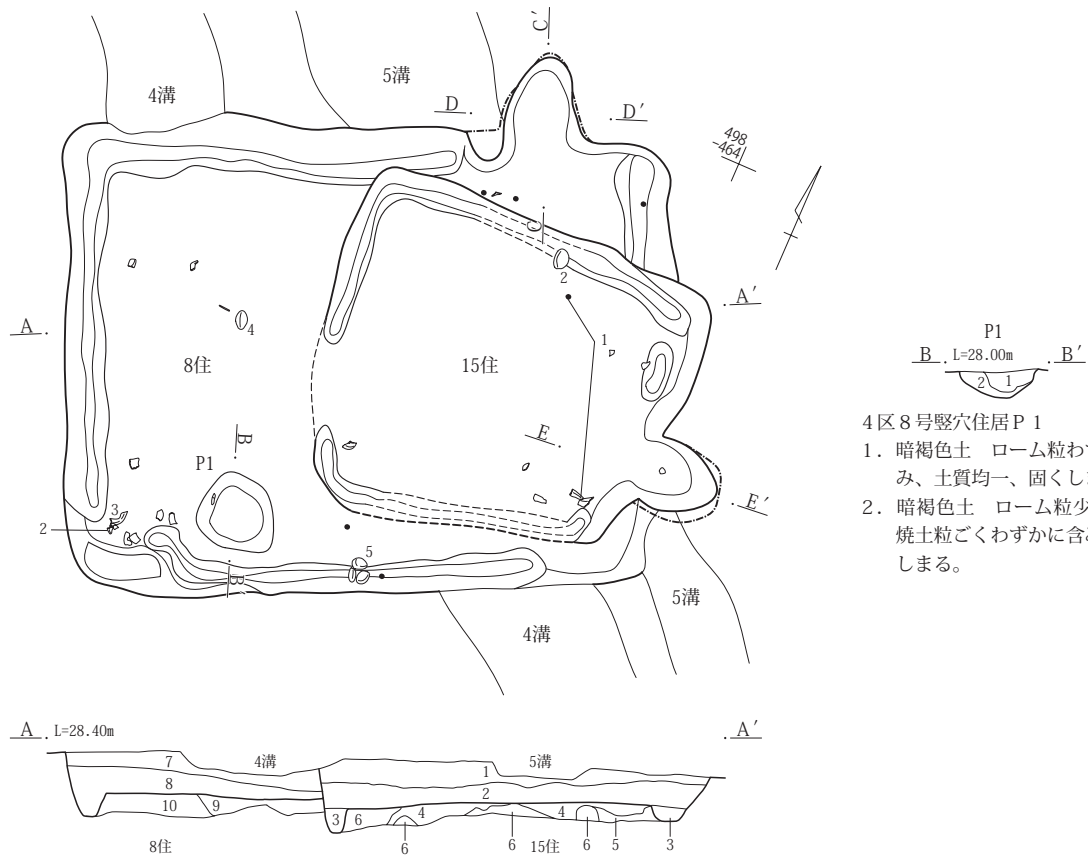
遺物 遺物は全体に散在する程度である。掲載したのは、土師器杯1点(墨書がある)、同埴1点、同甕1点、砥石1点、敲石1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)177g、同(大)1,318g、須恵器(小)381g、同(大)5点・100gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第3四半期の住居であると思われる。

4区15号竪穴住居(第165・167図、第47表、PL.67-2～5、68-1～3・6・7,128)

4-2区の北端近くにある小型の住居である。8号竪穴住居の内側にはまり込む形で重複しているが、遺構確認時にそれを認識できず、同時に掘り下げてしまった。

位置 X=30494～497、Y=-36463～466。



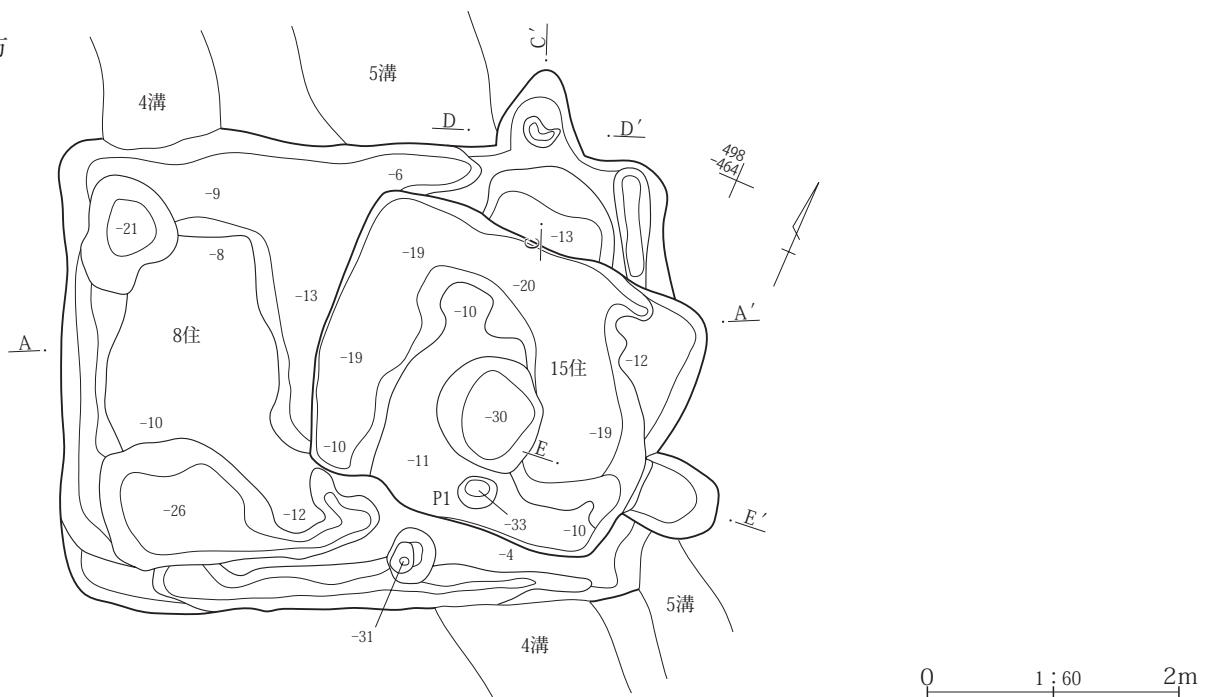
4区8号竪穴住居P1

1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一、固くしまる。
2. 暗褐色土 ローム粒少し含み、焼土粒ごくわずかに含み、固くしまる。

4区8・15号竪穴住居

1. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒わずかに含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。以下6層まで15号竪穴住居。
2. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少し含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
3. 黒褐色土 ローム小塊多く含み、粘性・しまりやや強い。
4. 暗黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊多く含む。掘方。
5. 暗黄褐色土 4層よりローム塊小さい。掘方。
6. 明黄色土 ローム粒・塊の混土。掘方。
7. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少し含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。以下10層まで8号竪穴住居。
8. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒やや多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
9. 暗黄褐色土 くすんだローム土。ローム塊多く含む。掘方。
10. 明黄褐色土 ローム粒・塊主体。掘方。

掘方



第165図 4区8・15号竪穴住居平断面図

重複遺構 4区8号竪穴住居、4・5号溝、16号井戸と重複。本遺構が4・5号溝より古く、8号竪穴住居、16号井戸より新しい。

形状 方形であるが、相対する辺が平行にならず長さも等しくないため、全体に歪んだ形状である。

主軸方位 N-88°-E。

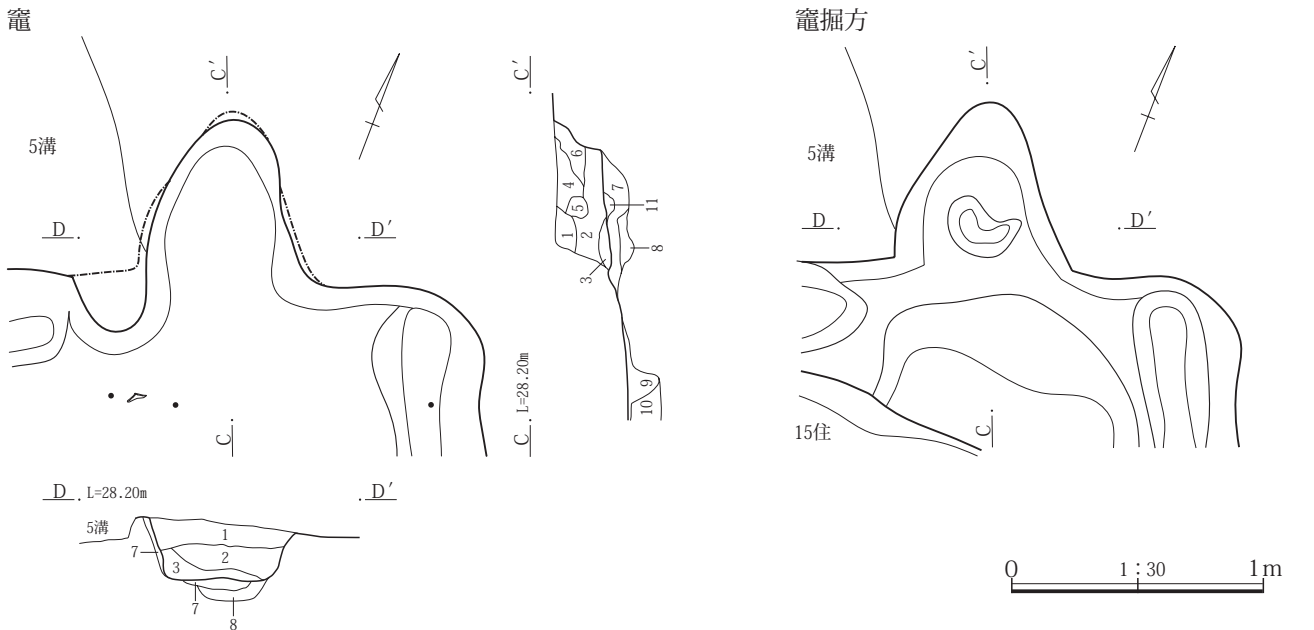
規模 なるべく中央付近で計測して、長軸2.85m、短軸2.52mである。

床面積 5.69㎡。

埋没土層 暗褐色土で埋没している。ほぼ同一の土で埋没しており、人為的に埋め戻された可能性が高い。

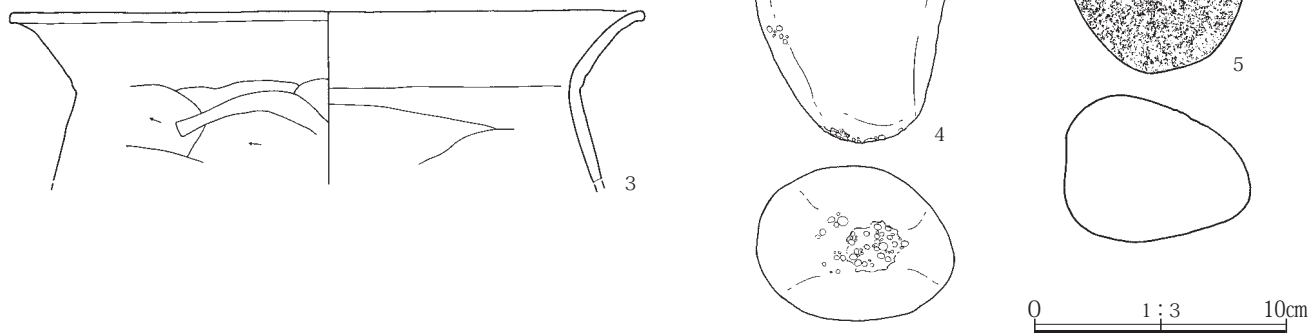
壁高 8号竪穴住居と同時に掘り下げてしまったため、広い範囲では確認できなかったが、断面(A-A')を計測したところでは最も厚いところで40cmの覆土が残っていた。

床面 おおむね平坦である。



4区8号竪穴住居竪

1. にぶい黄褐色土 ローム塊・粒・焼土粒少し含み、粘性・しまりやや強い。
2. 暗褐色土 焼土粒・小塊やや多く含み、粘性・しまりやや弱い。
3. 暗褐色土 焼土粒やや多く含み、粘性・しまり弱い。
4. 黄褐色土 ローム塊きわめて多く含み、焼土粒少し含み、土質粗い。
5. 灰オリーブ色粘土 固くしまる。
6. 暗灰黄色土 土質ほぼ均一、しまりやや弱い。
7. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰含む。
8. 暗オリーブ褐色粘質土 焼土粒少し含む。
9. 暗黄褐色土 ローム小中塊の混土。
10. 暗褐色土 ローム塊わずかに含む。
11. 褐色土 焼土粒少し含み、固いローム塊を含む。



第166図 4区8号竪穴住居竪断面図、出土遺物

掘方 全体に床面よりも10～20cm深く、底面は凹凸が目立つ。中央付近には土坑状に深い部分がある。この部分は長径94cm、短径85cmのやや歪んだ円形で、深さは床面から30cmである。

竈 東壁の中央南寄りに設置している。袖は見られず、全体が壁を掘り込んで作られている。長さは70cm、幅は焚き口部の底面幅が36cm、燃烧部底面幅は40cmである。内面の焼土化は弱く、灰・炭化物の堆積も少ない。

貯蔵穴 確認できなかった。

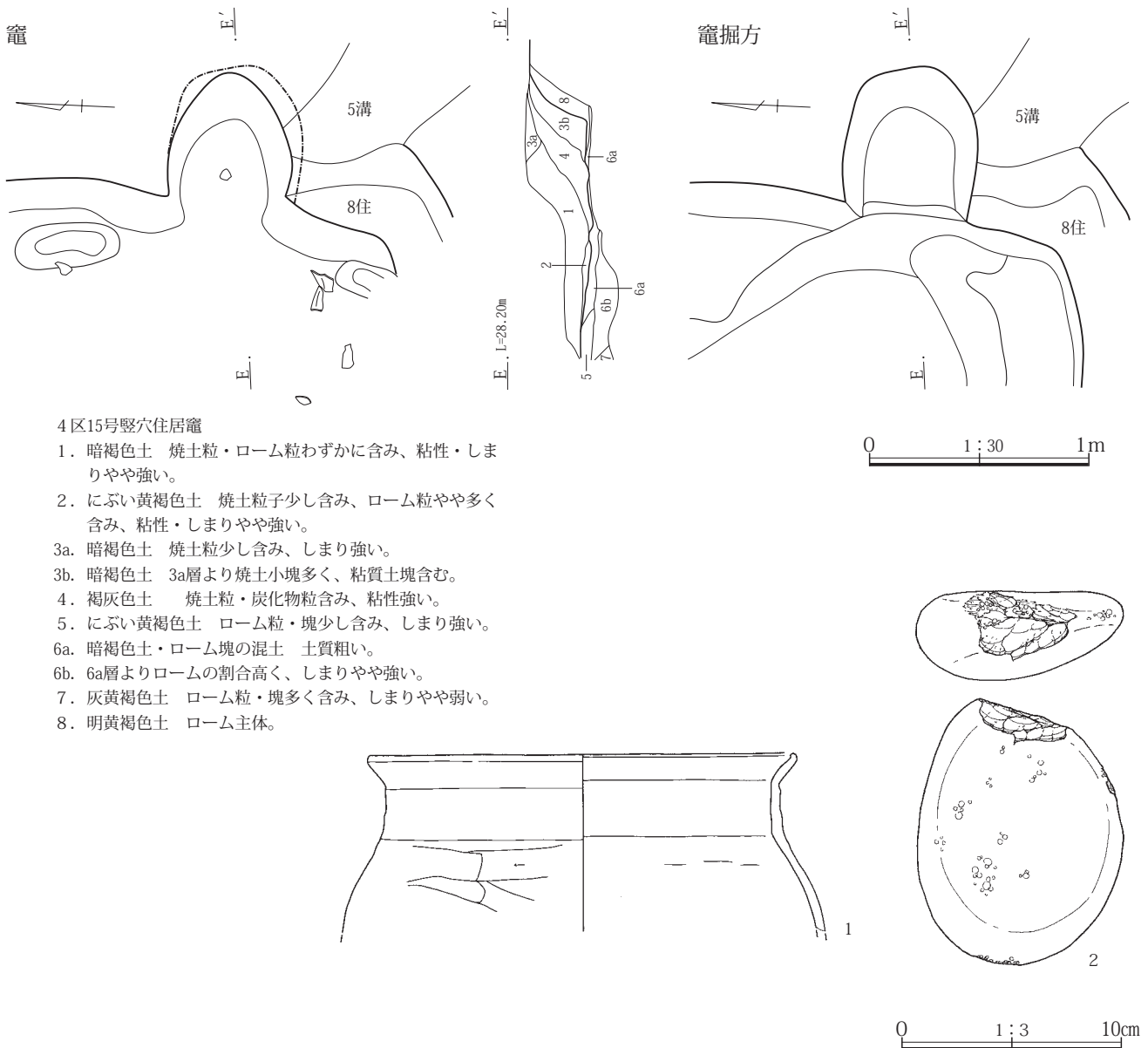
柱穴 床面では顕著なピットは見つかっていないが、掘方の調査の際に南壁中央近くで1基のピット(P1)が確認された。長径32cm、短径26cmであり、深さは床面から

33cmである。位置からみて支柱穴とは思えないが、壁の中央に近い場所にあるので、入り口などの施設に関わる可能性が考えられる。

周溝 残りはよくなかったが、東壁と西壁南部を除いて存在する。幅14～27cm、深さ10～20cmである。

遺物 出土遺物は少ない。掲載したのは、土師器甕1点、敲石1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(大)179g、須恵器(小)3点・51g、同(大)1点・15gがある。

時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、9世紀第3四半期の住居であると思われる。



第167図 4区15号竪穴住居竈平断面図、出土遺物

4区9号竪穴住居(第168・169図、第47表、PL.68-8,69)

4-2区北部の西側にあり、南西側が調査区外となる。

位置 X=30489~493、Y=-36463~467。

重複遺構 4区40・55号土坑と重複し、本遺構は40号土坑より古いが、55号土坑とは新旧不明である。

形状 南西側が調査区外となるが、調査できた範囲内では比較的整った方形である。

主軸方位 N-71°-E。

規模 主軸方向は3.15m以上であり、それと直交する方向は3.34mである。

床面積 調査区内の部分を実測すると6.44㎡である。

埋没土層 暗褐色土で埋没している。夾雑物で分層したが、類似した層であり、短期間に人為的に埋め戻された可能性が高いと考えられる。

壁高 残りのよい南東壁では48~51cmである。

床面 おおむね平坦である。

掘方 全体にごく浅く存在し、底面は細かい凹凸がある。

竈 北東壁中央に設置している。両袖の基部が残り、燃

焼部の奥半分は壁を掘り込んで作っている。袖は粘土を含む灰黄褐色土で作られ、その他の部分もこの土で作られていたと思われる。長さは袖の先端から計測して110cmであり、壁外には55cm張り出している。幅は両袖の外側を計測すると140cm、燃烧部底面幅は30~40cmである。内面は焼土化し、竈前面には灰・炭化物の層がある。

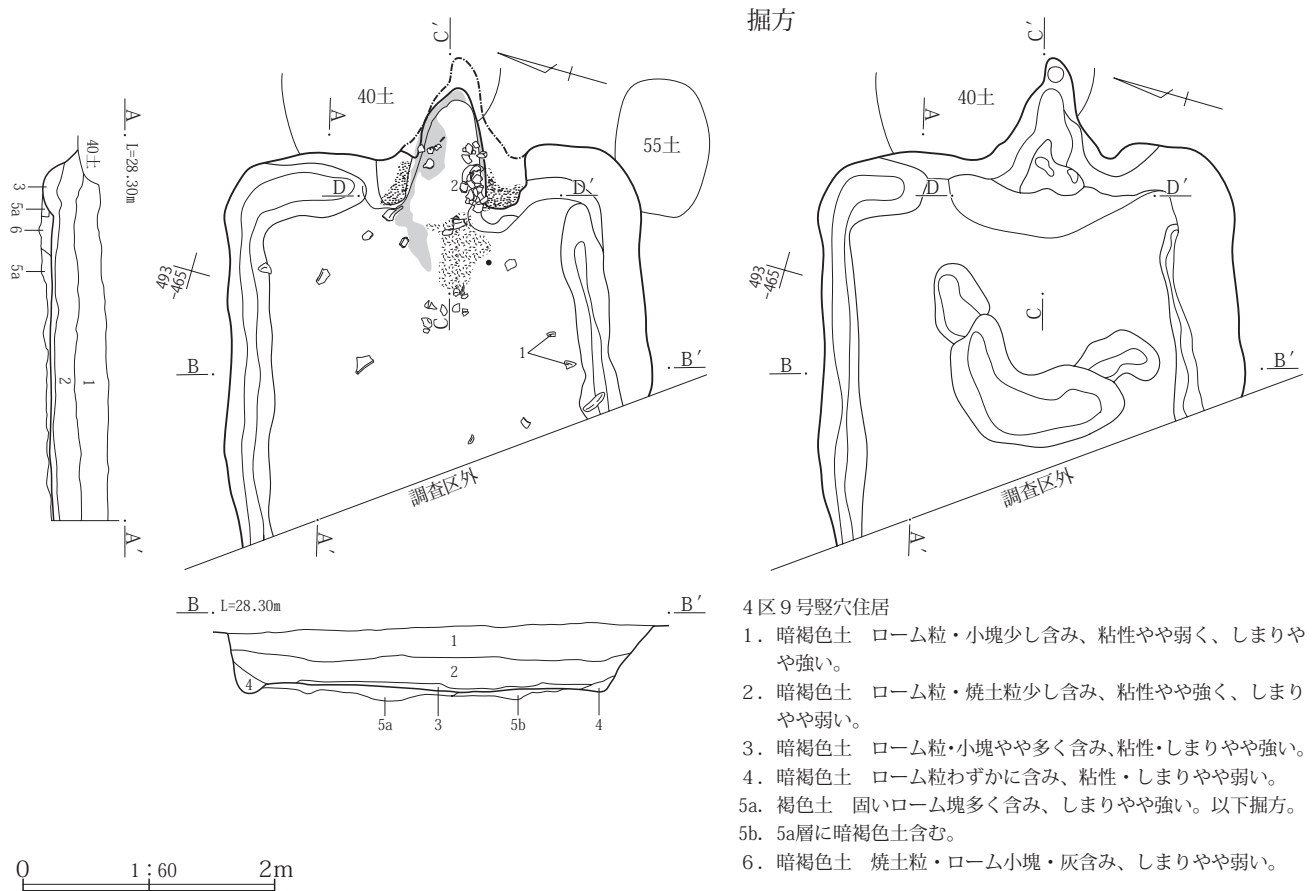
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

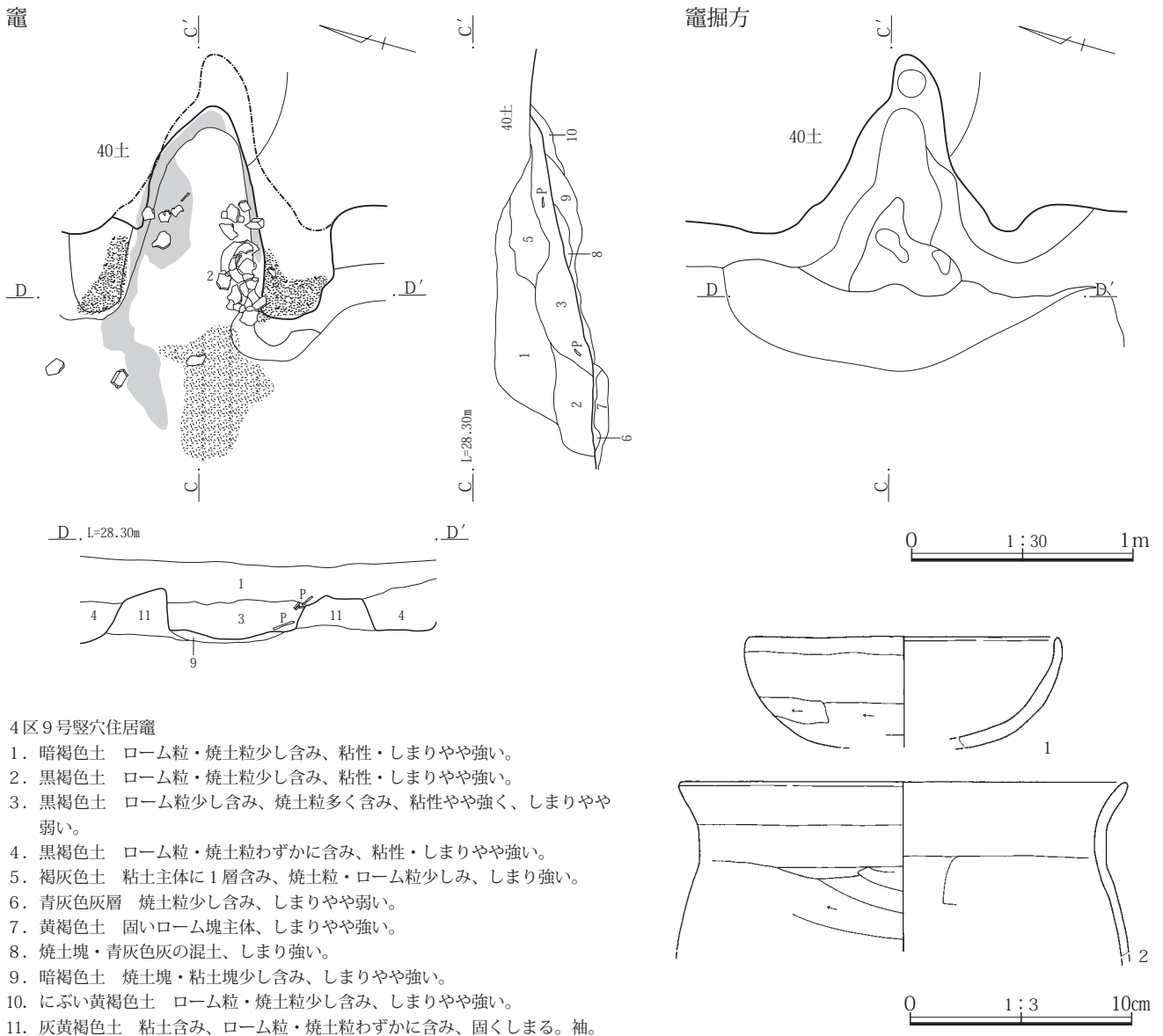
周溝 調査した範囲内では竈部分を除いて存在するので、ほぼ全周するものと思われる。幅24~43cm、深さ1~6cmである。

遺物 遺物は全体に散在していた。掲載したのは土師器杯1点、同甕1点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)83g、同(大)1,580g、須恵器(小)8点・89g、同(大)268gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、9世紀第1四半期の住居であると思われる。



第168図 4区9号竪穴住居平断面図



4区9号竪穴住居竪

1. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少し含み、粘性・しまりやや強い。
2. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒少し含み、粘性・しまりやや強い。
3. 黒褐色土 ローム粒少し含み、焼土粒多く含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
4. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒わずかに含み、粘性・しまりやや強い。
5. 褐灰色土 粘土主体に1層含み、焼土粒・ローム粒少し含み、しまり強い。
6. 青灰色灰層 焼土粒少し含み、しまりやや弱い。
7. 黄褐色土 固いローム塊主体、しまりやや強い。
8. 焼土塊・青灰色灰の混土、しまり強い。
9. 暗褐色土 焼土塊・粘土塊少し含み、しまりやや強い。
10. にぶい黄褐色土 ローム粒・焼土粒少し含み、しまりやや強い。
11. 灰黄褐色土 粘土含み、ローム粒・焼土粒わずかに含み、固くしまる。袖。

第169図 4区9号竪穴住居竪断面図、出土遺物

4区10号竪穴住居(第170図)

4-2区北端近くにある。北壁と西壁の存在から竪穴住居と判断したが、表面が削平されて掘方のみになっているうえ、多くの土坑が重複しているので不明な点が多い遺構である。

位置 X=30499～502、Y=-36462～468。

重複遺構 4区6号竪穴住居、57～60号土坑と重複する。本遺構は土坑よりも古いのが、6号竪穴住居との新旧関係は、本住居が削平されて不明瞭になっているため、明らかにすることができなかった。

形状 北壁と西壁は直線的ではほぼ直角に交わっているの

で、全体の形状は方形と思われる。

主軸方位 東壁に竈があると想定するとN-78°-Eである。

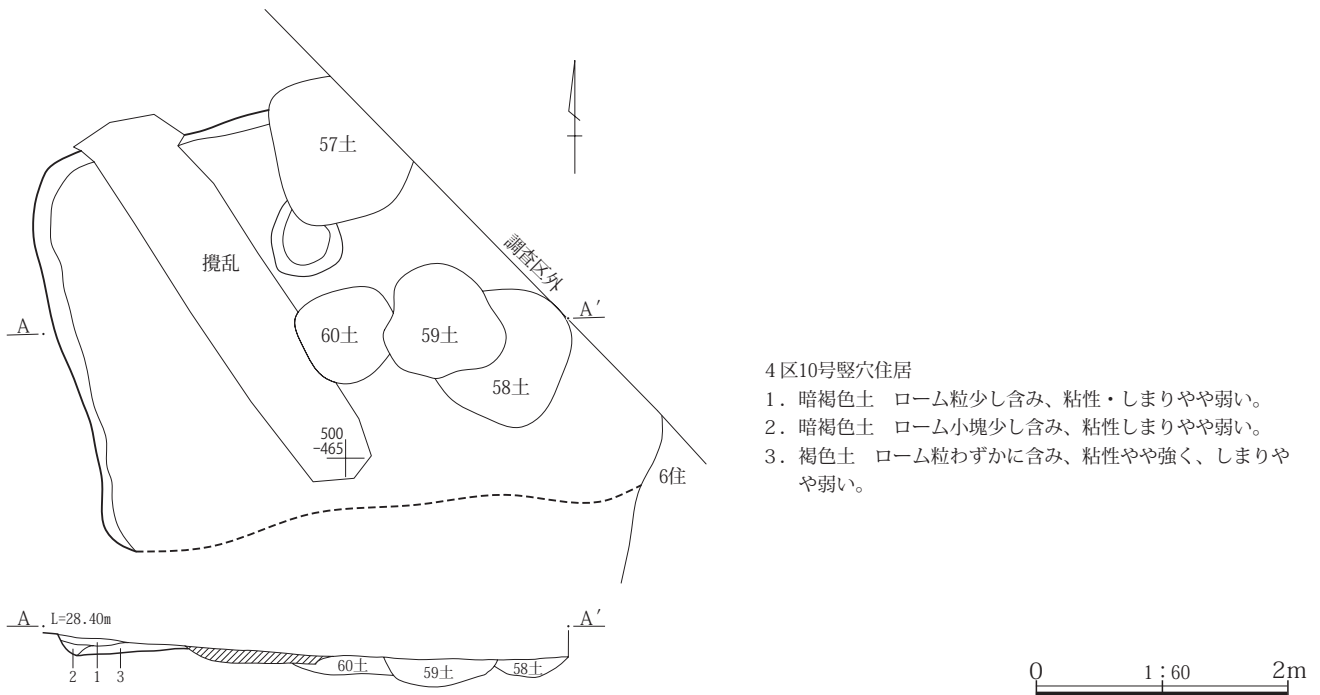
規模 南と東の壁の位置が明確ではないので規模を確定できないが、主軸方向は4.70m以上、それと直交する方向は3.22m以上である。

床面積 南辺を破線で示したラインと推定し、調査できた範囲内を計測すると11.60㎡である。

埋没土層 削平されて存在しない。

床面 削平されて存在しない。

竈 確認できなかった。



4区10号竪穴住居

1. 暗褐色土 ローム粒少し含み、粘性・しまりやや弱い。
2. 暗褐色土 ローム小塊少し含み、粘性しまりやや弱い。
3. 褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。

第170図 4区10号竪穴住居平断面図

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

遺物 土師器(大)の小破片が1点出土したのみであり、掲載できるものはない。

時期と所見 出土遺物がほとんどないので、時期の特定は困難である。北壁と西壁の存在から竪穴住居と判断して調査した遺構であるが、竈や柱穴などの施設も見つかっていないため、住居ではない可能性もあり、本来「竪穴状遺構」と呼ぶべきものであったかもしれない。

4区11号竪穴住居(第171図、第47表、PL.70-1～3,129)

4-4区中央東寄りにある。南東隅に110号土坑が重複し、これによって竈が破壊されているらしい。

位置 X=30486～490、Y=-36433～436。

重複遺構 4区63・110号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 南北に長い長方形である。

主軸方位 N-92°-E。

規模 中央付近で計測して、長軸3.44m、短軸2.93m。

床面積 110号土坑に破壊されている部分を推定復元して計測すると8.67㎡である。

埋没土層 暗褐色土で埋没しているが、底部のわずかな

部分だけしか残っておらず詳細は不明である。

壁高 8～19cm。

床面 おおむね平坦である。

竈 東壁の南寄りに設置している。上部を110号土坑に破壊され、わずかに燃烧部底面の焼土が残る状態であった。左前には本体を作っていたと思われる粘土の層が分布している。110号土坑の底面には竈の掘方部分の凹み残り、その大きさは長径80cm、短径54cmの不整な楕円形である。これによって竈の大きさが大体分かる。

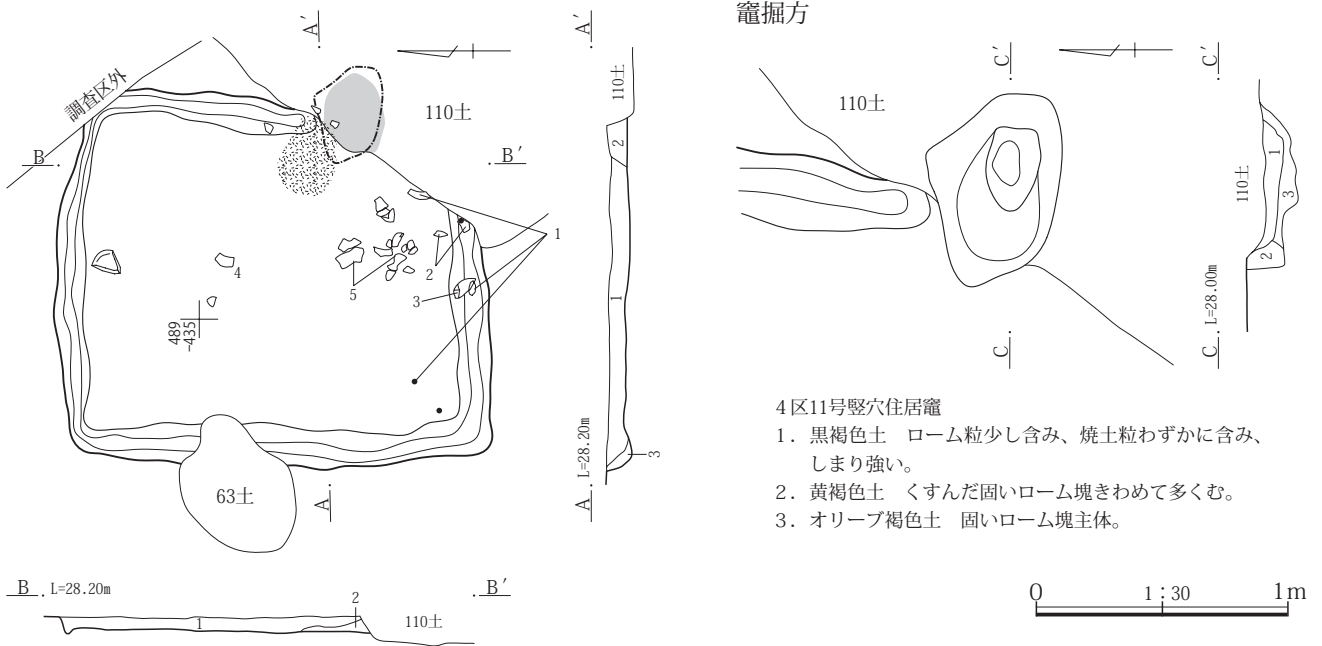
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

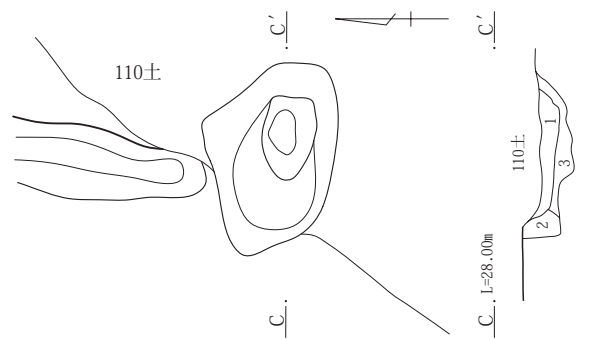
周溝 調査できた範囲内には全周している。幅9～30cm、深さ3～8cmである。

遺物 遺物は少ないが、南東部を中心として大きな土器片が出土し、土師器椀1点、同鉢1点、同甕1点、須恵器杯1点、同椀1点を掲載することができた。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)15g、同(大)302g、須恵器(小)3点・11g、灰釉陶器1点・33gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、10世紀第2四半期の住居であると思われる。



竈掘方



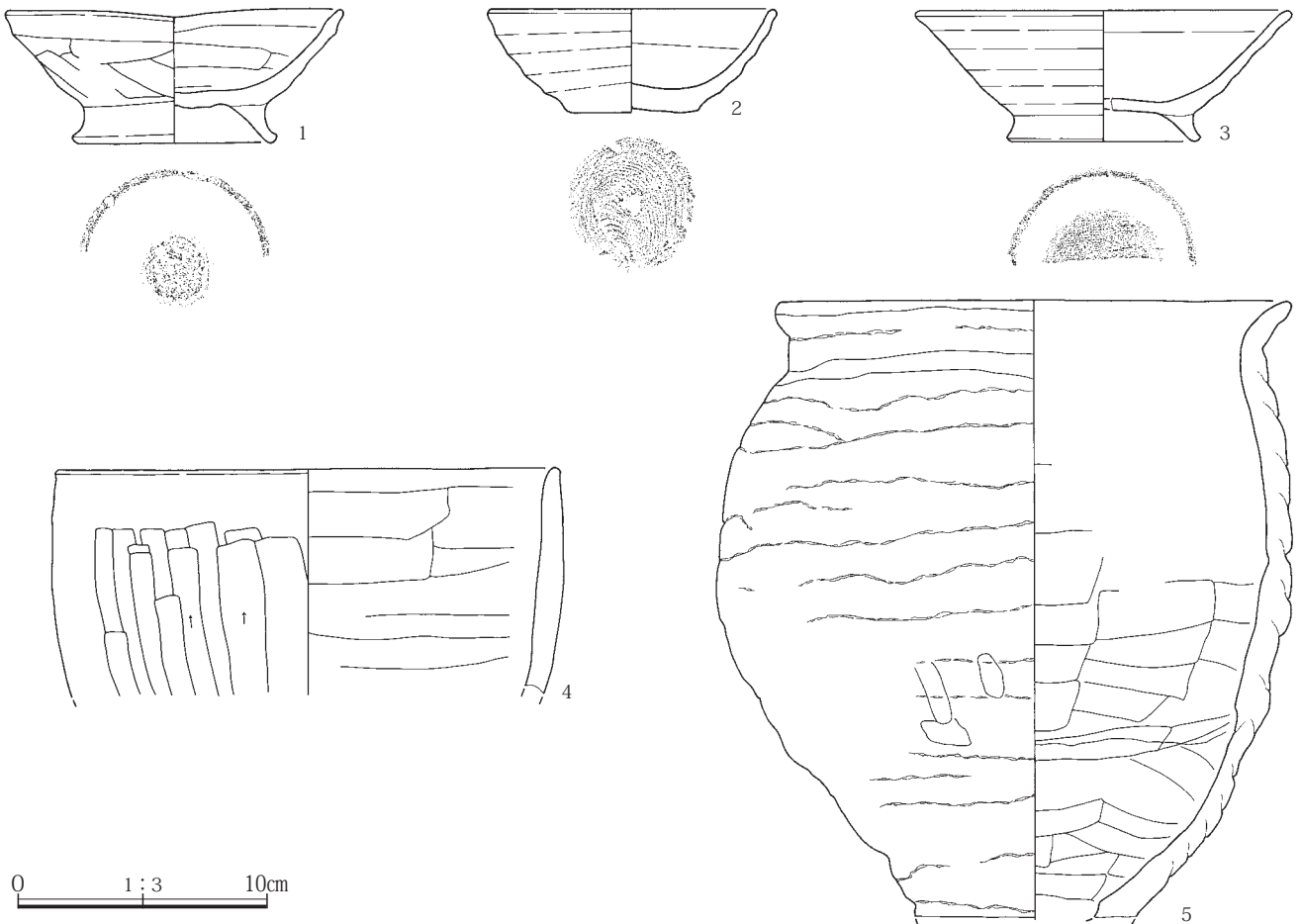
4区11号竪穴住居竈

1. 黒褐色土 ローム粒少し含み、焼土粒わずかに含み、しまり強い。
2. 黄褐色土 くすんだ固いローム塊きわめて多くむ。
3. オリーブ褐色土 固いローム塊主体。

4区11号竪穴住居

1. 黒褐色土 ローム粒・小塊やや多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
2. 黒褐色土 ローム粒・粘土塊やや多く含み、焼土粒少し含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
3. 暗褐色土 ローム小塊多く含み、粘性・しまりやや弱い。

0 1:60 2m



第171図 4区11号竪穴住居平断面図、出土遺物

4区12号竪穴住居(第172・173図、第47表、PL.70-4～6)

4-4区南側にあり、南西の大部分が調査区外となる。調査区に掛かったのは北東隅と竈の部分である。

位置 X=30481～483、Y=-36435～436。

重複遺構 なし。

形状 ごく一部が調査区内に掛かるのみなので詳細は不明だが、東壁はほぼ直線であり方形と考えられる。

主軸方位 N-6°-W。

規模 計測不能である。

床面積 計測不能である。

埋没土層 大部分は暗褐色土で埋没している。A-A'セクションの3層に含まれる粘土塊は竈の構築土であろう。

壁高 42～46cm。

床面 調査できた範囲内ではおおむね平坦である。

掘方 竈付近を除いて、わずかにみられる程度である。

竈 北壁の東端、住居北東隅の部分に設置している。調査できたのは煙道部分であり、燃烧部は既に破壊されていたらしい。袖の基部と思われる部分がわずかに残り、そこには左右とも芯の石が残されていた。現状の長さは袖基部の先端から計測して79cmである。幅は左側が調査区外となるので確定できないが、右袖外側と中軸線との長さを折り返すと80cmである。竈内には焼土、灰・炭化物が多く見られ、土器片も出土した。

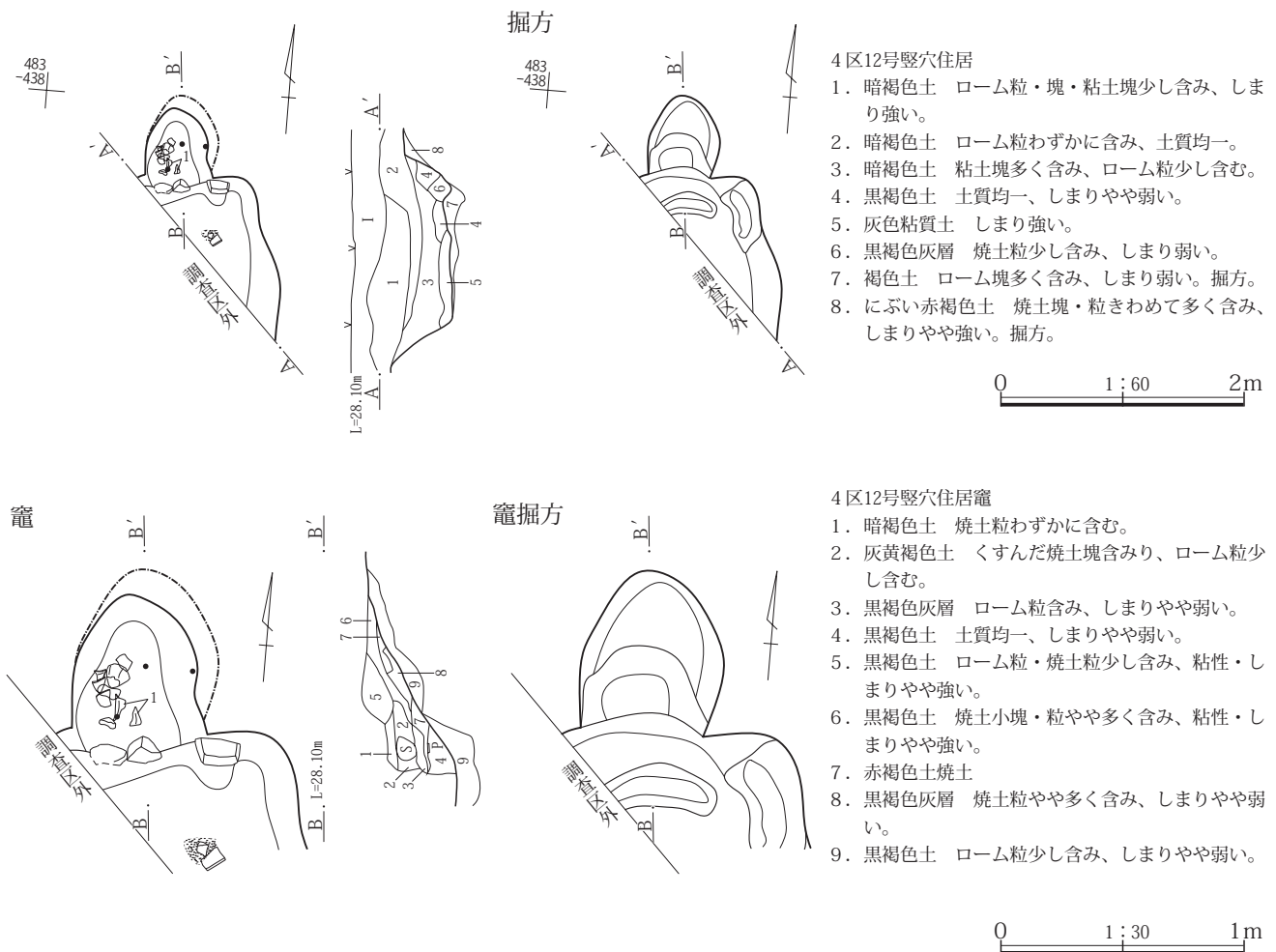
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

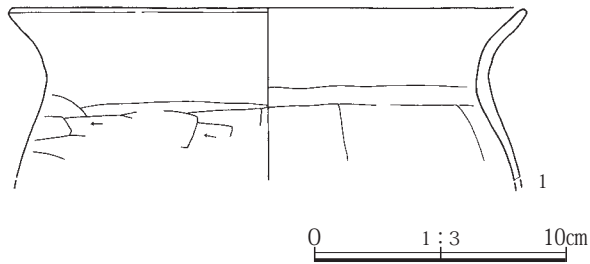
周溝 確認できなかった。

遺物 出土遺物は少ない。掲載したのは土師器甕1点のみで、竈内から出土したものである。その他、小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)98g、須恵器(小)41g、同(大)4点・25gがあるだけである。

時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、9世紀第1四半期の住居であると思われる。



第172図 4区12号竪穴住居平断面図



第173図 4区12号竪穴住居出土遺物

4区13号竪穴住居(第174・175図、第48表、PL.70-7・8,71-1・2,129)

4-4区南東部にある。東側が調査区外となる。

位置 X=30481～485、Y=-36427～431。

重複遺構 4区16号竪穴住居、12号溝と重複する。本遺構が12号溝より古く、16号竪穴住居より新しい。また、位置からみて14号竪穴住居とも重複しているものと思われるが、重複部分を12号溝に破壊されているため、切り合い関係は直接観察できない。

形状 北東側が調査区外のため詳細は不明だが、東西に長い長方形と推定される。

主軸方位 N-10°-W。

規模 東西方向は3.54m以上、南北方向は3.32mである。

床面積 12号溝で破壊されているところも推定復元して調査区内の部分を計測すると8.46㎡である。

埋没土層 暗褐色土と黒褐色土で大部分が埋没している。

壁高 残りのよい西壁～北壁では33～41cmである。

床面 おおむね平坦である。

掘方 中央部は床面から0～3cmとごく浅い。住居の壁に沿って幅40～100cmの範囲は深く掘っている。それをローム粒・塊を含む黒褐色土で埋め戻し床面とする。

竈 北壁と調査区境が交わる場所に焼土が分布しており、周溝も途切れているように見えるため、このすぐ脇の調査区外に竈があると推定される。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 竈推定位置以外は全周している。幅25～37cm、深さ8～14cmである。

遺物 遺物は比較的多く、竈推定位置周辺と住居中央付近、南壁際にやや集中が見られる。竈推定位置周辺の遺物は、断面図(C-C')に示したように、住居外側から

流れ込んでいるような状態で出土している。掲載したのは、土師器甕2点、須恵器杯1点、同碗1点、同蓋1点である。1の須恵器杯と2の蓋は南壁際から出土したが、蓋の破片のひとつは住居外にわずかに出たところであった。3の碗は住居中央北側の、竈推定位置の前から出土した。出土した高さはいずれも床面から少し浮いていた。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)109g、同(大)3,821g、須恵器(小)217g、同(大)1,342gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、8世紀第4四半期の住居であると思われる。2の蓋はやや古く8世紀第1四半期のものと思われ、一部が住居外から出土していることから、混入品であると思われる。

4区14号竪穴住居(第174図、第48表、PL.71-3)

4-4区南東部隅にあり、調査区内に掛かるのはごく一部である。

位置 X=30481～482、Y=-36426～428。

重複遺構 4区12号溝、13号ピットと重複する。本遺構が古い。13号竪穴住居の項で述べた通り、13号竪穴住居とも重複していると思われるが、重複部分を12号溝に破壊されている。

形状 調査区に掛かるのは南西壁とその付近だけであるが、この壁は直線的に延びており、全体の形状は方形であろう。

主軸方位 竈の位置が不明なので確定できないが、南西壁の方位を計測するとN-35°-Wである。

規模 計測不能である。

床面積 計測不能である。

埋没土層 褐色土と黒褐色土で埋没している。一気に埋没しているように見え、自然埋没とは考えにくい。

壁高 42～43cm。

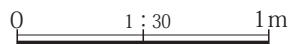
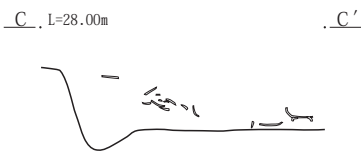
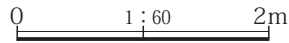
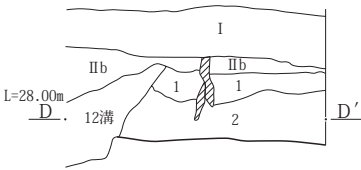
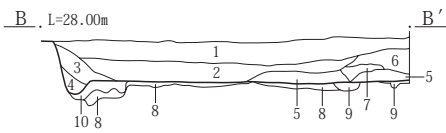
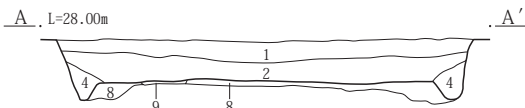
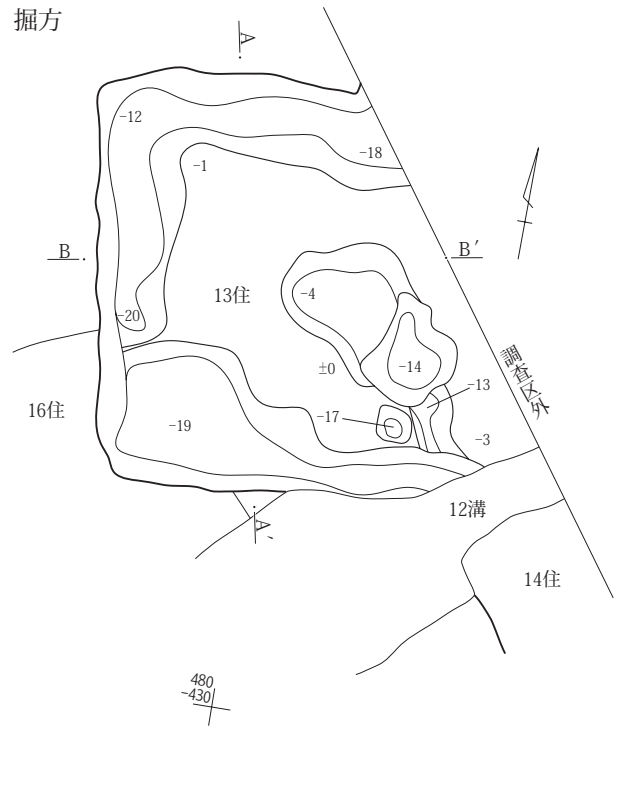
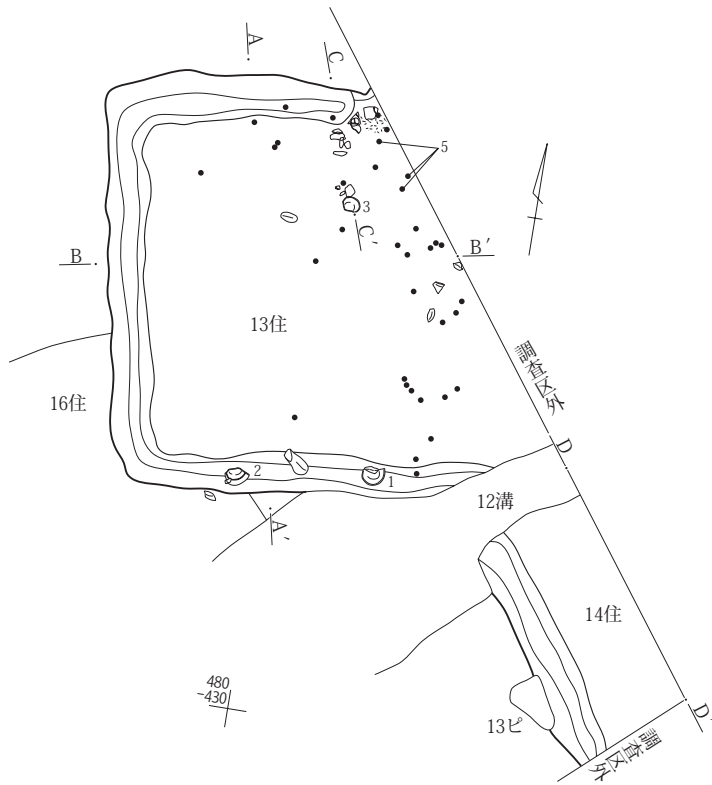
床面 おおむね平坦である。掘方は1～2cm程度の厚さしかなく、ほぼ地山を床面としているとよい状態である。

竈 確認できなかった。

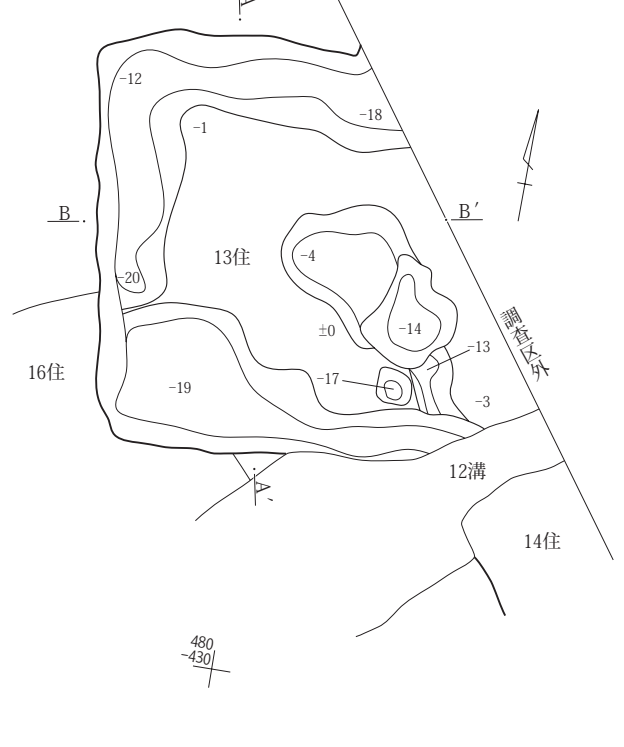
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 調査した範囲内には存在する。幅32～35cm、深さ5～9cmである。



掘方



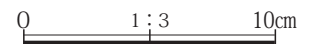
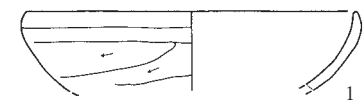
4区13号竪穴住居

1. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒やや多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
2. 黒褐色土 ローム粒・小塊・焼土粒やや多く含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
3. にぶい黄褐色土 ローム粒塊多く含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
4. 黒褐色土 ローム粒・小塊少し含み、粘性やや強く、しまり弱い。
5. 黒褐色土 ローム粒・小塊・粘土小塊・焼土粒多く含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
6. 灰黄褐色土 粘土塊・ローム粒・焼土粒少し含み、しまり強い。
7. 灰黄色粘土 焼土粒少し含み、しまり強い。
8. 黒褐色土・固いローム塊の混土、しまり強い。以下掘方。
9. 黒褐色土 くすんだローム・焼土粒少し含み、しまりやや強い。
10. 黒褐色土 ローム粒・固いローム塊多く含み、しまりやや強い。

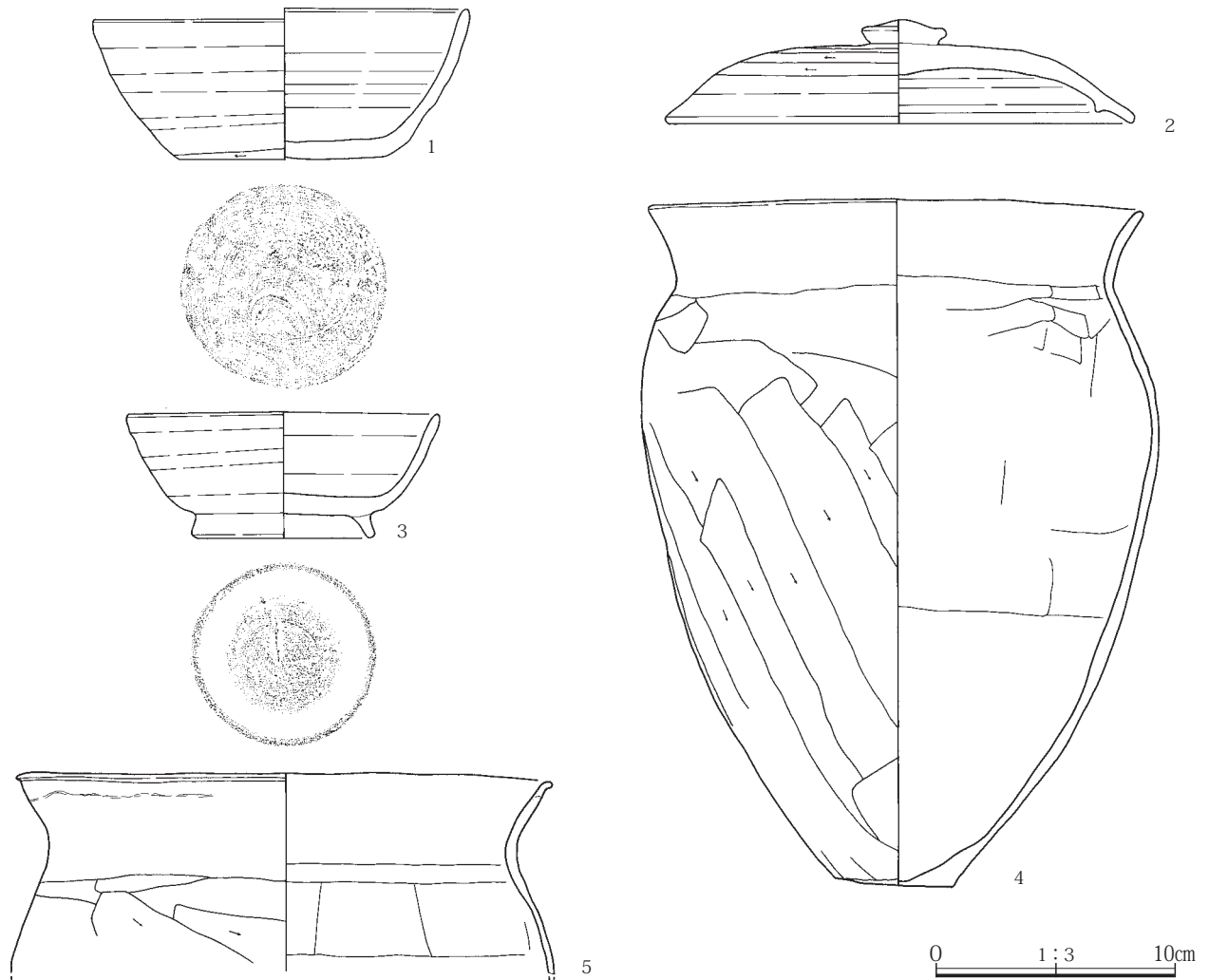
4区14号竪穴住居

1. 褐色土 ローム粒ごくわずかに含む。
2. 黒褐色土 ローム粒・塊少し含む。

14号竪穴住居出土遺物



第174図 4区13・14号竪穴住居平断面図、14号竪穴住居出土遺物



第175図 4区13号竪穴住居出土遺物

遺物 出土遺物は少ない。掲載したのは土師器杯1点のみである。その他、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)4点・40g、同(大)93g、須恵器(小)1点・7gがある。

時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、7世紀第1四半期の住居であると思われる。

4区16号竪穴住居(第176～178図、第48表、PL.71-4・5, 72-1・2, 129)

4-4区南東端にある大型の住居であり、南西壁は調査区外となる。上面を削平されている上、土坑、溝、攪乱によって大きく破壊されている。

位置 X=30474～482、Y=-36427～435。

重複遺構 4区13号竪穴住居、66号土坑、12号溝、14号ピットと重複する。本遺構が古い。

形状 南西壁が調査区外となるが、その他の3辺と支柱

穴の位置からみて正方形に近い方形になるものと思われる。

主軸方位 N-50°-E。

規模 主軸方向は長軸5.05m以上、それと直交する方向は調査区壁付近で推定復元して6.90mである。

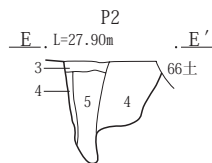
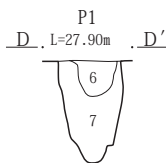
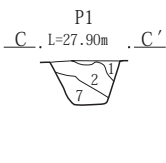
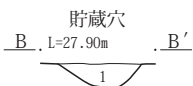
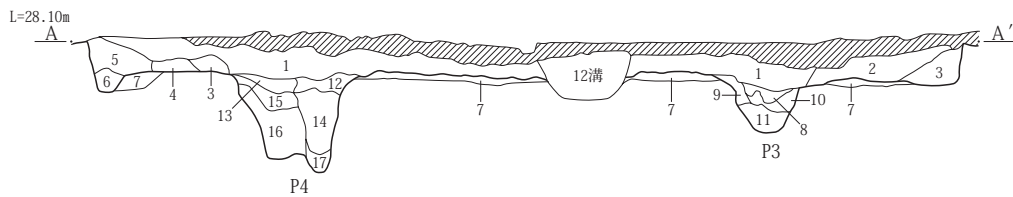
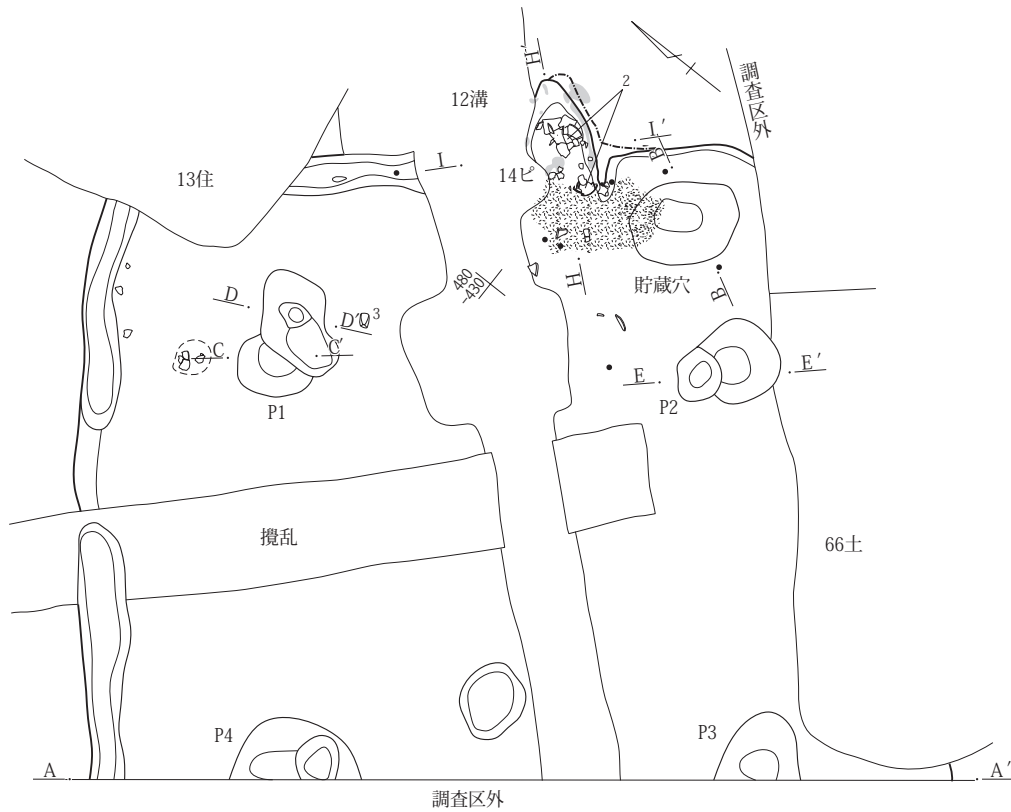
床面積 13号竪穴住居で破壊されている部分を推定復元し、調査区内の部分を計測すると27.07㎡である。

埋没土層 床面近くのみわずかな厚さしか残っていないが、その大部分は暗褐色土で埋没している。

壁高 1～18cm。

床面 おおむね平坦である。

掘方 全体にごく浅く、地山を直接床面としている部分もある。北隅と北西壁中央には深い部分があり、床下土坑として調査したが、底面は凹凸が目立ち、明確な用途があるものとは思えない。それぞれの規模は次の通り(長径×短径×深さ、cm)。長径と短径は掘方底面で計測し

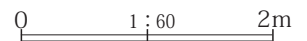


4区16号竪穴住居

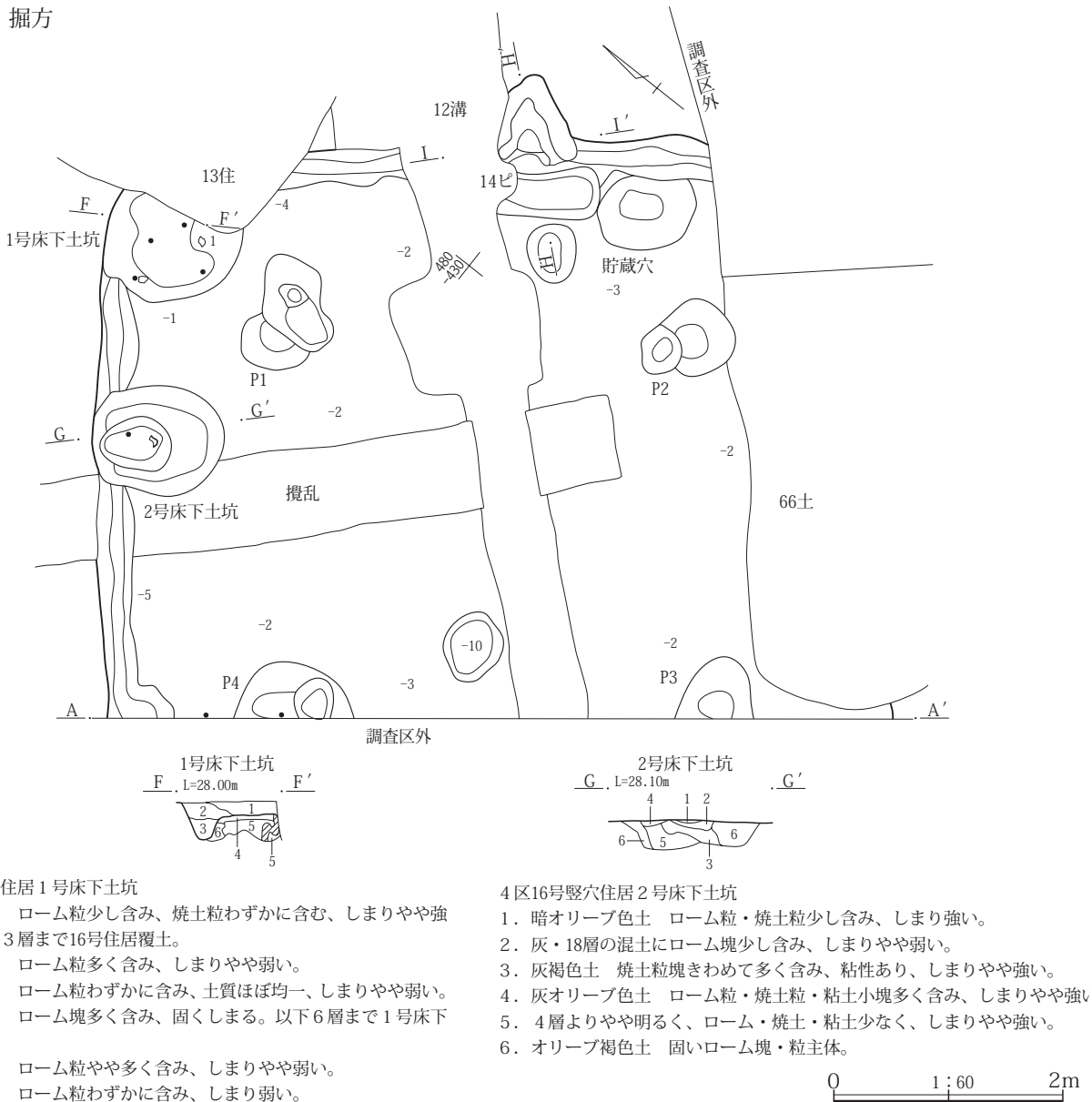
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一、しまり強い。
2. 暗褐色土 ローム粒少し含み、しまり強い。
3. 暗褐色土 くすんだローム含み、しまりやや弱い。
4. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、しまりやや強い。
5. 1層と焼土の混土。
6. 明黄褐色土 ローム多く含む。
7. 明黄褐色土 固いローム主体、しまり強い。住居掘方。
8. 黒褐色土 土質ほぼ均一 しまりやや強い。以下11層までP3。
9. 黄褐色土 明るいローム粒きわめて多く含み、しまりやや弱い。
10. 黄褐色土 くすんだローム粒多く含み、しまりやや弱い。
11. にぶい黄褐色土 ローム少し含み、しまりやや弱い。
12. 黒褐色土 土質均一、しまりやや弱い。以下P4
13. 暗灰色土 灰・焼土粒含み、しまりやや弱い。
14. 灰オリーブ色土 くすんだローム・粘土少し含み、しまり強い。
15. 灰黄褐色土 ローム塊やや多く含み、しまりやや弱くもろい。
16. 灰黄褐色土 固いローム塊多く含み、しまり弱くもろい。
17. 黒褐色土・固いロームの混土、粘性あり、しまりやや弱い。

4区16号竪穴住居貯蔵穴、P1・2

1. 暗灰黄色土 ローム粒・くすんだロームきわめて多く含み、しまりやや強い。
2. 黒褐色土 ローム塊少し含み、しまり弱い。
3. 灰黄褐色土 ローム塊きわめて多く含み、しまり強い。
4. オリーブ褐色土 くすんだローム塊主体、しまりやや弱い。
5. 暗灰黄色土 ローム粒・小塊きわめて多く含み、土質粗く、しまり弱くもろい。
6. 灰黄褐色土 ローム粒・小塊きわめて多く含み、しまりやや弱い。
7. にぶい黄褐色土 ローム塊多く含み、しまり弱くもろい。



第176図 4区16号竪穴住居平断面図



第177図 4区16号竪穴住居掘方平断面図

だが、深さは床面からの深さを計測した。

1号床下土坑 120×××22

2号床下土坑 115×96×33

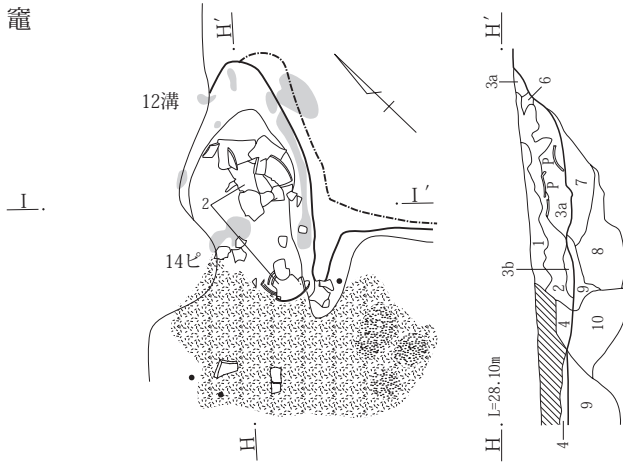
竈 北東壁の南寄りに設置している。右袖が残るが、左袖の部分は12号溝と14号ピットに破壊されている。袖の長さは短く、燃焼部の大部分は壁を掘り込んで作っている。本体は灰白色粘土で構築されていたらしい。竈内には甕の破片が散り、その底部は、左袖先端の内側に据えられたような状態で出土した。その位置からみて、袖先端の芯材であったように見えるが、位置が内側によりすぎているため、やや疑問がある。長さは袖の先端から計測して102cmであり、壁外には69cm張り出している。幅は、

右袖の外側と中軸線との長さを折り返すと100cm、燃焼部底面幅は42cmである。内面の焼土化は弱い、前面には灰・炭化物が散っていた。

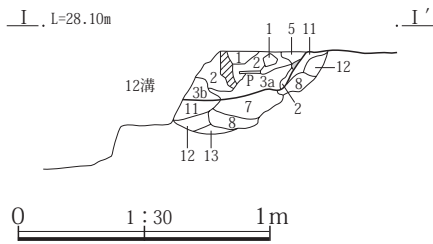
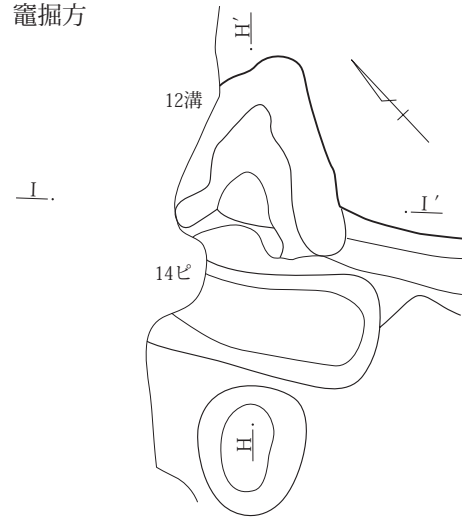
貯蔵穴 東隅付近にある。長径87cm、短径65cmの楕円形で、深さは18cmである。

柱穴 床面では4ヶ所にピットがあるのを確認した。位置からみてこれらが支柱穴であると考えられる。これらのうちP3を除く3基は2時期のピットが重複しており、柱の取り替えが行われたらしい。P3にはそれが見られないが、南西部が調査区外になるため、この部分に時期の違う柱穴が重複している可能性は残る。各ピットの大きさは以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

竈

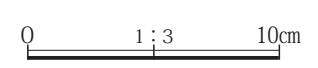
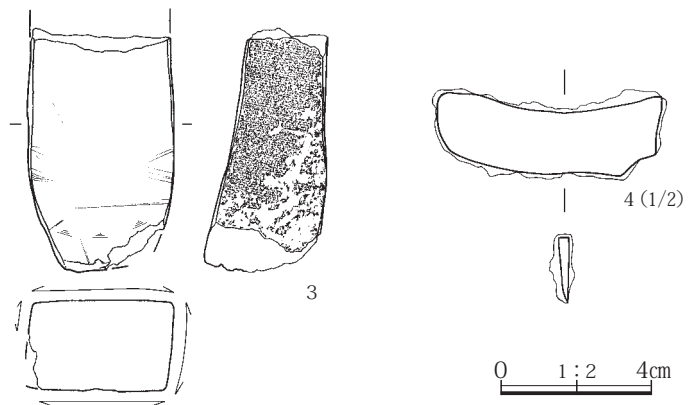
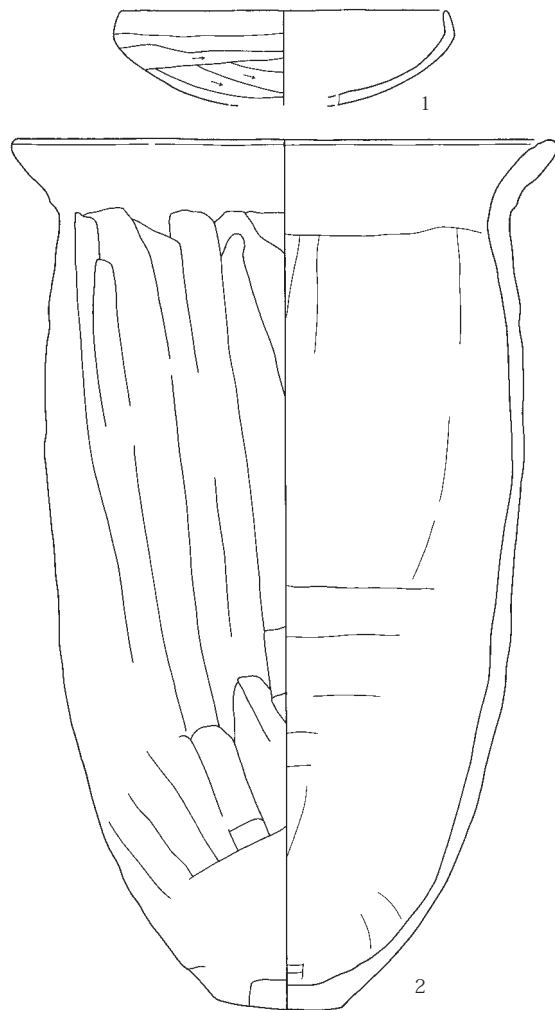


竈掘方



4区16号竪穴住居竈

1. くすんだ褐色土 ローム粒・灰・焼土粒少し含む。
2. ローム・灰白粘土塊・焼土塊の混土。
- 3a. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体に灰白粘土粒・焼土粒含む。
- 3b. 3a層に暗褐色土含む。
4. 暗褐色土 ローム細粒・焼土粒含む。
5. 暗褐色土 焼土粒多く含む。
6. 灰黄褐色土 焼土粒塊・粘土塊少し含む。
7. 灰褐色土 焼土粒多く含む、灰・粘土粒含む、しまり強い。
8. 暗灰黄色土 灰オリーブ色粘土塊きわめて多く含む、焼土粒・ローム粒少し含む、しまり強い。
9. 黒褐色土 ローム塊・焼土塊少し含む、しまりやや強い。
10. 暗褐色土 ローム塊多く含む、しまりやや弱い。
11. 褐色土 焼土粒塊きわめて多く含む、ローム粒わずかに含む、しまり強い。
12. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少し含む、しまりやや強い。
13. 灰黄褐色土 固いローム主体。



第178図 4区16号竪穴住居竈平断面図、出土遺物

なお、□は推定値、○は残存値を表す。

P 1 (新) [60]×[50]×35

P 1 (古) 90×55×80

P 2 (新) 43×(34)×84

P 2 (古) 68×63×60

P 3 (54)×60×45

P 4 102×(50)×78 (新)・65 (古)

周溝 北東・北西壁はごく一部を除いて全周するので、本来は竈部分を除いて全周していたと思われる。幅23～36cm、深さ4～14cm。

遺物 出土遺物は少ない。掲載したのは土師器杯1点、同甕1点、砥石1点、用途不明鉄製品1点である。甕は竈から出土している。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)143g、同(大)1,865gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、7世紀第3四半期の住居であると思われる。

4区17号竪穴住居(第179図、第48表、PL.72-3,128)

4-4区北端にある。南東壁が調査区内に掛かるのみであり、大部分は調査区外となる。調査できた部分があまりに狭いため詳細は全く不明で、竪穴住居ではない可能性も考慮に入れるべきであろう。

位置 X=30500～503、Y=-36444～446。

重複遺構 4区18号溝と重複する。本遺構が古い。

形状 北西の大半が調査区外のため不明だが、調査区内に掛かる南東壁は直線的であり、両端はほぼ直角に曲がるので、全体の形状は方形であろう。

主軸方位 南東壁の方位はN-53°-Eである。

規模 調査区内の部分の長さは3.70mである。

床面積 計測不能である。

埋没土層 主に黒褐色土で埋没する。

壁高 35～42cm。

床面 凹凸があるが、壁に近い部分なのでこれが全体の傾向がどうかは明らかではない。

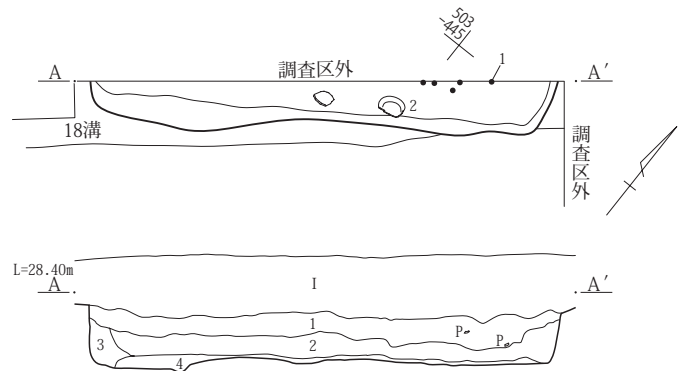
竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

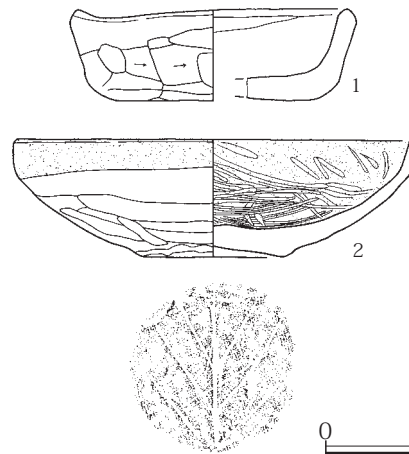
遺物 調査できた範囲が狭く出土遺物も少ないが、2点の土師器杯を掲載した。その他、小破片であるために掲



4区17号竪穴住居

1. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒少し含み、しまりやや強い。
2. 黒褐色土 土質均一、しまりやや弱い。
3. 2層とくすんだロームの混土、しまりやや弱い。
4. 黒褐色土 くすんだロームきわめて多く含み、しまりやや弱い。

0 1:60 2m



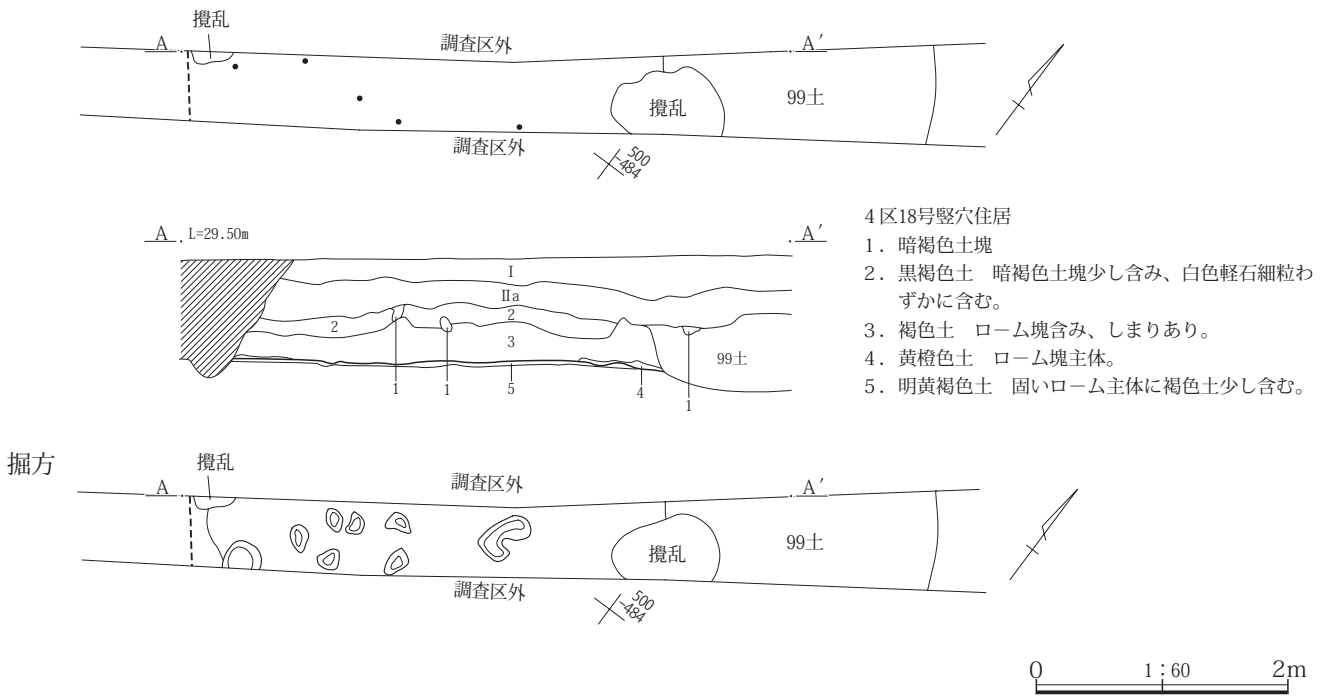
第179図 4区17号竪穴住居平面図、出土遺物

載しなかったものには、土師器(小)15g、同(大)265gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、6世紀代の竪穴住居であると思われるが、調査できた面積がごく狭いので、竪穴住居であるとは断定できず、土坑等である可能性も否定できない。

4区18号竪穴住居(第180図、PL.72-4)

4-5区南西部にある。この部分は調査区が細長く、この住居も幅60～80cmしか調査できなかった。しかも土坑や攪乱が重複しているために、住居の壁が明確につかめたわけではない。その中でこの遺構が竪穴住居であると判断したのは、床面と思われる硬化面の存在と、遺物の出土からである。このため、本遺構が竪穴住居ではない可能性も考慮に入れる必要がある。



第180図 4区18号竪穴住居平断面図

位置 X=30498～500、Y=-36483～487。

重複遺構 4区99号土坑と重複する。本遺構が古い。

形状 調査区が狭いので、住居の壁と推定される位置に4区99号土坑と攪乱とが重複しているために、形状を把握することはできない。

主軸方位 不明である。

規模 調査区に沿った方向で計測すると、床面と思われる硬化面の長さは少なくとも3.80mある。

床面積 計測不能である。

埋没土層 断面(A-A')を見ると、黒褐色土や褐色土が本遺構の埋土であるらしい。

壁高 不明であるが、前項の通りの埋土であるとする、覆土の厚さは最大で46cm残っていることになる。

床面 おおむね平坦である。

掘方 全体に浅く、床面から1～5cm程度である。底面は細かい凹凸があるが、おおむね平坦である。

竈 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

遺物 出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)7点・64g、同(大)339g、須恵器(小)5点・101gがある。

時期と所見 出土遺物からみて、10世紀中頃の住居であると思われるが、冒頭に述べた通り、竪穴住居ではない可能性も考えられる。

4区19号竪穴住居(第181図、第48表、PL.72-5～8,128)

4-5区中央南寄りにある。攪乱に大きく破壊され、残りが悪い。

位置 X=30514～516、Y=-36480～484。

重複遺構 4区15号井戸、95号土坑と重複する。本遺構が95号土坑より古く、15号井戸より新しい。

形状 西側が調査区外になるうえ、北側が攪乱で大きく破壊されているため詳細は不明であるが、南壁は直線的であり、全体の形状は方形であると推定される。

主軸方位 南壁の方向を計測するとN-90°-Eである。

規模 相対する壁が残っていないので規模を把握することはできないが、主軸方向は3.80m以上、それと直交する方向は2.10m以上である。

床面積 計測不能である。

埋没土層 残っていたのは底部付近のわずかな厚さであるが、主に褐色土で埋没している。

壁高 11～16cm。

床面 西半部に顕著な硬化面が残っていた。おおむね平

坦であるが、硬化面の部分が高くなっており、東側の低い部分から西に向かって緩やかに高くなっている。その比高は10cm前後に達するところもある。硬化面の東端には、楕円形(28cm×22cm)に焼土が分布していた。

竈 北東壁南側に設置している。南北に攪乱が入るため、残りが悪い。覆土には焼土塊が多く含まれていたため、本体も完全に破壊されていると思われる。壁を大きく掘り込んでおり、燃烧部の大半が壁外に張り出す形態であり、袖があったとしても短いものであろう。現状の長さは96cmで、幅は計測できない。

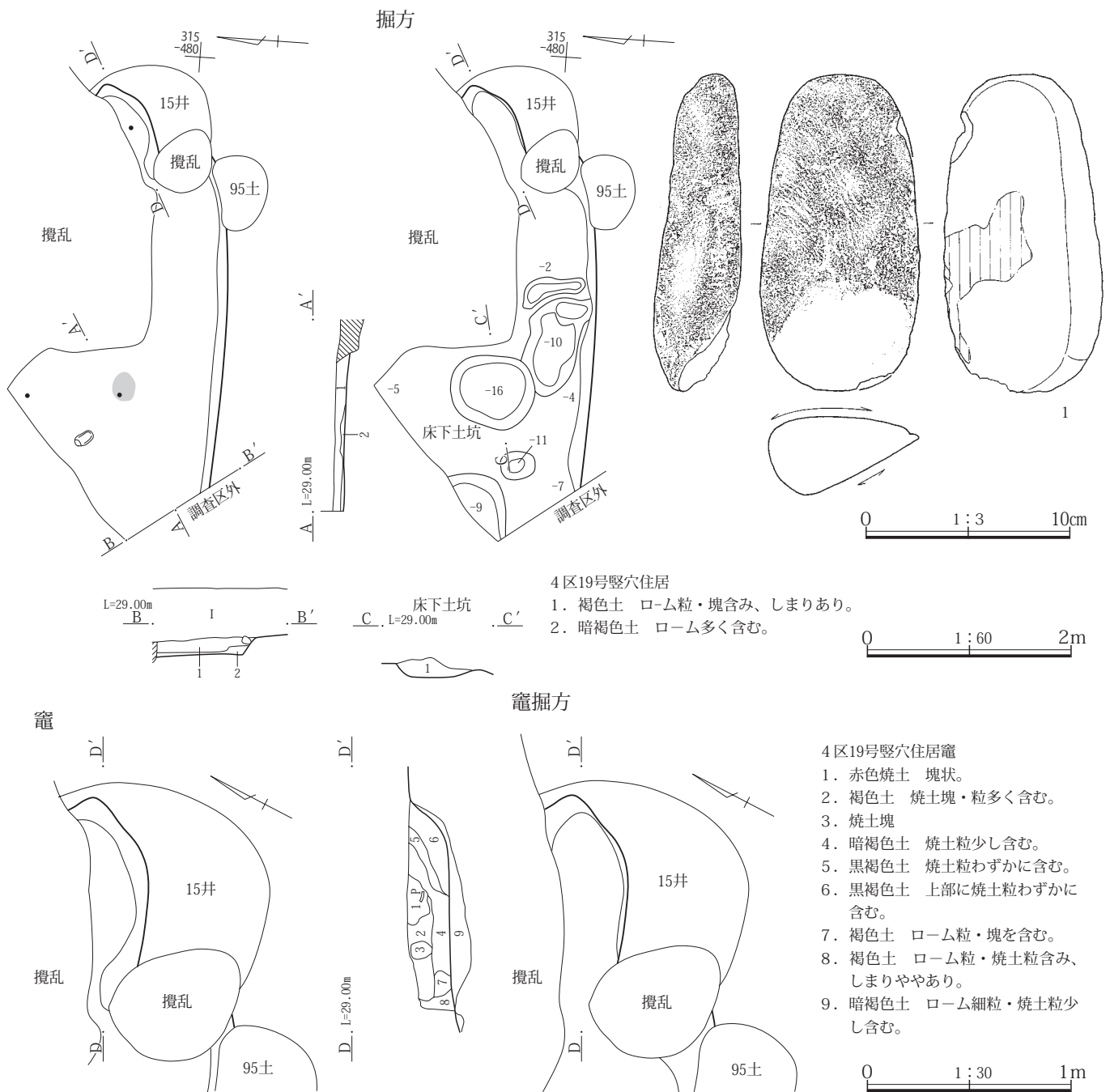
貯蔵穴 確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

遺物 出土遺物は少なく、掲載したのは用途不明の礫石器1点だけである。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)4点・24g、同(大)159g、須恵器(小)3点・24gがあるだけである。

時期と所見 数は少ないが出土遺物からみて、10世紀前半の住居であると思われる。



4区19号竪穴住居

1. 褐色土 ローム粒・塊含み、しまりあり。
2. 暗褐色土 ローム多く含む。

4区19号竪穴住居竈

1. 赤色焼土 塊状。
2. 褐色土 焼土塊・粒多く含む。
3. 焼土塊
4. 暗褐色土 焼土粒少し含む。
5. 黒褐色土 焼土粒わずかに含む。
6. 黒褐色土 上部に焼土粒わずかに含む。
7. 褐色土 ローム粒・塊を含む。
8. 褐色土 ローム粒・焼土粒含み、しまりややあり。
9. 暗褐色土 ローム細粒・焼土粒少し含む。

第181図 4区19号竪穴住居平断面図、出土遺物

4区2号竪穴状遺構(第182図、第48表、PL.73-1,129)

4-5区南東隅にある。竪穴住居によく似た形態であるが、近世以降に埋没したと考えられる20・21号溝よりも新しく、古代にまで溯らない遺構であるので、竪穴状遺構として調査したものである。

位置 X=30509~512、Y=-36671~674。

重複遺構 4区20・21号溝と重複する。本遺構が新しい。

形状 調査できたのは南西隅付近だけであり、全体の形状は不明であるが、方形と推定される。

主軸方位 より長く調査できた西壁の方向を計測すると、N-10°-Wである。

規模 南北方向は2.76m以上、東西方向は2.18m以上である。

床面積 調査できた範囲内を計測すると3.34㎡である。

埋没土層 褐色土や暗褐色土で埋没しているが、不自然な堆積であり、埋没途中で掘り直されたか、別の遺構が重なっていたことが考えられる。

壁高 他の遺構や攪乱との重複がない南西隅で計測すると、40~43cmである。

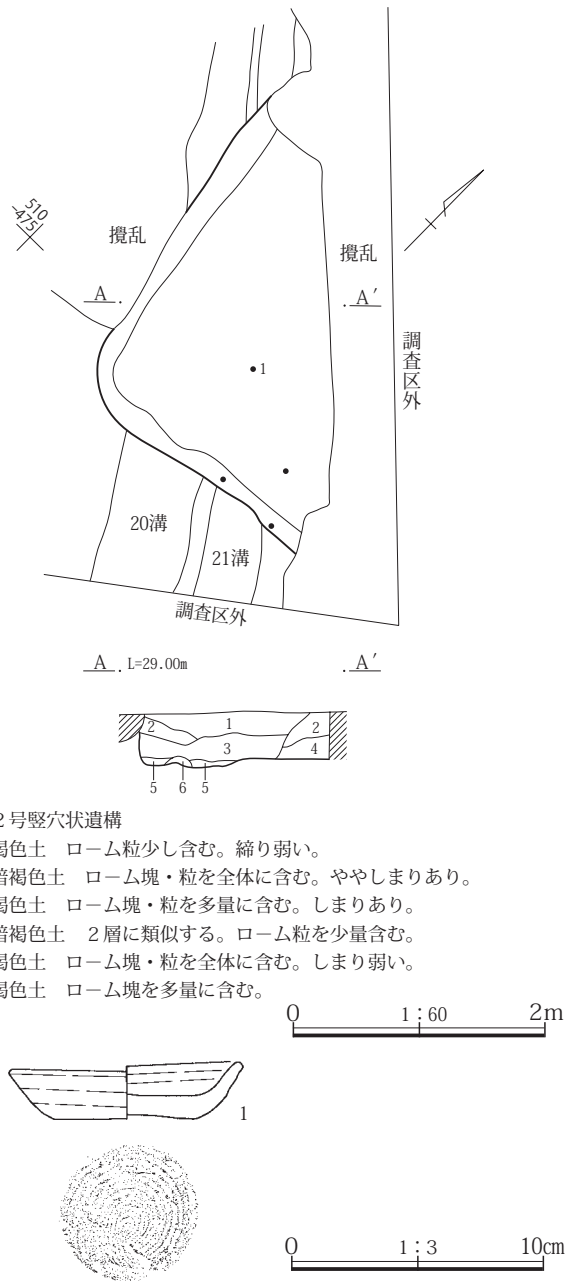
床面 壁に沿った部分がやや低くなっているが、中央部はおおむね平坦である。全体の高低差は10cm以内に収まる。

竈・貯蔵穴・柱穴 このような住居に関わる施設は確認できなかった。

周溝 明確な周溝は確認できなかったが、壁に沿って幅50~80cmの範囲が1~10cm程度低くなっている。

遺物 遺物の出土は少ない。掲載したのは須恵器杯1点である。この杯は完形品であるが、床面からは17cm浮いた高さから出土している。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)45g、同(大)3点・35g、須恵器(小)7点・61g、同(大)120gがあるだけである。

時期と所見 出土遺物は11世紀のものであるが、近世以降に埋没したと考えられる溝よりも新しいので、時期はかなり新しくなる可能性が高い。性格を明らかにできるような痕跡はなく、土層も不自然なので、四角い土坑が複数重複したのものであるとも考えられる。



第182図 4区2号竪穴状遺構平断面図、出土遺物

第3節 掘立柱建物・柱穴列

掘立柱建物は合計で11棟調査した。1区で3棟、2区で7棟、3区で1棟である。時期は不明のものが多いが、竪穴住居と重複していることから、ある程度時期を限定できるものもある。中には1区1号掘立柱建物や2区2号掘立柱建物のように大型のものがあり、その役割が注目される。特に1区1号掘立柱建物は二面廂の建物であり、この遺跡の中では重要な役割をもった建物であると思われる。

柱穴列は3基以上のピットが直線に並ぶもので、建物として把握できなかったものである。2区で5条を調査した。いずれもごく短い小規模なものであり、その用途は不明である。

1区1号掘立柱建物(第183図、PL.73-2・3)

1区中央北寄りにある大型の建物である。二面廂の東西棟と思われるが、東側が調査区外となり、調査できたのが西端付近のわずかな部分だけであるため、全体の規模・形状は不明である。

位置 X=30550～562、Y=-36482～490。

重複遺構 各柱穴と直接重複するのは1区3～6号溝、と62号土坑である。本遺構は3～6号溝より古く、62号土坑よりも新しい。この他に57・87号土坑、36・37号ピットが建物の内部にあるが、直接重複していないので新旧は不明である。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかったもので、建て替えはなく一時期の建物であると思われる。

平面形式 東側が調査区外のため詳細不明だが、二面廂の東西棟だと思われる。梁行は4間で南北両面に廂をもつ。桁行は2間分しか確認できないが、さらにのびるのは確実である。柱穴の配置はごくわずかに歪んでおり、特に西辺の中間の3本の柱(P4～6)は外側に20～30cmずれている。

建物方位 桁行はわずか2間分しか調査できず、しかも柱筋にやや乱れがあるので、その方位を正確に計測することは難しい。梁行の方位は、西辺の南北両端の柱穴であるP3とP7の柱心-心を結んだ線で計測すると、N

-17°-Wである。これから桁行の方位を推定すると、N-73°-E前後になると思われる。

規模 柱穴の心-心距離を計測して、梁行(西辺のP3-P7間を計測)は10.37mである。1尺=0.296mとして計算すると $10.37 \div 0.296 = 35.034$ なので、この長さを造営尺として35尺に設計されていたものと思われる。この梁行は、廂部分と身舎部分で柱間隔が異なり、身舎部分がやや短い。これも切りのいい数値を取っているとすると、P3-P7間は、9尺(2.664m)+8.5尺(2.516m)+8.5尺+9尺で設計されていたものと思われる。ただし、P4～6はやや外側にずれているので、各柱穴間の長さはそれよりもわずかに長くなる。桁行は南側の廂部分と身舎部分が2間分しか残っていない。柱間隔にやや乱れがあるが、身舎部分(P9-P4)をみると等間隔であるようで、7.5尺(2.22m)+7.5尺(2.22m)で設計されていたと思われる。

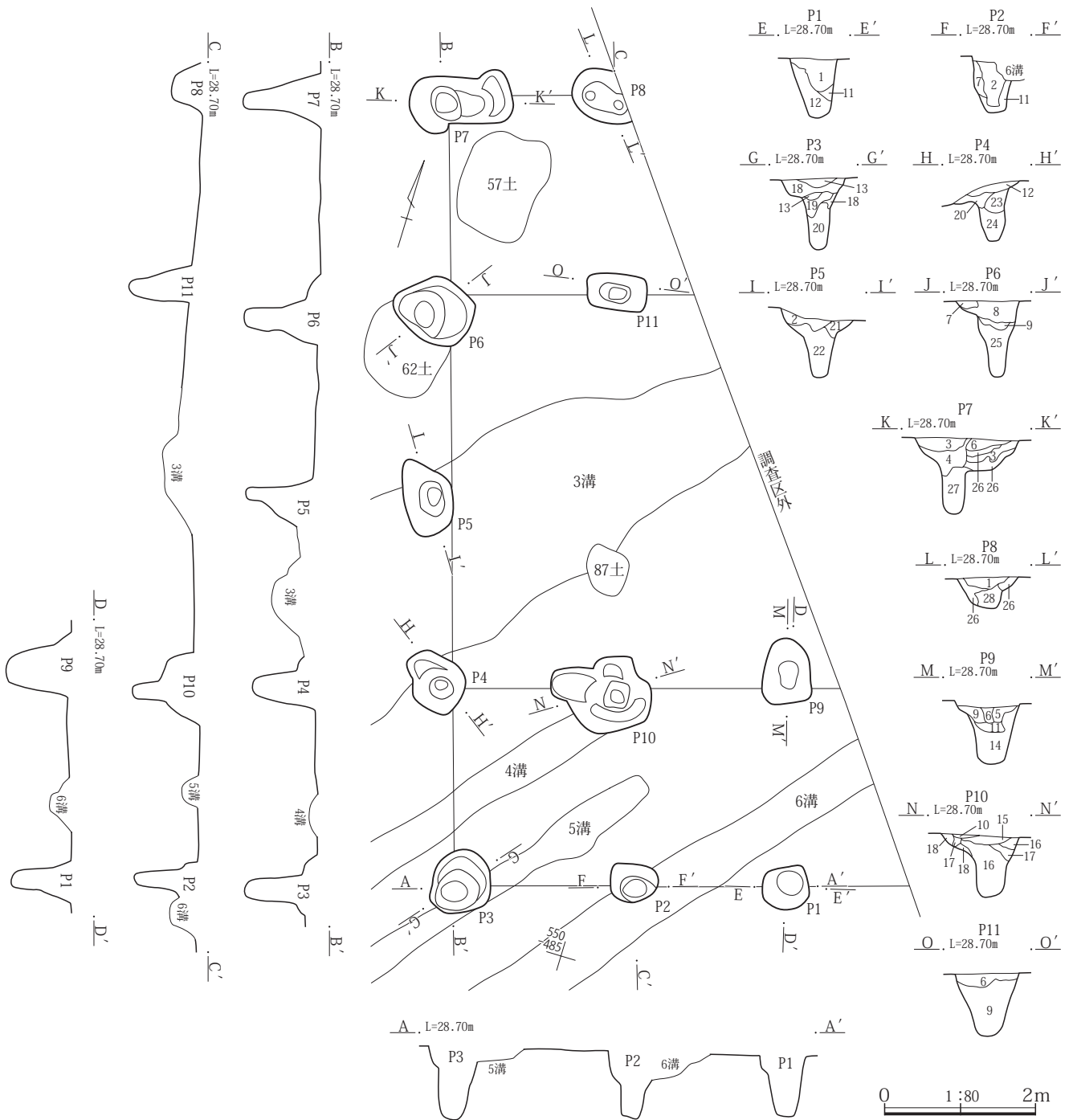
柱穴 各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。○は残存値である。

P 1	66×55×68	P 2	62×49×86
P 3	88×76×94	P 4	85×72×79
P 5	103×64×93	P 6	108×87×73
P 7	135×63×75	P 8	(90)×65×42
P 9	86×63×75	P 10	135×○×102×82
P 11	80×47×83		

柱穴の断面を見ると、上半部は大きくても、下半部が急に細くなる形状なので、柱の根本は柱の直径とほぼ同じ径の穴を掘って据えたいらしい。その径はP1～7・10・11で計測すると20～30cm程度であり、これが柱下端の径に近いものと思われる。

遺物 各柱穴からの遺物の出土は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)37g、同(大)272g、須恵器(小)9点・77g、同(大)2点・84gがある。

所見 桁行2間以上、梁行4間の二面廂の東西棟建物である。梁行が10.37mもある大型の建物であり、この集落では重要な意味をもった建物であったと思われる。遺物が少なく、竪穴住居との重複もないので、時期は特定できない。



1区1号掘立柱建物

1. 暗褐色土 くすんだローム・固いローム塊斑に多く含み、土質粗い。
2. 暗褐色土 ローム粒含み、しまりあり。
3. 黒褐色土 ローム塊少し含み、土質均一。
4. 黒褐色土 3層よりローム塊多く、しまいやや弱い。
5. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒わずかに含み、粘性あり。
6. 暗褐色土 固いローム塊少し含む。
7. 褐色土 くすんだローム・ローム小塊を含む。
8. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一。
9. 褐色土 やや暗くくすんだローム塊含み、しまり弱い。
10. 褐色土 15層と18層の互層、土質粗い。
11. 黒褐色土 土質均一。
12. 暗褐色土 くすんだローム斑に多く含む。
13. 黄褐色土 ローム粒・ローム塊含み、しまりあり。
14. 暗褐色土 固いローム小塊やや多く含む。

15. 暗褐色土 固いローム塊・焼土粒を含み、土質やや粗い。
16. くすんだローム・15層の混土、ローム粒・焼土粒少し含む。
17. 暗褐色土 15層よりしまり弱く、ローム粒・小塊含む。
18. 明黄褐色土 ローム主体。
19. 明黄褐色土と20層の混土。ローム塊含む。
20. 褐色土 ローム粒少し含む。
21. くすんだ褐色土
22. くすんだ褐色土 ローム小塊わずかに含み、やや砂質。
23. にぶい黄褐色土 11層よりくすんだローム多く、しまり弱く、土質粗い。
24. 褐色土 20層より土質均一、しまり弱い。
25. 黄褐色土 9層と明るいローム塊の混土。
26. 黄褐色土 くすんだローム塊多く含む。
27. 黄褐色土 4層少し含み、やや暗く、しまり弱い。
28. 暗褐色土と26層の混土。

第183図 1区1号掘立柱建物平断面図

1区2号掘立柱建物(第184図、PL.73-4)

1区南側にある。北側が調査区外、あるいは攪乱となるため、南側しか調査できていない。桁行2間以上、梁行2間の南北棟である。

位置 X=30522~527、Y=-36460~466。

重複遺構 各柱穴と直接重複するのは1区2号竪穴住居、12・34号土坑、53号ピットである。本遺構が12号土坑、53号ピットより古く、2号竪穴住居、34号土坑より新しい。その他、13・21号土坑や8号ピットが建物と重複する位置にあるが、直接重複していないので新旧は不明である。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかったので、建て替えはなく一時期の建物と思われる。

平面形式 北側が不明なので全形は判明しないが、桁行2間以上、梁行2間の南北棟のいわゆる側柱建物である。西辺が南辺と直角に交わらず、北に向かってやや開き気味となる。

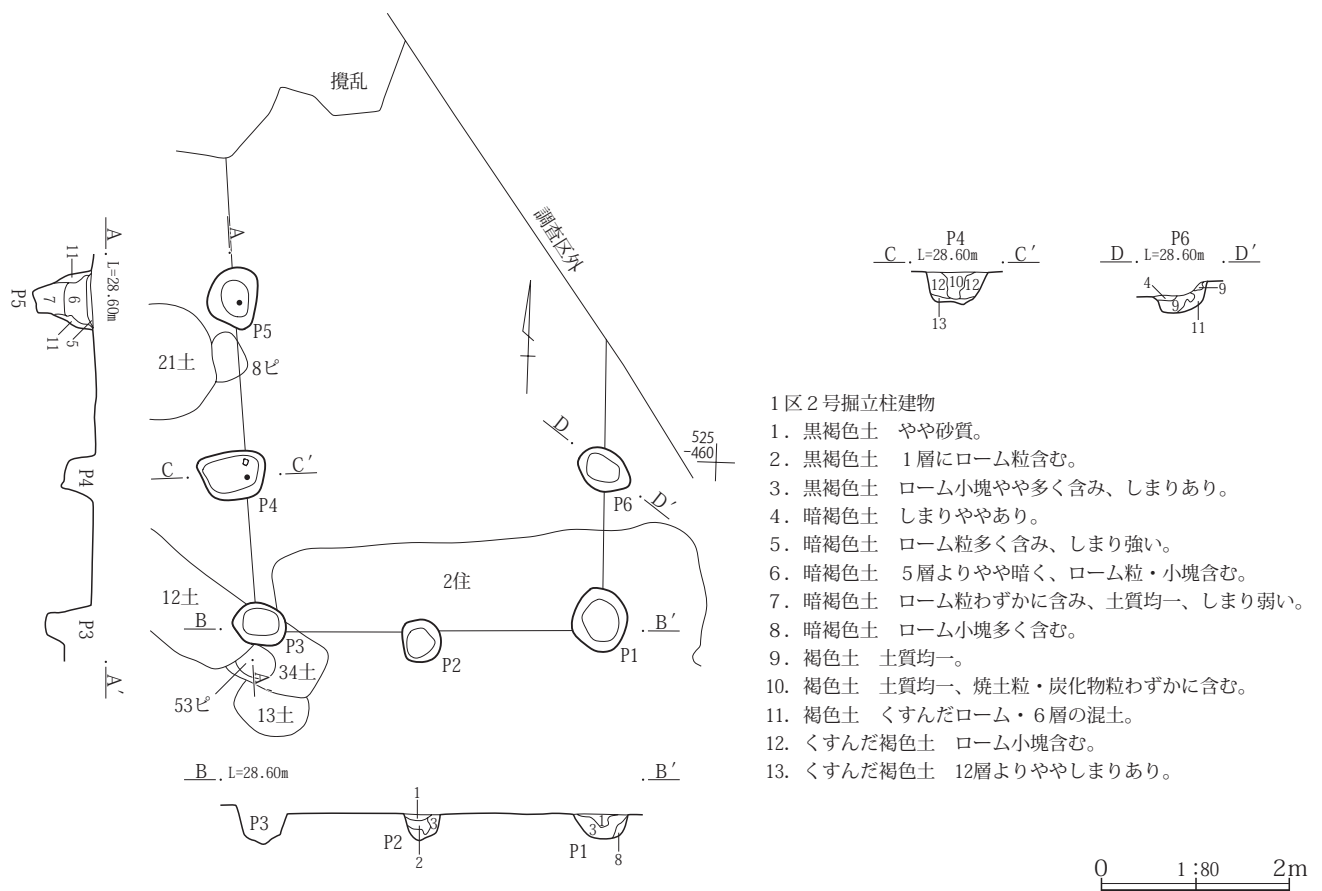
建物方位 桁行の方位は、東辺と西辺の方位が少し異なっているので、その中央を計測するとN-4°-Wである。

規模 柱穴の心-心で計測して、梁行(南辺のP1-P3間を計測)は3.61mである。1尺=0.30mとして12尺になるので、これが造営尺であろう。P1-P2とP2-P3の長さはそれぞれ1.95m、1.69mで長さが異なる(柱筋がやや歪んでいるので、足すと3.61mより長くなる)。6.5尺、5.5尺で計画されたのだと考えられる。桁行はP1-P6が1.62m、P3-P4が1.60mなので、南端の柱間は5.4尺であるらしいが、その北側のP4-P5は1.83mで6.1尺であり、やや長い。それぞれ本来は5.5尺、6尺で設計されていたのではないと思われる。

柱穴 形状は、P3やP4のように、方形を意識しているのではないと思われるものもあるが、円形のものが多い。いずれもやや浅いので、この付近は表面が削平されているらしい。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	70×58×28	P 2	47×41×30
P 3	57×44×41	P 4	72×52×35
P 5	66×51×62	P 6	60×43×35

遺物 各柱穴からの遺物の出土は少なく、掲載できるも



1区2号掘立柱建物

1. 黒褐色土 やや砂質。
2. 黒褐色土 1層にローム粒含む。
3. 黒褐色土 ローム小塊やや多く含む、しまりあり。
4. 暗褐色土 しまりややあり。
5. 暗褐色土 ローム粒多く含む、しまり強い。
6. 暗褐色土 5層よりやや暗く、ローム粒・小塊含む。
7. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む、土質均一、しまり弱い。
8. 暗褐色土 ローム小塊多く含む。
9. 褐色土 土質均一。
10. 褐色土 土質均一、焼土粒・炭化物粒わずかに含む。
11. 褐色土 くすんだローム・6層の混土。
12. くすんだ褐色土 ローム小塊含む。
13. くすんだ褐色土 12層よりややしまりあり。

第184図 1区2号掘立柱建物平断面図

のではない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)2点・11g、同(大)73g、須恵器(小)2点・7gがある。

所見 南北棟で、桁行2間以上、梁行2間のいわゆる側柱建物である。遺物が少なく、時期は特定できないが、9世紀第4四半期の2号竪穴住居よりも新しいので、それ以降の時期のものである。

1区3号掘立柱建物(第185図、第48表、PL.73-5,74-1,130)

1区中央北側にある。北東側が調査区外となり、建物南西隅の2間分が調査区内に掛かるのみである。そのため、桁行、梁行がどちらなのか判然としない。

位置 X=30562~568、Y=-36489~495。

重複遺構 1区26・28号竪穴住居、2号溝と重複。本遺構が2号溝より古く、28号竪穴住居より新しい。26号竪穴住居は削平のため柱穴との直接の重複が確認できない。

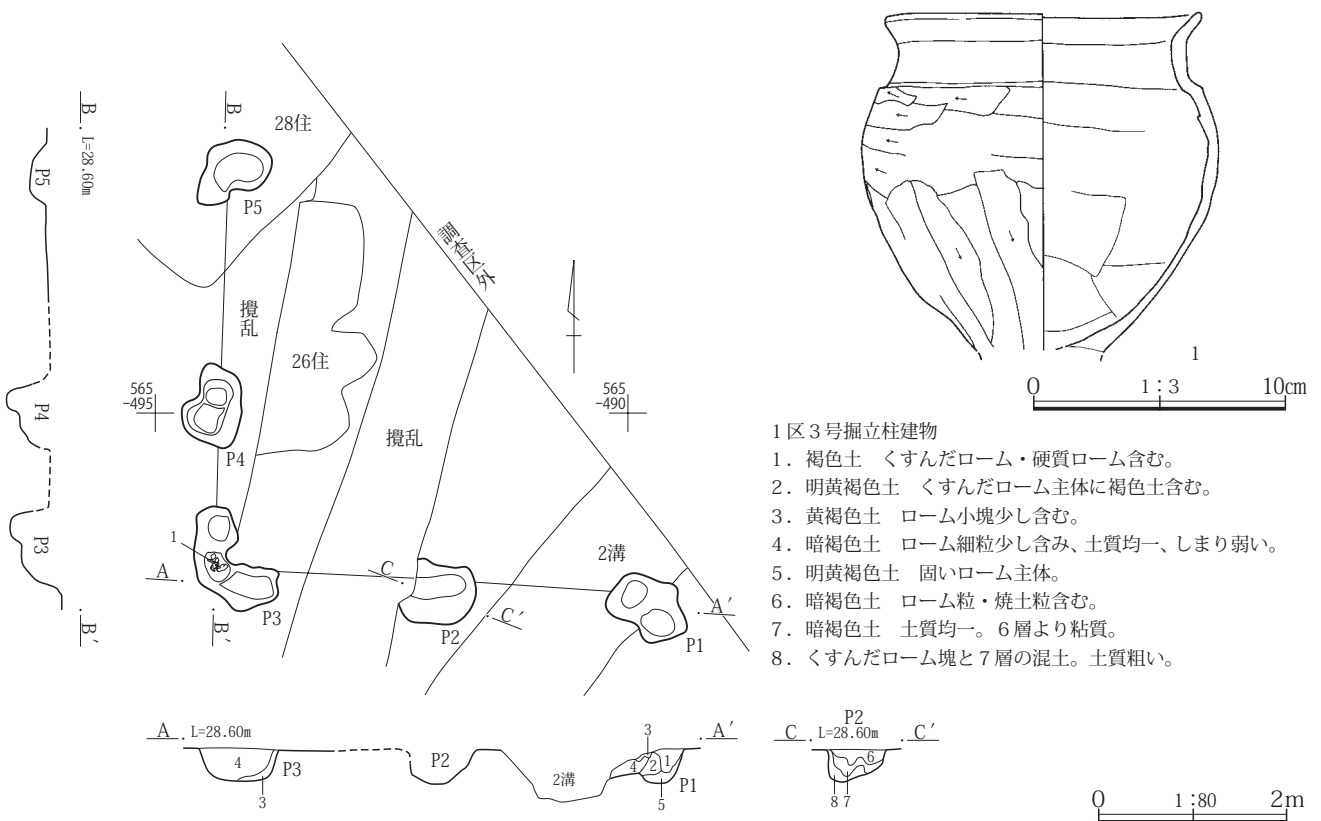
建て替えの有無 断面では確認できなかったが、各柱穴の形状を見ると、P1やP4のように2基のピットが重複するような形態のものがあるため、2時期以上の建て

替えがあった可能性がある。

平面形式 北東側が調査区外のため南辺・西辺とも2間分しか把握できず、詳細は不明である。中央部が攪乱で破壊されているため、その位置の柱穴を調査することができず、総柱建物である可能性も残っている。特徴的なのは、南西隅の柱穴の掘方がL字形であることで、ここは3基のピットが重複したような形状をしている。位置からみて中央のピットが南西隅の本来の柱穴と思われるが、両側のものがどのような役割なのかは判然としない。

建物方位 建物の壁のラインが平面図に示したような線であるとすると、南辺の方位はN-86°-W、西辺はN-2°-Eであり、わずかに鈍角に交わる。

規模 明確な柱痕跡が把握できていないので建物規模は確定できないが、南辺はP1北西側とP3中央の心-心距離を計測して4.45m、西辺はP3中央とP5西側の心-心距離を計測して4.18mである。計測したラインは平面図に示した線の通りである。これらの長さは、1尺を0.297mか0.298mとすると、それぞれ15尺、14尺に相当する。南辺中央のP2はP1-P3間のほぼ中央にあるが、西辺中央のP4はP3寄りであり、P3とP4北側との心-心距離は1.80m、P4北側とP5では2.38mで



- 1区3号掘立柱建物
1. 褐色土 くすんだローム・硬質ローム含む。
 2. 明黄褐色土 くすんだローム主体に褐色土含む。
 3. 黄褐色土 ローム小塊少し含む。
 4. 暗褐色土 ローム細粒少し含み、土質均一、しまり弱い。
 5. 明黄褐色土 固いローム主体。
 6. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
 7. 暗褐色土 土質均一。6層より粘質。
 8. くすんだローム塊と7層の混土。土質粗い。

第185図 1区3号掘立柱建物平面断面図、出土遺物

あり、それぞれ6尺と8尺で設計されていたと思われる。
柱穴 前述のように2時期のピットが重複したような形態のものがあるなど、平面形は不整形のものが多い。特にP3はL字形である。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。()は残存値である。

P 1	88×56×37	P 2	(80)×62×36
P 3	120×34×51	P 4	90×62×43
P 5	91×62×18		

遺物 各柱穴からの遺物の出土は少ないが、P3などから出土した土師器小型台付甕1点を掲載した。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)2点・9g、同(大)5点・11g、須恵器(小)2点・14gがある。
所見 桁行、梁行とも2間ないしそれ以上の建物であるが、北東側が調査区外となることと、中央部を攪乱で破壊されていることとで、詳細が不明であり、いわゆる側柱建物か、総柱建物かも明確にはできなかった。出土遺物は9世紀末のものと思われるのでそれ以後の建物である。本建物より古い28号竪穴住居は7世紀第4四半期のものである。

2区1号掘立柱建物(第186図、PL.74-2,75-1,76-1)

2区北側の中央付近にある。2間×2間の正方形に近い形状の小規模な建物である。

位置 X=30668～674、Y=-36580～587。

重複遺構 柱穴と直接重複するのは3号溝であり、本遺構が古い。建物の範囲内には3号掘立柱建物と18・29号ピットがあるが、直接の重複がなく新旧は確定できない。

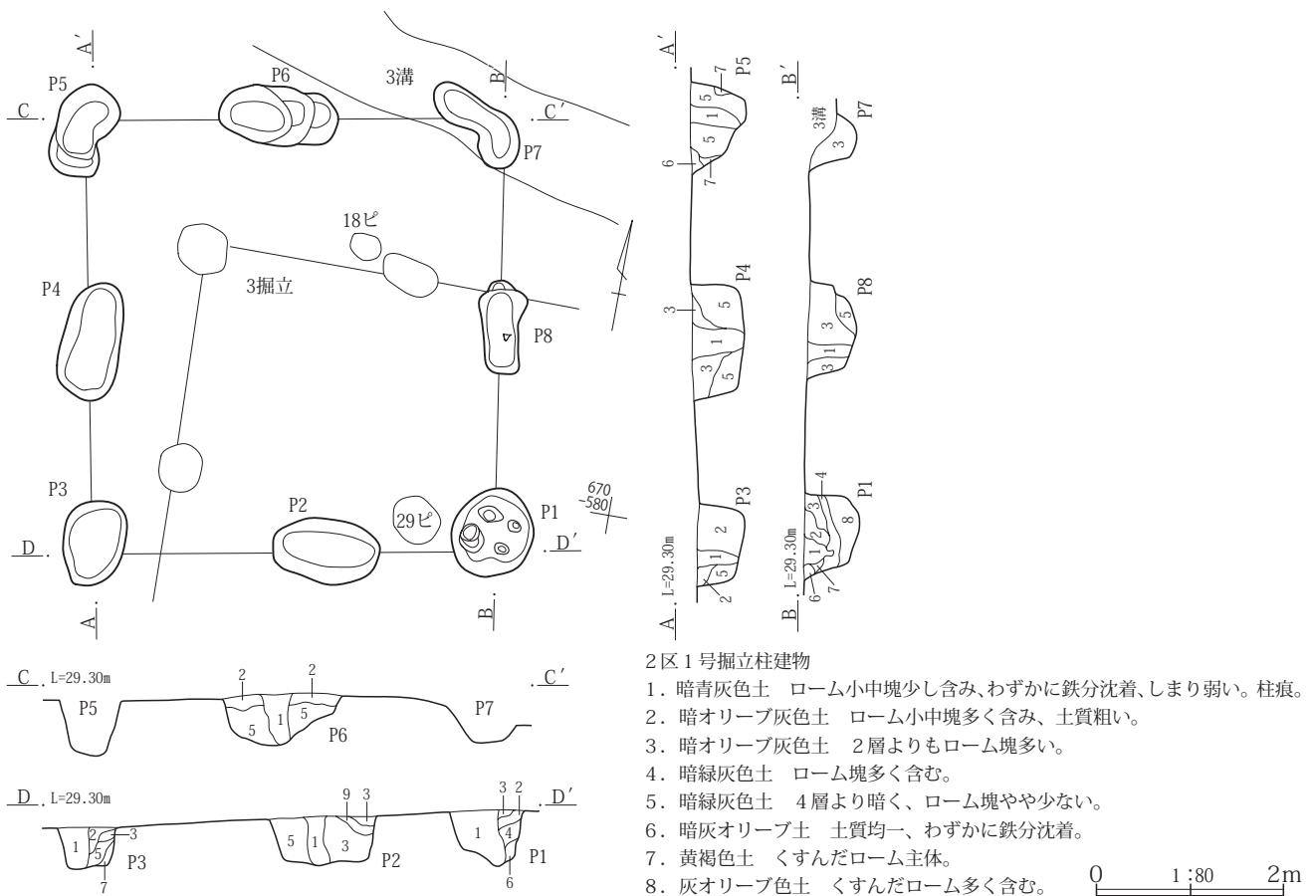
建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかった。建て替えはなく一時期の建物であると思われる。

平面形式 桁行2間、梁行2間のいわゆる側柱建物である。東西よりも南北の柱間隔がわずかに長いので、南北棟と想定しておく。

建物方位 N-12°-W。

規模 各隅の柱穴の心-心で計測すると、桁行は東辺4.40m、西辺4.42m、梁行は北辺4.32m、南辺4.29mである。桁行と梁行の長さほとんど差がなく、ほぼ正方形である。桁行は14.5尺で設計されていたと思われるが、梁行は14.3尺前後で切りのいい数字にはならない。

柱穴 楕円形のものが多いのが特徴である。特に各辺の



第186図 2区1号掘立柱建物平面断面図

中央の柱穴にその傾向が強い。四隅の柱穴は形状が多様で、P7のようにL字形のものもある。各柱穴の柱痕跡は、平面的には把握できなかったが、断面では明瞭なものが多い。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	95×87×59	P 2	114×68×51
P 3	96×65×43	P 4	127×65×54
P 5	100×60×59	P 6	128×63×50
P 7	114×44×54	P 8	98×38×51

遺物 各柱穴からの出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)51g、同(大)300g、須恵器(小)4点・19gがある。

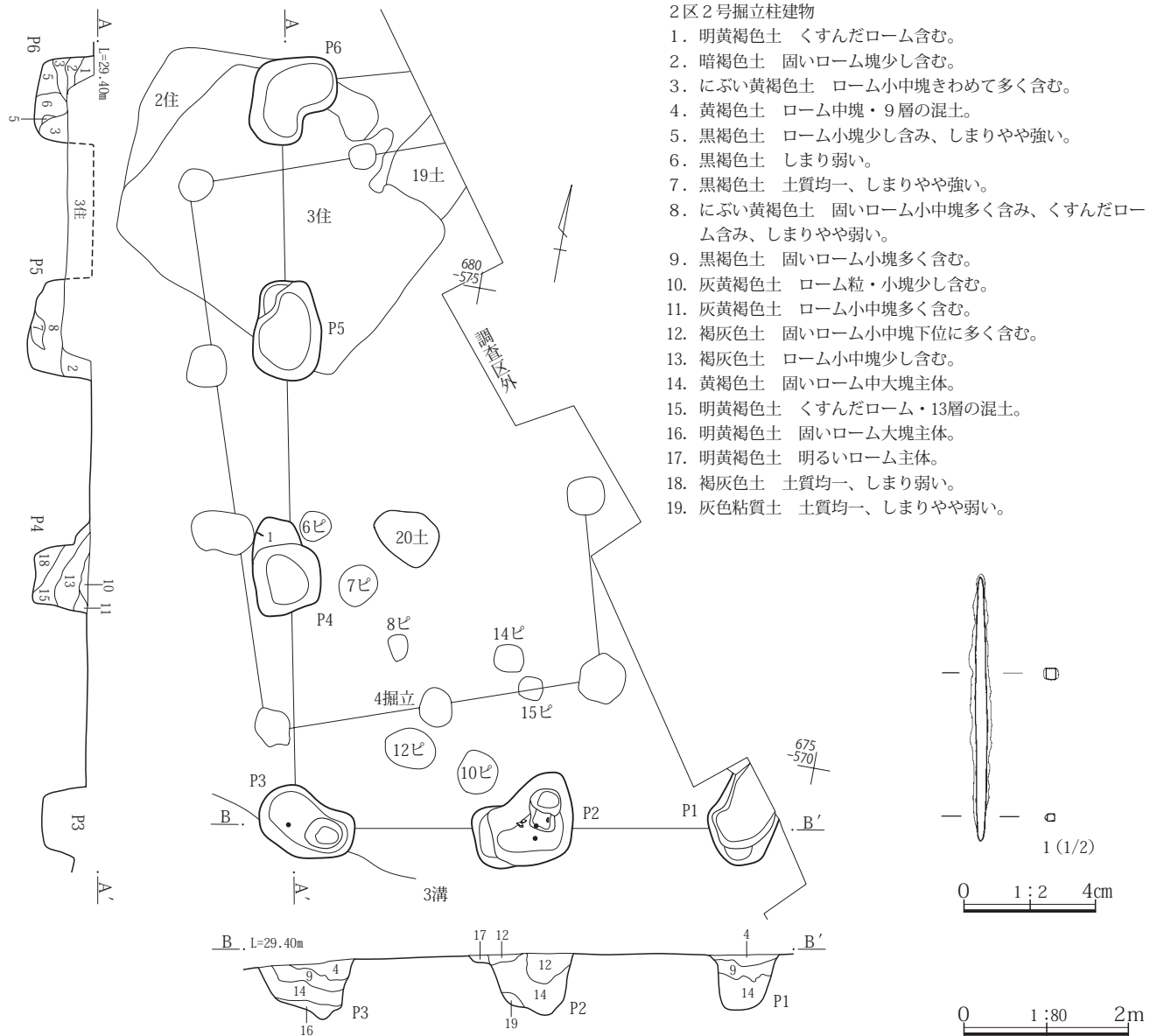
所見 桁行2間、梁行2間のほぼ正方形の建物である。南北がわずかに長いので、そちらが桁行の南北棟と想定した。出土遺物が少ないので時期は特定できない。

2区2号掘立柱建物(第187図、第48表、PL.75-2,130)

2区北側にある。北東側が調査区外となるが、桁行3間、梁行2間の南北棟であると思われる、かなり大きな建物である。

位置 X=30672～682、Y=-36570～577。

重複遺構 柱穴と直接重複するのは2・3号竪穴住居と3号溝であり、本遺構は2号竪穴住居・3号溝より古く、3号竪穴住居より新しい。本建物の範囲内には他に4号掘立柱建物、19・20号土坑、6～8・10・12・14・15号



第187図 2区2号掘立柱建物平断面図、出土遺物

ピットがあるが、直接の重複はないので新旧は不明である。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかった。建て替えはなく一時期の建物だと思われる。

平面形式 北東側が調査区外のため詳細は不明である。しかし、南西隅の柱穴(P 3)と北西隅の柱穴(P 6)を見ると、その形状がL字形、あるいは柱筋に対して斜めになっている。同様な特徴がP 1にも見て取れるので、ここが南東の隅である可能性が高く、それが正しければ、桁行3間、梁行2間の南北棟のいわゆる側柱建物になるのではないかと思われる。ただしこの推定は、梁行の中央の柱であるP 2も北東側にピットがあるのでL字形(このピットが柱穴に本来伴うものなのかどうかは不明)に見えるため、確実とはいえない。

建物方位 桁行(西辺)の方位を計測すると、N-11°-Wである。

規模 各隅の柱穴の心-心で計測すると、梁行(P 1-P 3)は5.40m(柱穴P 1の心は推定)、桁行(P 3-P 6)は8.90mである。完数値を取るとすると、梁行は18尺、桁行は30尺で設計されていたものと思われる。P 2は梁行の中央にあるので、梁行の柱間は、9尺+9尺=18尺で設計されていたのであろう。桁行は、P 4、P 5が1/3の位置にあるので、10尺等間で設計されていたと思われる。かなり大型の建物であるといえよう。

柱穴 各柱穴の形状はやや多様であるが、柱穴の隅が直角に近くなっているものが多く見られ、方形を意識していた可能性が強い。隅の柱穴は、P 6はL字形であり、P 3やP 1もL字形を意識しているような形状である。隅の柱穴のみ形・方向を変えていたと思われる。柱痕跡は平面・断面とも明確には把握できなかった。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)であり、○は残存値である。

P 1	(124)×78×71	P 2	123×90×80
P 3	118×73×73	P 4	117×81×73
P 5	120×82×70	P 6	105×100×65

遺物 各柱穴からの出土遺物は少なく、掲載できたのは用途不明鉄製品1点だけである。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)80g、同(大)390g、須恵器(小)114g、同(大)104gがある。

所見 桁行3間、梁行2間の南北棟で、いわゆる側柱建

物である。桁行の柱間が10尺等間であり、かなり大型の建物である。遺物が少ないので時期は特定できないが、2号竪穴住居よりも古く、3号竪穴住居より新しいので、8世紀前半～9世紀第3四半期の間のものである。

2区3号掘立柱建物(第188図、PL.75-1,76-1)

2区北側の中央付近にある。桁行3間、梁行2間の東西棟である。

位置 X=30667～672、Y=-36577～584。

重複遺構 柱穴と直接重複するのは27号土坑であり、本遺構が古い。本建物の範囲内には、2区1号掘立柱建物、31号土坑、18・21・22・24・25・29号ピットがあるが、直接重複していないので新旧関係は不明である。

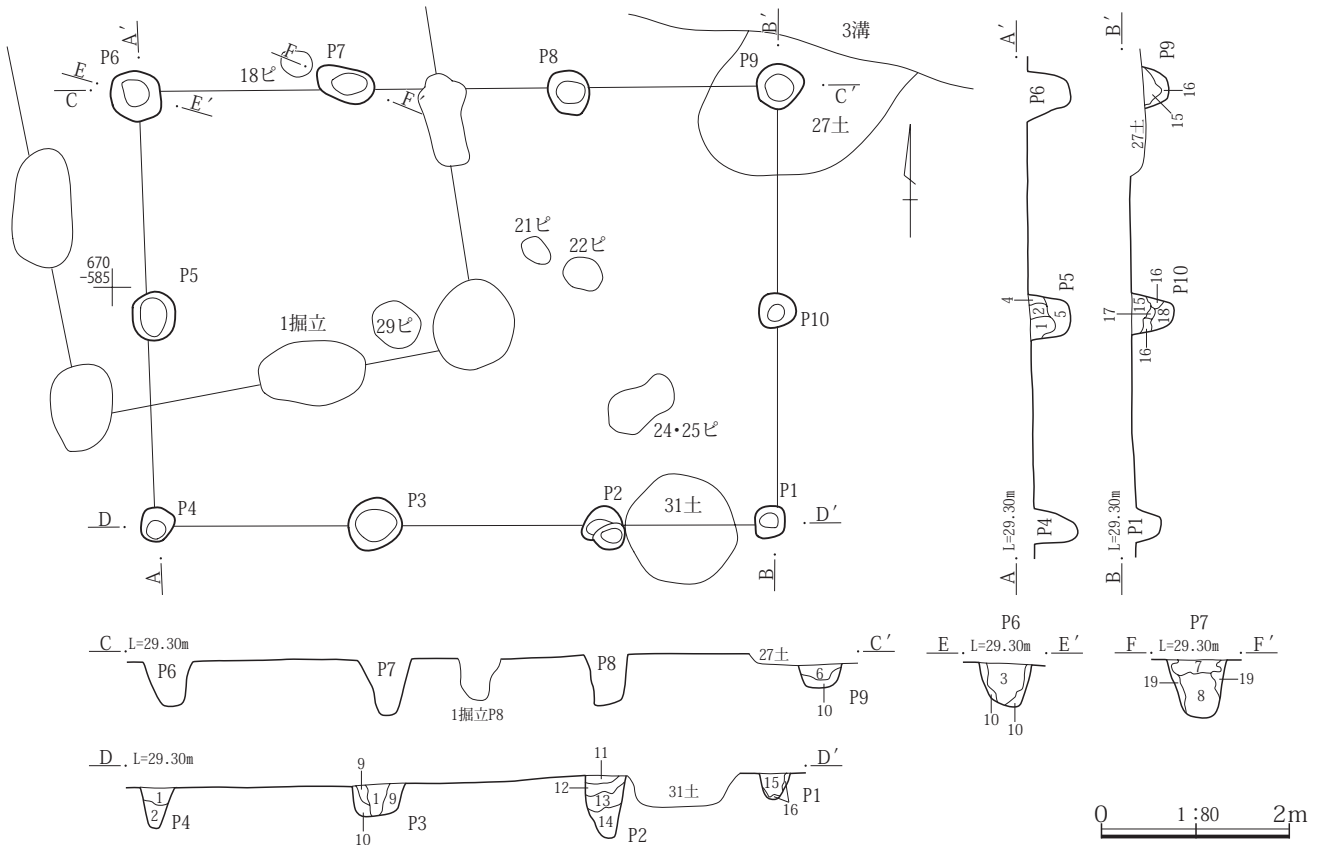
建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかったので、建て替えはなく一時期の建物であると思われる。

平面形式 桁行3間、梁行2間のいわゆる側柱建物である。西辺が北に向かってやや開いているが、全体はほぼ整った長方形である。

建物方位 桁行の方位を計測するとN-89°-Eである。

規模 各柱穴の心-心で計測して、桁行は北辺が6.80m、南辺が6.52mであり、北辺が長い。1尺=0.296mとすると、北辺が23尺、南辺が22尺となる。北辺、南辺の柱間は、北辺はP 6-P 7が2.26m、P 7-P 8が2.34m、P 8-P 9が2.20mなのでほぼ1/3ずつのところに柱穴があることになる。これに対して南辺は東側が短く、P 1-P 2が1.78m、P 2-P 3が2.42m、P 3-P 4が2.32mである。それぞれ6尺、8尺、8尺で設計されていたものと思われる。梁行は、東辺が4.58m、西辺が4.63mであり、西辺がわずかに長い。4.58÷0.296=15.472なので、15.5尺で設計されていたのであろう。柱間は北側が長く、東辺のP 1-P 10は2.19m、P 10-P 9は2.39m、西辺のP 4-P 5は2.23m、P 5-P 6は2.38mである。北側が東辺、西辺とも2.39m、2.38mとほぼ共通し、これが8尺だと思われるので、南側は7.5尺で設計されていたものと思われる。

柱穴 各柱穴は楕円形または円形で、いずれも小さい。ほとんどの柱穴では柱痕跡を明確に把握することはできなかったが、P 3のように断面で柱痕跡らしい土層が観



2区3号掘立柱建物

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 暗オリーブ灰色土 ローム粒少し含む。 | 10. 明黄褐色土 くすんだローム主体。 |
| 2. 暗オリーブ灰色土 土質均一、しまり弱い。 | 11. 暗褐色土 ローム粒含み、土質ムラあり、鉄分沈着。 |
| 3. 暗オリーブ灰色土 土質均一、鉄分沈着、しまり下位ほど弱い。 | 12. 黄褐色土 くすんだローム・黒褐色土含む。 |
| 4. 暗オリーブ灰色土 ロームきわめて多く含み、土質均一。 | 13. 暗オリーブ灰色土 くすんだローム塊含み、しまり弱い。 |
| 5. 暗オリーブ灰色土にぶい黄褐色土の互層、しまり弱い。 | 14. 灰オリーブ色土 もろく崩れやすい。 |
| 6. 黒褐色土 固いローム小塊少し含み、しまりやや弱い。 | 15. 褐灰色土 炭化物・くすんだローム少し含み、しまり強い。 |
| 7. 黒褐色土 ローム小塊少し含み、わずかに鉄分沈着。 | 16. 明黄褐色土 明るいローム主体。 |
| 8. 黒褐色土 7層よりやや暗く、土質均一、しまり弱い。 | 17. にぶい黄色土 |
| 9. 黄褐色土 くすんだローム土含み、土質粗い。 | 18. 灰黄褐色土 しまりやや強い。 |
| | 19. にぶい黄褐色土 くすんだローム主体に暗褐色土少し含み、しまり弱い。 |

第188図 2区3号掘立柱建物平断面図

察できたものもある。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	38×31×24	P 2	48×44×67
P 3	58×52×35	P 4	36×35×42
P 5	52×45×40	P 6	60×51×49
P 7	63×35×61	P 8	50×43×56
P 9	51×46×22	P 10	41×37×45

遺物 各柱穴からの出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)7点・42g、同(大)85g、須恵器(小)5点・13gがある。

所見 桁行3間、梁行2間の東西棟で、いわゆる側柱建物である。重複する1号掘立柱建物に比べて柱穴が小さ

いのが特徴的である。出土遺物が少ないので時期は特定できない。

2区4号掘立柱建物(第189図、PL.75-2)

2区北側にあり、2号掘立柱建物とほぼ重なる位置にある。桁行3間、梁行2間の南北棟であり、北東隅の一部が調査区外となる。

位置 X=30674～681、Y=-36573～578。

重複遺構 柱穴と直接重複するのは2区2・3号竪穴住居であり、本遺構が新しい。本建物の範囲内には、2号掘立柱建物、19・20号土坑、5～8・14・15号ピットがあるが、直接重複していないので新旧関係は不明である。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなか

ったので、建て替えはなく一時期の建物であると思われる。P4のみは2時期のピットが重複しているように見えるが、建物の外側に重複する形であり、これは建物とは無関係のものである可能性が高い。

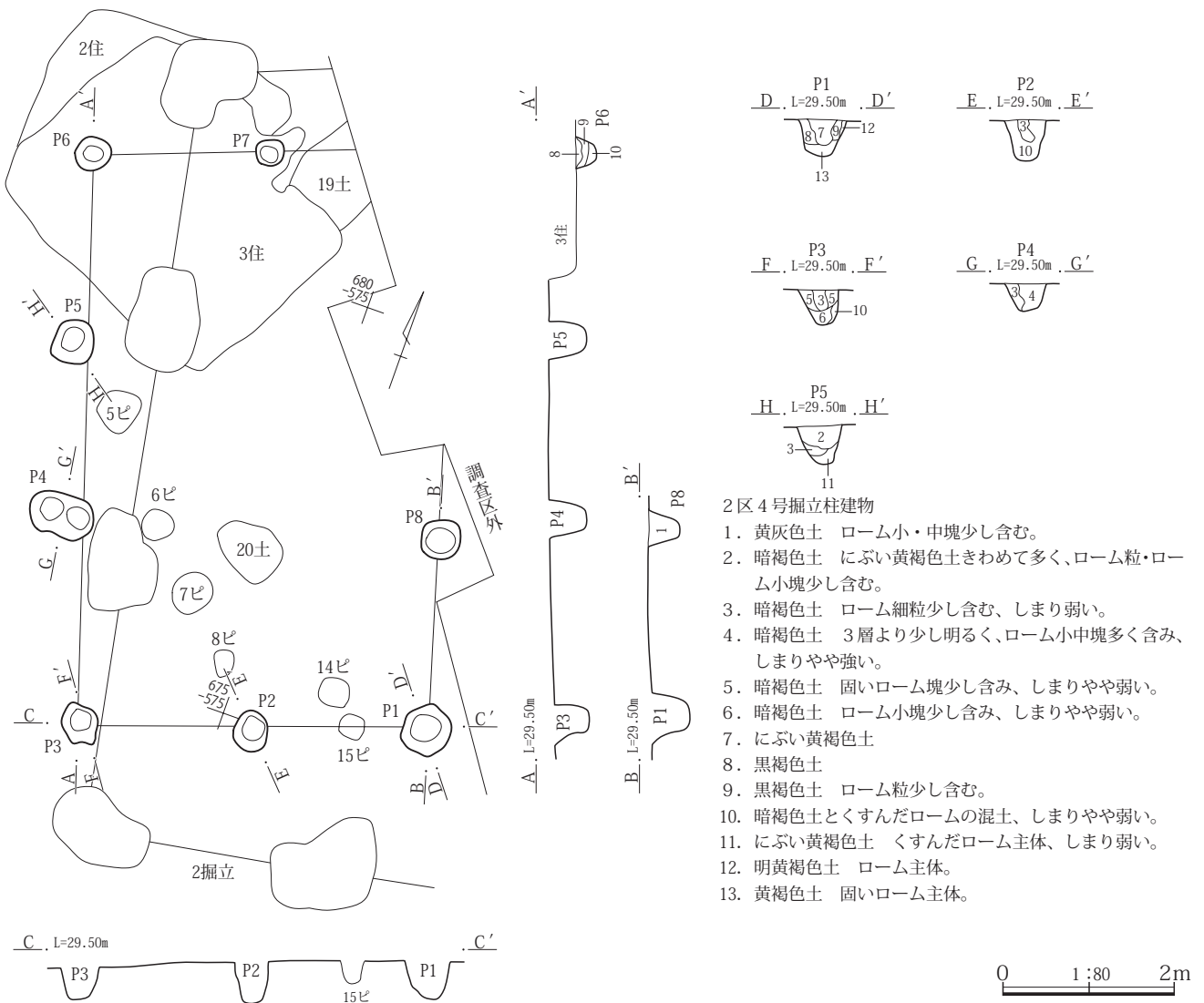
平面形式 北東側が調査区外となるが、桁行3間、梁行2間のいわゆる側柱建物である。

建物方位 桁行(西辺)の方位を計測すると、N-18°-Wである。

規模 各柱穴の心-心で計測して、桁行(西辺)は6.60m、梁行(南辺)は4.00mである。桁行は1尺=0.30mとすると22尺になるものの、この長さでは梁行は完数にならない。やや長い1尺=0.307m程度とすれば、桁行21.5尺、梁行13尺となるので、0.30mよりもやや長い長さを造営尺として設計されていたのではないだろうか。梁行の南辺の柱間はちょうど中央にP2があるので2.00m+

2.00mであり、6.5尺+6.5尺で設計されていたのであろう。北辺はP6-P7が2.04mであり、南辺とほぼ同じ柱間隔である。桁行の西辺はやや不揃いで、P3-P4が2.36m、P4-P5が2.08m、P5-P6が2.16mである。この長さは、それぞれ7.7尺、6.8尺、7.0尺となり、完数とはならない。あるいは7.5尺+7尺+7尺で設計されていたのかも知れない。このように西辺は南側の柱間隔がやや長くなるが、東辺の南側P1-P8は2.18mであり、西辺と異なっている。やはり桁行の柱間は全体にやや不揃いであったようである。

柱穴 いずれもわずかに歪んではいるが、ほぼ円形である。ほぼ同じ位置にある2号掘立柱建物の柱穴に比べてかなり小さい。断面を見ると、P1~3に柱痕跡らしい土層が見える。ただしこれが柱痕跡だとすると、柱の径は10~20cmのかなり細い材である。各柱穴の規模は以



第189図 2区4号掘立柱建物平断面図

下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	60×54×45	P 2	48×40×47
P 3	54×40×40	P 4	78×48×48
P 5	55×48×44	P 6	43×38×55
P 7	32×30×56	P 8	50×44×35

遺物 各柱穴からの出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(大) 8点・35g、須恵器(小) 5点・23g、同(大) 1点・15gがある。

所見 桁行3間、梁行2間の南北棟で、いわゆる側柱建物である。重複する2号掘立柱建物に比べて柱穴が小さいのが特徴的であり、この特徴は3号掘立柱建物と共通する。出土遺物が少ないので時期は特定できないが、2号掘立柱建物と同様に、2・3号竪穴住居よりも新しいので、9世紀第3四半期以降のものである。

2区5号掘立柱建物(第190図、PL.76-2)

2区中央のやや北寄りにある。1間×1間のほぼ正方形の建物であるが、柱間が非常に長いので掘立柱建物としてはやや疑問がある。

位置 X=30638～645、Y=-36552～558。

重複遺構 2区11号溝と重複。本遺構が11号溝より古い。12号溝も本建物内を通過しているが、直接重複していないので新旧関係は不明である。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかったので、建て替えはなく一時期の建物であると思われる。

平面形式 1間×1間のほぼ正方形の建物である。ただし北側には、7～14号溝といった多くの溝が折り重なるように掘られているため、延長部の柱穴がこれらによって破壊された可能性は否定できない。

建物方位 北西-南東方向を主軸としてその方位を計測すると、N-30°-Wである。

規模 各柱穴の心-心で計測して、北西-南東方向は、P4-P1が4.47m、P2-P3が4.52mであり、北東-南西方向は、P1-P2が4.37m、P4-P3が4.28mである。北西-南東方向の方がわずかに長い。やや誤差があるが、北西-南東方向が15尺、北東-南西方向が14尺で設計されていたのではないだろうか。

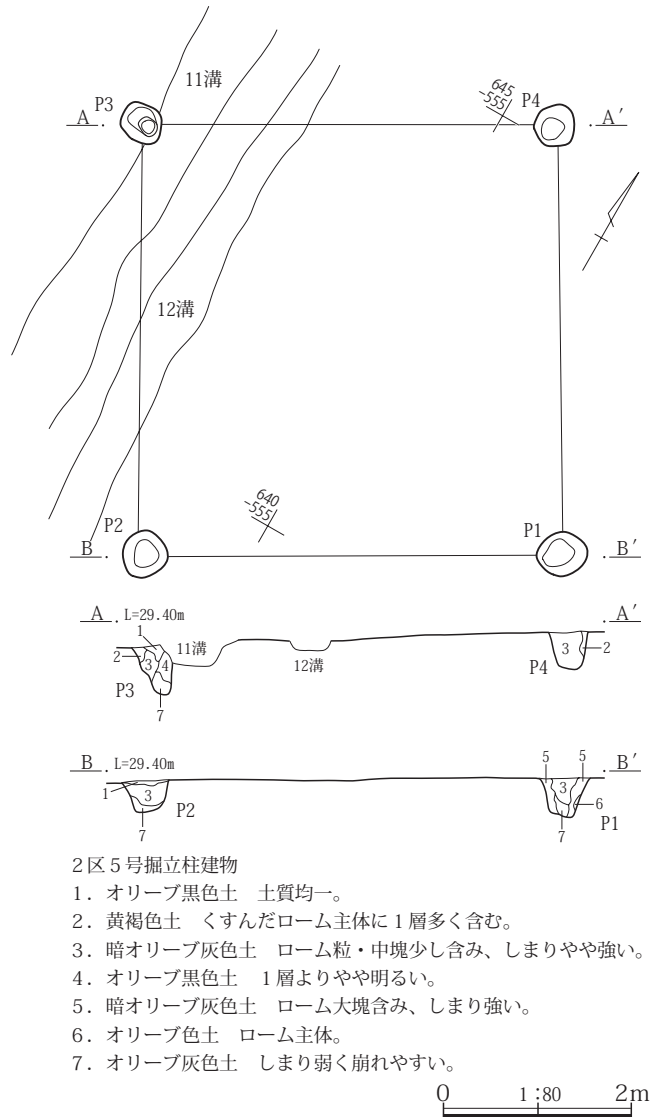
柱穴 平面形はほぼ円形で、径は小さい。柱痕跡らしい

ものはP1、P3に見られる。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	54×45×40	P 2	50×47×30
P 3	48×39×50	P 4	45×43×39

遺物 各柱穴からの出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものにも土師器(大) 3点・20gがあるのみである。

所見 1間×1間のほぼ正方形の建物である。柱穴の径に比べて柱間が14～15尺と長く、掘立柱建物としてはやや疑問がある。あるいは、削平された竪穴住居の主柱穴なのではないかとも考えられるが、そのような痕跡は全く見られなかったので断言はできない。出土遺物がほとんどないので、時期は特定できない。



- 2区5号掘立柱建物
1. オリーブ黒色土 土質均一。
 2. 黄褐色土 くすんだローム主体に1層多く含む。
 3. 暗オリーブ灰色土 ローム粒・中塊少し含み、しまりやや強い。
 4. オリーブ黒色土 1層よりやや明るい。
 5. 暗オリーブ灰色土 ローム大塊含み、しまり強い。
 6. オリーブ色土 ローム主体。
 7. オリーブ灰色土 しまり弱く崩れやすい。

第190図 2区5号掘立柱建物平面図

2区6号掘立柱建物(第191図、PL.76-3)

2区南部の西側にあり、南西部が調査区外となる。調査当時は桁行3間以上、梁行2間の南北棟の総柱建物であると判断したが、桁行、梁行とも2間である可能性が高い。桁行の柱間が梁行よりもかなり長くなっているのが特徴である。

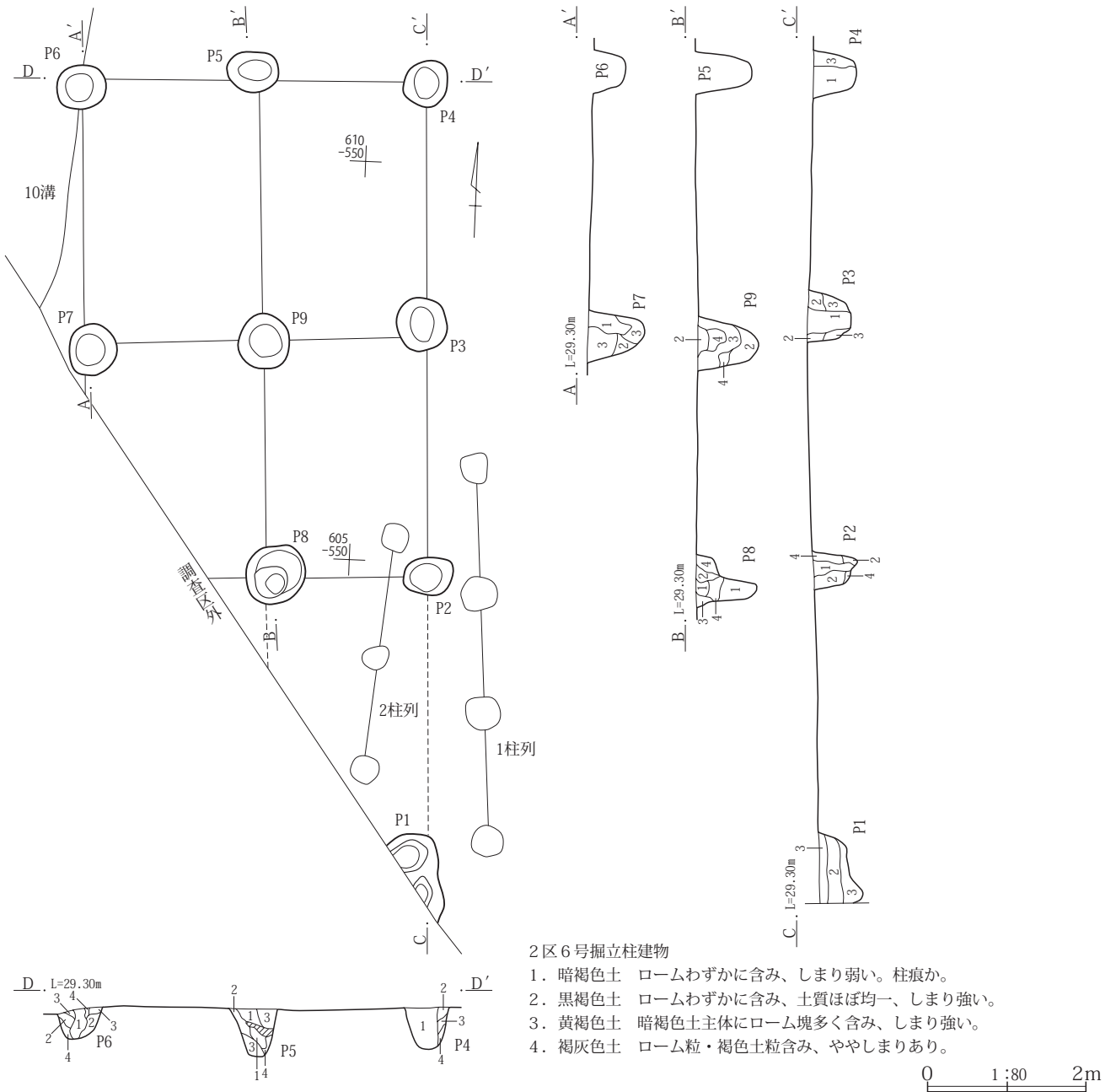
位置 X=30600～611、Y=-36548～553。

重複遺構 柱穴と直接重複するのは10号溝であり、本遺構が古い。建物の範囲内には2号柱穴列があるが、直接重複していないので新旧関係は不明である。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められな

ったので、建て替えはなく一時期の建物であると思われる。

平面形式 南西部が調査区外となるので全形は不詳であるが、調査当時は桁行3間以上、梁行2間の総柱建物と判断した。掲載した写真(PL.76-3)はそのように撮影してある。しかし、現状で東辺南端となるP1は、柱筋からやや外れ、他の柱穴と平面形態・土層とも異なっており、さらにこの間(P1-P2)だけ他の柱間よりも広がっているため、P1は別の遺構である可能性が高いと思われる。そのため、ここでは桁行、梁行とも2間の建物として報告するが、ピット番号は混乱の恐れがあるの



第191図 2区6号掘立柱建物平面断面図

で変更しないことにし、P1も本項で取り上げることにする。

建物方位 桁行の方位を計測すると、N-5°-Wである。

規模 柱筋がやや歪んでいるので計測値が不揃いとなるが、各柱穴の心一線で計測すると、桁行は、東辺のP2-P4が6.22m、中央のP8-P5が6.45mである。切りのいい数値にはならないものの、あえて推定すれば21尺から21.5尺程度で設計されていたようである。中間の柱穴(P3とP9)はそれぞれのほぼ中央にあり、西辺のP7-P6もほぼ同じ長さなので、等間で設計されている。梁行は北辺のP6-P4が4.36m、中央のP7-P3が4.19mである。これもあえて推定すれば14尺から14.5尺程度で設計されていたのであろう。中間の柱穴(P5とP9)はやはりほぼ中央にあるので、等間で設計されていると思われる。

柱穴 平面形状はほぼ円形である。断面では柱痕跡が明瞭に観察できるものがあり、そのうちP3とP4でみると柱の径は約30cmに復元できる。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。()は残存値である。

P 1	(118)×(50)×66	P 2	65×46×56
P 3	67×62×55	P 4	61×54×53
P 5	65×50×63	P 6	62×55×42
P 7	65×60×73	P 8	80×71×79
P 9	70×63×79		

遺物 各柱穴からの出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(大)2点・5g、須恵器(小)2点・4g、同(大)1点・58gがある。

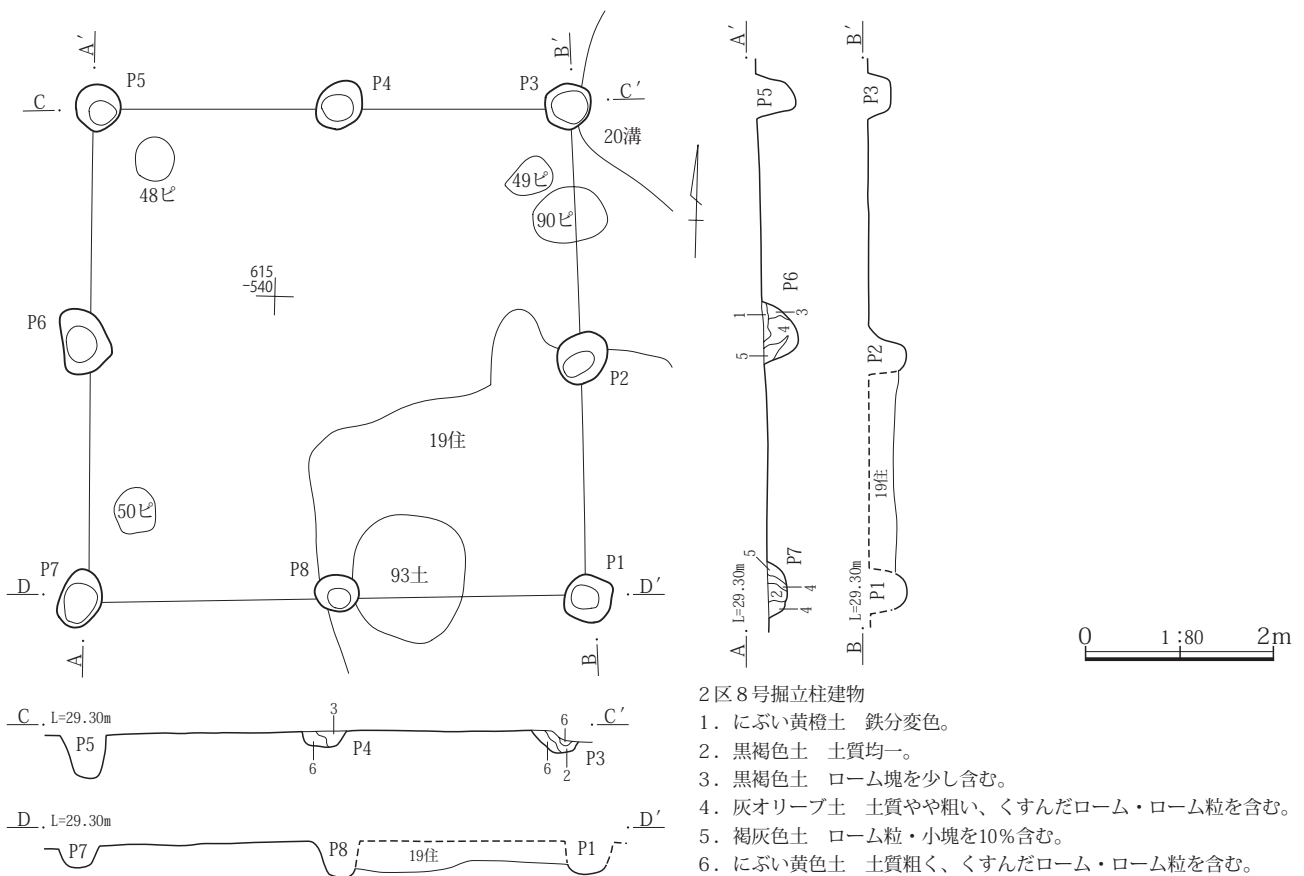
所見 桁行・梁行とも2間の南北棟の総柱建物であり、桁行の柱間寸法が梁行よりもかなり長いのが特徴的な建物である。南にある柱穴を入れれば桁行3間以上となるが、その可能性は低いと思われる。出土遺物がほとんどないので、時期は特定できない。

2区8号掘立柱建物(第192図、PL.76-4)

2区南部中央にある。2間×2間の正方形の建物である。

位置 X=30612~617、Y=-36536~542。

重複遺構 柱穴と直接重複するのは19号竪穴住居と93号



2区8号掘立柱建物

1. にぶい黄橙土 鉄分変色。
2. 黒褐色土 土質均一。
3. 黒褐色土 ローム塊を少し含む。
4. 灰オリーブ土 土質やや粗い、くすんだローム・ローム粒を含む。
5. 褐灰色土 ローム粒・小塊を10%含む。
6. にぶい黄色土 土質粗く、くすんだローム・ローム粒を含む。

土坑、20号溝である。本遺構が93号土坑、20号溝より古い、19号竪穴住居との新旧関係は確認できなかった。建物の範囲内には、48～50・90号ピットがあるが、直接重複していないので新旧関係は不明である。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかった、建て替えはなく一時期の建物であると思われる。

平面形式 2間×2間の正方形の建物である。

建物方位 南北方向を計測すると、N-1°-Wである。

規模 各柱穴の心-心を計測すると、南北方向は東辺と西辺がいずれも5.22mである。東西方向は北辺が4.95m、南辺が5.37mであり、北辺が短くなる。しかしこの違いはおそらく心-心を計測した測定の誤差であり、本来は各辺ともほぼ等しい長さで設計されていたと考えられる。中間の柱穴はみな各辺のほぼ中央にあるので、全て等間隔で設計されていたのであろう。

柱穴 柱穴の平面形状は、やや歪んだものもあるが円形に近いものが多い。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	56×48×40	P 2	59×50×41
P 3	52×46×24	P 4	56×45×18
P 5	50×47×46	P 6	70×48×34
P 7	62×43×20	P 8	47×39×38

遺物 各柱穴からの出土遺物はない。

所見 2間×2間の正方形の建物である。遺物の出土がないので時期は特定できない。

3区1号掘立柱建物(第193図、PL.76-5)

3-3区南部西側にある。3間×2間以上の総柱建物である。

位置 X=30721～727、Y=-36637～642。

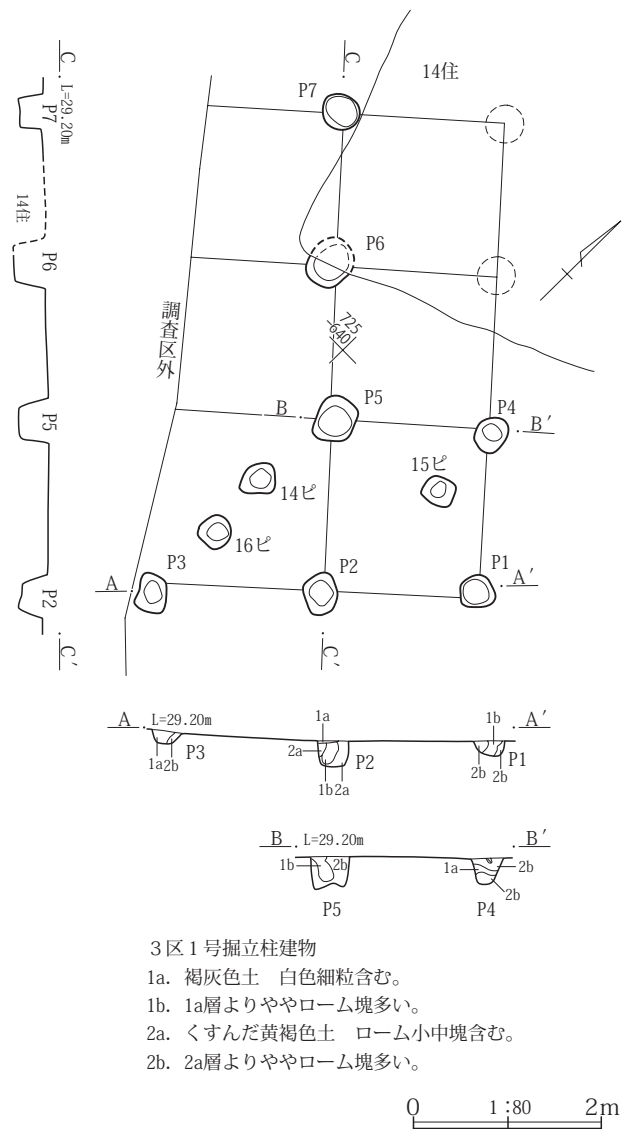
重複遺構 3区14号竪穴住居と重複する。本遺構が新しいが、調査の際に新旧を逆転して掘削してしまったため、北西隅の柱穴位置は推定である。建物の範囲内には14～16号ピットもあるが、直接重複していないので新旧関係は不明である。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかった、建て替えはなく一時期の建物であると思われる。

平面形式 南西側が調査区外となるため詳細は不明であり、どちらが桁行、梁行かも分からないが、3間×2間以上の総柱建物である。

建物方位 4本の柱穴がある列(P2-P7)の方位を計測すると、N-42°-Wである。

規模 柱間寸法はやや不揃いである。柱穴の心-心で計測すると、南東-北西方向のP2-P7は、1.82m+1.69m+1.61m=5.12mであり、北東-南西方向のP1-P3は1.66m+1.77m=3.43mである。それぞれあえて示せば6尺+5.5尺+5.5尺=17尺、5.5尺+6尺=11.5尺となるが、長さの差はあまりないので、実際には等間で作られていた可能性もあるだろう。



第193図 3区1号掘立柱建物平断面図

柱穴 平面形状はほぼ円形である。柱痕跡は不明確である。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。()は残存値である。

P 1	39×34×17	P 2	45×36×25
P 3	45×30×11	P 4	39×32×27
P 5	52×40×31	P 6	(30)×43×33
P 7	54×44×23		

遺物 各柱穴からの出土遺物は土師器(小)2点・5gのみであり、小破片であるために掲載できなかった。

所見 全形が分からないので詳細は不明であるが、3間×2間以上の総柱建物である。柱穴の径が小さく、中世の建物のように見えるが、遺物がわずかしこ出土しておらず時期は特定できない。

2区1号柱穴列(第194図、PL.76-3)

2区南部西側にあり、6号掘立柱建物のすぐ東側に並ぶようにして存在する。4本の柱穴が南北に直線的に並んでいるが、南側は調査区外となるため、さらに続いている可能性が高い。

位置 X=30601～606、Y=-36547～548。

重複遺構 直接重複してはいないが、6号掘立柱建物ごく近くにあるので、本遺構と同時存在とは思えない。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかったので、建て替えはないと思われる。

方位 N-4°-W。

規模 両端の柱穴(P1とP4)の心-心距離を計測すると、長さは4.69mである。その間にほぼ等間隔に2本の柱穴があるので、柱間は1.56m前後であり、5～5.2尺等間で設計されていたらしい。

柱穴 平面形は、やや歪んでいるものもあるがほぼ円形である。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	41×38×42	P 2	47×41×41
P 3	47×42×46	P 4	40×34×42

遺物 出土遺物はない。

所見 4基の柱穴が直線状に並ぶ柱穴列である。南側の調査区外にさらにのびる可能性が高い。とすれば何らかの区画であることが考えられるが、詳細は不明である。出土遺物がないので時期は特定できない。

2区2号柱穴列(第194図、PL.76-3)

2区南部西側、1号柱穴列の西側にある。3基の柱穴が南北に直線的に並ぶものであるが、1号柱穴列同様、南側が調査区外となるので、さらに南にのびる可能性が高い。

位置 X=30602～605、Y=-36549。

重複遺構 柱穴が直接重複しているわけではないので新旧関係は不明であるが、2区6号掘立柱建物とは位置的に重複するはずである。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかったので、建て替えはないと思われる。

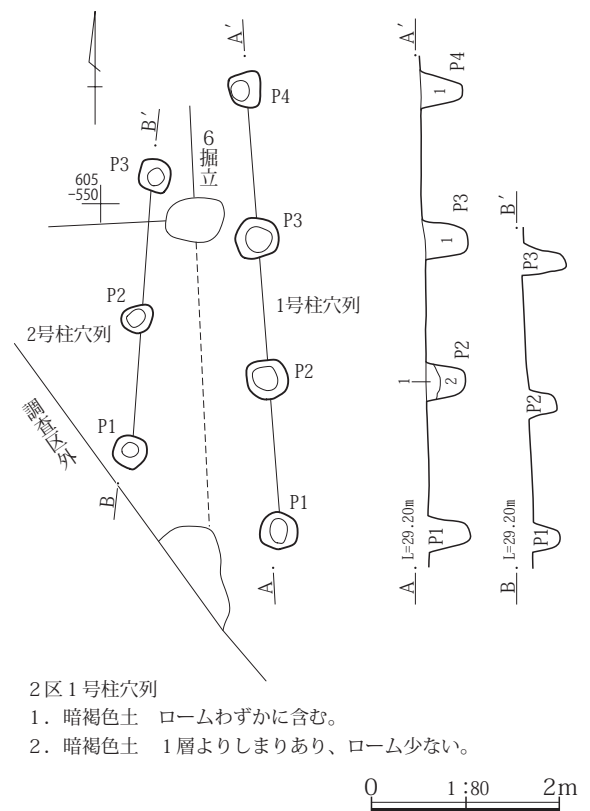
方位 N-5°-E。

規模 両端の柱穴(P1とP3)の心-心距離を計測すると、2.91mである。P1-P2は1.39m、P2-P3は1.52mなので、北側の柱間の方がわずかに長い。

柱穴 平面形は、やや歪んでいるものもあるがほぼ円形である。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	36×33×31	P 2	35×29×29
P 3	40×34×44		

遺物 出土遺物はない。



2区1号柱穴列

1. 暗褐色土 ロームわずかに含む。
2. 暗褐色土 1層よりしまりあり、ローム少ない。

第194図 2区1・2号柱穴列平面断面図

所見 3基の柱穴が直線的に並ぶ柱穴列であり、1号柱穴同様、南側の調査区外にさらにのびる可能性が高く、とすれば何らかの区画であることが考えられる。出土遺物がないので時期は特定できない。

2区3号柱穴列(第195図、PL.76-6)

2区北部の東側にある。5基の柱穴が南北に直線的に並ぶ。

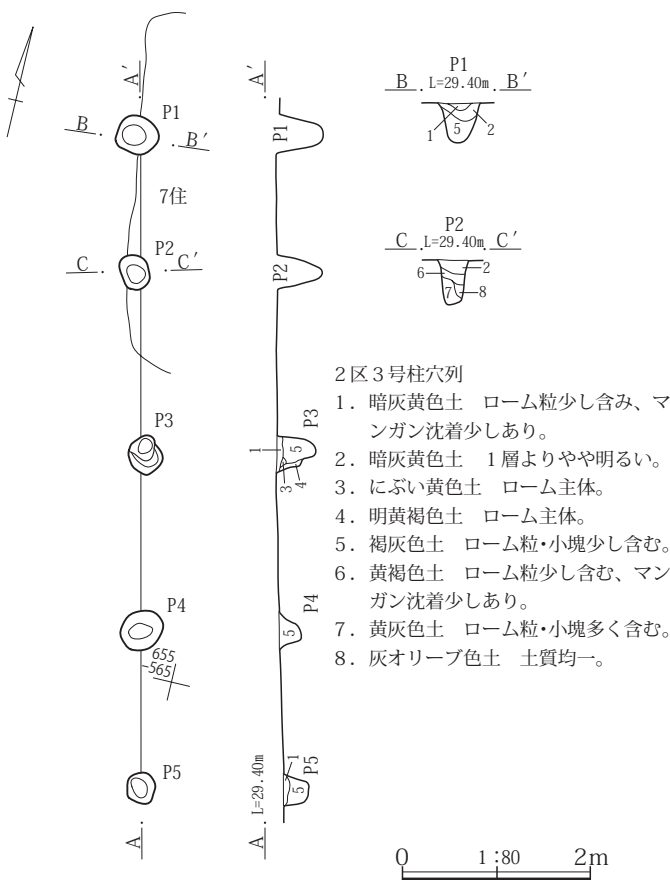
位置 X=30654～660、Y=-36564～566。

重複遺構 7号竪穴住居と重複する。本遺構が新しい。

建て替えの有無 P3には新旧の重複の疑いがあるが、その他の各柱穴には新旧の重複が認められなかったので、建て替えはないと思われる。あるいはP3のみ修理などで取り替えられた可能性がある。

方位 N-13°-W。

規模 両端の柱穴(P1とP5)の心-心距離を計測すると、長さは6.92mである。各柱間はばらつきがあり、P1-P2が1.47m、P2-P3が1.85m、P3-P4が1.95m、P4-P5が1.65mである。



第195図 2区3号柱穴列平面図

柱穴 平面形はほぼ円形である。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	46×39×43	P 2	38×28×48
P 3	42×34×43	P 4	46×41×24
P 5	33×29×26		

遺物 出土遺物はない。

所見 5基の柱穴が直線的に並ぶ柱穴列である。出土遺物がないので時期は特定できないが、9世紀第3四半期の7号竪穴住居より新しい。

2区4号柱穴列(第196図)

2区北部中央にある。3基のピットが東西に直線的に並ぶが、西端のものは他の2基に比べて径が極端に小さい。

位置 X=30656～657、Y=-36568～575。

重複遺構 P1が6号竪穴住居と重複する。本遺構が新しい。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかったので、建て替えはないと思われる。

方位 N-88°-E。

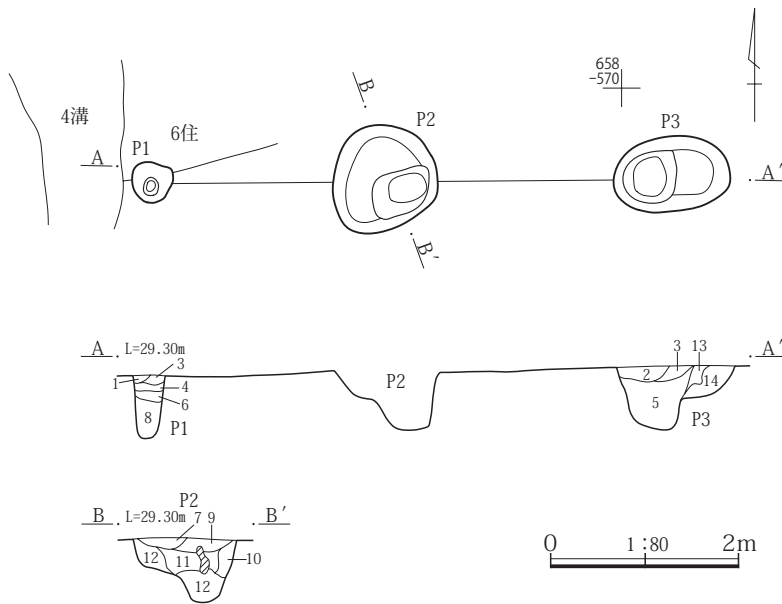
規模 両端の柱穴(P1とP3)の心-心距離を計測すると、長さは5.32mである。中間の柱穴はほぼ中央に位置する。

柱穴 ほぼ円形か楕円形である。東側の2基は径が大きい、その中にさらに深い部分がある。あるいはこれが本来の柱穴で、その回りのやや浅い部分は抜き取り痕なのではないだろうか。この点については断面でも明確に把握することはできなかった。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	46×42×69	P 2	121×106×64
P 3	123×78×67		

遺物 出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)5点・17g、同(大)110g、須恵器(小)7点・30g、同(大)1点・9gがある。

所見 3基の柱穴が直線的に並ぶ柱穴列である。西端の柱穴が小さいので、この3基が同一の遺構であるかやや疑問があるが、東側の2基の浅い部分は抜き取り痕である可能性もある。出土遺物はわずかなので時期は特定できないが、9世紀第2四半期の6号竪穴住居より新しい。



2区4号柱穴列

1. 黄褐色土 ローム粒多く含み、鉄分沈着多い。
2. 暗灰黄色土 ローム粒・炭化物少し含む。
3. 暗灰黄色土 ローム粒・中大塊やや多く含み、一部に鉄分・マンガン沈着。
4. 暗灰黄色土 3層よりローム粒少なく、土質粗くない。
5. 暗灰黄色土 3層と同質、鉄分沈着多く、マンガン沈着なし。
6. 暗灰黄色土 くすんだローム・ローム塊含む。
7. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性あり、しまり強い。
8. 黒褐色土 上位にローム中大塊わずかに含む。
9. 暗オリーブ褐色土 ローム粒多く含む。
10. 灰色土 明るいローム粒・小塊きわめて多く含み、しまり強い。
11. オリーブ黒色土 鉄分沈着多い。
12. オリーブ黒色土 下位にローム粒少し含む。
13. 灰オリーブ土 ローム粒・小塊少し含む。
14. 黄褐色土 固いローム中大塊多く含み、土質粗い。

第196図 2区4号柱穴列平断面図

2区5号柱穴列(第197図)

2区南部西側にある。4基の柱穴が南北に直線的に並ぶが、浅いものもあり、ひとつの遺構としてはやや疑問がある。南側は調査区外となるので、さらに南に延びていた可能性もある。

位置 X=30596～602、Y=-36543～547。

重複遺構 直接重複する遺構はない。

建て替えの有無 各柱穴には新旧の重複が認められなかったので、建て替えはないと思われる。

方位 N-3°-E。

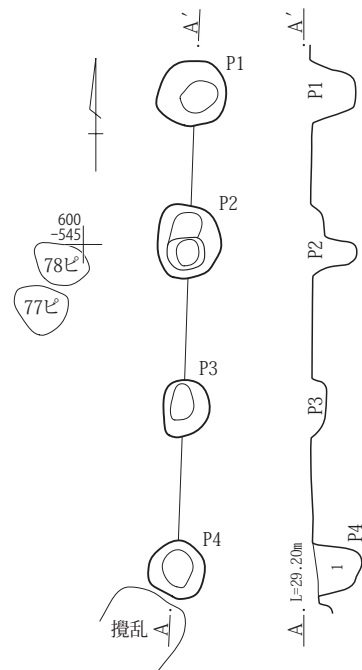
規模 両端の柱穴(P1とP4)の心-心距離を計測すると5.03mである。中間の2基の柱穴は、それぞれほぼ1/3の位置にあり、等間隔に配置されているらしい。

柱穴 やや歪んだものもあるが、ほぼ円形である。P2のみは北側に浅い部分がある。各柱穴の規模は以下の通り(長径×短径×深さ、cm)である。

P 1	76×67×52	P 2	80×68×50
P 3	63×49×16	P 4	63×56×52

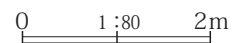
遺物 出土遺物はない。

所見 4基の柱穴が直線的に並ぶ柱穴列である。南側にさらにのびる可能性もあり、だとすれば何らかの区画である可能性があるが、詳細は不明である。出土遺物がないので時期は特定できない。



2区5号柱穴列

1. 黒褐色土 ローム粒斑に含む。



第197図 2区5号柱穴列平断面図

第4節 土坑

土坑は調査区全域に数多く分布している。本書で報告するのは合計309基であり、調査区別の内訳は1区82基、2区106基、3区20基、4区101基である。ただし、3区の土坑20基のうち2基は、縄文土器が出土したことから縄文時代のものであると思われるので、第10節「縄文時代の遺構と遺物」において取り上げることにする。そのため本節で扱うのはそれらを除いた307基である。

各土坑の位置、形状、長軸方位、規模、重複関係と出土遺物などの基本的な情報は、第5～10表にまとめて掲げ、それぞれの平断面図、出土遺物実測図などは227ページ以下にあげた通りである。以下では土坑の全体的な傾向について記述し、そのうちの注目されるものについて個別に触れることにする。

307基の土坑をそれぞれの形状で分類すると、長方形(歪んだものも含む)が136基、その他の正方形に近い形状や、歪んだ方形、不整な方形などが28基、楕円形78基、円形・ほぼ円形が53基、不整形が5基、L字形が2基、小面積しか調査できず形状不明のものが5基となる。遺物が出土する土坑は多いが、時期、用途が明確なものはほとんどない。

長方形のものは数基～十数基が近接して存在することが多く、その顕著な例は2区南部や3-1区、4-1区南西部などにみることができる。それらの土坑の長軸方向を見ると、北東-南西か、それとほぼ直交する北西-南東のものが多く存在し、その方向はすぐ近くの現道とほぼ一致する方向である。土坑の形態も、長さが幅の2倍以上ある長いものが多く、壁が垂直で整っているものがほとんどである。以上のように長方形の土坑の大部分はほぼ同じような特徴をもっており、しかも近い位置に作られることから、その用途はある程度共通しているものと思われる。加えてそれらの長軸方向が現道と近い方位を取っていることは、それらの時期が、現在よりは極端に遡らない、おそらく近世以降のものであることを示すものである。以上のことから、これら長方形の土坑の多くは、近世以降のいわゆる芋穴である可能性が高いものと考えられる。

それら以外の、正方形に近い形状のものや円形・ほぼ円形のもの全体に散在しているが、竪穴住居が分布している周辺に多い傾向は指摘できる。この傾向は、2区や3区の遺構配置に顕著に見られる。それぞれの形状や土層に用途を示すような痕跡が乏しく、出土遺物も少ないので、用途や時期を明示することは難しいが、その分布傾向から竪穴住居と有機的な関連をもっていたものが含まれている可能性は高いと判断できよう。

1区45号土坑(第202図、第49表、PL.130)

1区中央東寄り、8号竪穴住居のすぐ南側にある。9号溝と重複して中央部を破壊されているが、調査時には新旧関係を確認できなかった。長さ120cm、幅98cm、深さ20cmであり、やや歪んではいるものの長方形である。1区の土坑の多くからは古代の土器片が出土するが、本土坑からはある程度大きな破片が出土した。掲載したのは黒色土器碗1点と土師器杯1点であり、このうち1の黒色土器碗は土坑北端から出土している。これらの土器は8世紀後半のものと思われる。その他小破片であるために掲載できなかったものには、土師器(小)1点・2g、同(大)2点・15g、須恵器(小)1点・4gがある。用途を示すような痕跡はなかった。

2区138号土坑(第220図、PL.83-4)

2区南部の竪穴住居集中部にあり、31号竪穴住居と32号竪穴住居に挟まれる狭い範囲に位置する。埋土に灰、炭化物、焼土を多く含む層があり、多数の土器小破片が出土したことで注意すべき土坑である。長さ134cm、幅113cmの不整な方形で、深さは8cmと浅い。おそらく上面が削平され、底面近くのわずかな部分が残っているのだと思われる。埋土はごく薄い4層に分層でき、しまりのやや強い層とやや弱い層とが互層になっていることなどが特徴的で、単なる自然埋没とは思えない。出土した土器は小破片ばかりなので掲載できないし時期の特定も困難であるが、土師器(小)2点・34g、同(大)259g、須恵器(小)2点・3gがある。土坑の用途も明確にしがたいが、底面近くで何らかの目的で火を燃やしたか、その跡を処理した土坑であると思われ、周囲の竪穴住居と関連した施設である可能性がある。

3区19号土坑(第223図、PL.85-1)

3-2区南西隅近くにある。17・18号竪穴住居のすぐそばにあり、17号竪穴住居とはわずかに重複している。本土坑が新しい。遺物は出土していないが、土層が特徴的な土坑である。長径98cm、短径94cmのほぼ円形で、深さは23cmである。埋土はごく薄い層で9層に分層でき、中間には炭化物の層や細砂の層が挟まっている。その状態から単純な自然堆積とは思えず、何らかの人為が加わった可能性が高い。しかし、それ以上用途を推定できるような痕跡はないので、用途を特定することはできない。遺物は出土していないので時期の特定もできないが、17号竪穴住居は9世紀後半のものと思われ、本遺構は少なくともそれよりは新しい。

3区21号土坑(第223図、第49表、PL.84-3,130)

3-3区中央南寄りにある。付近には住居が多いが、それらはある程度の距離を置いて分布しており、本土坑はちょうどその中間に位置している。小さい土坑だが内部に古代の土器片が多数入っていることが特徴的な土坑である。長径は59cm、短径は58cmのほぼ円形で、深さは13cmである。埋土は、下層のほとんどが固くしまった黒褐色土であり、その上層にローム塊や炭化物の層がのる形になっていて、土器片は上層の土に含まれている。土器は黒色土器碗1点を掲載したが、その他に小破片の土師器(小)4点・28g、同(大)382g、須恵器(大)1点・22gが出土している。黒色土器碗は10世紀中頃のものと思われる。炭化物の層も含むことから、火を用いた跡の何らかの廃材を埋めた可能性が考えられる。この土坑の近くには、北に隣接して18号土坑があり、掲載遺物はないが土器片が複数出土している。また、さらに北東に10m程離れた16号からも須恵器碗が出土している。このようにこの周辺には古代の土坑が散在しており、それらは周辺の竪穴住居と関連していたと思われる。

2区43号土坑(第210図、PL.80-9)と**4区55号土坑**(第230図)

2区43号土坑は調査区南部、27号竪穴住居の南に隣接した位置にある。4区55号土坑は4-2区北西部で、やはり9号竪穴住居のすぐ南側にあるが、こちらはわずかに重複している。ただし重複部分はわずかなので、新旧

関係は確認できなかった。いずれも浅い土坑の中に深いピットが掘られているような形態であり、住居のすぐ近くに掘られていることも共通している。2区43号土坑は1辺112cm、深さ12cmの方形の浅い土坑の中に、径60～72cmのほぼ円形のピットが掘られている。ピットの深さは87cmあり、かなり深い。4区55号土坑は長径107cm、短径75cm、深さ20cm前後の長方形に近い楕円形の土坑の中に、径35～43のほぼ円形のピットが掘られている。ピットの深さは140cmと深い。出土遺物は両方の土坑からも土器の小破片しか出土しておらず、時期を特定することは困難であるが、竪穴住居の近くにあるので時期が近接している可能性は考えられる。土坑の性格としては、かなり深いことから、地下水を貯める井戸としての役割がまず考えられる。同様に、井戸の可能性のある細く深い土坑には他に4区52号(第229図)などがあり、3区13号竪穴住居の屋内井戸(167ページ)の存在も考えれば、水を得るためにこのような穴が当時の集落内に存在していた可能性はあると思われる。

4区62・65号土坑(第231図、第50表、PL.87-7,88-8,130,131)

いずれも4-4区中央西寄りにある土坑で、近世の遺物が数多く出土した。円形ないし楕円形の土坑であるが、遺物に完形品は少なく、銅銭の出土もないので墓とは思えない。廃材などを埋めたゴミ穴ではないかと考えられる。4区では他にも68・78・80・88号土坑のように、近世の遺物が出土する土坑があり、それは他の区には見られない特徴である。この近くに近世の屋敷が存在した可能性があると考えられる。

4区103号土坑(第236図、第51表、PL.87-14,131)

4-5区中央にある。22号溝よりは古いが、105号土坑との新旧関係は不明である。長径100cm、短径80cm、深さ16cmの楕円形の浅い土坑で、形態には特徴的な点はないが、内部から土師器甕1点が出土した。この甕は口縁を下にして底面に置かれたような状態で出土しており、削平によって底部が失われてしまったらしい。この土坑がこの甕を収めるために掘られたという確証は得られていないが、出土状態からは意図的に置かれたように思われ、注意すべき遺構である。

第5表 土坑一覧表(1)

1区

番号	位置		形状	長軸方位	規模(cm)			備考 ()内は未掲載遺物。数字は重量・g。
	X	Y			長径	短径	深さ	
1	30510 ~ 511	-36450 ~ 451	ほぼ円形か	N-80°-E	(70)	(46)	47	
2	30509 ~ 512	-36452 ~ 453	ほぼ円形	N-48°-E	158	145	33	(土師大1)
3	30508 ~ 509	-36456 ~ 457	ほぼ円形	N-52°-W	116	84	35	4号土坑より新。(土師小4・大11、須恵小6)
4	30508 ~ 509	-36455 ~ 456	楕円形	N-59°-E	97	(54)	26	3号土坑より古。(土師大6、須恵小2)
52号ピットに変更								
6	30514 ~ 515	-36458 ~ 459	長方形	N-82°-E	(142)	86	76	(土師小11・大54、須恵大56)
7	30517 ~ 518	-36455 ~ 456	長方形か	N-47°-E	(128)	96	9	
8	30518 ~ 519	-36456 ~ 458	長方形	N-46°-W	190	84	17	1・7号竪穴住居より新。(土師小53・大114、須恵小7・大16)
9	30522 ~ 524	-36458 ~ 459	長方形	N-38°-E	(118)	62	21	1号竪穴住居より新。(土師大9、須恵小38)
10 欠番								
11	30508 ~ 509	-36454 ~ 455	楕円形	N-82°-E	110	94	32	(土師小6・大9、須恵大21)
12	30523 ~ 525	-36465 ~ 467	長方形	N-58°-W	226	84	10	2号掘立柱建物、20・34号土坑、53号ピットより新。(土師小8・大114、須恵小12、灰釉陶器大9)
13	30522	-36463 ~ 464	ほぼ円形か	N-59°-W	78	(46)	17	34号土坑より古。2号竪穴住居より新。(土師小27・大26)
14	30517 ~ 518	-36461 ~ 462	楕円形か	N-35°-E	92	(66)	13	(土師小21・大17)
15	30517 ~ 518	-36462 ~ 463	楕円形か	N-1°-W	(109)	98	19	16号土坑より古。(土師小28・大40、須恵小3、灰釉陶器大5)
16	30518 ~ 520	-36461 ~ 463	長方形	N-36°-E	238	114	23	15号土坑より新。(土師小29・大231、須恵小40)
17	30518 ~ 520	-36463 ~ 464	ほぼ円形か	-	(106)	98	13	(土師小3)
18	30519 ~ 520	-36463 ~ 465	楕円形	N-55°-E	128	118	8	3号竪穴住居より新。(土師大11)
19	30514 ~ 515	-36461 ~ 463	不整形か	-	190	(143)	21	土師壘1(土師大15)
20	30524 ~ 526	-36465 ~ 466	ほぼ円形	-	185	178	18	12号土坑より古。4号竪穴住居、21号土坑より新。(土師大76、須恵大14)
21	30525 ~ 526	-36464 ~ 465	ほぼ円形	-	135	125	40	20号土坑、8号ピットより古。土師杯1(土師小98・大62、須恵小156・大20、灰釉陶器小16)
22	30524 ~ 525	-36471 ~ 472	ほぼ円形か	-	114	(62)	13	4号竪穴住居、11・12号ピットより古。(土師小10、須恵小5)
23 53号ピットに変更								
24	30527 ~ 529	-36471 ~ 472	ほぼ円形か	-	150	(143)	19	5・6号竪穴住居より新。砥石1。(土師大87、須恵小2・大28、国産施釉陶器1)
25	30529 ~ 530	-36470 ~ 471	ほぼ円形か	-	94	(50)	14	6号竪穴住居より新。(土師小7・大53、須恵小9)
26	30528 ~ 529	-36474 ~ 475	方形か	-	144	136	23	6号竪穴住居より新。(土師小4・大77、須恵小1・大44)
27	30526 ~ 527	-36468 ~ 470	方形か	-	110	106	35	5号竪穴住居、32号土坑より古。(土師小10・大28)
28	30529 ~ 532	-36472 ~ 474	ほぼ円形か	-	190	175	24	(土師小13・大106、須恵大1)
29	30526 ~ 527	-36473 ~ 474	ほぼ円形	N-85°-W	166	154	18	6号竪穴住居より新。(土師大81、須恵小6・大7)
30	30534 ~ 536	-36481 ~ 483	楕円形	N-21°-E	192	170	11	
31 54号ピットに変更								
32	30527 ~ 528	-36468 ~ 470	不整形か	-	(174)	168	17	5・6号竪穴住居、27・33号土坑より新。(土師小2・大136、須恵小23)
33	30527 ~ 529	-36466 ~ 469	不明	-	(230)	(200)	28	32号土坑より古。砥石1(土師小28・大35)
34	30522 ~ 523	-36464 ~ 465	長方形	N-66°-W	108	72	22	2号竪穴住居、13号土坑より新。2号掘立柱建物、12号土坑、53号ピットより古。
35	30522 ~ 524	-36467 ~ 469	楕円形	N-80°-W	140	100	6	3号竪穴住居より新。(須恵小56)
36 欠番								
37	30535 ~ 537	-36480 ~ 481	長方形	N-45°-W	(168)	90	22	38号土坑より新。
38	30536 ~ 537	-36480	不明	N-45°-W	(50)	(30)	61	37号土坑より古。
39	30540 ~ 542	-36476 ~ 478	長方形	N-35°-E	196	93	15	(土師大67、須恵小11)
40	30542 ~ 543	-36475 ~ 477	長方形	N-31°-E	174	86	15	41号土坑より新。(土師小15・大159、須恵小72)
41	30542 ~ 543	-36474 ~ 476	ほぼ円形か	-	138	132	66	40号土坑より古。(土師小5・大22、須恵小6)
42	30543 ~ 544	-36474 ~ 475	方形か	N-22°-W	122	(90)	18	(土師大33)
43	30542 ~ 543	-36477	ほぼ円形	-	60	57	11	(土師大21)
44 欠番								
45	30543 ~ 544	-36477 ~ 479	長方形か	N-47°-W	120	98	20	9号溝と重複。黒色土器碗1、土師杯1(土師小2・大15、須恵小4)
46	30543	-36480 ~ 481	楕円形か	N-35°-E	70	(42)	5	8号溝より古。
47	30540 ~ 541	-36485 ~ 486	方形か	N-2°-W	118	(110)	27	76号土坑より古。10号竪穴住居より新。(土師大108、須恵小18)
48	30542	-36485 ~ 487	楕円形	N-82°-E	129	80	25	(土師小7・大48)
49	30543 ~ 544	-36483 ~ 484	不整形か	N-71°-E	126	98	18	9号竪穴住居より新。(土師小3・大76、須恵小61)
50	30545	-36482 ~ 483	ほぼ円形	-	103	92	15	9号竪穴住居より新。(土師大7)
51	30541 ~ 542	-36477 ~ 478	ほぼ円形	-	102	98	11	(土師大13、須恵小9)
52 欠番								
53 1号掘立P3に変更								
54 1号掘立P8に変更								
55 欠番								
56	30561	-36488 ~ 489	ほぼ円形	N-41°-E	74	70	21	
57	30558 ~ 560	-36488 ~ 489	歪んだ長方形	N-5°-E	130	104	26	(土師小13・大31、須恵小25)
58 1号掘立P7に変更								
59 1号掘立P7に変更								
60	30559 ~ 560	-36490 ~ 491	楕円形	N-4°-E	108	90	27	(土師大31、須恵大80)
61 1号掘立P6に変更								
62	30556 ~ 558	-36488 ~ 489	方形か	N-8°-E	(110)	109	25	1号掘立柱建物より古。
63 3号掘立P2に変更								
64	30553 ~ 554	-36492 ~ 493	ほぼ円形	N-72°-W	55	48	16	(土師大64)
65	30564 ~ 565	-36509 ~ 510	楕円形	N-25°-W	92	80	12	(土師大9)
66 欠番								

第3章 調査の成果

第6表 土坑一覧表(2)

番号	位置		形状	長軸方位	規模(cm)			備考 ()内は未掲載遺物。数字は重量・g。
	X	Y			長径	短径	深さ	
67	欠番							
68	欠番							
69	30569 ~ 571	-36495 ~ 497	長方形か	N-43°-E	(140)	105	22	(土師小7・大4)
70	欠番							
71	欠番							
72	0577 ~ 579	-36504 ~ 506	楕円形	N-43°-W	194	98	13	30号竪穴住居より新。(土師小4・大18)
73	30577 ~ 579	-36501 ~ 503	L字形	N-53°-W	205	74	8	
74	30540 ~ 542	-36487 ~ 489	ほぼ円形か	N-25°-E	(145)	160	14	75号土坑より古。10号竪穴住居より新。(土師小7・大30、須恵小27・中20)
75	30540 ~ 541	-36486 ~ 487	楕円形か	N-12°-W	98	82	20	10号竪穴住居、74・76号土坑より新。(土師小7・大9、須恵小12)
76	30540 ~ 541	-36485 ~ 486	楕円形か	N-73°-E	(124)	120	30	75号土坑より古。10号竪穴住居、47号土坑より新。
77	30579 ~ 581	-36505 ~ 507	長方形	N-43°-E	(172)	82	15	78号土坑より古。27・30号竪穴住居より新。(土師大9)
78	30580 ~ 581	-36505 ~ 506	長方形	N-45°-W	178	70	13	27・30号竪穴住居、77号土坑より新。(土師小1・大58、須恵小1)
79	30581 ~ 583	-36505 ~ 506	長方形か	N-50°-E	(90)	72	8	27号竪穴住居より新。
80	欠番							
81	欠番							
82	30549 ~ 550	-36493 ~ 495	歪んだ長方形	N-84°-W	134	106	10	20号竪穴住居より新。
83	欠番							
84	1号掘立P5に変更							
85	30553 ~ 554	-36489 ~ 490	楕円形	N-58°-W	105	60	16	3号溝より古。
86	欠番							
87	30556	-36485	楕円形	N-37°-W	70	56	8	3号溝より古。
88	1号掘立P4に変更							
89	欠番							
90	30547	-36485	ほぼ円形	N-35°-W	74	70	33	11号竪穴住居より新。(土師小6・大32、須恵小6)
91	30572 ~ 573	-36506 ~ 507	ほぼ円形	N-40°-E	126	116	22	100・101号土坑より新。(土師小9・大65、須恵小11)
92	30565 ~ 566	-36497 ~ 498	歪んだ方形	N-87°-E	84	72	21	(土師小23・大34、須恵小17)
93	30571 ~ 573	-36501 ~ 502	楕円形	N-18°-W	122	98	21	(土師小12・大50、須恵小4・大113)
94	30553 ~ 554	-36493 ~ 494	楕円形	N-25°-W	70	55	34	
95	30574 ~ 575	-36501 ~ 502	楕円形か	N-60°-E	(114)	100	21	(土師小5・大18、須恵小8)
96	30573 ~ 575	-36502 ~ 505	歪んだ長方形	N-45°-E	265	100	29	98・99・104号土坑より新。(土師小13・大65)
97	欠番							
98	30571 ~ 573	-36504 ~ 505	楕円形か	N-11°-E	(156)	92	18	96号土坑より古。99号土坑より新。(土師小4・大85、須恵小1)
99	30571 ~ 573	-36504 ~ 505	楕円形か	N-60°-W	(125)	120	10	96・98号土坑より古。(土師小4・大7)
100	30572 ~ 574	-36506 ~ 507	方形か	N-18°-E	110	88	30	91号土坑より古。(土師小6・大108、須恵小9)
101	30572 ~ 573	-36506 ~ 507	楕円形か	N-17°-W	(100)	64	10	91号土坑より古。(土師大4)
102	30570 ~ 571	-36502 ~ 503	ほぼ円形	N-73°-E	65	56	37	(須恵大117)
103	30570 ~ 571	-36503 ~ 504	ほぼ円形	N-30°-W	90	78	8	(土師大16)
104	30575	-36503 ~ 504	ほぼ円形か	-	68	(50)	22	96号土坑より古。
105	30572	-36497	ほぼ円形か	-	86	(39)	22	(土師小28・大40)
106	30571 ~ 573	-36507 ~ 508	楕円形	N-35°-E	158	134	25	(土師大54)
107	欠番							
108	30545 ~ 546	-36489 ~ 490	方形か	N-45°-W	108	96	54	12号竪穴住居・4号溝より古。
109	30562 ~ 563	-36517 ~ 518	不整形	N-10°-W	162	54	9	1号溝と重複。土師杯1(土師大2、須恵中11)
110	30572 ~ 573	-36508 ~ 509	ほぼ円形	-	136	124	22	29号竪穴住居より新。(土師小3・大25)
2区								
番号	位置		形状	長軸方位	規模(cm)			備考 ()内は未掲載遺物。数字は重量・g。
	X	Y			長径	短径	深さ	
1	30692 ~ 693	-36586 ~ 587	長方形か	N-5°-W	(110)	90	31	(土師大18、須恵小8・大21)
2	30688 ~ 689	-36585 ~ 586	不明	-	(90)	(60)	22	1号竪穴住居より古。(土師大7)
3	30663 ~ 664	-36579 ~ 580	ほぼ円形	-	132	115	29	34号土坑より新。(土師小22・大40、須恵小23)
4	30663 ~ 664	-36577 ~ 578	楕円形	N-40°-E	118	82	24	5号土坑より古。
5	30664 ~ 665	-36578 ~ 579	ほぼ円形か	N-8°-W	140	125	24	4・6・34号土坑より新。
6	30664 ~ 665	-36578 ~ 579	楕円形	N-5°-E	124	98	34	5号土坑より古。34号土坑より新。(土師小10・大36、須恵小36・大25)
7	欠番							
8	欠番							
9	30666 ~ 667	-36577 ~ 578	ほぼ円形	N-15°-E	82	76	32	4号竪穴住居より新。
10	欠番							
11	欠番							
12	30675 ~ 676	-36584 ~ 585	ほぼ円形	N-12°-E	97	85	15	(土師大28、須恵大5)
13	30677 ~ 678	-36579	不整形	N-23°-W	80	70	42	(土師大17、須恵大14)
14	4号掘立柱建物P4に変更							
15	2号掘立柱建物P4に変更							
16	30662 ~ 663	-36583 ~ 584	ほぼ円形	-	140	128	31	119号土坑より新。
17	30675 ~ 676	-36578 ~ 579	楕円形	N-10°-E	80	55	27	(土師小5・大11、須恵小8)
18	30674 ~ 676	-36579 ~ 581	長方形	N-33°-E	200	82	27	(土師小8・大34、須恵小2・大15)
19	30680 ~ 681	-36575 ~ 576	長方形か	N-31°-E	(118)	90	42	3号竪穴住居より新。(土師小3・大36、須恵小8)
20	30676 ~ 677	-36574 ~ 575	楕円形	N-63°-W	78	60	18	
21	欠番							
22	欠番							
23	欠番							
24	欠番							

第7表 土坑一覧表(3)

番号	位置		形状	長軸方位	規模(cm)			備考 ()内は未掲載遺物。数字は重量・g。		
	X	Y			長径	短径	深さ			
25	欠番									
26	30668	～ 670	－36570	～ 572	長方形	N-32°-E	206	130	42	(土師小24・大62、須恵小12・大61)
27	30671	～ 674	－36576	～ 579	歪んだ長方形	N-31°-E	(155)	170	11	3号溝より古。3号掘立柱建物より新。
28	30663	～ 666	－36567	～ 569	長方形	N-42°-E	274	180	33	(土師小23・大65、須恵小63・大144)
29	欠番									
30	欠番									
31	30667	～ 668	－36578	～ 579	ほぼ円形	—	116	114	34	(土師小28・大32、須恵小7)
32	30653	～ 655	－36563	～ 565	長方形	N-19°-E	208	105	22	5号溝より古。33号土坑より新。(土師小8・大48、須恵小25・大15)
33	30653	～ 654	－36563	～ 564	長方形か	N-76°-E	(104)	90	14	32号土坑より古。(土師大21、須恵小12)
34	30664	～ 666	－36579	～ 580	楕円形か	N-43°-E	135	90	19	3・5・6号土坑より古。(須恵小1)
35	110号ピットに変更									
36	欠番									
37	4号柱穴列P2に変更									
38	30633	～ 634	－36550	～ 551	長方形	N-28°-E	122	64	11	12号竪穴住居より新。(土師大10)
39	30640	～ 641	－36549	～ 551	長方形	N-52°-W	160	70	15	(土師大14、須恵小10)
40	30580	～ 582	－36522	～ 524	長方形	N-39°-E	186	(100)	30	(土師小8・大58、須恵小47・大39)
41	30582	～ 585	－36525	～ 527	長方形	N-37°-E	(174)	118	26	1号井戸より古。(土師小11・大81、須恵小9・大96)
42	30585	～ 586	－36526	～ 528	長方形	N-30°-E	187	80	15	(土師大29、須恵小20)
43	30586	～ 588	－36527	～ 529	方形か	—	112	112	98	(土師小21・大73、須恵小7・大7)
44	30586	～ 588	－36530	～ 532	長方形	N-26°-E	178	103	28	27号竪穴住居、61号ピットより新。(土師小4・大39、須恵小19・大34)
45	30586	～ 588	－36531	～ 533	長方形	N-25°-E	160	83	21	27号竪穴住居より新。(土師大28、須恵小5・大26)
46	30585	～ 587	－36532	～ 533	長方形	N-27°-E	150	86	17	(土師小6・大8、須恵小17)
47	30588	～ 590	－36526	～ 528	長方形	N-29°-E	180	104	20	27号竪穴住居より新。(土師小29・大117、須恵小28・大8)
48	30592	～ 594	－36526	～ 530	長方形	N-57°-W	376	82	35	27号竪穴住居、102・103号土坑より新。(土師小57・大115、須恵小27・大10)
49	30589	～ 592	－36532	～ 534	長方形	N-34°-E	250	124	19	27号竪穴住居より新。右製紡輪1(土師小26・大490、須恵小57)
50	30592	～ 594	－36531	～ 533	長方形	N-38°-E	287	84	38	27号竪穴住居より新。(土師小32・大89、須恵小22)
51	30592	～ 594	－36533	～ 534	歪んだ長方形	N-34°-E	172	64	15	(土師大21、須恵小5)
52	30594	～ 596	－36534	～ 535	歪んだ長方形	N-68°-W	192	80	16	25号竪穴住居、53・56号土坑より新。(土師小11・大47、須恵小57)
53	30593	～ 595	－36534	～ 535	歪んだ長方形	N-35°-E	214	80	14	52号土坑より古。25号竪穴住居、56号土坑より新。(土師小6・大11、須恵小5)
54	30594	～ 595	－36536	～ 537	長方形	N-30°-E	(115)	90	19	55号土坑より古。20・28・29号竪穴住居より新。(土師小14・大127、須恵小23・大33)
55	30595	～ 596	－36535	～ 536	長方形	N-25°-E	118	90	34	20・28・29号竪穴住居、54号土坑より新。
56	30595	～ 596	－36534	～ 537	歪んだ長方形	N-55°-W	364	78	43	52・53・57号土坑より古。25号竪穴住居より新。
57	30596	～ 597	－36535	～ 536	方形か	N-68°-W	(120)	108	52	58号土坑より古。25号竪穴住居、56号土坑より新。(土師大34、須恵小51・大8)
58	30596	～ 597	－36534	～ 535	長方形	N-74°-W	175	100	20	25号竪穴住居、57号土坑より新。(土師小10・大97、須恵小18)
59	欠番									
60	欠番									
61	30597	～ 599	－36537	～ 539	長方形か	N-23°-E	214	104	35	24号竪穴住居、62号土坑より新。(土師小12・大110、須恵小31・大14)
62	30594	～ 598	－36539	～ 541	長方形	N-21°-E	378	84	33	61号土坑より古。20・28・29号竪穴住居、63号土坑より新。(土師小33・大220、須恵小56)
63	30595	～ 597	－36540	～ 541	長方形	N-23°-E	224	86	27	62号土坑より古。20・28・29号竪穴住居より新。(土師小38・大114、須恵小28・大20)
64	30601	～ 602	－36538	～ 540	長方形	N-57°-W	240	70	16	21・22・24号竪穴住居より新。(土師小10・大91、須恵小17)
65	30602	～ 604	－36538	～ 541	長方形	N-51°-W	300	94	27	21～24号竪穴住居、141号土坑より新。(土師小39・大230、須恵小82・大6)
66	30602	～ 604	－36541	～ 543	長方形	N-50°-W	228	90	19	67号土坑より新。(土師大40)
67	30602	～ 603	－36541	～ 543	不整形方形か	—	138	135	34	66号土坑より古。(土師小8・大11、須恵小70・大192)
68	30605	～ 607	－36544	～ 546	長方形	N-52°-W	198	92	10	
69	30606	～ 608	－36544	～ 547	長方形	N-59°-W	246	76	26	(土師大42、須恵小9・大7)
70	欠番									
71	30607	～ 609	－36536	～ 537	長方形	N-83°-E	165	122	26	(土師大47)
72	30611	～ 612	－36527	～ 528	楕円形	N-33°-W	112	85	13	140号土坑より新。(土師小24・大43、須恵小6・大77)
73	30607	～ 608	－36523	～ 524	長方形	N-30°-E	134	78	9	(土師小11・大79、須恵小10)
74	30588	～ 590	－36535	～ 537	楕円形	N-48°-W	196	75	8	
75	欠番									
76	30596	～ 597	－36530	～ 532	歪んだ長方形	N-65°-W	172	75	22	25・26号竪穴住居、3号井戸、95・96号土坑より新。(土師大17)
77	30596	～ 597	－36531	～ 532	方形か	N-28°-E	97	90	19	25・26号竪穴住居、96号土坑より新。(土師小32・大152、須恵小54・大9)
78	30594	～ 596	－36531	～ 533	歪んだ長方形	N-36°-E	210	72	26	25・26号竪穴住居、96号土坑より新。
79	30594	～ 595	－36531	～ 532	ほぼ円形か	N-10°-E	102	88	7	25・26号竪穴住居、95・96号土坑より新。
80	欠番									
81	欠番									
82	欠番									
83	欠番									
84	30613	～ 615	－36551	～ 553	長方形	N-36°-E	172	106	11	25号溝より古。(土師大6)
85	30625	～ 627	－36548	～ 550	長方形	N-28°-E	230	130	20	(土師小13・大19)
86	30622	～ 624	－36549	～ 550	長方形	N-32°-E	215	136	14	87号土坑より古。17号溝より新。(土師大2)
87	30619	～ 622	－36549	～ 551	長方形	N-27°-E	282	83	15	86号土坑より新。(土師大2)

第3章 調査の成果

第8表 土坑一覧表(4)

番号	位置		形状	長軸方位	規模(cm)			備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
	X	Y			長径	短径	深さ	
88	30619 ~ 621	-36548 ~ 550	長方形	N-33°-E	217	(105)	13	25号溝より古。(土師大9、須恵大4)
89	欠番							
90	欠番							
91	30594 ~ 596	-36526 ~ 529	長方形	N-67°-W	(256)	90	29	21号溝より古。26号竪穴住居より新。(土師小3・大15、須恵小6)
92	30612 ~ 613	-36535 ~ 536	楕円形	N-22°-W	88	58	13	19号竪穴住居より新。
93	30612 ~ 613	-36537 ~ 538	方形か	N-7°-E	132	117	28	19号竪穴住居、8号掘立柱建物より新。
94	30595 ~ 596	-36529 ~ 531	長方形か	N-60°-W	130	71	17	25・26号竪穴住居、3号井戸、95・96号土坑より新。(土師小15・大109、須恵小66・大61、国産磁器1)
95	30596 ~ 597	-36529 ~ 530	長方形	N-16°-E	(214)	129	16	21号溝、76・79・94号土坑より古。25・26号竪穴住居、3号井戸より新。
96	30596 ~ 597	-36530 ~ 532	長方形	N-16°-E	200	118	25	76・77・78・79・94号土坑より古。25・26号竪穴住居、3号井戸より新。(土師小28・大119、須恵小37・大6)
97	30607 ~ 610	-36526 ~ 528	長方形	N-23°-E	247	92	20	(須恵小111)
98	30589 ~ 591	-36530 ~ 531	ほぼ円形	N-32°-W	126	112	28	27号竪穴住居より新。須恵椀1(土師小6・大450、須恵小110・大81)
99	欠番							
100	欠番							
101	30651 ~ 652	-36573 ~ 574	楕円形	N-55°-E	157	124	17	須恵杯1(土師大12、須恵小10)
102	30591 ~ 592	-36525 ~ 527	長方形か	N-50°-W	(158)	78	24	48号土坑より古。74号ピットより新。
103	30591 ~ 593	-36524 ~ 527	長方形	N-55°-W	184	80	22	48号土坑より古。21号溝より新。(土師小9・大25、須恵小36)
104	30592 ~ 594	-36523 ~ 525	長方形	N-57°-W	220	(65)	11	21号溝より古。106号土坑より新。(土師大6)
105	30593 ~ 594	-36523 ~ 526	長方形	N-60°-W	216	80	27	106号土坑より新。(土師小23・大33)
106	30593 ~ 594	-36524 ~ 525	長方形	N-28°-E	(140)	90	11	104・105号土坑より古。(土師大26、須恵小13)
107	30593 ~ 594	-36522 ~ 523	ほぼ円形	-	118	112	18	
108	欠番							
109	30590 ~ 592	-36520 ~ 522	L字形	N-56°-W	292	98	25	110号土坑より古。30号竪穴住居、4号井戸より新。(土師小35)
110	30592 ~ 593	-36520 ~ 522	長方形か	N-25°-E	(106)	117	8	30号竪穴住居、109号土坑、4号井戸より新。(土師大182、須恵小26)
111	欠番							
112	30587 ~ 590	-36518 ~ 520	長方形	N-37°-E	322	98	11	21号溝、62号ピットより古。113号土坑より新。(土師小19・大217、須恵小48・大5)
113	30587 ~ 589	-36518 ~ 520	長方形	N-33°-E	300	88	16	21号溝、112号土坑より古。115号土坑とは不明。(土師小17・大189、須恵小29・大30)
114	30585 ~ 588	-36517 ~ 519	長方形	N-33°-E	356	102	17	21号溝より古。(土師小13・大126、須恵小43)
115	30586 ~ 598	-36518 ~ 520	長方形	N-28°-E	(176)	115	20	21号溝より古。113号土坑とは不明。(土師小11・大106、須恵小5・大41)
116	30584 ~ 596	-36519 ~ 520	長方形か	N-55°-W	(70)	85	30	(土師小4・大67、須恵小30・大17)
117	欠番							
118	30664 ~ 666	-36587 ~ 589	ほぼ円形か	N-61°-E	216	180	26	(土師小11・大10)
119	30661 ~ 663	-36580 ~ 583	長方形	N-89°-E	207	142	24	16号土坑より古。(土師大29、須恵小47)
120	30658 ~ 659	-36582 ~ 583	楕円形	N-56°-E	94	74	18	(土師小3)
121	30663 ~ 664	-36570 ~ 571	ほぼ円形	-	64	60	17	
122	30665 ~ 667	-36569	長方形か	N-33°-E	110	54	40	須恵椀1(土師小10・大33、須恵小27)
123	30652 ~ 654	-36573 ~ 574	ほぼ円形	N-10°-W	183	162	24	(土師小21・大126、須恵小2)
124	30656 ~ 657	-36558 ~ 560	楕円形か	N-34°-E	(174)	112	12	11・12号溝より古。(土師小1・大17、須恵小15)
125	30662 ~ 663	-36579 ~ 580	ほぼ円形か	N-40°-W	124	118	14	(土師小3・大54)
126	欠番							
127	欠番							
128	欠番							
129	30642 ~ 643	-36566 ~ 567	長方形	N-55°-E	214	116	26	(土師大16)
130	欠番							
131	30596 ~ 597	-36542 ~ 543	ほぼ円形か	-	(88)	(68)	18	136号土坑、54号ピットより古。(土師大20)
132	30598 ~ 599	-36542 ~ 543	楕円形	N-17°-E	115	96	31	133号土坑より古。134号土坑より新。須恵杯1(土師大10、須恵小31)
133	30597 ~ 598	-36542 ~ 543	不整形方形か	-	98	87	29	132・134号土坑より新。
134	30597 ~ 598	-36541 ~ 543	楕円形か	N-80°-W	173	110	26	132・133号土坑より古。
135	30600 ~ 601	-36542 ~ 543	楕円形	N-65°-W	102	80	28	68号ピットより古。(土師大16)
136	30594 ~ 596	-36541 ~ 543	方形	-	148	144	21	131号土坑より新。須恵杯1(須恵小16)
137	30653 ~ 655	-36567 ~ 568	楕円形	N-54°-E	68	48	25	5号溝より古。(土師小14・大41、須恵大142)
138	30589 ~ 590	-36537 ~ 538	不整形方形か	N-2°-W	134	113	8	(土師小34・大259、須恵小3)
139	30613 ~ 614	-36526 ~ 527	方形か	-	(62)	(84)	28	
140	30611 ~ 613	-36527 ~ 529	方形か	N-23°-W	114	110	23	72号土坑より古。
141	30604 ~ 605	-36540 ~ 541	歪んだ長方形	N-57°-W	156	88	10	65号土坑より古。81号ピットより新。
3区								
番号	位置		形状	長軸方位	規模(cm)			備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
	X	Y			長径	短径	深さ	
1	30695 ~ 696	-36613 ~ 614	長方形	N-9°-E	152	72	11	1号竪穴住居、1号溝より新。
2	30686 ~ 687	-36613 ~ 617	長方形	N-85°-E	306	76	24	1~3号溝より古。(土師小14・大4)
3	30685 ~ 686	-36611 ~ 613	長方形	N-82°-W	(140)	80	26	4号溝より古。土師杯1(土師小9・大7)
4	30688 ~ 690	-36610 ~ 611	長方形	N-10°-E	220	87	14	5号土坑より新。(土師小37・大87、須恵小2)
5	30688 ~ 690	-36610 ~ 612	長方形	N-6°-E	244	170	26	4号土坑より古。(土師小9・大44)
6	30691 ~ 693	-36608 ~ 609	長方形	N-13°-E	220	102	15	(土師大9)
7	30688 ~ 690	-36605 ~ 607	長方形	N-6°-E	228	150	12	(土師小11・大68)
8	30682 ~ 684	-36603 ~ 605	長方形	N-45°-W	221	73	13	6号溝より新。(土師小9・大31)

第9表 土坑一覧表(5)

番号	位置		形状	長軸方位	規模(cm)			備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
	X	Y			長径	短径	深さ	
9	30683 ~ 684	-36602 ~ 603	方形か	N-80°-E	93	84	10	10号土坑と重複。(土師小22・大20、須恵小18)
10	30684 ~ 686	-36601 ~ 604	長方形	N-62°-E	(280)	86	45	7号溝より新。9号土坑と重複。(土師小7・大3)
11	縄文時代の土坑 第10節参照							
12	欠番							
13	30744 ~ 746	-36626 ~ 627	長方形か	N-68°-E	(68)	115	23	5号竪穴住居より新。(土師小9、須恵小4)
14	30738 ~ 740	-36632 ~ 633	長方形	N-13°-E	170	77	16	
15	30745 ~ 746	-36632 ~ 633	楕円形	N-65°-W	75	60	11	(土師小14・大37)
16	30740 ~ 741	-36627 ~ 628	楕円形	N-10°-W	125	78	11	須恵椀1(土師小24)
17	30741 ~ 742	-36624 ~ 626	ほぼ円形	N-6°-W	138	122	31	6号竪穴住居より新。(土師小5・大39、須恵小12)
18	30729 ~ 731	-36630 ~ 632	歪んだ円形	N-68°-E	165	144	23	(土師大118、須恵小23・大17)
19	30706 ~ 707	-36620 ~ 621	ほぼ円形	N-26°-W	98	94	23	17号竪穴住居より新。
20	縄文時代の土坑 第10節参照							
21	30728 ~ 729	-36631 ~ 632	ほぼ円形	-	59	58	13	黒色土器椀1(土師小28・大382、須恵大22)

4区

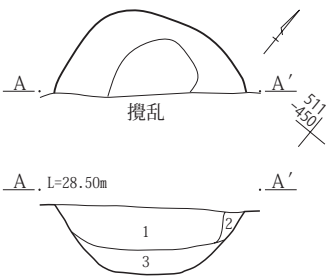
番号	位置		形状	長軸方位	規模(cm)			備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
	X	Y			長径	短径	深さ	
1	30403 ~ 405	-36419 ~ 422	長方形	N-65°-W	225	58	38	3・4号土坑より新。(土師大27、須恵小5)
2	30402 ~ 404	-36420 ~ 423	長方形	N-60°-W	169	52	12	3・4号土坑より新。(土師大12)
3	30402 ~ 404	-36419 ~ 421	長方形か	N-48°-E	151	94	16	1・2号土坑より古。4号土坑より新。(土師大18)
4	30401 ~ 404	-36420 ~ 422	長方形	N-9°-E	(196)	87	32	1~3号土坑より古。
5	30402 ~ 404	-36418 ~ 420	楕円形か	N-43°-W	150	98	13	19号土坑より新。
6	30401 ~ 403	-36418 ~ 420	長方形	N-62°-W	133	54	21	(土師大10、須恵小3)
7	30399 ~ 402	-36415 ~ 418	長方形	N-60°-W	290	65	42	
8	30401 ~ 403	-36415 ~ 417	長方形	N-55°-W	156	50	15	
9	30401 ~ 403	-36411 ~ 414	長方形	N-48°-W	(220)	50	38	(土師大43)
10	30404 ~ 407	-36411 ~ 414	長方形	N-17°-E	244	85	15	11号土坑より古。(土師大17)
11	30404 ~ 407	-36410 ~ 413	長方形	N-31°-E	198	60	34	10号土坑より新。(土師小3・大24、須恵小13)
12	30405 ~ 406	-36415 ~ 417	楕円形	N-45°-E	107	65	11	
13	30406 ~ 408	-36406 ~ 408	長方形	N-12°-E	174	76	6	(土師大4)
14	30406 ~ 408	-36400 ~ 403	長方形	N-78°-W	212	115	26	
15	30408 ~ 410	-36398 ~ 400	ほぼ円形	-	115	113	12	
16	30409 ~ 410	-36409 ~ 411	長方形	N-62°-W	116	70	52	
17	30416 ~ 419	-36406 ~ 409	長方形	N-30°-E	200	88	7	
18	30418 ~ 420	-36412 ~ 414	楕円形	N-23°-E	120	104	30	1号畠より新。(土師小3、須恵小3)
19	30402 ~ 404	-36417 ~ 419	長方形か	N-68°-W	150	50	31	5号土坑、1号畠より古。
20	30405 ~ 407	-36409 ~ 411	楕円形	N-70°-E	108	90	22	
21	欠番							
22	30442 ~ 444	-36399 ~ 402	不整形	N-40°-E	136	134	33	
23	30432 ~ 433	-36411 ~ 413	楕円形	N-43°-W	95	40	52	
24	30430 ~ 432	-36414 ~ 416	方形	N-22°-E	75	68	30	(須恵小1)
25	30443 ~ 445	-36421 ~ 422	楕円形	N-25°-E	65	62	46	古銭寛永通寶1
26	30441 ~ 443	-36429 ~ 431	長方形	N-51°-E	(146)	97	38	39号土坑より新。(土師大32)
27	30447 ~ 449	-36433 ~ 435	楕円形	N-47°-E	(85)	96	33	
28	30449 ~ 451	-36433 ~ 435	楕円形	N-17°-W	80	65	20	
29	30451 ~ 453	-36431 ~ 433	長方形	N-23°-E	(75)	51	17	30・38号土坑より新。
30	30451 ~ 453	-36431 ~ 433	不整形方形か	N-70°-W	131	112	24	29号土坑より古。38号土坑より新。
31	30452 ~ 454	-36431 ~ 433	長方形	N-63°-W	103	82	30	3号畠より古。用途不明鉄製品1
32	30452 ~ 455	-36432 ~ 434	長方形	N-22°-W	165	126	122	
33	30453 ~ 455	-36431 ~ 433	長方形	N-50°-W	108	76	38	34号土坑より新。(土師大30、須恵小3)
34	30453 ~ 455	-36429 ~ 432	長方形	N-68°-W	256	66	45	33号土坑より古。
35	30451 ~ 453	-36428 ~ 431	長方形	N-46°-E	178	100	11	37号土坑より新。
36	30450 ~ 452	-36428 ~ 430	方形	-	91	89	39	3号畠より古。10号溝より新。
37	30451 ~ 453	-36428 ~ 430	長方形	N-65°-W	100	63	23	35号土坑より古。(土師大16)
38	30451 ~ 453	-36431 ~ 434	長方形	N-70°-W	143	92	40	29・30号土坑より古。
39	30440 ~ 443	-36429 ~ 431	楕円形か	N-48°-W	(214)	(75)	20	26号土坑より古。9号ピットより新。
40	30491 ~ 493	-36462 ~ 465	楕円形	N-85°-W	205	171	24	9号竪穴住居、4号溝より新。(土師小2・大28)
41	30486 ~ 488	-36462 ~ 464	ほぼ円形か	-	70	(38)	79	
42	30452 ~ 454	-36425 ~ 427	不整形方形か	N-57°-W	93	88	34	
43	30441 ~ 442	-36428 ~ 430	楕円形	N-10°-W	97	79	39	3号畠より古。9号ピットより新。
44	30491 ~ 494	-36459 ~ 462	長方形か	N-65°-E	228	80	10	4・5号溝より新。
45	30428 ~ 429	-36408 ~ 409	楕円形	N-4°-E	73	66	18	
46	30463 ~ 465	-36441 ~ 443	ほぼ円形	-	88	90	38	(土師小4)
47	30464 ~ 465	-36443 ~ 444	楕円形	N-17°-E	68	56	29	
48	30464 ~ 467	-36445 ~ 448	楕円形	N-86°-W	134	118	25	
49	30470 ~ 473	-36440 ~ 443	長方形	N-58°-W	190	94	11	7号溝より新。
50	30472 ~ 474	-36444 ~ 446	楕円形	N-35°-W	88	60	40	6号溝、54号土坑より古。
51	30469 ~ 471	-36446 ~ 448	楕円形	N-61°-W	150	90	17	
52	30480 ~ 482	-36453 ~ 455	楕円形か	N-32°-W	82	62	134	6・7号溝より古。
53	30429 ~ 432	-36420 ~ 423	不整形	-	142	(112)	17	2号畠より古。
54	30471 ~ 473	-36445 ~ 447	楕円形か	N-28°-E	(134)	90	22	6号溝より古。50号土坑より新。
55	30489 ~ 490	-36462 ~ 464	楕円形	N-77°-E	107	75	166	9号竪穴住居と重複。(土師小68・中10・大370、須恵小81・大54)
56	30443 ~ 446	-36425 ~ 428	楕円形	N-26°-E	188	90	11	11・12号ピットより古。10号溝より新。(土師大33、須恵小68)

第3章 調査の成果

第10表 土坑一覧表(6)

番号	位置		形状	長軸方位	規模(cm)			備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
	X	Y			長径	短径	深さ	
57	30501 ~ 503	-36464 ~ 466	不整形か	N-13°-W	116	(107)	31	10号竪穴住居より新。
58	30500 ~ 502	-36463 ~ 465	方形か	-	106	(90)	18	59号土坑より古。10号竪穴住居より新。
59	30500 ~ 502	-36463 ~ 465	不整形	N-82°-W	92	90	22	10号竪穴住居、58・60号土坑より新。(土師小3・大46)
60	30500 ~ 502	-36464 ~ 466	ほぼ円形か	-	74	74	11	59号土坑より古。10号竪穴住居より新。(土師大4)
61	欠番							
62	30485 ~ 488	-36438 ~ 441	ほぼ円形	-	158	150	37	瀬戸・美濃陶器灯火受皿1・大皿1・皿1、在地系土器手焙か1、用途不明鉄製品4(土師小6・大8、須恵小34)
63	30488 ~ 490	-36435 ~ 437	楕円形	N-61°-E	126	87	21	11号竪穴住居より新。(土師大11)
64	30494 ~ 496	-36444 ~ 446	長方形	N-37°-W	(150)	56	10	17号溝と重複。(土師小4・大69)
65	30489 ~ 492	-36441 ~ 444	楕円形	N-50°-W	217	150	24	82・83号土坑、24号ピットより新。肥前磁器染付小杯1・染付小丸碗1・白磁か染付瓶1、瀬戸・美濃陶器灯火受皿1、在地系土器焙烙1・不詳1、砥石1(土師小16・大5)
66	30474 ~ 479	-36427 ~ 432	長方形	N-43°-E	385	185	60	16号竪穴住居より新。
67	30444 ~ 446	-36399 ~ 401	長方形か	N-37°-E	82	78	54	
68	30438 ~ 440	-36397 ~ 399	楕円形か	N-23°-E	(185)	(70)	24	69号土坑より新。肥前磁器染付筒形碗1
69	30438 ~ 441	-36397 ~ 400	楕円形	N-46°-E	235	162	65	68号土坑より古。(土師大2、須恵大24)
70	30465 ~ 467	-36415 ~ 416	長方形か	N-43°-E	(80)	88	19	
71	30460 ~ 464	-36413 ~ 417	長方形	N-46°-E	440	94	9	73号土坑より新。72号土坑と重複。
72	30460 ~ 464	-36412 ~ 416	長方形か	N-45°-E	433	80	19	73号土坑より新。71号土坑と重複。
73	30461 ~ 463	-36413 ~ 415	長方形	N-27°-E	97	78	44	72・73号土坑より古。
74	30463 ~ 465	-36413 ~ 414	長方形か	N-26°-E	(68)	76	24	
75	30469 ~ 471	-36443 ~ 445	楕円形か	N-33°-E	(90)	78	7	7～9号溝、76号土坑より古。
76	30469 ~ 471	-36443 ~ 445	ほぼ円形	-	80	74	62	6・7号溝より古。75号土坑より新。
77	30467 ~ 469	-36441 ~ 443	ほぼ円形	N-56°-W	80	70	38	7号溝より古。
78	30463 ~ 465	-36438 ~ 440	楕円形	N-32°-E	132	112	40	8・9号溝より古。在地系土器焙烙1(土師大8、須恵大27)
79	30427 ~ 430	-36388 ~ 390	長方形か	N-44°-W	223	(78)	34	
80	30491 ~ 494	-36439 ~ 442	歪んだ長方形	N-40°-E	205	58	22	27・28号ピットより新。肥前陶器青緑釉皿1(須恵小3)
81	30490 ~ 493	-36339 ~ 342	長方形	N-46°-E	(190)	75	38	85号土坑、27号ピットより新。(土師小15)
82	30490 ~ 492	-36441 ~ 443	長方形	N-46°-E	(96)	63	33	65号土坑より古。(土師大9)
83	30489 ~ 492	-36440 ~ 442	長方形	N-49°-E	(146)	70	17	65号土坑より古。85号土坑より新。(土師小4、須恵小8)
84	30491 ~ 494	-36440 ~ 442	長方形	N-34°-E	194	62	19	87号土坑より新。(土師小13・大26、須恵小38)
85	30490 ~ 492	-36440 ~ 442	楕円形	N-53°-E	85	68	38	81・83号土坑より古。
86	30495 ~ 498	-36438 ~ 441	長方形か	N-43°-W	204	(90)	178	23号ピットより古。(土師大14)
87	30492 ~ 494	-36440 ~ 441	長方形か	N-30°-E	90	61	23	84号土坑より古。
88	30469 ~ 470	-36451 ~ 452	不明	-	(56)	(38)	12	89号土坑より古。瀬戸・美濃陶器碗1、在地系土器皿1(土師大6、須恵大49)
89	30470 ~ 472	-36451 ~ 452	楕円形か	N-37°-W	98	80	24	88号土坑、30号ピットより新。
90	30504 ~ 506	-36477 ~ 479	楕円形	N-31°-W	(81)	91	23	(土師小7・大9、須恵小7)
91	30503 ~ 504	-36479 ~ 481	楕円形	N-27°-W	(94)	78	20	(在地系その他1)
92	30510 ~ 511	-36477 ~ 479	楕円形	N-81°-E	60	52	35	(土師大8)
93	30508 ~ 510	-36475 ~ 477	楕円形	N-43°-W	93	70	18	(土師大19、須恵小5)
94	欠番							
95	30514 ~ 515	-36480 ~ 482	楕円形	N-86°-W	74	60	10	19号竪穴住居より新。
96	欠番							
97	欠番							
98	欠番							
99	30500 ~ 503	-36482 ~ 485	不明	-	215	(80)	42	18号竪穴住居より新。(土師小61・大395、須恵小98)
100	欠番							
101	欠番							
102	30520 ~ 521	-36485 ~ 487	楕円形	N-74°-W	58	50	14	22号溝より古。須恵碗2(土師大117、須恵小24)
103	30520 ~ 521	-36486 ~ 488	楕円形	N-38°-W	100	80	16	22号溝より古。105号土坑と重複。土師甕1(土師大79)
104	欠番							
105	30520 ~ 522	-36485 ~ 486	楕円形	N-84°-W	76	57	8	22号溝より古。103号土坑と重複。(土師大11、須恵小73)
106	30522 ~ 524	-36488 ~ 490	ほぼ円形	-	121	116	10	107号土坑より新。(土師大7)
107	30521 ~ 524	-36489 ~ 491	楕円形	N-50°-W	205	(90)	10	106号土坑、43号ピットより古。
108	30517 ~ 518	-36485 ~ 486	楕円形	N-20°-W	(80)	44	17	(土師大13、須恵大18)
109	30524 ~ 526	-36488 ~ 490	ほぼ円形か	-	115	(82)	12	24号溝より古。
110	30485 ~ 489	-36431 ~ 434	長方形	N-39°-E	280	193	23	11号竪穴住居より新。肥前磁器染付碗1

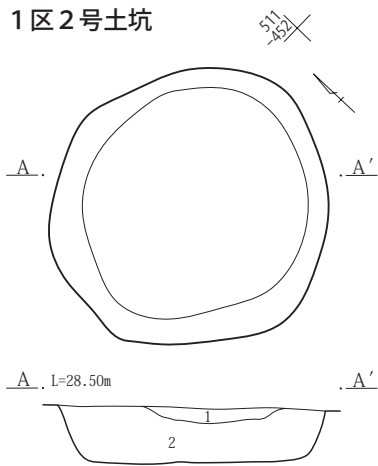
1区1号土坑



1区1号土坑

1. 褐色土 砂・ローム粒わずかに含み、土質均一。
2. くすんだ黄褐色土
3. 1層のブロックとローム塊の混土。

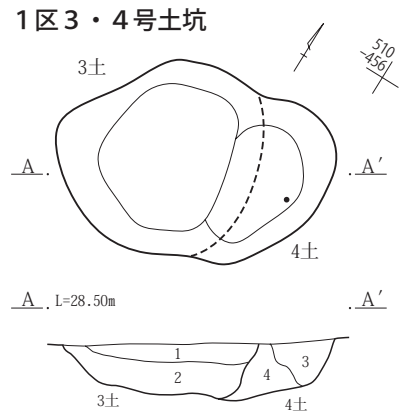
1区2号土坑



1区2号土坑

1. 黄褐色土 ローム塊斑に多く含む。
2. 黒色土 ローム細粒・灰粒わずかに含み、しまり弱い。

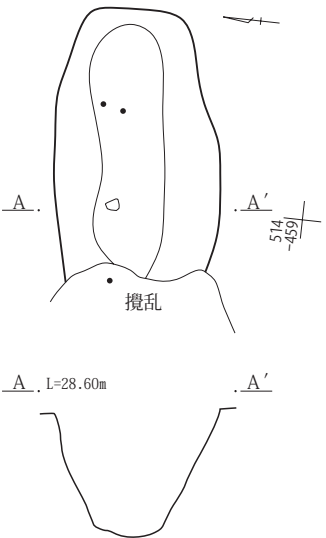
1区3・4号土坑



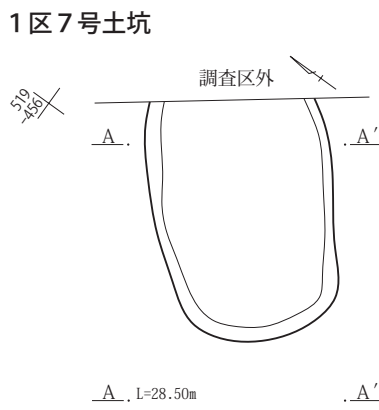
1区3・4号土坑

1. 褐色土 ローム細粒含む。3号土坑。
2. 褐色土 1層よりややしまりあり。3号土坑。
3. 褐色土 ややしまりあり。4号土坑。
4. 褐色土 ローム小塊含む。4号土坑。

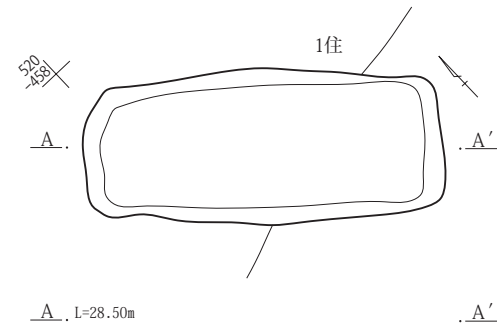
1区6号土坑



1区7号土坑



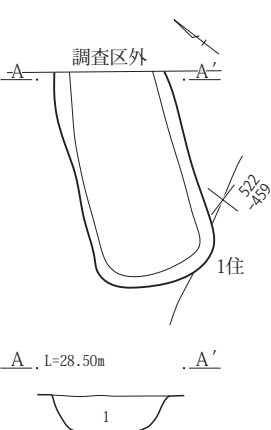
1区8号土坑



1区8号土坑

1. 黒色土 ローム粒含み、焼土粒・灰わずかに含む。

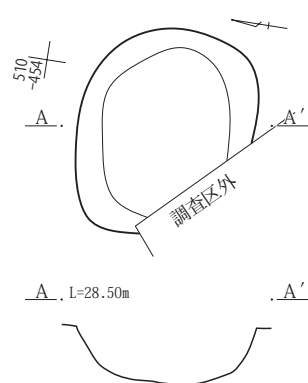
1区9号土坑



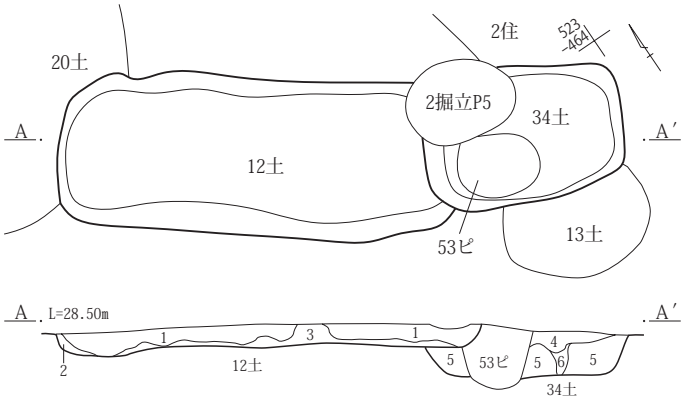
1区9号土坑

1. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊含む。

1区11号土坑

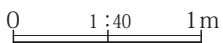


1区12・34号土坑



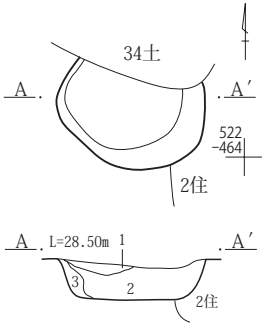
1区12・34号土坑

1. 褐色土 ローム粒子わずかに含む。12号土坑。
2. 黒色土 ローム細粒含む。12号土坑。
3. 明黄褐色土 ローム塊主体。12号土坑。
4. 褐色土 ローム細粒わずかに含み、土質均一、しまりややあり。34号土坑。
5. にぶい黄褐色土・7層の混土、ローム塊多く含む。34号土坑。
6. 褐色土 ローム細粒わずかに含み、しまりやや弱い。34号土坑。



第198図 1区1～4・6～9・11・12・34号土坑平断面図

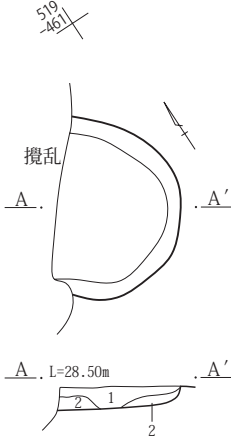
1区13号土坑



1区13号土坑

1. 褐色土 ローム細粒わずかに含み、土質均一、しまりややあり。
2. にぶい黄褐色土・1層の混土、ロームブロック多く含む。
3. 褐色土 ローム細粒わずかに含み、しまり1層より弱い。

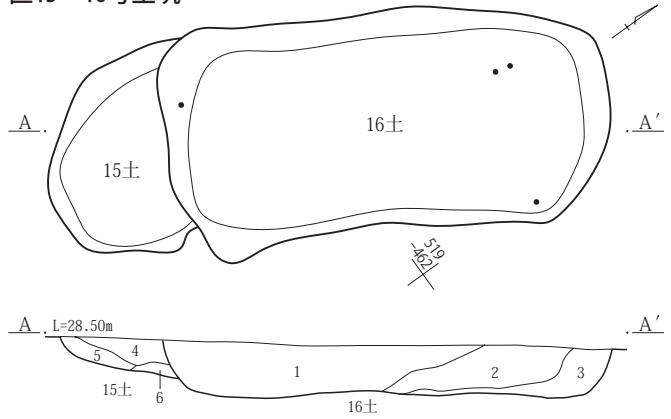
1区14号土坑



1区14号土坑

1. 褐色土 ローム小塊含み、土質均一。
2. ローム塊・褐色土塊の混土。

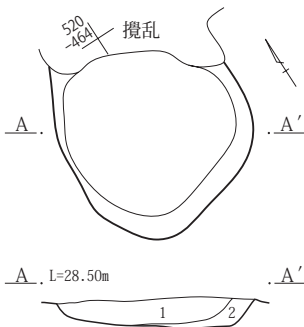
1区15・16号土坑



1区15・16号土坑

1. 褐色土 ローム小塊斑に含む。16号土坑。
2. 褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一。16号土坑。
3. 黄褐色土 ローム小塊多く含む。16号土坑。
4. 褐色土 土質均一。15号土坑。
5. 黄褐色土 ローム粒主体にローム小塊含む。15号土坑。
6. 明黄褐色土 ローム塊主体。15号土坑。

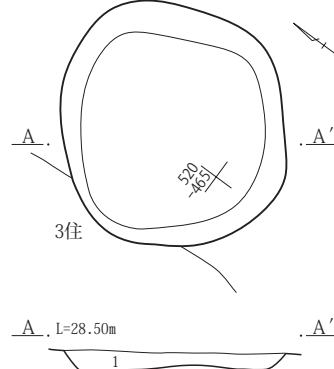
1区17号土坑



1区17号土坑

1. 褐色土 ローム小塊斑に含む。
2. 褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一。

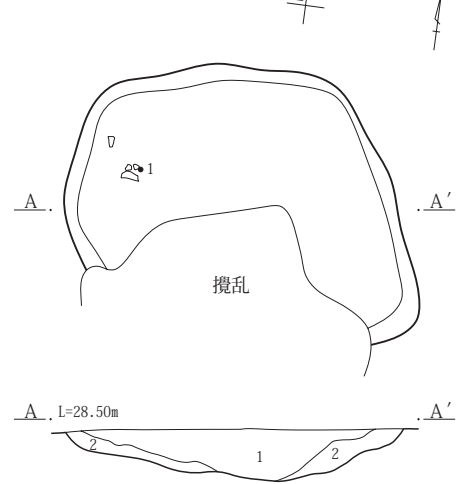
1区18号土坑



1区18号土坑

1. 黄褐色土 ローム小塊多く含む。

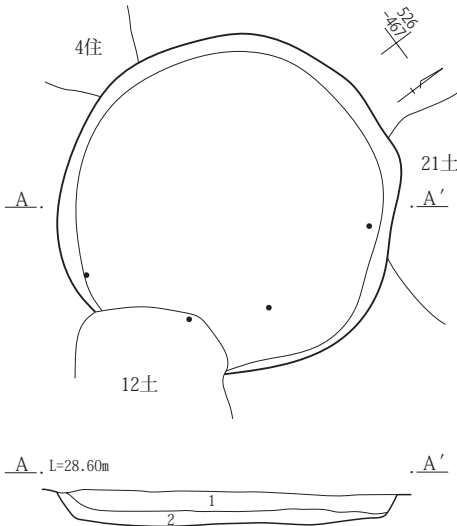
1区19号土坑



1区19号土坑

1. 褐色土 ローム小塊斑に含む。
2. 黄褐色土 ローム小塊多く含む。

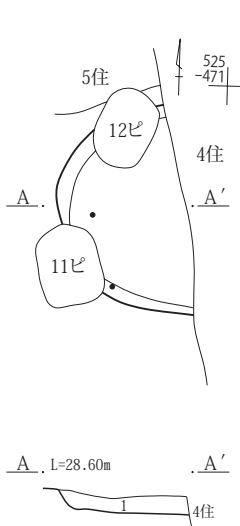
1区20号土坑



1区20号土坑

1. 黒色土 ローム細粒わずかに含む。
2. 黒褐色土 ローム細粒含み、しまりあり。

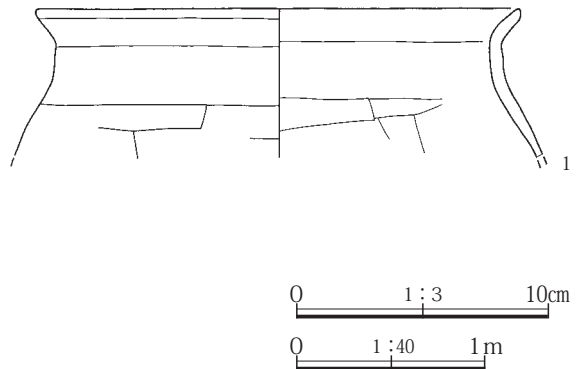
1区22号土坑



1区22号土坑

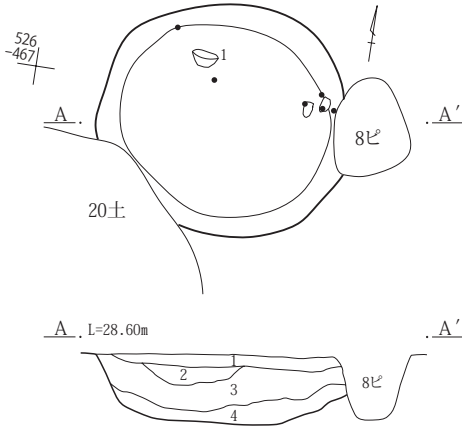
1. 褐色土 ローム粒含む。

1区19号土坑出土遺物



第199図 1区13～20・22号土坑平断面図、19号土坑出土遺物

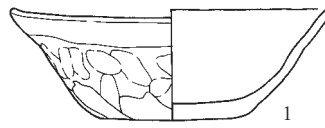
1区21号土坑



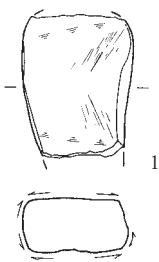
1区21号土坑

1. 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒含み、灰白色粘土塊わずかに含む。
2. 黒褐色土 1層にローム粒わずかに含む。
3. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊含む。
4. 明黄褐色土 ローム主体。

1区21号土坑出土遺物

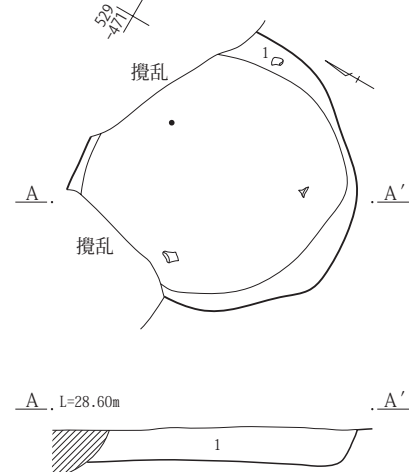


1区24号土坑出土遺物



0 1:3 10cm

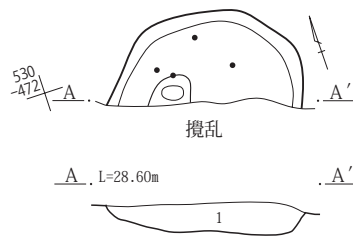
1区24号土坑



1区24号土坑

1. 黒褐色土 焼土粒・ローム粒わずかに含み、やや砂質。

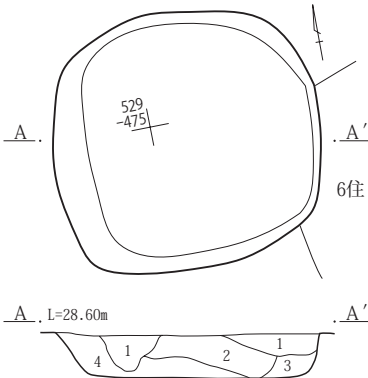
1区25号土坑



1区25号土坑

1. ローム小中塊の混土。

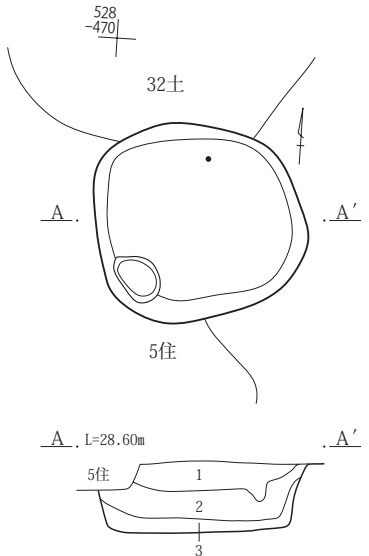
1区26号土坑



1区26号土坑

1. くすんだ褐色土 ローム小塊含む。
2. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊斑に多く含む。
3. くすんだ黄褐色土 ローム小中塊多く含む。
4. くすんだ黄褐色土 2層よりローム小塊少ない。

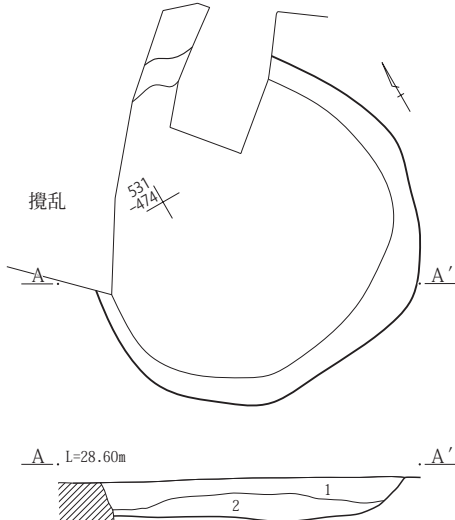
1区27号土坑



1区27号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
2. 黒褐色土 ローム粒多く含み、焼土粒わずかに含む。
3. 明黄色ローム

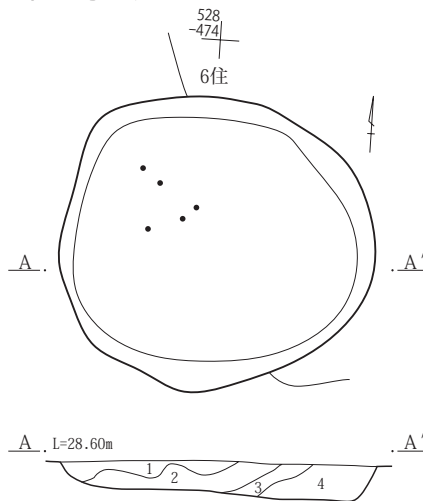
1区28号土坑



1区28号土坑

1. ローム小中塊の混土。
2. 暗褐色土 ローム小塊含み、しまりあり。

1区29号土坑



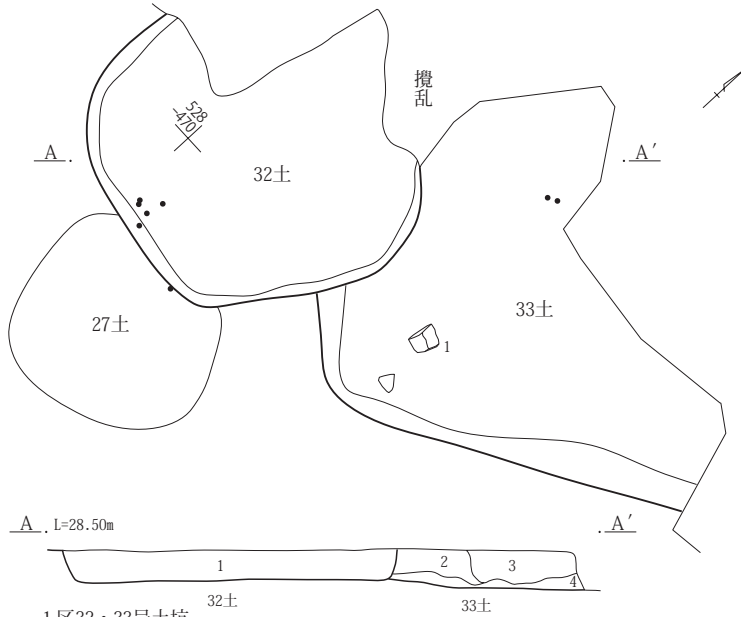
1区29号土坑

1. 暗褐色土 ローム小塊含む。
2. 暗褐色土 ローム小塊やや多く含む。
3. 暗褐色土 くすんだローム多く含む。
4. 黒褐色土 土質均一、やや砂質。

0 1:40 1m

第200図 1区21・24～29号土坑平断面図、21・24号土坑出土遺物

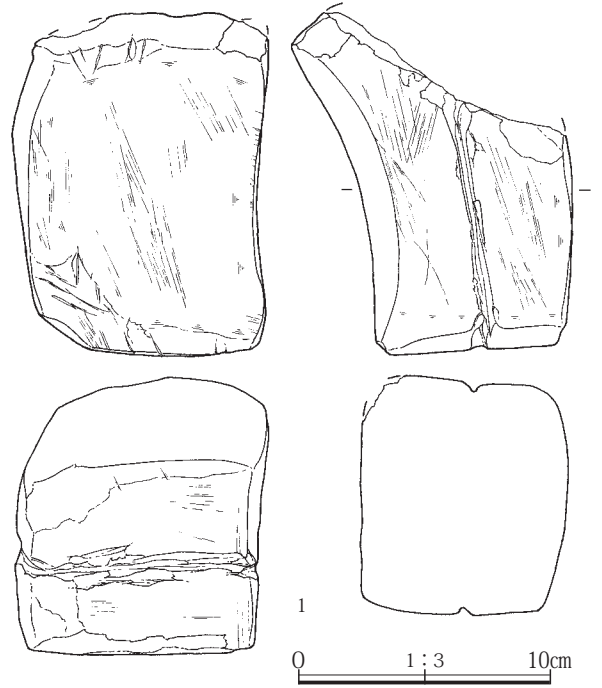
1区32・33号土坑



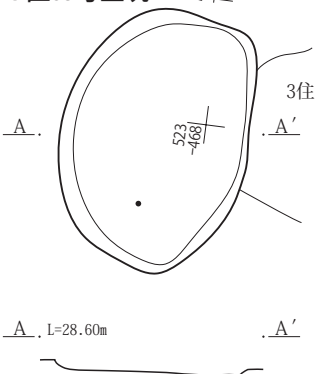
1区32・33号土坑

1. 黒褐色土 ローム小塊・炭化物粒・焼土粒わずかに含み、やや砂質。32号土坑。
2. 褐色土 土質均一。33号土坑。
3. 暗褐色土 土質均一。33号土坑。
4. ローム粒・塊の混土。33号土坑。

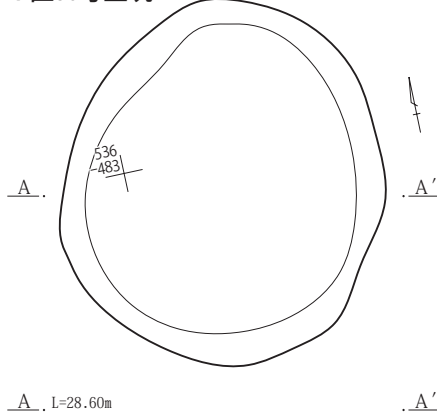
1区33号土坑出土遺物



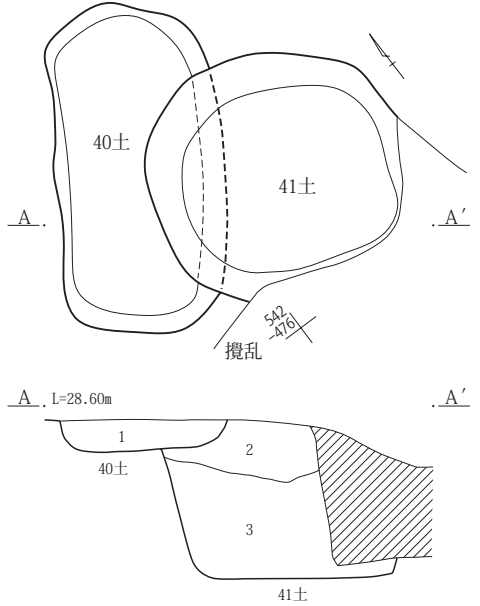
1区35号土坑



1区30号土坑



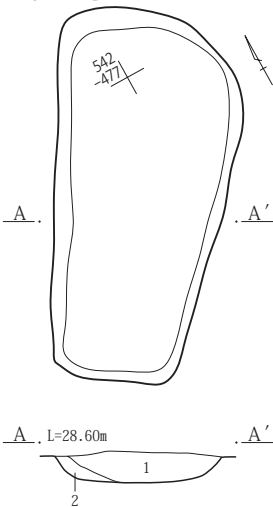
1区40・41号土坑



1区40・41号土坑

1. 黒褐色土 ローム小塊多く含む。40号土坑。
2. 黒褐色土 ローム塊わずかに含み、1層より暗い。41号土坑。
3. 黒褐色土 2層よりしまり弱い。41号土坑。

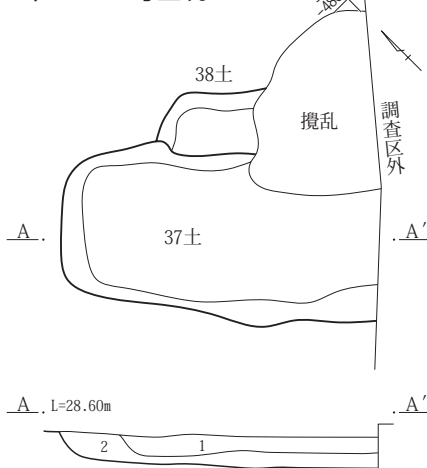
1区39号土坑



1区39号土坑

1. 黒褐色土 ローム小塊多く含む。
2. 黒褐色土 ローム塊主体。

1区37・38号土坑



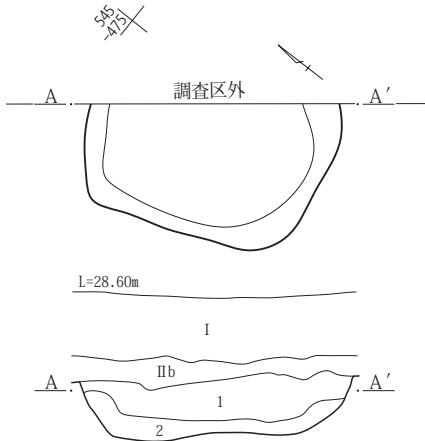
1区37・38号土坑

1. 黄褐色土 ローム小塊少し含む。37号土坑。
2. 黄褐色土 ローム粒含み、1層よりやや明るい。38号土坑。

0 1:40 1m

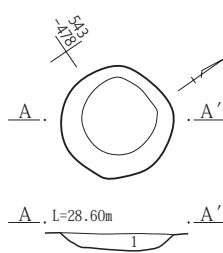
第201図 1区30・32・33・35・37～41号土坑平断面図、33号土坑出土遺物

1区42号土坑



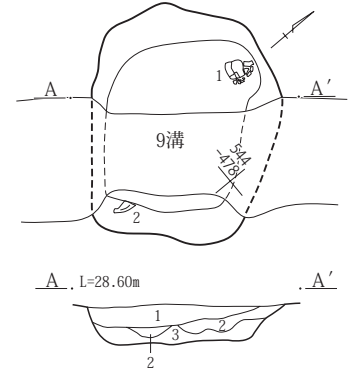
- 1区42号土坑
 1. 暗褐色土 下層ほどローム粒を多く含む。
 2. 明黄褐色土 くすんだローム主体。

1区43号土坑



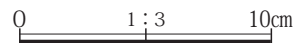
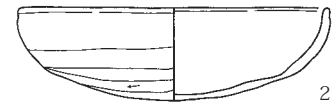
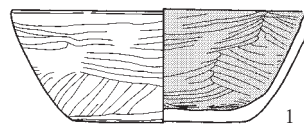
- 1区43号土坑
 1. 暗褐色土 ローム粒含み、土層均一。

1区45号土坑



- 1区45号土坑
 1. くすんだ褐色土 ローム粒わずかに含み、やや砂質。
 2. くすんだ褐色土 ローム粒やや多く含む。
 3. 黄褐色土 ローム塊主体に褐色土含む。

1区45号土坑出土遺物

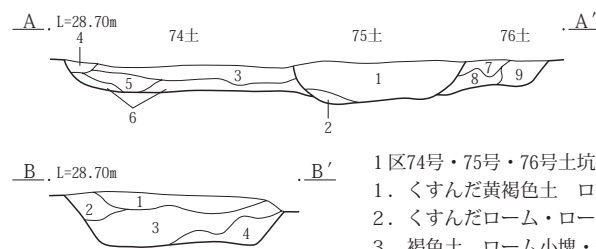
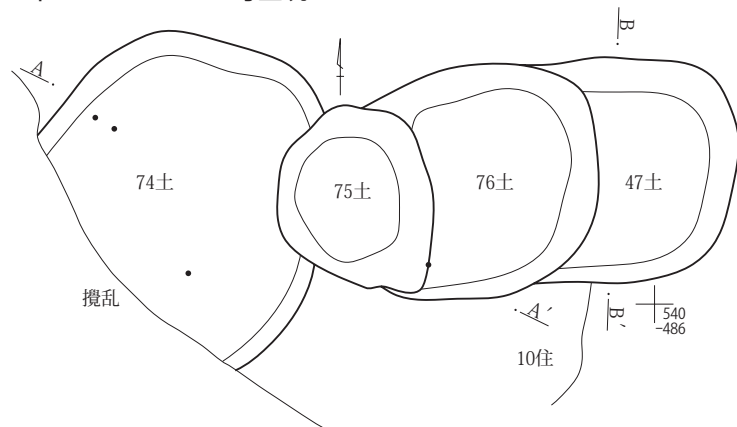


1区46号土坑



- 1区46号土坑
 1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、しまり強い。
 2. 明黄褐色土 くすんだローム主体。

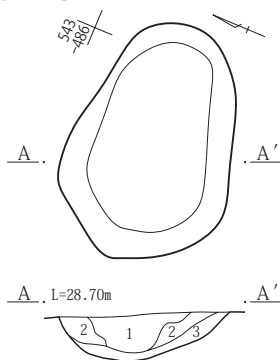
1区47・74・75・76号土坑



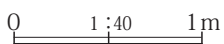
- 1区74号・75号・76号土坑
 1. くすんだ黄褐色土 ローム小塊含む。75号土坑。
 2. くすんだローム・ローム塊の混土。75号土坑。
 3. 褐色土 ローム小塊・焼土粒含む。74号土坑。
 4. ローム塊・褐色土の混土。74号土坑。
 5. 褐色土 74号土坑。
 6. くすんだ黄褐色土 ローム粒含み、炭化物粒わずかに含む。74号土坑。
 7. くすんだ褐色土 ローム細粒含む。76号土坑。
 8. くすんだローム・褐色土の混土。76号土坑。
 9. ローム粒・ローム塊・くすんだロームの混土。76号土坑。

- 1区47号土坑
 1. 黒褐色土 ローム小塊少し含む。
 2. くすんだローム・ローム塊の混土、3層より明るい。
 3. 黄褐色土 ローム小塊含む。
 4. 明黄褐色土・2層の混土。

1区48号土坑

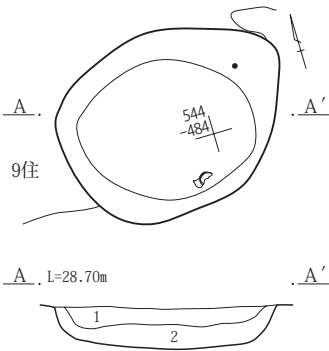


- 1区48号土坑
 1. 黒褐色土 下部にローム小塊含む。
 2. 黄褐色土 くすんだローム塊含む。
 3. 黄褐色土 くすんだローム塊多く含む。



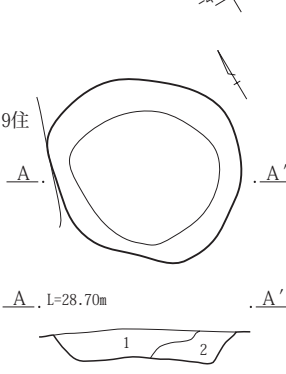
第202図 1区42・43・45～48・74～76号土坑平断面図、45号土坑出土遺物

1区49号土坑



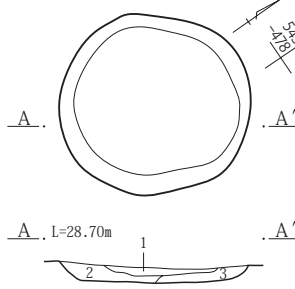
- 1区49号土坑
 1. 黒褐色土 ローム粒含み、しまりあり。
 2. 黄褐色土 くすんだローム塊含む。

1区50号土坑



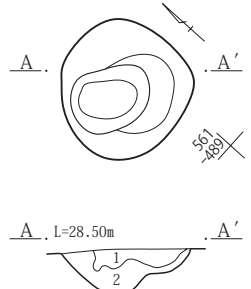
- 1区50号土坑
 1. 黄褐色土 くすんだローム塊含む。
 2. 明黄褐色土 くすんだローム主体、上部は1層との混土。

1区51号土坑



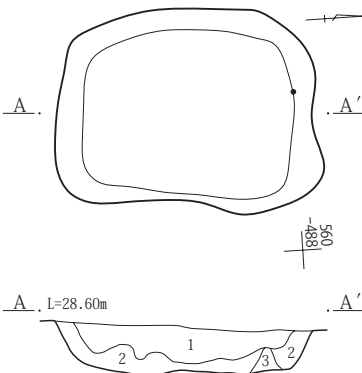
- 1区51号土坑
 1. 黄褐色土 くすんだローム塊含む。しまり弱い。
 2. 暗黄褐色土 くすんだロームと1層との混土。
 3. ローム主体で2層よりも明るい。

1区56号土坑



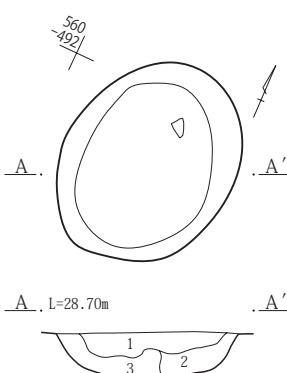
- 1区56号土坑
 1. 黒褐色土 ローム粒少し含み、土質均一。
 2. くすんだローム・1層の混土。

1区57号土坑



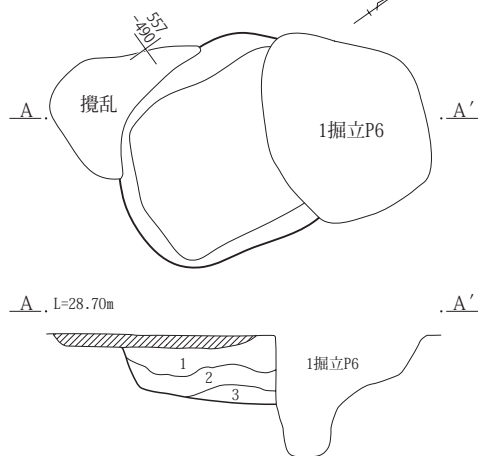
- 1区57号土坑
 1. 暗褐色土 ローム粒・塊含み、しまりやや弱い。
 2. にぶい黄褐色土 くすんだローム主体。
 3. ローム・2層の混土。

1区60号土坑



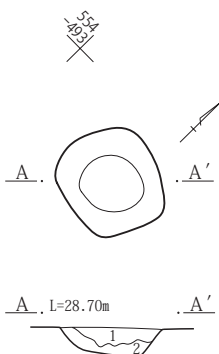
- 1区60号土坑
 1. 暗褐色土 ローム小塊含み、土質均一、しまりあり。
 2. 暗褐色土・3層の混土。
 3. 褐色土 くすんだローム塊含み、しまり弱い。

1区62号土坑

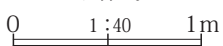


- 1区62号土坑
 1. 褐色土 ローム塊多く含む。
 2. 暗褐色土 土質均一、しまり弱い。
 3. 黄褐色土 くすんだローム主体。

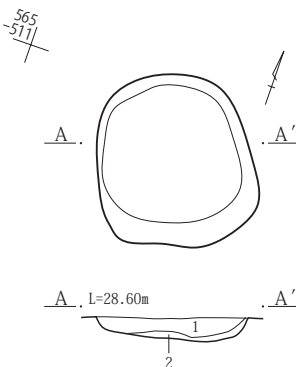
1区64号土坑



- 1区64号土坑
 1. 黒褐色土 ローム小塊・焼土粒含み、しまりあり。
 2. 黄褐色土 くすんだローム塊主体、しまり弱い。

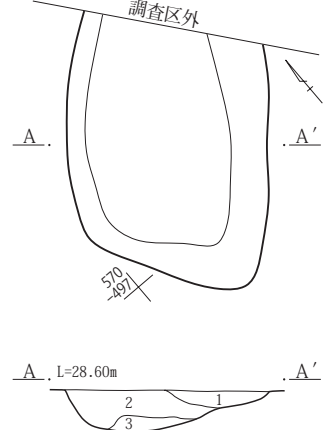


1区65号土坑



- 1区65号土坑
 1. 暗褐色土 ローム粒少し含む。
 2. 褐色土 くすんだローム・ローム粒含む。

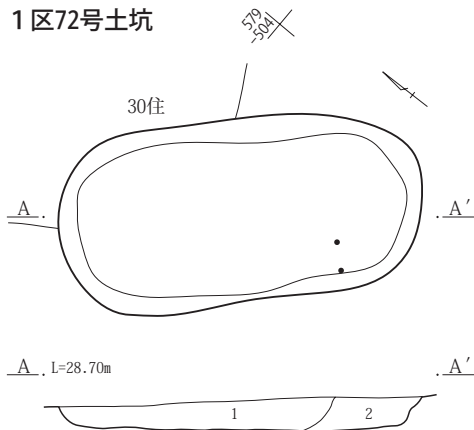
1区69号土坑



- 1区69号土坑
 1. 暗褐色土・くすんだロームの混土。
 2. 黒褐色土 焼土粒・ローム粒少し含み、しまり強い。
 3. 暗褐色土 1層よりやや暗い。

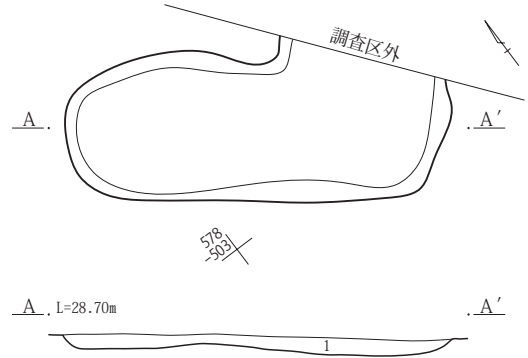
第203図 1区49～51・56・57・60・62・64・65・69号土坑平断面図

1区72号土坑



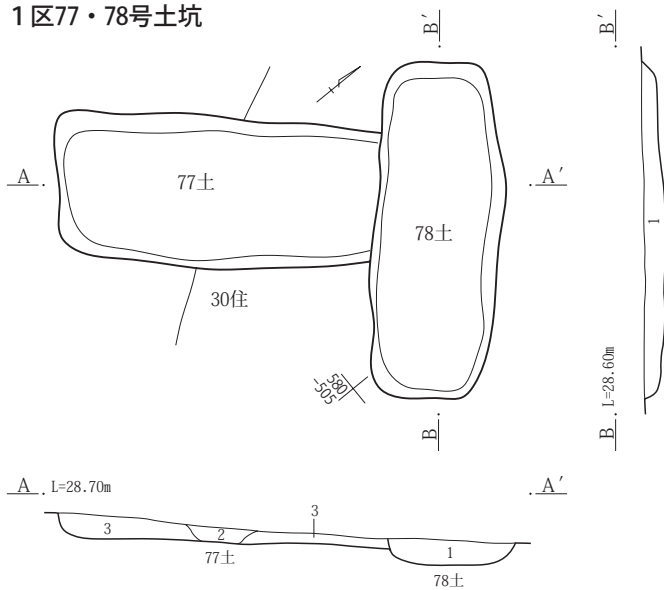
- 1区72号土坑
 1. 黒褐色土 ローム小塊含む。
 2. 黒褐色土 1層より塊少ない。

1区73号土坑



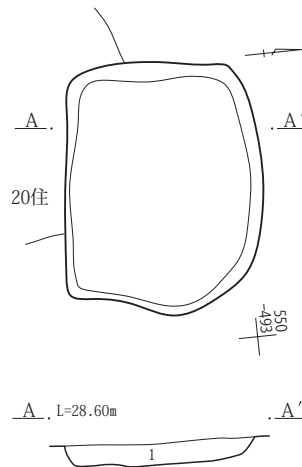
- 1区73号土坑
 1. 黒褐色土 ローム小塊含む。

1区77・78号土坑



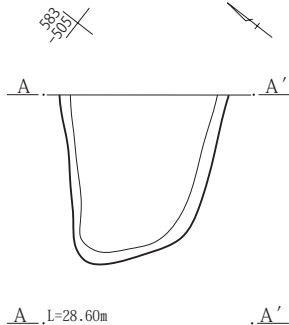
- 1区77・78号土坑
 1. 黒褐色土 夾雑物少ない。78号土坑。
 2. 黒褐色土 ローム小塊含む。77号土坑。
 3. 黒褐色土 1層より塊少ない。77号土坑。

1区82号土坑

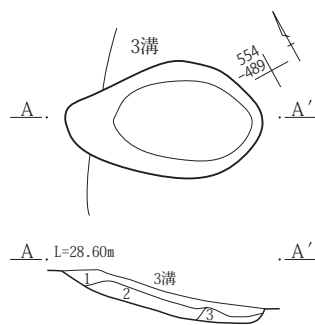


- 1区82号土坑
 1. 黒褐色土 ローム粒・小塊含む、焼土粒わずかに含む。

1区79号土坑

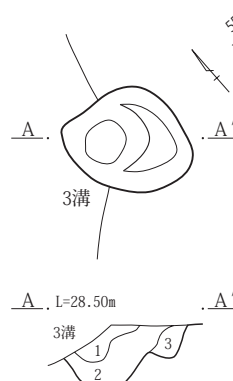


1区85号土坑



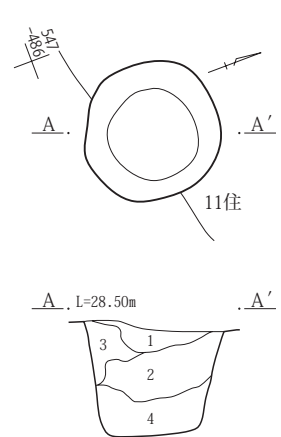
- 1区85号土坑
 1. 黒褐色土 ローム粒少し含む。
 2. 暗褐色土・くすんだロームの混土。
 3. 明黄褐色土 くすんだローム主体。

1区87号土坑

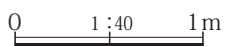


- 1区87号土坑
 1. 褐色土 ローム小塊多く含む、しまり弱い。
 2. 黄褐色土 くすんだローム主体。
 3. 暗褐色土 土質均一。

1区90号土坑

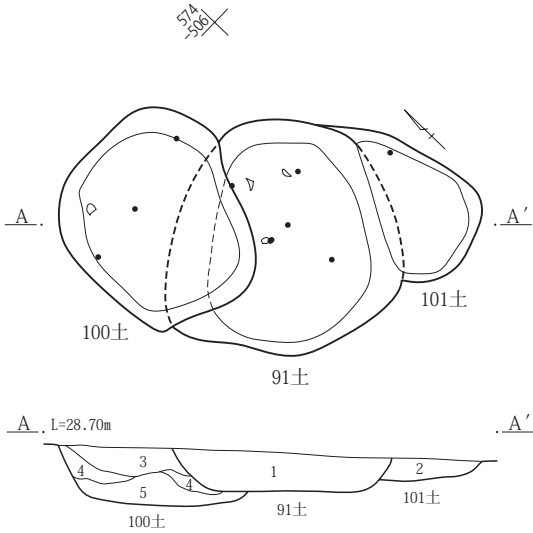


- 1区90号土坑
 1. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含む、しまりやや弱い。
 2. 暗褐色土 1層よりやや暗く、ローム粒・焼土粒少なく、しまり弱く、粘性あり。
 3. 褐色土 ローム粒・くすんだローム多く含む。
 4. 暗褐色土 土質均一、しまり弱い。



第204図 1区72・73・77～79・82・85・87・90号土坑平断面図

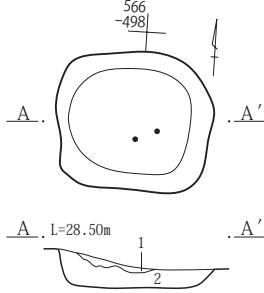
1区91・100・101号土坑



1区91・100・101号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒・小ブロック・焼土粒わずかに含む。91号土坑。
2. 暗褐色土 やや暗いローム粒・焼土粒わずかに含む。101号土坑。
3. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含む。100号土坑。
4. くすんだローム土・3層の混土。100号土坑。
5. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒わずかに含む、土質均一。100号土坑。

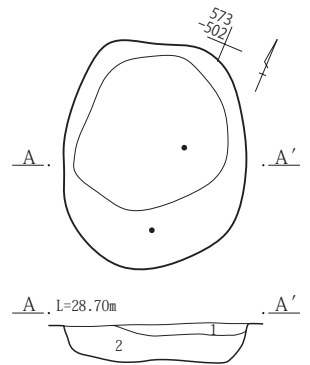
1区92号土坑



1区92号土坑

1. 黒褐色土
2. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含む、下部にくすんだローム塊、しまりややあり。

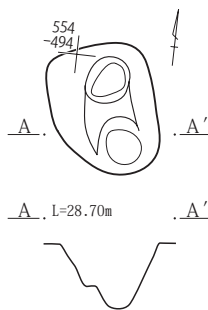
1区93号土坑



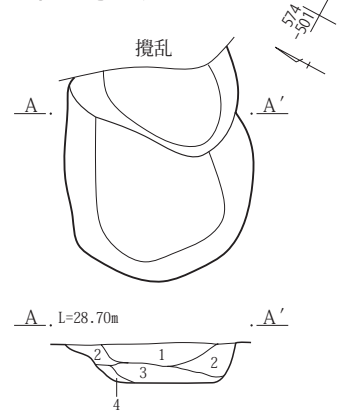
1区93号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒を含む。
2. 暗褐色土 ローム小塊・焼土小塊含む、1層より暗く、しまりやや弱い。

1区94号土坑



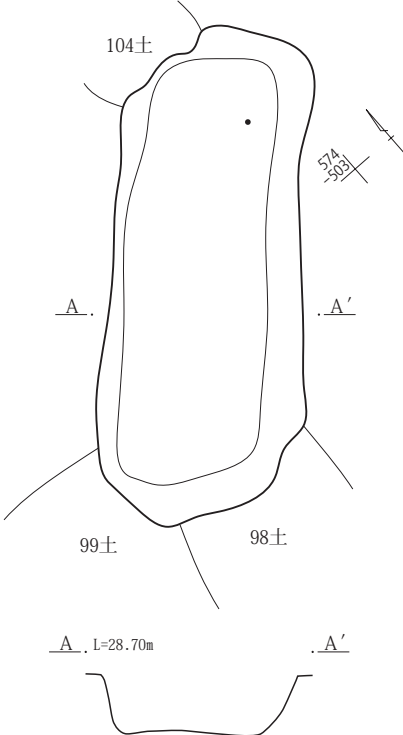
1区95号土坑



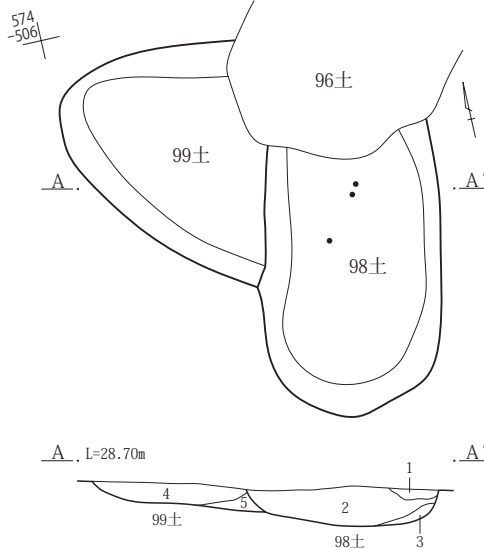
1区95号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒わずかに含む、土質均一。
2. 褐色土 しまりやや弱い。
3. 暗褐色土・くすんだロームの混土、土質やや粗い。
4. 明黄褐色土 ローム主体。

1区96号土坑

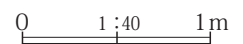


1区98・99号土坑



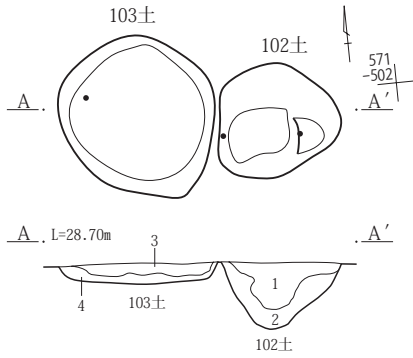
1区98・99号土坑

1. 暗褐色土 焼土小塊・ローム小塊少量含む。98号土坑。
2. 暗褐色土 ローム粒・小塊少し含む。98号土坑。
3. 黄褐色土 くすんだローム主体に2層少し含む。98号土坑。
4. 暗褐色土 ローム粒・大塊少し含む。99号土坑。
5. 明黄褐色土 くすんだローム。99号土坑。



第205図 1区91～96・98～101号土坑平断面図

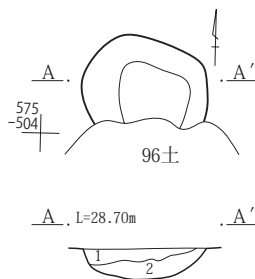
1区102・103号土坑



1区102・103号土坑

1. 黒褐色土 土質均一、しまり強い。102号土坑。
2. 明黄褐色土 くすんだローム主体に1層少し含む。102号土坑。
3. 暗褐色土 焼土小塊・ローム粒・小塊含む。103号土坑。
4. 明黄褐色土 くすんだローム主体。103号土坑。

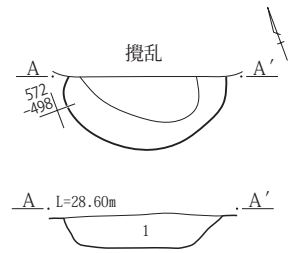
1区104号土坑



1区104号土坑

1. 暗褐色土 ローム小塊多く含む。
2. くすんだローム・1層の混土。

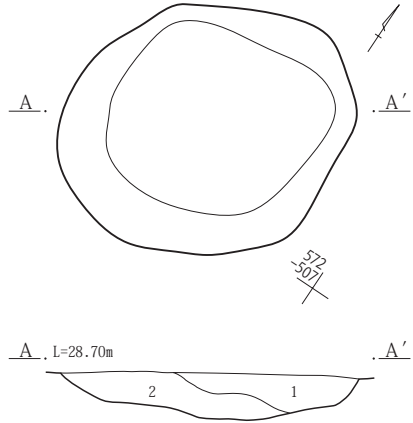
1区105号土坑



1区105号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒含み、下部にくすんだローム塊、しまりややあり。

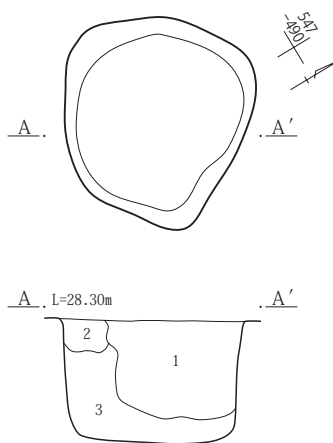
1区106号土坑



1区106号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒多く含み、しまりやや強い。
2. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒わずかに含み、1層より暗く、しまり強い。

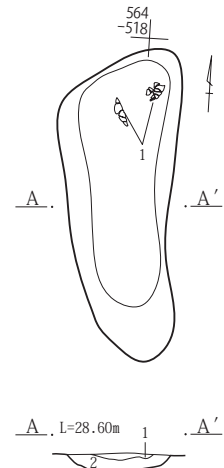
1区108号土坑



1区108号土坑

1. 暗褐色土 土質均一、しまり弱い。
2. 褐灰色土・ローム小塊の混土。
3. 黒褐色土 粘質土・ローム小塊含む。

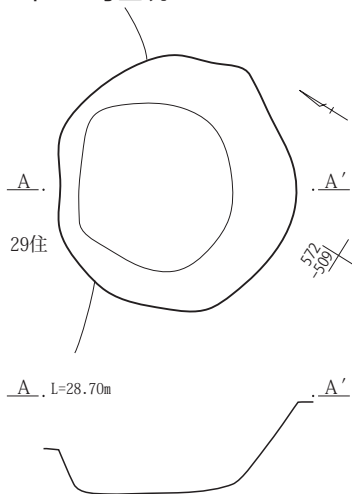
1区109号土坑



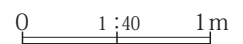
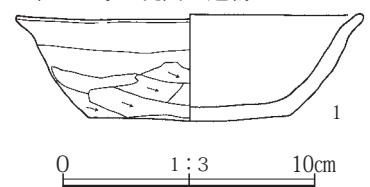
1区109号土坑

1. 暗褐色土 しまり弱い。
2. 褐灰色土 しまり弱い。

1区110号土坑

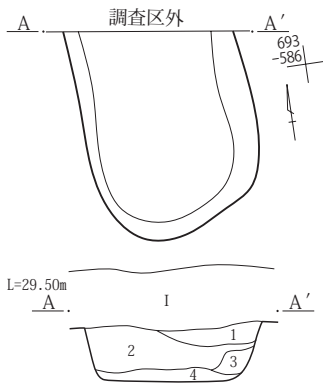


1区109号土坑出土遺物



第206図 1区102～106・108～110号土坑平断面図、109号土坑出土遺物

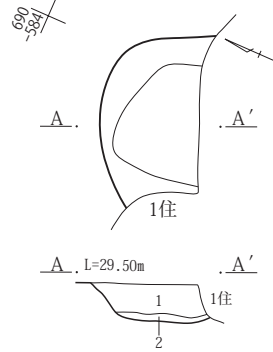
2区1号土坑



2区1号土坑

1. 褐色土 ローム粒少し含む。
2. 1層よりロームやや多い。
3. 褐色土・ロームの混土。
4. 褐色土 ノロ状。

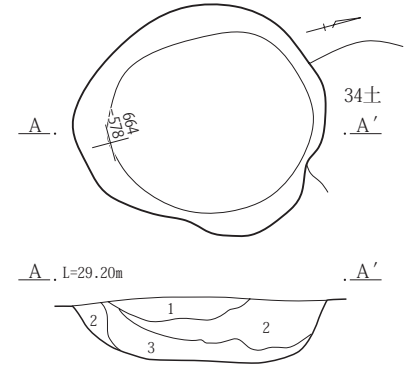
2区2号土坑



2区2号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒・小塊少し含む。
2. 明黄褐色土 ローム主体。

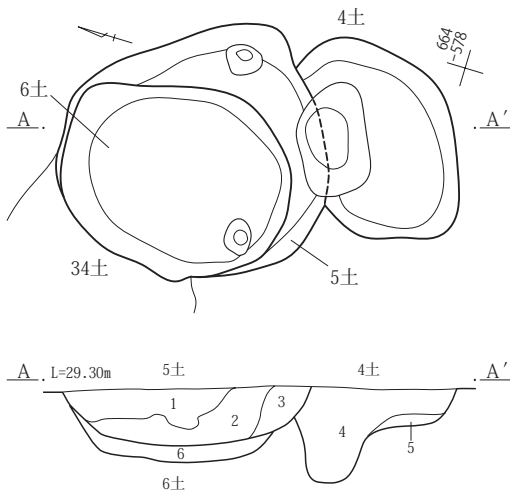
2区3号土坑



2区3号土坑

1. 黒褐色土 ローム塊多く含む。
2. 暗オリーブ灰色土 ローム粒・小塊少し含む。
3. 黒褐色土 ローム塊少し含む。

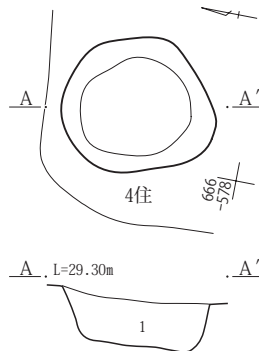
2区4・5・6号土坑



2区4・5・6号土坑

1. 暗オリーブ灰色土 ローム粒・小塊多く含む、しまりやや強い。5号土坑。
2. 灰オリーブ色土 ローム粒・小中塊多く含む、土質粗く、しまりやや弱い。5号土坑。
3. 灰黄褐色土 ローム粒・ローム小塊少し含む。5号土坑。
4. 褐灰色土 ローム粒少し含む、しまりやや強い。4号土坑。
5. 黄褐色土 くすんだローム主体に4層少し含む。4号土坑。
6. 黒褐色土 土質均一、粘性あり、しまりやや弱い。6号土坑。

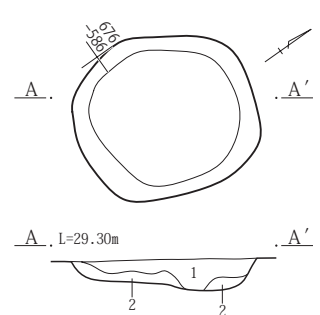
2区9号土坑



2区9号土坑

1. 褐灰色土 ローム粒少し含む、鉄分沈着あり。

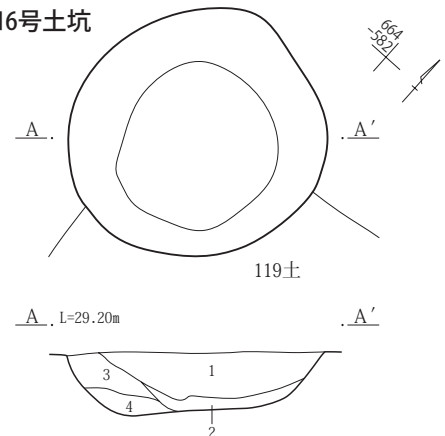
2区12号土坑



2区12号土坑

1. 褐灰色土 くすんだローム含み、固くしまる。
2. 明黄褐色土 ローム主体。

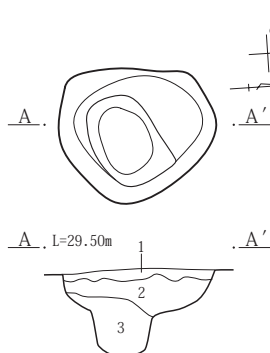
2区16号土坑



2区16号土坑

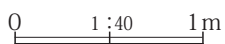
1. 褐灰色土 鉄分沈着した橙色土多く含む、しまりやや弱い。
2. 黒色灰層 焼土粒少し含む。
3. 褐灰色土 鉄分沈着少しあり、しまりやや弱い。
4. にぶい黄色土 くすんだローム主体、水分含みしまり弱い。

2区13号土坑



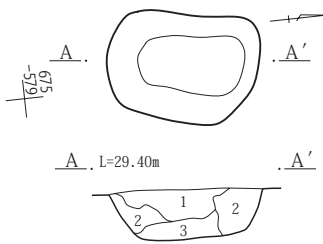
2区13号土坑

1. 暗褐色土 黄褐色土少し含む、固くしまる。
2. くすんだローム・1層の混土。
3. 暗褐色土 ローム細粒少し含む、しまり弱い。



第207図 2区1～6・9・12・13・16号土坑平衡断面図

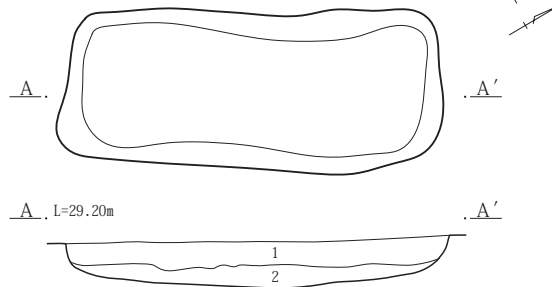
2区17号土坑



2区17号土坑

1. 暗褐色土 わずかにローム小塊を含み、土質均一。
2. にぶい黄褐色土 くすんだローム粒・明るいローム小塊多く含み、土質粗い。
3. 暗褐色土 1層よりローム小塊少なく、水分多く含む。

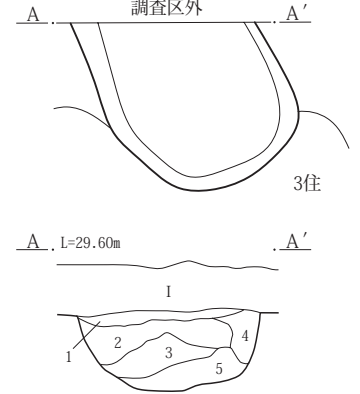
2区18号土坑



2区18号土坑

1. 黒褐色土 固いローム塊多く含み、しまり弱い。
2. くすんだローム・1層の混土、1層よりローム大きく多い。

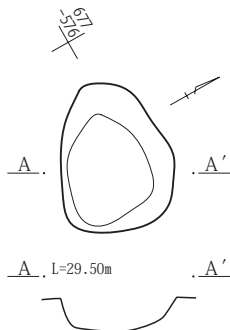
2区19号土坑



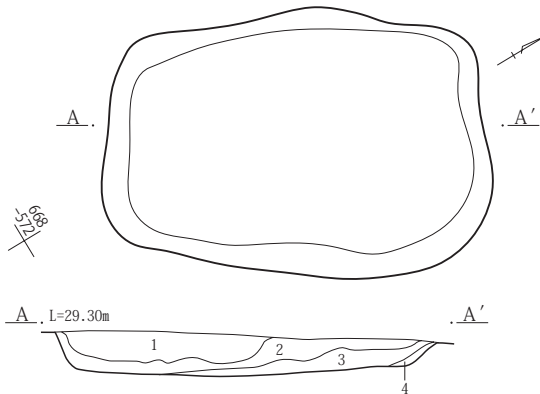
2区19号土坑

1. 褐色土 ローム粒・小塊少し含む。
2. 暗褐色土 ローム粒・小塊多く含む。
3. 褐色土 ローム粒・小塊多く含み、黒褐色土含む。
4. くすんだローム土・1層の混土。
5. くすんだローム土・1層の混土。4層よりやや明るい。

2区20号土坑



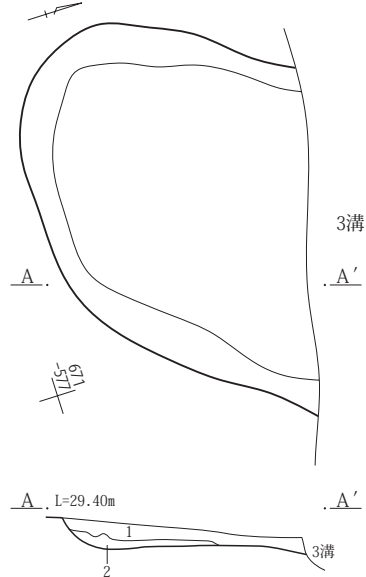
2区26号土坑



2区26号土坑

1. にぶい黄褐色土 ローム小塊多く含み、2層少し含み、しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム小塊わずかに含み、しまり強い。
3. 暗褐色土 ローム小塊多く含み、しまり強い。
4. 明黄褐色土 ローム主体。

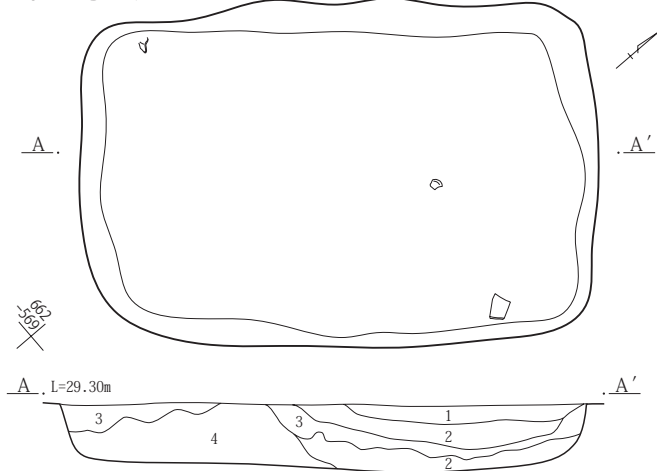
2区27号土坑



2区27号土坑

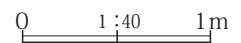
1. 暗褐色土 ローム小塊やや多く含む。
2. くすんだローム・1層の混土。

2区28号土坑



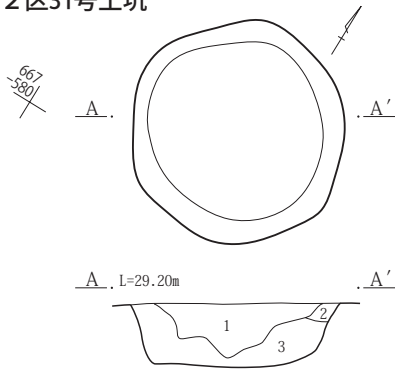
2区28号土坑

1. 灰黄褐色土 ローム小塊多く含み、しまり強い。
2. にぶい黄褐色土 固いローム小中塊きわめて多く、3層少し含み、しまりやや強い。
3. 黒褐色土 ローム小塊わずかに含み、土質均一、しまり強い。
4. 灰黄褐色土 1層よりやや暗く、ローム塊多く、しまり強い。



第208図 2区17～20・26～28号土坑平断面図

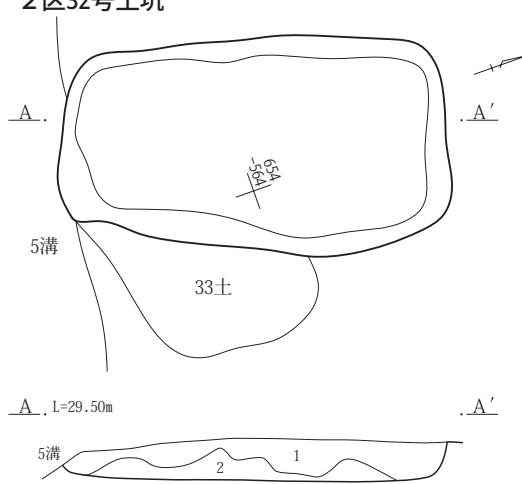
2区31号土坑



2区31号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒・くすんだローム塊少し含み、焼土粒わずかに含み、しまりやや弱い。
2. 褐色土 くすんだローム主体。
3. 暗褐色土 土質均一、水分多く含み、しまりやや弱い。

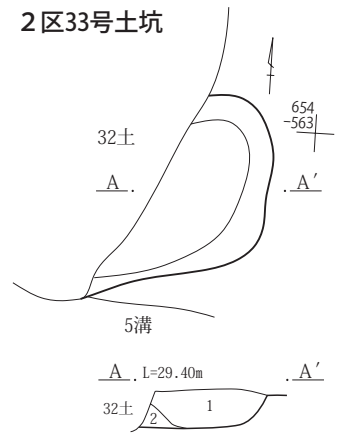
2区32号土坑



2区32号土坑

1. 暗褐色土 2層・くすんだローム・固いローム小塊少し含み、土質粗く、しまりやや強い。
2. 黒色土 ロームわずかに含み、土質均一、しまりやや強い。

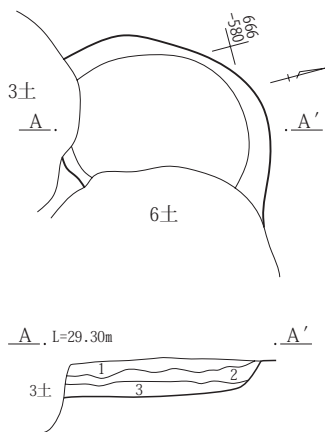
2区33号土坑



2区33号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一。
2. 黒褐色土 くすんだローム少し含み、土質均一。

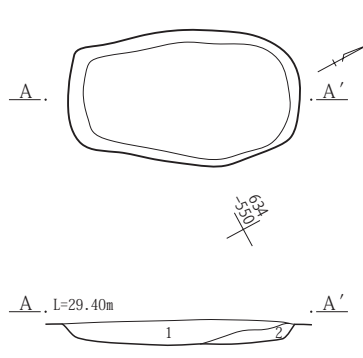
2区34号土坑



2区34号土坑

1. 灰黄褐色土 2層・ローム粒少し含む。
2. 褐灰色土 土質均一、しまり弱い。
3. 明黄褐色土 ローム主体に2層少し含む。

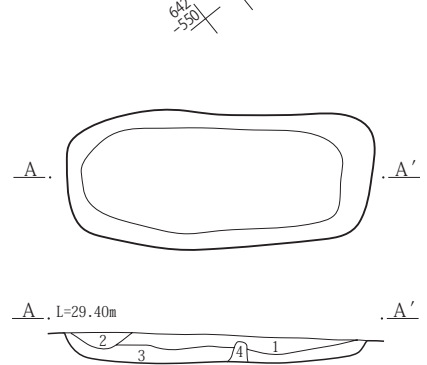
2区38号土坑



2区38号土坑

1. 黒褐色土 土質均一、しまり強い。
2. 灰黄褐色土 土質均一。

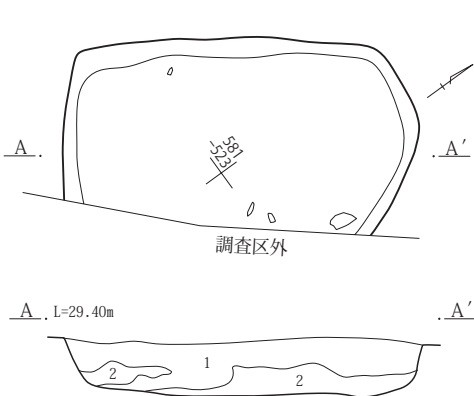
2区39号土坑



2区39号土坑

1. 暗灰褐色土 ローム粒・小塊・黒褐色土塊斑に含み、しまり強い。
2. 黒褐色土 砂少し含み、土質均一。
3. 黒褐色土 ローム粒・小塊多く含み、しまり強い。
4. 黄橙色土 ローム主体。

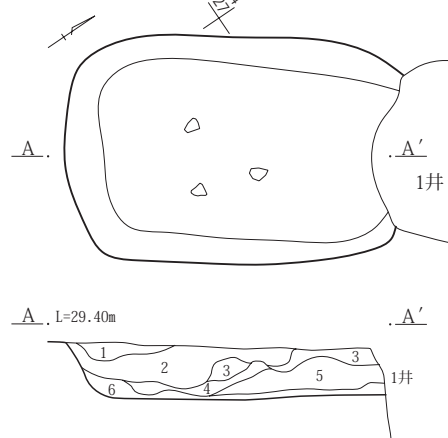
2区40号土坑



2区40号土坑

1. くすんだローム・褐色土塊・ローム粒の混土。
2. 黒褐色土 ローム塊含む。

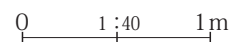
2区41号土坑



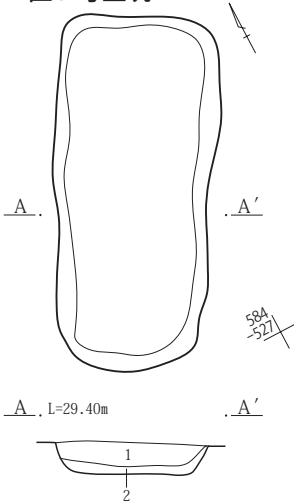
2区41号土坑

1. 褐色土 土質均一。
2. くすんだ黄褐色土 ローム塊多く含み、褐灰色土含む。
3. くすんだ褐色土 褐灰色土主体にローム粒・小塊含む。
4. 褐灰色土 ローム小塊含む。
5. 暗黄褐色土 くすんだローム主体に褐色土・ローム小塊の混土含む。
6. 黒色土 しまり強い。

第209図 2区31～34・38～41号土坑平断面図



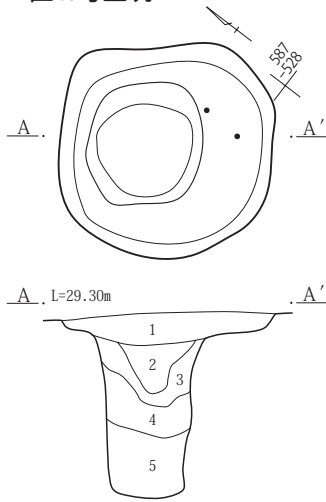
2区42号土坑



2区42号土坑

1. 褐色土 くすんだローム塊含む。
2. 明黄色土

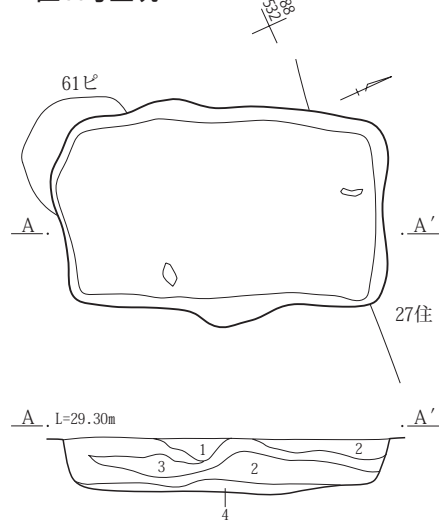
2区43号土坑



2区43号土坑

1. 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒含む。
2. 褐灰色土 ローム粒わずかに含む。
3. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊・褐灰色土塊の混土含む。
4. 褐灰色土 ローム塊含み、粘性ややあり。
5. 黄褐色土 やや砂質。

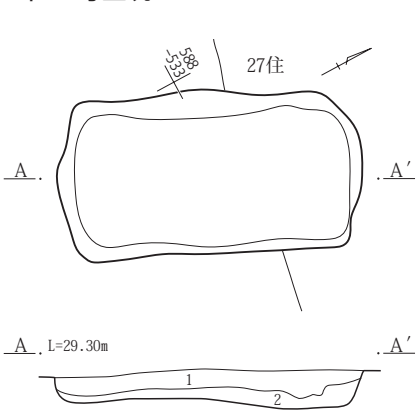
2区44号土坑



2区44号土坑

1. 褐色土 くすんだローム主体にローム粒含む。
2. 黒褐色土 ローム小塊含む。
3. くすんだ褐色土 くすんだローム主体にローム粒・焼土粒わずかに含む。
4. 褐色土 ローム粒わずかに含み、固くしまる。

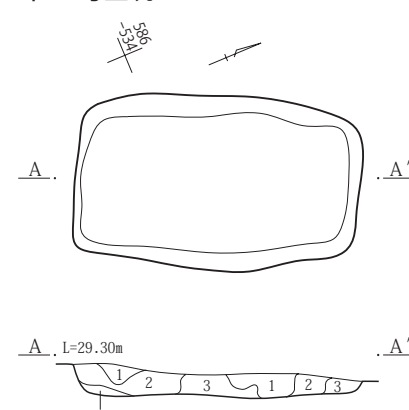
2区45号土坑



2区45号土坑

1. 黒褐色土 ローム小塊含む。
2. 褐灰色土 土質均一、固くしまる。

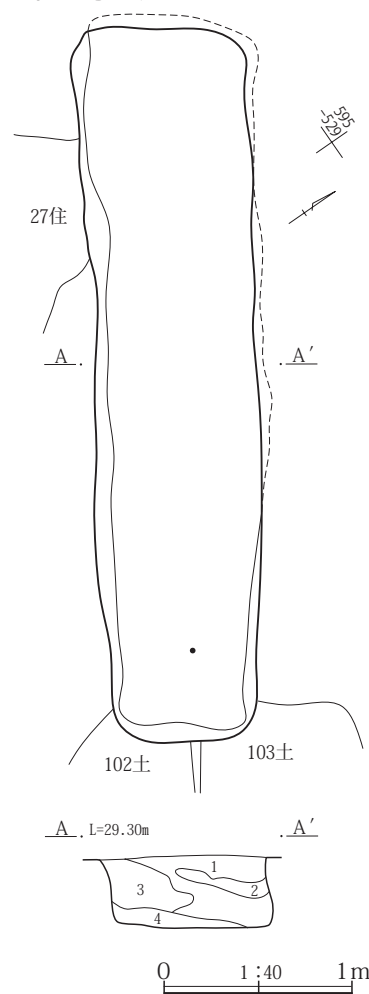
2区46号土坑



2区46号土坑

1. 褐灰色土
2. 黒褐色土・ロームの混土。
3. 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

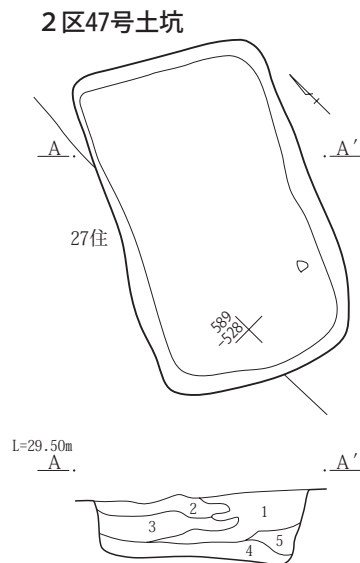
2区48号土坑



2区48号土坑

1. 暗褐色土 固いローム塊多く含む。
2. 暗褐色土 ローム小塊含む。
3. 暗黄褐色土 ローム小塊多く含む。
4. 黒褐色土 ローム粒含み、固くしまる。

2区47号土坑



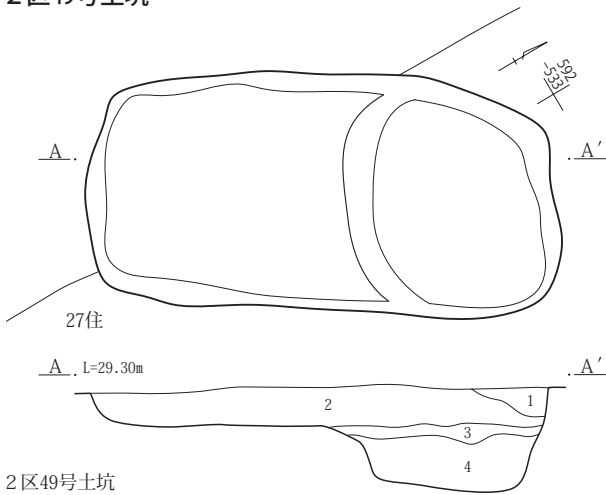
2区47号土坑

1. 褐色土 ローム小塊含む。
2. 黒褐色土塊・褐色土塊の混土。
3. 黒褐色土 ローム粒含み、やや砂質。
4. 黒褐色土 3層よりしまりあり。
5. 褐色土 焼土粒・炭化物粒含む。

第210図 2区42～48号土坑平断面図

0 1:40 1m

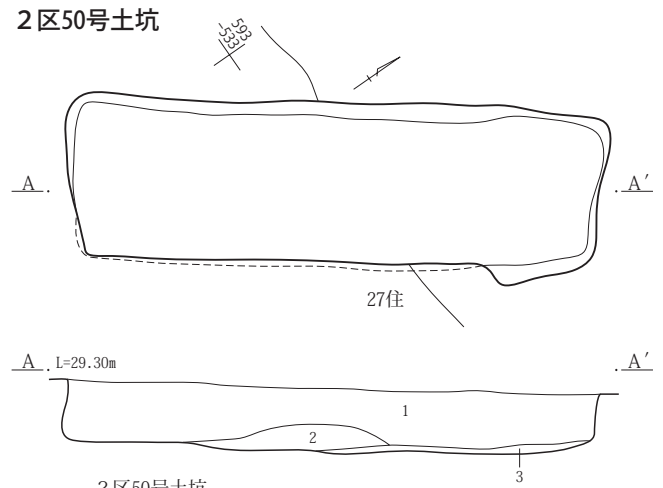
2区49号土坑



2区49号土坑

1. くすんだローム・褐色塊・ローム粒の混土。
2. 黒褐色土 ローム塊含む。
3. ローム粒・塊の混土、固くしまる。
4. 褐色土 土質均一、粘性あり。

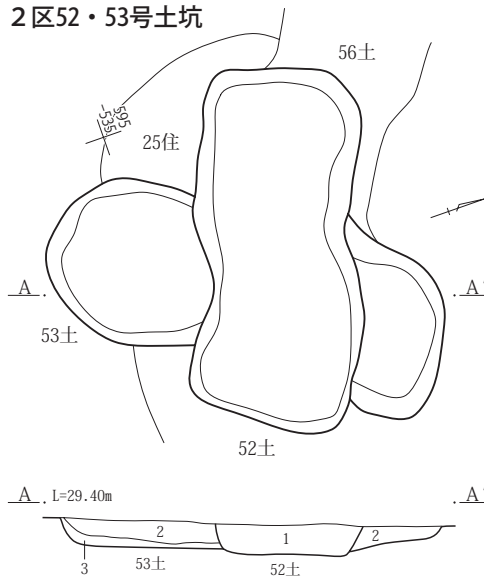
2区50号土坑



2区50号土坑

1. ローム小塊・褐色土小塊の混土。
2. 褐灰色土 1層よりローム少ない。
3. 黒色土 ローム小塊わずかに含み、固くしまる。

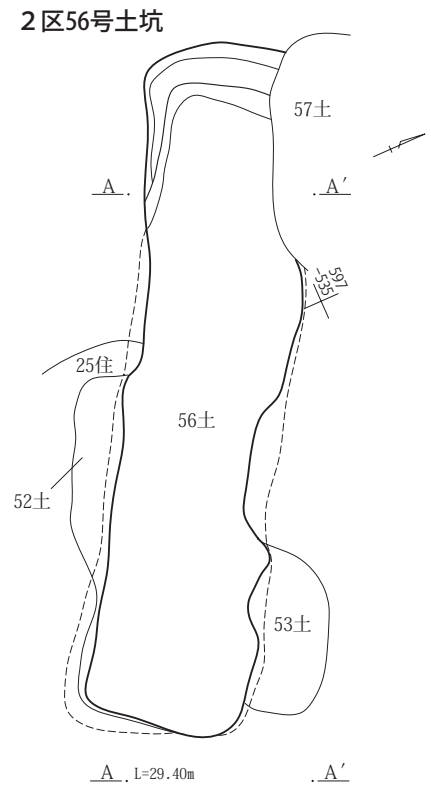
2区52・53号土坑



2区52・53号土坑

1. 褐灰色土 細砂含む。52号土坑。
2. 白色軽石粒・焼土粒・くすんだローム塊の混土。53号土坑。
3. くすんだ黄褐色土 53号土坑。

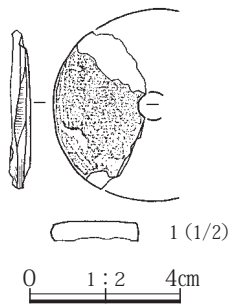
2区56号土坑



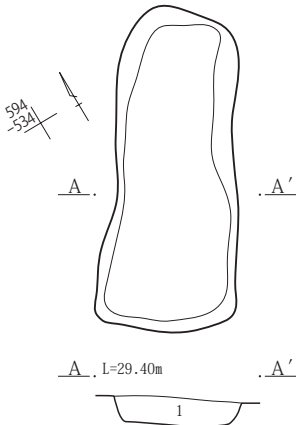
2区56号土坑

1. 褐灰色土塊・ローム塊の混土。
2. 褐灰色土 1層よりローム多い。

2区49号土坑出土遺物



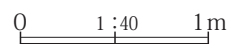
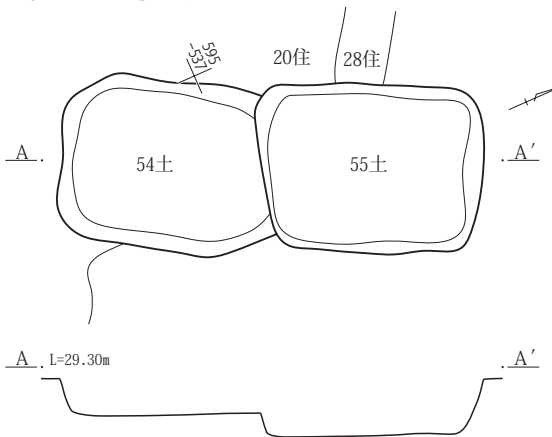
2区51号土坑



2区51号土坑

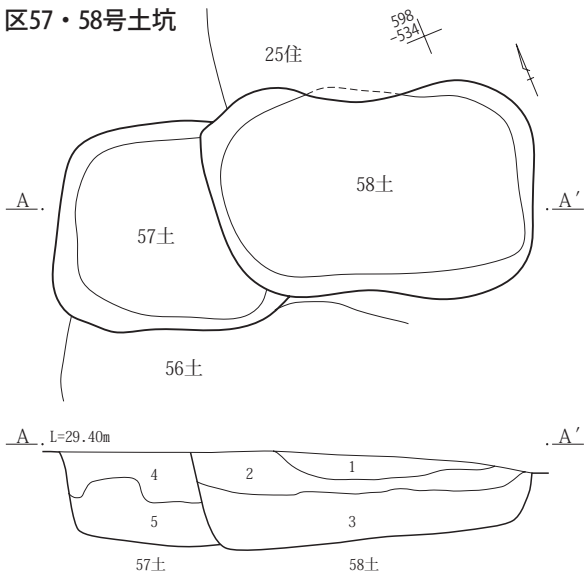
1. くすんだ褐色土塊・暗褐色土塊の混土。

2区54・55号土坑



第211図 2区49～56号土坑平断面図、49号土坑出土遺物

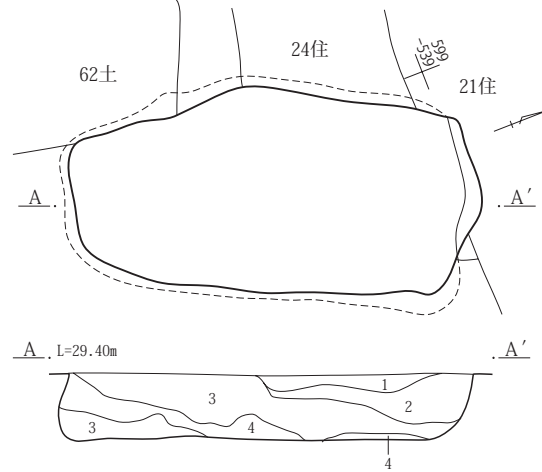
2区57・58号土坑



2区57・58号土坑

1. 褐色土 ローム小中塊含む。58号土坑。
2. 褐色土 ローム小中塊わずかに含む。58号土坑。
3. 暗褐色土 白色細粒・ローム粒わずかに含む。58号土坑。
4. 褐色土 ローム小中塊わずかに含む、やや固くしまる。57号土坑。
5. 暗黄褐色土 くすんだローム・褐灰色ローム小塊み、固くしまる。57号土坑。

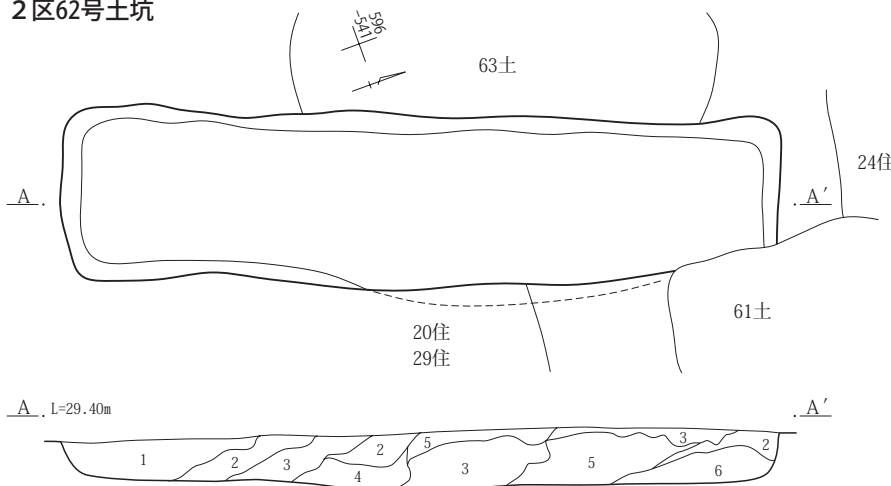
2区61号土坑



2区61号土坑

1. くすんだローム・暗褐色土塊・ローム塊の混土。
2. 暗褐色土 ローム粒・細砂含み、土質均一。
3. 暗褐色土 2層と同質だが細砂なし、しまりあり。
4. 暗褐色土 褐灰色塊・ローム小塊含む。

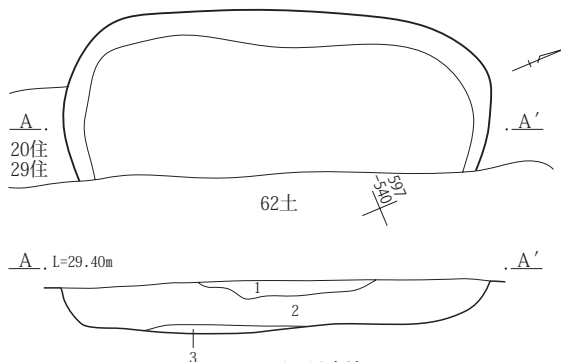
2区62号土坑



2区62号土坑

1. 褐色土 ローム小塊斑に含む。
2. 暗褐色土 土質均一。
3. 暗褐色土 2層に褐色土小塊含む。
4. 暗褐色土 3層より褐色土小塊多い。
5. 暗褐色土塊・ローム塊の混土。
6. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊・暗褐色土小塊含む。

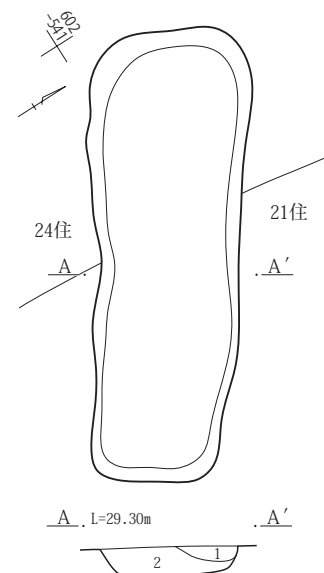
2区63号土坑



2区63号土坑

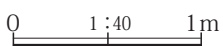
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2. 褐灰色土塊・くすんだローム塊の混土。
3. 暗褐色土 ローム粒含み、固くしまる。

2区64号土坑



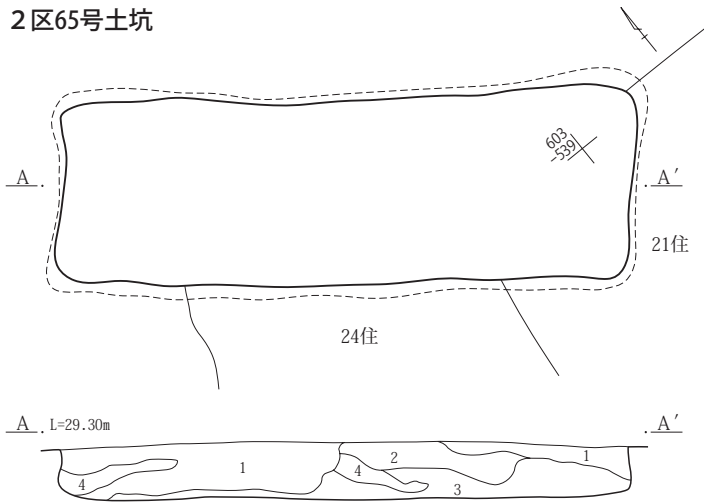
2区64号土坑

1. 褐灰色土 ローム小塊多く含む。
2. 暗褐色土 ローム小中塊斑に含む。



第212図 2区57・58・61～64号土坑平断面図

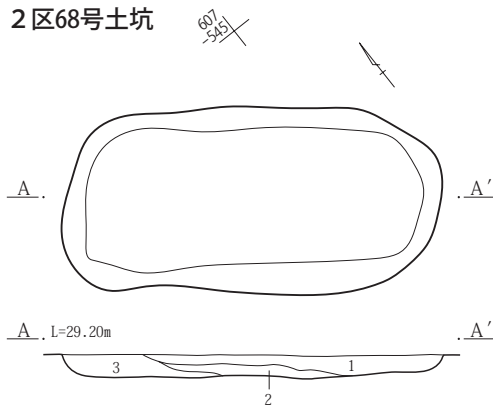
2区65号土坑



2区65号土坑

1. 褐色土塊・ローム塊の混土。
2. 褐色土 ロームわずかに含み、土質均一。
3. 黒褐色土 土質均一。
4. 褐色土ブロック。

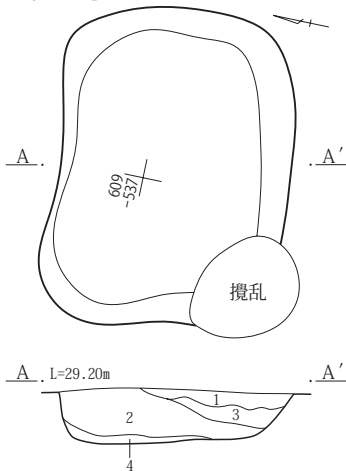
2区68号土坑



2区68号土坑

1. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊多く含む。
2. 1層よりローム塊少ない。
3. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊やや多く含む。

2区71号土坑



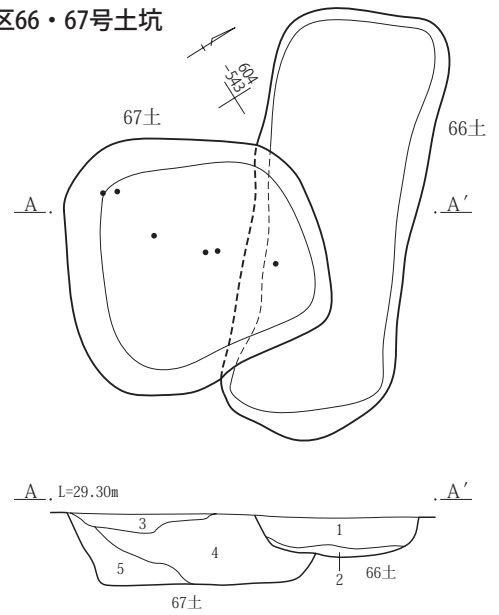
2区71号土坑

1. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊多く含む。
2. くすんだ黄褐色土 1層よりローム塊少ない。
3. 黒褐色土 ローム細粒含む。
4. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊含む。

2区72・140号土坑

1. 褐灰色土 炭化物粒含む。72号土坑。
2. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊含む。72号土坑
3. 褐灰色土 やや砂質。140号土坑。
4. 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。140号土坑。

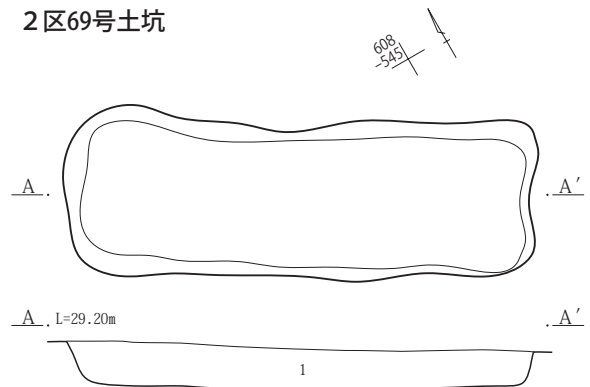
2区66・67号土坑



2区66・67号土坑

1. 暗褐色土 ローム塊・褐灰色土塊斑に含む。66号土坑。
2. 暗褐色土 ローム塊含み、かたくしまる。66号土坑。
3. 褐灰色土 細砂・ローム粒わずかに含む。67号土坑。
4. 褐灰色土 3層主体にローム塊・暗褐色土塊の混土含む。67号土坑。
5. 褐灰色土 ローム小塊わずかに含む。67号土坑。

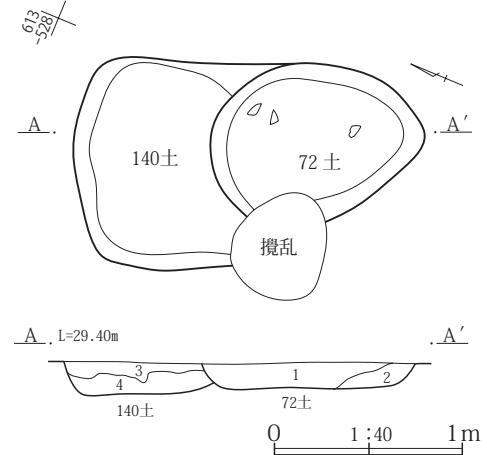
2区69号土坑



2区69号土坑

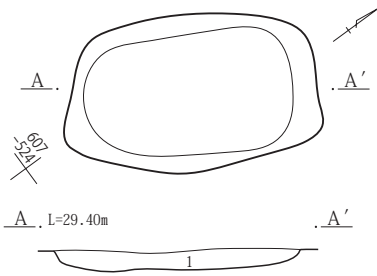
1. 黒褐色土 ローム細粒含む。

2区72・140号土坑



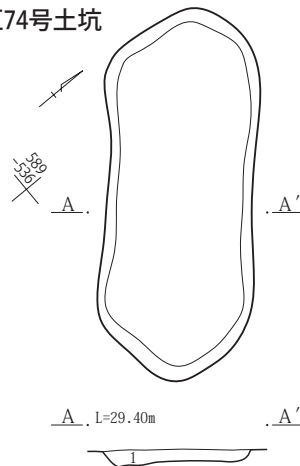
第213図 2区65～69・71・72・140号土坑平断面図

2区73号土坑



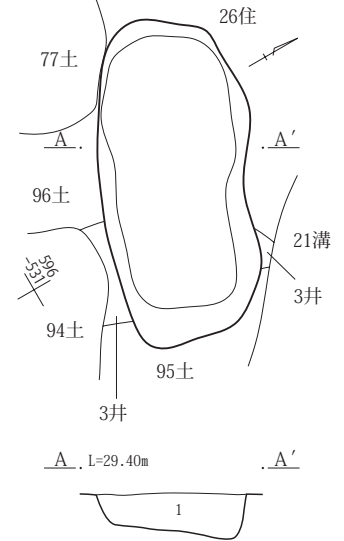
2区73号土坑
1. 黒褐色土 ローム細粒含む。

2区74号土坑



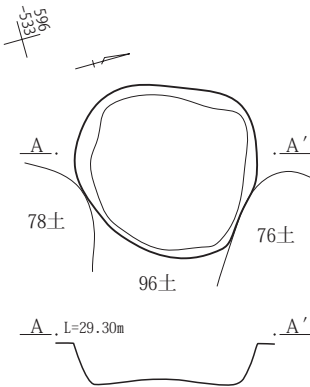
2区74号土坑
1. 褐色土 ローム含む。

2区76号土坑

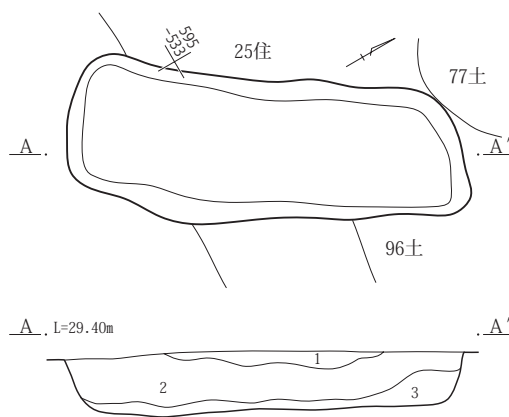


2区76号土坑
1. 暗褐色土 細砂わずかに含み、土質均一。

2区77号土坑

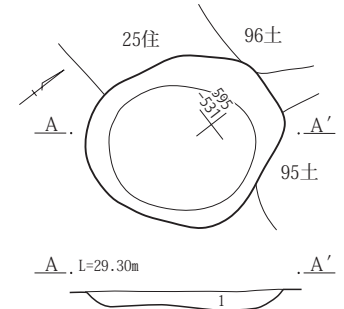


2区78号土坑



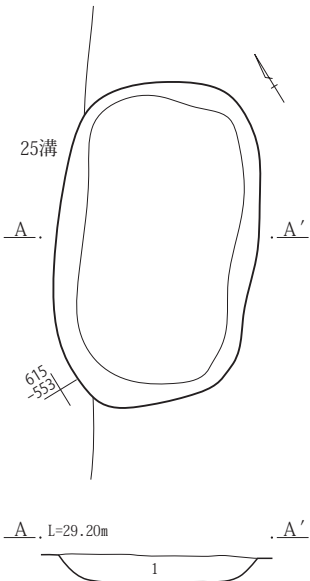
2区78号土坑
1. 褐灰色土塊・ローム塊・くすんだロームの混土。
2. 褐灰色土 ローム塊・粒斑に含む。
3. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊・褐灰色土含む。

2区79号土坑



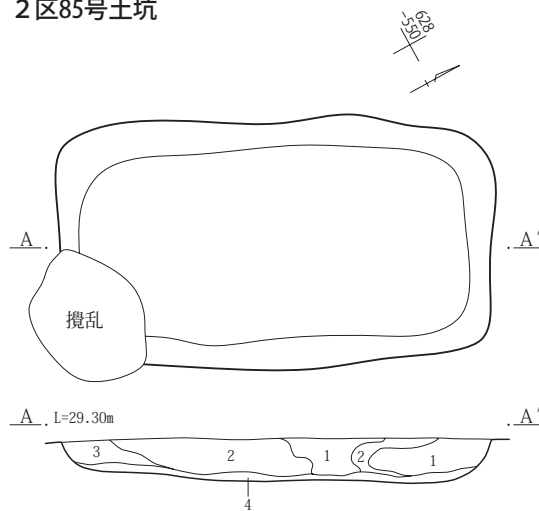
2区79号土坑
1. 黒褐色土 土質均一、しまりあり。

2区84号土坑

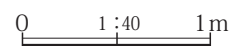


2区84号土坑
1. 黒褐色土 細砂含み、土質均一。

2区85号土坑

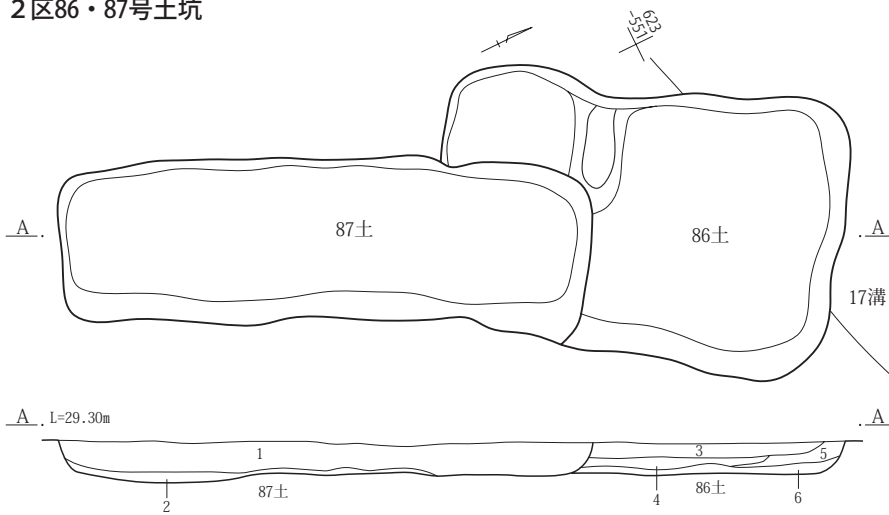


2区85号土坑
1. 黒褐色土・くすんだローム・ローム塊の混土。
2. 黒褐色土・褐灰色土の混土。
3. 黒褐色土 土質均一。
4. 黒褐色土 3層よりやや明るい。



第214図 2区73・74・76～79・84・85号土坑平断面図

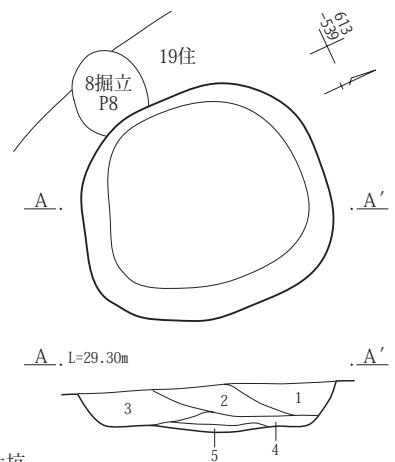
2区86・87号土坑



2区86・87号土坑

1. 黒褐色土 ローム小塊・褐灰色土塊わずかに含む。87号土坑。
2. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊含み、固くしまる。87号土坑。
3. 黒褐色土 土質均一、しまり弱い。86号土坑。
4. 黒褐色土 褐色土わずかに含む。86号土坑。
5. 黒褐色土 ローム小塊含む。86号土坑。
6. 黒褐色土 ローム小塊を含み、固くしまる。86号土坑。

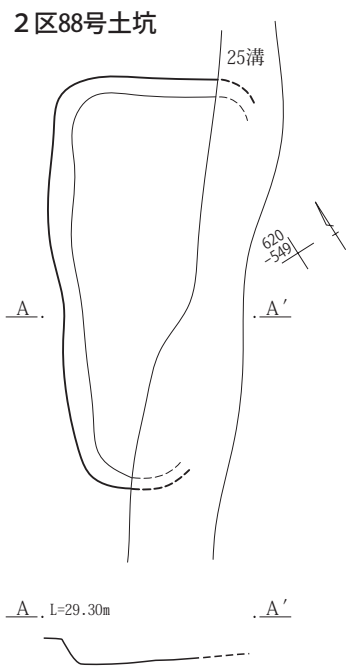
2区93号土坑



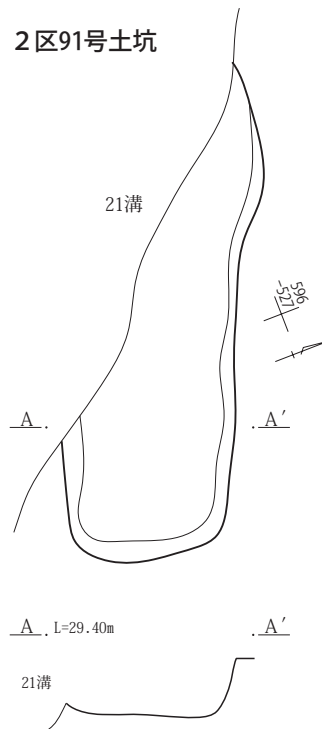
2区93号土坑

1. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊わずかに含む。
2. ローム粒・ローム小塊の混土。
3. 明黄褐色土 2層よりローム大きい。
4. 褐灰色土・ローム塊の混土。
5. ローム粒・小塊の混土、2層と同質だが、固くしまる。

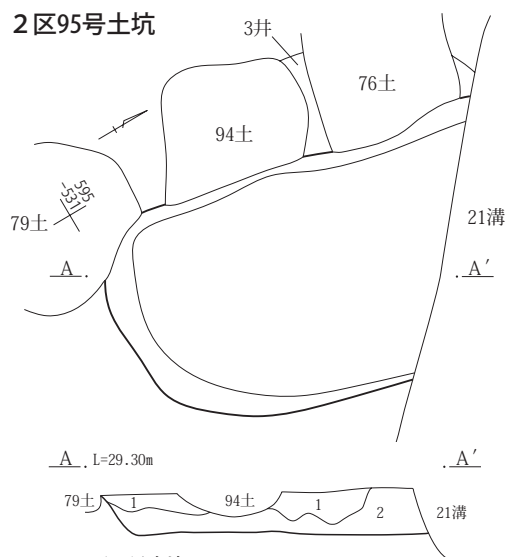
2区88号土坑



2区91号土坑



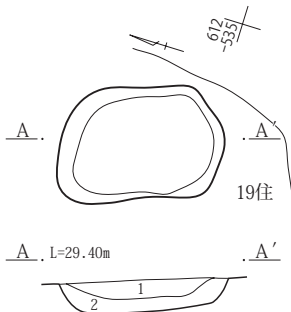
2区95号土坑



2区95号土坑

1. 褐灰色土 塊主体。
2. 黒褐色土 土質均一、しまりあり。

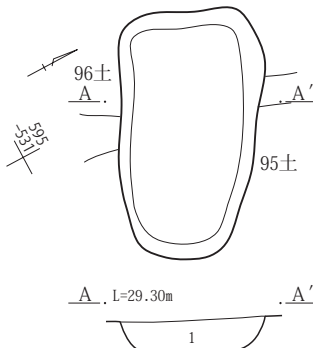
2区92号土坑



2区92号土坑

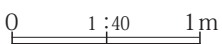
1. 暗褐色土 細砂わずかに含み、土質均一。
2. 暗褐色土 1層にローム小塊わずかに含む。

2区94号土坑



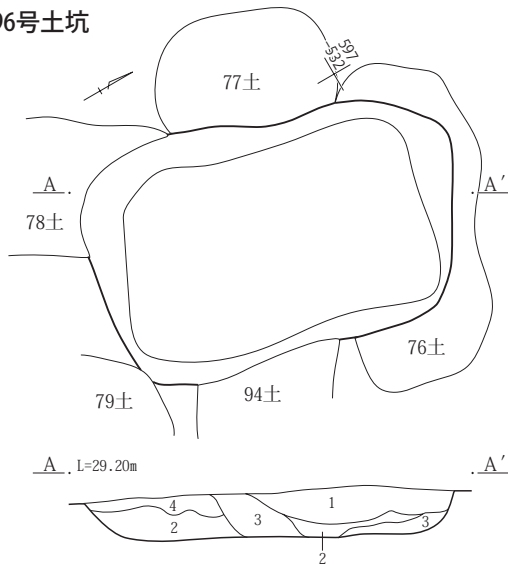
2区94号土坑

1. 暗褐色土 褐灰色土塊斑に含む。



第215図 2区86～88・91～95号土坑平断面図

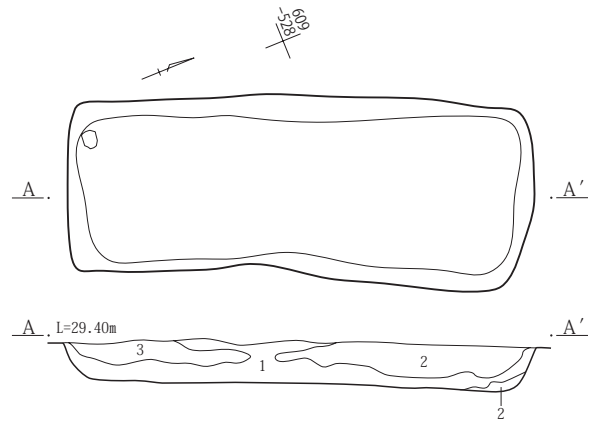
2区96号土坑



2区96号土坑

1. 褐灰色土塊・ローム塊・暗褐色土塊の混土。
2. 黒褐色土 褐灰色土小塊・ローム塊わずかに含む。
3. 暗褐色土 褐灰色土塊含む。
4. 褐灰色土

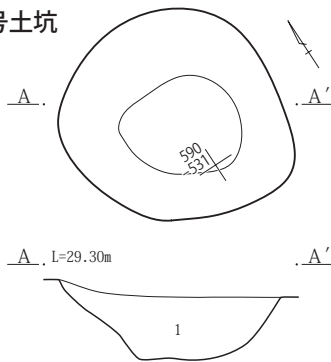
2区97号土坑



2区97号土坑

1. 黒褐色土 ローム細粒含む。
2. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊多く含む。
3. 黄褐色土 2層よりローム塊少ない。

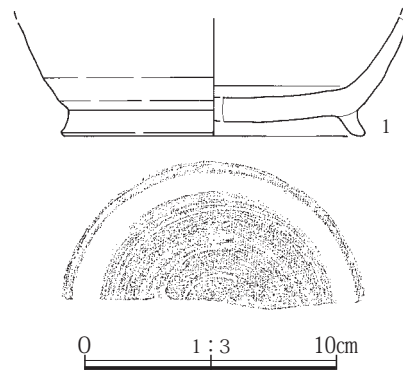
2区98号土坑



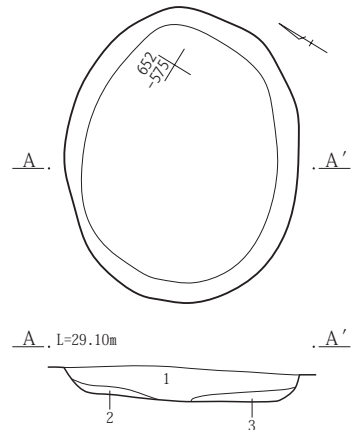
2区98号土坑

1. 褐灰色土 炭化物・灰含む。

2区98号土坑出土遺物



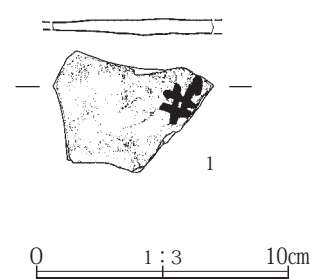
2区101号土坑



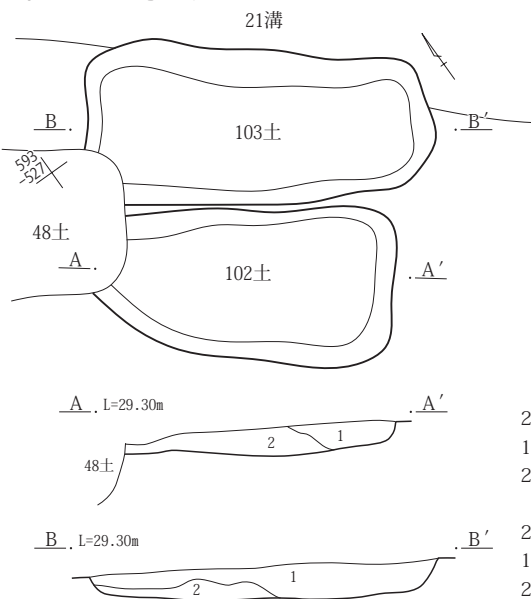
2区101号土坑

1. 暗灰黄色土 ローム粒少し、焼土粒わずかに含み、しまりやや弱い。
2. にぶい黄色土 土質均一、しまりやや強い。
3. 灰オリーブ色土 1層・ローム含む。

2区101号土坑出土遺物



2区102・103号土坑



2区102号土坑

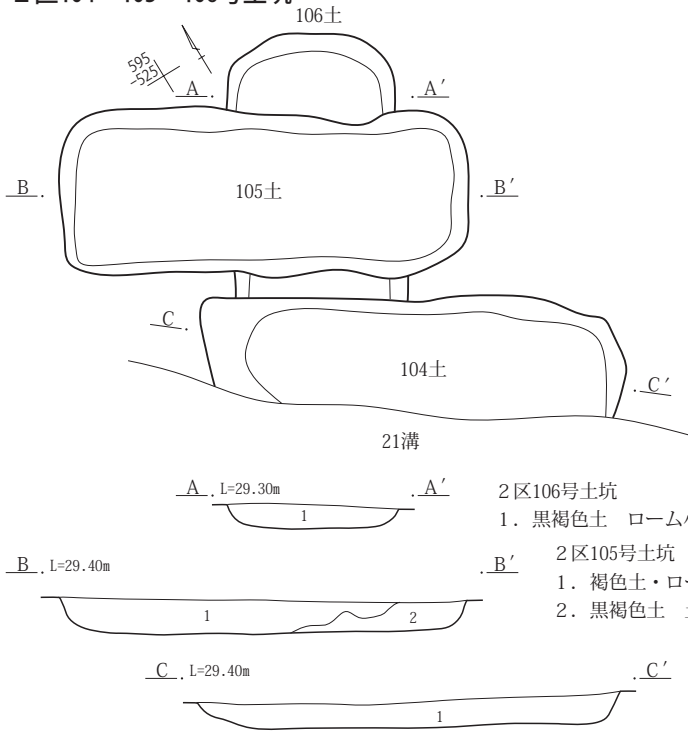
1. 黒褐色土塊・ローム塊・褐灰色土塊の混土。
2. 黒褐色土 ローム小塊・黒褐色土小塊含む。

2区103号土坑

1. 黒褐色土塊・ローム塊・褐灰色土塊の混土。
2. 黒褐色土 ローム小塊・黒褐色土小塊含む。

第216図 2区96～98・101～103号土坑平断面図、98・101号土坑出土遺物

2区104・105・106号土坑



2区106号土坑

1. 黒褐色土 ローム小塊・黒褐色土小塊含む。

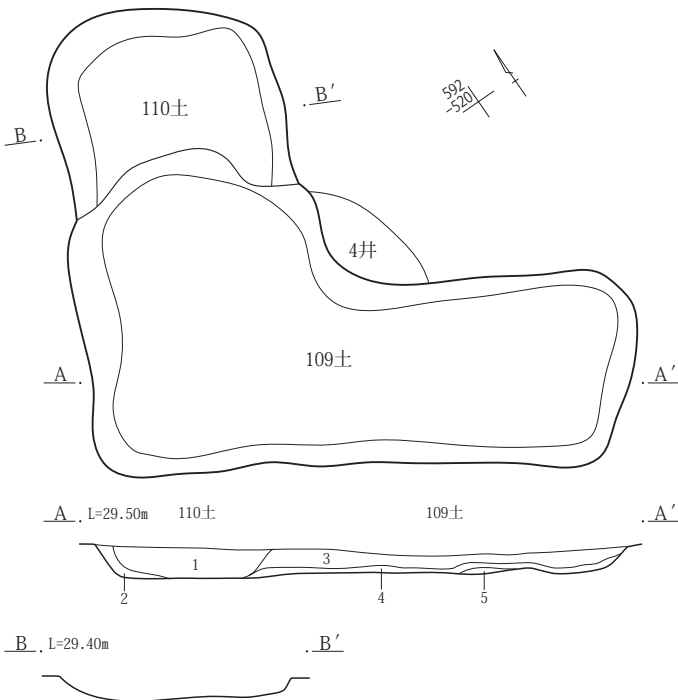
2区105号土坑

1. 褐色土・ロームの混土。
2. 黒褐色土 土質均一。

2区104号土坑

1. 黒褐色土 ローム小塊・黒褐色土小塊含む。

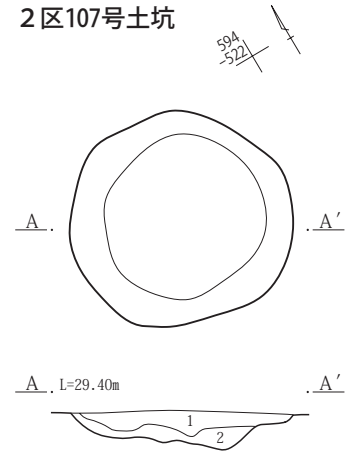
2区109・110号土坑



2区109・110号土坑

1. 褐色土・ロームの混土。110号土坑。
2. 黒褐色土 土質均一。109号土坑。
3. 暗褐色土 ローム小塊わずかに含む。109号土坑。
4. 黒褐色土 土質均一。109号土坑。
5. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体に暗褐色土含む。109号土坑。

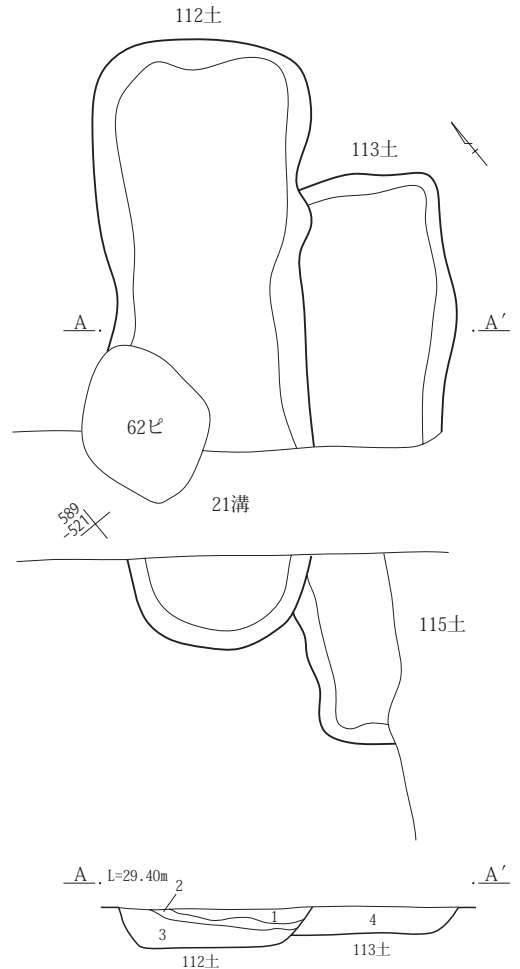
2区107号土坑



2区107号土坑

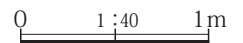
1. 褐色土・ロームの混土。
2. 黒褐色土 土質均一。

2区112・113号土坑



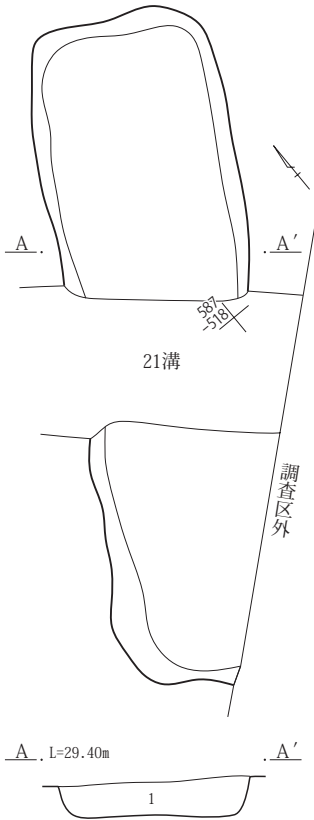
2区112・113号土坑

1. 褐灰色土 112号土坑。
2. 褐灰色土・ロームの混土。112号土坑。
3. 黒色土塊・くすんだローム塊の混土。112号土坑。
4. くすんだ褐色土 くすんだローム・ローム小塊含む。113号土坑。



第217図 2区104～107・109・110・112・113号土坑平断面図

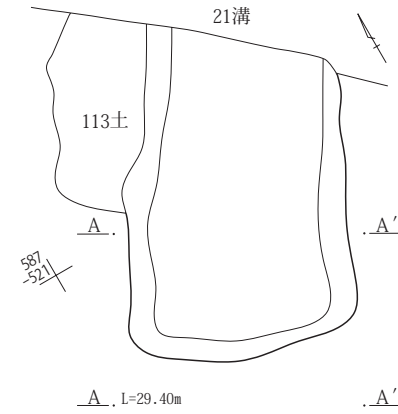
2区114号土坑



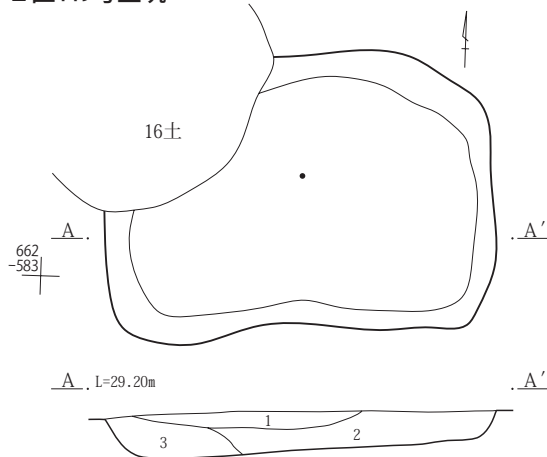
2区114号土坑

1. 黒色土 ローム塊・褐灰色土塊多く含む。

2区115号土坑



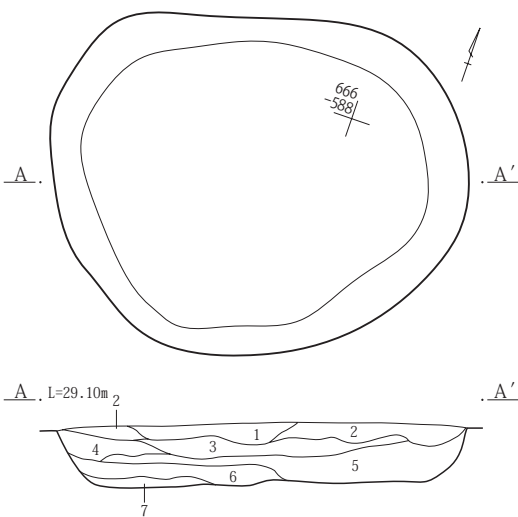
2区119号土坑



2区119号土坑

1. 暗オリーブ褐色土 ローム粒少し含み、鉄分沈着。
2. 暗緑灰色土 ローム粒少し含み、鉄分沈着。
3. 黒色土 くすんだローム含む。

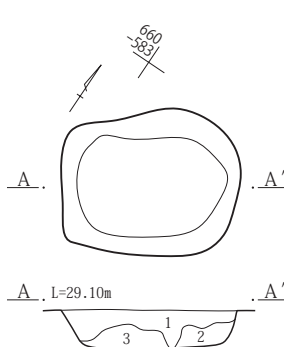
2区118号土坑



2区118号土坑

1. 黒色土 灰オリーブ色土少し含む。
2. 1層・ローム中塊の斑混土。
3. 暗灰黄色土 1層大塊・くすんだローム粒少し含む。
4. 黄褐色土 くすんだローム主体に1層少し含む。
5. 暗灰色粘土 土質均一。
6. 灰色砂層 ローム中大塊やや多く含み、鉄分沈着。
7. 灰オリーブ色土 くすんだローム主体に細砂を多く含む。

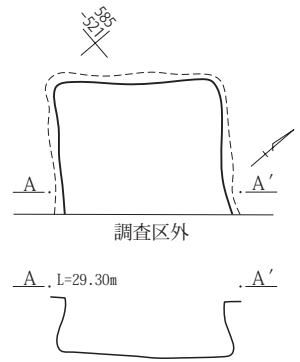
2区120号土坑



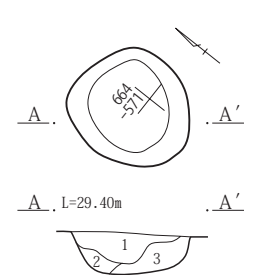
2区120号土坑

1. 黒色土 土質均一、粘性ややあり。
2. オリーブ黒色土 1層含む。
3. 灰オリーブ土 土質均一、しまりやや強い。

2区116号土坑

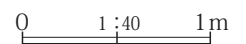


2区121号土坑



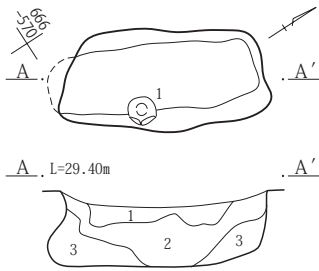
2区121号土坑

1. 灰色土 ローム粒・小塊多く含む。
2. 灰オリーブ土 くすんだローム含む。
3. オリーブ黄色土 くすんだローム主体。



第218図 2区114～116・118～121号土坑平断面図

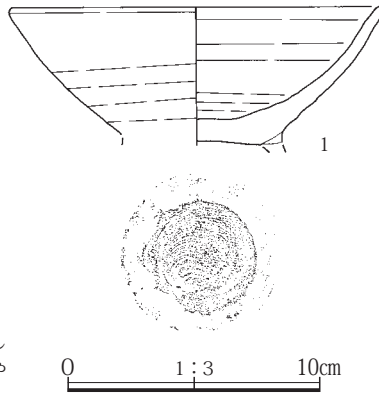
2区122号土坑



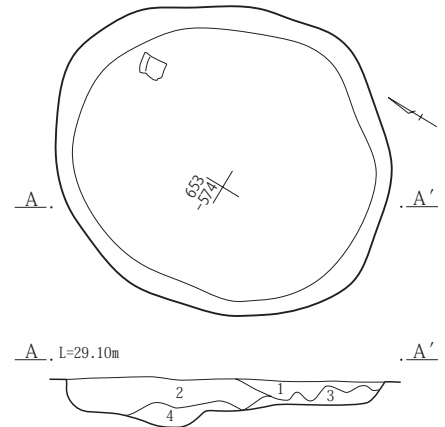
2区122号土坑

1. 黄褐色土 くすんだローム主体に黒色土少し含み、土質粗く、マンガン沈着、しまりやや弱い。
2. 褐灰色土 くすんだローム塊少し含み、しまりやや弱い。
3. 黒褐色土 ローム中塊少し含み、土質均一、しまりやや弱い。

2区122号土坑出土遺物



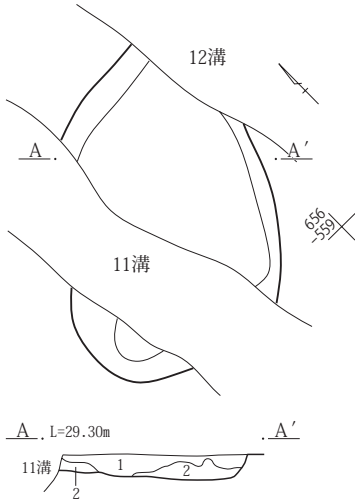
2区123号土坑



2区123号土坑

1. 緑黒色土 ロームわずかに含み、土質均一、固くしまる。
2. 緑黒色土 ローム小中塊少し含み、固くしまる。
3. 灰オリーブ色土 くすんだローム主体に1層含む。
4. 暗緑灰色土 ローム粒・中大塊きわめて多く含み、しまりやや弱い。

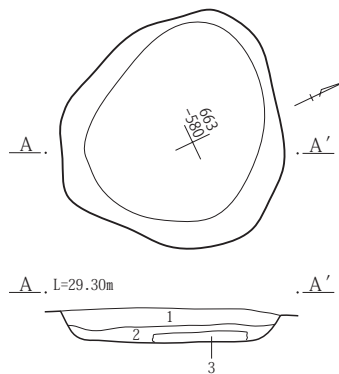
2区124号土坑



2区124号土坑

1. 黒褐色土 ローム小塊少し含む。
2. 黄褐色土 ロームきわめて多く含む。

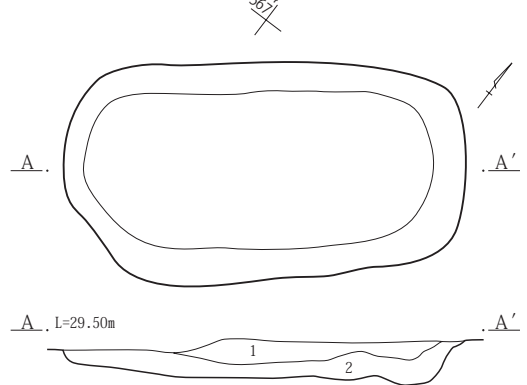
2区125号土坑



2区125号土坑

1. オリーブ黒色土 土質均一、鉄分沈着あり。
2. オリーブ黒色土 くすんだローム含む。
3. 黒色灰層 下位に炭化物・焼土含む。

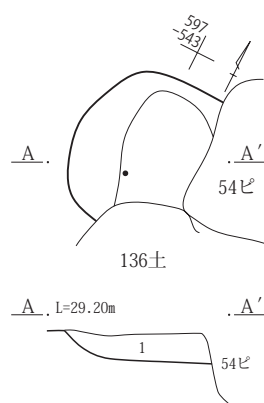
2区129号土坑



2区129号土坑

1. 暗灰色土 灰オリーブ色土大塊・くすんだローム大塊きわめて多く含む。
2. 灰オリーブ色土 1層主体に灰オリーブ色土塊・明黄褐色土塊斑にきわめて多く含む。

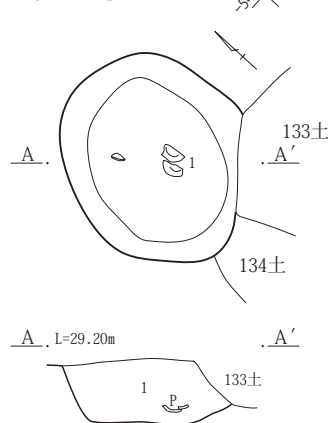
2区131号土坑



2区131号土坑

1. 褐色土 灰含み、ローム粒斑に含む。

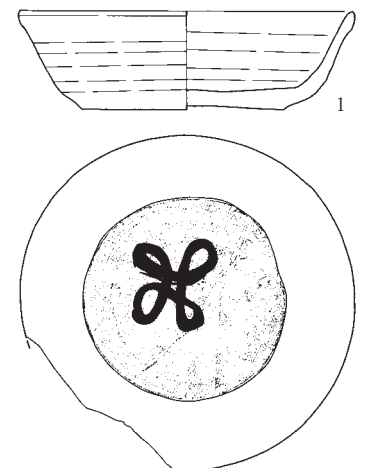
2区132号土坑



2区132号土坑

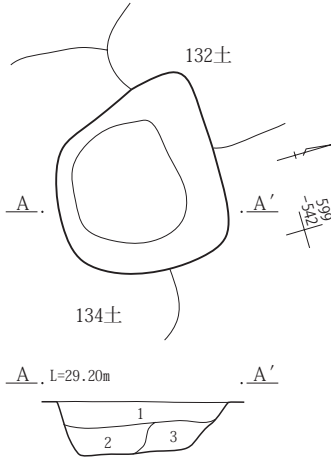
1. 灰色灰層

2区132号土坑出土遺物



第219図 2区122～125・129・131・132号土坑平断面図、122・132号土坑出土遺物

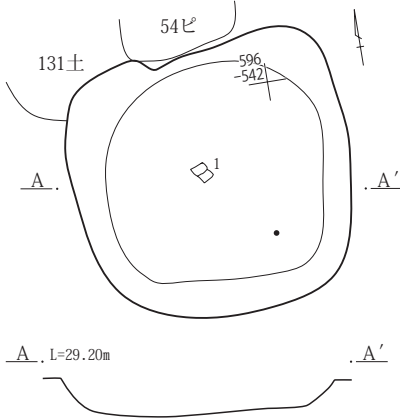
2区133号土坑



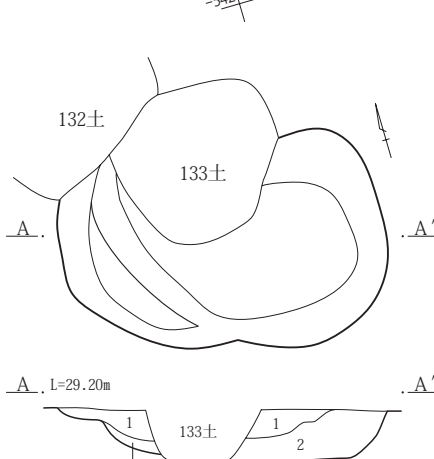
2区133号土坑

1. 褐色土 灰含み、ローム粒斑に含む。
2. 褐色土 1層よりやや暗く、ローム少ない。
3. 褐色土 ローム塊含む。

2区136号土坑



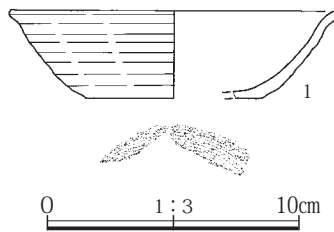
2区134号土坑



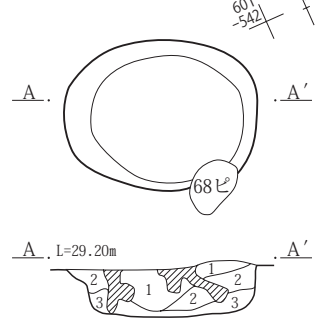
2区134号土坑

1. 褐色土 灰含み、ローム粒斑に含む。
2. 褐色土 1層よりやや暗く、ローム少ない。

2区136号土坑出土遺物



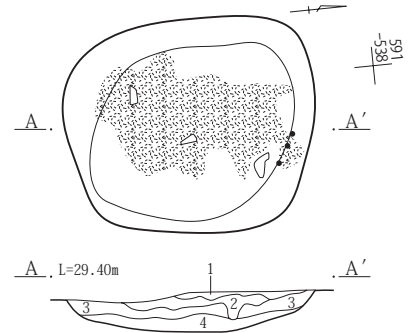
2区135号土坑



2区135号土坑

1. 褐色土 灰含み、ローム粒斑に含む。
2. 褐色土 1層よりやや暗い。
3. 褐色土 1層よりやや暗く、ローム粒少ない。

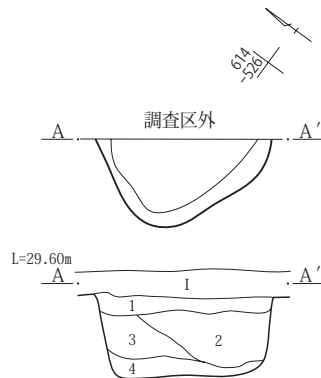
2区138号土坑



2区138号土坑

1. 暗褐色土 焼土粒・焼土塊少し含み、粘性ややあり、しまりやや強い。
2. 黒褐色土 灰多く含み、焼土塊・焼土粒含み、粘性・しまりやや弱い。
3. 暗灰黄色土 ローム粒・焼土粒をわずかに含み、鉄分沈着、しまりやや強い。
4. 黄褐色土 ローム小塊少し含み、鉄分沈着、しまりやや弱い。

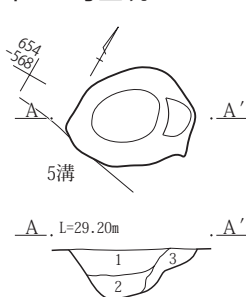
2区139号土坑



2区139号土坑

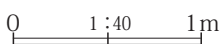
1. 暗褐色土 ローム粒やや多く含み、粘性ややあり、固くしまる。
2. 暗褐色土 ローム粒・小塊多く含み、粘性・しまりやや弱い。
3. 黒褐色土 ローム粒・小塊きわめて多く含み、粘性・しまりやや弱い。
4. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性・しまりやや弱い。

2区137号土坑



2区137号土坑

1. 黄灰色土 くすんだローム少し含む。
2. 黒褐色土 土質均一。
3. 黄褐色土 くすんだローム多く含み、1層少し含み、鉄分沈着あり。



2区141号土坑

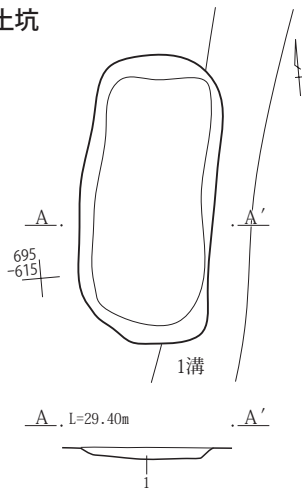


2区141号土坑

1. 褐灰色土 ローム細粒含み、炭化物粒わずかに含む。

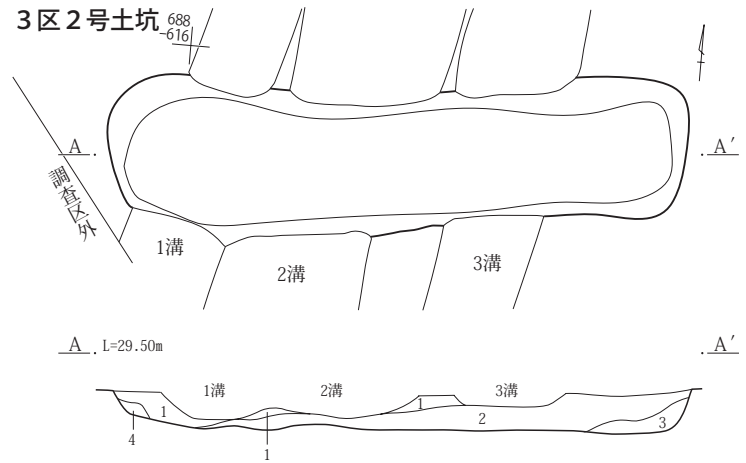
第220図 2区133～139・141号土坑平断面図、136号土坑出土遺物

3区1号土坑



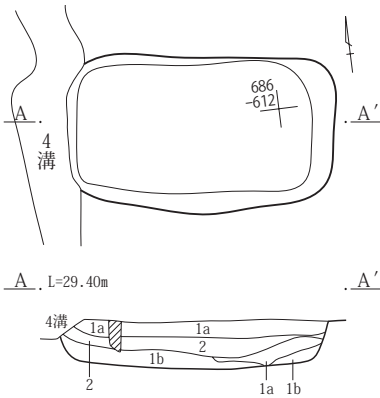
- 3区1号土坑
1. 暗灰黄色土 ローム粒・焼土粒わずかに含む。

3区2号土坑



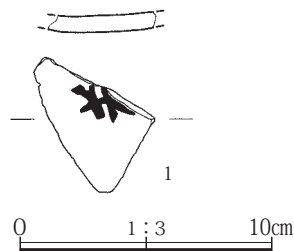
- 3区2号土坑
1. オリーブ黒色土 ローム粒少し含む。
2. 灰オリーブ色土 ローム粒・小中塊きわめて多く含む。
3. オリーブ黒色土 ローム粒わずかに含む。
4. 明黄褐色土 ローム主体。

3区3号土坑

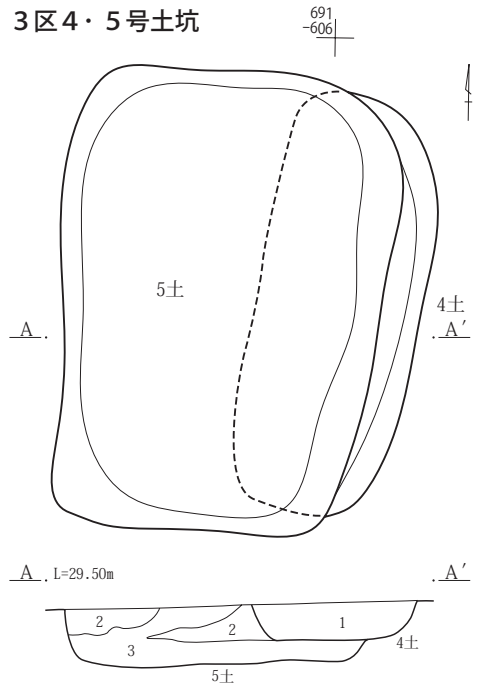


- 3区3号土坑
1a. くすんだローム・ローム粒・小塊の混土、褐灰色土小塊含む。
1b. 1a層よりややローム小塊小さい。
2. 暗黄褐色土 1a層より褐灰色土多く含む。

3区3号土坑出土遺物

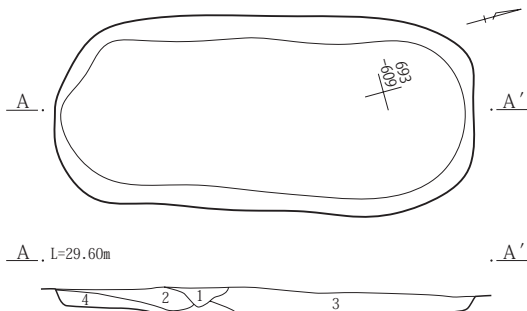


3区4・5号土坑

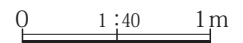


- 3区4・5号土坑
1. 灰オリーブ色土 ローム小中塊少し含む。4号土坑。
2. 黒褐色土 ローム粒・小塊少し含む。5号土坑。
3. 灰オリーブ色土 ローム粒・小塊きわめて多く含む、黒褐色土少し含む。5号土坑。

3区6号土坑

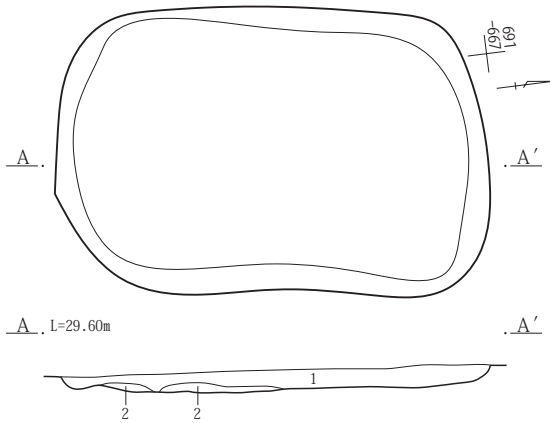


- 3区6号土坑
1. 暗灰黄色土 ローム粒わずかに含む。
2. 灰オリーブ色土 黒色土塊・ローム小塊やや多く含む。
3. オリーブ黒色土 ローム粒・小中塊きわめて多く含む。
4. オリーブ黒色土 ローム粒・小塊わずかに含む。



第221図 3区1～6号土坑平断面図、3号土坑出土遺物

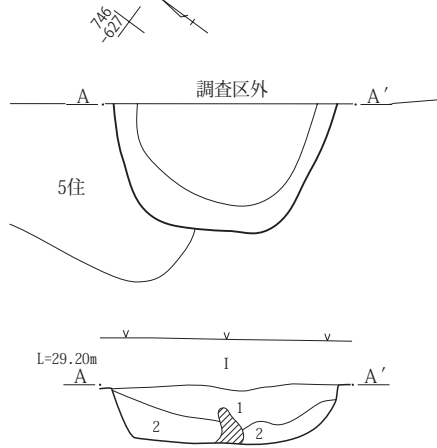
3区7号土坑



3区7号土坑

1. 暗灰黄色土 ローム粒わずかに含む。
2. オリーブ黒色土 ローム粒・小塊わずかに含む。

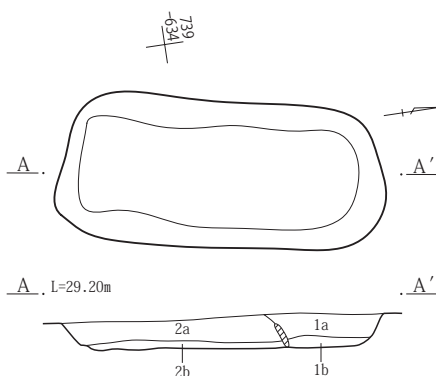
3区13号土坑



3区13号土坑

1. 褐色土 ローム小中塊少し含む。
2. 褐色土 ローム塊多く含む。

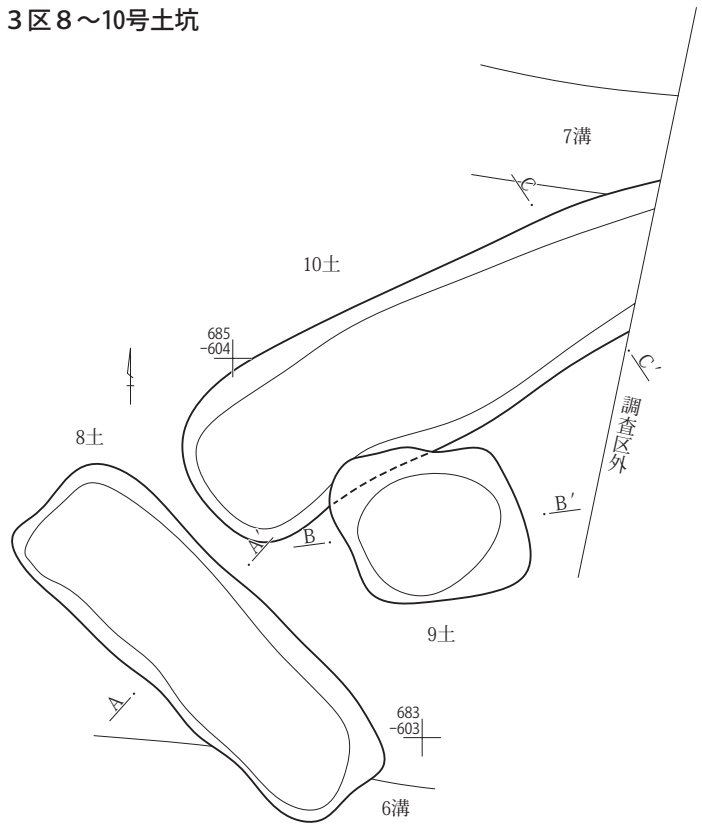
3区14号土坑



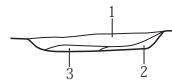
3区14号土坑

- 1a. 褐色土 ローム塊多く含む。
- 1b. 1a層より固くしまる。
- 2a. 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2b. 2a層より固くしまる。

3区8~10号土坑



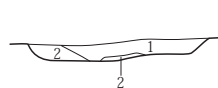
A. L=29.40m



3区8号土坑

1. オリーブ黒色土 土質均一。
2. 黄褐色土 くすんだローム主体。
3. オリーブ黒色土 ローム少し含む。

B. L=29.40m

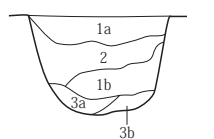


B'

3区9号土坑

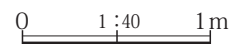
1. オリーブ黒色土 灰色土塊きわめて多く含む。
2. オリーブ色土 くすんだローム含む。

C. L=29.40m



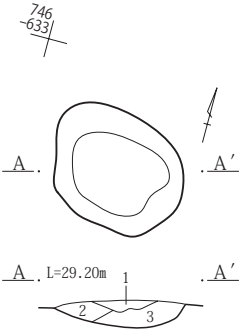
3区10号土坑

- 1a. 灰オリーブ色土 ローム含む。
- 1b. 灰オリーブ色土 ローム粒・中大塊きわめて多く含み、2層少し含む。1a層よりやや明るい。
2. オリーブ黒色土 ロームわずかに含み、土質ほぼ均一。
- 3a. 暗オリーブ褐色土 ローム粒・小塊やや多く含む。
- 3b. 3a層よりローム少なく、やや明るい。



第222図 3区7~10・13・14号土坑平断面図

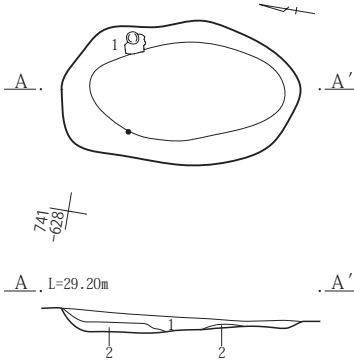
3区15号土坑



3区15号土坑

1. くすんだ黄褐色土 ローム小塊・焼土塊多く含む。
2. ローム塊・黒褐色土の混土。
3. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒わずかに含む。

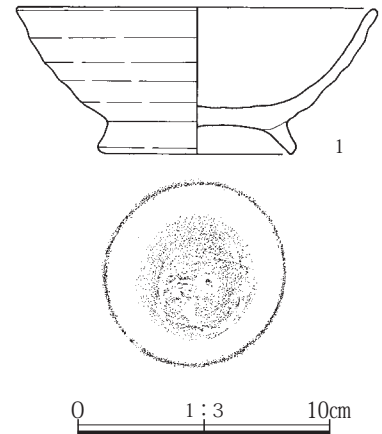
3区16号土坑



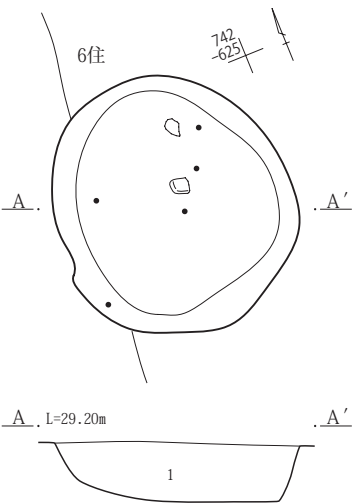
3区16号土坑

1. 褐灰色土 ローム粒わずかに含み、粘性強い。
2. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊少し含む。

3区16号土坑出土遺物



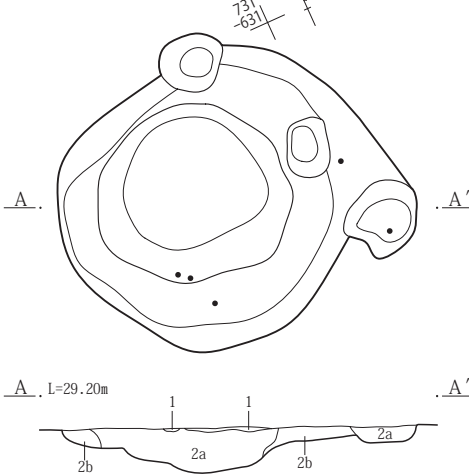
3区17号土坑



3区17号土坑

1. 黒褐色土 ローム細粒・焼土細粒わずかに含む。

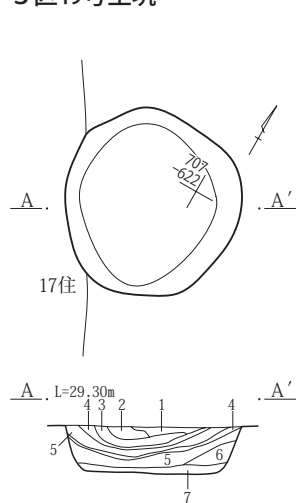
3区18号土坑



3区18号土坑

1. 褐色土 炭化物粒わずかに含む。
- 2a. 褐色土 ローム中小塊多く含み、褐色土塊含み、しまりあり。
- 2b. 2a層よりローム少ない。

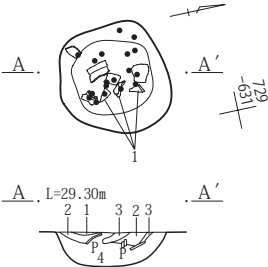
3区19号土坑



3区19号土坑

1. 褐灰色砂質土
2. 褐灰色砂質土 ローム小塊わずかに含む。
3. くすんだ褐色土 ローム小塊含み、炭化物粒・焼土粒わずかに含み、しまりあり。
4. 黒色炭化物層
5. 暗黄褐色土 ローム小塊少し含み、炭化物粒・焼土粒わずかに含み、しまりあり。
6. 褐灰色細砂層
7. 黒褐色土 ローム粒・塊斑に含む。

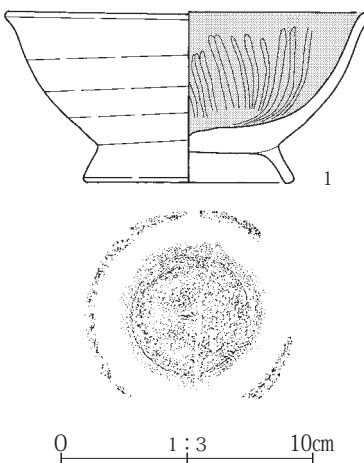
3区21号土坑



3区21号土坑

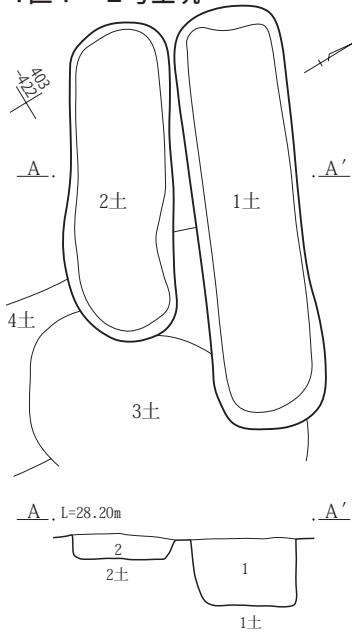
1. 黄褐色ローム塊
2. 暗褐色土 ローム小塊・炭化物粒・焼土粒含む。
3. 黒色炭化物
4. 黒褐色土 白色細粒わずかに含み、土質均一、固くしまる。

3区21号土坑出土遺物



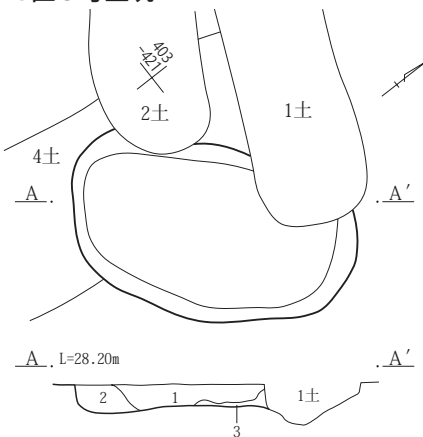
第223図 3区15～19・21号土坑平断面図、16・21号土坑出土遺物

4区1・2号土坑



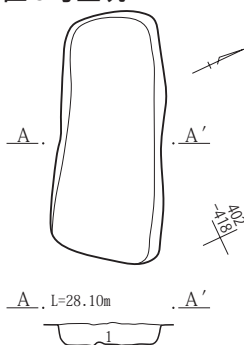
- 4区1・2号土坑
 1. 暗灰黄色土 ローム粒・塊斑にきわめて多く含む。1号土坑。
 2. 褐灰色土 ローム塊少し含む。2号土坑。

4区3号土坑



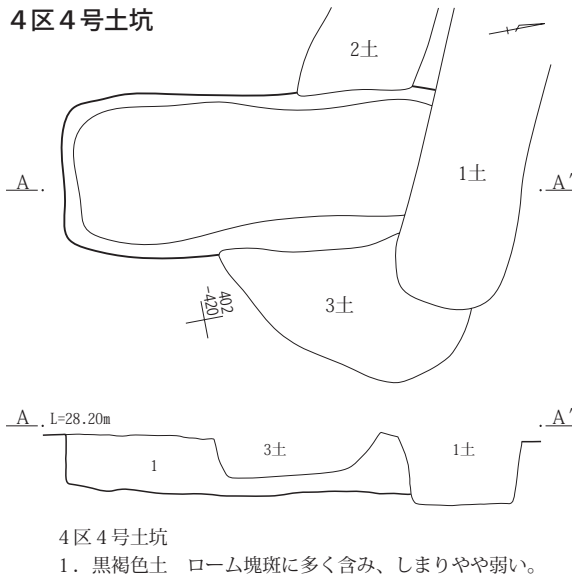
- 4区3号土坑
 1. 褐灰色土 ローム粒少し含む。
 2. 褐灰色土 ローム小中塊多く含む。
 3. 明黄褐色土 ローム主体。

4区6号土坑



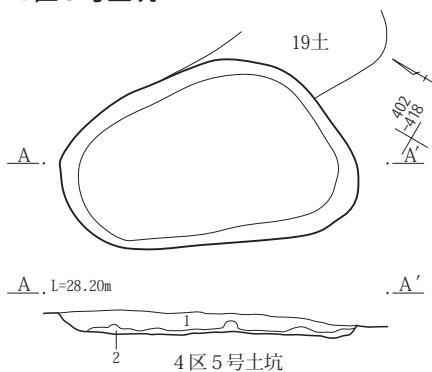
- 4区6号土坑
 1. 褐灰色土 ローム塊斑にきわめて多く含む。

4区4号土坑



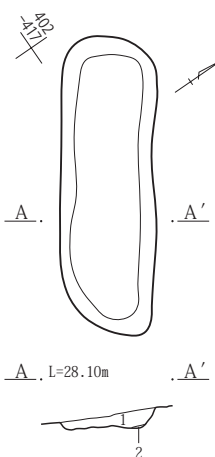
- 4区4号土坑
 1. 黒褐色土 ローム塊斑に多く含む、しまりやや弱い。

4区5号土坑



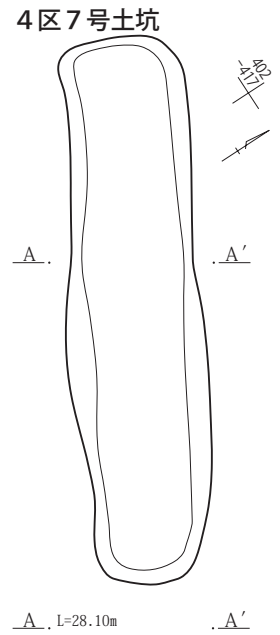
- 4区5号土坑
 1. 褐灰色土 ローム塊少し含む。
 2. 明黄褐色土 ローム主体。

4区8号土坑



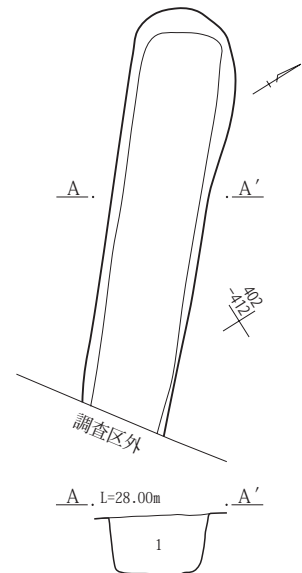
- 4区8号土坑
 1. 褐灰色土 ローム塊少し含む。
 2. 明黄褐色土 ローム主体。

4区7号土坑

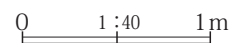


- 4区7号土坑
 1. 褐灰色土 ローム塊斑にきわめて多く含む。

4区9号土坑

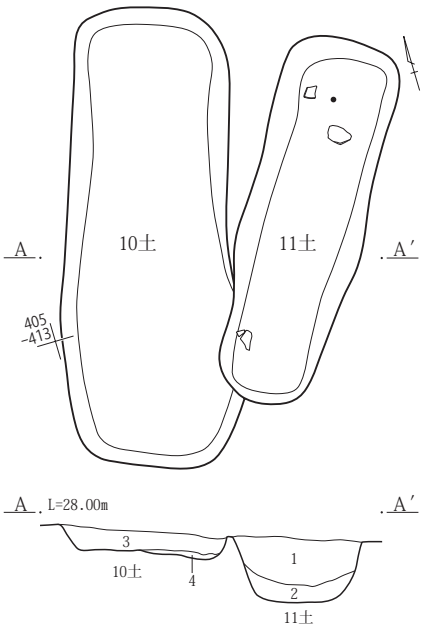


- 4区9号土坑
 1. 褐灰色土 ローム塊斑にきわめて多く含む。



第224図 4区1～9号土坑平断面図

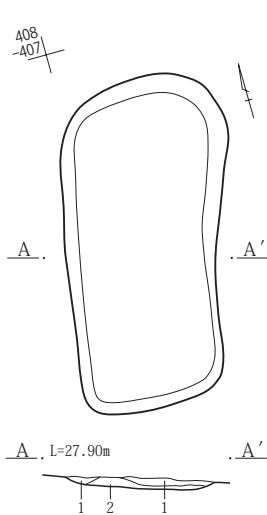
4区10・11号土坑



4区10・11号土坑

1. 褐灰色土 ローム塊斑にきわめて多く含む。11号土坑。
2. 1層よりやや暗く、ローム少ない。11号土坑。
3. 褐灰色土 ローム粒・大塊少し含む。10号土坑。
4. ローム粒・大塊の混土。10号土坑。

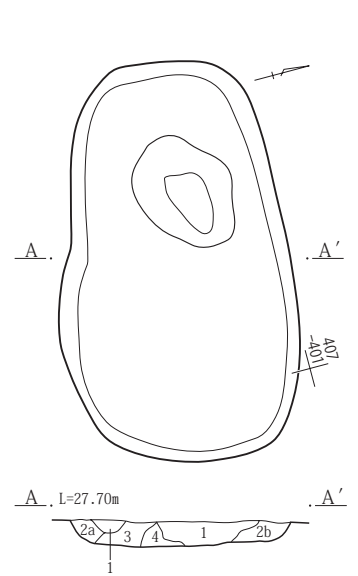
4区13号土坑



4区13号土坑

1. 黄灰色土 くすんだローム含む。
2. ローム大塊・1層の混土。

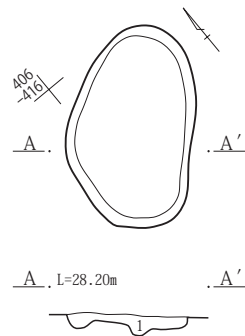
4区14号土坑



4区14号土坑

1. 褐灰色土 ローム塊斑にきわめて多く含む。
- 2a. 褐灰色土 ローム粒やや多く含む。
- 2b. 褐灰色土 ローム大塊きわめて多く含む。
3. 灰オリーブ色土 くすんだローム含む。
4. ローム塊・1層の混土。

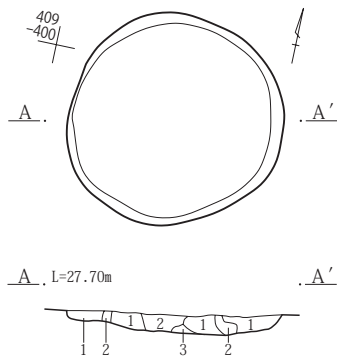
4区12号土坑



4区12号土坑

1. 褐灰色土 ロームきわめて多く含む。

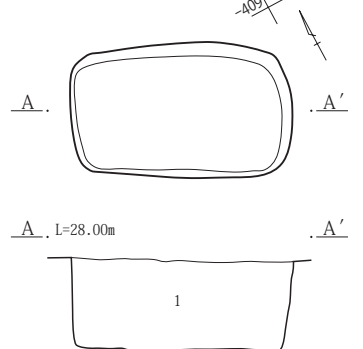
4区15号土坑



4区15号土坑

1. 灰オリーブ色土 くすんだローム含む。
2. オリーブ黒色土 ローム粒・小塊わずかに少し含む。
3. オリーブ色土 ローム粒きわめて多く含む。

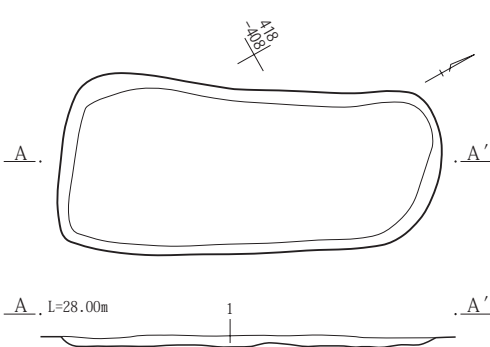
4区16号土坑



4区16号土坑

1. 褐灰色土 ローム塊きわめて多く含む。

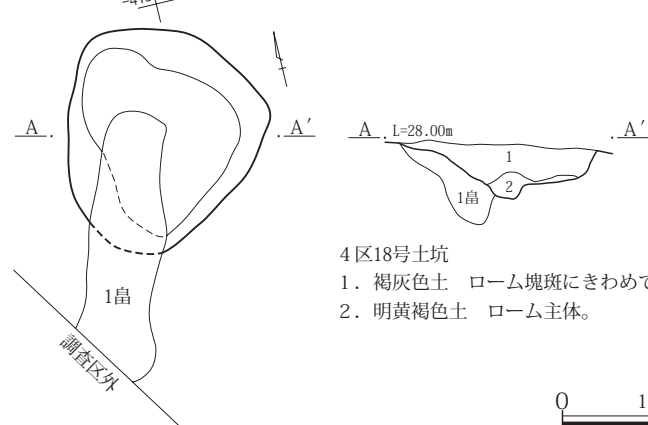
4区17号土坑



4区17号土坑

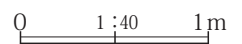
1. 褐灰色土 ローム塊少し含む。

4区18号土坑



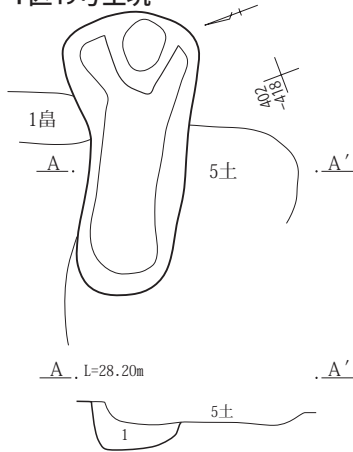
4区18号土坑

1. 褐灰色土 ローム塊斑にきわめて多く含む。
2. 明黄褐色土 ローム主体。



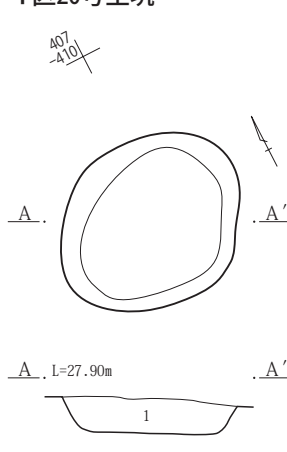
第225図 4区10～18号土坑平断面図

4区19号土坑



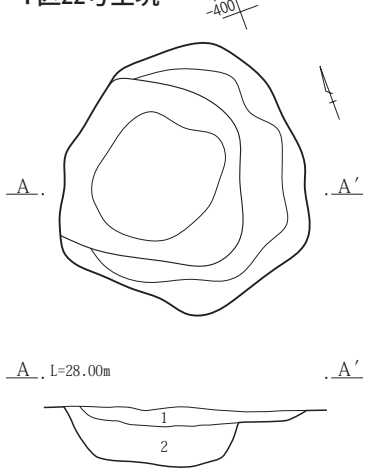
- 4区19号土坑
1. 褐灰色土 ローム塊少し含む。

4区20号土坑



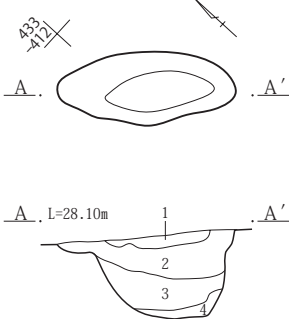
- 4区20号土坑
1. 暗褐色土 ローム小中塊多く含み、炭化物や多く含み、粘性しまりやや強い。

4区22号土坑



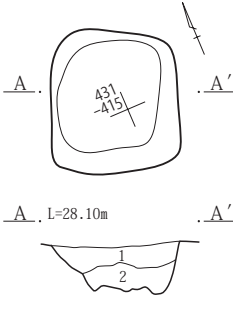
- 4区22号土坑
1. 暗灰黄色土 ローム粒・小塊少し含み、しまり強い。
2. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一、しまりやや弱い。

4区23号土坑



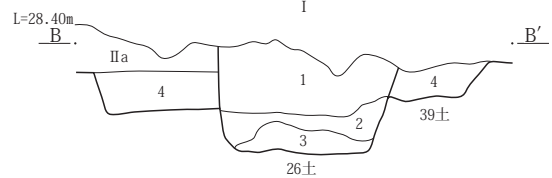
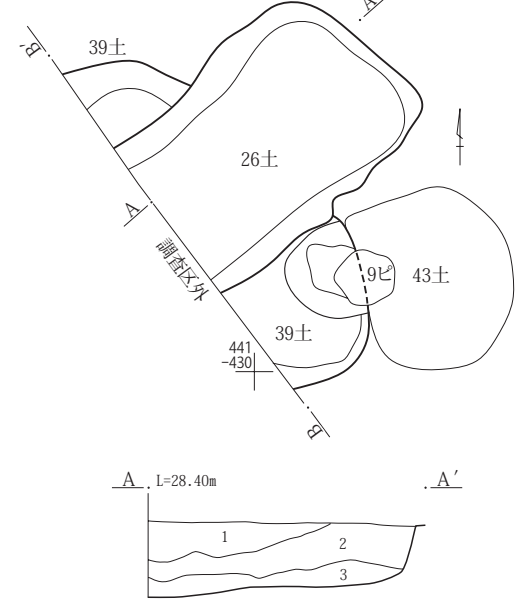
- 4区23号土坑
1. 黒褐色土 白色細粒・暗褐色土大塊や多く含み、粘性やや強く、しまり強い。
2. 暗褐色土 ローム塊・黒褐色土中大塊多く含み、粘性やや強く、しまり強い。
3. 暗褐色土 ローム大塊やや多く含み、粘性やや強く、しまり強い。
4. 褐色土 ローム中塊少し含み、粘性・しまりやや強い。

4区24号土坑



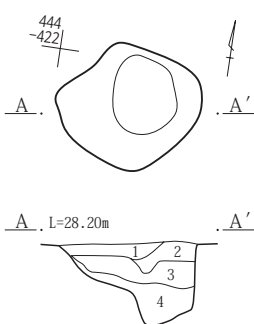
- 4区24号土坑
1. 暗灰黄色土 ローム小塊や多く含み、しまりやや弱い。
2. くすんだローム・1層の混土、しまり弱い。

4区26・39号土坑



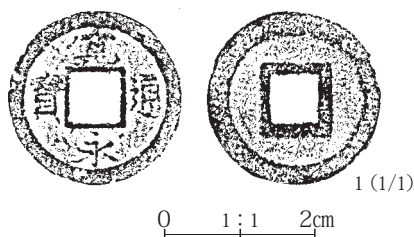
- 4区26・39号土坑
1. 黒褐色土 ローム塊わずかに含み、土質ほぼ均一。26号土坑
2. オリーブ褐色土 ローム塊きわめて多く含む。26号土坑。
3. 黒色土 土質均一。26号土坑。
4. 暗褐色土 ローム粒多く含み、しまりやや弱い。39号土坑。

4区25号土坑



- 4区25号土坑
1. 褐灰色土 ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一、しまりやや強い。
2. 褐灰色土 ローム大塊やや多く含み、しまりやや強い。
3. 褐灰色土 ローム塊きわめて多く含み、しまりやや強い。
4. 褐灰色土 1～3層よりやや暗いローム塊きわめて多く含み、しまりやや弱い。

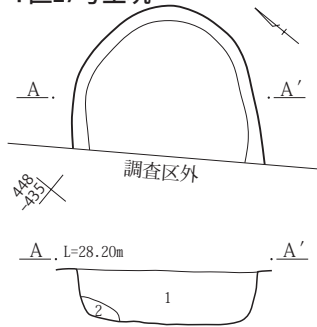
4区25号土坑出土遺物



第226図 4区19・20・22～26・39号土坑平断面図、25号土坑出土遺物

0 1:40 1m

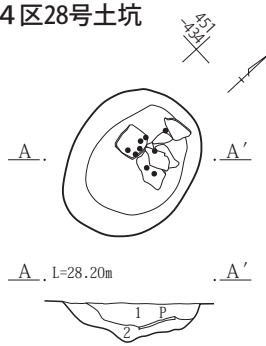
4区27号土坑



4区27号土坑

1. 黒褐色土 ローム小大塊やや多く含む。
2. 明黄褐色土 ローム主体。

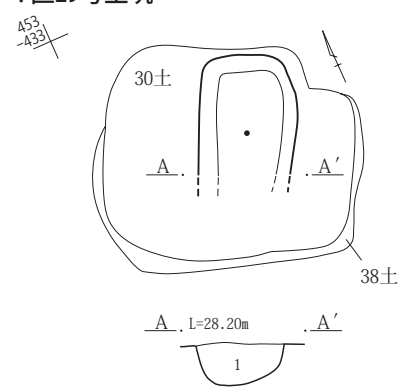
4区28号土坑



4区28号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、しまり強い。
2. 黒褐色土 ローム粒・塊きわめて多く含み、しまり弱い。

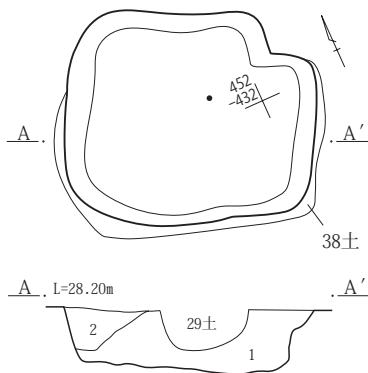
4区29号土坑



4区29号土坑

1. 黒褐色土 ローム小塊わずかに含み、しまりやや弱い。

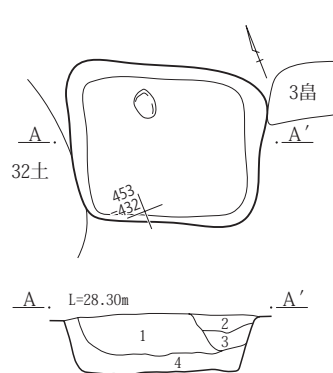
4区30号土坑



4区30号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒・小塊多く含む。
2. 褐灰色土 ローム粒わずかに含み、土質均一、しまりやや強い。

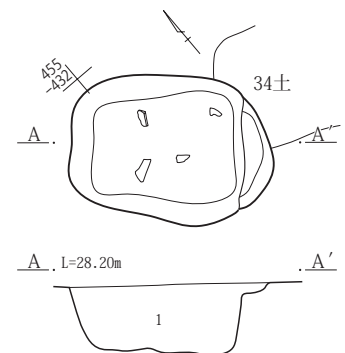
4区31号土坑



4区31号土坑

1. 褐灰色土・ロームの混土。
2. 褐灰色土 土質均一。
3. 黄褐色土 ローム粒きわめて多く含む。
4. 灰黄褐色土 ローム粒きわめて多く含む。

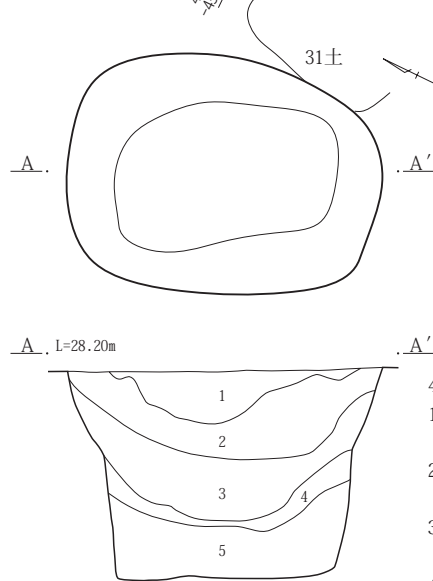
4区33号土坑



4区33号土坑

1. 灰黄褐色土 ローム塊きわめて多く含む。

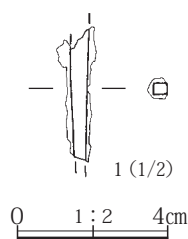
4区32号土坑



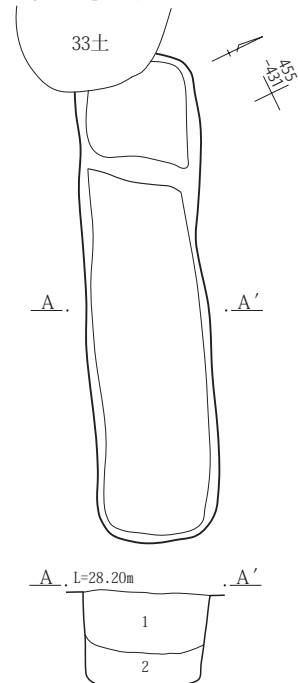
4区32号土坑

1. 黒色土 ローム粒・小塊少し含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム粒・小塊少し含み、粘性やや強い、しまりやや弱い。
3. 黒褐色土 ローム中大塊やや多く含み、粘性・しまりやや弱い。
4. 褐色土 くすんだローム主体に黒褐色土塊やや多く含み、粘性・しまりやや弱い。
5. 黒褐色土 ローム塊多く含み、粘性しまり弱い。

4区31号土坑出土遺物



4区34号土坑

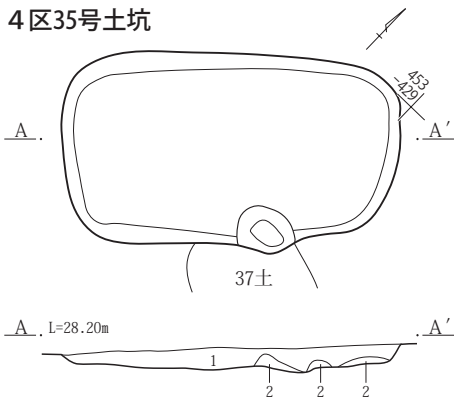


4区34号土坑

1. 黒褐色土 くすんだローム粒・塊わずかに含み、しまりやや強い。
2. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一、しまり弱く、粘性あり。

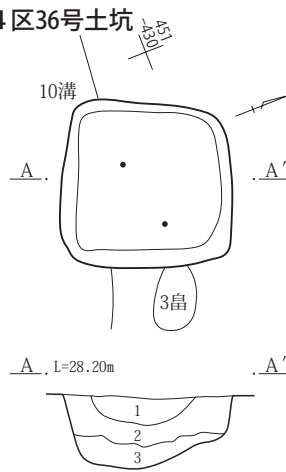
第227図 4区27～34号土坑平断面図、31号土坑出土遺物

4区35号土坑



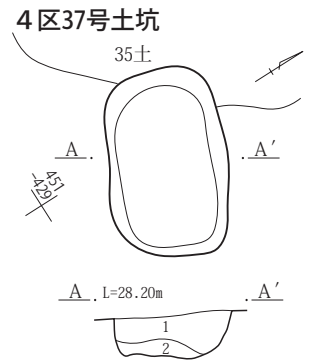
- 4区35号土坑
1. 黒褐色土 ローム粒少し含み、しまりやや弱い。
 2. 明黄褐色土 ローム主体。

4区36号土坑



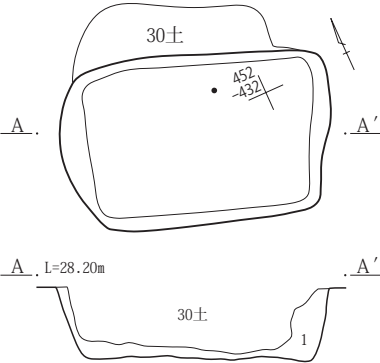
- 4区36号土坑
1. 灰黄褐色土 ローム粒・小塊わずかに含み、しまりやや弱い。
 2. 灰黄褐色土 くすんだローム粒・塊きわめて多く含み、褐灰色土塊含み、しまりやや弱い。
 3. 固いローム大塊・2層の混土。

4区37号土坑



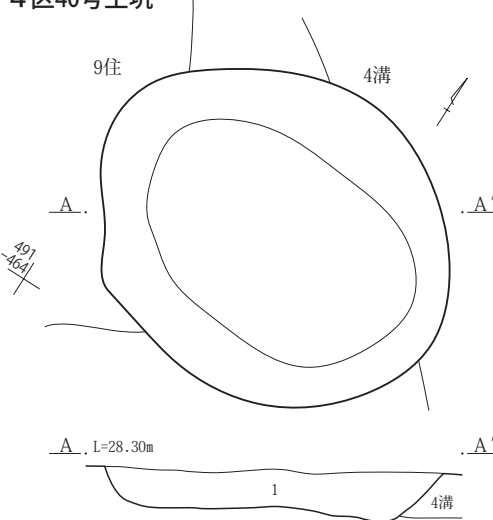
- 4区37号土坑
1. 灰黄褐色土 くすんだローム粒・塊きわめて多く含み、褐灰色土塊含み、しまりやや弱い。
 2. 灰黄褐色土 ローム粒・小塊少し含み、しまりやや弱い。

4区38号土坑



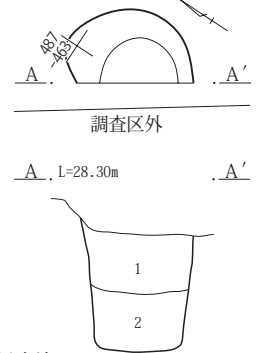
- 4区38号土坑
1. 黒褐色土 ローム粒・小塊多く含み、しまりやや弱い。

4区40号土坑



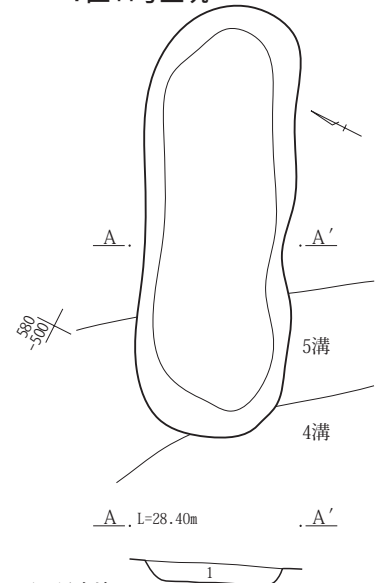
- 4区40号土坑
1. 暗褐色土 ローム中大塊多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。

4区41号土坑



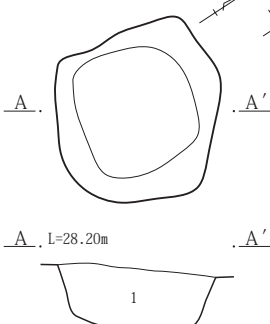
- 4区41号土坑
1. 黒褐色土 ローム細粒わずかに含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
 2. 黒褐色土 ローム細粒わずかに含み、粘性やや弱い、しまり弱い。

4区44号土坑

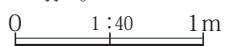


- 4区44号土坑
1. 暗褐色土 ローム粒・小塊やや多く含み、粘性・しまりやや弱い。

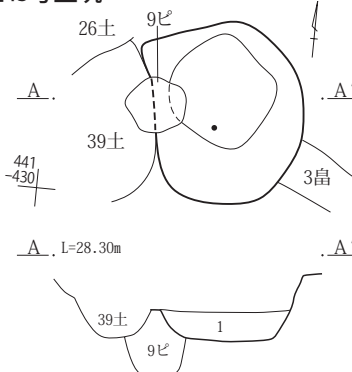
4区42号土坑



- 4区42号土坑
1. 黒褐色土 ローム塊多く含み、しまりやや弱い。



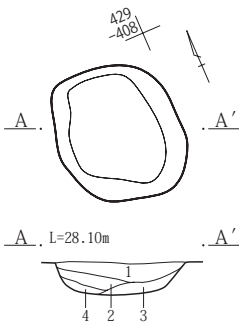
4区43号土坑



- 4区43号土坑
1. 黒褐色土 ローム粒・小塊わずかに含み、しまりやや強い。

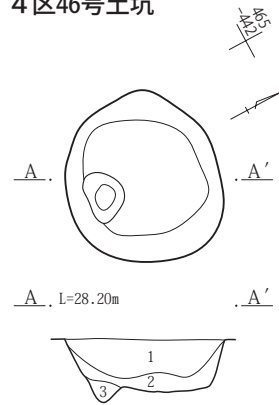
第228図 4区35～38・40～44号土坑平断面図

4区45号土坑



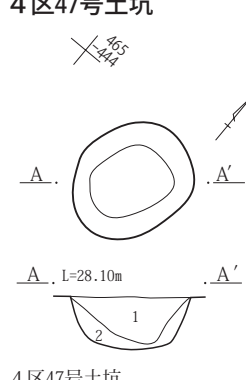
- 4区45号土坑
1. 褐灰色土 ローム粒・小塊少し含み、しまり強い。
 2. 黒褐色土 土質均一。
 3. 黒褐色土 ローム粒・小塊少し含む。
 4. 明黄褐色土 ローム主体。

4区46号土坑



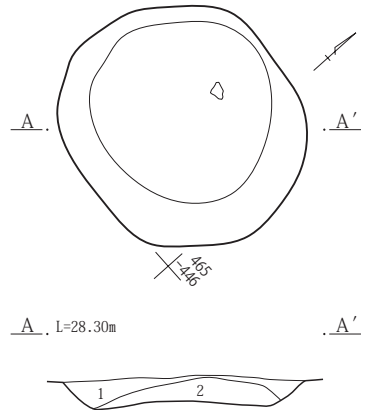
- 4区46号土坑
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
 2. 暗褐色土 ローム中塊多く含み、粘性・しまりやや強い。
 3. にぶい黄褐色土 粘性強く、しまりやや強い。崩落したローム。

4区47号土坑



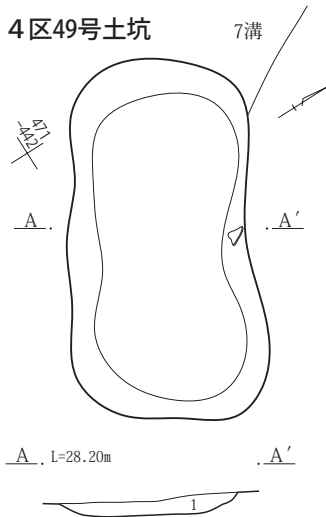
- 4区47号土坑
1. 暗褐色土 ローム粒やや多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
 2. 暗褐色土 ローム粒・中塊多く含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。

4区48号土坑



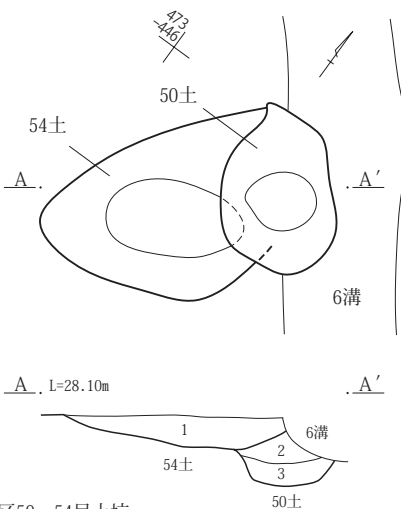
- 4区48号土坑
1. 暗褐色土 ローム粒・小塊少し含み、粘性・しまりやや弱い。
 2. 黒褐色土 ローム小塊少し含み、粘性弱く、しまりやや弱く、細砂質。

4区49号土坑



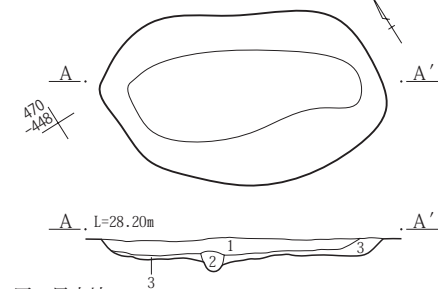
- 4区49号土坑
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性・しまりやや弱い。

4区50・54号土坑



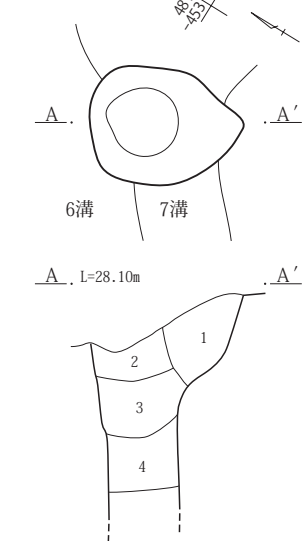
- 4区50・54号土坑
1. 暗褐色土 ローム粒少し含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。54号土坑。
 2. 褐色土 ローム粒少し含み、粘性・しまりやや強い。50号土坑。
 3. 褐色土 ローム粒・暗褐色土中塊少し含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。50号土坑。

4区51号土坑



- 4区51号土坑
1. 暗褐色土 ローム粒やや多く含み、粘性・しまりやや強い。
 2. 黒褐色土 ローム粒少し含み、粘性・しまりやや弱い。
 3. 褐色土 くずれたローム主体に暗褐色土小塊やや多く含み、粘性・しまりやや強い。

4区52号土坑

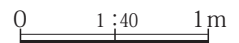
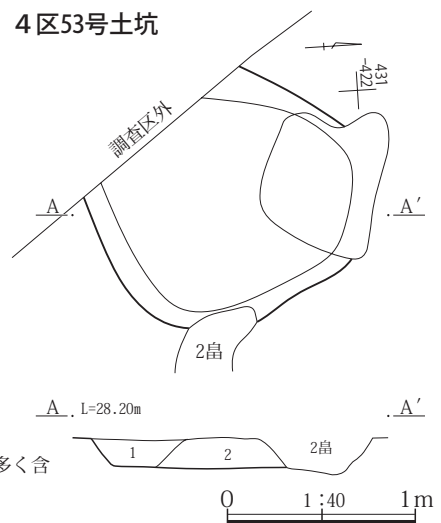


- 4区52号土坑
1. にぶい褐色土 ローム粒少し含み、粘性・しまりやや弱い。
 2. 暗褐色土 ローム粒少し含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
 3. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性やや弱く、しまり弱い。
 4. 黒褐色土 ローム粒ごくわずかに含み、粘性やや弱く、しまりきわめて弱い。

4区53号土坑

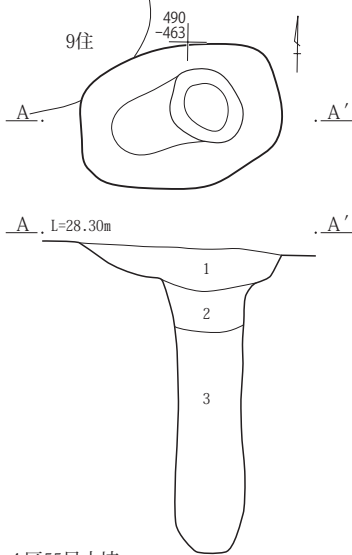
1. 黒褐色土 ローム粒・中塊きわめて多く含み、しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム塊わずかに含む。

4区53号土坑



第229図 4区45～54号土坑平断面図

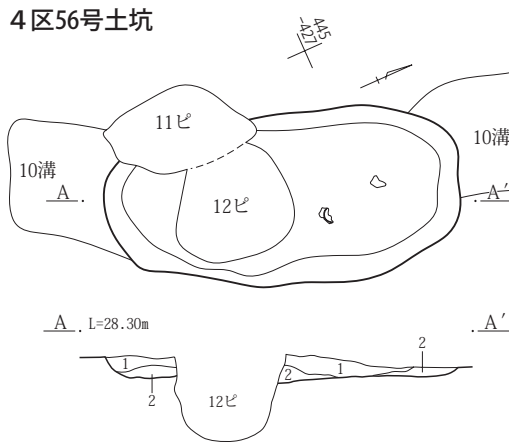
4区55号土坑



4区55号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒・小塊やや多く含み、粘性・しまりやや強い。
2. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性・しまりやや強い。
3. 黒褐色土 ローム粒ごくわずかに含み、粘性・しまりやや弱い。

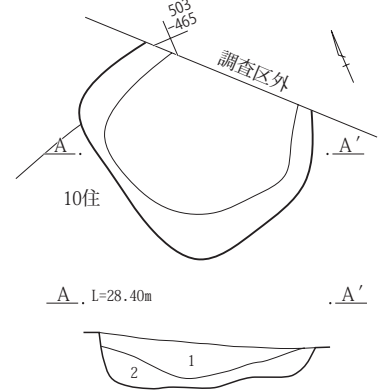
4区56号土坑



4区56号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒少し含み、しまりやや強い。
2. 黄褐色土 くすんだローム主体に1層少し含み、しまりやや弱い。

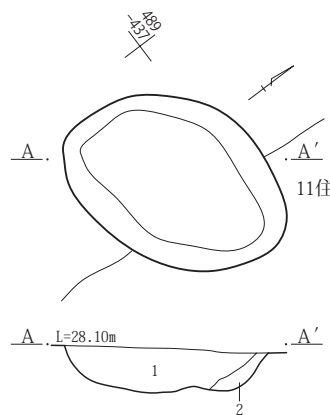
4区57号土坑



4区57号土坑

1. 黒褐色土 ローム小塊少し含み、粘性・しまりやや弱い。
2. 暗褐色土 ローム中大塊多く含み、粘性・しまりやや弱い。

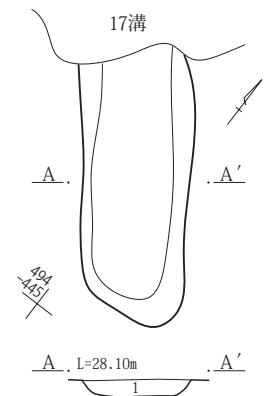
4区63号土坑



4区63号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒・小塊多く含み、しまり強い。
2. 黒褐色土 1層よりやや暗く、ローム少なく、しまりやや弱い。

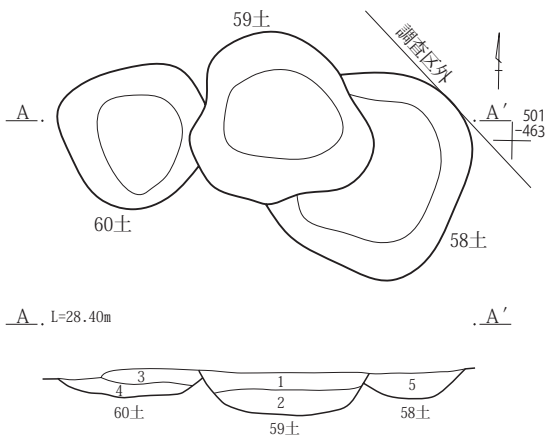
4区64号土坑



4区64号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒少し含み、しまり強い。

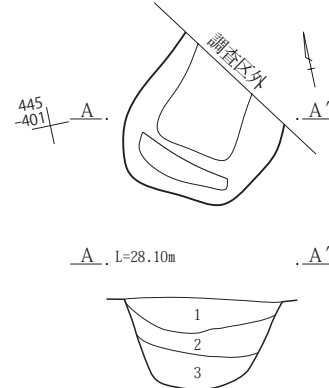
4区58・59・60号土坑



4区58・59・60号土坑

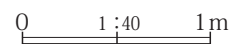
1. 暗褐色土 ローム粒・小塊やや多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。59号土坑。
2. 暗褐色土 ローム中大塊多く含み、粘性・しまりやや弱い。59号土坑。
3. 暗褐色土 ローム粒・小塊少し含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。60号土坑。
4. 暗褐色土 ローム中大塊多く含み、粘性・しまりやや弱い。60号土坑。
5. 暗褐色土 ローム粒少し含み、焼土粒わずかに含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。58号土坑。

4区67号土坑



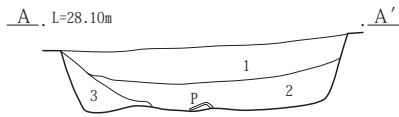
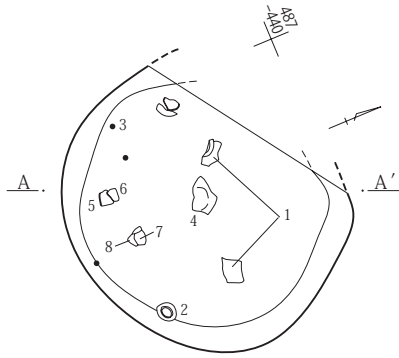
4区67号土坑

1. 灰黄褐色土 ローム塊少し含み、しまりきわめて弱い。
2. 暗灰黄色土 ローム粒・小塊やや多く含み、しまり弱い。
3. にぶい黄褐色土 固いローム塊主体、しまりやや強い。



第230図 4区55～60・63・64・67号土坑平断面図

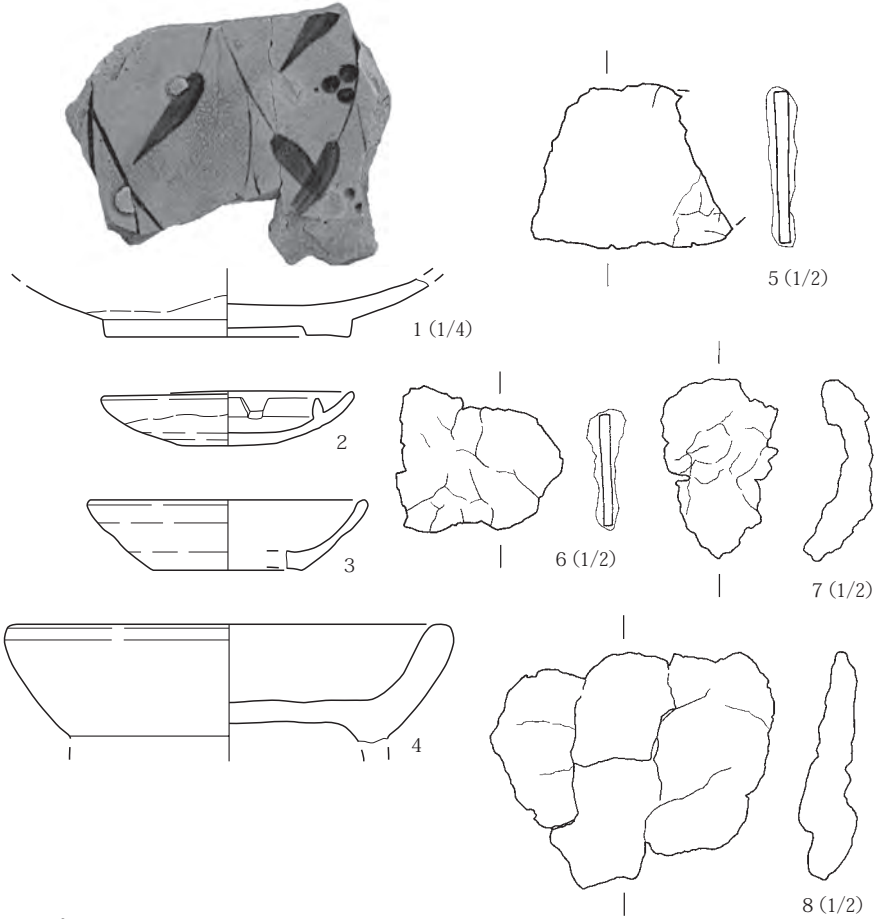
4区62号土坑



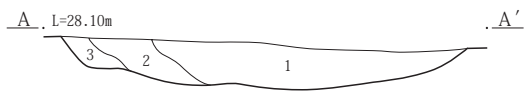
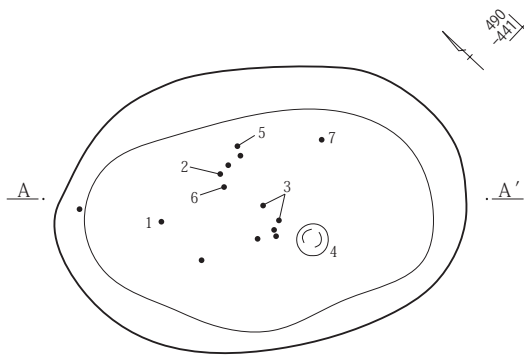
4区62号土坑

1. 暗灰黄色土 ローム粒・塊・褐灰色土塊きわめて多く含み、しまり強い。
2. 暗灰黄色土 1層よりローム塊・褐灰土塊大きく、やや暗く、しまり強い。
3. にぶい黄褐色土 ローム粒・小塊きわめて多く含み、しまり強い。

4区62号土坑出土遺物



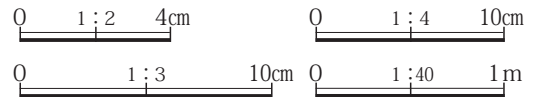
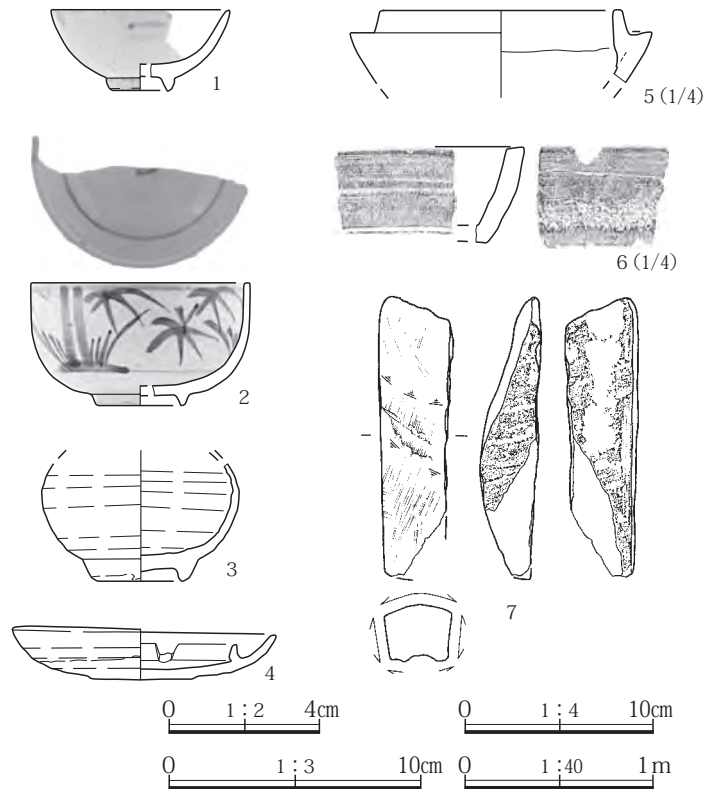
4区65号土坑



4区65号土坑

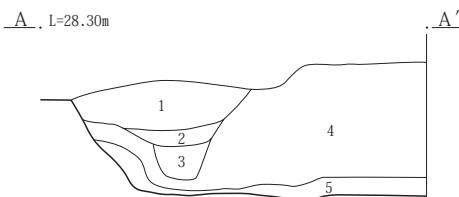
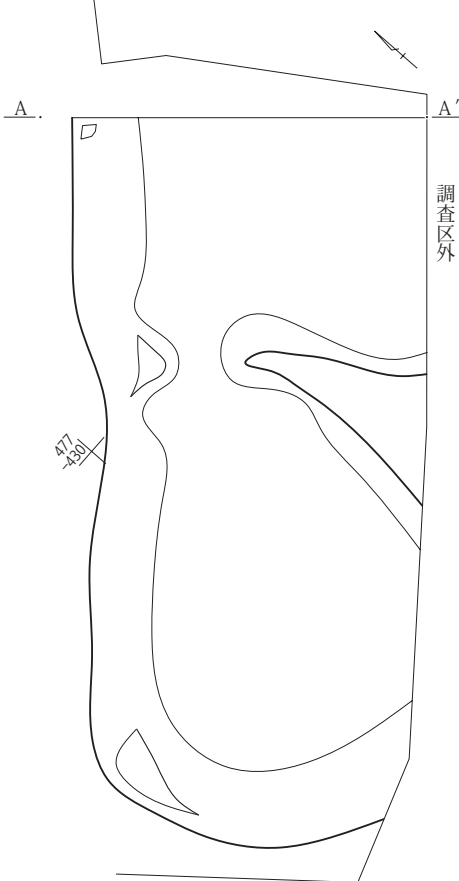
1. 暗褐色土 ローム粒少し含み、しまり強い。
2. 暗褐色土 土質均一、しまり強い。
3. にぶい黄褐色土 ローム塊きわめて多く含み、粘性あり。

4区65号土坑出土遺物

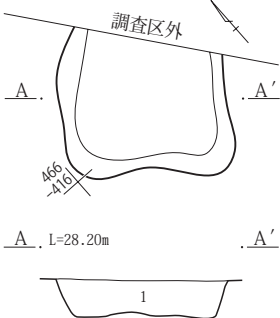


第231図 4区62・65号土坑平断面図、出土遺物

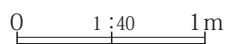
4区66号土坑



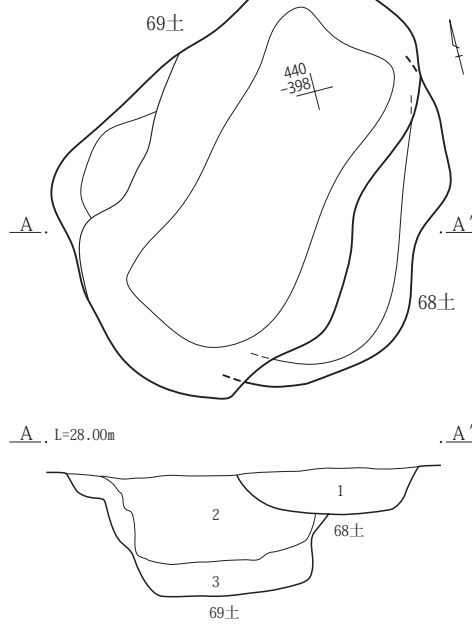
4区70号土坑



- 4区70号土坑
1. 黒褐色土 ローム粒多く含み、しまりやや強い。



4区68・69号土坑

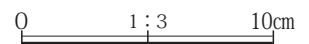


- 4区68・69号土坑
1. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一。68号土坑。
 2. 暗褐色土 ローム粒少し含み、しまりやや強い。69号土坑。
 3. にぶい黄褐色土 固いローム塊含み、しまりやや弱い。69号土坑。

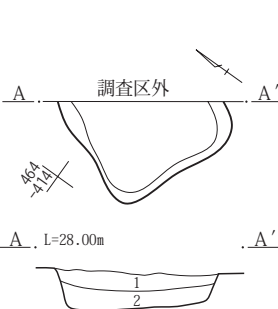
4区66号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、しまり強い。
2. 黒褐色土 ローム塊やや多く含む。
3. 黒褐色土 ローム大塊少し含み、ローム粒わずかに含み、しまり弱い。
4. にぶい黄褐色土 ローム粒・塊・黒褐色土塊きわめて多く含み、しまりやや強い。
5. 灰黄褐色土 土質均一、粘性あり、しまり強い。

4区68号土坑出土遺物

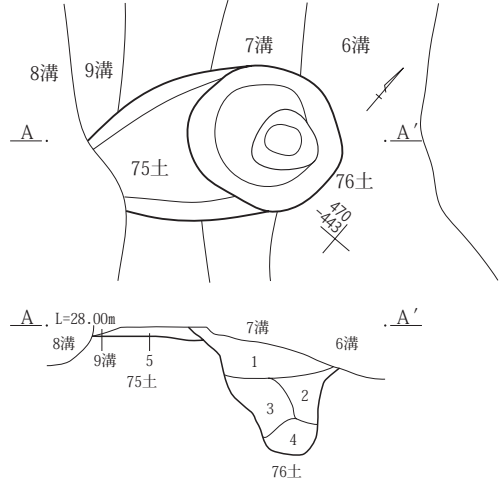


4区74号土坑



- 4区74号土坑
1. 暗褐色土 ローム塊やや多く含み、しまり強い。
 2. 暗褐色土 黒褐色土塊・ローム塊きわめて多く含み、しまり強い。

4区75・76号土坑

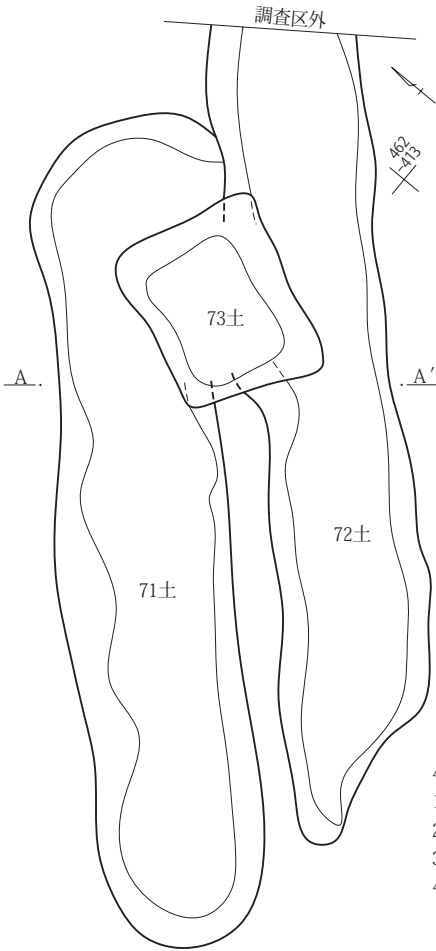


4区75・76号土坑

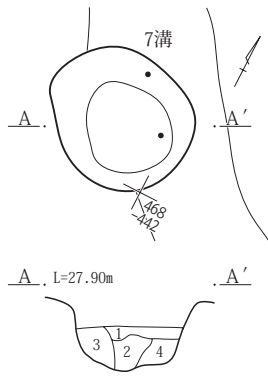
1. 褐色土 ローム粒・暗褐色土塊多く含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。76号土坑。
2. 暗褐色土 ローム粒少し含み、粘性・しまりやや弱い。76号土坑。
3. 褐色土 ローム中大塊多く含み、粘性・しまりやや弱い。76号土坑。
4. 暗褐色土 ローム粒少し含み、粘性・しまり弱い。76号土坑。
5. 暗ローム・暗褐色土の混土、粘性やや強く、しまりやや弱い。75号土坑。

第232図 4区66・68～70・74～76号土坑平断面図、68号土坑出土遺物

4区71・72・73号土坑



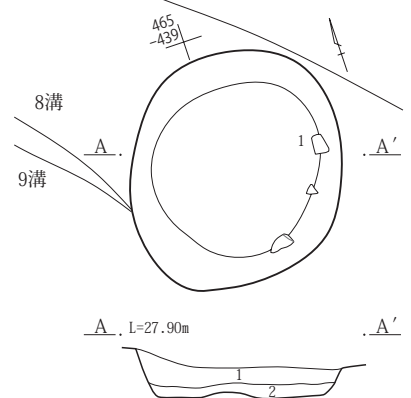
4区77号土坑



4区77号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒少し含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム粒・小塊やや多く含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
3. 暗褐色土 黒褐色土小塊・ローム粒少し含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
4. にぶい黄褐色土 ローム中大塊多く含み、粘性・しまりやや弱い。

4区78号土坑



4区78号土坑

1. 黒褐色土 ローム小中塊やや多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
2. にぶい黄褐色土 ローム中大塊多く含み、粘性・しまりやや弱い。

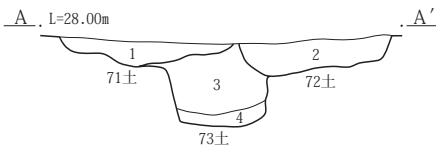
4区78号土坑出土遺物



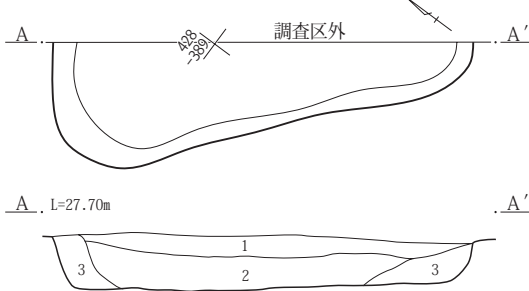
0 1:4 10cm 1(1/4)

4区71・72・73号土坑

1. 灰黄褐色土 ローム粒・塊少し含み、しまり強い。71号土坑。
2. 灰黄褐色土 ローム粒・塊わずかに含み、しまり強い。72号土坑
3. 黒褐色土 ローム塊多く含み、しまりやや弱い。73号土坑。
4. 黒褐色土 ローム塊わずかに含み、土質ほぼ均一、しまり弱い。73号土坑。



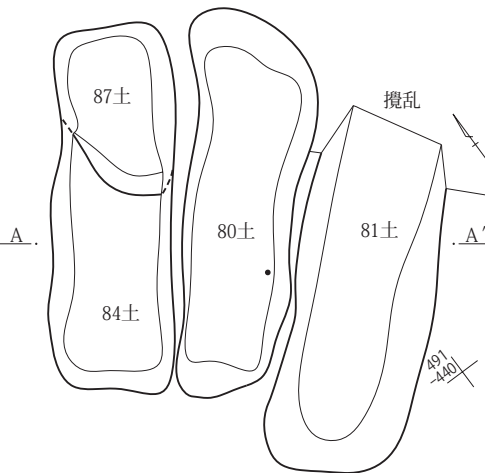
4区79号土坑



4区79号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、しまり強い。
2. 暗褐色土 ローム粒少し含み、しまり強い。
3. にぶい黄褐色土 ローム粒・塊多く含み、しまりやや弱い。

4区80・81・84・87号土坑



4区80・81・84・87号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒・塊少し含み、しまり強い。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊きわめて多く含み、しまり強い。
3. 黒褐色土 土質均一、しまりやや弱く、粘性ややあり。
4. 黄褐色土 固いローム塊多く含み、しまり弱く崩れやすい。

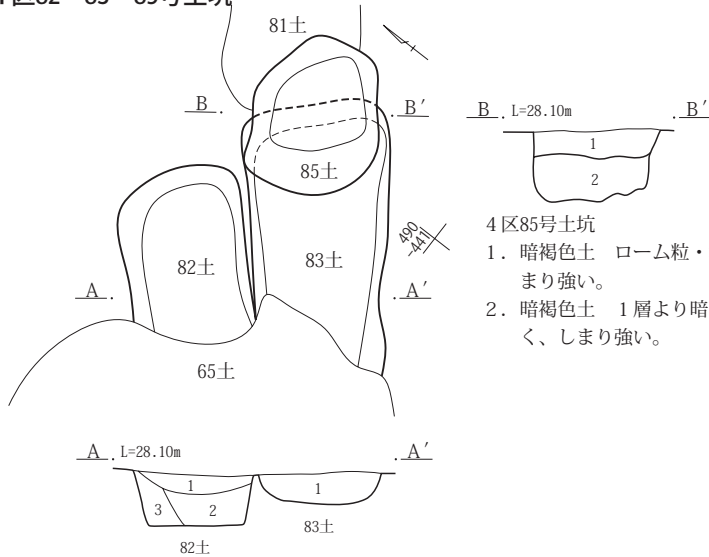
4区80号土坑出土遺物



0 1:3 10cm
0 1:40 1m

第233図 4区71～73・77～81・84・87号土坑平面断面図、78・80号土坑出土遺物

4区82・83・85号土坑

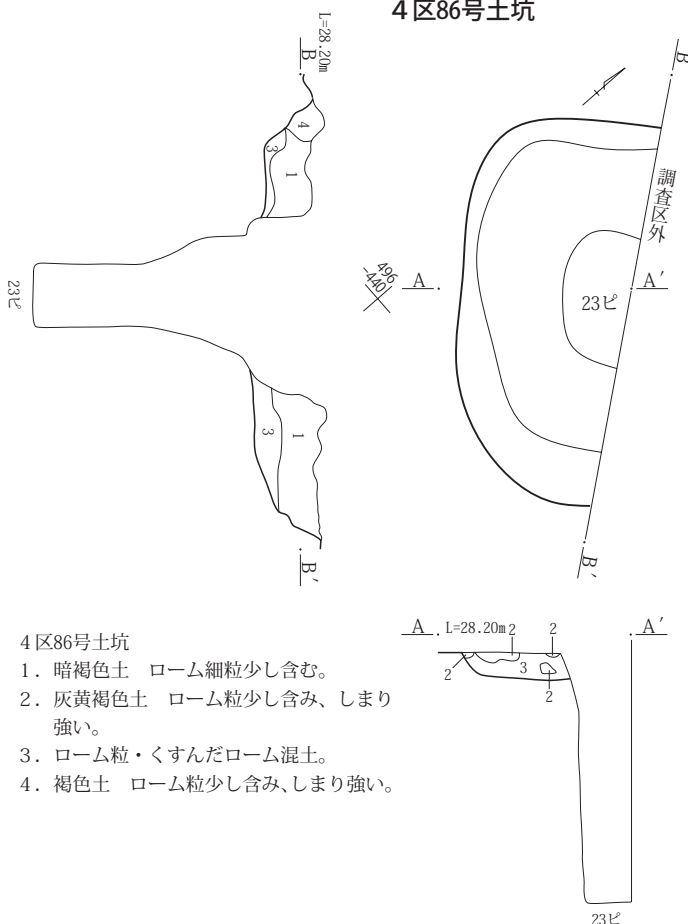


- 4区85号土坑
1. 暗褐色土 ローム粒・塊少し含み、しまり強い。
 2. 暗褐色土 1層より暗くローム塊少なく、しまり強い。

4区82・83号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒・塊少し含み、しまり強い。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊きわめて多く含み、しまり強い。
3. 暗褐色土・ロームの混土、しまり強い。

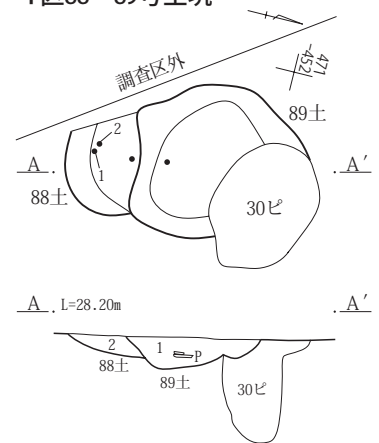
4区86号土坑



4区86号土坑

1. 暗褐色土 ローム細粒少し含む。
2. 灰黄褐色土 ローム粒少し含み、しまり強い。
3. ローム粒・くすんだローム混土。
4. 褐色土 ローム粒少し含み、しまり強い。

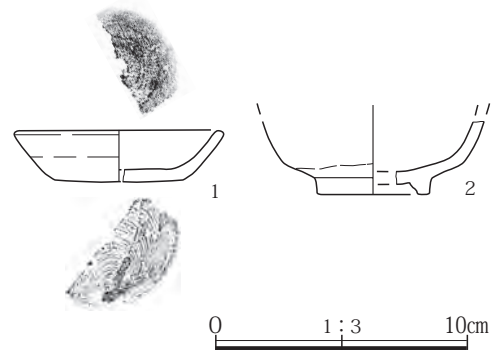
4区88・89号土坑



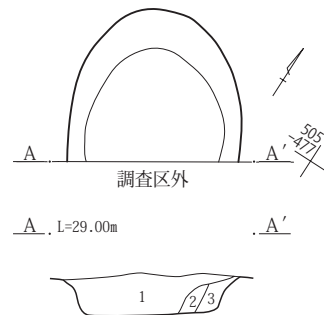
4区88・89号土坑

1. 黒褐色土 ローム塊わずかに含み、土質均一、しまりやや強い。89号土坑。
2. にぶい黄褐色土 くすんだローム含み、土質粗く、しまりやや強い。88号土坑。

4区88号土坑出土遺物



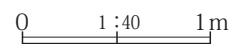
4区90号土坑



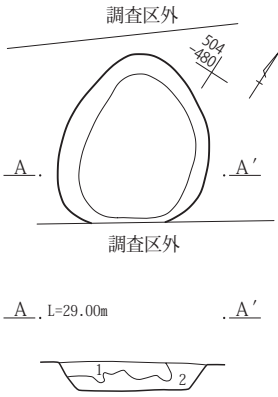
4区90号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒少し含む。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊多く含む。
3. 黄褐色土 ローム主体。

第234図 4区82・83・85・86・88～90号土坑平断面図、88号土坑出土遺物



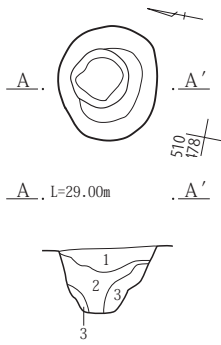
4区91号土坑



4区91号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒少し含む。
2. 黄褐色土 ローム主体に1層含み、しまり弱い。

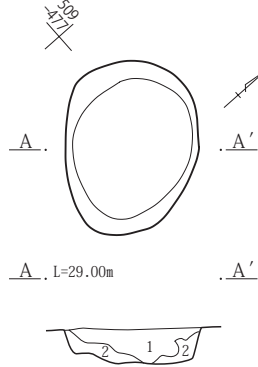
4区92号土坑



4区92号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒少し含む。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊多く含む。
3. 黄褐色土 ローム主体に1層含み、しまり弱い。

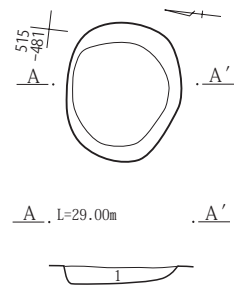
4区93号土坑



4区93号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒少し含む。
2. 黄褐色土 ローム主体に1層含み、しまり弱い。

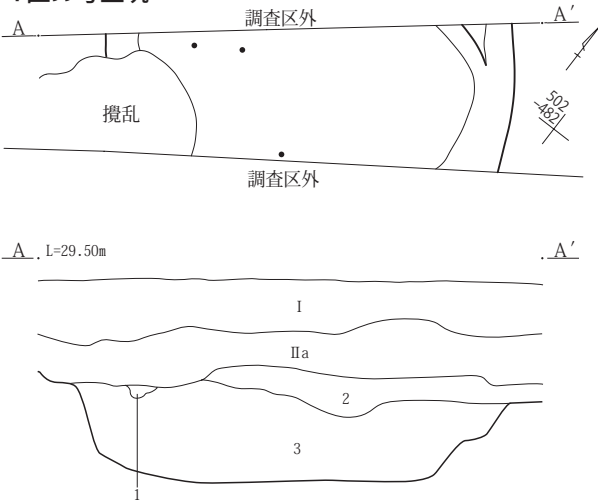
4区95号土坑



4区95号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒少し含む。

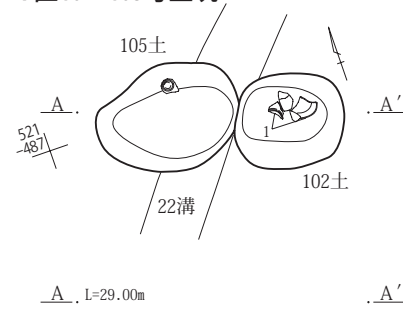
4区99号土坑



4区99号土坑

1. 暗褐色土塊。
2. 暗褐色土 白色軽石細粒少し含み、しまりあり。
3. 暗褐色土 ローム粒・塊斑に含み、しまりあり。

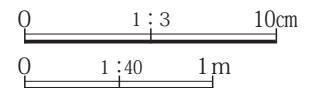
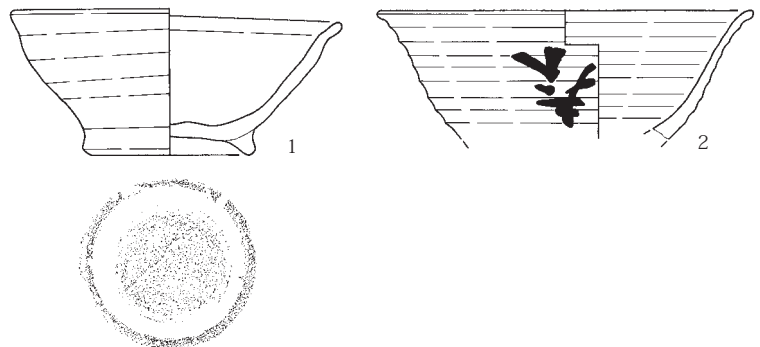
4区102・105号土坑



4区102・105号土坑

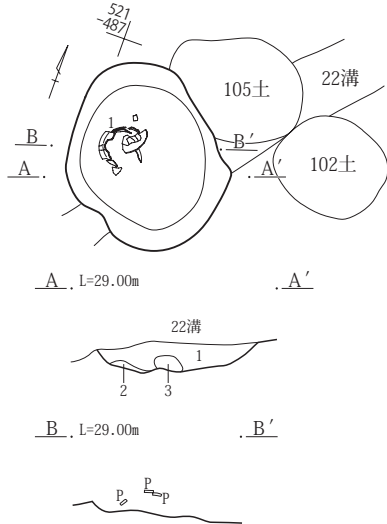
1. 暗褐色土 焼土粒・ローム粒少し含、しまり弱い。105号土坑。
2. 黄褐色土 ローム塊主体。102号土坑。

4区102号土坑出土遺物



第235図 4区91～93・95・99・102・105号土坑平断面図、102号土坑出土遺物

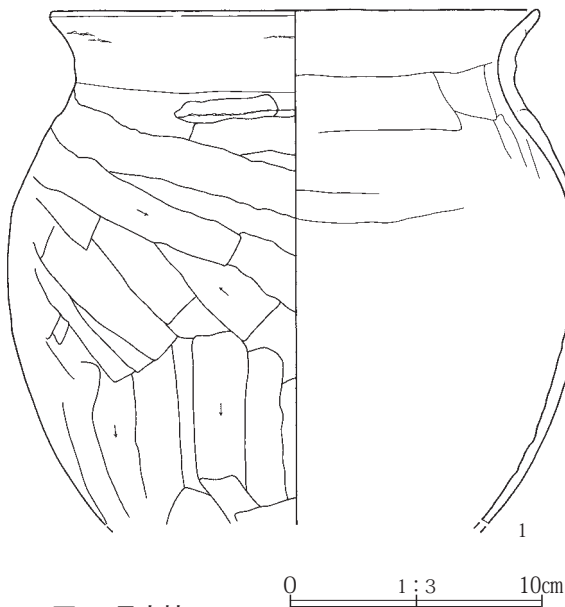
4区103号土坑



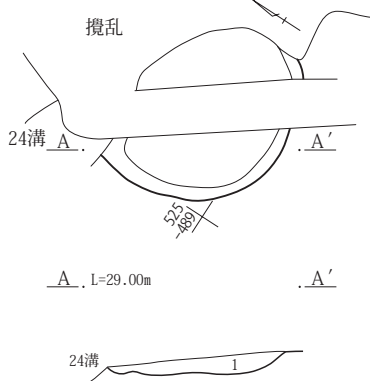
4区103号土坑

1. 褐色土 ローム粒・塊少し含み、しまり弱い。
2. 暗褐色土 ローム粒・塊少し含む。
3. ローム塊。

4区103号土坑出土遺物



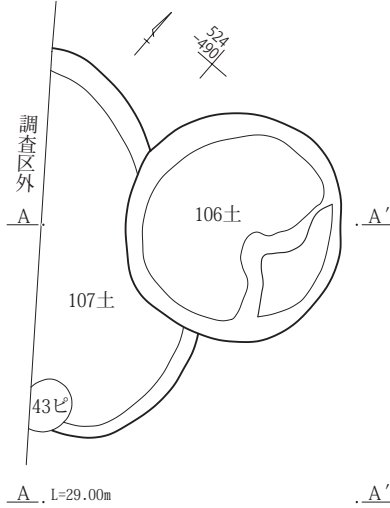
4区109号土坑



4区109号土坑

1. 暗褐色土 ローム多く含み、しまりややあり。

4区106・107号土坑



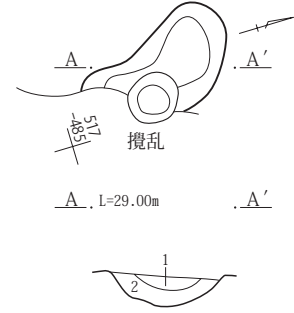
4区106・107号土坑



4区106・107号土坑

1. 褐色土 ローム粒少し含み、しまり弱い。106号土坑。
2. 暗褐色土 ローム粒少し含み、粘性ややあり。107号土坑。
3. 黄褐色土 ローム粒斑に含み、しまりあり。107号土坑。

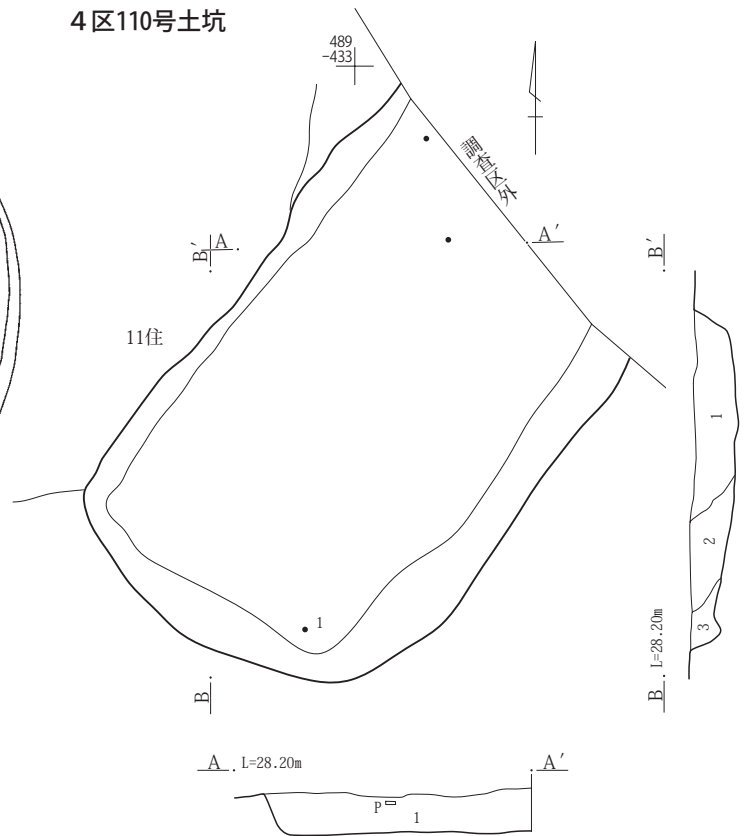
4区108号土坑



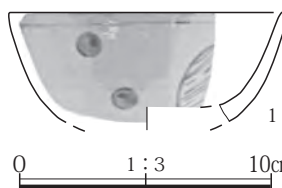
4区108号土坑

1. 暗褐色土 下部にローム粒少し含む。
2. 黄褐色土 ローム塊多く含み、しまり弱い。

4区110号土坑

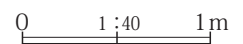


4区110号土坑出土遺物



4区110号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒少し含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
2. 黒褐色土 ローム小塊・粒やや多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
3. 黒褐色土 ローム大塊・粒多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。



第236図 4区103・106～110号土坑平断面図、103・110号土坑出土遺物

第5節 井戸

井戸は、1区1基、2区4基、3区4基、4区16基の合計25基を調査した。いずれも素堀の井戸である。発掘調査の際にも下層から水が湧き出してきたものが多いので、井戸の底面は比較的浅いものと思われるが、底面まで掘り下げるのは危険であるため、大部分の井戸では途中で掘り下げを中止している。出土遺物は少なく、時期を確実に特定できたものはない。

1区1号井戸(第237図、PL.89-4)

1区はこの1基のみである。調査区の南部にあり、南西部は調査区境に沿った攪乱によって破壊されている。重複遺構はない。平面形はやや不整な円形と推定される。素掘りの井戸であり、断面を見ると壁は直線的で、掘り下げた深さまでは下に向かって緩やかにすぼまる形状である。直径は、断面図を取ったラインで計測すると1.60mである。深さは0.98mまで掘り下げた。暗褐色土主体の土で上部まで埋没していたので、人為的に埋められたものと思われる。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(大)1点・19g、須恵器(小)1点・61gしかない。時期は出土遺物が少ないので不明である。

2区1号井戸(第237図、PL.89-5)

2区の井戸は4基とも調査区の南部にあり、この1号井戸は南端近くにある。41号土坑と重複するが、本遺構が新しい。平面形はほぼ円形で、長径1.02m、短径0.94mである。断面形は筒状であり、壁は垂直に近い。深さは0.70mまで掘り下げたところで中止した。埋没土は褐灰色土主体で、夾雑物によって複数の層に分けることはできるが、基本的には同じ土で埋まっており、人為的埋没と考えられる。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)5点・10g、同(大)80g、須恵器(小)2点・7gだけである。時期は出土遺物が少ないので特定が困難であるが、重複している41号土坑は近世以降の芋穴と思われるので、この井戸も近世以降のものである可能性が考えられる。

2区2号井戸(第237図、PL.89-6)

2区南端近くにある。重複遺構はない。平面形状はほぼ円形で、長径1.66m、短径1.45mであり、深さは1.48mまで掘り下げたところで中止した。断面形状は、上に行くにしたがって漏斗状に広がっている。埋没土は上層は細かく分けられるが、下層は褐灰色土で埋まっており、少なくとも6・7層は人為的に埋められた層だと思われる。遺物はやや多いが小破片ばかりであり、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものは、土師器(小)66g、同(大)677g、須恵器(小)169g、同(大)4点・43gである。時期は出土遺物が少ないので不明である。

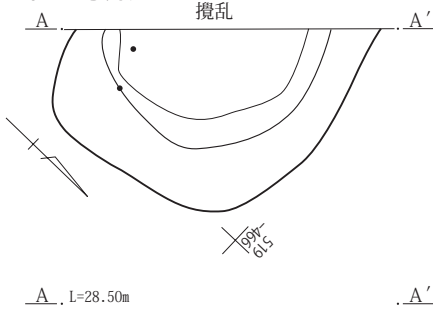
2区3号井戸(第237図、第51表、PL.89-7,131)

2区の南側にある。多くの遺構と重複するので、上部は破壊されている。その重複遺構は2区25・26号竪穴住居、2区21号溝、2区76・94・95・96号土坑であり、本遺構は竪穴住居よりも新しく、その他の遺構より古い。平面形状はほぼ円形であり、長径2.04m、短径1.77mである。深さは0.79mまで掘り下げたところで中止した。断面形状は、上部が大きく広がるが、下部は筒状で壁はほぼ垂直になっていると思われる。ほとんどは褐灰色土を主体とした土で埋まっており、人為的に埋められたものと思われる。出土遺物は少ないが、墨書のある須恵器杯1点、石製紡輪1点を掲載した。その他小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)8点・23g、同(大)250g、須恵器(小)110g、同(大)1点・31gがある。時期は出土遺物が少ないので不明であるが、25・26号竪穴住居よりも新しいので、9世紀第2四半期以降のものである。

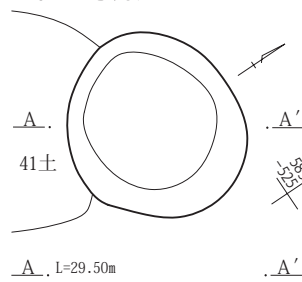
2区4号井戸(第237図、PL.89-8)

2区南東隅付近にある。30号竪穴住居、109・110土坑と重複する。本遺構が109・110土坑より古く、30号竪穴住居より新しい。平面形状はやや歪んだ円形で、長径1.50m、短径1.25mであり、深さは1.18mまで掘り下げたところで中止した。断面形状は上に向かって緩やかに広がる形である。埋没土は、上層は細かく分けられるものの下層は褐灰色土1層で埋まっており、少なくともこの部分は人為的に短期間に埋められたものと思われる。

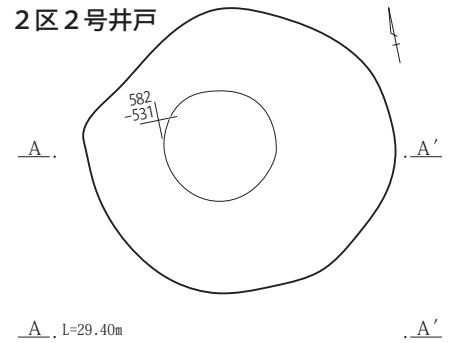
1区1号井戸



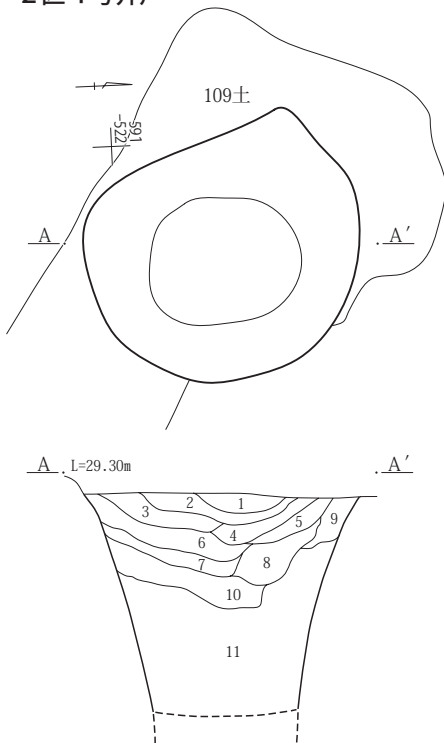
2区1号井戸



2区2号井戸



2区4号井戸



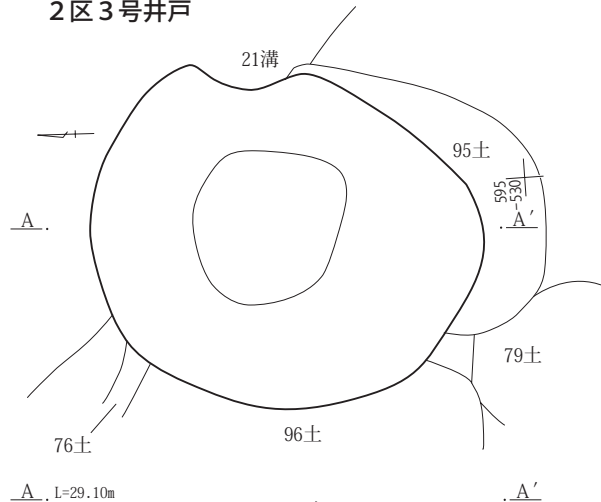
2区1号井戸

1. 褐灰色土 くすんだローム・炭化物粒・ローム小塊含む。
2. 褐灰色土 くすんだローム・ローム小塊・褐色土塊含む。
3. 褐灰色土 ローム小塊少し含む。
4. 褐灰色土 2層より褐色土塊多い。

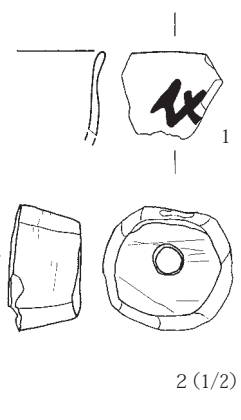
2区2号井戸

1. 褐灰色土 焼土粒わずかに含む。
2. 黒褐色土 焼土粒少し、炭化物粒ごくわずかに含む。
3. 黒褐色土 2層より焼土粒少ない。
4. 褐灰色土 細砂塊含み、しまり弱い。
5. 黒褐色土・灰褐色土の混土。
6. 褐灰色土 4層よりさらにしまり弱くフカフカ。
7. 褐灰色土 粘質、ノロ状。

2区3号井戸



2区3号井戸出土遺物



2区4号井戸

1. 褐灰色土 ローム粒わずかに含む。
2. くすんだ黄褐色土 ローム・暗褐色土の混土にローム塊含み、炭化物粒・焼土粒わずかに含む。
3. 暗茶褐色土 ローム小塊・焼土粒・炭化物粒わずかに含む、マンガン沈着。
4. 褐灰色土 土質均一、やや砂質。
5. 灰黄褐色土 ローム主体に暗褐色土含む。
6. 灰黄褐色土 ローム塊多く含み、褐色土塊互層。
7. 黄褐色土 ローム塊主体
8. ローム小中塊・灰褐色土の混土。
9. 明黄褐色土 ローム主体に褐灰色土塊わずかに含む。
10. 褐灰色土 ローム小塊斑に含み、ややしまりあり。
11. 褐灰色土 10層よりローム少なく、しまり弱く、粘性ややあり。

2区3号井戸

1. 褐灰色土 上位はローム塊含み粘性強く、しまり弱く、全体に下に沈み込んでいる。
2. 褐灰色土 ローム塊を斑に含む。
3. 黒褐色土 ローム粒・焼土粒を含み、粘性強い。



第237図 1区1号・2区1～4号井戸平面図、2区3号井戸出土遺物

出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)2点・8g、同(大)125gしかない。出土遺物が少ないので時期の特定はできないが、30号竪穴住居よりも新しいので、8世紀第3四半期以降のものである。

3区1号井戸(第238図、PL.90-1)

3区の井戸は4基とも3-3区にある。1号井戸は調査区の南西部にあり、14号竪穴住居、4号井戸と重複している。本遺構が新しい。平面形は長方形に近い楕円形で、ほぼ同形の浅い土坑の中に井戸の本体がさらに深く掘られるような形態である。長軸方向はN-20°-Wである。浅い土坑状の部分は長径1.50m、短径0.83mであり、深さは深いところで0.46mである。井戸本体部分は長径82cm、短径52cmであり、深さは確認面から1.46mで底になる。他の井戸に比べてかなり浅いが、底面からは現在でも水が染み出してくるので、地下水位がもう少し高ければ井戸として十分機能すると思われる。断面形状は筒形で壁は垂直に近い。遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)1点・1g、同(大)2点・5gしかない。遺物がほとんどないので時期の特定はできないが、14号竪穴住居よりも新しいので、8世紀第4四半期以降のものである。

3区2号井戸(第238図、PL.90-2)

3-3区南東部にある。9号竪穴住居と重複し、本遺構が新しい。確認面における平面形状はほぼ円形で、長径2.13m、短径1.84mであり、下に行くにしたがって楕円形となる。深さは1.20mまで確認したが、その深さでは長径1.41m、短径0.73mのかなり長い楕円形になっている。地下水はその深さ付近から湧き出し始めた。壁は直線的で、下に向かって緩やかにすぼまっている。埋没土はやや複雑で、断面図に見られるように何回かに分けて埋められた様子が見て取れる。遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものは、土師器(小)216g、同(大)384g、須恵器(小)145g、同(大)1点・73gがある。遺物が少ないので時期の特定はできないが、9号竪穴住居よりも新しいので、7世紀中頃以降のものである。

3区3号井戸(第238図)

3-3区の東端中央にあり、半分近くが調査区外となっている。9号竪穴住居と重複し、本遺構が新しい。平面形状はほぼ円形と思われ、径は調査区壁で計測して1.15mである。深さは確認面から1.24mで底になる。この深さは1号井戸よりさらに浅い。断面形状は筒状だが、壁の傾斜は上から40~50cmのところに変化し、そこから下がよりきつい傾斜になる。埋没土は4層に分けられるが、下層にはローム塊が多く含まれ、中層のしまりが弱いことなどから、人為的に埋没しているものと思われる。出土遺物はないので時期の特定はできないが、9号竪穴住居よりも新しいので、7世紀中頃以降のものである。

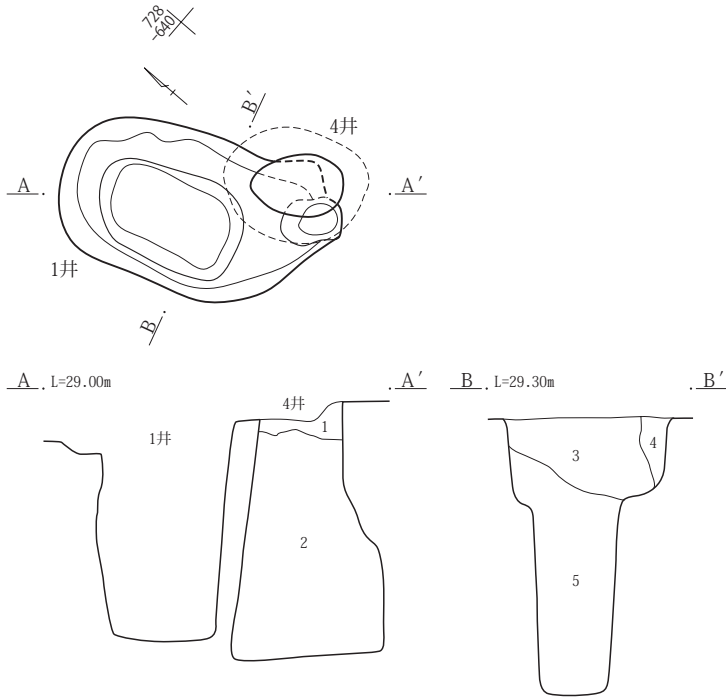
3区4号井戸(第238図、PL.90-3)

調査区の南西部にある。14号竪穴住居、1号井戸と重複している。1号井戸よりも本遺構が古いのは確認できたが、14号竪穴住居との新旧関係は確認できなかった。平面形状は楕円形で、開口部では長径0.46m、短径0.32mとかなり小さい。断面は下に行くほど広がる形状であり、深さ1.38mで底になる。この深さは1号井戸よりもやや深い。埋没土は大部分が黒褐色土で埋没しており、人為的に短期間に埋められたものと考えられる。出土遺物はないので、時期の特定はできない。

4区1号井戸(第238図、PL.90-4)

4区には16基の井戸があり、4-4区を除く4地区に分散している。1号井戸は4-1区中央南寄りにある。1号畠と重複し、本遺構が古い。平面形状は卵形で、長径は2.37m、短径は1.90mである。深さは0.90mまで確認したが、この深さで地下水が染み出る状態であった。断面形状は緩やかにすぼまる形である。埋没土は沈下があったためか、中央が大きく凹む状態である。出土遺物はないので、時期は特定できない。

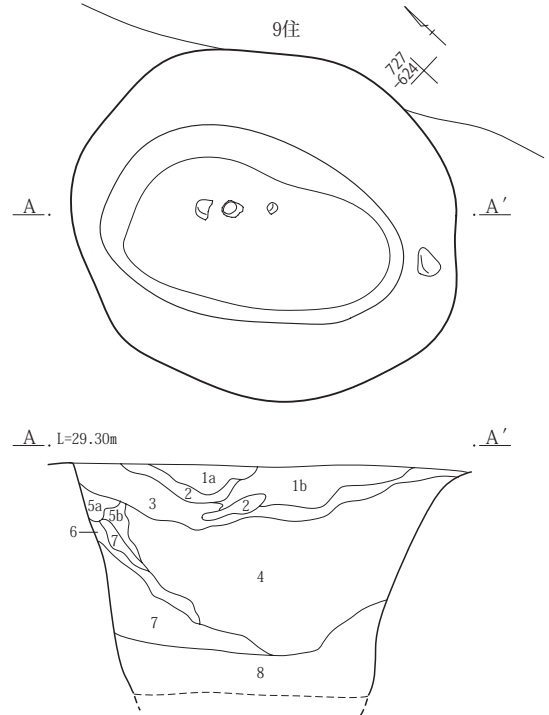
3区1・4号井戸



3区1・4号井戸

1. くすんだ黄褐色土 ローム小塊多く含む。4号井戸。
2. 黒褐色土 ローム小塊含み、砂質土わずかに含み、粘性強い。4号井戸。
3. 暗褐色土 ローム粒含む。1号井戸。
4. 暗褐色土 1層よりややローム多く含む。1号井戸。
5. 褐色土 ローム小塊・くすんだローム含み、焼土粒・炭化物粒わずかに含む。1号井戸。

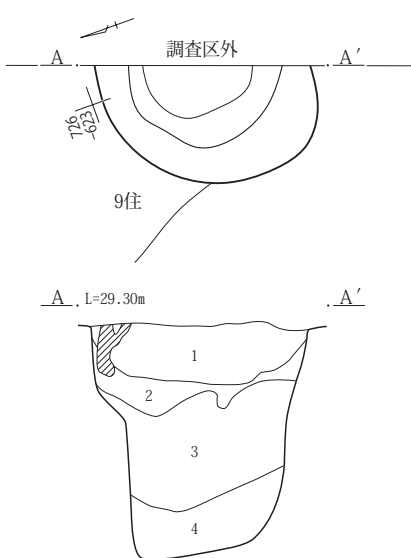
3区2号井戸



3区2号井戸

- 1a. 褐灰色土 炭化物粒・焼土粒わずかに含む。
- 1b. 1a層にくすんだローム含む。
2. 黒色炭化物層
3. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体に暗褐色土・ローム粒・焼土粒含む。
4. 褐灰色土 ローム粒・焼土粒わずかに含む。
- 5a. 黄褐色土 3層よりローム多く、褐色土含み、しまり弱い。
- 5b. 5a層よりローム少ない。
6. 黒褐色土 わずかにローム含み、粘性強い。
7. くすんだローム・褐色土の混土、粘性強い。
8. ローム・暗褐色土の混土。

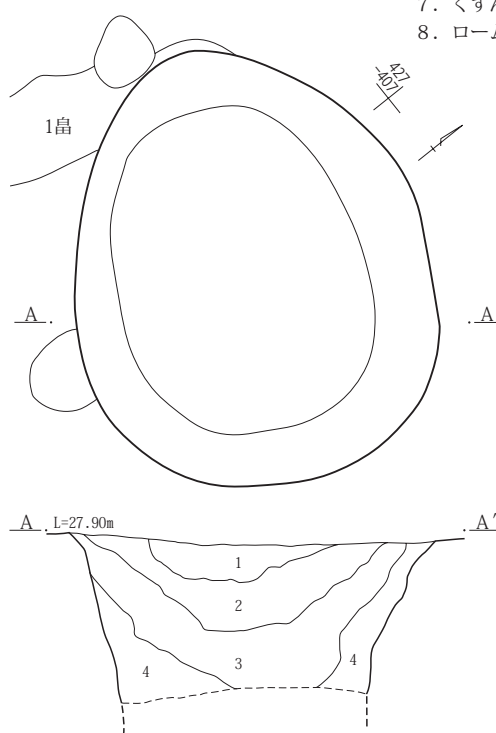
3区3号井戸



3区3号井戸

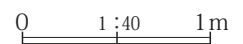
1. 褐灰色土 ローム粒・白色軽石粒含み、マンガン沈着。
2. 褐灰色土 1層よりやや色調暗い。
3. 暗褐色土 ローム塊ごくわずかに含み、しまり弱い。
4. 褐色土・ローム塊の混土、粘性あり。

4区1号井戸



4区1号井戸

1. 黒色土 ローム粒少し含み、しまりやや弱く、粘性あり。
2. 灰黄褐色土 ローム粒少し含む。
3. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一、鉄分沈着、粘性あり、しまりやや弱い。
4. くすんだローム土・3層の混土、固いローム塊少し含み、粘性あり。



第238図 3区1～4号・4区1号井戸平断面図

4区2号井戸(第239図、第51表、PL.131)

4-1区北西部中央にある。2・3号溝と重複し、本遺構が古い。平面形状はほぼ円形で、長径1.10m、短径0.95mである。深さは1.30mまで確認したが、この深さ付近から水が湧き出す状態であった。断面形状は筒状で、壁はほぼ垂直に直線的に掘られている。埋没土は夾雑物の違いで3層に分けたものの、基本的には全体が黒褐色土であり、人為的に短期間に埋められたものと思われる。出土遺物はごく少なく、掲載したのは火打金1点である。小破片であるために掲載しなかったものも土師器(大)7点・44gがあるだけであり、時期は特定できない。

4区3号井戸(第239図、PL.90-5)

4-1区北西部の西寄りにある。確認面における平面形状は楕円形で、長径1.00m、短径0.78mであるが、下に行くほど正円に近くなる。深さは1.22mまで確認し、その深さ付近から水が湧き出す状態であった。断面形状は筒形で、壁はほぼ垂直に直線的に掘られている。埋没土は粘性・しまりとも弱い暗褐色土ないし黒褐色土で一気に埋まったような状態であり、人為的に埋められたものと思われる。出土遺物はなく、時期は特定できない。

4区4号井戸(第239図)

4-1区北西部の西寄りにある。平面形状はほぼ円形であり、長径1.12m、短径1.02mである。深さは1.18mまで確認した。断面形状は筒形であり、壁はほぼ垂直に直線的に掘られている。埋没土は夾雑物によって4層に分層したが、基本的には粘性、しまりともやや弱い黒褐色土で全体が埋没しており、短期間に人為的に埋められたものと思われる。出土遺物はなく時期は特定できない。

4区5号井戸(第239図、PL.90-6)

4-2区中央東寄りにある。井戸として調査した遺構であるが、底面が浅いので井戸ではない可能性も高いものである。平面形状はほぼ円形で、長径2.83m、短径2.60mと大きい。深さは1.38mで底面となり、底からは水が湧き出す状態であった。断面形状は楕円で、底面には凹凸がある。埋没土は不自然な堆積であり、2層は埋没過程で掘り直している可能性がある。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載し

なかったものは、土師器(小)3点・52g、同(大)208g、須恵器(小)3点・66g、同(大)2点・260gであるが、本遺構の時期を特定することは難しい。

4区6号井戸(第239図、PL.90-7)

4-2区北西部にある。平面形状はほぼ円形で、長径1.00m、短径0.90mである。深さは1.24mで底面となるので井戸としてはかなり浅いが、底面からは水が湧き出す状態であった。断面形状は筒形で、壁はほぼ垂直に直線的に掘られている。しまりのやや弱い黒色土ないし黒褐色土で埋没しており、人為的に埋められたものと思われる。出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(大)7点・53g、須恵器(小)1点・7gがあるだけである。出土遺物が少ないので、時期を特定することはできない。

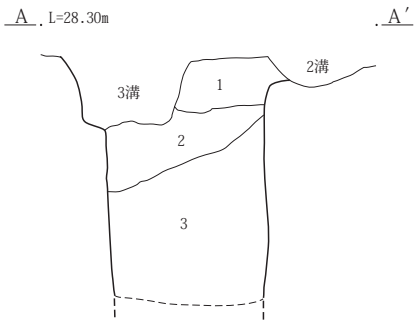
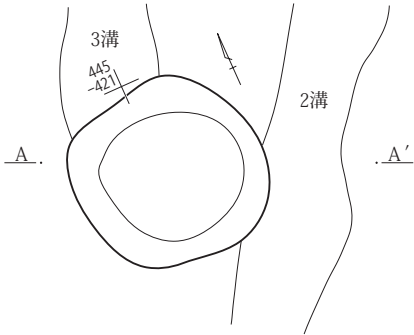
4区7号井戸(第240図、第51表、PL.90-8,131)

4-2区北西部にある。平面形状は楕円形で、長径1.28m、短径1.07mである。深さは1.35mまで確認し、この深さ付近から水が湧き出す状態であった。断面形状は筒形で、壁はほぼ垂直に直線的に掘られている。出土遺物はごく少なく、掲載したのは石硯1点である。小破片であるために掲載しなかったものは、土師器(大)6点・51gしかない。出土遺物が少ないので時期は特定できない。

4区8号井戸(第240図、PL.91-1)

4-2区南東部の西寄りにある。平面形状はほぼ円形で、長径0.95m、短径0.89mである。深さは1.46mまで確認し、その深さ付近から水が湧き出す状態であった。断面形は筒状であり、壁はほぼ垂直に直線的に掘られている。埋没土はほとんどが黒褐色土であり、人為的に短期間に埋められたものと思われる。出土遺物はなく、時期は特定できない。

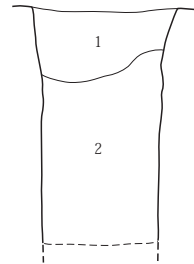
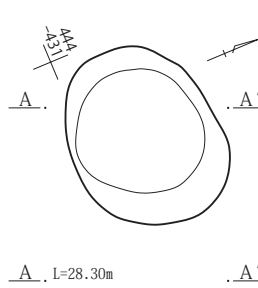
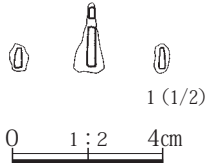
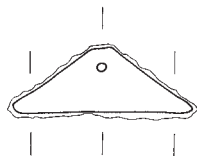
4区2号井戸



- 4区2号井戸
1. 黒褐色土 ローム粒・小塊わずかに含み、しまり強い。
 2. 黒褐色土 土質均一、しまり弱い。
 3. 黒褐色土 ローム塊わずかに含み、しまり弱い。

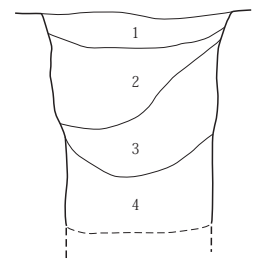
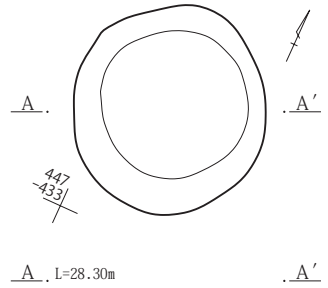
4区3号井戸

4区2号井戸出土遺物



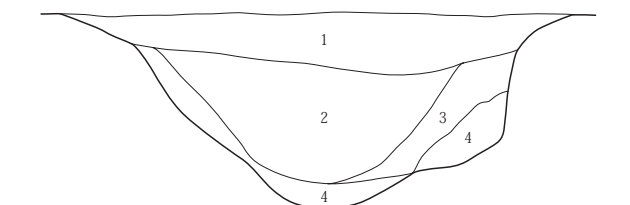
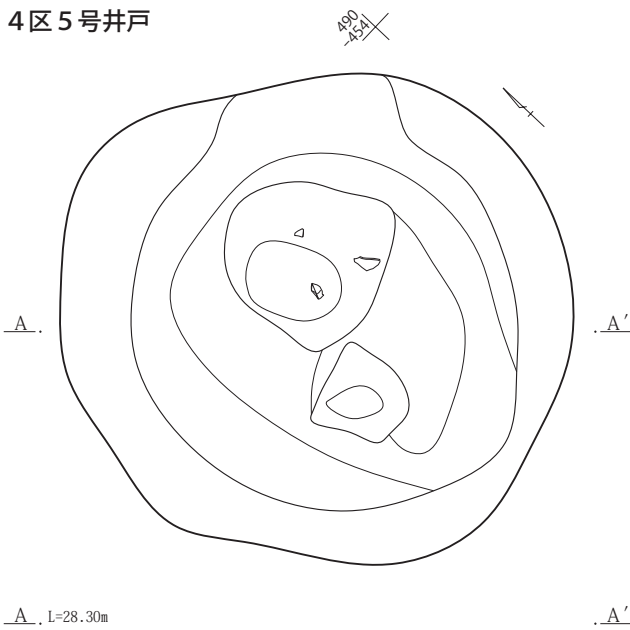
- 4区3号井戸
1. 暗褐色土 ローム小塊多く含み、粘性・しまり弱い。
 2. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性・しまり弱い。

4区4号井戸



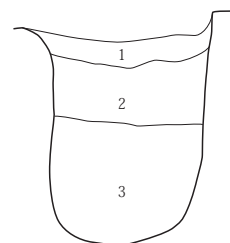
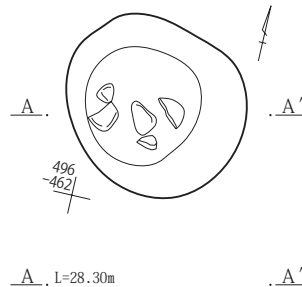
- 4区4号井戸
1. 黒褐色土 焼土粒・ローム粒・炭化粒少し含み、粘性・しまりやや弱い。
 2. 黒褐色土 焼土粒・ローム粒わずかに含み、粘性・しまりやや弱い。
 3. 黒褐色土 ローム小塊少し含み、粘性・しまりやや弱い。
 4. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性やや弱く、しまり弱い。

4区5号井戸

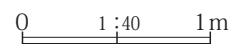


- 4区5号井戸
1. 暗褐色土 ローム粒少し含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
 2. 黒褐色土 ローム粒・小塊少し含み、焼土粒わずかに含み、粘性・しまりやや強い。
 3. 暗褐色土 ローム粒やや多く含み、粘性・しまりやや強い。
 4. 暗褐色土 ローム粒・塊やや多く含み、粘性・しまりやや弱い。

4区6号井戸

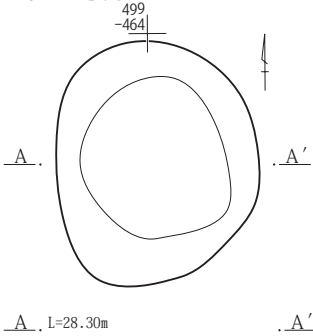


- 4区6号井戸
1. 黒褐色土 ローム粒・小塊わずかに含み、粘性・しまりやや弱い。
 2. 黒褐色土 ローム小塊やや多く含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。
 3. 黒色土 ローム粒ごくわずかに含み、粘性・しまりやや弱い。

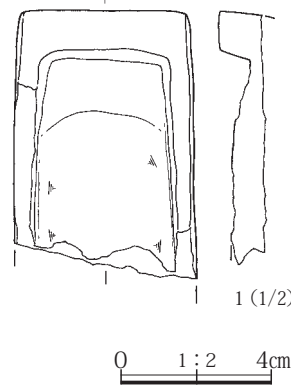


第239図 4区2～6号井戸平断面図、2号井戸出土遺物

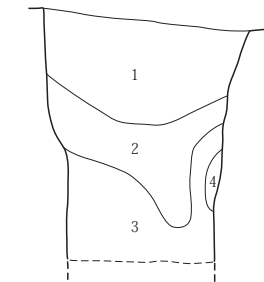
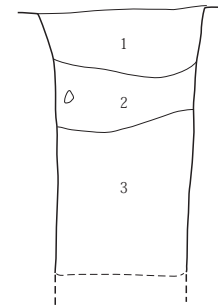
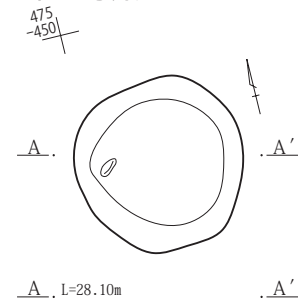
4区7号井戸



4区7号井戸出土遺物



4区8号井戸



4区7号井戸

1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性・しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性・しまりやや弱い。
3. 暗褐色土 ローム粒やや多く含み、粘性・しまり弱い。
4. 褐色土 くずれたローム主体、粘性やや強く、しまりやや弱い。

4区8号井戸

1. 暗褐色土 ローム粒・小塊少し含み、粘性・しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性・しまりやや弱い。
3. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性・しまり弱い。

第240図 4区7・8号井戸平面図、7号井戸出土遺物

4区9号井戸(第241図、第51表、PL.91-2,131)

4-2区南東部の西寄りにある。8・9号溝と重複し、本遺構が古い。平面形状は楕円形であり、長径1.79m、短径1.55mである。深さは1.24mまで確認し、その深さ付近から水が湧き出す状態であった。断面は緩やかな段をもちながら徐々にすぼまる形状であり、確認面から0.80mより下位は筒状になるらしい。埋没土はほとんどが黒褐色土であり、人為的に短期間に埋められたものと思われる。出土遺物は少ないが、瀬戸・美濃陶器碗1点、在地系土器皿2点を掲載した。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)2点・11g、須恵器(小)1点・16gがあるのみである。出土遺物から、埋没時期は近世以降と考えられる。

4区10号井戸(第241図、PL.91-3)

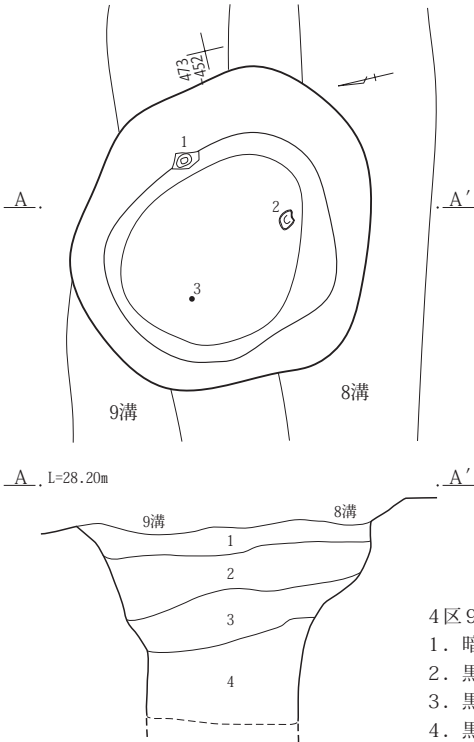
4-3区北端隅付近にある。平面形状はほぼ円形で、長径1.02m、短径0.90mである。深さは1.18mまで確認した。地下水は底面から染み出してくる程度である。断面は上端がやや広がる筒状で、壁はほぼ垂直に直線的に掘られている。埋没土は上端のやや広がる部分を除いてしまりの弱い暗褐色土のみで埋没しており、人為的に短

期間に埋められたものと思われる。出土遺物はなく、時期は特定できない。

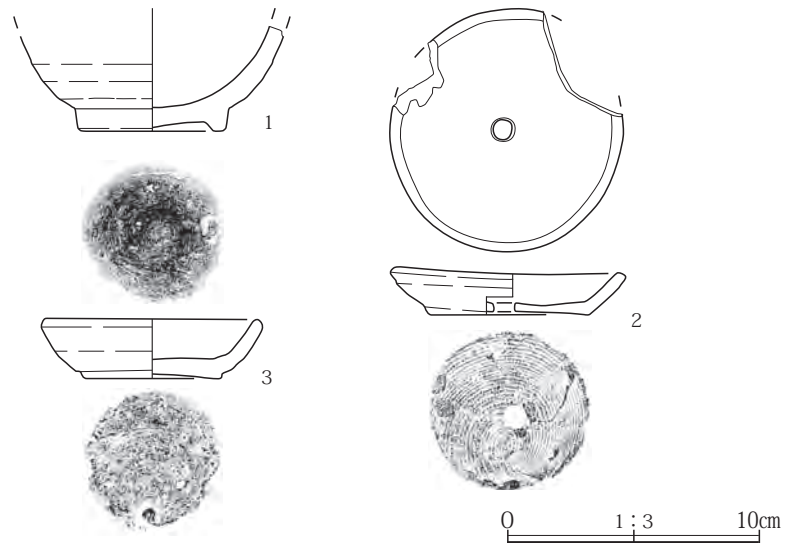
4区11号井戸(第241図)

4-3区北西部にある。平面形状は歪みがあるがほぼ円形で、長径1.96m、短径1.84mの浅い土坑の中に、長径1.18m、短径1.06mの井戸本体が掘られているという形態である。あるいはこの浅い土坑部分は別の遺構であるかもしれない。深さは1.14mまで確認した。地下水は底面から染み出してくる程度である。井戸本体部分の断面は上端がやや広がる筒状で、下部の壁はほぼ垂直で直線的に掘られている。埋没土は上半と下半で大きく異なるが、上半はローム塊を多く含み、人為的に埋められたものと考えられる。出土遺物はなく時期は特定できない。

4区9号井戸



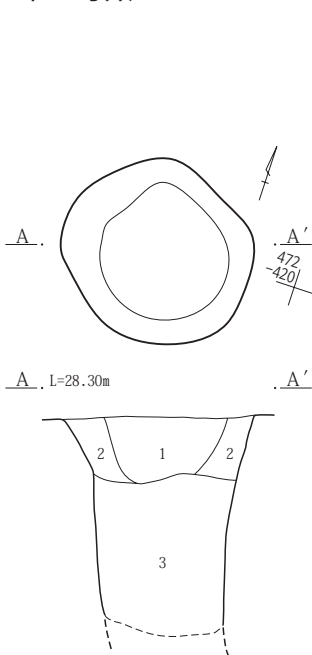
4区9号井戸出土遺物



4区9号井戸

- 1. 暗褐色土 ローム粒・小中塊やや多く含み、粘性・しまりやや弱い。
- 2. 黒褐色土 ローム粒・小塊わずかに含み、粘性・しまりやや弱い。
- 3. 黒褐色土 ローム中小塊やや多く含み、粘性・しまりやや弱い。
- 4. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性やや強く、しまり弱い。

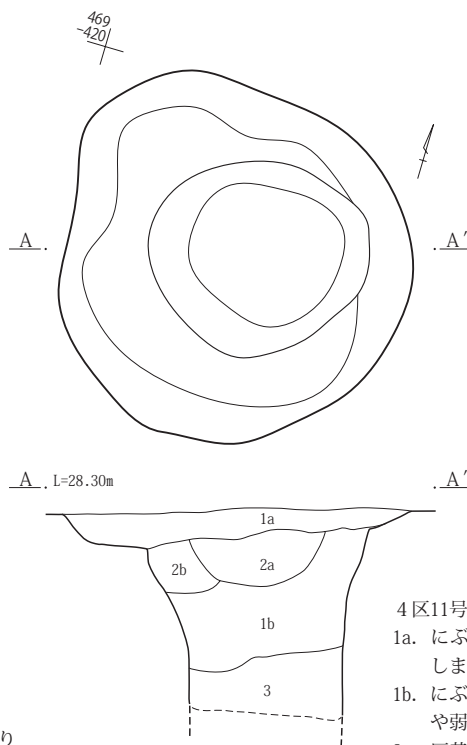
4区10号井戸



4区10号井戸

- 1. 暗褐色土 ローム粒少し含む、土質ほぼ均一、しまりやや弱い。
- 2. 暗褐色土 ロームやや多く含み、しまり弱い。
- 3. 暗褐色土 土質均一、しまり弱い。

4区11号井戸



4区11号井戸

- 1a. にぶい黄褐色土 ローム塊多く含み、灰含み、しまり強い。
- 1b. にぶい黄褐色土 ローム塊多く含み、しまりやや弱い。
- 2a. 灰黄褐色土 ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一、しまりやや弱い。
- 2b. 2a層よりややローム粒多く、しまりやや強い。
- 3. 黒褐色土 ローム塊少し含み、しまり弱い。

第241図 4区9～11号井戸平面図、9号井戸出土遺物

4区12号井戸(第242図、PL.91-4)

4-2区南東部西寄りにある。平面形状は歪んではいながらほぼ円形で、長径1.31m、短径1.10mである。深さは1.51mまで確認し、その深さ付近から水が湧き出す状態であった。断面は上端が広がる筒状で、壁はほぼ垂直で直線的に掘られている。埋没土はほとんどが黒褐色土であり、人為的に短期間に埋められたものと思われる。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)3点・6g、同(大)105g、須恵器(小)4点・39gがあるだけである。出土遺物が少なく、時期は特定できない。

4区13号井戸(第242図、PL.91-5)

4-5区南東部にある。36・37号ピットと重複し、本遺構が古い。平面形状はほぼ円形で、長径1.24m、短径1.19mである。深さは1.10mまで確認し、その深さ付近から水が湧き出す状態であった。断面形状は下に向かって緩やかにすぼまる形である。埋没土はかなり不自然な堆積であり、人為的に埋められたものと思われる。出土遺物は土師器(小)の小破片1点・1gしかなく、時期は特定できない。

4区14号井戸(第242図、PL.91-6)

4-5区中央にある。20号溝と重複し、本遺構が新しい。平面形状はほぼ円形で、長径1.31m、短径1.17mである。深さは1.70mまで確認し、水が湧き出す状態であった。断面形状は下に向かってすぼまるが、やや不整形で、壁には凹凸が目立つ。埋没土にはローム塊が目立ち、人為的に埋められたものと考えられる。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)7点・21g、同(大)61g、須恵器(小)5点・42g、同(大)1点・86gがある。出土遺物が少ないので時期は特定できない。

4区15号井戸(第242図、PL.91-7)

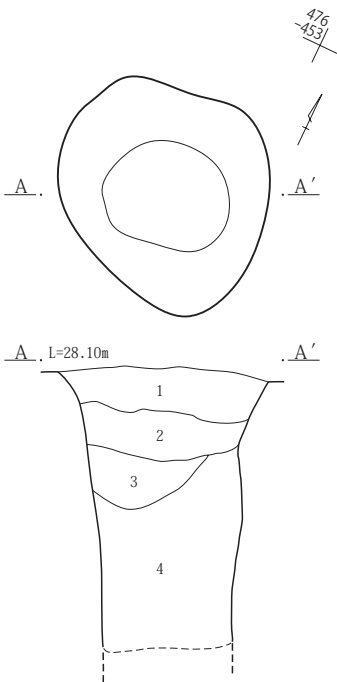
4-5区南東部北寄りにある。19号竪穴住居、19号溝と重複する。本遺構が古い。平面形状はほぼ円形であり、長径1.28m、短径1.17mである。深さは1.12mまで確認し、その深さ付近から水が湧き出す状態であった。断面形状は上に向かって緩やかに広がる筒状で、壁は直線的

に掘られている。埋没土はローム粒・塊を多く含み、人為的に埋められたものと思われる。出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)1点・5g、同(大)1点・6gしかないので、時期は特定できない。

4区16号井戸(第242図、PL.91-8)

4-2区北西部にある。8・15号竪穴住居と重複し、本遺構が古い。平面形状はほぼ円形で、長径0.84m、短径0.80mである。深さは8号竪穴住居の掘方底面から0.68mで底面となるが、これは竪穴住居の確認面から計測すると1.15mの深さとなる。井戸としてはかなり浅い。断面は筒状であり、壁はほぼ垂直で直線的に掘られている。埋没土にはローム塊が目立ち人為的に埋められたものと思われる。出土遺物はなくその点で時期を特定することは難しいが、8号竪穴住居よりも古いので、8世紀第3四半期よりも古いものである。

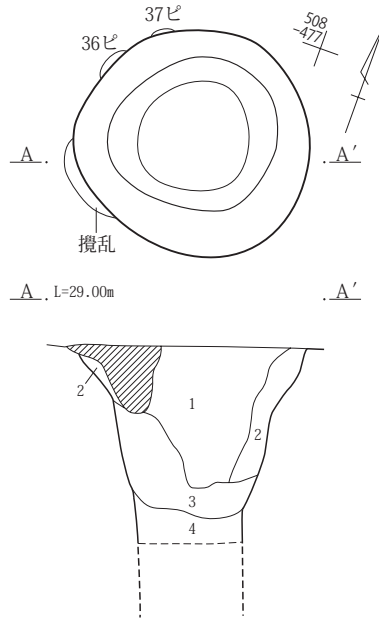
4区12号井戸



4区12号井戸

1. 暗褐色土 ローム細粒少し含み、しまりやや強い。
2. 暗褐色土 ローム粒・粘土粒が少し含み、粘性あり、しまりやや強い。
3. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一、粘性あり、しまりやや弱い。
4. 黒褐色土 ローム粒・小塊少し含み、しまり弱い。

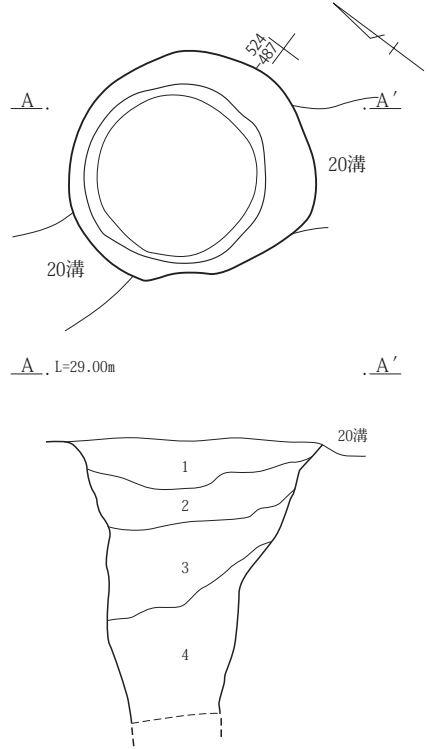
4区13号井戸



4区13号井戸

1. 暗褐色土 ローム粒・塊斑に含み、しまりあり。
2. 黄褐色土 ローム粒・塊多く含み、粘質。
3. 暗褐色土 ローム粒含み、粘質。
4. 黄褐色土 ローム粒・塊多く含む。

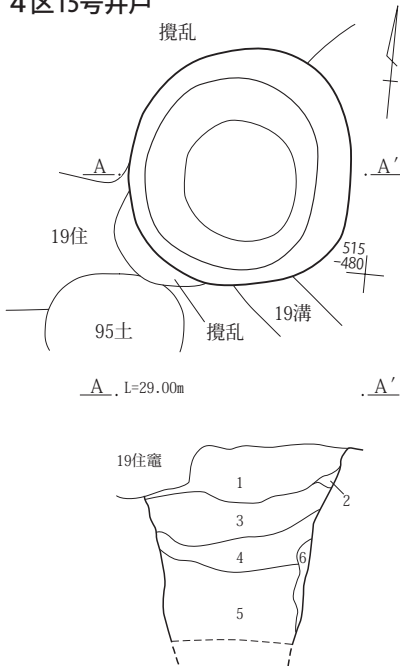
4区14号井戸



4区14号井戸

1. 褐色土 ローム粒・塊含む。
2. 褐色土 赤褐色土塊斑に含み、粘質。
3. ローム粒・固いローム塊の混土。
4. 褐色土 ローム粒・塊多く含む。

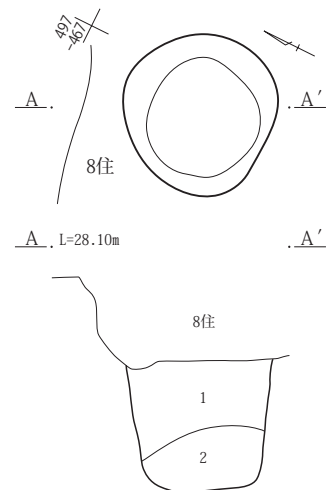
4区15号井戸



4区15号井戸

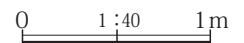
1. 褐色土 焼土粒含み、下部にローム粒含む。
2. 黄褐色土 ローム粒主体。
3. 暗褐色土 ローム粒含み、焼土粒わずかに含む。
4. 黒褐色土 粘性あり。
5. 黒褐色土 ローム粒・塊多く含む。
6. 黒褐色土 ローム粒含み、しまり弱い。

4区16号井戸



4区16号井戸

1. 黒褐色土 ローム塊含む、粘性あり。
2. くすんだローム塊・黒褐色土小塊の混土。



第242図 4区12～16号井戸平断面図

第6節 ピット

ピットは合計188基を報告する。調査時には225基をピットとして調査したが、整理作業時の検討により、掘立柱建物の柱穴であることが判明したものや、遺構とは思えない形状のもの、あるいは逆に土坑からピットに変更すべきものなどが認められたため、そのそれぞれについて遺構名の改訂を行った。その結果、ピットの総数は188基となった。この改訂については第1表(5ページ)に記載してある。

各ピットの位置、大きさ、重複遺構、出土遺物などについては第11・12表にまとめた通りであり、平断面図と出土遺物実測図は279ページ以下に掲載した。以下では全体の傾向と注意すべきピットについて記述する。

ピットの区ごとの数は、1区41基、2区82基、3区16基、4区49基である。全域に分布すると言っていることができるが、特に2区に多い。各区においては土坑と同様に竪穴住居の周辺に分布する傾向を認めることができる。2区では次の3ヶ所、すなわち、①北部の2・3号竪穴住居と4号竪穴住居の間、②南部北側の13号、19号、16号竪穴住居に囲まれた部分、③南部西側の24号竪穴住居の西側の部分にピットの顕著な集中が見られる。この3ヶ所では狭い範囲に数多くのピットが見られるので、掘立柱建物が複数建てられていた可能性が考えられる。実際このうちの①③の2ヶ所では、複数の掘立柱建物と柱穴列を把握することができ、それらは第3節で報告した通りであるが、それ以外には、建物として組み合わせるような状態を見出すことはできなかった。

この2区の3ヶ所のピットに限らず、各ピットの断面を見ると、明確な柱痕を確認できるものもあるので、やはり何らかの柱穴が数多く含まれていると考えるのが妥当であろう。しかしそれらは、建物の柱穴の一部である可能性は否定できないものの、建物として組み合わせることができない以上、性格は不明と言わざるを得ない。その他のピットについては、性格を特定できる痕跡に乏しく、その用途を確定することはできなかった。また、ほとんどのピットからは遺物の出土がない。ある場合でも古代の土器片であり、それらは周辺の竪穴住居のもの

が混入したものと考えられる。そのため、遺物から時期を明確にすることも困難である。

ピットとして調査した遺構のうち、特に注目すべきことはきわめて深いピットがあることである。1区54号ピット、2区42・60～63・74・110号ピット、3区9～13号ピットのように1mを越える深さのものや、4区23・41号ピットのように1mを越えても底に到達しないピットなどがある。4区25号ピットは70cmしか掘り下げていないが、底面に到達していないので、これも1mを越える深さがあるかもしれない。このように、1mを越え、通常の柱穴などとは思えないピットが15ないし16基も存在するのは注目すべきことであろう。もちろん、このピットについても用途を示すような痕跡は見られないが、非常に深いということから、特別な役割が考えられる。その用途としては、背の高い竿状の材を立てた穴か、径の小さな井戸が考えられる。径の小さな井戸については、同様な形態のものが土坑の中にも見られる。それは第5節(220ページ)で取り上げた2区23号土坑と4区55号土坑であり、そのピット状の部分がこれらのピットと類似している。本遺跡は地下水位が高く、発掘調査の際も深さ1mを越えた付近で地下水が湧き出る状態であった。そのため、このような深さのピットでも水を溜めることは可能だと思われる。もちろん径が小さいので、大量の水を得ることはできないが、用途によってはこのような径でも一定の役割を果たすことができたのではないかと考えられる。

第11表 ピット一覧表(1)

1区			
番号	位置 X-Y	大きさ(cm) 長径×短径×深さ	備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
1	510-454	50×46×45	土錘1(土師大12)
2	514-452	45×39×39	
3	516-460	56×55×77	土錘1(土師大42)
4	516-459	28×20×21	(土師大7)
5	510-451	50×45×32	
6	517-462	34×30×20	(土師大2、須恵小1)
7	欠番		
8	525-465	50×(35)×42	21土坑より新。(土師大137、須恵小6)
9	2号掘立柱建物P4		
10	欠番		
11	523-471	43×32×40	22土坑より新。
12	524-471	42×31×24	5竪穴住居、22土坑より新。(土師大7)
13	528-479	60×54×24	
14	546-482	62×53×57	(土師大14)
15	561-488	(88)×(60)×29	16ピットと重複。(土師大16)
16	561-487	(54)×(50)×37	15ピットと重複。(土師小17・大8、須恵中28)
17	556-499	63×57×61	(土師小2・大14)
18	554-504	46×41×44	(土師大31)
19	554-505	30×25×38	
20	555-507	42×39×48	
21	559-505	51×44×25	
22	564-507	50×40×42	(土師大17・須恵小64)
23	569-519	29×25×14	
24	556-502	60×43×15	
25	553-491	49×40×18	(土師小4・大4、須恵小15)
26	欠番		
27	欠番		
28	欠番		
29	欠番		
30	欠番		
31	574-504	58×54×45	
32	1号掘立柱建物P9		
33	554-483	53×46×26	(土師大4、須恵小4)
34	1号掘立柱建物P10		
35	1号掘立柱建物P11		
36	558-487	49×30×13	(土師大33)
37	560-488	40×30×58	
38	554-494	60×42×34	(土師小4)
39	559-492	58×47×49	2溝より古。(須恵小5)
40	564-497	40×36×41	
41	570-504	57×43×41	
42	574-504	45×40×42	
43	1号掘立柱建物P10		
44	558-508	60×42×41	(土師小8)
45	560-495	36×23×25	
46	568-521	65×46×69	
47	561-494	50×42×30	
48	560-498	40×34×13	
49	欠番		
50	560-499	26×26×13	(土師中10)
51	556-498	34×26×22	(須恵小26)
52	512-459	72×60×58	
53	522-464	46×32×32	12土坑より古。34土坑、2掘立より新。
54	561-509	98×90×130	16竪穴住居より新。砥石1
2区			
番号	位置 X-Y	大きさ(cm) 長径×短径×深さ	備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
1	欠番		
2	欠番		
3	欠番		
4	4号掘立柱建物P4		
5	677-577	52×45×21	
6	676-576	38×37×29	
7	675-575	48×45×22	(土師小6・大9)
8	675-575	32×23×21	
9	4号掘立柱建物P2		
10	673-573	52×48×51	
11	4号掘立柱建物P1		
12	674-574	64×49×50	(土師小16)
13	4号掘立柱建物P3		

番号	位置 X-Y	大きさ(cm)		備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
		長径×短径×深さ		
14	675-573	37×33×31		
15	675-573	31×28×30		(土師大2、須恵小14)
16	675-580	53×42×27		
17	3号掘立柱建物P6			
18	672-582	35×28×25		
19	3号掘立柱建物P7			
20	3号掘立柱建物P8			
21	670-580	36×24×17		
22	670-579	42×36×46		
23	欠番			
24	668-579	50×48×73		25ピットより新。(土師大9)
25	668-579	(30)×38×55		24ピットより古。
26	669-575	51×48×25		(土師大5、須恵小13)
27	669-574	33×30×29		(土師小24)
28	欠番			
29	670-581	54×46×42		(土師小13・大6、須恵小4)
30	3号掘立柱建物P5			
31	欠番			
32	欠番			
33	欠番			
34	欠番			
35	欠番			
36	欠番			
37	欠番			
38	欠番			
39	欠番			
40	652-574	63×51×73		
41	650-573	50×47×65		
42	671-569	55×48×120		3溝より古。(土師大5)
43	655-575	57×38×64		4溝と重複。
44	656-575	28×26×46		4溝より古。(土師大10)
45	670-570	52×38×58		3溝より古。
46	668-572	40×37×34		(土師小20・大3、須恵大8)
47	636-544	76×72×69		
48	616-541	47×42×33		
49	616-537	51×37×32		
50	612-541	48×44×31		
51	611-526	56×38×39		(土師大20)
52	611-525	51×36×22		(土師大5)
53	5号柱穴列P3			
54	596-542	86×61×52		131土坑より新。
55	660-567	40×38×36		
56	659-567	45×35×20		
57	欠番			
58	657-565	37×35×24		
59	657-564	36×31×36		
60	586-530	60×55×110		
61	586-531	63×63×118		44土坑より古。
62	588-520	86×68×119		112土坑より新。21溝より古。(土師小5・大82、須恵大25)
63	591-520	72×68×129		
64	5号柱穴列P2			
65	5号柱穴列P1			
66	601-546	78×75×22		72ピットより新。
67	欠番			
68	600-542	32×22×30		135土坑より新。
69	599-542	47×38×60		
70	601-544	(45)×(75)×44		71ピットより古。
71	601-544	(54)×(65)×62		70ピットより新。
72	601-546	68×48×48		66ピットより古。
73	欠番			
74	591-526	53×42×107		102土坑より古。
75	601-545	55×50×70		(須恵小34)
76	602-545	45×33×60		
77	599-545	58×50×50		
78	599-544	63×43×38		
79	655-576	43×34×38		4溝と重複。(土師大34)
80	666-572	35×35×34		須恵杯1(土師大1、須恵小4)
81	605-540	54×48×54		141土坑より古。
82	612-532	68×56×50		(土師大21、須恵小13)
83	609-530	65×62×46		(土師小8・大8)
84	608-530	65×57×51		
85	607-525	64×52×40		(土師大5)

第3章 調査の成果

第12表 ピット一覧表(2)

番号	位置 X-Y	大きさ(cm)	備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
		長径×短径×深さ	
86	609-534	67×48×68	22溝と重複。
87	613-532	52×47×55	(土師大8、須恵小6)
88	608-528	85×67×48	89ピットより新。(土師大67、須恵小8)
89	608-528	58×ー×72	88ピットより古。16竪穴住居と重複。
90	615-536	78×59×37	
91	613-534	47×43×44	
92	614-535	45×42×44	
93	617-529	50×42×39	
94	617-528	60×(38)×24	
95	616-530	86×56×46	(土師大163)
96	613-528	57×52×60	
97	613-528	52×42×36	
98	611-527	105×60×28	72・98土坑と重複。
99	611-529	58×42×32	
100	611-529	43×43×41	
101	612-530	44×42×35	
102	610-530	62×50×50	
103	609-529	57×55×29	
104	607-530	59×52×49	(土師小5、大17)
105	611-533	33×25×25	24溝より新。
106	608-534	30×27×39	22溝より新。
107	615-531	46×46×39	
108	615-530	48×44×50	
109	614-527	35×26×27	
110	666-573	89×83×127	4竪穴住居より新。

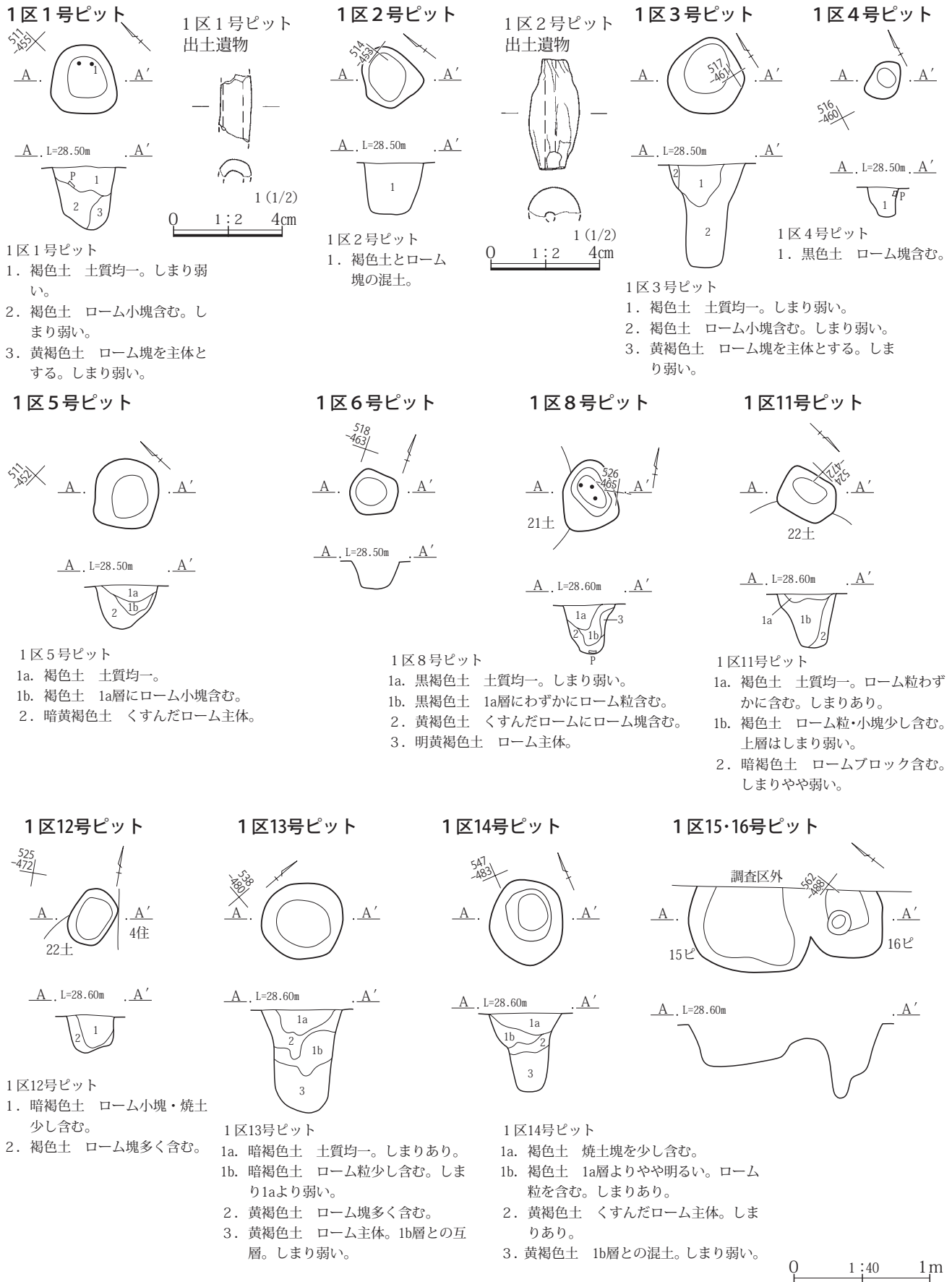
3区

番号	位置 X-Y	大きさ(cm)	備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
		長径×短径×深さ	
1	688-609	48×38×50	(土師小5)
2	741-633	39×65×48	
3	743-634	44×43×44	
4	747-631	59×49×45	
5	744-631	61×48×43	
6	733-625	54×43×23	
7	732-626	47×35×60	(須恵大47)
8	741-635	60×55×51	
9	726-628	45×43×124	
10	721-628	61×59×127	
11	734-642	73×58×121	(土師大190)
12	728-634	53×50×141	(土師小7・大4)
13	722-625	57×57×174	(土師大141、須恵小62)
14	723-639	39×34×31	
15	724-638	33×30×24	
16	722-639	34×34×16	

4区

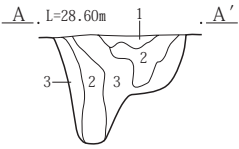
番号	位置 X-Y	大きさ(cm)	備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
		長径×短径×深さ	
1	406-407	63×58×27	(須恵大6)
2	440-425	31×27×32	
3	441-426	54×38×59	
4	452-431	42×37×29	
5	450-432	40×38×27	
6	433-419	75×47×56	(須恵小7)
7	466-447	49×47×31	
8	467-449	50×48×41	(土師大15)
9	441-429	31×29×20	39・43土坑より古。
10	475-447	49×47×34	6溝より古。(土師大16)
11	443-426	82×45×52	56土坑、10溝より新。12ピットと重複。
12	443-426	65×60×32	56土坑、10溝より新。11ピットと重複。
13	480-427	73×48×18	14竪穴住居より新。
14	479-428	63×48×45	12溝より古。16竪穴住居より新。土師葬1(土師大19)
15	497-441	57×51×57	
16	494-441	53×45×68	
17	494-442	67×60×15	
18	494-445	62×53×39	17溝より古。
19	492-442	43×33×31	
20	492-442	53×48×62	
21	491-444	55×38×71	
22	495-443	72×64×58	
23	496-438	70×(36)×(120)	86土坑より新。
24	489-442	64×57×52	65土坑より古。

番号	位置 X-Y	大きさ(cm)	備考 ○内は未掲載遺物。数字は重量・g。
		長径×短径×深さ	
25	496-449	77×(32)×(70)	
26	491-445	52×(16)×62	
27	491-440	55×53×59	80・81土坑と重複。
28	492-439	36×32×28	80土坑より古。
29	491-438	62×61×47	
30	470-450	72×50×55	89土坑より古。31ピットと重複。
31	470-450	56×28×53	30ピットと重複。
32	469-439	78×75×56	
33	498-487	35×33×53	
34	513-480	43×37×63	39ピットより新。(須恵大39)
35	507-478	33×27×19	
36	507-477	39×28×29	13井戸より新。(土師小5、須恵小2)
37	507-477	32×27×20	13井戸より新。
38	512-481	37×34×28	
39	513-480	26×(22)×47	34ピットより古。
40	483-518	35×27×31	
41	515-479	50×48×135	
42	514-477	35×34×31	20溝より古。(土師大2)
43	513-479	33×27×31	107土坑より新。
44	518-485	31×26×10	27溝より古。
45	530-494	38×32×31	(須恵小5)
46	497-487	32×28×29	
47	525-489	29×29×15	
48	509-474	30×28×27	
49	508-478	26×23×31	



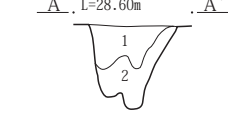
第243図 1区1～6・8・11～16号ピット平断面図、1・2号ピット出土遺物

1区17号ピット



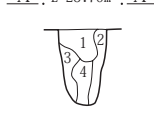
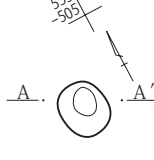
- 1区17号ピット
1. 褐色土 土質均一。ローム粒含む。しまり強い。
 2. 暗褐色土 ローム小塊を少し含む。しまり強い。
 3. 褐色土 土質やや粗い。くすんだローム。

1区18号ピット



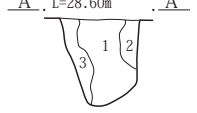
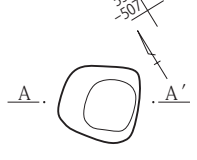
- 1区18号ピット
1. 褐色土 ローム塊含む。しまりあり。
 2. にぶい黄褐色土 くすんだローム主体。しまり弱い。

1区19号ピット



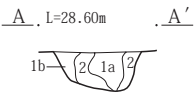
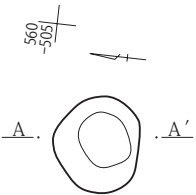
- 1区19号ピット
1. 暗褐色土 くすんだローム塊を含む。
 2. にぶい黄褐色土 1層との混土。
 3. 明黄褐色土 くすんだローム主体。
 4. 暗褐色土 1層より暗く、土質均一。

1区20号ピット



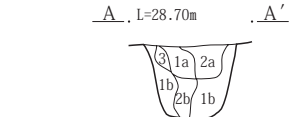
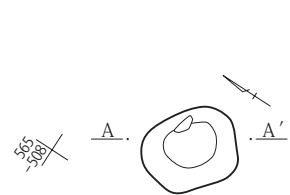
- 1区20号ピット
1. 黒褐色土 中央部土質乱れる。ローム塊含む。
 2. 褐色土 ローム塊含む。しまりあり。
 3. 黄褐色土 くすんだローム主体。

1区21号ピット



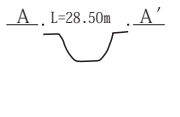
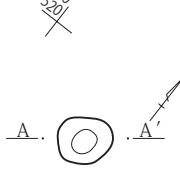
- 1区21号ピット
- 1a. 暗褐色土 ローム小塊含む。
 - 1b. 暗褐色土 土質均一。ローム小塊わずかに含む。
 2. にぶい黄褐色土 くすんだローム主体。粘性あり。

1区22号ピット

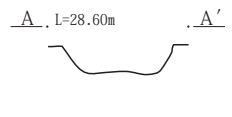
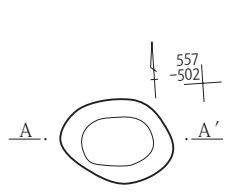


- 1区22号ピット
- 1a. 黄褐色土 2a層とくすんだロームの混土。しまりあり。
 - 1b. 黄褐色土 1a層より明るく、くすんだローム主体。
 - 2a. 褐色土 土質均一。ローム小塊少し含む。しまりあり。
 - 2b. 褐色土 2a層よりローム小塊多く含み、しまり弱い。
 3. 黒褐色土 土質均一。

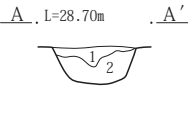
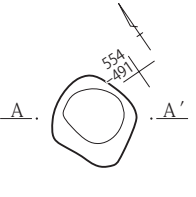
1区23号ピット



1区24号ピット

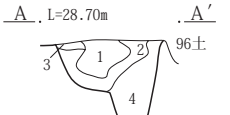
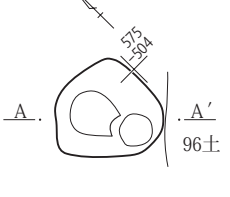


1区25号ピット



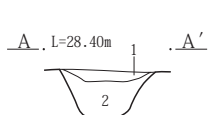
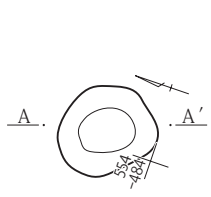
- 1区25号ピット
1. 暗褐色土 土質均一。ローム小塊少し含む。
 2. 明黄褐色土 ローム主体。

1区31号ピット



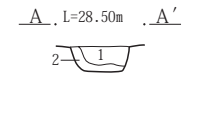
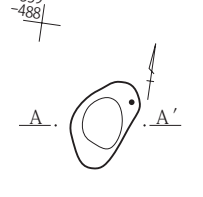
- 1区31号ピット
1. 褐色土 ローム粒・小塊少し含む。しまり強い。
 2. 暗褐色土 土質均一。しまり強い。
 3. 黄褐色土 くすんだローム主体。しまり弱い。
 4. 褐色土 固いローム粒・塊と2層との混土。

1区33号ピット

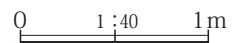


- 1区33号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒多く含む。しまりやや弱い。
 2. 暗褐色土 1層よりローム粒少ない。しまり弱い。
 3. 明黄褐色土 くすんだローム主体。

1区36号ピット

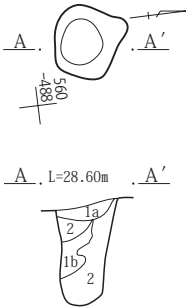


- 1区36号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒・小塊少し含む。
 2. 明黄褐色土 くすんだローム主体。



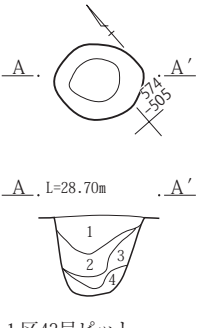
第244図 1区17～25・31・33・36号ピット平断面図

1区37号ピット



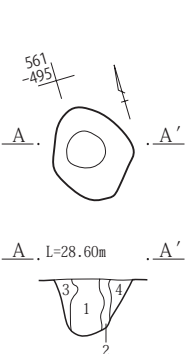
- 1区37号ピット
- 1a. 黒褐色土 くすんだローム混じり。
 - 1b. 黒褐色土 土質均一。しまりやや弱い。
 2. 褐色土 1a層とくすんだロームの混土。

1区42号ピット



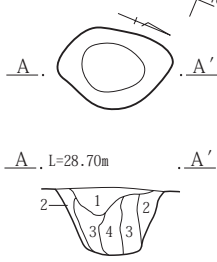
- 1区42号ピット
1. 暗褐色土 くすんだローム粒・塊を含む。しまり弱い。
 2. 暗褐色土 1より暗い。土質均一。しまり強い。
 3. 褐色土 くすんだローム多く含む。
 4. 明黄褐色土 ローム土主体。

1区47号ピット



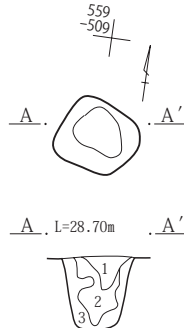
- 1区47号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少し含む。しまり強い。
 2. 褐色土 ローム細粒含む。しまり強い。
 3. にぶい黄褐色土 くすんだローム土・粒混じる。
 4. 暗褐色土 くすんだローム土混じる。しまり強い。

1区38号ピット



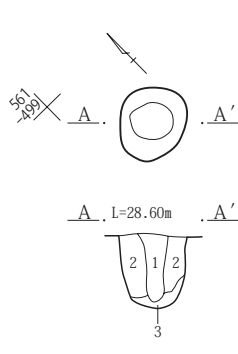
- 1区38号ピット
1. 暗褐色土 土質均一。ローム粒わずかに含む。しまり強い。
 2. 黄褐色土 くすんだローム主体。
 3. 黒褐色土 土質均一。しまりやや強い。粘性あり。
 4. 暗褐色土 ローム小塊含む。しまり強い。

1区44号ピット



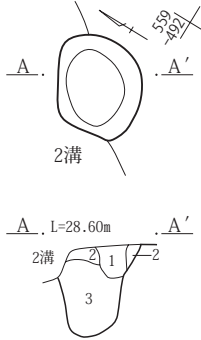
- 1区44号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒少し含む。しまりやや弱い。
 2. 黒褐色土 土質均一。しまりやや弱い。
 3. 褐色土 くすんだローム土と2層の混土。

1区48号ピット



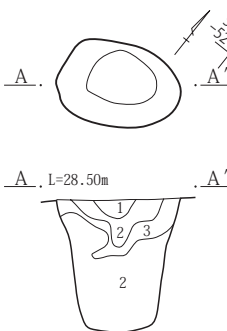
- 1区48号ピット
1. 褐色土 土質均一。柱痕か。
 2. くすんだ褐色土 ローム塊含む。
 3. くすんだ黄褐色土 ローム塊含む。しまり強い。

1区39号ピット



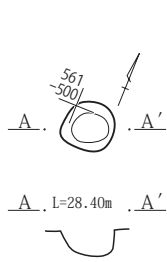
- 1区39号ピット
1. 黒褐色土 土質均一。ローム粒わずかに含む。
 2. 暗褐色土 土質均一。しまり強い。
 3. 暗褐色土 ローム粒少し含む。しまりやや強い。

1区46号ピット

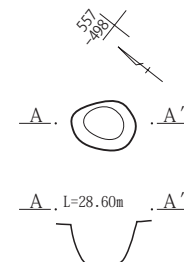


- 1区46号ピット
1. 暗褐色土 白色細粒わずかに含む。
 2. 暗褐色土 土質均一。
 3. 暗褐色土 黄色ローム粒含む。

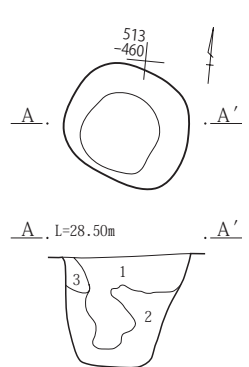
1区50号ピット



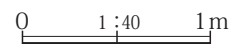
1区51号ピット



1区52号ピット

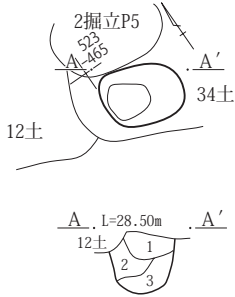


- 1区52号ピット
1. 黒褐色土 ローム粒・灰わずかに含む。
 2. 暗褐色土 ローム粒・小ブロック含む。
 3. 黄褐色土 ローム塊主体。



第245図 1区37～42・44～48・50～52号ピット平断面図

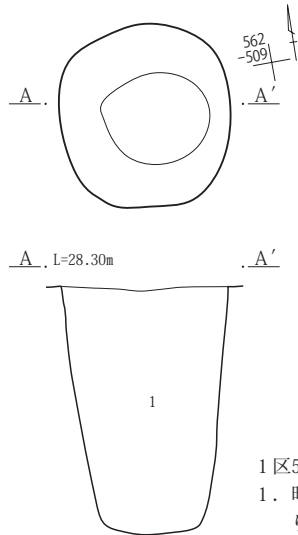
1区53号ピット



1区53号ピット

1. 褐色土 ローム塊含む。しまりあり。
2. にぶい黄褐色土 ローム小塊多く含む。しまり弱い。
3. 褐色土と2層の混土。

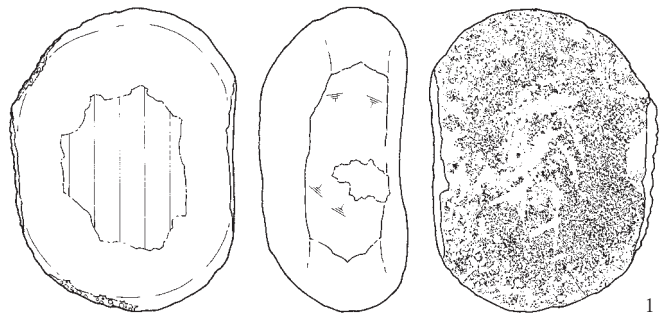
1区54号ピット



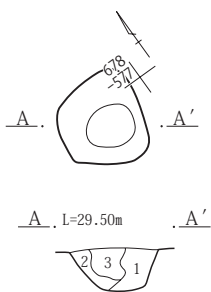
1区54号ピット

1. 暗褐色土 土質均一、しまりかなり弱い。

1区54号ピット出土遺物



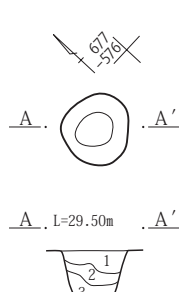
2区5号ピット



2区5号ピット

1. 暗褐色土 にぶい黄褐色土との混土。ローム粒・小塊少し含む。
2. にぶい黄褐色土 くすんだローム主体。しまり弱い。
3. 黒褐色土 1層少し含む。下層にローム小塊少し含む。

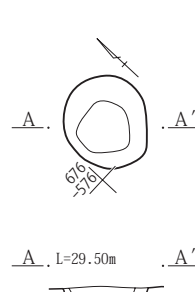
2区6号ピット



2区6号ピット

1. 暗褐色土 にぶい黄褐色土との混土。ローム粒・小塊少し含む。
2. 黒褐色土 ローム粒・小塊少し含む。しまりかなり強い。
3. にぶい黄褐色土 くすんだローム主体。しまり弱い。

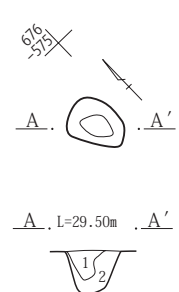
2区7号ピット



2区7号ピット

1. 暗褐色土 にぶい黄褐色土との混土。ローム粒・小塊少し含む。
2. 黄褐色土 ローム主体。しまり弱い。

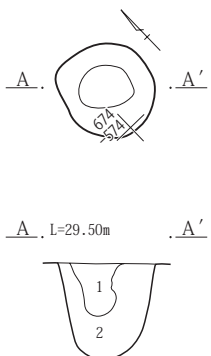
2区8号ピット



2区8号ピット

1. 暗褐色土 にぶい黄褐色土との混土。ローム粒・小塊少し含む。
2. にぶい黄褐色土 1層とくすんだロームの混土。しまりやや弱い。

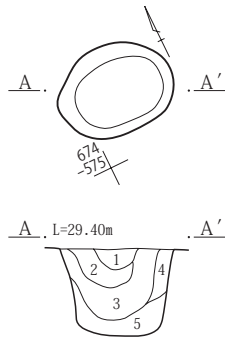
2区10号ピット



2区10号ピット

1. 暗褐色土 にぶい黄褐色土との混土。ローム粒・小塊少し含む。
2. にぶい黄褐色土 1層とくすんだロームの混土。しまりやや弱い。

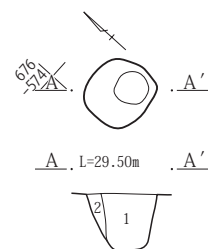
2区12号ピット



2区12号ピット

1. にぶい黄色土 くすんだローム主体。
2. 黄灰色土
3. 褐灰色土 1層との混土。炭化物多い。
4. 明黄褐色土 ローム主体。
5. 灰黄褐色土 もろく崩れやすい。

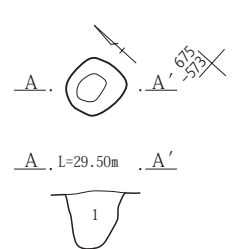
2区14号ピット



2区14号ピット

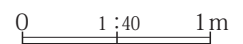
1. 暗褐色土 土質均一。ローム粒わずかに含む。
2. 黄褐色土 ローム主体。しまり弱い。

2区15号ピット



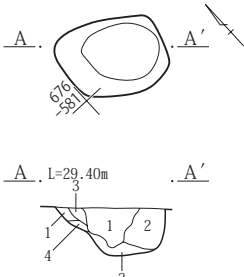
2区15号ピット

1. 暗褐色土 土質均一。ローム粒わずかに含む。



第246図 1区53・54号・2区5～8・10・12・14・15号ピット平断面図、1区54号ピット出土遺物

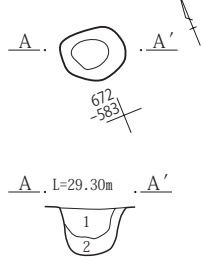
2区16号ピット



2区16号ピット

1. 黒褐色土 土質均一。
2. 黒褐色土 ローム粒・塊少し含む。
3. 黄褐色土 くすんだローム混じり。しまりやや弱い。
4. 明黄褐色土 くすんだローム主体。

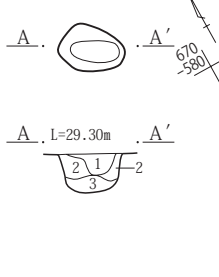
2区18号ピット



2区18号ピット

1. 暗褐色土 ローム小塊少し含む。鉄分の沈着が見られる。
2. にぶい黄褐色土 くすんだロームに暗褐色土少し混じる。しまり弱い。

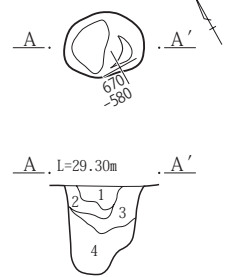
2区21号ピット



2区21号ピット

1. 暗褐色土 2層少し混じる。
2. 褐色土 鉄分沈着が見られる。しまりやや弱い。
3. にぶい黄褐色土 土質均一。しまりやや強い。

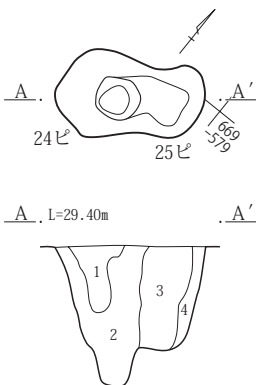
2区22号ピット



2区22号ピット

1. 暗褐色土 2層少し混じる。
2. 褐色土 鉄分沈着が見られる。しまりやや弱い。
3. 暗褐色土 しまりやや弱い。
4. にぶい黄褐色土 土質均一。しまりやや強い。

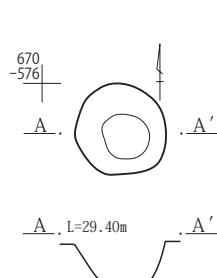
2区24・25号ピット



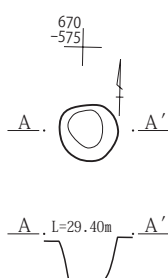
2区24・25号ピット

1. 黒褐色土 土質均一。しまり強い。
2. 暗褐色土 鉄分沈着が多く見られる。しまり弱い。
3. 暗褐色土 鉄分沈着が多く見られる。しまりやや強い。
4. にぶい黄褐色土 土質均一。しまりやや強い。

2区26号ピット



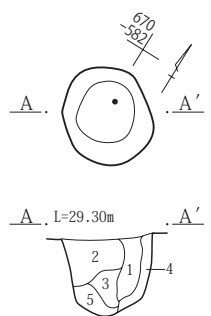
2区27号ピット



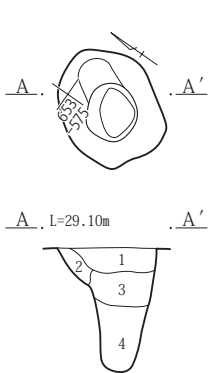
2区29号ピット

1. 黒褐色土 くすんだローム少し含む。
2. 黒褐色土 ローム粒・炭化物少し含む。しまりやや弱い。
3. 黒褐色土 鉄分が沈着した明黄褐色土を含む。
4. 褐色土 くすんだローム。鉄分沈着あり。
5. 黄褐色土 くすんだローム主体。しまり弱い。

2区29号ピット



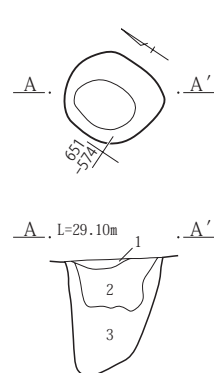
2区40号ピット



2区40号ピット

1. 灰オリーブ色土 ローム小塊・2層を少し含む。
2. 黄褐色土 土質均一。
3. 暗オリーブ灰色土 ローム小塊少し含む。しまり弱い。
4. 暗灰オリーブ土 ローム塊を多く含む。しまり弱い。

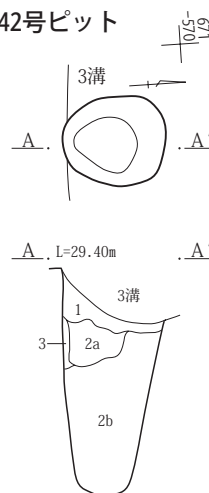
2区41号ピット



2区41号ピット

1. 暗黄褐色土 くすんだローム主体。しまりやや弱い。
2. 暗オリーブ灰色土 土質ほぼ均一。鉄分沈着が見られる。しまりやや弱い。
3. 暗灰黄色土 2層少し混じる。しまり強い。

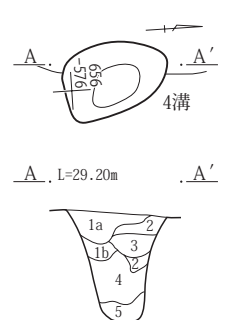
2区42号ピット



2区42号ピット

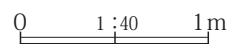
1. 黄灰色土 砂をわずかに含む。土質均一。
- 2a. 黒褐色土 くすんだローム粒・塊少し含む。しまり強い。
- 2b. 黒褐色土 土質ほぼ均一。しまりやや強い。
3. 黄褐色土 くすんだローム含む。

2区43号ピット



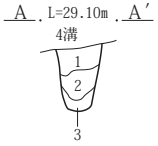
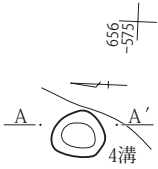
2区43号ピット

- 1a. 褐灰色土 土質均一。
- 1b. 褐灰色土 ローム粒少し含む。
2. 黄褐色土 くすんだローム粒・塊を含む。
3. 暗オリーブ灰色土 ローム小塊を含む。
4. オリーブ黒色土 土質均一。下層部しまり弱い。
5. 灰オリーブ土 固いローム土含む。



第247図 2区16・18・21・22・24～27・29・40～43号ピット平断面図

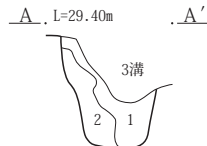
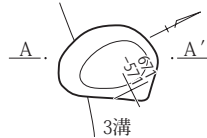
2区44号ピット



2区44号ピット

1. オリーブ黒色土 土質均一。ローム粒わずかに含む。しまり強い。
2. 灰オリーブ土 ローム粒・小塊含む。しまり強い。
3. 黄褐色土 固いローム少し含む。しまりやや弱い。

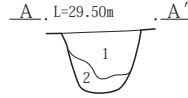
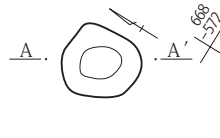
2区45号ピット



2区45号ピット

1. 黒褐色土 ローム小塊を少し含む。しまり弱い。
2. 黄褐色土 固いローム土主体。1層混じる。

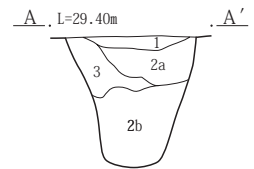
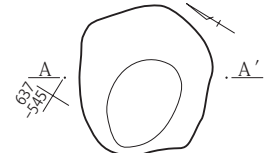
2区46号ピット



2区46号ピット

1. オリーブ黒色土
2. 暗オリーブ色土 くすんだロームと1層との混土。

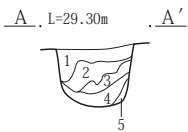
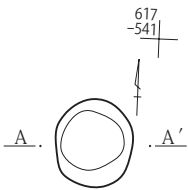
2区47号ピット



2区47号ピット

1. 褐灰色土
- 2a. 黒褐色土 ローム塊少し含む。
- 2b. 黒褐色土 くすんだローム多く含む。
3. 黒褐色土 2b層よりロームの割合多い。

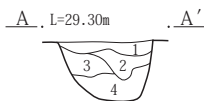
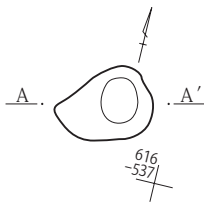
2区48号ピット



2区48号ピット

1. にぶい黄色土 くすんだロームと2層との混土。しまり強い。
2. オリーブ黒色土 土質均一。しまりとても弱い。
3. 明黄褐色土 くすんだローム主体。しまりやや強い。
4. 暗灰黄色土 ローム小塊少し含む。しまりやや弱い。
5. 黄褐色土 くすんだロームと4層との混土。

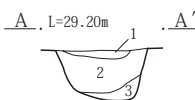
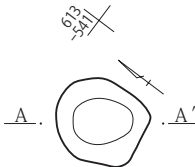
2区49号ピット



2区49号ピット

1. 黄褐色土 ローム粒わずかに含む。
2. 黄灰色土 土質均一。
3. 褐灰色土 ローム小塊含む。
4. 褐灰色土 ローム小塊少し含む。

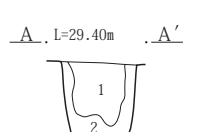
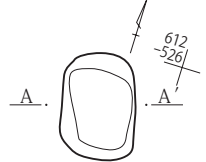
2区50号ピット



2区50号ピット

1. 黄褐色土 ローム粒わずかに含む。
2. 黄灰色土 ローム粒わずかに含む。しまり弱い。
3. にぶい黄色土 くすんだロームと2層との混土。しまりやや強い。

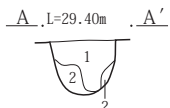
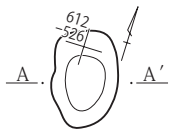
2区51号ピット



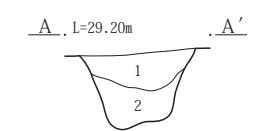
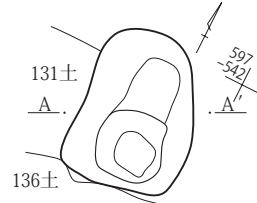
2区51・52号ピット

1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2. くすんだ黄褐色土 ローム塊含む。

2区52号ピット



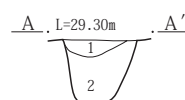
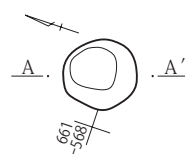
2区54号ピット



2区54号ピット

1. 褐色土 ローム塊混じり。
2. 黄褐色土 ローム塊主体。

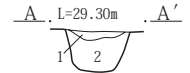
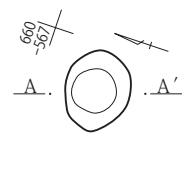
2区55号ピット



2区55号ピット

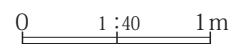
1. 黒褐色土 ローム粒少し含む。
2. 黒褐色土 1よりやや暗く、土質均一。

2区56号ピット



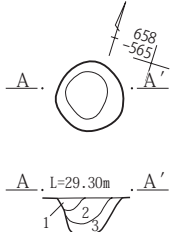
2区56号ピット

1. 黒褐色土 ローム粒少し含む。
2. 黒褐色土 ロームを含む。



第248図 2区44～52・54～56号ピット平断面図

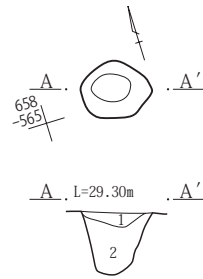
2区58号ピット



2区58号ピット

1. にぶい黄色土 くすんだロームと2層の混土。
2. 黒褐色土 土質均一。
3. 明黄褐色土 ローム主体。

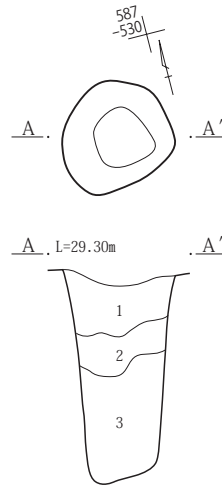
2区59号ピット



2区59号ピット

1. オリーブ色土 土質粗い。くすんだローム・ローム粒・黒褐色土の混土。
2. オリーブ黒色土 土質やや均一。ローム粒わずかに含む。

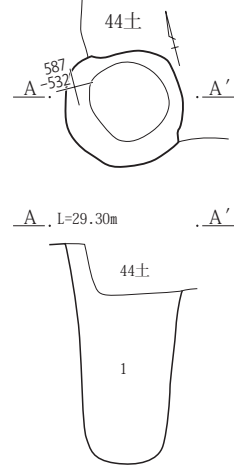
2区60号ピット



2区60号ピット

1. 暗褐色土 ローム塊斑に含む。しまり弱い。
2. 黒褐色土 ローム塊わずかに含む。しまり弱い。
3. 黒褐色土 ローム塊やや多く含む。しまり弱い。

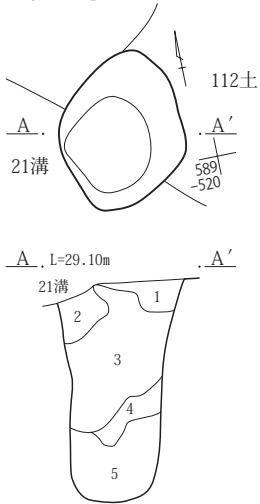
2区61号ピット



2区61号ピット

1. 黒褐色土 ローム塊わずかに含む。全体にしまり弱い。

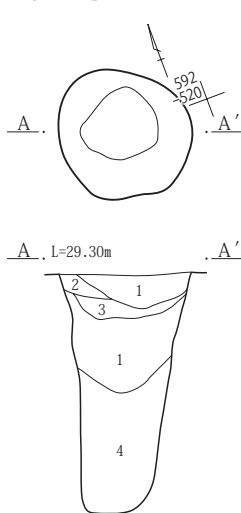
2区62号ピット



2区62号ピット

1. 暗褐色土とローム塊の混土。固くしまる。
2. 暗灰褐色土 小砂礫・炭化物粒わずかに含む。
3. 黒褐色土 ローム小塊斑点状に含む。しまり弱い。
4. 黄褐色土 くすんだローム主体。しまり弱い。
5. 黒褐色土 ロームと褐色土の混土。

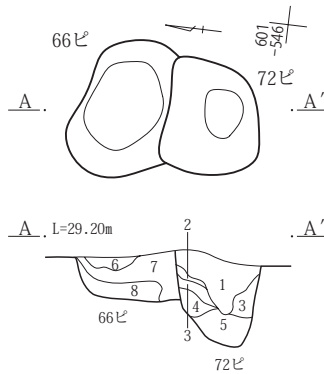
2区63号ピット



2区63号ピット

1. 暗灰褐色土 小砂礫・炭化物粒わずかに含む。
2. 暗黄褐色土 くすんだロームと黒褐色土の混土。
3. 黒褐色土 ローム大塊含む。
4. 黄褐色土 くすんだローム主体。しまり弱い。

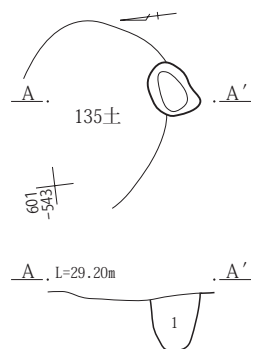
2区66・72号ピット



2区66・72号ピット

1. 褐色土 ローム細粒含む。
2. 黒褐色土 ローム塊含む。
3. 黒褐色土 ローム粒・小塊わずかに含む。
4. 黒褐色土 ローム塊多く含む。
5. 黒褐色土・ローム・くすんだロームが互層に堆積。
6. 黒褐色土 ローム塊含む。
7. ローム塊と暗褐色土塊の混土。
8. 黒褐色土 ローム塊を多く含む。

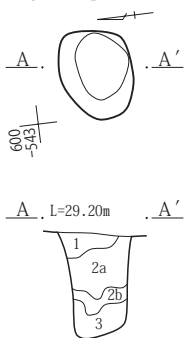
2区68号ピット



2区68号ピット

1. くすんだ褐色土 ローム小塊多く含む。

2区69号ピット



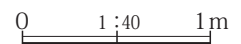
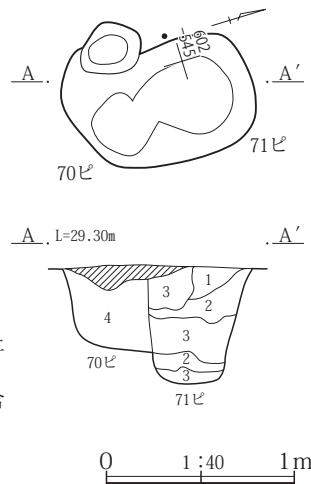
2区69号ピット

1. くすんだ褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2a. 黒褐色土 ローム小塊含む。
- 2b. 2a層よりローム塊大きく、やや多く含む。
3. 黒褐色土 土質均一。

2区70・71号ピット

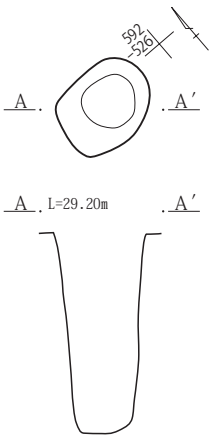
1. くすんだ黄褐色土 ロームと褐色土の混土。
2. 黄褐色土 ローム小塊主体。褐色土・黒色土小塊混じり。
3. 黒褐色土 土質均一。ローム小塊わずかに含む。
4. 黒褐色土 3層よりローム塊やや多い。

2区70・71号ピット

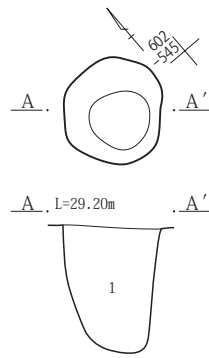


第249図 2区58～63・66・68～72号ピット平衡面図

2区74号ピット

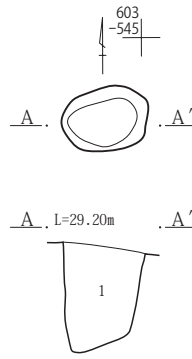


2区75号ピット



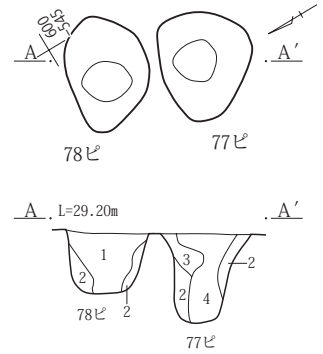
2区75号ピット
1. 褐灰色土 ローム塊と暗褐色土塊の混土。

2区76号ピット



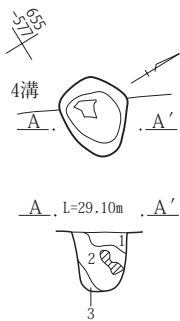
2区76号ピット
1. 黒褐色土 土質均一。ローム小塊わずかに含む。

2区77・78号ピット



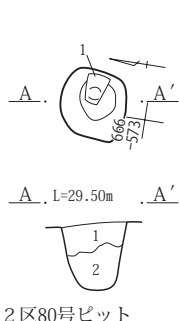
2区77・78号ピット
1. 褐色土 ローム細粒含む。
2. 黒褐色土 ローム粒含む。
3. 黒褐色土・ローム・くすんだロームが互層に堆積。
4. 黒褐色土 ローム粒・小塊わずかに含む。

2区79号ピット



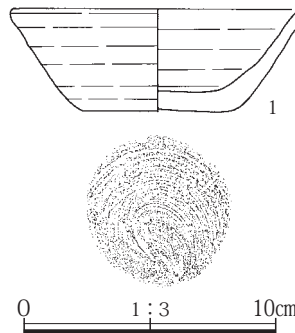
2区79号ピット
1. 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
2. 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。鉄分沈着少しあり。
3. オリーブ色土 ローム粒と2層が混じる。

2区80号ピット

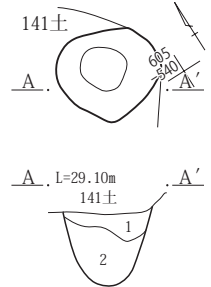


2区80号ピット
1. 暗オリーブ色土 土質粗い。くすんだローム・ローム粒と2層の混土。鉄分沈着あり。
2. オリーブ黒色土 土質はぼ均一。マンガン沈着少しあり。しまりやや弱い。

2区80号ピット出土遺物

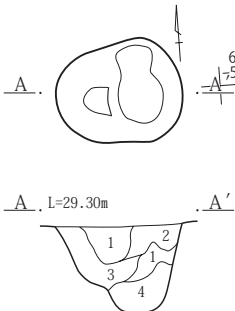


2区81号ピット



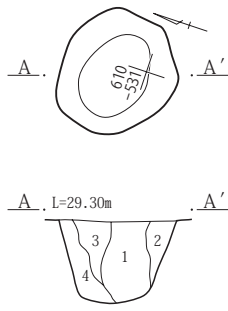
2区81号ピット
1. 褐灰色土 ローム細粒含む。炭化物粒わずかに含む。
2. 褐灰色土 ローム塊多く含む。しまりあり。

2区82号ピット



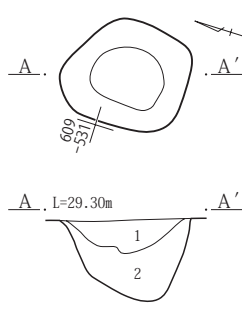
2区82号ピット
1. くすんだ黄褐色土 くすんだロームにローム塊含む。
2. くすんだ黄褐色土 くすんだローム土。
3. 黒褐色土 ローム小塊わずかに含む。
4. 黒褐色土 ローム小塊斑に含む。

2区83号ピット



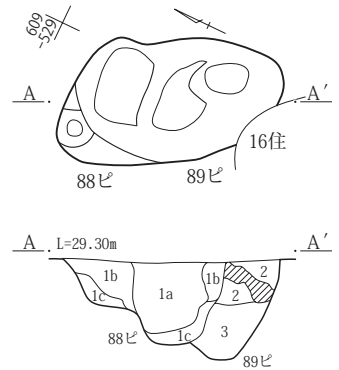
2区83号ピット
1. くすんだ黄褐色土 くすんだロームにローム塊含む。
2. くすんだ黄褐色土 くすんだローム土。
3. 黄褐色土 くすんだロームにローム塊含む。
4. 黒褐色土 ローム小塊わずかに含む。

2区84号ピット

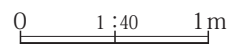


2区84号ピット
1. くすんだ黄褐色土 くすんだロームにローム塊含む。
2. くすんだ黄褐色土 くすんだローム土。

2区88・89号ピット

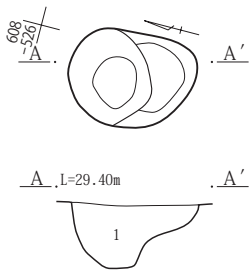


2区88・89号ピット
1a. 褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒わずかに含む。
1b. 褐色土 1a層よりローム粒多く含む。
1c. 褐色土 1b層にくすんだローム混じり。
2. くすんだ褐色土 ローム粒含む。
3. くすんだ黄褐色土 くすんだロームとローム塊の混土。



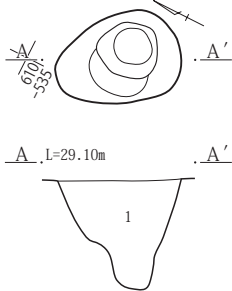
第250図 2区74～84・88・89号ピット平断面図、80号ピット出土遺物

2区85号ピット

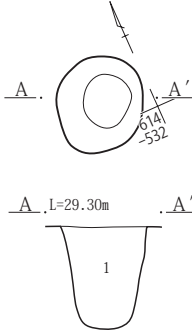


2区85～87号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。

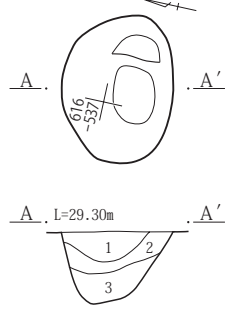
2区86号ピット



2区87号ピット

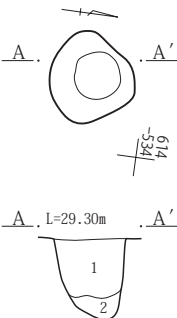


2区90号ピット



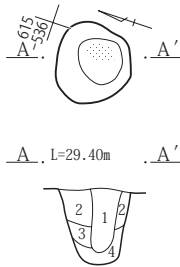
2区90号ピット
1. 暗褐色土 ローム小塊含む。粘性・しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム塊少し含む。粘性・しまりやや弱い。
3. にぶい黄褐色土 ローム塊ごく多く含む。粘性・しまり弱い。

2区91号ピット



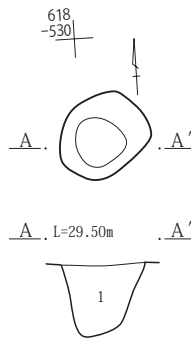
2区91号ピット
1. 黒褐色土 ローム小塊・粒少量、焼土粒微量含む。粘性・しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム小塊微量含む。粘性・しまりやや強い。

2区92号ピット



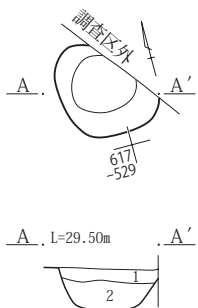
2区92号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒微量含む。粘性・しまり弱い。柱痕か。
2. 褐色土 黒褐色土大塊多量含む。粘性・しまりやや強い。
3. 暗褐色土 ローム塊多量含む。粘性やや強い。しまり強い。
4. 暗褐色土 ローム小塊微量含む。粘性やや強い。しまり強い。

2区93号ピット



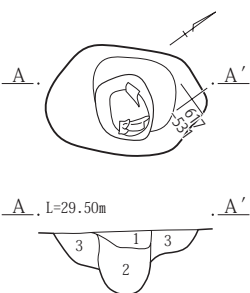
2区93号ピット
1. 暗褐色土 ローム塊含む。粘性・しまりやや弱い。

2区94号ピット



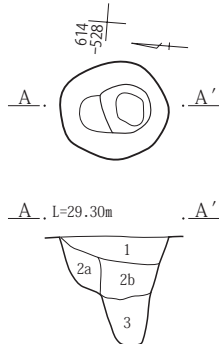
2区94号ピット
1. 暗褐色土 ローム塊含む。粘性・しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性・しまりやや弱い。

2区95号ピット



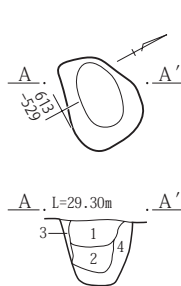
2区95号ピット
1. 暗褐色土 焼土小塊含む。粘性・しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム塊混じる。粘性やや弱く、しまり弱い。
3. 褐色土 ローム塊・暗褐色土小塊混じる。粘性やや弱く、しまりやや強い。

2区96号ピット



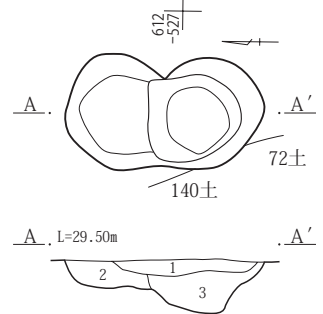
2区96号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒少量含む。しまり強い。
2a. 黄褐色土 1層が少し混じる。ローム塊多く含む。しまり弱い。
2b. 黄褐色土 2aよりもローム塊を多く含む。もろく崩れやすい。
3. 黄褐色土 ローム塊主体。しまり弱く、崩れやすい。

2区97号ピット

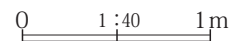


2区97号ピット
1. 黒褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり強い。
2. 黒褐色土 ローム粒・小塊を少し含む。
3. 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。マンガン沈着少しあり。
4. 暗黄褐色土 ローム主体。

2区98号ピット

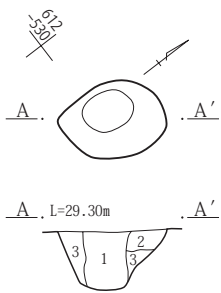


2区98号ピット
1. 灰黄褐色土 くすんだローム粒・ローム土混じり。
2. 鈍い黄褐色土 土質やや粗い。くすんだロームが混じる。
3. オリーブ褐色土 土質粗い。くすんだロームと1層の混土。



第251図 2区85～87・90～98号ピット平断面図

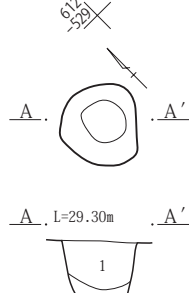
2区99号ピット



2区99号ピット

1. 黒褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり強い。
2. 黒褐色土 ローム粒・小塊を少し含む。
3. 明黄褐色土 ローム土主体。

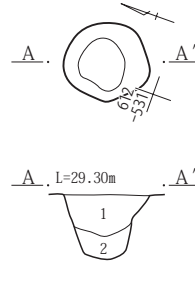
2区100号ピット



2区100号ピット

1. 灰黄褐色土 土質粗く、ローム粒・黒褐色土塊が混じる。鉄分沈着少しあり。しまり強い。
2. 褐灰色土 ローム塊をわずかに含む。しまり弱い。

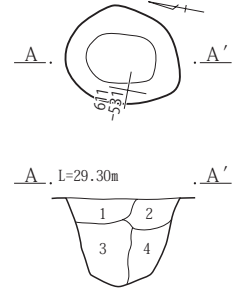
2区101号ピット



2区101号ピット

1. にぶい黄褐色土 くすんだローム塊をわずかに含む。
2. 灰黄褐色土 ローム粒を少量含む。

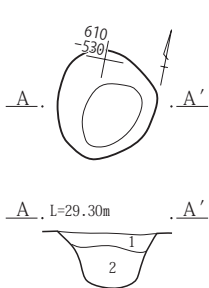
2区102号ピット



2区102号ピット

1. 暗褐色土 くすんだローム土・塊が上層に混じる。
2. 暗褐色土 くすんだローム土が混じる。しまり強い。
3. 黒褐色土 土質均一。しまりやや強い。
4. 黒褐色土 ロームが少し混じる。

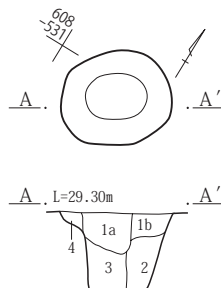
2区103号ピット



2区103号ピット

1. 灰黄褐色土 土質粗く、ローム粒・黒褐色土塊が混じる。鉄分沈着少しあり。しまり強い。
2. 黄褐色土 1層とロームとの混土。しまりやや強い。

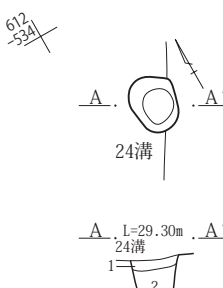
2区104号ピット



2区104号ピット

- 1a. 灰黄褐色土 ローム小塊を少量含む。しまり強い。
- 1b. 灰黄褐色土 1a層よりローム粒やや多く含む。しまり強い。
2. 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり弱い。
3. 黒褐色土 ローム粒・小塊を2層よりやや多く含む。しまりやや弱い。
4. にぶい黄褐色土 ローム主体。

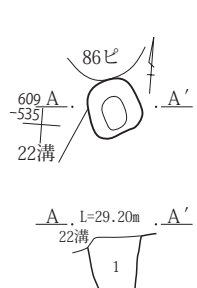
2区105号ピット



2区105号ピット

1. 灰黄褐色土 土質やや粗く、ローム粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土 ローム塊を含む。しまりやや弱い。

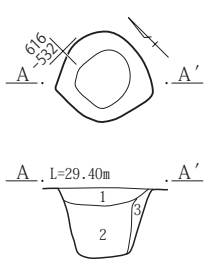
2区106号ピット



2区106号ピット

1. 黒褐色土 土質ほぼ均一。下層部しまりやや弱い。

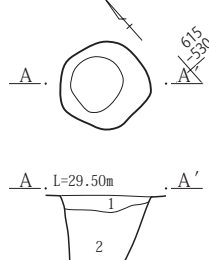
2区107号ピット



2区107号ピット

1. 暗褐色土 焼土粒少量、ローム粒わずかに含む。しまりやや強い。
2. 暗褐色土 1よりやや暗く、マンガン沈着多い。しまり弱い。
3. にぶい黄褐色土 くすんだローム主体。

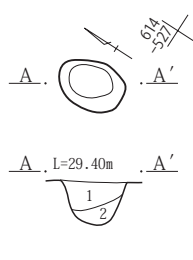
2区108号ピット



2区108号ピット

1. 暗褐色土 くすんだローム塊を含む。鉄分沈着少しあり。しまり強い。
2. 黒褐色土 土質ほぼ均一。鉄分沈着あり。しまり強い。

2区109号ピット



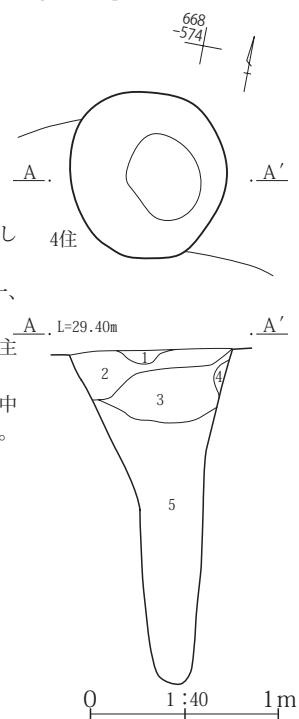
2区109号ピット

1. 暗灰黄色土 くすんだローム土混じり。
2. 褐灰色土 くすんだローム土・塊を少し含む。

2区110号ピット

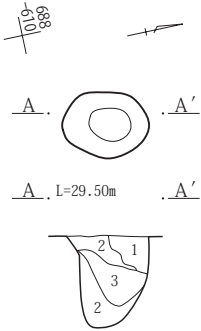
1. 黒褐色土 土質均一。
2. 灰色土 ローム粒少し含み、しまり強い。
3. 暗オリーブ灰色土 土質均一、鉄分沈着、しまり強い。
4. 明黄褐色土 くすんだローム主体。
5. 暗オリーブ灰色土 ローム小中塊多く含み、下部に水がわく。

2区110号ピット



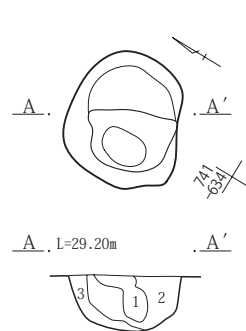
第252図 2区99～110号ピット平断面図

3区1号ピット



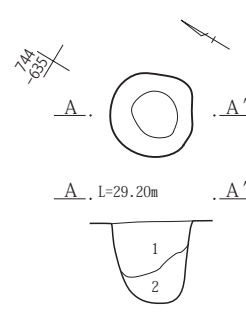
- 3区1号ピット
1. 黄褐色土 くすんだローム土、ローム塊、暗褐色土塊の混土。
 2. 黄褐色土 くすんだローム土にローム粒多く混じる。暗褐色土塊わずかに含む。
 3. 黒褐色土 土質均一。ローム粒わずかに含む。

3区2号ピット



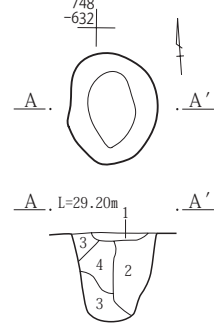
- 3区2号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。しまり弱い。
 2. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。
 3. 黒褐色土 ローム細粒わずかに含む。

3区3号ピット



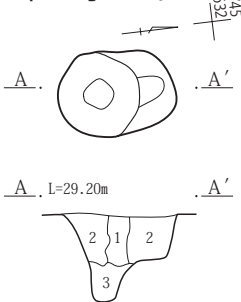
- 3区3号ピット
1. 暗褐色土 ローム塊含む。
 2. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。

3区4号ピット



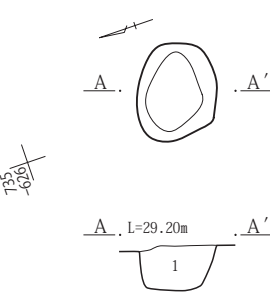
- 3区4号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。しまり弱い。
 2. 暗褐色土 ローム塊含む。
 3. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。
 4. 3層よりローム塊少ない。

3区5号ピット



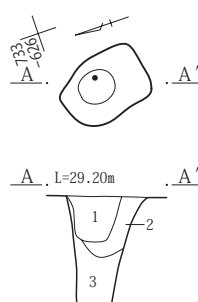
- 3区5号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。しまり弱い。
 2. 暗褐色土 ローム塊含む。
 3. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。

3区6号ピット



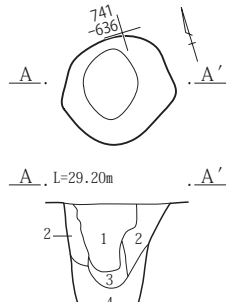
- 3区6号ピット
1. 暗褐色土 ローム塊含む。

3区7号ピット



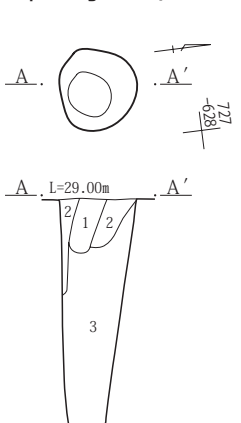
- 3区7号ピット
1. 暗褐色土 ローム塊含む。
 2. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。
 3. 黒褐色土 ローム細粒わずかに含む。

3区8号ピット



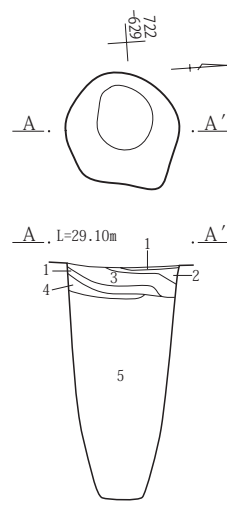
- 3区8号ピット
1. 暗褐色土 ローム塊含む。
 2. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。
 3. 黒褐色土 ローム細粒わずかに含む。
 4. 2層よりローム塊少ない。

3区9号ピット



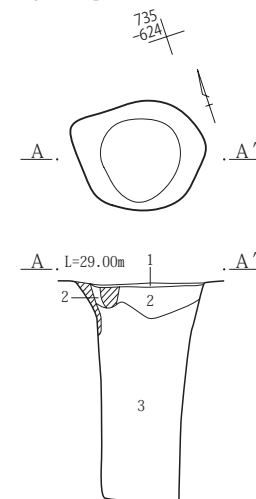
- 3区9号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。しまり弱い。
 2. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。
 3. 暗褐色土 ローム塊含む。

3区10号ピット



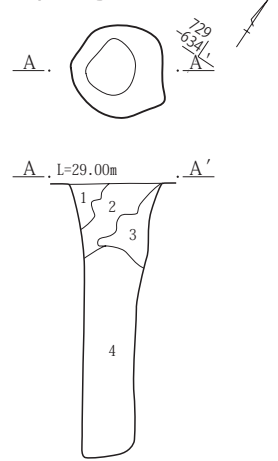
- 3区10号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。しまり弱い。
 2. 明黄色ローム塊主体。
 3. 暗褐色土 白色軽石粒含み、ザラつく。
 4. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。
 5. 黒褐色土 ローム細粒わずかに含む。

3区11号ピット

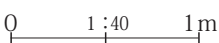


- 3区11号ピット
1. 暗褐色土 白色軽石粒含み、ザラつく。
 2. 暗褐色土 ローム塊含む。
 3. 黒褐色土 ローム細粒わずかに含む。

3区12号ピット

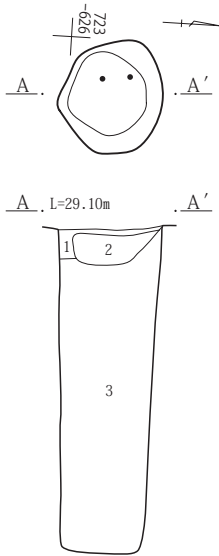


- 3区12号ピット
1. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。
 2. 暗褐色土 ローム塊含む。
 3. 1層よりローム塊少ない。
 4. 黒褐色土 ローム細粒わずかに含む。

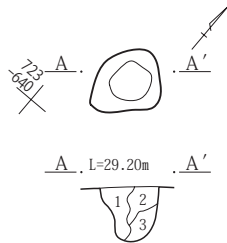


第253図 3区1～12号ピット平断面図

3区13号ピット

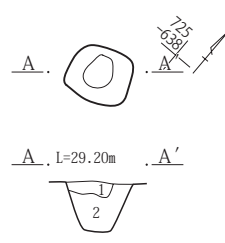


3区14号ピット



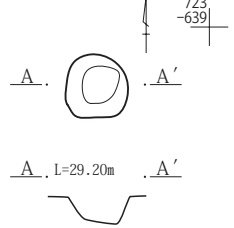
- 3区14号ピット
1. 暗褐色土 ローム塊含む。
 2. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。しまり弱い。
 3. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。

3区15号ピット



- 3区15号ピット
1. 1層よりローム塊少ない。
 2. くすんだロームとローム塊の混土。暗褐色土塊含む。

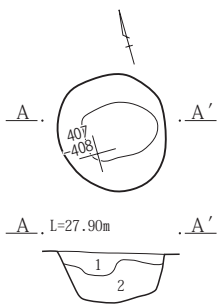
3区16号ピット



3区13号ピット

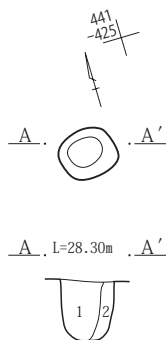
1. 明黄色ローム塊主体。
2. 暗褐色土 白色軽石粒含み、ザラつく。
3. 黒褐色土 ローム細粒わずかに含む。

4区1号ピット



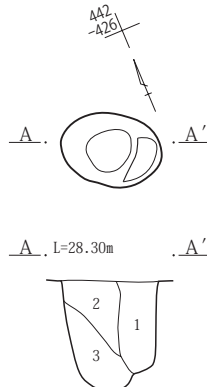
- 4区1号ピット
1. 黒褐色土 くすんだローム塊含む。しまり強い。
 2. 黄褐色土 くすんだローム主体。1層混じる。しまりやや強い。

4区2号ピット



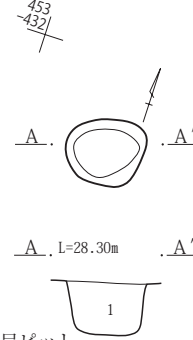
- 4区2号ピット
1. 褐灰色土 ローム粒少量含む。しまり弱い。
 2. 褐灰色土 ローム塊多く含む。しまり弱い。

4区3号ピット



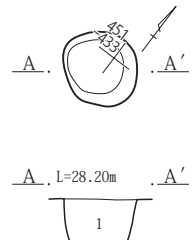
- 4区3号ピット
1. 褐灰色土 ローム粒少量含む。しまり弱い。
 2. 褐灰色土 ローム塊多く含む。しまり弱い。
 3. 明黄褐色土 ローム主体。しまり弱い。

4区4号ピット



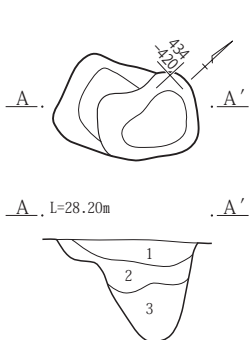
- 4区4号ピット
1. 黒褐色土 ローム大塊数個含む。しまり弱い。

4区5号ピット



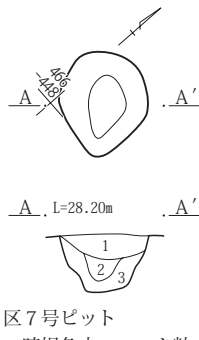
- 4区5号ピット
1. 黒褐色土 ローム粒・塊含む。しまり弱い。

4区6号ピット



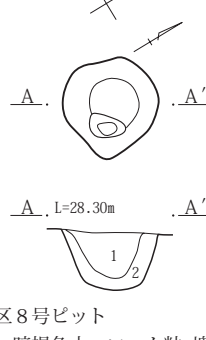
- 4区6号ピット
1. 黒褐色土 ローム塊含む。しまりやや弱い。
 2. 黒褐色土 土質均一。しまり弱い。
 3. 黒褐色土 ローム塊やや多く含む。しまり弱い。

4区7号ピット



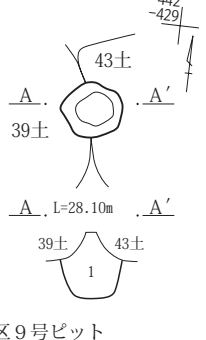
- 4区7号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒・小塊含む。粘性・しまりやや弱い。
 2. 褐色土 崩れたローム。暗褐色土小塊少量含む。粘性やや強く、しまりやや弱い。
 3. 暗褐色土 ローム粒少量含む。粘性・しまりやや強い。

4区8号ピット

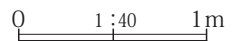


- 4区8号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒・塊微量含む。粘性やや弱く、しまり弱い。
 2. 暗褐色土 ローム粒・小塊含む。粘性・しまりやや弱い。

4区9号ピット

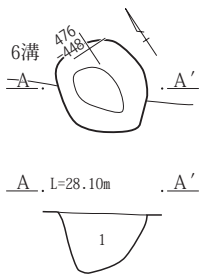


- 4区9号ピット
1. 黒褐色土 土質均一。しまり弱い。



第254図 3区13～16号・4区1～9号ピット平衡断面図

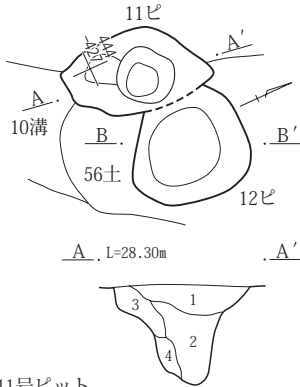
4区10号ピット



4区10号ピット

1. 暗褐色土 ローム小塊微量含む。粘性やや弱く、しまりやや強い。

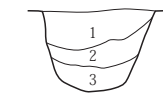
4区11・12号ピット



4区11号ピット

1. 黒褐色土 ローム塊含む。粘性・しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性やや弱く、しまり弱い。
3. 暗褐色土 ローム塊多く含む。粘性・しまりやや弱い。
4. にぶい黄褐色土 ローム粒微量含む。粘性弱く、しまりごく弱い。

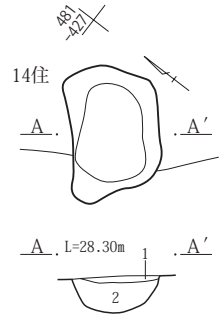
B. L=28.30m .B'



4区12号ピット

1. 黒褐色土 ローム粒・小塊含む。しまりやや弱い。
2. 暗灰黄色土 ローム塊多く含む。もろく崩れやすい。
3. 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまり弱い。

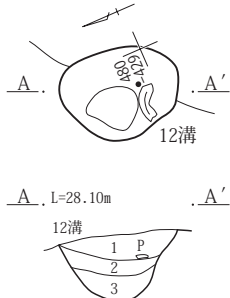
4区13号ピット



4区13号ピット

1. 黒褐色土 土質均一。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 ローム粒・小塊含む。しまりやや弱い。

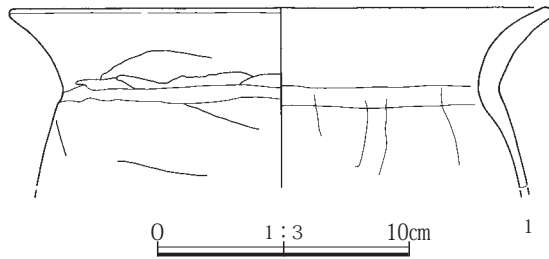
4区14号ピット



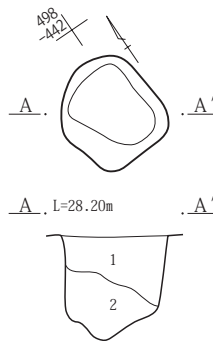
4区14号ピット

1. 暗褐色土 焼土粒・大塊少量含む。しまり強い。
2. 暗褐色土 灰黄色粘土塊・焼土粒を多く含む。しまりやや強い。
3. 灰黄褐色土 焼土粒・固いローム塊を少量含む。しまりやや弱い。

4区14号ピット出土遺物



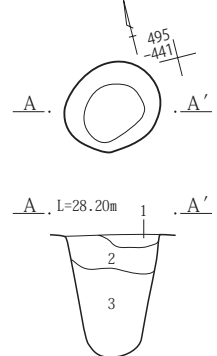
4区15号ピット



4区15号ピット

1. 暗褐色土 ローム粒・塊多く含む。2層少量含む。しまり強い。
2. 黒褐色土 土質ほぼ均一。ローム塊わずかに含む。しまり弱い。

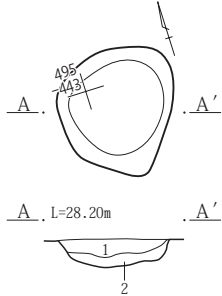
4区16号ピット



4区16号ピット

1. 黒褐色土 土質均一。しまり強い。
2. 暗褐色土 ローム粒・固いローム塊・1層が混じる。土質粗い。しまり強い。
3. 黒褐色土 土質ほぼ均一。ローム塊わずかに含む。しまり弱い。

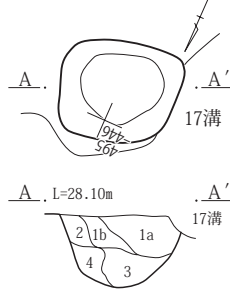
4区17号ピット



4区17号ピット

1. 暗褐色土 ローム粒・塊多く含む。2層少量含む。しまり強い。
2. 明黄褐色土 ローム主体。1層少量含む。しまりやや弱い。

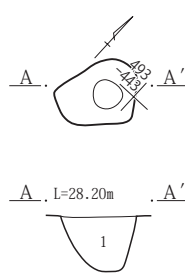
4区18号ピット



4区18号ピット

- 1a. 黒褐色土 ローム粒・小塊含む。しまりやや強い。
- 1b. 1a層よりもローム粒・小塊多い。しまりやや強い。
2. にぶい黄褐色土 粘性あるローム土を多く含む。しまりやや弱い。
3. 黒褐色土 ローム粒・小塊含む。
4. 暗褐色土 固いローム塊少量含む。粘性ややあり。しまり弱い。

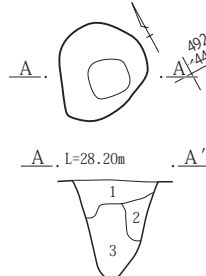
4区19号ピット



4区19号ピット

1. にぶい黄褐色土 土質粗い。ローム塊多く含む。しまり強い。

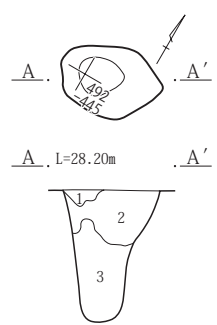
4区20号ピット



4区20号ピット

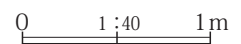
1. にぶい黄褐色土 土質粗い。ローム塊多く含む。しまり強い。
2. 灰黄褐色土 土質ほぼ均一。ローム塊わずかに含む。しまりやや弱い。
3. 暗褐色土 土質均一。しまり弱い。

4区21号ピット

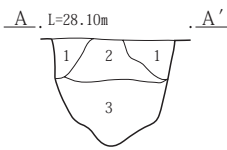
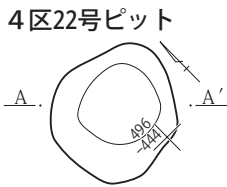


4区21号ピット

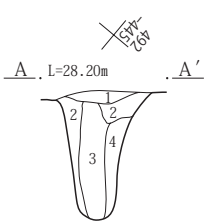
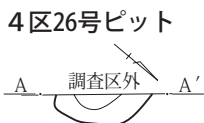
1. 暗褐色土 ローム粒を含む。しまり強い。
2. 黄褐色土 ローム粒とローム土主体。1層が混じる。しまり強い。
3. 暗褐色土 土質均一。しまりやや弱い。



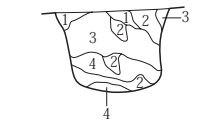
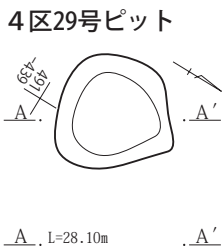
第255図 4区10～21号ピット平衡面図、14号ピット出土遺物



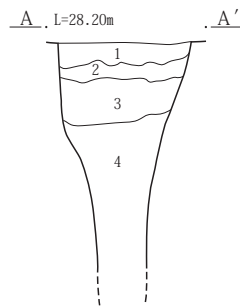
- 4区22号ピット
1. 黄褐色土 ローム粒・くすんだローム土主体。しまり強い。
 2. にぶい黄褐色土 ローム粒含む。しまり強い。
 3. 暗褐色土 ローム粒・小塊少量含む。しまり弱い。



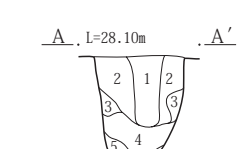
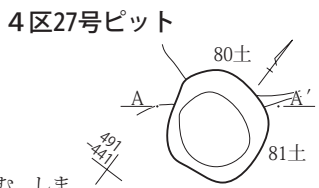
- 4区26号ピット
1. 黒褐色土 ローム粒を含む。しまり強い。
 2. にぶい黄褐色土 くすんだローム土・粒を多く含む。しまり強い。
 3. 黒褐色土 くすんだローム粒・塊含む。しまりやや弱い。
 4. 褐色土 土質粗い。ローム小塊・黒褐色土混じり。しまり強い。



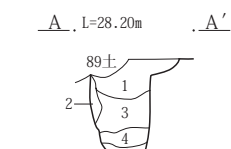
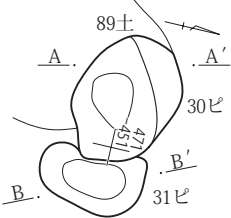
- 4区29号ピット
1. 黒褐色土 くすんだローム土少量含む。しまり強い。
 2. 灰黄褐色土 ローム小塊・くすんだローム土多く含む。しまりやや弱い。
 3. 黄褐色土 くすんだローム土・固いローム小塊・黒色土混じる。土質粗い。しまりやや強い。
 4. 明黄褐色土 くすんだローム土主体。しまりやや強い。



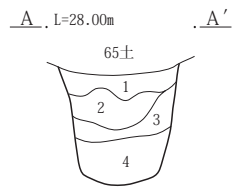
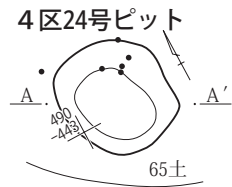
- 4区23号ピット
1. 黒褐色土 ローム粒を含む。しまり強い。
 2. 暗褐色土 ローム粒・小塊を含む。しまりやや強い。
 3. 褐色土 ローム粒・小塊やや多い。しまりやや弱い。
 4. 暗褐色土 ローム塊少量含む。しまり弱い。



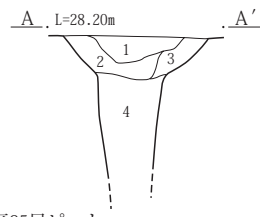
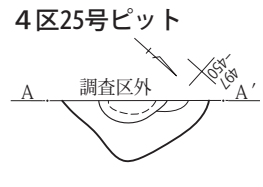
4区30・31号ピット



- 4区30号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒・大塊少量含む。しまり強い。
 2. 明黄褐色土 ローム土主体。しまり強い。
 3. 黒褐色土 くすんだローム粒・塊多く含む。しまりやや強い。
 4. 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまり弱い。
 5. 灰黄褐色土 くすんだローム土にローム塊少量含む。しまりやや弱い。

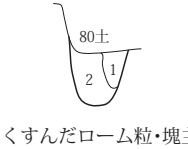
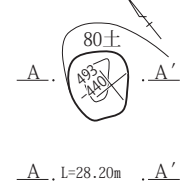


- 4区24号ピット
1. 黒褐色土 ローム粒・固いローム塊を含む。しまりやや弱い。
 2. 明黄褐色土 ソフトローム主体。1層少量含む。粘性あり。しまり弱い。
 3. 黄褐色土 固いローム土主体。しまり強い。
 4. 暗灰黄色土 固いローム土主体。しまり強い。



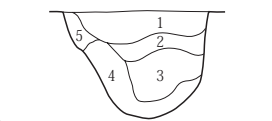
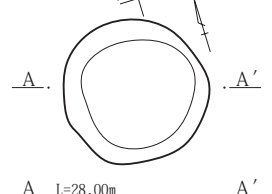
- 4区25号ピット
1. にぶい黄褐色土 ローム粒多く含む。鉄分沈着あり。しまり強い。
 2. オリーブ褐色土 1層にくすんだローム多く含む。しまりやや強い。
 3. 明黄褐色土 鉄分の沈着したローム土・粒主体。しまり強い。
 4. 暗褐色土 ローム塊少量含む。しまりやや弱い。下層はさらに弱い。

4区28号ピット

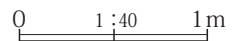


- 4区28号ピット
1. 明黄褐色土 くすんだローム粒・塊主体。しまり弱い。
 2. 暗灰黄色土 くすんだローム土、暗褐色土が混じる。土質粗くしまり弱い。

4区32号ピット

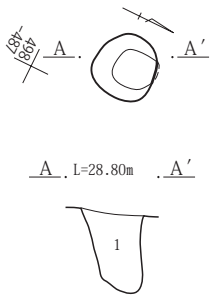


- 4区32号ピット
1. 暗褐色土 くすんだローム土含む。しまりやや強い。
 2. 暗褐色土 ローム粒含む。しまりやや強い。
 3. 黒褐色土 くすんだローム土・粒を含む。しまりやや弱い。
 4. 褐色土 土質粗い。くすんだローム塊・黒褐色土混じる。しまりやや強い。
 5. 黄褐色土 ローム土主体。1層少量含む。しまりやや強い。



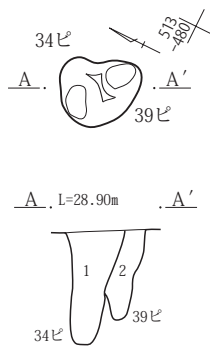
第256図 4区22～32号ピット平断面図

4区33号ピット



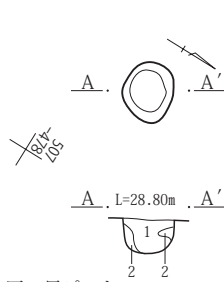
4区33号ピット
1. 褐灰色土 ローム粒少量含む。しまり弱い。

4区34・39号ピット



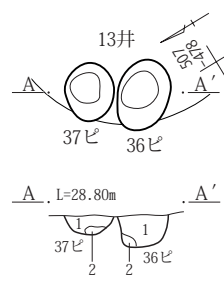
4区34・39号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒少量含む。
2. 黒褐色土 ローム粒少量含む。

4区35号ピット



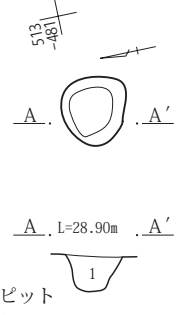
4区35号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒少量含む。
2. 黄褐色土 ローム塊少量含む。

4区36・37号ピット



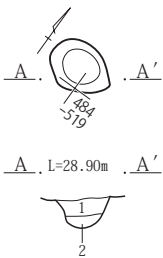
4区36・37号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒少量含む。
2. 黄褐色土 ローム塊少量含む。

4区38号ピット



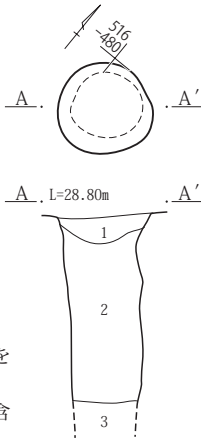
4区38号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒少量含む。

4区40号ピット



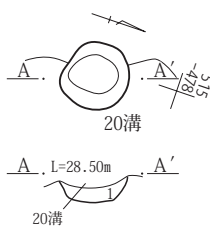
4区40号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒少量を下層に含む。
2. 黄褐色土 ローム塊多く含む。しまり弱い。

4区41号ピット



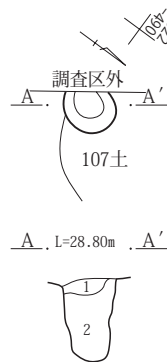
4区41号ピット
1. 褐色土 ローム粒含む。しまり強い。
2. 暗褐色土 ローム粒少量含む。やや粘性あり。
3. 黄褐色土 ローム塊多く含む。しまり弱い。

4区42号ピット



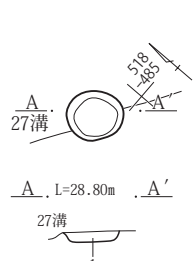
4区42号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒少量含む。

4区43号ピット



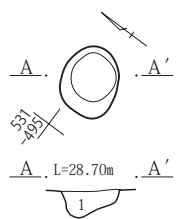
4区43号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒含む。下層にローム塊含む。
2. 暗褐色土 ローム粒少量含む。やや粘性あり。

4区44号ピット



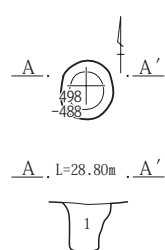
4区44号ピット
1. 暗褐色土 炭化物塊・焼土粒・ローム粒少量含む。

4区45号ピット



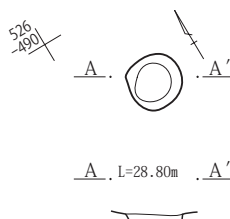
4区45号ピット
1. 褐灰色土 サラサラししまりなし。焼土粒わずかに含む。

4区46号ピット



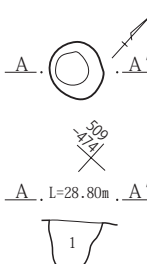
4区46号ピット
1. 暗褐色土 ローム塊多く含む。しまり弱い。

4区47号ピット



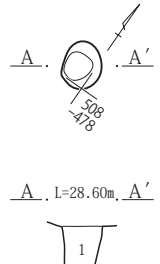
4区47号ピット
1. 暗褐色土 ローム粒少量含む。

4区48号ピット

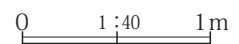


4区48号ピット
1. 黄褐色土 ローム粒・塊多く含む。しまり弱い。

4区49号ピット



4区49号ピット
1. 暗褐色粘質土 ローム多く含む。



第257図 4区33～49号ピット平断面図

第7節 溝

溝は全域で69条調査した。1区は10条、2区26条、3区8条、4区25条である。現在の道や畠の区画方向と走行方向が同じ溝が多くみられ、それらは近世以降の区画に沿って掘られたものではないかと思われる。流水の形跡を残すものはほとんどないので、用水路として用いられたのではなく、何らかの区画溝であると思われる。もちろん、降雨時の排水などの機能はあったものと思われるので、流水を全く否定するものではない。

1区1号溝(第258図、PL.95-1・2)

1区北西部の西側にあり、調査区壁に沿って北西-南東、N-55°-Wの方向に直線的に延びる溝である。北西側は調査区外へと続き、南東側は攪乱で途切れている。17号竪穴住居、109号土坑、2号溝と重複する。本遺構が17号竪穴住居、2号溝より新しく、109号土坑とは新旧不明である。調査区内に掛かるのは30.45mで、両端はさらに延びている。幅は0.38～0.82m、深さは0.13～0.35mである。底面の標高は北西端で28.18m、南東端28.28mであり北西側がわずかに低い。その差は0.10mであるが、底面には若干の起伏があるので、水がその通りに流れるかどうかは分からない。断面形状は逆台形である。埋土には砂などは含まれず、流水の形跡は見られない。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)9点・49g、同(大)113g、須恵器(小)4点・32g、同(大)2点・200g、近世国産施釉陶器3点、十能瓦5点がある。本溝は流水の形跡は見られないので、何らかの区画溝と考えられる。調査区南西にある現道とほぼ並行するので、現代にまで及ぶ区画方向を踏襲したものであり、出土遺物にも十能瓦が含まれていることから、最終的な埋没年代は近代以降である可能性が高い。

1区2号溝(第258図、第52表、PL.95-3・4,131)

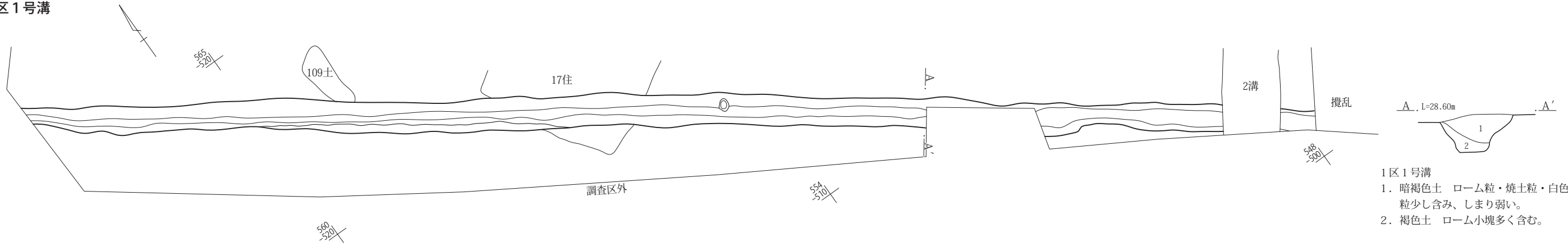
1区北西部を横断する溝である。以下、10号溝までの9条の溝は、多少ずれるものはあるが、ほぼ同じ方向、すなわち北東-南西の方向をとっている。本溝はN-38°-Eの方向に直線的に延び、両端は調査区外となる。

13・14号竪穴住居、3号掘立柱建物、1号溝、39号ピットと重複する。本遺構が13・14号竪穴住居、3号掘立柱建物より新しく、1号溝より古い。調査区内に掛かるのは18.60mで両端はさらに延びる。幅は1.12～1.68m、深さは0.55～0.76mである。断面形状はおおむね逆台形で、両岸の壁は上半の傾斜がやや緩い。底面の標高は北東端が27.97m、南西端が27.84mで南西側がわずかに低い。全体的には緩やかな起伏があり、必ずしも南西が低いわけではない。底面は幅が0.12～0.48mで平坦であるが、工具痕が顕著に残る部分がある。この工具痕は底面に2列に並んで残っており、掘削の際の痕跡だと思われる。埋土には流水の形跡は見られない。下半部にはローム塊が目立つので人為的埋没と考えられ、さらに4層や3層などはやや不自然な堆積状態なので、埋没途中で掘り返しを行った可能性がある。遺物は比較的多く出土したが小破片が多く、掲載したのは須恵器小型甕1点、土錘1点のみである。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)166g、同(大)522g、須恵器(小)202g、同(大)495g、灰釉陶器碗・皿類1点がある。本溝は流水の形跡が見られないため、何らかの区画溝と考えられるが、規模がかなり大きいので注目すべきものである。出土遺物には中世以降のものを含んでいないので、時期は古代にまで遡る可能性があるが、3号溝以下の溝もほぼ同じ方向を取り、それが現代の区画方向とほぼ一致することから、この溝のみ古いとは思えず、中世以降のものである可能性を考えるのが妥当であろう。

1区3号溝(第258図、第52表、PL.95-5・6,131)

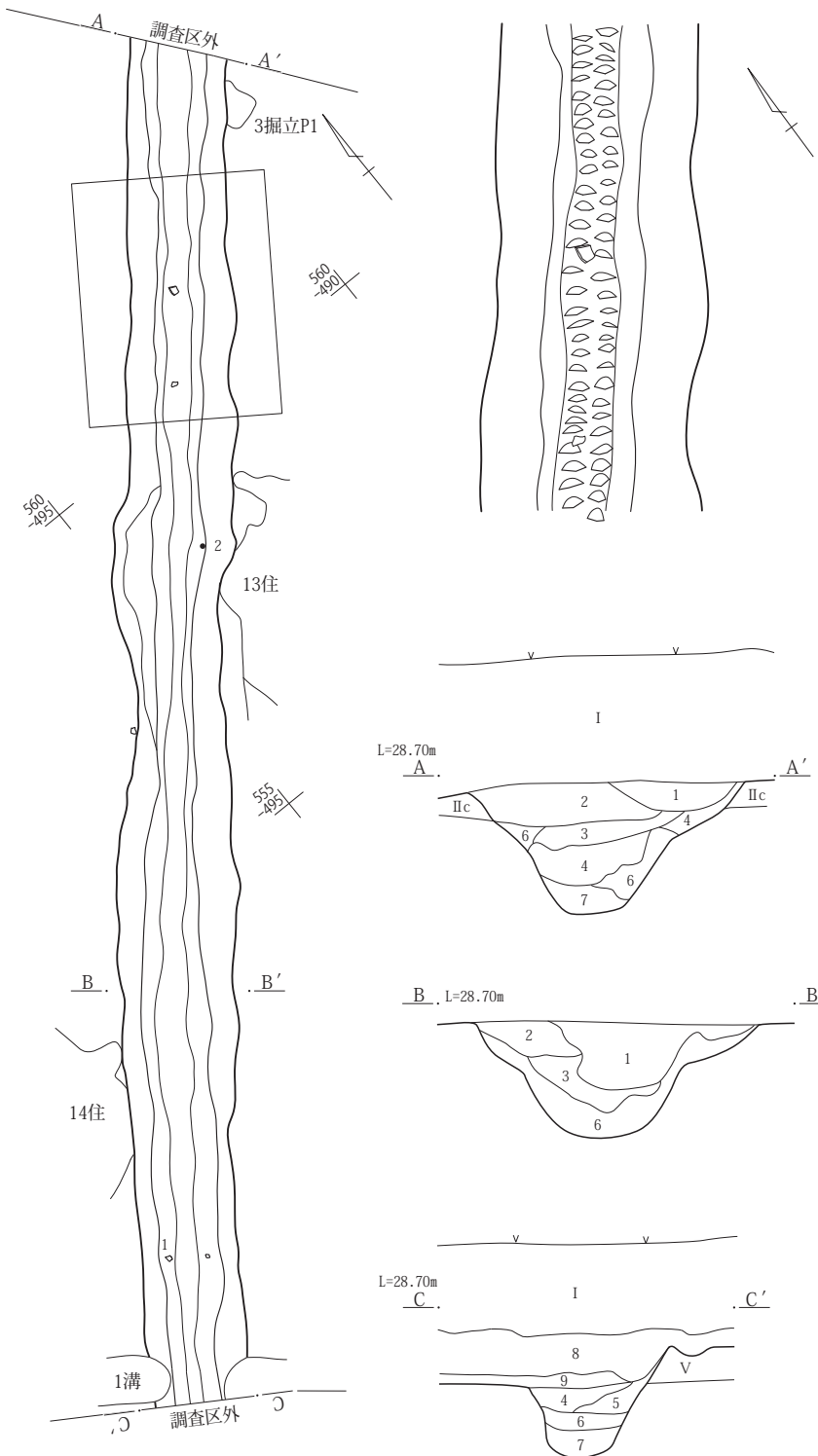
1区中央部を横断する溝である。以下7号までの5条の溝は比較的小さい範囲にある。やはり北東-南西方向へほぼ直線的に延び、走行方位はN-37°-Eである。12号竪穴住居、1号掘立柱建物、85・87号土坑と重複し、本遺構が新しい。調査区内に掛かる長さは13.75mで両端はさらに延びている。幅は1.13～2.52m、深さは0.39～0.66mであるが、調査区壁(A-A'セクション)では埋土が0.80m残っていた。底面の標高は北東端で27.97m、南西端で27.96mであり、ほとんど差がない。断面形状は途中に稜をもつ逆台形で、下半は壁の傾斜がややきつくなる。北西側には浅い段が見られる。埋土は4層のように不自然な堆積が見られ、掘り直しを行って

1区1号溝

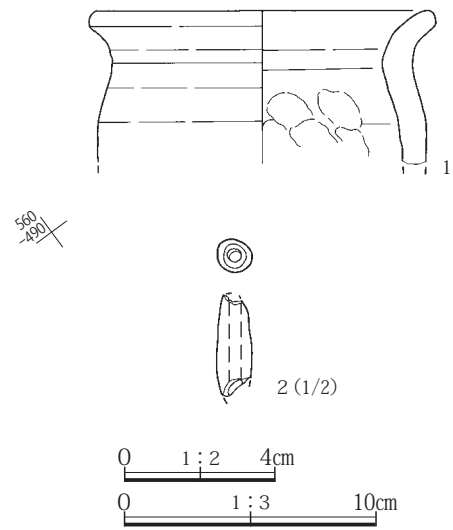


- 1区1号溝
1. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・白色軽石粒少し含み、しまり弱い。
 2. 褐色土 ローム小塊多く含む。

1区2号溝

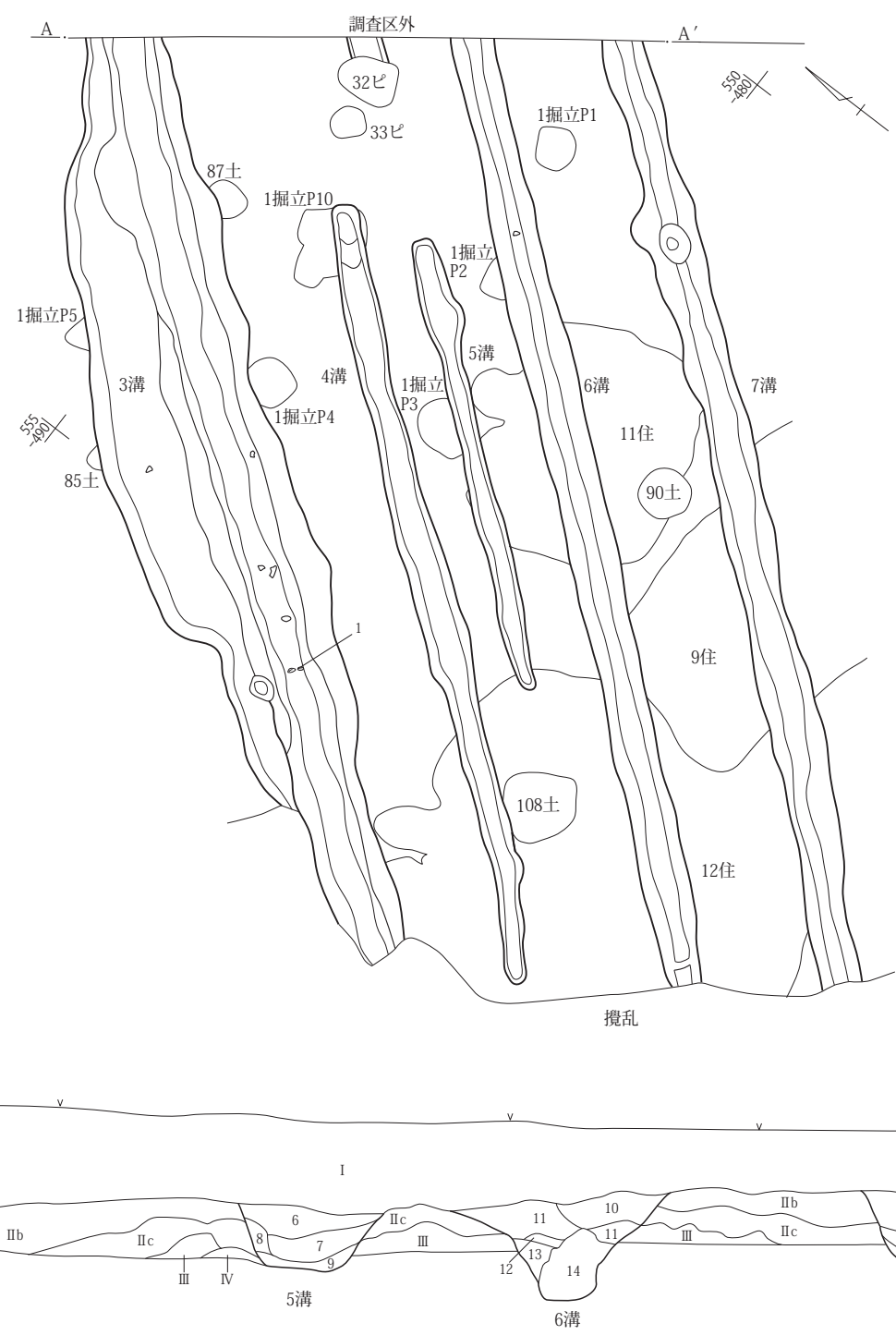


1区2号溝出土遺物

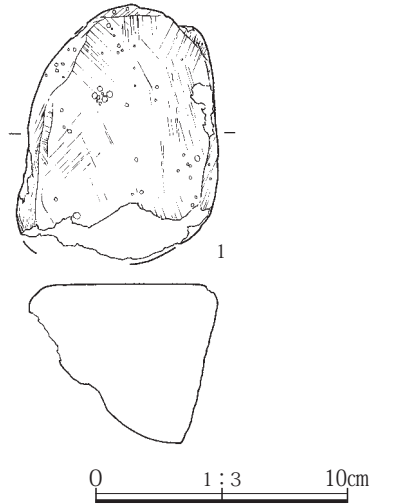


- 1区2号溝
1. 暗褐色土 しまり強く、土質均一、砂質。
 2. 暗褐色土 ローム小塊・ローム粒少し含む。
 3. 暗褐色土 1層にローム粒少し含む。
 4. 暗褐色土 ローム粒・小塊含み、砂質。
 5. 褐色土 くすんだローム・ローム塊含む。
 6. にぶい黄褐色土 くすんだローム・4層の混土。
 7. 黄褐色土 固いローム塊主体。
 8. 暗褐色土 焼土粒・白色軽石粒少し含む。1号溝。
 9. 褐色土 ローム粒少量含む。1号溝。

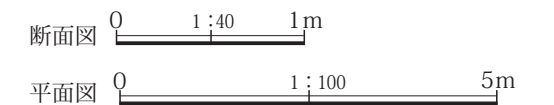
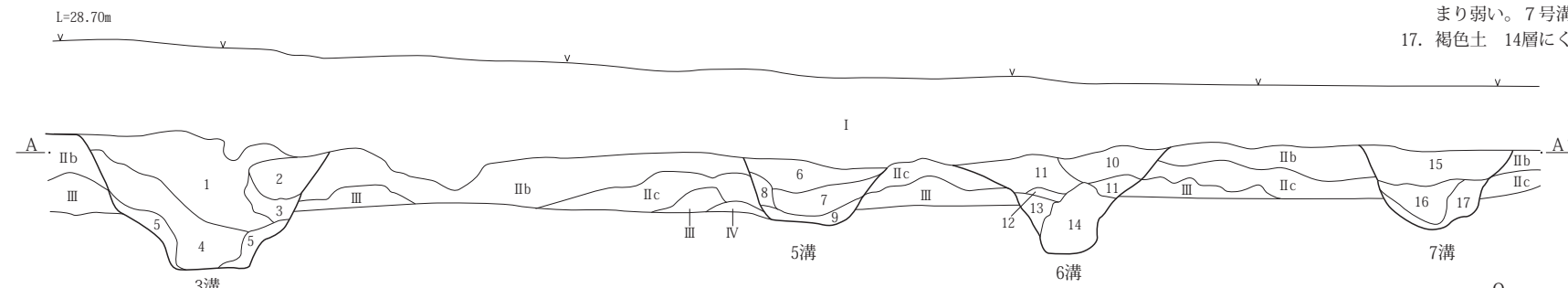
1区3~7号溝



1区3号溝出土遺物



- 1区3~7号溝
1. 明黄褐色土 ローム粒・くすんだローム塊多く含み、土質粗い。3号溝。
 2. 灰黄褐色土 3号溝。
 3. 暗褐色土 ローム粒・中塊多く含む。3号溝。
 4. 褐灰色土 粘質。3号溝。
 5. 褐灰色土 砂・泥含み、しまり弱い。3号溝。
 6. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒多く含み、くすんだローム含む。5号溝。
 7. 暗褐色土 6層よりローム粒やや多く、しまりやや弱い。5号溝。
 8. 褐色土 ローム粒斑に含み、しまりやや弱い。5号溝。
 9. 7層とロームの混土。5号溝。
 10. 暗褐色土 ローム粒を含む。6号溝。
 11. 暗褐色土 ローム粒・ローム塊多く含み、くすんだローム含む。6号溝。
 12. 灰黄褐色土 ローム粒多く含み、しまり弱い。6号溝。
 13. 暗褐色土 ローム粒・褐色土含み、しまり弱い。6号溝。
 14. 黒褐色土 ローム粒斑に多く含む。しまり弱い。6号溝。
 15. 暗褐色土 ローム粒を少量含む。7号溝。
 16. 暗褐色土 ローム粒多く含み、ローム小塊少し含み、しまり弱い。7号溝。
 17. 褐色土 14層にくすんだローム含む。7号溝。



第258図 1区1~7号溝平断面図、2・3号溝出土遺物

いるらしい。上層にはローム粒・塊を多く含み、少なくともこの部分は人為的に埋められたものと思われる。出土遺物は少なく、掲載したのは用途不明の石製品1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)7点・21g、同(大)178g、須恵器(小)6点・45g、同(中)1点・55g、同(大)2点・92g、中世国産焼締陶器1点、近世在地系土器(焙烙・鍋類)3点、近現代土器類1点がある。本溝は明らかな流水の形跡は見られないので、何らかの区画溝だと考えられる。中世～近現代の遺物も出土していることから、最終的な埋没年代は近代以降である可能性もある。

1区4号溝(第258図、PL.95-5,96-1・2)

1区中央部にある。やはり北東-南西方向に直線的に伸び、その方位は $N-39^{\circ}-E$ である。12号竪穴住居、1号掘立柱建物、108号土坑と重複し、本遺構が新しい。全長は11.44mで両端は途切れている。幅は0.30～0.66m、深さは0.04～0.18mで、北東端はピット状に深くなり0.36mである。断面形は浅い椀状である。底面の標高は28.34m～28.40mで傾斜はほとんどなく、両端が途切れていることからみても、水を流すための溝ではなく、何らかの区画溝であると思われる。出土遺物はなく時期は特定できないが、周囲の溝と走行方位が同じなので、近い時期のものであろう。

1区5号溝(第258図、PL.95-5,96-1・2)

1区中央部にある。4号溝のすぐ東側に並行し、北東-南西方向に直線的に伸びている。走行方位は $N-39^{\circ}-E$ である。1区11・12号竪穴住居、1号掘立柱建物と重複し、本遺構が新しい。調査できた全長は6.62mだが、北東の壁際にわずかに現れる溝もこの溝の延長部であると思われ、それを含めると長さは9.65mとなる。幅は0.21～0.58m、深さ0.11～0.21mだが、北東延長部の断面(A-A'セクション)では埋土が0.35m残っていた。底面の標高は北東端が28.28m、南西端が28.43mであり、全体に北東に向かって低くなっている。断面形状は逆台形である。出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(大)30g、須恵器(小)1点・7g、近世在地系土器焙烙・鍋類1点しかない。埋土に水が流れた形跡はなく、また、

両端が途切れていることから、本溝は水を流すための溝ではなく、何らかの区画溝であると思われる。出土遺物が少ないので時期を特定することはできないが、周囲の溝と走行方位が同じなので、近い時期のものであろう。

1区6号溝(第258図、PL.95-5,96-1・3)

1区中央部にある。やはり北東-南西方向に直線的に伸びる溝で、走行方位は $N-40^{\circ}-E$ である。9・11・12号竪穴住居、1号掘立柱建物と重複し、本遺構が新しい。調査区内に掛かる長さは13.84mであり、両端はさらに伸びる。幅は0.48～0.74m、深さは0.32～0.54mだが、調査区壁(A-A'セクション)では埋土が0.62m残っている。底面の標高は北東端が28.11m、南西端が28.02mでほとんど傾斜はない。断面形状は底辺の狭い逆台形で、底部近くは壁の傾斜がややきつくなる。埋土は、ローム粒を多く含み、しまりが弱い暗褐色土や黒褐色土が主であり、人為的に埋められたものと考えられる。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)77g、同(大)323g、須恵器(小)73g、同(大)4点・41gがある。埋土には流水の形跡は見られないので、やはり何らかの区画溝と考えられる。中世以降の遺物が出土しないが、周囲の溝と並行しているため、近い時期のものであると考えられる。

1区7号溝(第258図、PL.95-5,96-4・5)

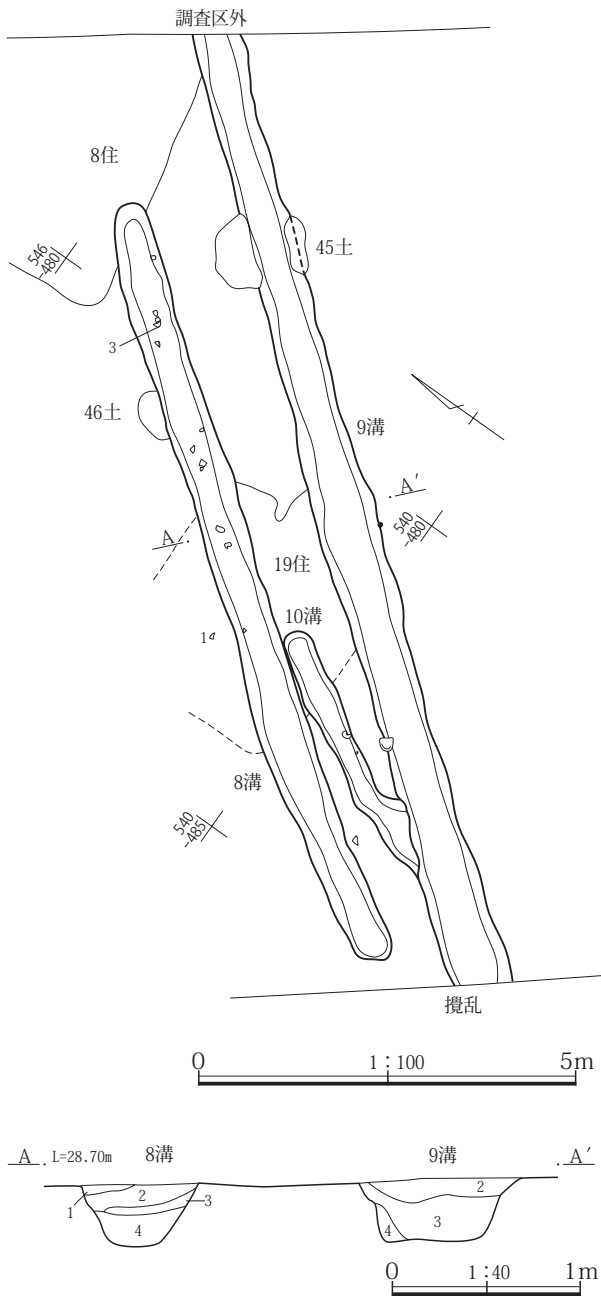
1区中央部にある。近接して並行する5条の溝(3～7号溝)の中では最も南東側になる。方向はやはり北東-南西方向で、走行方位は $N-40^{\circ}-E$ であり、6号溝と同じである。6号溝とは底面の心-心で計測して2.10～2.30m離れて並行しているが、6号溝に比べてわずかに蛇行し、上端幅や底面幅にも凹凸がある。9・11・12号竪穴住居と重複し、本遺構が新しい。調査区内に掛かる長さは14.04mであり、両端はさらに伸びる。幅は0.54～0.95m、深さは土坑状に深いところを除いて0.18～0.37mであるが、調査区壁(A-A'セクション)では埋土が0.50m残っている。底面の標高は北東端が28.28m、南西端が28.30mであり、ほとんど傾斜はない。断面形状は椀状ないし逆台形で、埋土はロームを含む暗褐色土や褐色土であり、流水の形跡はない。16層は掘り

直しの可能性が考えられる。遺物は比較的多く出土したが小破片ばかりであり掲載できるものはない。小破片の内訳は、土師器(小)123g、同(大)502g、須恵器(小)206g、同(大)3点・30g、灰釉陶器椀・皿類1点、緑釉陶器椀・皿類1点、近世国産磁器1点である。流水の形跡は見られないので、何らかの区画溝と考えられる。出土遺物は古代のものが多く、1点出土した近世国産磁器を重視すれば、最終的に埋没したのは近世以降ということになる。

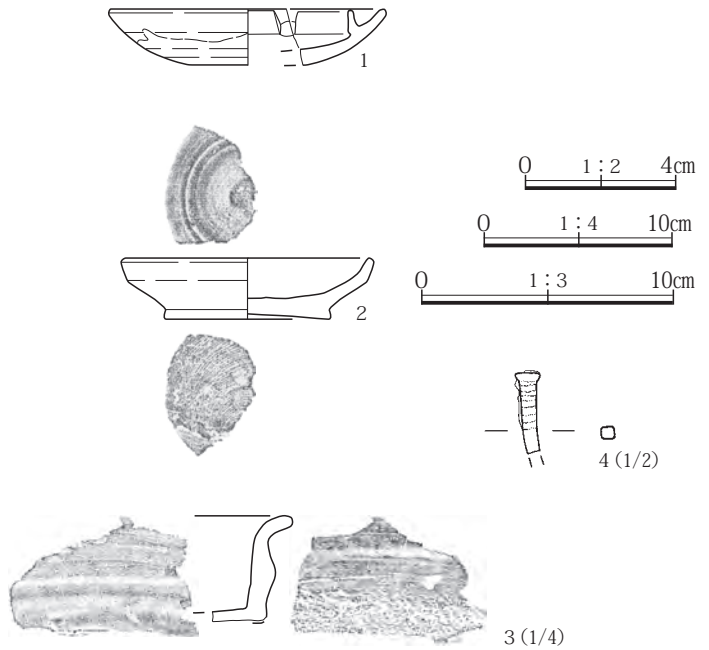
1区8号溝(第259図、第52表、PL.97-1・2,131)

1区中央にある。9、10号溝と至近距離にあり、いずれも北東-南西方向の溝であるが、走行方位は少しずつ異なる。本溝の方位はN-36°-Eであり、南西端付近はわずかに方向を変え、N-31°-Eとなる。8・19号縦穴住居、46号土坑と重複する。本遺構がそのいずれよりも新しい。この溝は両端が途切れており、全長は9.90m、幅は0.52~0.70m、深さは0.06~0.35mである。底面標高は28.24~28.45mで、南西側が高い傾向にある。断面形状は逆台形、あるいは椀形である。埋土上位

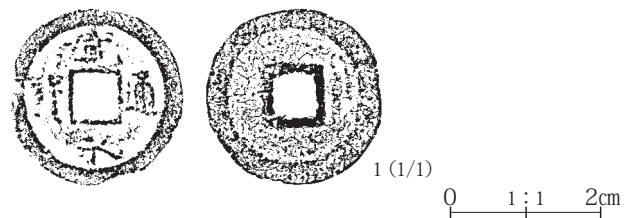
1区8~10号溝



1区8号溝出土遺物



1区9号溝出土遺物



1区8・9号溝

1. 黄褐色土 ローム小塊を含み、土質均一。
2. ローム小塊・1層の互層、しまり弱く、土質やや粗い。
3. 褐色土 ローム粒をわずかに含む。
4. 黄褐色土 ローム小塊少し含み、土質やや粗い。

第259図 1区8~10号溝断面図、8・9号溝出土遺物

にローム粒・塊が目立ち人為的埋没と考えられる。出土遺物は少ない。掲載したのは近世瀬戸・美濃陶器灯火受皿1点、同在地系土器皿1点、同焙烙1点、鉄釘1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)65g、同(大)288g、須恵器(小)51g、同(中)1点・50g、同(大)6点・49g、近世国産磁器1点、同施釉陶器6点、同在地系土器焙烙・鍋類1点、同皿4点がある。埋土に流水の形跡は見られず、両端も途切れていることから、何らかの区画溝であり、近世の遺物が複数出土しているの、時期は近世以降と考えられる。

1区9号溝(第259図、第52表、PL.97-1・2.131)

1区中央にある。8号溝とは至近距離にあり、その距離は、底面心-心で計測して1.18～1.75mである。走行方位はN-38°-Eであり、直線的に延びる。8・19号竪穴住居、10号溝、45号土坑と重複する。本遺構が8・19号竪穴住居より新しい。調査区内に掛かる長さは13.00mで両端はさらに延びる。幅は0.57～0.84m、深さは0.20～0.32mである。断面形状は底が広い逆台形である。底面の標高は北東端が28.23m、南西端が28.27mであり、その差はわずかでほぼ平坦である。出土遺物は比較的多い。掲載したのは銅銭(寛永通寶)1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)127g、同(大)548g、須恵器(小)171g、同(大)5点・37g、近世国産磁器1点、同施釉陶器2点、同在地系土器器種不明1点がある。埋土に流水の形跡は見られないので、何らかの区画溝と考えられる。出土遺物に近世のものを含み、最終的に埋没したのは近世以降である。

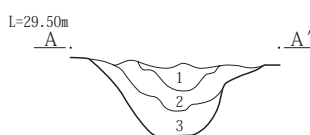
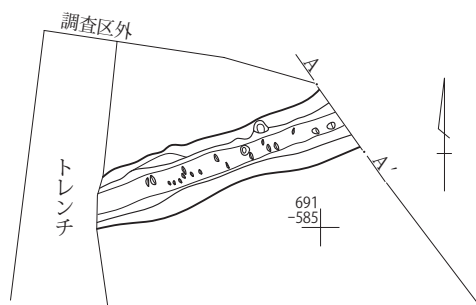
1区10号溝(第259図、PL.96-5,97-1・2)

1区中央、8号溝と9号溝の間にある短い溝である。走行方位はN-30°-Eで、南西部ではN-10°-Eに変わる。19号竪穴住居、9号溝と重複し、本遺構は住居より新しいが、9号溝との新旧関係は不明である。調査できた長さは3.50mであり、現状では9号溝に合流するように見える。幅は0.30～0.48m、深さは0.09～0.22mである。断面形は逆台形状で、底面はほぼ平坦である。出土遺物はごく少なく、近世国産施釉陶器1点、同在地系土器皿1点の小破片が出土しているだけであり、掲載できるものはない。長さは短いが周辺の溝と走行方位が近く、区画溝の一部と考えられる。出土遺物は少ないが近世のものが見られるので、最終的に埋没したのは近世以降である。

2区1号溝(第260図、PL.97-3)

2区北端にある。この部分は調査区が狭いので、わずかな部分が見えているに過ぎない。北東-南西方向、N-70°-Eの方位に直線的に延びる溝である。ただし、そのまま直線的に延びるとすると3-1区に西側延長部分が現れるはずであるが、それが見られないので、西側は調査区外に延びたあと曲がるか途切れるものと思われる。重複する遺構はない。調査区内に掛かる長さは3.60mであり、両端はさらに延びる。幅は0.66～0.86mで、深さは0.34～0.39mである。断面形状は斜辺の途中で屈曲する逆台形で、下半部は傾斜がきつくなる。底面の標高は29.01～29.04mであり、傾斜はほとんどない。底面には掘削の際についたと思われる工具痕が残っている。埋土には砂を含むが、流水があったという確証はなく、溝の性格は不明である。出土遺物はなく、時期の特定はできない。

2区1号溝



2区1号溝

1. 暗褐色砂層 土質均一、しまり強い。
2. 黒褐色砂質土 しまり中央部弱く両側強い。
3. 黒褐色土 細砂・ローム塊含む。

平面図 0 1:100 5m

断面図 0 1:40 1m

第260図 2区1号溝平面断面図

2区2号溝(第261図、PL.97-4)

2区北部にある。わずかに湾曲しているが、大部分は北東-南西方向、 $N-52^{\circ}-E$ の方位に伸びる。ただし南西端は大きく向きを変え、 $N-12^{\circ}-E$ の方位となる。34号竪穴住居、3号溝と重複し、本遺構が3号溝より古く、34号竪穴住居より新しい。調査できた長さは、19.40mであり、幅は0.34～0.74m、深さ0.03～0.44mである。北東端は調査区外へ伸びるが、南西端は途切れている。ただし、その南延長線上の5m離れた位置には、方向がほぼ同じの、長さ2.75mの短い16号溝がある。この16号溝は位置・方向から見て本溝の延長部である可能性が高いと思われ、とすれば、本溝はここで途切れているのではなく、底面が浅くなっていたために削平されてしまったのかもしれない。この16号溝は4号溝を越えておらず、4号溝と合流する形になっているが、両者の新旧関係は確認できなかった。2号溝の断面形状は逆台形で、埋土には細砂やシルトを含んでいる。底面の標高は北東端が28.94m、南西端は29.00mであり、その差はほとんどない。16号溝も底面の標高は28.91～29.02mである。遺物の出土は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)82g、同(大)144g、須恵器(小)159g、同(大)1点・27gがある。幅が狭く、何らかの区画溝であると考えられる。出土遺物が少ないので、時期を特定することはできないが、近世～近代の溝である3号溝よりも古い。

2区3号溝(第261図、第52表、PL.97-5)

2区北部にある。南東-北西方向の直線的な溝であり、4号溝西半部や5号溝の方向に近い。走行方位は $N-77^{\circ}-W$ である。1・2号掘立柱建物、2号溝、27号土坑、42・45号ピットと重複する。本遺構が新しい。調査区内に掛かる長さは22.15mであり、両端は調査区外に伸びている。幅は0.75～1.25m、深さは0.19～0.26mである。断面形状は場所によって異なり、逆台形の部分、楕形の部分、あるいは逆三角形の部分がある。B-B'やD-D'セクションでははっきりしないが、少なくとも1回は掘り直されているようで、東端付近では底面にその段差がはっきりと現れている。底面の標高は東端で29.09m、西端では28.88mであり、西側が低い傾向にある。出土遺物は少ないが、肥前磁器染付猪口1点、瀬

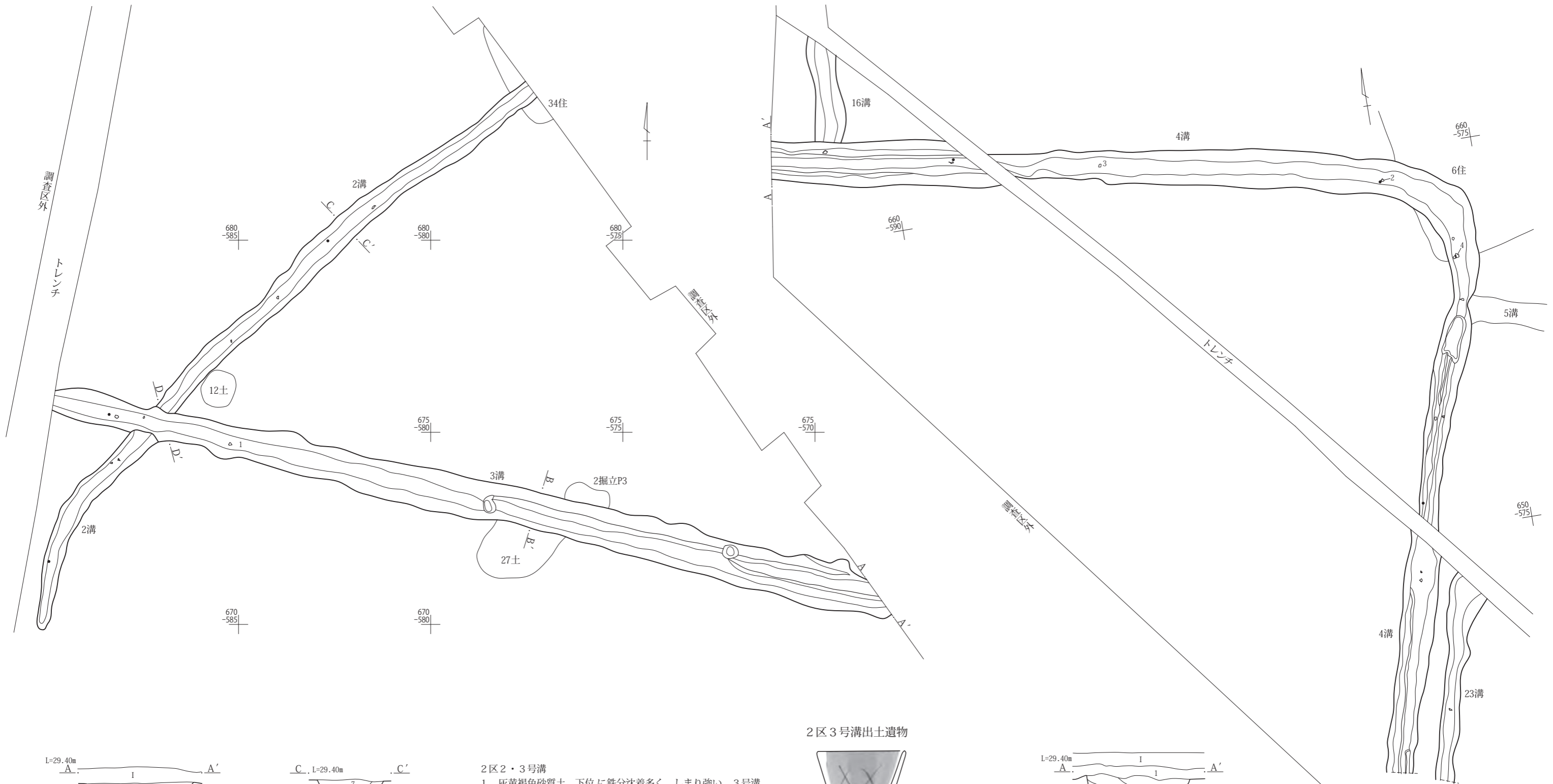
戸・美濃陶器尾呂碗1点を掲載した。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)4点・8g、同(大)316g、須恵器(小)7点・20g、同(大)6点・64g、近世国産施釉陶器1点がある。4号溝西半部や5号溝の方向とほぼ同じなので、それらと同様に何らかの区画を作っていた溝と考えられる。出土遺物から、最終的に埋没したのは近世以降と考えられる。

2区4号溝(第261・262図、第52表、PL.97-6,131)

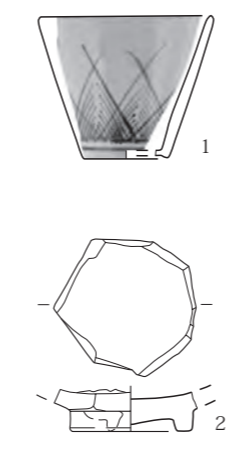
2区北部の西側にあるL字形の溝である。走行方位は、西半の部分は $N-80^{\circ}-W$ である。その東端で南に直角に近い角度で曲がり、その部分の方位は $N-17^{\circ}-E$ となる。6号竪穴住居、5・16号溝、As-B下水田想定箇所、1号サク状遺構と重複し、本遺構が6号竪穴住居、5号溝、As-B下水田想定箇所、1号サク状遺構より新しい。16号溝との新旧関係は不明である。調査できた長さは32.50mであり、両端は調査区外へと伸びる。幅は0.50～1.20m、深さは0.29～0.66mである。断面形状は逆台形または楕形である。A-A'セクションを見ると、この部分では南側から埋め戻されているようである。底面の標高は西端部で28.60m、屈曲部で28.75m、南端部で28.85mであり、北側、西側ほど低くなる傾向にある。出土遺物は比較的多く、掲載したのは肥前磁器染付碗1点、肥前系磁器仏飯器1点、瀬戸・美濃陶器仏飯器1点、十能瓦1点、包丁1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(大)6点・72g、須恵器(大)5点・337g、中世焼締陶器1点、近世国産磁器1点、同施釉陶器1点、同焼締陶器1点、同在地系土器焙烙・鍋類2点がある。本溝はL字形に曲がる溝であり、何らかの区画溝と考えられる。近世の遺物が多く出土することから、基本的に近世に機能した溝であると思われるが、十能瓦も出土しており、最終的な埋没年代は近代にまで下る可能性がある。

2区16号溝(第261図、PL.98-2)

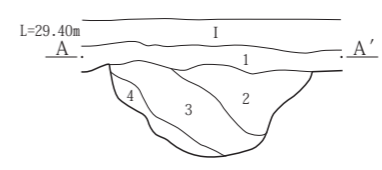
2区北西部にあるごく短い溝である。2号溝の延長線上にあるので、もともと2号溝の一部である可能性もある。北側はトレンチで破壊され、南側は4号溝と合流する形で途切れている。4号溝との新旧関係は不明である。方位は $N-5^{\circ}-E$ であり、わずかに蛇行している。調



2区3号溝出土遺物

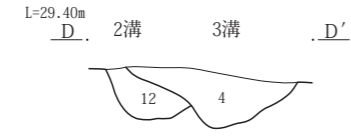
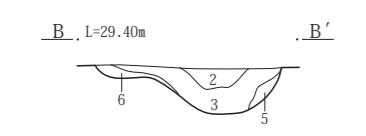
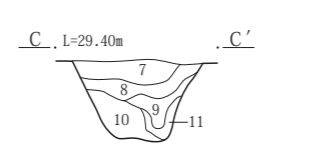
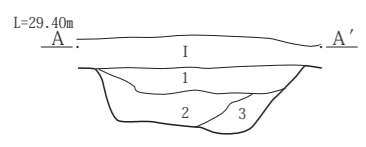


0 1:3 10cm



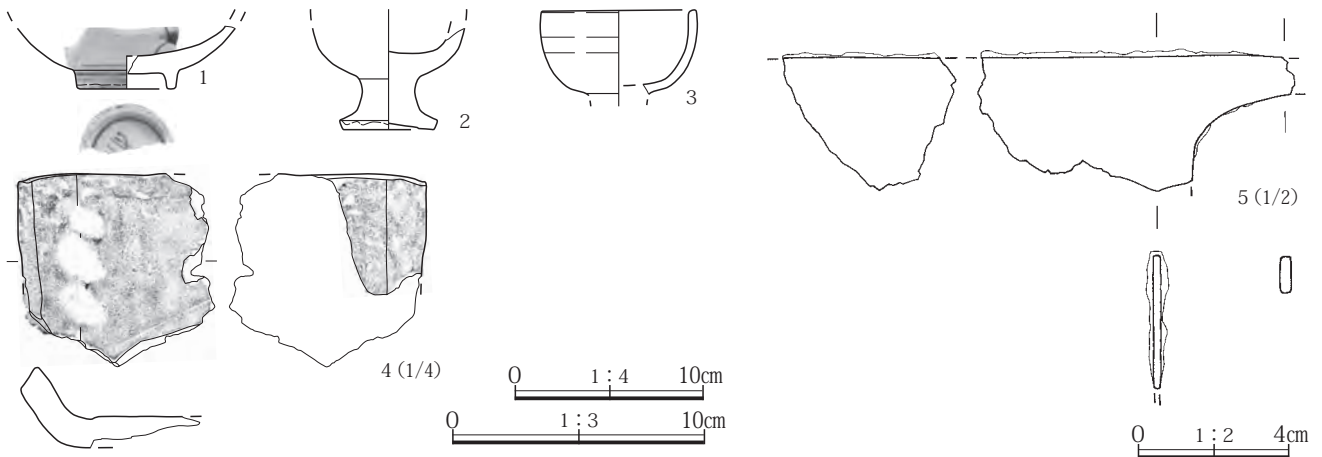
- 2区4号溝
1. 暗褐色土 白色軽石少し含み、固くしまる。
 2. オリーブ黒色土 白色軽石・ローム粒わずかに含み、しまりやや弱い。
 3. 褐灰色粘質土 ローム粒わずかに含み、土質均一。
 4. オリーブ黒色土 ローム粒・小塊少し含む。

断面図 0 1:40 1m
平面図 0 1:100 5m



- 2区2・3号溝
1. 灰黄褐色砂質土 下位に鉄分沈着多く、しまり強い。3号溝。
 2. 褐灰色土 ローム小塊少し含み、土質もろく崩れやすい。3号溝。
 3. 褐灰色土 ローム粒・小塊少し含み、しまりやや強い。3号溝。
 4. 褐灰色土 土質均一、シルト質。3号溝。
 5. 黄褐色土 ローム主体に鉄分沈着多く、土質粗い。3号溝。
 6. 明黄褐色土 ローム主体。3号溝。
 7. 黒褐色土 細砂少し含み、ローム小塊わずかに含む。2号溝。
 8. 灰褐色土 7層より細砂多く、ローム粒・ローム小塊多く含み、しまりやや弱い。2号溝。
 9. 黒褐色土・細砂の混土、しまり弱い、粘性に富む。2号溝。
 10. 黒褐色土 細砂少し含み、7層よりしまり弱い。2号溝。
 11. 灰黄褐色土 下位にローム粒少し含み、粘性あり。2号溝。
 12. にぶい黄褐色土 土質均一、シルト質。2号溝。

第261図 2区2～4・16・23号溝断面図、3号溝出土遺物



第262図 2区4号溝出土遺物

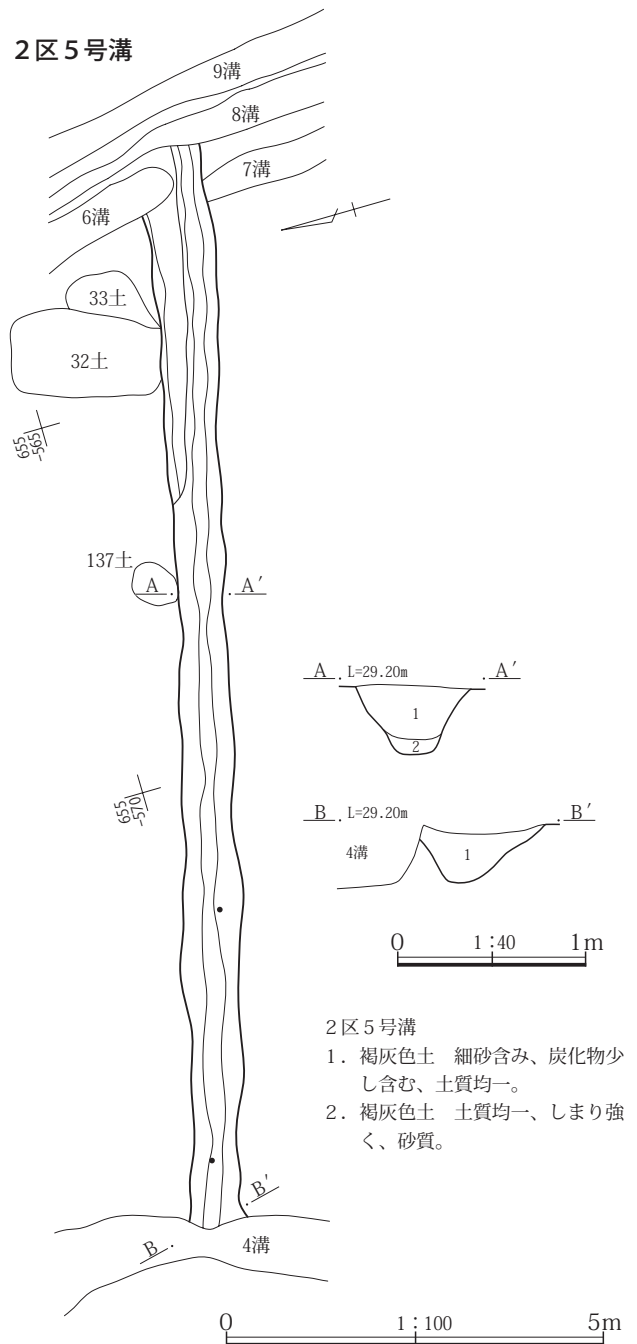
査できた長さは2.75mだけであり、幅は0.60～0.78m、深さは0.20～0.28mである。断面は逆台形で、底面はほぼ平坦である。遺物の出土はなく時期は不明である。位置からみて2号溝の延長部である可能性は高いが、断定はできず、性格不明の溝である。

2区23号溝(第261図)

2区北西部にある。4号溝の東南部の東側に平行する溝である。北側はトレンチに破壊され、それ以北には見えないが、これは、トレンチの北側で表土掘削の際に削平してしまったためであり、本来はより北にも延びていたものと思われる。南側は攪乱により破壊されていた。残っていた範囲では、走行方位はN-15°-Eでほぼ直線的に延びている。As-B下水田想定箇所、1号サク状遺構と重複し、本遺構が新しい。調査できた長さは5.20m、幅は0.38～1.00m、深さは0.08～0.18mであり、断面は不整な逆台形である。出土遺物はなく、時期は特定できないが、4号溝と近接して並行するので、近い時期の区画溝であると考えられる。

2区5号溝(第263図)

2区北部中央にある直線的にのびる溝である。走行方位はN-77°-Wで3号溝と同じであり、4号溝西半部とも近い。4・6～8号溝、32・137号土坑と重複する。本遺構が32・137号土坑より新しく、4・6・8号溝よりも古い。7号溝とは新旧不明である。調査した長さは14.35mであり、東端は6～8号溝で、西端は4号溝で切られ、そこで途切れている。幅は0.56～0.84m、深さは0.33～0.42mである。断面形状は底面の狭い逆



第263図 2区5号溝断面図

2区5号溝

- 1. 褐灰色土 細砂含み、炭化物少し含む、土質均一。
- 2. 褐灰色土 土質均一、しまり強く、砂質。

台形である。底面の標高は東端で28.93m、西端で28.73mであり、西側が低い。埋土は砂質ないし細砂を含むが、流水があった確証は見られない。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(大)7点・38g、須恵器(小)1点・2g、同(大)1点・39g、近世在地系土器皿2点がある。3号溝や4号溝西半部とほぼ同じ方向を示すので、それらと同様に何らかの区画を作る溝であると考えられる。出土遺物は少ないが、近世の遺物を含むので、埋没年代は近世以降であろう。

2区6号溝(第264・266図、PL.98-1)

6～15・19号と名付けた11条の溝は、2区中央の狭い範囲に存在する。13～15号溝のように、方向の異なるものもあるが、その他の溝は基本的には南北方向を示している。6号溝はそれらの中では北西端にあり、北は調査区外へ延び、南は5号溝と重複する地点で途切れている。走行方位はN-12°-Wである。5・7号竪穴住居、5・9号溝と重複し、本遺構が新しい。調査した長さは14.50mであり、北側は調査区外に延びる。幅は0.50～0.65m、深さは0.15～0.37mである。断面形状は逆台形である。底面の標高は28.92～29.03mで、ほとんど平坦である。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)3点・10g、同(大)123g、須恵器(小)5点・22g、同(大)4点・79g、近世国産施釉陶器4点、同在地系土器焙烙・鍋類1点がある。本溝の埋没時期は、近世の遺物が出土していることから、近世以降と考えられる。本溝の近くには、幅3～5m程度の範囲に、8条(6～12・19号溝)の溝が並行して存在している。いずれにも顕著な流水の痕跡は見られないので、基本的には区画のための溝であると考えられる。これらの溝のある位置は、調査前の土地区画とほぼ一致したため、現代にまで続く区画線であることが分かる。いずれの溝からも近世の遺物が出土するので、この区画が作られたのは近世以降であり、以後長い期間、ほぼ同一の場所で区画溝が掘り続けられた結果、このように多くの溝が並行しているような状態になったものと考えられる。それだけこの位置が、付近の区画の境界として重要な場所であったのであろう。

2区7号溝(第264・266図、PL.98-1)

2区中央の溝が集中する部分の北西部にあり、6号溝の南側につながるように存在している溝である。北側には5号溝、南側には8号溝が重複し、両端がそれらの溝によって途切れている。新旧関係は不明であり、両端の延長部分は見つかっていない。ごくわずかに湾曲しているが、走行方位はN-12°-Wであり、6号溝と同じである。調査できた長さは7.56m、幅は0.32～0.50m、深さは0.06～0.16mであり、やや不明瞭な溝である。断面形状は浅い皿状、ないし逆台形で、底面は平坦であり、標高は29.05～29.13mである。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものにも、土師器(大)1点・10g、須恵器(大)1点・42g、近世国産施釉陶器1点しかないが、近世の遺物が出土するので、最終的な埋没年代は近世以降であろう。6号溝と同様、この位置に掘られた区画溝の一部であると考えられる。

2区8号溝(第264～266図、第53表、PL.98-1)

2区中央の溝が集中する部分西側にある。北半部は緩く、南半部はやや大きく蛇行しているため、隣接する溝と重なり一部不明瞭となるが、調査区を縦断して両端は調査区外へと延びている。走行方位は概ねN-6～20°-Wだが、南部は大きく屈曲し、南端付近はN-32°-Eとなる。5・7・9・10・17号溝と重複し、本遺構が5・17号溝より新しいが、その他の溝との新旧関係は不明である。調査できた長さは42.35mであり、幅は0.30～0.60m、深さは0.16～0.35mである。断面形状は逆台形ないし椀形である。出土遺物は少ない。掲載したのは近世在地系土器焙烙1点である。小破片であるために掲載しなかったものは、土師器(中)1点・17g、同(大)9点・27g、須恵器(小)3点・31g、同(大)5点・177gしかない。近世の遺物の出土から、この溝も埋没年代は近世以降と考えられる。6・7号溝と同様、この位置に掘られた区画溝の一部であると考えられるが、南側で大きく蛇行するのがやや異質であると言えよう。その意味は不明だが、あるいは区画の一部が変更された時期があったのかもしれない。

2区9号溝(第264～266図、第53表、PL.98-1)

2区中央の溝が集中する部分の西側にある。調査区を南北に貫いて長く延び、両端は調査区外となっている。南端部分で2本に分かれるように見えるので、東側をA、西側をBとして区別したが、その新旧関係は不明である。8号溝ほどではないが全体に緩やかに蛇行しており、走行方位は $N-7\sim 20^{\circ}-W$ で、南端部は $N-6^{\circ}-E$ となる。5・7号竪穴住居、6・8・17号溝と重複し、本遺構が5・7号竪穴住居、17号溝より新しく6号溝より古いが、8号溝との新旧関係は確認できなかった。調査できた長さは両端を直線的に計測して55.0mであり、両端はさらに調査区外に延びている。幅は0.40～1.00m、深さは0.08～0.32mである。断面形状はほとんど逆台形だが、壁に段差があるところもある。底面の標高は、北端で29.01m、南端で28.97mであり、ほとんど差がない。前述のように、南端部では2本に分かれているようみえることから、2時期の溝が重なっている可能性が考えられる。出土遺物は少なく、掲載したのは中世在地系土器片口鉢1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、須恵器(小)5点・56g、近世国産磁器1点、同施釉陶器1点、同焼締陶器1点、同在地系土器焙烙・鍋類1点、同皿1点がある。近世の遺物が複数出土することから、溝が機能して埋没したのは近世以降である。6～8号溝と同様、この位置に掘られた区画溝であると考えられる。

2区10号溝(第264～266図、第53表、PL.98-1,131)

2区中央の溝が集中する部分の中央にある。調査区を南北に貫いて、両端はさらに調査区外に延びている。9号溝に並行して全体に緩やかに蛇行している。走行方位は $N-3\sim 14^{\circ}-W$ であり、南端部は $N-7^{\circ}-E$ になる。5・7号竪穴住居、8・11・17・25号溝と重複する。本遺構が7・8号竪穴住居、6号掘立柱建物、11・17・25号溝より新しいが、8号溝との新旧関係は不明である。調査区内に掛かる長さは両端を直線的に計測すると55.30mであり、幅は0.75～1.45m、深さは0.34～0.49mである。断面形状は逆台形で、壁に段がある部分がある。底面の標高は北端で28.76m、南端で28.69mであり、その差はほとんどない。遺物は少なくはないが、掲載したのは中世常滑陶器甕1点、砥石1点だけである。

小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)1点・9g、同(中)1点・62g、同(大)136g、須恵器(小)194g、同(大)614g、中世国産焼締陶器1点、近世国産磁器1点、同在地系土器焙烙・鍋類3点、同皿2点がある。近世の遺物の出土から、この溝も埋没年代は近世以降と考えられる。6～9号溝と同様、この位置に掘られた区画溝の一部であると考えられる。

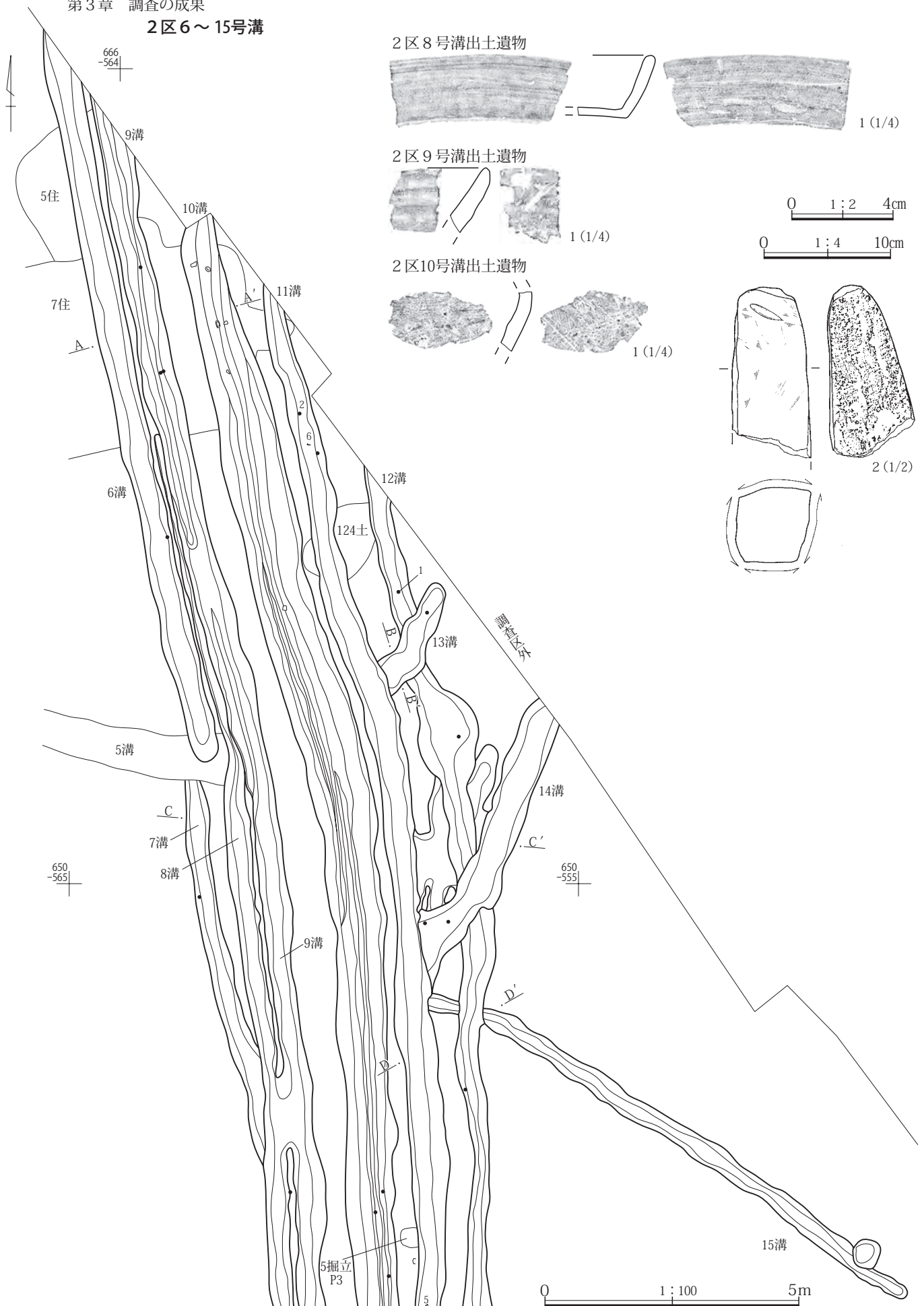
2区11号溝(第264～266図、第53表、PL.98-1,131)

2区中央の溝が集中する部分の東側にある。10号溝のすぐ外側に並行し、南半では大部分が重なっている。緩やかに蛇行し、走行方位は $N-3\sim 21^{\circ}-W$ で、南端部は $N-7^{\circ}-E$ となる。7号竪穴住居、5・6号掘立柱建物、10・12～15・17・25号溝、124号土坑と重複する。本遺構が10号溝より古く、7号竪穴住居、5・6号掘立柱建物、12・17・25号溝、124号土坑より新しい。その他の13・14・15号溝との新旧関係は不明である。調査区に掛かる長さは両端を直線的に計測すると54.0mであり、両端はさらに調査区外に延びる。幅は0.45～0.80m、深さは0.16～0.29mである。断面形状は多くの部分で逆台形である。底面の標高は北端で29.03m、南側の10号溝と重複する直前の部分で28.89mであるが、底面の標高には緩やかな高低があり、必ずしも南側が低いわけではない。出土遺物は少ないが、掲載したのは須恵器提瓶1点、肥前系磁器染付小碗1点、瀬戸・美濃陶器小碗1点、同蓋1点、同片口鉢1点、煙管1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)1点・4g、須恵器(小)3点・16g、同(大)3点・112g、中世国産焼締陶器1点、近世国産磁器3点、同施釉陶器8点、十能瓦1点がある。近世の遺物が比較的多く出土しており、溝が機能し埋没したのは近世以降だと思われる。6～10号溝と同様、この位置に掘られた区画溝の一部であると考えられる。

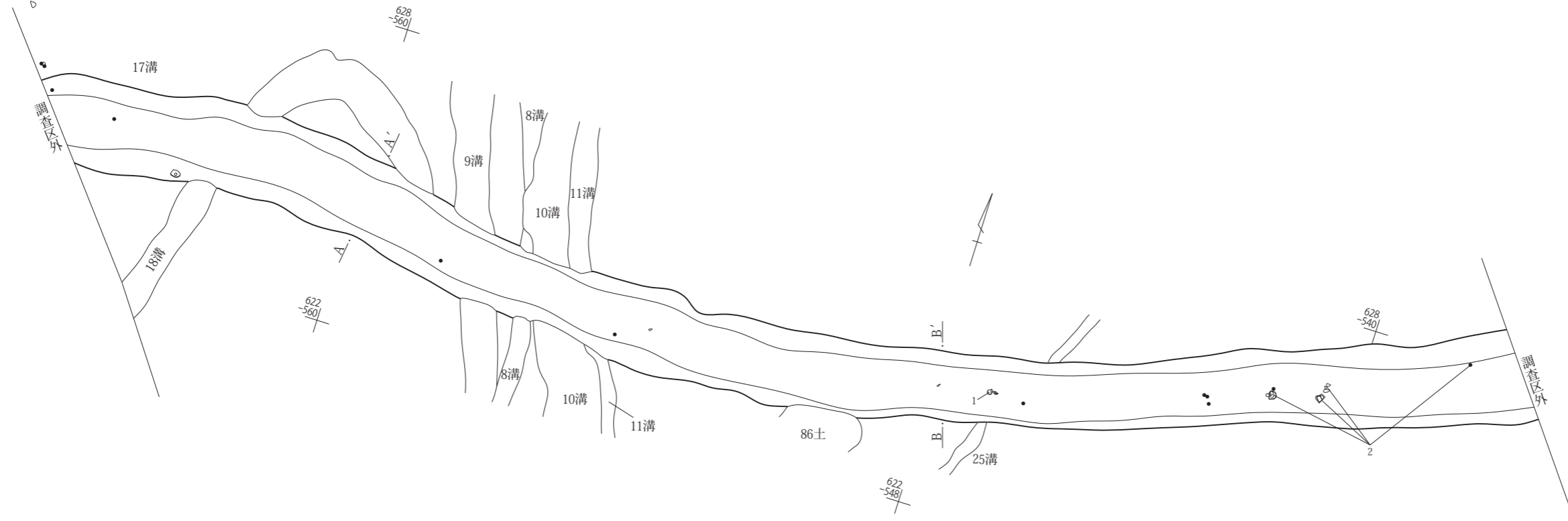
2区12号溝(第264～266図、第53表、PL.98-1,131)

2区中央の溝が集中する部分の北東にある。11号溝のすぐ東側に並行しているが、南端部が急に西側に曲がり、11号溝と合流する形となって以南は見つからない。やや大きく蛇行しており、走行方位は南端部を除いて $N-14^{\circ}-W\sim N-6^{\circ}-E$ である。11・13～15号溝、

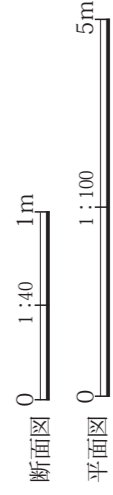
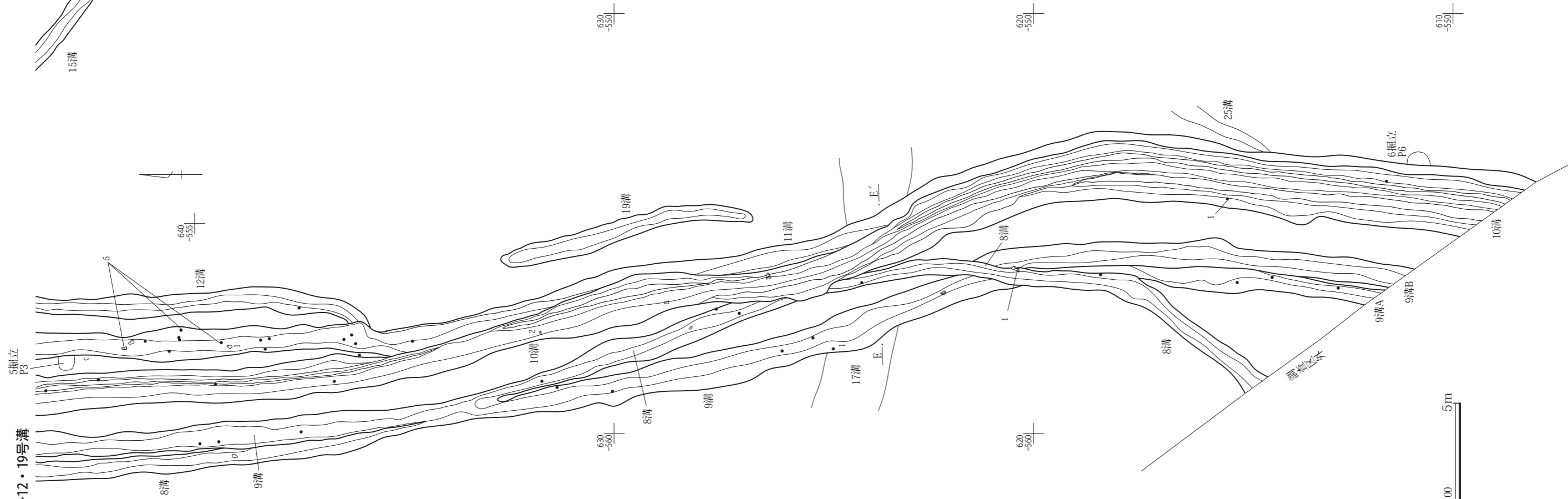
2区6～15号溝



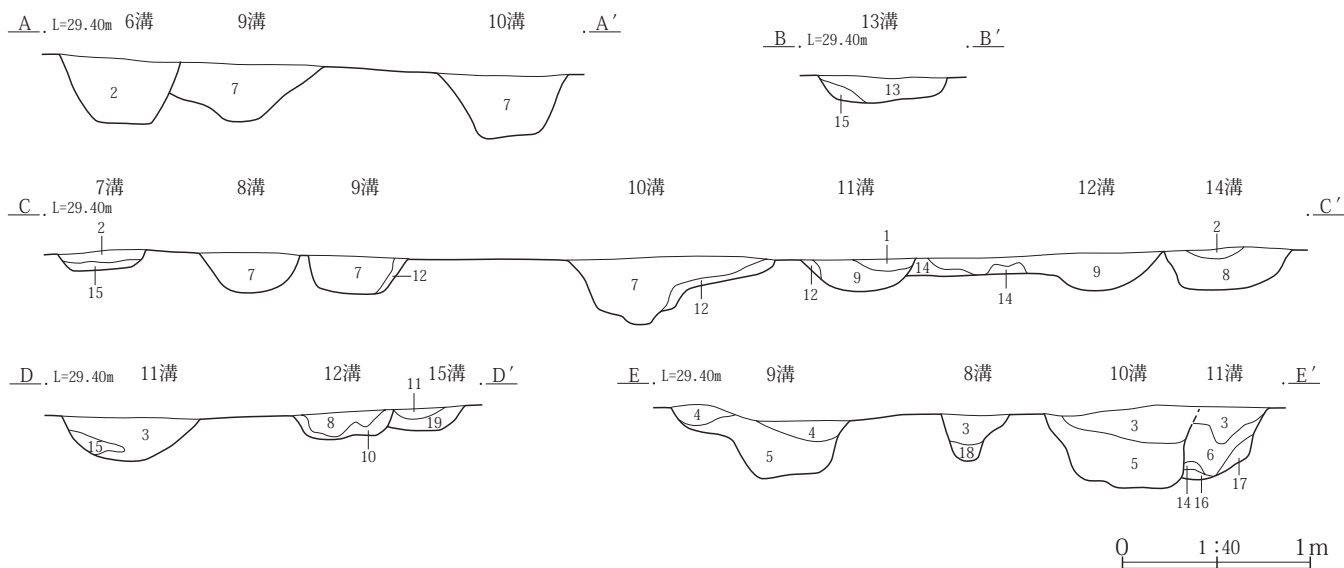
2区17号溝



2区8~12・19号溝



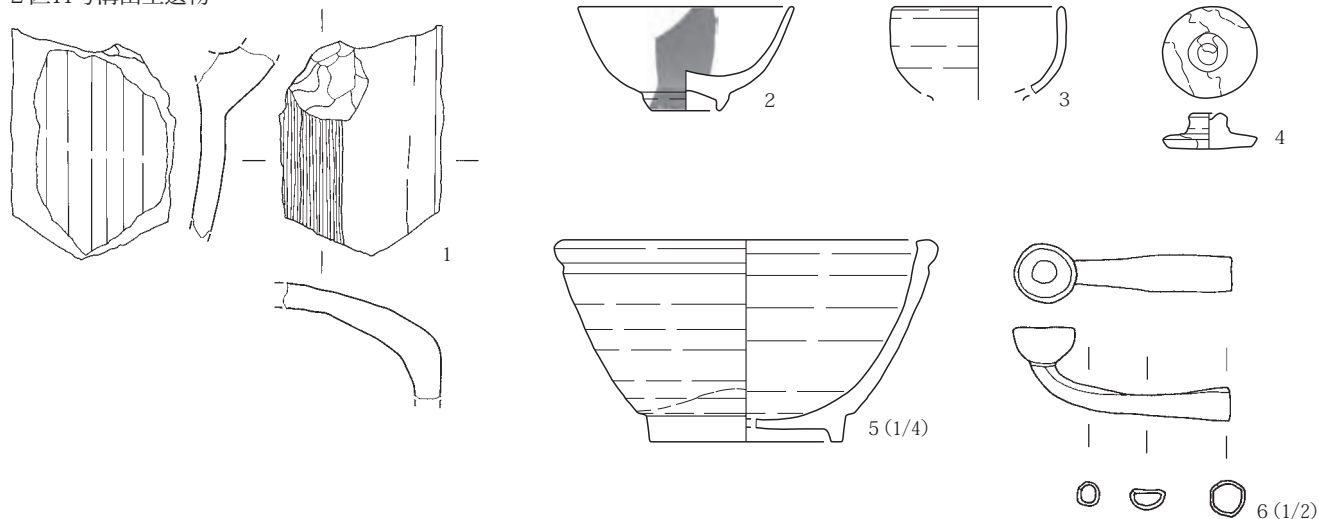
第265図 2区8~12号溝南部・19号溝・17号溝平面図



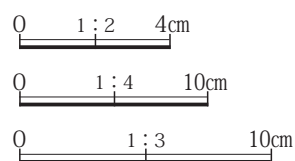
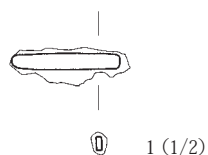
2区6～15号溝

- | | |
|--|---|
| <p>1. 褐色土 ローム含む。</p> <p>2. 灰黄褐色土 ローム粒少し含み、土質均一。</p> <p>3. 褐灰色土 土質均一、やや砂質。</p> <p>4. 褐灰色土 ローム小塊含み、やや砂質。</p> <p>5. 褐灰色土 4層より粘性・しまりあり。</p> <p>6. 褐灰色土 4層よりしまりあり。</p> <p>7. 褐灰色土 炭化物含み、砂少し含む、土質均一。</p> <p>8. 褐灰色土 一部に炭化物ごくわずかに含み、土質均一。</p> <p>9. 褐灰色土 炭化物多く含み、しまりやや弱い。</p> | <p>10. 褐灰色土 ローム粒・炭化物少し含む。</p> <p>11. 褐灰色土 ローム粒少し含む。</p> <p>12. にぶい黄褐色土 ローム粒含む。</p> <p>13. 灰色土 ローム塊わずかに含み、マンガン沈着。</p> <p>14. 暗褐色土・ロームの混土。</p> <p>15. 明黄褐色土 ローム主体。</p> <p>16. 明黄褐色土 ローム主体に褐灰色土含む。</p> <p>17. 褐灰色土塊・黒褐色土塊の混土。</p> <p>18. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム粒・褐灰色土含む。</p> <p>19. 黄褐色土 ローム粒多く含む。</p> |
|--|---|

2区11号溝出土遺物



2区12号溝出土遺物



第266図 2区6～15号溝断面図、11・12号溝出土遺物

124号土坑と重複し、本遺構は11号溝より古く、15号溝、124号土坑より新しい。その他の遺構との新旧関係は不明である。調査できた長さは22.40mであり、北側は調査区外に延びている。幅は0.36～1.20m、深さは0.10～0.18mである。断面形状は浅い逆台形で、一部西側に大きく広がっているところがある。遺物は少なく、掲載したのは用途不明の鉄製品1点のみである。小破片であるために掲載しなかったものにも土師器(小)8点・23g、同(大)44g、須恵器(小)2点・4g、近世国産施釉陶器2点しかない。遺物が少ないが、近世のものが出土するので、この溝も最終的な埋没年代は近世以降と思われる。6～11号溝と同様、この位置に掘られた区画溝の一部であると考えられる。

2区13号溝(第264・266図、PL.98-1)

2区中央の溝が集中する部分の北端近くにあるが、多くの溝とは方向が異なる。この方向は、すぐ南にある14号溝とほぼ同じである。短い溝で、北側は途切れ、南側は11号溝に合流する形で終わっている。走行方位はN-29°-Eであり、南端部はN-54°-Eとなる。11・12号溝と重複するが、新旧関係は不明である。長さは2.40mしかなく、幅は0.40～0.65m、深さは0.13mであり、断面形状は浅い皿状である。出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、須恵器(小)2点・24g、同(大)2点・96gがあるのみである。長さが短く、性格不明の溝であるが、南に並行する14号溝とはほぼ同じ方位であり、何らかの関係があるものと思われる。遺物が少ないので時期は特定できないが、14号溝と近い時期と考えられる。

2区14号溝(第264図、PL.98-1)

2区中央の溝が集中する部分の北端近くにあり、13号溝とほぼ並行する。北端は調査区外となるが、南側は13号溝と同様、11号溝と合流する形で終わっている。11・12号溝と重複し、新旧関係は不明である。走行方位はN-23°-Eであり、南端はN-51°-Eとなる。調査できた長さは6.10mで、北側はさらに延びる。幅は0.56～0.84m、深さは0.18～0.23mであり、断面形状は浅い逆台形である。出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものにも、

土師器(大)2点・23g、須恵器(小)1点・12g、近世国産焼締陶器1点しかないが、近世の遺物が出土するので、最終的に埋没したのは、周囲の溝と同じく近世以降であろう。調査できた長さが短いので性格不明の溝であるが、前述の通り13号溝とは並行しており、何らかの関係にあるものと思われる。

2区15号溝(第264～266図)

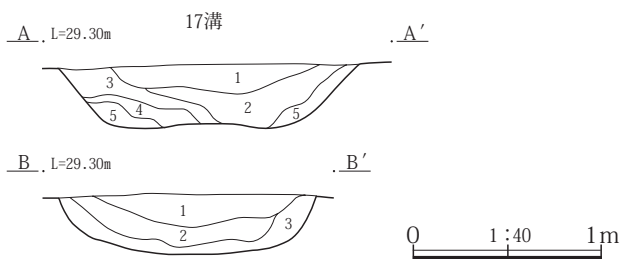
2区中央の溝が集中する部分の北端近くから、東へ延びる細い溝である。走行方位はN-54～75°-Wであり、緩やかに湾曲する。11・12号溝と重複し、12号溝よりも古い。11号溝との新旧関係は不明である。西側はその11号溝と合流する形で終わり、東側は途切れている。長さは11.00m、幅は0.28～0.50m、深さは0.04～0.14mである。断面形状は浅い逆台形で、埋土には多くのローム粒を含み、人為的に埋没したものと思われる。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものにも、土師器(大)5点・10g、須恵器(小)1点・2gしかない。周囲の溝とは方向が異なるが、何らかの区画溝と考えられる。時期の特定は難しいが、近世以降と思われる12号溝よりは古いものである。

2区19号溝(第265図)

2区中央の溝が集中している部分の東側にある。多くの溝と平行しているが、この溝は長さが短く、両端が途切れている。あるいは浅いために大部分が削平され、深い部分のみが残ったものかもしれない。方位はN-11°-Wだが、南側はN-3°-Eとなる。重複遺構はない。長さは6.10m、幅は0.30～0.56m、深さは0.04～0.08mであり、やや不明瞭な溝である。断面形は浅い皿状である。遺物の出土はなく、時期は特定できないが、隣接する溝と同じく、近世以降の区画溝の一部であると思われる。

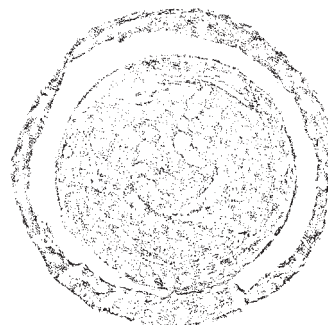
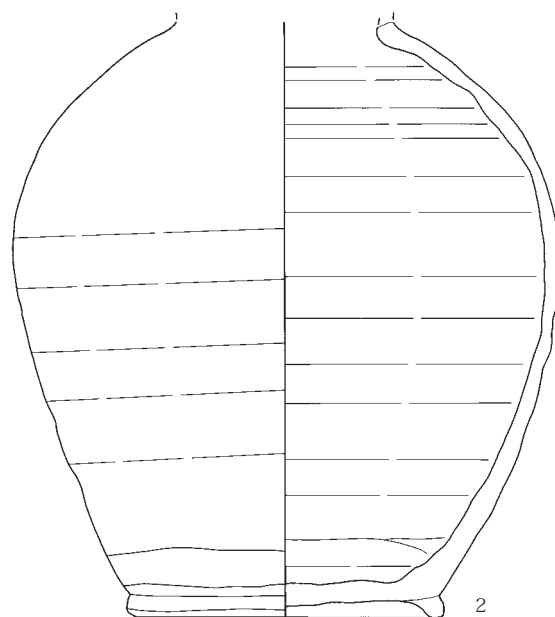
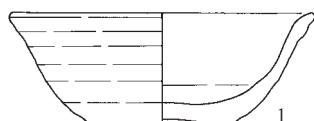
2区17号溝(第265・267図、第53表、PL.98-3,132)

2区中央を東西に横断する溝である。緩やかに蛇行し、走行方位は西端部付近でN-80°-E、その東から中央付近まではN-80°-W、東半部分はN-70°-Eである。8～11・18・25号溝、86号土坑と重複する。25号溝とは新旧関係を確認できなかったが、それ以外の

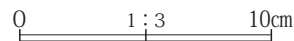


2区17号溝

1. 黒褐色土 白色細粒含み、土質均一。
2. 黒褐色土 ローム塊・暗褐色土塊多く含む。
3. 暗褐色土塊・くすんだローム・ローム小塊の混土。
4. くすんだ黄褐色土 くすんだローム主体にローム塊含む。
5. 褐色土 ローム小塊斑に含む。



第267図 2区17号溝断面図、出土遺物



遺構より本遺構が古い。長さは両端を直線的に計測すると30.20m、幅は1.20～1.80m、深さは0.17～0.49mである。断面形状は逆台形ないし浅い椀形で、埋土にはローム土やローム塊が多く人為的に埋没したらしい。底面の標高は西端で28.61m、東端で28.99mであり、全体に西に向かって低くなっている。遺物は比較的多く、掲載したのは須恵器杯1点、同壺1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)5点・29g、同(中)4点・212g、同(大)128g、須恵器(小)246g、同(大)648g、近世国産施釉陶器1点がある。西に向かって低くなっているのが、水が流れたとすればその方向であるが、埋土には流水の形跡は見られず、区画溝の可能性が高いのではないだろうか。近世の遺物が1点出土しているものの、古代の遺物が多いことと、周囲の溝とは異なる方位を示していることから、古代にまで遡る可能性も考えられる。その場合は、近世の遺物は混入品ということになるが、もちろん断定はできない。

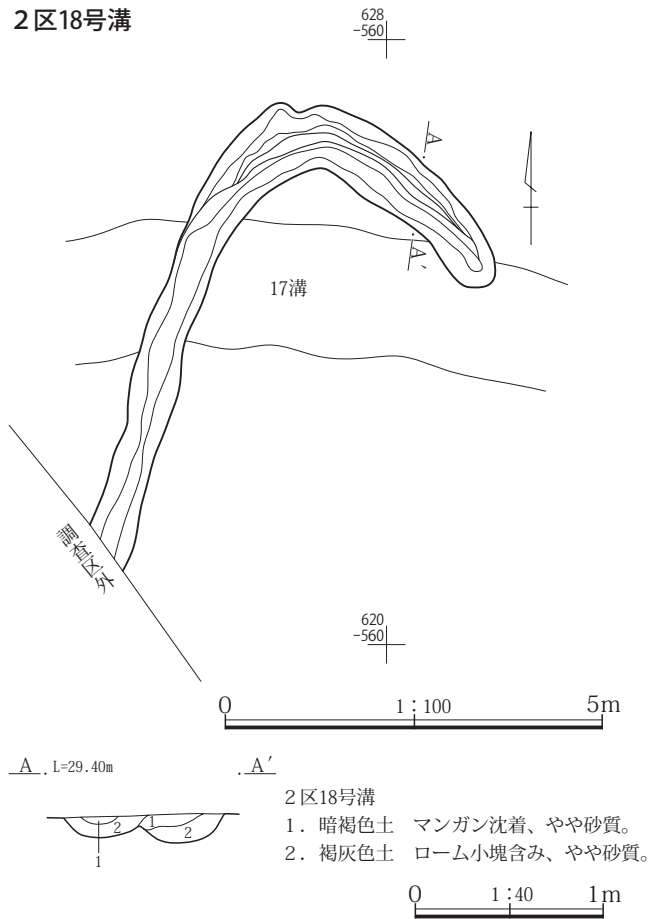
2区18号溝(第268図)

2区中央部西側にある、逆J字形の溝である。直線的な部分は走行方位N-18°-Eであり、その北側で半円形を描くが、その部分では2条の溝が重複するような形状となる。17号溝と重複し、本遺構が新しい。調査できた長さは9.30mであり、南側は調査区外に延びる。幅は0.30～0.70m、深さは0.12～0.17mである。断面形状は浅い逆台形ないし椀形である。出土遺物はなく、時期は特定できない。形状も特殊であり、性格は不明である。

2区20号溝(第269・270図、第53表、PL.98-4・5,132)

2区南東部にある。調査区内で3回直角に近い角度で曲がり、その他の部分は直線的に延びている。直線部分の走行方位は、北側から、N-18°-E、N-70°-W、N-26°-E、N-60°-Wである。13・16・22・23・26号竪穴住居、8号掘立柱建物、22号溝と重複する。本遺構がそのいずれよりも新しい。調査できた長さ

2区18号溝

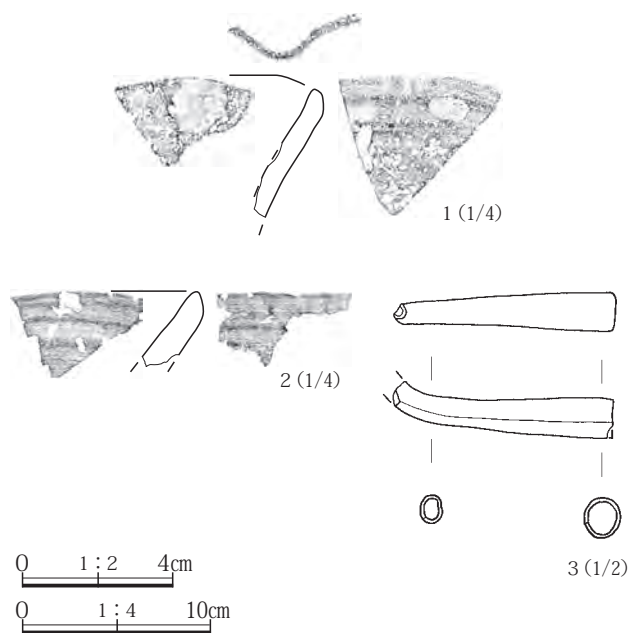


第268図 2区18号溝平断面図

は34.50mであり、両端はさらに調査区外に延びる。幅は0.55～1.10m、深さは0.22～0.46mである。断面形状は逆台形ないしは逆三角形に近いところもある。埋土には細砂を含むが、明確な流水の形跡は見られない。底面の標高は、北端で28.83m、南端で28.92mと、その差はわずかであり、どちらかが低いわけではない。出土遺物は少ない。掲載したのは、中世在地系土器片口鉢2点、煙管1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)3点・33g、同(大)317g、須恵器(小)194g、同(大)6点・255g、埴輪2点・154g、近世国産磁器1点、同施釉陶器1点、同在地系土器焙烙・鍋類1点がある。3回も屈曲し、それ以外は直線という形状であること、埋土に流水の形跡はないことから、何らかの区画溝と考えられる。3回屈曲するものの、それぞれの直線部分の方位は、21号溝、22号溝のそれに近く、この方向がこの付近の近世以降の区画方向であったと思われる。遺物に近世のものが含まれるので、埋没年代は近世以降である。

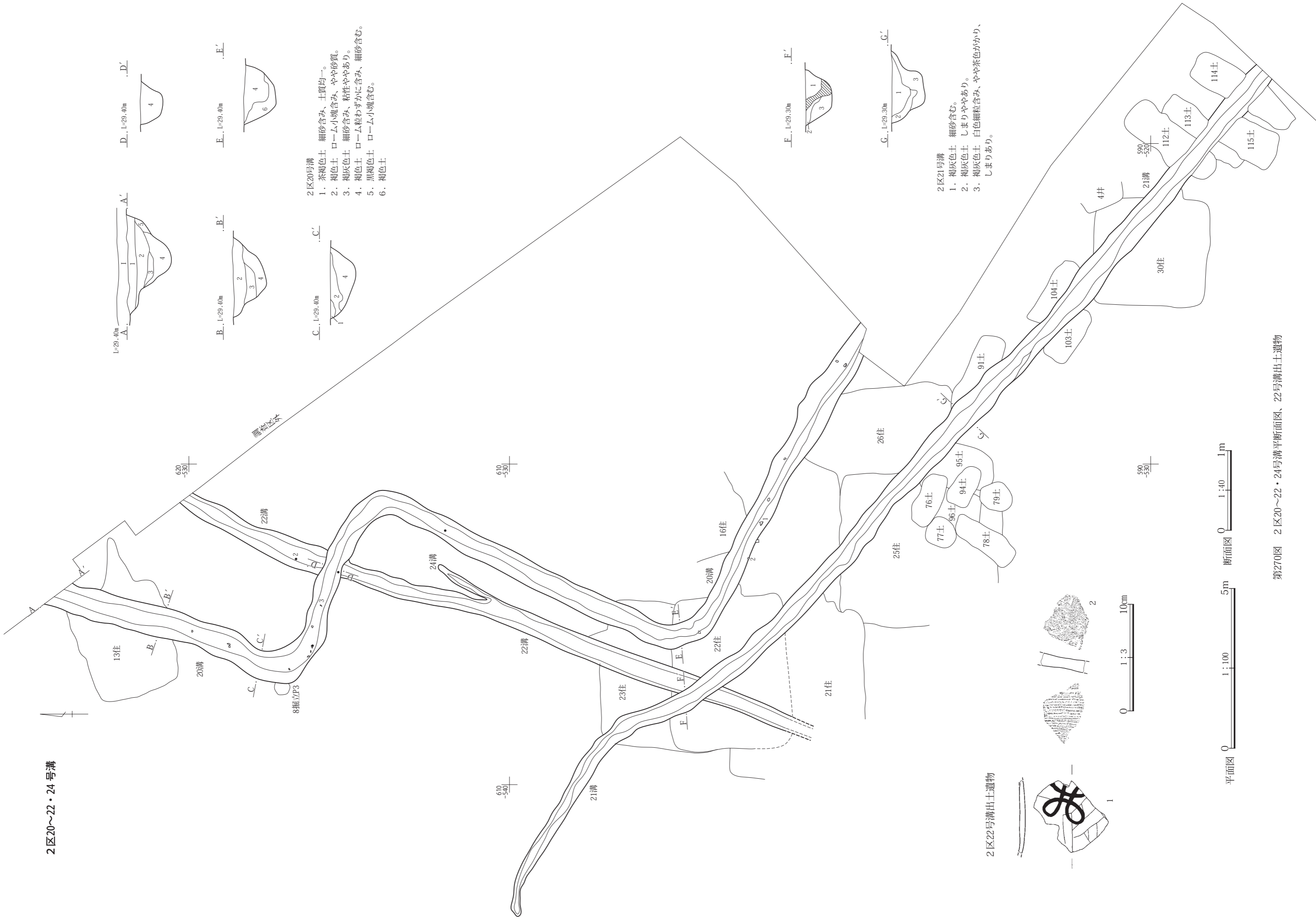
2区21号溝(第270図、PL.98-4～6)

2区南東部にある。北西-南東方向の溝で、北西端は途切れ、南東端は調査区外に延びる。北西端付近はやや蛇行するが、その後は直線的で、その部分の走行方位はN-49°-Wである。21～23・25・26・30号竪穴住居、22号溝、3号井戸、91・95・103・104・112～115号土坑と重複。本遺構は103号土坑よりも古いが、その他の遺構よりも新しい。調査できた長さは35.50mであり、南東端はさらに調査区外に延びる。幅は0.20～0.95m、深さは0.02～0.45mである。断面形状は逆台形で、壁の途中で傾斜が変わるところもある。G-G'セクションでは1、2層がそれぞれ掘り直しであり、ここでは埋没途中に少なくとも2回の掘り直しが行われていたらしい。底面の標高は北西端で28.92m、南東端で28.96mであり、その差はわずかである。途中に高低があるので、どちらかが高いとは言えない。埋土は褐灰色土で、細砂を含む層もあるが、明らかな流水の形跡はみられない。出土遺物は小破片ばかりで掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)4点・23g、同(大)296g、須恵器(小)185g、同(大)6点・102g、近世国産磁器1点、同施釉陶器2点、同焼締陶器2点、近現代土器類1点がある。北端は途切れているし、流水の形跡はないので、何らかの区画溝であろう。



第269図 2区20号溝出土遺物

2区20~22・24号溝



第270図 2区20~22・24号溝断面図、22号溝出土遺物

近世～近現代の土器を含むので、最終的に埋没したのは近代にまで下る可能性がある。

2区22号溝(第270図、第53表、PL.98-4・5,132)

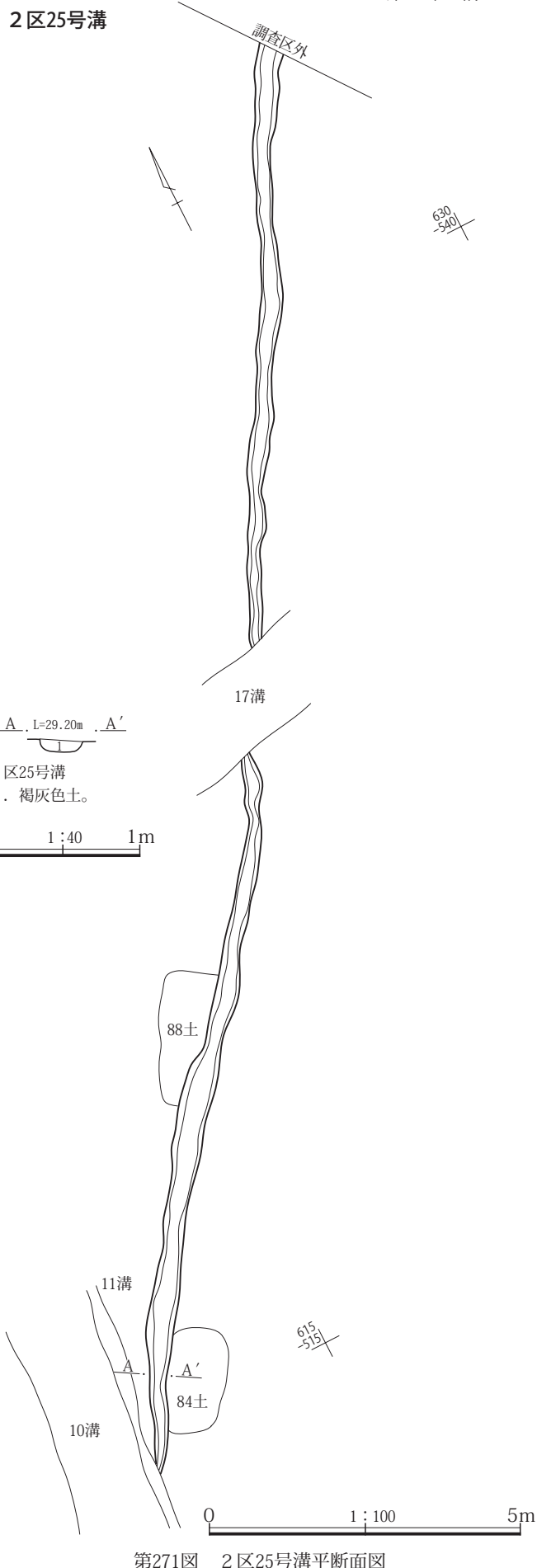
2区南東部にあり、北東-南西方向に直線状に延びている。途中で方向をわずかに変えているが、その部分に分かれる短い溝を24号溝と名付けた。しかし、この溝が全く別個の溝であるかどうかは確証がない。走行方位は、北東部がN-14°-E、南西部がN-21°-Eである。21～24号竪穴住居、20・21・24号溝と重複する。本遺構が21～24号竪穴住居より新しく、20・21号溝よりも古い。調査できた長さは20.80mであり、北東端は調査区外に延びる。南西端は竪穴住居と重複して不明瞭となるが、その延長と思われるような痕跡はその先にも続いていた。幅は0.50～0.85m、深さは0.08～0.22mである。断面は逆台形のところが多い。遺物は少なく、掲載したのは土師器杯(墨書あり)1点、円筒埴輪1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)2点・7g、同(大)107g、須恵器(小)75gがある。遺物には中世以降のものを含まないのが、古代にまで溯ることも考えられるが、近世以降に埋没した20号溝の一部と方位がほとんど同じであるため、近い時期の区画溝である可能性の方が高いと思われる。

2区24号溝(第270図)

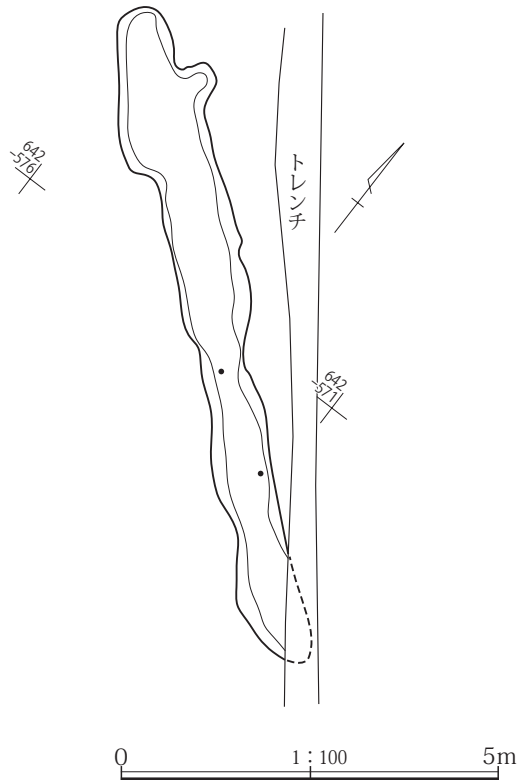
2区南東部にある。22号溝の中間にある屈曲点から、北東方向に分かれている短い溝であるが、22号溝との新旧関係は不明である。走行方位はN-33°-Eである。調査した長さは2.00mであり、幅は0.18～0.28m、深さは0.04～0.07mの不明瞭な溝である。出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものにも土師器(大)4点・4gがあるだけである。22号溝との関係が不明なので断言はできないが、区画溝の一部なのではないだろうか。

2区25号溝(第271図)

2区中央付近にある。北東-南西方向に直線的に延びる細い溝で、周囲の溝とは方向が異なる。方位は中程でわずかに変わり、北半がN-29°-E、南半がN-37°-Eである。10・11・17号溝、84・88号土坑と重複



2区26号溝



第272図 2区26号溝平面図

し、本遺構が10・11号溝より古く、84・88号土坑より新しい。17号溝との新旧関係は不明である。調査した長さは23.00mで、北側は調査区外に延び、南側は10・11号溝と合流した形で途切れる。幅は0.20～0.50m、深さは0.02～0.07mである。断面形状は浅い逆台形である。底面の標高は北東端で29.18m、南西端で29.13mであり、わずかな差しかない。出土遺物はなく、時期は特定できないが、近世以降と考えられる10・11号溝よりも古い溝である。埋土に流水の形跡は見られないことと、細く浅い溝であるという形態とから、区画溝と考えられる。

2区26号溝(第272図)

2区中央の北西側にある、長さが短く浅い、やや不明瞭な溝である。北西-南東方向で周辺の溝とは方向が異なる。走行方位はN-50°-Wである。As-B下水田想定箇所、1号サク状遺構と重複し、本遺構が新しい。調査できた長さは8.30mで、北西側は途切れ、南東側はトレンチで破壊してしまったがやはりそこで途切れているらしい。幅は0.60～1.16mで一定せず、深さは0.07～0.13mと浅い。出土遺物はごく少なく、掲載できるもの

はない。小破片であるために掲載しなかったものには、須恵器(小)1点・14g、埴輪1点・65gがある。出土遺物が少ないので時期は特定できないが、中世以降の遺物は出土していない。両端が途切れた短い溝であり、何らかの区画溝と考えられる。

3区1号溝(第273図、PL.98-7)

3区の溝は8条であり、そのうちの7条が3-1区にある。1～4号溝は3-1区中央やや西寄りにある南北溝であり、4条が近接して存在する。北側の3-2区には現れていないのは、その間で曲がるか途切れるかのどちらかであると思われるが、いずれも浅い溝なので削平されてしまった可能性もある。1号溝はそのうちの西側にある。緩やかに蛇行し、全体の走行方位はN-14°-Eである。1号竪穴住居、1・2号土坑、2号溝と重複する。本遺構が1号土坑より古く、1号竪穴住居、2号土坑、2号溝より新しい。調査区内に掛かる長さは10.23mであり、両端はさらに調査区外へ延びる。幅は0.34～0.50m、深さは0.16～0.20mである。断面形状は逆台形であり、埋土に流水の形跡は見られない。底面の標高は北端で29.29m、南端で29.10mであり、南に向かって低くなっている。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(小)2点・8g、須恵器(小)1点・6g、同(大)1点・11gだけである。出土遺物が少ないので時期の特定は難しいが、溝の方向は現在の区画方向に近いので、古代まで溯るとは考えられず、近接して並行する2～4号溝と共に、近世以降の区画溝と考えるのが妥当であろう。

3区2号溝(第273図、PL.98-7)

3-1区中央やや西側にある南北溝で、1～4号溝が近接して存在する。ほぼ直線的に延び、走行方位はN-13°-Eである。1号竪穴住居、2・11号土坑、1号溝と重複する。本遺構は1号溝より古く、その他より新しい。調査区内に掛かる長さは10.86mであり、両端はさらに調査区外へ延びる。幅は0.62～1.00m、深さは0.04～0.18mである。断面形状は皿形ないし椀形であり、埋土は暗オリーブ褐色土である。底面の標高は、北端で29.30m、南端で29.08mであり、南に向かって低く

なっている。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、土師器(大) 35g、須恵器(小) 8g だけである。出土遺物が少ないので時期の特定は難しいが、近接して並行する1・3・4号溝と共に溝の方向は現在の区画方向に近いので、古代まで溯るとは考えられず、近世以降の区画溝と考えるのが妥当であろう。

3区3号溝(第273図、PL.98-7)

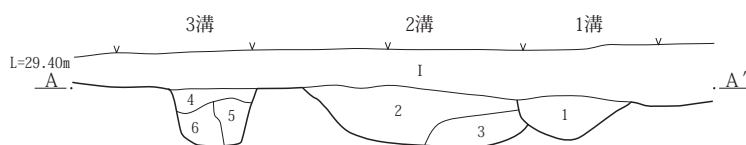
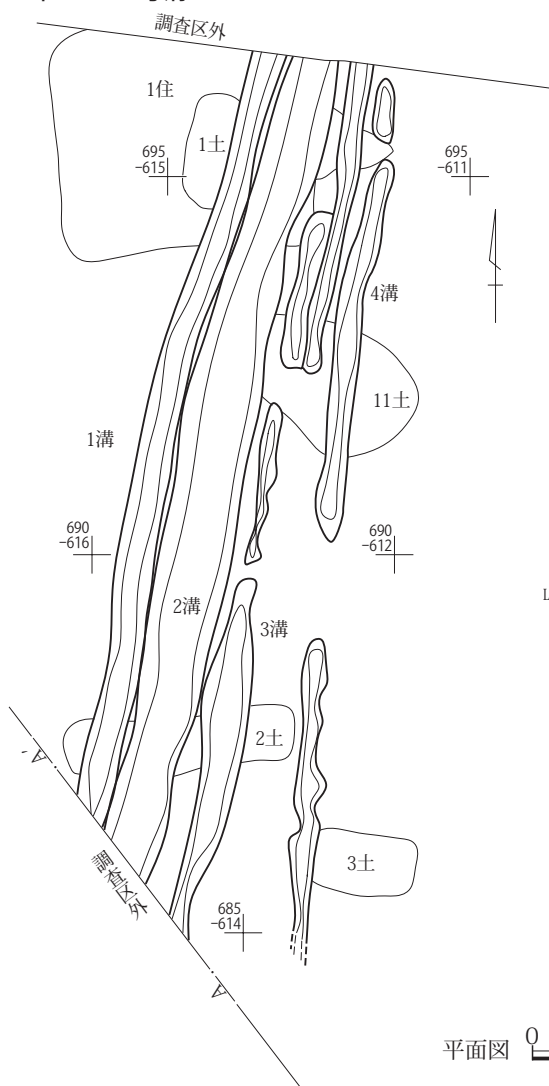
3-1区中央やや西側にある南北溝で、1~4号溝が近接して存在する。ごく浅い溝なので断続的に残り、北側では2条の溝が接合するような形態となっている。全体としてはほぼ直線的に延び、走行方位はN-12°-Eである。1号竪穴住居、2・11号土坑と重複する。本遺

構が新しい。調査区に掛かる長さは11.64mであり、両端はさらに調査区外に延びる。幅は0.10~0.62m、深さは0.02~0.05mと浅い部分が大部分で、不明瞭な溝であるが、北端の部分は深さ0.23mと深い。断面は皿状の部分が多いが、北端の部分は逆台形である。遺物は出土しておらず時期の特定は難しいが、近接して並行する1・2・4号溝と共に溝の方向は現在の区画方向に近いので、古代まで溯るとは考えられず、近世以降の区画溝と考えるのが妥当であろう。

3区4号溝(第273図、PL.98-7)

3-1区中央やや西側にある南北溝で、1~4号溝が近接して存在する。3号溝と同様浅い溝なので断続的になっているが、全体としてはほぼ直線的に延びている。走行方向はその他の溝とはわずかに異なり、N-6°-Eである。3・11号土坑と重複し、本遺構が新しい。調査できた長さは11.36mであり、北側は途切れ、南側は不明瞭になって途切れている。幅は0.20~0.40m、深さは0.01~0.05mとごく浅い。断面形状は皿状である。遺物の出土はなく時期の特定は難しいが、溝の方向は現在の区画方向に近いので、古代まで溯るとは考えられず、近接して並行する2~4号溝と共に、近世以降の区画溝と考えるのが妥当であろう。

3区1~4号溝



3区1~3号溝

1. オリーブ黒色粘質土 土質均一。1号溝。
2. 暗オリーブ褐色土 ローム粒少し含む。2号溝。
3. 暗オリーブ褐色土 ローム粒・小塊やや多く含む。2号溝。
4. 黒褐色土 土質均一、しまり強い。3号溝。
5. 黒褐色土 ローム粒・白色軽石わずかに含み、しまりやや弱い。3号溝。
6. 黒褐色土 ローム小塊わずかに含み、しまりやや弱い。3号溝。

平面図 0 1:100 5m

断面図 0 1:40 1m

第273図 3区1~4号溝平断面図

3区5号溝(第274図、PL.98-8,99-1・2)

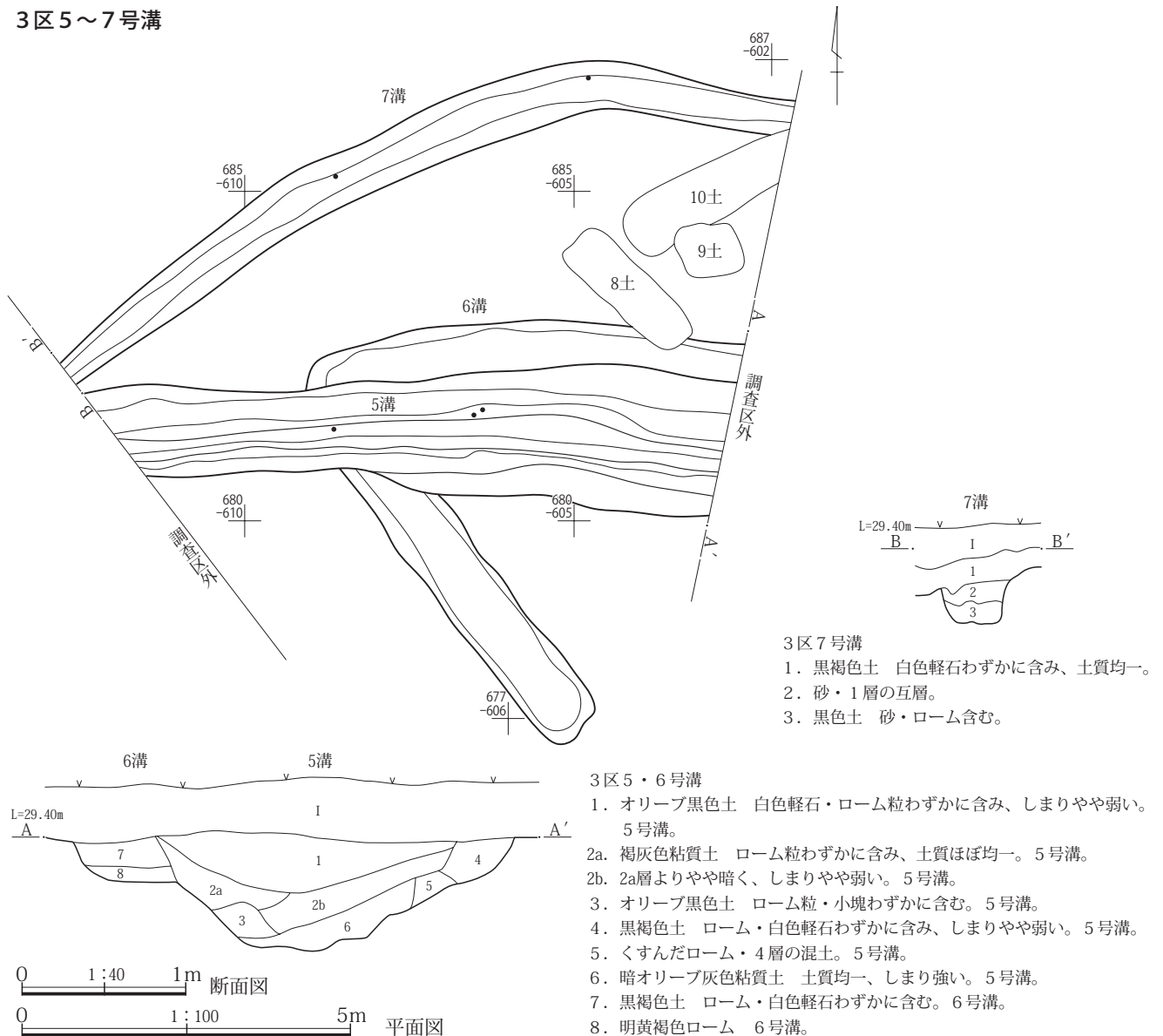
5～7号溝の3条は3-1区南東部にある。近接して存在するが、方向や形態などはみな異なり、相互の関連はないと思われる。5号溝は調査区南東端を横断する東西溝であり、ほぼ直線的に延び、その方位はN-89°-Eである。6号溝と重複し、本遺構が新しい。調査区に掛かる長さは9.90mで、両端はさらに調査区外に延びている。幅は1.22～2.24m、深さは0.37～0.56mであり、かなり大きな溝である。断面形状は椀形で、壁には複数の段がある。埋土は不自然な堆積なので、何回かの掘り直しがあると考えられる。底面の標高は28.71～28.74mでほとんど差がなく、平坦である。出土遺物は少なく、

掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)45g、同(中)1点・50g、同(大)221g、須恵器(小)1点・2g、同(大)3点・85g、近世施釉陶器1点がある。わずか1点であるが、近世の遺物が出土していることを重視すれば、最終的に埋没したのは近世以降であると考えられる。明らかな流水の形跡はないが、わずかな長さの調査なので、その性格は不明である。

3区6号溝(第274図、PL.98-8,99-1)

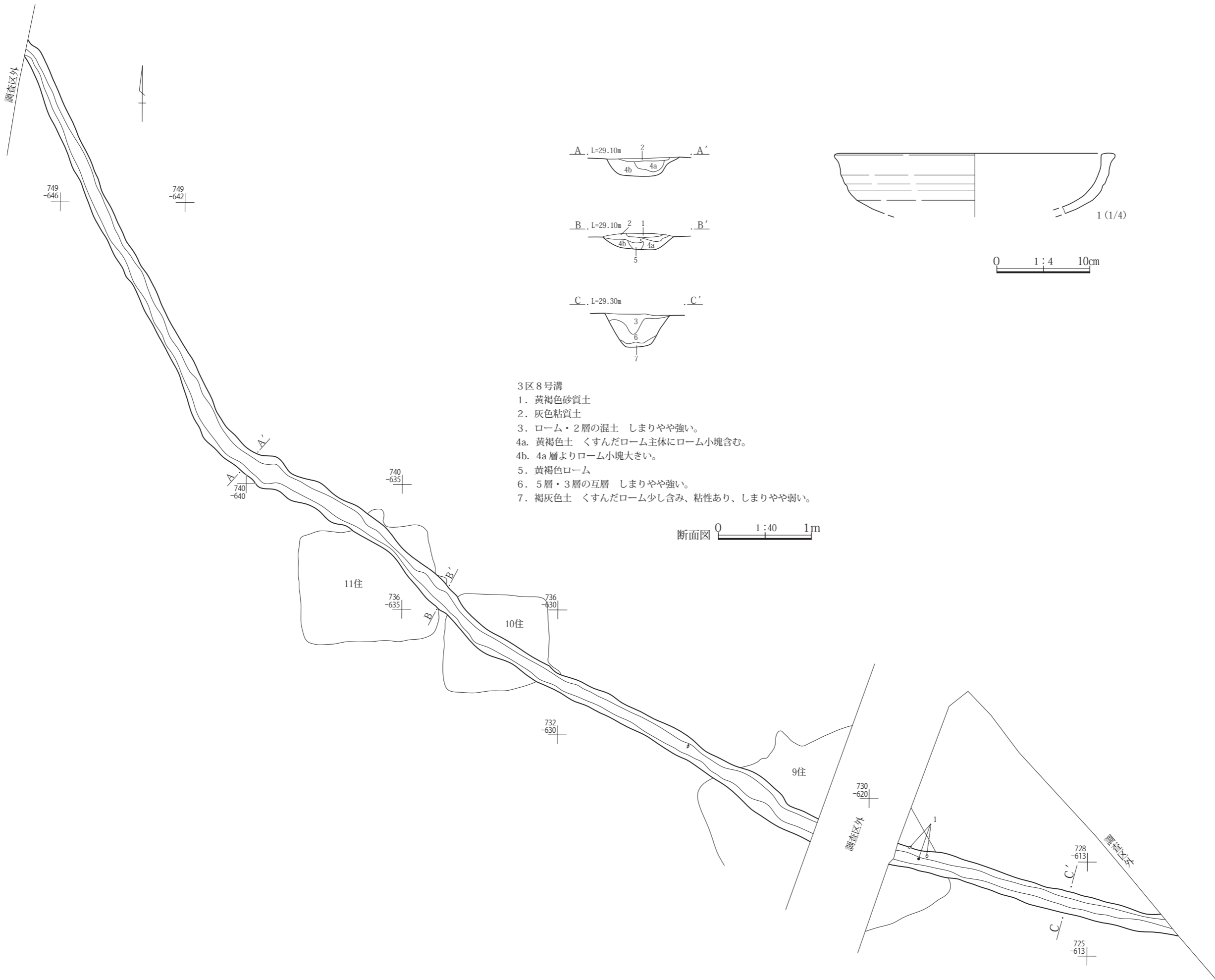
3-1区南東端近くにあるV字形の溝である。北側は5号溝に重複して並行し、その西側で南東方向に鋭角に

3区5～7号溝



第274図 3区5～7号溝平断面図

3区8号溝



- 3区8号溝
1. 黄褐色砂質土
 2. 灰色粘質土
 3. ローム・2層の混土 しまりやや強い。
 - 4a. 黄褐色土 くすんだローム主体にローム小塊含む。
 - 4b. 4a層よりローム小塊大きい。
 5. 黄褐色ローム
 6. 5層・3層の互層 しまりやや強い。
 7. 褐灰色土 くすんだローム少し含み、粘性あり、しまりやや弱い。

断面図 0 1:40 1m

平面図 0 1:120 5m

第275図 3区8号溝平面図、出土遺物

曲がっている。東西方向の部分の走行方位はN-88°-E、北西-南東方向の部分はN-36°-Wである。重複遺構は5号溝と8号土坑であり、本遺構はいずれよりも古い。調査できた長さは12.40mで、東西部分の東側は調査区外にさらに延びている。幅は0.90～1.05m、深さは0.07～0.43mである。断面形は逆台形であり、埋土には流水の形跡は見られない。出土遺物はなく、時期は特定できないが、近世以降に埋没した可能性のある5号溝よりは古いものである。埋土に流水の形跡がなく、南東端は途切れていることから、何らかの区画溝であると思われる。

3区7号溝(第274図、PL.99-3)

3-1区南東部にある。「へ」の字形に曲がる溝で、西半分は北東-南西方向、東側は屈曲して東西方向になる。走行方位は、西端はN-54°-E、中央はN-67°-E、東端はN-83°-Wである。重複するのは10号土坑のみであり、本遺構が古い。調査区に掛かる長さは12.20mであり、両端は調査区外にさらに延びている。幅は0.43～0.87m、深さは0.19～0.42mである。断面形状はU字形に近く、明瞭な溝である。底面の標高は28.93～28.99mであり、どちらが低いということはない。埋土には砂を含むのが特徴であり、水が流れていた可能性がある。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものも、須恵器(小)2点・82gだけである。出土遺物が少ないために時期は不明であり、性格も不明である。

3区8号溝(第275図、第54表)

3-2区北端部と3-3区中央にまたがって掘られた溝である。緩やかに蛇行、屈曲して調査区を横断し、両端は調査区外にさらに延びている。走行方位は、北西端付近はN-28°-Wで直線的であり、その東側はN-47°-75°-Wの範囲で蛇行している。9～11号竈穴住居と重複し、本遺構が新しい。調査した長さは49.00mであり、幅は0.40～1.10m、深さは0.10～0.38mである。断面形状は逆台形あるいは皿状である。底面の標高は北西端で28.94m、南東端は28.87mでありその差はほとんどなく、途中には緩やかな高低差もあるので、どちらが低いとは言えない。遺物はごく少ないが、瀬戸・美濃陶

器大皿1点を掲載した。小破片であるために掲載しなかったものには、須恵器(大)1点・63gがあるのみである。明らかな流水の形跡は見られないが、緩やかに屈曲しながら長く延びている溝なので、単なる区画溝とは思えずその性格は不明である。最終的な埋没年代は近世以降であると思われる。

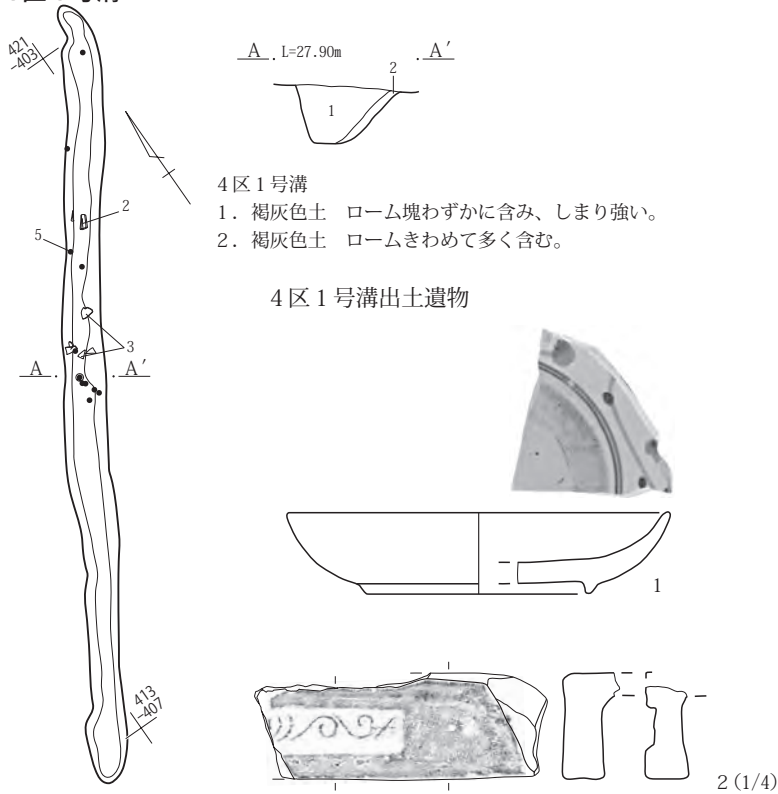
4区1号溝(第276図、第54表、PL.99-4)

4区の溝は調査区の全域に散在する。本溝は4-1区南部にある短い溝であり、北東-南西方向に直線的に延び、走行方位はN-33°-Eである。重複遺構はない。調査した長さは13.20mであり、両端は途切れている。幅は0.32～0.56m、深さは0.02～0.38mで、断面形状は逆台形である。断面(A-A')では埋まった後に掘り直しが行われことが分かる。出土遺物は多くないが、掲載したのは肥前磁器染付皿1点、十能瓦2点、匙状の樹脂製品1点、文久永寶1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、近現代の陶磁器1点、同土器類1点、十能瓦6点がある。両端が途切れていることから、水を流す溝ではなく、区画溝であると考えられる。近現代の遺物が出土するので、最終的に埋没したのは近代以降であろう。

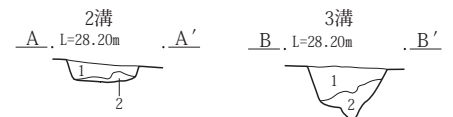
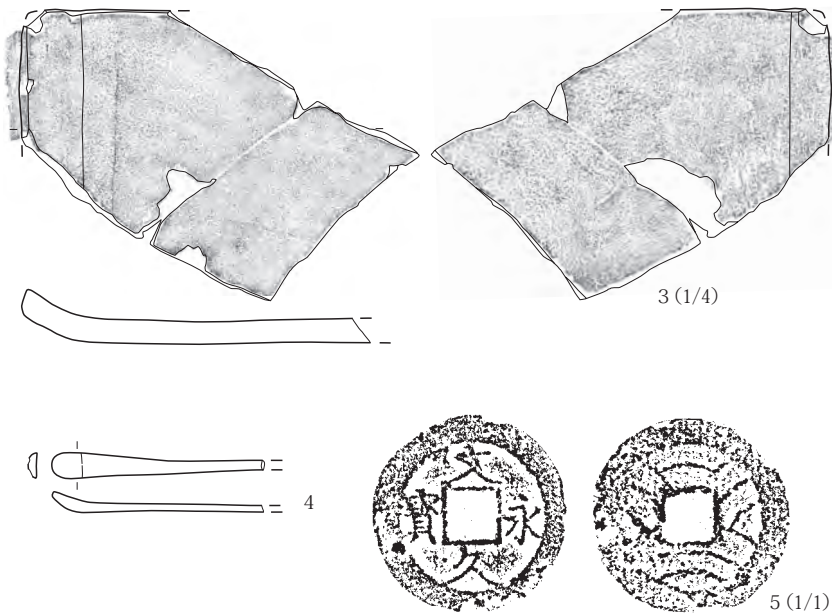
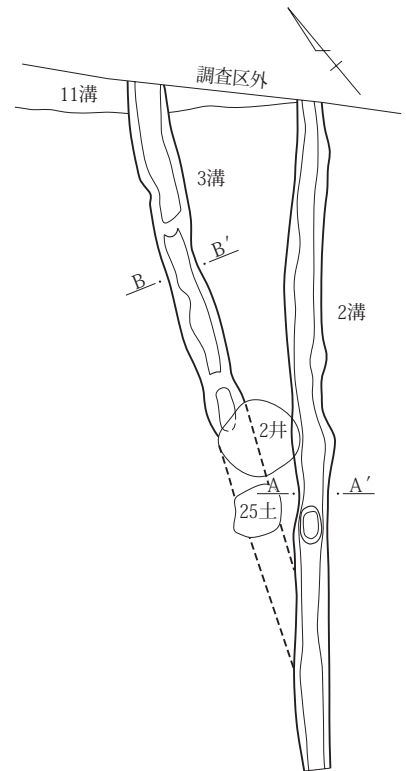
4区2号溝(第276図、PL.99-5)

4-1区北西部にあり、3号溝とV字形をなしている。北東-南西方向に直線的に延び、その方位はN-38°-Eである。11号溝、2号井戸と重複し、本遺構は2号井戸よりも新しく、11号溝との新旧関係は不明である。3号溝との関係は3号溝の項で述べる。調査できた長さは13.20mであり、北東側は調査区外に延び、南西側は部分的に途切れている。4-3区の13号溝は、位置から見て本溝の延長部である可能性がある。幅は0.24～0.52m、深さは0.02～0.22mである。断面は浅い逆台形で、ローム粒・塊が目立ち人為的埋没と考えられる。出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものにも、土師器(小)1点・4gがあるだけである。流水の形跡は見られず、ごく浅く細い溝なので、何らかの区画溝と考えられる。出土遺物が少ないので時期は不明である。

4区1号溝

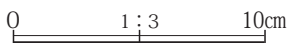
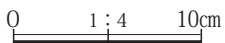
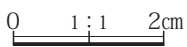


4区2・3号溝



- 4区2号溝
1. 黒褐色土 ローム粒・小塊やや多く含み、しまり強い。
 2. 明黄褐色土 ローム主体に1層塊少し含み、しまり強い。

- 4区3号溝
1. 黒褐色土 ローム粒・小塊多く含み、しまりやや強い。
 2. ローム・1層の混土、しまりやや強い。



第276図 4区1～3号溝平断面図、1号溝出土遺物

4区3号溝(第276図、PL.99-5)

4-1区北西部にあり、2号溝とV字形をなしている。北東-南西方向に直線的に延び、その方位はN-25°-Eである。2号井戸より新しく11号溝とは新旧関係が不明である。本溝は2号井戸と重複する以南は不明瞭となるが、その南側にも痕跡が見え、その部分では25号土坑、2号溝と重複するはずである。しかし明確な新旧関係は確認できなかった。調査できた長さは痕跡の部分も含めて7.95mであり、北東側は調査区外にさらに延びる。幅は0.42~0.56m、深さは0.20~0.48mである。断面形状は逆台形、あるいはやや不整な薬研状である。流水の形跡は見られず、埋土にはローム粒・塊が目立つので人為的に埋没したと考えられる。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、十能瓦2点があるので、最終的に埋没したのは近代にまで下る可能性がある。流水の形跡は見られず、ごく細い溝なので、何らかの区画溝と考えられる。

4区4号溝(第277図、第54表、PL.99-6,132)

4-2区北西部にある。次の5号溝とほぼ重なる位置にある。コの字形の溝で、さらに調査区外に延びるため、一部が調査できただけに過ぎないと思われる。コの字形の北東辺、すなわち北西-南東方向の部分は、途中で蛇行しているが、走行方位は全体としてN-47°-Wである。南側の北東-南西方向部分はN-48°-Eである。8・15号竪穴住居、5号溝、40・44号土坑と重複し、本遺構が40・44号土坑より古く、8・15号竪穴住居、5号溝より新しい。調査できた長さは25.40mで両端は調査区外に延び、幅は0.70~1.40m、深さは0.09~0.39mである。断面形状は逆台形で、流水の形跡は見られない。出土遺物は少ない。掲載したのは土錘1点、砥石1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)1点・4g、同(大)78g、須恵器(小)118g、近世施釉陶器2点、同在地系土器焙烙・鍋類3点がある。位置関係から、本遺構は5号溝の掘り直しと考えられる。その形状から何らかの区画溝と考えられる。遺物には近世のものを含み、より古い5号溝からは近現代の遺物も出土しているので、本溝は近代以降の溝であると思われる。

4区5号溝(第277図、第54表、PL.99-6,132)

4-2区北西部にある。4号溝とほぼ重なる位置にあり、やはりコの字形の溝である。4号溝と同様、南西側がさらに調査区外に延びるため、一部が調査できただけであろう。コの字形の北東辺、すなわち北西-南東方向の部分は直線的で、走行方位はN-46°-Wである。南側の北東-南西方向部分は4号溝と大きく重なり、方位はN-48°-Eである。重複遺構は8・15号竪穴住居、4号溝、44号土坑であり、本遺構は4号溝、44号土坑より古く、8・15号竪穴住居より新しい。調査できた長さは24.70mであり、幅は0.46~1.76m、深さは0.02~0.29mである。断面は浅い逆台形で、流水の形跡は見られない。出土遺物はやや豊富で、掲載したのは肥前陶器呉器手碗1点、生産地不明の磁器染付小碗1点、瀬戸・美濃陶器腰鍔碗1点、同せんじ碗1点、在地系土器皿1点、同瓦灯と思われるもの1点、用途不明の石製品1点、砥石1点がある。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)5点・43g、同(大)119g、須恵器(小)3点・20g、同(大)2点・81g、近世国産磁器2点、同国産施釉陶器1点、同在地系土器焙烙・鍋類3点、同皿5点、近現代の陶磁器7点がある。位置関係から、本遺構が4号溝の前身と考えられる。形状から見て区画溝と考えられる。出土遺物に近現代のものも含むので、最終的に埋没したのは近代以降と思われる。

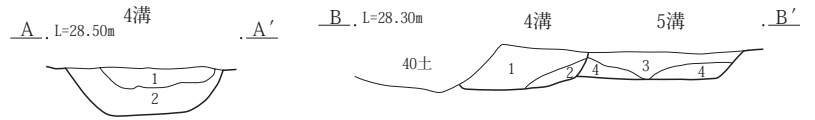
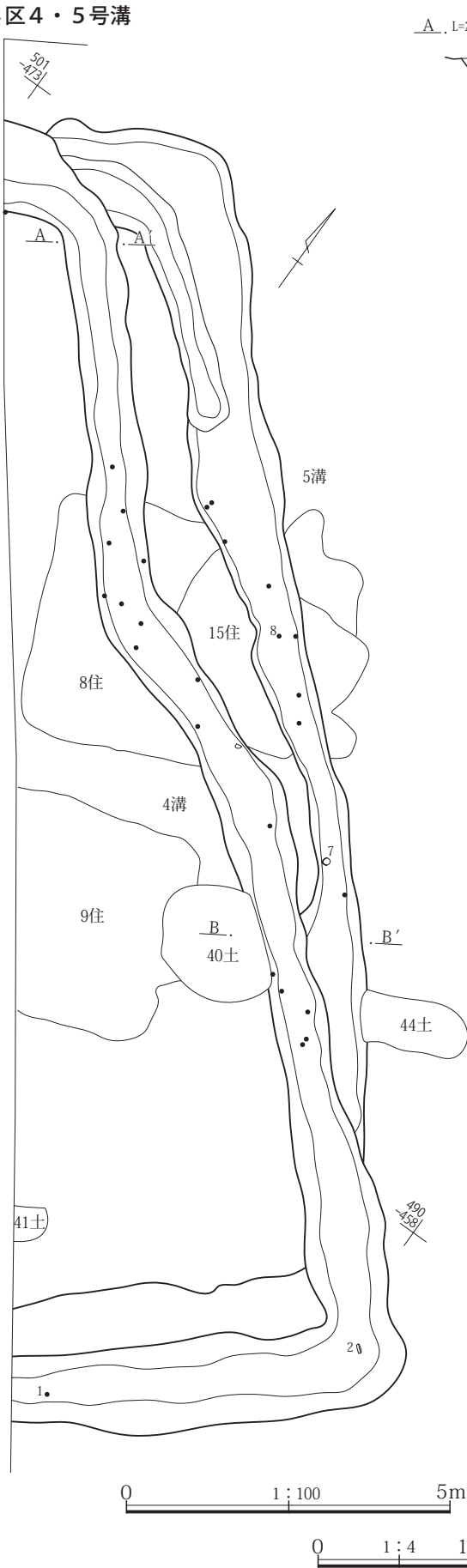
4区6号溝(第278・279図、第54・55表、PL.99-7,132)

6~9号の4条の溝は、4-2区南東部の西側にある。6・7号、8・9号の2条ずつがわずかに位置を変えて重複しているので、それぞれ掘り直しの関係にあるのではないだろうか。

6号溝はクランク状に曲がる溝である。北西端は調査区外に延び、南東端は攪乱によって破壊されている。走行方位は、北側の北東-南西方向の部分はN-55°-E、北西-南東方向の部分はN-40°-Wである。7号溝、50・52・54・76号土坑、10号ピットと重複する。本遺構がそのいずれよりも新しい。調査できた全長は29.60mであり、両端はさらに延びる。幅は0.57~1.36m、深さは0.12~0.39mである。断面形状は皿状だが、断面図をとった地点(A-A'セクション)では底が2段になっており、少なくとも1回の掘り直しがあったらしい。

4区4・5号溝

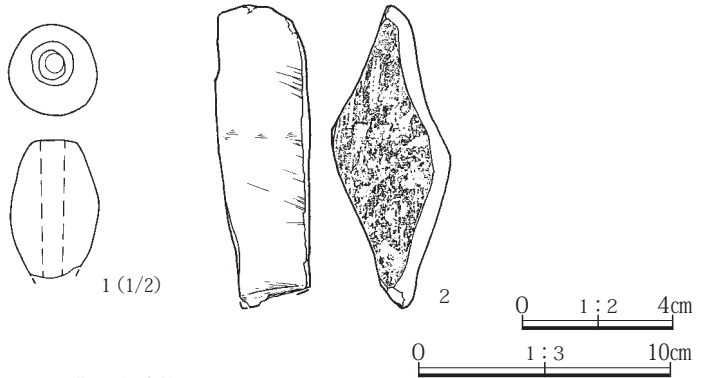
調査区外



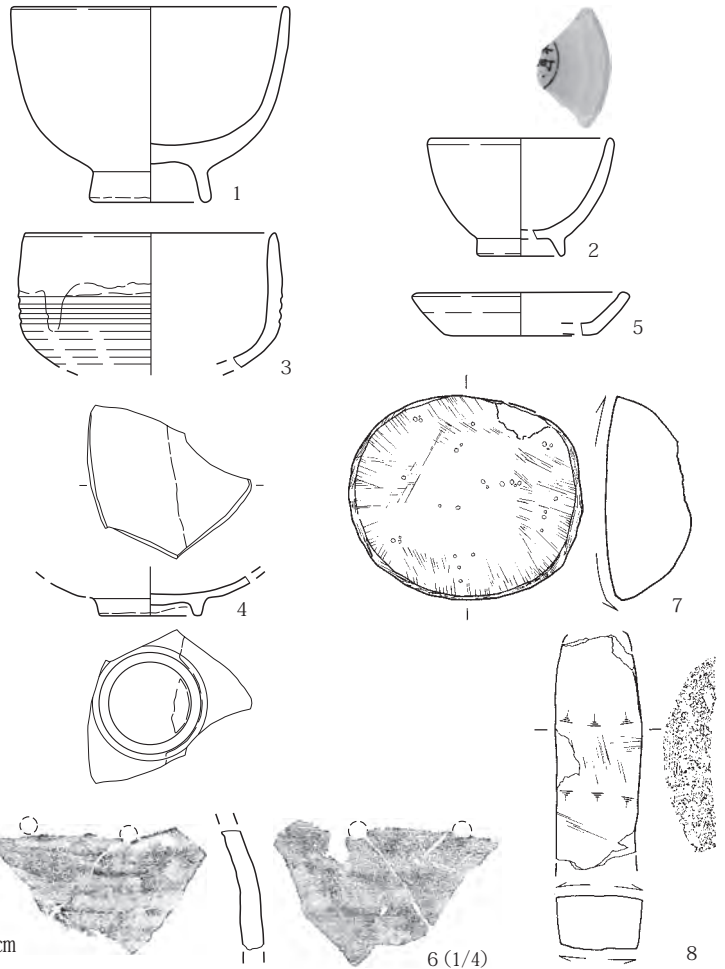
4区4・5号溝

1. にぶい黄褐色土 ローム粒少し含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。4号溝。
2. にぶい黄褐色土 ローム中塊多く含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。4号溝。
3. 暗褐色土 ローム粒・小塊少し含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。5号溝。
4. 暗褐色土 ローム粒・小塊やや多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。5号溝。

4区4号溝出土遺物

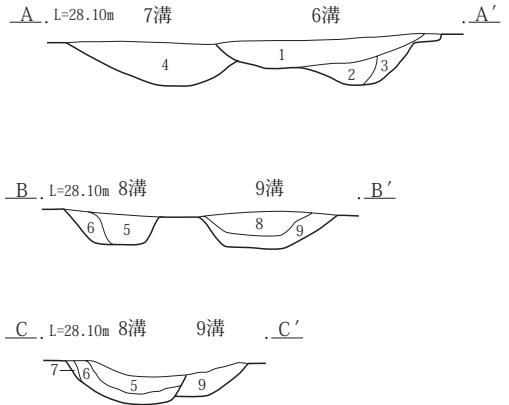
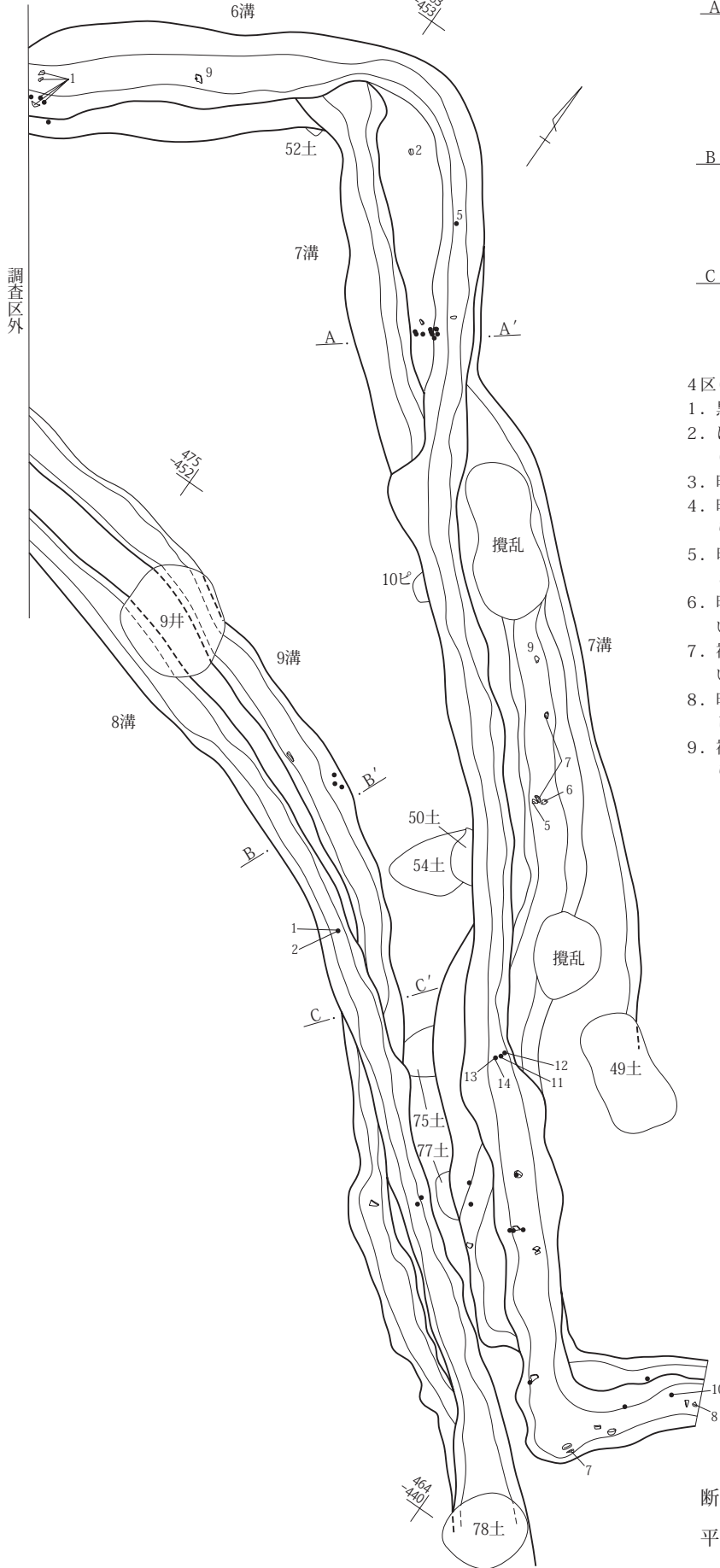


4区5号溝出土遺物



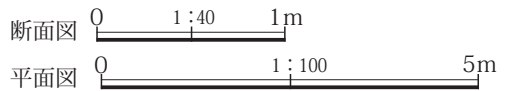
第277図 4区4・5号溝平面図、出土遺物

4区6~9号溝

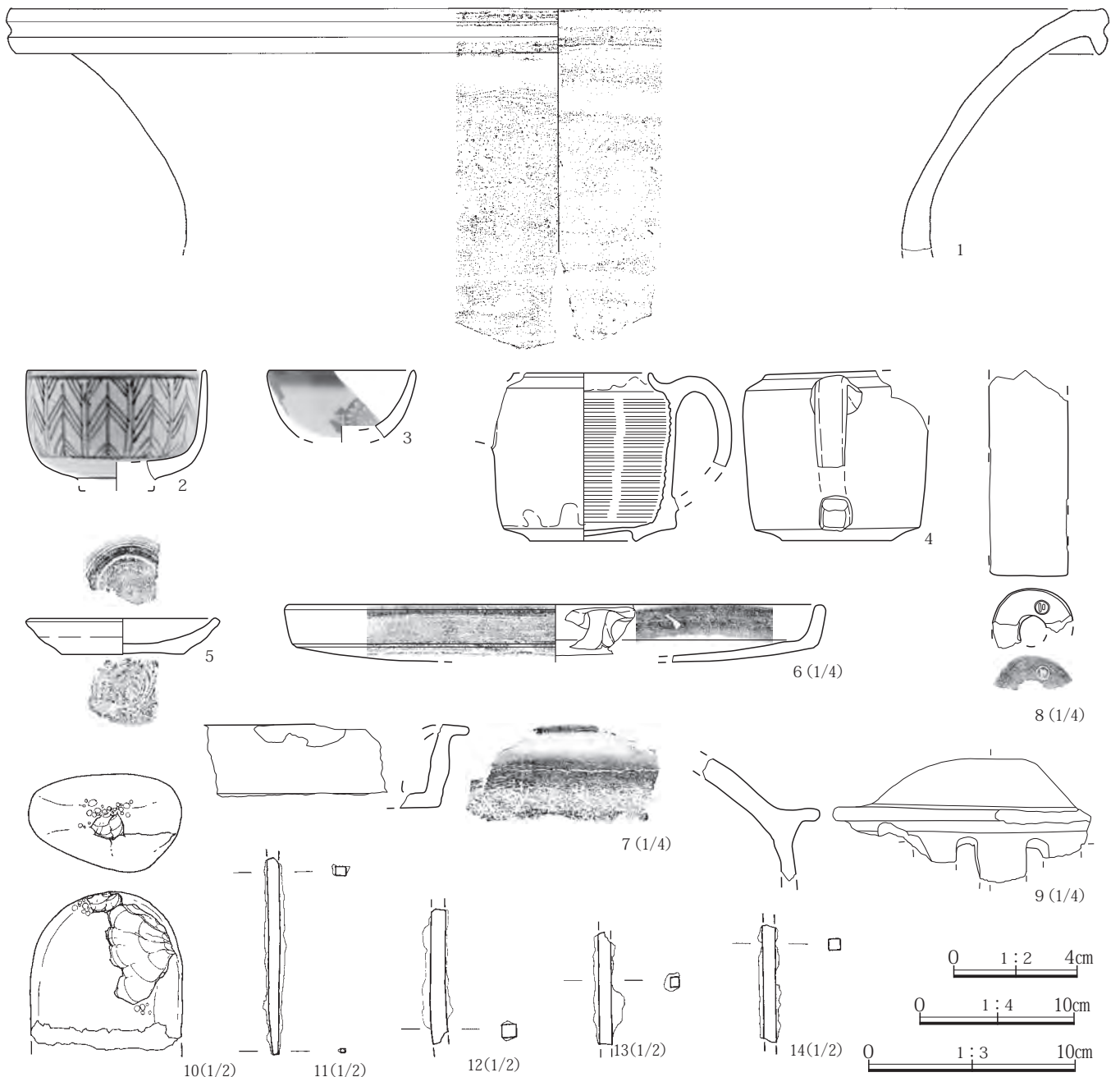


4区6~9号溝

1. 黒褐色土 土質均一、粘性あり、しまり強い。6号溝。
2. にぶい黄褐色土 ローム粒多く含み、しまりやや強い。6号溝。
3. 暗褐色土 ローム塊少し含み、しまりやや強い。6号溝。
4. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。7号溝。
5. 暗褐色土 ローム粒少し含み、粘性・しまりやや弱い。8号溝。
6. 暗褐色土 ローム中大塊多く含み、粘性・しまりやや強い。8号溝。
7. 褐色土 ローム小塊含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。8号溝。
8. 暗褐色土 ローム粒・小塊やや多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。9号溝。
9. 褐色土 ローム小塊やや多く含み、粘性やや強く、しまりやや弱い。9号溝。



第278図 4区6~9号溝平断面図



第279図 4区6号溝出土遺物

出土遺物は比較的多く、掲載したのは、須恵器甕1点、肥前磁器染付小丸碗1点、近現代の瀬戸・美濃磁器染付小碗1点、瀬戸・美濃陶器水注1点、在地系土器皿1点、同焙烙2点、同羽口1点、同瓦灯1点、敲石1点、角釘4点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)104g、同(大)246g、須恵器(小)77g、同(大)64g、中世中国産磁器1点、近世国産施釉陶器3点、在地系土器焙烙・鍋類4点、同皿1点、同器種不明1点、近現代の陶磁器2点がある。位置関係から、本遺構は7号溝の掘り直しと考えられる。形状から見て何ら

かの区画溝と考えられる。出土遺物には近現代のものも含むので、最終的に埋没したのは近代以降である可能性が高い。

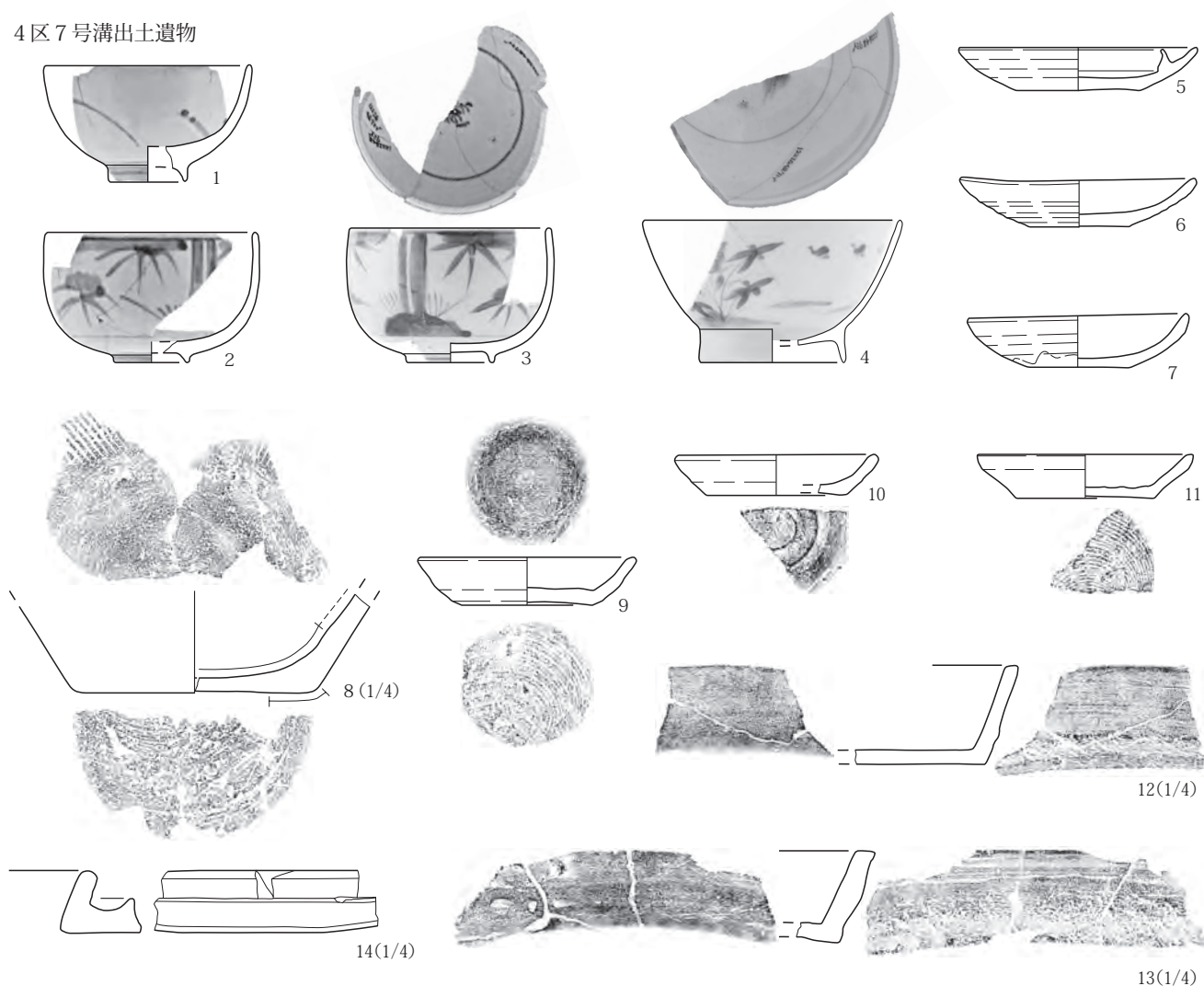
4区7号溝(第278・280図、第55表、PL.99-7,132)

4-2区南東部西側にあり、大部分が6号溝と重複して破壊され、形状が不明瞭な溝である。北西-南西方向に緩やかに蛇行している部分が見え、南東端で東側に屈曲しているようである。6号溝、49・52・75~77号土坑と重複する。本遺構が6号溝、49号土坑より古く、

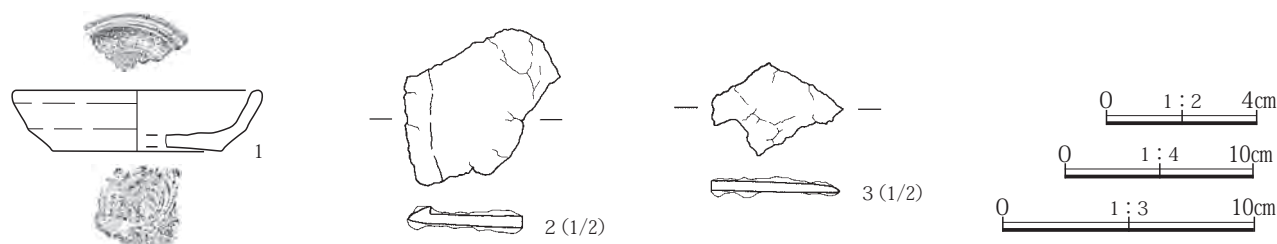
52・75～77号土坑より新しい。調査できた北西端と南東端を直線的に結ぶと、その長さは19.70mである。幅は0.56～0.96m、深さは0.03～0.32mである。断面形状は皿状ないし不整な逆台形である。出土遺物は比較的多く、掲載したのは肥前磁器染付碗1点、同染付小丸碗2点、同広東碗1点、瀬戸・美濃陶器灯火受皿1点、同灯火皿2点、同すり鉢1点、在地系土器皿3点、同焙烙2点、同置輪1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)2点・4g、同(中)2点・

99g、同(大)101g、須恵器(小)7点・35g、近世国産磁器2点、同国産施釉陶器12点、同在地系土器焙烙・鍋類17点、同皿6点、近現代の陶磁器2点、土器類3点、十能瓦2点がある。位置関係から、6号溝の前身と考えられ、何らかの区画溝と考えられる。出土遺物に近現代のものを含むので、最終的に埋没したのは近代以降であろう。

4区7号溝出土遺物



4区8号溝出土遺物



第280図 4区7・8号溝出土遺物

4区8号溝(第278・280図、第55表、PL.99-7,132)

4-2区南東部の西側にある緩やかに円弧を描く溝である。走行方位はN-43~71°-Wの中で変化している。重複する遺構は9号溝、9号井戸、75・78号土坑であり、本遺構が新しい。調査できた長さは18.10mであり、北西端は調査区外に延び、南東端は78号土坑に重複した部分で不明瞭になっている。幅は0.46~1.04m、深さは0.07~0.27mである。断面形状は逆台形である。出土遺物は少なく、掲載したのは用途不明の鉄製品2点である。その他8、9号溝のどちらに帰属するか分からないものとして在地系土器皿1点がある。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)2点・5g、同(大)1点・11g、中世国産焼締陶器1点、近世在地系土器皿3点、十能瓦5点がある。浅く、流水の形跡が見られない溝なので、何らかの区画溝と考えられるが、半円形をなすので、その性格は不明である。

4区9号溝(第278図、PL.99-7)

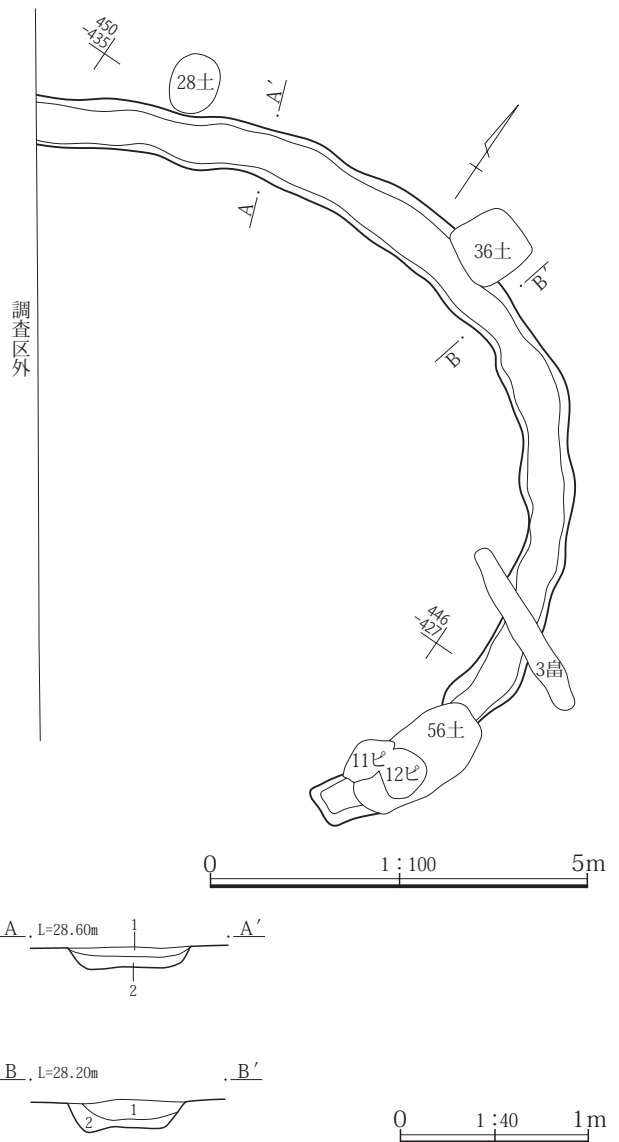
8号溝と同様、4-2区南東部の西側にある緩やかに円弧を描く溝であるが、南東部がやや蛇行している。8号溝、9号井戸、75・78号土坑と重複し、本遺構が8号溝より古く、9号井戸、75・78号土坑より新しい。調査した長さは18.30mで北西端は調査区外に延び、南東端は8号溝と同じく78号土坑で不明瞭となる。幅は0.38~0.72m、深さは0.06~0.27mである。断面形状はやや不整な逆台形である。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものにも、土師器(大)4点・16g、須恵器(小)1点・4gがあるだけである。位置関係からみて、本遺構は8号溝の前身と考えられる。8号溝と同様流水の形跡は見られず、幅が狭く浅いので、何らかの区画溝であろう。時期は特定できないが、近世以降と考えられる8号溝と近い時期と思われる。

4区10号溝(第281図、PL.100-1)

4-1区北西部にある半円を描く溝で、円の直径は10m程度である。西端は調査区外に延びる。重複する遺構は36・56号土坑、11・12号ピット、3号畝であり、本遺構が古い。幅は0.52~0.80m、深さは0.06~0.16mで、

断面は皿状ないし浅い逆台形である。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)2点・5g、同(大)1点・11g、中世国産焼締陶器1点、近世在地系土器皿3点、十能瓦5点がある。浅く、流水の形跡が見られない溝なので、何らかの区画溝と考えられるが、半円形をなすので、その性格は不明である。

4区10号溝

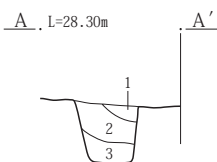
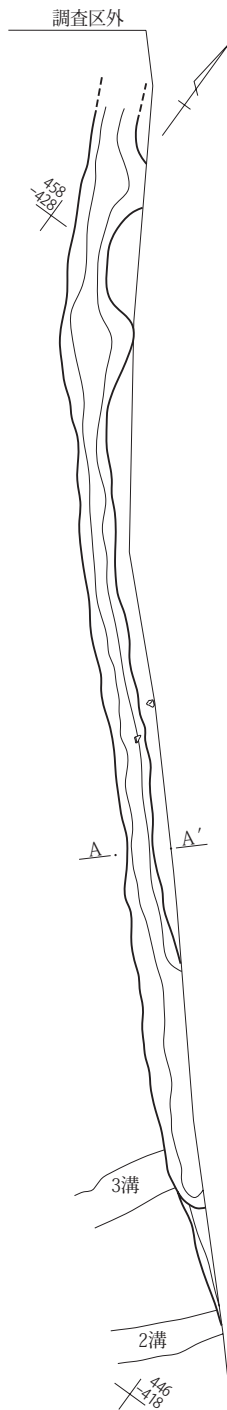


4区10号溝

1. 暗褐色土 ローム粒・小塊やや多く含み、粘性・しまりやや弱い。
2. にぶい黄褐色土 ローム中塊多く含み、粘性・しまりやや強い。

第281図 4区10号溝平断面図

4区11号溝



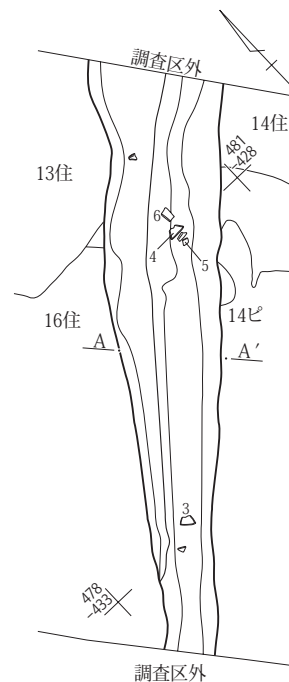
4区11号溝

1. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
2. 黒褐色土 ローム粒・暗褐色土小塊やや多く含み、粘性やや弱く、しまりやや強い。
3. 黒褐色土 ローム粒少し含み、粘性・しまりやや弱い。

4区11号溝(第282図、PL.100-2)

4-1区北西部東側にある溝である。調査区境に沿って緩やかな円弧を描いて走行し、両端は調査区外に延びている。現道方向とほぼ同じ北西-南西方向に延び、走行方位はN-30~47°-Wである。2・3号溝と重複するが、新旧関係は不明である。調査できた長さは16.22mであり、幅は0.34~0.96m、深さは0.07~0.40mである。断面形状は逆台形で、部分的には深くしっかりした溝である。遺物は少なく、小破片であるために掲載しなかったものにも、土師器(大)2点・10gがあるだけである。出土遺物が少ないので時期は特定できないが、最終的な埋没時期は近世以降と思われる。走行が現道と近い方向であり、何らかの区画溝であろう。

4区12号溝



4区12号溝

1. 灰黄褐色土 ローム粒少し含み、しまり強い。



第282図 4区11・12号溝平断面図

4区12号溝(第282・283図、第56表、PL.100-3)

4-4区南東隅近くにある。北東-南西方向に直線的に伸びるが、この付近は調査区の幅が狭いので両端は調査区外に伸びている。この4-4区には他に16~18号の3条の溝があり、いずれも北東-南西方向に伸びているが、南西側の4-2区には延長部分が現れないので、その間で途切れるか、どちらかに曲がっているであろう。本溝の走行方位は $N-44^{\circ}-E$ である。13・14・16号竪穴住居、14号ピットと重複し、本遺構が新しい。調査区内に掛かっている長さは7.61m、幅は0.68~1.78m、深さは0.15~0.63mである。断面は逆台形で北西側の壁には段がある。灰黄褐色土の1層だけで埋没しており、人為的に埋められたのではないだろうか。掲載した出土遺物は、須恵器杯1点、瀬戸・美濃陶器腰鍔碗1点、在地系土器火鉢2点、十能瓦2点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)6点・46g、同(大)199g、須恵器(小)4点・21g、同(大)1点・10g、近現代土器類1点、十能瓦2点がある。流水の形跡はなく、方位が現道と近いので、何らかの区画溝

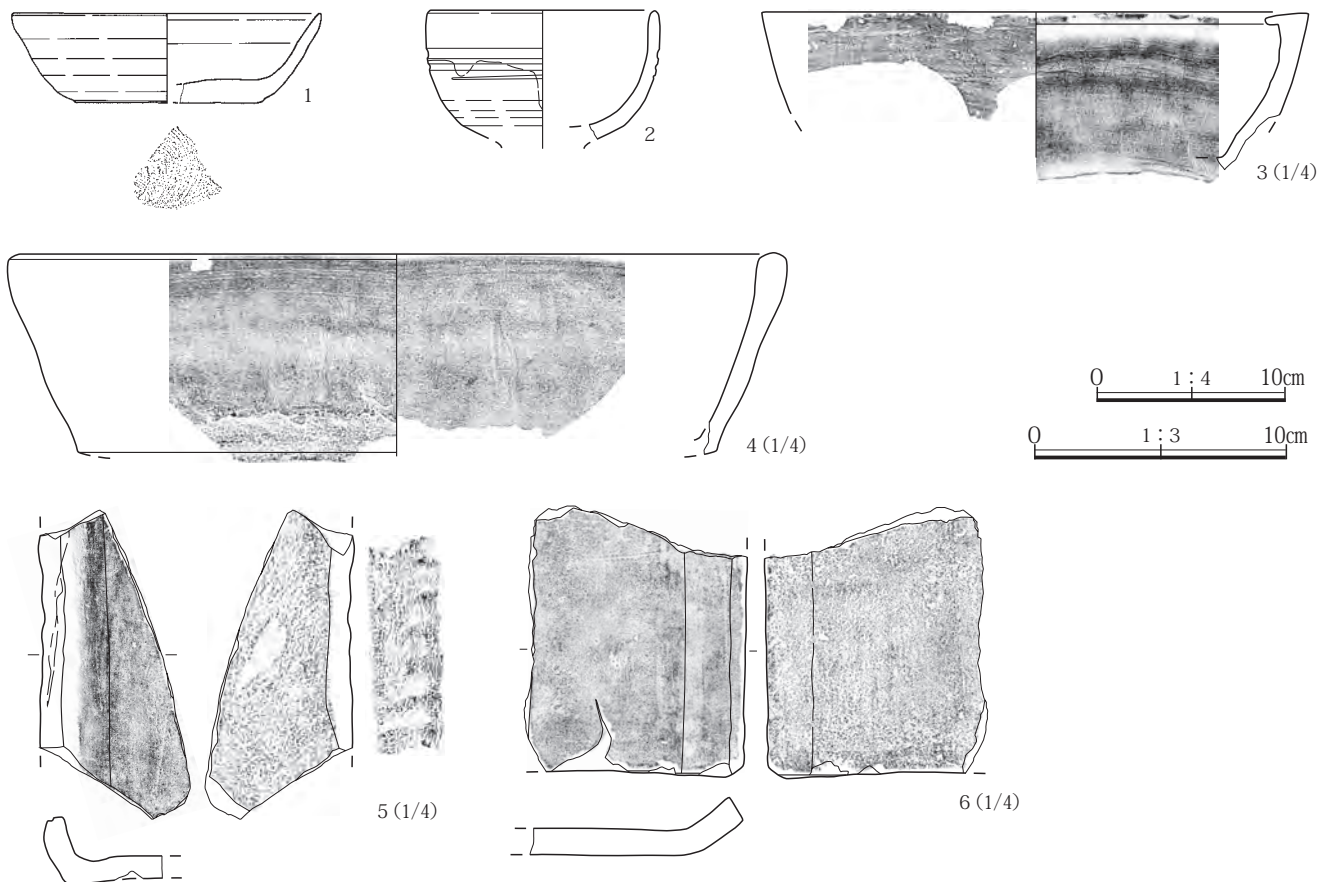
であろう。近現代の土器や十能瓦が出土していることから、最終的に埋没したのは近代であると思われる。

4区13号溝(第284図、PL.100-4)

4-3区中央やや北側にあり、14号溝に隣接している。北東-南西方向の直線的な溝で、走行方位は $N-31^{\circ}-E$ である。重複する遺構はない。調査区内に掛かる長さは7.67mで両端は調査区外に伸びている。南西方向には4-1区に2号溝があり、走行方位が近いことから本溝とつながる可能性がある。幅は0.78~1.35mで一定せず、深さは0.16~0.32mである。断面形状は浅い逆台形で、部分的に南東側に段がある。出土遺物はなく、時期は明らかではない。現道の方と近く、流水の形跡は見られないので、何らかの区画溝であろう。

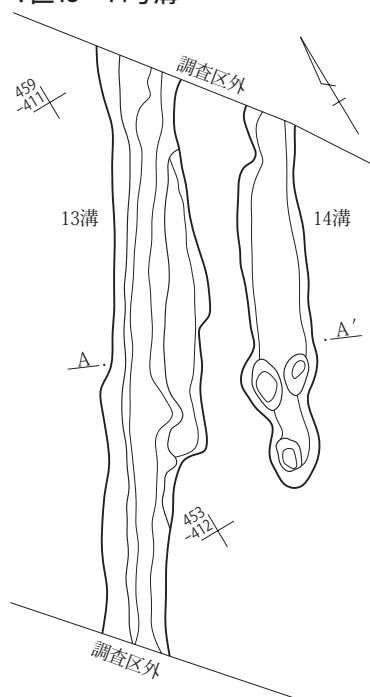
4区14号溝(第284図、PL.100-4)

4-3区中央やや北側にあり、13号溝に隣接している。北東-南西方向に直線的に伸び、走行方位は $N-27^{\circ}-E$ である。重複する遺構はない。調査できた長さは4.92



第283図 4区12号溝出土遺物

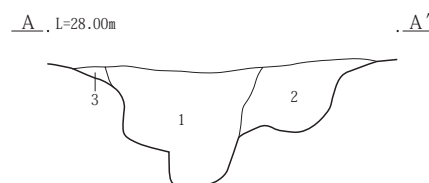
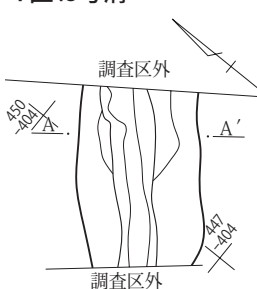
4区13・14号溝



4区13・14号溝

1. 灰黄褐色土 ローム粒・塊少し含み、しまり強い。
2. 褐色土 ローム粒わずかに含み、土質均一、しまり強い。
3. 暗褐色土 ローム塊きわめて多く含み、しまり強い。
4. 明黄褐色土 固いローム主体。

4区15号溝



4区15号溝

1. 灰黄褐色土 ローム粒わずかに含み、しまりやや弱い。
2. 褐色土 固いローム大塊きわめて多く含み、しまり強い。
3. にぶい黄褐色土 土質均一、しまり強い。



第284図 4区13～15号溝平面断面図

mと短く、北東側は調査区外にさらに伸びているが、南西側は途切れている。幅は0.52～1.00m、深さは0.10～0.35mであり、浅く不明瞭な部分もある。断面は浅い逆台形である。出土遺物はなく、時期は明らかではない。現道の方角と近く、流水の形跡は見られないので、何らかの区画溝であろう。

4区15号溝(第284図、PL.100-5)

4-3区中央にある北東-南西方向の溝で、走行方位はN-48°-Eである。重複する遺構はない。この部分の調査区は狭いので、調査区に掛かるのはわずかに2.37mであり、両端は調査区外に伸びている。幅は1.30～1.65m、深さは0.65～0.77mである。断面形状は途中で段のある不整形だが、A-A'セクションの部分では2時期の溝が重複しているように見えるので、少なくとも1回の掘り直しがある。出土遺物はないので、時期は特定できない。

4区16号溝(第285図、PL.100-6・7)

16～18号の3条の溝は4-4区北西端を横断する溝

で、近接して並行しているので相互に関連があると思われる。16号溝の走行方位はN-45°-Eである。重複する遺構はない。調査区に掛かるのは8.36mであり、両端は調査区外に伸びている。幅は0.41～0.72m、深さは0.20～0.41mである。断面形状は逆台形で、流水の形跡は見られない。出土遺物は少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)61g、同(大)76g、須恵器(小)2点・14g、同(大)5点・80g、近世国産施釉陶器1点、同在地系土器焙烙・鍋類2点、同皿3点、十能瓦1点がある。近世の遺物や十能瓦が出土するので、最終的に埋没したのは近世以降である。流水形跡が見られず、現道と同じ方向なので、近世以降の何らかの区画溝であろう。

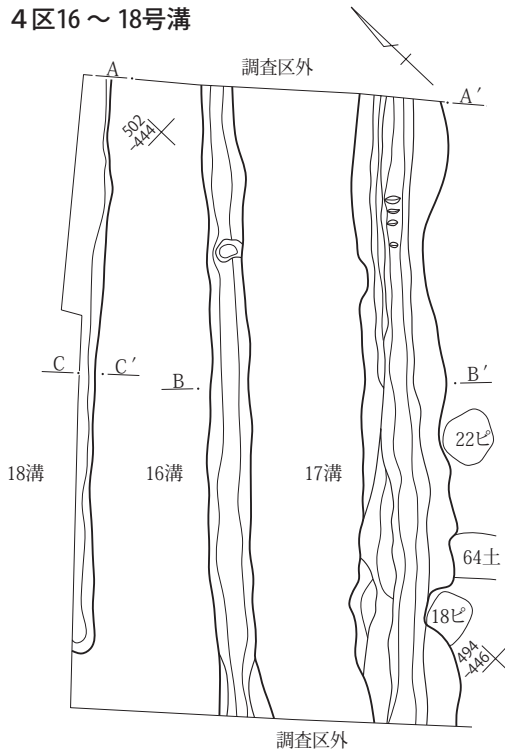
4区17号溝(第285図、第56表、PL.100-6・7)

4-4区北西端にあり、16号溝の南東側に近接して並行する。走行方位はN-45°-Eで16号溝と共通する。両溝の間隔は底面の心-心を計測すると、2.25～2.40mである。4区64号土坑、18号ピットと重複するが、新旧関係は確認できなかった。調査区に掛かる長さは8.32

mであり、両端は調査区外へ延びている。幅は0.75～1.32mで広狭があり、深さは0.46～0.79mである。断面形状は逆台形だが底面は平坦ではない。出土遺物は少ないが、在地系土器皿1点を掲載した。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)3点・23g、同(大)42g、須恵器(小)2点・15g、近世国産施釉陶器4点、同在地系土器皿2点、十能瓦3点がある。近世の遺物や十能瓦が出土するので、最終的に埋没したのは近

世以降である。16号溝と同様、流水の形跡が見られず、現道と同じ方向なので、近世以降の何らかの区画溝であろう。

4区16～18号溝

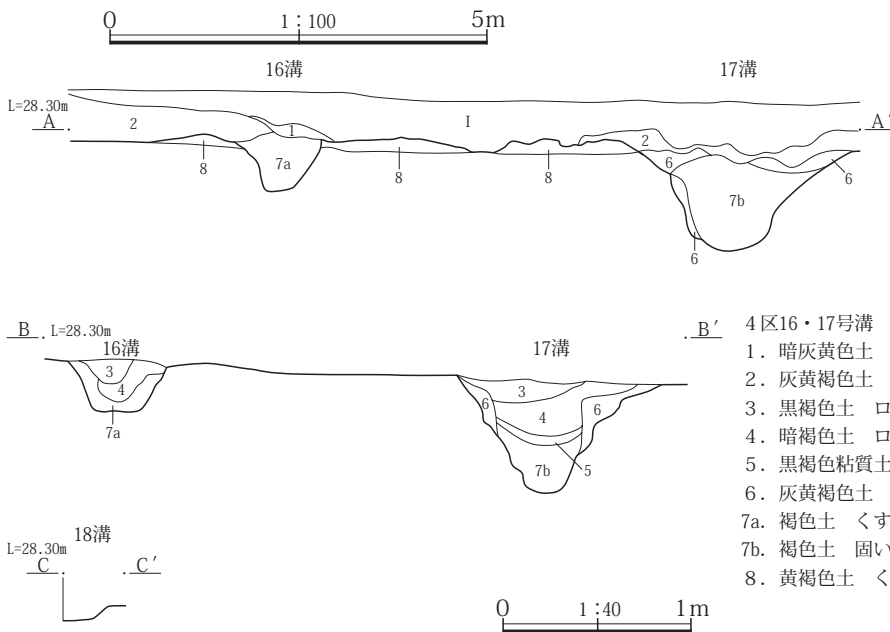


4区18号溝(第285図、PL.100-6・7)

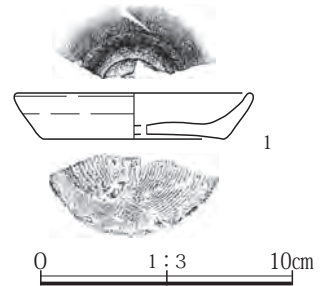
4-4区北西端にあり、調査区境に南東側の半分程度がかるうじて掛かっている。走行方位はN-48°-Eで、調査区境の方向とほぼ同じである。17号竪穴住居と重複し、本遺構が新しい。調査できた長さは7.66mである。幅は0.52m以上であり、深さは0.04～0.12mである。断面形状は浅い逆台形である。出土遺物はなく、時期は特定できないが、近接する16・17号溝と同様、近世以降の何らかの区画溝と考えられる。

4区19号溝(第286図、第56表、PL.100-8)

19号以下の溝は4-5区にある。この区は攪乱が多く入っており、溝は分断されていてかなり複雑に見える。19号溝は南部の中央にある北西-南東方向の溝である。走行方位はN-45°-Wであるが、攪乱を挟んで南側と北側でやや方位が異なる。19号竪穴住居、15号井戸と重複し、本遺構が新しい。19号溝として調査した長さは9.84mであるが、さらに北側にある27号溝は、その位置・方向から見て本溝の延長部である可能性がある。幅



4区17号溝出土遺物

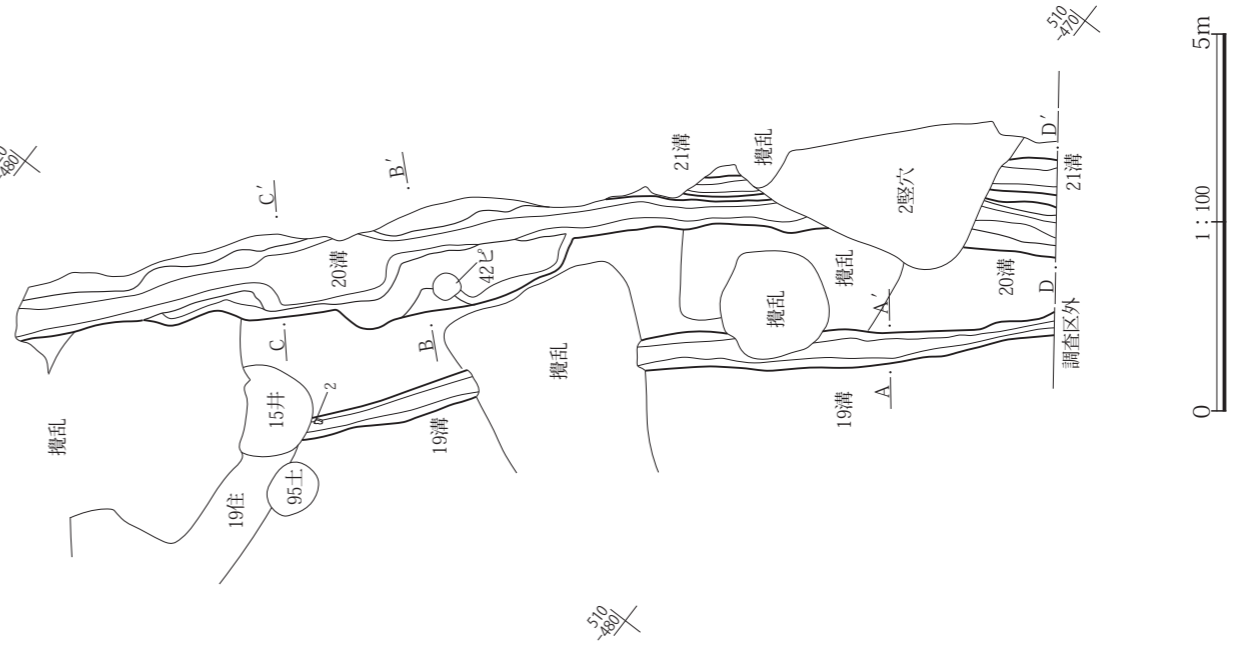
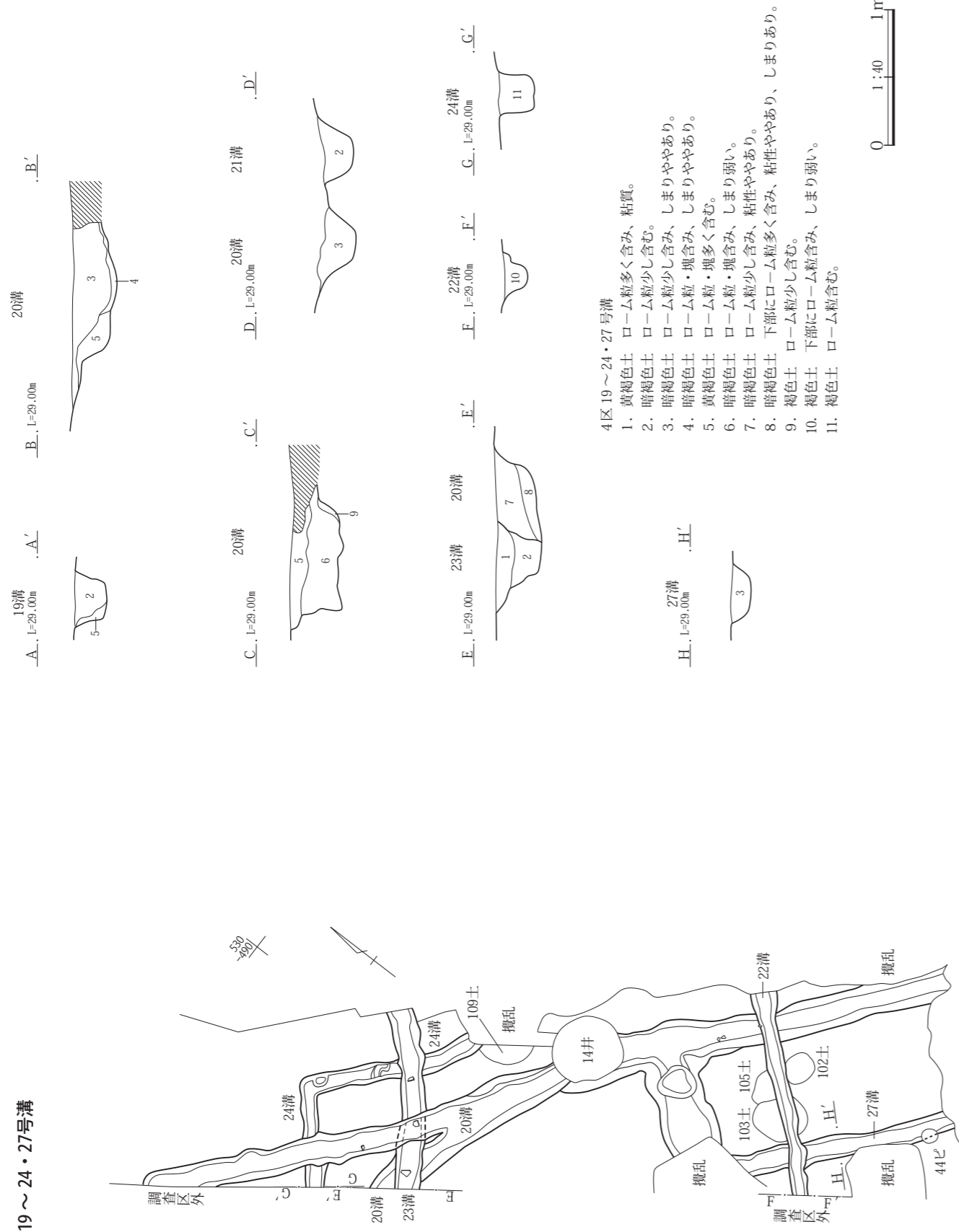


4区16・17号溝

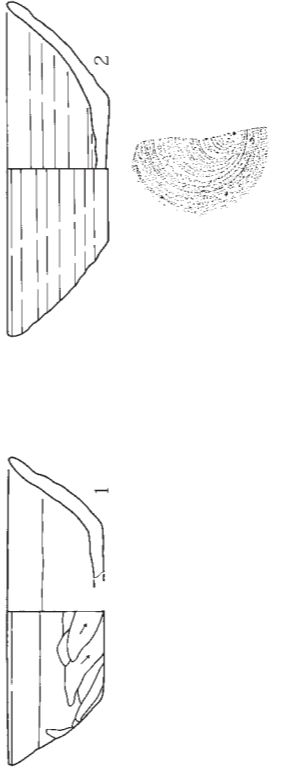
1. 暗灰黄色土 ロームきわめて多く含み、しまり強い。
2. 灰黄褐色土 ローム粒・白石軽石少し含み、しまり強い。
3. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、土質ほぼ均一、しまり強い。
4. 暗褐色土 ローム粒やや多く含み、しまりやや強い。
5. 黒褐色粘質土 土質均一、しまりやや弱い。
6. 灰黄褐色土 くすんだローム少し含み、しまりやや強い。
- 7a. 褐色土 くすんだローム・4層少し含み、しまりやや強い。
- 7b. 褐色土 固いローム塊少し含み、しまりやや弱い。
8. 黄褐色土 くすんだローム主体、しまり強い。

第285図 4区16～18号溝平断面図、17号溝出土遺物

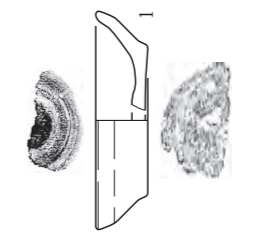
4区19～24・27号溝



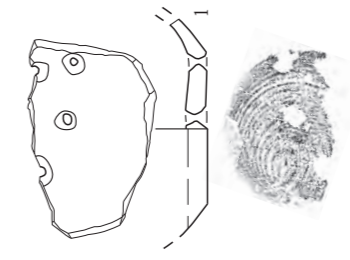
4区19号溝出土遺物



4区20号溝出土遺物



4区24号溝出土遺物



は0.23～0.52m、深さは0.18～0.27mである。断面形状は逆台形である。出土遺物は少ない。掲載したのは土師器杯1点、須恵器杯1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)5点・15g、同(大)156g、須恵器(小)2点・29gがある。遺物が少ないため時期は不明であるが、東側の現道と方向が近いので、隣接する20号溝同様、近世以降に埋没した何らかの区画溝と考えられる。

4区20号溝(第286図、第56表、PL.100-8,101-1)

4-5区の調査区北東辺に沿って延びる溝である。基本的に北西-南東方向であるが、緩やかに湾曲している。北端部分で2条に分岐している。全体の走行方位はN-53°-Wである。2号竪穴状遺構、22～24号溝、14号井戸、42号ピットと重複し、本遺構が2号竪穴状遺構、23号溝、14号井戸より古く、42号ピットより新しい。調査区内に掛かる長さは30.06mであり、両端は調査区外に延びる。幅は0.30～1.28mと広狭があり、深さは0.11～0.42mである。断面形状は逆台形の部分が多いが、底面に凹凸があって不整形のところもある。埋没土層には不連続なところがあり、少なくとも1回の掘り直しが行われているらしい。出土遺物は少ない。掲載したのは在地系土器皿1点である。小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)72g、同(大)195g、須恵器(小)64g、同(大)3点・87g、近世国産施釉陶器1点、同焼締陶器1点、同在地系土器焙烙・鍋類2点がある。近世の遺物が出土していることから、最終的に埋没したのは近世以降であろう。現道と並行しており、何らかの区画溝と考えられる。

4区21号溝(第286図、PL.100-8)

4-5区南東隅にある。19・20号溝と並行し、現道とほぼ同じ方向を取る溝である。他の遺構・攪乱に破壊され、わずかな部分が調査できたにすぎない。全体的な走行方位はN-40°-Wである。2号竪穴状遺構と重複し、本遺構が古い。調査できた長さは4.80mであり、北西端は攪乱に壊され、南東端は調査区外へと延びる。幅は0.25～0.46m、深さは0.03～0.25mである。断面形状は逆台形である。出土遺物はごく少なく、掲載できるものはない。小破片であるために掲載しなかったものにも、

土師器(大)5点・8g、須恵器(小)1点・3gがあるだけである。遺物が少ないので時期を特定できないが、現道と並行するので、隣接する20号溝と同様、近世以降に埋没した区画溝だと考えられる。

4区22号溝(第286図)

4-5区中央やや南寄りを北東-南西方向に横断する溝である。走行方位はN-42°-Eで直線的である。20・27号溝、102・103・105号土坑と重複する。本遺構が102・103・105号土坑より新しいが、20・27号溝との新旧関係は不明である。調査区内に掛かる長さは3.76mであり、北東端は攪乱で破壊され、南西端は調査区外に延びる。幅は0.22～0.49m、深さは0.08～0.30mである。断面形状は逆台形かあるいは椀形である。出土遺物はごく少なく、小破片であるために掲載しなかった土師器(大)23g、近世在地系土器皿2点があるにすぎない。近世の遺物が出土していることから、最終的に埋没したのは近世以降であろう。調査区南側の現道と方向が近く、やはりこの溝も何らかの区画溝だと考えられる。

4区23号溝(第286図、PL.101-1・2)

4-5区中央付近を北東-南西方向に横断する溝である。全体的な走行方位はN-52°-Eで、わずかに湾曲している。20・24号溝と重複し、本遺構が20号溝より新しく、24号溝との新旧関係は不明である。調査区内に掛かる長さは3.34mで、北東端は攪乱で破壊され、南西端は調査区外に延びている。幅は0.36～0.92m、深さは0.05～0.23mである。断面形状は逆台形だが、E-E'セクションを見ると1層と2層が不連続であり、ここでは少なくとも1回の掘り直しが行われているらしい。出土遺物はなく、時期を特定することはできないが、20号溝よりも新しいので、近世以降に埋没したものと思われる。22号溝と同様に南側の現道と方向が近いので、この溝も何らかの区画溝だと考えられる。

4区24号溝(第286図、第56表、PL.101-1・3,132)

4-5区中央付近にあるL字形の溝である。どちらの辺も周囲の溝と方向が近い。走行方位は、北西-南東方向の部分がN-51°-W、北東-南西方向の部分はN-50°-Eである。20・23号溝、109号土坑と重複し、本

遺構は109号土坑より新しいが、20・23号溝との新旧関係は不明である。調査できた長さは5.02mであり、南東端は攪乱で破壊され、南西端は調査区外にさらに延びている。幅は0.28～0.42m、深さは0.07～0.16mである。断面形状は、U字状あるいは逆台形である。出土遺物は少ない。掲載したのは在地系土器皿1点である。小破片であるために掲載しなかったものにも、土師器(大)4点・7g、須恵器(小)1点・10gしかない。近世の遺物を含むので埋没したのは近世以降であり、周囲の溝とはほぼ同じ方向であるため、何らかの区画溝と考えられる。

4区27号溝(第286図、PL.101-4)

4-5区中央やや南寄りにある北西-南東方向の溝である。前述の通り、19号溝の延長部である可能性が高い。走行方位はN-50°-Wであり、19号溝よりも北で西側方向に傾いている。4区22号溝、44号ピットと重複。本遺構が44号ピットより新しい。調査できた長さは4.06mであり、両端を攪乱で破壊されている。北西側の攪乱では、その北側に延長部が現れないので、ここで曲がるかあるいは途切れるのだと思われる。幅は0.36～0.44m、深さは0.05～0.14mである。断面形状は浅い逆台形である。出土遺物はなく、時期は特定できないが、周囲の溝と方向が近いので、この溝も近世以降に埋没した区画溝であると考えられる。

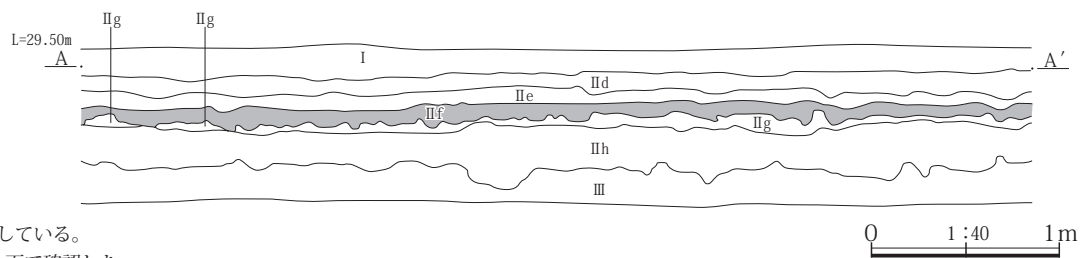
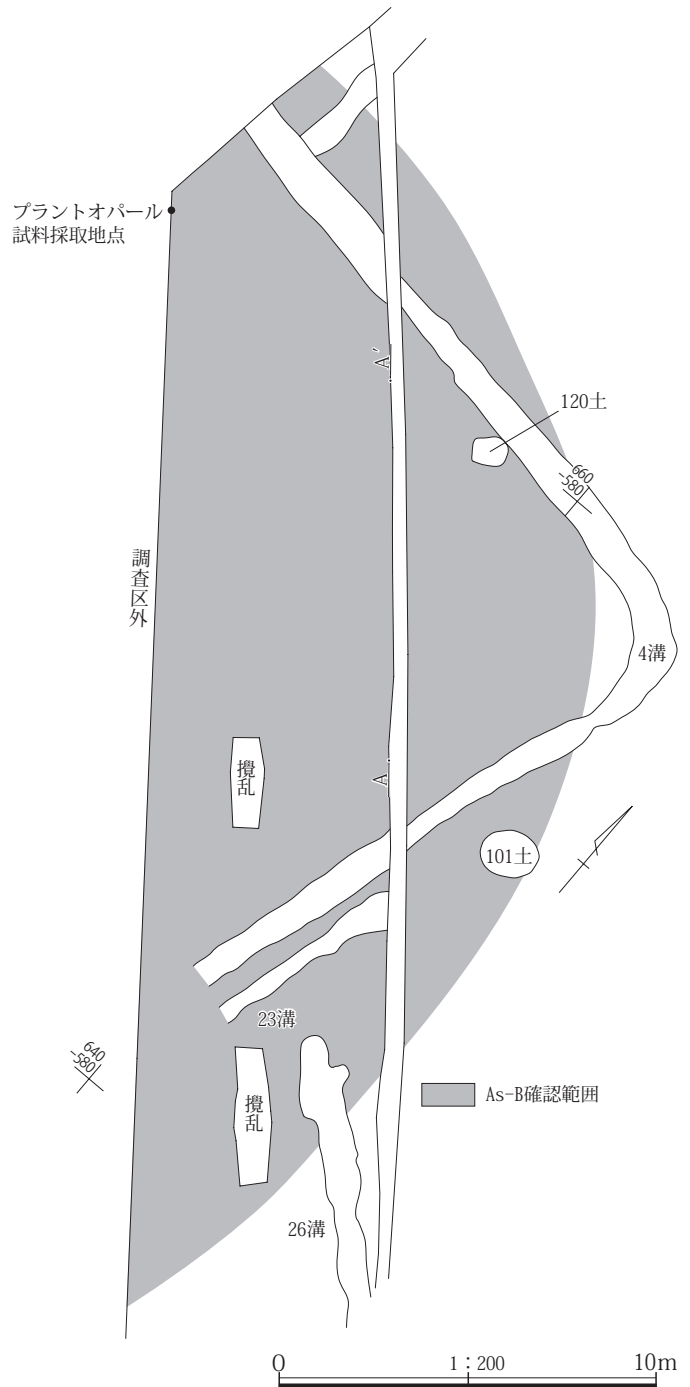
第8節 水田・畠

2区As-B下水田(第287図、PL.101-5)

2区は北西方向に向かってごく緩やかに下がる地形であるが、この北西隅付近では地表下30～40cmのところにAs-B(層厚3cm程度)の堆積が確認できた。さらにその下層には粘性のある黒色土が見られたことから、ここに水田が存在している可能性があり、そのためこの部分ではAs-B下面の調査を行った。しかし、水田面と考えられる黒色土上面を掘り広げても、畦畔のような施設は見つけることができず、水田の存在を遺構として把握することはできなかった。そこで、調査区北西隅においてプラント・オパール分析を実施したところ、イネのプラント・オパールが4,800個/gという比較的高い値で検出できたことから、この面で水田稲作が行われていたことが分析的に検証できた。分析の詳細は第4章第2節を参照していただきたい。As-Bが残っていた範囲は約230㎡である。

2区1号サク状遺構(第288図、PL.101-6・7)

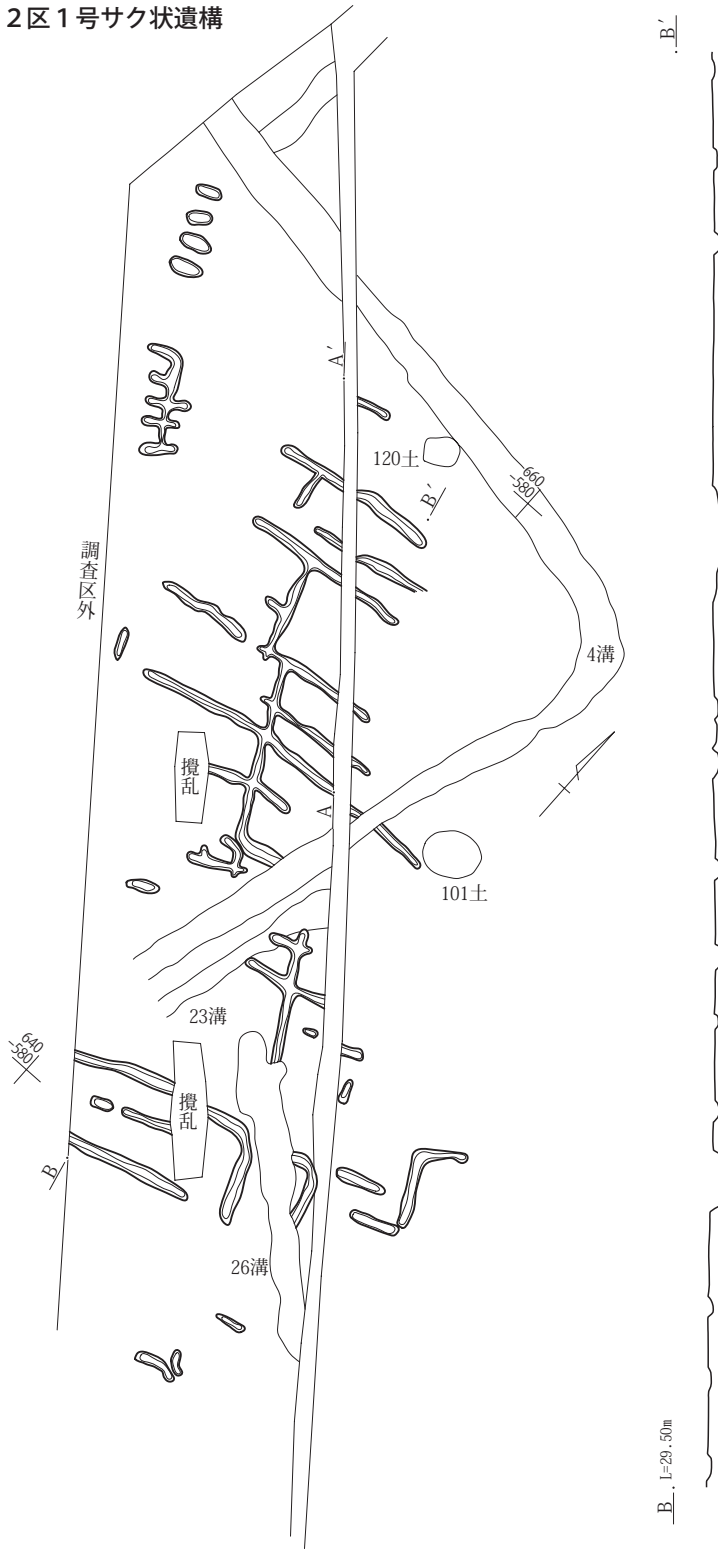
As-B下水田のさらに下層では、ローム漸移層(基本土層のⅢ層・14ページ参照)の上面において畠のサク状の溝群を確認した。幅20～30cm、深さ3～10cm、長さは最長のもので9.0mの細く浅い溝が、斜格子状に交わっているものである。溝は断続的になっている部分も多いので、明確に数えることはできないが、北西にあるごく短いものを除いて、東西方向の溝が17条、それと斜めに交わる方向の溝が8条程度見られる。残りのいいところでは、東西方向の溝が0.60～1.00m離れて並行している。この面で見えるサク状遺構はいわゆる耕作痕であり、



As-BはⅡf層の下層に堆積している。
1号サク状遺構はⅢ層の上面で確認した。

第287図 2区As-B確認範囲、断面図

2区1号サク状遺構



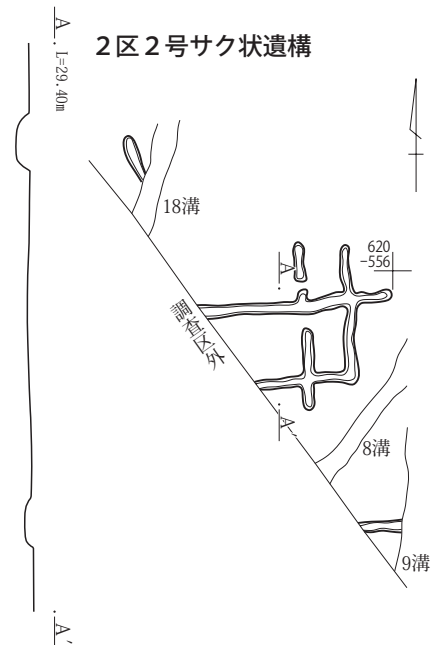
平面図
0 1:200 10m

1号サク状遺構断面図
0 1:100 5m

耕作面は本来この上層にあるはずである。遺物の出土もないので時期は不明であり、あるいは複数の時期のものが混じっていることも考えられる。その性格も、畠のサクである可能性と共に、小区画水田の畦畔脇の掘り込みの可能性も考えられるであろう。

2区2号サク状遺構(第288図)

2区の中央西端にある。確認できたのはわずかな面積であり、東西方向に3本、南北方向に2本の溝が交差している。形態は1号サク状遺構とよく似ている。別に18号溝の西側にも方向の違う溝が見えるが、方向が異なるので、別の遺構だと思われる。幅20～40cm、深さ1～8cmの浅い溝であり、長さは最長でも5.15mでしかなく、西側は調査区外に延びている。1号サク状遺構同様、畠のサクか、小区画水田の畦畔脇の掘り込みと思われ、やはり複数の時期のものが重複している可能性は否定できない。



2区2号サク状遺構

2号サク状遺構断面図
0 1:40 1m

第288図 2区1・2号サク状遺構平断面図

4区1号畠(第289図、PL.101-8)

4区では3ヶ所の畠を調査した。全て4-1区にある。細長い溝が並行する形態であり、溝はやはり「サク」と呼ぶべきものと思われるが、2区のサク状遺構の格子状とは形態が異なり、明らかに畠の畝(ウネ)に伴うものと思われるので、これらの遺構については「サク状遺構」ではなく「畠」と呼ぶことにした。

1号畠は4-1区南側にある。サクの方位はN-25°-Eである。1号井戸、18・19号土坑と重複し、本遺構が18号土坑より古く、1号井戸、19号土坑より新しい。サクは長さ26m、幅14mの範囲にみられ、断続的なので明確に数えることは困難だが、全体で12列分前後が確認できる。確認面では幅30cm前後、深さ10~20cm程度である。最も残りのいいところでは幅5m(外側のサクの心-心距離を計測)の間に6本あるので、83cmに1本の間隔で掘られていることになる。掲載できる出土遺物はなく、小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)2点・10g、同(大)4点・34g、須恵器(小)1点・4g、同(大)2点・76gがある。時期は特定できないが、次の2号畠と同様に近世~近代初頭のものである可能性が高いのではないだろうか。

4区2号畠(第290図、第56表、PL.102-1,132)

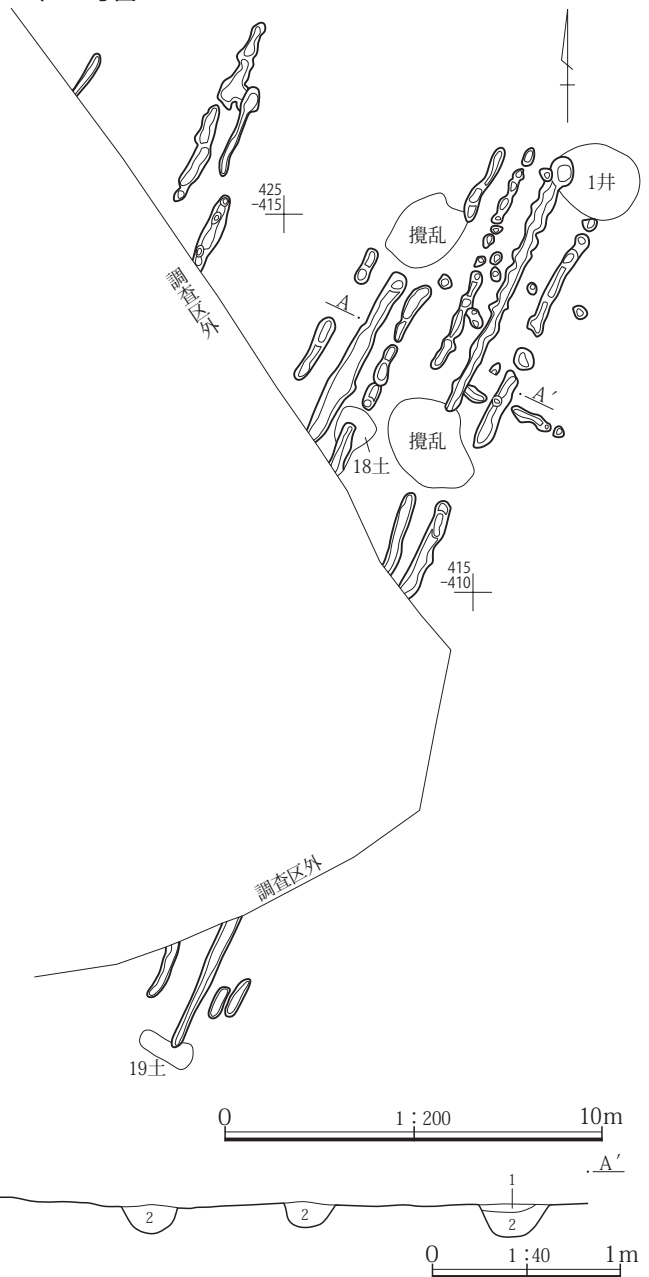
4-1区中央、1号畠の北西側にある。1号畠とは方位がほぼ90°異なり、N-66°-Wである。本遺構と直接重複するのは5号竪穴住居、53号土坑であり、本遺構が新しい。南に同方向の短い溝が2本あり、それは1号畠と重複しているが、これが2号畠と一連のものであるかは不明である。長さ18m、幅11mの範囲に11列分が確認できるが、断続的になっている部分も多く、中央部は不明瞭になっている。各溝の間隔を心-心で計測すると0.50~1.00mとばらついているので、2時期のものが重複している可能性もある。出土遺物は寛永通寶1点を掲載した。その他に小破片であるために掲載しなかったものには、土師器(小)44g、同(大)2点・20g、須恵

器(小)2点・5g、同(大)1点・16g、近世国産施釉陶器1点、十能瓦1点がある。十能瓦が出土することから、時期は近世末~近代初頭以降と思われる。

4区3号畠(第290図、PL.102-2)

4-1区北側にある。方位はN-63°-Wで2号畠に近い。その範囲内には多くの遺構が見られるが、直接重複するのは31・36・43号土坑と10号溝であり、本遺構が新しい。残りはきわめて悪く、長さ14m、幅12.5mの範囲にサクが断続的に残る程度である。全体に12か13列が

4区1号畠



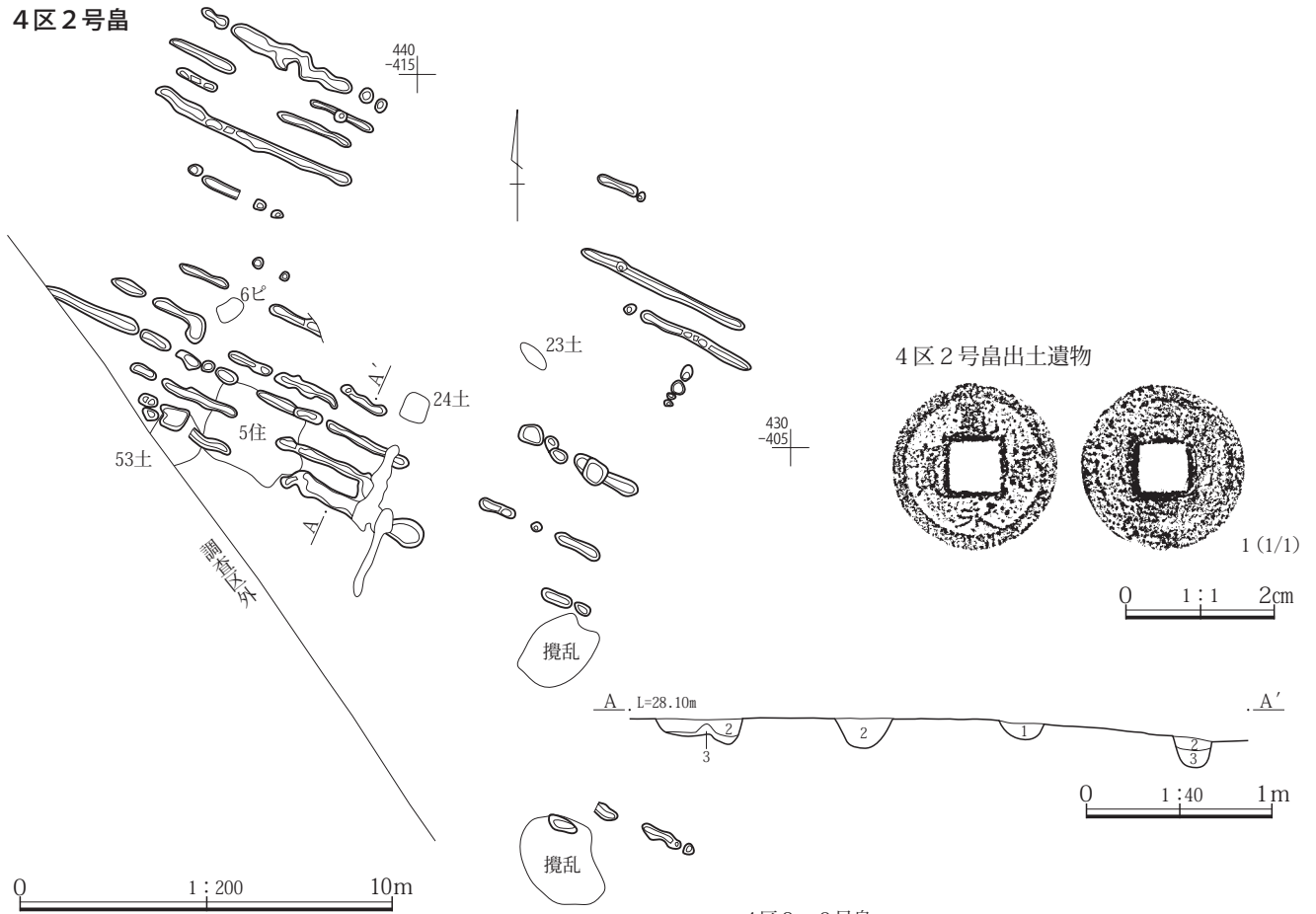
A-A', L=28.10m

4区1号畠

- 1. 褐灰色土 ローム粒・小塊ごくわずかに含む。
- 2. ローム粒・塊の混土。

第289図 4区1号畠平面図

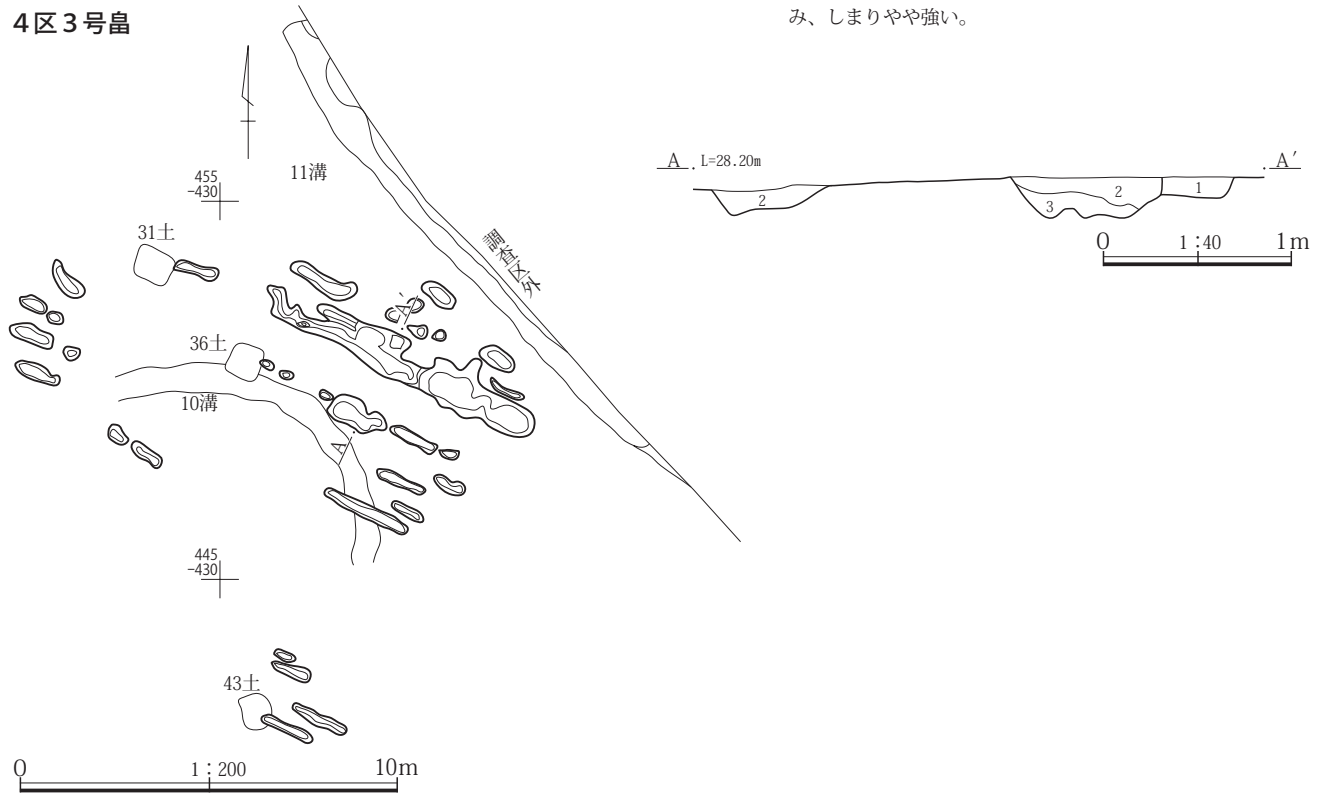
4区2号畠



4区2・3号畠

1. 褐灰色土 ローム粒・小塊ごくわずかに含む。
2. ローム粒・塊の混土。
3. 黄褐色土 1層主体にローム粒・塊きわめて多く含み、しまりやや強い。

4区3号畠



第290図 4区2・3号畠平断面図、2号畠出土遺物

確認できるが、空白部分も多い。溝の間隔を心一心で計測すると0.3～1.2mとばらついているので、複数時期のものが重複しているのであろう。溝には幅が広いものが見られるが、これも複数時期のものが重複しているためと思われる。出土遺物がないため時期は特定できないが、2号畠とほぼ同一の方位を取るの、やはり近世～近代初頭のものであると思われる。

第9節 遺構外出土の遺物

遺構外の表土や攪乱などからも多くの遺物が出土している。ここではそれらのうち、旧石器時代、縄文時代以外の遺物を取り上げる。

1区では土師器杯1点、瀬戸・美濃陶器灯火受皿1点、鉄釘1点を掲載した。その他に小破片として、土師器(小)556g、同(中)79g、同(大)3,760g、須恵器(小)935g、同(大)604g、近世の国産磁器1点、同施釉陶器1点が出土している。

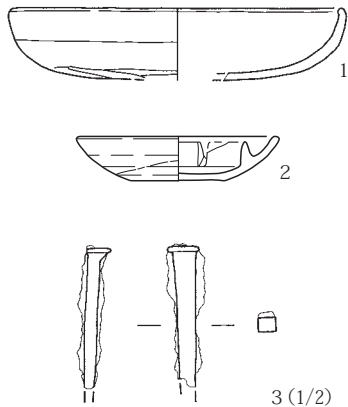
2区では土師器高坏1点、須恵器杯1点、火打金1点、用途不明の鉄製品1点を掲載した。その他に小破片とし

て、土師器(小)922g、同(中)39g、同(大)5,733g、須恵器(小)1,796g、同(大)2,313g、中世国産焼締陶器2点、同在地系土器鉢・鍋類1点、近世の国産磁器6点、同国産施釉陶器13点、同在地系土器焙烙・鍋類2点が出土している。

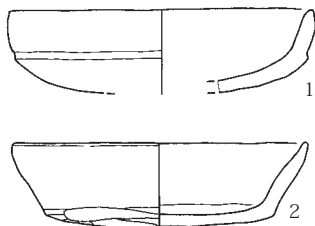
3区では土師器杯2点を掲載した。その他に小破片として、土師器(小)125g、同(中)22g、同(大)1,007g、須恵器(小)109g、同(大)200gがある。

4区には遺物が多数出土した風倒木があり、それは別に扱う。それ以外の場所から出土した遺物は、土師器甕1点、土錘4点、砥石2点を掲載した。その他に小破片として、土師器(小)470g、同(大)3,881g、須恵器(小)709g、同(大)897g、灰釉陶器(小)10gがある。風倒木は4-1区南部にあり(付図4参照、PL.102-3・4)、底からは土師器が数多く出土している。掲載したのは土師器杯19点、同鉢1点であるが、その他に小破片として土師器(小)1,067g、同(大)461gが出土している。これらは7C前半のものと思われ、あるいは木の根元で祭祀行為が行われていたのではないかとと思われる。

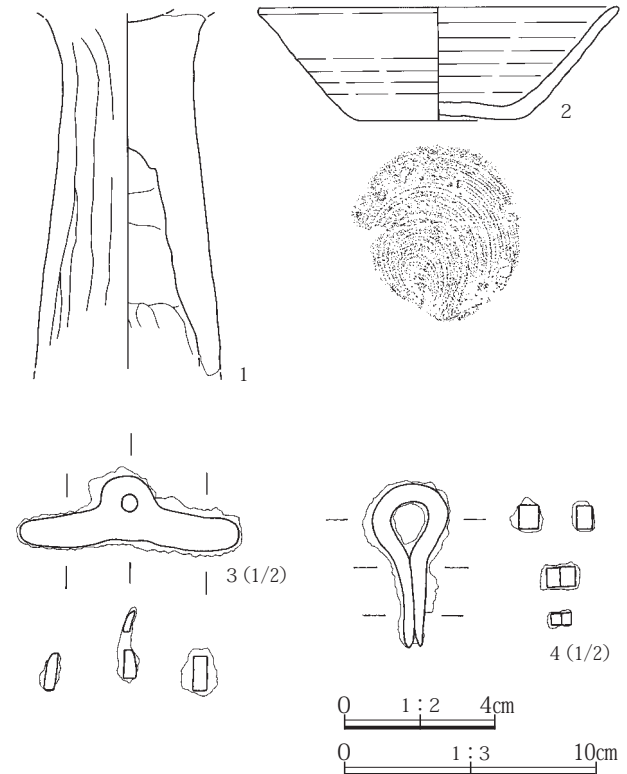
1区遺構外遺物



3区遺構外遺物

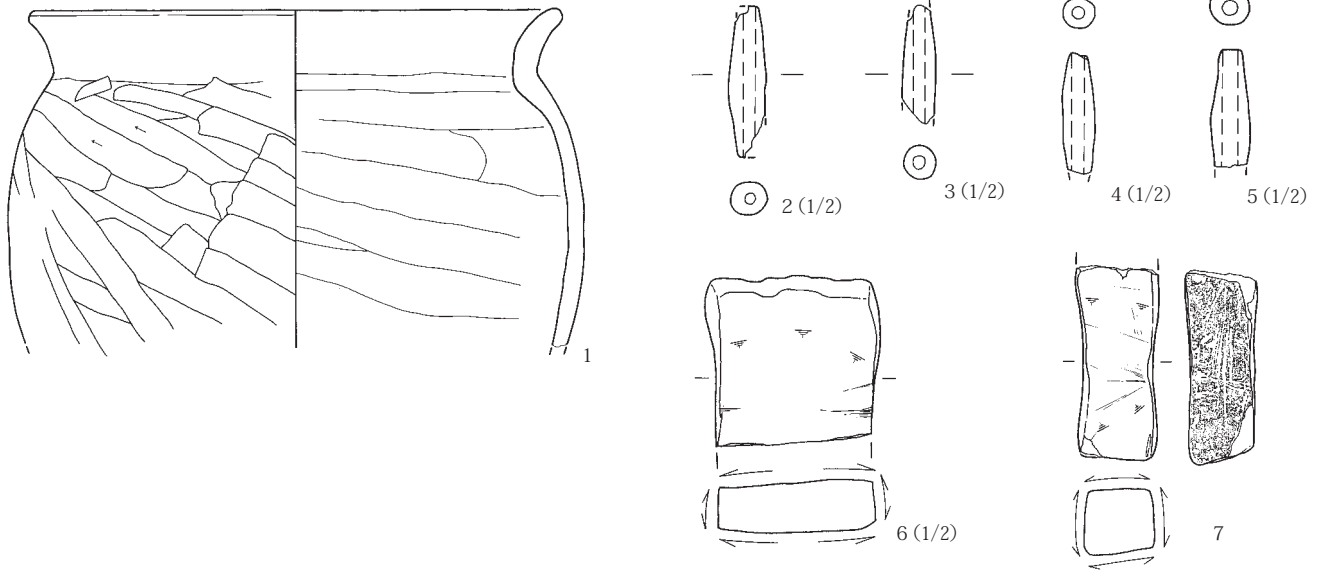


2区遺構外遺物

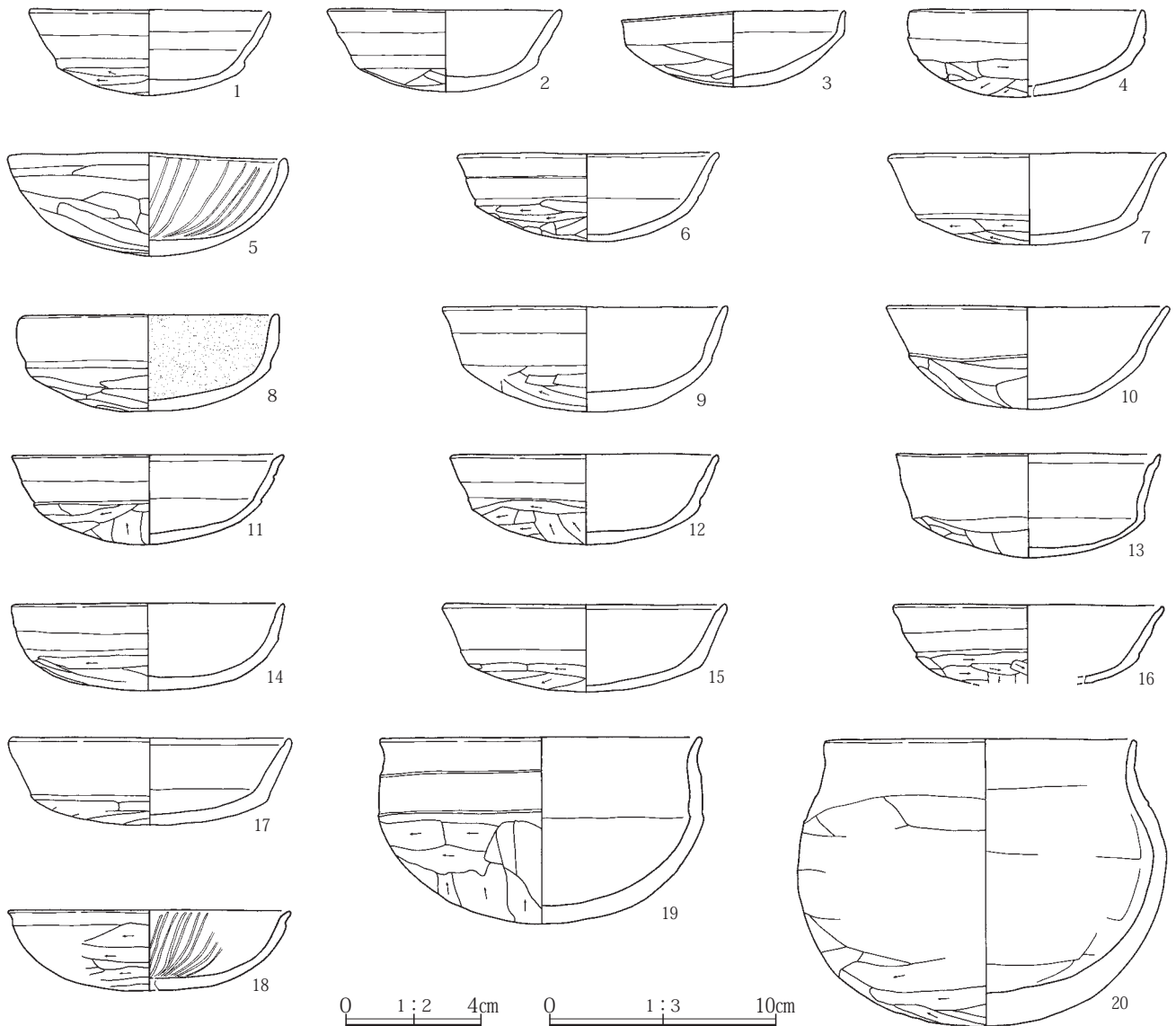


第291図 遺構外出土の遺物(1) 1～3区

4区遺構外遺物



4区風倒木



第292図 遺構外出土の遺物(2) 4区・4区風倒木

第10節 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構として確認できたのは3区で見つかった2基の土坑のみである。

3区11号土坑(第293図、第58表、PL.102-5,133)

3-1区北部にある。2~4号溝と重複し、本遺構が古い。長さ2.62m、幅1.63mの大きな不整形の土坑で、深さは最も深いところで0.94mである。用途を推測させるような痕跡はない。縄文土器は埋土の中から小破片になって出土した。特に多い層位はなく、各層位から出土している。接合作業後の出土点数は7点であり、ここではそのうち2点を掲載した。いずれも胎土に繊維を含み、縄文時代前期中葉のもので、有尾式に分類できる可能性が強いものと思われる。

3区20号土坑(第293図、第58表、PL.102-6,133)

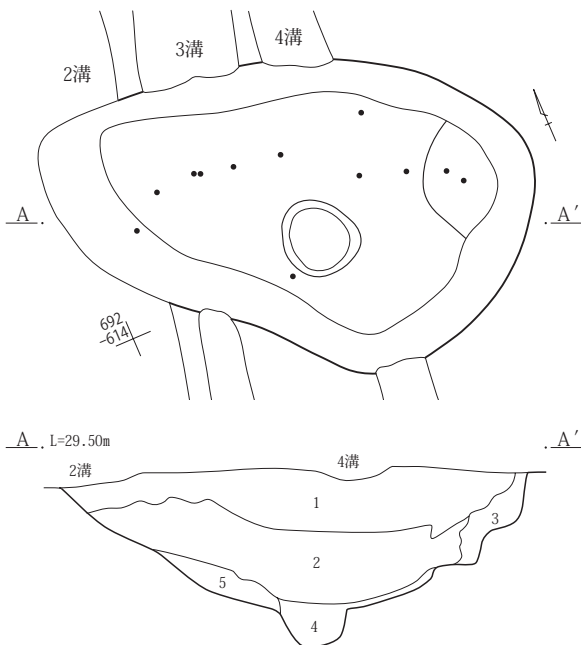
3-3区西側中央にある。重複遺構はない。長径0.68m、短径0.57mの楕円形で、深さは0.06mとごく浅いので用途は不明である。埋土が黄色土で、縄文土器1点の

みが出土したことから縄文時代の遺構と判断した。出土した縄文土器は掲載したものだけで、胎土に繊維を含む前期中葉のものであり、有尾式に分類できる可能性が高いものである。

その他、遺構外、あるいは新しい時期の遺構に混入して縄文土器が出土している。ここではそのうち18点を掲載した。それぞれの型式・時期は、1~3が有尾式、4~14が前期中葉、15が諸磯a式、16が加曾利E3式、17が称名寺II式、18が堀之内I式である。これ以外に小破片であるために掲載しなかったものがある。胎土に繊維を含む前期の土器は、1区で16点・100g、2区で16点・290g、3区で75点・787gが出土し、中期のものは1区で8点・110g、2区で1点・3g、3区で8点・120gが出土している。全体としては前期中葉のものが多く、出土位置は3区が最も多い。おそらく3区の近くに縄文時代前期中葉の遺跡があり、今回調査したのはその縁辺部に当たるのではないだろうか。

石器も数は少ないが出土している。ここでは石鏃2点(1区と2区)、凹石2点(2点とも2区)、磨石1点(2区)の計5点を掲載した。

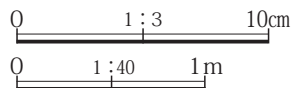
3区11号土坑



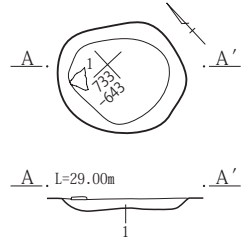
3区11号土坑

1. 黄褐色土 鉄分沈着。
2. 暗灰黄色土 くすんだローム塊下位に斑を含む。
3. 黄褐色土 くすんだローム主体。
4. 灰オリーブ色土 ローム大塊きわめて多く斑を含む。
5. 暗灰黄色土 くすんだローム含む。

3区11号土坑出土遺物



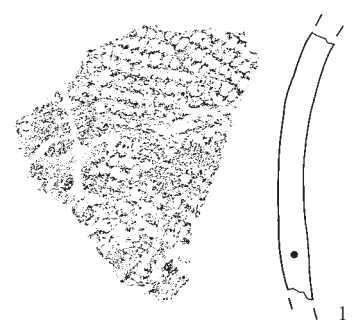
3区20号土坑



3区20号土坑

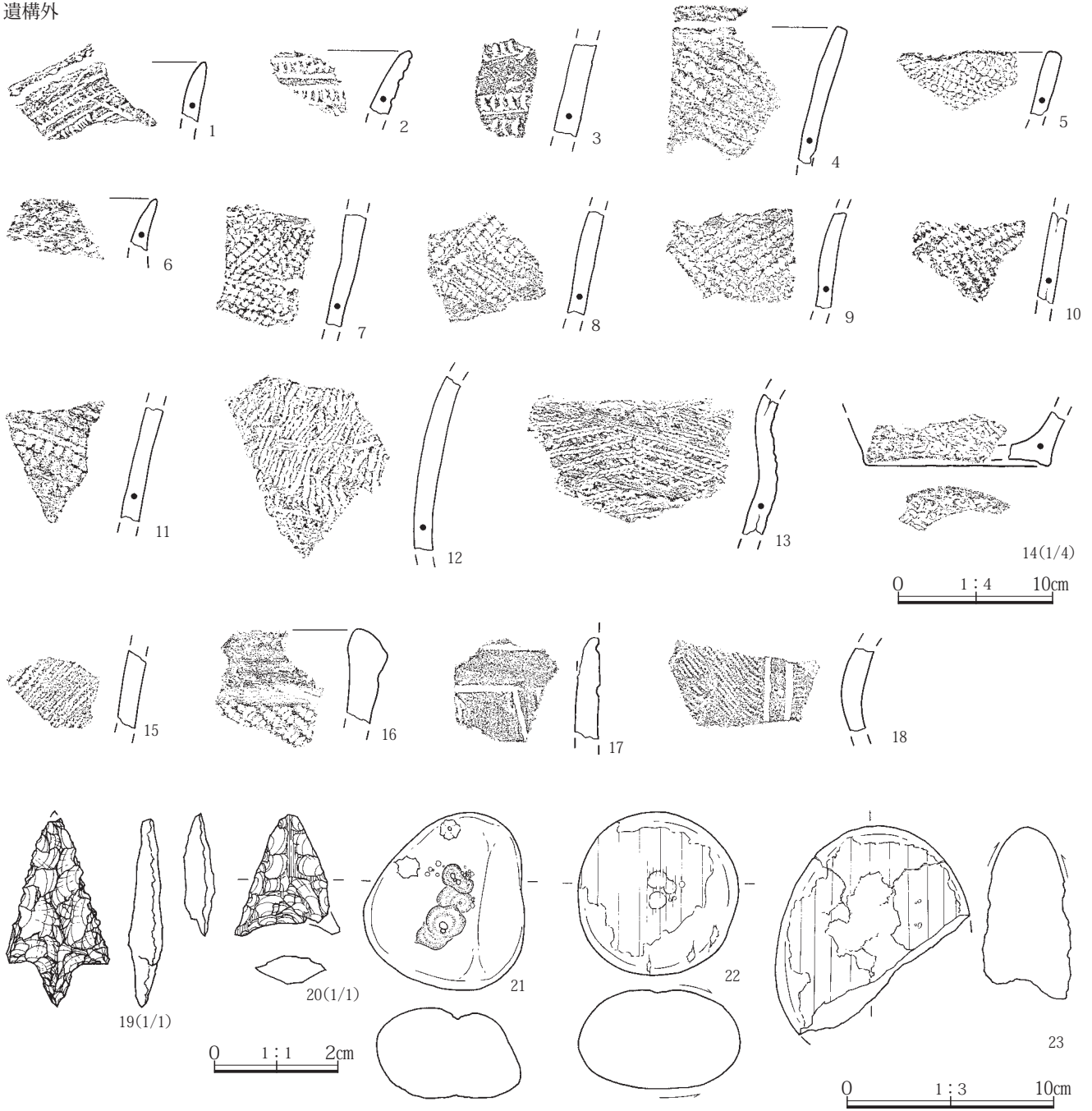
1. 黄色土 やや粘性あり。マンガン沈着。

3区20号土坑出土遺物



第293図 3区11・20号土坑平断面図、出土遺物

遺構外



第294図 遺構外出土の縄文時代遺物

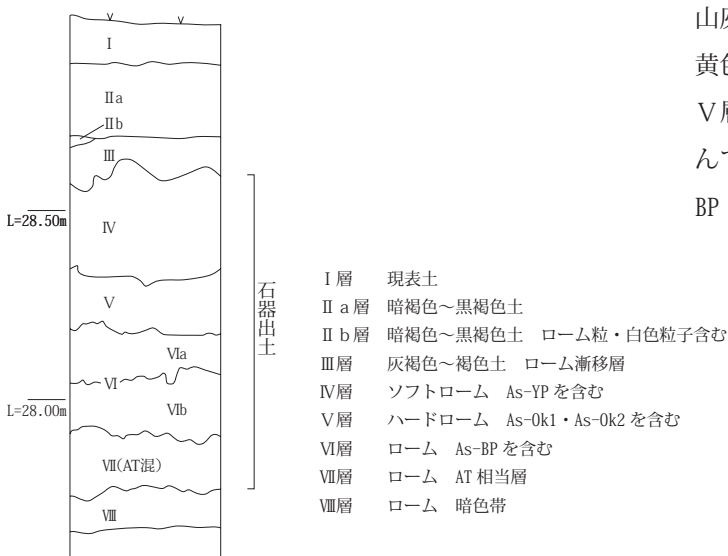
第11節 旧石器時代の調査

1. 概要

ローム層上面の縄文時代以降の遺構調査が終了した後、調査区内に2m×3mの調査坑を設定し旧石器時代の調査を行った。石器が出土した場合には調査坑を拡張し石器群の範囲を把握するように努めた。

旧石器時代の遺物は1区で446点、3区で2点、4区で53点出土し、2区では確認されなかった。1区では調査区北西部で2か所の石器集中地点(ブロック)が確認された。後述するが、接合関係と出土層位、平面分布の状況から、2か所のブロックおよびブロック外の石器は同時期と判断した。3区では2か所の調査坑から1点ずつ石器が出土した。拡張して石器群の広がりを確認したが、それ以外に石器の出土はなかった。4区では6号調査坑で48点と比較的多く出土したほかは、2号・4号・11号・13号調査坑でそれぞれ1～2点出土したのみであった。点数上まとまりをもつ1区および4区6号調査坑は、層位的に異なるものと考えられ、今回の発掘調査で少なくとも2つの文化層が確認できた。

発掘調査では、土壌のフルイがけによる微小遺物の回収作業を実施していないため、石器はすべて目視によって取り上げられたものである。



第295図 1区土層柱状図

整理作業では、主体となる黒曜石の特徴から母岩分類を行い、接合作業を実施した。竪穴住居内から出土したものの、形状から明らかに旧石器時代の石器と判断できるナイフ形石器1点(第298図449)についてもここで取り扱った。

器種分類にあたり、一般的な石器分類基準に従っているが、特記すべき分類について以下に挙げる。

尖頭状石器：剥片または石刃の縁辺に急斜度の二次加工を施し尖頭部を作り出した石器。

縦長剥片：剥片のうち長さが幅の1.5倍以上で、背面に左右縁辺に平行する稜線をもつもの。折れにより長さが幅の1.5倍未満だが、縦長であったと推定されるものを含む。

剥片・碎片：最大長20mm以上を剥片、最大長20mm未満のものを碎片と便宜的に分けた。

以下、調査区ごとに調査成果を記す。

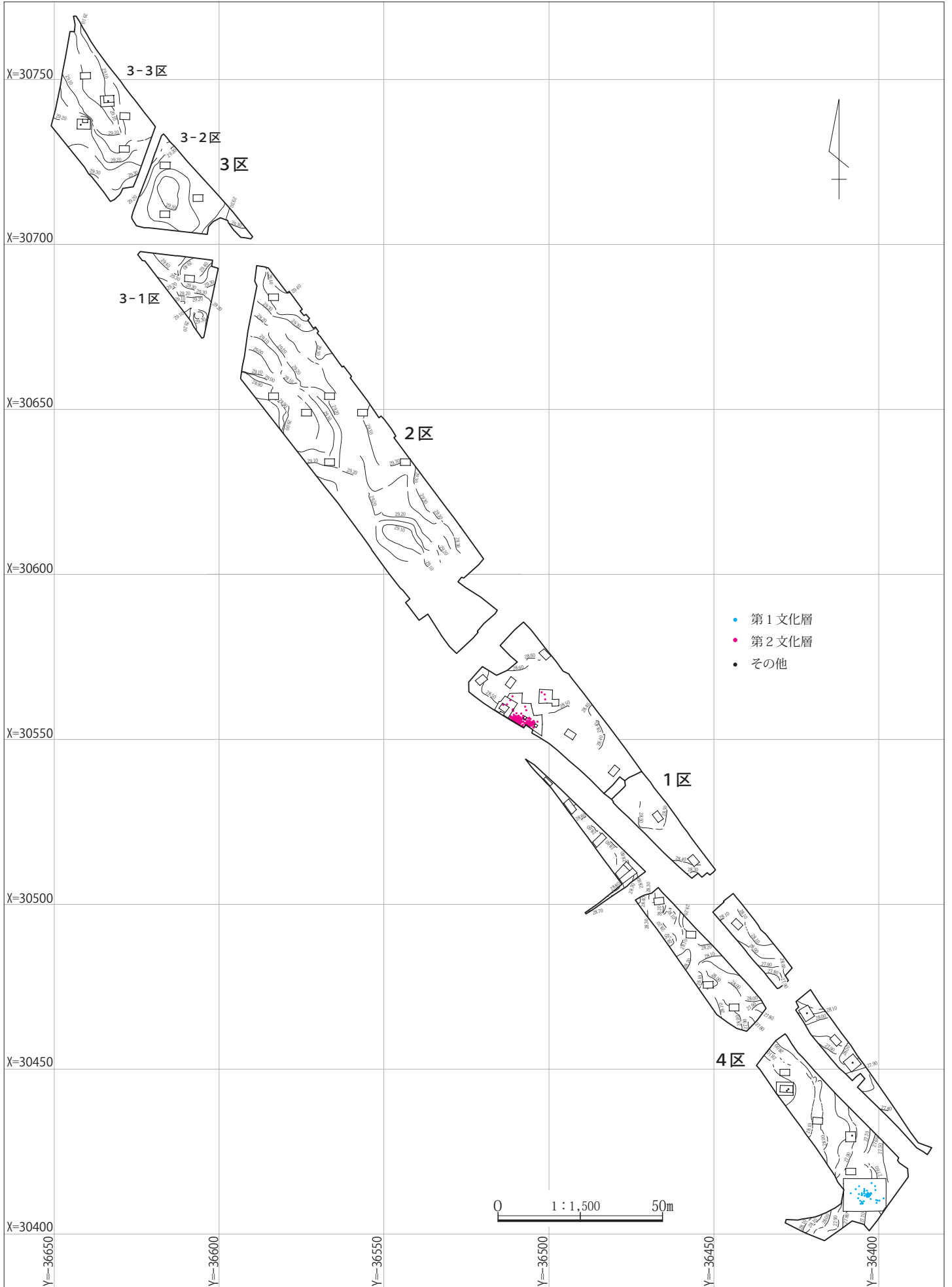
2. 1区の調査(第297図)

1区北西部で446点の石器が出土した。これらの石器群は隣接する2か所の石器集中地点からなり、このうち西側の石器集中地点を第1ブロック、東側を第2ブロックと呼称する。第1および第2ブロックの石器群は同一層準の出土で、ブロック間の接合が複数存在することから、これらの石器群は同時期と判断し一括して取り扱うこととする。

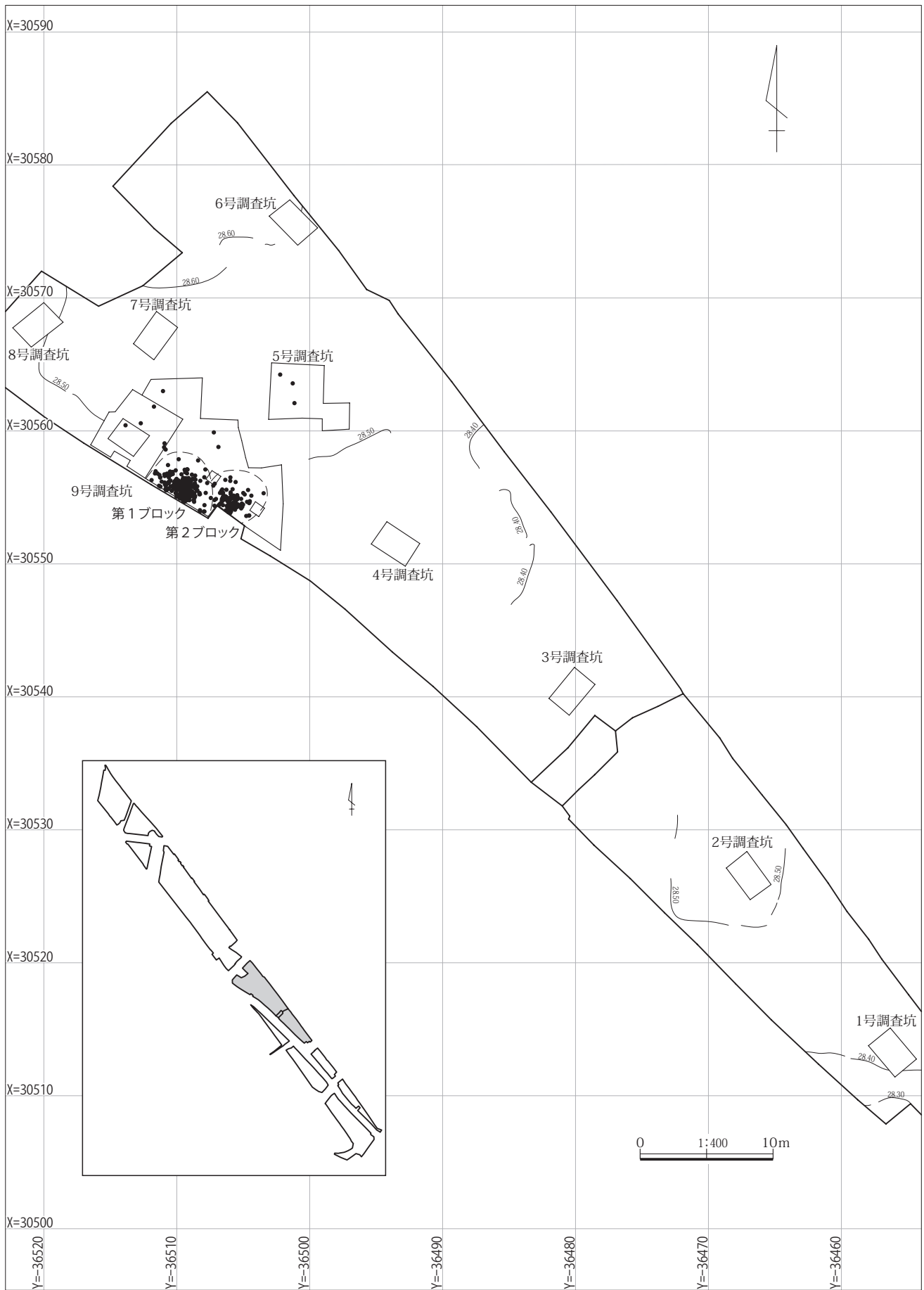
1区出土石器群の層位別点数を第13表に示す。出土層位はIV～VII層で、最も出土が多いのはVIb層である。火山灰分析によれば(第4章第1節参照)、IV層に浅間板鼻黄色軽石(As-YP)を含んでいる可能性があるとしている。V層には浅間大窪沢第1・第2軽石(As-0k1・0k2)を含んでいるという。また、VI層で浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)を検出している。以上より、1区の石器群は

第13表 1区層位別出土点数

層位	点数
IV	7
V	16
VI	1
VIa	150
VIb	168
VII	103
遺構内	1
合計	446



第296図 石器分布図



第297図 1区調査坑配置図

層位的にはAs-BPが検出されたVI層中に生活面があるものと推定される。

出土石器はナイフ形石器、尖頭状石器、彫刻刀形石器、二次加工ある剥片、縦長剥片、剥片、碎片である(第14表)。ツールではナイフ形石器が12点と比較的まとまっているものの、ほかのツールは少数で、エンドスクレイパーは認められない。また、縦長剥片・剥片・碎片は合計で430点と全体の96%以上を占めているが、石核は出土しなかった。

石器石材については、黒曜石が438点で全体の98.2%と主体的である(第14表)。ついで、チャートが3点(0.8%)で、砂岩、溶結凝灰岩、変玄武岩、流紋岩、変質安山岩が1点ずつ出土している。主要石材の黒曜石は群馬県内では産出しない、いわゆる遠隔地石材である。チャートは遺跡付近の渡良瀬川で得ることができる在地石材である。

(1) 出土石器

ナイフ形石器(第298図-354・350・376・444・48・67・101・251・381・5・8・449, PL.134)12点出土。チャート製の449を除き、ほかの11点はすべて黒曜石製である。二次加工の部位から、二側縁加工、一側縁加工、端部加工の3種類に分けられる。このうち、二側縁加工(354・350・376・444・48・67・101・251・381)が9点と最も多く、一側縁加工(5・8)は2点、端部加工(449)は1点である。縦長剥片を素材とし、バルブが基部と一致するものとししないものの両方が認められる。

尖頭状石器(第298図-20, PL.134)1点出土。黒曜石製。素材の用い方や背潰し状の二次加工はナイフ形石器と同じだが、ナイフ形石器の刃部に相当する部分をもたず、尖頭部を作り出していることから、尖頭状石器とした。

彫刻刀形石器(第298図-311, PL.134,)1点出土。黒曜石製。定型的ではないものの、小形剥片の一端を打撃し

彫刻刀面を作出している。彫刻刀面は腹面側に傾き、彫刻刀面と背面とのなす角度は鋭角である。

二次加工ある剥片(第298図-163・229, PL.134)2点出土。ともに黒曜石製。163は縦長剥片を素材とし、ウートラパッセとなっている末端部に二次加工を施している。229は接合資料1の一方で、下部の折れ面で接合している。剥片の右側縁に二次加工が施されている。

縦長剥片(第298図-332・162・161, PL.134, 第299図-44・108・405・442・143・352・340・18・357・28・62・392・157・272・250・2, PL.135)22点出土。チャート製の2を除き、ほかはすべて黒曜石製である。完形品は少ないが、頭部が残存しているのを見ると打面調整を行っているものが多い。背面構成では、主要剥離面と同一加撃方向の剥離痕が多いが、反対方向(下方向)からの剥離痕も認められる。

剥片(第299図-1・160・52・117+192, 第300図, PL.135)55点出土。チャート製の1を除き、ほかはすべて黒曜石製である。剥片は小形のものが多く、打面は調整打面および単一の剥離面が多い。160は比較的大形で、打面再生剥片である。作業面を打面として剥離している。

碎片(第301図-409・443・135・269・201・113・415, PL.135)353点出土。このうち黒曜石製が348点、砂岩1点、溶結凝灰岩1点、変玄武岩1点、流紋岩1点、変質安山岩1点である。第1ブロックで261点、第2ブロックで86点、ブロック外が6点と第1ブロックの方が第2ブロックより点数上3倍の出土である。剥離時に破碎した小塊が多く、ブランディングチップは認められなかった。

(2) 接合資料

母岩分類の後、接合作業を実施した。接合資料はすべて黒曜石製である。接合資料は1～15まで番号を付したものの、折れ面同士の接合や剥片または碎片が2～3点接合するものが多く、石核および原石の形状がわかるような資料はなかった。

第14表 1区石材別器種点数表

	黒曜石	チャート	砂岩	溶結凝灰岩	変玄武岩	流紋岩	変質安山岩	合計	%
ナイフ形石器	11	1						12	2.7
尖頭状石器	1							1	0.2
彫刻刀形石器	1							1	0.2
二次加工ある剥片	2							2	0.4
縦長剥片	21	1						22	4.9
剥片	54	1						55	12.4
碎片	348		1	1	1	1	1	353	79.2
合計	438	3	1	1	1	1	1	446	100
%	98.2	0.8	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	100	

第15表 1区ブロック別器種点数表

	第1ブロック	第2ブロック	ブロック外	遺構内	合計
ナイフ形石器	3	8		1	12
尖頭状石器		1			1
彫刻刀形石器	1				1
二次加工ある剥片	2				2
縦長剥片	13	7	2		22
剥片	41	10	4		55
碎片	261	86	6		353
合計	321	112	12	1	446
%	72.0	25.1	2.7	0.2	100

接合資料1 (第301図、PL.136)二次加工ある剥片(229) 1点と剥片(241) 1点が接合した。一見折れ面同士の接合に見えるが、両者を剥離した際に同時割れを起こした可能性が高い。

接合資料2 (第301図、PL.136)剥片(14) 1点と碎片(125) 1点が接合。折れ面同士の接合である。14は第2ブロック出土で、125は第1ブロックから出土し、ブロック間で接合した。

接合資料3 (第301図、PL.136)剥片2点(15・23)と碎片1点(409)が接合。そのうち剥片2点は折れ面同士の接合で、1枚の剥片となった。409を剥離した後、23+15を剥離。409と15+23は打面が同一である。

接合資料4 (第301図、PL.136)剥片1点(69)と碎片2点(252・174)が接合。3点が折れ面同士で接合し、1枚の剥片となった。

接合資料5 (PL.136)碎片同士の接合のため、写真のみ掲載した。2点の碎片(221・281)が折れ面で接合した。

接合資料6 (第301図、PL.136)碎片(135)、剥片(320)、縦長剥片(357)が各1点接合。剥離の順番は135→320→357である。135のみ下方向からの打撃であるが、320と357は上方向から剥離している。135と320は第1ブロック、357は第2ブロックから出土し、ブロック間で接合した。

接合資料7 (PL.136)写真のみ掲載。剥片1点(379)と碎片1点(408)が接合。剥離時に破碎した小塊同士が接合した。

接合資料8 (第301図、PL.136)剥片2点(416・46)が接合。416と46は打撃方向が異なっている。

接合資料9 (第302図、PL.136)剥片1点(234)と碎片2点(269・201)が接合。剥離の状況が不明であるが、加撃時に破碎したものと推定される。

接合資料10 (第302図、PL.136)剥片1点(75)と碎片1点(113)が接合。剥離の順番は113→75で、2点とも加撃方向は同一である。

接合資料11 (PL.136)写真のみ掲載した。剥片1点(232)と碎片1点(253)が接合。剥離順は253→232で、打撃方向はほぼ同一である。

接合資料12 (第302図、PL.136)剥片2点(117・192)が折れ面同士接合し1枚の剥片となった。

接合資料13 (PL.136)写真のみ掲載した。碎片2点(51・139)が接合。剥離の順番は51→139で、打撃方向は同一

である。ともに下半部欠損。

接合資料14 (第302図、PL.136)剥片(267) 1点と碎片(443) 1点が接合。剥離の順番は443→267で、打撃方向は同じである。

接合資料15 (第302図、PL.136)縦長剥片2点(157・62)が接合。剥離の順序は157→62で、ともに上方向から加撃した。背面の観察から、縦長剥片を連続的に剥離したと推定される。62と157は約8.3m離れて接合した。

(3)石器の分布

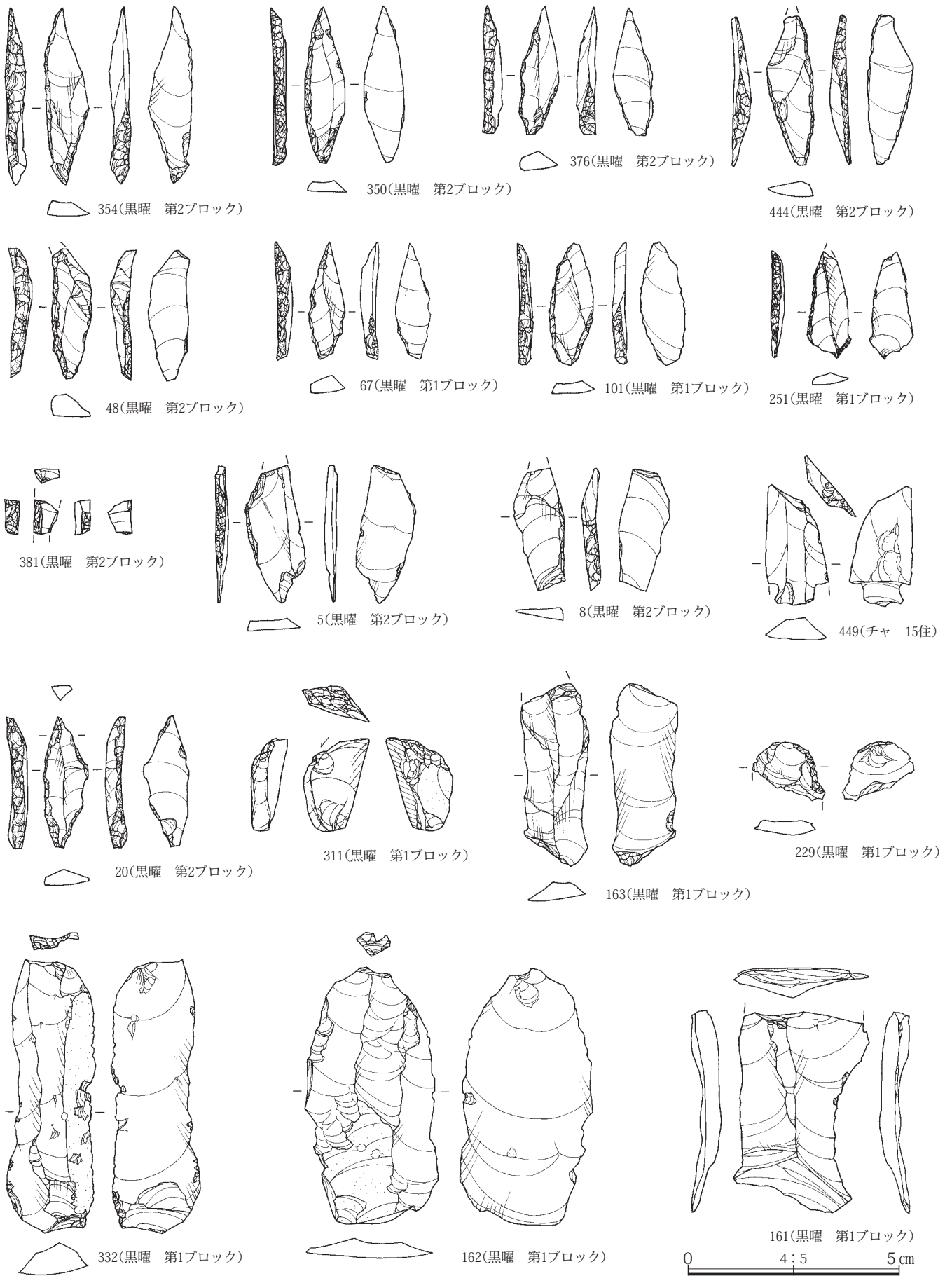
1区北西部に2か所のブロックが認められた。両ブロックとも4～5mの範囲に石器が密集し、南部は調査区外に続くと推測される。2か所のブロックは隣接し、その境は発掘調査および整理作業段階で平面および垂直分布を考慮し便宜的に分けたものである。また、第1・第2ブロックとブロック外の境も分布密度や出土位置で区分したものである。他にブロックは検出されず、環状ブロック等ブロックの分布状況については不明である。地形的には、ローム層上面で、北西から南東に向かって緩やかに傾斜するものの、ほぼ平坦な地点である。

接合資料の分布状況 (第304図)ブロック内での接合が多いが、接合資料2・6でブロック間接合が認められた。このほか、接合資料15では第1ブロックとブロック外出土の石器が約8.3m離れて接合している。垂直分布では、接合資料6および接合資料13で高低差およそ35cmをもって接合している。以上のことから、1区出土石器は同一時期の石器と言える。

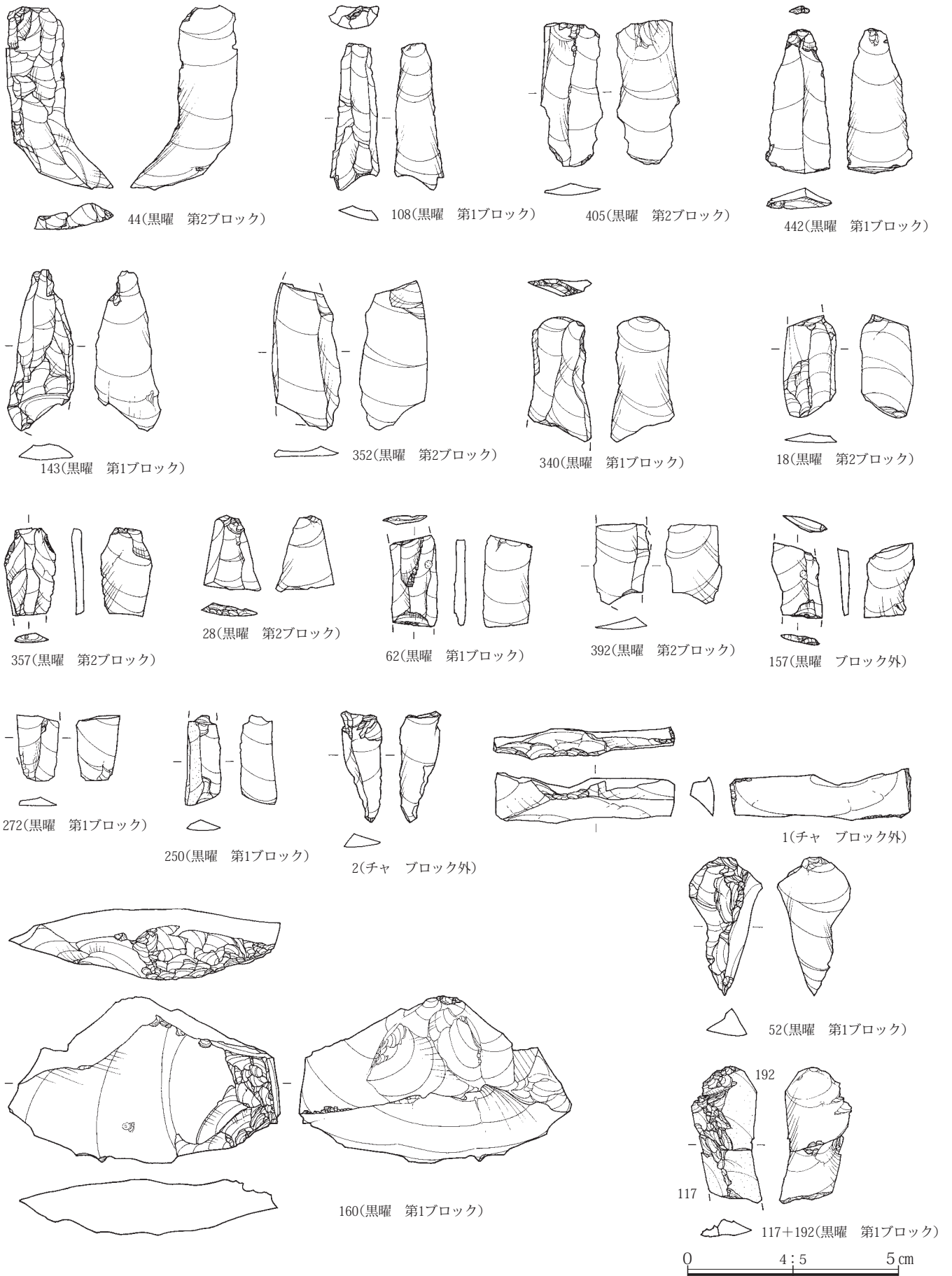
器種別石器の分布状況 (第305図、第15表)第2ブロック中央部でナイフ形石器4点がまとまって出土しているが、これ以外に特定の器種が偏在する様子は見られない。第15表から、第1ブロックでは第2ブロックの3倍近い点数が出土しているものの、ナイフ形石器は第2ブロックの方が多。また、両ブロックとも石核およびハンマーストーン等の礫石器を組成していない。

石材別石器の分布状況 (第306図、第14表)大部分が黒曜石のため、石材の分布に大きな偏りはないが、黒曜石以外の石材が第1ブロックおよびブロック外で出土しているのに対し、第2ブロックは黒曜石のみで構成されている。

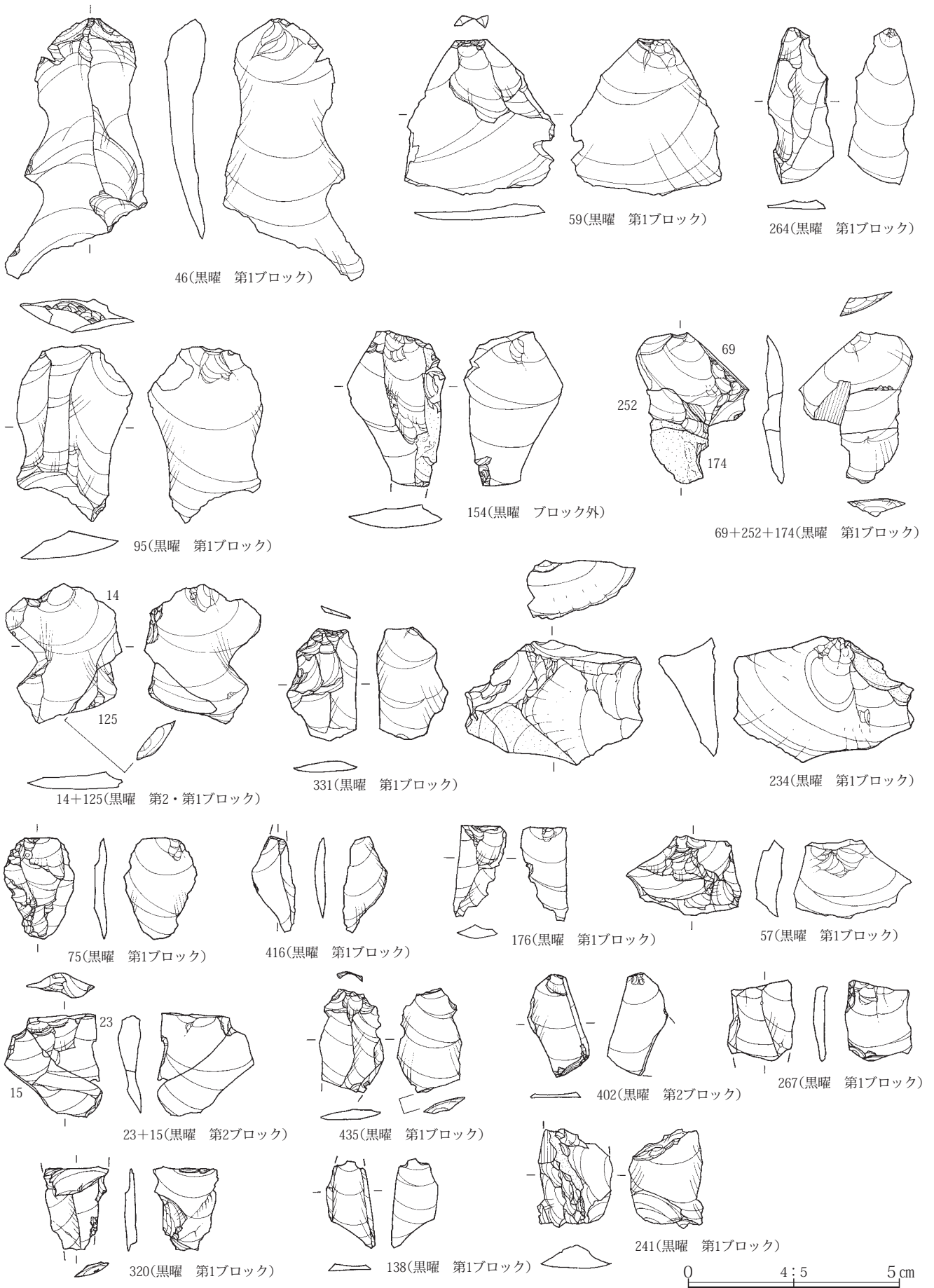
第3章 調査の成果



第298図 1区出土 ナイフ形石器・尖頭状石器・彫刻刀形石器・二次加工ある剥片・縦長剥片



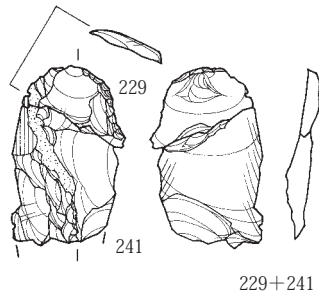
第299図 1区出土 縦長剥片・剥片(1)



第300図 1区出土 剥片(2)

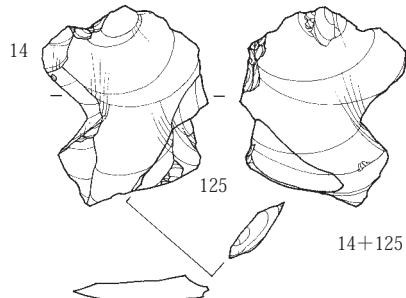


〈接合資料1〉



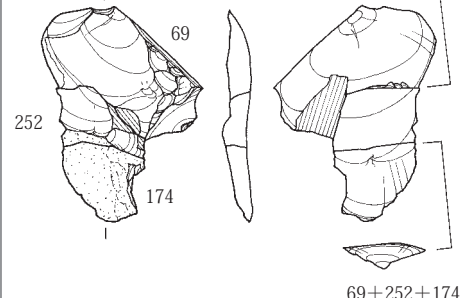
229+241

〈接合資料2〉



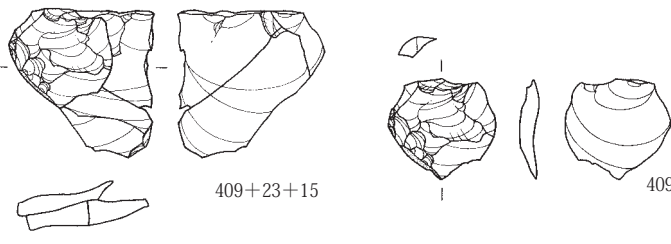
14+125

〈接合資料4〉

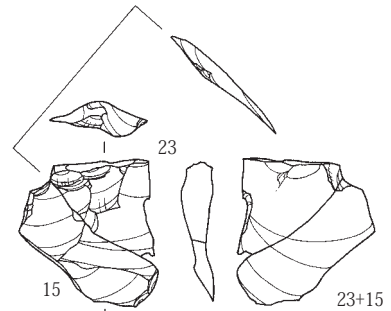


69+252+174

〈接合資料3〉

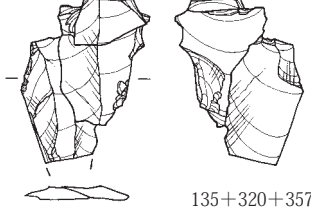


409+23+15

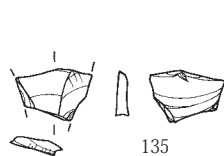


23+15

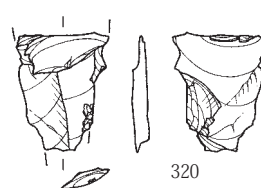
〈接合資料6〉



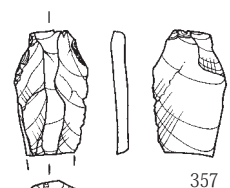
135+320+357



135

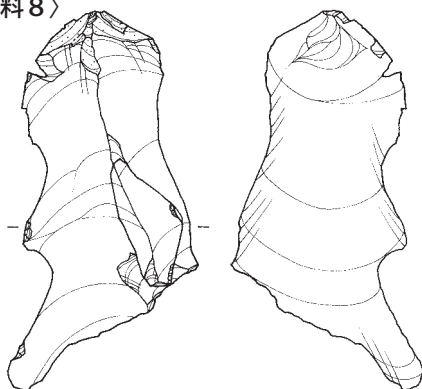


320

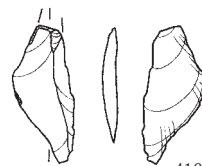


357

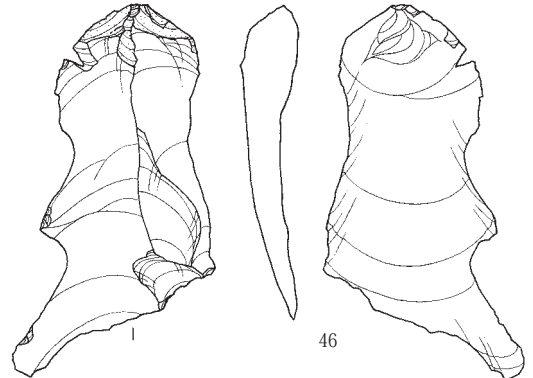
〈接合資料8〉



416+46



416

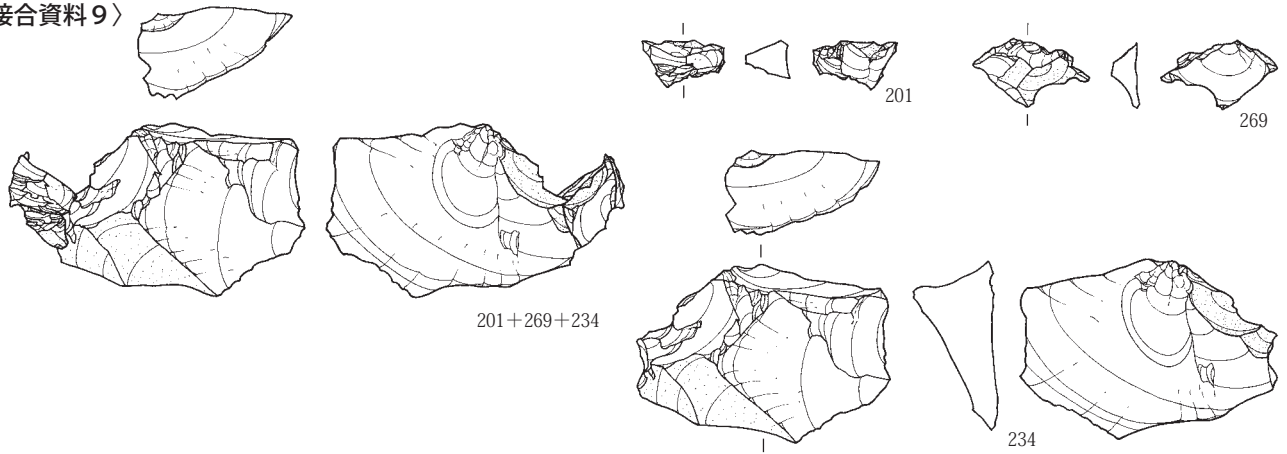


46

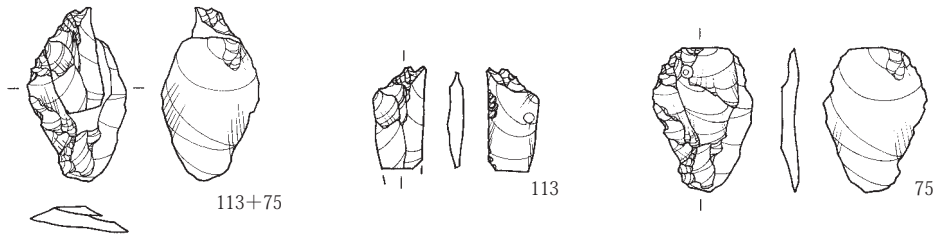
0 4:5 5cm

第301図 1区出土 碎片・接合資料1～4・接合資料6・接合資料8

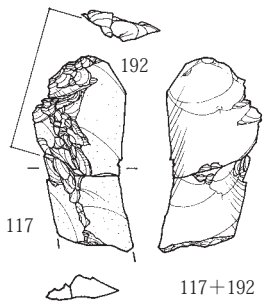
〈接合資料9〉



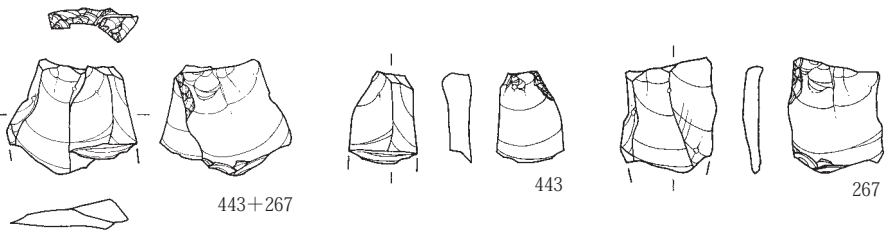
〈接合資料10〉



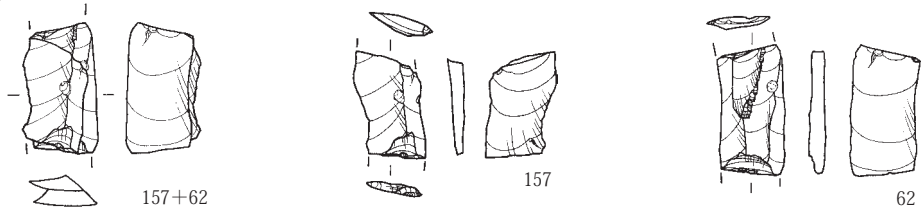
〈接合資料12〉



〈接合資料14〉

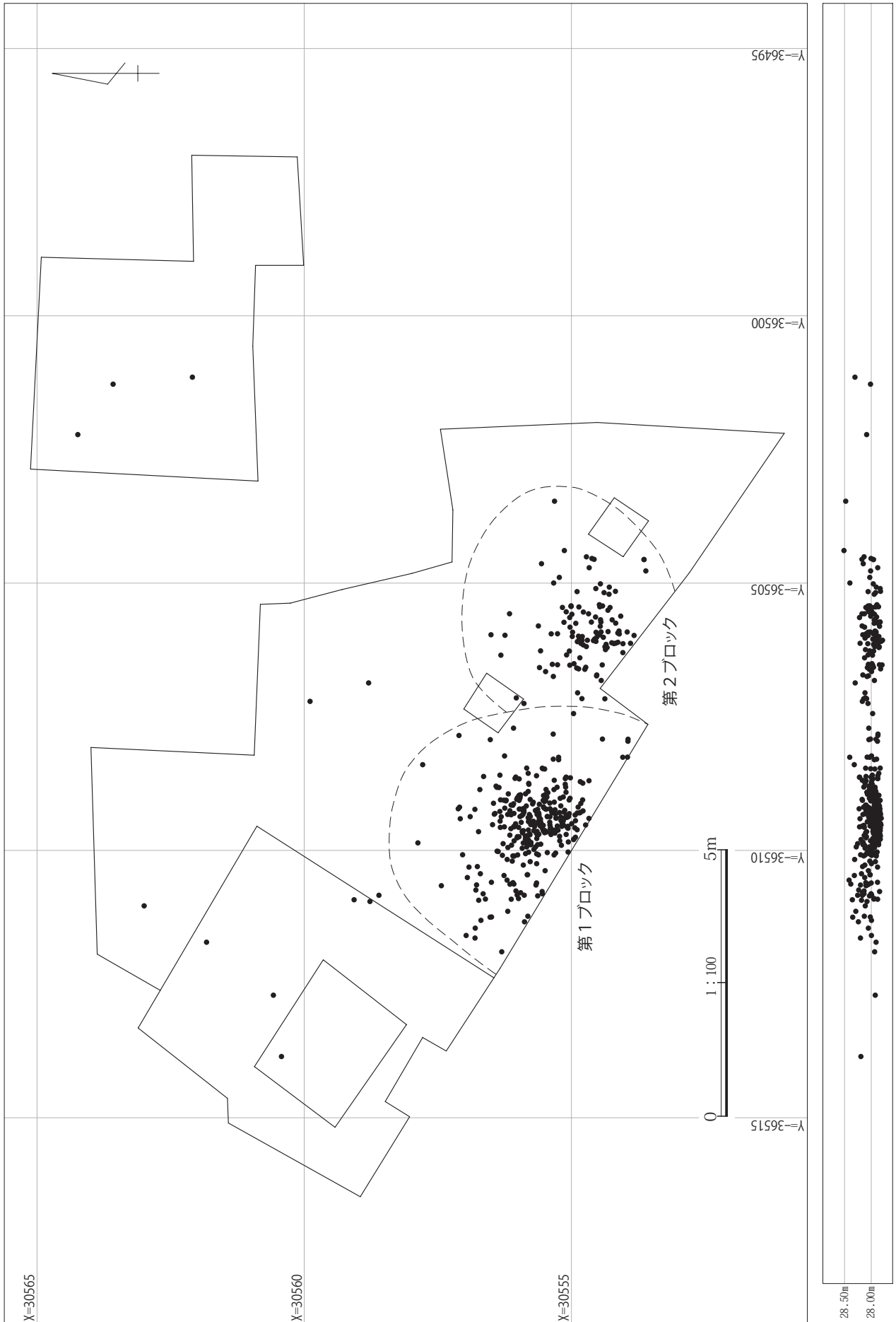


〈接合資料15〉

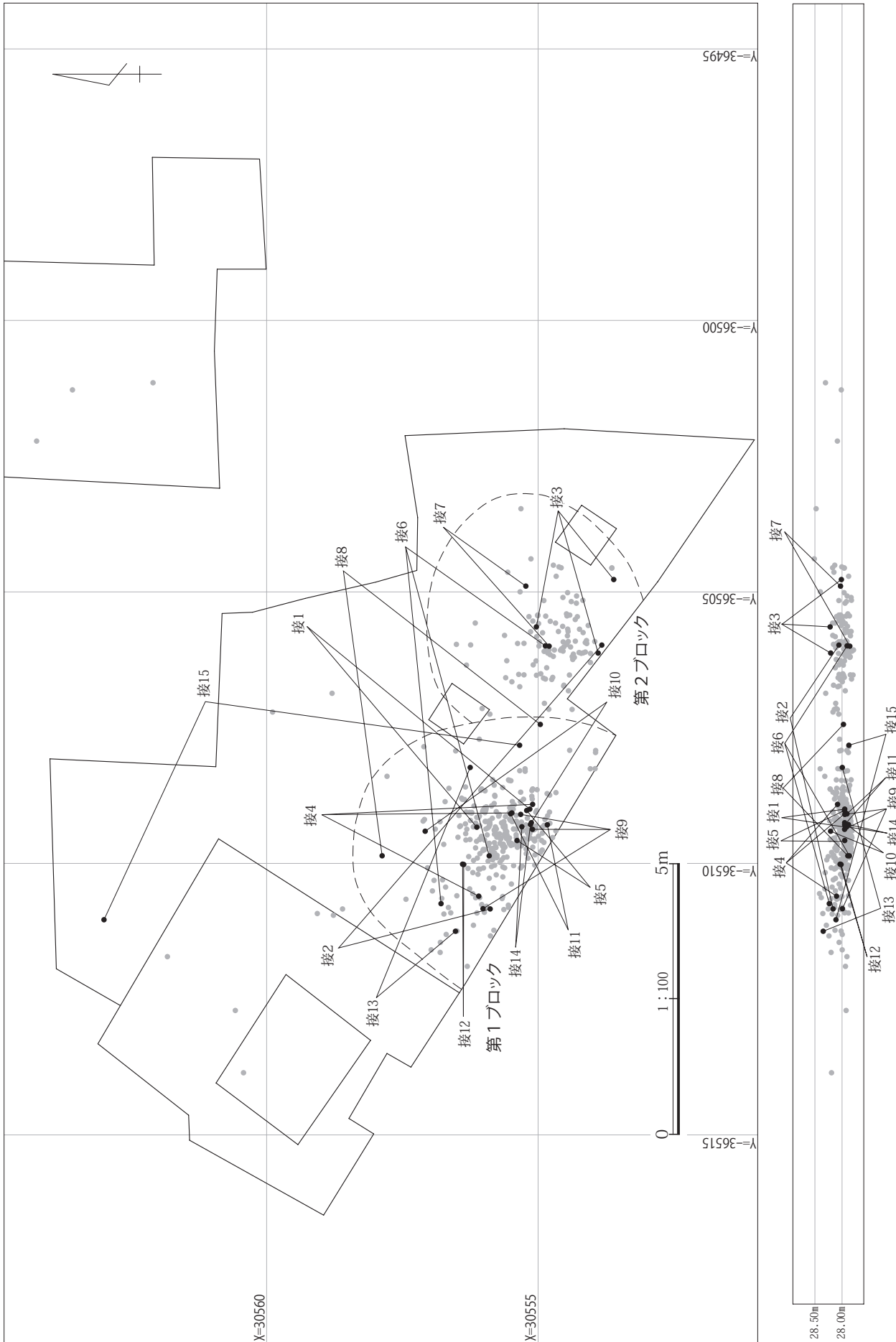


0 4:5 5cm

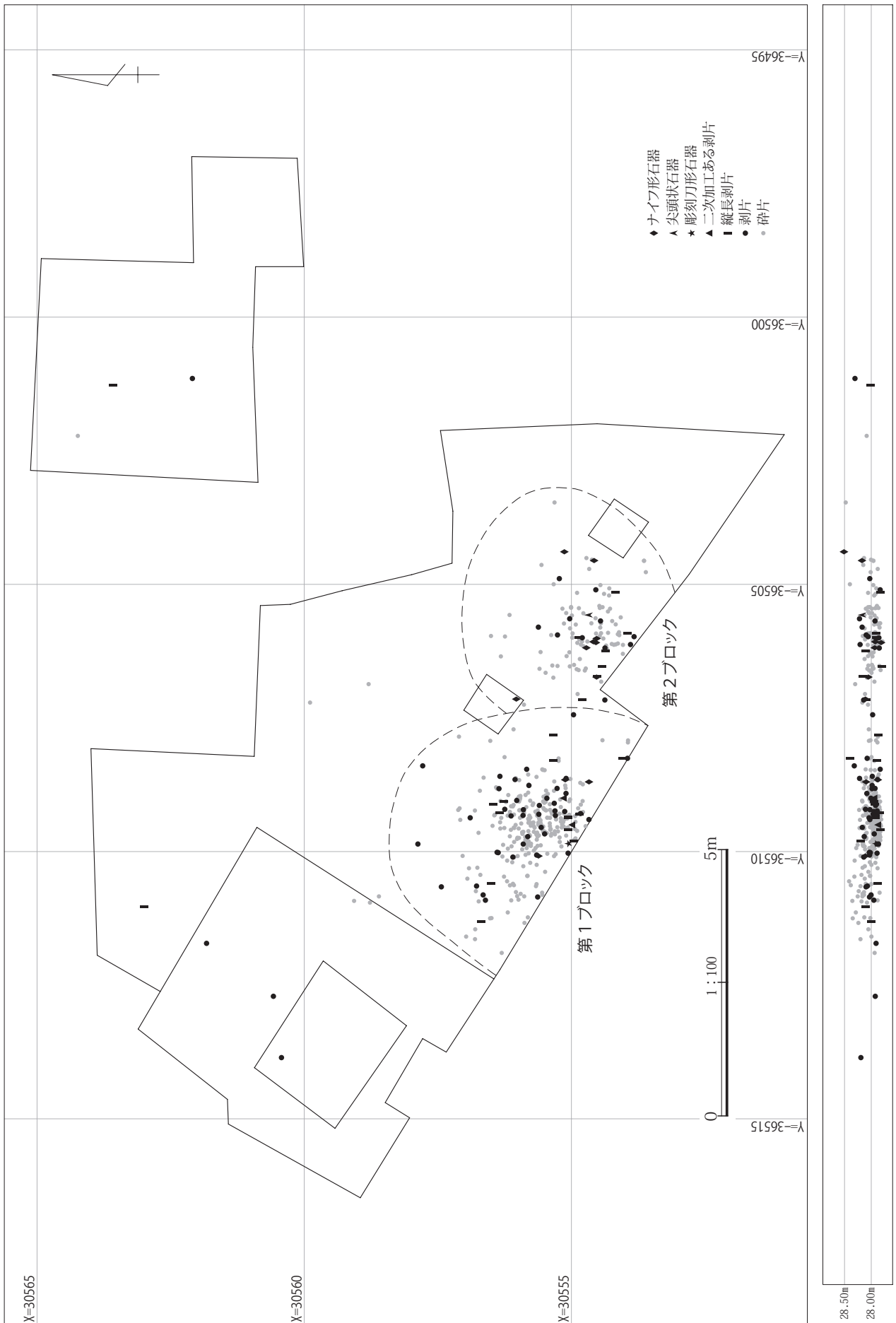
第302図 1区出土 接合資料9～10・接合資料12・接合資料14～15



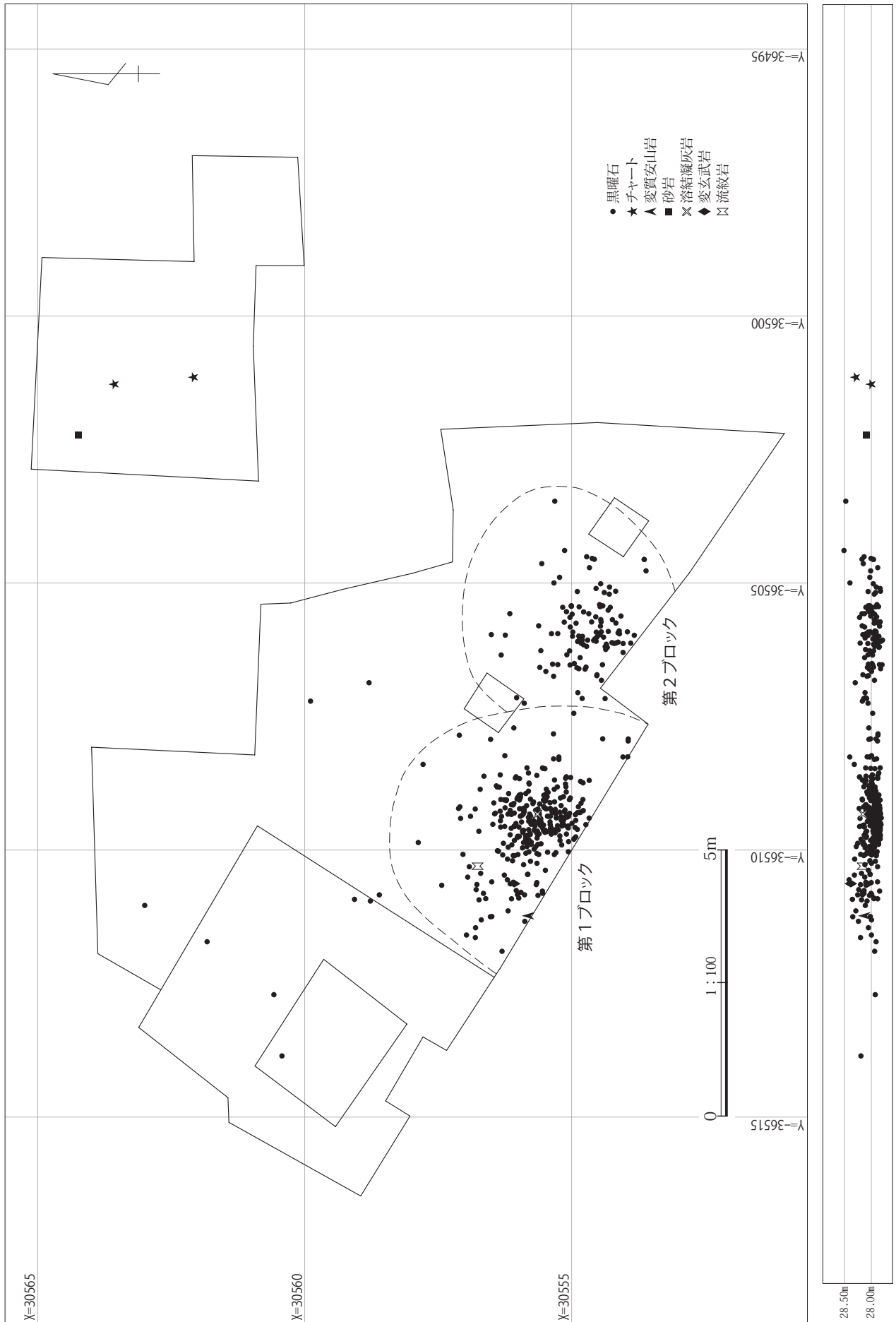
第303図 1区石器分布図



第304図 1区接合資料分布図



第305図 1区器種別石器分布図



第306図 1区石材別石器分布図

3. 2区の調査(第308図)

調査区北西部を中心に調査坑を7か所設定し、旧石器時代の調査を実施した。各調査坑はVI層またはVII層まで掘り下げたが、石器は発見されなかった。

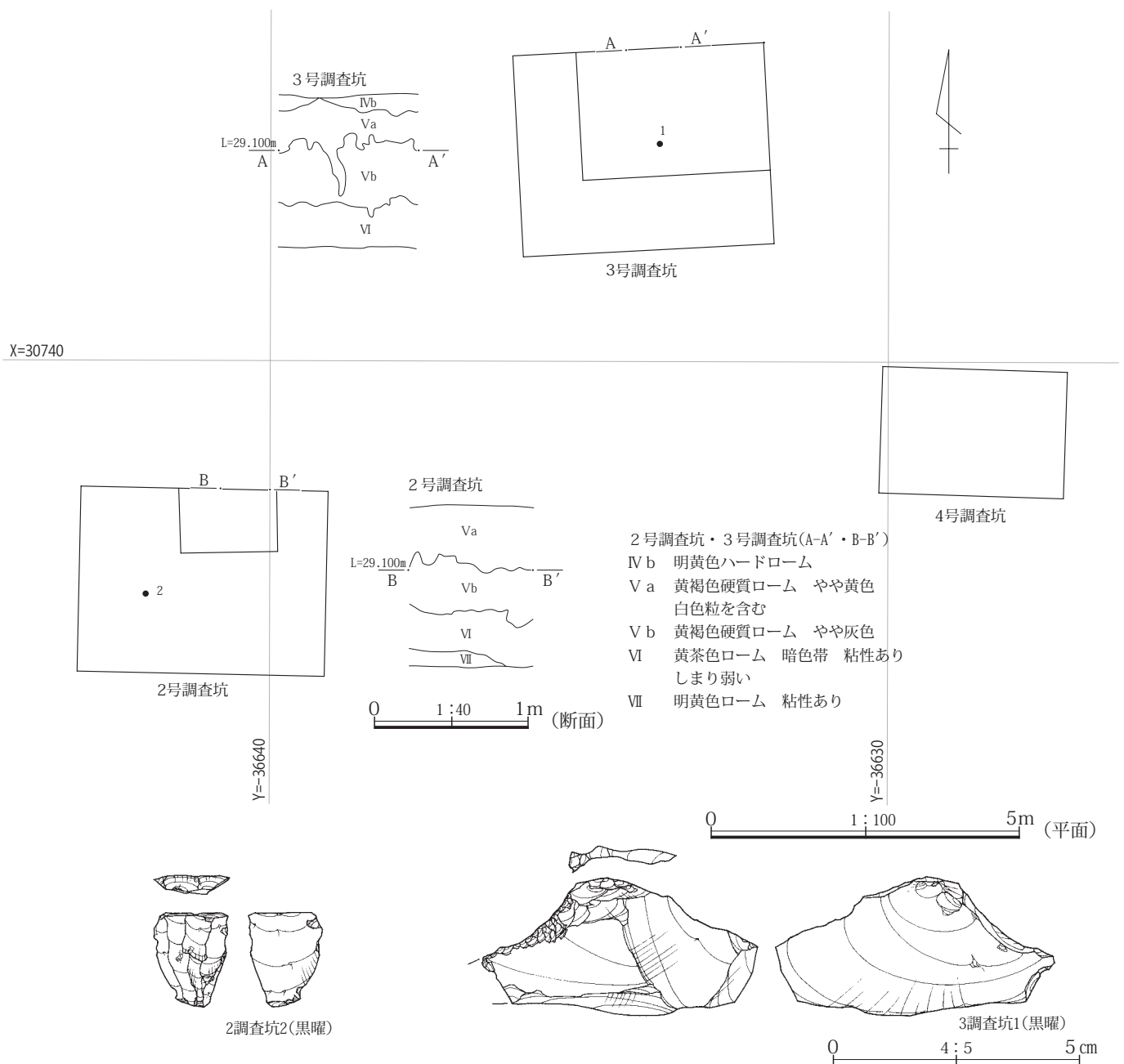
4. 3区の調査(第307・309図)

3区の地形は、ローム層上面で南東がやや高く、北西に向かって緩やかに傾斜している。地形を考慮しながら、緩やかに傾斜している地点を中心に調査坑(2m×3m)を設定して調査を行った。調査坑は3-1区で1か所、

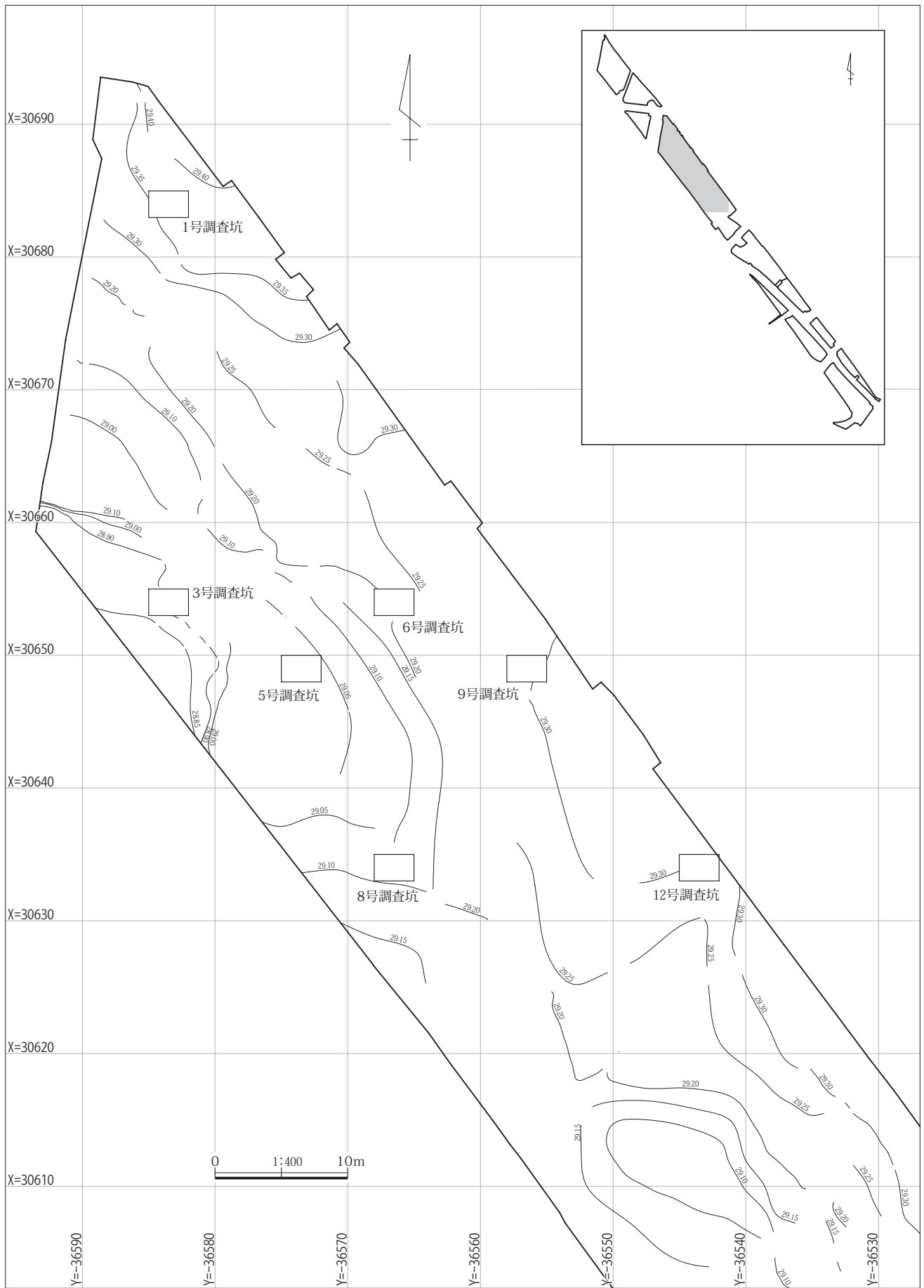
3-2区で3か所、3-3区で5か所である。石器は3-3区の2か所の調査坑から各1点出土したほかは確認されなかった。石器が出土した3-3区の2号調査坑・3号調査坑では拡張して調査を行い石器の出土状況の把握に努めたが、それぞれ1点の出土に止まった。

3-3区2号調査坑から出土した石器は、黒曜石製の縦長剥片1点(第307図2)である。出土層位はV層である。上半部は折れにより欠損している。

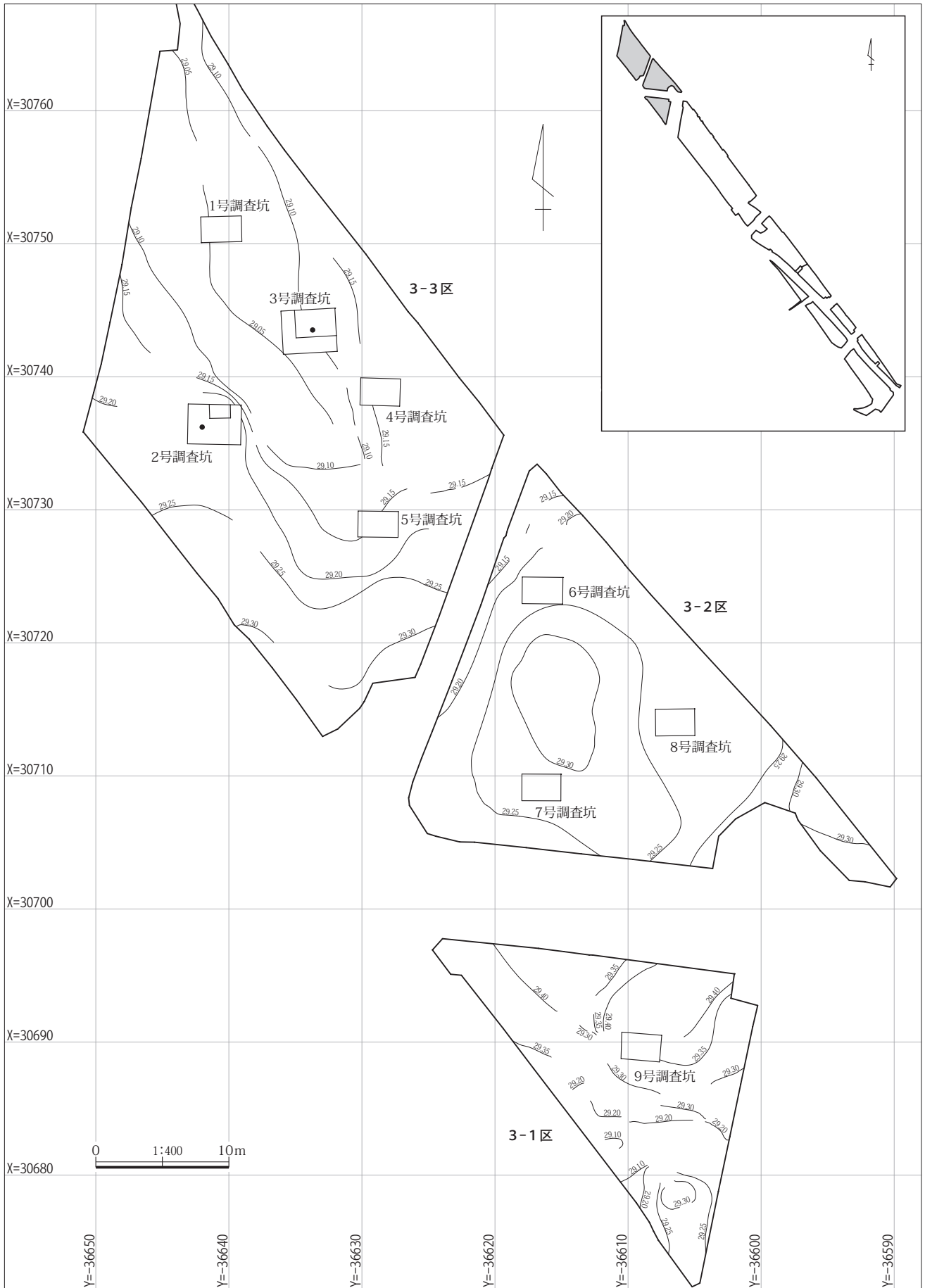
3-3区3号調査坑からは黒曜石製の剥片1点(第307図1)が出土した。出土層位はVI層である。1は横長の剥片で、末端がヒンジフラクチャーとなっている。



第307図 3区2号・3号調査坑石器分布図、出土縦長剥片・剥片



第308図 2区調査坑配置図



第309図 3区調査坑配置図

5. 4区の調査(第312図)

4区はローム層上面で、北西から南東にかけて緩やかに傾斜し、調査区南東端で落ち込む地形である。4区では調査坑を18か所設定し、旧石器時代の調査を実施した。その結果、2号・4号・6号・11号・13号調査坑で石器が出土した。各調査坑の出土石器点数は第16表に示す。調査区南東端の6号調査坑で48点出土した以外は各調査坑1～2点の散発的な出土状況であった。

2号調査坑(第311図、PL.136)

VIIb層から、黒曜石製の縦長剥片が2点出土した。2号調査坑1では両側縁に刃こぼれ状の微小剥離痕が見られる。

4号調査坑(第313図)

図示しなかったが、VII層からチャート製の剥片1点が出土した。

6号調査坑(第314～318図、PL.136)

剥片11点、碎片36点、石核1点の合計48点の石器が出土した。出土層位はIV～V層で、IV層が多かった(第17表)。石材は黒曜石が35点と7割以上を占め、次いで硬質頁岩10点、頁岩2点、チャート1点である。唯一のチャート製石器は石核で、剥片や碎片は出土しなかった。

石器分布状況を見ると、密度の濃淡をもちながらも1つのブロックとして捉えることができる。接合資料の分布状況から、これらの石器群は同一時期と理解できる。また、石材別分布を見ると、南部で硬質頁岩製の剥片や碎片が集中している。

11号調査坑(第319図、PL.136)

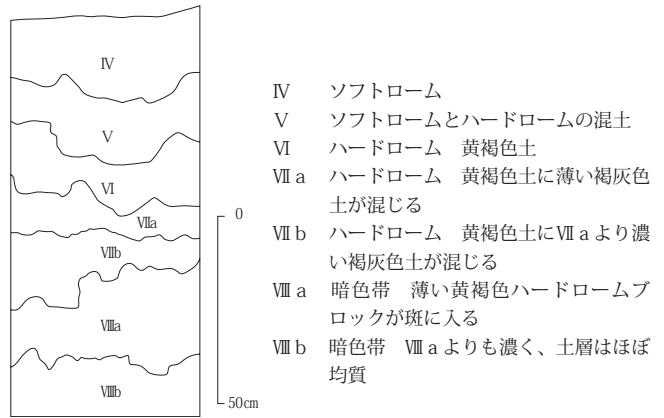
VII層から黒曜石製の剥片1点が出土した。打面再生剥片と考えられる。

13号調査坑(第320図)

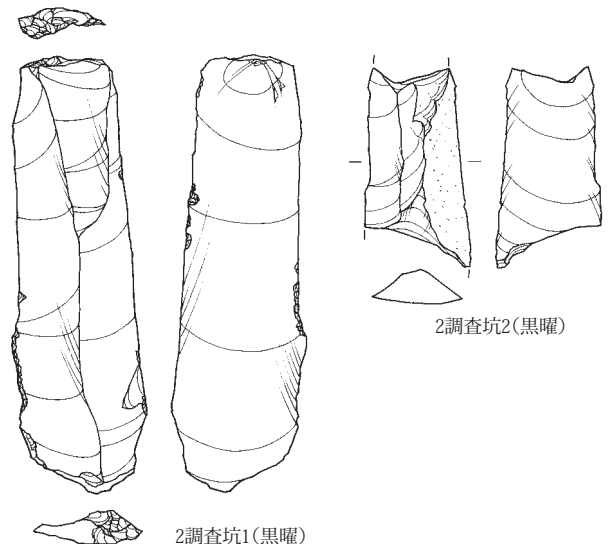
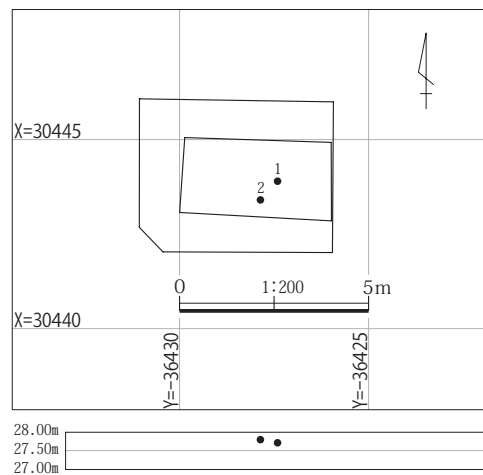
小片のため図示しなかったが、チャート製の碎片1点がVIIIb層から出土している。

第16表 4区調査坑別点数表

調査坑	点数
2号	2
4号	1
6号	48
11号	1
13号	1
合計	53

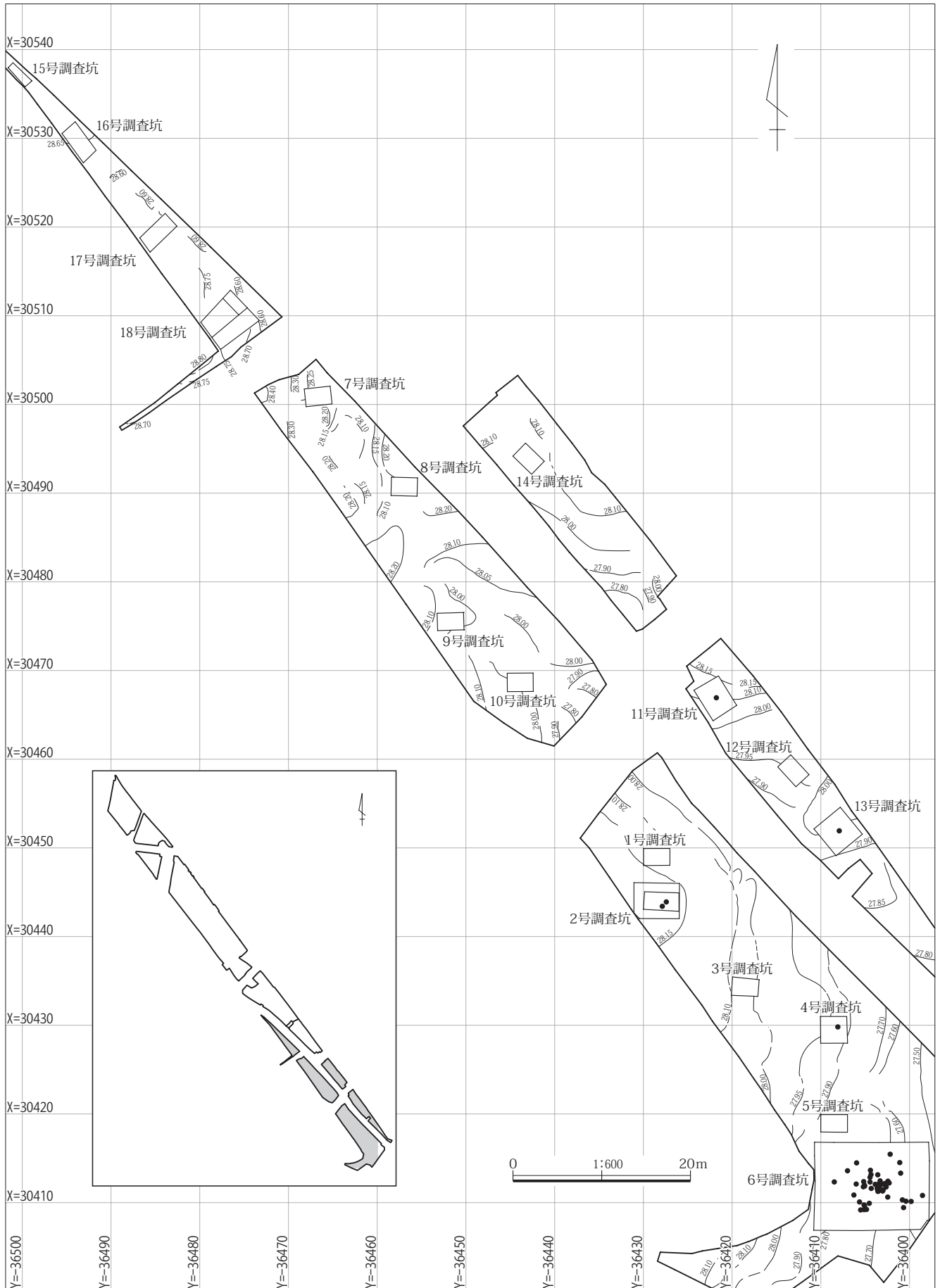


第310図 4区土層柱状図

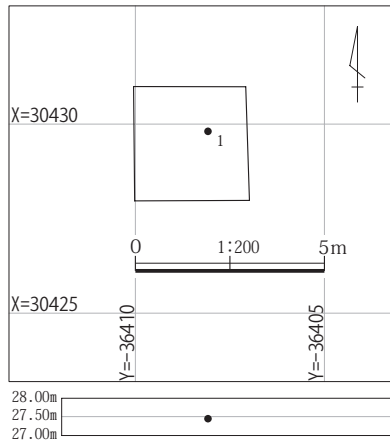


0 4:5 5cm

第311図 4区2号調査坑石器分布図、出土縦長剥片



第312図 4区調査坑配置図



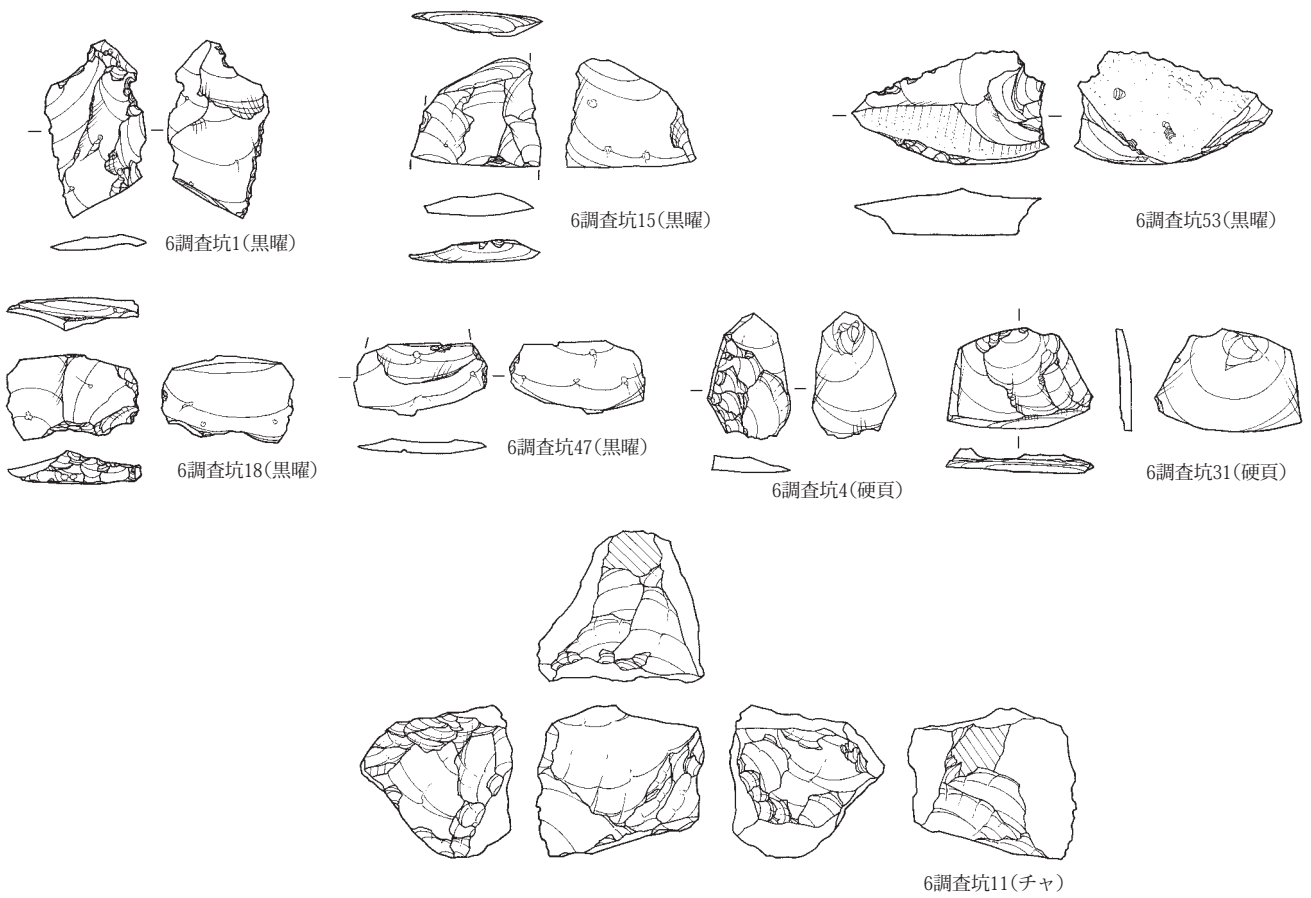
第17表 4区6号調査坑層位別点数表

層位	点数
IV	30
V	18
合計	48

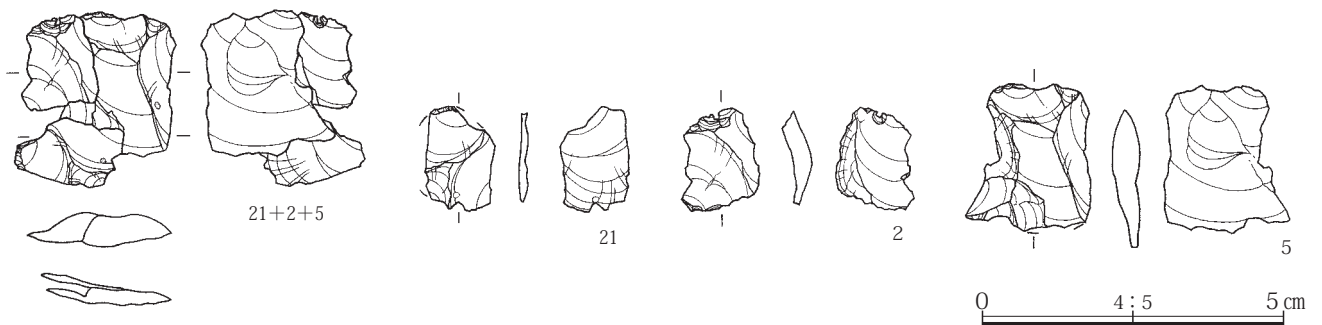
第18表 4区6号調査坑出土石器 器種と石材

	黒曜石	硬質頁岩	頁岩	チャート	合計	%
剥片	8	3			11	22.9
碎片	27	7	2		36	75
石核				1	1	2.1
合計	35	10	2	1	48	100
%	72.9	20.8	4.2	2.1	100	

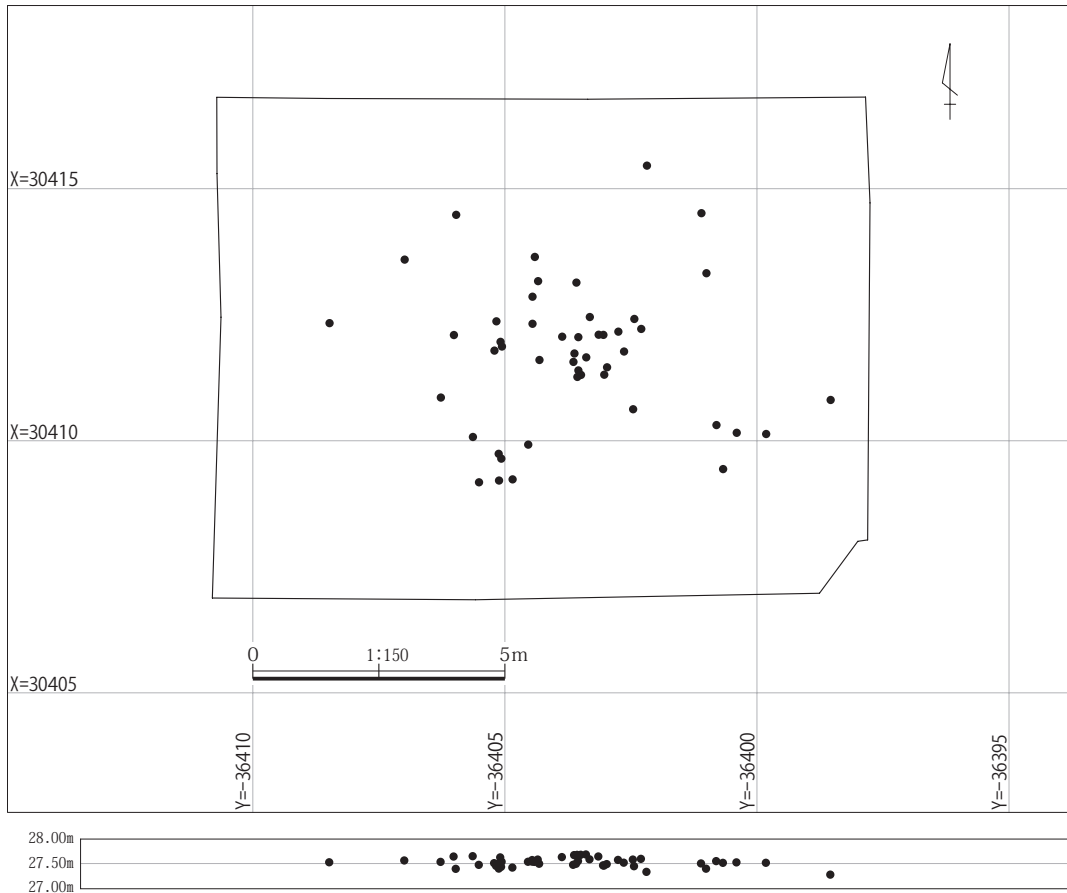
第313図 4区4号調査坑石器分布図



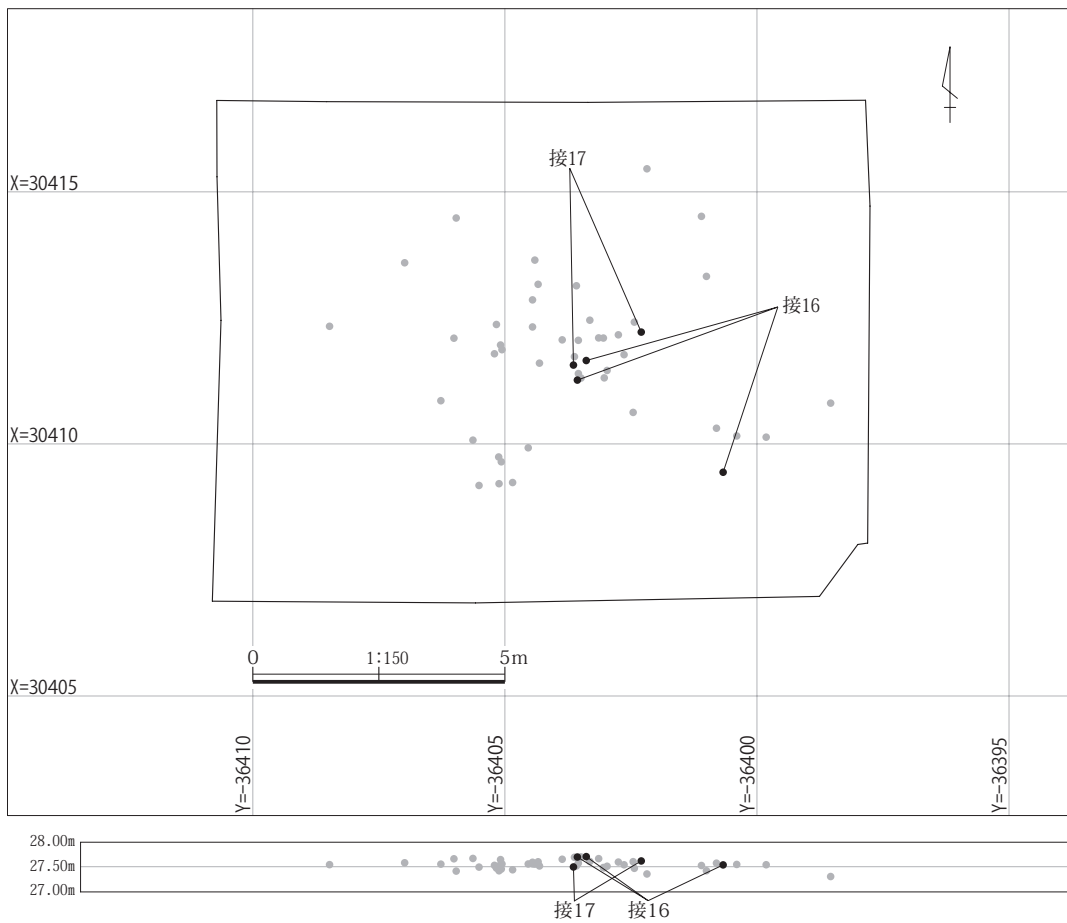
〈接合資料16〉



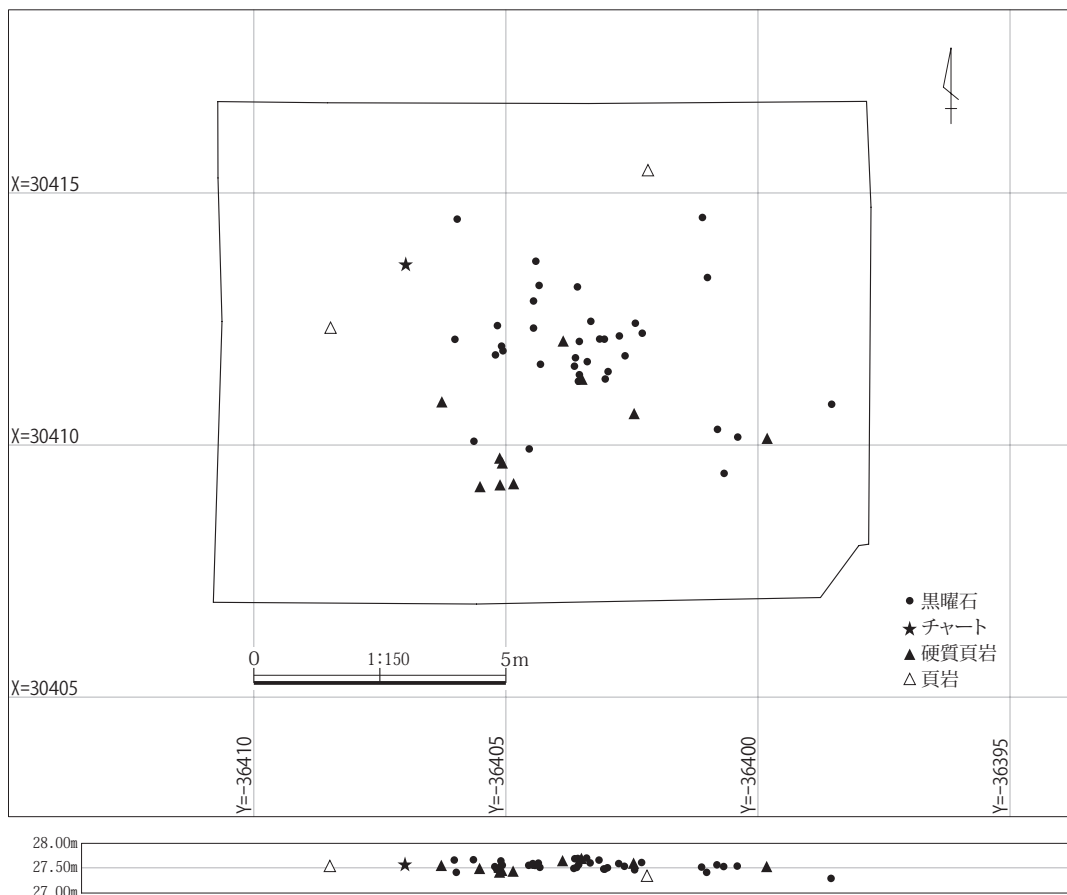
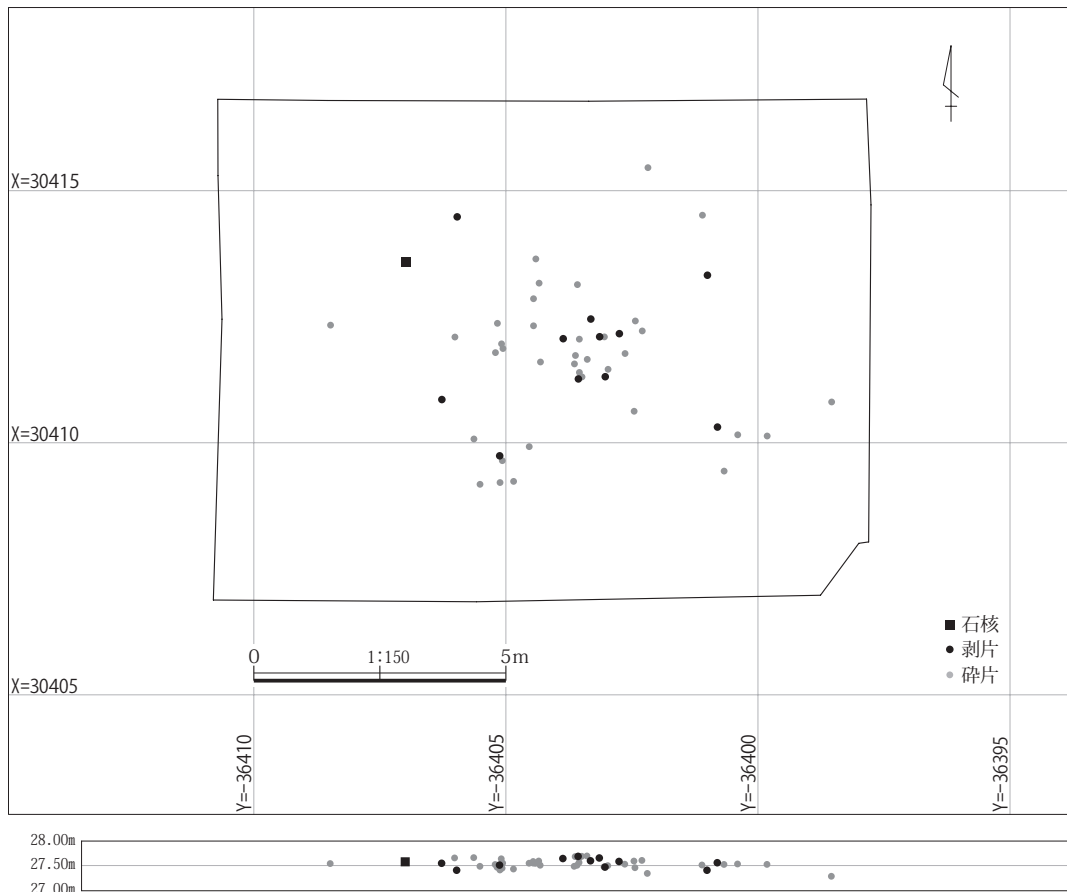
第314図 4区6号調査坑出土剥片・石核・接合資料16

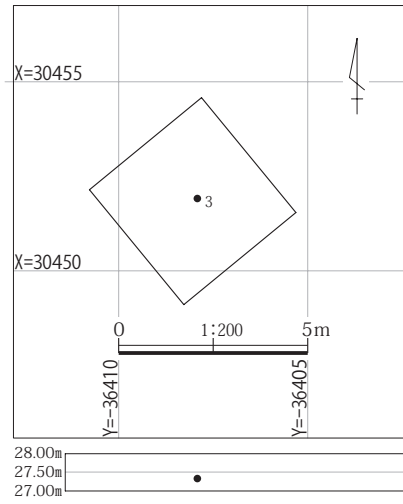
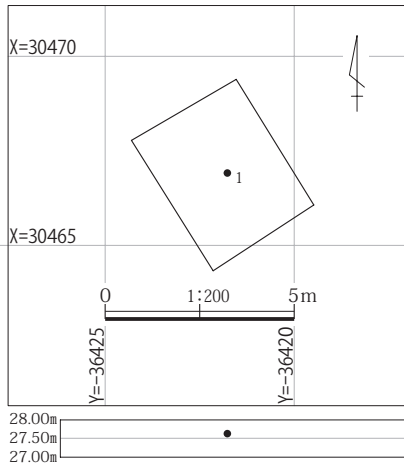


第315図 4区6号調査坑石器分布図

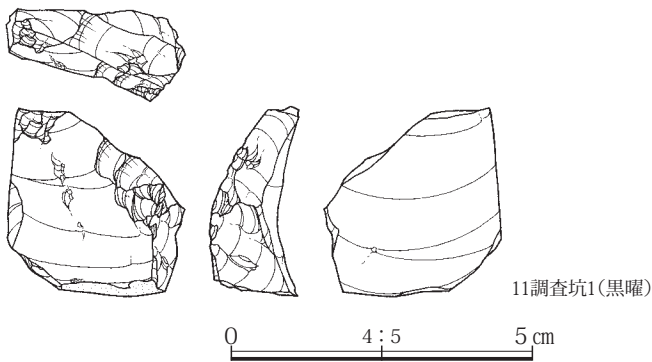


第316図 4区6号調査坑接合資料分布図





第320図 4区13号調査坑石器分布図



第319図 4区11号調査坑石器分布図、出土剥片

第4章 自然科学分析

第1節 自然科学分析の 目的と成果の概要

石神遺跡の調査では、土層とテフラの同定、プラント・オパール分析、炭化植物遺体の同定、灰の母植物の同定という、4種類の自然科学分析を業者に委託して行った。委託業者は土層とテフラ、プラント・オパール分析が株式会社火山灰考古学研究所、炭化植物と灰の母植物の同定が株式会社パレオ・ラボである。それらの分析の目的と成果の概要について以下に記述する。

土層とテフラ（第2節）

本遺跡で土層とテフラについての分析を行った目的は2つある。まずひとつは、旧石器時代の遺物が出土していることであり、ローム層に含まれているテフラの分析を行って、それらの遺物の年代を知るための資料を得ることである。テフラの中にはすでに噴出年代が明確になったもの（指標テフラ）があり、それとの層位関係から遺物の年代が把握できるのである。分析を行った地点は、最初に旧石器の遺物が出土した1区のみであるが、ここで各層に含まれるテフラが把握できたので、その後遺物が出土した3区・4区においてもその成果が援用できた。もうひとつは、2区で水田と思われる面が確認されたことであり、その層を覆う軽石と、上下の層に含まれるテフラを確定することで、水田の年代を知ることである。

その結果、本遺跡のローム層中には、赤城鹿沼軽石(Ag-KP)、始良Tn火山灰、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP)、浅間大窪沢第1軽石(As-0k1)、同第2軽石(As-0k2)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP)などが検出でき、1区の旧石器はAs-BPグループ間、あるいはAs-BPグループより上位でAs-0k1より下位と推定され、3・4区の遺物の層位はそれらよりも上位であることが分かった。各区の旧石器の層位についての詳細は、第3章第11節に記述した。

2区の水田では、それを覆うのが浅間B軽石(As-B)であり、その下層には浅間C軽石(As-C)、榛名二ツ岳渋川

テフラ(Hr-FA)が含まれていることが分かった。これによって、本遺跡の水田面は、Hr-FAより上位で、As-B直下に層位があることが確認できた。

プラント・オパール分析（第3節）

上述した2区の水田は、黒色粘質土(黒泥土)の広がりから存在を推定したものであるが、現地における調査では畦畔などを見つけることはできなかったため、それを水田面と確定することはできなかった。そのためプラント・オパール分析を行って、水田稲作が行われていたかどうかを確認した。その結果、イネのプラント・オパールが4,800個/gと比較的高い値で検出され、ここで稲作が行われていた可能性が高いことが判明した。また、稲作が開始されるまで、および周辺地域の植生についても検討する資料が得られた。

炭化植物遺体の同定（第4節）

2区では2軒の焼失住居(6号と21号竪穴住居・9世紀代)があり、その床面から建築材と思われる炭化植物遺体が出土した。そこで、それらの植物が何であるかを同定することによって、当時の竪穴住居の実際の姿と、周辺の環境を知るために、炭化植物遺体の同定を行った。その結果、構築材としてクリ、クスノキ科、ヌルデ、屋根葺き材としてイネ科、タケ亜科、草本の双子葉類などが確認され、9世紀代の竪穴住居の構造を具体的に把握することができた。

灰の母植物の同定（第5節）

2区の9世紀代の竪穴住居(23号竪穴住居)の竈からは良好な灰の堆積が発見されたが、当時の燃焼材が何であるのかを明らかにして当時の生活実態の一端を知るために、その灰の母植物の同定を行った。その結果、ススキやチガヤなどのウシクサ族が主体で、一部にキビ族、イネの籾殻などが含まれていたことが判明した。この竪穴住居に住んだ人々は、それらの植物を竈の着火材・燃焼材として利用していたものと思われる。

第2節 石神遺跡の土層とテフラ

1. はじめに

関東地方北西部に位置する太田市域とその周辺には、赤城火山、榛名火山、浅間火山をはじめとする北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログなどに収録されており、遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

太田市石神遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な遺物包含層や遺構が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラの記載を行うとともに、採取した試料および発掘調査担当者により採取された試料を対象にテフラ検出分析、火山ガラス比分析、火山ガラスの屈折率測定を行って、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラの検出同定を実施し、それとの層位関係から遺物包含層や遺構の層位および年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象は、1区南西壁深堀地点および2区北西隅地点の2地点である。

2. 土層の層序

(1) 1区南西壁深堀地点

後期旧石器時代の遺物が検出された1区では、いわゆるローム層の層序確認のため深堀トレンチが作成された。その南西壁面に相当する台地上に位置する1区南西壁深堀地点では、下位より黄灰白色粘質土(層厚20cm以上)、白色がかかった褐色粘質土(層厚31cm)、褐色土(層厚31cm)、緑色砂質細粒火山灰層(ブロック状、最大層厚6cm)、褐色土(層厚30cm)、若干色調が暗い灰褐色土(層厚9cm)、暗灰褐色土(層厚20cm)、灰褐色土(層厚15cm)、黄色がかかった灰色土(層厚32cm)、黄褐色土(層厚14cm)、黄色砂質土(層厚25cm)、灰褐色砂質土(層厚10cm)、砂混じり暗灰褐色土(層厚4cm)、砂混じり灰褐色土(層厚13cm)、砂混じりでわずかに色調が暗い灰褐色土(層厚3

cm)、黄色土(層厚6cm、盛土)が認められる(第321図)。

発掘調査では、これらのうち、黄色がかかった灰色土(層厚32cm)の下半部から旧石器時代の遺物が検出されている。

(2) 2区北西隅地点

埋没谷部に位置する2区北西隅地点では、黄色土(層厚10cm)の上位に、下位より暗褐色土(層厚27cm)、黄灰色土ブロックを多く含む褐灰色土(層厚20cm)、暗灰色土ブロック混じり褐灰色土(層厚21cm)、暗灰色土(層厚9cm)、白色粗粒火山灰混じり暗灰色土(層厚9cm)、灰色土(層厚7cm)、暗灰色土(層厚3cm)、黒泥層(層厚0.8cm)、黄色がかかった灰色粗粒火山灰層(層厚3cm)が認められる(第322図)。

その上位には溝状遺構が認められ、それは下位より葉裏が発達した黄灰色砂層(層厚5cm)、黒泥層(層厚0.8cm)、青灰色細粒火山灰層(層厚0.4cm)、黄灰色砂層(層厚3cm)、暗灰色土(層厚7cm)、黒灰色土(層厚5cm)で埋没している。

さらにその上位には、下位より砂混じり灰褐色土(層厚16cm)、マンガン粒子に富む暗灰褐色土(層厚2cm)、鉄分に富み橙色がかかった褐色土(層厚2cm)、灰色土(層厚17cm、作土)が認められる。

発掘調査では、これらのうち、黄色がかかった灰色粗粒火山灰層の直下から水田遺構が検出されている。この黄色がかかった灰色粗粒火山灰層は、層相から1108(天仁元年)に浅間火山から噴出したと推定されている浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に同定される。また、その上位の溝覆土中の青灰色細粒火山灰層は、層位や層相から1128(大治3)年に浅間火山から噴出した可能性が指摘されている浅間粕川テフラ(As-Kk, 早田, 2004など)に同定される。

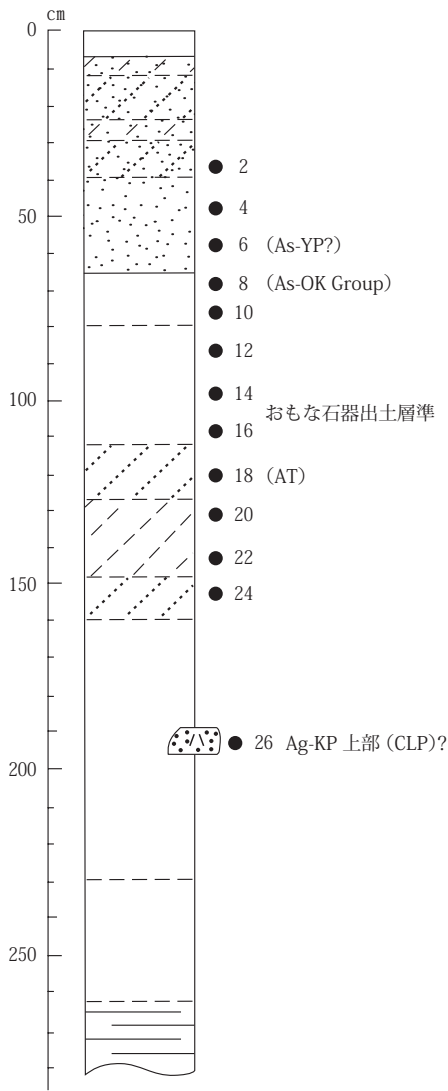
3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

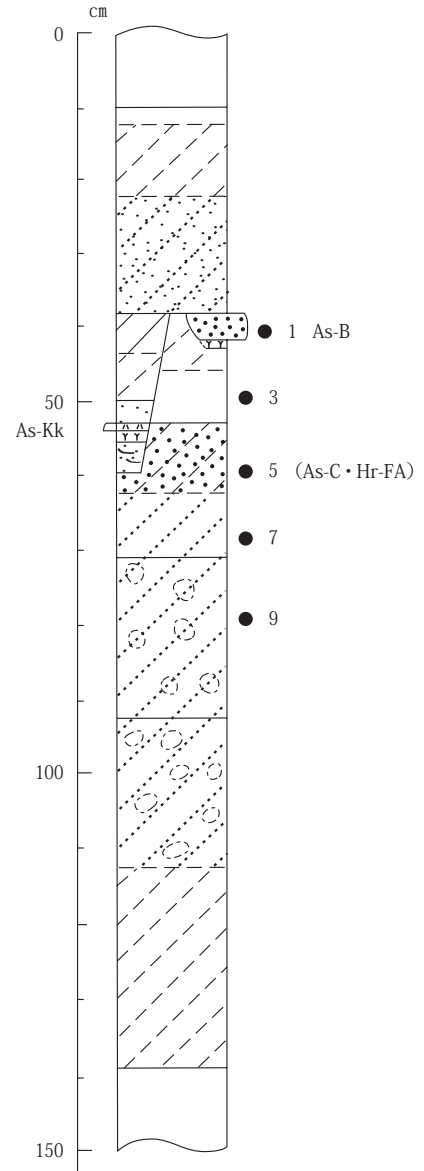
2区北西隅地点で採取された試料のうちの試料9、試料7、試料5、試料3の4点を対象に、テフラ粒子の量や特徴などを定性的に把握するテフラ検出分析を実施して、完新世指標テフラの降灰層準を求めた。分析の手順は次のとおりである。

1) 試料7gを秤量。

第4章 自然科学分析



第321図 1区南西壁深掘地点の土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位. 数字：テフラ分析試料番号



第322図 2区北西隅地点の土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位. 数字：テフラ分析試料番号

第19表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
2区北西隅	3	*	白	2.3	**	pm	白, 灰白
	5	**	白, 灰白	3.2, 2.4	**	pm	白, 灰白
	7	*	白	2.8	**	pm	灰白, 白
	9						

****：とくに多い, ***：多い, **：中程度, *：少ない. 最大径の単位は, mm. bw：バブル型, pm：軽石型, md：中間型.

- 2)超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3)恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4)実体顕微鏡下で観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第19表に示す。試料9をのぞくいずれの試料からも、白色や灰白色の軽石や火山ガラスを検出できた。それらのうち、灰白色の軽石(最大径2.4mm)やその細粒物である灰白色の軽石型ガラスは、スポンジ状に良く発泡しており、斑晶として斜方輝石や単斜輝石が認められる。一方、白色の軽石(最大径3.2mm)やその細粒物である白色の軽石型ガラスには、さほど発泡の良くないものも多く、斑晶に角閃石や斜方輝石が認められる。

4. 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

旧石器時代遺物が出土した火山灰土の良好な断面が認められた1区南西壁深堀地点では、採取された試料のうち9試料を対象に、火山ガラスの形態色調別含有率を定量的に求める火山ガラス比分析を行って、火山ガラス質テフラの降灰層準を求めた。分析の手順は次のとおりである。

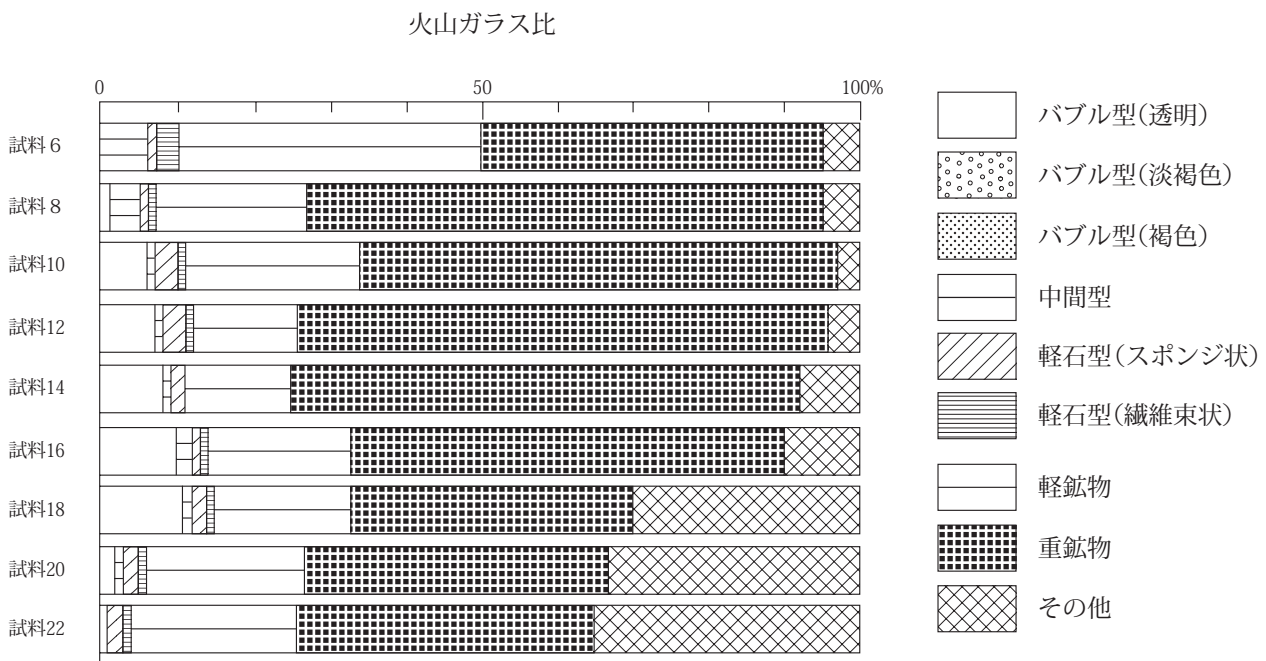
- 1)試料8gを秤量。
- 2)超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3)恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4)分析篩により1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mm(屈折率測定用:後述)の粒子を篩別。
- 5)1/4-1/8mm粒径の250粒子について偏光顕微鏡下で観察を行い、火山ガラスの形態色調別含有率を求める。

(2) 分析結果

火山ガラス比分析の結果をダイアグラムにして第323図に、その内訳を第20表に示す。無色透明のバブル型ガラスの含有率は試料18で最大で(10.8%)、上方に向かって次第に減少する。試料12では淡褐色の軽石型ガラスが比較的多く含まれており(3.2%)、やはりその上位で減少する。代わって、試料8では分厚い中間型ガラスが比較的目立ち(4.0%)、それは試料6でより含有率が增大する(5.6%)。試料6では、ほかに繊維束状軽石型ガラスも比較的多く含まれている(3.2%)。軽鉱物は試料6で、重鉱物は試料14、試料12、試料8で、それぞれ含有率が高い。

5. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法



第323図 1区南西壁の火山ガラス比ダイアグラム

指標テフラとの同定精度を向上させる方法としては、全国的に火山ガラスや鉱物の屈折率測定が行われている。そこで、火山ガラスが特徴的に認められる1区南西壁深堀地点の試料14と試料8に含まれる火山ガラスを対象に、屈折率測定を行って指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定対象は1/8-1/16mmの火山ガラスで、温度変化型屈折率測定装置(京都フィッション・トラック社製RIMS2000)を用いて測定を実施した。

(2) 測定結果

屈折率測定結果を第21表に示す。この表には、北関東地域の後期旧石器時代以降の代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの屈折率特性も記載した。試料14に含まれる火山ガラス(32粒子)の屈折率(n)は、1.497-1.501である。一方、試料8に含まれる火山ガラス(30粒子)の屈折率(n)のrangeは広く、1.498-1.505である。

5. 考察—指標テフラとの同定と石器包含層の層位について

1区南西壁深堀地点では、火山ガラス比分析の結果、試料18付近に無色透明のバブル型ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準があると考えられる。このテフラは、火山ガラスの色調や形態から、約2.4～2.5万年前^{*1}に南九州地方の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2003, 松本ほか, 1986, 村山ほか, 1991, 池田ほか, 1995)と考えられる。実際、試料14に含まれる火山ガラスの屈折率特性や、試料8に含まれる屈折率(n)が1.498-1.501の火山ガラスについても、試料中にAT起源の火山ガラスが含まれていることを示している。

遺物包含層から採取された試料14では、重鉱物の含有率、とくには斜方輝石や単斜輝石が占める割合が高い。AT降灰層準より上位にあることを合わせると、この試料には、約1.9～2.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)に由来するテフラ粒子が多く含まれていると推定される。

遺物包含層より上位にある試料8に含まれる火山ガラスについては、ATのほか、形態や屈折率特性から、約1.7万年前^{*1}と約1.6万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第1軽石(As-0k1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)お

よび浅間大窪沢第2軽石(As-0k2, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996, As-0k1と合わせて仮に浅間大窪沢テフラ群: As-0k Groupとする)が含まれていると考えられる。とくに、テフラの分布を考えると、前者の可能性がより高い。

以上のことから、1区で検出された旧石器時代の遺物包含層の層位は、As-BPグループ間あるいはAs-BPグループより上位でAs-0k1より下位と推定される。なお、分析対象試料のうち最上位の試料6では、軽鉱物の含有率が急増する。試料6には、約1.3～1.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)起源のテフラ粒子が混在しているのかも知れない。また、試料26が採取されたブロック状の緑色砂質細粒火山灰層には、チャートの岩片のほか、重鉱物として、角閃石や斜方輝石が認められる。テフラの降灰量なども考慮すると、このテフラは約4.5万年前以前に赤城火山から噴出した赤城鹿沼軽石(Ag-KP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003など)の上部の、水沼ラピリ(守屋, 1968)の可能性が高いように思われる。

一方、埋没谷部に位置する2区北西隅地点において、テフラ検出分析により検出されたテフラ粒子のうち、灰白色の軽石やその細粒物である灰白色の軽石型ガラスは、岩相から3世紀後半に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)に由来すると考えられる。また、白色の軽石やその細粒物である白色の軽石型ガラスは、テフラの分布を考慮すると、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003)に由来する可能性が高い。

それが大量に含まれる試料を降灰層準とするならば、試料5付近に降灰層準があると考えられる。ただし、厳密には試料7にも両者が含まれていることから、実際には試料7が採取された土層についても、Hr-FA降灰後に形成されたと考える方が良い。いずれにしても、発掘調査で検出された水田面は、Hr-FAより上位でAs-Bの直下に層位がある。また、As-BとAs-Kkの間に、溝状遺構の層位があることも、遺跡周辺でのAs-B降灰後の復旧を考える上で非常に興味深い。

6. まとめ

第4章 自然科学分析

太田市石神遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、火山ガラス比分析、火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、下位より赤城鹿沼軽石(Ag-KP, 約4.5万年前以前)、始良Tn火山灰(AT, 約2.4～2.5万年前^{*1})、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.9～2.4万年前^{*1})、浅間大窪沢テフラ群(As-Ok Group, 約1.6～1.7万年前^{*1})、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前^{*1})、浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、浅間粕川テフラ(As-Kk, 1128年)など多くのテフラを検出することができた。発掘調査で検出された旧石器時代の石器包含層の層位は、As-BP Group間あるいはAs-BP Groupより上位でAs-Ok1より下位と推定される。

*1 いずれも放射性炭素(¹⁴C)年代。ATおよびAs-YPの暦年較正年代は、約2.8～3.0年前と約1.5～1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003, 早田, 2010)。なお、本地域における後期旧石器時代の指標テフラの年代推定に関する諸問題については、関口ほか(2011)に詳しい。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地団研専報, no.14, p.1-45.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫(1995)南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器14C年代。第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書—」, p.865-928.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)始良Tn火山灰(AT)の14C年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- 守屋以智雄(1968)「赤城火山の地形及び地質」。前橋営林局, 65p.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993)四国沖ピストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討—タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代。地質雑, 99, p.787-798.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山, 黒班～前掛期のテフラ層序。日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
- 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.

坂口 一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係—。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」, p.17-22.

関口博幸・早田 勉・下岡順直(2011)群馬の旧石器編年のための基礎的研究—関東地方北西部における石器群の出土層位、テフラ層序、数値年代の整理と検討—。群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要, 29, p.1-20.

早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.

早田 勉(1996)関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

早田 勉(2004)火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史—とくに平安時代の噴火について—。かみつけの里博物館編「1108—浅間火山—中世への胎動」, p.45-56.

早田 勉(2010)更新世堆積物とテフラ。稲田孝司・佐藤宏之編「講座日本の考古学1 旧石器時代上」, 青木書店, p.77-102.

竹本仁美・奥村晃史(2011)長野県神城盆地の局所的な地形変化に対する完新世の花粉化石群集の応答。第四紀研究, 51, p.21-33. II. 石神遺跡におけるプラント・オパール分析

第3節 石神遺跡における プラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したもので、植物が枯れた後も微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、イネの消長を検討することで水田跡(稲作跡)の検証や探査が可能である(藤原・杉山, 1984, 杉山, 2000)。

2. 試料

分析試料は、2区北西隅地点から採取された計4点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法(藤原, 1976)を用いて次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)。
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)。
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散。
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる

(杉山, 2000)。

4. 分析結果

プラント・オパール分析では、イネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な6分類群について同定・定量を行っている。分析結果を第22表および第325図に示す。

5. 考察

(1) 水田跡(稲作跡)の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

2区北西隅地点では、As-B直下層(試料1)からAs-C・Hr-FA混層(試料4)までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料1)からイネが検出された。密度は4,800個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類やヒエ属型(ヒエが含まれる)などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

(3) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。イネ以外の分類群では、各層準ともタケ亜科(おもにネザサ節型)が多く検出され、ススキ属型やヨシ属は比較的少量である。おもな分類群の推定生産量によると、各層準ともタケ亜科が優勢であり、As-B直下層ではヨシ属も比較的多くなっている。

以上のことから、各層準の堆積当時は、おおむねヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、As-B直下層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはネザサ節などのタケ亜科が多く分布し、ススキ属なども見られたと推定される。

6. まとめ

石神遺跡2区北西隅地点におけるプラント・オパール分析の結果、水田遺構が検出されたAs-B直下層ではイネが比較的多量に検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はおおむねヨシ属などが生育する湿潤な環境であったと考えられ、As-B直下層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはネザサ節などのタケ亜科が多く分布し、ススキ属なども見られたと推定される。

文献

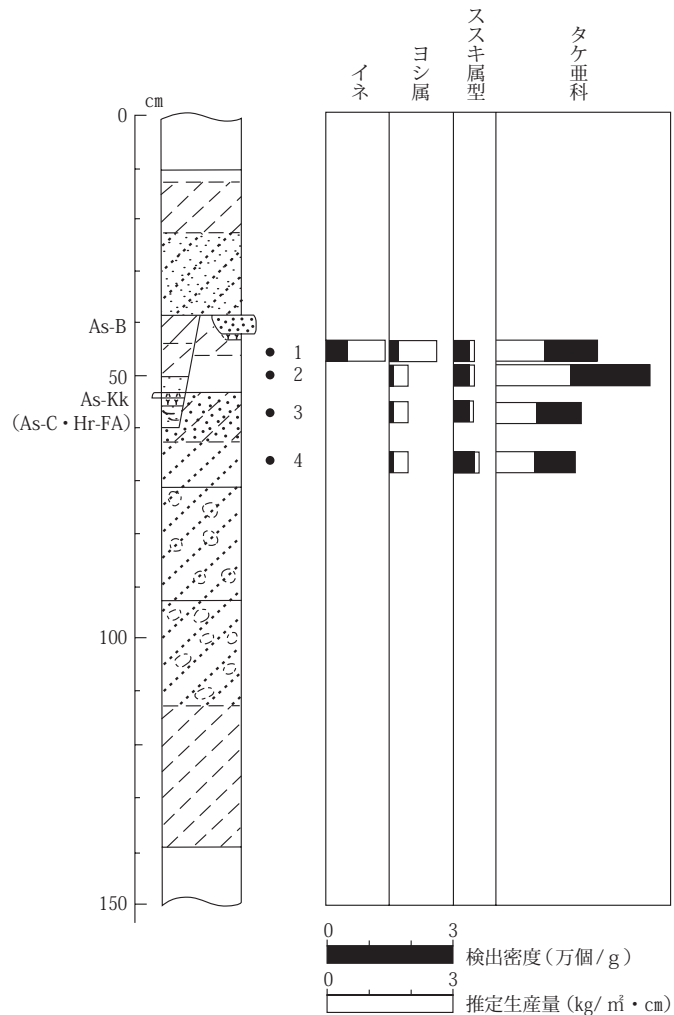
- 杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール). 辻 誠一郎編「考古学と植物学」, 同成社, p.189-213.
- 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法―. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オパール分析による水田址の探査―. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

第22表 石神遺跡におけるプラント・オパール分析結果
検出密度(単位: ×100個/g)

分類群	学名	2区北西隅			
		1	2	3	4
イネ	<i>Oryza sativa</i>	48			
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	18	7	7	7
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	36	35	34	47
タケ亜科	Bambusoideae	242	368	204	188

推定生産量(単位: kg/m²・cm): 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	1.42			
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	1.15	0.45	0.43	0.42
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.45	0.44	0.42	0.58
タケ亜科	Bambusoideae	1.16	1.77	0.98	0.90



第324図 石神遺跡2区北西隅地点におけるプラント・オパール分析結果

第4節 石神遺跡2区出土炭化植物遺体の同定

1. はじめに

群馬県太田市龍舞町に所在する石神遺跡は、渡良瀬川の南岸、邑楽台地の北東縁辺部に立地し、8～9世紀の集落跡が確認されている。竪穴住居跡から出土した炭化植物遺体について、形状の確認と樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、2区の焼失住居跡である6号住居と21号住居から出土した、建築材と思われる炭化植物遺体である。発掘調査現場で産出状況を確認後、形状の残りが良くかつ樹種が異なると思われる個体を任意に選択し、6号住居跡から8試料、21号住居跡から10試料を採取して同定を行った。考古学的な所見から、遺構の時期は9世紀(平安時代)と考えられている。

同定では、まず目視と実体顕微鏡を用いて、木取りの確認と径および年輪数の計測を行った。その後、手あるいは剃刀を用いて3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VE-9800)を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、木本では広葉樹のクリとクスノキ科、ヌルデの3分類群、その他に単子葉植物のタケ亜科とイネ科、草本の双子葉類が確認された(第23表)。結果の一覧を第24表に示す。

以下に、同定根拠となった組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版(PL.137)に示す。

(1)クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 PL.137 1a-1c (No.21-7)、2a (No.6-8)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。

第23表 樹種構成

分類群	6号住居	21号住居	計
クリ	1	3	4
クスノキ科		1	1
ヌルデ	4	1	5
タケ亜科	1	2	3
イネ科	1	3	4
双子葉類(草本)	1		1
計	8	10	18

材は耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(2)クスノキ科 Lauraceae PL.137 3a-3c(No.21-3-1)

やや小型の道管が単独ないし数個複合して、まばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は1～3列幅の異性である。

クスノキ科は熱帯から温帯に分布する常緑または落葉の高木もしくは低木である。クスノキを含むニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属など8属がある。

(3)ヌルデ *Rhus chinensis* Mill. ウルシ科 PL.137 4a-4c (No.6-5)、5a (No.6-3)

大型の道管が、年輪のはじめに単独もしくは数個複合して配列する半環孔材である。晩材部では道管の大きさは徐々に減じ、年輪の終わりでは小道管が集団をなして接線状～斜線状に配列する。道管の穿孔は単一である。放射組織は平伏細胞と直立細胞が混在する異性で、1～3列幅である。

ヌルデは温帯から熱帯に分布する落葉高木である。材は比較的軽く、切削加工が容易であるが、耐朽性があり、吸水しにくい。

(4)タケ亜科 Subfam. Bambusoideae イネ科 PL.137 6a (No.21-8)、7a (No.21-3-2)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱である。二次肥大成長を行わないため木本とはいえないが、高木化するために木材のように用いられる。

タケ・ササの仲間で日本列島には12属が含まれるが、稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

(5)イネ科 Gramineae PL.137 8a (No.6-4)、9a (No.21-2)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束が基本組織中に散在する不斉中心柱である。小径で、組織が薄い。組織のみから属や種を識別するのは難しい。

(6) 双子葉類(草本) Dicotyledoneae (Herb) PL.137
10a (No.6-1)

維管束が髓の周囲に円周状に配列して真正中心柱を構成する。木部には道管がみられる。小径で、組織が薄い
ため草本と判断したが、組織のみから属や種を識別するのは難しい。

4. 考察

9世紀(平安時代)の2棟の焼失住居跡から出土した炭化植物遺体を同定した結果、6号住居では、木材としてはクリとヌルデが確認され、その他にタケ亜科と、イネ科および双子葉類の草本がみられた。クリは直径が16cmあり、木取りは芯持の半割材であった。一方、ヌルデは直径1~3cm程で、木取りは丸木や半割、割材、みかん割りであった。クリは重硬で加工困難であり、耐朽性に優れた材である。ヌルデは比較的軽軟で加工容易な材であるが、耐朽性があり、水に強い。いずれも産出状況から住居の構築材と考えられるが、クリは比較的太い材、ヌルデは小径が使用されており、部材によって樹種を変えていたと推測される。タケ亜科は直径1cm程の丸竹、イネ科と草本の双子葉類は直径0.5cm程の丸形であった。束状に出土しているため、壁材または屋根材であった可能性がある。

21号住居では、木材ではクリとクスノキ科、ヌルデが確認され、その他にタケ亜科とイネ科がみられた。クリ

の木取りには直径1.5cmと3.2cmの芯持丸木と、幅2.3cm程の板目材がみられ、建築部材や器具材の可能性はある。クスノキ科は直径1.0cmの小径で、イネ科とともに出土した状況から、屋根材もしくは壁材などの構造材の一部であったと考えられる。ヌルデもイネ科の草本とともに出土しているが、破片であるため元の形状が不明で、詳細はわからない。

イネ科は直径0.5cm程で、主に壁際から束状に出土している。一定方向もしくは交差して折り重なった状態で出土しており、屋根材や壁材、床の敷物であった可能性がある。タケ亜科の木取りでは、丸竹と半割が確認された。No.21-1のタケ亜科は半割で、割り面を下、外側の丸い部分を上向きにして、隙間なく平行に配列した状態で出土しており、敷物であった可能性が考えられる。No.21-8のタケ亜科は直径3.0cmの丸竹であった。途中で折れ曲がって出土しているが、産出状況から全長は1m以上あったと推定され、屋根の構造材などであった可能性が考えられる。

木材として多く利用されていたクリとヌルデは、日当たりの良い環境に生育する陽樹で、二次林に多くみられる樹木である。遺跡周辺の植生と利用木材の関係を検討するには、花粉分析など他の分析結果と比較する必要があるが、今回の結果から石神遺跡の周辺に二次林が存在した可能性は十分にあり、そこから住居の用材を調達していたといえる。

第24表 樹種同定結果

No.	遺構	位置	試料No.	樹種	木取り	残存径、残存年輪数	
6-1	6号住居	-	炭1	双子葉類(草本)	丸	直径0.5cm	
6-2		-	炭2	タケ亜科	丸竹	直径1.2cm	
6-3		-	炭3	ヌルデ	割材(芯持)	2.7×1.5cm、3年輪	
6-4		-	炭4	イネ科	芯持丸木	直径0.6cm	
6-5		-	炭5	ヌルデ	半割	直径2.5cm、3年輪	
6-6		-	炭6	ヌルデ	芯持丸木	直径3.0cm、2年輪	
6-7		壁際、浮き	-	炭7	ヌルデ	みかん割り	半径1.6cm、3年輪
6-8		-	-	炭8	クリ	半割(芯持)	直径16cm (一部採取、年輪数不明)
21-1	21号住居	-	炭1	タケ亜科	半割	直径2.0cm	
21-2		壁際	炭2	イネ科	丸	直径0.2~0.6cm (平均0.5cm)	
21-3-1		-	炭3	クスノキ科	芯持丸木	直径1.0cm	
21-3-2		-		タケ亜科	丸	直径0.5cm	
21-4-1		南東壁際	炭4	ヌルデ	破片	4.5×2.0cm	
21-4-2		-		イネ科	丸	直径0.5~0.9cm (平均0.6cm)	
21-5		-	炭5	クリ	芯持丸木	直径1.5cm、3年輪	
21-6		-	炭6	クリ	板目(芯持)	2.3×0.8cm、3年輪	
21-7		床面より17cm上	炭7	クリ	芯持丸木	直径3.2cm、2年輪	
21-8		単子葉類直下	炭8	タケ亜科	丸竹	直径3.0cm	

第5節 石神遺跡から出土した灰の母植物

1. はじめに

石神遺跡の2区の調査で検出された竪穴住居址のカマド内から、灰とみられる白色物が採取された。ここでは、観察された機動細胞珪酸体を中心とする植物珪酸体の形状から、灰の母植物を検討する目的で、植物珪酸体分析を行った。

2. 試料と方法

試料は、2区23号住居のカマド下部5層より採取された分析No. 1である。遺構の時期は、平安時代(9世紀)である。

試料を実体顕微鏡下で観察しながら、植物遺体の灰と見られた部分を直接ピンセットで抽出し、グリセリンを用いてプレパラートを作製後、検鏡して母植物の検討を試みた。

3. 結果

検鏡した結果、観察された植物珪酸体を第25表に示した。

検鏡の結果、ウシクサ族の機動細胞珪酸体が多く検出され、キビ族の機動細胞珪酸体がわずかに観察された。次いでイネ類(籾殻)に形成される珪酸体が検出された。また、イネ型短細胞珪酸体とキビ型短細胞珪酸体も観察された。このほかに、棒状型とポイント型の不明植物珪酸体、不明植物細胞片が観察された。棒状型とポイント型の不明植物珪酸体は、すべてのイネ科植物に類似した形態の植物珪酸体が出現するため(近藤, 2010)、形状か

らの同定は困難であり、不明植物珪酸体とした。

4. 考察

平安時代(9世紀)の竪穴住居址である23号住居のカマド下部5層から採取された灰(分析No. 1)について植物珪酸体分析を行った結果、ウシクサ族とキビ族の機動細胞珪酸体、イネの類に形成される珪酸体が観察された。灰の母植物は、ススキやチガヤなどのウシクサ族が主体で、一部にキビ族とイネの籾殻が含まれていたと考えられる。

今回分析した灰は、カマド下部から採取された試料であり、検出されたイネ科植物がカマドの着火材あるいは燃料材として利用された可能性が高いと考えられる。

今回の分析では、イネの葉に形成される機動細胞珪酸体は検出されなかった。しかし、イネやヨシ、マコモなどの葉や茎の一部に形成されるイネ型短細胞珪酸体が観察されており、籾殻のみならず、稲藁についても同様に利用されていた可能性がある。またキビ族については、アワやヒエ、キビといった栽培種か、エノコログサやスズメノヒエ、イヌビエなどの雑草類かを機動細胞珪酸体の形態から分類するのは現時点においては困難であり、ここで検出されたキビ族が栽培種由来かどうかは不明である。

引用文献

近藤錬三(2010)プラント・オパール図譜, 167p, 北海道大学出版会.

第25表 石神遺跡出土灰の植物珪酸体

分析No.	調査区	遺構			層位	機動細胞珪酸体		イネ類珪酸体	短細胞珪酸体		不明植物珪酸体		不明植物細胞片
						キビ族	ウシクサ族		イネ型	キビ型	棒状型	ポイント型	
1	2区	23号住居	カマド	下部	5層	△	◎	○	○	◎	△	△	◎

第5章 総括

第1節 成果の概要と集落の変遷

本遺跡の調査区は、北端の3区から南端の4区まで約450mの長さがあり、幅の狭い低台地を北西-南東方向に横断している。今回の調査区の南北両側は低地であり、現在は水田として利用されているが(カラー口絵)、このような景観はおそらく古代においても共通していたと思われる。遺跡のある低台地は完全な平坦地ではなく、ごくわずかな凹凸があり、2区北西部には低地が入っていて平安後期には水田が作られていたことがプラント・オパール分析の結果判明している。

調査した遺構・遺物の時代は旧石器から近世にまで及ぶ。本書で報告した主な遺構数は以下の通りである。

竪穴住居	100軒
掘立柱建物	11棟
土坑	309基
井戸	25基
ピット	188基
溝	69条
旧石器	石器501点

これらを時期別に概観してみよう。まず、旧石器時代の調査の意義については本章第3節で述べるので省略するが、続く縄文時代は前期中葉の2基の土坑の他は土器・石器が少数出土するだけであり、次の弥生時代は遺物・遺構とも見つからない。

遺構が増えるのは古墳時代以降であり、竪穴住居が作られてムラが形成される。竪穴住居は4～10世紀中頃のものが100軒調査されている。その後遺構は希薄となるが、平安後期にもAs-B下水田があるので、全くの無人になったわけではないらしい。

中世は遺物が少ないので様相が分からないが、柱穴の径が小さな掘立柱建物にはこの時期のものが含まれている可能性がある。近世以降には調査範囲全域に区画溝と、イモ穴と思われる土坑が数多く掘られている。井戸のうちいくつかもこの時期のものかと推定されるが、建物

は確認できていないので、ムラの様子は分からない。遺物の出土も多くはないので、あるいはこの地は主として田畑に利用されていたのかもしれない。

調査した遺構から本遺跡の変遷を概観すると以上のようである。以下本節ではそのうちの4～10世紀中頃の集落の変遷を述べることにしたい。

本遺跡で調査された竪穴住居のうち、最古のものは4区2号竪穴住居であり、出土した土器から4世紀のものと思われる。この住居は今回の調査範囲の最南端近くに位置するが、残りが非常に悪く形状・規模すら不明である。同時期の住居は他に見つかっておらず、他に出土した遺物もきわめて少ないので、この時期の集落はごく小規模で、存続期間も短かったと思われる。この後しばらく空白期間があり、次に竪穴住居がみられるのは6世紀になってからである。この時期の住居は2軒あり、うち1軒は時期細分不能だが、もう1軒は後半のものであり、このころムラが再び形成されはじめたい。続く7世紀には9軒がある。時期を細分すると、前半3軒、第1四半期1軒、中頃1軒、後半1軒、第3四半期1軒、第4四半期1軒、細分不能1軒となり、それぞれ数は少ないもののほぼ途切れることなく存在することが分かる。小規模なムラがこの地に形成され、それが細々とではあっても継続されていたようである。

奈良時代の8世紀も、その前半には4軒がみられるだけであり、集落の規模に特に変化はみられないが、後半になると急に増加に転じることになる。後半の住居は合計14軒であり、第3四半期7軒、第4四半期5軒、それ以上には細分不能2軒がある。その他に8世紀末から9世紀初頭にかけての住居が1軒ある。増加の傾向は次の平安時代前期・9世紀にも続き、この時期の住居は55軒に急増する。本遺跡で調査した竪穴住居の半分以上がこの時期に属することになり、その集中ぶりが分かる。それらの時期を細分すると、前半7軒、第1四半期8軒、第2四半期10軒、中頃2軒、後半5軒、第3四半期12軒、第4四半期8軒、細分不能3軒である。第2四半期と中

頃と第3四半期を合計すると24軒に及ぶので、9世紀中頃を中心とした時期が本遺跡の集落のピークにあたるらしい。この後住居の数は急激に減少し、10世紀には10軒のみとなる。しかもそれらを細分してみると、前半2軒、第1四半期2軒、第2四半期2軒、中頃3軒、細分不能1軒、であり、10世紀中頃には住居が見られなくなるのである。この遺跡の古代集落には、8世紀中頃と、9世紀末、10世紀中頃に大きな画期があったことが以上の検討で明らかになったと思われる。

以上のように本遺跡の古代集落は、8世紀中頃、いわゆる天平時代の頃から急激に規模を拡大し、その後9世紀を通じて多くの住居が作られたが、律令制の変質が顕著となる9世紀末には大きく減少に転じ、10世紀中頃には廃絶したのである。その衰退の理由などは明確にしたいが、この集落の歴史を考える上では、最盛期となる8世紀後半～9世紀の頃に、大型の掘立柱建物が出現することに注目したい。それは1区1号掘立柱建物と2区2号掘立柱建物である。1区1号掘立柱建物は南北両面に廂をもつ東西棟の建物で、桁行2間以上、梁行4間の規模をもつ。残念ながら東側が調査区外となってしまう、全体が分からないのであるが、梁行が10.37mもあるのでかなり大型の建物であることは間違いない。2区2号掘立柱建物は南北棟のいわゆる側柱建物で、桁行3間、梁行2間と推定される建物である。桁行の柱間が10尺等間と広く、これもかなり大型の建物である。その所属時期は、1区1号掘立柱建物は良好な出土遺物がなく、他の遺構との重複もないので特定できないが、2区2号掘立柱建物は2軒の竪穴住居との重複関係から、8世紀前半から9世紀第3四半期の間のものであることが判明している。柱穴の規模などを見ると、両者ともかなり大きく、8～9世紀前半頃の建物としてふさわしいので、いずれも8世紀から9世紀にかけての建物と考えて大過ないものと思われる。同様に柱穴の規模が大きい建物には2区1号掘立柱建物もあり、これも同時期の可能性がある。以上の推定が正しいとすれば、集落の最盛期とほぼ同じ時期に、大型の掘立柱建物が複数作られていたことになる。それが造営された背景には、やはり何らかの有力者の存在を考えるのが妥当であろう。つまり、この時期、この集落にはかなり力を持った人物の存在が考えられるのであり、集落の規模の拡大は、その人物の存在を抜き

にしては考えられないと思われるのである。この集落は、次節で検討されるように山田郡内に属する可能性が高いと考えられるが、この時期には古代山田郡を構成する主要なムラに成長したと考えられる。ただし、この2棟の建物には建て替えの痕跡がなく、両方ともその存続期間はかなり短かったと想定される。今回の調査範囲は集落の一部を発掘しただけだと思われるので、未調査地には他にも大型の掘立柱建物があつた可能性はあるわけだが、このように短い期間だけ大型の建物があつたのだとすると、この集落がある程度の力を持っていた時期も比較的短かつたのではないかと推定される。10世紀に入ると急激に住居の数を減らすのは、それもひとつの背景だったのではないだろうか。このように石神遺跡の集落の変遷には、地域の政治動向が密接に関わっていると思われるのである。

なお、出土遺物の中で興味深い資料として墨書土器がある。この墨書土器は第3章に82点(うち1点は線刻土器であるが、以下一括して扱う)を報告しており、上野国の集落としては少なからぬ出土数である。そのうち判読できたものは、不確実なものも含めて37点で、その内訳は「若」10点、「他」9点、「大」(1点は線刻)・「田」各3点、「林」・「山」・「井」・「毛」各2点、「仙」・「部」・「春か」・「田中」各1点である。「大」を除いて吉祥句的な文字は少なく、氏族名や人名の一部ではないかと思われるものが多いようである。判読できなかった45点の中には、「𠄎」という記号が17点含まれていて注目される。これらは複数の遺構から出土しているが、出土した竪穴住居の時期は9世紀の第1四半期から第4四半期までのものがあり、9世紀を通じて書かれた記号であるらしい。それが何を意味するのかわからないが、集落内の小集団を示すものか、あるいは呪術的な記号なのではないかと思われる。いずれにしろ、共通の記号を用いる人々が、長い間この集落に居住していたという事実は興味深いものがある。これらの墨書土器は、文字数が1、2文字のものばかりであり、それぞれが何を表しているのか明確にはできないが、当時の人々が集落内で記した文字史料として非常に貴重であり、周囲の集落の墨書土器を含めての検討が今後期待される場所である。

第2節 山田郡域における奈良平安時代集落分布と石神遺跡

第2章第2節に記したように、律令制下において、群馬県域はほぼ上毛野国(和銅6(713)年までに上野国と改称)にあたり、『倭名類聚抄』によると、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれていた(当初は13郡、和銅4(711)年に多胡郡設置で14郡)。『太田市史』によると、太田市域は金山丘陵を境に西側は新田郡、東側は山田郡に属し、南東部は一部邑楽郡に属した可能性があるという。金山丘陵南東の本遺跡周辺は山田郡と推定されるが、郡境地域に位置することから、一部が邑楽郡に含まれていた可能性も否定できない。なお、『倭名類聚抄』の山田郡の項目には「山田・大野・園田・真張」の4郷、邑楽郡の項目には「池田・疋太・八田・長良」の4郷が確認できる。

さて、ここで山田郡域における奈良・平安時代の集落分布に着目すると、次の①～⑥の6地域に大分される。また、山田郡域における奈良平安時代の集落分布に着目すると、まず周辺各郡の郡衙推定地と山田郡衙推定地が近い距離にあることに気づく。金山丘陵を中心に南に邑楽郡衙推定地(川入遺跡付近、第4図範囲外。新田郡衙移転地の可能性もある)、東麓に山田郡衙推定地(太田市古氷付近、第4図範囲外。他にみどり市大間々町高津戸付近も山田郡衙推定地)、北西に新田郡衙(天良七堂遺跡、第4図範囲外)が存在する。これは、太田市役所を中心とした半径約4kmの範囲にあたる。

【奈良・平安時代の集落分布】

- ①龍舞台地地域。奈良時代集落のやや少ない地域。本遺跡の北西～西側。
- ②金山丘陵北～北東方渡良瀬川右岸地域には、東山道が通り、山田郡衙推定地が存在し、須恵器窯や製鉄炉跡など専門的生産遺跡が多い地域。北関東自動車道関連で多くの遺跡が発掘調査された。
- ③八王子丘陵北東麓渡良瀬川右岸地域。式内社である賀茂神社が所在。
- ④渡良瀬川左岸桐生川流域地域。式内社である美和神社

が所在。桐生川左岸側は下野国。

⑤渡良瀬川左岸山田川・小倉川流域地域。

⑥渡良瀬川左岸小平川流域地域。奈良時代集落の比率がやや高めの地域。山田郡衙推定地が存在。

本遺跡は渡良瀬川扇状地の後背低地I面上の低台地に位置するが、①地域南東部に隣接しており、本遺跡の集落は①地域の傾向に同じく平安時代が中心である。なお、この①～⑥地域の傾向は、発掘調査例が少ない地域もあり、今後の調査の進展により変わる可能性があることを留意せねばならないことを付言しておかねばなるまい。

ここで、この集落分布と和名類聚抄の郷名考証を重ね合わせると、第26表のようになる。真張郷が①地域または②地域の東南部、山田郷が渡良瀬川左岸地域の④～⑥地域いずれかに相当することは先行研究に照らし合わせれば一致するが、大野・園田の2郷については諸説あり統一をみない。この点に関しては、大野郷を④地域をふくむ範囲とすると園田郷は②地域をふくむ範囲、大野郷を②地域の東部・③地域とすると園田郷は①地域をふくむ範囲となる組み合わせが多いことを指摘するに止めざるをえない。また、問題となるのは、山田郡衙の所在地についてである。『山田郡誌』は⑥地域(みどり市大間々町高津戸)から②地域(太田市古氷)への移転を示唆し、『桐生市史』はその逆、『太田市史』は②地域(太田市古氷)とする。移転を想定するにしても、当初は郡名と同名の山田郷内に郡衙推定地を考えたいところではあるが、いずれの推定地も発掘調査がなされておらず、今後の調査研究の進展に期待せざるをえない。

本遺跡については、前述のように①地域南東部に隣接し同様の傾向を示すことから、真張郷にふくまれるとするのが妥当であろうと思われる。しかし、『上野国郡村誌』16によれば八重笠町が(4区の一部が該当)、木津博明(1999)の郡域推定に照らし合わせると石神遺跡主要部分(1～4区以外の未調査部分)が、邑楽郡にふくまれる可能性が指摘されている。改めて本遺跡周辺を見渡すと(第3図・第4図参照)、1～4区は遺跡主要部分の北東端に4区が接し北西方向に1～3区が張り出す形態を呈している。また、本調査の結果から、1～3区は龍舞深町遺跡(第4図2)寄りの北東側の標高が高くなり龍舞深町遺跡の低台地に接続すること、竪穴住居をはじめ奈良平安時代遺構の分布は1区から2区東半に濃密で4区

第26表 山田郡内郷推定地一覧

	大日本地名辞書6(吉田東伍1900)	日本地理志料(村岡良弼1903)	山田郡誌(岩澤正作1939)	桐生市史(八木昌平1958)	尾崎喜左雄1976	太田市史(梅沢重昭1996)	大間々町誌(大澤亥之七1998)	奈良平安時代集落分布①～⑥
山田(やまた)	渡良瀬川左岸川内村・桐生町・梅田村・境野村	東小倉・西小倉・須永・大間々・蕪町・天王宿・高津戸・長尾根・浅原・塩原・小平・仁田山	川内村・福岡村	川内村(高津戸村・山田村・須永村・小倉村)・福岡村	郡北部(桐生市川内町周辺)	渡良瀬川左岸桐生市街から川内町	渡良瀬川左岸大間々町では高津戸と福岡地区	渡良瀬川左岸地域の④～⑥いずれか
大野(おほの)	黒川谷福岡村・黒保根村	上広沢・中広沢・下広沢・境野・新宿・今泉・如来堂・桐生・安楽土・上久方・下久方・淺部・高沢・二渡	桐生市・梅田村・旧境野村	桐生市(桐生新町・安楽土村・下久方村・新宿村・境野村)・梅田村	不詳	矢場川・葦川に挟まれた沖積平野の北部只上・市場・富若・上小林町・植木野・桐生市広沢町・足利市南大町	太田市古水を中心として、北は賀茂神社を含み、古水の東北・東方・南西にまたがるかなり広大な地域	②の東部・③、③・④、または④か
藪田(そなた)	渡良瀬川右岸相生村・広沢村・毛里田村	丸山・吉沢・只上・矢田堀・古氷・一本木・矢部・猿楽・若林・富田・今泉・新田郡小金井・菅塩、強戸	毛里田村・広沢村・葦川村の一部東金井、安良岡、東長岡	相生村・広沢村・毛里田村・葦川村の一部	郡南部太田市東部地域	八王子丘陵南東麓を含む金山山東麓から南東地域吉沢・矢田堀・東今泉・東金井町・東長岡町・安良岡町・台之郷・石原町・下小林町	太田市内ヶ島を含む大野郷の南方	①の北部・②の西部、①西部、または②の西部・③か
真張(まはり)	葦川村・休泊村・矢場川村	三堀・市場・植木野・上小林・下小林・安良岡・東長岡・台之郷・大町・矢場・石原・茂木・龍舞・沖之郷・荒金	葦川村の一部・休泊村・矢場川村	(記述無し)	不詳	矢場川・葦川の中流域本矢場・茂木・沖之郷・龍舞に足利市里矢場町・新宿町・藤本町を含む	大野郷の東南方	①、または②の東部か

には希薄であることが確認されている。以上のことから、本遺跡1～3区は石神遺跡主要部ではなく龍舞深町遺跡と一体をなすものと推定される(4区については判断材料に乏しく、保留としたい)。とするならば、邑楽郡との境界問題を考慮に入れたとしても、本調査で確認された奈良平安時代の集落は山田郡真張郷の範囲内に位置すると考えられることが、ここに改めて確認されたと言える。なお、本調査区の集落を支えた生産域については、渡良瀬川扇状地後背低地Ⅰ面上が想定される。

参考文献

大泉町誌編集委員会1983『大泉町誌』下
 太田市1996a『太田市史』通史編原始古代
 太田市1996b『太田市史』通史編自然
 大間々町誌編さん室1998『大間々町誌』通史編上
 尾崎喜左雄1976『群馬の地名』下 上毛新聞社
 木津博明1999「第2章遺跡立地」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『東長岡戸井口遺跡』
 京都大学文学部国語学国文学研究室編1968『諸本集成倭名類聚抄』本文篇 臨川書店
 桐生市史編集委員会1958『桐生市史』上
 群馬県文化事業振興会1986『上野国郡村誌』17
 群馬県文化事業振興会1987『上野国郡村誌』16
 群馬県農政部土地改良課1992『土地分類基本調査』深谷村岡良弼1903『日本地理志料』 臨川書店
 山田郡教育会1939『山田郡誌』
 吉田東伍1900『大日本地名辞書』6 富山房

第3節 旧石器時代の成果

本遺跡は渡良瀬川扇状地の低台地上に位置する。扇状地を形成した渡良瀬川は遺跡北側を北西から南東方向に流れ、現渡良瀬川と遺跡との距離は直線で約6.5kmである。遺跡の北西には金山・八王子丘陵、さらにその西側には大間々扇状地が広がっている。また、遺跡南側には邑楽台地が広がっている。大間々扇状地では岩宿遺跡をはじめとして多くの旧石器時代の遺跡が発見されているが、渡良瀬川扇状地では旧石器時代遺跡の調査例が少ない。遺跡から4.2km北西に東長岡戸井口遺跡(太田市東長岡町)が立地し、金山北麓には細石刃期のハケ入遺跡(同市東今泉町)、さらに金山と八王子丘陵の鞍部に峯山遺跡(同市強戸町・緑町)が存在する。

今回の調査では、1区および3区、4区で旧石器時代の遺物が出土した。このうち1～2点のみの出土に止まった調査坑を除くと、1区北西部で446点、4区南端の6号調査坑で48点とまとめて石器が出土した。層位的には1区北西部はIV層～VII層にかけて出土し、VI層で最も多かった。火山灰分析と対照させると、IV層にAs-YPを含んでいる可能性があり、V層でAs-0k Group、VI層でAs-BP Groupが検出されていることから、1区北西部の石器群はAs-YPより下位で、As-BPまでの間と考えられる。一方、4区6号調査坑出土の石器群はIV層を中心にIV層からV層にかけて検出され、As-YPからAs-0k1までの間の時期と推定される。従って、今回の調査では少なくとも2つの文化層を確認した。上位の4区6号調査坑の石器群を「第1文化層」、下位の1区北西部の石器群を「第2文化層」と呼称する。

〈第1文化層〉

剥片、碎片、石核が48点出土した。内訳は剥片11点、碎片36点、石核1点で、ツールを全く組成しない。石材については、黒曜石が70%以上を占め、次いで硬質頁岩が約20%となっている。接合資料および剥片の観察から、多様な形状の剥片を剥離し、縦長剥片や石刃を連続して剥離した痕跡は見られない。また、剥片は長さが1.2～4.0cm、幅が1.4～3.3cmと小形のものが多く、ツールの素材には不向きである。

石器群は6号調査坑の中央部、7～10mの範囲でま

とまって出土した(第315図)。石器の分布は中央に集中部をもち、周辺で散漫になることから、1つのブロックとして捉えた。

遺跡の性格について現状で言及するのは困難であるが、碎片が多く出土し分布状況から石器製作を行ったことは推定できる。また、出土石器点数から、遺跡は短期間の利用であったと考えられる。

石器そのものから第1文化層の時期を知ることは困難であるが、出土層準から、旧石器時代後半期後半の石器群と推定される。しかし、時期を特定できる石器を伴っていないため、詳細は不明である。

〈第2文化層〉

446点の石器が出土した。内訳はナイフ形石器12点、尖頭状石器1点、彫刻刀形石器1点、二次加工ある剥片2点、縦長剥片22点、剥片55点、碎片353点である。これらの石器は2か所のブロックを形成し、調査区南壁付近で検出された。そのため石器群は調査区外にさらに延びると推測される。東長岡戸井口遺跡のような礫群は検出されなかった。

石器組成 ナイフ形石器が12点とまとまっている以外はツールは貧弱である。尖頭器およびスクレイパーは組成しない。尖頭状石器はナイフ形石器と製作方法は同じで、ナイフ形石器を再利用した可能性もある。彫刻刀形石器は彫刻刀面は明瞭だが、定型的なものではない。縦長剥片・剥片・碎片が合計で430点と96.5%を占める一方で、石核は全く出土していない。また、敲石等の礫石器も確認されなかった。

石材 黒曜石が438点(98.2%)と主体を占め、次いでチャートが3点(0.8%)である。黒曜石は群馬県内では産せず、近隣では信州、栃木県高原山が産地として知られる、いわゆる遠隔地石材である。一方、チャートは渡良瀬川流域で豊富に産出する石材である。本遺跡に近い東長岡戸井口遺跡A地点(第1文化層)(群埋文 1999)では、チャートが8割以上を占め、黒曜石は約13%と、本遺跡と石材構成が大きく異なっている点が注目される。東長岡戸井口遺跡A地点出土の黒曜石の産地は、蛍光X線分析の結果、和田峠または蓼科の信州系がほとんどであった。本遺跡出土の黒曜石について、残念ながら原産地推定分析を実施していないため、その産地は不明である。

ナイフ形石器 二次加工の部位で大きく以下の3種類に分けられた。

- 二側縁加工 : 第298図354・350・376・444・48・67・101・251・381
- 一側縁加工 : 第298図5・8
- 端部加工 : 第298図449

二側縁加工が最も多く9点出土した。縦長剥片を素材とし、バルブが基部側にあるものと先端部側にあるものの両方が認められる。また、刃部形状では直線的なものとやや外湾するものが見られる。

端部加工(449)は右側縁から先端部にかけての限られた範囲に二次加工が施されている。下半部は欠損している。本遺跡出土のナイフ形石器の中で唯一チャート製であり、加工部位もほかのものと異なっている。

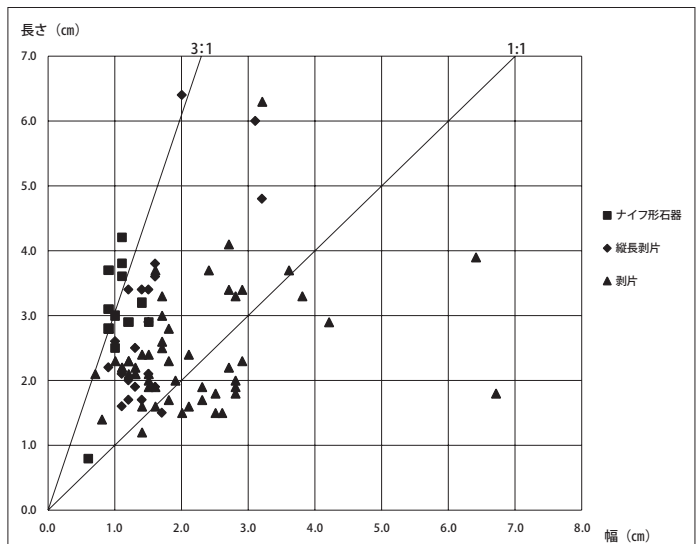
ナイフ形石器と縦長剥片、剥片の長幅比を第325図に示す。ナイフ形石器は破片を除き、長さが2.5～4.2cm、幅0.9～1.5cmの範囲内に収まる。長幅比が3:1前後のものが最も多く、平面形はかなり縦長である。

ナイフ形石器の素材は、ブランディングによる変形を考慮すると、縦長剥片のうち大形のものと推定される。本遺跡ではナイフ形石器の素材になり得る大きさの縦長剥片の出土は少なく、ナイフ形石器は搬入品である可能性が高い。

本遺跡出土のナイフ形石器は、形状および素材の用い方、二次加工部位で東長岡戸井口遺跡A地点(第1文化層)出土のものと共通性が高い。しかし、石材では、本遺跡では12点中11点が黒曜石と圧倒的であるが、東長岡戸井口遺跡ではナイフ形石器33点中チャート20点、黒曜石11点、黒色頁岩2点と使用石材の割合は異なる。

剥片剥離 接合資料および剥片類の観察から、大きく2種類の剥片剥離技術が認められた。①縦長剥片を連続的に剥離する技術。②小形の剥片を剥離する技術。①は接合資料6および縦長剥片で見られる。打面は複数の剥離面からなるものが多く、打撃方向は概ね一定だが、180度打面転移を行う場合もある。長さが5cm以下の小形の縦長剥片が多い。②では長さ1～4cm前後、幅1～4cm程度の小形剥片を剥離している。単一および複数の剥離面打面で、打撃は一方向のものが多いが、縦長剥片同様、180度の打面転移を行っている。

石核がないため不明だが、①②ともに小形品が多く、



第325図 ナイフ形石器・縦長剥片・剥片 長幅比

石核の大きさに規定されているのかもしれない。また、剥片および碎片の観察から、背面に自然面を残すものが少なく、遺跡には原石ではなく石核の形で持ち込まれたと推定され、遠隔地石材の消費のあり方をよく示している。

遺跡内の活動 剥片・碎片が多く、接合資料および石器分布状況から、本遺跡では石器製作が行われたことは明らかである。ただし、接合率の低さから、部分的な石器製作と推定される。また、出土石器点数がさほど多くないこと、ツールの種類が少なく敲石等の礫石器を欠くなど石器組成に偏りがあることなどから、現時点では、本遺跡の利用は短期間であったと考えられる。

編年的位置付け ナイフ形石器の特徴および縦長剥片の存在、出土層位などから、第2文化層は東長岡戸井口遺跡A地点(第1文化層)と同時期と考えられ、武蔵野台地IV層中・上部のいわゆる「砂川期」に相当すると考えている。

参考文献

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『東長岡戸井口遺跡』
 関口博幸 2004 「砂川期石器群における石器製作構造—東長岡戸井口遺跡出土石器群の分析から—」『研究紀要』22 pp.35-50 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『峯山遺跡Ⅰ—旧石器・縄文時代編—』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010 『ハケ入遺跡Ⅰ—旧石器時代編—』
 関口博幸 2010 「群馬における旧石器時代石器群の変遷」『北関東地方の石器文化の特色 予稿集』岩宿フォーラム2010/シンポジウム pp.6-14

遺物観察表 凡例

遺物観察表(第27表～第66表)は旧石器とそれ以外の遺物で体裁が異なるが、紙面を節約するためにそのいずれにおいても略号などを多く用いている。そのうち注意が必要なものについて、以下にその凡例を掲げる。

出土位置 竪穴竪穴住居から出土している遺物のうち、出土位置が挿図にドットで示されているものについては、竪穴住居内のおおよその出土位置を記述し、同時に床面とのレベル差を+○(cm)と示す。cmは略。床面直上から出土したものは「0」と表記する。貯蔵穴は「貯穴」と略して記述している。

計測値 土器・陶磁器は基本的に口径・底径・器高を計測し、それぞれ「口」・「底」・「高」と略している。その他、「台」=高台径、「摘」=摘み径などを用いた場合がある。ただし縄文土器はほとんどが小破片であるため、1点を除いて計測値は示していない。石製品・金属製品などでは長さ・幅・厚さなどを計測しているが、形状により異なるので表中に計測位置を明示した。単位はすべてcmである。重さを計測した場合もあり、その場合の単位はgである。()内の数字は、陶磁器・中近世在地系土器の場合は推定値、その他の場合は残存値である。

胎土 古墳時代～古代の土器では夾雑物を記述する。砂粒の場合は2mm以下を細砂粒、2mm以上を粗砂粒とする。その他、小礫、白色・黒色鉱物粒、赤色・赤黒色・赤茶色・灰黒色粘土粒、雲母、チャート、軽石、海綿骨針などの混入を記述する。その夾雑物が少ない場合は「少」と追記する。中近世陶磁器・在地系土器にはこの項目の記述はない。

縄文土器は、下記のA～Eに分類しそのアルファベットを記入する。

- A 中量の石英・結晶片岩・白色礫・粗砂と繊維含むやや粗雑な胎土。前期中葉。
- B 多量の石英礫・粗砂及び少量の白色礫・粗砂と繊維を含む粗雑な胎土。前期中葉。
- C 多量の白色・灰色粗細砂および繊維を含むやや粗雑な胎土。前期中葉。
- D 中量の石英・長石・灰白色粗細砂を含む緻密な胎土。前期後葉。
- E 多量の石英・長石・灰白色礫・粗細砂を含むやや緻密な胎土。中期末～後期前葉。

焼成 古墳時代～古代の土器についてのみ記入してある。土師器の場合は「良好」か「不良」かを区別したが、実際には「良好」のものしかなかった。須恵器・黒色土器の場合は「還元焰」か「酸化焰」かを区別し、酸化焰に近い還元焰の場合、あるいはその逆の場合は、「還元焰・酸化焰ぎみ」や「酸化焰・還元ぎみ」と記入する。同時に「やや軟質」「軟質」「不良」を区別して記入する場合もある。

色調 古墳時代～古代の土器についてのみ記述する。色調の名称は、『新版標準土色帖2005年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)に準拠する。

旧石器の遺物観察表

母岩 obは黒曜石を表す。

第27表 遺物観察表(1)

1区1号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	胎土/焼成/色調 石材・素材等			
第6図 PL.107	1	土師器 杯	西側中央+14 破片	口底		高	粗砂粒/良好/明赤 褐	底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に墨 書「□奈」。
第6図 PL.107	2	須恵器 杯	北西隅+8 1/3	口底	13.8 7.0	高 4.4	粗砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面は摩滅。 内面は摩耗。
第6図	3	須恵器 椀か	北西隅0 口縁部下位-高 台部	口底		高台 10.2	粗砂粒/酸化焰/淡 黄	ロクロ整形(右回転)。高台部はハの字状に開く。底部回転 糸切り後の付け高台。	器面は摩滅。
第6図 PL.107	4	土製品 土錘	西壁際中央+19 完形	長 幅	3.5 1.7	厚 孔 1.8 0.35	細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	形状は中央の張り出し方が不均等である。端部にはヘラで 切り落とした面が見られない。器面はナデか。	器面は摩滅。

1区7号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	胎土/焼成/色調 石材・素材等			
第7図 PL.107	1	土師器 杯	南壁際 3/4	口底	12.6 6.5	高 4.6	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。底部寄りに斜横位の手持ちヘ ラ削り。その間にナデの部分を残す。底部外面は手持ちヘ ラ削り。内面はナデ。	口縁部外面に 墨書「林」。底 部外面に黒 斑。
第7図 PL.107	2	土師器 杯	南部 口縁部片	口底	12.9	高	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。以下はナデ。指オサエ痕。内 面はナデ。	外面に墨書 「木力」。
第7図 PL.107	3	土師器 椀	南壁際 1/3	口底	13.4 8.4	高 5.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。底部寄りに斜位のヘラ削り。 その間にナデの部分を残す。高台部は付高台。貼付後、周 縁部にナデ調整。内面はナデ。	
第7図 PL.107	4	土師器 甕	南部 3/4	口底	19.0 3.6	高 27.2	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部は斜横位・斜位の、下 半部は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外 面はヘラ削り。	被熱。外面全 面に炭素吸 着。
第7図 PL.107	5	鉄製品 刀子	南部 ほぼ完形	長 幅	12.7 1.3	厚 重 0.6 9.44		棟・刃に僅かな開を持つ刀子で、茎には木材の痕跡が見ら れる。刀身は短く狭三角形で研ぎ減りと見られるが錆びに より詳細は不明。	

1区2号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	胎土/焼成/色調 石材・素材等			
第9図	1	土師器 杯	北東隅0、覆土、 掘方 1/4	口底	13.4 7.5	高 4.2	粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/黒褐	口縁部外面の先端は横ナデ。その上にヘラ磨き。以下は手 持ちヘラ削り。外面も手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に炭素吸 着。
第9図 PL.107	2	土師器 杯	北東隅+1、貯穴 上+10、覆土 3/4	口底	7.8	高 3.7	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部外面の先端は横ナデ。以下は一部に指オサエ痕・輪 積痕を残すナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第9図 PL.107	3	土師器 杯	中央+2 3/4	口底	13.0 7.5	高 4.7	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部外面の先端は横ナデ。以下はナデ。輪積痕を残す。 底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部と底部 内面に墨書 「□」。
第9図 PL.107	4	須恵器 杯	南壁中央+5、貯 穴上+1 口縁部一部欠	口底	13.4 6.2	高 4.0	粗砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内外面ともに 摩耗。
第9図	5	土師器 甕	覆土 口縁部～胴部上 半1/4	口底	13.1	高	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部は斜横位のヘラ削り。 内面は斜縦位のヘラ削り。	外面に炭素吸 着。
第9図 PL.107	6	土師器 小型甕	貯穴埋土 口縁部～胴部上 半1/3	口底	12.0	高	粗砂粒・赤色粘土 粒少/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部は横位の、それ以下は 縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面に炭素吸 着。煤か。
第9図	7	土師器 台付甕	竈掘方 台部	口底		高台 9.7	粗砂・細砂粒/良 好/橙	内外面とも横ナデ。	
第9図	8	土師器 甕	竈前+12～18、 覆土、1住覆土 口縁部～胴部中 位	口底	20.0	高	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位のヘラ削り。以下 は粘土付着。内面は横位のヘラナデ。	
第9図 PL.107	9	土師器 甕	竈前0～+6 口縁部～胴部中 位	口底	20.0	高	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位は斜縦 位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第9図	10	土師器 甕	竈煙道、覆土 口縁部～胴部上 位	口底	20.1	高	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	

1区3号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	胎土/焼成/色調 石材・素材等			
第11図 PL.107	1	土師器 杯	覆土 底部片	口底		高	粗砂粒/良好/にぶ い橙	外面はヘラ削り。内面はナデ。	外面に墨書 「□」。
第11図 PL.107	2	須恵器 杯	竈右壁際+2 完形	口底	13.2 6.2	高 4.0	小礫・粗砂粒/酸 化焰/灰褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、回転ヘラ削りを 重ねる。	器面は摩滅。 煤状に炭素吸 着。
第11図 PL.107	3	須恵器 杯	南東部0 1/2	口底	13.4 6.0	高 3.8	小礫・粗砂粒/酸 化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。 一部に炭素吸 着。
第11図 PL.107	4	須恵器 杯	北西部+13 口縁部一部欠	口底	13.4 7.4	高 3.8	小礫・粗砂粒/酸 化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	口縁部外面に 朱墨「仙力」。

遺物観察表

第28表 遺物観察表(2)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第11図 PL.107	5	土師器 小型台付甕	北西壁際0~+2 口縁部~胴部下 位3/4	口底	13.2	高	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。台部寄りに横ナデ。内面はヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。
第11図 PL.108	6	土師器 甕	白色粘土周辺+3 ~10 口縁部~胴部中 位	口底	18.9	高	粗砂粒/良好/に ぶい赤橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、中位以下は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に煤。粘土付着。
第11図 PL.108	7	土師器 甕	竈内 口縁部~胴部下 位1/2	口底	20.3	高	粗砂・細砂粒・白 色鉱物粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面の上位は横位の、中位以下は接合痕の部分に横位の、それ以外は斜位のヘラナデ。	被熱。
第11図 PL.108	8	土製品 土錘	西壁際+3 完形	長幅 1.5	厚 1.4	厚孔 0.45	細砂粒/酸化焰/黄 灰	両端部にはヘラで切り落とされた平坦面は見られない。器面はナデか。	器面は摩滅。 重量8.05g
第11図 PL.108	9	鉄製品 不詳	北東部+22 破片	長幅 0.9	厚 0.7	重 5.36		断面四角形の角棒状で両端に向かいやや細くなり劣化破損し全体形状不明。	

1区4号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第13図 PL.108	1	土師器 甕	中央+4、覆土 口縁・胴部一部 欠	口底 4.0	20.7	高 28.9	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、中位から下位は斜縦位の、下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	被熱。外面に炭素吸着。
第13図	2	土師器 甕	竈内 口縁部~胴部上 位3/4	口底	20.4	高	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第13図 PL.108	3	土師器 甕	竈内 胴部中位~底部	口底 5.2		高	粗砂・細砂粒/良 好/暗赤褐	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面の中位は横位の、それ以下は斜縦位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	被熱。外面に炭素吸着。煤か。

1区5号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第15図 PL.108	1	土師器 杯	覆土 口縁部片	口底	10.8	高	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部外面は先端が横ナデ。以下はナデ。内面はナデ。	外面に墨書「□」。
第15図 PL.108	2	須恵器 杯	竈内+4 完形	口底 5.2	11.2	高 3.6	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第15図 PL.108	3	須恵器 杯	竈前+2 2/3	口底 5.6	10.9	高 3.6	小礫・粗砂粒・赤 黒色粘土粒/酸化 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	

1区6号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第16図 PL.108	1	須恵器 杯	南東隅+11、竈 内/掘方 1/3	口底 6.8	13.2	高 4.5	粗砂・細砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩滅。

1区8号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第18図 PL.108	1	須恵器 杯	南壁際+3 2/3	口底 6.2	13.2	高 3.7	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。器面の一部に焼成時の炭素吸着。	口縁部外面に墨書「山」。
第18図	2	須恵器 杯	南西隅0~+15 2/3	口底 8.0	13.8	高 4.7	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部と口縁部最下位に回転ヘラ削り。	
第18図 PL.108	3	須恵器 椀	北部+3、中央+7 3/4	口底	15.4	高台 9.0	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰 ・軟質/灰黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削りの付け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	器面はやや摩滅。
第18図 PL.108	4	土師器 鉢	北西隅+9 口縁部~頸部片	口底	16.8	高	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。以下外面は横位のヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第18図 PL.108	5	土師器 甕	北部+5 口縁部~胴部上 位片	口底	22.0	高	粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位を主体としたヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第18図	6	土師器 甕	南西隅+25 口縁部~胴部上 位片	口底	23.0	高	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の最上位はナデの部分を残す。上位は横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位にハケ状工具を用いたヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。
第18図 PL.108	7	土師器 甕	南壁際+5~+6 口縁部~胴部中 位1/2	口底	18.0	高	粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の最上位のみ斜横位の、以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。

1区9号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第19図	1	土師器 杯	中央0~+5、覆 土 1/2	口底 6.1	12.4	高 5.2	粗砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部外面の先端は横ナデ。底部寄りに斜位のヘラ削り。間にナデの部分を残す。底部外面は砂底。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第19図	2	黒色土器 椀	南部中央+4 口縁部下位~高 台部片	口底		高台 6.1	粗砂粒/不明/黒	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。貼付後、周縁部に強い調子のナデ調整。	器面と割れ口も含め炭素吸着。黒色。

第29表 遺物観察表(3)

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第19図 PL.109	3	土師器 甕	竈袖+3～5 口縁部～胴部上 位1/2	口底	20.0	高	粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	外面に炭素吸着。煤か。
第19図	4	土師器 甕	竈内+8～17 胴部下位～底部 1/3	口底	4.7	高	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面は斜縦位のへら削り。内面はへらナデ。底部外面はへら削り。	被熱。

1区10号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第20図 PL.109	1	須恵器 杯	竈前0 1/3	口底	11.0 6.0	高	4.0 粗砂粒/酸化焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸着。
第20図	2	須恵器 椀	竈南+3 口縁部下位～高 台部	口底		高台	7.8 小礫・粗砂粒/酸 化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	
第20図 PL.109	3	石製品 砥石	竈北+1 完形	長幅	3.6 4.0	厚重	2.1 29.7 砥沢石	四面使用。裏面側が大きく研ぎ減り、変形が著しい。上端小口部に幅2mmの刃ならし傷が2条ある。	切り砥石

1区11号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第22図 PL.109	1	土師器 杯	竈右前+1 2/3	口底	13.3	高	4.0 粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面は摩滅。
第22図 PL.109	2	土師器 杯	北西隅+2 2/3	口底	13.0	高	3.6 粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第22図	3	土師器 杯	竈内+13 口縁部～底部 1/4	口底	14.2	高	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。	
第22図 PL.109	4	土師器 甕	北東隅+2・+3 口縁部～胴部中 位片	口底	20.0	高	粗砂・細砂粒/良好 /にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、以下は縦位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	被熱。外面に煤付着。
第22図	5	土師器 甕	竈左壁際+5、覆 土、掘方 口縁部～胴部上 位片	口底	20.9	高	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	

1区12号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第25図	1	土師器 杯	南東壁際+23、 覆土 1/2	口底	13.0	高	3.2 粗砂粒・赤茶色粘 土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第25図 PL.109	2	須恵器 杯	北西部+18、掘 方 3/4	口底	14.0 8.0	高	4.5 粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転へら削り。	器面はやや摩滅。
第25図 PL.109	3	須恵器 杯	覆土 口縁部下位～底 部1/4	口底	8.2	高	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部と口縁部の最下位に回転へら削り。外面に炭素吸着。	底部外面に墨書「□」。
第25図	4	須恵器 椀か	南東壁際+35 口縁部下位 ～底部片	口底		高台	12.6 黒色鉱物粒・赤黒 色粘土粒/還元焰 ・やや軟質/灰白	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部回転へら削り後の付け高台。貼付後、周縁部に丁寧なナデ調整。	
第25図	5	土師器 台付甕	貯穴上 胴部下位～台部 上位	口底		高	粗砂粒/良好/褐	胴部外面は斜位のへら削り。内面はへらナデ。基部外面は横ナデ。台部内面もナデ。	外面に炭素吸着。
第25図 PL.109	6	土師器 甕	竈左袖 2/3	口底	20.3 5.2	高	25.8 粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位の、これより下位は斜縦位のへら削り。内面の上位から中位は横位の、下位は縦位のへらナデ。底部外面はへら削り。	被熱。器面やや摩滅。
第25図 PL.109	7	土師器 甕	竈右袖 口縁部～胴部中 位片	口底	20.3	高	粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位は斜位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	被熱。外面に炭素吸着。

1区13号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第26図	1	土師器 杯	竈内 1/4	口底	13.5	高	3.3 粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面に煤付着。内面は摩滅。
第26図 PL.109	2	土製品 土錘	南東壁際中央 +17 完形	長幅	3.7 1.0	厚孔	0.9 0.2 細砂粒少/酸化焰/ 浅黄橙	一方の端部寄り整形が粗雑で、粘土を合わせて筒状にした様子が残る。器面はナデ。	重量2.79g

1区14号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第28図 PL.110	1	黒色土器 杯	北東隅+6 口縁部一部欠	口底	12.5 6.3	高	4.5 粗砂粒少/酸化焰/ 橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面の口縁部は横位の、底部は一定方向のへら磨き。	内面は黒色処理。
第28図 PL.110	2	須恵器 杯	北東部+14 3/4	口底	12.4 6.8	高	3.5 白色鉱物粒・海綿 骨針/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内外面とも摩耗。

遺物観察表

第30表 遺物観察表(4)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第28図 PL.110	3	黒色土器 杯	北東隅+7 口縁部一部欠	口底 6.3	高 12.7	4.4	粗砂粒少/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面の口縁部は斜横位の、底部は一定方向のヘラ磨き。器面に黒色処理。外面にも一部炭素吸着。	口縁部外面に墨書「他」。
第28図 PL.110	4	黒色土器 杯	中央+13 口縁部一部欠	口底 7.0	高 12.9	4.6	粗砂粒少/酸化焰/ 橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部にヘラ削り。内面の口縁部は横位の、底部は一定方向からのヘラ磨き。	内面は黒色処理。底部外面に墨書「記号」。
第28図 PL.110	5	黒色土器 杯	中央+15 口縁部上位欠	口底 6.8	高		粗砂粒少/酸化焰/ 橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面の口縁部は横位の、底部は一方向のヘラ磨き。	内面黒色処理。底部外面に墨書「記号」。
第28図 PL.110	6	鉄製品 鎌	南壁際中央+18 破片	長幅 3.5	厚 8.9	1.2 22.31		鎌破片で両端近くで僅かに歪み破損錆化する。柄取り付け部は欠損し全体形状は不明。	

1区18号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第29図 PL.110	1	土師器 甕	北東隅0~+1 口縁部~胴部 中位1/2	口底	19.7	高	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。	被熱。炭素吸着。
第29図 PL.110	2	土師器 甕	北東隅0~+3 胴部中位~底部 片	口底 4.8	高		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい褐	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	被熱。炭素吸着。
第29図 PL.110	3	礫石器 敲石	北壁際中央0 完形	長幅 16.2	厚 17.5	4.2 1180.8	粗粒輝石安山岩	小口部上端に敲打痕が残る。	扁平楕円礫

1区15号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第33図 PL.110	1	土師器 杯	中央西+36 口縁部~底部 1/3	口底	11.4	高	粗砂粒少・雲母/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分有する。内面はナデ。	
第33図 PL.110	2	土師器 杯	南西部+22 3/4	口底	12.0	高 3.7	粗砂粒少/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分有する。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第33図 PL.110	3	土師器 杯	中央西、北西部 +60 1/2	口底	13.0	高 4.3	粗砂粒少・赤色粘 土粒少/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面の下位は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面口縁部下位のナデの部分まで内面口縁部のやや下位まで漆残存。
第33図 PL.110	4	土師器 杯	中央西0 2/3	口底 8.2	高 12.4	3.8	粗砂粒少/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面の口縁部は斜位の、底部は螺旋暗文状のヘラ磨き。	
第33図 PL.110	5	土師器 杯	中央西+35、北 部+54、西部+47 1/2	口底	12.0	高	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面の一部に煤付着。
第33図 PL.110	6	須恵器 杯	中央東+45+48 口縁部片	口底	13.0	高	黒色粘土粒少/酸 化焰/にぶい灰白	ロクロ整形(右回転)。	口縁部外面に墨書「口」。
第33図 PL.110	7	須恵器 杯	覆土 口縁部片	口底		高	細砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(回転方向不明)。	口縁部外面に墨書「口」。
第33図 PL.110	8	須恵器 杯	中央+16+28 口縁部一部欠	口底 6.0	高 13.0	4.0	粗砂粒/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第33図 PL.110	9	須恵器 杯	南部 3/4	口底 6.0	高 12.6	4.5	粗砂粒・チャート /酸化焰/にぶい 黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第33図 PL.110	10	須恵器 杯	北西部+47 1/3	口底 7.4	高 13.4	2.8	粗砂粒/還元焰 ・軟質/灰白	底部の切り離しが粗雑なため、器形は大きく歪んでいる。作図より器高が大きくなる可能性あり。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第33図 PL.110	11	須恵器 杯	北東部+46~63 3/4	口底 7.4	高 12.2	3.8	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰 ・酸化焰/にぶい 黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	内面は摩耗。
第33図 PL.111	12	須恵器 杯	北東部+57 3/4	口底 6.8	高 12.6	3.7	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。外面の一部に焼成時の炭素吸着。	器面はやや摩耗。
第33図 PL.111	13	須恵器 杯	中央西+35、北 部+17+60 3/4	口底 8.0	高 12.4	3.4	粗砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面は摩耗。
第33図 PL.111	14	須恵器 杯	中央南西+20 1/3	口底 6.4	高 12.0	3.7	粗砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第33図 PL.111	15	須恵器 杯	北壁際中央+40 ~64、覆土 1/2	口底 7.3	高 13.2	4.1	粗砂粒/酸化焰/ 黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部は粗雑な回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸着。二次被熱。
第33図 PL.111	16	須恵器 杯	中央西+26 口縁部一部欠	口底 6.4	高 12.6	3.5	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面は摩耗。
第33図 PL.111	17	須恵器 杯	南壁際中央東 +24 1/4	口底 7.5	高 12.7	4.0	粗砂粒/還元焰 ・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削りか。	器面は摩滅。

第31表 遺物観察表(5)

挿 図 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第33図 PL.111	18	須恵器 杯	南部+23 1/2	口底	12.8 7.8	高	3.3	粗砂粒・灰黒色粘土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に幅広く回転ヘラ削り。	内面は摩耗。
第33図	19	須恵器 杯	北東部+43～57 1/2	口底	13.2 7.4	高	4.1	粗砂粒・赤黒色粘土粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第33図	20	須恵器 杯	中央+13・+15・+44、 北東部+37、南部+13 2/3	口底	15.2 8.4	高	5.5	粗砂粒/還元焰 ・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。口縁部の最下位は、回転ヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第33図	21	須恵器 杯	南壁中央 +15・+28 口縁部～底部片	口底	14.1 8.0	高	3.7	粗砂粒・灰黒色粘土粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第33図	22	須恵器 杯	中央北+38 1/4	口底	13.0 7.8	高	3.4	赤黒色粘土粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。口縁部の外面先端に、焼成時の炭素吸着。	器面は摩耗。
第34図 PL.111	23	須恵器 蓋	北西部 1/3	口底	17.8	高 摘	4.4 3.9	粗砂粒/酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘み部を貼付。周縁部にナデ調整。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	器面は摩滅。
第34図	24	土師器 甕	中央西+34・+47、 北西部+50 口縁部～胴部中位1/3	口底	22.2	高		粗砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第34図 PL.111	25	土師器 甕	中央0 口縁部～胴部下位1/3	口底	19.8	高		粗砂・細砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。
第34図	26	土師器 甕	南東部+62、棚 +5 口縁部～胴部上位1/3	口底	21.7	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第34図	27	須恵器 甕	中央北+35、北 西部+45 口縁部～肩部片	口底	22.7	高		白色鈹物粒/還元焰/灰	紐づくり後、ロクロ整形。	
第34図	28	須恵器 壺または瓶 か	北西部+46 胴部下位～高台部片	口底		高 台	10.2	白色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形か。胴部の最下位に回転ヘラ削り。高台部は底部切り離し後の付け高台。	
第34図	29	須恵器 甕	北壁際中央+52 胴部下位～底部片	口底	10.4	高		白色鈹物粒/還元焰/灰	紐づくり後、叩き・ロクロ整形。胴部外面は平行叩き目の上にナデ調整。最下位はヘラ削り。内面はナデ。調整が残る。	
第34図 PL.111	30	土製品 土錘	中央0 端部欠	長幅	2.8 1.7	厚 孔	1.5 0.3 0.3	細砂粒/還元焰 ぎみ/灰黄褐	両端部にはヘラで切り落とされた平坦面を有する。器面はナデ。	器面は摩滅。 重量6.32
第34図 PL.111	31	土製品 土錘	中央西+3 完形	長幅	3.2 1.8	厚 孔	1.7 0.4 0.4	細砂粒/還元焰 ぎみ/黄灰	両端部にはヘラで切り落とされた平坦面を有する。器面はナデ。	器面の一部に 煤付着。重量 8.06g
第34図 PL.111	32	土製品 土錘	中央西+18 端部欠	長幅	3.5 1.9	厚 孔	1.8 0.3 0.4	細砂粒/還元焰 ぎみ/灰黄褐	両端部にはヘラで切り落とされた平坦面を有する。器面はナデ。	器面は摩滅。 重量8.34g
第34図 PL.111	33	土製品 土錘	中央北西+28 完形	長幅	3.8 1.9	厚 孔	1.9 0.4 0.5	細砂粒/還元焰 ぎみ/黄灰	両端部にはヘラで切り落とされた平坦面を有する。器面はナデ。	重量11.03g
第34図 PL.111	34	土製品 土錘	北西部+30 完形	長幅	4.0 2.1	厚 孔	1.9 0.4 0.5	細砂粒/還元焰 ぎみ/黄灰	両端部にはヘラで切り落とされた平坦面を有する。器面はナデ。	重量12.56g
第34図 PL.111	35	土製品 土錘	中央西+54 端部欠	長幅	3.9 2.0	厚 孔	1.8 0.3	細砂粒/還元焰 ぎみ/黄灰	両端部にはヘラで切り落とされた平坦面を有する。器面はヘラナデ。	重量11.25g
第34図 PL.111	36	土製品 土錘	中央0 完形	長幅	3.4 2.5	厚 孔	2.4 0.6 0.6	粗砂粒少/還元焰 ぎみ/灰黄	器面はナデ。長さに対して直径が太い。	重量16.62g
第34図 PL.111	37	土製品 土錘	北西部+7 端部欠	長幅	3.6 2.4	厚 孔	2.6 0.6 0.6	粗砂粒少/還元焰 ぎみ/黄灰	器面はナデ。長さに対して直径が大きい。	重量17.06g
第34図 PL.111	38	土製品 土錘	北部+1 3/4	長幅	3.6 1.9	厚 孔	1.4 0.3	細砂粒/還元焰 ぎみ/灰	両端部にはヘラで切り落とされた平坦面を有する。穿孔が粗雑なため、孔の一端は側面に開孔している。	器面は摩滅。 重量7.39g
第34図 PL.111	39	石製品 紡輪	南部+60 ほぼ完形	径幅	(5.6) 0	厚 重	(1.9) 62.2	砥沢石	通例に反し上面の巻き取り部は浅く窪む。全面研磨されているが、下面平坦部の研磨は雑である。被熱して周辺部を破損する。棒軸孔径は8mmを測る。	薄型台形状
第34図 PL.111	40	礫石器 敲石	覆土 1/2	長幅	(9.0) 13.5	厚 重	4.2 663.4	粗粒輝石安山岩	小口部上端・右辺エッジに敲打痕が著しい。礫面雄摩耗については不明瞭。	扁平楕円礫
第34図 PL.111	41	礫石器 敲石	覆土 1/2	長幅	(6.1) 5.2	厚 重	1.7 71.2	黒色頁岩	左辺エッジに敲打・剥離痕が残る。表裏面とも摩耗して光沢を帯びる。	扁平礫
第35図 PL.111	42	礫石器 敲石	北東部 完形	長幅	18.2 13.8	厚 重	4.7 1722.8	粗粒輝石安山岩	右辺エッジ・下端側小口部に敲打痕が著しい。このほか、背面側には敲打・摩耗痕が広がり、縄文期磨石に似た要素を指摘することができるが、やや大形に過ぎ、台石的に使用されたものだろう。	扁平楕円礫

遺物観察表

第32表 遺物観察表(6)

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第35図 PL.111	43	鉄製品 刀子	北部+48 一部破損	長 幅	10.2 1.5	厚 重	0.7 9.00	棟・刃側ともに明瞭な間を持つ刀子で刃先側は劣化破損する。茎に木質等の痕跡は見られない。	
第35図 PL.111	44	鉄製品 刀子	中央+58 破片	長 幅	3.6 1.1	厚 重	2.1 3.09	刀子の茎と見られる破片で、上面からみるとU字型に曲がっている。	

1区17号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第36図 PL.111	1	黒色土器 杯	南東部+7 1/2	口 底	11.0 7.4	高	4.7	粗砂粒少/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切りか。口縁部外面の上半部と内面全面にはヘラ磨き。内面黒色処理。外面の一部も吸炭。

1区16号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図 PL.111	1	土師器 杯	竈内+7 口縁部一部欠	口 底	12.0	高	3.2	粗砂粒少・赤色粘 土少/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。以下にナデの部分を残す。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面に黒色の付着物。煤か。
第38図 PL.111	2	須恵器 杯	覆土 底部片	口 底		高		粗砂粒少/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(回転方向不明)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りか。底部外面に墨書「記号」。
第38図 PL.111	3	土師器 甕	竈前+7～20 口縁部～胴部中 位	口 底	19.0	高		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、中位は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。外面に炭素吸着。
第38図 PL.111	4	土師器 甕	竈前+15～25、 南東隅+17 口縁部～胴部中 位1/2	口 底	20.3	高		粗砂・細砂粒・白色 鈹物粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。頸部寄りに指押さえ痕。胴部外面の上位は斜横位の、中位は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。被熱。
第38図 PL.111	5	土製品 土錘	南壁際+5 完形	長 幅	4.0 2.0	厚 孔	1.9 0.4	細砂粒少/酸化焰/ 灰白	両端部は胴部の最大径に比して急に直径が細くなり、ヘラで切り落とした平坦面が見られる。器面はナデ。重量10.22g
第38図 PL.111	6	土製品 土錘	南東隅+14 完形	長 幅	4.4 1.9	厚 孔	1.8 0.3 0.4	細砂粒少/還元焰 ぎみ/黄灰	両端部にはヘラで切り落とした平坦面が見られる。器面はナデ。重量12.16g
第38図 PL.111	7	土製品 土錘	南西隅+10 完形	長 幅	4.6 1.9	厚 孔	1.8 0.3	細砂粒/酸化焰/灰 黄	両端部にはヘラで切り落とした平坦面が見られる。器面はナデ。重量12.20g
第38図 PL.111	8	鉄製品 釘	南壁中央0 一部破損	長 幅	6.6 1.5	厚 重	1.4 5.99		断面ほぼ正方形の角釘で、頭部は台状に広がるが折り返し等は見られない。先端に向かい細くなり端部は劣化破損する。
第38図 PL.111	9	鉄製品 鍬	竈内0 一部破損	長 幅	8.1 1.1	厚 重	1.1 6.17		細身の鉄鍬で茎との境を一周する形で段を持つ。茎は1cm程で劣化破損する。

1区19号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第39図 PL.112	1	土師器 甕	竈前0 口縁部～胴部下 位	口 底	18.5	高		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部は横位・斜横位の、下半部は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。被熱。外面に煤付着。内面は摩滅。
第39図 PL.112	2	土師器 小型甕	北東部0・+4 口縁部～胴部片	口 底	11.0	高		粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。

1区20号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第40図 PL.112	1	土師器 甕	北東隅+15 口縁部～胴部上 位1/4	口 底	21.0	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。被熱。
第40図 PL.112	2	石製品 紡輪	覆土 完形	径	4.8	厚 重	1.7 43.8	砥沢石	上面の機能部は丁寧に研磨され、平坦である。体部側面・下面には整形痕が残る。径7mmの孔を両側穿孔する。薄型台形状

1区21号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.112	1	土師器 杯	覆土 底部片	口 底		高		粗砂粒/良好/橙	外面はヘラ削り。内面はナデ。外面に墨書「□」。
第42図 PL.112	2	土師器 甕	竈左前 口縁部～胴部片	口 底	19.6	高		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。被熱。内面は摩滅。
第42図 PL.112	3	土師器 甕	竈内0 3/4	口 底	19.9 4.2	高	26.2	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は底部寄りを除いて横位のヘラナデ。被熱。外面に粘土付着。

1区23号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第45図 PL.112	1	土師器 杯	竈左0 1/2	口 底	12.8 6.8	高	4.3	粗砂粒・赤茶色粘 土粒/良好/灰白	口縁部の先端は横ナデ。底部寄りに斜位のヘラ削り。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。
第45図 PL.112	2	土師器 杯	貯穴脇0 1/4	口 底	12.6 6.4	高	4.1	粗砂粒・赤色粘 土粒/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。底部寄りに斜位のヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。器面に炭素吸着。
第45図 PL.112	3	土師器 甕	竈内0、竈前0 口縁部～胴部中 位2/3	口 底	13.7	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、中位は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。

第33表 遺物観察表(7)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚	重			
第45図 PL.112	4	土師器 甕	西側中央0 口縁部～胸部上 位1/2	口底	19.9	高		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胸部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第45図 PL.112	5	鉄製品 刀子	北西部掘方 破片	長幅	7.4 1.7	厚重	1.2 11.68		錆化の著しい鉄製品で、表面は硬い錆で覆われ本体は脆弱。棟側はなだらかな関を持つが刃側は不明瞭。刃は3cm程で劣化破損し茎も4cm程で劣化破損する。木質等の痕跡は確認できない。	

1区24号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚	重			
第46図 PL.113	1	須恵器 椀	南西部+14 1/3	口底	13.0 6.4	高	5.6	粗砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の、付高台。	器面は摩滅。
第46図 PL.113	2	土師器 甕	南東隅壁際+21 口縁部～胸部上 位2/3	口底	12.5	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胸部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面はやや摩滅。
第46図	3	土師器 甕	南西隅+16・+24、 北東部+2 口縁部～胸部上 位1/3	口底	20.8	高		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胸部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第46図 PL.113	4	鉄製品 釘	北壁際中央+3 一部破損	長幅	6.0 1.6	厚重	1.4 8.00		断面四角形の角釘で、頭は薄く広げられているが錆化により折り曲げ等は確認できない。頭から5cm程でくの字にまがり破損・錆化する、木質等は確認できない。	
第46図 PL.113	5	鉄製品 刀子	北東隅+20 破片	長幅	2.2 1.1	厚重	3.0 3.36		断面狭長方形の刀子の茎と見られる破片で両端とも劣化破損する。上面から見るとU字型に強く曲がり木質等の痕跡は見られない。	

1区25号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚	重			
第48図 PL.113	1	土師器 杯	南東隅、竈内 3/4	口底	11.8 7.2	高	3.9	粗砂粒少/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。底部寄りにヘラ削り。間にナデの部分を残す。底部外面に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。外面に炭素吸着。
第48図 PL.113	2	土師器 杯	北東隅+4 口縁部片	口底	11.8	高		粗砂粒少/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。以下はナデ。内面もナデ。	外面に墨書「□」。
第48図 PL.113	3	土師器 甕	竈北側+12・+26 口縁部～胸部上 位1/3	口底	20.2	高		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胸部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	被熱。
第48図 PL.113	4	土師器 甕	竈内、竈前+4 ～13 口縁部～胸部下 位	口底	20.2	高		粗砂・細砂粒・赤 色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。一部に型肌の部分を残す。胸部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面の下位は縦位の、これ以外は横位のヘラナデ。	
第48図 PL.113	5	石製品 砥石	北壁際中央+3 1/2	長幅	(6.6) 4.6	厚重	3.4 90.7	砥沢石	四面使用。各面とも著しく研ぎ減り、形状は糸巻状を呈す。小口部は分割後、磨き整形。器体中央で破損する。	切り砥石
第48図 PL.113	6	鉄製品 釘	覆土 ほぼ完形	長幅	15.6 4.0	厚重	1.1 16.31		断面長方形で、一端に楕円形の穴を持ち他端で細くなり尖る。中央部で二段階に折れ曲がる、木質等の痕跡は見られない。	
第48図 PL.113	7	鉄製品 不詳	覆土	長幅	4.1 1.1	厚重	1.2 2.42		断面狭三角形から狭長方形の鉄製品破片で僅かにカーブし両端とも劣化破損する。木質・布等の痕跡は認められない。	
第48図 PL.113	8	鉄製品 不詳	覆土	長幅	1.3 1.0	厚重	0.5 0.65		断面狭長方形の鉄製品破片で両端とも劣化破損する。木質・布等の痕跡は認められない。	

1区26号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚	重			
第49図 PL.113	1	須恵器 皿	竈内0 3/5	口底	15.0 6.4	高	2.8	小礫・粗砂粒・灰 黒色粘土粒/還元 焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第49図 PL.113	2	土師器 甕	北東部、覆土 口縁部～胸部上 位3/4	口底	19.4	高		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胸部外面の最上位は横位の、以下は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。胸部外面に粘土付着。

1区27号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚	重			
第50図 PL.113	1	須恵器 杯	覆土 口縁部片	口底		高		細砂粒少/還元焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。	外面に墨書「□」。
第50図 PL.113	2	礫石器 敲石	南隅+20 完形	長幅	12.8 6.2	厚重	4.0 516.0	溶結凝灰岩	小口部両端に敲打痕が残る。	柱状礫

1区28号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚	重			
第51図 PL.113	1	須恵器 蓋	中央北東+3・+20 1/2	口底	13.2 3.6	高	3.4	粗砂粒/還元焰/ 酸化焰/にぶい 黄橙	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘み部を貼付。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	摘み部ははじめ外面は摩耗。

遺物観察表

第34表 遺物観察表(8)

1区29号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第54図 PL.114	1	土師器 杯	北西部+8 1/2	口底	15.5	高	2.7	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上にヘラ磨き。外面に炭素吸着。	口縁部外面に 漆塗布。
第54図 PL.114	2	土師器 杯	東壁際中央+48、 南東部+22、覆土 1/2	口底	15.0	高	3.9	赤色粘土粒/良好/ 橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第54図	3	土師器 杯	北西部+49・+58 1/2	口底	13.8	高	4.2	粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面はヘラ削り。内面はナデの上に、口縁部は放射状に、底部は螺旋状にヘラ磨き。	
第54図	4	須恵器 杯	覆土 1/3	口底	11.7 7.0	高	4.5	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に幅広く回転ヘラ削り。	内面はやや摩 耗。
第54図 PL.114	5	須恵器 蓋	P4内、中央北西 +1 3/4	口底	11.2	高	2.0	粗砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘み部を貼付。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	
第54図 PL.114	6	土師器 甕	P3内 口縁部～胴部上 位	口底	13.9	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面はやや摩 滅。
第54図	7	土師器 甕	P1南東0、北西 部+8、覆土 口縁部～胴部中 位片	口底	19.5	高		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位・斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第54図	8	須恵器 甕	中央西+69、覆 土 口縁部1/4	口底	20.8	高		白色鈹物粒/還元 焰/灰	紐づくり後、ロクロ整形。	内外面に、自然 釉付着。
第54図	9	須恵器 甕	中央西+53・+65 口縁部～頸部片	口底	23.0	高		粗砂粒・白色鈹物 粒/酸化焰きみ/に ぶい赤褐	紐づくり後、ロクロ整形。	
第54図 PL.114	10	礫石器 敲石	北東部+33 完形	長幅	20.1 11.9	厚	3.9 1280.1	粗粒輝石安山岩	両側縁に敲打痕を有するほか、背面側に線条痕を伴う研磨面、裏面側に光沢面があり、砥石として使用されている。	扁平礫
第54図 PL.114	11	鉄製品 不詳	覆土 破片	長幅	3.1 1.6	厚重	0.6 1.90		薄い板状鉄製品で端部から1cm程に3×4mmの穴を持つ、他の端部は劣化破損し全体形状不明。	
第54図 PL.114	12	鉄製品 刀子	覆土 破片	長幅	2.9 1.4	厚重	0.7 1.98		刃先と茎を劣化破損する刀子破片で、棟側に明瞭な関を持つが刃側は破損により不明。	
第54図 PL.114	13	鉄製品 鏃	覆土 破片	長幅	3.5 0.7	厚重	0.5 1.14		断面長方形で端部は柳葉形で先端は劣化破損する。他端も劣化破損し詳細は不明。	
第54図 PL.114	14	鉄製品 不詳	覆土 ほぼ完形	長幅	1.4 1.2	厚重	0.9 1.07		幅6～8mmの幅狭い板状鉄製品で、円形に曲がり両端部が重なり合う。	

1区31号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第55図 PL.113	1	黒色土器 碗	南西壁際+9 1/4	口底	16.4 10.2	高	6.0	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転か)。底部回転糸切り後ヘラ磨き。口縁部外面と内面全面はヘラ磨き。	内面は黒色処 理。

2区2号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第59図 PL.114	1	須恵器 杯	西壁際中央0、 3住覆土 口縁部一部欠	口底	13.5 6.4	高	3.8	粗砂粒少/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。外面に炭素吸着。	口縁部外面に 墨書「山」。
第59図 PL.114	2	須恵器 杯	北東部0、北壁 際中央+17 1/2	口底	13.0 7.0	高	3.7	白色・黒色鈹物粒 /還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面はやや摩 耗。
第59図 PL.114	3	須恵器 杯	南東部+5～12、 南西部+3 口縁部一部欠	口底	12.0 6.3	高	4.0	白色鈹物粒/還元 焰・やや軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。器面は摩滅。	被熱か。
第59図 PL.114	4	土師器 甕	西部+2～8、覆 土 口縁部～胴部上 位1/4	口底	21.8	高		粗砂・細砂粒/良好 /にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に 炭素吸着。

2区3号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第61図 PL.114	1	土師器 杯	中央+3 3/4	口底	16.0	高	3.8	粗砂粒少/良好/灰 黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はヘラ磨き。口縁部外面と内面に漆塗布。	器面は摩滅。
第61図 PL.114	2	土師器 杯	竈内 1/3	口底	15.2	高	3.8	粗砂・細砂粒/良好 /明褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面は規則性の少ないヘラ磨き。口縁部外面と内面に漆塗布。	
第61図 PL.114	3	土師器 台付甕	中央+2・+7 胴部下位～台部	口底		高台	12.0	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい赤褐	胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。台部の上半部はヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は横ナデ。	被熱。
第61図 PL.114	4	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部中 位1/2	口底	22.2	高		粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位・斜位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。胴部外 面に煤付着。
第61図	5	土師器 甕	中央+7 口縁部～胴部上 位1/2	口底	14.8	高		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。	

第35表 遺物観察表(9)

2区4号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	口径			
第64図 PL.115	1	土師器 杯	竈内 底部	口底		高	粗砂粒/良好/橙	外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	外面に墨書「若」。
第64図 PL.115	2	土師器 椀	南壁際中央 1/2	口底 9.4	16.0	高 5.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部外面の先端は横ナデ。その下位は斜横位のへら削り。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第64図 PL.115	3	須恵器 杯	北東部、南壁際 中央 1/3	口底 7.8	13.3	高 3.5	灰色粘土粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	口縁部外面に 墨書「毛カ」。
第64図 PL.115	4	須恵器 杯	南壁際中央0 3/4	口底 7.6	13.0	高 3.4	小礫・粗砂粒/還元 焰・やや酸化焰 ぎみ/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面は 摩擦。口縁部先端は焼成時に炭素吸着。	底部外面に墨 書「若」。
第64図	5	須恵器 杯	西壁際南+4 1/3	口底 8.0	13.3	高 3.8	小礫・粗砂粒/還元 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。外面に 炭素吸着。	口縁部内面に 墨書「若」。
第64図	6	須恵器 杯	北東部+57 1/4	口底 7.2	13.4	高 3.3	細砂粒/還元焰・ やや酸化焰ぎみ/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部にロクロ の回転を利用して、数回のへら削り。	内面は摩擦。
第64図 PL.115	7	須恵器 杯	南壁際中央0 口縁部一部欠	口底 6.2	11.7	高 3.6	白色・黒色鉱物粒・ 海綿骨針/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第64図 PL.115	8	須恵器 蓋	南壁際中央0 摘み部～天井部 上半2/3	口底		高 3.0	白色鉱物粒・灰黒 色粘土粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、宝珠形の摘み部 を貼付。天井部外面の中心寄りに回転へら削り。	
第64図 PL.115	9	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部下 位2/3	口底	20.0	高	細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の最上位は横位の、その下位は 斜横位の、中位以下は斜縦位のへら削り。内面は横位のへ らナデ。	被熱。
第64図 PL.115	10	土師器 甕	竈内 口縁部1/4～胴 部上位片	口底	19.2	高	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のへら削り。内面は横 位のへらナデ。	被熱。
第64図 PL.115	11	礫石器 敲石	北東部+72 完形	長幅 5.5	13.4	厚重 3.3 357.9	ホルンフェルス	断面厚の薄い右辺エッジに敲打・衝撃剥離痕が残る。	棒状礫
第64図 PL.115	12	鉄製品 不詳	覆土 破片	長幅 2.0	2.5	厚重 0.5 3.02		薄い板状鉄製品で両端部とも劣化破損し全体形状不明。 50012と断面形状が近いが直接接合はしない。	

2区6号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	口径			
第70図 PL.115	1	土師器 杯	中央南西+17 1/4	口底 7.8	10.8	高 3.9	粗砂粒・白色鉱物 粒少/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ。底部外面は下位に手持ちへら削り。口縁 部との間にナデの部分を残す。内面はナデ。	底部外面に墨 書「□」。
第70図 PL.115	2	土師器 杯	竈内 1/4	口底 8.8	11.3	高 3.2	粗砂粒少/良好/に ぶい褐	口縁部外面の先端は横ナデ。以下はナデの部分を残す。底 部外面は手持ちへら削り。	器面は摩滅。 炭素吸着。
第70図 PL.115	3	土師器 杯	掘方 底部片	口底		高	細砂粒/良好/橙	外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	外面に墨書 「他カ」。
第70図 PL.115	4	土師器 杯	北部0 底部片	口底		高	粗砂粒/良好/にぶ い橙	外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内外面に墨 書。ともに 「若」。
第70図 PL.115	5	須恵器 杯	南西部 口縁部片	口底	11.2	高	黒色鉱物粒/還元 焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。	内面に墨書 「田中」。
第70図 PL.115	6	須恵器 椀か	北部中央+28 口縁部下位～底 部	口底 6.0		高	粗砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に手持ち へら削り。内面の口縁部は横位の、底部は一方のへら磨 き。	内面に黒色処 理。底部外 面に墨書「記 号」。
第70図 PL.115	7	須恵器 杯	覆土 底部片	口底		高	粗砂粒・赤褐色粘 土粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転へ ら削り。	底部外面に墨 書「記号」。
第70図 PL.115	8	須恵器 杯	覆土 底部片	口底		高	粗砂粒少/酸化焰 ぎみ/橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面に墨 書「若」。
第70図 PL.115	9	須恵器 杯	中央+40 底部1/4	口底 7.0	12.6	高 3.5	灰黒色粘土粒/酸 化焰ぎみ/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部にナデ調 整か。	内面は摩擦。 底部外面に墨 書「記号」。
第70図 PL.115	10	須恵器 杯	中央+1、西壁際 中央+44 1/2	口底 6.5	12.9	高 3.8	粗砂粒少/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内外面 の一部に炭素吸着。内面は摩滅。	底部外面に墨 書「記号」。
第70図 PL.115	11	須恵器 杯	東壁際中央+41、 覆土 1/2	口底 7.2	12.2	高 3.6	白色鉱物粒・赤色 粘土粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面に墨 書「記号」。
第70図 PL.115	12	須恵器 杯	北東部+25 1/4	口底 7.0	12.2	高 3.5	灰黒色粘土粒少/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面に墨 書「□」。内 面にも墨書 「若」。周囲に 墨痕。
第71図 PL.116	13	須恵器 杯	北東部0、覆土 2/3	口底 6.6	12.8	高 3.9	粗砂粒少/酸化焰/ 灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面に煤付 着。摩擦。

遺物観察表

第36表 遺物観察表(10)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径			
第71図 PL.116	14	須恵器 杯	中央+23、覆土 1/2	11.4 5.5	高	3.3	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第71図 PL.116	15	須恵器 杯	中央+35、南西 部+23+28、P10 内 2/3	12.8 7.4	高	3.8	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(左回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。 口縁部先端に 焼成時の炭素 吸着。
第71図 PL.116	16	須恵器 杯	北東隅0、中央 +22、覆土 1/3	13.0 7.2	高	4.1	灰黒色粘土粒少/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転へ ら削り。口縁部先端に黒斑。	底部外面に墨 書「若」。内 面にも墨書 「若」。
第71図 PL.116	17	須恵器 杯	中央東+25 1/4	12.8 7.4	高	3.8	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰・や や軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面は摩滅。 内面は摩滅。
第71図 PL.116	18	須恵器 杯	北東隅+38+45・ +50+64 3/4	11.5 5.8	高	3.7	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第71図 PL.116	19	須恵器 杯	中央東+25 完形	12.8 8.6	高	3.6	赤褐色粘土粒/酸 化焰/明赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転へ ら削り。外面は摩滅。	内面に黒色の 付着物。漆か 漆を塗布し た状態では ない。30192と 重なって出土
第71図 PL.116	20	須恵器 杯	中央東+25 口縁部一部欠	13.0 8.0	高	3.8	赤茶色粘土粒/酸 化焰/にぶい橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転へ ら削り。	30188と重 なって出土。
第71図 PL.116	21	須恵器 椀	北部0、南壁際 西、南西部+43 1/2	15.7 9.5	高	6.6	粗砂粒/還元焰・ やや軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転へら削り(左回転)。	器面に焼成時 の炭素吸着。 摩滅。
第71図	22	須恵器 椀	中央東+42、北 東隅+54、覆土 1/4	14.7 8.0	高	6.5	白色鈹物粒・海綿 骨針/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転へら削り。	
第71図	23	須恵器 蓋	北東部+43、北 東壁際+58、覆 土 天井部片		高		小礫・粗砂粒・海 綿骨材/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。天井部は回転糸切り後に摘み部を貼 付。外面天井部の中心寄りに回転へら削り。	
第71図 PL.116	24	土師器 甕	2・3号竈内 口縁部～胴部上 位	20.3	高		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のへら削り。内面は横 位のへらナデ。	
第71図	25	土師器 甕	3号竈内 口縁部～胴部上 位1/3	21.8	高		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへら削り。内面は横位 のへらナデ。口縁部内面に、成形時に生じた亀裂に粘土塊 を貼付し、補修を施した痕跡あり。	
第71図 PL.116	26	土師器 甕	3号竈内 口縁部～胴部上 位1/4	19.2	高		粗砂・細砂粒・白色 鈹物粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の最上位は横位の、以下は斜位 のへら削り。内面は横位のへらナデ。	被熱。
第71図 PL.116	27	石製品 紡輪	西壁際中央+2 完形	4.5	厚重	1.5 49.1	蛇紋岩	全面が研磨され、光沢が著しい。径8mmの棒軸孔を穿つ。 上面側の孔周辺が摩耗して光沢を帯びるほか、下面側平坦 面・孔の対角線上に径1mm強の針孔状の孔2を刻む。針孔 状の孔の一方にはこれを中心として弧線が刻まれている。 弧線は径5mmの円弧を描いていることから管状の穿孔具に よるものといえることがきよう。	薄型台形状
第71図 PL.116	28	石製品 砥石	北壁際西+39 完形	8.6 7.1	厚重	1.6 169.5	細粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗して、光沢を帯びる。背面側には多方向に 弱い線条痕が残る。	扁平礫
第71図 PL.116	29	礫石器 敲石	西部中央+41 完形	9.7 7.3	厚重	2.8 290.2	粗粒輝石安山岩	表裏面・両側縁に敲打痕が著しい。下端側の破損面は摩耗 しており、破損後も使用され続けたというべきだろう。	扁平礫
第71図 PL.116	30	鉄製品 刀子	東壁際中央+4 一部破損	17.6 1.5	厚重	0.7 12.55		大型の刀子で細長い刀身を持ち先端は劣化破損する。棟側 には関を持つが刃側は劣化のため不明、茎の一部に木質が 付着する。	

2区7号竈穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径			
第74図 PL.116	1	須恵器 杯	北西部+1+7 3/4	12.9 7.0	高	3.8	赤黒色粘土粒/酸 化焰/浅黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第74図 PL.116	2	須恵器 杯	南壁際中央+5 完形	12.3 5.9	高	4.2	粗砂粒少・赤褐色 粘土粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面に墨 書「記号」。
第74図 PL.116	3	須恵器 杯	南西部+19 3/4	13.2 6.0	高	3.5	粗砂粒/還元焰・ 酸化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部は粗雑な回転糸切り。切り損じ た部分を、指で押さえて補修している。	
第74図	4	須恵器 杯	南西部+2+3 1/2	12.0 6.6	高	3.75	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第74図	5	須恵器 杯	北東部+22 1/4	13.4 8.0	高	3.35	粗砂粒/酸化焰/黄 褐	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転へら削り。	器面に、鉄分 凝集。
第74図 PL.116	6	須恵器 杯	南部+8+17 3/4	12.9 6.3	高	4.2	粗砂粒・黒色鈹物 粒/酸化焰/浅黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第74図 PL.116	7	須恵器 椀	南壁際東+22 口縁部下位～高 台部1/2		高台	10.8	赤褐色粘土粒/還 元焰/灰黄	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部回転糸切り後の付高 台。貼付後、周縁部にナデ調整。	底部外面に墨 書「記号」。

第37表 遺物観察表(11)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第74図	8	土師器 甕	北東部+17 口縁部~胴部上 位1/3	口 底	20.8	高	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。		
第74図 PL.116	9	石製品 紡輪	南部掘方 1/2	径	(4.0)	厚 重	1.6 24.7	蛇紋岩	全面研磨され、光沢が強い。径10mm弱の孔を穿つ。表裏面とも孔周辺は同心円状の整形痕を残す。孔内面の線条痕は縦線条痕が圧倒的で、回転穿孔した痕跡は見られない。	薄型台形状
2区9号竪穴住居出土遺物										
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第75図 PL.117	1	土師器 杯	西壁際中央+20 1/4	口 底	13.4 9.0	高	3.5	細砂粒/良好/灰白	口縁部の先端は横ナデ。これより下位は指ナデ・ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
2区11号竪穴住居出土遺物										
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第78図 PL.117	1	須恵器 杯	竈右壁際0 1/2	口 底	14.4 5.6	高	3.9	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(左回転)。底部から口縁部下位に回転ヘラ削り。器面は摩滅。	
第78図	2	土師器 甕	中央西0~+15、 掘方、覆土 口縁部~肩部片	口 底	24.0	高		粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。内面に炭素吸着。黒斑か。
第78図 PL.117	3	土師器 甕	竈左袖、竈左前 0~+18、覆土 口縁部~胴部下 位	口 底	22.0	高		細砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位から下位は斜縦位のヘラ削り。内面の上半部は縦位の、下半部は横位のヘラナデ。	被熱。
2区12号竪穴住居出土遺物										
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第79図	1	須恵器 杯	中央+6 1/4	口 底	12.0 6.0	高	3.3	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
2区13号竪穴住居出土遺物										
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第81図 PL.117	1	土師器 杯	竈内 1/2	口 底	11.9	高		粗砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。その間に型肌部分を残す。	器面はやや摩滅。
第81図 PL.117	2	須恵器 杯	竈内 底部片	口 底	7.4	高		粗砂粒・赤色粘土 粒/還元焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。口縁部外面は底部寄りにも回転ヘラ削り。	底部外面に墨書「毛力」。
第81図 PL.117	3	土師器 小型台付甕	竈内 頸部~台部1/2	口 底		高 台	10.0	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜位・斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。基部から台部は横ナデ。内面は横ナデ。	胴部外面に煤吸着。
第81図 PL.117	4	石造物 板碑片か	竈内 体部破片	長 幅	(6.2) (5.8)	厚 重	1.1 49.1	緑色片岩	小片で詳細は不明だが、平坦面を持つ形状・石材から板碑片と見た。背面側・右辺上端は直線的に窪み、葉研彫りの文字の端部かもしれない。	
2区14号竪穴住居出土遺物										
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第83図 PL.117	1	須恵器 杯	南壁際中央+11 1/2	口 底	12.4 7.2	高	3.5	粗砂粒・灰黒色粘 土粒・海綿骨針/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第83図 PL.117	2	須恵器 杯	北西部+8 1/3	口 底	12.6 8.0	高	3.9	粗砂粒少・灰黒色 粘土粒/酸化焰ぎ み/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面に墨書「記号」。
第83図	3	須恵器 蓋	中央+51 口縁部~体部片	口 底	18.8	高	3.0	粗砂粒/還元焰/明 オリープ灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	
第83図 PL.117	4	土師器 小型台付甕	竈内 頸部~胴部下 位	口 底		高		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部は横位・斜横位のヘラ削り。下半部は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第83図 PL.117	5	土師器 甕	南東隅+14 口縁部~胴部上 位1/2	口 底	19.4	高		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第83図 PL.117	6	土師器 甕	竈内 口縁部~胴部 中位	口 底	19.9	高		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の最上位は横位の、その下位は斜横位の、中位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面は摩滅。
第83図 PL.117	7	礫石器 砥石	西部中央+39 完形	長 幅	13.7 10.4	厚 重	5.9 894.5	粗粒輝石安山岩	背面側の横位線条痕を伴う研磨面、裏面側に直線的敲打痕があるほか、両側縁に敲打・摩耗痕が形成されている。敲打・摩耗痕は研磨面に出しており、砥石が転用されている可能性が高い。	礫砥石
2区15号竪穴住居出土遺物										
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第85図 PL.118	1	土師器 杯	南西隅 1/2	口 底	12.6 8.4	高	3.9	粗砂粒少/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。下位は指オサエ痕を残すナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に墨書「他」。
第85図 PL.118	2	土師器 杯	北東部 3/4	口 底	12.6	高	3.9	粗砂粒少/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。上位は指オサエ痕を残すナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面は摩滅。
第85図 PL.118	3	黒色土器 椀	竈前 口縁部一部欠	口 底	12.3 6.8	高	4.7	粗砂粒少/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に手持ちヘラ削り。内面の口縁部は横位の、底部は一方のヘラ磨き。	内面に黒色処理。

遺物観察表

第38表 遺物観察表(12)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第85図	4	須恵器 鉢	南壁際中央 底部～胴部片	口底	9.5	高	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は断面台形。底部回転糸切り 後の付け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	

2区16号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第88図 PL.118	1	土師器 杯	竈内 1/2	口底	11.75	高	3.25	粗砂粒少/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。 その間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第88図	2	土師器 杯	2号竈内 1/4	口底	12.0	高	3.3	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部の先端は横ナデ。以下はナデ。底部外面は手持ちへ ら削り。内面はナデ。	
第88図 PL.118	3	須恵器 杯	北東部+55 1/4	口底	12.2 7.0	高	3.25	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に手持ち へら削り。	内面は摩耗。
第88図 PL.118	4	須恵器 杯	北東部 口縁部片	口底		高		細砂粒/酸化焰ぎ み/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転か)。	外面に墨書 「□」。
第88図 PL.118	5	須恵器 杯	掘方 1/2	口底	12.3 6.6	高	4.0	粗砂粒少/還元焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面に墨 書「□」。文字 に重なって周 囲に墨痕。内 外面とも摩 滅。
第88図	6	須恵器 杯	南壁際中央0 1/4	口底	13.2 7.0	高	3.6	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、周縁部に回転へら 削りか。	
第88図 PL.118	7	須恵器 杯	1号竈前+1 2/3	口底	12.8 7.6	高	3.7	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰・酸 化焰ぎみ/にぶい 黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第88図 PL.118	8	石製品 有孔石製品	北東隅+5 1/2	長 幅	4.9 (2.8)	厚 重	(2.0) 11.8	軽石	上端小口部に孔を両側穿孔する。破損面上端の研磨は破損 後のものである。下端部も平坦に整形されているが、破損 前の整形が明らかではない。	扁平礫
第88図 PL.118	9	鉄製品 鎌	破片	長 幅	9.0 4.8	厚 重	1.2 26.10		鎌破片で大きく歪み端部は破損・錆化する。柄装着部の形 状は不明。	
第88図 PL.118	10	鉄製品 刀子	南西部0 一部破損	長 幅	5.0 1.5	厚 重	5.4 14.94		刀子破片で棟および刃側共に明瞭な関を持つ。茎は8mm程 で破損錆化し木質等の痕跡は見られない。上面から見ると 大きくコ字型に折れ曲がる。	
第88図 PL.118	11	鉄製品 刀子	西壁際南+4 破片	長 幅	7.3 1.9	厚 重	1.7 6.99		刀子の茎と見られる破片で、上面から見ると刀身より端部 で浅く曲がり端部は破損後劣化する。茎表面にイネ科植物 とみられる痕跡が付着するが柄と見られる木質は見られな い。	
第88図 PL.118	12	鉄製品 刀子	南西隅+3 破片	長 幅	3.5 1.6	厚 重	1.8 4.70		錆化の著しい刀部破片で両端とも劣化破損する。滋養面か らみるとしの字型に折れ曲がる。	
第88図 PL.118	13	鉄製品 刀子	南西隅+3 破片	長 幅	4.2 1.4	厚 重	1.5 5.34		錆化の著しい刀部破片で両端とも劣化破損する。滋養面か らみるとくの字型に折れ曲がる。	
第88図 PL.118	14	鉄製品 刀子	破片	長 幅	5.0 1.3	厚 重	0.5 3.91		刀子破片で破先は劣化破損、棟側に関を持ち茎も劣化破損 し全体形状は不明。	
第88図 PL.118	15	鉄製品 刀子	北東隅+11 破片	長 幅	5.8 1.5	厚 重	1.0 4.71		錆化の著しく刀先および茎端部は劣化破損する。棟側に明 瞭な関を持ち、関から5mm程の刀身で僅かに折れ曲がる。	
第88図 PL.118	16	鉄製品 鎌	北西部0 破片	長 幅	6.3 2.3	厚 重	0.9 9.70		錆化脆弱な鉄鎌先端部破片で、腸割り両端部は劣化破損す る。茎との境を一周する形ではっきりした段を持ち茎は5 mm程で劣化破損し矢柄等の痕跡は確認できない。	
第88図 PL.118	17	鉄製品 鎌	北西部0 破片	長 幅	2.1 0.6	厚 重	0.5 1.29		19-1の鉄鎌の茎破片と見られるが直接接合しない。	

2区17号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第90図	1	土師器 杯	竈内 1/3	口底	12.0	高	3.1	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第90図	2	土師器 杯	中央+44、覆土 1/2	口底	13.2 8.1	高	3.7	粗砂粒少/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。以下は斜位のナデ。底部外面 は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面に黒色の 付着物。

2区19号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第91図	1	須恵器 杯	P1上+16 1/3	口底	13.6 8.8	高	3.5	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転へ ら削り。	口縁部外面と 底部外面に墨 書。ともに 「大」。
第91図	2	須恵器 杯	北東部+22 3/4	口底	13.2 7.3	高	3.7	粗砂粒/還元焰 ・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、体部外面の最下位 とともに回転へら削り。	外面に炭素吸 着。

2区20号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第93図 PL.118	1	須恵器 杯	覆土 口縁部片	口底	13.9	高		粗砂粒少/酸化焰/ 橙	ロクロ整形(右回転)。	外面に墨書 「他力」。
第93図 PL.118	2	土師器 杯	北壁際西 底部片	口底		高		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	外面に墨書 「□」。

第39表 遺物観察表(13)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第93図 PL.118	3	土師器 杯	覆土 底部片	口底		高	赤色粘土粒/良好/ にぶい橙	底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	外面に墨書 「□」。	
第93図 PL.118	4	須恵器 杯	西部 口縁部片	口底	12.7	高	粗砂粒少/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形(右回転)。	外面に墨書 「田カ」	
第93図 PL.118	5	須恵器 杯	中央西 底部片	口底	8.0	高	灰黒色・赤色粘土 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転へら削り。	底部外面に墨 書「記号」。被 熱か。	
第93図 PL.118	6	須恵器 杯	覆土 口縁部片	口底		高	細砂粒/酸化焰ぎ み/灰黄	ロクロ整形(回転方向不明)。	内面に墨書 「□」。	
第93図 PL.118	7	黒色土器 杯	北東部、南東部 1/3	口底	13.4 6.6	高	4.2 赤色粘土粒少/酸 化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面の 口縁部は横位の、底部は一方向のへら磨き。	内面に黒色処 理。	
第93図	8	須恵器 杯	北部 1/3	口底	13.2 7.2	高	3.85 粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。	
第93図 PL.118	9	須恵器 杯	中央、覆土 3/4	口底	12.6 7.6	高	3.8 粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に手持ち へら削り。	内面は摩耗。	
第93図 PL.118	10	須恵器 杯	北東部、中央西 1/2	口底	12.0 7.3	高	3.4 粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/明オ リーブ灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転へ ら削り。		
第93図	11	須恵器 蓋	中央東 摘み部～口縁部 片	口底	15.8	高 摘	4.6 4.8 白色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘部を貼付。天 井部外面の中心寄りに回転へら削り。内面はナデ。		
第93図 PL.118	12	須恵器 椀	北東隅、南部 1/4	口底	17.2	高 台	6.4 10.8 赤色粘土粒・白色 鈹物粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転へら切り後の付高 台。貼付後、周縁部にナデ調整。	内面は摩滅。 底部外面に墨 書「記号」。	
第93図 PL.118	13	須恵器 椀	中央 高台部片	口底		高 台	10.6 赤色粘土粒/還元 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転へら切り後の付高 台。貼付後、周縁部にナデ調整。	器面は摩滅。 底部外面に墨 書「記号」。	
第93図	14	須恵器 鉢	覆土 胴部～台部片	口 台	9.7	高		小礫・粗砂粒/還 元焰・やや軟質/ 灰	紐づくり後、ロクロ整形(右回転)。高台部は低く輪状を呈 する。胴部外面の最下位は回転へら削り。	
第93図	15	土師器 甕	竈前 口縁部～胴部上 位1/4	口底	19.8	高		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位にかけ て斜縦位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	被熱。

2区21号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第98図	1	土師器 杯	竈内 1/3	口底	12.7 7.5	高	3.4 粗砂粒/良好/橙	口縁部の先端は横ナデ。以下外面はナデ。底部外面は手持 ちへら削り。		
第98図 PL.119	2	土師器 杯	覆土 底部片	口底		高		細砂粒/良好/明赤 褐	外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	外面に墨書「 若」。
第98図 PL.119	3	須恵器 杯	覆土 口縁部片	口底	13.0	高		細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形(右回転か)。	外面に朱墨 「□」。
第98図 PL.119	4	須恵器 杯	覆土 口縁部片	口底	12.0	高		細砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)。	外面に朱墨か 「□」。
第98図 PL.119	5	須恵器 杯	西壁際南+50 1/3	口底	11.7 6.5	高	3.8 粗砂粒少/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	口縁部外面に 墨書「他カ」。	
第98図 PL.119	6	須恵器 杯	中央+19、西壁 際中央+41 完形	口底	11.8 6.0	高	3.5 粗砂粒・白色鈹物 粒・海綿骨針/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。		
第98図 PL.119	7	須恵器 杯	中央+22、23住 覆土 口縁部一部欠	口底	11.7 5.2	高	3.45 粗砂粒・白色鈹物 粒・海綿骨針/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。		
第98図 PL.119	8	須恵器 杯	南壁際中央+27、 23住覆土 口縁部一部欠	口底	11.8 5.2	高	3.5 粗砂粒・白色鈹物 粒・海綿骨針/還 元焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。		
第98図 PL.119	9	須恵器 杯	東部0 3/4	口底	12.9 5.4	高	4.1 粗砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面の周 縁部と内面に 摩耗。	
第98図 PL.119	10	須恵器 杯	中央+53、南部 +31、22住覆土 1/2	口底	12.0 5.5	高	3.8 粗砂粒・白色鈹物 粒・海綿骨針/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。		
第98図 PL.119	11	須恵器 杯	中央東0、北西 +5、23住覆土 1/2	口底	12.7 6.3	高	3.75 小礫・粗砂粒/酸 化焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。	
第98図	12	須恵器 杯	西壁際南+25 1/2	口底	12.2 6.0	高	3.6 粗砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形(右回転か)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。	
第99図 PL.119	13	須恵器 杯	中央+5、南東部 +27 口縁部一部欠	口底	12.7 6.6	高	4.3 粗砂粒少/還元焰 ・酸化焰ぎみ/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面に墨 書「田」。	
第99図 PL.119	14	須恵器 杯	中央南+15、覆 土 3/4	口底	12.9 6.0	高	4.1 粗砂粒少/酸化焰/ 浅黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。口縁部 は焼成時に炭素吸着。	底部外面に墨 書「田」。	

遺物観察表

第40表 遺物観察表(14)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径			
第99図 PL.119	15	黒色土器 杯	南壁際西+69 1/3	口底 6.2	高 12.4	4.5	赤色粘土粒少/酸化 燐/橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。内面の口縁部は横位の、底部は一方方向のヘラ磨き。内面に黒色処理。器面はやや摩滅。	底部外面に墨書「記号」。
第99図 PL.119	16	須恵器 杯	西壁際中央+1 完形	口底 7.0	高 12.7	3.7	粗砂粒/酸化燐/灰 黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面に炭化物付着。
第99図 PL.119	17	須恵器 転用硯	中央北西+3 1/2	口底 8.2	高 13.0	4.7	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/還元燐/灰	腕を転用した硯。底部外面に墨痕が認められる。高台部内全面に磨面が広がる。底部内面にも摩耗部分が見られ、こちらも硯として使用された可能性がある。腕の整形はロクロ整形(右回転)。高台部は底部ヘラ削り後の付け高台。	口縁部外面に墨書「□」。
第99図 PL.119	18	須恵器 双耳杯	P3脇+1 耳部片方欠	口底 8.0	高 12.8	5.1	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元燐 ・軽質/灰	一方の耳部は剥落している。ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。高台部添付後、周縁部にナデ調整。	
第99図 PL.119	19	須恵器 椀	竈前+54、南東 部+27、覆土 1/2	口底 14.7	高台 8.2	6.4	粗砂粒/還元燐/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	内面は摩耗。
第99図 PL.119	20	土師器 甕	東部+24 口縁部~胴部上 位片	口底 19.8	高		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に煤付着。
第99図 PL.119	21	石製品 紡輪	中央北西+2 完形	径 4.3	厚 2.2	2.2 46.7	砥沢石	左右両辺に平坦面が残り、平面形は略四角形状を呈す。砥石を転用した紡輪の未製品とすることが妥当である。棒軸孔径は7mmを測る。	厚型台形状
第99図 PL.119	22	礫石器 台石	竈内 1/3	長 幅 (16.1) (11.1)	厚 重 4.1 978.7		粗粒輝石安山岩	表裏面とも敲打痕を伴う弱い摩耗面が広がる。礫面は被熱して煤けており、被熱破損した可能性が高い。	扁平楕円礫
第99図 PL.119	23	鉄製品 不詳	中央+33 ほぼ完形	長 幅 4.1 2.2	厚 重 1.0 3.79			断面四角形の長い角棒状鉄製品の中央をループ型に曲下駄の両端を平行に揃え先端を細く尖らせているが木質等の痕跡は確認できない。	

2区23号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径			
第101図 PL.119	1	土師器 杯	北東0 3/4	口底 12.0	高 3.7		粗砂粒・白色鈹物 粒少/良好/にぶ い橙	器形は大きく歪む。口縁部は外面先端に横ナデ。底部外面に手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第101図 PL.119	2	須恵器 杯	覆土 口縁部片	口底 12.9	高		粗砂粒少/還元燐/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。	外面に墨書「他カ」。
第101図 PL.119	3	須恵器 杯	東部+9 口縁部1/4	口底 13.8	高		黒色鈹物粒/還元 燐/灰白	ロクロ整形(右回転)。	外面に墨書「□」。
第101図 PL.119	4	須恵器 杯	南西部+3 3/4	口底 13.8 7.7	高 3.9		赤色粘土粒/還元 燐/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。器面は摩滅。	底部外面に墨書「記号」。
第101図 PL.120	5	土師器 甕	竈内、覆土 口縁部一部欠	口底 19.6	高		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第101図 PL.120	6	土師器 甕	北壁際西+8 口縁部~胴部下 位	口底 20.0	高		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第101図 PL.119	7	石製品 不明石製品	中央南+1 完形	長 幅 6.0 4.1	厚 重 3.1 98.3		砥沢石	四面使用された砥石を素材に用いる。上端側に長軸8mm・短軸6.5mmの孔を両側穿孔する。小口部両端を平坦に整形。	切り砥石

2区24号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径			
第103図 PL.120	1	土師器 杯	北西隅+7・+27 完形	口底 12.5	高 3.7		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を広く残す。内面はナデ。	
第103図 PL.120	2	土師器 杯	覆土 底部片	口底	高		粗砂粒/良好/橙	底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に墨書「□」。
第103図 PL.120	3	須恵器 杯	竈前+35 口縁部1/4	口底 13.1	高		粗砂粒少・赤色粘 土粒/酸化燐/明 褐	ロクロ整形(右回転)。	口縁部外面に墨書「他」。
第103図 PL.120	4	黒色土器 杯	南東部+11 口縁部一部欠	口底 13.6 7.3	高 4.8		粗砂粒・赤色粘 土粒/酸化燐/にぶ い黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に手持ちヘラ削り。口縁部外面の先端と内面全面に横位のヘラ磨き。底部内面は一方方向のヘラ磨き。	内面に黒色処理。
第103図	5	須恵器 杯	覆土、23住覆土 1/4	口底 12.7 6.1	高 3.6		粗砂粒/還元燐/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第103図 PL.120	6	須恵器 椀	北部+20 1/4	口底 15.3	高台 7.0 10.6		白色鈹物粒/還元 燐/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転切り離し後の付け高台。口縁部外面の先端直下に凹線が巡る。内面の下半はカキ目状。	
第103図	7	土師器 甕	竈左 口縁部~胴部中 位1/4	口底 22.0	高		粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面は摩滅。
第103図 PL.120	8	土師器 甕	覆土 口縁部~胴部下 位1/4	口底 21.8	高		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に粘土付着。
第103図 PL.120	9	土師器 甕	竈右 口縁部~胴部中 位	口底 20.8	高		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の最上位は横位の、上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。外面は摩滅。
第103図 PL.120	10	石製品 紡輪	北壁際+8 完形	径 4.0	厚 重 1.7 41.8		蛇紋岩	棒軸孔径8mm。全面研磨され、光沢が顕著である。上面縁辺には放射状の線状痕が認められる。上面の孔周辺に整形痕が残る。	薄型台形状

第41表 遺物観察表(15)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	高			
第103図 PL.120	11	石製品 砥石	北壁際+6 完形	9.5 6.5	厚 重	5.4 340.9	粗粒輝石安山岩	四面使用。各面とも著しく研ぎ減り、糸巻状を呈す。小口部は広く、この部分も砥面として機能した可能性が高い。破損部は磨き整形され、破損後の使用が確実。	切り砥石
第103図 PL.120	12	礫石器 砥石?	南西部+20 完形	16.9 13.3	厚 重	7.1 2318.1	粗粒輝石安山岩	背面側中央に径2.2cmを測る漏斗状の孔1を穿つ。典型的な縄文期多孔石だが、上端側小口部には縦位の刃ならし傷があり、砥石として再利用されたものと捉えた。	楕円礫

2区22号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚 重			
第105図	1	土師器 杯	貯穴内 1/3	12.0	高	3.4	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面に炭素吸着。黒斑か。
第105図 PL.121	2	須恵器 杯	南部+13 口縁部片	12.0	高		細砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形(右回転)。	外面に墨書「他力」。
第105図 PL.121	3	須恵器 杯	覆土 口縁部片	12.6	高		粗砂粒少/還元焰 ・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。	外面に朱墨「□」。
第105図 PL.121	4	須恵器 杯	貯穴内 1/2	13.2 6.6	高	3.4	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/酸化焰/浅黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第105図 PL.121	5	須恵器 杯	南部0 4/5	12.5 7.8	高	3.2	灰黒色粘土粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	内面は摩耗。
第105図	6	須恵器 杯	東0 1/2	12.7 7.7	高	3.7	灰黒色粘土粒/酸 化焰/明赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第105図 PL.121	7	須恵器 杯	南西部+1 底部片	口 底	高		細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	口縁部外面に墨書「□」。
第105図 PL.121	8	土製品 土錘	貯穴内 完形	長 幅 2.5	厚 孔	2.4 0.4	細砂粒少/酸化焰/ 灰白	最大径と両端部分の直径が大きく異なる。端部にはヘラで切り落とされ平坦面をなす。	重量15.92g
第105図 PL.121	9	鉄製品 刀子	東壁際北+4 ほぼ完形	長 幅 1.8	厚 重	1.0 23.95		錆化が著しく脆弱な刀子で棟・刃側ともに明瞭な関を持つ、茎端部は細くとがり気味で、全体に錆に覆われ柄の木質他詳細は不明。	

2区25号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚 重			
第107図 PL.121	1	土師器 杯	北東隅+38 1/2	12.2	高	3.2	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部外面の先端は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面の一部に炭素吸着。
第107図 PL.121	2	須恵器 杯	南壁際中央+1、 竈覆土 口縁部～底部片	13.2 8.2	高	3.2	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/酸化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	器面は摩滅。外面に炭素吸着。底部外面に墨書「井」。
第107図 PL.121	3	須恵器 杯	南東隅 3/4	12.2 6.6	高	3.2	細砂粒/酸化焰/み み/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に手持ちヘラ削り。	内面は摩耗。底部外面に線刻「大」。
第107図	4	須恵器 杯	中央北 1/4	13.4 8.0	高	3.5	粗砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、周縁部に手持ちヘラ削りか。	外面は焼成時に、炭素吸着。
第107図 PL.121	5	須恵器 蓋	中央東+21 口縁部～摘部 1/4	14.0 口 底	高 摘	3.5 2.7	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、ボタン状の摘みを貼付。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	
第107図 PL.121	6	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上 位片	19.8	高		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第107図 PL.121	7	鉄製品 不詳	北西隅+36 破片	長 幅 6.5 1.1	厚 重	0.9 4.30		断面四角形の鉄製品で一端部は劣化破損する。端部から2cm程で両側に関状の段を持ち、その先は茎状で木質に覆われ徐々に細くなる。錐等の工具破片と考えられるが先端が破損し詳細不明。	

2区26号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚 重			
第110図	1	土師器 杯	東壁際中央+51 1/3	13.2 9.3	高	2.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第110図 PL.121	2	土師器 杯	北東隅+40 1/2	15.0	高	4.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。以下はヘラ削りと考えられる。内面はあまり規則性のないヘラ磨き。	器面は摩滅が顕著。
第110図 PL.121	3	土師器 杯	北東部+43 1/2	13.2	高	3.0	粗砂粒・赤色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第110図 PL.121	4	土師器 杯	中央 1/4	12.2	高	3.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	内面はやや摩滅。外面に黒斑か。
第110図 PL.121	5	須恵器 杯	中央+14 口縁部一部欠	14.4 8.0	高	4.2	粗砂粒/還元焰 ・酸化焰/みみ/黄 灰	ロクロ整形(右回転)。回転ヘラ切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	
第110図	6	土師器 甕	東部、北西隅、 竈内 口縁部～胴部上 半1/3	口 底	高		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面はやや摩滅。
第110図 PL.121	7	土師器 甕	竈右袖 2/3	口 底	高	30.6	粗砂・細砂粒/良 好/赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の最上位は横位の、それ以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。下位は斜縦位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	

遺物観察表

第42表 遺物観察表(16)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第110図 PL.121	8	土師器 甕	竈左袖 口縁部～胴部中 位2/3	口底	24.0	高	粗砂・細砂粒/良 好/赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

2区27号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第113図 PL.122	1	土師器 杯	竈焼き口 完形	口底	12.1	高 3.1	粗砂粒/良好/にぶ い橙	器形はやや歪む。口縁部は横ナデ。底部外面に手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面は摩滅。	
第113図 PL.122	2	土師器 杯	南東部+34 1/3	口底	10.8	高	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。中位にナデの部分を残す。型肌。内面はナデ。	内面は摩耗。	
第113図 PL.122	3	須恵器 杯	南西隅+8 1/3	口底	14.4 9.0	高 4.1	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形(右回転)。口縁部下位と底部に回転ヘラ削り。	底部外面に煤 付着。器面は 摩滅。	
第113図 PL.122	4	須恵器 杯	中央北東+42 3/4	口底	14.0 9.5	高 3.6	小礫・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部の切り離しは、器面摩滅のため不明。	内面はやや摩 耗。	
第113図 PL.122	5	須恵器 杯	P3上+45 1/2	口底	14.0 8.6	高 3.4	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りと考えられる。	外面は摩滅。 内面は摩耗。	
第113図	6	須恵器 杯	西部+44 1/4	口底	11.7 6.0	高 3.3	白色鈹物粒・灰黒 色粘土粒/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	内面は摩耗。	
第113図	7	須恵器 杯	P3脇+47+48 1/3	口底	14.2 10.0	高 3.4	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形(左回転)。底部回転ヘラ削り。		
第114図 PL.122	8	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上 位1/2片	口底	20.0	高	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。		
第114図	9	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部上 位1/2片	口底	19.8	高	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削りと考えられる。内面は横位のナデ。	器面は摩滅。	
第114図 PL.122	10	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部下 位2/3	口底	20.6	高	粗砂・細砂粒・白色 鈹物粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、以下は斜縦位のヘラ削り。内面の上位から中位は横位の、下位は縦位のヘラナデ。	被熱。	
第114図	11	土師器 甕	竈前 胴部下位～底部	口底	4.5	高	細砂粒/良好/明赤 褐	胴部外面は縦位のヘラ削り。底部寄りには横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	器面は摩滅。	
第114図 PL.122	12	石製品 砥石	P3脇+1 胴部破片	長幅	(7.3) (5.9)	厚重	4.5 231.9	砥沢石	四面使用?背面側と右側面に良好な状態で使用面が残されているが、裏面側や左側面は被熱破損して状態は不明瞭。裏面側には縦位の刃ならし傷が残る。上端小口部は粗く磨き整形されているが、形態的にはやや歪んでいる。破損後に、被熱した可能性が高い。	切り砥石
第114図 PL.122	13	石製品 不明石製品	南壁際東+15 完形	長幅	4.0 3.5	厚重	2.2 15.2	二ツ岳軽石	背面側・右側面を研磨整形する。背面側中央は浅く窪み、そこには横位線条痕が伴う。	楕円礫
第114図 PL.122	14	鉄製品 刀子	中央+37 破片	長幅	4.4 1.4	厚重	1.1 4.77		刃先・茎両端とも劣化破損する刀子で、棟・刃側ともに明瞭な関を持つ。	

2区28号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第115図 PL.122	1	土師器 杯	覆土、20住竈内 1/3	口底	12.2	高 4.0	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は下位に手持ちヘラ削り。その間は斜位のヘラナデ。内面はナデ。	内外面に炭素 吸着。

2区29号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第117図 PL.122	1	須恵器 杯	南部 底部	口底	7.0	高	赤色粘土粒/還元 焰/にぶい黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面に墨痕。器面は摩耗しており、硯に転用された可能性も考えられる。	底部外面に墨 書「大」。
第117図 PL.122	2	須恵器 杯	覆土 底部片	口底	7.8	高	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転ヘラ削り。	底部外面に墨 書「井」。
第117図 PL.122	3	土師器 小型甕	北東部、覆土、 20・28住覆土 口縁部～胴部上 位1/2	口底	10.8	高	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱か。

2区30号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第119図	1	土師器 台付甕	東部+2 胴部下位～台部	口底		高台	10.8	細砂粒/良好/橙	形状は胴部の丸味が強く、台部は低く大きく外反して延びる。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。基部から台部外面は横ナデ。内面も横ナデ。	被熱。
第119図	2	土師器 甕	中央西+3 胴部下位～底部	口底		高		粗砂粒/良好/にぶ い橙	胴部外面は斜位の、底部寄りは横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	被熱。外面に 煤付着。
第119図	3	土師器 甕	中央+2 口縁部～胴部上 位片	口底	24.6	高		粗砂・細砂粒・雲 母/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸 着。

第43表 遺物観察表(17)

2区31号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	径			
第120図 PL.122	1	須恵器 杯	南部+12・+16 3/4	12.5 8.0	高	4.0	粗砂粒・灰黒色粘土粒/還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転か)。底部切り離し後、手持ちへら削りか。	器面は摩滅。
第120図 PL.122	2	土師器 小型台付甕	北東部+9・+12、 覆土 口縁部～胴部下 位	14.4	高		粗砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位は斜位の、下位は斜縦位のへら削り。内面の上位から中位は横位のへらナデ。	被熱。外面に煤付着。

2区32号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	径			
第123図 PL.123	1	土師器 杯	竈右前0 3/4	14.1	高	3.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第123図 PL.123	2	土師器 杯	竈内、覆土 3/4	16.4	高	4.1	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面は幅の広いへら磨き。	内面に漆塗布。
第123図 PL.123	3	須恵器 杯	中央+5 1/2	14.5 8.0	高	3.8	灰黒色粘土粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第123図 PL.123	4	土師器 甕	竈右袖 3/4	21.3 4.4	高	28.2	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、中位から下位の広い範囲は斜縦位の、底部寄りには斜位のへら削り。内面は横位のへらナデ。底部外面はへら削り。	やや被熱。
第123図 PL.123	5	土師器 甕	竈左袖、覆土 3/4	19.8 6.6	高	29.6	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位・斜横位の、中位から下位は斜縦位の、底部寄りには斜位のへら削り。内面の上位から下位は横位の、下位は斜縦位のへらナデ。	被熱。
第123図 PL.123	6	石製品 不明石製品	竈内 完形	17.1 13.8	厚 重	5.7 1611.9	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗するほか、背面側に漏斗状の孔1、裏面側に集合打痕がある。縄文期凹石というべきであるが、背面側には3mm強の浅い工具痕が残る。	扁平楕円礫
第123図 PL.123	7	礫石器 敲石	竈内 1/4	(9.8) (6.6)	厚 重	(4.5) 324.9	粗粒輝石安山岩	右辺側エッジが敲打、摩耗する。縄文期磨石の混入か。	扁平楕円礫

3区1号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	径			
第126図 PL.124	1	須恵器 杯	貯穴内、覆土 1/3	11.8 5.7	高	2.2	灰黒色粘土粒/還 元焰・不良/灰褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	

3区2号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	径			
第128図	1	土師器 甕	竈前0 口縁部～胴部上 位片	19.8	高		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の最上位は横位の、それ以下は斜位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	

3区3号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	径			
第129図	1	土師器 甕	中央北西0～+2 口縁部～胴部上 位片	29.0	高		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はへら削りと考えられる。内面は摩滅。	器面は摩滅。 被熱。

3区4号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	径			
第131図 PL.124	1	土師器 杯	南西隅+5 1/2	11.8	高		粗砂粒少/良好/に ぶい黄褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第131図	2	土師器 杯	南部+4、覆土 1/3	10.8	高		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	口縁部の内外面に漆残存。
第131図 PL.124	3	土師器 杯	P1内、西部0～ +2 口縁部一部欠	10.3	高	3.3	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面に漆塗布。口縁部外面にも塗布か。
第131図 PL.124	4	土師器 杯	南西隅+10 完形	12.0	高	4.5	粗砂粒少/良好/灰 黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内外面、全面に漆塗布。
第131図 PL.124	5	土師器 杯	南西隅+8 口縁部一部欠	12.6	高	4.1	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面は底部に放射状のへら磨き。内面に炭素吸着か。黒色。	口縁部外面に漆塗布。
第131図 PL.124	6	土師器 鉢	南西隅0～+19、 覆土 一部欠損	10.9	高	9.6	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	器面に漆塗布か。
第131図 PL.124	7	土師器 鉢	南西部+8 口縁部～体部下 位1/4	12.2	高		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はへら削り。内面はへら削り。	口縁部は内外面に漆残存。
第131図 PL.124	8	土師器 鉢	南西隅+3 1/2	10.4	高	10.2	粗砂粒少・赤色粘 土粒少/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面はへら削り。内面はへらナデの上に粗雑なへら磨き。	器面に漆塗布か。
第131図 PL.124	9	土師器 鉢	南西隅+6・+13 口縁部～体部 中位1/3	12.8	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面はへら削り。内面は斜横位のへら削り。外面は摩滅。	口縁部は内外面に漆塗布か。

遺物観察表

第44表 遺物観察表(18)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口径	高	重				
第131図 PL.124	10	土師器 鉢	南西隅0、覆土 底部一部欠	口径	17.1	高	9.9	粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ の上に放射状のヘラ磨き。	外面の一部に 黒斑。
第131図	11	土師器 甌	南西隅+9 口縁部～胴部中 位	口径	19.2	高		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削りと考えられるが、器 面は摩滅。内面はナデの上に斜位のヘラ磨き。	
第131図 PL.124	12	土師器 甕	南西隅0、覆土 完形	口径	15.4	高	22.9	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の頸部直下と底部寄り斜横位 の、それ以外は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	胴部外面に黒 斑。
第131図 PL.124	13	土師器 壺か	P2内、南西隅+6 ～18、覆土 頸部～底部	口径		高		粗砂粒少・赤色粘 土粒少/良好/橙	胴部は下膨れで丸底の底部へと続く。外面の上位から中位 は縦位の、下位は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のナデの 上に縦位のヘラ磨きを重ねる。	器面は摩滅。 胴部外面に黒 斑。
第131図 PL.124	14	土師器 小型甕	南西隅+7、覆土 完形	口径	16.1 3.5	高	17.4	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	被熱か。
第132図 PL.125	15	土師器 甕	南西隅+7～15、 覆土 口縁部～胴部 3/4	口径	11.8	高		粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位から中位は斜横位を主体 とした、下位寄りは斜縦位のヘラ削り。内面の上位から中 位は横位の、下位は斜縦位のヘラナデ。	外面に炭素吸 着。
第132図 PL.125	16	土師器 甕	南西隅+6～15 口縁部～胴部上 半部	口径	21.8	高		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	
第132図 PL.125	17	土師器 甕	南西部+7～15、 覆土 口縁部～胴部中 位	口径	22.4	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位・ 斜位のヘラナデ。	被熱。
第132図 PL.125	18	土師器 甕	南西隅0、覆土 完形	口径	20.5 6.0	高	32.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位から中位は縦位の、下位 は斜位・斜横位のヘラ削り。内面は横位・斜位のヘラナデ。 底部外面はヘラ削り。	被熱。外面に 煤付着。
第132図 PL.125	19	土師器 甕	南西隅+8～ +15、覆土 胴部下半部～底 部2/3	口径	4.2	高		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面の中位は縦位の、下位は斜横位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。底部外面に木葉痕。	被熱。
第132図 PL.125	20	土師器 甕	南西隅0 胴部一部欠	口径	19.0 3.8	高	23.9	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位から中位は斜縦位の、底 部寄りは斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部 外面はヘラ削り。	被熱。炭素吸 着は黒斑か。
第133図 PL.126	21	石製品 砥石	中央+1 2/3	長幅	(13.1) (11.3)	厚重	(6.3) 688.9	粗粒輝石安山岩	全面研磨され、背面側には斜向する刃ならし傷がある。	礫砥石
第133図 PL.126	22	礫石器 敲石	北部+4 完形	長幅	14.3 9.0	厚重	4.8 759.1	粗粒輝石安山岩	両側縁を敲打して、浅くノッチ状に整形する。便宜的に敲 石として捉えておいたが、紐掛け用のノッチにも見える。	扁平礫

3区7号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口径	高	重				
第136図 PL.126	1	土師器 杯	南壁際中央0、 覆土 1/2	口径	12.0	高	3.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。	底部外面に墨 書「記号カ」。
第136図 PL.126	2	黒色土器 椀	竈前+10 1/3	口径	13.0 6.3	高	5.1	赤色粘土粒/酸化 焰/橙	ロクロ整形(右回転)。底部切り離しは摩滅のため不明。内 面の口縁部は横位の、底部は一方からのヘラ磨き。	内面に黒色処 理。
第136図 PL.126	3	須恵器 椀	南壁際中央0 2/3	口径	13.0	高台	5.0 8.0	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	稜椀の形状。ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切 り後の付け高台。貼付後、周縁部の広い範囲にナデ調整。	器面に炭素吸 着。

3区8号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口径	高	重				
第138図	1	土師器 杯	竈前、北東隅 0+5 1/3	口径	12.2 7.0	高		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は中心寄りに手持ちヘラ削り。 その間はナデ。内面はナデ。	
第138図 PL.126	2	須恵器 椀	南壁際中央0 3/4	口径	16.6	高台	6.9 10.4	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰 ・やや軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け 高台。	器面は摩滅。
第138図 PL.126	3	土師器 甕	竈前0 口縁部～胴部中 位1/2	口径	20.9	高		細砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。輪積痕を残す。胴部外面の上位は横位の、 中位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

3区9号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口径	高	重				
第141図 PL.126	1	土師器 杯	竈前+1+10、覆 土 1/2	口径	11.6	高	3.9	粗砂粒・赤茶色粘 土粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第141図 PL.126	2	土師器 杯	貯穴南+6 1/2	口径	11.6	高	3.3	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 器面は摩滅。	口縁部外面に 漆残存。内面 にも塗布して いたと考えら れる。
第141図 PL.126	3	土師器 杯	南西部+16、貯 穴内 1/2	口径	10.4	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる が摩滅。内面はナデ。	器面は摩滅。

第45表 遺物観察表(19)

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第141図 PL.126	4	土師器 杯	中央0 1/4	口底	10.8	高	4.1	粗砂・細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部先端の内側は、ややそがれて尖る。口縁部と底部の間には弱い稜を有する。数回にわたり横ナデを行った工具痕が見られる。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第141図	5	土師器 鉢	南東部+5 口縁部～底部 1/4	口底	15.0	高		粗砂粒・赤茶色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は縦位のヘラ削りか。	器面は摩滅。
第141図	6	土師器 鉢	竈前+6 1/4	口底	15.4	高		粗砂粒少/良好/灰褐	口縁部と底部の間には弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも漆塗布。
第141図	7	土師器 甕	中央+4・+5、覆土 口縁部～胴部上位	口底	18.6	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は横位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第141図 PL.126	8	土師器 不明	中央西+17 破片	口底	10.3	高		粗砂粒少・赤色粘土粒/良好/橙	脚台部の破片か。外面は縦位のヘラ削り。裾部内面は端部が折り返されるように粘土が貼られ、これを指で押さえている。これより上位はナデ。	
第141図 PL.126	9	礫石器 磨石	西部中央+10 完形	長幅	13.4 9.0	厚重	3.9 634.1	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗するほか、両側縁に敲打痕が残る。縄文期磨石の混入か。	扁平楕円礫

3区10号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第143図 PL.126	1	土師器 甕	竈北0 口縁部～胴部下位 3/4	口底	21.4	高		粗砂・細砂粒/良好/橙	器形は歪んでいたか。口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部は斜位の、下半部は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	器面は摩滅。

3区11号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第145図 PL.126	1	須恵器 杯	B南周溝内 3/4	口底	13.2 7.8	高	3.9	粗砂粒・赤黒色粘土粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に手持ちヘラ削り。	底部外面に墨書「若力」。器面は摩滅。
第145図 PL.126	2	土製品 土錘	西部+5 端部欠	長幅	1.0	厚孔	1.1 0.2	細砂粒少/酸化焰/灰黄褐	端部はヘラで切り落としている。器面は丁寧なナデ。	重量4.1g

3区12号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第147図 PL.127	1	土師器 杯	北東壁際中央 +7・+9、覆土 3/4	口底	12.0	高	4.1	粗砂粒/良好/黒褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、底部に放射状のヘラ磨き。	内外面とも炭素吸着。
第147図 PL.127	2	土師器 杯	竈北東壁際+6 口縁部一部残存・他完形	口底	12.8	高	4.3	粗砂粒少/良好/にぶい橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、底部にあまり規則性の見られないヘラ磨き。	内外面に黒斑。
第147図	3	土師器 杯	竈内 1/4	口底	12.7	高		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、底部に放射状のヘラ磨き。	
第147図	4	土師器 杯	北東壁際0・+5 破片	口底		高		粗砂粒/良好/黒褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は焼成時に炭素吸着。黒色。
第147図	5	土師器 杯	竈両脇壁上、覆土 1/3	口底	12.3	高	3.7	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、底部にあまり規則性の見られないヘラ磨き。	底部内面に黒斑。
第147図 PL.127	6	土師器 甕	竈右壁上、覆土 口縁部～胴部上半 1/4	口底	19.0	高		粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、それ以下は斜横位・斜縦位のヘラ削り。	器面は摩滅。

3区14号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第150図 PL.127	1	土師器 甕	北東隅+5 口縁部～胴部下位	口底	21.3	高		粗砂・細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜位の、中位以下は縦位のヘラ削り。内面の上位から中位は横位の、下位は斜縦位のヘラナデ。	被熱。器面はやや摩滅。
第150図 PL.127	2	土製品 土錘	覆土 完形	長幅	4.7 1.1	厚孔	1.0 0.4	細砂粒少/酸化焰/にぶい黄橙	両端部の直径と胴部の最大径が大きく変わらない形状。器面はナデか。	
第150図 PL.127	3	石製品 砥石	竈支脚 完形	長幅	18.5 13.0	厚重	8.7 2722.0	粗粒輝石安山岩	背面側中央・裏面側が研磨・摩耗している。背面側の研磨面は浅く窪んでおり、ノミ状の工具による整形後、砥面とされたのであろう。	礫砥石

3区15号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第153図 PL.127	1	土師器 杯	北隅0 完形	口底	11.1	高	3.7	粗砂粒少・赤色粘土粒/良好/灰白	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。口縁部外面に漆残存。
第153図 PL.127	2	土師器 杯	竈左袖前0 口縁部一部欠	口底	11.4	高	3.9	赤茶色粘土粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられるが摩滅。	器面は摩滅。
第153図 PL.127	3	土師器 杯	南西壁際南+3 1/2	口底	11.4	高	4.5	赤茶色粘土粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられるが摩滅。	器面は摩滅。外面の一部に黒斑。

遺物観察表

第46表 遺物観察表(20)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第153図 PL.127	4	土師器 杯	北隅0 1/2	口底	11.1	高	4.1	赤茶色粘土粒少/ 良好/浅黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第153図 PL.127	5	土師器 杯	南西壁際北+3 2/3	口底	10.2	高	3.9	粗砂粒少/良好/ にぶい橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。 底部外面に黒斑。
第153図 PL.127	6	土師器 杯	北隅0、南西壁 際中央+7 1/2	口底	11.2	高	5.1	粗砂粒少/良好/ にぶい黄橙	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。 焼成時にやや 炭素吸着。
第153図	7	土師器 杯	竈南+1 口縁部～底部 1/2	口底	11.0	高		細砂粒/良好/灰黄	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第153図	8	土師器 杯	南西壁際中央0 ～+2、覆土 口縁部～底部 1/2	口底	12.0	高		粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第153図 PL.127	9	土師器 鉢	北隅0、中央北 東+1 1/4	口底	17.8	高		粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。口縁部に沈線状の工具痕。	器面は摩滅。 漆が塗布か。
第153図	10	土師器 甗	竈右袖 口縁部～胴部上 位片	口底	20.2	高		粗砂粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラナデ。内面は横位のナデか。	器面は摩滅。
第153図	11	土師器 甗	中央南西+6、南 西壁際北+4 口縁部～胴部上 位片	口底	20.0	高		粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第153図 PL.127	12	土師器 甗	竈前0 口縁部～胴部上 位	口底	19.4	高		粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位・斜縦位のヘラ削り。頸部に工具痕を残す。内面は横位のヘラナデ。	
第153図 PL.127	13	土師器 甗	竈内0、覆土 胴部上位～底部	口底	2.5	高		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面は数回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	被熱。底部周 辺に炭素吸 着。黒斑。
第153図 PL.127	14	礫石器 磨石	北西壁際西0 完形	長幅	13.9 8.0	厚重	4.0 550.2	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く摩耗するほか、右辺エッジに敲打・摩耗痕がある。縄文期磨石の混入か。	扁平楕円礫

3区16号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第154図 PL.128	1	土師器 杯	南壁際+6 口縁部下位～底 部	口底		高		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部の下位は底部寄りに手持ちヘラ削り。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部内外面に 墨書。ともに 「□」。
第154図 PL.128	2	須恵器 皿	貯穴内・上 1/2	口底	13.6 6.4	高	2.4	白色鈹物粒多/還 元焰、酸化焰ぎみ /灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第154図	3	土師器 小型台付甗	南壁際 胴部下位～台 部	口底		高台	8.4	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。基部から台部は横ナデ。内面も横ナデ。	器面は摩滅。 炭素吸着。
第154図 PL.128	4	土師器 小型甗	竪穴住居外北 口縁部～胴部上 位片	口底	13.8	高		粗砂粒・赤色粘 土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

4区1号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第159図 PL.128	1	須恵器 椀	竈北0～+2、覆 土 1/2	口底	14.6 6.0	高	5.8	灰黒色粘土粒/酸 化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。器面は摩滅。	広い範囲に焼 成時の炭素吸 着。
第159図 PL.128	2	須恵器 鉢	竈南+5 1/3	口底	17.0 7.0	高	8.3	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/酸化焰/橙	ロクロ整形(左回転か)。底部回転糸切り後、無調整。器面は摩滅。	外面底部を中 心に炭素吸 着。
第159図 PL.128	3	土師器 甗	竈南+7、竈前+4 ～7、竈奥、覆 土 1/2	口底	19.4 9.9	高	19.0	粗砂粒・赤色粘 土粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、中位は斜横位の、下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	破碎後、二次 被熱。内面は 摩滅。
第159図 PL.128	4	土師器 甗	竈内・前+4～7 口縁部～胴部上 位2/3	口底	18.3	高		粗砂粒・赤色粘 土粒/良好/浅黄橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。	
第159図 PL.128	5	土師器 甗	竈北+12 口縁部～胴部中 位1/4	口底	19.6	高		粗砂粒・赤色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第159図 PL.128	6	土師器 甗	竈前・北+8～12 胴部上位～底 部 1/3	口底	4.1	高		粗砂粒/良好/にぶ い橙	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	被熱。

第47表 遺物観察表(21)

4区5号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高台	7.6				
第162図	1	黒色土器 椀	竈前+3 口縁部中位～高台部	口底		高台	7.6	赤色粘土粒/酸化焰/橙	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部切り離し後の付高台。内面の口縁部は横位の、底部は複数方向からのヘラ磨き。二次被熱のためか炭素はとんでいる。器面は摩滅。	内面は黒色処理。
第162図	2	土師器 羽釜	竈内0、覆土 口縁部～胴部上位片	口底	22.0	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面も横ナデ。鏝部は外面成形後に貼付。その後、周縁部にナデ調整。内面は横位のヘラナデ。	

4区6号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	12.4 7.5	高				3.3
第163図 PL.128	1	須恵器 杯	南西隅+3 口縁部一部欠	口底	12.4 7.5	高	3.3	白色鈹物粒・灰黒色粘土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。内面は摩耗。	口縁部外面に墨書「部」
第163図	2	土師器 甕	中央+1 口縁部～胴部上位片	口底	18.0	高		粗砂・細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

4区8号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	9.0	高				
第166図 PL.128	1	土師器 杯	覆土 口縁部片	口底		高		細砂粒/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。以下はナデ。内面はナデ。	外面に墨書「□」。
第166図	2	土師器 埴	南西隅+26 口縁部～胴部片	口底	9.0	高		粗砂・細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下を除いて横位の弱い当たりのヘラ削り。内面は横位のナデ。	
第166図	3	土師器 甕	南西隅+26 口縁部～胴部上位1/4	口底	24.6	高		細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第166図 PL.128	4	礫石器 敲石	西部0 完形	長幅	13.1 7.8	厚重	6.1 800.8	粗粒輝石安山岩	小口部両端・側縁に敲打痕が残る。	楕円礫
第166図 PL.128	5	礫石器 砥石	南西壁際中央+8 完形	長幅	10.1 7.5	厚重	5.9 517.7	粗粒輝石安山岩	背面側中央に縦位の粗い線条痕があるほか、小口部両端に敲打痕がある。	礫砥石

4区15号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底 <th>19.2</th> <th>高</th> <th></th>	19.2	高				
第167図	1	土師器 甕	南東隅+3、北部0 口縁部～胴部上位片	口底	19.2	高		粗砂粒少/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第167図 PL.128	2	礫石器 敲石	北壁際中央+15 完形	長幅	12.0 9.2	厚重	4.0 651.1	粗粒輝石安山岩	小口部両端に敲打痕があるほか、小口部上端に敲打に伴う衝撃剝離痕がある。	扁平楕円礫

4区9号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底 <th>13.8</th> <th>高</th> <th></th>	13.8	高				
第169図	1	土師器 杯	南壁際+23・+32 口縁部～底部1/3	口底	13.8	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第169図	2	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部片	口底	19.9	高		粗砂粒・赤茶色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は手持ちヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

4区11号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	13.0	高台				5.2 7.7
第171図 PL.129	1	土師器 椀	南部0・+4、覆土 1/2	口底	13.0	高台	5.2 7.7	粗砂粒・白色鈹物粒/良好/にぶい黄褐	口縁部外面の先端は横ナデ。以下は斜横位のヘラ削り。内面はナデ。高台部は付高台。	器面に炭素吸着。
第171図 PL.129	2	須恵器 杯	南壁際+2・+8 1/3	口底	11.2 5.2	高	4.1	赤黒色粘土粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面の一部に炭素吸着。
第171図 PL.129	3	須恵器 椀	南壁際+3 1/2	口底	14.7	高台	5.2 7.0	灰黒色粘土粒/還元焰・酸化焰ざみ/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は付高台。	器面は摩滅。一部に炭素吸着。
第171図 PL.129	4	土師器 鉢	中央+1 口縁部～胴部上位片	口底	19.7	高		粗砂粒・赤色粘土粒少/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第171図 PL.129	5	土師器 甕	南東部+4・+5、 覆土 口縁部～胴部下位3/4	口底	20.0	高		粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	外面は粘土紐の輪積痕を明瞭に残している。器肉は全体に厚い。口縁部は横ナデ。内面は横位に強い当たりのヘラナデ。	被熱か。器面に炭素吸着。

4区12号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底 <th>20.1</th> <th>高</th> <th></th>	20.1	高				
第173図	1	土師器 甕	竈内 口縁部～胴部片	口底	20.1	高		粗砂・細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は手持ちヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

遺物観察表

第48表 遺物観察表(22)

4区13号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第175図 PL.129	1	須恵器 杯	南壁際+5 3/4	口底	15.3 8.7	高	6.3	粗砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。
第175図 PL.129	2	須恵器 蓋	南壁際西+15、 覆土 口縁部一部欠	口底	19.2	高 摘	4.3 3.2	白色小礫・鈹物粒 多/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離し後にボタン状の摘み部を貼付。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。
第175図 PL.129	3	須恵器 椀	中央北+8 2/3	口底	12.7	高 台	5.2 7.0	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。
第175図 PL.129	4	土師器 甕	竈付近 口縁部～底部片	口底	20.3 4.8	高	28.4	粗砂・細砂粒・赤 色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、以下は斜縦位のヘラ削り。内面の上半部は横位のヘラナデ。
第175図 PL.129	5	土師器 甕	竈付近+3～8 口縁部～胴部上 位	口底	22.0	高		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。

4区14号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第174図	1	土師器 杯	覆土 口縁部片	口底	13.0	高		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。

4区16号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第178図	1	土師器 杯	1号床下土坑、 覆土 1/3	口底	12.7	高		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。わずかな間にナデの部分を残す。内面はナデ。
第178図 PL.129	2	土師器 甕	竈内 1/4	口底	20.9 4.9	高	34.3	粗砂粒・軽石少/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。
第178図 PL.129	3	石製品 砥石	北部+3 1/2	長 幅	(9.6) 5.8	厚 重	4.9 326.3	砥沢石	四面使用。背面側底面の使用面が激しく研ぎ減る。下端側小口部に刃ならし傷が残る。被熱破損。
第178図 PL.129	4	鉄製品 不詳	覆土 破片	長 幅	6.2 2.4	厚 重	0.8 15.52		断面狭三角形の板状で、刀子断面に似るが大きく弧を描く平面形を示し、両端とも破損後錆化しているため詳細は不明。

4区17号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第179図 PL.128	1	土師器 杯	南東壁近+17 1/4	口底	10.6 7.6	高	3.5	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。以下は横位のヘラ削り。内面はナデ。
第179図 PL.128	2	土師器 杯	南東壁際+8、覆 土 2/3	口底	15.5 5.6	高	4.7	粗砂粒/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。下半部は指ナデ。内面は規則性のないヘラ磨き。底部外面に木葉痕。

4区19号竪穴住居出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第181図 PL.128	1	礫石器 不明	西部+2 ほぼ完形	長 幅	(15.5) 5.8	厚 重	4.2 545.0	砂岩	正面および裏面中央部こ平滑面をもつ。左右側面の礫稜部には断面V字状の横方向の線状痕が認められる。正面上端部欠損。

4区2号竪穴状遺構出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第182図 PL.129	1	須恵器 杯	南西部+17 完形	口底	8.9 5.4	高	2.2	粗砂粒少/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形(左回転)。底部回転糸切り後、無調整。

1区3号掘立柱建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図 PL.130	1	土師器 小型台付甕	P1・P3・P5内 台部欠	口底	12.1	高		粗砂・細砂粒/良好 /にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位の、中位以下は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。

2区2号掘立柱建物出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第187図 PL.130	1	鉄製品 不詳	P4内 ほぼ完形	長 幅	8.0 0.7	厚 重	0.7 4.41		断面ほぼ正方形の角棒状で、両端に向かい細くなり両端とも尖る。途中に段等の形状は認められない。

1区19号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第199図	1	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口底	19.0	高		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面に横位のヘラナデ。

1区21号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第200図 PL.130	1	土師器 杯	埋土 3/4	口底	12.3 3.8	高	4.4	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部外面の先端は横ナデ。底部寄りに斜位の手持ちヘラ削り。その間は指オサエ痕を残すナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。

1区24号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第200図 PL.130	1	石製品 砥石	埋土 上端部破片	長 幅	(5.6) (4.3)	厚 重	(2.6) 75.3	砥沢石	四面使用。背面側が著しく研ぎ減る。被熱破損してヒビ割れる。

第49表 遺物観察表(23)

1区33号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	高			
第201図 PL.130	1	石製品 砥石	埋土 4/5	13.5 10.2	10.9 1647.8		砥沢石	小口部上端を除く各面に使用面がある。裏面側には刃ならし傷や粗い線条痕があり、研磨面も形成されているが、その使用頻度は低く、光沢は弱い。両側面・小口部下端には上幅5mmのU字状の溝が廻る。裏面側小口部を欠損後、砥石を二分しようとしたものであろう。	切り砥石

1区45号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚 重			
第202図 PL.130	1	黒色土器 椀	埋土 3/4	11.5 6.9	4.5		粗砂粒・赤色粘土粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転か)。底部切り離し後、周縁部に回転へら削り。その後へら磨き。口縁部外面と内面全面はへら磨き。	内面は黒色処理。
第202図 PL.130	2	土師器 杯	埋土 1/4	12.0	3.6		粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	

1区109号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚 重			
第206図 PL.130	1	土師器 杯	埋土 1/2	13.6 8.0	4.2		粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部外面の先端は横ナデ。下半部に斜横位の手持ちへら削り。その間にナデの部分を残す。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	

2区49号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				径	厚 重	高			
第211図 PL.130	1	石製品 紡輪	埋土 1/3	(5.0)	(0.5) 7.1		蛇紋岩	推定棒軸孔径8mm。正面および側面に整形時の研磨痕が残る。裏面欠損。	

2区98号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高 台	厚 重			
第216図 PL.130	1	須恵器 椀	埋土 口縁部下半~高 台部1/3		11.8		粗砂粒・白色鉍土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部はハの字状に外反。底部回転糸切り後の付け高台。貼付後、周縁部の広い範囲にナデ調整。	底部内面は摩耗。二次利用か。

2区101号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚 重			
第216図 PL.130	1	須恵器 杯	埋土 底部片				粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、回転へら削りか。	底部外面に墨書「□」。

2区122号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚 重			
第219図 PL.130	1	須恵器 椀	埋土 高台部欠	14.4			粗砂粒・赤茶色粘土粒少/酸化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。高台部は剥落後も使用している。	器面は焼成時に炭素吸着。

2区132号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚 重			
第219図 PL.130	1	須恵器 杯	埋土 口縁部一部欠	13.0 8.0	3.9		粗砂粒少・赤色粘土粒少/還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転へら削り。	底部外面に墨書「記号」。

2区136号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚 重			
第220図	1	須恵器 杯	埋土 1/4	12.6 6.9	3.4		粗砂粒/酸化焰/明赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	

3区3号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚 重			
第221図 PL.130	1	土師器 杯	埋土 底部片				粗砂粒/良好/橙	外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	外面に墨書「若力」。

3区16号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高 高	厚 重			
第223図	1	須恵器 椀	埋土 口縁部~高台部 1/3	14.0	5.7 7.4		赤黒色粘土粒/酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	器面は摩滅。

3区21号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高 台	厚 重			
第223図 PL.130	1	黒色土器 椀	埋土 3/4	14.0	6.7 7.8		細砂粒・赤色粘土粒/酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。内面はへら磨き。	内面は黒色処理。口縁外面先端にも炭素吸着。

遺物観察表

第50表 遺物観察表(24)

4区25号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	厚	重			
第226図 PL.130	1	古銭 寛永通寶	埋土 完形	長幅 2.322	厚 0.128	重 2.42		外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面も外縁・郭とも彫深く明瞭。	

4区31号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	厚	重			
第227図 PL.130	1	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 1.1	厚 0.8	重 2.39		断面ほぼ正方形の角棒状で、一端に向かい徐々に細くなり角釘と考えられるが両端とも劣化破損するため詳細不明。	

4区62号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第231図 PL.130	1	瀬戸・美濃 陶器 大皿	埋土 底部3/4	口底 12.5	高		//灰白	内面呉須と鉄絵具による植物文。内面から高台脇灰釉。貫入する。内面目痕4箇所残存。高台内に「タケ」の墨書符丁。	
第231図 PL.130	2	瀬戸・美濃 陶器 灯火受皿	埋土 完形	口底 10.0 4.0	高 2.2		//灰黄	錆釉施釉後に口縁部外面以下を拭う。受け部1カ所「U」字状に抉る。口径に比して底径小さい。外面重ね焼痕残る。	
第231図 PL.130	3	在地系土器 皿	埋土 1/6	口底 (11.0) (6.0)	高 2.8		//にぶい橙	体部器壁薄く、口縁部肥厚。口縁部内湾。轆轤左回転。	
第231図 PL.130	4	在地系土器 手焙か	埋土 口縁部1/4、底部 1/2	口底 (19.8)	高		//浅黄橙～暗灰	断面中央黒色、器表付近浅黄橙色、器表浅黄橙色から暗灰色。高台欠損。口縁端部器表摩滅。	
第231図 PL.130	5	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 5.3 4.3	厚 0.8 19.09			厚さ5mm程の鑄造鉄製品破片で、不定形に破損し錆化に伴い放射割れを生じている。	
第231図 PL.130	6	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 4.5 3.9	厚 1.1 14.61			厚さ3mm程の鑄造鉄製品破片で、不定形に破損し錆化に伴い放射割れを生じている。	
第231図 PL.130	7	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 4.8 3.1	厚 2.0 14.66			鑄造鉄製品の破片で、錆化により放射割れを生じている。	
第231図 PL.130	8	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 7.6 6.2	厚 1.7 56.96			鑄造鉄製品の破片で、錆化により放射割れを生じている。	

4区65号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第231図 PL.131	1	肥前磁器 染付小杯	埋土 1/4	口底 (7.0) (2.2)	高 3.2		//灰白	口縁部外面染付一部残る。体部と高台境釉がかからない部がある。	
第231図 PL.131	2	肥前磁器 染付小丸碗	埋土 1/2	口底 (8.6) (3.2)	高 4.9		//白	外面竹文。口縁部内面2重圏線。底部内面1重圏線内に不明文様。	
第231図 PL.131	3	肥前磁器 白磁か染付 瓶	埋土 体部以下	口底 3.4	高		//灰白	残存部無文。外面回転篋削り痕顕著。内面と高台端部無釉。	
第231図 PL.131	4	瀬戸・美濃 陶器 灯火受皿	埋土 完形	口底 10.4 4.0	高 2.1		//灰黄	錆釉施釉後に口縁部外面以下を拭う。受け部1カ所「U」字状に抉る。口径に比して底径小さい。外面重ね焼痕残る。	
第231図 PL.131	5	在地系土器 不詳	埋土 口縁部1/5	口底 (12.7)	高		//灰	断面中央黒色、器表付近から器表灰色。口縁部蓋受け状を呈する。体部外面篋削り。	
第231図 PL.131	6	在地系土器 焙烙	埋土 口縁部～体部片	口底	高		//灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表灰色。外面煤付着。内面から外面中位回転横撫で。外面中位以下型痕。体部外面下端篋削り。	
第231図 PL.131	7	石製品 砥石	埋土 完形	長幅 (11.0) 2.9	厚 2.4 69.6		砥沢石	背面側・左側面を使用、背面側は著しく研ぎ減る。左右の側面・裏面側には整形痕が残る、左辺にはノコギリ痕が、右辺にはノミ状の工具痕、裏面には両者の整形痕が残る。	切り砥石

4区68号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第232図 PL.131	1	肥前磁器 染付筒形碗	埋土 口縁部1/4、底部 1/2	口底 (6.9) (3.5)	高 5.5		//白	体部外面と高台脇染付。口縁部内面簡略化した四方禪文。底部内面1重圏線内に五弁花文。	

4区78号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第233図 PL.131	1	在地系土器 焙烙	埋土 口縁部から底部 片	口底	高		//浅黄橙	内面から外面中位回転横撫で後、内耳貼り付け。外面中位以下型痕。体部外面下端篋削り。	

4区80号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第233図 PL.131	1	肥前陶器 青緑釉皿	埋土 体部一部、底部 完	口底 4.7	高		//灰白	内面緑釉。外面中位以上透明釉。底部蛇ノ目釉剥ぎ。	

第51表 遺物観察表(25)

4区88号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第234図	1	在地系土器 皿	埋土 1/3	口 底	(8.0) (4.8)	高	2.0	//にぶい橙	口縁部から体部器壁やや薄い。底部左回転糸切無調整。底部中央焼成後の円孔1カ所の可能性あり。
第234図	2	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋土 体部以下1/4	口 底	(4.5)	高		//灰白	内面から高台脇輪軸。

4区102号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第235図 PL.131	1	須恵器 碗	埋土 2/3	口 底	12.8	高台	5.7 6.2	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の付け高台。器面は摩滅。一部に炭素吸着。
第235図 PL.131	2	須恵器 碗	埋土 口縁部~口縁部 下位1/3	口 底	14.6	高		粗砂粒少/酸化焰/ 橙	ロクロ整形(右回転)。器面に炭素吸着。口縁部外面に墨書「春カ」。

4区103号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第236図 PL.131	1	土師器 甕	埋土 口縁部~胴部中 位1/3	口 底	19.0	高		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位から中位は斜横位の、下位は縦位のへら削り。内面は横位のへら削り。被熱。外面に炭素吸着。内面は摩滅。

4区110号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第236図	1	肥前磁器 染付碗	埋土 口縁部~体部 1/5	口 底	(11.0)	高		//灰白	外面1重圏線下に丸文。

2区3号井戸出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第237図 PL.131	1	須恵器 杯	埋土 口縁部片	口 底		高		粗砂粒少/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。外面に墨書「他カ」。
第237図 PL.131	2	石製品 紡輪	埋土 ほぼ完形	径	3.4	厚 重	1.9 24.9	砥沢石	棒軸孔径8mm。全面研磨され平滑である。側面に研磨時の稜線が残る。平面形が不整な円形で、孔の位置もずれていることから、作り直しの可能性がある。厚型台形状

4区2号井戸出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第239図 PL.131	1	鉄製品 火打金	埋土 ほぼ完形	長 幅	5.0 2.0	厚 重	0.9 7.63		三角形の火打金で中央に2.5mm程の円穴を持つ。紐・布等の痕跡は確認できない。

4区7号井戸出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第240図 PL.131	1	石製品 硯	埋土 1/2	長 幅	(7.0) 4.8	厚 重	1.2 71.4	頁岩	陸・海部、裏面とも剥落が著しく、使用面は部分的に残存するのみである。小口部・両側面には整形時の線条痕が粗く残る。下半部を大きく欠損する。

4区9号井戸出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第241図	1	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋土 体部下位~底部	口 底	5.8	高		//浅黄	内面から高台脇輪軸。高台脇以下鉄化粧。高台脇輪軸水平。
第241図 PL.131	2	在地系土器 皿	埋土 口縁部1/4欠	口 底	9.2 6.4	高	1.9	//にぶい黄橙	口縁部丸みを持つ。底部左回転糸切無調整。底部中央に焼成後の円孔1カ所。
第241図	3	在地系土器 皿	埋土 口縁部1/8、底 部完	口 底	(8.0) 5.5	高	2.4	//橙	体部やや内湾。底部左回転糸切無調整。

1区1号ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第243図 PL.131	1	土製品 土錘	埋土 一部残	長 幅	2.5 1.1	厚 孔	0.6	細砂粒少/酸化焰/ にぶい黄橙	器面はナデ。重量1.71g。

1区2号ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第243図 PL.131	1	土製品 土錘	埋土 1/2	長 幅	4.0 1.9	厚 孔	0.4	細砂粒少/酸化焰/ にぶい黄橙	両端部にはへらで切り落とされた平坦面を有する。器面はナデ。重量6.13g

1区54号ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第246図 PL.131	1	石製品 砥石か	埋土 完形	長 幅	11.9 8.9	厚 重	5.9 646.4	粗粒輝石安山岩	表裏面・右側面が研磨摩耗する。このほか、左側面が面取り整形され、平坦面が形成されている。礫砥石

遺物観察表

第52表 遺物観察表(26)

2区80号ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第250図 PL.131	1	須恵器 杯	埋土 1/2	口底	11.3 6.0	高	4.0	白色鉱物粒/還元 焰・やや軟質/黄 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。 器面は摩耗。

4区14号ピット出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第255図	1	土師器 甕	埋土 口縁部~胴部上 位1/3	口底	21.0	高		粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。頸部に工 具が強く当たっている。内面は横位のヘラナデ。 器面はやや摩 滅。

1区2号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第258図	1	須恵器 小型甕	埋土 口縁部~胴部上 位片	口底	13.0	高		白色鉱物粒多・黒 色鉱物粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。内面に指オサエ痕。 器面はナデ。 重量1.92g
第258図 PL.131	2	土製品 土錘	埋土 一部欠	長幅	2.7 0.9	厚 孔	0.9 0.3	細砂粒少/酸化焰/ にぶい褐	

1区3号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第258図 PL.131	1	石製品 不明石製品	埋土 完形	長幅	(10.0) 7.9	厚 重	6.6 303.3	二ツ岳軽石	各面とも丁寧に研磨されている。断面三角形状を呈す。用 途については不明。 河床礫

1区8号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第259図	1	瀬戸・美濃 陶器 灯火受皿	埋土 口縁部~体部 1/4	口底	(10.9)	高		//浅黄	受け部に切り込み1カ所。錆釉施釉後に口縁部外面以下拭 う。口縁部外面以下回転削り。
第259図	2	在地系土器 皿	埋土 口縁部1/8、底 部1/4	口底	(9.8) (6.6)	高	2.4	//にぶい黄橙	口縁部屈曲して立ち上がる。体部下端高台状に厚みを持つ。 底部右回転糸切無調整。
第259図	3	在地系土器 焙烙	埋土 口縁部から~底 部片	口底		高		//黒~灰黄	断面中央黒色、器表付近灰白色、口縁部から体部器表黒色、 底部内外面器表灰黄色。口縁強く外反。内面から口縁部外 面回転横撫で。内面轆轤目顕著。外面中位以下型痕。
第259図 PL.131	4	鉄製品 釘	埋土 破片	長幅	2.1 0.7	厚 重	0.7 1.35		断面ほぼ正方形の角釘破片。頭部は一部広がっているが半分 破損するため全体形状は不明。頭から1.5cmまでの表面に、 釘に直交する木質(板目材)が錆化付着する。釘先端側は劣 化破損する。

1区9号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第259図 PL.131	1	古銭 寛永通寶	埋土 完形	長幅	2.344 2.313	厚 重	0.115 1.74		表面は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面は外縁・郭と も彫浅いが明瞭。寶の字をまたぐ形で鑄欠けが見られる。

2区3号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第261図	1	肥前磁器 染付猪口	埋土 1/4	口底	(6.9) (3.4)	高	5.6	//白	体部から口縁部直線的に開く。外面染付。
第261図	2	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋土 底部	口底	4.8	高		//灰白	内面から高台脇胎釉。底部内面部分的に藁灰釉かかる。底 部周縁意図的な打ち欠きか。

2区4号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第262図	1	肥前磁器 染付碗	埋土 体部下位以下 1/4	口底	(3.8)	高		//白	外面染付。高台内1重圏線内に不明銘。
第262図	2	肥前系磁器 か 仏飯器	埋土 脚部	口底	3.6	高		//灰白	内面から脚底部外面施釉。釉は白濁し不透明。残存部に染 付は確認できない。焼成不良。
第262図	3	瀬戸・美濃 陶器 仏飯器か	埋土 1/4	口底	(6.1)	高		//灰	内外面灰釉。残存部に無釉箇所なく、小碗ではなく、仏飯 器の可能性ある。
第262図	4	瓦 十能瓦	埋土 角片	長幅		厚	1.6	//褐灰	側縁の屈曲強い。屈曲部内面指頭圧痕ならぶ。裏面型痕。
第262図 PL.131	5	鉄製品 包丁	埋土 破片	長幅	6.3 3.7	厚 重	0.9 35.52		薄い板状鉄製品2点で同一個体と考えられるが直接接合は しない。1点では柄の付け根と見られる形状を示し包丁の 破片と考えられる。

第53表 遺物観察表(27)

2区8号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第264図	1	在地系土器 焙烙	埋土 口縁部から～底部 片	口底		高	//黒～灰黄	断面中央黒色、器表付近灰白色、口縁部から体部器表黒色、底部内外面器表灰黄色。内面から体部外面回転横撫で後、下位外面鑿削り。外面口縁部下接合痕残る。底部外面型痕。	

2区9号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第264図	1	在地系土器 片口鉢	埋土 口縁部片	口底		高	//灰	断面橙色、器表灰色。外面轆轤目顕著。	中世。

2区10号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第264図	1	常滑陶器 甕か	埋土 体部片	口底		高	//暗褐・灰褐	断面中央にふい橙色、外面器表暗褐色、内面器表灰褐色。外面上部に自然釉斑状にかかる。	中世。
第264図 PL.131	2	石製品 砥石	埋土 頭部破片	長幅	(6.7) 3.1	厚重 (3.3) 81.8	砥沢石	表裏面に機能部があり、背面側が著しく研ぎ減る。左右の両辺には刀子状の工具痕が残る。	切り砥石

2区11号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第266図 PL.131	1	須恵器 提瓶	埋土 胴部片	口底		高	白色鈹物粒/還元 焰/灰白	紐づくり後、ロクロ整形。把手の一部が残存。製作時の上位側にカキ目。	
第266図	2	肥前系磁器 染付小碗	埋土 口縁部～体部一 部、底部3/4	口底	(8.4) 2.8	高 4.1	//灰白	高台外面中位稜をなす。残存部体部外面に1条の圈線。	
第266図	3	瀬戸・美濃 陶器 小碗	埋土 口縁部～体部 1/4	口底	(6.6)	高	//灰白	内面から高台脇灰釉。粗い貫入入る。	
第266図	4	瀬戸・美濃 陶器か 蓋	埋土 完形	摘底	1.2 3.2	高 1.4	//灰黄	上面雑な施釉で部分的に薄い釉。下面鑿削り。	
第266図	5	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢	埋土 口縁部1/6、底 部1/3	口底	(19.5) (10.2)	高 10.6	//灰白	口縁端部内側に突き出る。口縁部外面1条の凹線。内面から高台脇灰釉。底部内面目痕1箇所残存。	
第266図 PL.131	6	銅製品 キセル	埋土 ほぼ完形	長幅	5.7 1.6	厚重 2.4 7.56		キセルの雁首で錆状況から銅製とみられるが、表面にメッキおよび象嵌等の装飾は認められない。火皿の付け根外側に1mm程の段を持つ、火皿内にはタバコ・やに等の残渣が残る。	

2区12号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第266図 PL.131	1	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅	3.2 1.0	厚重 0.6 2.50		錆化が著しく硬い錆に覆われ本体は脆弱、薄い板状の鉄製品で詳細形状は劣化により不明。	

2区17号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第267図 PL.132	1	須恵器 杯	埋土 1/2	口底	11.6 5.8	高 4.3	白色鈹物粒。灰黒 色粘土粒少/還元 焰・不良/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第267図 PL.132	2	須恵器 壺	埋土 頸部～底部	口底		高台 12.1	白色鈹物粒多・赤 色粘土粒/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形(右回転)。胴部外面の下位は回転ヘラ削り。高台部は低く、ハの字に延びる付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	

2区20号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第269図	1	在地系土器 片口鉢	埋土 片口部片	口底		高	//灰	断面灰白色、器表灰色。口縁部薄い玉縁状。	中世。
第269図	2	在地系土器 片口鉢	埋土 口縁部片	口底		高	//灰	断面にふい黄橙色、器表灰色。口縁部薄い玉縁状。	中世。
第269図 PL.132	3	銅製品 キセル	埋土 破片	長幅	5.8 1.0	厚重 1.5 4.59		キセル雁首破片で、錆の状況から銅製と考えられるがメッキ・象嵌等の装飾の痕跡は認められない。火皿側で破損し端部はつぶれている。	

2区22号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第270図 PL.132	1	土師器 杯	埋土 底部片	口底		高	粗砂粒/良好/にぶ い橙	外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に墨書「記号」。
第270図	2	埴輪 円筒	埋土 破片	口底		高	粗砂粒/窯室焼成/ にぶい橙	外面に1cmあたり4本の縦ハケ。内面はナデ。	

遺物観察表

第54表 遺物観察表(28)

3区8号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	(29.4)	高			
第275図	1	瀬戸・美濃 陶器 大皿	埋土 口縁部～体部 1/8	口底	(29.4)	高	//灰白	口縁部肥厚し、上面平坦。湾曲部外面凹線状に窪ませる。内外面灰釉。貫入入る。	

4区1号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	(15.0) (9.0)	高 3.2			
第276図	1	肥前磁器 染付皿	埋土 口縁部一部、底 部1/4	口底	(15.0) (9.0)	高 3.2	//灰白	底部内面蛇ノ目釉剥ぎ。口縁部から体部内面唐草文。残存部外面無文。	
第276図	2	瓦 十能軒先瓦	埋土 瓦頭部	長幅		厚	//灰黄	断面中央黒色、器表付近から器表灰黄色。文様区やや狭く、区内に唐草文。	
第276図	3	瓦 十能瓦	埋土 1/3	長幅		厚 1.2	//黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。側縁湾曲。湾曲部内面撫で。裏面型痕。	
第276図	4	樹脂製品 匙状	埋土 一部欠	長幅	1.0	厚 0.5	//黒	茶杓状を呈する。	近現代。
第276図 PL.132	5	古銭 文久永寶	埋土 完形	長幅	2.618 2.633	厚重 0.161 2.67		一部表面に劣化破損が見られるが、外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面も外縁・郭とも彫深く明瞭。久の字の背面より押された形での変形が見られるがこれは劣化後の可能性が高い。	

4区4号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長幅	3.6 2.3	厚孔 2.4 0.6			
第277図 PL.132	1	土製品 土錘	埋土 1/2	長幅	3.6 2.3	厚孔 2.4 0.6	細砂粒/酸化焰/浅黄橙	端部の直径と比較して、胴部の最大径は大きい。	器面は摩滅。重量13.28g
第277図 PL.132	2	石製品 砥石	埋土 完形	長幅	11.8 3.7	厚重 4.7 193.3	砥沢石	二面使用。表裏面とも著しく研ぎ減る。両側面にはタガネ状の工具による整形痕が残る。	切り砥石

4区5号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	(10.7) 4.7	高 7.8			
第277図	1	肥前陶器 呉器手碗	埋土 口縁部1/8、底 部完	口底	(10.7) 4.7	高 7.8	//灰黄	高台端部を除き透明釉。細かい貫入入る。高台内の挟り深い。	
第277図	2	製作地不詳 磁器 染付小碗	埋土 1/4	口底	(7.2) (3.3)	高 4.7	//白	残存部外面無文。底部内面「水町」染付。「水」の上部は欠損するため、水町の可能性が高い。現在の邑楽郡大泉町古水かであろう。	近現代。
第277図	3	瀬戸・美濃 陶器 腰鍔碗	埋土 口縁部～体部 1/3	口底	(9.8)	高	//灰白	外面口縁部下螺旋状凹線。内面から口縁部外面灰釉。外面口縁部以下錆色の鉄釉。灰釉に貫入入る。	
第277図	4	瀬戸・美濃 陶器 せんじ碗	埋土 底部	口底	4.0	高	//灰白	内外面灰釉と錆色の鉄釉掛け分け。灰釉に貫入入る。高台端部のみ無釉。	
第277図	5	在地系土器 皿	埋土 1/5	口底	(8.4) (6.5)	高 1.7	//にぶい黄橙	口縁端部内面小さく内湾。底部回転糸切無調整。	
第277図 PL.132	6	在地系土器 瓦灯か	埋土 破片	口底		高	//にぶい橙	断面中央暗灰色、器表付近から器表にぶい橙色。割れ口に焼成前凹孔が認められる。瓦釘下の湾曲部であろう。内外面の調整痕6溝9と同じ。	6溝9と同一個体であろう。
第277図 PL.132	7	石製品 不明石製品	埋土 完形	長幅	8.0 9.2	厚重 3.4 284.2	粗粒輝石安山岩	原礫を分割、分割面を研磨して平坦面を作出する。裏面側は本石製品が安定するよう礫面中央付近を敲打する。	楕円礫
第277図 PL.132	8	石製品 砥石	埋土 ほぼ完形	長幅	(9.2) 3.4	厚重 2.2 93.8	砥沢石	二面使用。背面側は山形に著しく研ぎ減る。両側面とも平坦に整形され、右側面にタガネ状の工具痕が残る。	切り砥石

4区6号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	52.2	高			
第279図	1	須恵器 甕	埋土 口縁部片	口底	52.2	高	小礫・粗砂粒・灰黒色粘土粒/還元焰/灰	紐づくり後、ロクロ整形。整形は粗雑。	
第279図 PL.132	2	肥前磁器 染付小丸碗	埋土 口縁部～体部 1/2	口底	(8.5)	高	//灰白	外面矢羽根文。口縁部内面2重圏線。底部周縁1重圏線。	
第279図	3	瀬戸・美濃 磁器 染付小碗	埋土 口縁部～体部 1/4	口底	(7.0)	高	//白	口縁部内外面呉須で塗る。外面口縁部下に緑色と茶色の銅板転写で菊文。	近現代。
第279図 PL.132	4	瀬戸・美濃 陶器 水注	埋土 口縁部～体部 1/3欠	口底	6.6 5.2	高 8.1	//灰白	内面条線状の轆轤目。高台基筒底状。内面から体部下端錆色の鉄釉。口縁端部無釉。	
第279図	5	在地系土器 皿	埋土 口縁部1/8、底 部1/4	口底	(9.0) (6.0)	高 1.7	//にぶい橙	底部左回転糸切無調整。	
第279図	6	在地系土器 焙烙	埋土 1/6	口底	(34.0)	高	//にぶい黄橙	丸底。口縁部は直線的。底部周縁内面から口縁部外面回転横撫で。底部外面型痕。内耳1箇所残存。	
第279図	7	在地系土器 焙烙	埋土 口縁部から底部 片	口底		高	//淡黄～暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表淡黄から暗灰色。口縁部外反し、上面平坦。内面から外面中位回転横撫で後、内耳貼り付け。外面中位以下型痕。口縁部外面接合痕残る。	

第55表 遺物観察表(29)

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長	幅	厚				
第279図 PL.132	8	在地系土器 羽口か送風 管	埋土 先端部片	長 外	5.2	内	2.1	//暗灰	断面から器表付近と内面器表にぶい橙色、外面器表暗灰色。先端部平坦で「○に二」の押印。外面撫で。内面皺状痕。	
第279図	9	在地系土器 瓦灯	埋土 笠部片	口 底		高		//にぶい橙	断面中央暗灰色、器表付近から器表にぶい橙色。北関東に多い鏝を持つタイプ。鏝下にスリット状の透かし。外面丁寧な回転横撫で。	5溝6と同一 個体か。
第279図 PL.132	10	礫石器 敲石	埋土 頭部破片	長 幅	(5.1) (4.9)	厚 重	3.2 114.0	粗粒輝石安山岩	小口部上端に敲打痕、上端部側縁に敲打に伴う衝撃剥離痕がある。上端部破片。	棒状礫
第279図 PL.132	11	鉄製品 角釘	埋土 一部破損	長 幅	6.3 0.8	厚 重	0.6 3.86		断面ほぼ正方形の角釘破片で、頭部は劣化破損する。先端に向かい徐々に細くなり尖る。	
第279図 PL.132	12	鉄製品 角釘か	埋土 破片	長 幅	4.3 1.0	厚 重	0.8 3.41		断面ほぼ正方形の角棒状鉄製品で、角釘破片と考えられるが両端とも劣化破損するため詳細は不明。	
第279図 PL.132	13	鉄製品 角釘か	埋土 破片	長 幅	3.6 1.0	厚 重	0.7 2.04		断面ほぼ正方形の角棒状鉄製品で、角釘破片と考えられるが両端とも劣化破損するため詳細は不明。	
第279図 PL.132	14	鉄製品 角釘か	埋土 破片	長 幅	3.7 0.8	厚 重	0.7 1.61		断面ほぼ正方形の角棒状鉄製品で、角釘破片と考えられるが両端とも劣化破損するため詳細は不明。	

4区7号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚			
第280図	1	肥前磁器 染付碗	埋土 1/4	口 底	(8.8) (3.2)	高	5.0	//灰白	外面雪輪梅樹文か。
第280図	2	肥前磁器 染付小丸碗	埋土 1/4	口 底	(9.0) (3.0)	高	5.6	//白	外面雪持ち竹文。口縁部内面2重圏線、底部内面周縁1重圏線。底部内面中央欠損。
第280図 PL.132	3	肥前磁器 染付小丸碗	埋土 口縁部1/3、底 部1/2	口 底	(8.5) 3.6	高	5.8	//白	外面雪持ち竹文。口縁部内面2重圏線、底部内面周縁1重圏線内に不明文様。
第280図 PL.132	4	肥前磁器 染付広東碗	埋土 1/3	口 底	(9.1) (6.2)	高	6.2	//白	外面草花文。口縁部内面2重圏線。底部1重圏線内に不明文様。
第280図	5	瀬戸・美濃 陶器 灯火受皿	埋土 1/3	口 底	(10.2) (5.4)	高	1.9	//灰	受け部「U」字状に1カ所挟る。口縁部外面以下回転篋削り。錆油施釉後、口縁部外面以下拭う。外面重ね焼痕残る。
第280図 PL.132	6	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	埋土 口縁部1/2、底 部完	口 底	10.1 4.4	高	2.2	//灰	錆油施釉後、外面口縁部以下を拭う。口縁部外面以下回転篋削り。内外面重ね焼痕残る。
第280図 PL.132	7	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	埋土 完形	口 底	9.4 4.4	高	2.3	//灰白	口縁部外面以下回転篋削り。錆油施釉後、口縁部外面以下を拭う。口縁部内外面油煙と油付着。内外面重ね焼痕。
第280図	8	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	埋土 底部1/2	口 底	(13.4)	高		//浅黄橙	底部右回転糸切無調整。錆油。内面すり目使用により摩滅。
第280図	9	在地系土器 皿	埋土 口縁部1/7、底 部完	口 底	(9.3) 5.6	高	2.1	//橙	口縁部小さく外反。底部内面境明瞭。底部左回転糸切無調整。
第280図	10	在地系土器 皿	埋土 1/4	口 底	(8.6) (6.0)	高	1.7	//浅黄橙	口縁部やや肥厚。底部外面器表やや摩滅し、糸切回転方向不明。
第280図	11	在地系土器 皿	埋土 口縁部1/8、底 部1/4	口 底	(9.3) (6.0)	高	1.9	//にぶい橙	外面下位緩く外反。底部内面轆轤目顕著。底部左回転糸切無調整。
第280図	12	在地系土器 焙烙	埋土 口縁部から底部 片	口 底		高	5.7	//灰黄褐・暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、口縁部から体部内外面器表暗灰色、底部内外面灰黄褐色。内面から体部外面回転横撫で。底部外面下位以下型痕。体部外面下端篋削り。
第280図	13	在地系土器 焙烙	埋土 口縁部から底部 片	口 底		高	5.3	//暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表暗灰色。器壁厚。口縁部外面小さく突き出る。口縁部上面平坦。内面から口縁部外面回転横撫で。口縁部外面接合痕残る。外面中位以下型痕。
第280図	14	在地系土器 置輪	埋土 破片	口 底		高	3.6	//黒褐	断面中央灰色、器表付近にぶい橙色。器表黒褐色。内面から底部煤付着。

4区8号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚			
第280図	1	在地系土器 皿	8・9号溝埋土 口縁部1/8、底 部1/4	口 底	(9.8) (6.8)	高	3.4	//にぶい黄橙	口縁部内湾。底部内面轆轤目顕著。底部外面篋削りと撫で。
第280図 PL.132	2	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	4.2 4.2	厚 重	0.6 11.13		厚さ3mm程の板状の鑄造鉄製品破片で、錆化に伴い放射割れを生じている。一側面に縁状に厚い部分が見られるが劣化破損のため詳細は不明。
第280図 PL.132	3	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅	3.5 2.4	厚 重	0.5 3.21		厚さ4mm程の板状の鑄造鉄製品破片で、錆化に伴い放射割れを生じている。

遺物観察表

第56表 遺物観察表(30)

4区12号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第283図	1	須恵器 杯	埋土 破片	口 底	12.0 7.0	高	3.5	白色鈹物粒少/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。
第283図	2	瀬戸・美濃 陶器 腰錆碗	埋土 1/3	口 底	(9.0)	高		//灰白	外面口縁部下螺旋状凹線。内面から口縁部外面灰釉。外面口縁部以下錆色の鉄釉。灰釉に貫入する。
第283図	3	在地系土器 火鉢か	埋土 1/4	口 底	(29.0)	高		//灰黄	断面黒色、器表付近から器表灰黄色。口縁部内面に大きく突き出る。口縁部上面平坦。内面回転横撫で。外面粗い磨き。
第283図	4	在地系土器 火鉢か	埋土 1/6	口 底	(40.0)	高		//黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表黒色。内面から口縁部外面回転横撫で。体部外面撫で。体部外面下位以下型痕。
第283図	5	瓦 十能瓦	埋土 側縁片	長 幅		厚	1.1	//灰黄	断面淡黄色、器表灰黄色。側縁屈曲。側縁端部凹凸多い。裏面型痕。側縁裏面凹凸多い。屈曲部内面撫で。
第283図	6	瓦 十能瓦	埋土 側縁片	長 幅		厚	1.4	//灰	断面黒色、器表灰白色、器表灰色。側縁内面撫で。裏面型痕。

4区17号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第285図	1	在地系土器 皿	埋土 1/4	口 底	(9.3) (7.3)	高	1.8	//橙	口径に比して底径大きい。底部内面轆轤目顕著。底部左回転糸切無調整。

4区19号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第286図	1	土師器 杯	埋土 1/4	口 底	12.0 6.8	高	3.7	粗砂粒/良好/橙	口縁部の先端は横ナデ。下位の一部と底部外面に手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第286図	2	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	13.0 5.6	高	4.0	粗砂粒・灰黒色粘土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。

4区20号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第286図	1	在地系土器 皿	埋土 1/5	口 底	(8.6) (6.0)	高	2.1	//にぶい黄橙	口縁部ゆるく内湾。底部左回転糸切無調整。底部周縁付近ドーナツ状に窪む。

4区24号溝出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第286図	1	在地系土器 皿	埋土 底部1/2	口 底	6.0	高		//にぶい黄橙	底部右回転糸切無調整。底部焼成後の円孔4カ所残存。円孔は両側からあける。

4区2号畠出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第290図 PL.132	1	古銭 寛永通寶	埋土 完形	長 幅	2.239 2.230	厚 重	0.101 1.79		外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面は外縁・郭とも彫浅いが明瞭。

1区遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第291図	1	土師器 杯	1区 口縁部～底部 1/4	口 底	13.0	高		粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分有する。内面はナデ。
第291図 PL.133	2	瀬戸・美濃 陶器 灯火受皿	埋土 口縁部1/4欠	口 底	7.8 3.8	高	1.7	//灰	受け部スリット状の切り込み1カ所。錆釉施釉後、底部外面を拭う。外面口縁部以下回転削り。
第291図 PL.133	3	鉄製品 釘	1区 一部破損	長 幅	3.8 1.1	厚 重	0.7 2.84		断面長方形の角釘破片で、頭部は薄く広げて一方向に底状に張り出すが折り曲げは見られない。頭から3.5cm程で劣化破損し先端は不明木質等の痕跡は認められない。

2区遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第291図	1	土師器 高杯	包含層 脚部上位～中位	口 底		高		粗砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい黄橙	外面は縦位のヘラ削り。内面の上位はヘラ削り。下位は縦位のヘラナデ。
第291図 PL.133	2	須恵器 杯	包含層 1/3	口 底	14.0 6.9	高	4.4	粗砂粒/還元焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。
第291図 PL.133	3	鉄製品 火打金	2区 ほぼ完形	長 幅	6.0 2.1	厚 重	1.0 10.55		錆化が進むがほぼ完形の火打金で中央上部に4mm程の丸穴を持ちその断面では歪みが見られるが錆化によるものと考えられる。紐・木質等の痕跡は確認できない。
第291図 PL.133	4	鉄製品 不詳	2区 ほぼ完形	長 幅	3.9 2.2	厚 重	0.9 6.05		断面四角形の長い角棒状鉄製品の中央をループ型に曲下駄のち両端を平行に揃え先端を細く尖らせているが木質等の痕跡は確認できない。

3区遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第291図	1	土師器 杯	3区 口縁部～底部 1/4	口 底	11.8	高		赤黒色粘土粒/良好/浅黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。器面は摩滅。

第57表 遺物観察表(31)

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第291図	2	土師器 杯	3区 1/4	口底	11.4 9.0	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
4区遺構外出土遺物										
挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第292図	1	土師器 甕	4区攪乱 口縁部~胴部上 位1/3	口底	20.6	高		粗砂粒/良好/橙	器肉厚い。口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第292図 PL.133	2	土製品 土錘	4区表土 端部欠	長幅	4.0 1.0	厚孔	0.9 0.3 0.3	細砂粒少/酸化焰/ にぶい赤褐	全体形状は径が細く、端部の直径と胴部の最大径は差が少ない。器面はナデ。	重量2.85g
第292図 PL.133	3	土製品 土錘	4区表土 1/2	長幅	3.1 0.9	厚孔	0.9 0.3 0.3	細砂粒少/酸化焰/ にぶい黄橙	全体形状は径が細く、端部の直径と胴部の最大径は差が少ない。器面はナデ。	重量1.91g
第292図 PL.133	4	土製品 土錘	4区表土 端部欠	長幅	3.2 0.9	厚孔	0.8 0.3 0.3	細砂粒少/酸化焰/ 灰黄褐	全体形状は径が細く、端部の直径と胴部の最大径は差が少ない。器面はナデ。	器面に炭素吸着。重量2.04g
第292図 PL.133	5	土製品 土錘	4区表土 端部欠	長幅	3.1 1.0	厚孔	1.0 0.3 0.4	細砂粒少/酸化焰/ にぶい黄橙	全体形状は径が細く、端部の直径と胴部の最大径は差が少ない。器面はナデ。一部にヘラ削りの部分が見られる。	重量2.75g
第292図 PL.133	6	石製品 砥石	攪乱 1/3	長幅	(4.5) 4.6	厚重	2.0 56.3	砂岩	左辺を除く、各面を使用。背面側エッジに刃ならし傷が残る。小口部・左辺は折り取り面が残されている。荒砥。	切り砥石
第292図 PL.133	7	石製品 砥石	攪乱 1/2	長幅	(7.6) 3.3	厚重	2.9 115.3	砥沢石	四面使用。各面とも著しく研ぎ減る。右辺に縦位の、裏面に横位・斜位の粗い線条痕が残る。下端側の小口部は刀子状工具により平坦に整形されている。	切り砥石
4区遺構外出土遺物										
挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第292図 PL.133	1	土師器 杯	完形	口底	10.4	高	3.7	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は外傾著しく中位に段を有する。底部との間には稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第292図 PL.133	2	土師器 杯	口縁部一部欠	口底	10.0	高	3.6	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。中位には弱い段をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第292図 PL.133	3	土師器 杯	口縁部一部欠	口底	9.7	高	3.3	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	被熱。外面の炭素吸着は黒斑か。
第292図 PL.133	4	土師器 杯	2/3	口底	10.0	高	3.7	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は中位に弱い段をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	底部外面に黒斑。
第292図 PL.133	5	土師器 杯	完形	口底	12.0	高	4.6	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。	
第292図 PL.133	6	土師器 杯	完形	口底	11.1	高	3.8	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。中位には弱い段をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第292図 PL.133	7	土師器 杯	口縁部一部欠	口底	11.8	高	3.9	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第292図 PL.133	8	土師器 杯	完形	口底	11.0	高	4.2	粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に塗塗布。外面に黒斑。
第292図 PL.133	9	土師器 杯	口縁部一部欠	口底	12.3	高	4.5	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第292図 PL.133	10	土師器 杯	完形	口底	12.2	高	4.4	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に黒斑。
第292図 PL.133	11	土師器 杯	口縁部1/4欠	口底	11.75	高	3.9	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。中位にも弱い段をなす。先端は内側が削がれたように尖る。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第292図 PL.133	12	土師器 杯	口縁部1/4欠	口底	11.6	高	3.9	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第292図 PL.133	13	土師器 杯	底部1/4欠	口底	11.5	高	4.5	粗砂粒/良好/にぶ い橙	器形は大きく歪む。口縁部は先端が内側に弱い段を有する。横ナデ。底部外面に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第292図 PL.133	14	土師器 杯	1/4	口底	11.9	高	3.8	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部外面は2回に分けて横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第292図	15	土師器 杯	1/3	口底	12.2	高	3.8	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部の中位は弱い段をなす。内面の先端直下は凹線状にくぼむ。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	被熱か。
第292図	16	土師器 杯	1/3	口底	11.7	高		粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。外面は2回に分けて横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部内面に線刻、あるいは工具の当たった跡か。
第292図	17	土師器 杯	1/3	口底	12.2	高	3.8	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。内面の先端直下は凹線状にくぼむ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第292図	18	土師器 杯	破片	口底	12.3	高	3.4	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。	
第292図 PL.133	19	土師器 杯	1/3	口底	13.9	高	8.15	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。中位に弱い段をなす。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第292図 PL.133	20	土師器 鉢	2/3	口底	13.4	高	12.6	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	内面に炭素吸着。

遺物観察表

第58表 遺物観察表(32)

3区11号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第293図 PL.133	1	縄文土器 深鉢	埋土 底部片				A//	RL縄文を横位施文。外面やや風化。	前期中葉
第293図 PL.133	2	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片				B//	RL・LR縄文を横位施文して菱形意匠を構成。外面やや風化。	前期中葉

3区20号土坑出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第293図 PL.133	1	縄文土器 深鉢	埋土 胴部片				C//	RL・LR縄文を横位施文して菱形意匠を構成。内外面やや被熱風化。	前期中葉

遺構外出土の縄文時代遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第294図 PL.134	1	縄文土器 深鉢	3区11住 口縁片				C//	波状口縁。内削ぎ状の口唇外端に刻目を施す。口縁に半截竹管の連続爪形文により菱形意匠を構成すると推定。内面篋磨き。	有尾式	
第294図 PL.134	2	縄文土器 深鉢	3区11住 口縁片				C//	内削ぎ状の口唇部。口縁に半截竹管の連続爪形文を横位に施す。内面篋磨き。	有尾式	
第294図 PL.134	3	縄文土器 深鉢	3区4住 口縁部片				A//	半截竹管の連続爪形文を施文。内面横・斜位篋磨き。	有尾式	
第294図 PL.134	4	縄文土器 深鉢	1区 口縁片				C//	角頭状の口唇上面及び口縁にRL縄文を横位施文。	前期中葉	
第294図 PL.134	5	縄文土器 深鉢	3区4住 口縁片				C//	RL+LLの附加条第1種縄文を横位施文。内面丁寧な横篋磨き。	前期中葉	
第294図 PL.134	6	縄文土器 深鉢	3区 口縁片				C//	内削ぎ状の口唇部。口縁にLR縄文を横位施文。内外面風化。	前期中葉	
第294図 PL.134	7	縄文土器 深鉢	3区4住 胴部片				C//	附加条的なLRとRの合撚縄文を縦・横位に施文して羽状構成。	前期中葉	
第294図 PL.134	8	縄文土器 深鉢	3区 胴部片				C//	附加条RL+L・Lと附加条LR+R・Rの2種類の縄文を横位施文して羽状構成。	前期中葉	
第294図 PL.134	9	縄文土器 深鉢	2区4溝 胴部片				C//	LRとRL縄文を横位施文して羽状に構成。	前期中葉	
第294図 PL.134	10	縄文土器 深鉢	1区1掘立 胴部片				C//	LRとRL縄文を横位施文して羽状に構成。	前期中葉	
第294図 PL.134	11	縄文土器 深鉢	3区15土坑 胴部片				C//	20004と同一個体。	前期中葉	
第294図 PL.134	12	縄文土器 深鉢	3区4住 胴部片				C//	L縄文を横位多段に施文。内面粗い撫で。	前期中葉	
第294図 PL.134	13	縄文土器 深鉢	2区 胴部片				C//	LRとRL縄文を直前段R合撚および直前段L合撚による縄文を横位施文して菱形意匠を構成。	前期中葉	
第294図 PL.134	14	縄文土器 深鉢	3区8住 底部片	口底	(12.0)	高	C//	上げ底状の底部。L縄のやや粗大な結節縄文を横位施文。内面篋磨き。	前期中葉	
第294図 PL.134	15	縄文土器 深鉢	1区42土坑 胴部片				D//	LR縄文を横位多段に施文。内面丁寧な篋磨き。	諸磯a式	
第294図 PL.134	16	縄文土器 深鉢	3区11住 口縁片				E//	口縁にRL縄文を横位施文し、幅広の沈線区画文を施す。	加曾利E3式	
第294図 PL.134	17	縄文土器 深鉢	2区6住 胴部片				E//	単沈線により区画文を施す。	称名寺II式	
第294図 PL.134	18	縄文土器 深鉢	1区 胴部片				E//	やや細密なLR縄文を縦位施文し、2本単位の懸垂文を施す。	堀之内1式	
第294図 PL.134	19	剥片石器 石鏃	2区 完形	長幅	(3.1) 1.7	厚重	0.6 1.9	チャート	完成状態。全面を押し剥離が覆い、両側縁とも鋸歯状を呈する。先端・右辺「返し部」を欠損する。	平基有茎鏃
第294図 PL.134	20	剥片石器 石鏃	1区25住 ほぼ完形	長幅	(1.9) (1.6)	厚重	0.5 1.0	チャート	正面稜線に摩滅が見られる。右返し部欠損。	凹基無茎鏃
第294図 PL.134	21	礫石器 凹石	2区10溝 完形	長幅	8.6 7.7	厚重	4.3 334.3	粗粒輝石安山岩	表裏面とも漏斗状の孔2を穿つ。表裏面の摩滅は、石材が粗く不明瞭。	楕円礫
第294図 PL.134	22	礫石器 凹石	2区12住 完形	長幅	7.8 7.7	厚重	4.7 449.5	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩滅するほか、中央付近に敲打痕がある。	楕円礫
第294図 PL.134	23	礫石器 磨石	2区 1/2	長幅	(9.9) (9.3)	厚重	(4.1) 432.3	粗粒輝石安山岩	表裏面とも著しく摩滅するほか、中央付近に集合打痕が残る。表裏面とも被熱して礫面は剥落する。	扁平楕円礫

第59表 遺物観察表(33)

1区出土石器一覧表(1)

遺物 番号	ブロック	出土 層位	器種	石材	接合	母岩	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標	挿図	PL.	備考
1	ブロック外	IV	剥片	チャート			1.1	4.3	0.6	2.63	30562.093	-36501.148	28.305	第299図	PL.135	
2	ブロック外	VI a	縦長剥片	チャート			(2.6)	1.0	0.5	0.74	30563.577	-36501.279	28.014	第299図	PL.135	
3	ブロック外	V	碎片	砂岩			0.5	1.0	0.21	0.11	30564.237	-36502.222	28.086			
4	第2ブロック	IV	碎片	黒曜石		ob-1a	1.5	1.3	0.14	0.21	30555.316	-36503.468	28.478			
5	第2ブロック	IV	ナイフ形石器	黒曜石		ob-4	(3.2)	1.4	0.3	0.98	30555.132	-36504.391	28.511	第298図	PL.134	
6	第2ブロック	IV	碎片	黒曜石		ob-1a	1.2	0.7	0.1	0.09	30555.332	-36504.998	28.400			
7	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.2	1.1	2.3	0.22	30555.560	-36504.637	28.150			
8	第2ブロック	VI a	ナイフ形石器	黒曜石		ob-1a	(2.9)	1.2	0.4	0.97	30554.575	-36504.555	28.174	第298図	PL.134	
9	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石			0.7	0.4	0.1	0.03	30554.719	-36504.508	28.135			
10	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	0.8	1.1	0.3	0.19	30554.894	-36505.159	28.059			
11	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	0.9	0.8	0.07	0.06	30554.417	-36505.427	28.058			
12	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.0	0.8	0.11	0.07	30554.316	-36505.508	28.057			
13	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1b	0.9	0.8	0.4	0.13	30554.077	-36505.618	28.011			
14	第2ブロック	VI a	剥片	黒曜石	接2	ob-1a	3.3	2.8	0.5	2.35	30553.827	-36505.979	28.058	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
15	第2ブロック	VI a	剥片	黒曜石	接3	ob-2a	(2.1)	(2.3)	0.4	0.85	30553.894	-36506.126	28.209	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
16	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.6	0.8	0.22	0.15	30554.035	-36506.133	28.065			
17	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	0.9	0.9	0.13	0.07	30554.037	-36506.300	28.012			
18	第2ブロック	VI a	縦長剥片	黒曜石		ob-1a	2.5	1.3	0.2	0.70	30554.362	-36506.244	28.108	第299図	PL.135	
19	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-2a	0.7	1.1	0.15	0.08	30554.445	-36505.914	28.021			
20	第2ブロック	VI a	尖頭状石器	黒曜石			3.1	1.0	0.4	1.15	30554.679	-36505.574	28.174	第298図	PL.134	
21	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.0	1.2	0.31	0.22	30554.776	-36505.541	28.039			
22	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-2a	1.3	1.2	0.2	0.29	30555.168	-36505.455	28.101			
23	第2ブロック	VI a	剥片	黒曜石	接3	ob-2a	(1.6)	(1.8)	0.6	1.01	30555.032	-36505.644	28.220	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
24	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.5	0.7	0.08	0.10	30555.026	-36505.824	28.125			
25	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.4	1.1	0.15	0.17	30554.978	-36505.918	28.059			
26	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.1	1.0	0.18	0.14	30554.984	-36505.997	28.096			
27	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.1	1.1	0.12	0.12	30554.852	-36506.030	28.116			
28	第2ブロック	VI a	縦長剥片	黒曜石		ob-2c	1.7	1.4	0.5	0.58	30554.525	-36506.718	28.157	第299図	PL.135	
29	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.4	1.1	0.16	0.17	30554.749	-36506.612	28.037			
30	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.2	1.5	0.26	0.34	30554.842	-36506.397	28.125			
31	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-2c	1.1	1.1	0.34	0.17	30555.090	-36506.343	28.060			
32	第2ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-2b	1.9	2.3	0.5	1.21	30555.260	-36505.947	28.095			
33	第2ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-2a	1.8	2.8	0.35	1.51	30555.618	-36505.801	28.171			
34	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.0	1.2	0.1	0.12	30556.158	-36505.573	28.128			
35	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石			0.5	0.6	0.06	0.02	30556.243	-36505.976	28.090			
36	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-2a	1.2	1.1	0.23	0.29	30556.505	-36505.966	28.158			
37	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.2	0.7	0.15	0.13	30556.320	-36506.348	27.977			
38	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.0	0.6	0.18	0.10	30555.577	-36506.267	28.031			
39	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-3a	1.6	2.0	0.29	0.61	30555.597	-36506.580	28.073			
40	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-2c	0.8	1.9	0.38	0.41	30555.483	-36506.655	27.995			
41	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1b	0.7	0.8	0.24	0.13	30555.357	-36506.519	28.054			
42	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-2c	0.9	0.6	0.22	0.11	30555.338	-36506.746	28.080			
43	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	0.8	1.0	0.06	0.06	30554.884	-36507.052	28.117			
44	第2ブロック	VI a	縦長剥片	黒曜石		ob-3a	4.6	2.0	0.5	3.31	30554.803	-36507.161	28.087	第299図	PL.135	
45	第2ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-2b	3.4	2.7	0.48	3.08	30554.374	-36507.164	28.142			
46	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石	接8	ob-2b	6.3	3.2	1	7.82	30554.960	-36507.440	27.974	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
47	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石			0.9	1.2	0.87	0.71	30555.888	-36507.251	28.061			
48	第2ブロック	VI a	ナイフ形石器	黒曜石			3.1	0.9	0.5	1.15	30556.031	-36507.147	28.109	第298図	PL.134	
49	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.3	1.2	0.21	0.14	30556.083	-36507.713	28.046			
50	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-3a	1.3	1.9	0.15	0.35	30556.518	-36507.928	28.044			
51	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石	接13	ob-4	(1.5)	(0.9)	0.5	0.43	30556.251	-36508.233	27.995		PL.136	
52	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-2a	3.3	1.7	0.8	2.05	30556.338	-36508.592	27.980	第299図	PL.135	調整剥片
53	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石			0.7	1.3	0.23	0.19	30556.643	-36508.617	28.098			
54	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-2c	1.3	0.8	0.09	0.11	30556.713	-36508.862	28.035			
55	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石			1.6	0.5	0.17	0.08	30556.410	-36508.798	28.044			
56	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石			1.0	1.0	0.14	0.15	30556.041	-36508.628	28.003			
57	第1ブロック	VII	剥片	黒曜石		ob-2c	1.9	2.8	0.6	2.57	30555.837	-36508.460	27.833	第300図	PL.135	
58	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.7	1.6	0.22	0.10	30555.809	-36508.558	27.859			
59	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-1a	3.7	(3.6)	0.5	4.22	30555.795	-36508.763	27.983	第300図	PL.135	
60	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-3a	1.2	1.2	0.22	0.21	30555.545	-36508.462	28.105			
61	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-3a	1.4	1.0	0.12	0.17	30555.240	-36508.258	28.031			
62	第1ブロック	VII	縦長剥片	黒曜石	接15	ob-4	(2.1)	1.1	0.3	0.68	30555.341	-36507.824	27.874	第299図 第302図	PL.135 PL.136	
63	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石			1.8	0.5	0.14	0.07	30554.419	-36507.917	28.014			
64	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-3a	0.9	1.2	0.13	0.12	30553.942	-36507.958	27.884			
65	第1ブロック	IV	縦長剥片	黒曜石		ob-4	2.1	1.5	0.39	0.87	30554.039	-36508.257	28.403			
66a	第1ブロック	V	剥片	黒曜石		ob-3a	2.3	2.9	0.57	2.67	30555.099	-36508.631	28.219			
66b	第1ブロック	V	碎片	黒曜石			0.7	1.3	0.1	0.09	30555.099	-36508.631	28.219			

第60表 遺物観察表(34)

1区出土石器一覧表(2)

遺物番号	ブロック	出土層位	器種	石材	接合	母岩	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標	挿図	PL.	備考
67	第1ブロック	VI a	ナイフ形石器	黒曜石		ob-3a	2.8	0.9	0.4	0.69	30554.671	-36508.696	28.097	第298図	PL.134	
68	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.7	0.8	0.08	0.03	30554.787	-36508.742	28.116			
69	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石	接4	ob-2a	(2.2)	2.7	0.7	2.40	30555.101	-36508.912	28.083	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
70	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.5	0.7	0.25	0.07	30555.321	-36508.688	28.168			
71	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-2c	1.0	1.7	0.26	0.38	30555.108	-36508.814	28.139			
72	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-4	1.5	1.1	0.14	0.24	30554.874	-36509.190	28.056			
73	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-4	1.0	0.8	0.3	0.30	30554.783	-36509.261	28.098			
74	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-4	2.3	1.2	0.36	0.86	30554.672	-36509.401	28.026			
75	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石	接10	ob-3a	2.5	1.7	0.4	0.74	30555.125	-36509.250	27.952	第300図 第302図	PL.135 PL.136	
76	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.6	1.1	0.12	0.06	30555.079	-36509.381	28.045			
77	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-4	1.3	1.9	0.12	0.35	30555.145	-36509.531	28.138			
78	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-4	1.1	1.4	0.13	0.18	30555.264	-36509.544	28.163			
79	第1ブロック	VI a	縦長剥片	黒曜石		ob-3a	1.5	1.7	0.18	0.40	30554.959	-36509.797	28.192			
80	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-4	1.3	1.2	0.16	0.21	30555.187	-36509.904	28.124			
81	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-4	0.7	1.2	0.45	0.33	30555.218	-36509.820	28.014			
82	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-2c	1.0	1.0	0.22	0.15	30555.500	-36509.046	28.171			
83	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-1a	1.5	1.4	0.37	0.53	30555.480	-36508.950	28.071			
84	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.6	1.0	0.1	0.04	30555.326	-36508.862	28.010			
85	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石			0.9	1.0	0.13	0.13	30555.771	-36509.047	27.991			
86	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石			0.9	0.8	0.11	0.08	30555.858	-36508.941	27.952			
87	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-4	1.1	1.1	0.14	0.16	30555.965	-36509.025	28.035			
88	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.8	0.8	0.14	0.03	30556.181	-36508.942	28.043			
89	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.3	0.4	0.09	計測不能	30556.096	-36509.155	28.108			
90	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	3.4	2.9	0.56	3.68	30556.247	-36509.209	28.108			縁辺に刃こぼれあり
91	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-3a	1.5	1.4	0.13	0.22	30556.225	-36509.073	28.010			
92	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			1.0	1.0	0.08	0.10	30556.327	-36509.054	28.005			
93	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-3a	1.2	1.2	0.38	0.29	30555.887	-36509.280	28.098			
94	第1ブロック	VI a	破片	溶結凝灰岩			1.6	1.5	0.3	0.61	30555.641	-36509.328	28.155			
95	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	4.1	2.7	0.8	5.42	30555.565	-36509.548	28.168	第300図	PL.135	
96	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.7	0.8	0.23	0.07	30555.756	-36509.464	28.074			
97	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石		ob-1a	1.3	0.9	0.1	0.13	30555.656	-36509.678	27.959			
98	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-3a	1.5	2.6	0.28	0.79	30555.501	-36509.669	27.944			
99	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.5	1.1	0.17	0.08	30555.671	-36509.934	28.281			
100	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			1.2	0.5	0.23	0.10	30555.451	-36510.040	28.076			
101	第1ブロック	VI a	ナイフ形石器	黒曜石		ob-4	3.1	1.1	0.3	0.93	30555.616	-36510.083	28.112	第298図	PL.134	
102	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.4	0.2	0.07	計測不能	30555.756	-36509.852	28.159			
103	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-3a	0.9	1.2	0.22	0.19	30555.921	-36509.959	28.115			
104	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-4	2.1	1.5	0.13	0.38	30555.817	-36509.720	28.132			
105	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.6	0.5	0.14	0.04	30555.916	-36509.669	28.105			
106	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-3a	1.2	2.1	0.33	0.56	30556.255	-36509.559	28.219			
107	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.7	0.5	0.1	0.03	30556.430	-36509.309	28.090			
108	第1ブロック	VI b	縦長剥片	黒曜石		ob-3a	3.4	1.2	0.5	1.00	30556.458	-36509.118	27.939	第299図	PL.135	
109	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.6	1.0	0.12	0.04	30556.443	-36509.322	28.085			
110	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-3b	2.3	1.2	0.2	0.32	30556.806	-36509.232	27.962			
111	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-2a	2.1	1.9	0.72	3.45	30556.894	-36509.368	28.041			
112	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-3a	1.0	1.0	0.08	0.10	30557.118	-36509.221	28.227			
113	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石	接10	ob-3a	(1.8)	0.9	0.3	0.35	30557.080	-36509.407	28.211	第301図 第302図	PL.135 PL.136	
114	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.7	0.7	0.28	0.08	30556.738	-36509.649	28.086			
115	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石			0.3	0.7	0.09	0.02	30556.334	-36509.452	27.959			
116	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-2a	1.3	1.0	0.33	0.22	30556.278	-36509.874	28.255			
117	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石	接12	ob-3b	(1.6)	1.4	0.4	0.72	30556.391	-36510.014	28.036	第299図 第302図	PL.135 PL.136	
118	第1ブロック	V	破片	黒曜石			0.6	1.0	0.16	0.07	30556.202	-36510.169	28.311			
119	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	2.1	1.3	0.2	0.43	30556.095	-36510.103	28.140			
120	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石		ob-4	1.3	0.8	0.12	0.13	30556.291	-36510.092	27.991			
121	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-4	0.9	1.3	0.22	0.22	30555.900	-36510.274	28.120			
122	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-3a	1.1	1.3	0.16	0.16	30555.492	-36510.379	28.054			
123	第1ブロック	V	破片	黒曜石		ob-4	1.0	1.2	0.28	0.32	30555.663	-36510.647	28.201			
124	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-4	1.4	0.9	0.12	0.15	30555.545	-36510.810	28.136			
125	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石	接2	ob-1a	(1.2)	(1.0)	0.4	0.41	30555.883	-36510.838	28.165	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
126	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.4	0.7	0.1	0.03	30555.950	-36510.791	28.163			
127	第1ブロック	IV	破片	変玄武岩			0.6	0.7	0.11	0.06	30556.076	-36510.629	28.383			
128	第1ブロック	IV	破片	黒曜石			1.1	0.9	0.09	0.08	30556.204	-36510.556	28.415			
129	第1ブロック	V	破片	黒曜石		ob-3a	0.7	1.7	0.12	0.11	30556.261	-36510.469	28.316			
130	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-3a	1.1	1.3	0.1	0.11	30556.704	-36510.436	28.183			
131	第1ブロック	VI a	破片	流紋岩			1.2	0.6	0.14	0.13	30556.760	-36510.302	28.162			
132	第1ブロック	VI a	破片	黒曜石			0.9	0.6	0.1	0.05	30557.036	-36510.081	28.199			

第61表 遺物観察表(35)

1区出土石器一覧表(3)

遺物番号	ブロック	出土層位	器種	石材	接合	母岩	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標	挿図	PL.	備考
133	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			0.6	0.9	0.13	0.07	30556.947	-36510.507	28.122			
134	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-2b	1.4	0.8	0.15	0.27	30556.775	-36510.645	28.073			
135	第1ブロック	V	剥片	黒曜石	接6	ob-2a	(0.8)	(1.2)	0.2	0.18	30556.788	-36510.741	28.235	第301図	PL.135 PL.136	
136	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3b	2.1	1.3	0.34	0.72	30557.434	-36510.660	28.098			
137	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			0.7	1.0	0.12	0.07	30556.735	-36510.932	28.182			
138	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-1b	(2.1)	1.2	0.2	0.29	30556.652	-36510.811	28.004	第300図	PL.135	
139	第1ブロック	V	剥片	黒曜石	接13	ob-4	(1.2)	(0.8)	0.4	0.31	30556.522	-36511.249	28.347		PL.136	
140	第1ブロック	V	剥片	黒曜石		ob-1b	1.4	0.8	0.23	0.22	30556.191	-36511.139	28.289			
141	第1ブロック	VI a	剥片	変質安山岩			0.8	1.3	0.32	0.41	30555.815	-36511.231	28.130			
142	第1ブロック	V	剥片	黒曜石		ob-3a	1.7	0.9	0.12	0.17	30555.878	-36511.335	28.241			
143	第1ブロック	VI b	縦長剥片	黒曜石		ob-2a	(3.8)	1.6	0.6	1.91	30556.693	-36511.308	27.996	第299図	PL.135	
144	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-2a	1.7	1.7	0.25	0.62	30556.800	-36511.454	28.054			
145	第1ブロック	V	剥片	黒曜石			0.6	1.0	0.15	0.08	30556.804	-36511.639	28.202			
146	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石			0.9	0.6	0.22	0.12	30556.970	-36511.591	27.997			
147	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	1.8	1.0	0.24	0.25	30555.528	-36509.063	28.165			
148	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-2c	0.7	1.2	0.67	0.47	30554.834	-36508.714	27.995			
149	第1ブロック	VII	剥片	黒曜石		ob-3a	1.3	1.6	0.24	0.37	30557.104	-36507.850	27.876			
150	第1ブロック	V	剥片	黒曜石		ob-4	1.2	1.4	0.15	0.27	30557.783	-36508.396	28.318			
151	ブロック外	V	剥片	黒曜石		ob-4	1.4	1.0	0.29	0.35	30558.602	-36510.839	28.254			
152	ブロック外	VI a	剥片	黒曜石		ob-4	1.1	1.3	0.2	0.29	30558.770	-36510.955	28.080			
153	ブロック外	V	剥片	黒曜石		ob-1b	1.5	1.1	0.2	0.21	30559.067	-36510.923	28.354			
154	ブロック外	V	剥片	黒曜石		ob-2b	(3.7)	2.4	0.5	3.6	30560.426	-36513.855	28.194	第300図	PL.135	
155	ブロック外	VI b	剥片	黒曜石		ob-2a	1.7	2.3	0.4	1.28	30560.577	-36512.708	27.925			
156	ブロック外	VI b	剥片	黒曜石		ob-2a	2.0	2.8	0.55	2.40	30561.828	-36511.717	27.910			
157	ブロック外	VI a	縦長剥片	黒曜石	接15	ob-4	(1.7)	1.2	0.3	0.45	30562.996	-36511.037	28.112	第299図 第302図	PL.135 PL.136	
158	ブロック外	VI a	剥片	黒曜石		ob-2c	1.7	1.4	0.3	0.53	30559.891	-36507.212	28.167			
159	ブロック外	V	剥片	黒曜石		ob-1b	1.9	0.8	0.31	0.31	30558.795	-36506.867	28.301			
160	第1ブロック	VII	剥片	黒曜石			3.9	6.4	1.7	28.84	30556.055	-36508.652	27.884	第299図	PL.135	打面再生剥片
161	第1ブロック	VI b	縦長剥片	黒曜石		ob-2b	(4.8)	3.2	0.7	6.06	30554.845	-36509.297	27.930	第298図	PL.134	
162	第1ブロック	VI	縦長剥片	黒曜石			6.0	3.1	0.6	9.59	30555.06	-36509.365	27.927	第298図	PL.134	
163	第1ブロック	VII	二次加工ある剥片	黒曜石		ob-3a	(4.3)	1.5	1	3.10	30554.99	-36509.500	27.880	第298図	PL.134	
164	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-4	1.2	1.5	0.24	0.34	30555.790	-36509.850	28.152			
165	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			0.4	0.7	0.18	0.05	30555.793	-36509.872	28.157			
166	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			0.3	0.6	0.09	0.02	30555.759	-36509.894	28.152			
167	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-1a	1.3	1.7	0.22	0.51	30555.981	-36509.745	28.091			
168	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			0.3	0.4	0.03	計測不能	30556.017	-36509.764	28.099			
169	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			0.2	0.5	0.1	0.01	30556.010	-36509.742	28.096			
170	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			1.0	0.9	0.12	0.09	30556.330	-36509.569	28.130			
171	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-4	1.2	1.1	0.23	0.37	30556.129	-36509.152	28.097			
172	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			0.7	0.9	0.09	0.04	30555.899	-36509.263	28.094			
173	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	1.6	0.9	0.46	0.39	30556.038	-36510.758	28.135			
174	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石	接4	ob-2a	(1.3)	1.4	0.4	0.55	30556.094	-36510.603	28.102	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
175	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			1.0	0.4	0.19	0.05	30557.093	-36509.191	28.144			
176	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	2.3	1.2	0.4	0.41	30553.950	-36508.255	28.077	第300図	PL.135	
177	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	1.4	1.3	0.14	0.32	30555.083	-36509.341	28.039			
178	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	1.7	1.1	0.1	0.17	30555.532	-36508.472	28.011			
179	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石			1.0	0.5	0.24	0.09	30555.019	-36508.642	27.994			
180	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石			1.1	0.9	0.13	0.08	30555.116	-36508.763	27.986			
181	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	2.4	2.1	0.35	1.50	30555.459	-36509.002	28.007			
182	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石			0.7	0.4	0.07	0.02	30555.522	-36508.974	27.974			
183	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石			0.2	0.3	0.05	計測不能	30555.799	-36508.746	27.999			
184	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-4	1.0	1.0	0.25	0.25	30555.977	-36508.663	27.971			
185	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-3a	1.6	2.1	0.2	0.44	30556.355	-36508.823	27.985			
186	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-3a	1.7	1.0	0.14	0.16	30556.394	-36508.820	27.975			
187	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-3a	2.0	1.1	0.24	0.44	30555.441	-36508.920	27.955			
188	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			0.5	0.9	0.15	0.05	30555.638	-36509.317	28.017			
189	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			1.1	0.5	0.16	0.05	30555.804	-36509.461	28.015			
190	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			1.0	0.6	0.11	0.05	30555.583	-36509.542	28.023			
191	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-4	1.7	1.4	0.14	0.23	30556.120	-36509.902	27.984			
192	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石	接12	ob-3b	(2.0)	1.5	0.5	1.19	30556.370	-36510.020	28.018	第299図 第302図	PL.135 PL.136	
193	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			1.3	1.3	0.48	0.41	30556.107	-36510.200	28.027			
194	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3b	1.3	1.2	0.3	0.33	30555.858	-36510.060	28.006			
195	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石			0.7	0.6	0.14	0.05	30555.827	-36510.456	28.024			
196	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-2c	0.8	1.3	0.26	0.23	30555.820	-36510.454	28.020			
197	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石			0.6	0.5	0.05	0.02	30555.650	-36510.248	27.997			
198	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	2.8	0.9	0.33	0.70	30555.650	-36510.065	28.031			調整剥片
199	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-3a	1.9	1.6	0.34	0.68	30555.652	-36510.609	28.001			

第62表 遺物観察表(36)

1区出土石器一覧表(4)

遺物番号	ブロック	出土層位	器種	石材	接合	母岩	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標	挿図	PL.	備考
200	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石			0.7	0.6	0.15	0.05	30556.150	-36510.632	28.048			
201	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石	接9	ob-3a	0.8	1.5	0.7	0.52	30556.015	-36510.834	27.993	第301図 第302図	PL.135 PL.136	
202	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.0	1.6	0.23	0.38	30555.702	-36509.981	27.988			
203	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石			1.0	0.7	0.14	0.08	30555.837	-36509.934	28.036			
204	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石			0.3	0.6	0.11	0.02	30555.095	-36509.354	28.041			
205	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.9	1.2	0.17	0.12	30555.769	-36509.365	27.962			
206	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-4	2.2	1.1	0.25	0.51	30555.898	-36509.216	28.024			
207	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石			1.0	0.6	0.06	0.04	30555.889	-36509.244	28.024			
208	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.6	0.6	0.15	0.04	30555.325	-36510.085	27.999			
209	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.6	0.4	0.05	計測不能	30555.982	-36508.973	27.965			
210	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-3a	2.1	0.7	0.2	0.24	30556.023	-36509.044	27.959			
211	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.6	0.5	0.09	0.02	30556.082	-36509.127	27.937			
212	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石			0.7	0.8	0.11	0.06	30555.180	-36509.550	28.000			
213	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.5	0.5	0.08	計測不能	30555.711	-36509.455	27.964			
214	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.7	0.5	0.14	0.05	30555.642	-36509.645	27.969			
215	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-4	1.0	1.0	0.24	0.13	30555.761	-36509.516	27.940			
216	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.8	0.5	0.16	0.06	30555.599	-36509.395	27.953			
217	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.2	1.9	0.3	0.41	30555.619	-36509.460	27.930			
218	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.0	0.7	0.08	0.05	30555.501	-36508.477	27.933			
219	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.0	0.8	0.12	0.08	30555.239	-36508.303	27.943			
220	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.4	0.7	0.14	0.02	30555.025	-36509.025	27.946			
221	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石	接5	ob-2a	1.8	1.2	0.3	0.56	30555.210	-36509.025	27.955		PL.136	
222	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.3	1.3	0.1	0.14	30555.801	-36509.808	27.987			
223	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1b	0.5	1.4	0.2	0.15	30555.921	-36509.639	27.964			
224	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-4	1.8	1.0	0.18	0.21	30555.987	-36509.569	27.941			
225	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.5	0.6	0.11	0.02	30555.939	-36509.475	27.928			
226	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.1	2.1	0.34	0.63	30556.070	-36509.559	27.960			
227	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.4	0.6	0.11	0.07	30556.010	-36509.015	27.987			
228	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-4	1.8	2.5	0.4	1.45	30555.268	-36508.818	27.929			
229	第1ブロック	VI b	二次加工ある 剥片	黒曜石	接1	ob-1a	(1.3)	1.8	0.4	0.62	30555.153	-36509.000	27.951	第298図 第301図	PL.136	
230	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.5	1.1	0.12	0.16	30555.042	-36509.057	27.946			
231	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.2	0.6	0.1	0.06	30554.790	-36509.055	27.940			
232	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石	接11	ob-3a	(2.0)	(1.9)	0.4	0.68	30554.830	-36509.288	27.952		PL.136	
233	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.5	1.2	0.2	0.24	30554.893	-36509.613	27.954			
234	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石	接9	ob-3a	2.9	4.2	1.2	11.68	30555.321	-36509.097	27.949	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
235	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.5	1.5	0.34	0.33	30555.620	-36509.497	27.979			
236	第1ブロック	VI a	碎片	黒曜石			1.0	0.6	0.1	0.07	30556.495	-36511.245	28.018			
237	第1ブロック	VII	剥片	黒曜石		ob-2a	3.3	3.8	0.64	5.73	30555.905	-36509.323	27.890			
238	第1ブロック	VI b	縦長剥片	黒曜石		ob-3a	1.9	1.6	0.3	0.66	30556.264	-36509.061	27.942			
239	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-4	1.7	1.1	0.66	0.98	30555.959	-36509.288	27.909			
240	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-2c	0.7	1.1	0.24	0.16	30555.976	-36509.227	27.888			
241	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石	接1	ob-1a	(2.3)	1.8	0.6	1.98	30556.129	-36509.333	27.926	第300図 第301図	PL.136	
242	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.5	0.6	0.05	0.02	30556.193	-36509.327	27.900			
243	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			1.4	0.6	0.18	0.15	30556.313	-36509.370	27.865			
244	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-3a	1.5	1.7	0.22	0.40	30556.221	-36509.061	27.867			
245	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-3a	1.8	0.6	0.14	0.14	30556.151	-36509.258	27.882			
246	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-3a	1.7	1.0	0.23	0.33	30555.954	-36508.959	27.892			
247	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.7	0.6	0.12	0.05	30555.809	-36508.897	27.914			
248	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-2a	1.5	1.9	0.35	0.82	30555.475	-36508.860	27.930			
249	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-2c	0.9	1.3	0.36	0.40	30555.653	-36508.603	27.878			
250	第1ブロック	VI b	縦長剥片	黒曜石		ob-3a	(2.2)	0.9	0.2	0.39	30555.339	-36508.293	27.900	第299図	PL.135	
251	第1ブロック	VII	ナイフ形石器	黒曜石		ob-3a	(2.5)	1.0	0.3	0.52	30555.115	-36508.657	27.877	第298図	PL.134	
252	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石	接4	ob-2a	(1.1)	1.5	0.4	0.53	30555.483	-36509.070	27.935	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
253	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石	接11	ob-3a	1.3	(1.4)	0.3	0.36	30555.506	-36509.087	27.909		PL.136	
254	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-3a	1.5	2.5	0.34	0.94	30555.600	-36509.137	27.918			
255	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.3	1.1	0.12	0.11	30555.523	-36509.186	27.915			
256	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.9	0.8	0.08	0.06	30555.485	-36509.225	27.887			
257	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	0.9	1.3	0.24	0.27	30555.714	-36509.099	27.903			
258	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.8	0.7	0.1	0.05	30555.726	-36509.130	27.881			
259	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.1	0.7	0.13	0.04	30555.631	-36509.232	27.922			
260	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.6	0.6	0.3	0.08	30555.656	-36509.269	27.996			
261	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-4	1.6	0.9	0.25	0.29	30555.404	-36509.114	27.901			
262	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-4	1.4	0.7	0.35	0.28	30555.362	-36509.295	27.962			
263	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.0	1.0	0.1	0.08	30555.313	-36509.293	27.961			
264	第1ブロック	VII	剥片	黒曜石		ob-3a	3.7	1.6	0.3	1.07	30555.307	-36509.239	27.889	第300図	PL.135	
265	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-4	2.4	1.3	0.5	0.57	30555.198	-36509.167	27.942			
266	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.9	1.0	0.18	0.09	30555.223	-36509.291	27.969			

第63表 遺物観察表(37)

1区出土石器一覧表(5)

遺物番号	ブロック	出土層位	器種	石材	接合	母岩	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標	挿図	PL.	備考
267	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石	接14	ob-4	(1.9)	1.6	0.3	0.85	30555.299	-36509.325	27.914	第300図 第302図	PL.135 PL.136	
268	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-3a	1.0	1.0	0.09	0.08	30555.289	-36509.393	27.897			
269	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石	接9	ob-3a	1.1	1.9	0.4	0.58	30555.104	-36509.372	27.953	第301図 第302図	PL.135 PL.136	
270	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-2c	0.7	1.4	0.38	0.28	30555.197	-36509.377	27.891			
271	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.4	1.9	0.4	0.72	30555.126	-36509.395	27.917			
272	第1ブロック	VI b	縦長剥片	黒曜石		ob-1b	(1.6)	(1.1)	0.2	0.28	30555.057	-36509.348	27.927	第299図	PL.135	
273	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.0	1.1	0.4	0.35	30555.040	-36509.312	27.956			
274	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.4	0.4	0.06	計測不能	30554.824	-36509.122	27.866			
275	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.9	1.0	0.18	0.10	30554.891	-36509.300	27.847			
276	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.5	0.3	0.05	計測不能	30554.931	-36509.337	27.841			
277	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.8	0.8	0.16	0.08	30554.924	-36509.444	27.869			
278a	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.8	0.9	0.16	0.08	30555.451	-36509.366	27.897			
278b	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.6	0.8	0.2	0.08	30555.451	-36509.366	27.897			
279	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-3a	1.7	0.8	0.14	0.19	30555.400	-36509.369	27.856			
280	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.0	0.7	0.08	0.03	30555.405	-36509.472	27.878			
281	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石	接5	ob-2a	1.0	1.9	0.3	0.40	30555.387	-36509.578	27.951		PL.136	
282	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.6	0.7	0.12	0.04	30555.311	-36509.621	27.941			
283	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.0	0.7	0.2	0.10	30555.251	-36509.622	27.951			
284	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			1.0	1.3	0.1	0.1	30555.308	-36509.676	27.861			
285	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.6	0.8	0.36	0.09	30555.373	-36509.665	27.908			
286	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	2.4	1.2	0.35	0.75	30555.382	-36509.702	27.929			
287	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			1.4	0.4	0.1	0.04	30555.461	-36509.654	27.888			
288	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.8	2.5	0.32	0.84	30555.526	-36509.634	27.939			
289	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.5	1.0	0.08	0.04	30555.527	-36509.531	27.894			
290	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-4	1.2	1.2	0.32	0.42	30555.540	-36509.594	27.960			
291	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.6	0.6	0.05	0.03	30555.572	-36509.477	27.935			
292	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.7	0.8	0.08	0.04	30555.583	-36509.432	27.920			
293	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-2c	0.7	1.3	0.26	0.19	30555.605	-36509.373	27.900			
294	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.7	0.7	0.2	0.08	30555.607	-36509.334	27.865			
295	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-4	1.7	0.9	0.15	0.17	30555.706	-36509.522	27.873			
296	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	0.8	1.4	0.09	0.12	30555.797	-36509.409	27.921			
297	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-3a	1.5	1.0	0.2	0.26	30555.805	-36509.618	27.850			
298	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-2c	1.1	1.0	0.4	0.24	30555.900	-36509.630	27.832			
299	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-4	0.9	1.0	0.32	0.23	30555.776	-36509.708	27.896			
300	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.5	0.7	0.13	0.03	30555.609	-36509.698	27.862			
301	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.4	0.3	0.04	0.01	30555.634	-36509.719	27.875			
302	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.1	1.4	0.05	0.08	30555.648	-36509.777	27.970			
303	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			1.2	0.7	0.15	0.09	30555.633	-36509.893	27.863			
304	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.5	0.6	0.06	0.01	30555.574	-36509.883	27.864			
305	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-4	1.5	1.5	0.2	0.33	30555.221	-36509.736	27.842			
306	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.9	0.9	0.1	0.21	30555.153	-36509.448	27.926			
307	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-4	1.2	1.0	0.2	0.25	30555.174	-36509.495	27.827			
308	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.2	0.9	0.1	0.10	30555.065	-36509.549	27.944			
309	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.3	0.8	0.13	0.15	30555.080	-36509.565	27.941			
310	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			1.1	0.5	0.14	0.07	30555.098	-36509.701	27.842			
311	第1ブロック	VI b	彫刻刀形石器	黒曜石		ob-3b	2.1	1.6	0.8	1.84	30555.058	-36509.842	27.912	第298図	PL.134	
312	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.8	0.8	0.06	0.04	30554.952	-36509.785	27.951			
313	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-3a	1.1	0.8	0.17	0.20	30554.924	-36509.754	27.943			
314	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.3	0.6	0.12	0.02	30554.936	-36509.578	27.897			
315	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.7	0.9	0.1	0.06	30554.734	-36509.524	27.920			
316	第1ブロック	VII	剥片	黒曜石		ob-4	2.2	1.3	0.16	0.44	30555.062	-36510.030	27.891			
317	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.8	0.8	0.2	0.11	30555.295	-36510.049	27.971			
318	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-2b	1.2	1.7	0.17	0.19	30555.703	-36509.630	27.960			
319	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			1.2	0.9	0.06	0.07	30555.862	-36509.786	27.882			
320	第1ブロック	VII	剥片	黒曜石	接6	ob-2a	(1.9)	(1.5)	0.3	0.51	30555.901	-36509.860	27.865	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
321a	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.9	0.6	0.16	0.05	30555.824	-36509.866	27.944			
321b	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.7	0.4	0.12	0.03	30555.824	-36509.866	27.944			
322	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-2c	0.9	1.3	0.57	0.43	30555.800	-36510.033	27.964			
323	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.7	0.7	0.06	0.03	30555.771	-36510.210	27.923			
324	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.7	1.0	0.17	0.13	30556.006	-36510.084	27.909			
325	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.5	1.0	0.12	0.07	30556.069	-36510.105	27.907			
326	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.9	1.0	0.15	0.13	30556.189	-36509.945	27.938			
327	—	VI b	—	—			—	—	—	—	30555.762	-36510.592	27.927			自然礫
328	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-2b	1.9	0.8	0.2	0.26	30555.548	-36510.769	27.844			
329	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1b	1.4	0.8	0.14	0.14	30555.990	-36510.900	27.945			
330	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.9	1.1	0.15	0.11	30556.126	-36510.913	27.881			
331	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-2b	2.6	1.7	0.3	1.08	30556.609	-36510.910	27.952	第300図	PL.135	
332	第1ブロック	VII	縦長剥片	黒曜石		ob-4	6.4	2.0	1.1	11.12	30556.497	-36510.596	27.883	第298図	PL.134	
333	第1ブロック	VI a	剥片	黒曜石		ob-2b	2.8	1.8	0.2	0.88	30555.631	-36510.850	28.033			

第64表 遺物観察表(38)
I区出土石器一覧表(6)

遺物番号	ブロック	出土層位	器種	石材	接合	母岩	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標	挿図	PL.	備考
334	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-1a	1.3	1.2	0.27	0.41	30556.072	-36509.820	27.885			
335	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-4	1.4	0.6	0.15	0.1	30556.152	-36509.714	27.858			
336	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.4	0.9	0.21	0.07	30556.133	-36509.593	27.858			
337	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			1.0	0.6	0.13	0.05	30556.078	-36509.552	27.902			
338	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-4	1.0	1.1	0.22	0.18	30556.044	-36509.502	27.881			
339	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-4	1.5	1.1	0.3	0.45	30556.476	-36509.518	27.908			
340	第1ブロック	VII	縦長剥片	黒曜石		ob-3a	(2.9)	1.5	0.4	0.98	30556.339	-36509.271	27.840	第299図	PL.135	
341	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.6	0.4	0.04	0.01	30555.962	-36509.226	27.845			
342	第1ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.6	0.5	0.37	0.07	30555.844	-36509.169	27.846			
343	第1ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.9	0.8	0.17	0.12	30553.940	-36507.920	27.911			
344	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-1a	1.2	2.0	0.26	0.38	30555.260	-36506.527	27.847			
345	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.5	0.9	0.1	0.14	30555.030	-36506.535	27.973			
346	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.1	0.6	0.2	0.11	30554.901	-36506.588	27.982			
347	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.7	0.4	0.06	0.03	30554.951	-36506.507	27.987			
348	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-1a	1.9	1.1	0.2	0.29	30554.865	-36506.604	27.825			
349	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-4	1.5	1.6	0.29	0.52	30554.731	-36506.574	27.958			
350	第2ブロック	VI a	ナイフ形石器	黒曜石			3.7	0.9	0.4	1.01	30554.529	-36506.735	28.054	第298図	PL.134	
351	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.2	0.9	0.31	0.27	30554.442	-36506.821	27.941			
352	第2ブロック	VII	縦長剥片	黒曜石		ob-1a	(3.6)	1.6	0.3	1.05	30554.423	-36506.530	27.798	第299図	PL.135	
353	欠番															
354	第2ブロック	VI b	ナイフ形石器	黒曜石			4.2	1.1	0.5	1.48	30554.720	-36506.187	27.934	第298図	PL.134	
355	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.3	0.9	0.2	0.03	30554.778	-36506.156	27.945			
356	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-2c	1.7	1.1	0.33	0.42	30554.801	-36506.069	27.893			
357	第2ブロック	VI b	縦長剥片	黒曜石	接6	ob-2a	(2.0)	1.2	0.3	0.55	30554.866	-36505.993	27.907	第299図 第301図	PL.135 PL.136	
358	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.2	0.9	0.08	0.09	30554.822	-36506.127	27.873			
359	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-1a	1.4	1.5	0.14	0.16	30554.889	-36506.095	27.864			
360	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.6	1.2	0.12	0.20	30555.038	-36506.271	27.956			
361	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	0.7	1.3	0.35	0.16	30555.378	-36505.949	27.958			
362	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.4	0.9	0.12	0.03	30555.139	-36505.733	27.875			
363	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.6	0.8	0.04	0.03	30554.918	-36505.752	27.945			
364	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.1	0.8	0.12	0.08	30554.991	-36505.583	27.939			
365	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	0.9	0.5	0.15	0.08	30555.097	-36505.537	27.986			
366	第2ブロック	VI a	碎片	黒曜石		ob-1a	1.3	0.8	0.16	0.12	30555.006	-36505.425	28.028			
367a	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.5	0.8	0.08	0.02	30555.006	-36505.435	27.905			
367b	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.3	0.5	0.01	計測不能	30555.006	-36505.435	27.905			
368	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.5	0.6	0.08	0.02	30554.860	-36505.446	27.925			
369	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-2c	0.9	0.8	0.15	0.08	30554.626	-36505.729	27.841			
370	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.4	0.6	0.12	0.04	30554.548	-36505.634	27.900			
371	第2ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-1a	3.0	1.7	0.44	1.41	30554.455	-36505.685	27.930			
372	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-1a	1.0	1.1	0.16	0.08	30554.448	-36505.728	27.833			
373	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-1b	1.3	0.4	0.11	0.07	30554.460	-36505.808	27.845			
374	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.1	0.7	0.2	0.08	30554.539	-36505.920	27.945			
375	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.6	0.6	0.1	0.03	30554.470	-36505.968	27.913			
376	第2ブロック	VI b	ナイフ形石器	黒曜石			3.0	1.0	0.5	0.9	30554.527	-36506.013	27.907	第298図	PL.134	
377	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.2	1.3	0.19	0.14	30554.566	-36506.047	27.971			
378	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.0	0.9	0.14	0.11	30554.402	-36506.014	27.912			
379	第2ブロック	VII	剥片	黒曜石	接7	ob-2a	(2.2)	(1.1)	0.7	0.75	30554.797	-36505.999	27.857		PL.136	
380	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-1a	1.5	0.7	0.08	0.08	30554.701	-36506.069	27.789			
381	第2ブロック	VII	ナイフ形石器	黒曜石		ob-2c	(0.8)	(0.6)	0.4	0.14	30554.541	-36506.090	27.816	第298図	PL.134	基部のみ
382	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.1	1.9	0.3	0.39	30554.351	-36506.146	27.957			
383	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-1a	0.6	0.9	0.26	0.08	30554.332	-36506.205	27.856			
384	第2ブロック	VII	剥片	黒曜石		ob-1a	1.5	2.0	0.54	0.75	30554.372	-36506.191	27.850			
385	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.7	0.7	0.13	0.05	30554.245	-36506.116	27.898			
386	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.5	0.9	0.11	0.04	30554.169	-36506.123	27.901			
387	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-1a	0.5	0.9	0.38	0.10	30554.130	-36506.107	27.883			
388	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.6	0.5	0.08	0.02	30554.205	-36506.131	27.896			
389	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	0.9	0.7	0.09	0.04	30554.104	-36505.951	27.937			
390	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-2c	1.6	1.0	0.3	0.43	30554.109	-36505.896	27.930			
391	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1b	0.9	0.8	0.14	0.04	30554.131	-36505.933	27.913			
392	第2ブロック	VI b	縦長剥片	黒曜石		ob-1b	(1.9)	1.3	0.3	0.52	30553.956	-36505.914	27.910	第299図	PL.135	
393	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石			0.6	0.8	0.17	0.05	30554.314	-36505.907	27.920			
394	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石		ob-1a	1.2	0.6	0.15	0.06	30554.171	-36505.749	27.874			
395	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.5	0.9	0.16	0.23	30554.237	-36505.687	27.943			
396	—	VII	—	—			—	—	—	—	30554.135	-36505.614	27.864			炭化物
397	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.0	1.2	0.28	0.19	30554.277	-36505.456	27.988			
398	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.7	0.6	0.11	0.03	30554.477	-36505.404	27.894			
399	第2ブロック	VII	碎片	黒曜石			0.4	0.8	0.07	0.02	30554.468	-36505.442	27.864			
400	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	1.7	1.1	0.15	0.19	30554.295	-36505.208	27.945			
401	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1a	0.9	0.7	0.15	0.07	30554.389	-36505.178	27.919			
402	第2ブロック	VII	剥片	黒曜石		ob-1a	2.4	1.4	0.2	0.44	30554.543	-36505.102	27.833	第300図	PL.135	
403	第2ブロック	VI b	碎片	黒曜石		ob-1b	1.0	0.7	0.17	0.08	30554.457	-36505.014	27.962			

第65表 遺物観察表(39)

1区出土石器一覧表(7)

遺物番号	ブロック	出土層位	器種	石材	接合	母岩	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標	挿図	PL.	備考
404	第2ブロック	VI b	破片	黒曜石		ob-1a	1.3	0.7	0.08	0.08	30554.291	-36505.075	27.906			
405	第2ブロック	VII	縦長剥片	黒曜石		ob-2a	3.4	1.4	0.7	1.20	30554.176	-36505.154	27.827	第299図	PL.135	
406	第2ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-1a	1.6	1.8	0.35	0.69	30554.667	-36504.712	27.879			
407	第2ブロック	VI a	破片	黒曜石		ob-1a	1.8	0.9	0.16	0.21	30554.616	-36504.539	28.005			
408	第2ブロック	VI a	破片	黒曜石	接7	ob-2a	(1.2)	(0.8)	0.6	0.42	30555.226	-36504.893	28.028		PL.136	
409	第2ブロック	VI a	破片	黒曜石	接3	ob-2a	1.7	1.8	0.4	0.86	30553.607	-36504.772	28.012	第301図	PL.135 PL.136	
410	第1ブロック	VII	破片	黒曜石			1.4	0.5	0.24	0.08	30555.927	-36509.347	27.897			
411	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石			0.5	0.9	0.1	0.04	30555.962	-36509.367	27.904			
412	第1ブロック	VI b	—	チャート			—	—	—	0.31	30556.143	-36510.352	27.946			礫片
413	第1ブロック	VI b	—	頁岩			—	—	—	0.22	30556.140	-36510.395	27.948			礫片
414	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石		ob-1b	1.1	1.6	0.13	0.28	30556.304	-36511.896	27.937			
415	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石		ob-3a	(1.8)	0.9	0.2	0.38	30555.579	-36509.413	27.911	第301図	PL.135	
416	第1ブロック	VII	剥片	黒曜石	接8	ob-2b	(2.3)	1.0	0.3	0.40	30557.873	-36509.859	27.894	第300図 第301図	PL.135 PL.136	
417	第1ブロック	VII	破片	黒曜石			0.6	1.1	0.15	0.06	30556.917	-36510.312	27.882			
418	第1ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-1a	1.6	0.8	0.18	0.22	30555.863	-36509.728	27.829			
419	第1ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-4	1.9	1.8	0.2	0.45	30555.839	-36509.790	27.831			
420	第1ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-4	0.7	1.3	0.46	0.41	30555.782	-36509.691	27.840			
421	第1ブロック	VII	破片	黒曜石			0.7	0.6	0.16	0.04	30556.152	-36509.306	27.832			
422	第1ブロック	VII	破片	黒曜石			0.9	0.9	0.04	0.02	30556.075	-36509.308	27.837			
423	第1ブロック	VII	破片	黒曜石			0.2	0.6	0.05	0.01	30555.809	-36509.387	27.893			
424	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石		ob-2a	0.8	1.9	0.19	0.35	30555.751	-36509.509	27.844			
425	第1ブロック	VII	破片	黒曜石			0.4	0.5	0.1	0.01	30555.689	-36509.552	27.852			
426	第1ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-3a	1.0	1.1	0.19	0.17	30555.787	-36509.328	27.827			
427	第1ブロック	VII	破片	黒曜石			0.6	0.5	0.1	0.02	30555.792	-36509.388	27.843			
428	第1ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-4	1.6	1.0	0.12	0.25	30555.563	-36509.532	27.865			
429	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石			0.9	0.7	0.08	0.04	30555.498	-36509.628	27.893			
430	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石			0.8	0.7	0.17	0.05	30555.396	-36509.591	27.904			
431	第1ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-4	1.4	1.7	0.23	0.40	30555.402	-36509.524	27.818			
432	第1ブロック	VII	破片	黒曜石			0.7	0.5	0.13	0.02	30555.970	-36508.969	27.857			
433	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石			0.5	0.8	0.25	0.09	30555.674	-36509.253	27.979			
434	第1ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-1b	1.6	1.0	0.07	0.15	30555.979	-36509.064	27.834			
435	第1ブロック	VI b	剥片	黒曜石		ob-3b	(2.4)	1.5	0.4	0.75	30555.610	-36509.302	27.941	第300図	PL.135	
436	第1ブロック	VII	破片	黒曜石			0.4	0.6	0.12	0.02	30555.471	-36509.229	27.898			
437	第1ブロック	VII	破片	黒曜石			0.6	0.8	0.13	0.07	30555.513	-36509.205	27.879			
438	第1ブロック	VI b	破片	黒曜石			0.6	0.8	0.15	0.08	30555.372	-36509.263	27.927			
439	第1ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-4	1.2	1.1	0.2	0.26	30555.400	-36509.220	27.838			
440	第1ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-3a	1.7	0.8	0.1	0.12	30555.286	-36509.398	27.813			
441	第1ブロック	VII	破片	黒曜石		ob-3a	1.6	0.7	0.2	0.17	30555.196	-36509.439	27.858			
442	第1ブロック	VII	縦長剥片	黒曜石		ob-3a	3.4	1.5	0.5	1.30	30555.064	-36509.586	27.830	第299図	PL.135	
443	第1ブロック	VII	破片	黒曜石	接14	ob-4	(1.6)	1.2	0.5	0.52	30555.141	-36509.284	27.884	第301図 第302図	PL.135 PL.136	
444	第2ブロック	VI b	ナイフ形石器	黒曜石			3.6	1.1	0.5	1.18	30554.587	-36506.075	27.925	第298図	PL.134	
445a	第2ブロック	VI b	破片	黒曜石		ob-2c	1.2	1.1	0.25	0.29	30553.641	-36504.559	27.960			
445b	第2ブロック	VI b	破片	黒曜石		ob-3a	0.9	1.2	0.2	0.13	30553.641	-36504.559	27.960			
446	—	VII	—	—			—	—	—	—	30555.582	-36505.478	27.844			酸化鉄質土塊
447	—	VI b	—	—			—	—	—	—	30555.226	-36510.306	27.918			自然礫
448	第1ブロック	VII	—	粗粒輝石安山岩			—	—	—	1.04	30557.328	-36509.320	27.888			礫片
449	—		ナイフ形石器	チャート			2.9	1.5	0.5	2.01	—	—	—	第298図	PL.134	15住覆土

3区出土石器一覧表

調査坑	遺物番号	出土層位	器種	石材	接合	母岩	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標	挿図	PL.	備考
2調査坑	1	IV	—	砂質頁岩			—	—	—	1.14	30736.459	-36640.585	28.884			礫片
2調査坑	2	V	縦長剥片	黒曜石			1.9	1.5	0.4	1.02	30736.223	-36642.006	28.712	第307図	PL.136	
3調査坑	1	VI	剥片	黒曜石			2.8	5.7	0.6	8.07	30743.523	-36633.707	28.145	第307図	PL.136	

4区出土石器一覧表(1)

調査坑	遺物番号	出土層位	器種	石材	接合	母岩	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標	挿図	PL.	備考
2調査坑	1	—	縦長剥片	黒曜石			7.3	2.2	0.9	9.21	30443.901	-36427.404	27.722	第311図	PL.136	
2調査坑	2	—	縦長剥片	黒曜石			(3.3)	1.8	0.6	2.96	30443.406	-36427.857	27.805	第311図	PL.136	
4調査坑	1	VII	剥片	チャート			4.0	2.7	0.87	6.16	30429.811	-36408.076	27.458			
6調査坑	1	IV	剥片	黒曜石		ob-1	(2.9)	1.7	0.4	1.04	30412.105	-36403.136	27.660	第314図	PL.136	
6調査坑	2	IV	破片	黒曜石	接16	ob-1	1.7	1.3	0.6	0.71	30411.656	-36403.382	27.700	第314図	PL.136	
6調査坑	3	IV	破片	黒曜石		ob-1	1.5	1.4	0.19	0.29	30411.733	-36403.616	27.687			
6調査坑	4	IV	剥片	硬質頁岩			2.1	1.4	0.4	0.84	30412.066	-36403.859	27.648	第314図	PL.136	
6調査坑	5	IV	剥片	黒曜石	接16	ob-1	(2.4)	2.1	0.6	2.11	30411.268	-36403.558	27.692	第314図	PL.136	
6調査坑	6	IV	破片	黒曜石		ob-1	0.7	1.4	0.14	0.14	30411.397	-36403.538	27.660			
6調査坑	7	—	—	—			—	—	—	—	—	—	—			土器
6調査坑	8	IV	破片	黒曜石		ob-1	0.8	1.3	0.12	0.10	30411.964	-36405.082	27.641			
6調査坑	9	IV	破片	黒曜石		ob-1	0.9	1.2	0.31	0.35	30412.099	-36406.007	27.657			

第66表 遺物観察表(40)

4区出土石器一覧表(2)

調査坑	遺物 番号	出土 層位	器種	石材	接合	母岩	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	Z座標	挿図	PL.	備考
6調査坑	10	—	—	—			—	—	—	—	30412.381	-36406.401	27.685			石炭
6調査坑	11	IV	石核	チャート			2.5	2.8	2.6	17.2	30413.595	-36406.984	27.578	第314図	PL.136	
6調査坑	12	IV	—	頁岩			—	—	—	2.30	30413.101	-36407.405	27.607			礫片
6調査坑	13	IV	碎片	黒曜石		ob-1	0.8	1.8	0.58	0.71	30410.077	-36405.630	27.664			
6調査坑	14	IV	剥片	黒曜石		ob-1	3.2	2.2	0.73	3.43	30412.456	-36403.311	27.604			
6調査坑	15	IV	剥片	黒曜石		ob-1	(1.8)	2.1	0.4	1.29	30412.166	-36402.745	27.592	第314図	PL.136	
6調査坑	16	IV	碎片	黒曜石	接17	ob-1	(1.2)	(1.2)	0.2	0.20	30412.220	-36402.291	27.614			PL.136
6調査坑	17	IV	碎片	硬質頁岩			1.2	1.3	0.18	0.28	30410.627	-36402.452	27.600			
6調査坑	18	IV	剥片	黒曜石		ob-1	1.4	2.2	0.6	1.15	30410.313	-36400.799	27.570	第314図	PL.136	
6調査坑	19	IV	碎片	黒曜石		ob-1	1.8	1.0	0.26	0.43	30410.160	-36400.397	27.545			
6調査坑	20	IV	碎片	硬質頁岩			1.3	1.6	0.36	0.68	30410.136	-36399.813	27.538			
6調査坑	21	IV	碎片	黒曜石	接16	ob-1	1.7	(1.1)	0.2	0.27	30409.440	-36400.667	27.536	第314図	PL.136	
6調査坑	22	IV	碎片	黒曜石		ob-1	1.0	1.1	0.25	0.25	30412.057	-36403.539	27.570			
6調査坑	23	IV	碎片	黒曜石		ob-1	1.3	0.8	0.1	0.11	30412.322	-36404.448	27.588			
6調査坑	24	IV	碎片	黒曜石		ob-1	1.4	0.7	0.34	0.30	30412.859	-36404.448	27.557			
6調査坑	25	IV	碎片	黒曜石			0.9	0.7	0.07	0.06	30413.168	-36404.337	27.598			
6調査坑	26	IV	碎片	黒曜石			0.8	0.6	0.3	0.10	30413.648	-36404.402	27.552			
6調査坑	27	IV	碎片	黒曜石		ob-1	1.5	0.8	0.1	0.11	30414.516	-36401.097	27.524			
6調査坑	28	—	—	—			—	—	—	—						土器
6調査坑	29	IV	碎片	黒曜石		ob-1	1.5	0.8	0.13	0.23	30411.871	-36405.054	27.555			
6調査坑	30	IV	碎片	黒曜石			0.5	1.0	0.26	0.09	30409.925	-36404.533	27.554			
6調査坑	31	IV	剥片	硬質頁岩			1.7	2.5	0.4	1.06	30409.743	-36405.119	27.516	第314図	PL.136	
6調査坑	32	IV	剥片	硬質頁岩			1.5	2.0	0.45	0.74	30410.859	-36406.266	27.551			
6調査坑	33	IV	碎片	頁岩			1.0	1.2	0.27	0.24	30412.335	-36408.474	27.541			
6調査坑	34	IV	碎片	硬質頁岩			1.1	0.4	0.3	0.07	30411.308	-36403.486	27.694			
6調査坑	35	V	碎片	頁岩			0.7	0.9	0.14	0.11	30415.459	-36402.178	27.356			
6調査坑	36	V	—	デイサイト			—	—	—	0.69	30414.839	-36402.225	27.378			礫片
6調査坑	37	V	—	砂岩			—	—	—	1.02	30414.711	-36402.217	27.369			礫片
6調査坑	38	V	剥片	黒曜石		ob-1	1.6	2.3	0.6	1.24	30413.325	-36400.998	27.420			
6調査坑	39	V	碎片	黒曜石		ob-1	1.5	1.5	0.24	0.46	30410.811	-36398.534	27.304			
6調査坑	40	V	—	砂岩			—	—	—	0.21	30409.211	-36402.708	27.336			礫片
6調査坑	41	V	—	黒色頁岩			—	—	—	5.70	30411.499	-36402.630	27.482			礫片
6調査坑	42	V	碎片	黒曜石		ob-1	1.1	1.0	0.17	0.15	30411.772	-36402.632	27.538			
6調査坑	43	V	—	雲母石英片岩			—	—	—	0.83	30411.968	-36402.509	27.470			礫片
6調査坑	44	V	碎片	黒曜石		ob-1	0.7	1.4	0.15	0.11	30412.418	-36402.428	27.468			
6調査坑	45	V	碎片	黒曜石		ob-1	1.5	0.7	0.42	0.33	30412.102	-36403.042	27.484			
6調査坑	46	V	碎片	黒曜石		ob-1	1.7	1.7	0.49	1.17	30411.459	-36402.969	27.509			
6調査坑	47	V	剥片	黒曜石		ob-1	1.2	2.2	0.3	0.79	30411.312	-36403.025	27.479	第314図	PL.136	
6調査坑	48	V	碎片	黒曜石	接17	ob-1	(1.3)	(1.5)	0.2	0.34	30411.566	-36403.636	27.495			PL.136
6調査坑	49	V	碎片	黒曜石		ob-1	1.3	0.5	0.24	0.10	30411.604	-36404.310	27.515			
6調査坑	50	V	碎片	黒曜石		ob-1	1.4	0.7	0.26	0.17	30413.139	-36403.577	27.515			
6調査坑	51	V	碎片	黒曜石			0.7	0.7	0.1	0.03	30412.371	-36405.164	27.473			
6調査坑	52	V	碎片	黒曜石			0.5	0.8	0.06	0.03	30411.790	-36405.203	27.527			
6調査坑	53	V	剥片	黒曜石			1.9	3.3	0.8	4.11	30414.483	-36405.962	27.413	第314図	PL.136	
6調査坑	54	V	—	変輝緑岩			—	—	—	1.16	30415.159	-36409.619	27.290			礫片
6調査坑	55	V	碎片	硬質頁岩			1.0	0.8	0.18	0.16	30409.178	-36405.509	27.492			
6調査坑	56	V	碎片	硬質頁岩			1.1	1.3	0.12	0.16	30409.213	-36405.112	27.419			
6調査坑	57	V	碎片	硬質頁岩			1.1	1.0	0.2	0.24	30409.647	-36405.067	27.454			
6調査坑	58	V	碎片	硬質頁岩			1.3	1.4	0.1	0.15	30409.236	-36404.843	27.439			
6調査坑	59	V	—	砂岩			—	—	—	0.34	30413.130	-36403.603	27.446			礫片
11調査坑	1	VII	剥片	黒曜石			3.0	3.0	1.4	9.75	30466.916	-36421.764	27.637	第319図	PL.136	打面再生 剥片か
13調査坑	1	IX	—	チャート			—	—	—	0.16	30453.141	-36407.075	27.359			礫片
13調査坑	2	欠番	—	—			—	—	—	—						
13調査坑	3	VIII b	碎片	チャート			0.9	1.2	0.23	0.37	30451.915	-36407.915	27.344			
13調査坑	4	VII	—	雲母石英片岩			—	—	—	4.31	30450.891	-36406.575	27.799			礫片

写真図版



1. 調査区と周辺の地形(4区から北西を望む)



2. 調査区と周辺の地形(1区から南東を望む)



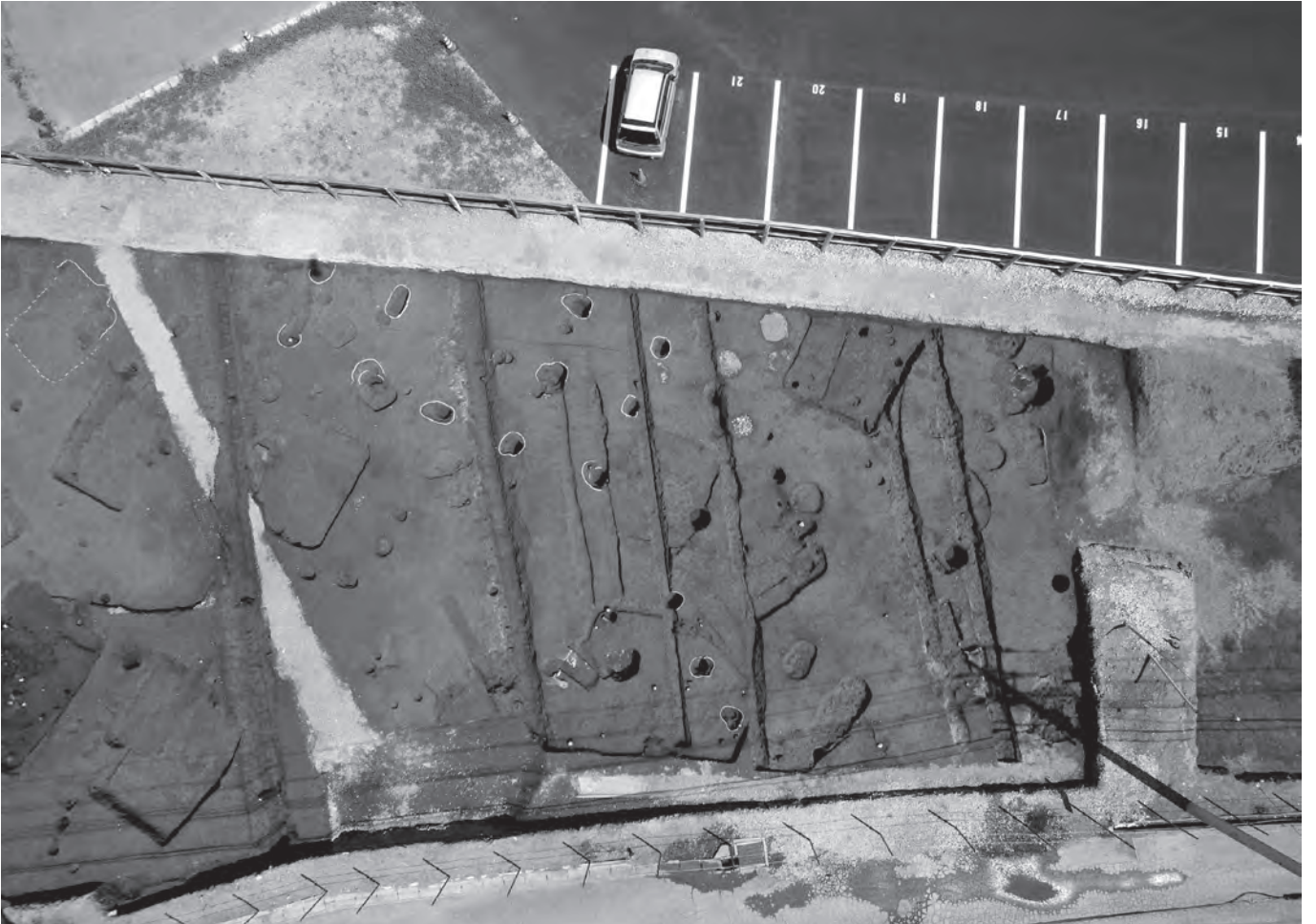
1. 1区全景(上が北東)



2. 1区全景(北西から)



1. 1区北西部(上が北東)



2. 1区中央部(上が北東)



1. 1区南東部(上が北東)



2. 2区全景(上が北東)



1. 2区全景(北西から)



2. 2区全景(南東から)



1. 2区北西部(上が北東)



2. 2区中央部(上が北東)



1. 2区南東部(上が北東)



2. 2区北半部(西から)



1. 2区南半部(西から)



2. 3区全景(上が北東)



1. 3区全景(北西から)



2. 3-3区全景(上が北東)



1. 3-1区全景(南東から)



2. 4区全景(上が北東)



1. 4区全景(北西から)



2. 4-1・4-3区全景(上が北東)



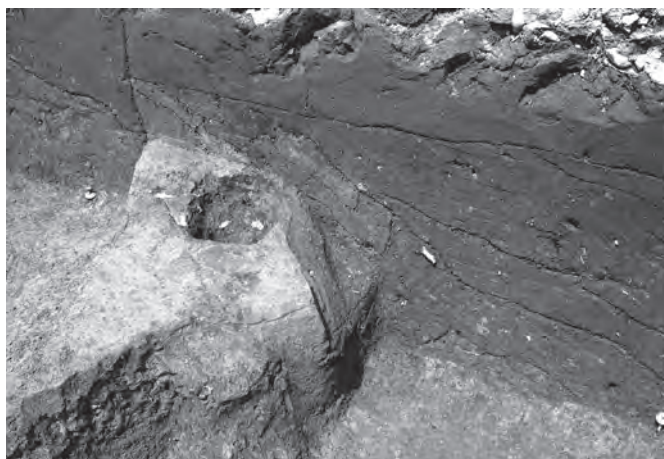
1. 4-2・4-4区全景(上が北東)



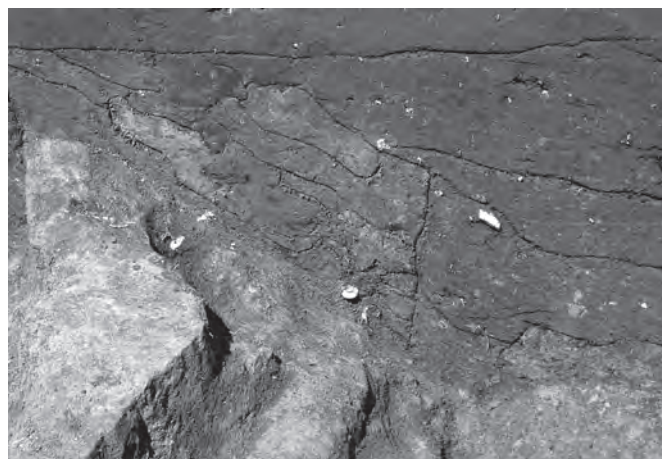
2. 4-5区全景(南東から)



1. 1区1・7号竪穴住居全景(南東から)



2. 1区1号竪穴住居竈全景(南西から)



3. 1区1号竪穴住居竈掘方全景(南西から)



4. 1区1号竪穴住居遺物2・3出土状態(南から)



5. 1区7号竪穴住居遺物出土状態(西から)



1. 1区2号竪穴住居全景(西から)



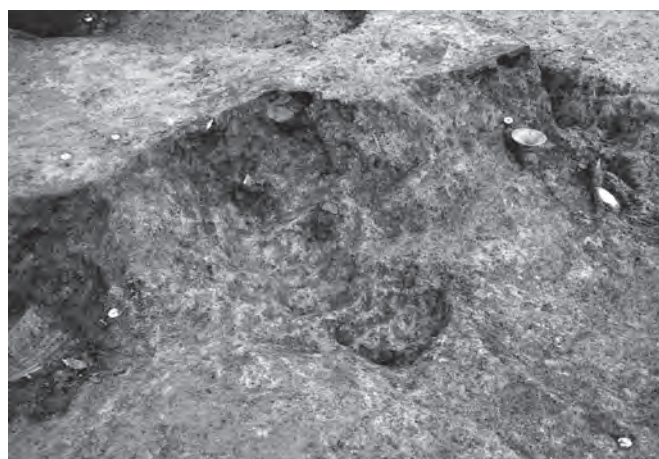
2. 1区2号竪穴住居遺物出土状態(西から)



3. 1区2号竪穴住居掘方全景(西から)



4. 1区2号竪穴住居竈全景(西から)



5. 1区2号竪穴住居竈掘方全景(西から)



1. 1区3号竪穴住居全景(南から)



2. 1区3号竪穴住居竈全景(南から)



3. 1区3号竪穴住居竈掘方全景(南から)



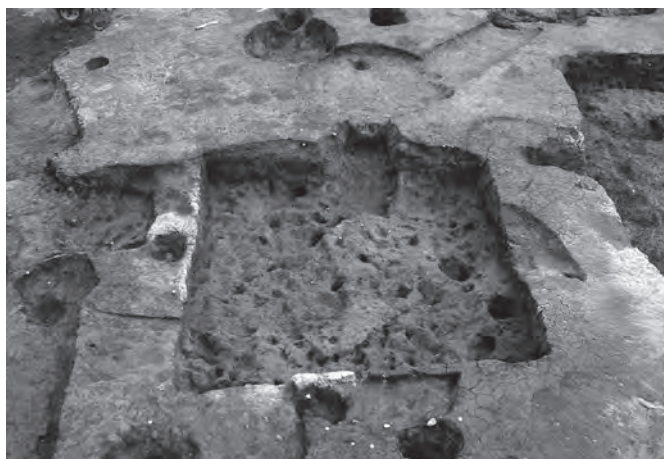
4. 1区4号竪穴住居竈全景(西から)



5. 1区4号竪穴住居竈掘方全景(西から)



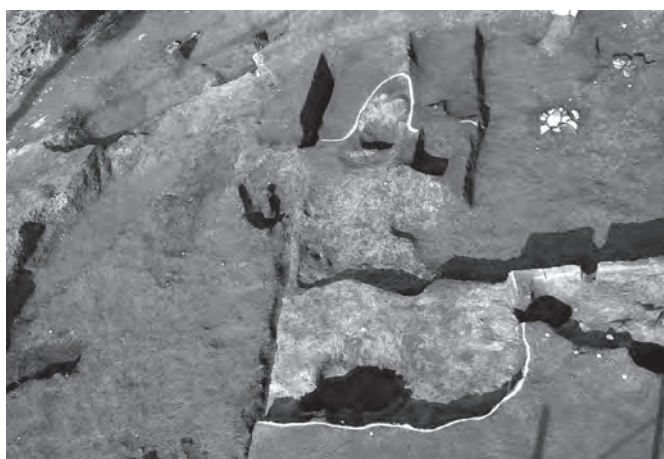
1. 1区4号竪穴住居全景(西から)



2. 1区4号竪穴住居掘方全景(西から)



3. 1区5号竪穴住居全景(西から)



4. 1区5号竪穴住居掘方全景(西から)



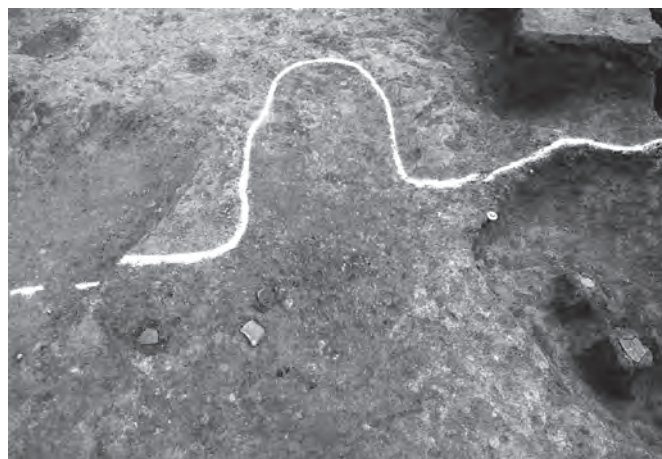
5. 1区5号竪穴住居竈全景(西から)



1. 1区6号竪穴住居全景(西から)



2. 1区6号竪穴住居掘方全景(西から)



3. 1区6号竪穴住居竈全景(西から)



4. 1区8号竪穴住居全景(南から)



5. 1区8号竪穴住居掘方全景(南から)



1. 1区8号竪穴住居遺物出土状態(南から)



2. 1区9号竪穴住居全景(西から)



3. 1区9号竪穴住居竈全景(西から)



4. 1区10号竪穴住居全景(西から)



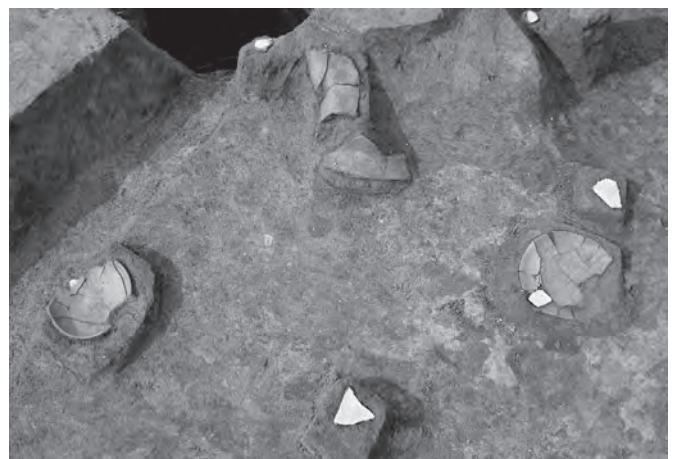
5. 1区10号竪穴住居竈全景(西から)



6. 1区11号竪穴住居全景(南東から)



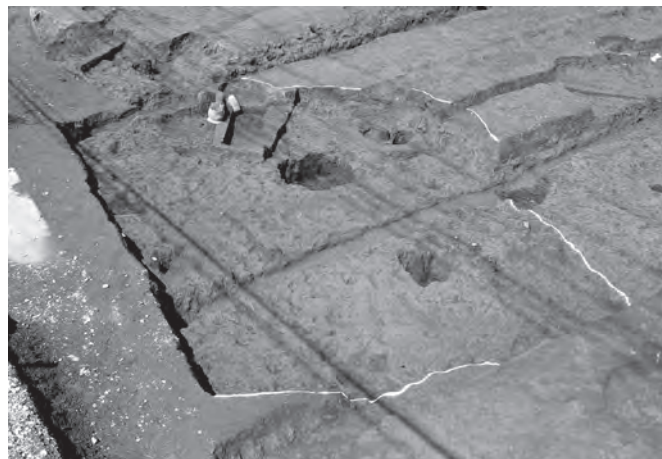
7. 1区11号竪穴住居竈全景(南東から)



8. 1区11号竪穴住居遺物1・2・5出土状態(南から)



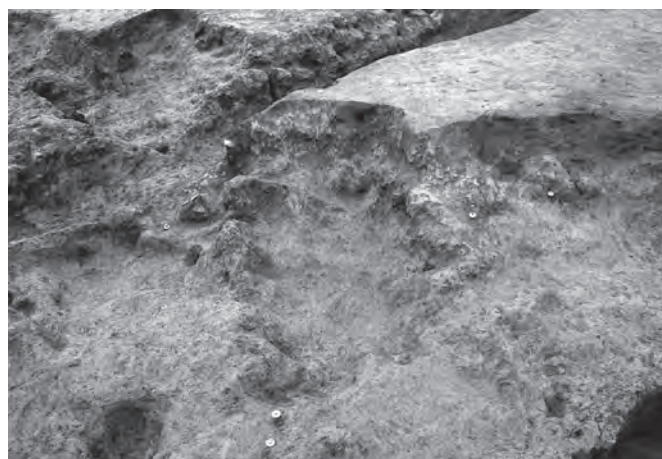
1. 1区12号竪穴住居全景(南東から)



2. 1区12号竪穴住居掘方全景(南東から)



3. 1区12号竪穴住居竈全景(南東から)



4. 1区12号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



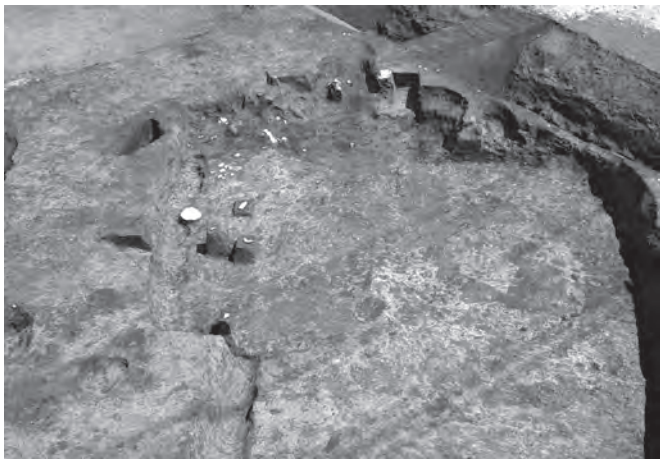
5. 1区13号竪穴住居全景(南東から)



1. 1区13号竪穴住居竈全景(南東から)



2. 1区14号竪穴住居全景(西から)



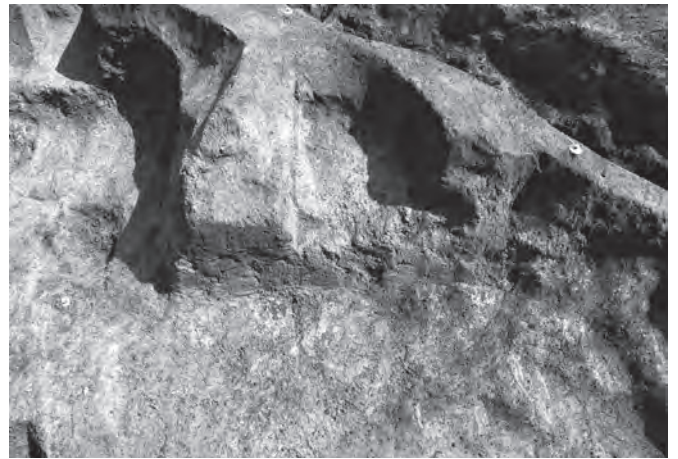
3. 1区18号竪穴住居全景(西から)



4. 1区14・18号竪穴住居掘方全景(西から)



5. 1区14号竪穴住居竈全景(西から)



6. 1区14号竪穴住居竈掘方全景(西から)



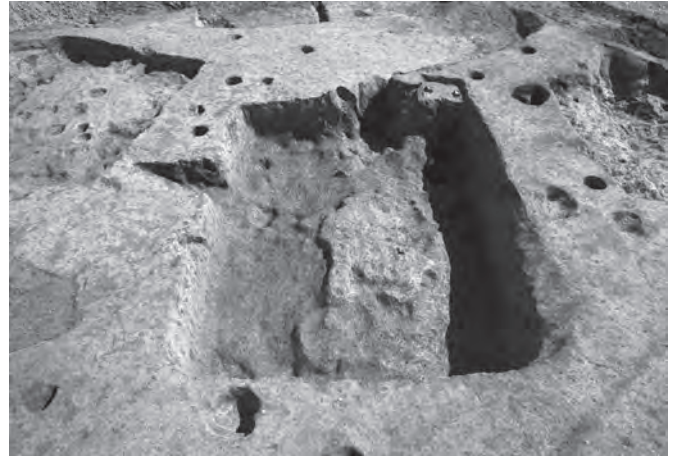
7. 1区14号竪穴住居遺物1～5出土状態(北から)



8. 1区18号竪穴住居竈全景(西から)



1. 1区18号竪穴住居竈掘方全景(西から)



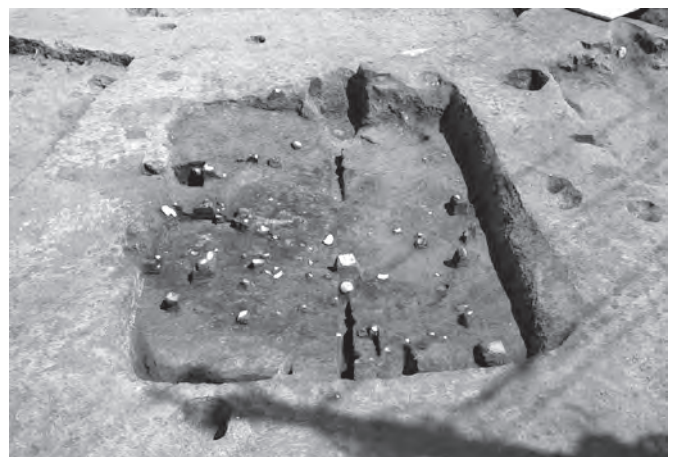
2. 1区15号竪穴住居掘方全景(西から)



3. 1区15号竪穴住居全景(西から)



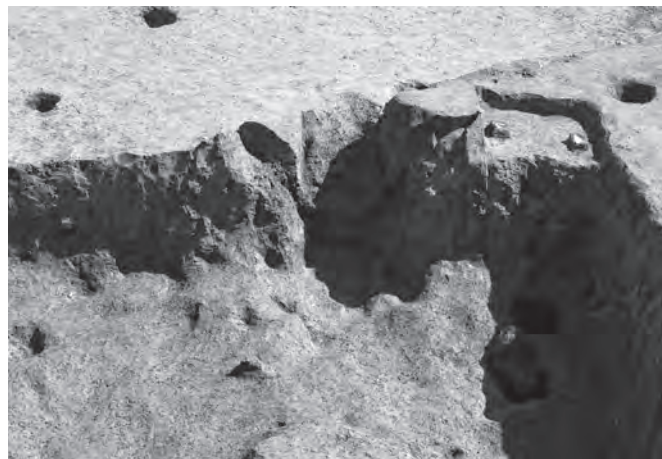
4. 1区15号竪穴住居遺物出土状態(西から)



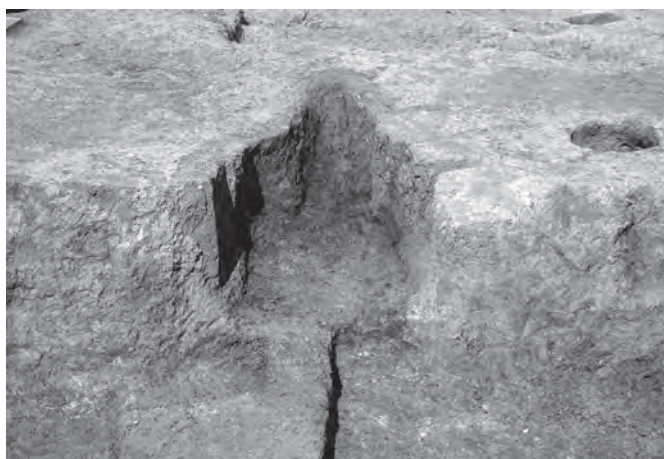
5. 1区15号竪穴住居灰・炭化物の面(西から)



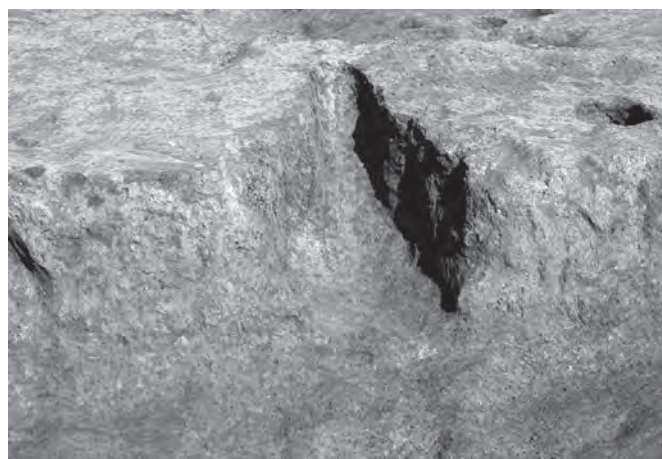
1. 1区15号竪穴住居1号竈全景(西から)



2. 1区15号竪穴住居1号竈掘方全景(西から)



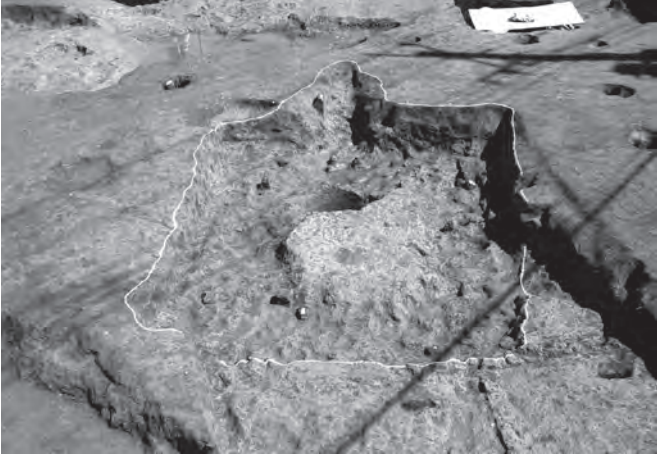
3. 1区15号竪穴住居2号竈全景(南から)



4. 1区15号竪穴住居2号竈掘方全景(南から)



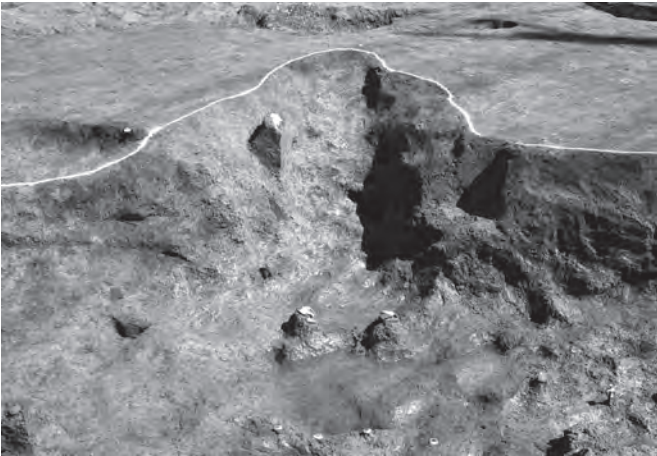
5. 1区16号竪穴住居全景(西から)



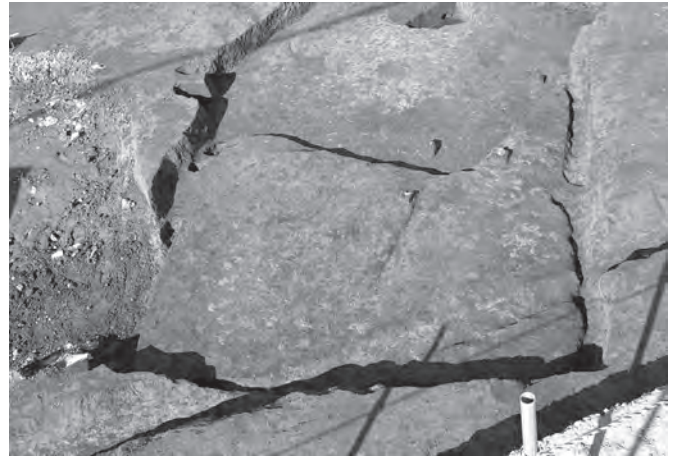
1. 1区16号竪穴住居掘方全景(西から)



2. 1区16号竪穴住居竈全景(西から)



3. 1区16号竪穴住居竈掘方全景(西から)



4. 1区17号竪穴住居全景(南西から)



5. 1区17号竪穴住居掘方全景(南東から)



6. 1区17号竪穴住居遺物1 出土状態(南から)



7. 1区19号竪穴住居全景(西から)



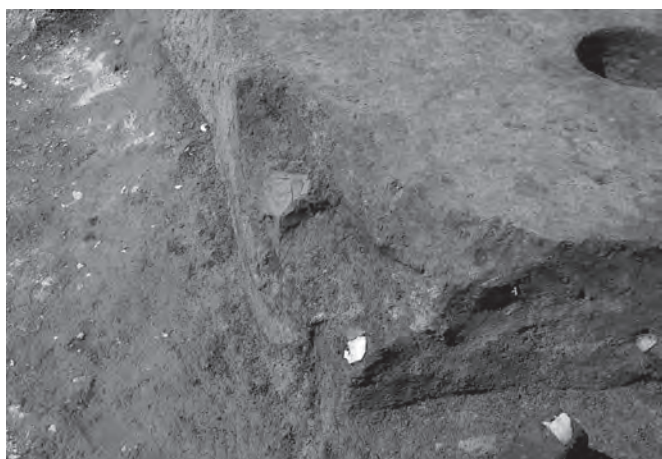
8. 1区19号竪穴住居竈全景(西から)



1. 1区19号竪穴住居遺物1出土状態(北西から)



2. 1区20号竪穴住居全景(南東から)



3. 1区20号竪穴住居竈全景(南東から)



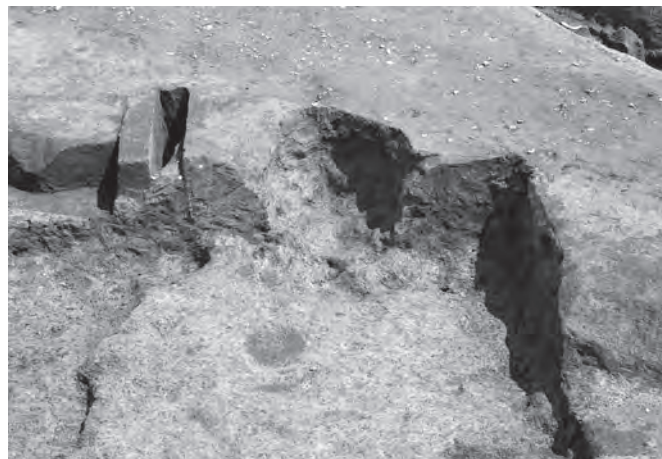
4. 1区21号竪穴住居掘方全景(南西から)



5. 1区21号竪穴住居全景(南西から)



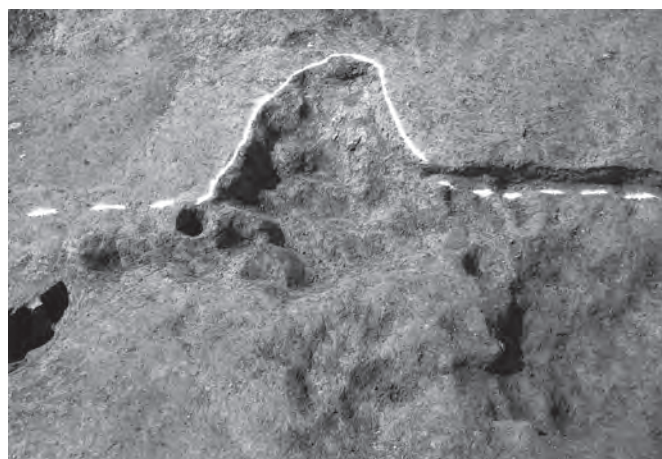
1. 1区21号竪穴住居竈全景(南西から)



2. 1区21号竪穴住居竈掘方全景(南西から)



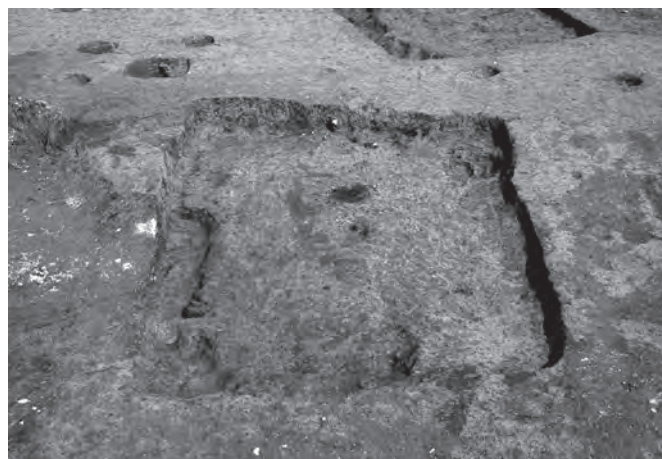
3. 1区22号竪穴住居竈全景(南東から)



4. 1区22号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



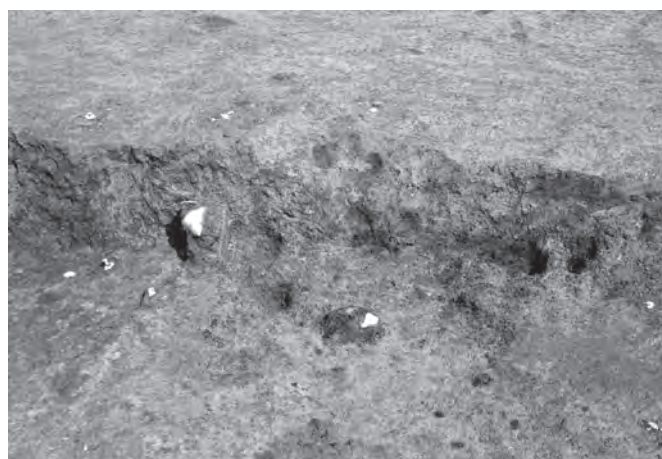
5. 1区23号竪穴住居全景(西から)



6. 1区23号竪穴住居掘方全景(西から)



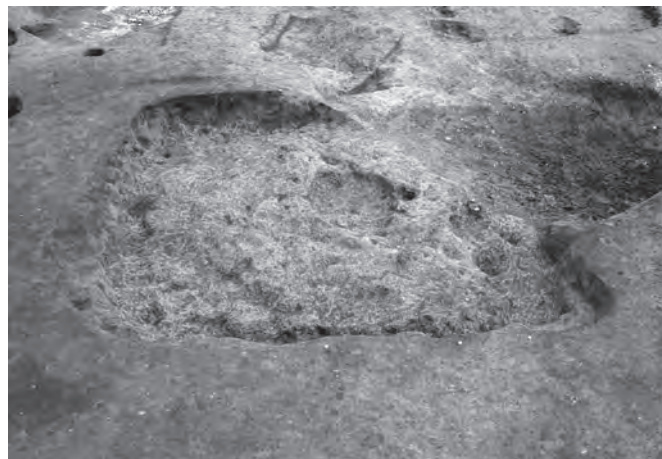
7. 1区23号竪穴住居竈全景(西から)



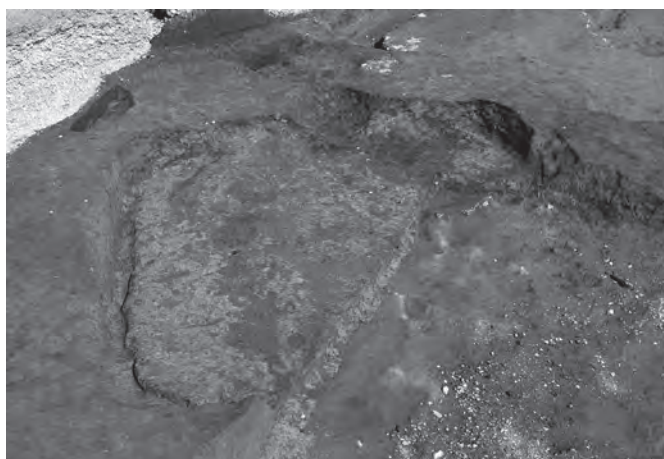
8. 1区23号竪穴住居竈掘方全景(西から)



1. 1区24号竪穴住居全景(西から)



2. 1区24号竪穴住居掘方全景(西から)



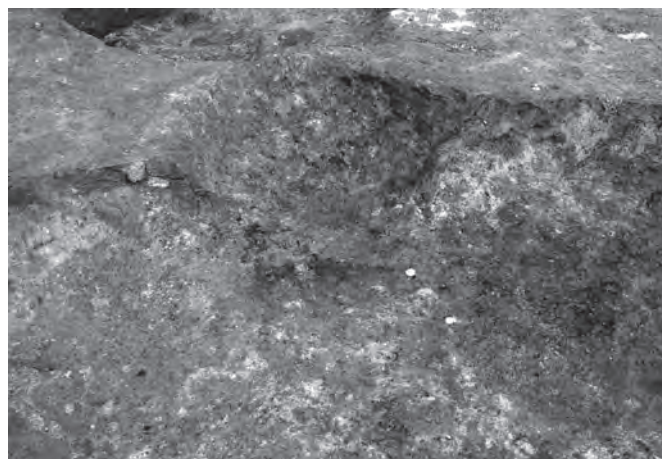
3. 1区25号竪穴住居全景(西から)



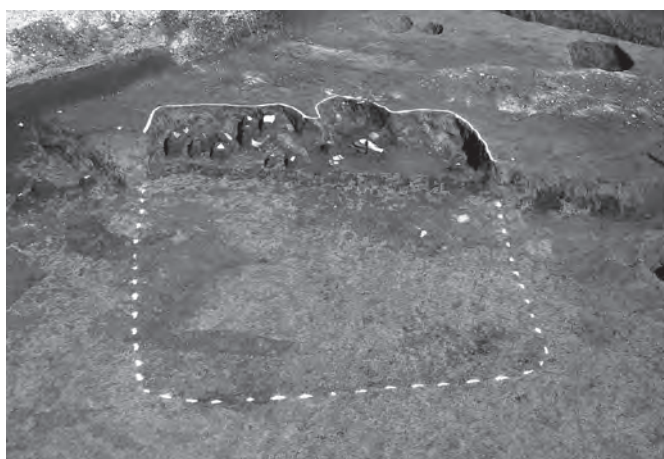
4. 1区25号竪穴住居掘方全景(西から)



5. 1区25号竪穴住居竈遺物出土状態(西から)



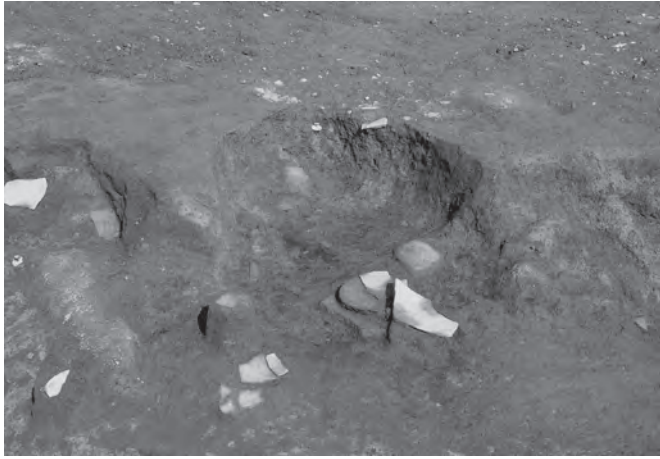
6. 1区25号竪穴住居竈全景(西から)



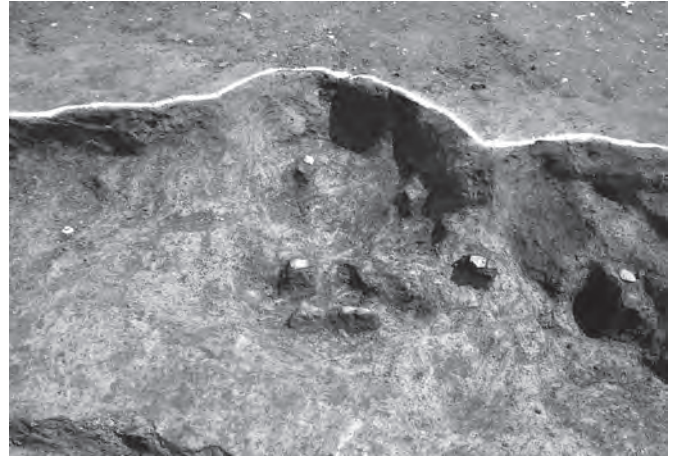
7. 1区26号竪穴住居全景(西から)



8. 1区26号竪穴住居掘方全景(西から)



1. 1区26号竪穴住居竈全景(西から)



2. 1区26号竪穴住居竈掘方全景(西から)



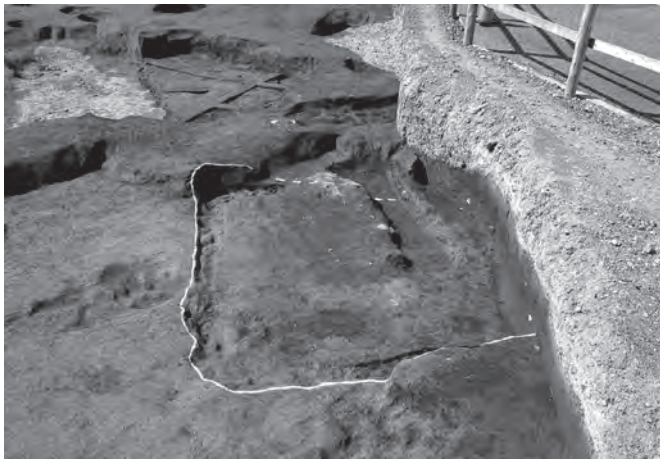
3. 1区27・30号竪穴住居全景(南西から)



4. 1区27・30号竪穴住居全景(南東から)



5. 1区29号竪穴住居全景(南西から)



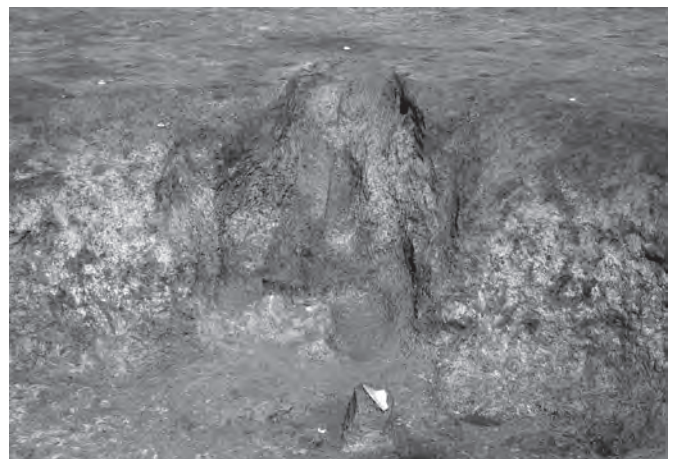
1. 1区28号竪穴住居全景(南東から)



2. 1区29号竪穴住居掘方全景(南西から)



3. 1区29号竪穴住居遺物出土状態(西から)



4. 1区29号竪穴住居竈煙道調査前(南西から)



5. 1区29号竪穴住居竈煙道発掘中(南西から)



6. 1区29号竪穴住居竈煙道部断面(南東から)



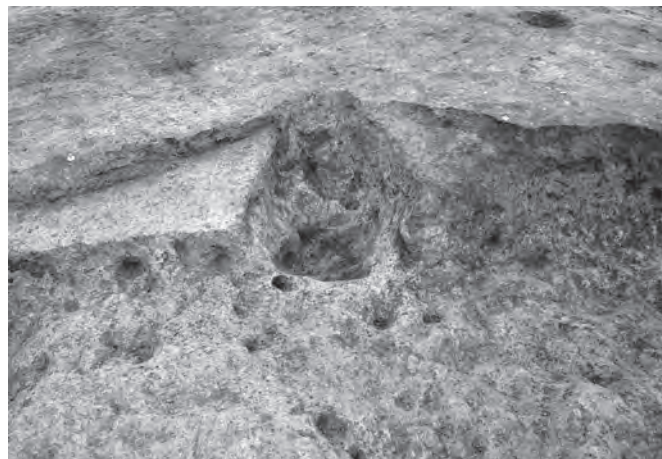
7. 1区31号竪穴住居全景(南東から)



8. 1区31号竪穴住居掘方全景(南東から)



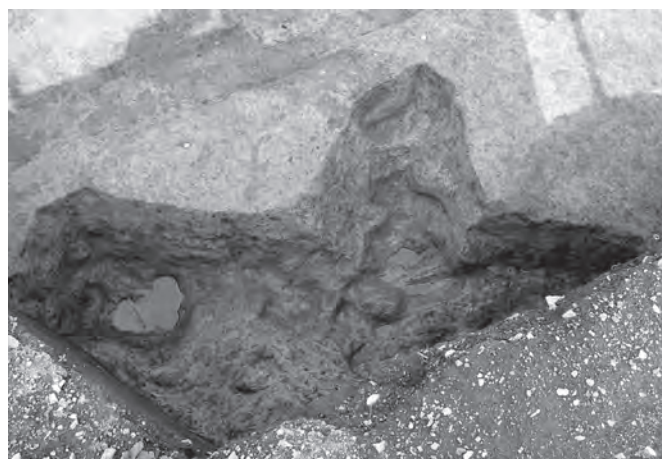
1. 1区31号竪穴住居竈全景(南東から)



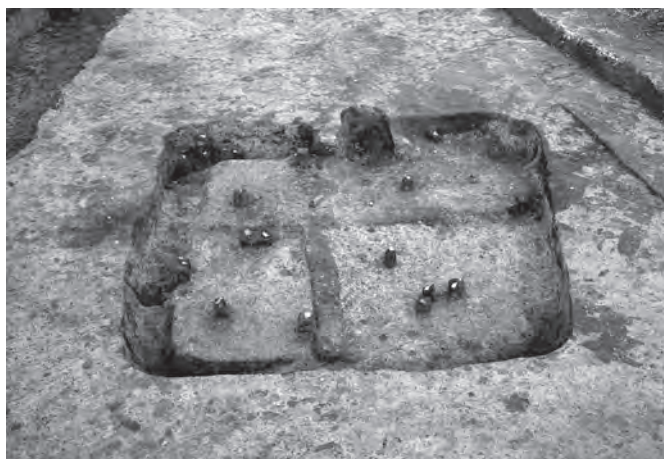
2. 1区31号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



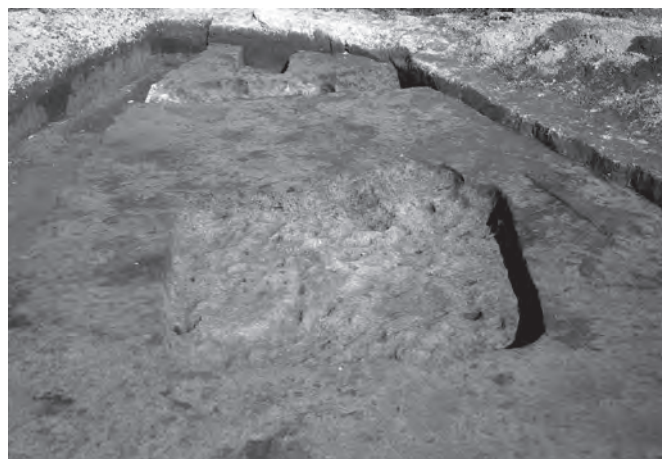
3. 1区32号竪穴住居全景(西から)



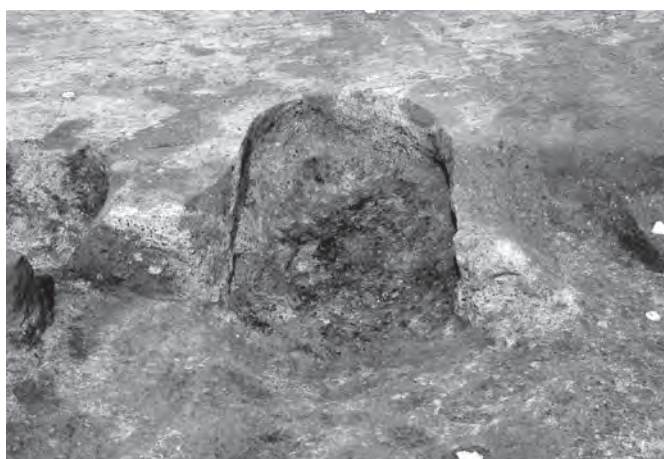
4. 1区32号竪穴住居掘方全景(西から)



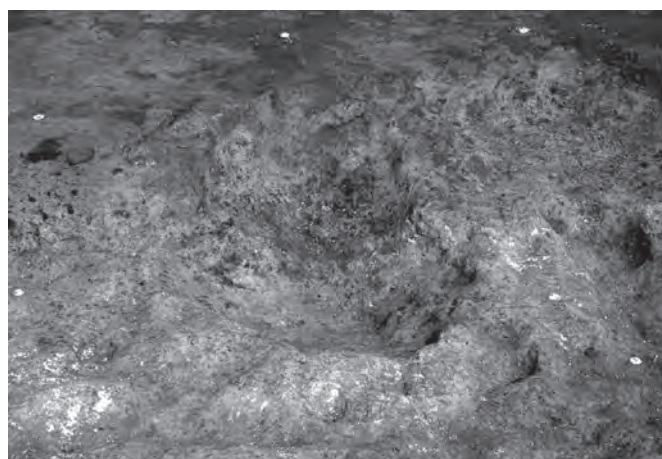
5. 2区1号竪穴住居全景(南東から)



6. 2区1号竪穴住居掘方全景(南東から)



7. 2区1号竪穴住居竈全景(南東から)



8. 2区1号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



1. 2区2号竪穴住居全景(西から)



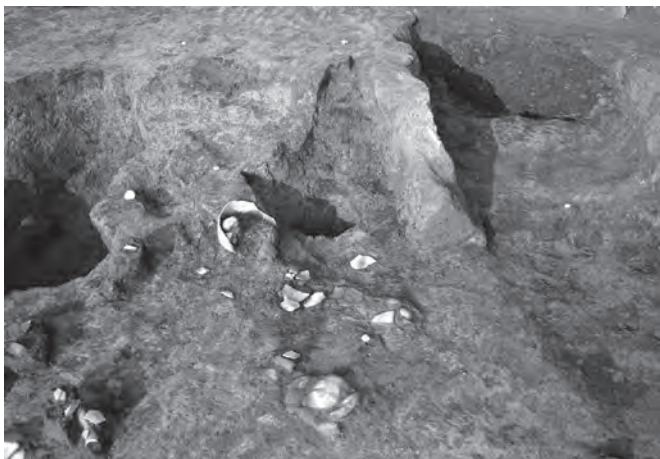
2. 2区2号竪穴住居竈全景(西から)



3. 2区3号竪穴住居全景(南西から)



4. 2区3号竪穴住居掘方全景(南西から)



5. 2区3号竪穴住居竈全景(南西から)



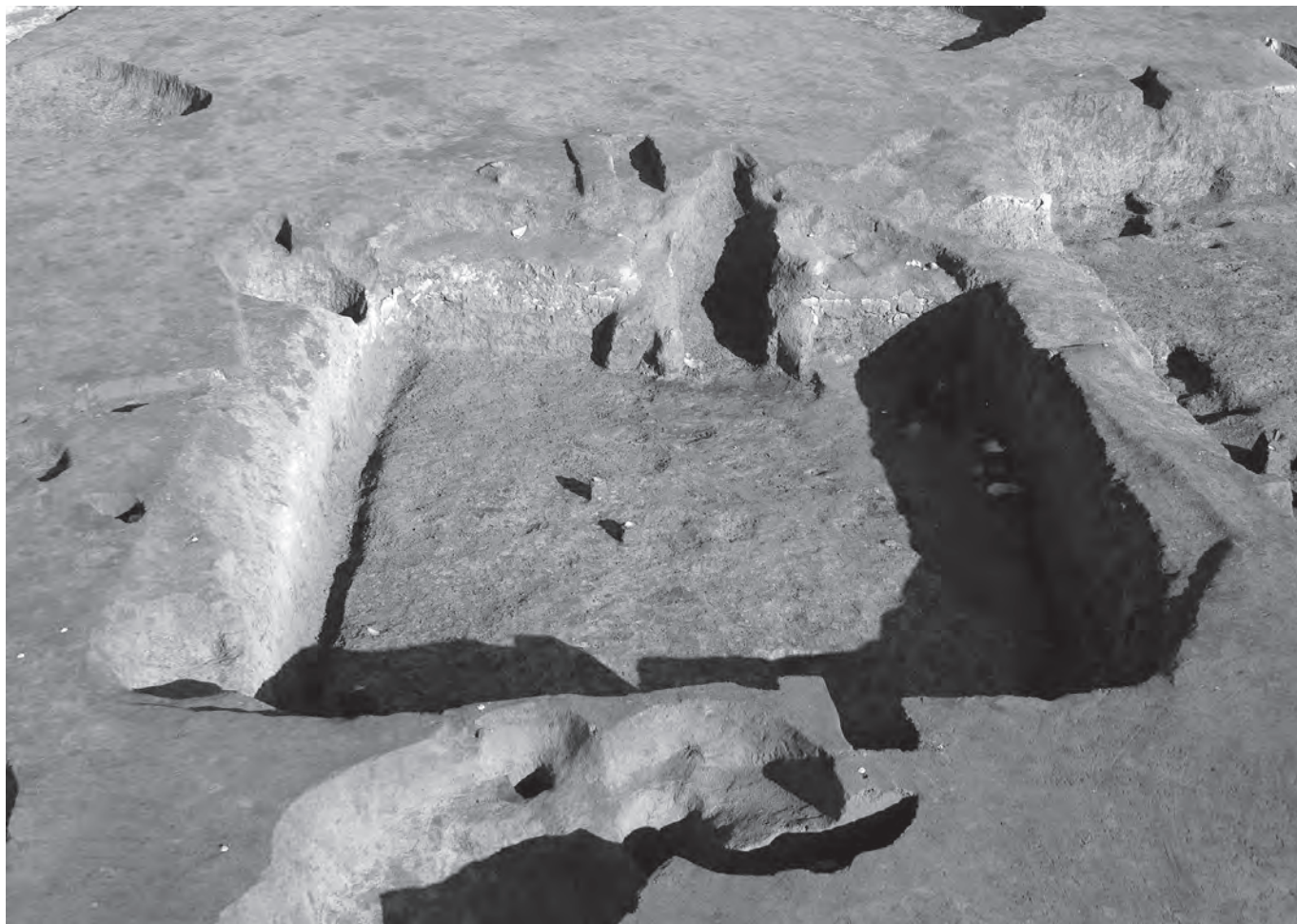
6. 2区3号竪穴住居竈掘方全景(南西から)



7. 2区4号竪穴住居掘方全景(西から)



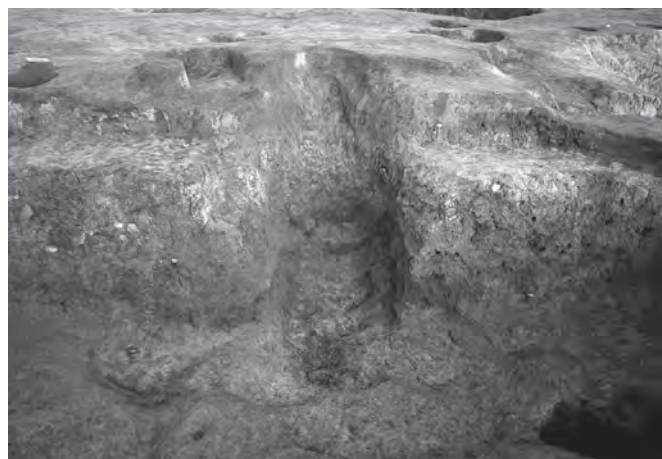
8. 2区4号竪穴住居遺物2・3・7・8出土状態(南から)



1. 2区4号竪穴住居全景(西から)



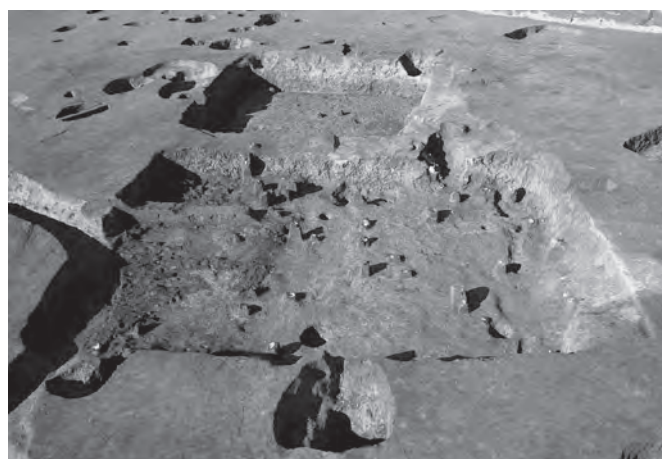
2. 2区4号竪穴住居竈全景(西から)



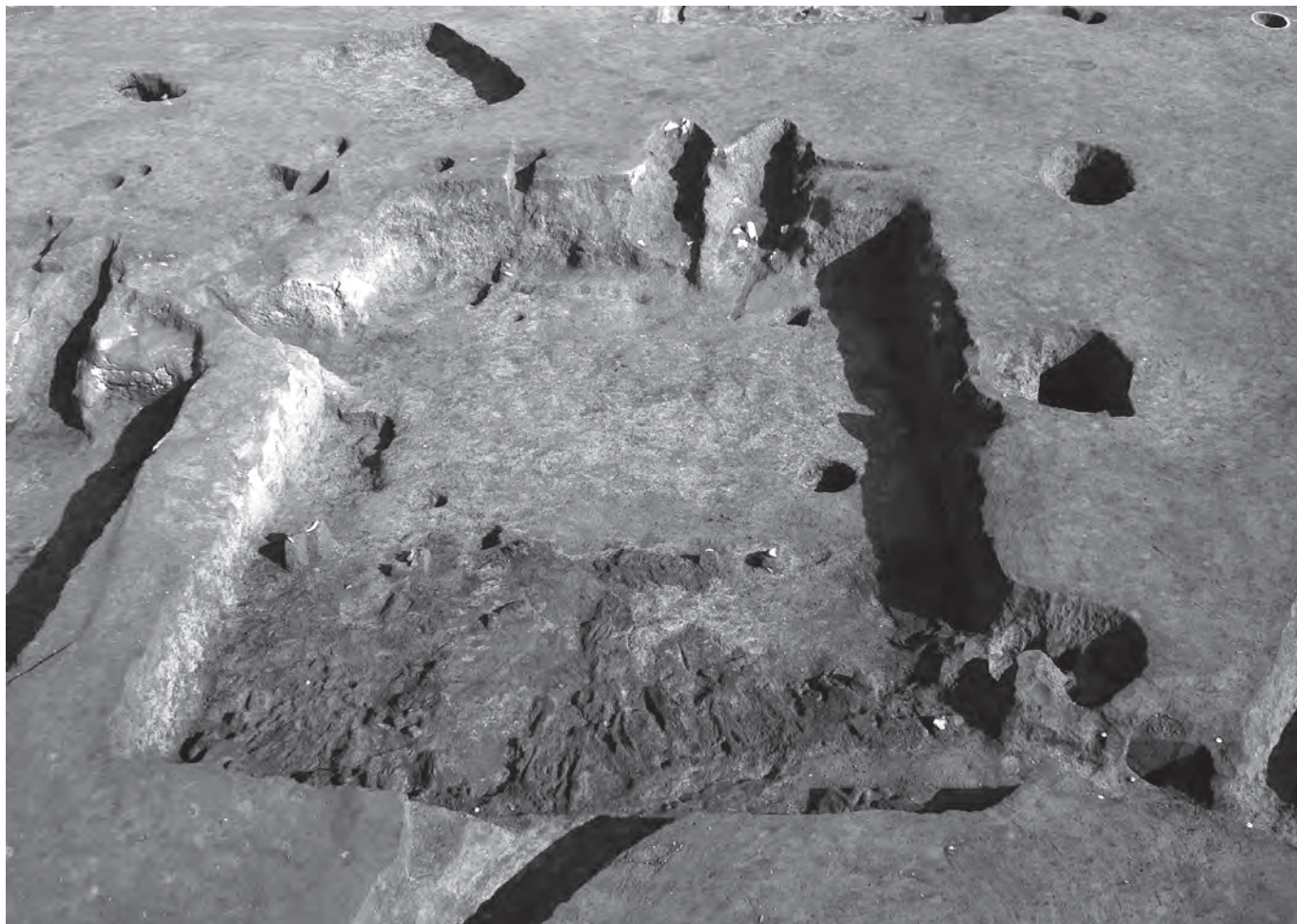
3. 2区4号竪穴住居竈掘方全景(西から)



4. 2区5号竪穴住居全景(南西から)



5. 2区6号竪穴住居全景・1・2号竈調査前(南東から)



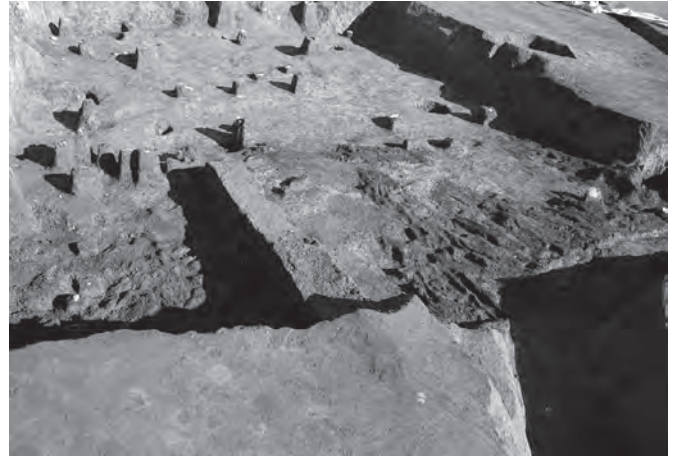
1. 2区6号竪穴住居全景・炭化材除去前(南西から)



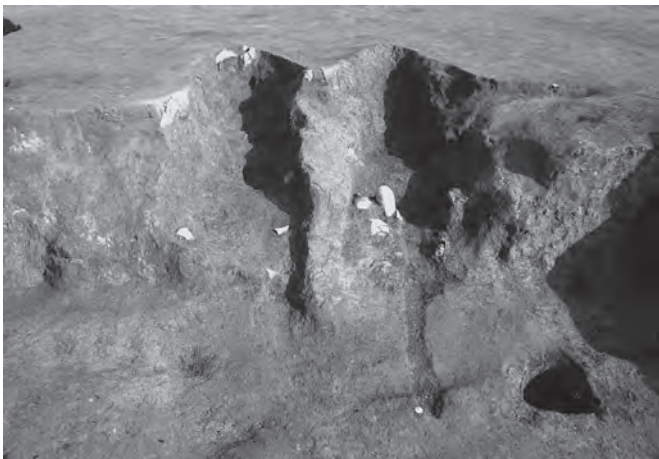
2. 2区6号竪穴住居全景(南西から)



1. 2区6号竪穴住居掘方全景(南西から)



2. 2区6号竪穴住居炭化材出土状態(西から)



3. 2区6号竪穴住居1・2号竈全景(南西から)



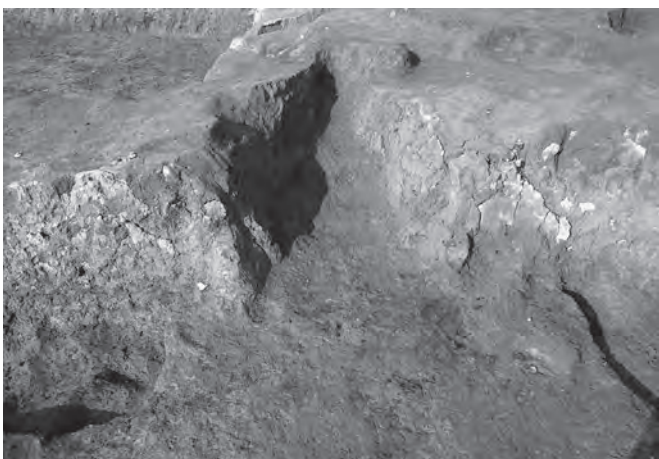
4. 2区6号竪穴住居1・2号竈全景(北西から)



5. 2区6号竪穴住居1・2号竈掘方全景(南西から)



6. 2区6号竪穴住居1・2号竈掘方全景(北西から)



7. 2区6号竪穴住居3号竈全景(南東から)



8. 2区6号竪穴住居3号竈掘方全景(南東から)



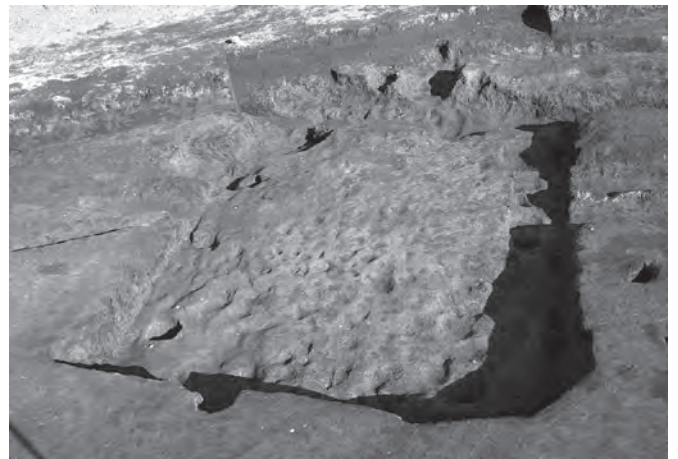
1. 2区6号竪穴住居遺物27(紡輪)出土状態(南から)



2. 2区6号竪穴住居遺物30(刀子)出土状態(西から)



3. 2区7号竪穴住居全景(西から)



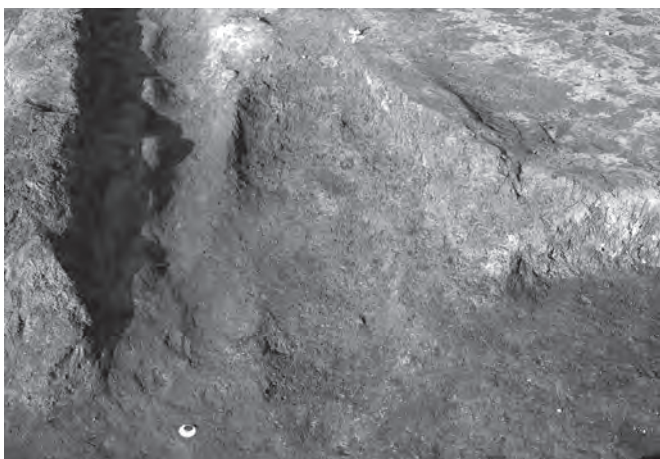
4. 2区7号竪穴住居掘方全景(西から)



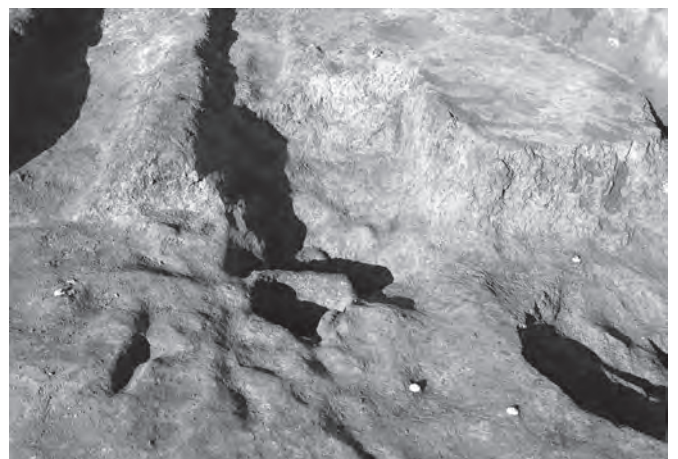
5. 2区7号竪穴住居1号竈全景(西から)



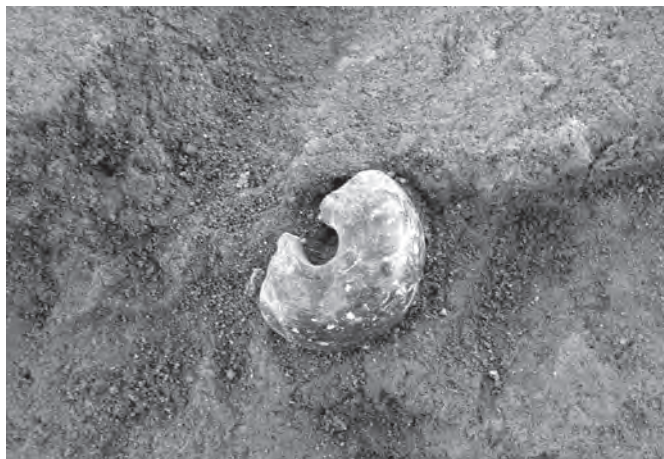
6. 2区7号竪穴住居1号竈掘方全景(西から)



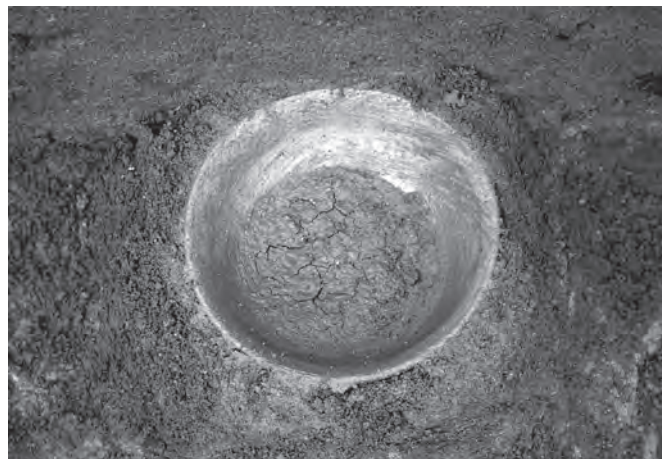
7. 2区7号竪穴住居2号竈全景(南から)



8. 2区7号竪穴住居2号竈掘方全景(南から)



1. 2区7号竪穴住居遺物9(紡輪)出土状態(北東から)



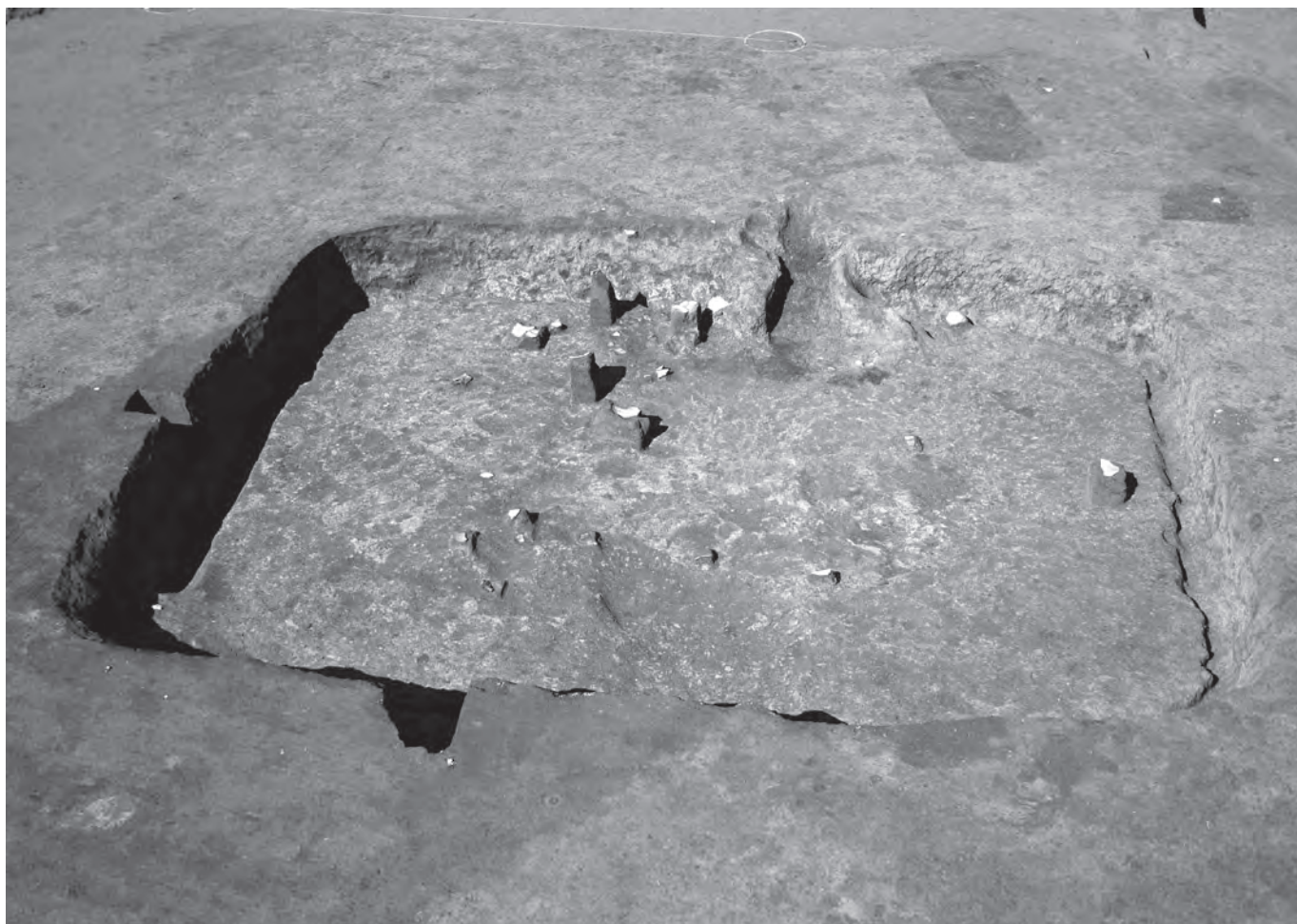
2. 2区7号竪穴住居遺物2出土状態(西から)



3. 2区9・10号竪穴住居全景(南西から)



4. 2区9・10号竪穴住居掘方全景(南西から)



5. 2区11号竪穴住居全景(南東から)



1. 2区11・12号竪穴住居全景(南から)



2. 2区11号竪穴住居掘方全景(南東から)



3. 2区11・12号竪穴住居掘方全景(南から)



4. 2区11号竪穴住居竈全景(南東から)



5. 2区11号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



1. 2区13号竪穴住居全景(南西から)



2. 2区13号竪穴住居掘方全景(南西から)



3. 2区13号竪穴住居竈全景(南西から)



4. 2区13号竪穴住居竈掘方全景(南西から)



5. 2区14号竪穴住居竈遺物出土状態(西から)



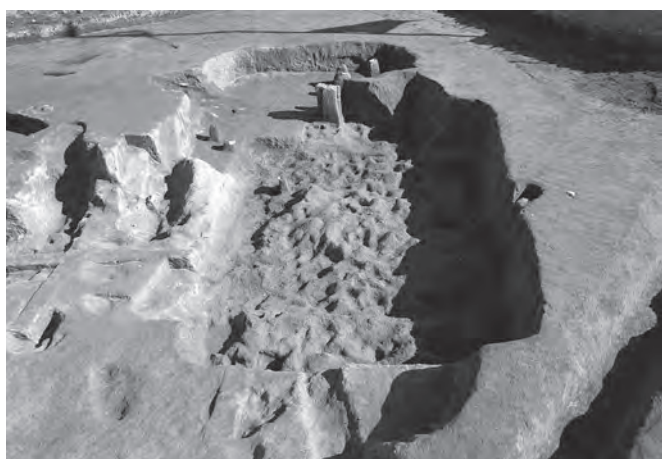
1. 2区14号竪穴住居全景(西から)



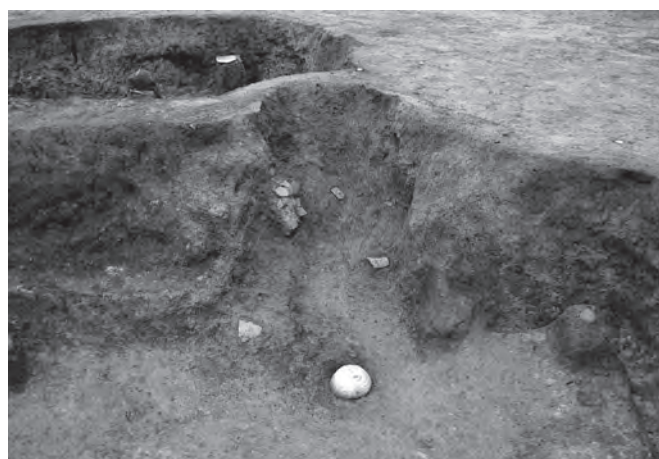
2. 2区14号竪穴住居竈全景(西から)



3. 2区14号竪穴住居竈内遺物4出土状態(西から)



4. 2区15号竪穴住居掘方全景(西から)



5. 2区15号竪穴住居竈全景(西から)



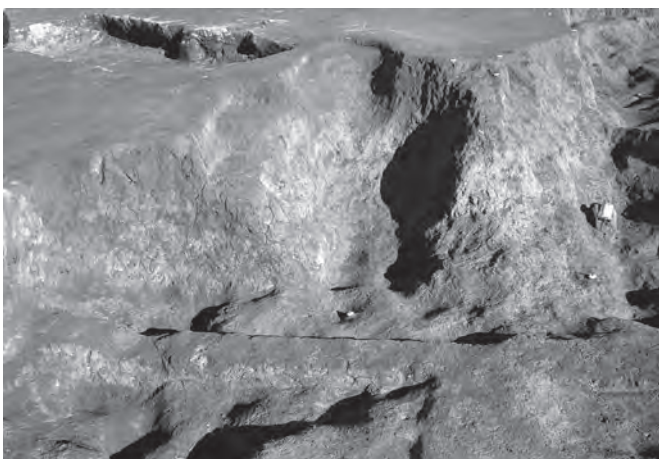
1. 2区15号竪穴住居全景(西から)



2. 2区16号竪穴住居全景(南西から)



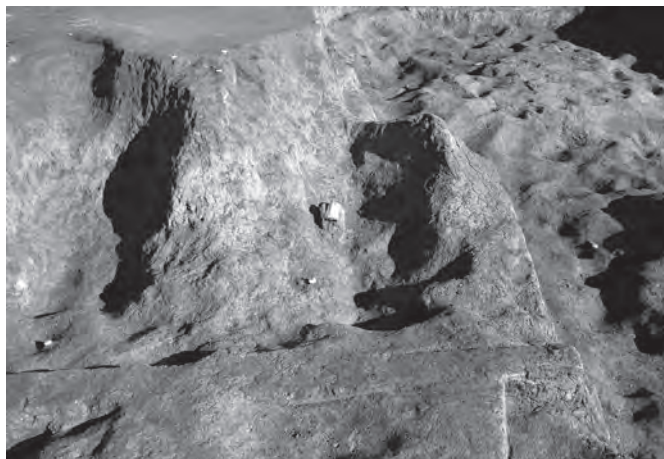
3. 2区16号竪穴住居1号竈全景(南西から)



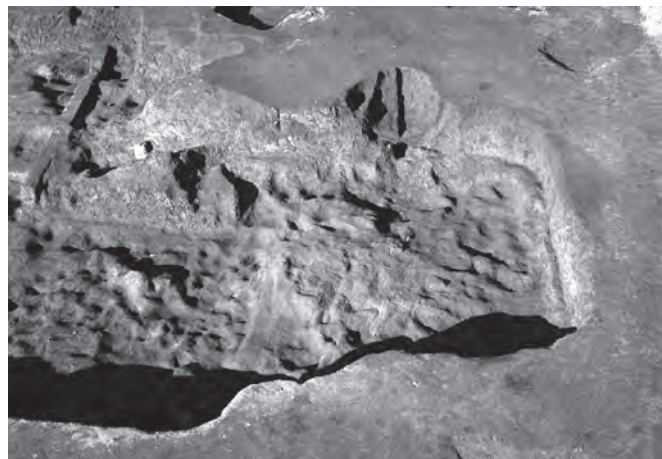
4. 2区16号竪穴住居1号竈掘方全景(南西から)



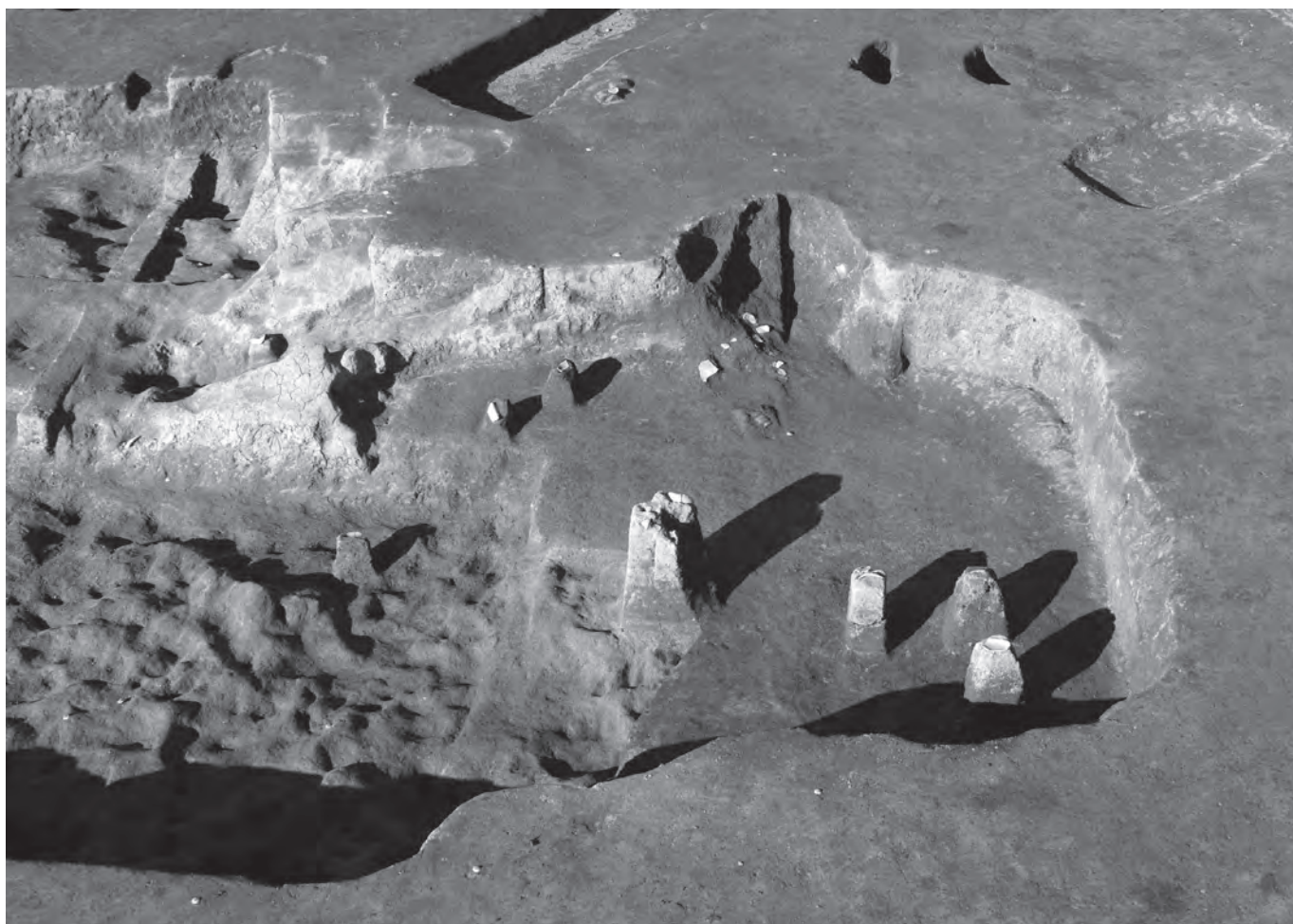
5. 2区16号竪穴住居2号竈全景(南西から)



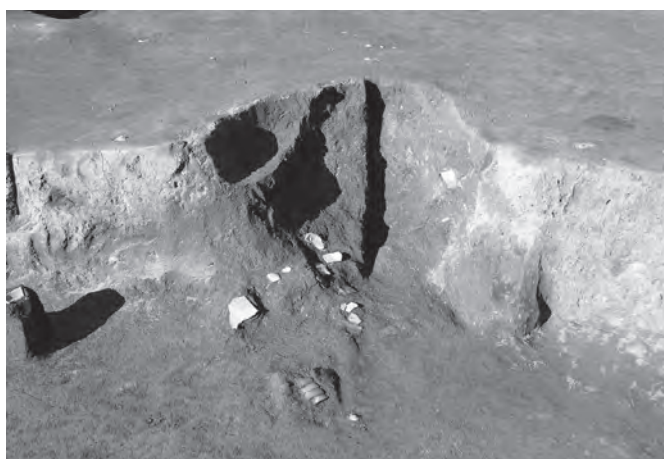
1. 2区16号竪穴住居2号竈掘方全景(南西から)



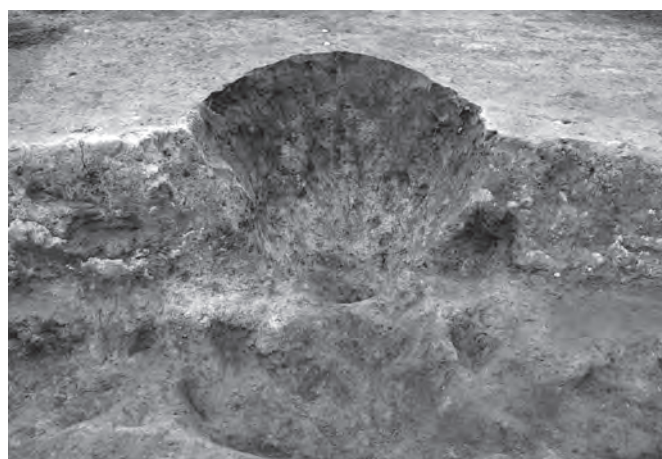
2. 2区17号竪穴住居掘方全景(南東から)



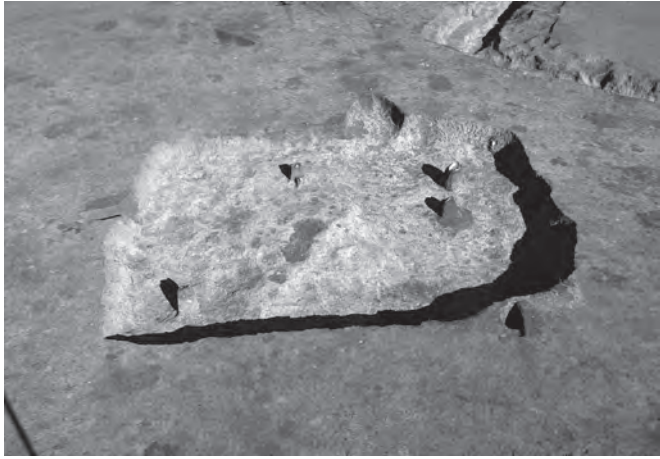
3. 2区17号竪穴住居全景(南東から)



4. 2区17号竪穴住居竈全景(南東から)



5. 2区17号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



1. 2区19号竪穴住居全景(南東から)



2. 2区20号竪穴住居全景(北西から)



3. 2区20号竪穴住居遺物出土状態(北西から)



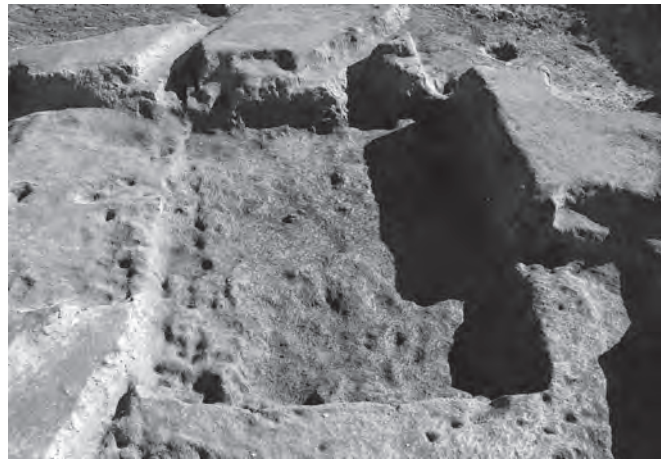
4. 2区20号竪穴住居竈全景(北西から)



5. 2区21号竪穴住居全景(西から)



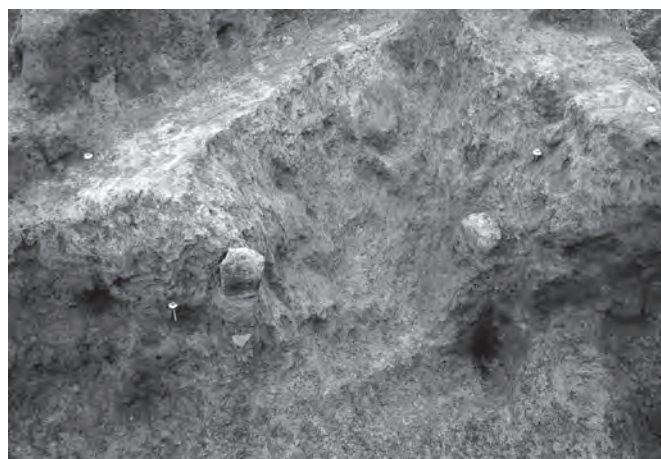
1. 2区21号竪穴住居遺物・炭化材出土状態(西から)



2. 2区21号竪穴住居掘方全景(西から)



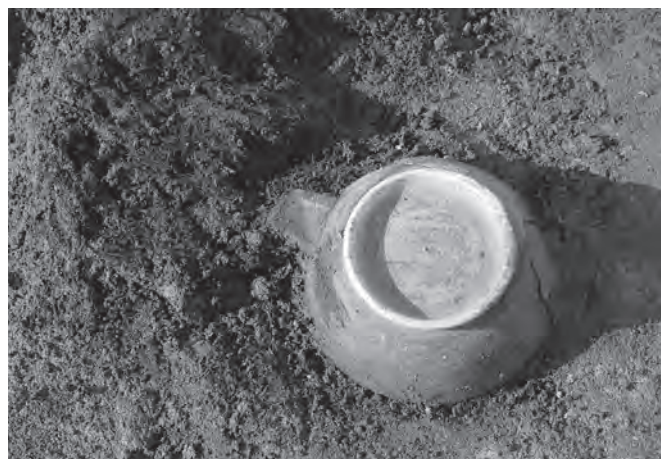
3. 2区21号竪穴住居竈全景(西から)



4. 2区21号竪穴住居竈掘方全景(西から)



5. 2区21号竪穴住居炭化材出土状態(西から)



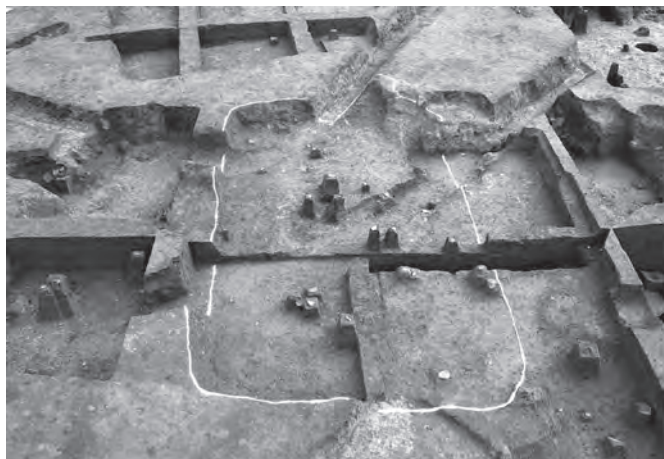
6. 2区21号竪穴住居遺物18出土状態(東から)



7. 2区21号竪穴住居遺物6・16出土状態(西から)



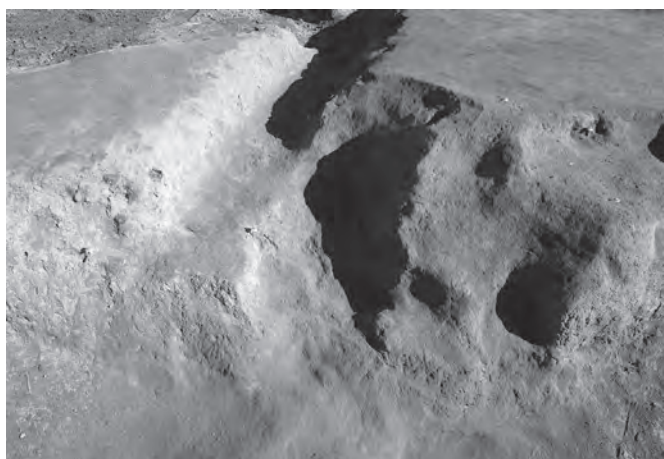
8. 2区21号竪穴住居遺物6・7・13・14・23出土状態(北東から)



1. 2区22号竪穴住居全景(西から)



2. 2区22号竪穴住居竈全景(西から)



3. 2区22号竪穴住居竈掘方全景(西から)



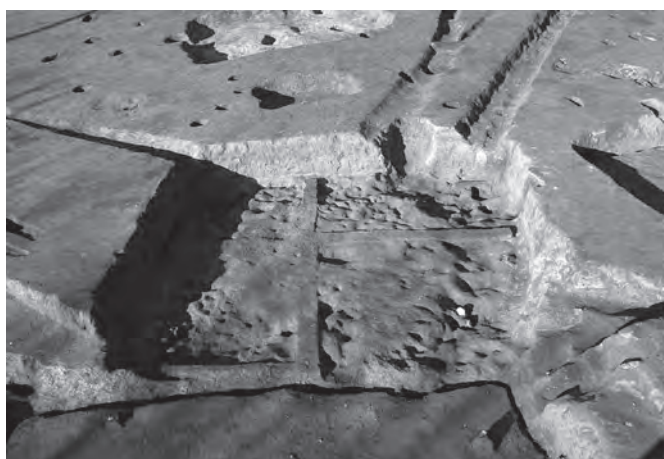
4. 2区22号竪穴住居遺物5出土状態(北東から)



5. 2区22号竪穴住居遺物8(土錘)出土状態(北西から)



6. 2区22号竪穴住居遺物9(刀子)出土状態(北西から)



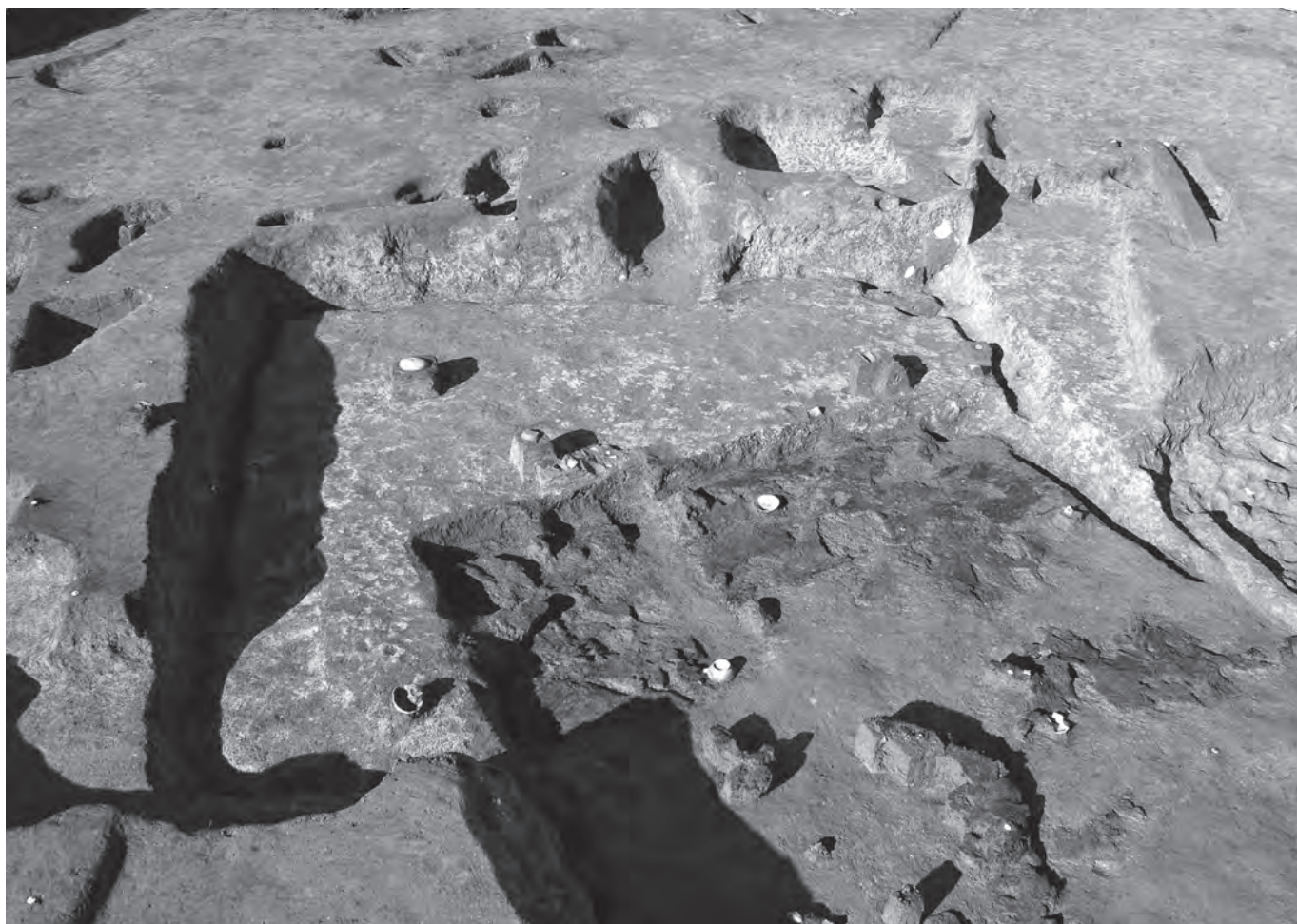
7. 2区23号竪穴住居掘方全景(南から)



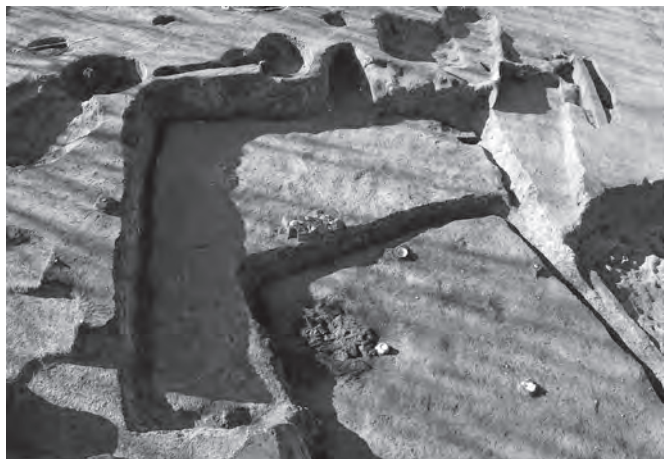
8. 2区23号竪穴住居竈全景(南から)



1. 2区23号竪穴住居全景(南から)



2. 2区24号竪穴住居全景(南東から)



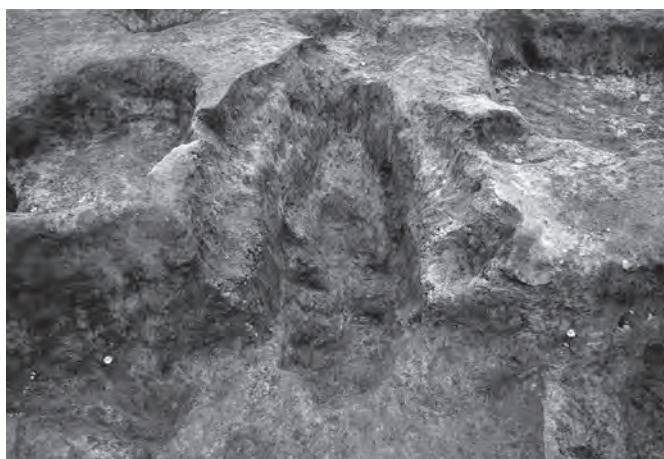
1. 2区24号竪穴住居全景(南東から)



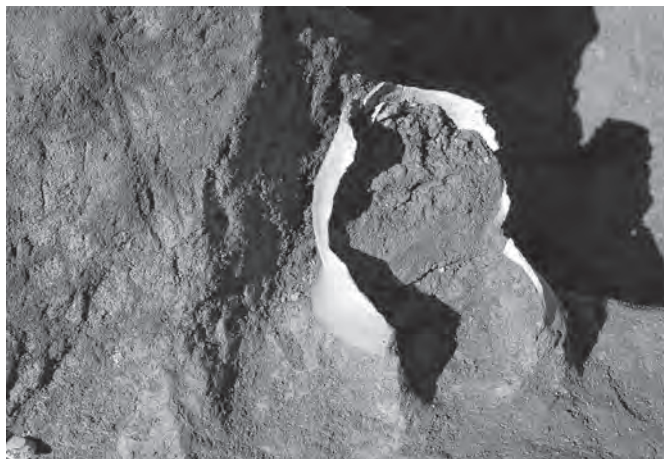
2. 2区24号竪穴住居掘方全景(南東から)



3. 2区24号竪穴住居竈全景(南東から)



4. 2区24号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



5. 2区24号竪穴住居遺物7出土状態(南東から)



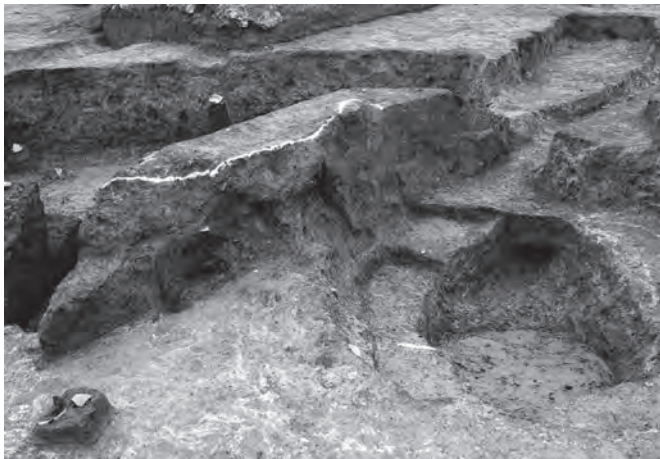
6. 2区24号竪穴住居遺物9出土状態(南東から)



7. 2区24号竪穴住居遺物10出土状態(北西から)



8. 2区25号竪穴住居全景(西から)



1. 2区25号竪穴住居竈全景(西から)



2. 2区26号竪穴住居掘方全景(南から)



3. 2区26号竪穴住居全景(南から)



4. 2区26号竪穴住居竈全景(南から)



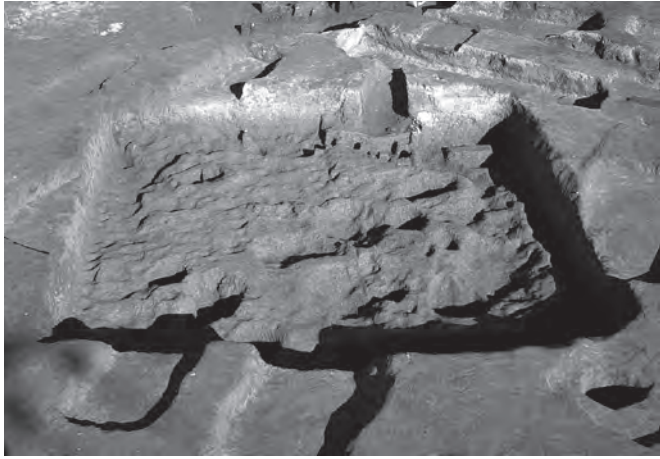
5. 2区26号竪穴住居掘方全景(南から)



1. 2区南側の竪穴住居集中部・手前左は26号竪穴住居(南東から)



2. 2区27号竪穴住居全景(南から)



1. 2区27号竪穴住居掘方全景(南から)



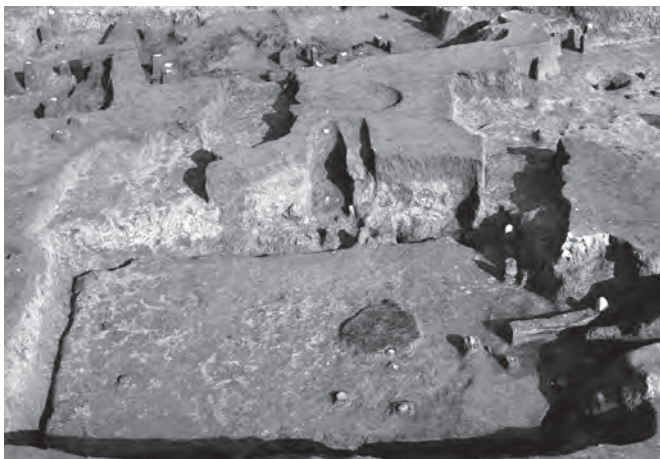
2. 2区27号竪穴住居竈全景(南から)



3. 2区27号竪穴住居竈掘方全景(南から)



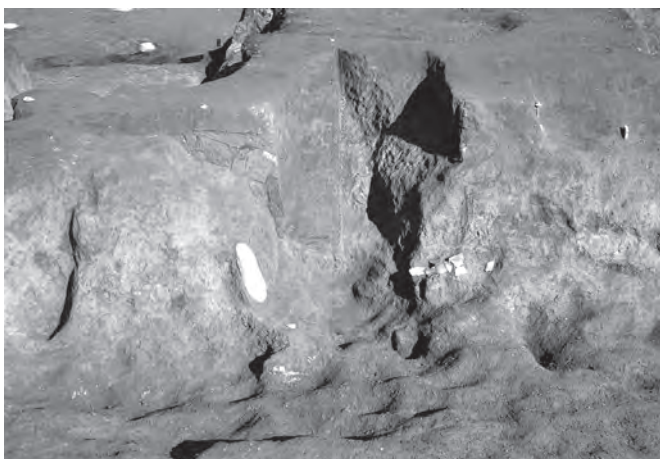
4. 2区27号竪穴住居竈遺物出土状態(南から)



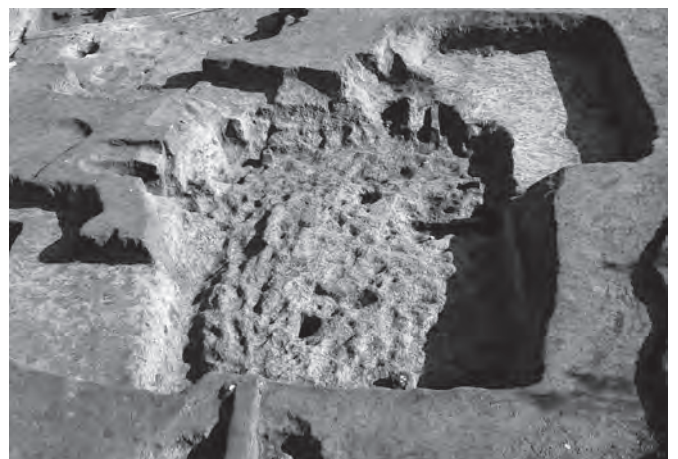
5. 2区28号竪穴住居全景(南西から)



6. 2区28号竪穴住居竈全景(南西から)



7. 2区28号竪穴住居竈掘方全景(南西から)



8. 2区29号竪穴住居掘方全景(北西から)



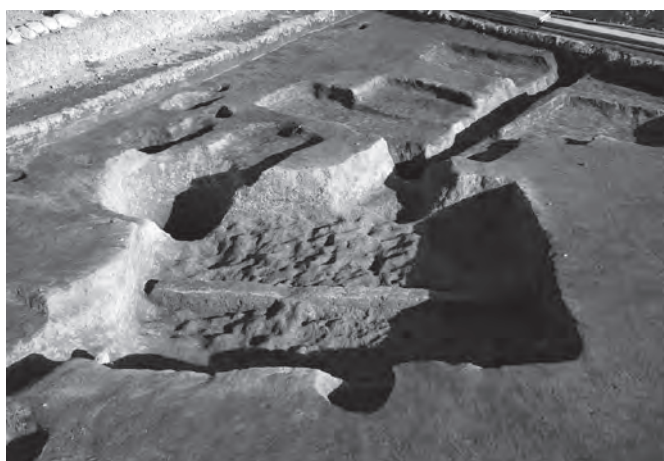
1. 2区29号竪穴住居全景(北西から)



2. 2区29号竪穴住居竈全景(北西から)



3. 2区30号竪穴住居遺物出土状態(西から)



4. 2区30号竪穴住居掘方全景(西から)



5. 2区30号竪穴住居竈全景(西から)



1. 2区30号竪穴住居全景(西から)



2. 2区31号竪穴住居全景(南西から)



1. 2区31号竪穴住居竈全景(南西から)



2. 2区32号竪穴住居掘方全景(南から)



3. 2区32号竪穴住居全景(南から)



4. 2区32号竪穴住居竈全景(南から)



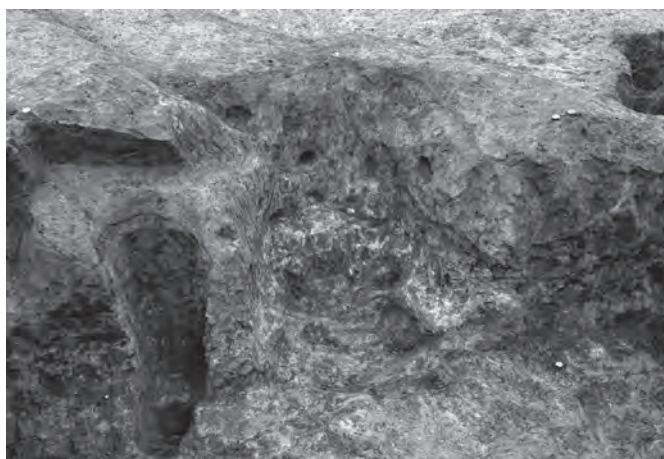
5. 2区32号竪穴住居竈袖の裏出土状態(南から)



1. 2区32号竪穴住居竈遺物5出土状態(南から)



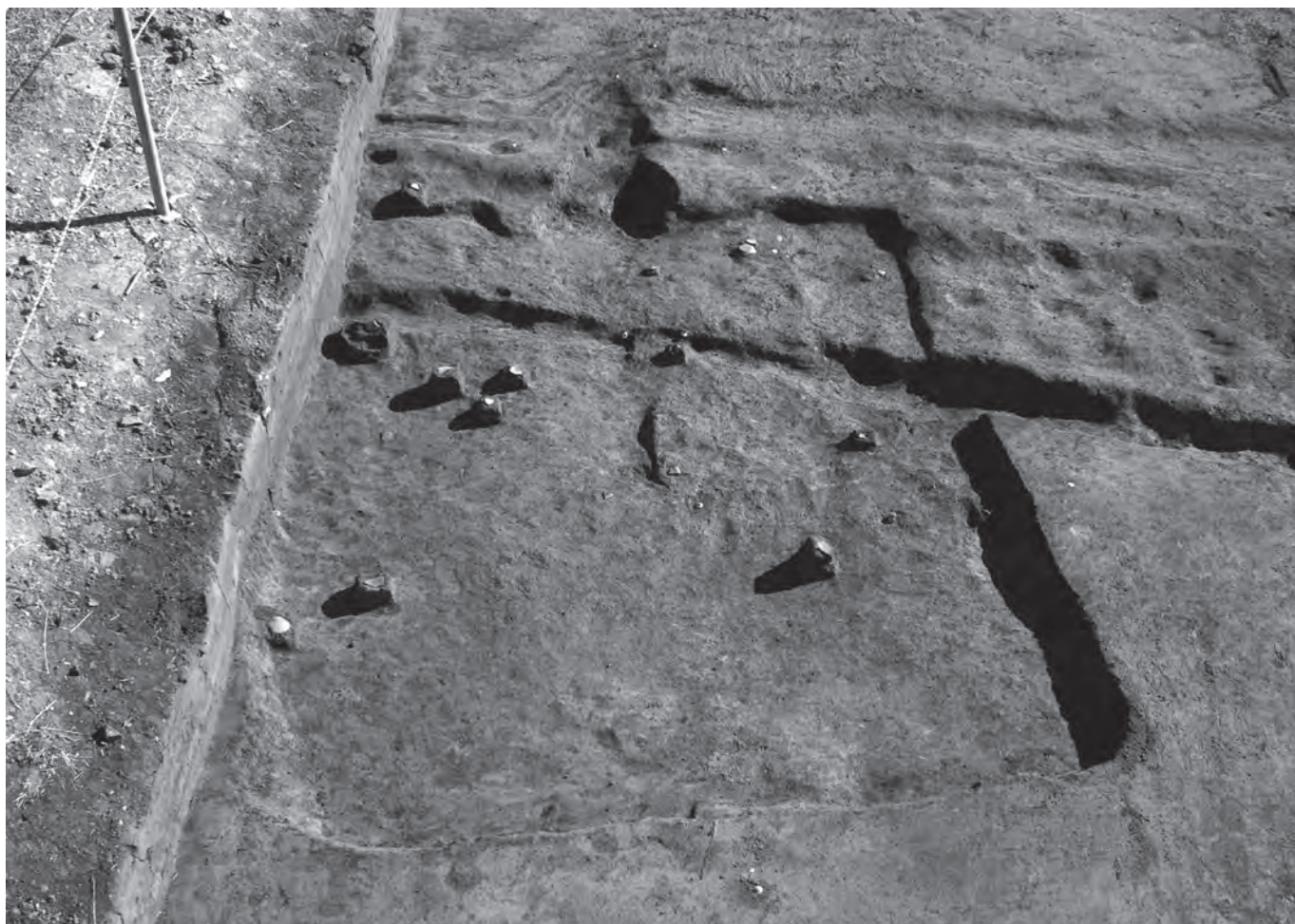
2. 2区32号竪穴住居竈遺物4出土状態(南から)



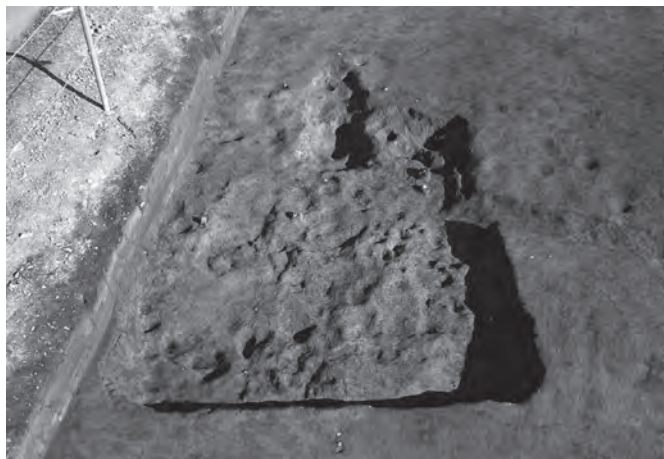
3. 2区32号竪穴住居竈掘方全景(南から)



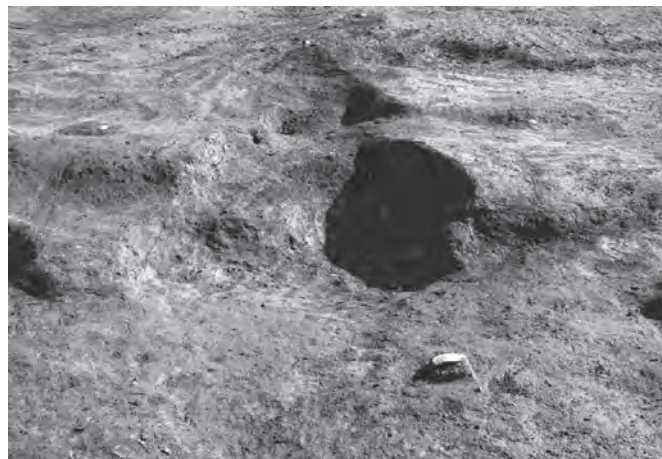
4. 2区34号竪穴住居全景(南西から)



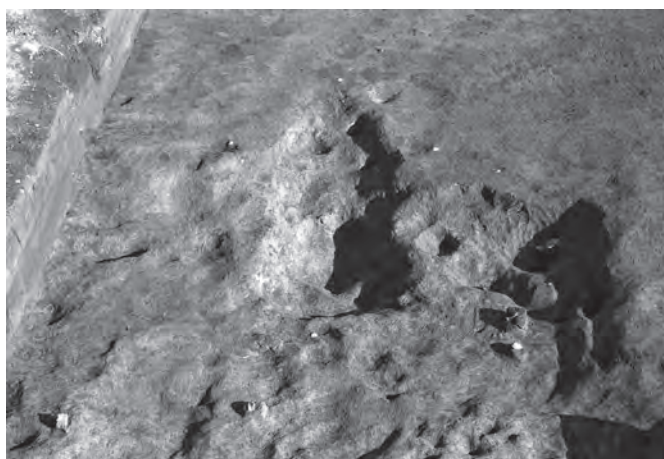
5. 3区1号竪穴住居全景(西から)



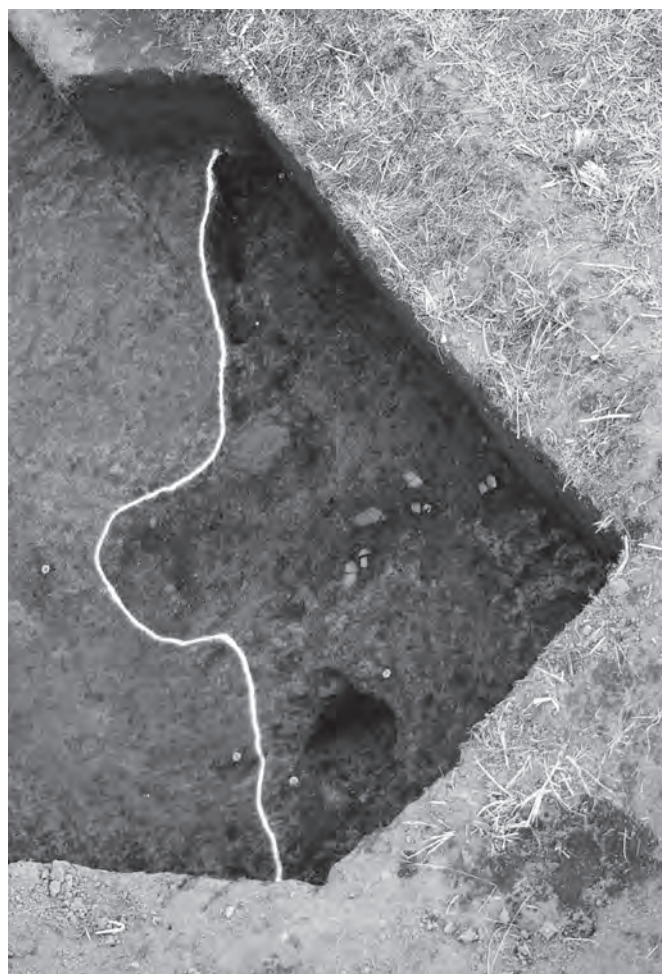
1. 3区1号竖穴住居掘方全景(西から)



2. 3区1号竖穴住居竈全景(西から)



3. 3区1号竖穴住居竈掘方全景(西から)



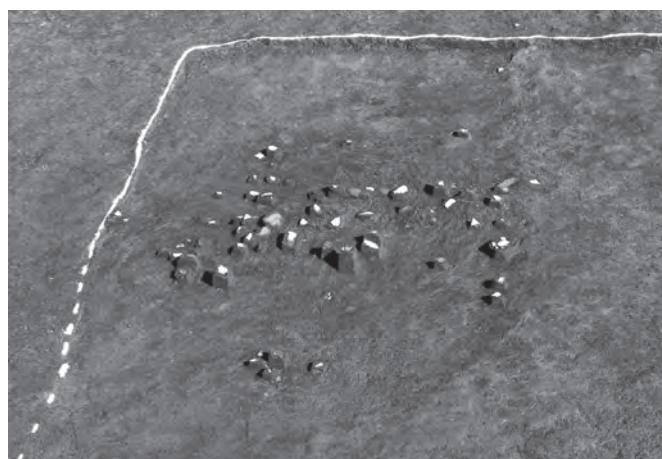
5. 3区2号竖穴住居全景(北から)



4. 3区2号竖穴住居掘方全景(西から)



6. 3区3号竖穴住居全景(南西から)



7. 3区3号竖穴住居遺物出土状態(南西から)



1. 3区4号竪穴住居全景(南東から)



2. 3区4号竪穴住居掘方全景(南西から)



3. 3区4号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



4. 3区4号竪穴住居南西隅遺物出土状態(西から)



5. 3区4号竪穴住居遺物5・13出土状態(西から)



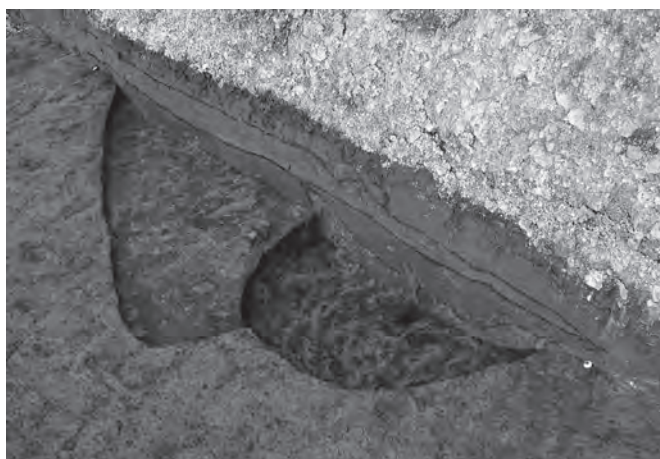
1. 3区4号竪穴住居遺物14出土状態(西から)



2. 3区4号竪穴住居遺物18出土状態(南西から)



3. 3区4号竪穴住居遺物9・11出土状態(西から)



4. 3区5号竪穴住居全景(南から)



5. 3区6号竪穴住居全景(南から)



6. 3区7号竪穴住居全景(西から)



7. 3区7号竪穴住居竈全景(西から)



8. 3区7号竪穴住居遺物1出土状態(西から)



1. 3区8号竪穴住居全景(南から)



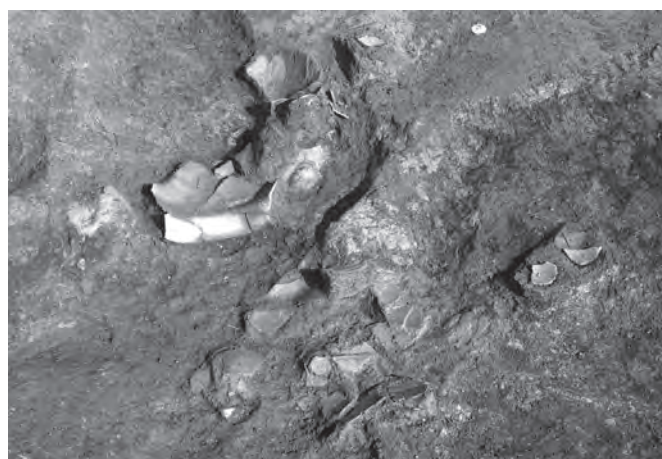
2. 3区8号竪穴住居掘方全景(南から)



3. 3区8号竪穴住居竈全景(南から)



4. 3区8号竪穴住居竈掘方全景(南から)



5. 3区8号竪穴住居竈遺物出土状態(南から)



1. 3区9号竪穴住居全景(南東から)



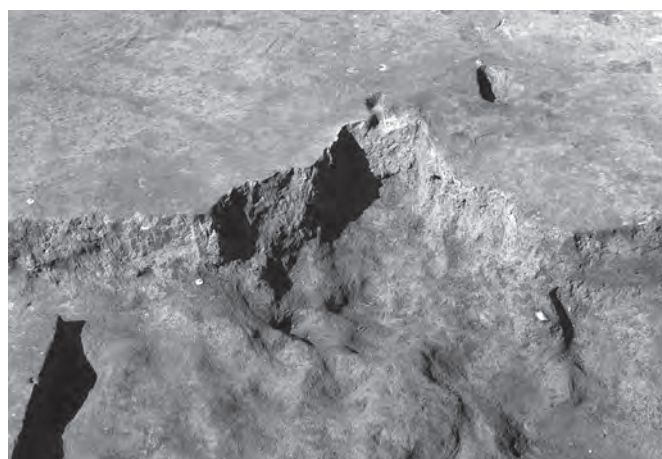
2. 3区9号竪穴住居掘方3-3区部分(南から)



3. 3区9号竪穴住居遺物出土状態3-3区部分(南から)



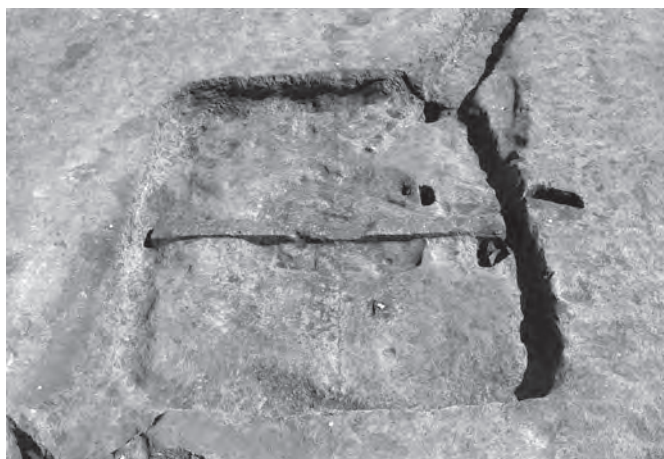
4. 3区9号竪穴住居竈全景(南東から)



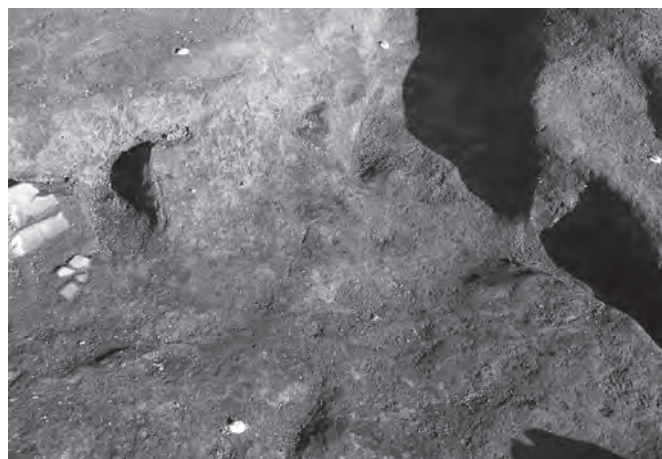
5. 3区9号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



1. 3区10号竪穴住居全景(西から)



2. 3区10号竪穴住居掘方全景(西から)



3. 3区10号竪穴住居竈全景(西から)



4. 3区11A・B号竪穴住居全景(西から)



5. 3区11A・B号竪穴住居遺物出土状態(西から)



1. 3区11A・B号竪穴住居全景(南から)



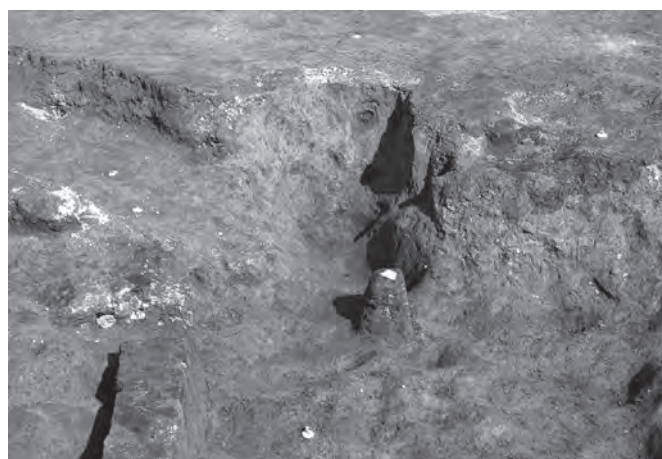
2. 3区11A・B号竪穴住居掘方全景(南から)



3. 3区11A・B号竪穴住居掘方全景(西から)



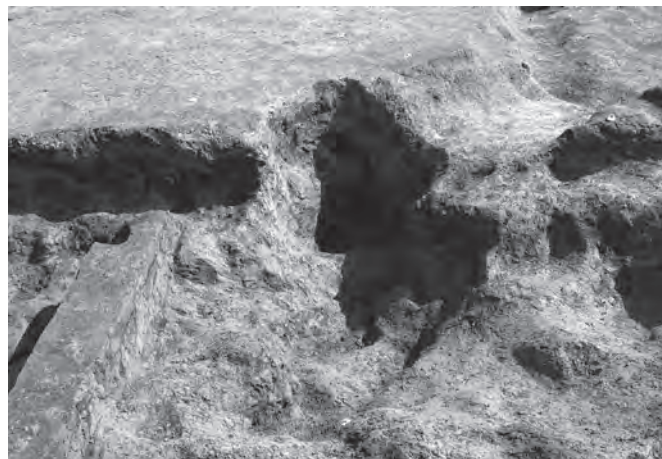
4. 3区11A・B号竪穴住居1号竈全景(南から)



5. 3区11A・B号竪穴住居1号竈掘方全景(南から)



1. 3区11A・B号竪穴住居2号竈全景(西から)



2. 3区11A・B号竪穴住居2号竈掘方全景(西から)



3. 3区12号竪穴住居全景(南西から)



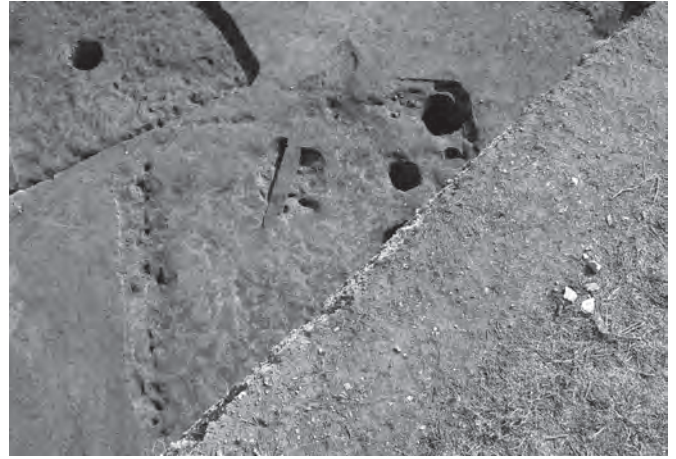
4. 3区12号竪穴住居竈全景(南西から)



5. 3区12号竪穴住居遺物2出土状態(西から)



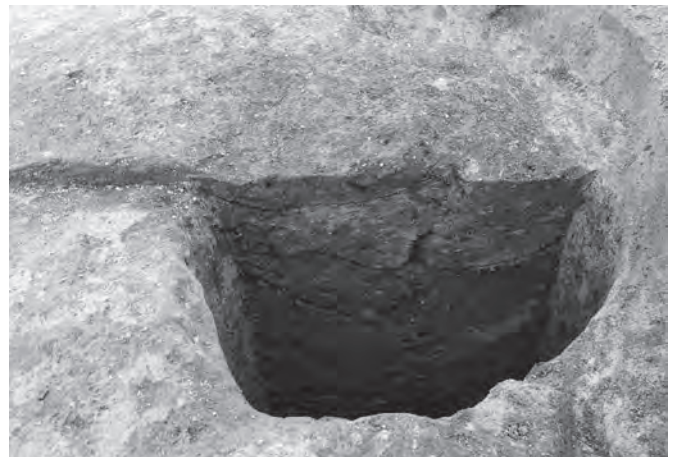
1. 3区13号竪穴住居全景(西から)



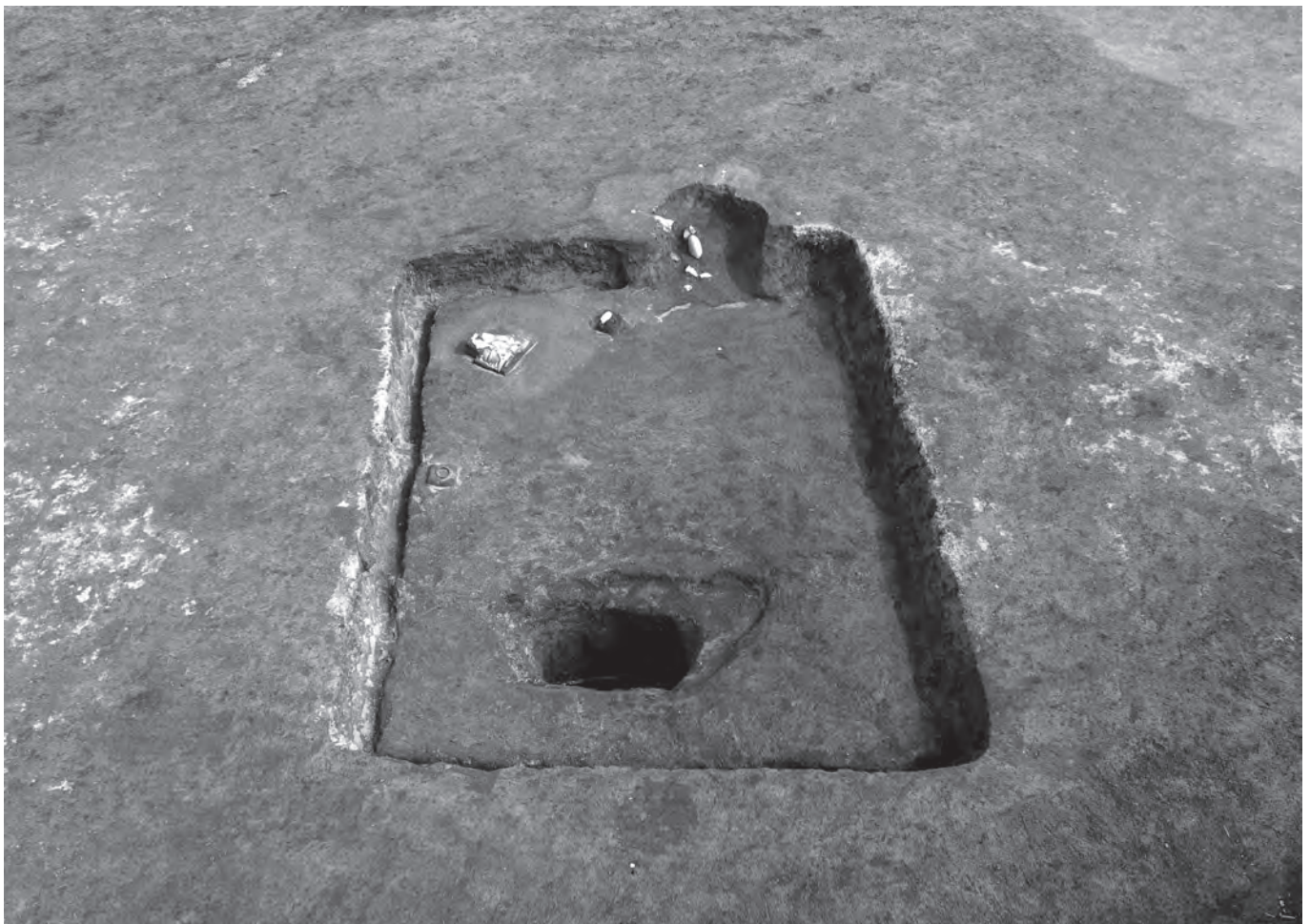
2. 3区13号竪穴住居掘方全景(西から)



3. 3区13号竪穴住居竈全景(西から)



4. 3区13号竪穴住居屋内井戸断面(西から)



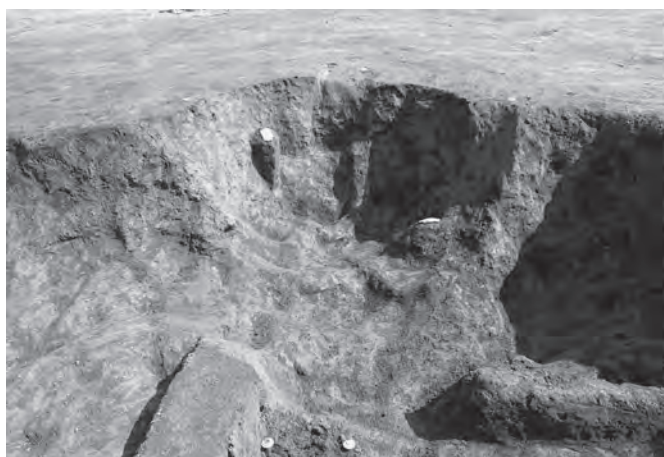
5. 3区14号竪穴住居全景(南西から)



1. 3区14号竪穴住居掘方全景(南西から)



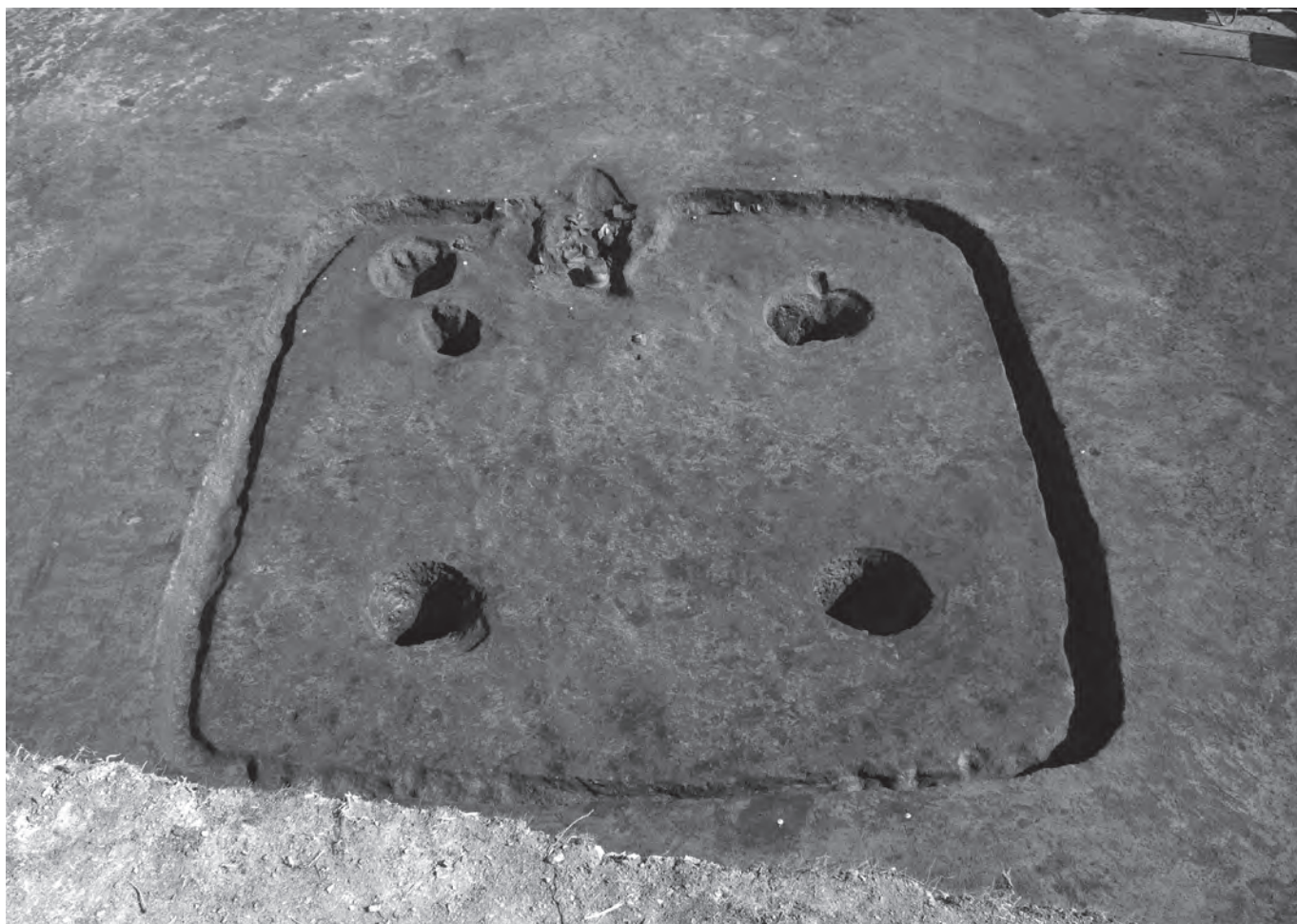
2. 3区14号竪穴住居竈全景(南西から)



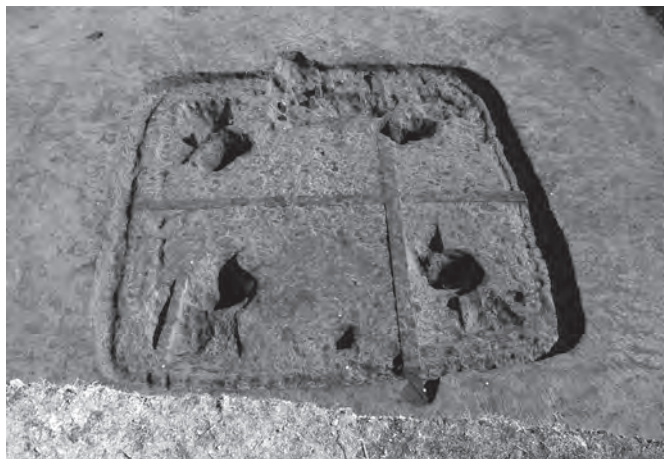
3. 3区14号竪穴住居竈掘方全景(南西から)



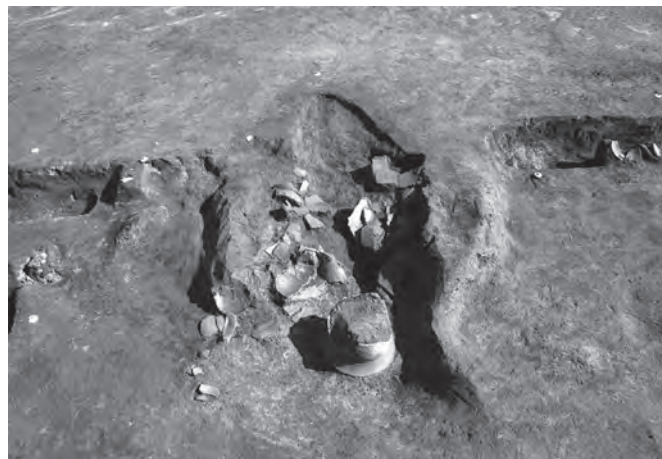
4. 3区14号竪穴住居遺物1出土状態(西から)



5. 3区15号竪穴住居全景(南西から)



1. 3区15号竪穴住居掘方全景(南西から)



2. 3区15号竪穴住居竈全景(南西から)



3. 3区15号竪穴住居竈掘方全景(南西から)



4. 3区15号竪穴住居竈遺物出土状態(南西から)



5. 3区15号竪穴住居遺物1・4・6出土状態(南から)



6. 3区16号竪穴住居全景(西から)



7. 3区16号竪穴住居竈全景(西から)



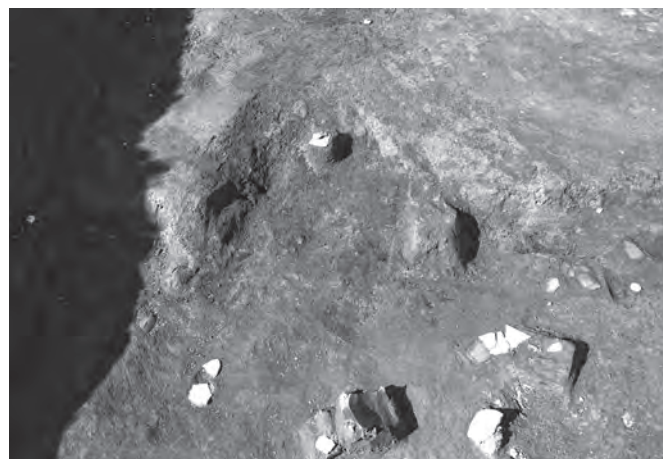
8. 3区16号竪穴住居貯蔵穴全景(北西から)



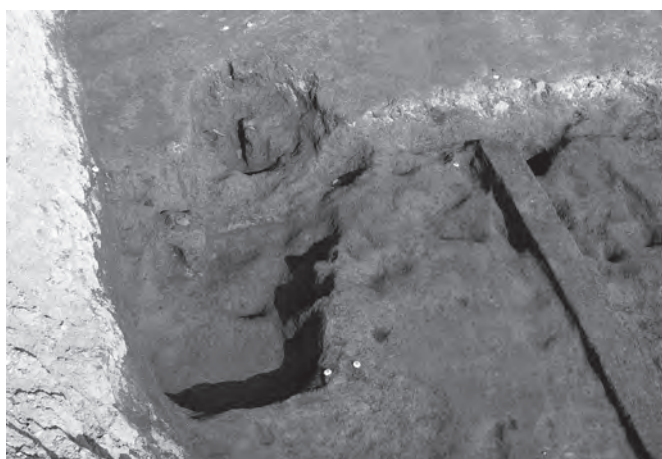
1. 3区17号竪穴住居全景(南東から)



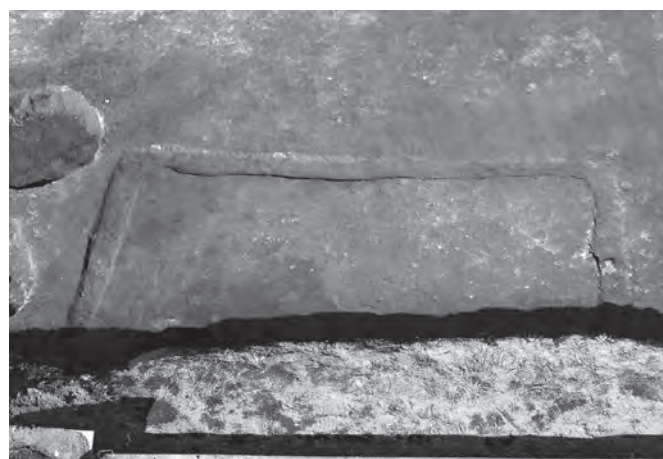
2. 3区17号竪穴住居掘方全景(南東から)



3. 3区17号竪穴住居竈全景(南東から)



4. 3区17号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



5. 3区18号竪穴住居全景(南から)



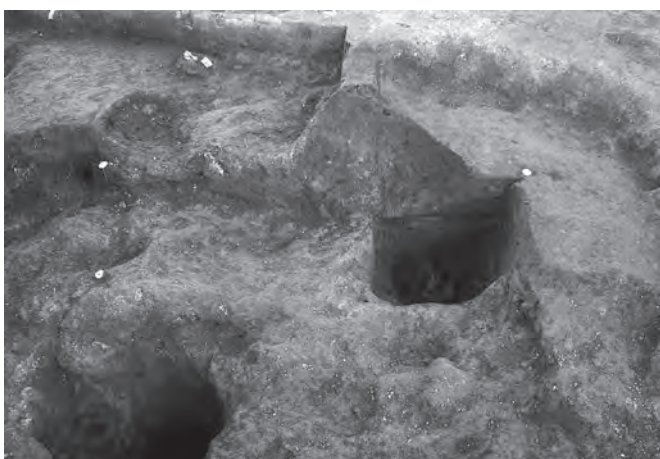
1. 4区1号竪穴住居全景(西から)



2. 4区1号竪穴住居掘方全景(西から)



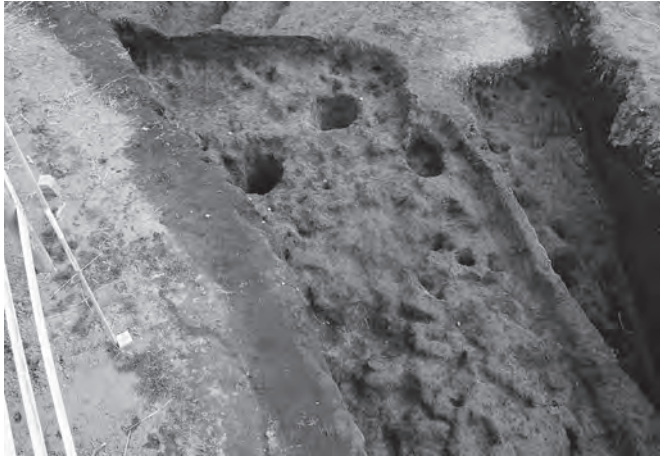
3. 4区1号竪穴住居竈全景(西から)



4. 4区1号竪穴住居竈掘方全景(西から)



5. 4区1号竪穴住居遺物出土状態(西から)



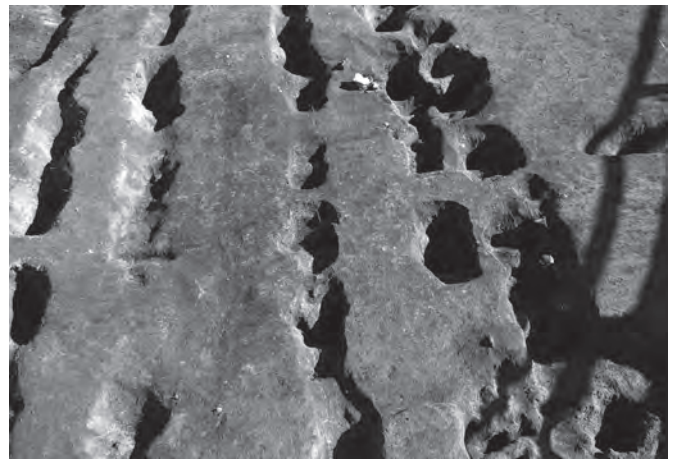
1. 4区2号竪穴住居掘方全景(北西から)



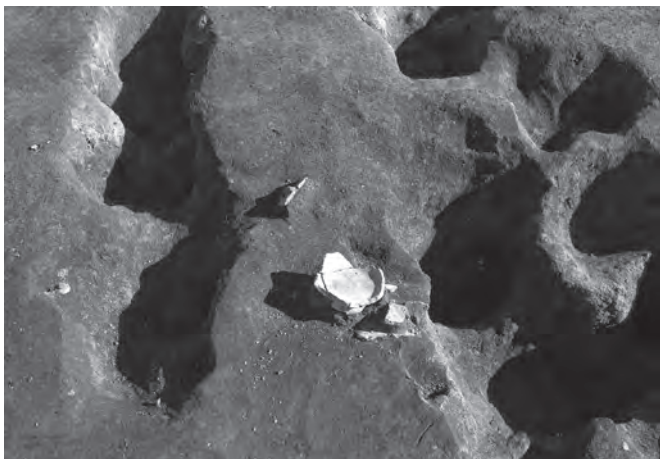
2. 4区3号竪穴住居全景(南西から)



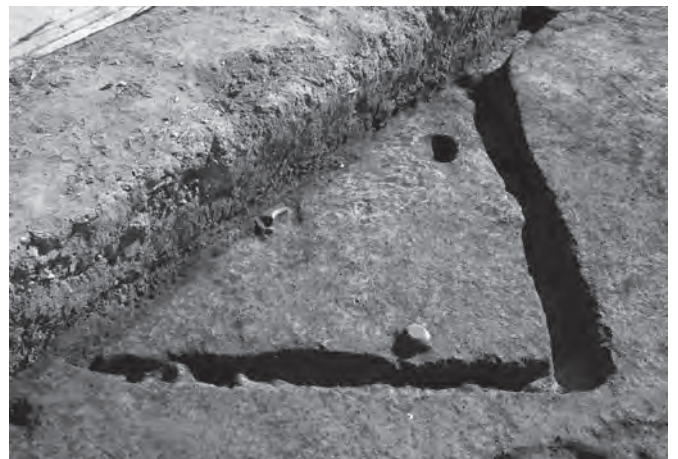
3. 4区4号竪穴住居全景(北から)



4. 4区5号竪穴住居全景(北西から)



5. 4区5号竪穴住居竈全景(北西から)



6. 4区6号竪穴住居全景(西から)



7. 4区6号竪穴住居掘方全景(北東から)



8. 4区7号竪穴住居全景(南西から)



1. 4区7号竪穴住居掘方全景(北東から)



2. 4区8・15号竪穴住居全景(南西から)



3. 4区8・15号竪穴住居全景(南東から)



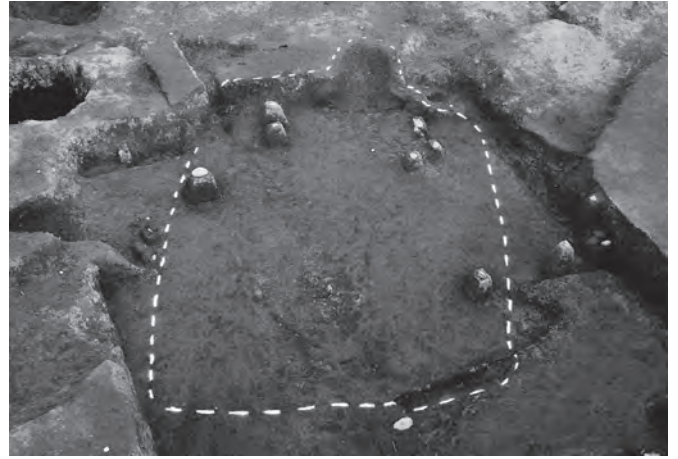
4. 4区8・15号竪穴住居全景(西から)



5. 4区8・15号竪穴住居掘方全景(南東から)



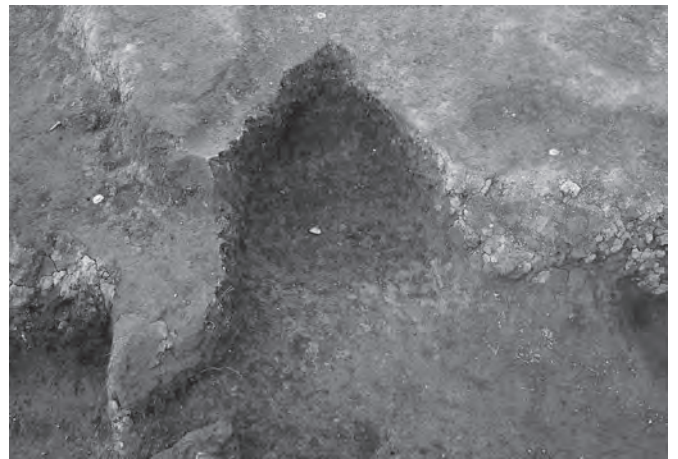
1. 4区8・15号竪穴住居掘方全景(西から)



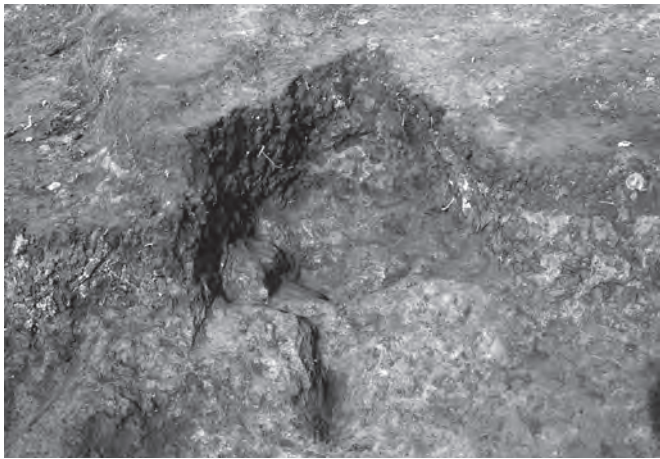
2. 4区15号竪穴住居全景(西から)



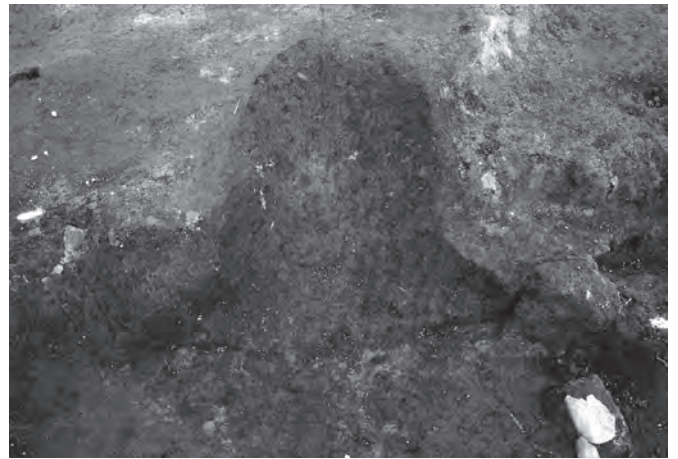
3. 4区15号竪穴住居掘方全景(西から)



4. 4区8号竪穴住居竈全景(南東から)



5. 4区8号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



6. 4区15号竪穴住居竈全景(西から)



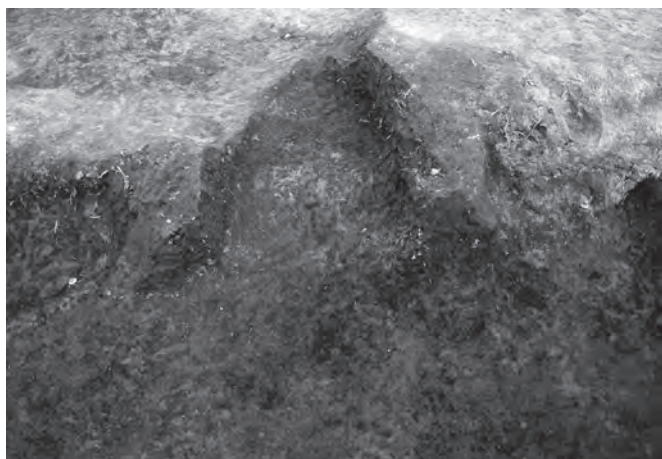
7. 4区15号竪穴住居竈掘方全景(西から)



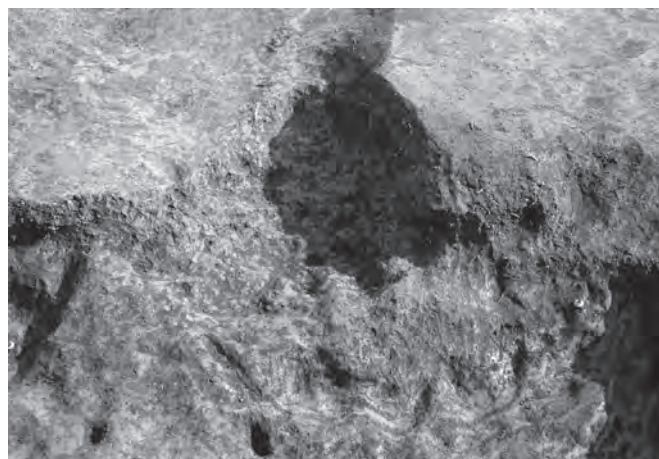
8. 4区9号竪穴住居掘方全景(南西から)



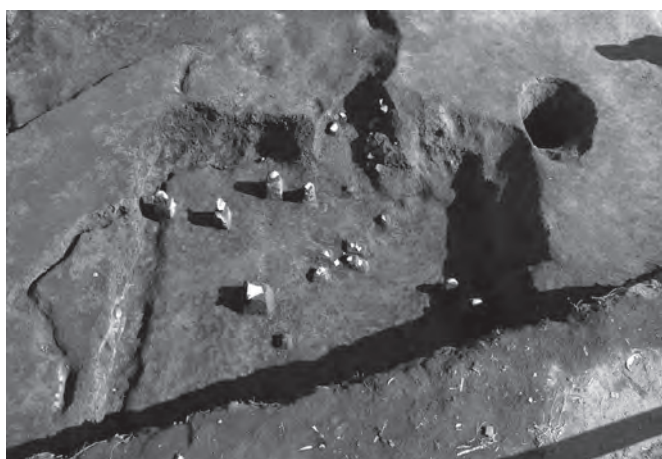
1. 4区9号竪穴住居全景(南西から)



2. 4区9号竪穴住居竈全景(南西から)



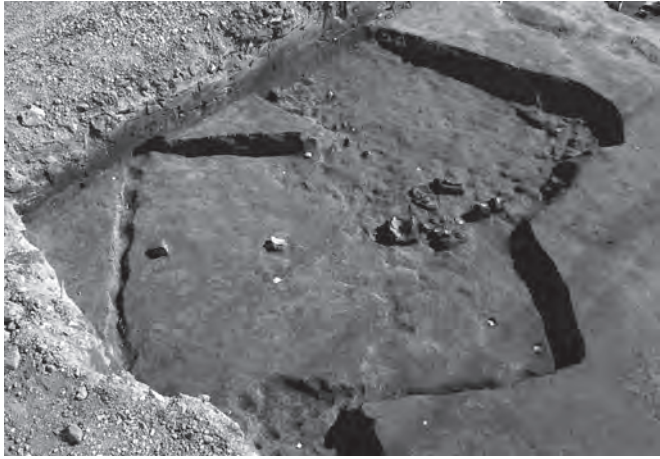
3. 4区9号竪穴住居竈掘方全景(南西から)



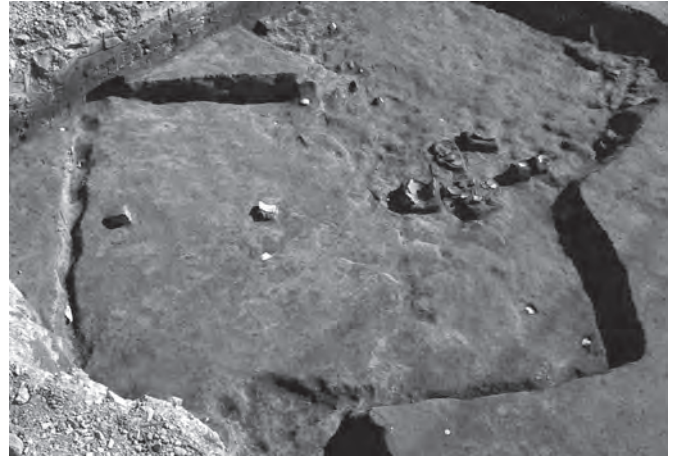
4. 4区9号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



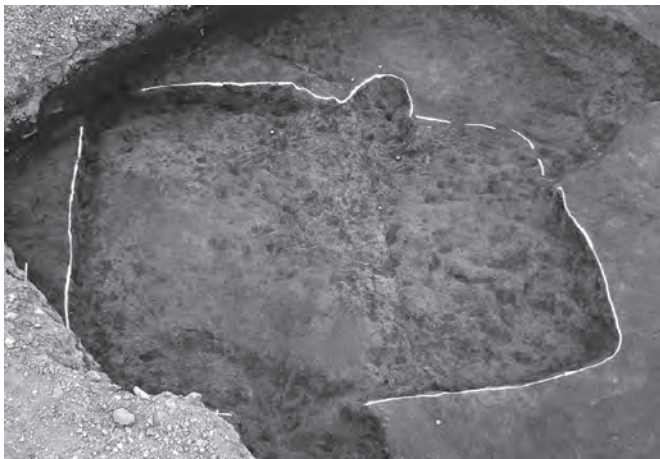
5. 4区9号竪穴住居竈遺物出土状態(南西から)



1. 4区11号竪穴住居・110号土坑全景(西から)



2. 4区11号竪穴住居全景(西から)



3. 4区11号竪穴住居掘方全景(西から)



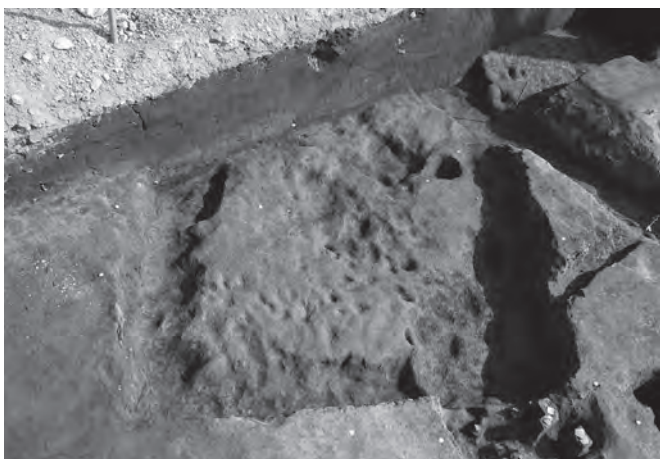
4. 4区12号竪穴住居全景(東から)



5. 4区12号竪穴住居竈全景(東から)



6. 4区12号竪穴住居竈掘方全景(南東から)



7. 4区13号竪穴住居掘方全景(西から)



8. 4区13号竪穴住居遺物出土状態(西から)



1. 4区13号竪穴住居全景(西から)



2. 4区13号竪穴住居遺物1・2出土状態(北西から)



3. 4区14号竪穴住居全景(南東から)



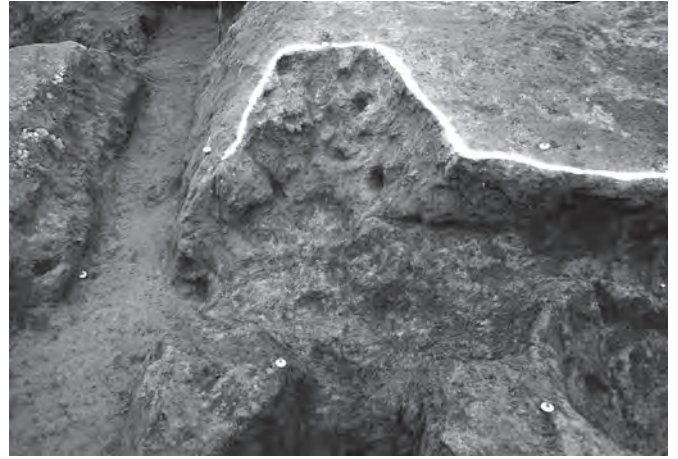
4. 4区16号竪穴住居全景(南西から)



5. 4区16号竪穴住居掘方全景(南西から)



1. 4区16号竪穴住居竈全景(南西から)



2. 4区16号竪穴住居竈掘方全景(南西から)



3. 4区17号竪穴住居全景(南東から)



4. 4区18号竪穴住居全景(南西から)



5. 4区19号竪穴住居全景(西から)



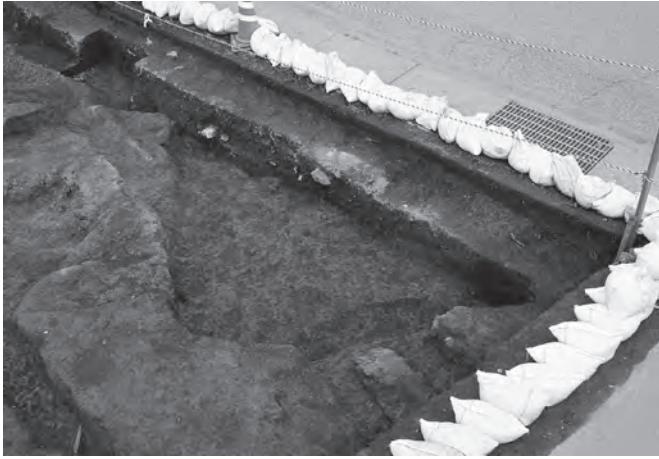
6. 4区19号竪穴住居掘方全景(西から)



7. 4区19号竪穴住居竈全景(西から)



8. 4区19号竪穴住居竈掘方全景(西から)



1. 4区2号竪穴状遺構全景(南から)



2. 1区1号掘立柱建物全景(南西から)



3. 1区1号掘立柱建物全景(南東から)



4. 1区2号掘立柱建物全景(東から)



5. 1区3号掘立柱建物全景(南から)



1. 1区3号掘立柱建物全景(西から)



2. 2区1号掘立柱建物全景(北から)



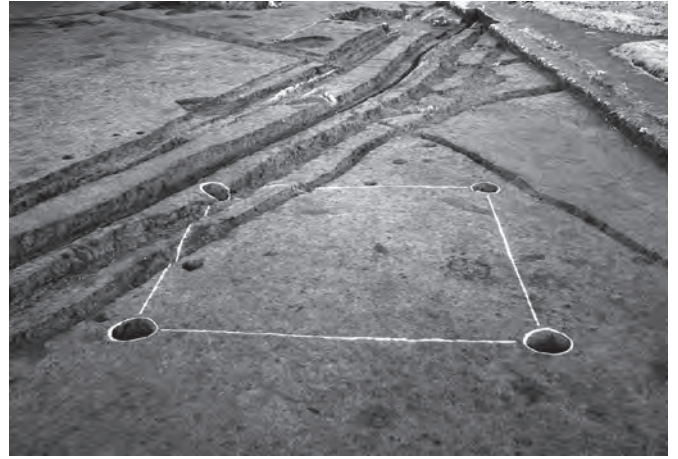
1.2区1・3号掘立柱建物全景(北東から)



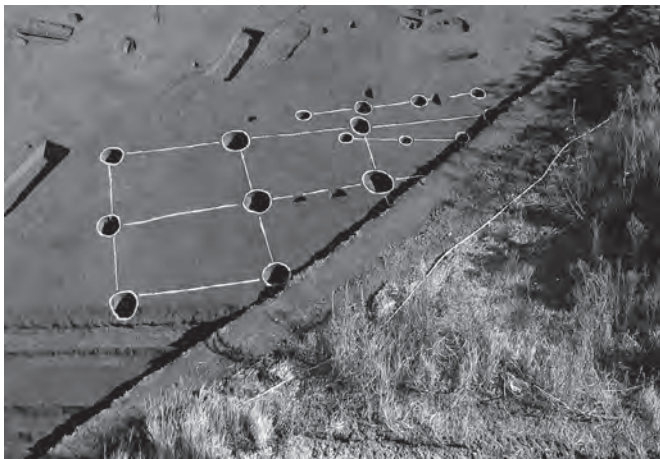
2.2区2・4号掘立柱建物全景(東から)



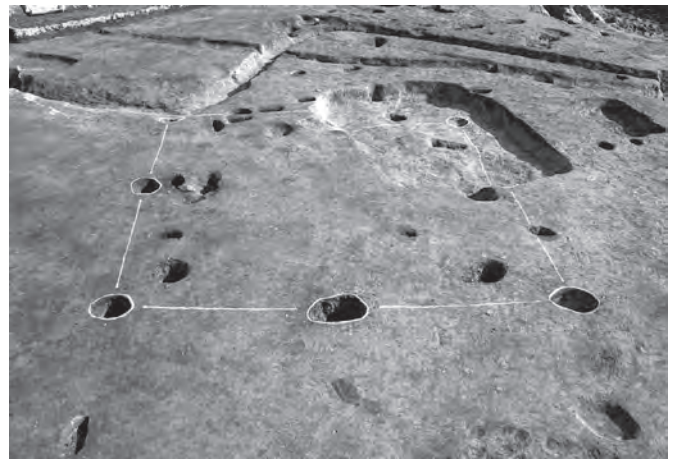
1. 2区1・3号掘立柱建物全景(南から)



2. 2区5号掘立柱建物全景(南東から)



3. 2区6号掘立柱建物、1・2号柱穴列全景(北西から)



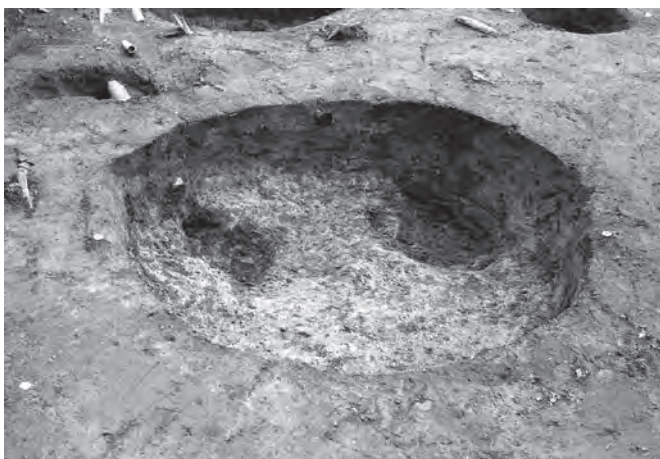
4. 2区8号掘立柱建物全景(西から)



5. 3区1号掘立柱建物全景(北東から)



6. 2区3号柱穴列全景(北から)



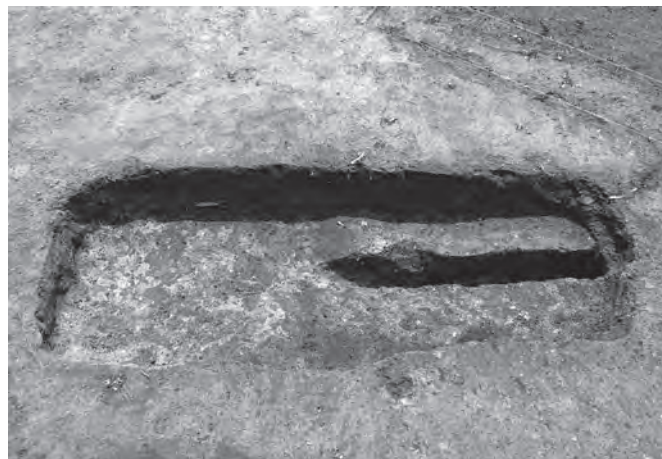
7. 1区2号土坑全景(北東から)



8. 1区6号土坑全景(南から)



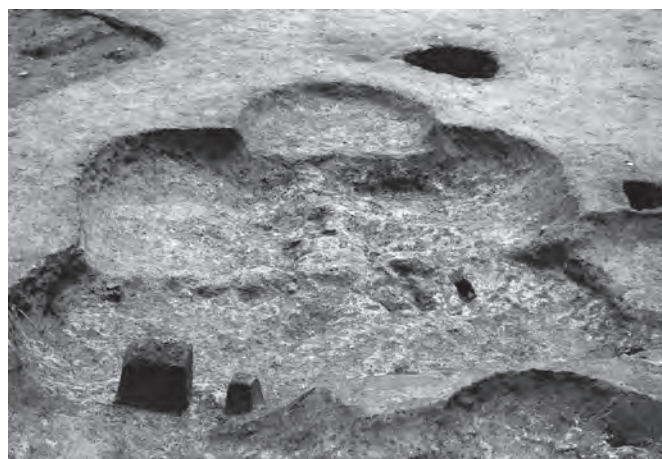
1. 1区6・19号土坑、52号ピット全景(南から)



2. 1区8号土坑全景(北東から)



3. 1区12・13・34号土坑全景(北東から)



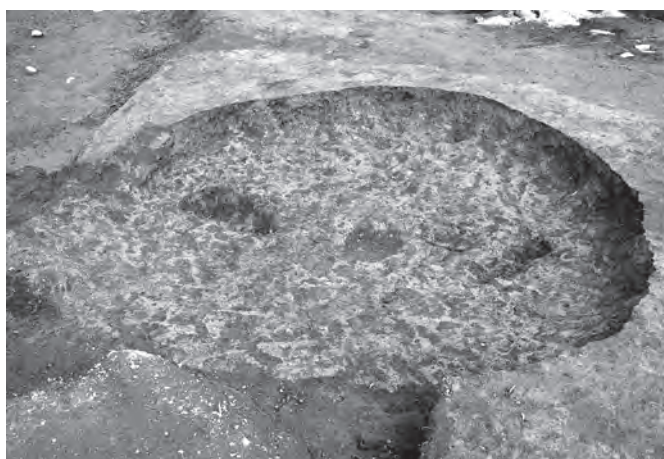
4. 1区14・16号土坑全景(北西から)



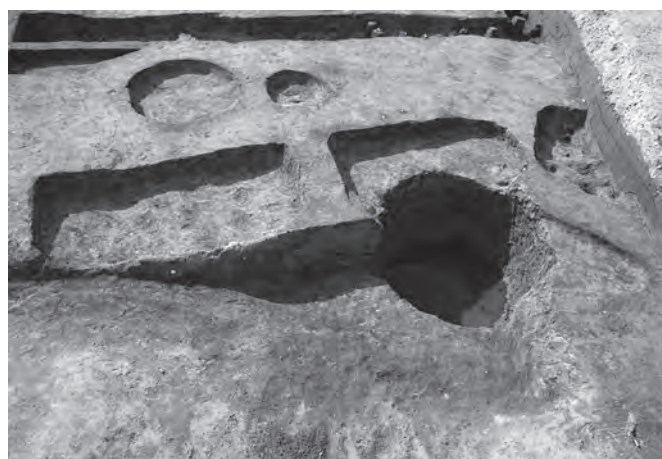
5. 1区20・21号土坑全景(北西から)



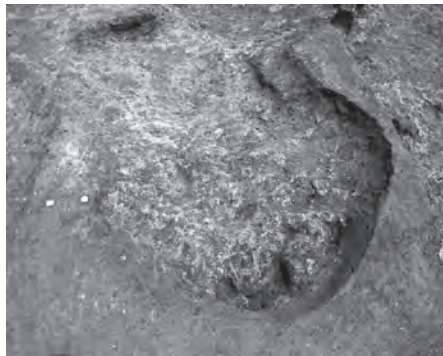
6. 1区21号土坑全景(南から)



7. 1区28号土坑全景(北西から)



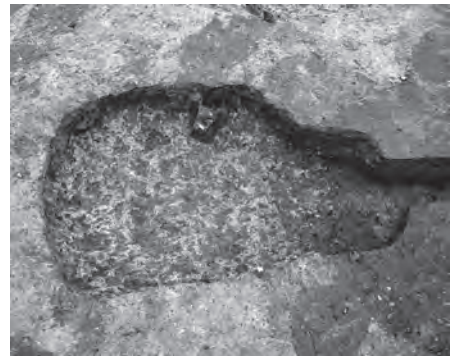
8. 1区39～43・51号土坑全景(南東から)



1. 1区17号土坑全景(南西から)



2. 1区18号土坑全景(南から)



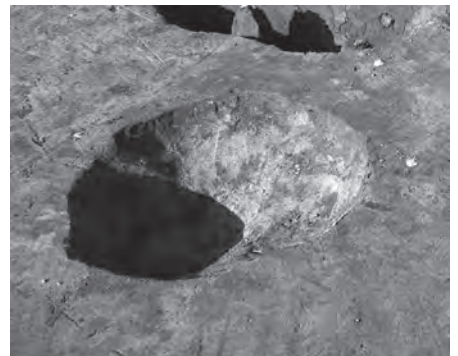
3. 1区26号土坑全景(南から)



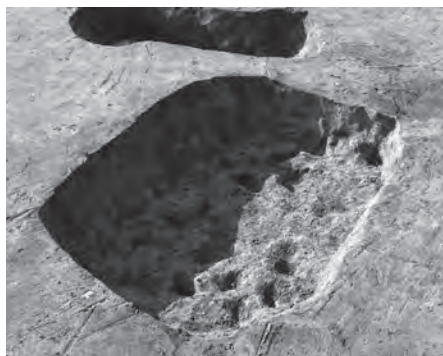
4. 1区32号土坑全景(北西から)



5. 1区49号土坑全景(北東から)



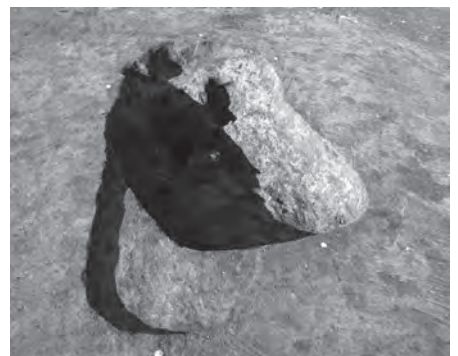
6. 1区56号土坑全景(南西から)



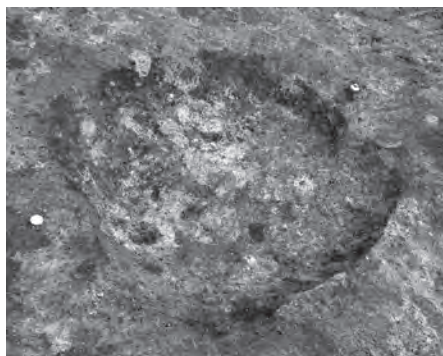
7. 1区57号土坑全景(南東から)



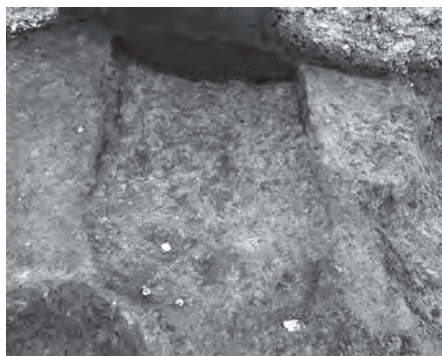
8. 1区60号土坑全景(南西から)



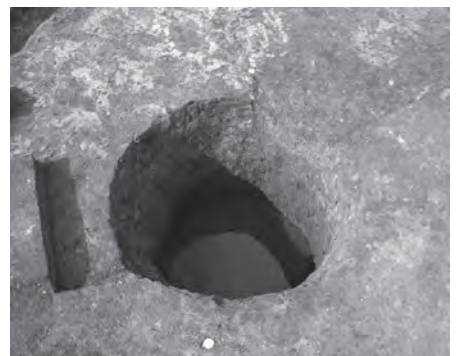
9. 1区62号土坑、1号掘立P6全景(南西から)



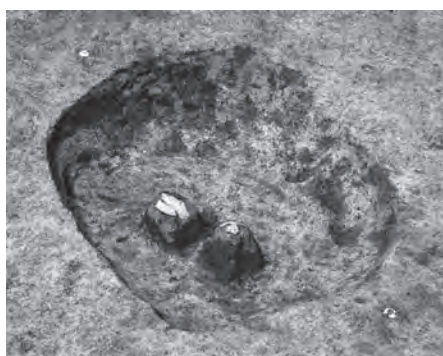
10. 1区65号土坑全景(南から)



11. 1区69号土坑全景(南西から)



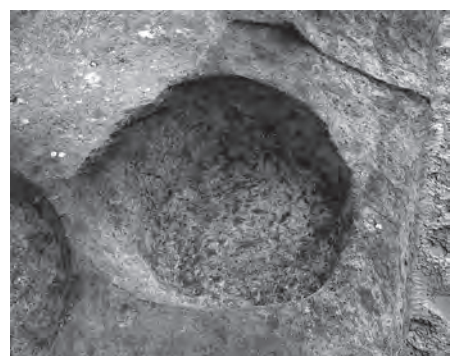
12. 1区90号土坑全景(南から)



13. 1区92号土坑全景(南東から)



14. 1区108号土坑全景(南東から)



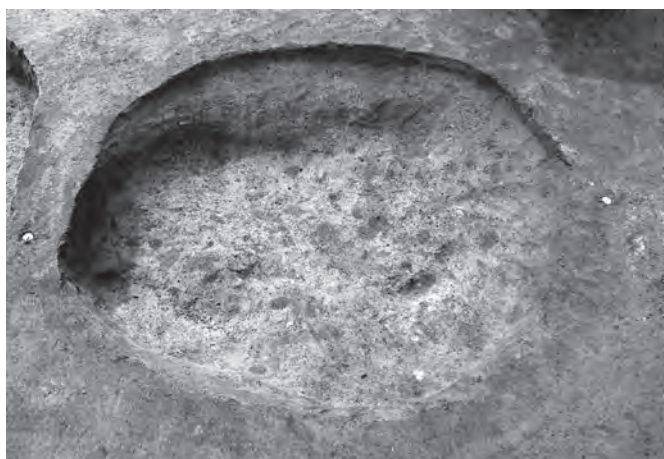
15. 1区110号土坑全景(北東から)



1. 1区47・74～76号土坑全景(南から)



2. 1区72・77～79号土坑全景(北東から)



3. 1区106号土坑全景(北西から)



4. 2区3～6・34号土坑全景(南西から)



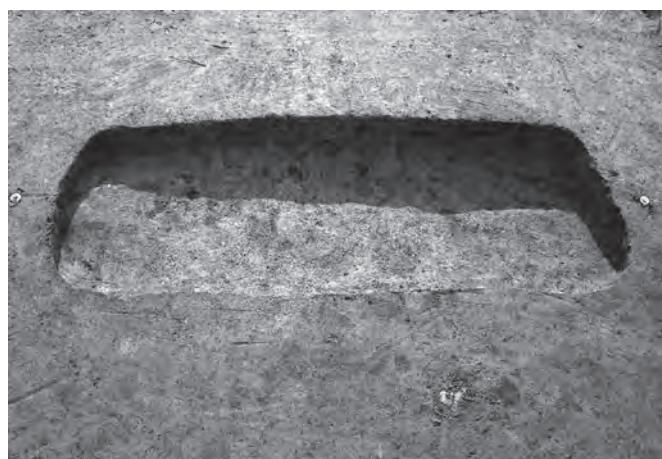
5. 2区16号土坑全景(北から)



6. 2区17・18号土坑全景(南東から)



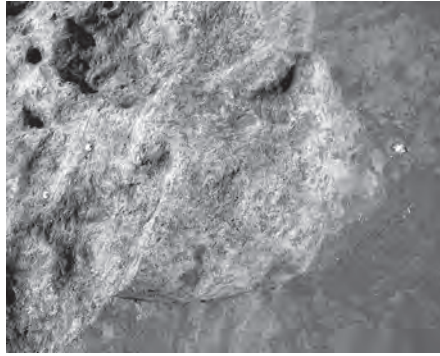
7. 2区38号土坑全景(南東から)



8. 2区39号土坑全景(北東から)



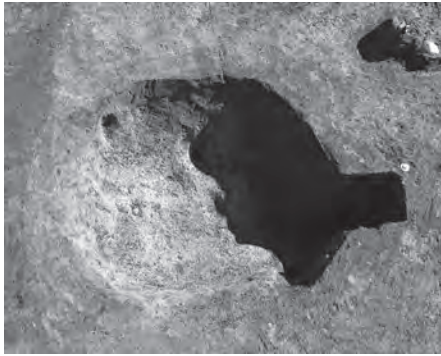
1. 2区1号土坑全景(南から)



2. 2区2号土坑全景(東から)



3. 2区3号土坑全景(東から)



4. 2区9号土坑全景(西から)



5. 2区19号土坑全景(南西から)



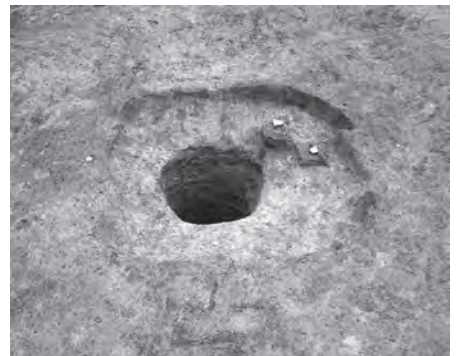
6. 2区32・33号土坑全景(南から)



7. 2区40号土坑全景(南東から)



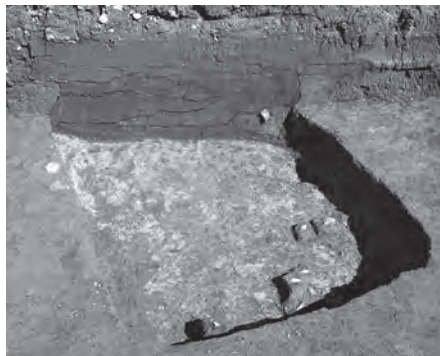
8. 2区41・42号土坑全景(北東から)



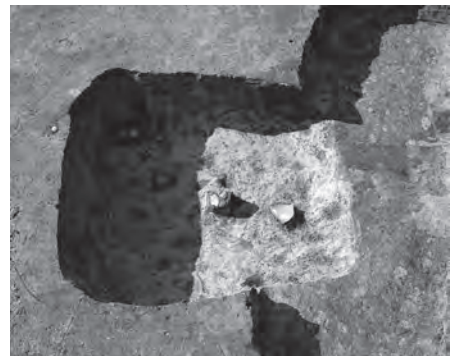
9. 2区43号土坑全景(南西から)



10. 2区44～46号土坑全景(南西から)



11. 2区47号土坑全景(南西から)



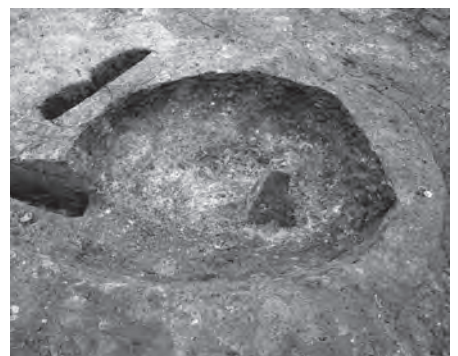
12. 2区67号土坑全景(南東から)



13. 2区84号土坑全景(南東から)



14. 2区85号土坑全景(北西から)



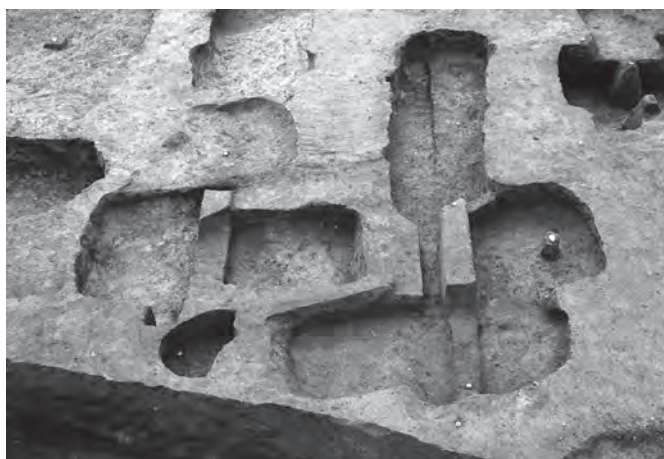
15. 2区93号土坑全景(南東から)



1. 2区52～58号土坑全景(北東から)



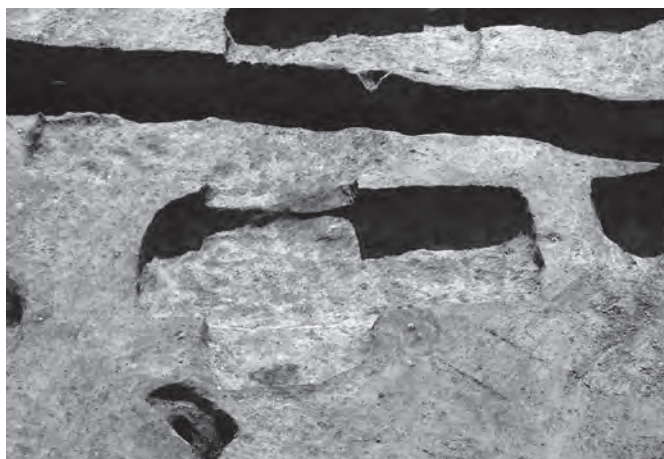
2. 2区64～67号土坑全景(南西から)



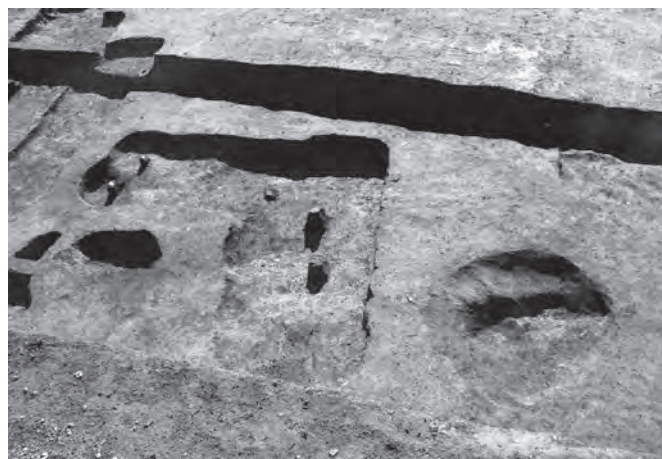
3. 2区76～79・94号土坑全景(北東から)



4. 2区86～88号土坑全景(南東から)



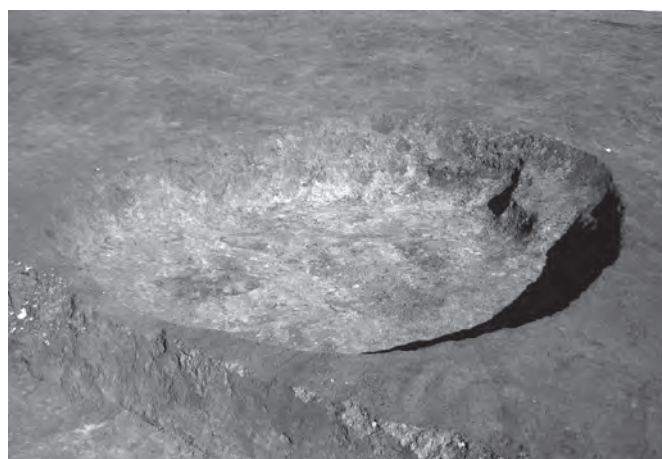
5. 2区104～106号土坑全景(北東から)



6. 2区107・109・110号土坑全景(北東から)



7. 2区112～115号土坑全景(北東から)



8. 2区118号土坑全景(南から)



1. 2区95・96号土坑全景(北から)



2. 2区97号土坑全景(南東から)



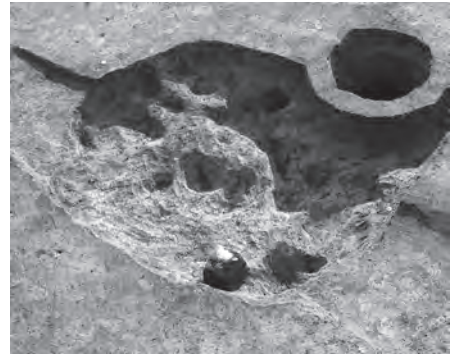
3. 2区98号土坑全景(西から)



4. 2区101号土坑全景(南西から)



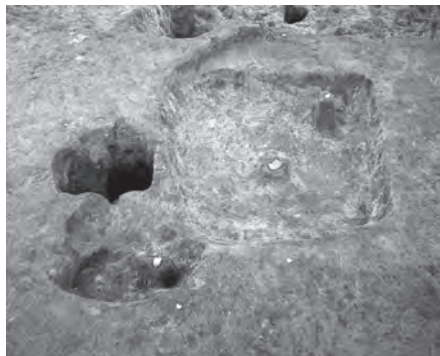
5. 2区119号土坑全景(西から)



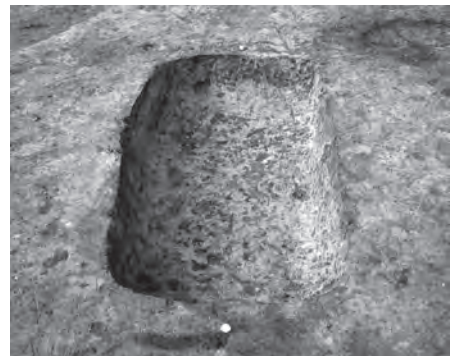
6. 2区123号土坑全景(北から)



7. 2区125号土坑全景(北東から)



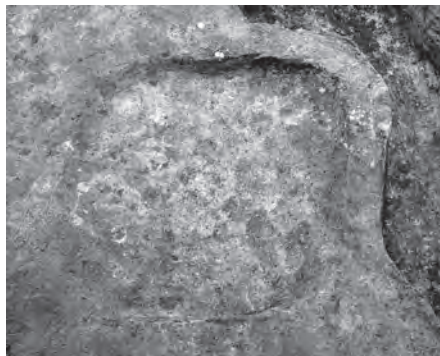
8. 2区131・136号土坑全景(西から)



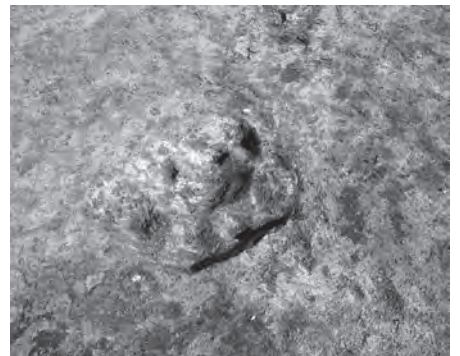
9. 3区3号土坑全景(東から)



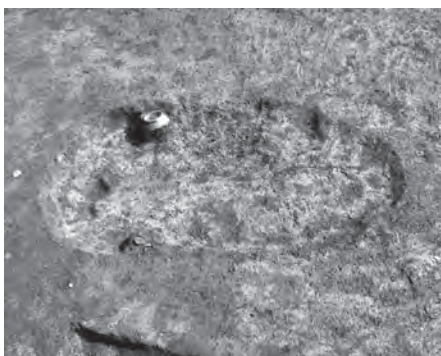
10. 3区5号土坑全景(南から)



11. 3区9号土坑全景(北東から)



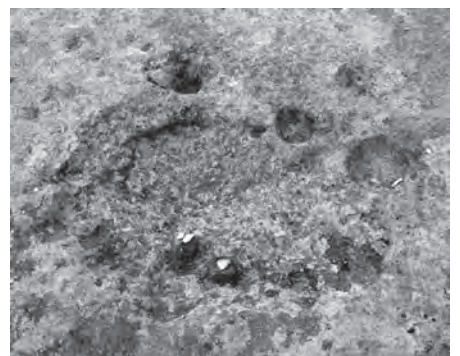
12. 3区15号土坑全景(西から)



13. 3区16号土坑全景(西から)



14. 3区17号土坑全景(東から)



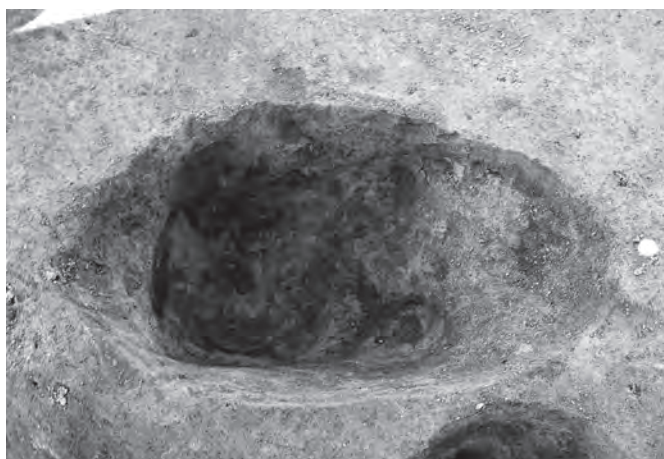
15. 3区18号土坑全景(南西から)



1. 2区122号土坑全景(南東から)



2. 2区132～134号土坑全景(南西から)



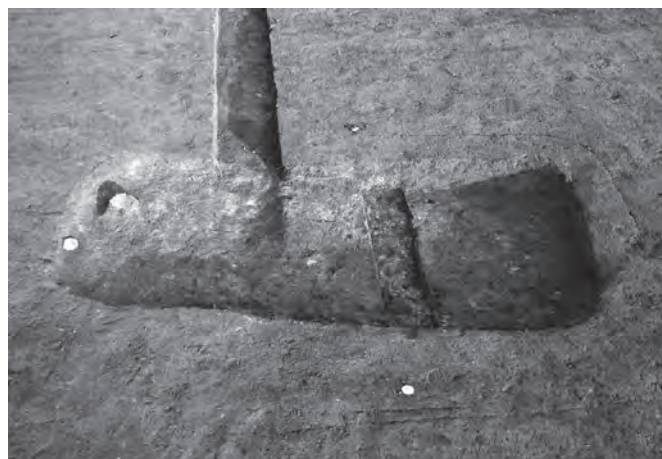
3. 2区137号土坑全景(南東から)



4. 2区138号土坑灰・炭化物層(東から)



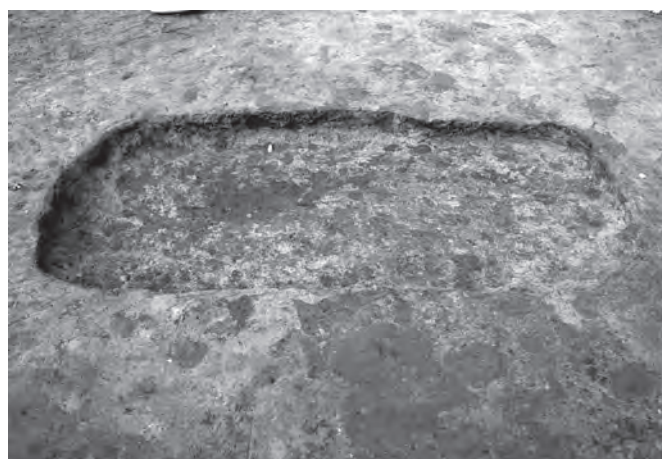
5. 2区139号土坑全景(南から)



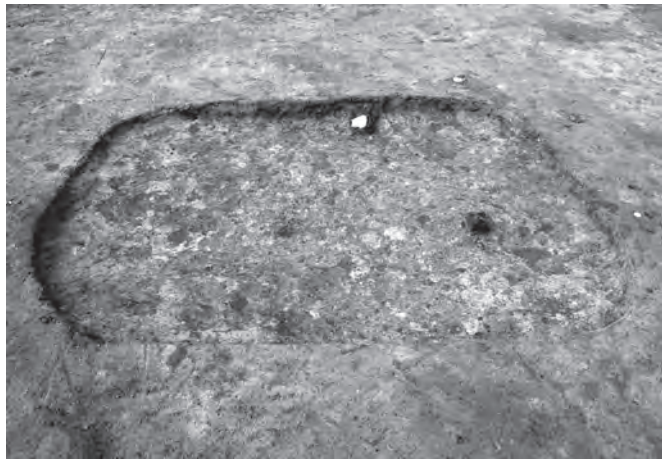
6. 3区1号土坑全景(西から)



7. 3区4号土坑全景(東から)



8. 3区6号土坑全景(東から)



1. 3区7号土坑全景(東から)



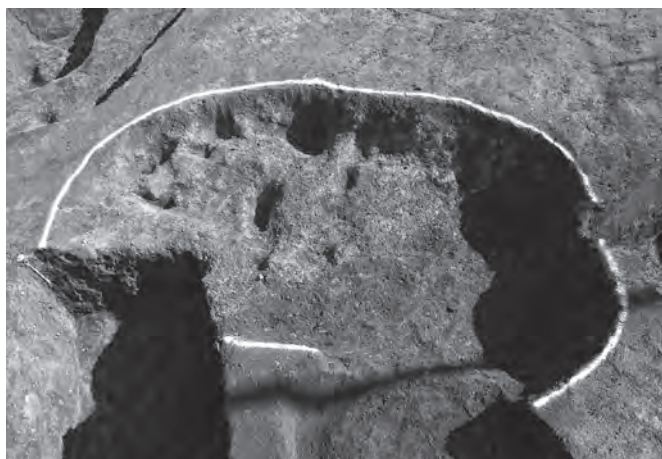
2. 3区8～10号土坑全景(東から)



3. 3区21号土坑全景(東から)



4. 4区1～4号土坑全景(北から)



5. 4区3号土坑全景(北西から)



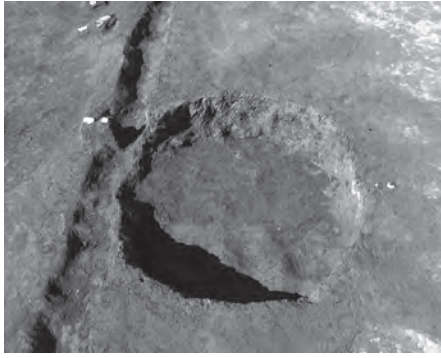
6. 4区16号土坑全景(南西から)



7. 4区20号土坑全景(南から)



8. 4区22・67号土坑全景(南西から)



1. 3区19号土坑全景(南東から)



2. 4区1・2号土坑全景(北西から)



3. 4区5・6号土坑全景(南東から)



4. 4区5・19号土坑全景(北西から)



5. 4区7・8号土坑全景(南東から)



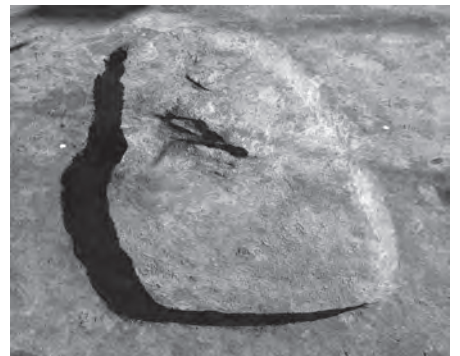
6. 4区9号土坑全景(北西から)



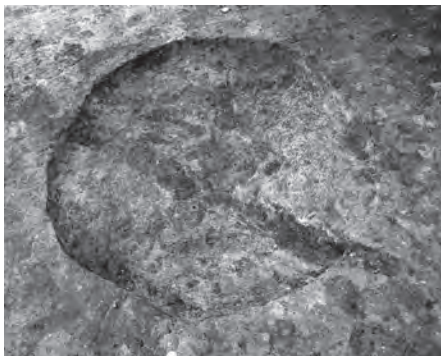
7. 4区10・11号土坑全景(南西から)



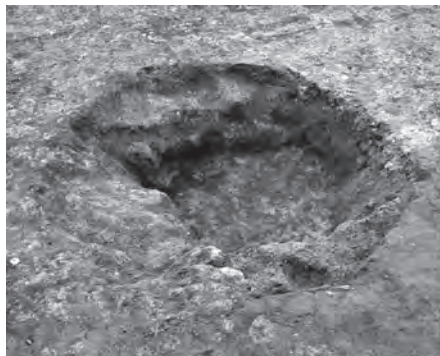
8. 4区13号土坑全景(南から)



9. 4区14号土坑全景(東から)



10. 4区15号土坑全景(南西から)



11. 4区22号土坑全景(東から)



12. 4区24号土坑全景(北東から)



13. 4区26号土坑全景(北東から)



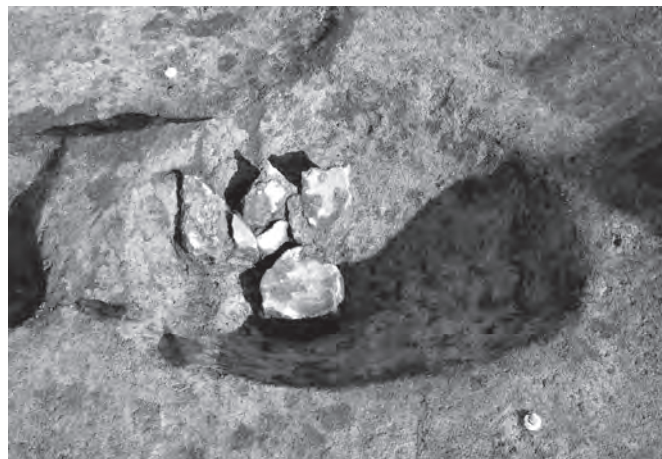
14. 4区27号土坑全景(北東から)



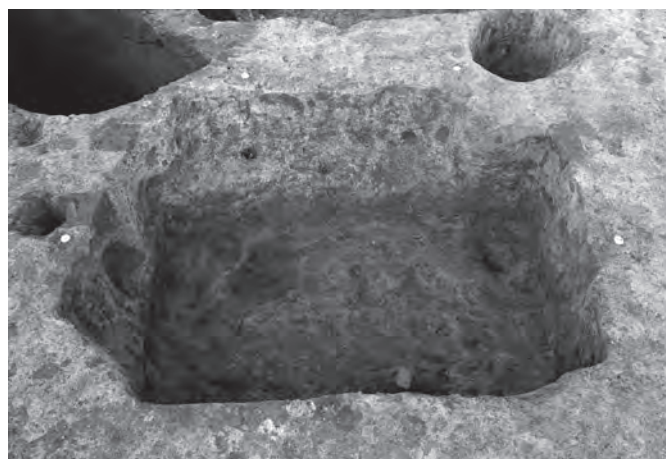
15. 4区36号土坑全景(北西から)



1. 4区23号土坑全景(南西から)



2. 4区28号土坑全景(西から)



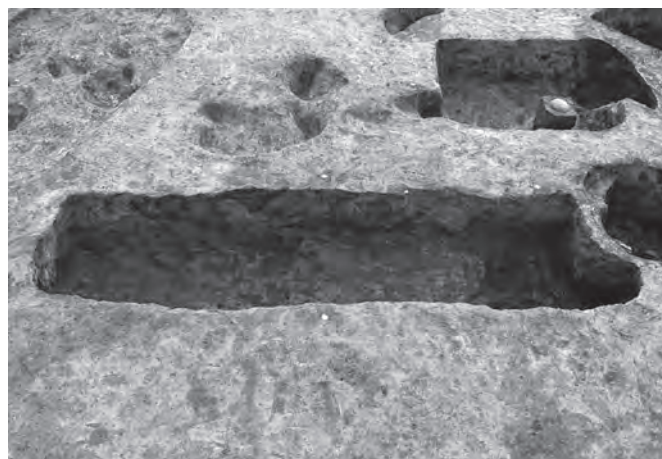
3. 4区30・38号土坑全景(南西から)



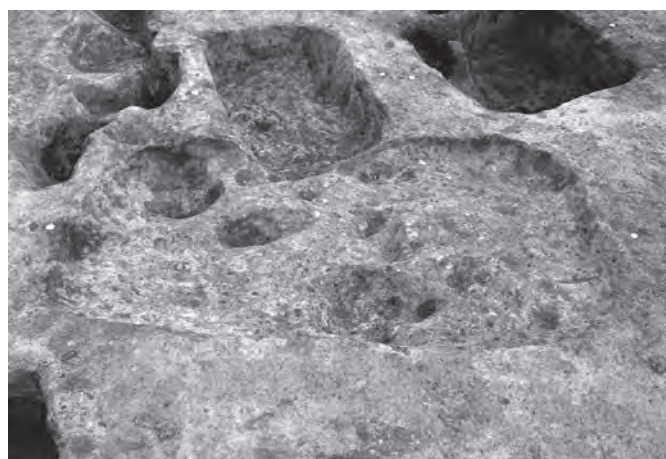
4. 4区31号土坑全景(北から)



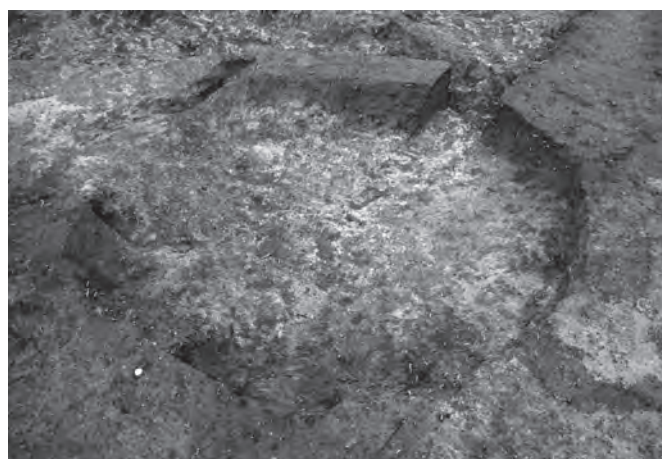
5. 4区33号土坑全景(北東から)



6. 4区34号土坑全景(北東から)



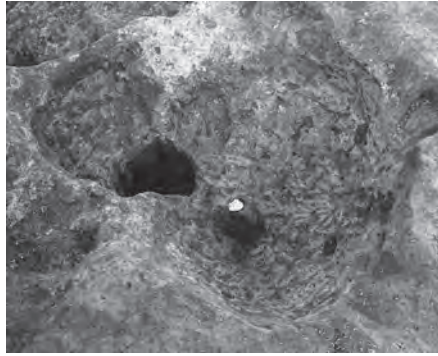
7. 4区35号土坑全景(北西から)



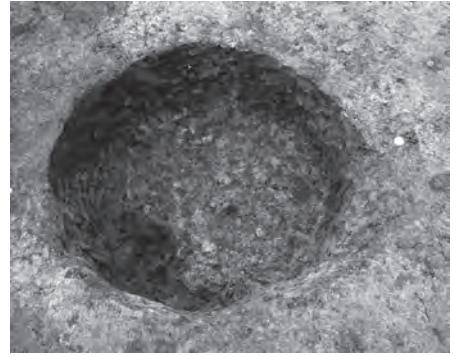
8. 4区40号土坑全景(南から)



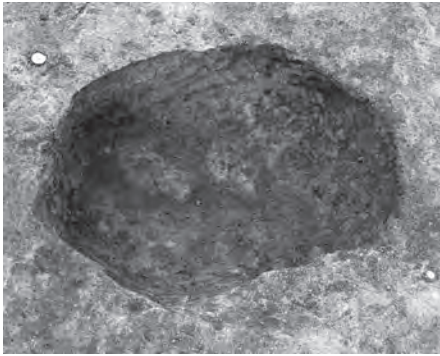
1. 4区37号土坑全景(北東から)



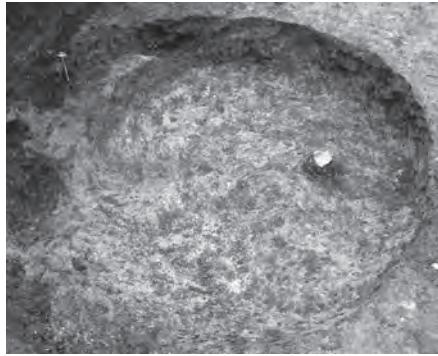
2. 4区43号土坑、9号ピット全景(南から)



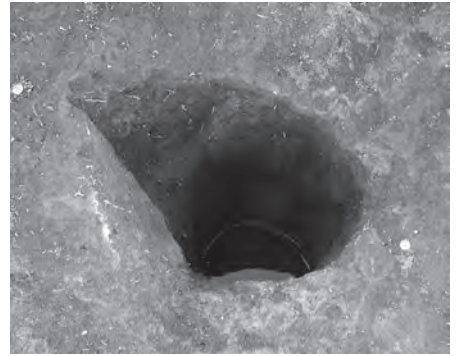
3. 4区46号土坑全景(南東から)



4. 4区47号土坑全景(東から)



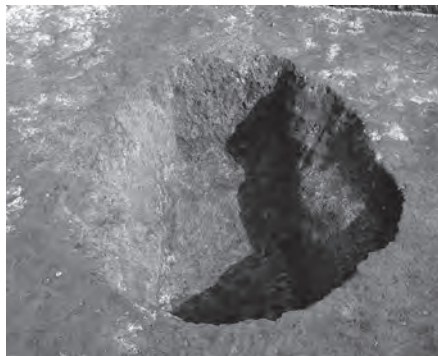
5. 4区48号土坑全景(南東から)



6. 4区52号土坑全景(北から)



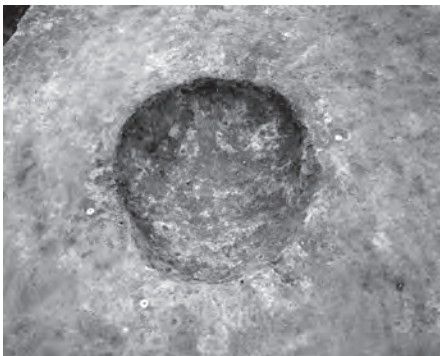
7. 4区62号土坑全景(南西から)



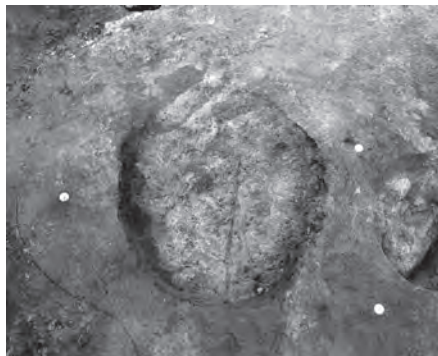
8. 4区68号土坑全景(南西から)



9. 4区71～73号土坑全景(南西から)



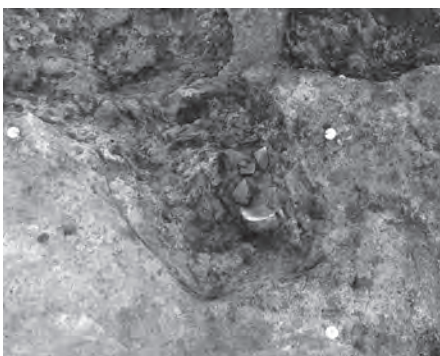
10. 4区93号土坑全景(南東から)



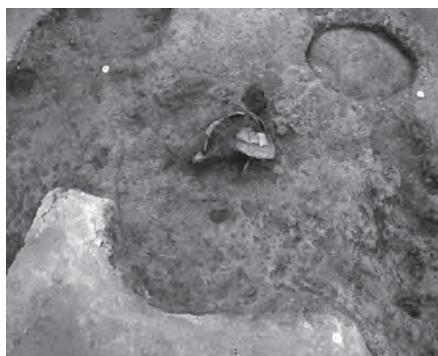
11. 4区95号土坑全景(西から)



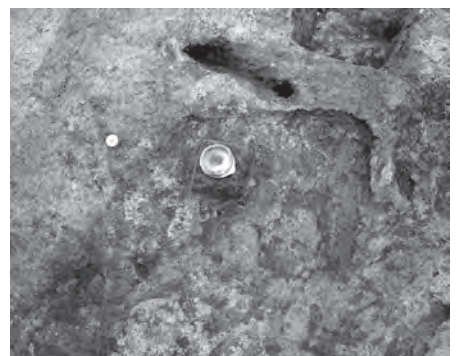
12. 4区99号土坑全景(北東から)



13. 4区102号土坑全景(東から)



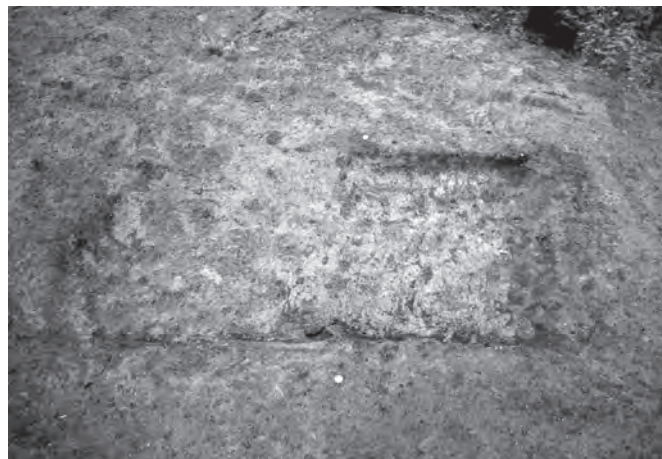
14. 4区103号土坑全景(南東から)



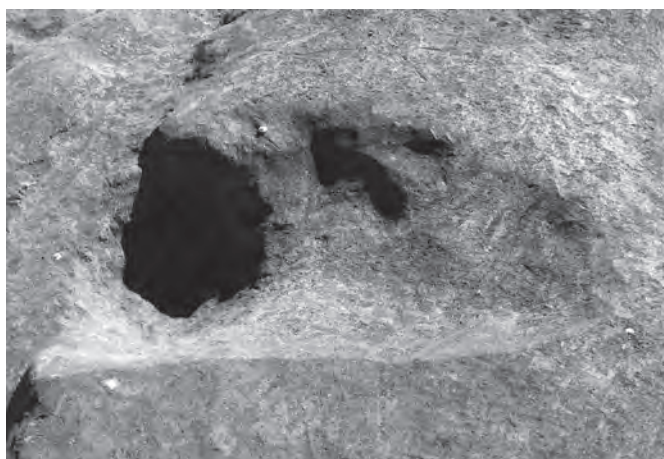
15. 4区105号土坑全景(南から)



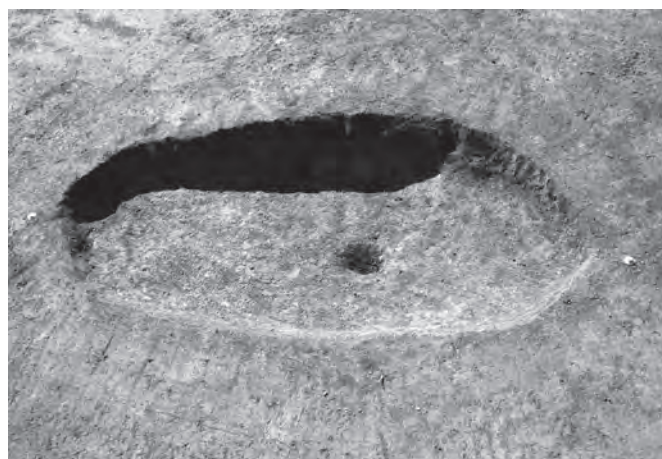
1. 4区44号土坑全景(北西から)



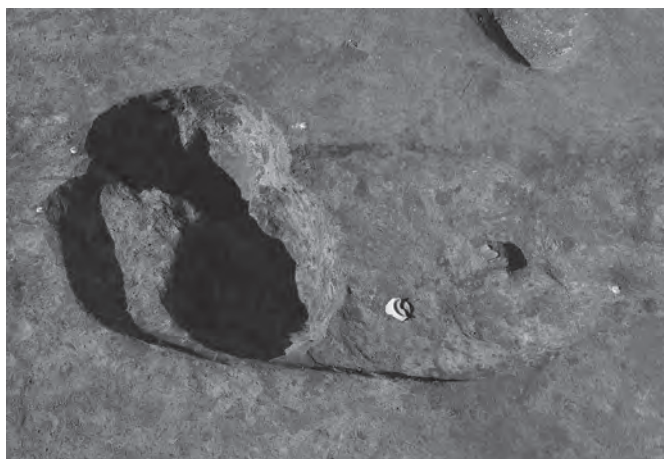
2. 4区49号土坑全景(北東から)



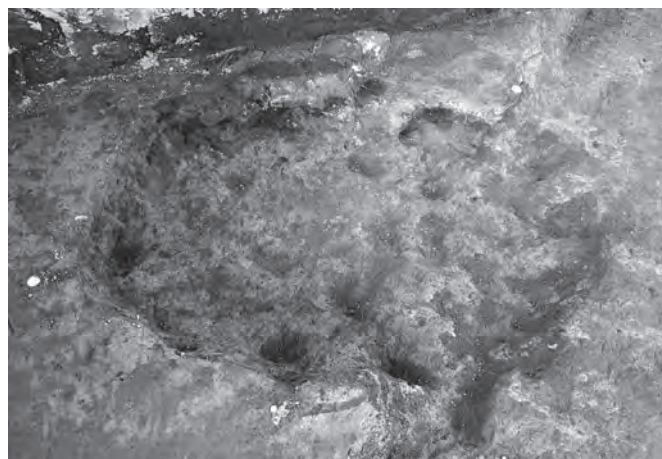
3. 4区50・54号土坑全景(北西から)



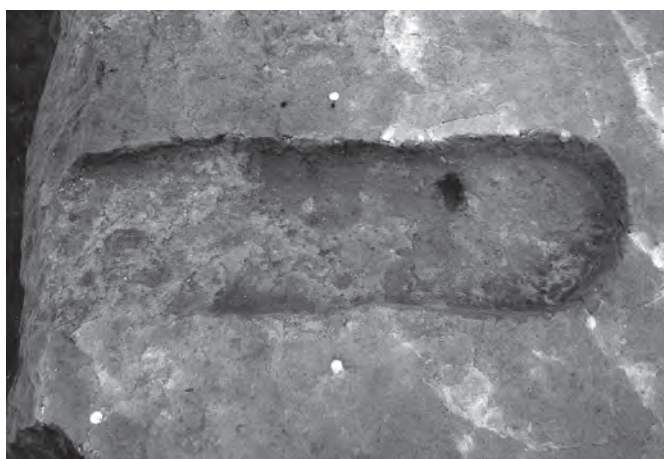
4. 4区51号土坑全景(北東から)



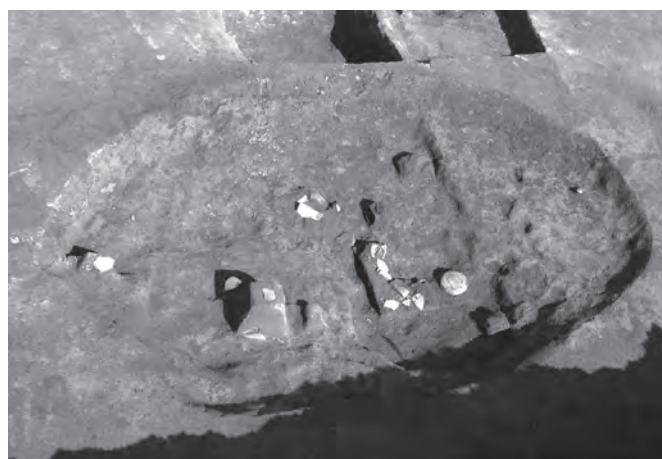
5. 4区56号土坑、11・12号ピット全景(南東から)



6. 4区63号土坑全景(南から)



7. 4区64号土坑全景(南西から)



8. 4区65号土坑全景(南西から)



1. 4区79号土坑全景(南西から)



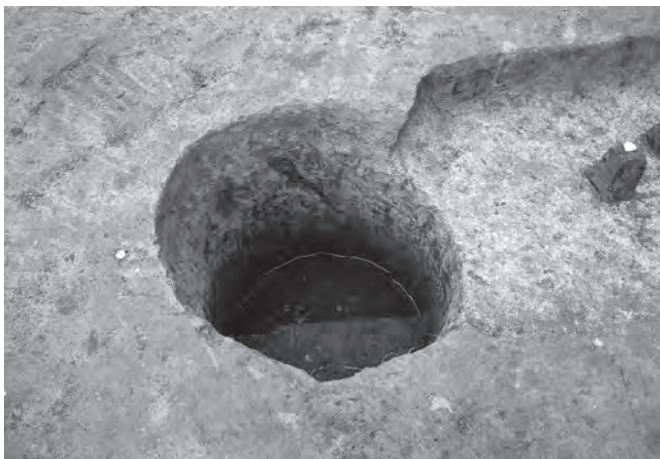
2. 4区80・81・84号土坑全景(南西から)



3. 4区88・89号土坑、30・31号ピット全景(南西から)



4. 1区1号井戸全景(北東から)



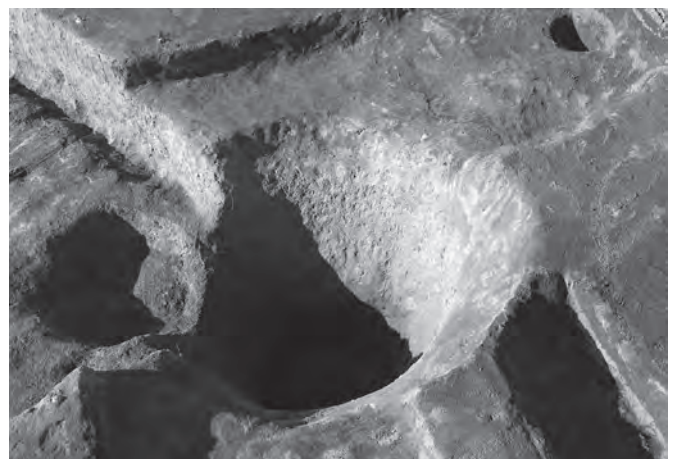
5. 2区1号井戸全景(北西から)



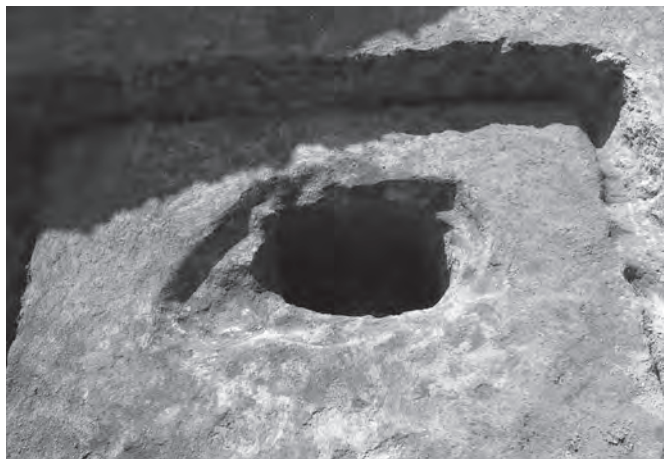
6. 2区2号井戸全景(南西から)



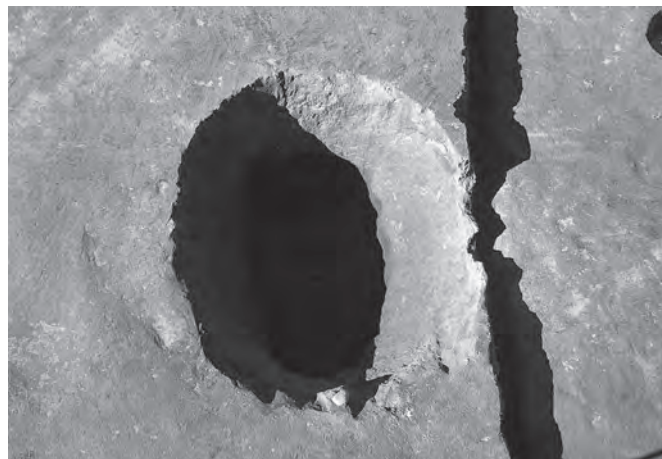
7. 2区3号井戸全景(北から)



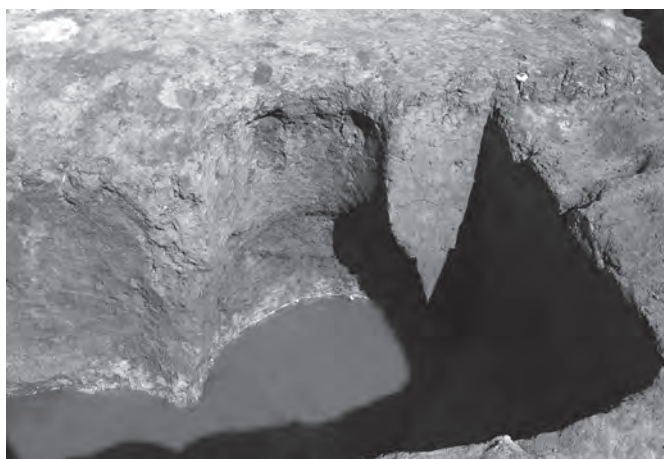
8. 2区4号井戸全景(南東から)



1. 3区1号井戸全景(北東から)



2. 3区2号井戸全景(南東から)



3. 3区4号井戸全景(南西から)



4. 4区1号井戸全景(東から)



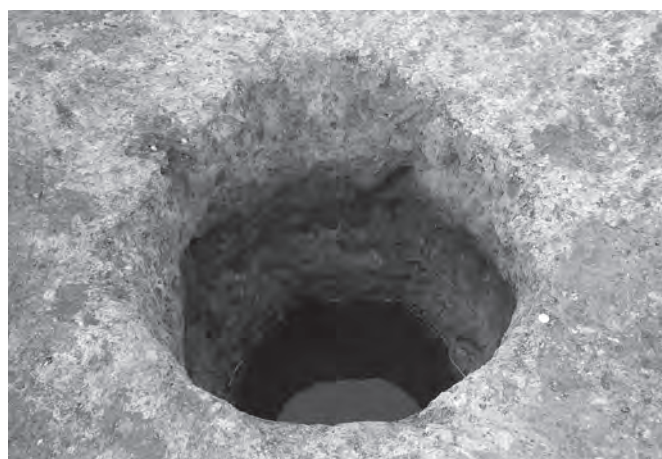
5. 4区3号井戸全景(東から)



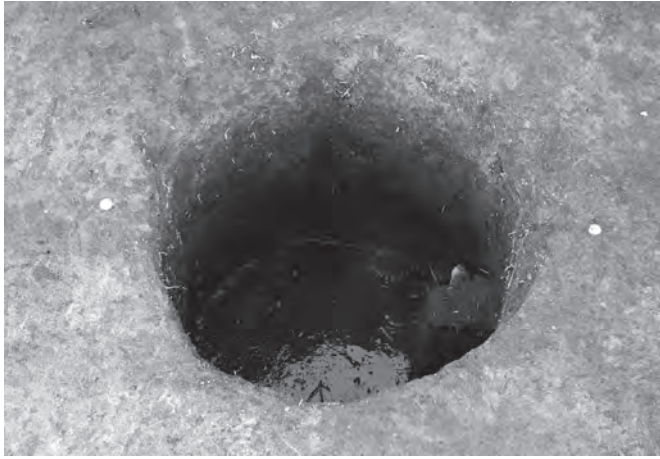
6. 4区5号井戸全景(北から)



7. 4区6号井戸全景(東から)



8. 4区7号井戸全景(南から)



1. 4区8号井戸全景(北から)



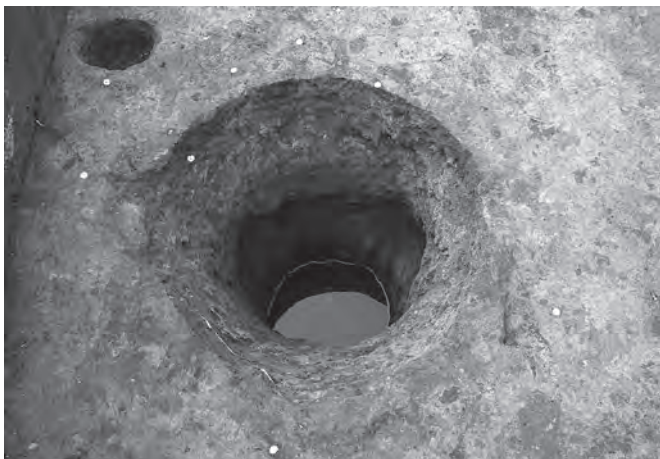
2. 4区9号井戸全景(北西から)



3. 4区10号井戸全景(北から)



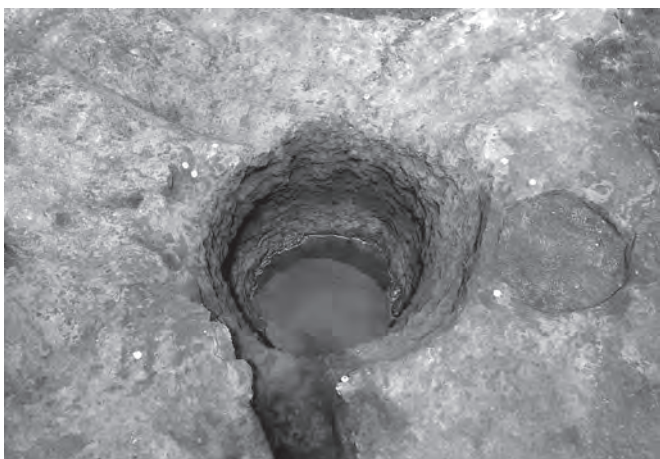
4. 4区12号井戸全景(南東から)



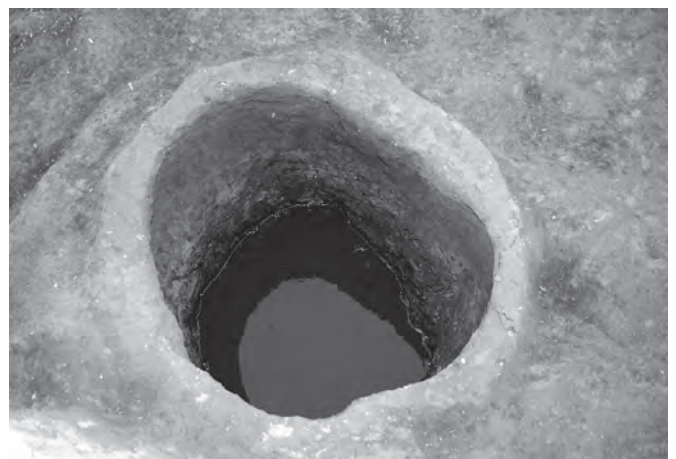
5. 4区13号井戸全景(南東から)



6. 4区14号井戸全景(南東から)



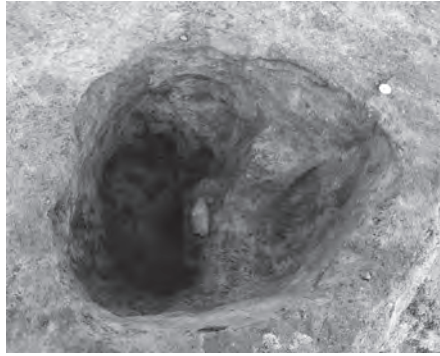
7. 4区15号井戸全景(南東から)



8. 4区16号井戸全景(北西から)



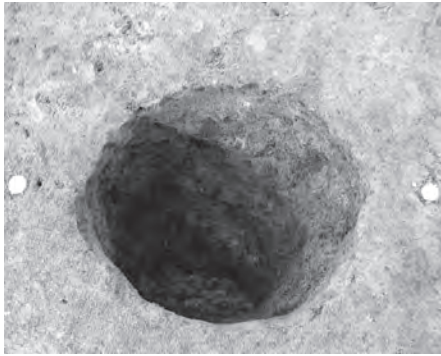
1. 1区15・16号ピット全景(南西から)



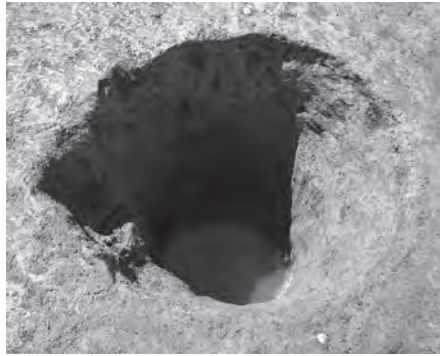
2. 1区17号ピット全景(南西から)



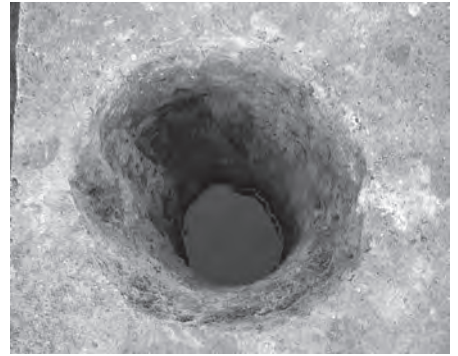
3. 1区22号ピット全景(南から)



4. 1区42号ピット全景(南西から)



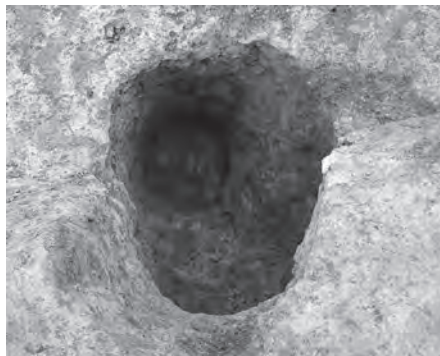
5. 1区54号ピット全景(南東から)



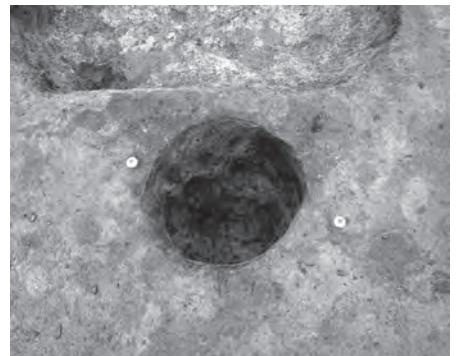
6. 2区40号ピット全景(南西から)



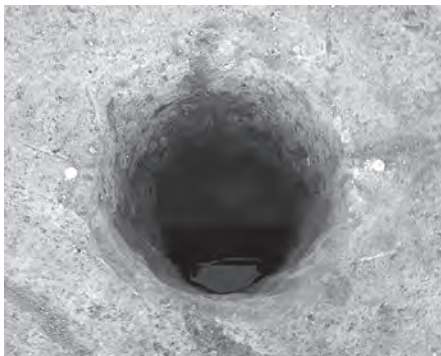
7. 2区41号ピット全景(西から)



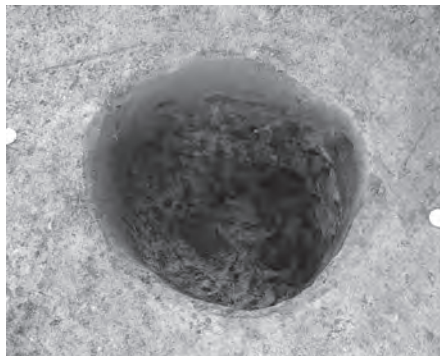
8. 2区45号ピット全景(北から)



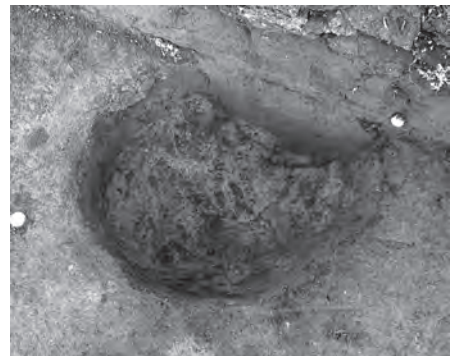
9. 2区46号ピット全景(南西から)



10. 2区47号ピット全景(南西から)



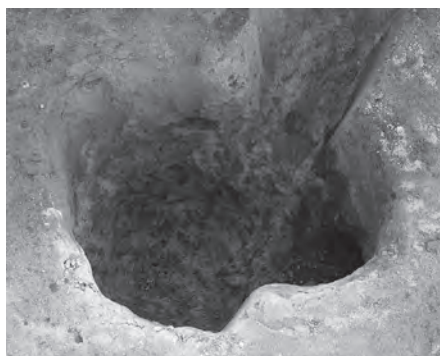
11. 2区93号ピット全景(北から)



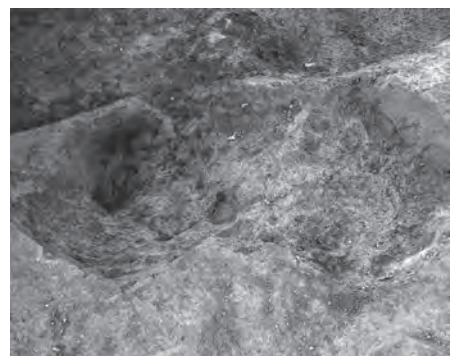
12. 2区94号ピット全景(南西から)



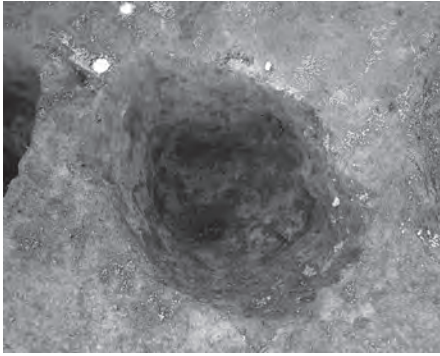
13. 2区96号ピット全景(東から)



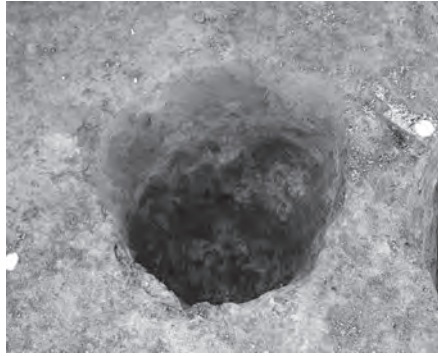
14. 2区97号ピット全景(北西から)



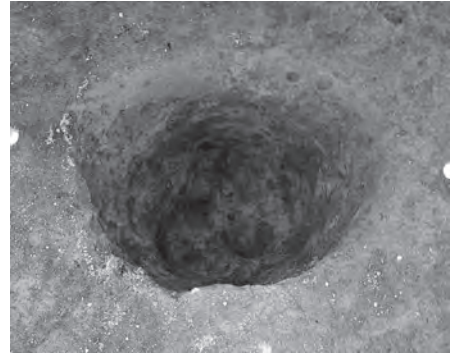
15. 2区98号ピット全景(東から)



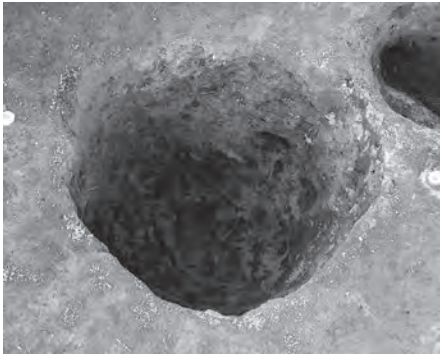
1. 2区99号ピット全景(北東から)



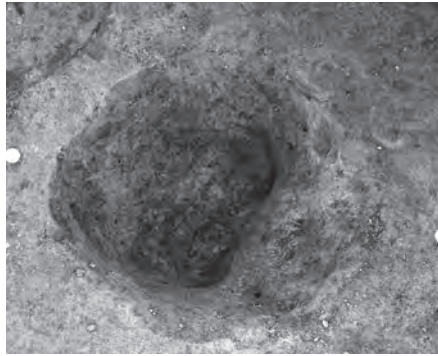
2. 2区100号ピット全景(東から)



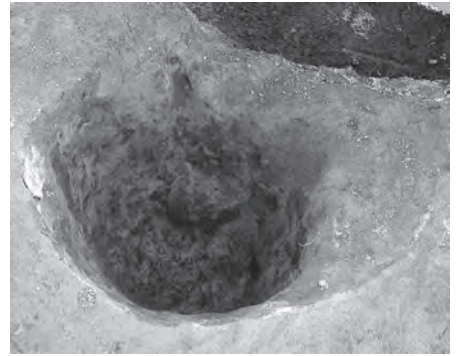
3. 2区101号ピット全景(北東から)



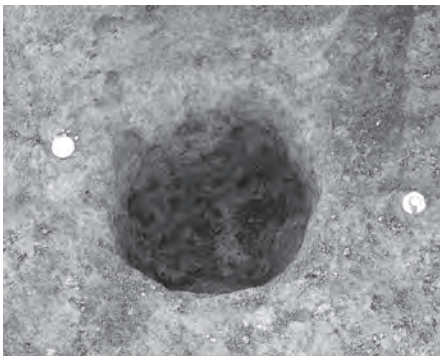
4. 2区102号ピット全景(東から)



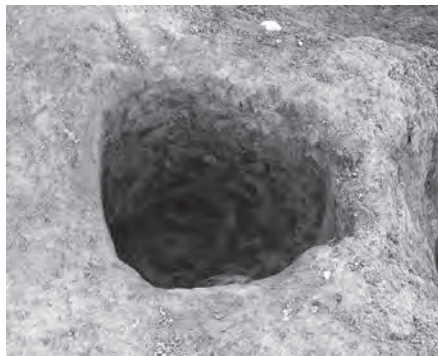
5. 2区103号ピット全景(北から)



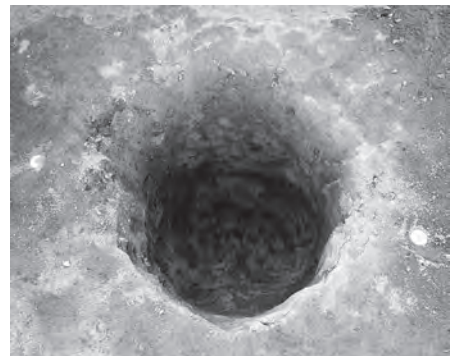
6. 2区104号ピット全景(北西から)



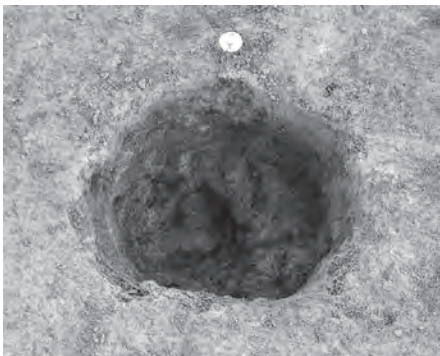
7. 2区105号ピット全景(北東から)



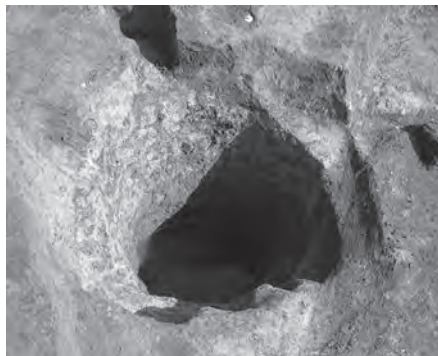
8. 2区106号ピット全景(東から)



9. 2区107号ピット全景(北東から)



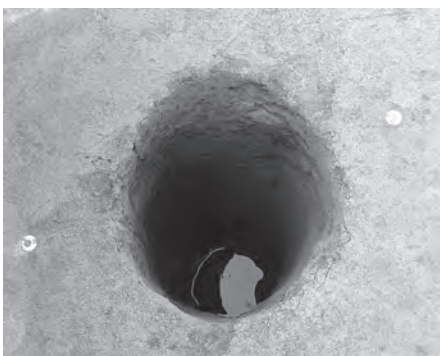
10. 2区109号ピット全景(北西から)



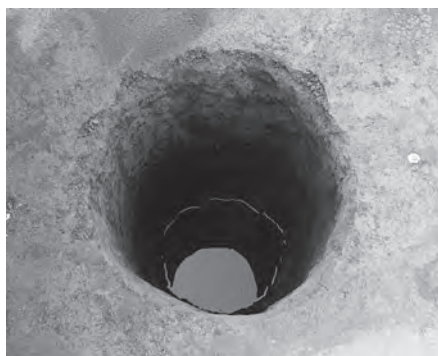
11. 2区110号ピット全景(西から)



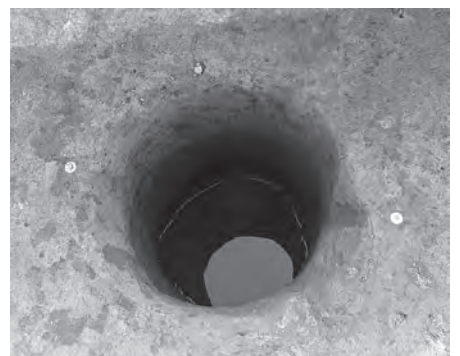
12. 3区1号ピット全景(南東から)



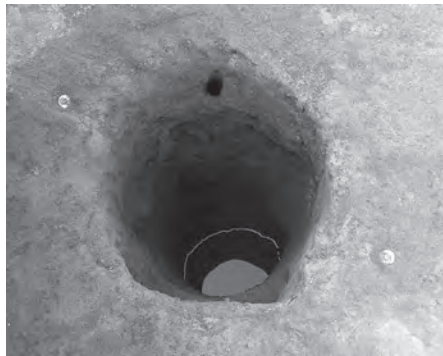
13. 3区9号ピット全景(南東から)



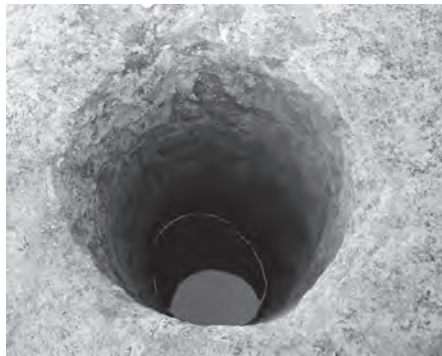
14. 3区10号ピット全景(東から)



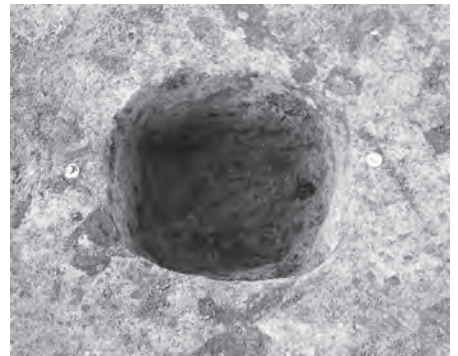
15. 3区11号ピット全景(北から)



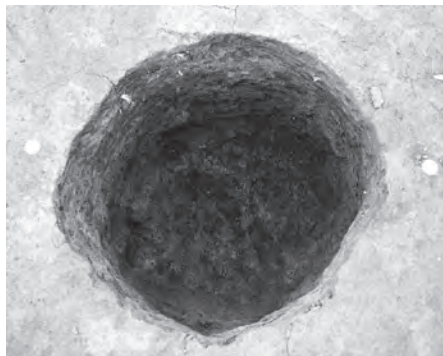
1. 3区12号ピット全景(東から)



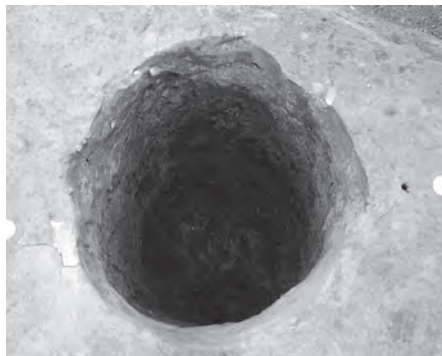
2. 3区13号ピット全景(南から)



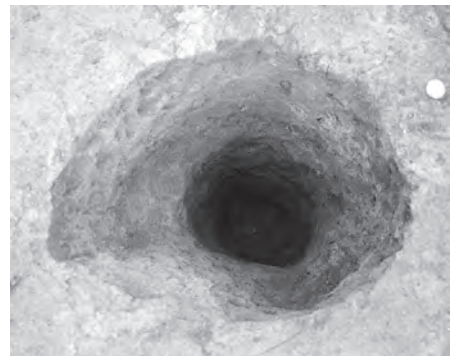
3. 4区5号ピット全景(南東から)



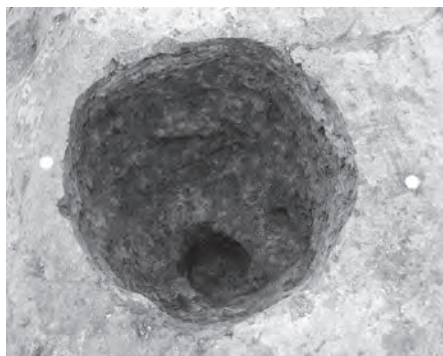
4. 4区15号ピット全景(南西から)



5. 4区16号ピット全景(南から)



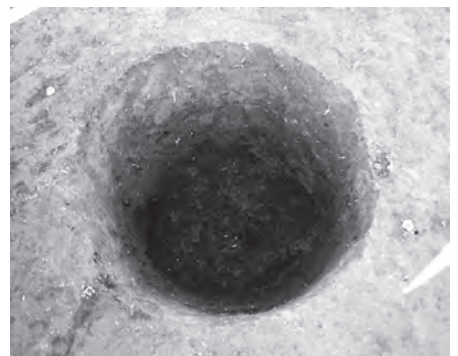
6. 4区21号ピット全景(北西から)



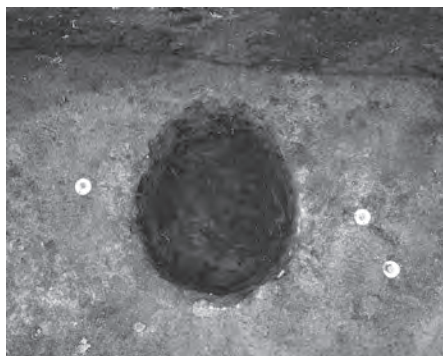
7. 4区22号ピット全景(南西から)



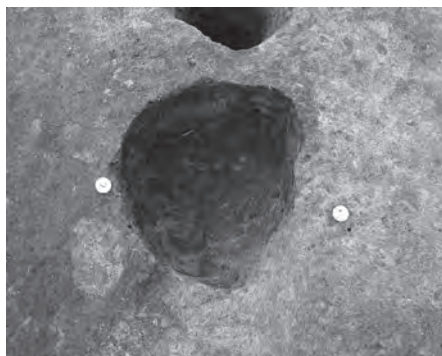
8. 4区29号ピット全景(北東から)



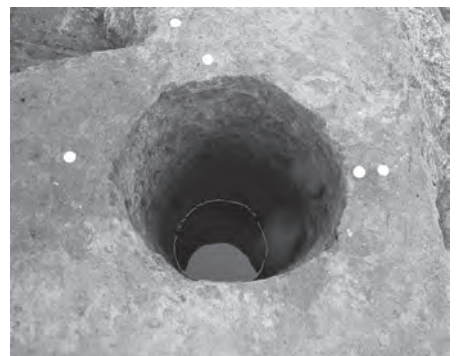
9. 4区32号ピット全景(南から)



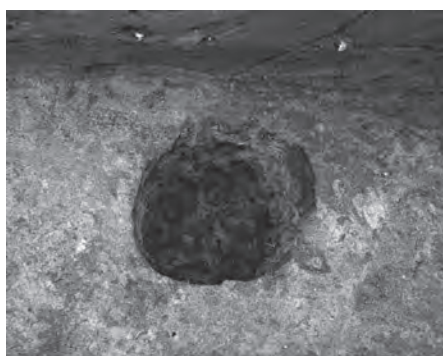
10. 4区35号ピット全景(北東から)



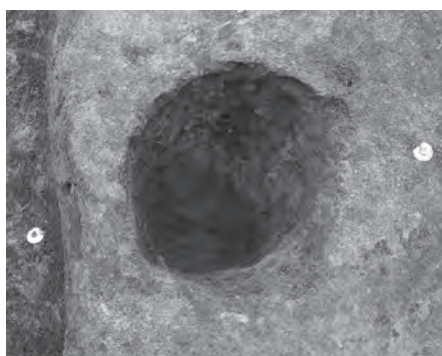
11. 4区38号ピット全景(西から)



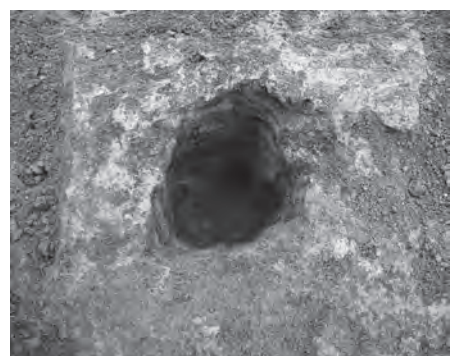
12. 4区41号ピット全景(南東から)



13. 4区46号ピット全景(南東から)



14. 4区48号ピット全景(南東から)



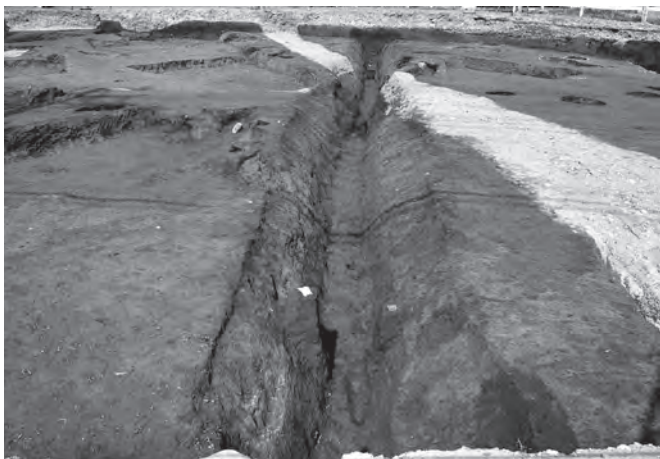
15. 4区49号ピット全景(南東から)



1. 1区1号溝全景(北西から)



2. 1区1号溝全景(北から)



3. 1区2号溝全景(南西から)



4. 1区2号溝全景(北東から)



5. 1区3~7号溝全景(南西から)



6. 1区3号溝全景(北東から)



1. 1区4～6号溝全景(北東から)



3. 1区6号溝全景(北東から)



2. 1区4・5号溝全景(北東から)



4. 1区7号溝全景(北東から)



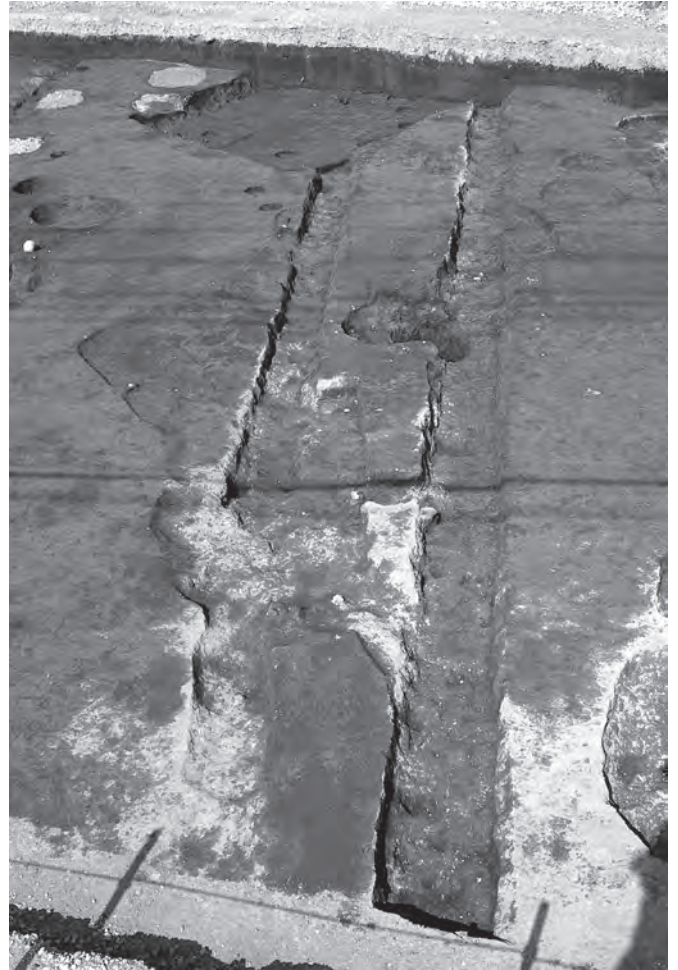
5. 1区7号溝全景(南西から)



6. 1区10号溝北東部全景(南西から)



1. 1区8～10号溝全景(北東から)



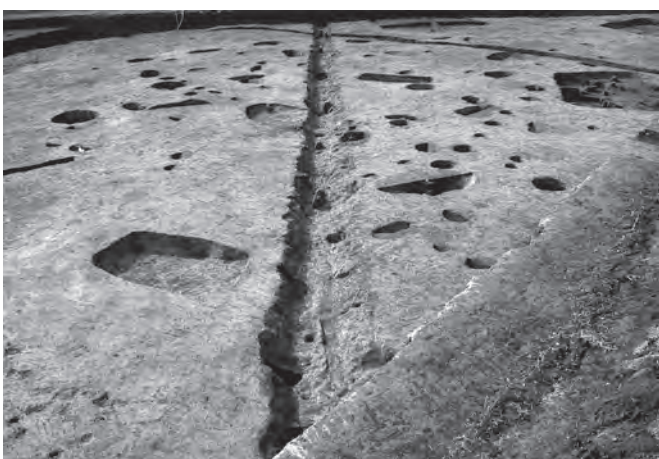
2. 1区8～10号溝全景(南西から)



3. 2区1号溝全景(南西から)



4. 2区2号溝全景(北東から)



5. 2区3号溝全景(東から)



6. 2区4号溝全景(北東から)



1. 2区6～14号溝全景(北から)



2. 2区16号溝全景(西から)



3. 2区17号溝全景(東から)



4. 2区20～22号溝全景(南東から)



5. 2区20～22号溝全景(北東から)



6. 2区21号溝南東部全景(南東から)



7. 3区1～4号溝全景(北から)



8. 3区5～7号溝全景(北東から)



1. 3区5～7号溝全景(西から)



2. 3区5号溝全景(東から)



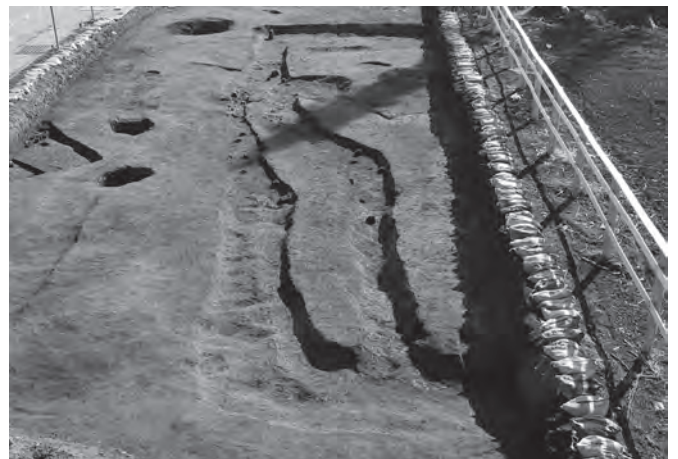
3. 3区7号溝全景(東から)



4. 4区1号溝全景(南西から)



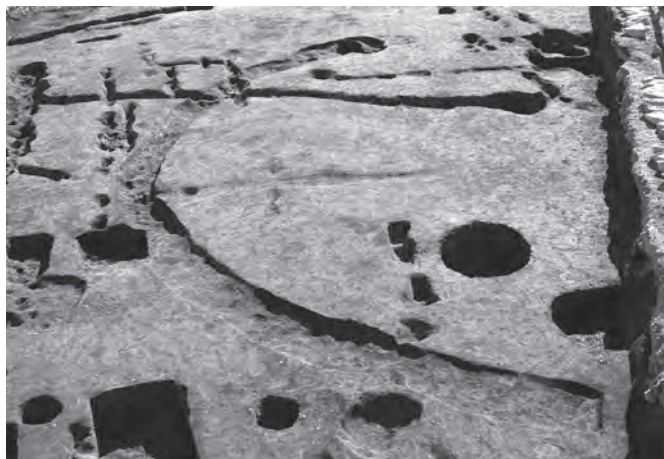
5. 4区2・3号溝全景(北東から)



6. 4区4・5号溝全景(北西から)



7. 4区6～9号溝全景(北西から)



1. 4区10号溝全景(北西から)



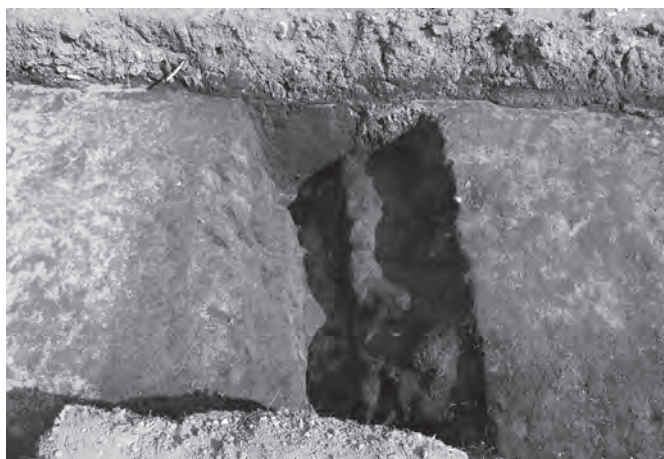
2. 4区11号溝全景(北西から)



3. 4区12号溝全景(南西から)



4. 4区13・14号溝全景(南西から)



5. 4区15号溝全景(南西から)



6. 4区16～18号溝全景(東から)



7. 4区16～18号溝全景(南西から)



8. 4区19～21号溝全景(南東から)



1. 4区20・23・24号溝全景(南東から)



2. 4区23号溝全景(北東から)



3. 4区24号溝全景(北西から)



4. 4区27号溝全景(南東から)



5. 2区As-B下水田断面(北東から)



6. 2区1号サク状遺構全景(東から)



7. 2区1号サク状遺構全景(北から)



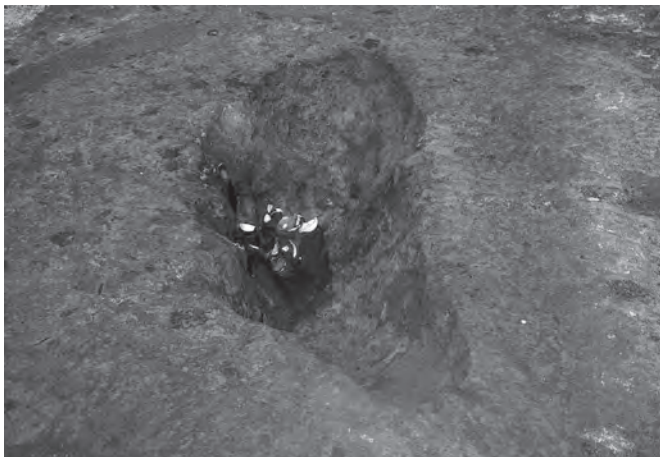
8. 4区1号畠全景(北東から)



1. 4区2号畠全景(南東から)



2. 4区3号畠全景(北西から)



3. 4区風倒木遺物出土状態(南から)



4. 4区風倒木遺物出土状態(西から)



5. 3区11号土坑全景(南西から)



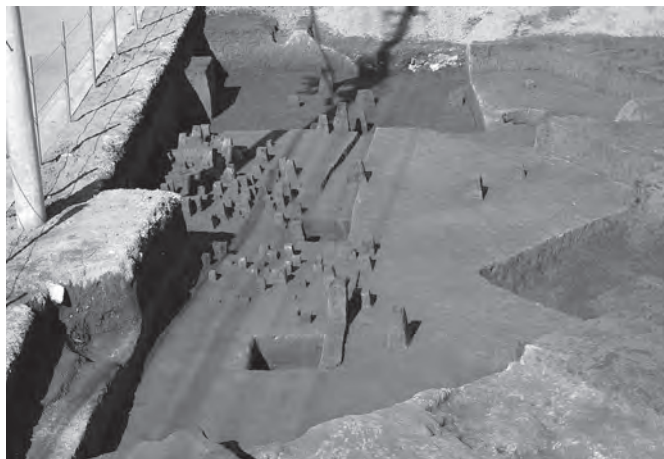
6. 3区20号土坑全景(北東から)



7. 1区旧石器調査北西部全景(北西から)



8. 1区旧石器調査北西部全景(南東から)



1. 1区旧石器調査北西部全景(東から)



2. 1区旧石器調査北西部全景(北から)



3. 1区旧石器調査北西部遺物出土状態(北西から)



4. 1区旧石器調査北西部遺物出土状態(南東から)



5. 1区旧石器調査第1ブロック遺物出土状態(北から)



6. 1区旧石器調査第1ブロック遺物出土状態(北から)



7. 1区旧石器調査第2ブロック遺物出土状態(北から)



8. 1区旧石器調査北西部南壁土層断面(北から)



1. 1区第1ブロック縦長剥片(332)出土状態(北から)



2. 1区第2ブロックナイフ形石器(354)出土状態(東から)



3. 3区北西部旧石器調査坑全景(南東から)



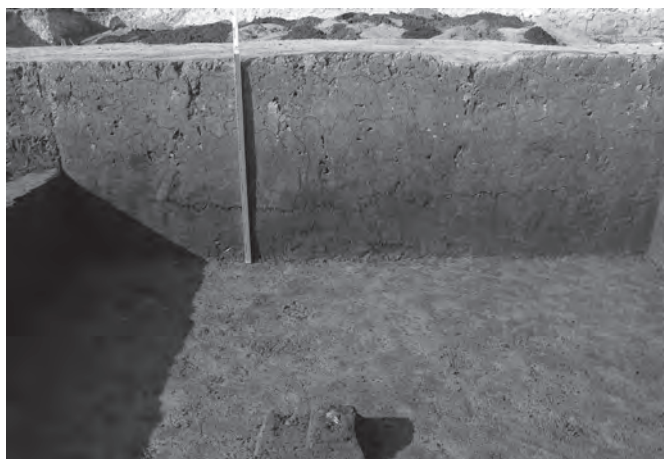
4. 3区2号調査坑全景(南から)



5. 3区2号調査坑全景(南から)



6. 3区3号調査坑全景(南から)



7. 3区3号調査坑土層断面(南から)



8. 3区3号調査坑剥片(1)出土状態(北東から)



1. 4区南東部旧石器調査全景(北西から)



2. 4区南東部旧石器調査全景(北西から)



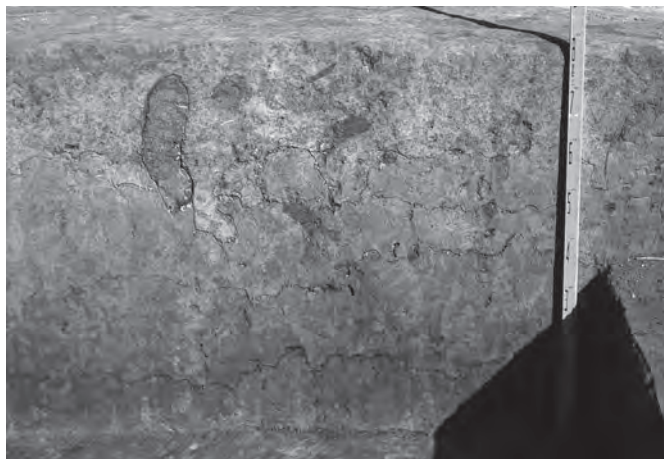
3. 4区2号調査坑遺物出土状態(南西から)



4. 4区2号調査坑遺物出土状態(西から)



5. 4区2号調査坑遺物出土状態(西から)



6. 4区2号調査坑土層断面(西から)



7. 4区4号調査坑土層断面(西から)



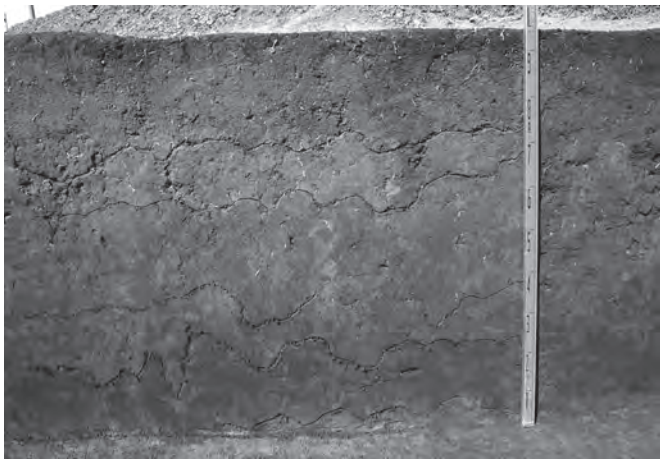
8. 4区6号調査坑拡張後全景(北から)



1. 4区6号調査坑拡張後全景(南から)



2. 4区6号調査坑拡張後遺物出土状態(南から)



3. 4区6号調査坑土層断面(南から)



4. 4区6号調査坑石核(11)出土状態(東から)



5. 4区11号調査坑剥片(1)出土状態(南西から)



6. 4区11号調査坑剥片(1)出土状態(南から)



7. 4区13号調査坑土層断面(北西から)



8. 4区13号調査坑碎片出土状態(西から)

1区1号竖穴住居



1区7号竖穴住居



1区2号竖穴住居



1区3号竖穴住居

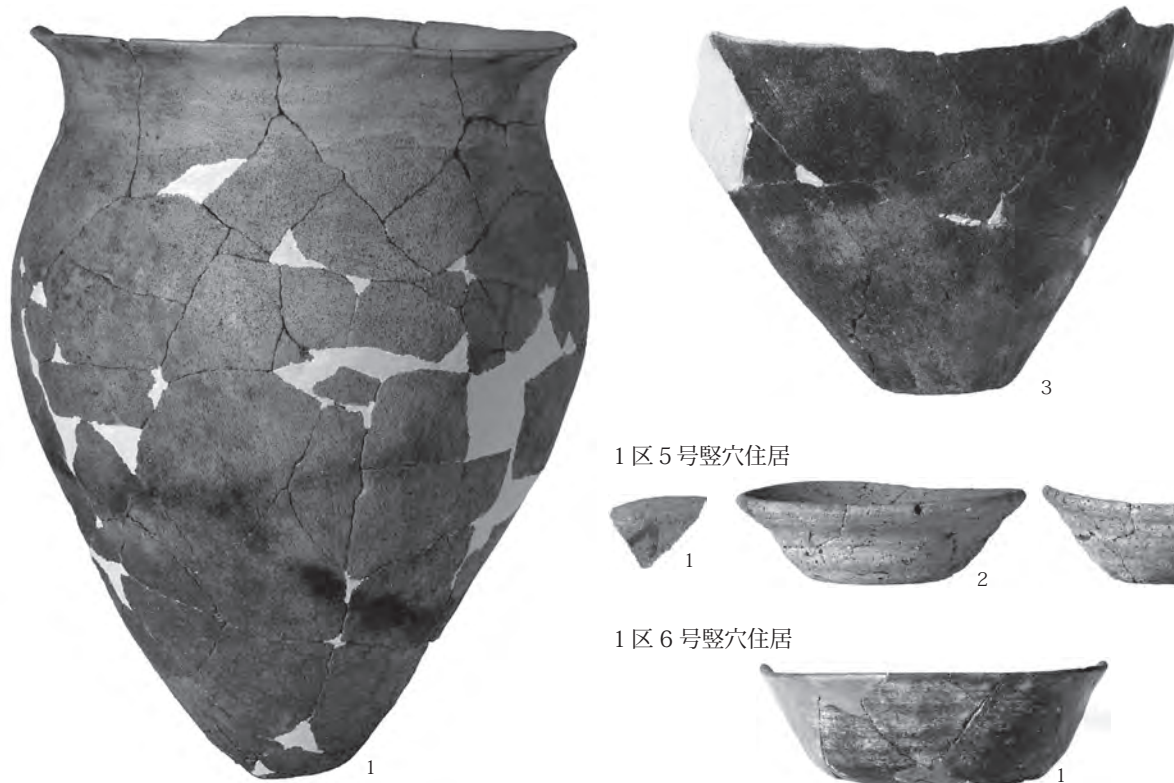


PL.108

1区3号竪穴住居(つづき)



1区4号竪穴住居



1区5号竪穴住居



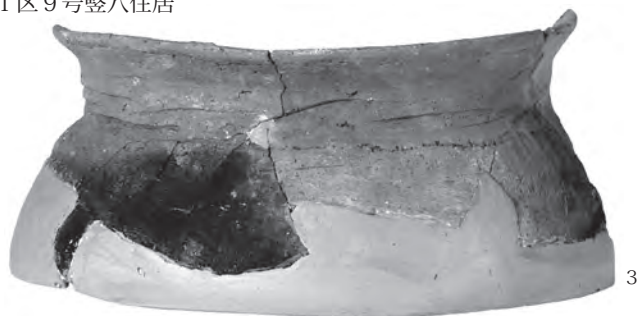
1区6号竪穴住居



1区8号竪穴住居



1区9号豎穴住居



1区10号豎穴住居



1区11号豎穴住居



1区12号豎穴住居

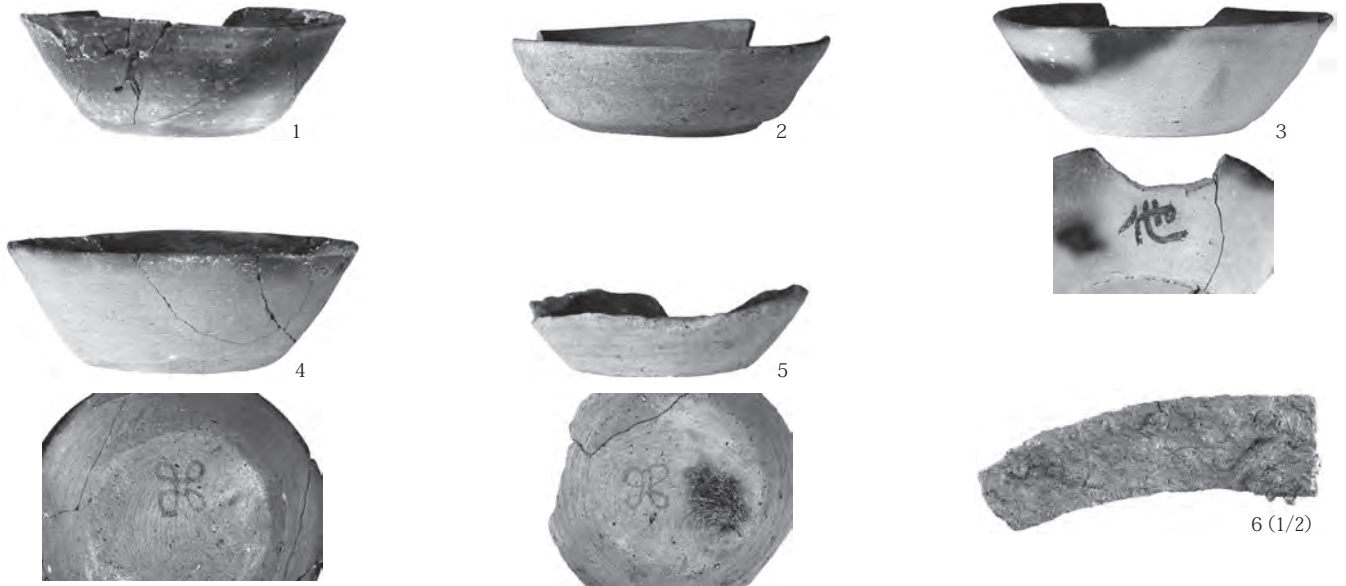


1区13号豎穴住居



PL.110

1区14号竖穴住居



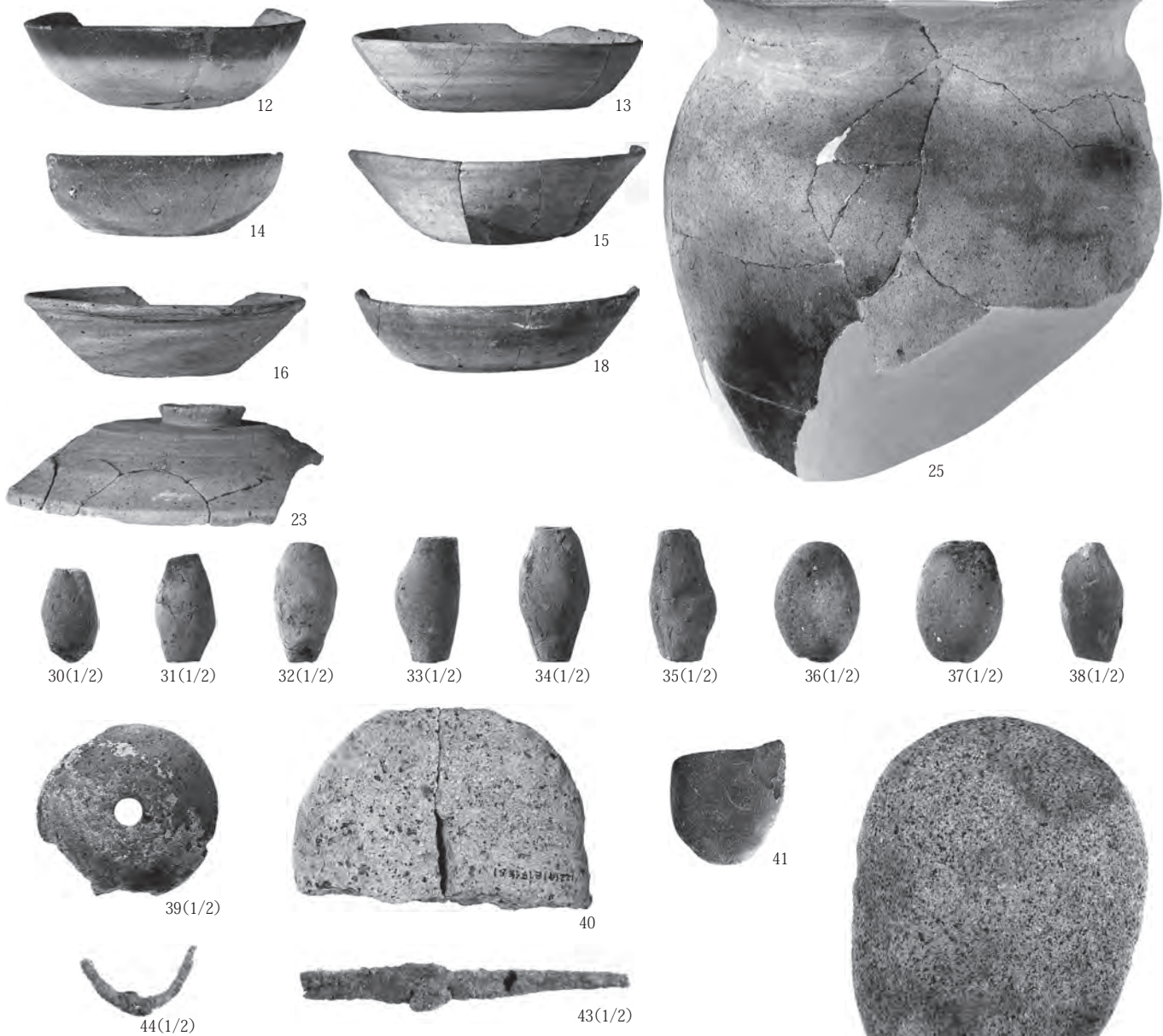
1区18号竖穴住居



1区15号竖穴住居



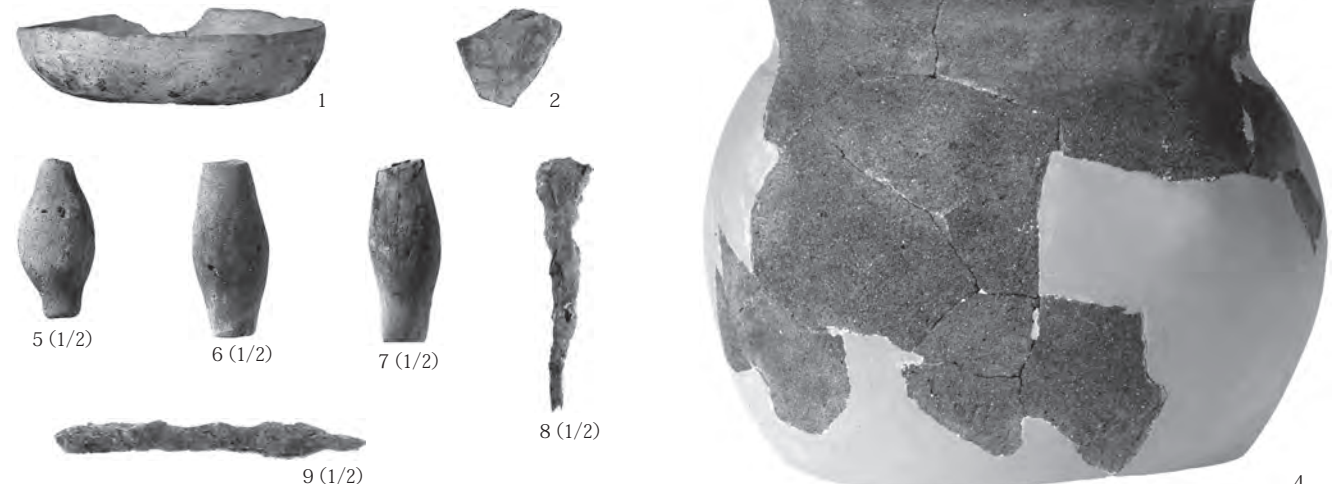
1区15号竪穴住居(つづき)



1区17号竪穴住居



1区16号竪穴住居



PL.112

1区19号竖穴住居



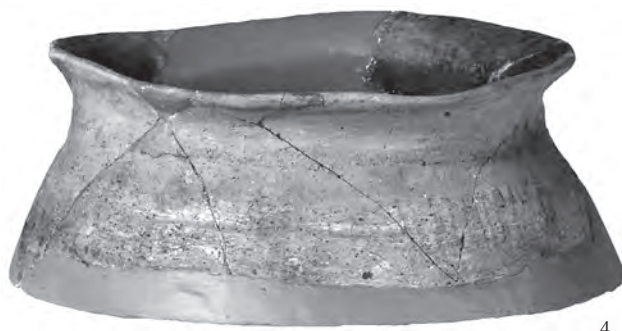
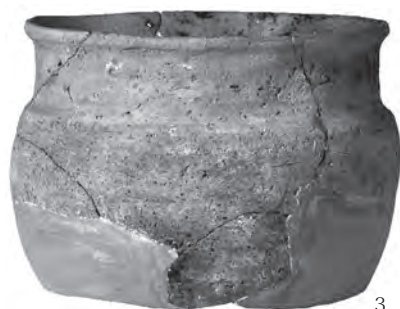
1区20号竖穴住居



1区21号竖穴住居



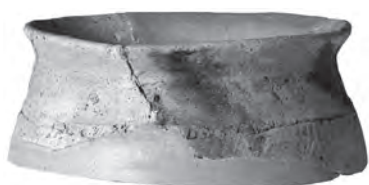
1区23号竖穴住居



1区24号竖穴住居



1



2



4 (1/2)



5 (1/2)

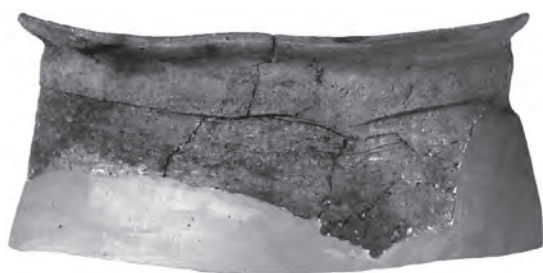
1区25号竖穴住居



1



2



3



6 (1/2)



5



7 (1/2)



8 (1/2)



4

1区26号竖穴住居



1



2

1区27号竖穴住居



1



2

1区28号竖穴住居



1

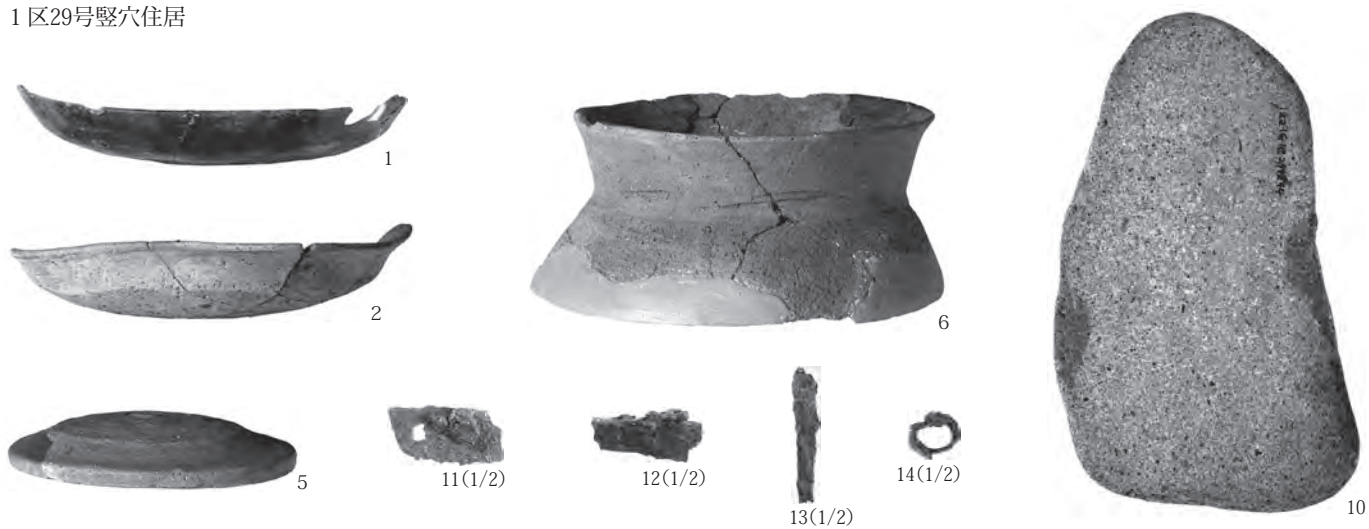
1区31号竖穴住居



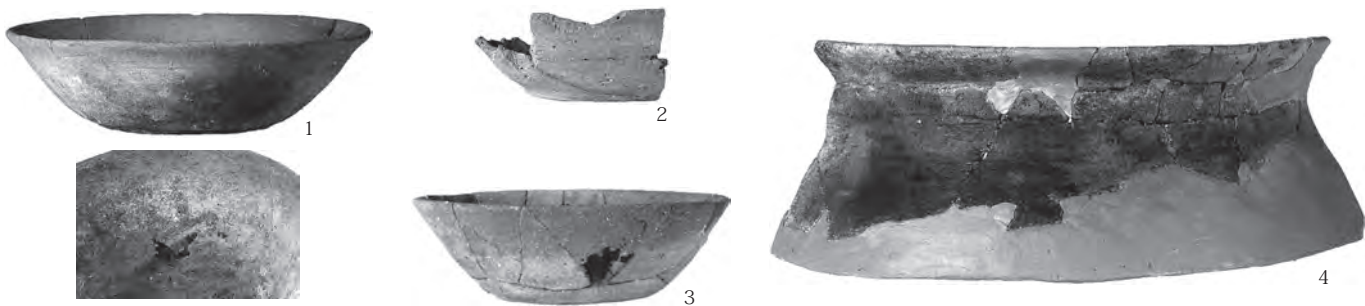
1

PL.114

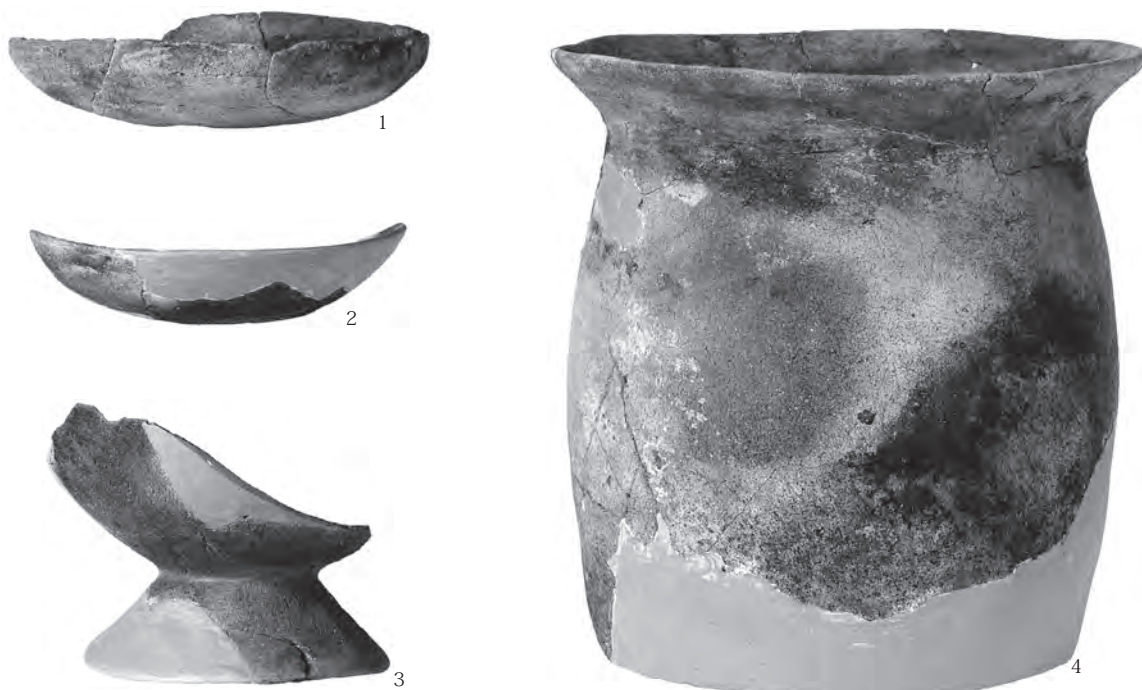
1区29号竖穴住居



2区2号竖穴住居



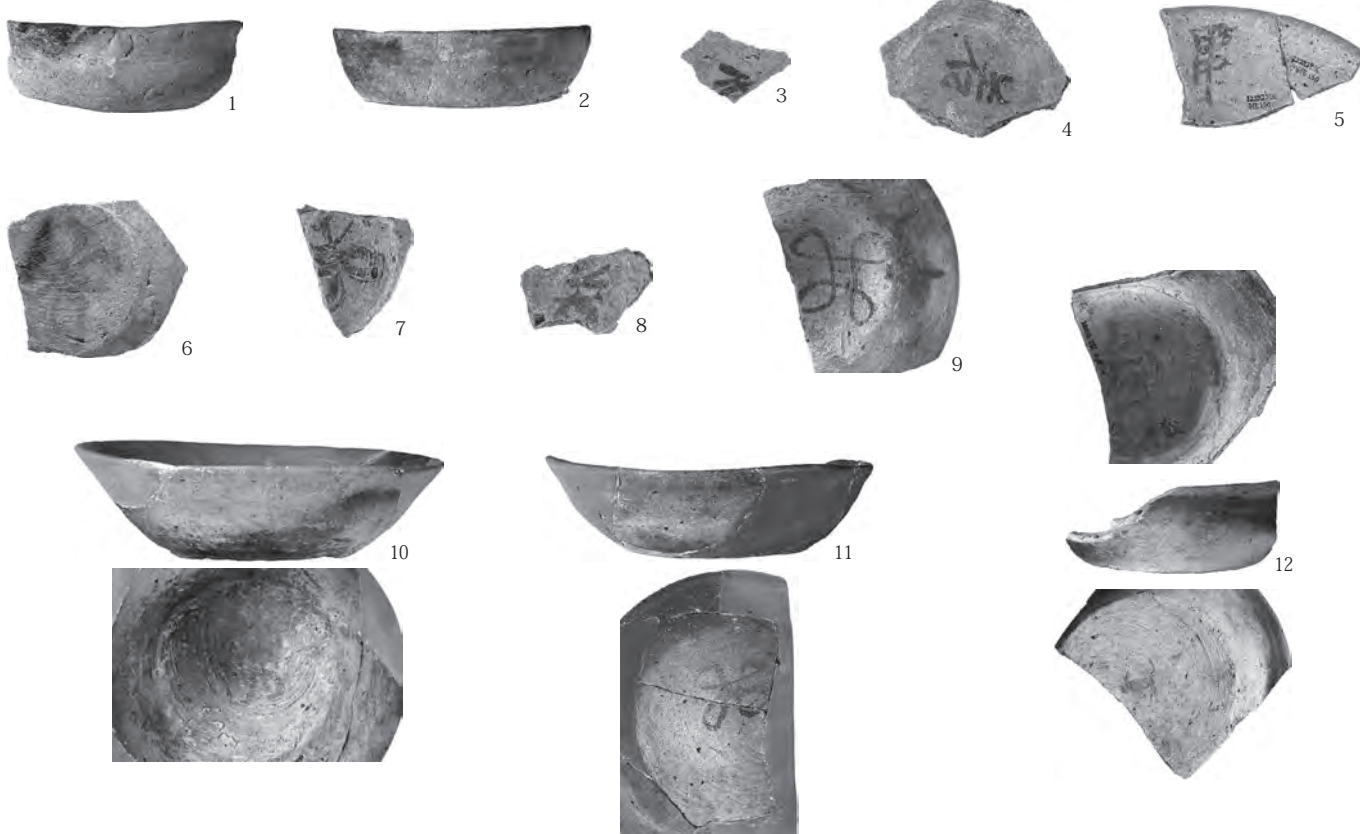
2区3号竖穴住居



2区4号竖穴住居

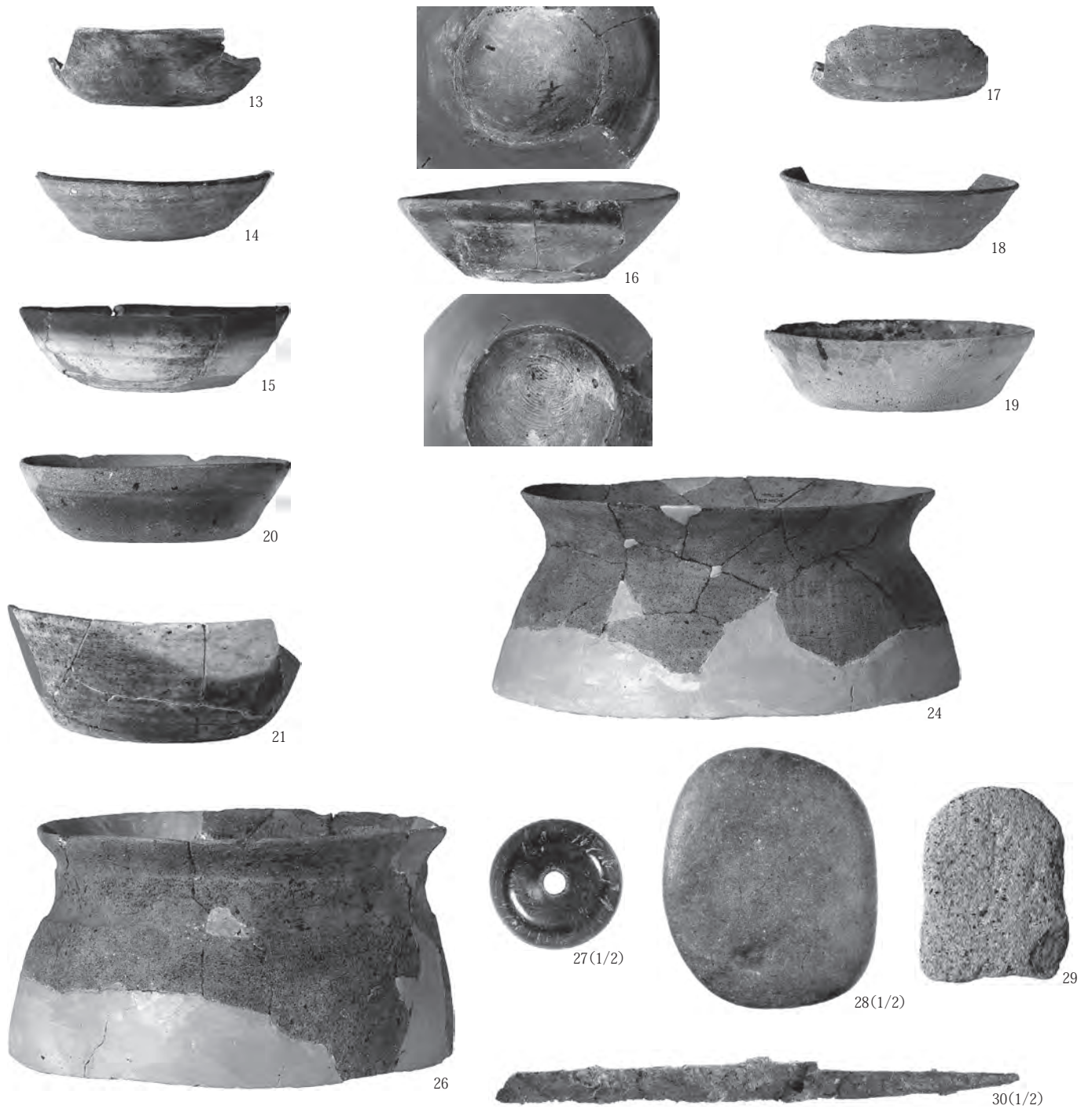


2区6号竖穴住居



PL.116

2区6号竪穴住居(つづき)



2区7号竪穴住居



2区9号竖穴住居



1

2区11号竖穴住居



1

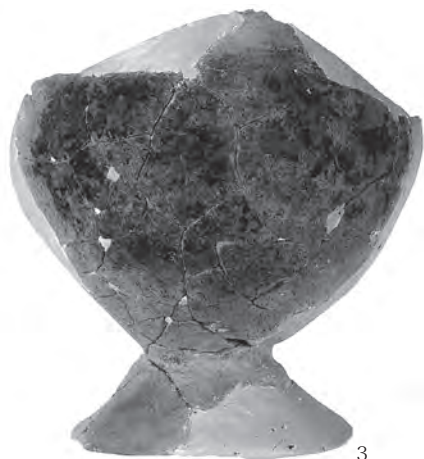
2区13号竖穴住居



1



2



3



4 (1/2)



3

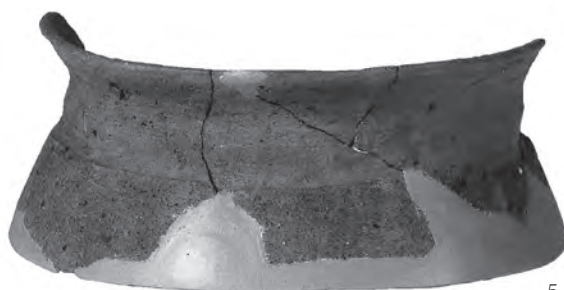
2区14号竖穴住居



1



2



5



7



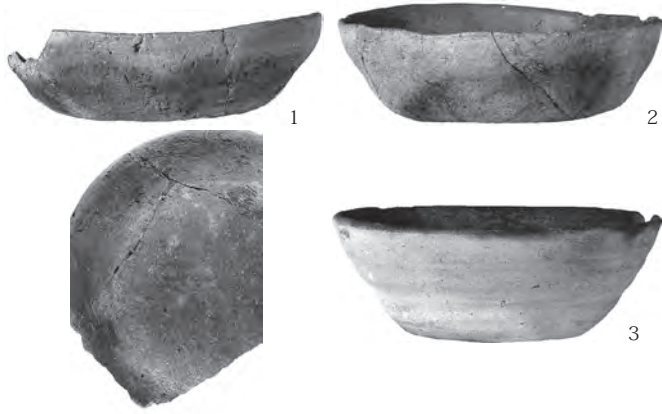
4



6

PL.118

2区15号竖穴住居



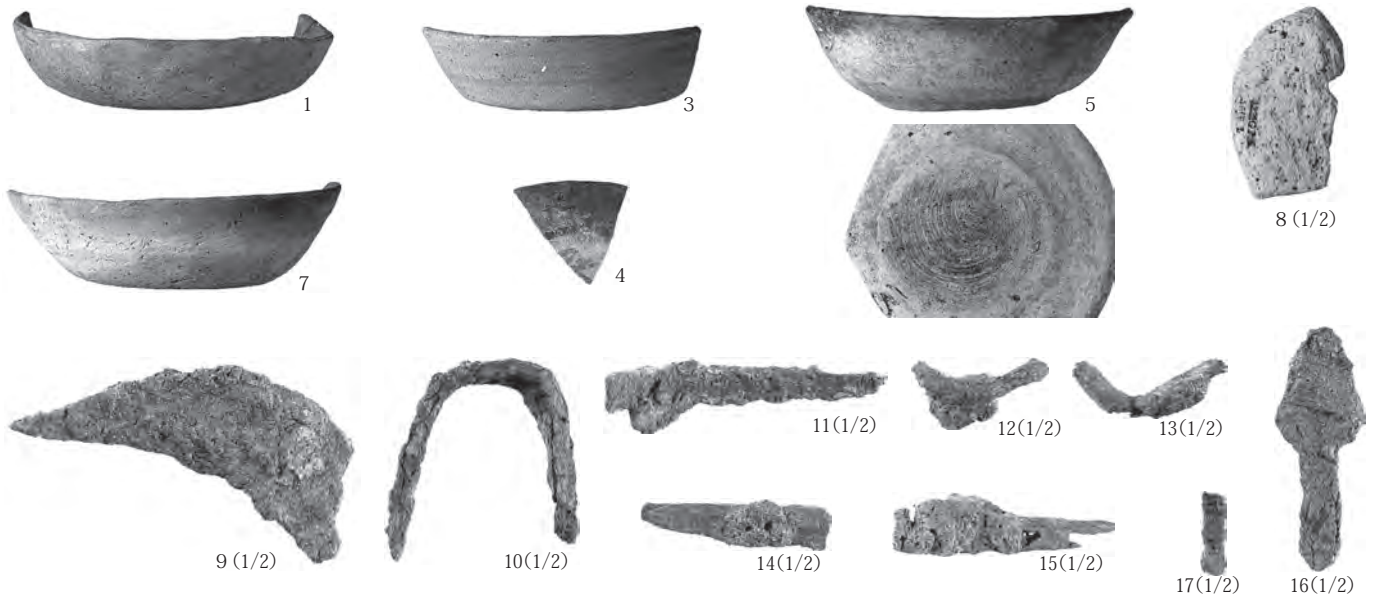
2区17号竖穴住居



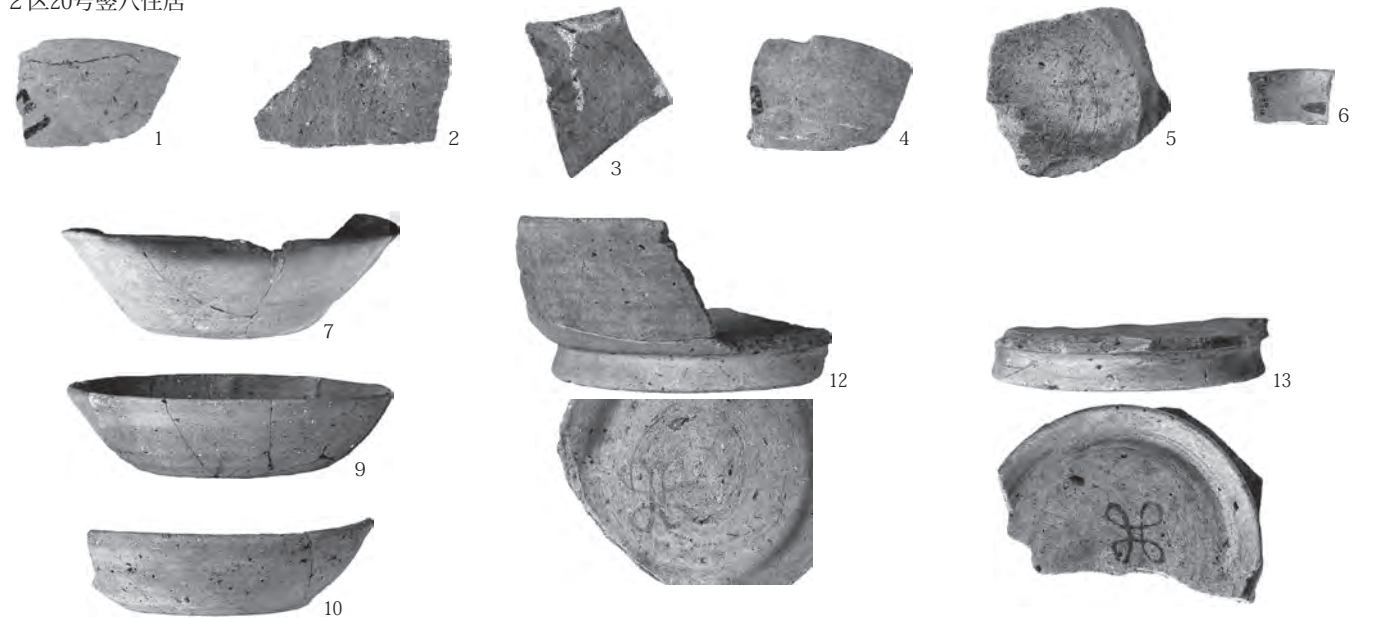
2区19号竖穴住居



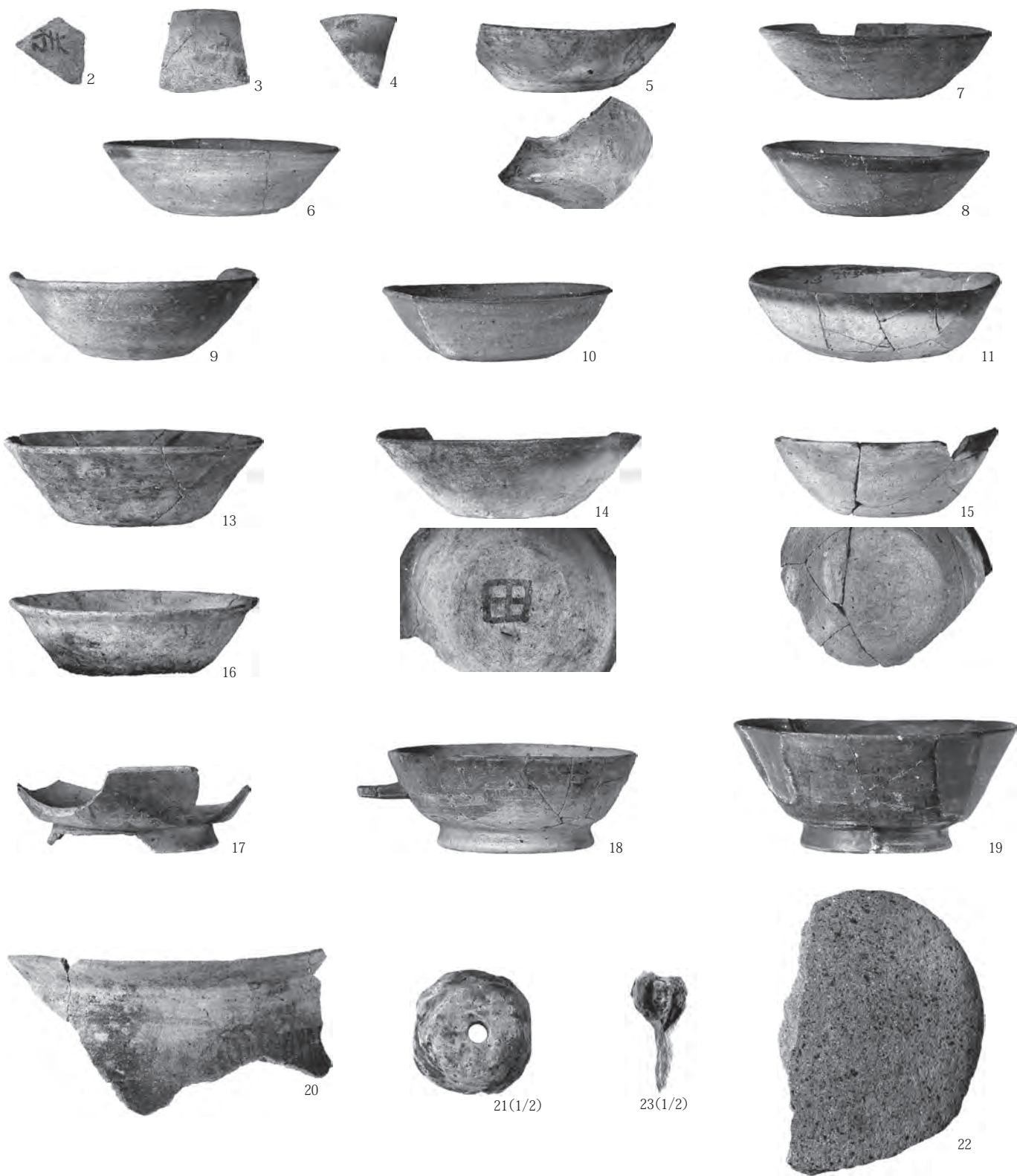
2区16号竖穴住居



2区20号竖穴住居



2区21号竖穴住居



2区23号竖穴住居



PL.120

2区23号竪穴住居(つづき)



5



6

2区24号竪穴住居



1



2



3



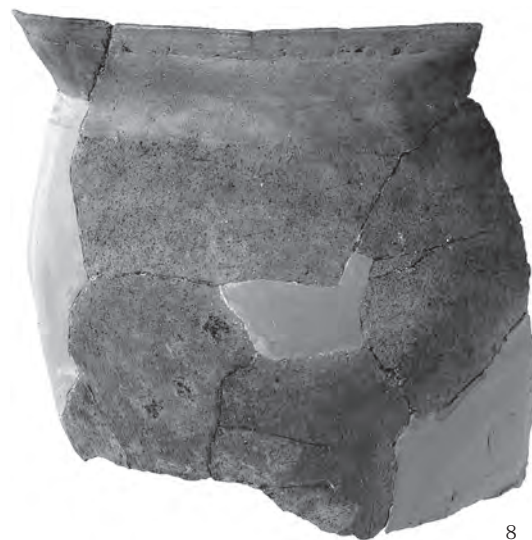
4



6



10(1/2)



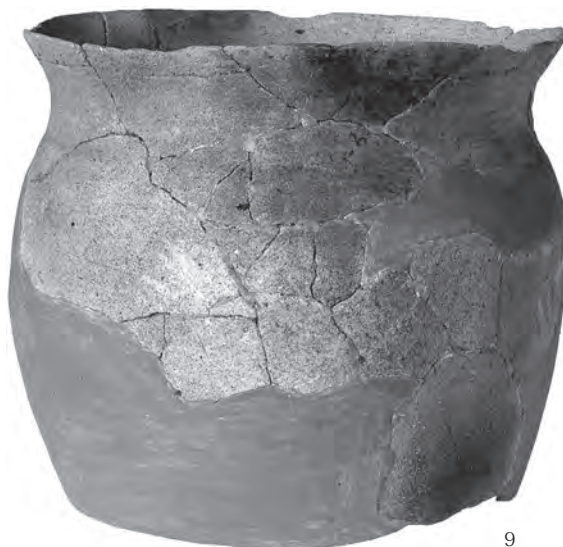
8



11



12



9

2区22号竖穴住居



2区25号竖穴住居

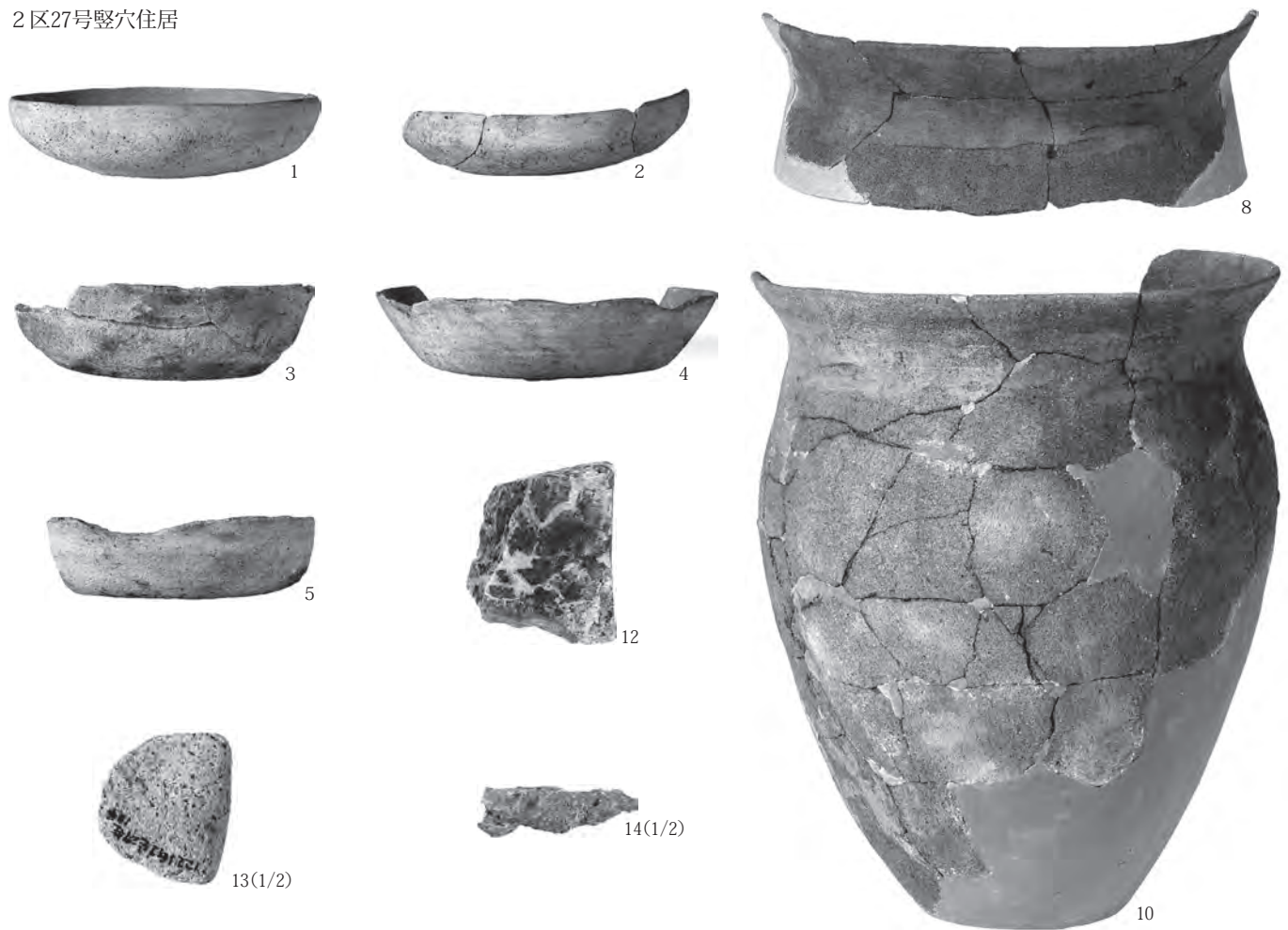


2区26号竖穴住居



PL.122

2区27号竖穴住居



2区28号竖穴住居



2区29号竖穴住居



2区31号竖穴住居



2区32号竖穴住居



PL.124

3区1号竖穴住居

3区4号竖穴住居



1



1



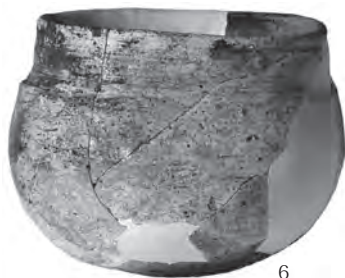
3



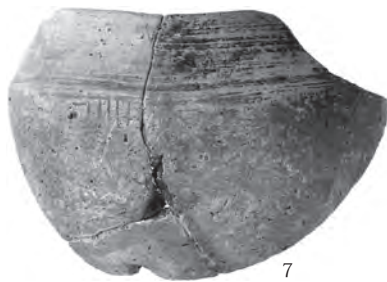
4



5



6



7



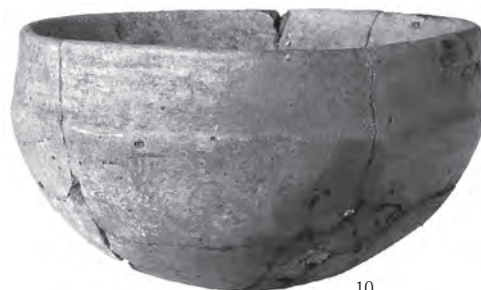
8



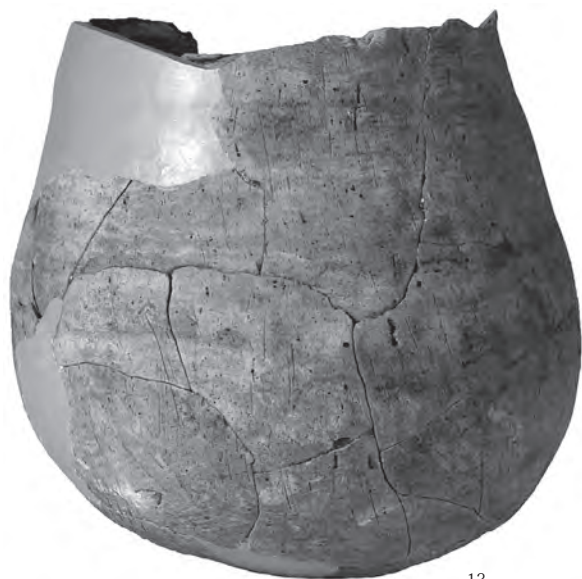
12



9



10



13



14

3区4号竪穴住居(つづき)



PL.126

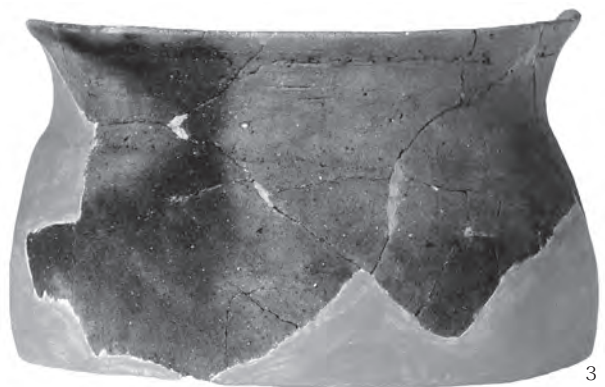
3区4号竪穴住居(つづぎ)



3区7号竪穴住居



3区8号竪穴住居



3区9号竪穴住居



3区10号竪穴住居



3区11A・B号竪穴住居



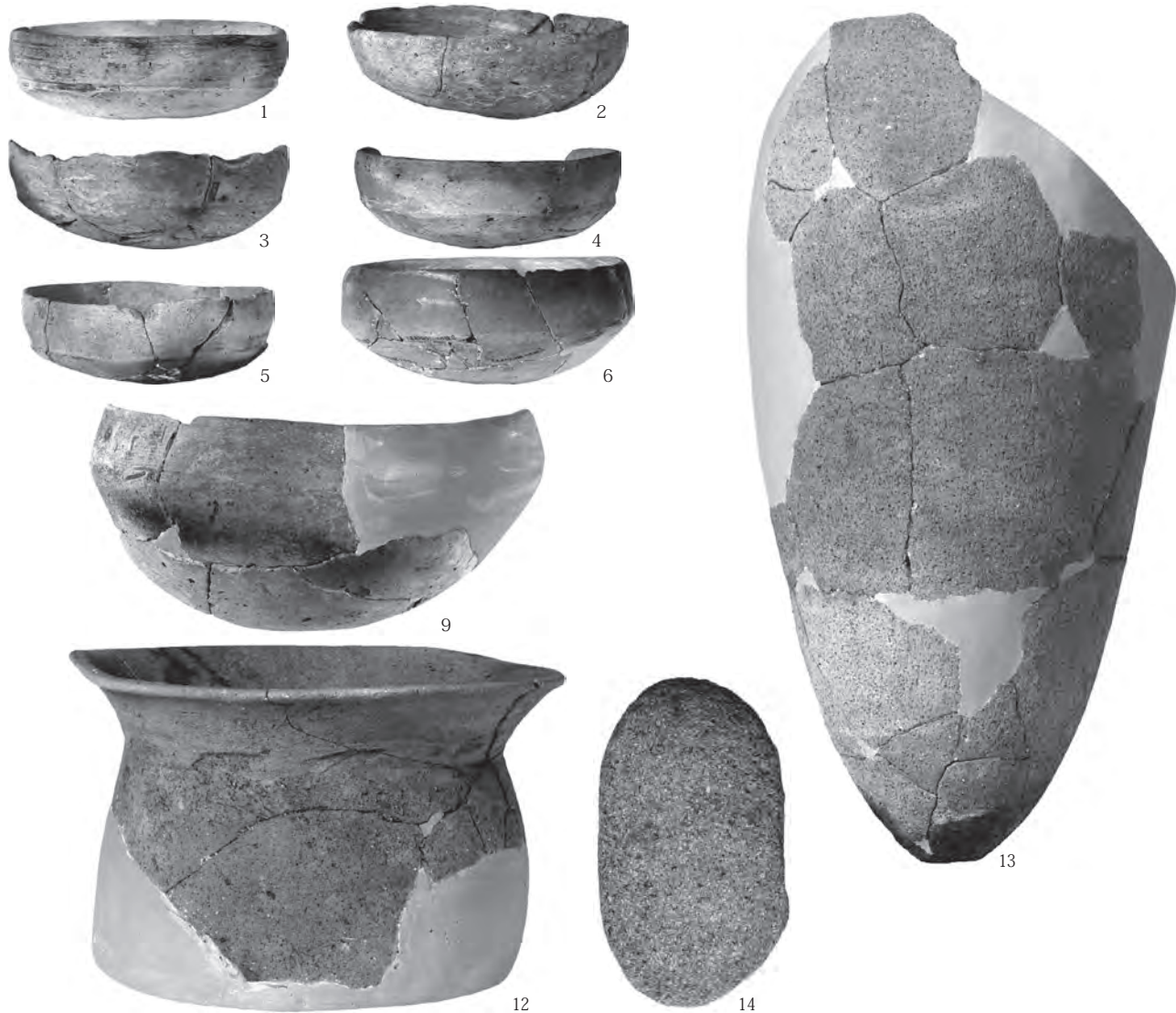
3区12号竖穴住居



3区14号竖穴住居



3区15号竖穴住居

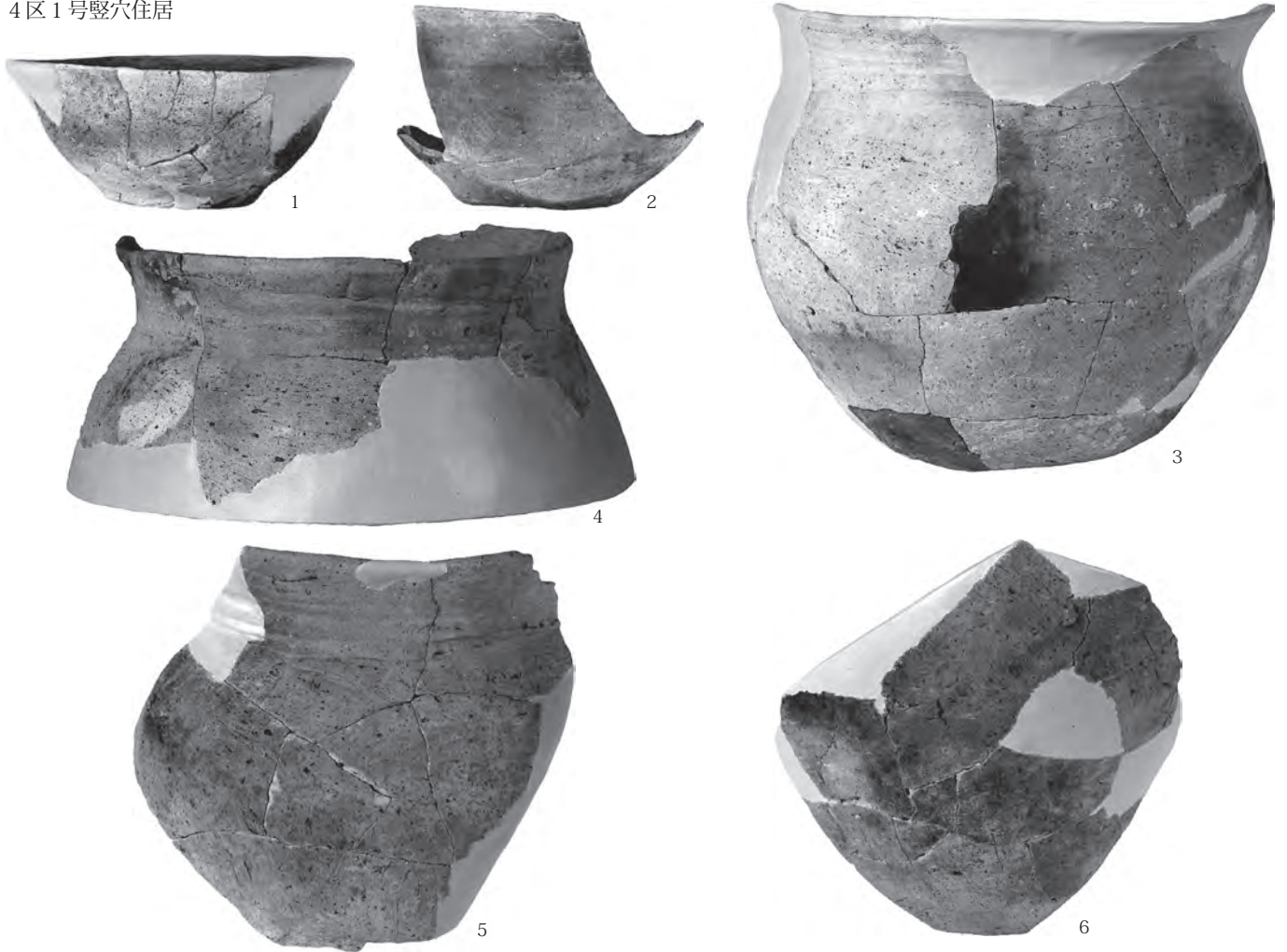


PL.128

3区16号竖穴住居



4区1号竖穴住居



4区6号竖穴住居



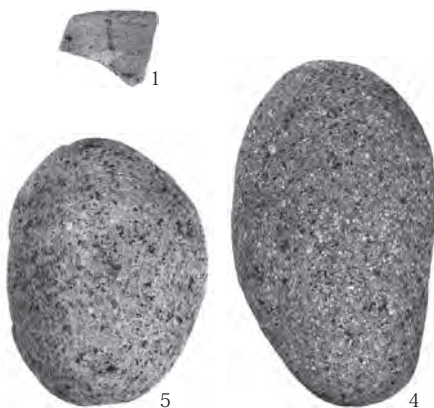
4区15号竖穴住居



4区19号竖穴住居



4区8号竖穴住居



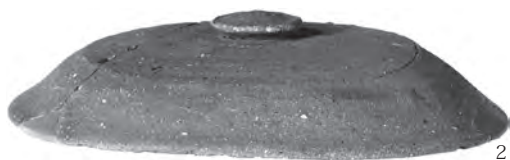
4区17号竖穴住居



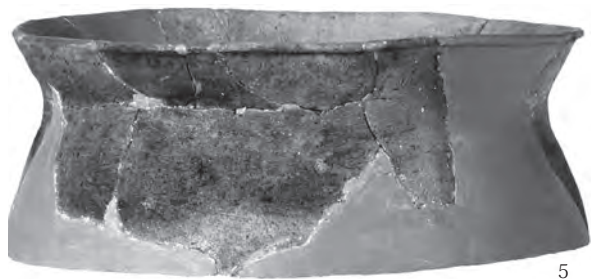
4区11号竖穴住居



4区13号竖穴住居



4区16号竖穴住居



4区2号竖穴状遺構



PL.130

1区3号掘立柱建物



2区2号掘立柱建物



1区21号土坑出土遺物



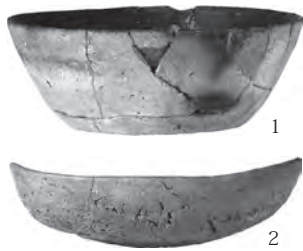
1区33号土坑出土遺物



1区24号土坑出土遺物



1区45号土坑出土遺物



1区109号土坑出土遺物



2区49号土坑出土遺物



2区101号土坑出土遺物



2区98号土坑出土遺物



2区122号土坑出土遺物



2区132号土坑出土遺物



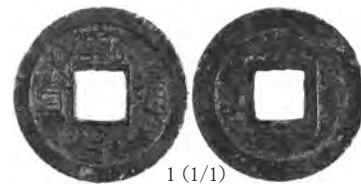
3区3号土坑出土遺物



3区21号土坑出土遺物



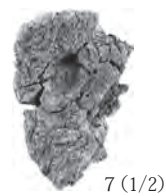
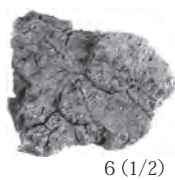
4区25号土坑出土遺物



4区31号土坑出土遺物



4区62号土坑出土遺物



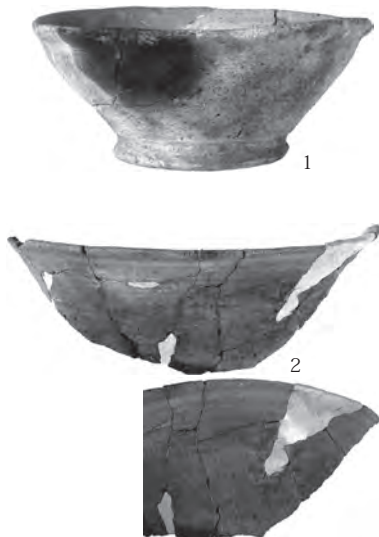
4区65号土坑出土遺物



4区68号土坑出土遺物



4区102号土坑出土遺物



4区103号土坑出土遺物



2区3号井戸出土遺物



4区2号井戸出土遺物



1区1号ピット出土遺物



1区54号ピット出土遺物



4区7号井戸出土遺物



4区9号井戸出土遺物



1区2号ピット出土遺物



1区3号溝出土遺物



1区8号溝出土遺物



1区9号溝出土遺物



1区80号ピット出土遺物



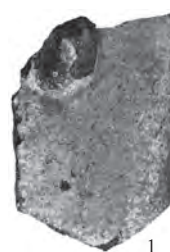
1区2号溝出土遺物



2区10号溝出土遺物



2区11号溝出土遺物



2区12号溝出土遺物



2区4号溝出土遺物



PL.132

2区17号溝出土遺物



2区20号溝出土遺物



4区1号溝出土遺物



2区22号溝出土遺物



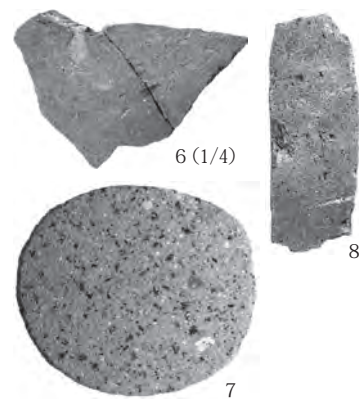
4区24号溝出土遺物



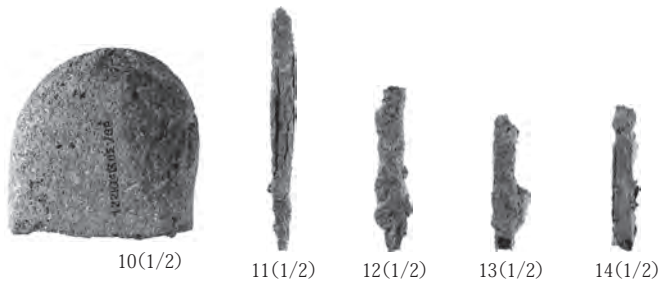
4区4号溝出土遺物



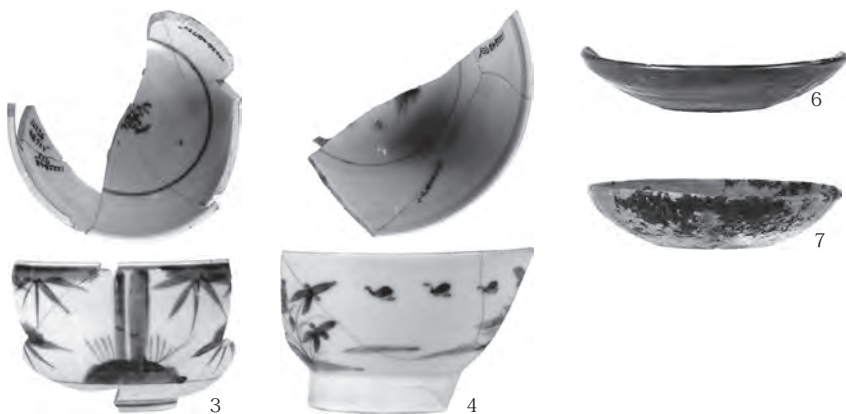
4区5号溝出土遺物



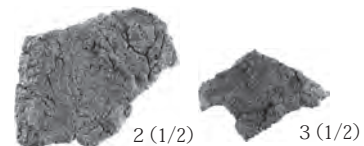
4区6号溝出土遺物



4区7号溝出土遺物



4区8号溝出土遺物



4区2号溝出土遺物



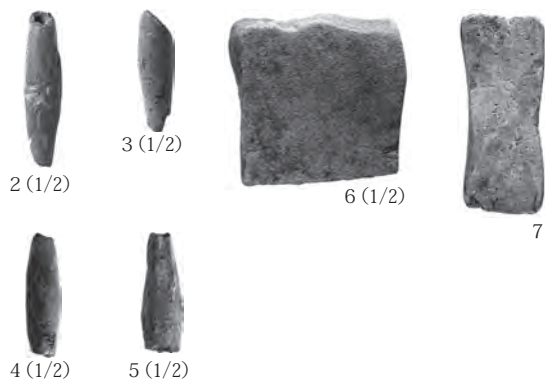
1区遺構外遺物



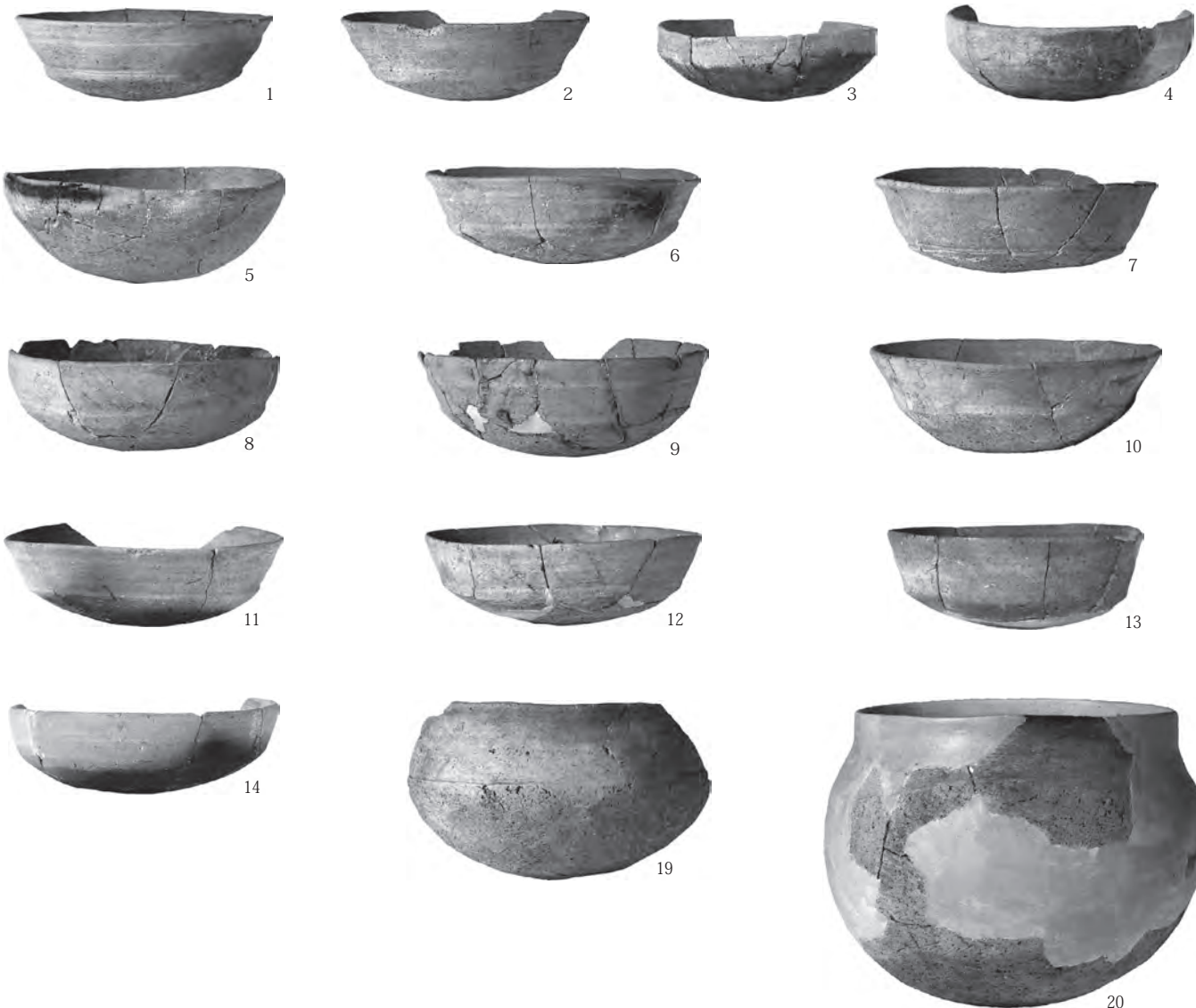
2区遺構外遺物



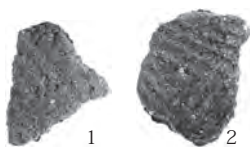
4区遺構外遺物



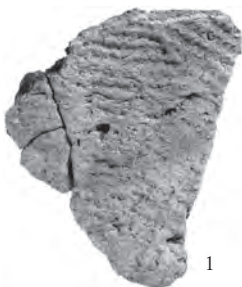
4区風倒木遺物



3区11号土坑出土遺物

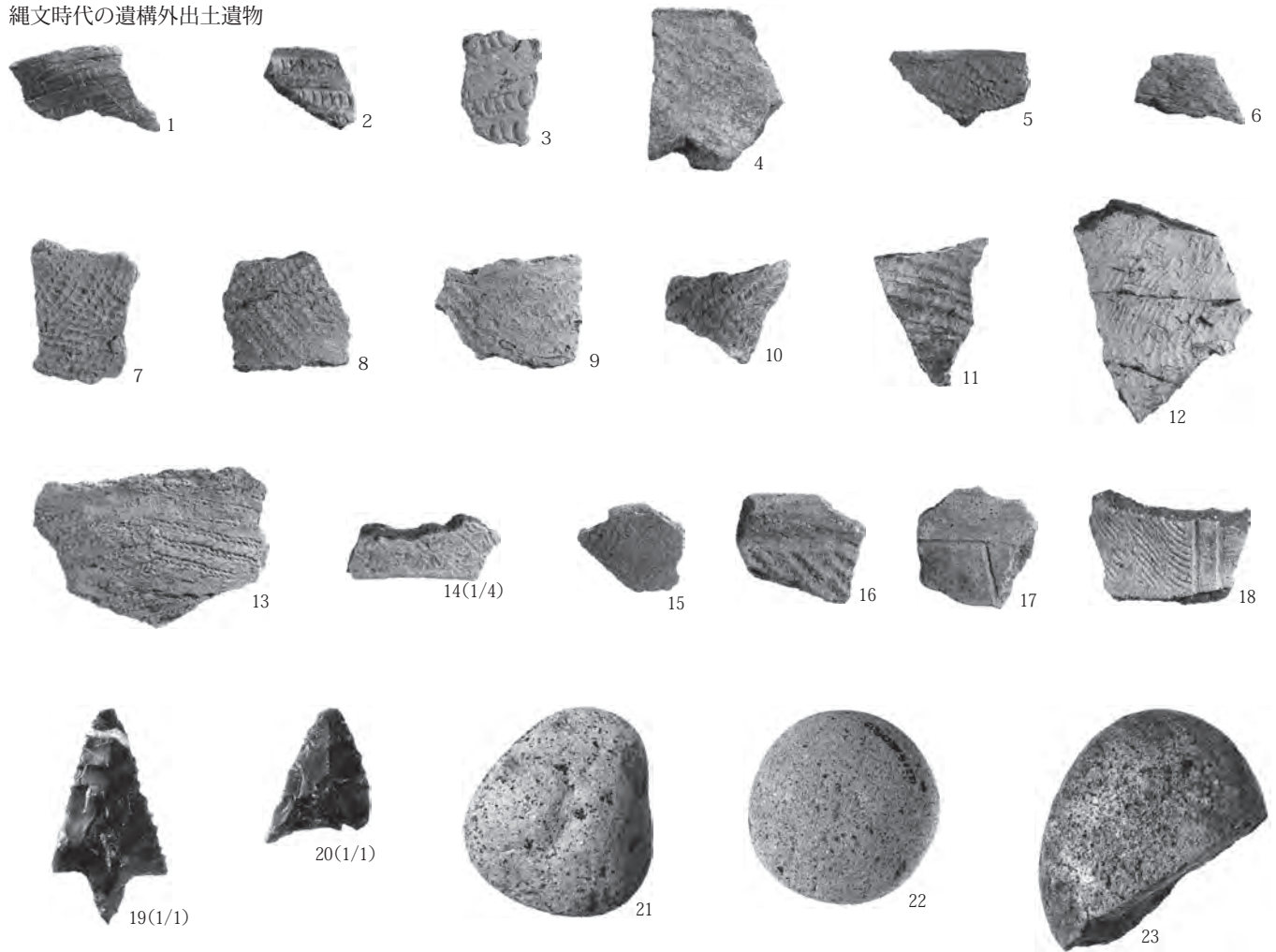


3区20号土坑出土遺物

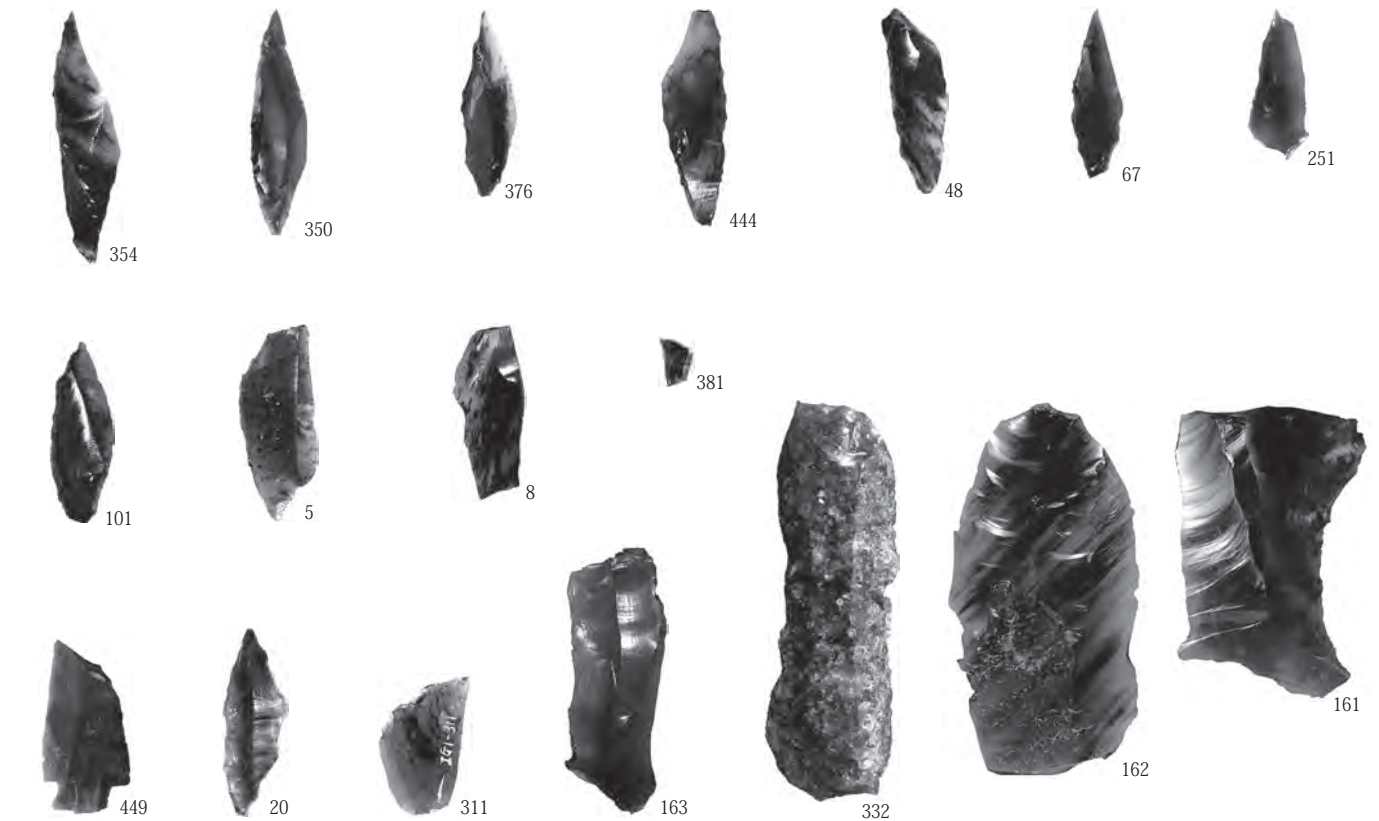


PL.134

縄文時代の遺構外出土遺物



旧石器時代の1区出土遺物





44



108



405



442



143



352



340



18



357



28



62



392



157



272



250



2



160



52



117+192



1



46



59



264



95



154



69+252+174



14+125



331



234



75



416



176



57



23+15



435



402



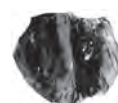
267



320



138



409



443



135



269



201



113



415

PL.136

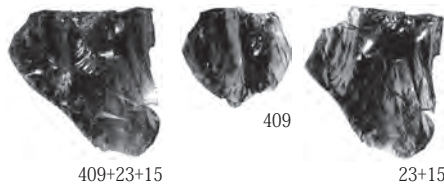
接合資料 1



接合資料 2



接合資料 3



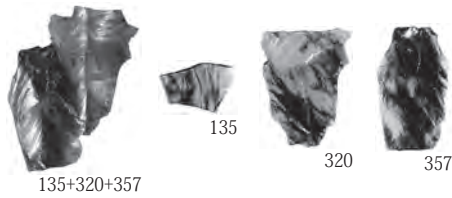
接合資料 4



接合資料 5



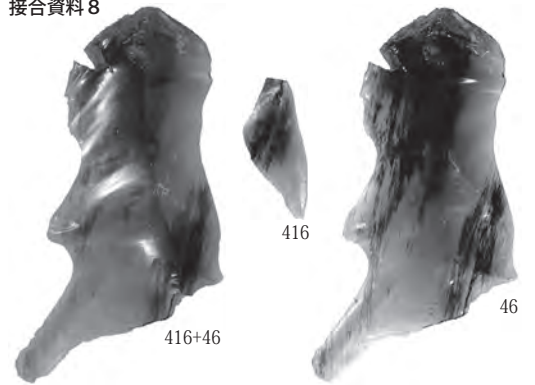
接合資料 6



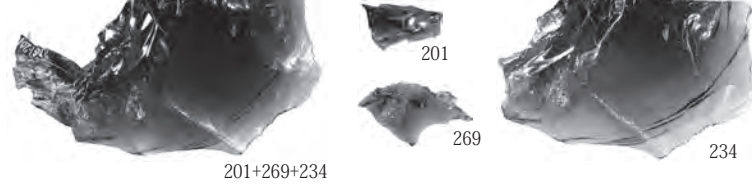
接合資料 7



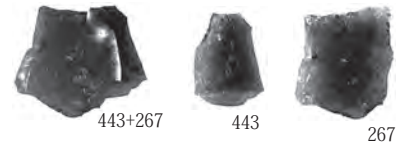
接合資料 8



接合資料 9



接合資料 14



接合資料 10



接合資料 11



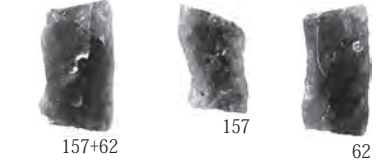
接合資料 12



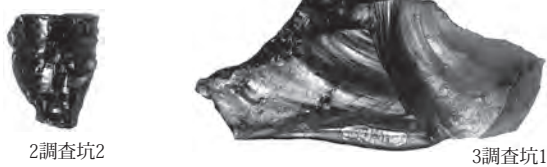
接合資料 13



接合資料 15



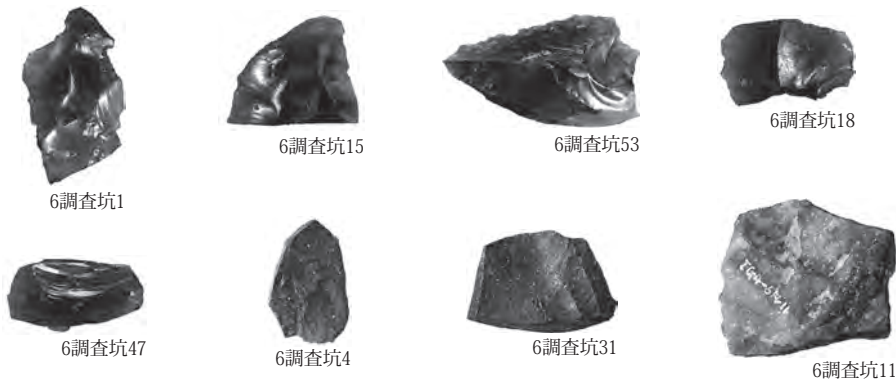
3区調査坑出土遺物



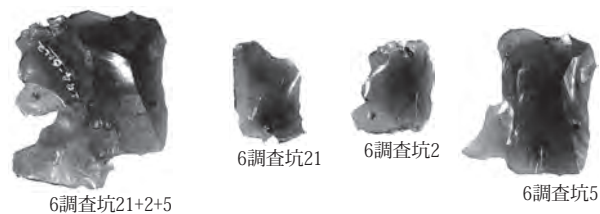
4区調査坑出土遺物



4区調査坑出土遺物

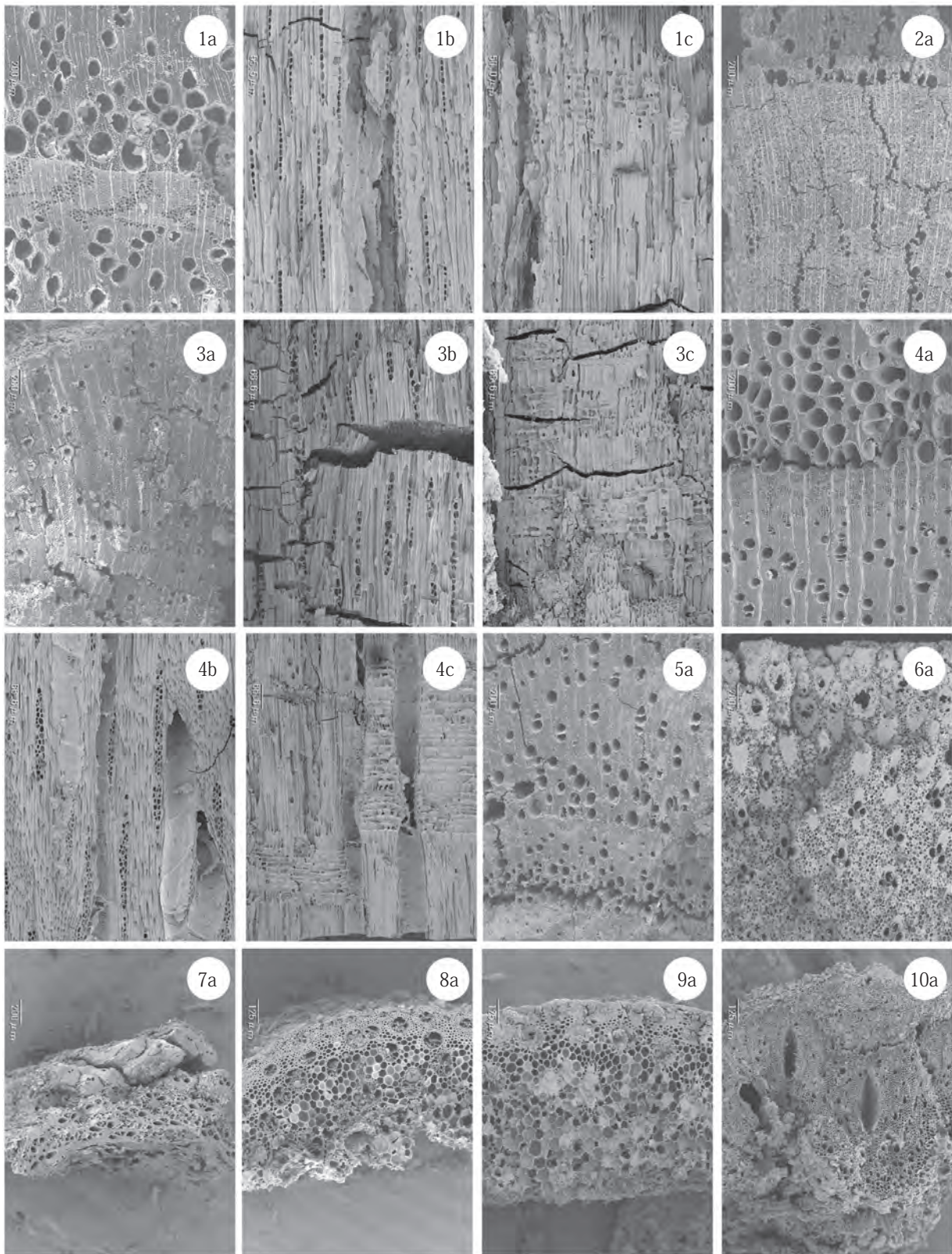


接合資料 16



接合資料 17

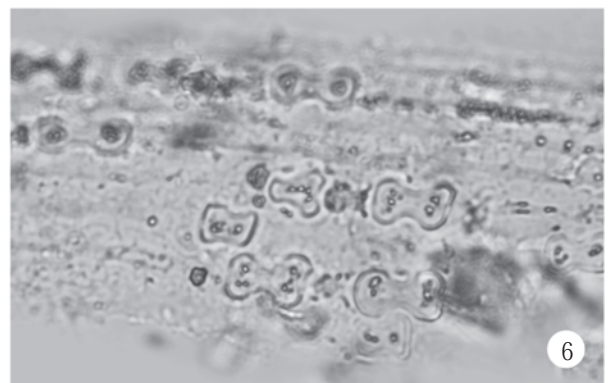
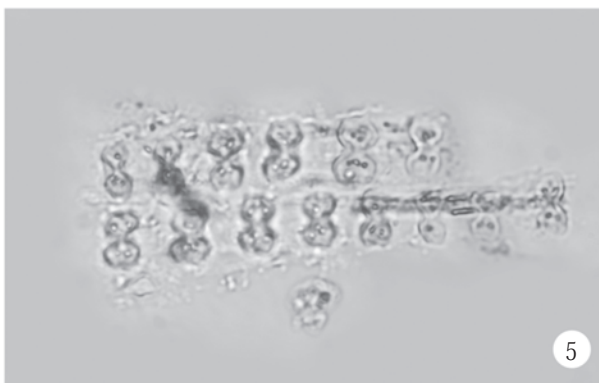
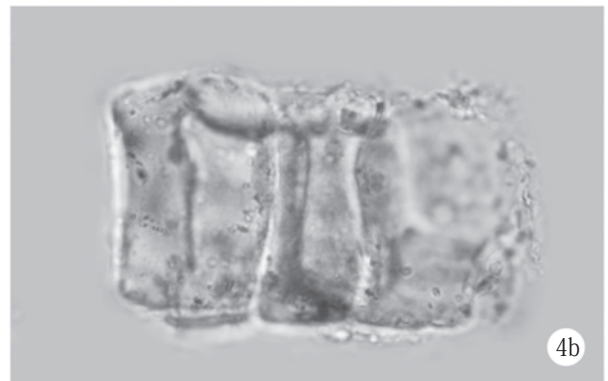
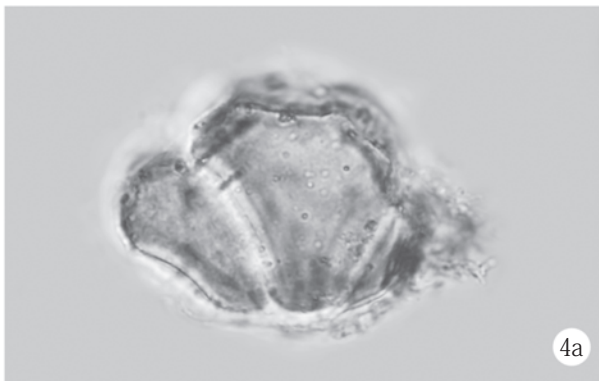
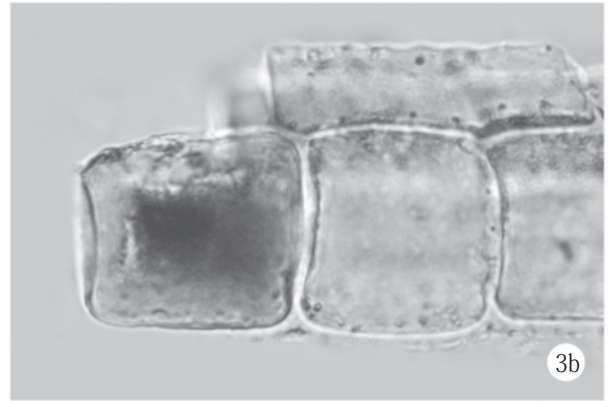
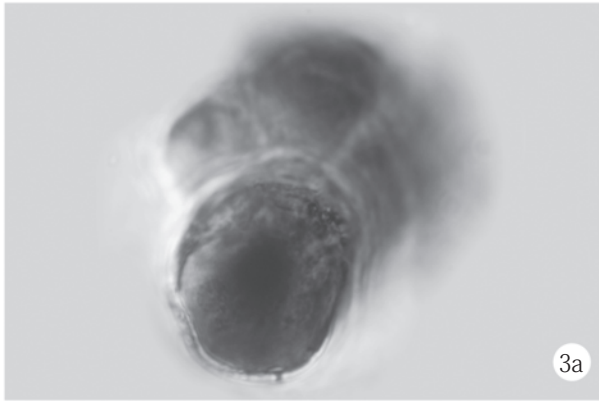
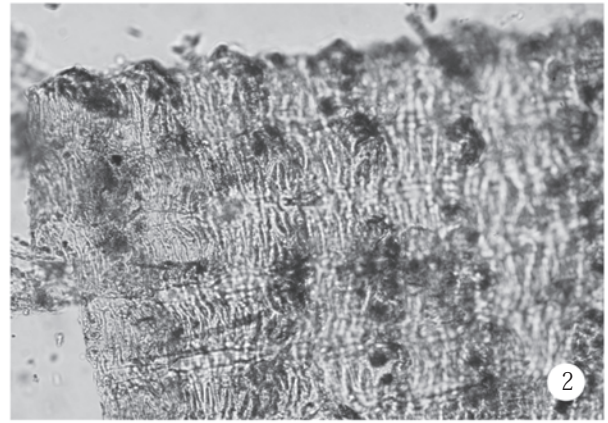
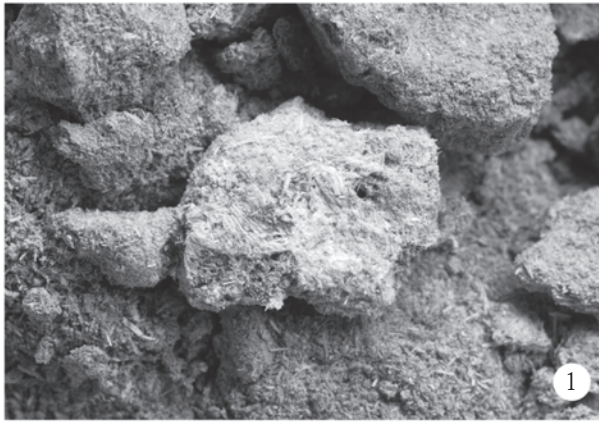




石神遺跡出土炭化植物遺体の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. クリ (No.21-7)、 2a. クリ (No.6-8)、 3a-3c. クスノキ科 (No.21-3-1)、 4a-4c. ヌルデ (No.6-5)、
 5a. ヌルデ (No.6-3)、 6a. タケ垂科 (No.21-8)、 7a. タケ垂科 (No.21-3-2)、 8a. イネ科 (No.6-4)、
 9a. イネ科 (No.21-2)、 10a. 双子葉類草木 (No.6-1)

a : 横断面、 b : 接線断面、 c : 放射断面



1: 5mm
 2: 0.03mm
 3-6: 0.03mm

石神遺跡から出土した灰の母植物

1. 試料の部分写真 2. イネ類(籾殻)珪酸体片 3. キビ族機動細胞珪酸体 4. ウシクサ族機動細胞珪酸体
 5. イネ型短細胞珪酸体 6. キビ型短珪酸体
 a: 断面 b: 側面

報告書抄録

書名ふりがな	いしがみいせき
書名	石神遺跡
副書名	単独7軸道路整備推進(国)122号(八重笠道路)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	598
編著者名	岩崎泰一・石守晃・高井佳弘・徳江秀夫・石田典子・田村博
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20150313
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	いしがみいせき
遺跡名	石神遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしりゅうまいちょう
遺跡所在地	群馬県太田市龍舞町
市町村コード	10205
遺跡番号	T0084
北緯(世界測地系)	361630
東経(世界測地系)	1392535
調査期間	20120701-20130331 / 20130601-20130630
調査面積	10448
調査原因	道路建設
種別	包蔵地/集落
主な時代	旧石器/縄文/古墳/奈良/平安/中世/近世
遺跡概要	包蔵地-旧石器-石器/集落-縄文-土坑2-縄文土器/古墳+奈良+平安-竪穴住居100+掘立柱建物+土坑+井戸-土師器+須恵器+石製品+鉄製品/中世+近世-掘立柱建物+土坑+井戸+溝+ピット-陶磁器+土器+鉄器+銅銭
特記事項	奈良・平安時代の集落
要約	渡良瀬扇状地末端の低台地上にある遺跡である。旧石器時代から近世にまで及ぶ多くの遺構・遺物を調査した。旧石器は2つの文化層が確認され、第2文化層ではナイフ形石器を中心とした「砂川期」の石器群がまとまって出土した。古墳～平安時代の竪穴住居は100軒調査されたが、古墳時代のもは少なく、8・9世紀のものが多い。同時期には大型の掘立柱建物も複数併存すると思われ、有力者の存在が考えられる。墨書土器が多数出土しているのが注目される。近世には多くの区画溝と土坑があり、主に田畑として利用されていたものと思われる。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第598集

石神遺跡

単独7軸道路整備推進(国)122号(八重笠道路)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成27(2015)年3月 6日 印刷

平成27(2015)年3月13日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

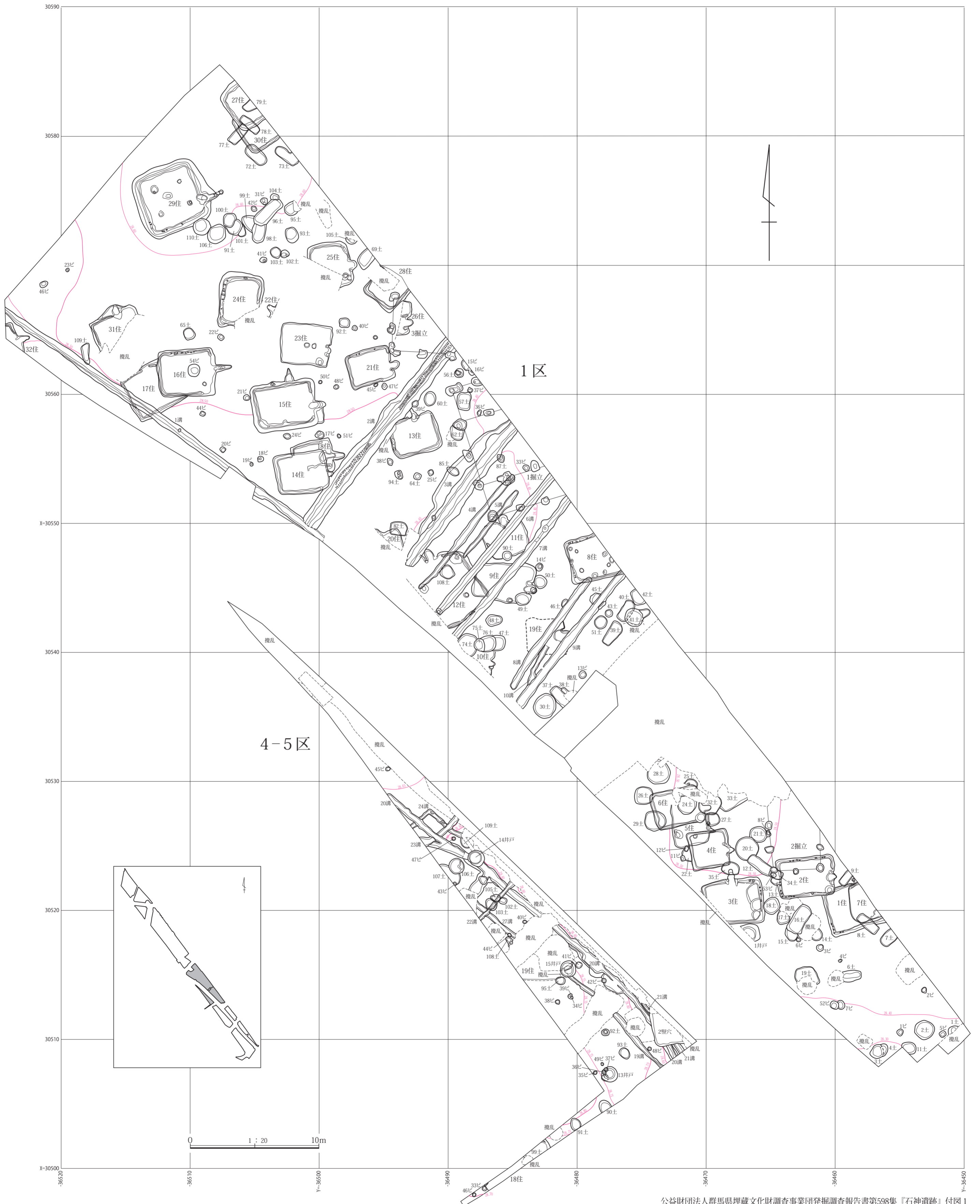
〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

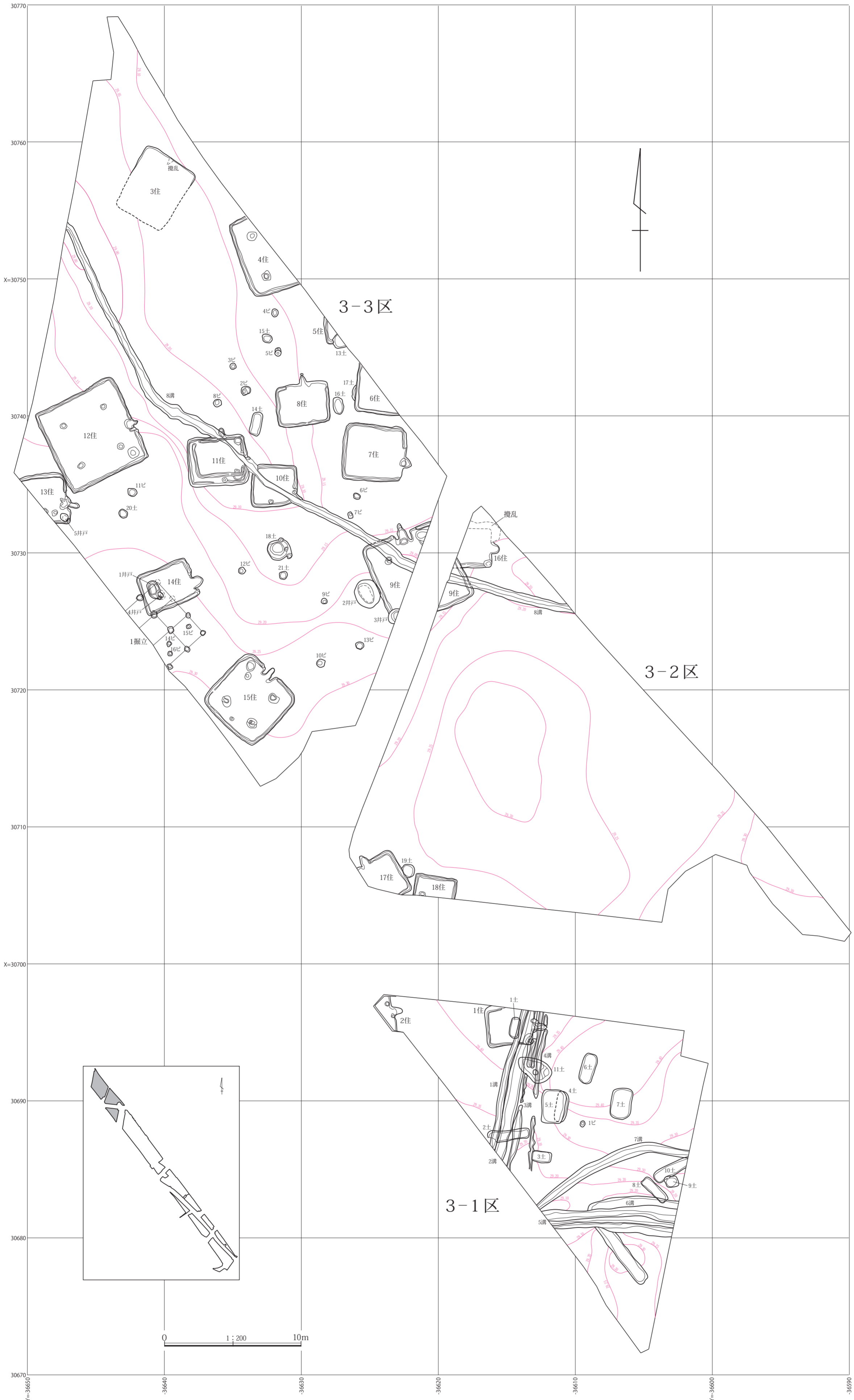
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社開文社印刷所

付図1 石神遺跡 1区・4-5区全体図(1/200)



付図3 石神遺跡 3区全体図(1/200)



付図4 石神遺跡 4-1 ~ 4区全体図(1/250)

